

国立国語研究所学術情報リポジトリ

沖縄語辞典

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002265

国立国語研究所資料集 5

沖繩語辞典

大蔵省印刷局

刊行のことば

この辞典は、沖縄の首里地方の語を集めたものである。沖縄のことばは、いうまでもなく、日本語に属するものであって、日本語の一方言と見るべきものである。沖縄のことばについては、すでに各種の研究があり、語を集めたものとしては、八重山地方に関する八重山語彙（宮良当壮氏）などすぐれたものがある。本辞典で取り上げた首里地方のことばは、沖縄ことばの標準と仰がれて来た言語であるばかりでなく、文献として残っている沖縄ことばと深い繋がりを持つものである。

国立国語研究所がこの「沖縄語辞典」の編集を計画したのは、研究所創設当初であった。その当時、研究所には、外部の人に調査研究を委託する委託研究費があり、評議員の柳田国男氏から、島袋盛敏氏の首里語研究を推薦された。こうして、島袋氏の手によって辞典の稿本が作られたが、研究所では、さらに地方言語研究室でこれを言語学的に検討することとし、全面的に書き改めて、解説・索引等を加えた。

本辞典は、実際に首里語を使用した人が内省によって記述したものを基とし、それに研究者が客観的な学問的考察を加えたものである。使用者と研究者との協力によって作られた辞典というところに大きな特色があると思う。

なお、この研究を行なう間に、首里出身者として、島袋盛敏氏のほかに、その夫人、ならびに比嘉春潮氏などに協力していただいた。また、当研究所の評議員の東大教授服部四郎博士に、言語学上の指導を仰いだ。ここに心からのお礼を申し述べたい。ただ、この辞典が成立するも

とを開かれた柳田国男氏の生前にこの辞典を完成できなかったことは、
まことに心残りである。

本書の編集に関して、この十年、絶えず尽力して来たのは第一研究部
の方言言語研究室であり、中でも上村幸雄が主たる担当者として力を傾
けたことを記しておく。

昭和38年3月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

目 次

刊行のことば

編集経過の概要1 ~ 7

解 説 篇9 ~ 86

本 文 篇 (沖繩首里方言辞典).....87 ~ 607

索 引 篇 (標準語引き).....609 ~ 816

付 録 (地名一覧など)817 ~ 854

編集経過の概要

この辞典は、初め島袋盛敏氏が収集した資料をもとにしている。

本書の標題で沖縄語と呼んだものは、琉球方言の中心的位置にある首里方言（琉球方言の中の沖縄南部方言に属する）をさす。

1 島袋盛敏氏の資料収集と研究

島袋盛敏氏は、首里出身の琉球研究家で、特に琉球文学、琉球芸能の研究が専門である。氏は1890年に首里の西之平等久揚川に生まれ、幼少年時代を同じく首里の南風之平等当蔵で過ごし、青年時代の初めは、同じく南風之平等大中で過ごした。両親とも首里出身の生粋の首里人である。首里の沖縄師範学校を卒業後、沖縄本島の国頭、中頭、那覇などで小学校教員を勤め、中等教員の資格を取得したのち1931年東京に居を移し、成城学園女学校で漢文を教えるかたわら、郷土琉球の文学・芸能を研究した。1952年に成城学園を退職したのちは、琉球文学、琉球芸能の研究に専念し、現在なお、横浜で研究を続けている。著書には「遺老説伝」(1935)、「琉球の民謡と舞踊」(琉球芸能全集の1、1956)その他がある。

氏は、故柳田国男、故伊波普猷、また、琉球史家の比嘉春潮氏らの勧めもあって、自身の言語である首里方言の辞典を編集することを思いたち、たまたま1947年に文部省の科学研究費(共同研究題目「日本民族に近接せる諸民族の言語及び文化等の研究」、代表者島村孝三郎、島袋氏担当題目「琉球首里語」)を受けたのを機に、その仕事にとりかかった。

首里方言は琉球方言の標準語ともいえる位置にあった方言で、国語学・方言学その他の観点から見てきわめて価値のある方言であるが、その本格的な辞典というものはこれまでにまったくなかった。氏は自身の語彙をはじめ、夫人とし氏(1892年生まれ、首里出身)の語彙、当時まだ健在であった夫人の母堂国頭ツル氏(1863年～1947年)そのほかの人びとの語彙を収集した。首里方言は、廃藩による身分制の撤廃、普通教育による標準語の普及、近隣の那覇市の発展、第二次大戦による戦禍などの著しい社会変動のため、明治の中ごろまでの比較的純粋な形は今日ではほとん

ど聞くことができないと言われる。したがって、もし島袋氏の仕事が無かったならば、明治以降の大きな変動を受ける以前の首里方言の語彙のかなりの部分がおそらく永久に記録されないまま失われたであろう。また、氏が当時の教養ある階級である首里の士族の家庭に生まれ、育ったこと、氏の育った家庭が廃藩当時の社会改革に際して首里王府を支持する保守派に属したため、氏が進歩派士族や平民の場合よりもいっそう首里の旧来の習俗に親しみつつ育ったこと、氏が1931年以後東京に移り住んだためにかえって近年の首里方言の変化をこらむらずにすんだこと、両親、夫人とも首里出身であったことなどは、氏の首里方言の純粋さを保つ上で有利であったといえよう。

たまたま国立国語研究所が1948年に創設された際、評議員の柳田国男が研究所の委託研究の対象として島袋氏の研究を推薦し、研究所は、昭和23年度・24年度の両年度にわたって島袋盛敏氏に研究を委託した。島袋氏は、昭和25年度には研究所に非常勤職員として勤務して、昭和26年(1951年)3月に見出し語1万2千以上、原稿用紙(400字)で1856枚に及ぶ稿本を完成した。

2 国立国語研究所が行なった研究と作業

国立国語研究所方言語研究室は昭和28年度(1953年)にこの稿本に国語学上の検討と補正を加え始め、以後、昭和37年(1962年)秋までに、氏の稿本を新しく出版のための原稿の形に書き改めるとともに、およそ次の研究と作業を行なった。

(1) 首里方言の音声・アクセントの観察と、表記の音韻表記化、配列順の変更

島袋氏の稿本の首里方言は、氏自身が工夫した片仮名式表記法(48~49ページおよび93~98ページ参照)によって書かれ、また、アクセントは記入されていない。そこで、表記を音韻表記に改め、かつ見出し語にアクセントを記入するために、首里方言の音声とアクセントの観察と、その音韻表記確立のための研究を行なった。この観察と研究は、当時国立国語研究所評議員であった服部四郎東大教授の指導と協力を得て行なった。被調査者は、主として島袋氏および比嘉春潮氏であったが、そのほか東京に在住の故伊江朝助(1881年生まれ、旧貴族。もと貴族院議員)、譜久山朝憲(1932年生まれ、旧貴族)、仲田秋一(1931年生まれ、旧士族)の三氏の発音も観察した。三氏とも両親・本人とも首里生まれ、首里育ちであり、あとの二氏の発音の観察は、若い世代の発音を知るために行なっ

たものである。

比嘉春潮氏は1883年首里士族の家庭に生まれた。両親とも首里出身であるが、尊父(首里の真和志之平等山川生まれ)が首里近郊の西原で役職にあったために、自身は17歳まで西原で育った。1906年に首里の沖繩師範学校を卒業してから、那覇その他で小学校教員、校長などを勤め、1933年以後は東京で出版業その他に従事するかたわら、琉球の歴史の研究に没頭した。1961年4月以来ハワイ大学東西センターに客員教授として招かれ、現在(1962年)もホノルルで研究中である。著書「沖繩の歴史」(1959)のほか、論文多数がある。

氏からは、音声・アクセントの観察ばかりでなく、島袋氏の健康上の理由により、以下述べる(2)、(3)、(5)、(6)の仕事についても被調査者として協力をいただいた。氏は氏自身の研究の時間をさいて被調査者としてたびたび国立国語研究所や東大言語学研究室に向き、また数十回に及ぶ国立国語研究所員の訪問を受けた。氏が西原で育った点で、首里方言の被調査者としての条件は完全といにくいのが、氏の首里方言は、島袋氏のそれときわめて多くの点で一致するものであった。また、島袋氏は夫人の母堂その他女性の語彙も収集したため、島袋氏の稿本には女性の使っていた語がよく集められているが、これに対し比嘉氏は、島袋氏より7歳年長でもあり、また尊父と暮らした期間が長かったためか、士族男性の使う語をよく記憶されていた点でも好都合であった。いつも客観的な態度で自身の言語を内省し、主観的な解釈をまじえた報告をしない点で、氏はわれわれにとって首里方言のこの上ない被調査者であった。

以上の調査に基づいて、島袋氏の稿本の見出し語と例文のすべてを音韻表記に改め、また、見出し語のすべてにアクセント記号を付した。そしてその結果をいちいちの見出し語について一部は島袋氏について、他は比嘉氏について誤りがなにかどうか確かめた。

また、島袋氏の稿本では、見出し語が片仮名表記によって五十音順に配列されていたが、書き改めた原稿では、ローマ字による音韻表記としたので、当然見出し語はアルファベット順の配列となった。

(2) 意味の説明の精密化と用例の補充、動詞の活用の種類の記入

島袋氏の稿本には、首里の習俗・芸能などに関する説明が豊富に入れられているが、一方説明が簡単に過ぎる項目や、記述が意味の説明なのか、対応語なのか、

または首里方言の漢字表記なのかがはっきりしない項目もかなり見いだされた。これらについては、はじめ鳥袋氏に、のちに比嘉氏に一つ一つ尋ねて疑問を解き、説明を書き改めた。また、これらについてはできるだけ用例を加えて、その語の用法がわかるようにした。一方、見出し語の意味や用法に関係のない長い説明は、縮めたり、割愛したり、他の適当な見出し語のところに移したりした。

このような疑問項目の処理や用例の補充のために、鳥袋氏および比嘉氏と会見を重ねることが数十回(おそらく百回以上)に及んだが、その時間のうちに質問して処理し得た項目の数は限られたものであり、全見出し語に及ぶことはできなかった。したがって、不本意ながら、すべての見出し語に用例を付けることはできなかったし、また、意味の説明も、単に標準語の類義語・同義語を、もとの稿本のままいくつかあげるにとどまった項目が相当数残った。

また、鳥袋氏の稿本では、動詞の見出し語に活用の記入がなかったが、あらたに、比嘉氏についてすべての動詞の見出し語についてその活用の種類を調査し、これを見出し語ごとに記入した。

(3) 見出し語の整理と補充

まず、見出し語としてあげるものの規準を一定にした。すなわち、鳥袋氏の稿本で、同一と思われる語で語義の異なるごとに別の見出し語となっていたもの、熟語(イディオム)を作るごとに別の見出し語となっていたものは、それぞれ一つの見出し語にまとめた。一方、複合語で、見出し語としてあげてないが用例としてあげてあるものは、あらたに見出し語として出した。また、少数の複合語の成分として用いられるが単語ではないものが単語として見出し語となっていた場合は、見出し語から除き、その複合語を見出し語とした。また、多くの複合語に含まれている接頭辞や接尾辞などで見出し語にないものは、(接頭)、(接尾)などの注記を付けて見出し語に出した。そして鳥袋氏の稿本にあった見出し語が単語(複合語を含む)であるか、接頭的な、または接尾的な成分であるか、あるいは二単語以上からなるイディオムであるかを調べ、その区別を明らかにした。

つぎに、鳥袋氏の稿本では、一部の見出し語を除き、組踊り・琉歌などに用いられる文語、日常用いられる口語、明治以降の新語、ほとんど用いられなくなった古語などの区別に関する注記がなかったが、できるかぎりこのような注記を施すようにした。

また、(2)に述べた疑問項目の処理などの調査を比嘉氏について行なった過程で、島袋氏の稿本に収録されていない単語をかなり見いだしたので、それらも必要と思われるものは見出し語に加えることとした。その結果、見出し語の数は2~3千程度増加したものと思われる。どのようなものを見出し語として加えたかは大体次の規準による。

- (i) 島袋氏、比嘉氏の幼年時代から青年時代にかけて首里で使われていたと思われる単語はできるだけ収録する。当時、一部の老人しか使わないなど、まれにしか聞かれなくなっていたと思われる単語も、島袋氏または比嘉氏の記憶にあるものは収録する。
- (ii) 口語では用いられないが、組踊り・琉歌などで用いられ、当時の人々が知っていたと思われる単語は、島袋氏の稿本にもすでに相当数含まれているので、例文の中などで用いられているものは収録する。
- (iii) 明治以降、現代までに標準語からの借用によって生じたことが明らかな新語は、収録すると際限がないし、島袋氏の稿本にもないので、収録しない。標準語の大部分の単語は、新語としてなら首里方言の会話の中に混入させて使うことができるからである。ただし、明治または大正時代に一時的に新造され、あるいは借用された新語で、その後は用いられなくなった単語は、文化史的にも興味があるので、収録する。たとえば、cincooⓄ(県庁)とか、島袋氏の稿本にもあった ?agihwiigurumaaⓄ(陸の火車の意。おか蒸気。汽車のこと)、kaagaauduiⓄ(影踊りの意。映画のこと)などのような語は収録するが、これに対し、kincoo(県庁)、kisja(汽車)、'eiga(映画)などのような語は収録しない。

また、明治以降標準語から借用された新語であるか、在来から首里方言で用いられていた語であるかが、島袋氏、比嘉氏の記憶によっても不確かなものは、収録する。

- (iv) 地名は島袋氏の稿本にほとんどなかったが、付録の地名要覧を参照するとという形式で、その主要なものを本文にも首里方言の発音に従って収録する。
- (4) 標準語引き索引の作成

辞典(本文篇)の利用価値を大きくするために、標準語引きによる索引(索引篇)を作成した。索引は五十音順による小項目式にした。大項目式や意味分類式で

は、索引にまた索引をつける必要があり、また本文の原稿からそれを作るのには困難が伴ったからである。

(5) 解説篇の執筆

琉球方言の概観、首里方言の輪郭、首里方言の音韻と表記法、首里方言の文法について、解説を新たに作って解説篇とし、本文編利用のための参考に供した。ただし、文法については当初もっと全般的な解説にする予定であったが、そのための詳しい調査をする時間がなかったため、活用する語(動詞・形容詞・連詞)についての解説にとどめた。また、いわゆる「助詞」については、当初、見出し語から除いて、ほかに用例集を付ける予定で調査をあとに延ばしていたが、それを果たさなかったため、簡単な説明のみで本文編の中で扱う結果となった。

(6) 地名一覧(付録)の作成

琉球列島の地名は漢字で書かれると読みにくいものが非常に多く、また最近標準語式の読みかたに変わりつつあって、元来の発音が失なわれつつある。そこで、沖縄本島の地名を中心とし、他の島々、本土、外国までも含めた、首里方言による地名一覧を作成し、付録とした。そして、首里方言の発音(比嘉氏による)と漢字の標準語読みとの両方から検索できるようにし、ほかに地図教枚を作成して添えた。

なお、以上の研究と作業のうち、(2)と(3)については、国立国語研究所年報8(昭和31年度)にも述べた。そこには鳥袋氏の稿本と書き改めた原稿とを対比した例を示してある(ただし、そこにあげた書き改めた原稿の例の中には、その後さらに修正した箇所がある)。

3 協力者と担当者

(1) 鳥袋盛敏

前述のとおり本文篇に当たるもとの資料を集め、国立国語研究所の委託研究(昭和23・24年度)として、また、国立国語研究所の非常勤職員(1951年1月から3月まで)として、本文篇のもとの稿本を完成した。

以後、国立国語研究所の研究のうち、前述の(1)の大部分と、(2)と(3)の一部分について、研究所の求めに応じて被調査者となった。出版の運びになってからは、本文篇の校正刷りを通読して、研究所が行なった研究と作業の間に生じ

た記述の誤りを直し、比嘉氏について調べたことと島袋氏自身の言語と相違する点について指摘した。

(2) 比嘉春潮

島袋氏および国立国語研究所の求めに応じて、島袋氏の稿本を通読し、稿本に加筆を行ない、また、研究所に対し、加筆または修正すべき箇所について意見を述べた。また、国立国語研究所の求めに応じて、研究所の行なった前述の研究のうち、(1)の一部分、(2)、(3)、(5)の大部分、(6)の全部について被調査者となった。

(3) 他の首里出身者

故伊江朝助、譜久山朝憲、仲田秋一の三氏は国立国語研究所の前述の研究の(1)の一小部分について、見里朝慶氏は(5)の調査の一小部分について、研究所の求めに応じて被調査者となった。

(4) 服部四郎

1953年春から数か月の間、東京大学文学部言語学研究室において島袋氏、比嘉氏の音声とアクセントの観察を行ない、首里方言の音素・アクセントの体系を明らかにして、研究所の行なった前述の(1)の研究を指導した。また、前述の(2)以下の仕事についても研究所に対し、方法上の助言を行なった。

(5) 国立国語研究所地方言語研究室の室員

前述の本文篇を原稿に書き改めること、および、(1)から(6)までの研究と作業は、第6研究室(のちの第一研究部地方言語研究室)が行なった。室員上村幸雄が担当したが、ほかに、次の者が主として次のように協力した。室長柴田武は音声とアクセントの観察を上村と共同で行なった。また、上村が書き改めた本文篇原稿の大部分と、解説篇の原稿とを通読し、上村に助言を行ない、また、索引篇の校正を行なった。室員徳川宗賢は本文篇の校正刷りと索引篇の校正刷りとを通読して上村に助言した。同室の研究補助員白沢宏枝は柴田、上村、徳川とともに校正を担当したほか、補助的な作業で上村を助けた。

解 説 篇

I 琉球方言概説……………11	7 文語の伝統的表記法……………50
1 名称と分布地域……………11	8 アクセント……………53
2 本土方言との関係……………11	IV 首里方言の文法……………58
3 琉球方言の下位区分……………14	1 動詞……………58
II 首里方言の輪郭……………18	(1) 動詞の活用……………58
付. 例文……………22	(2) 動詞の形態論的構造
III 首里方言の音韻と表記法……………27	(その1)……………66
1 母音音素……………27	(3) 動詞の形態論的構造
2 半母音音素……………29	(その2)……………79
3 子音音素……………29	2 形容詞……………81
4 その他の音素……………44	(1) 形容詞の活用……………81
5 例外的な発音……………47	(2) 形容詞の形態論的構造…82
6 モーラ(短音節)の種類……………47	3 連詞……………84

I 琉球方言概説

1 名称と分布地域

琉球方言¹⁾とは、奄美・沖縄・宮古・八重山の四群島に分布する諸方言の総称であり、琉球語、沖縄語、南島方言などとも呼ばれる。

その分布地域は、琉球と薩摩の間で行なわれた慶長戦争(1609)以前に琉球王朝が支配していた地域と一致する。奄美群島は慶長戦争以後、琉球王朝の支配を離れて、薩摩が直接支配するようになったが、現在の奄美群島の諸方言はやはり琉球方言に属する。奄美群島の北、土噺列島の方言については資料が乏しいが、語彙の断片的な資料から、九州方言に属するものと推定される。種子島、屋久島、口永良部島などの方言は明らかに九州方言に属する。

2 本土方言との関係

琉球方言は、話し手の数こそおよそ100万人に過ぎないが、北海道から九州までをおおる本土方言と対立し、話し手約9千万人の本土方言とともに日本語を二分する方言である。日本語が、方言学上まず本土方言と琉球方言の二つに分かれる³⁾ことは、今日ではすでに定説になったものといえる。両方言が祖語を同じくすることは、B. H. Chamberlain(1850～1935)、E. Polivanov(1884?～1937)、伊波普猷(1876～1947)などの先学、服部四郎博士その他の人々の研究によって証明済みであり、疑う余地がない。両方言の間には、音韻法則に支持された、整然たる単語の対応が見られる。

しかし、両方言の差異はきわめて大きく、琉球方言に属するどの方言も、本土のどの方言ともまったく通じないほどである。琉球方言の分布する最北端は奄美大島本島の北端であるが、その北の海には大きな言語の谷が走っていると言えるのである。

琉球方言固有の特徴といえるもの、つまり琉球方言のすべてに共通し、本土方言には見られない事実を列挙するのは、研究の現状からしてむずかしいが、つぎに、琉球方言の多くに共通し、本土方言にはないと思われるいくつかの事実を、音韻・文法・語彙のそれぞれについてあげてみよう。

まず音韻についてであるが、母音では、本土方言の短いeに対応する母音がi(琉球方言の大部分)、またはi(奄美大島本島、徳之島など)であること、本土方言の短いoに対応する母音がuであることがあげられる。子音の面では、先島(ただし与那国島を除く)以外の地域のほとんどの方言で喉頭化をめぐる音韻的対立(母音、半母音、鼻音に先立つ声門破裂音の有無による対立と破裂音・摩擦音における咽頭化無気、有気の対立)が見出されることがまず注目される。たとえば首里方言では、母音、半母音(j, w)、音節主音的鼻音(N)の前でʔ(声門破裂音)と'(声門破裂音のないこと)の音韻的対立があり、奄美大島本島の名瀬方言では、母音、半母音(j, w)、鼻音(m, n)の前で同じようにʔと'の音韻的対立があるほか、ɾ [tʰ]: t [tʰ], * [kʰ]: k [kʰ], ɸ [tʰ] ~ [tʰ]: e [ts] ~ [tʰ] という咽頭化無気音と有気音の対立がある。つぎに、かなり多くの方言で標準語の語頭ハ行の子音に対応する音が[p]または[Φ]であること、かなり多くの方言で標準語の語頭カ行の子音に対応する音が多数の語で[h]であり、そのことが[p]→[h]という音韻変化を妨げる要因として働いていることが注目される。

文法の面では、活用する語の「終止形」と「連体形」の区別、「已然形」と「仮定形(すなわち未然形)」との区別が保存されていること、mに終わる「終止形」が相当多くの方言に存在していること、またはその痕跡をとどめていることが注目される。終止形の、このmという語尾はいわゆる陳述的機能をもつ(または、もった)もののように、標準語文語の「助動詞」の「む」との関係が想定されるものである。本土諸方言にはこのような語尾をもつ「終止形」は見いだされない。

語彙の面では、日常的な基本語の中で、琉球各地の方言に見いだされ、かつその対応形がいまのところ本土方言に見当たらないものの代表的な例をあげれば、次のようなものがある。なお、例として出すのはすべて首里方言の形である。

tiida①(<*teda)太陽 kuuga①(<*koga)卵

'wiki-<*beke)男の('wikiga①[ゑげが]男。'wikii①[ゑけり]妹または姉から

見た兄または弟) qkwa①(<*kora ? 子等⁸⁾?)子 ?waa①豚
gusiku①城

Morris Swadesh が言語年代学のために設けた基礎語彙表の200項によって首里・名瀬・鹿児島・東京の四方言間の一致率を調べると、次の表となる。⁹⁾

	東京方言	鹿児島方言	名瀬方言
首里方言	70.9	72.2	84.7
名瀬方言	71.0	72.2	
鹿児島方言	85.1		

この結果に基づくと、第一に名瀬と鹿児島とはいずれも東京と首里の中間に位置するものではないこと、つまり東京と鹿児島、首里と名瀬とがそれぞれ一群（すなわち本土方言と琉球方言と）をなすものであること、第二に名瀬と首里との差が東京と鹿児島との差に匹敵するほど大きく、したがって、あとで述べるように、琉球方言内部の差も本土方言内部の差に匹敵するほど大きいものであることがわかる。

両方言が、いつ、どこで、どのように分岐して別々の方言となったかは明らかでないが、分岐は少なくとも8世紀以前に起こったろうと判断される。その理由は、8世紀の奈良の日本語よりも古いと思われる特徴が現在の琉球方言の一部に保存されているからである。今日の宮古・八重山諸方言のbは本土方言のwに、また、与那国島方言のdは、本土方言のj（ヤ行の子音）にそれぞれ対応するが、このbとdとはそれぞれwとjよりも古い時代の音価を伝えているものと思われる。

bの例(八重山石垣市)

「わた(腸)」「bada」, 「ゑひ(酔)」「bi:」, 「ゐる(坐る)」「bīruN」, 「を(芋)」「bu:」

dの例(与那国島祖納)

「や(屋)」「da:」, 「やむ(病む)」「damuN」, 「ゆ(湯)」「du:」, 「読む」[dumuN]

また、語頭のハ行の子音は、8世紀の奈良ではすでに両唇摩擦音 [Φ] になっていたとされているが、喜界島の大部分、奄美大島本島北端の佐仁、与論島、沖縄本島北部の多く、宮古・八重山の多くなど、多くの琉球方言が語頭のハ行子音に両唇破裂音 [p] を保存している。また、服部四郎博士によると、奄美大島本島の諸方言では、上代特殊仮名遣いにおけるオ列の甲乙二類に対応する区別が一部不完全ながら保持されている。¹¹⁾

こうして本土方言と琉球方言の分岐は8世紀以前だと判断されるが、かと言って分岐が紀元前数千年以前にさかのぼるとはまず考えられない。両方言を比較してみると、細部に至るまでよく似ており、本土に弥生式文化が広まるはるか以前に分岐した言語がこれほどよく似ているとは考えにくいのである。両方言の分岐はおそら

く紀元後あるいは紀元前の浅い世紀に起こったのであろう。¹³⁾しかし、両方言の分岐と成立の歴史の解明は、まだ、今後の研究にまつところが大きいことはいうまでもない。

琉球方言と本土方言とが日本語の相対する二大方言であることに変わらないが、現代の本土方言の中では九州方言がもっとも琉球方言に近いもののように見受けられる。琉球諸方言における諸種のアクセントの型の統合のしかたは、九州方言におけるそれとよく似ている。¹⁴⁾文法ではたとえば主格の助詞「が」(首里 -ga, 熊本 -ga)と「の」(首里 -nu, 熊本 -no)の使い分けかた、形容詞語幹に「さ」の付いた名詞の用法〔感嘆文の文末に述語のようにして用いる用法や、「おとろしさを(こわがる, 熊本)」、ʔuturusja@ sjun① (こわがる, 首里)などの、「する」とともに用いる用法〕などがあげられる。語彙の類似は相当多数にのぼるものと思われるが、基本語の中では、たとえば唇または舌を意味する「ツバ」「スバ」(首里 şiba@), 耕地を意味する「ハル」(首里 haru@)などがあげられよう。

琉球方言と九州諸方言とのこのような類似が、両方言がそれぞれ琉球列島と九州とに定着して以後の、一方から他方への借用による類似によってのみ起こったとは考えられない。両方言の類似はもっと根の深いものように見える。あるいは琉球方言と本土方言との分岐後、前者が少なくとも九州で用いられ、現在の九州諸方言の基層 (substratum) の形成にあずかったというようなことが考えられなくはない。

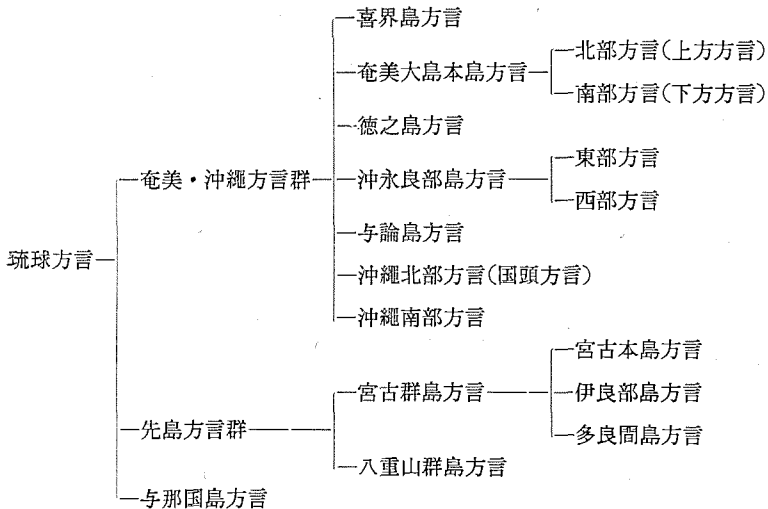
一方、琉球方言の基層の形成に日本語以外の何らかの言語、たとえば南方系の言語があずかったかどうかについても、本土方言の場合と同様に確実なことは何一つわかっていない。そのような基層が見いだされないだろうという保証もむろん無い。台湾の¹⁵⁾アミ語の tsidaɿ(太陽), sima(舌)などは琉球方言の¹⁶⁾tiida@ (太陽), şiba@ (舌, 唇)とよく似ているが、これをまったくの偶然の結果であるとか、偶然の結果でないとか断言するまでには研究が進んでいないのである。

3 琉球方言の下位区分

琉球方言の下位方言相互の差異の大きいことも、また注目に値する。たとえば、奄美大島本島の名瀬方言、沖縄本島の首里方言、宮古島の平良方言、八重山群島与那国島の祖納方言の四者は、相互にまったく通じないほど相違している。大体、大きな島ごとにかなり大きな差異が見いだされるが、同じ島内でも、たとえば沖縄本島

北部と南部のようにかなり大きい差異が見られる場合がある。また、同じ島の中では部落ごとにさまざまな小さな差異が見られるのが通例である。交通の不便さと、それによる政治・経済などの発達の遅れがこのような大きな差異を生み、保存させた原因であろう。琉球方言内部の差異の大きさは、本土方言内部のその大きさに比べてまさるとも劣るものではない。

琉球方言の下位区分に関しては定説がないが、最近の諸研究の結果を総合すると、¹⁷⁾次のようになるかと考えられる。



この分類は音韻上の観点(アクセントを含む)を主とし、それに文法・語彙の観点を加えて行なったものである。主要な点を述べれば、まず、奄美・沖縄方言群は、語頭のワ行の子音に b が対応しない点、および動詞の「終止形」が「連用形」と「居り」に対応する動詞との複合によって形成される点で先島方言群から区別される。与那国島方言は語頭のヤ行の子音に d が対応する点で他の方言から区別される。奄美・沖縄方言群の内部では、奄美大島本島方言と徳之島方言とが本土方言の短い母音 e に対応する i を有する点で他の方言からまず区別され、次に、残りの方言中、喜界島方言、沖永良部島方言、与論島方言、沖縄北部方言が、「木」「毛」「風」などの一群の語の語頭のカ行の子音に h が対応する(その条件不明)点、語頭のハ行の子音の唇音的性質 ([p] [Φ]) が比較的良好に保たれている点で沖縄南部方言からも区別され、

奄美大島本島方言および徳之島方言からも区別される。

沖縄北部方言と沖縄南部方言との境界は旧国頭郡(山原地方)と旧中頭郡との境界に等しいとされる。伊平屋・伊是名両島の方言と伊江島の方言とは北部方言に、久米島の方言は南部方言に属するものようである。また、久高島の方言は方言の島をなしているという。¹⁸⁾

首里方言と那覇方言とはともに沖縄南部方言に属するが、アクセントを異にする。沖縄南部方言には首里系のアクセントを持つ方言と那覇系のアクセントを持つ方言とが見いだされる。

注

- 1) ある同系の言語(方言)を「……方言」と呼ぶかあるいは「……語」と呼ぶかについては言語学上のはっきりした規準はなく、むしろ民族上の問題である。この観点からすれば、現在の琉球諸方言を、その本土方言との差異の大きさにもかかわらず琉球方言と呼ぶことは不適切ではないと考えられる。また、「沖縄」という名称はしばしば沖縄本島または沖縄群島だけをさすから、ここでは沖縄方言という名称をとらずに琉球方言とした。
- 2) 敷根利治「宝島方言集」(雑誌「方言」第2巻第1号)など。
- 3) 東条操「方言と方言学」(1938)
- 4) Basil Hall Chamberlain: An Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language(1895)
Evgenij Polivanov Dmitrievich 吉町義雄訳「日琉語比較音韻論」(「方言」第4巻第10号)
伊波普猷:「南島方言史考」(1934)所収の琉球方言関係諸論文その他。
服部四郎:「日本語の系統」(1959)、「言語学の方法」(1960)所収の琉球方言関係諸論文、「琉球語」(「世界言語概説」下巻1955)その他。
- 5) 仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻1951)、服部四郎・上村幸雄・徳川宗賢「奄美諸島の諸方言」(九学会連合奄美大島共同調査報告書「奄美」1959)その他を参照。なお、短い母音が、例外的な語を除いて、i, a, uの3個となるのは琉球方言全部に共通する事実ではなく、沖縄群島、喜界島の大部分、沖永良部島、与論島、与那国島その他に見られる事実である。
- 6) 動詞の「終止形」が「連用形」と「居り」に対応する動詞との複合によって形成されるのは、主として奄美群島と沖縄群島の諸方言に見られる現象で、琉球方言全体に及ぶ現象ではない。また、「おもろ」では、「連用形」と「居り」に対応する動詞との複合は、本土の西日本諸方言と同様に、一般に現在の進行を表わしているようである。外間守善「中世文献にあらわれた琉球方言の動詞」(「国語学」41号)を参照。
- 7) 服部四郎「奄美大島諸鈍方言の動詞・形容詞終止形の意義索」(「言語学の方法」1960)その他を参照。

- 8) 音韻の章の注6)(57 ページ)を参照。
- 9) 服部四郎・上村幸雄・徳川宗賢「奄美諸島諸方言の言語年代学的調査」(九学会連合奄美大島共同調査報告書「奄美」1959)による。
- 10) もちろん、「分岐」後も琉球方言は本土方言の連続的または断続的な影響を受けたであろうと察せられる。
- 11) 服部四郎「日本語の系統(1)—研究の方法—」(「日本語の系統」1959)
- 12) 宮古群島諸方言では、本土方言の「四段活用」動詞に対応する動詞の「連用形」「終止形」「連体形」の三者が同形であり、本土方言の「連用形」の形に対応するように見受けられる。仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻)を参照。また、琉球方言動詞の活用には、単独で用いる「未然形」, 「m語尾の終止形」, Chamberlain のいわゆる「短縮形 (apocopated form)」など、きわめて興味深い形が多くあり、これらの形の由来、およびそれと標準語文語の各活用形との関係を説明するには、文献以前の日本語の状態を想定して見た方が説明しやすいうように思われる。
- 13) 服部四郎博士は言語年代学の方法を援用しつつ、首里方言と京都方言の分岐の年代を約 1450 年前ないし 1700 余年前 (すなわち 3 世紀半ばから 6 世紀はじめまでの間) と測定した(『「言語年代学」すなわち「語彙統計学」の方法について—日本祖語の年代—』言語研究 26・27 号)。また服部博士は琉球方言の本土方言からの分岐を弥生式文化の南漸とともに起きたのではないかと想定している(「日本語の系統」古事記大成言語文字篇所収, 1957)。
- 14) 上村幸雄「琉球諸方言における『1・2 音節名詞』のアクセント概観」(国立国語研究所論集 1「ことばの研究」1959) 参照。ただし、この論文の調査資料の中には、一二の方言に誤った観察による記述があることがあとで見いだされた。
- 15) アミ語の例は服部四郎「日本語の系統(3)」(「日本語の系統」1959)に引用されている「原語による台湾高砂語族伝説集」巻末語彙表からの例から。
- 16) tiida@ (太陽) の語源に関しては、インドネシア系となす説、「照る」と同根とする説、「天道」にさかのぼるとする説の三つがあるようである。上村孝二氏は「九州琉球方言の語彙 2 南九州」(方言学講座第4巻)で土噶喇列島方言に太陽を意味する「天道」系の語が存在することから、「天道」説をとっている。
- 17) この分類中、奄美群島に関しては九学会連合奄美共同調査の成果によった。沖縄本島に関しては、仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻)に、宮古群島に関しては仲宗根政善の同書 および サムエル・H・北村「宮古方言音韻論の一考察」(「国語学」41 号)による。八重山群島方言はさらに多くの方言に分かれるが、どのように分かれるか不明。波照間島方言は同方言中の他の方言から際立って異なるという。また、奄美大島本島北端の佐仁方言と、喜界島北端の小野津方言とは、ともに周圀の方言に対して著しい方言の島をなしている。奄美大島本島属島の加計呂麻島、与路島、請島の方言はいずれも奄美大島本島南部方言に属する。
- 18) 仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻)による。
- 19) 同島で調査された服部四郎博士の談話による。

Ⅱ 首里方言の輪郭（付. 例文）

首里はかつての琉球王国の首都であり、琉球列島における政治・文化の中心であった。伝説では天孫氏が首里を開いたとされているが、そのあたり一帯、すなわちもとの中山地方の中心地は首里の北西にある浦添であり、首里がいつ開け、中心地がいつ首里に移ったかははっきりしていない。

沖縄は、14世紀まで、「按司」「世の主」などと称せられた群雄の割拠する時代が続き、14世紀から15世紀の初めにかけて北山、中山、南山のいわゆる三山対立時代となった。それぞれの勢力範囲は、北山が大体いまの国頭地方、中山が首里と中頭地方（上方）、それに島尻の東海岸地方（東方）、南山が島尻のいわゆる下方地方であった。1406年に中山に属する佐敷の按司であった尚巴志が首里に攻め入って中山を乗っ取り、さらに1416年に北山を、1429年に南山を滅ぼして全島を統一した。以後は奄美・先島などもすべて中山に入貢するようになったので、首里は琉球列島全体の政治と文化の中心地となった。のち、尚真王の時代(1477～1526)に中央集権制が敷かれ、地方の按司およびその家臣たちが首里に集められ、また、奄美、先島との関係も朝貢関係から統治関係に変わったので、首里は名実ともに琉球王国の首都となった。

17世紀にいたり、島津の琉球入り(1609)によって奄美は薩摩に奪われ、首里王府自体も島津の厳重な監督下に置かれて、琉球は事実上島津の属国となった。明治維新により、1879年に沖縄県が設けられ、那覇にまず置かれた内務省出張所が県庁となるにいたって、首里の門戸として交通・経済などの面で発展して来た那覇が、政治の上でも首里にとってかわることとなった。第二次大戦で首里は手痛い破壊を受け、現在では発展した那覇市に合併されて、那覇市の一部になってしまった。¹⁾

こうして首里方言は、明治の廃藩まで、琉球方言中もっとも有力な位置を占め、奄美を除く琉球列島全体の共通語²⁾であり、また琉球列島全域を通じての文化語であった。廃藩以後、学校教育によって本土方言の標準語が次第に普及し、現在の琉球列島の共通語はもちろん標準日本語であるが、一方、首里方言が琉球方言を代表する方言として考えられていることは今日でも変わりがない。また、那覇方言は、アクセントと音韻・語彙などの一部の点を除いて首里方言によく似ており、首里方言に準じて通

用した。また、首里・那覇の両方言を含め沖縄南部の諸方言は相互によく似ており、相互によく通ずる。現在では、那覇市の方言が近隣の諸方言に対し強い影響力をもっているものと思われる。また、廃藩以後、標準日本語が、特に語彙などの面で琉球各地の方言に多数借用され、それらの方言に大きな影響を与えていることはいうまでもない。

首里方言の著しい特色として、階級による言語差の大きいことと、敬語が発達して階級・性・年齢などに応じて厳重に使い分けられることがあげられる。尚真王時代に敷かれた中央集権制によって首里には三つの階級が生じた。王家を頂点として、地方から集められた按司とその家族などは *deemjoo*Ⓞ (大名) と呼ばれる貴族階級を形成した。その下にその家臣たちが中心をなす *samuree*Ⓞ (侍) または '*jukaqcu*Ⓞ (「よい人」の意か) とよばれる士族階級が形成され、その下に *hjakusjoo*Ⓞ (百姓) と呼ばれる平民階級があった。首里では *hjakusjoo*Ⓞ とは平民の意味で、農民の意味ではない。この階級の区別は厳重で、生活上のさまざまな面に差別が設けられていた。言語も階級により違いがあり、ことに士族と平民との間には目立った差異があった。士族の男子は、後に述べるように、成年に達すると平民とは一部異なる音素体系をもつようになる。また、士族と平民とでは、たとえば親族呼称 (名称としても用いられる) が次のようにすっかり異なる。

	おじいさん	おばあさん	おとうさん	おかあさん	にいさん	ねえさん
士族	<i>tanmee</i> Ⓞ	<i>?Nmee</i> Ⓞ	<i>taarii</i> Ⓞ	<i>?ajaa</i> Ⓞ	<i>'jaqcii</i> Ⓞ	<i>?Nmii</i> Ⓞ
平民	<i>?usjumee</i> Ⓞ	<i>haamee</i> Ⓞ	<i>sjuu</i> Ⓞ	<i>?anmaa</i> Ⓞ	<i>?ahwii</i> Ⓞ	<i>?angwaa</i> Ⓞ

士族と平民の言語のこのような差は、士族をしてみずからの士族としての誇りを維持させるのに役立った。また、階級、性別、年齢の差異に従って厳重に敬語が使い分けられ、敬語表現が非常に発達している。階級・男女の差とともに、年齢の差が敬語を使い分ける際の大きな因子として働いていることも注目される。たとえば、同年輩の身分の同じ男が出会った場合、まず年齢を尋ね合い、もし年齢が同じであれば、生まれた月によって、どちらが敬語を使うかを決めたといわれる。神、王、按司など非常な目上に対する場合や、特別に乱暴な場合などを除いて、日常用いる敬語には大体三種の段階がある。第一は目上や客人に対するもの、第二は目下の年長に対するもの、第三は目下および親しい同等に対するもので、第一を *?uuhuu*Ⓞ、第二を *?oohoo*Ⓞ [*?õõhõõ*]、第三を *?iihii*Ⓞ [*?iĩĩçĩĩ*] という。たとえば話し相手を主語として用いた場

合, ?menʃeen④(いらっしゃる)は第一の, meen④(おられる, 行かれる, 来られる)は第二の, 'uN④(いる), ?ieun④(行く), euun④(来る)は第三の段階となる。また, 二人称代名詞では ?unzu④(あなた。さらに目上に対しては nuNzu④, mjuNzu④などともいう)は第一の, naa④(おまえさん)は第二の, ?jaa④(おまえ)は第三の段階となる。また, 応答に関する感動詞は次のように整然とした体系をなして三段階に分かれており, ?uuhuu④, ?oohoo④, ?iihii④ という名もこれに由来している。

	はい, ええ (イ) (肯定, 承諾の意を表わすとき)	はい (呼ばれて返事をするとき) (ロ)	いいえ (否定, 拒否の意を表わすとき) (ハ)	さあ (呼び掛け, 誘うとき) (ニ)
(1) ?uuhuu の段階	?uu④	huu④	'uuu'u④	'uuhuu④
(2) ?oohoo の段階	?oo④	hoo④	'ooo'o④	'oohoo④
(3) ?iihii の段階	?ii④	hii④	'iii'i④	'iihii④

注. (イ)では ?uu④ よりもさらに高い段階に ?juu④ という語もある。(2)と(3)の段階の8語はすべて, ふつうは[ʔō'ō], [ʔi'i], [hōō]などのように鼻音化して発音され, 鼻音化しないと, ぞんざいな, ぶっきらぼうな感じとなる。また, 第三の段階に準ずるものとして, 親しい場合には (イ)?NN④ (ロ)hNN④ (ハ)'NNN'N④がある。

廃藩後, 社会構造の変化や, 標準語の普及などによって, 階級による言語差や敬語の厳重な使い分けは次第に失われつつあるが, それでもなお今日一部の老人には, このような区別がよく保存されている。

また, 首里方言は文語をもつ方言である。すなわち, 琉球方言の文語は, 大体首里方言を基礎にして成立している。琉球方言の歴史的資料は, 本土方言のそれに比してずっと新しく, 16世紀初頭までしかさかのぼらないとされる。古い部分では, 金石文, 王家の辞令などの文書などもあるが, その中心は「おもろさうし」であろう。「おもろさうし」は奄美の一部を含み, 沖縄各地に伝わり歌われていた宗教歌「おもろ」を王府が集めて編集したもので, 全22巻, 「おもろ」の総数1553首, 重複を除いた実数1144首である。³⁾1532年に第1巻, 1613年に第2巻, 1623年に第3巻以下が編集されたという。しかし, 編集の年代よりずっと古い時代の作品と思われるものが多く, また, そこに用いられている言語は首里だけのものではなく, 各地の方言が反映している。その表記は, わずかに漢字を含むが, 変体仮名を含む平仮名文である。「おもろさうし」の言語は沖縄の人々にとってもほとんど意味のわからないほど難解

なもので、「おもろ」の作られた時代から現代に至るまでの言語の変遷の大きさを物語っている。「おもろ」の研究は故伊波普猷によって始められ、仲原善忠氏、外間守善氏らによって受け継がれ広げられているが、いまだに不明の部分がきわめて大きい。

島津の琉球入り(1609)以後は、多くの文書が漢文または和文で書かれた関係で、以後の琉球方言資料の大部分は文学関係、主として組踊りの脚本と琉歌である。組踊りは中国の冊封使を歓迎するために、1719年以來冊封使の渡来ごとに国劇として演ぜられたもので、本土の能の影響が強く見られるが、組踊り本は冊封のたびに王府によって編集され、組踊りの数は最初の玉城朝薫の組踊り五番以下50余編を数える。その主要なもの伊波普猷編「琉球戯曲集」(1929)に収められている。琉歌は八八・八六の30文字よりなる定型短詩である。あたかも本土の王朝時代の和歌のように人々の生活や娯楽の中に深く入りこみ、その多くが遊楽に際して節をつけて琴・三味線と和して歌われ、また踊りを伴った。例として、宴席の最初に歌われる御前風(guzinhuu)の一つを次にあげる。

今日ほこらしやや なをにぎやなたてる つぼでをる花の 露きやたごと
kijunu hukurasjaja naunizana tatiru çibudi 'uru hananu çiju cata
gutu.

(きょうの嬉しさは何にたとえられよう、花のつぼみが露に会ったようだ。)

組踊り、琉歌の表記は漢字平仮名まじり文であるが、「おもろ」のそれよりも整備されている。また、その言語は語彙・文法などに今日の首里方言とはかなり違う面もあるが、共通する点の方が多く、今日の首里方言とさほどかけ離れた感じはしない。なお、琉歌に関しては、島袋盛敏氏が古琉歌から明治時代までの琉歌を集大成して評釈、索引などを付した「琉歌大観」の稿本を完成している。ほかに特に重要な資料としては1711年編纂の辞書「混効験集」があり、伊波普猷「古琉球」(1916)に収められている。外国人の資料には、中国人、朝鮮人、イギリス人のものがあり、その主要なものは東条操編「南島方言資料」(1930)に抄録されている。

琉球王朝が中国から冊封を受け、また貿易を行っていたため、また那覇の久米村には中国からの帰化人の子孫が住み、中国へ留学する制度などがあったために、首里方言の語彙には、本土を通して持ち込まれた多数の漢語のほか、中国から直接借用された語が見られる。しかし、その数はさして多くない。正確な数はわからないが、

今日まで残っているものの数はせいぜい百内外のものと思われる。たとえば次のようなもので、中でも食品、衣料関係の語、その他文化的な語が多く、基本語はほとんど⁵⁾ない。

nunkuu① 暖鍋(料理名)	suucee① 秀才(久米村の中国帰化人 子孫の青年)
saakuu① 沙鍋(土鍋)	haicee① 海賊
poopoo① 饽饽(料理名)	ciisinbjuu① 啓聖廟
sjanpin① 香片(茶の名)	hweeree① 懲懶(強盜)
sjunsii① 筍子(ほしたけのこ)	suucuumaa① 數籌碼(繪文字の 一種)
ringan① 龍眼(植物名)	'janzi① 洋銀(ニッケル)
ritoopen① 李桃餅(菓子名)	cinkunsin① 進貢船
taawan① 大碗(碗の一種)	ceqkunsin① 接貢船
tunhwan① 豚飯(料理名)	kwanhwaa① 官話(北京語)
seejanpuu① 西洋布(紡績による 綿布)	hwikin① 北京(中国地名)
maakwaa① 馬掛(着物の名)	hucan① 福建(〃)
tingaacuu① 天鵝絨(びろうど)	kwantu① 広東(〃)
tunbjan① 桐板(布地の名)	
taahwaakuu① 打花鼓(久米村の 楽劇)	

次に首里方言の見本とその訳(直訳調)をかかげる。⁶⁾この例文は1953年5月に島袋盛敏氏が朗読したものを録音し、それをのちに文字化したものである。全体は物語り調の口語で語られており、中の「月や昔から…」の箇所だけは琉歌なので文語である。この時の島袋氏の発音には、ほんの一部にいくらか平民的発音がまじったが、ここにあげた表記では、すべてこの辞典に採用した土族的発音による表記に改めた。

例 文⁷⁾

(夫のために鼻を切った女の話)

gusuujoo①, kurikara① ꜱucinaanu① 'Nkasiba'nasi① ꜱucinaaguciQ'si①
皆さま, これから 沖繩の 昔話を 沖繩弁で

ꜱuhanasi① see① 'jaan'di① ꜱumutooibi'in①.
お話 しては と 思っております。

'Nkasi① sjuinakai① ʔataru① hanasi① 'jaibiisi'ga①, ʔiqpee①
むかし 首里に あった 話 ですが、 大そう

curawinagu① tuzi① sjooru① qeunu① 'uibiita'N①. tuzinu① duku①
美しい女を 妻に している 人が いました。 妻が あまり

curasanu①, 'utoo① kunu① tuzinu① musika① 'jusuni① hwikasariiru①
きれいなので、夫は この 妻が もしか よそに 引かれる

kutoo① neenga① 'jaandi'ci① ʔasan① banu① caa① siwabikeei①
ことが ないか しらと 朝も 晩も いつも 心配ばかり

sjoobiita'N①.
していました。

duku① siwa① sjaru① 'juiga① 'jaibiita'ra①, kunu① 'utoo① cuubjoooci①
あまり 心配 した せい でしょうか、 この 夫は 重い病気に

kakati① sideejooi① qsi①, naaja① cuui① ʔacain'di① ʔjuru① sjaku①
かかって 次第に弱って もはや きょうか あすかと いう ほど

takiçikijabitaku'tu①, tuzinkai① 'Nkati①, naa① 'wannee① ʔukaasjadu①
危なくなりましたので、 妻に 向かって、「もう わたしは とても危

ʔuhusaru①. ʔjaaja① 'waaga① maasiduN① see①, mata① 'utu①
ない。 おまえは わたしが 死んでしまえば また 夫を

mucura①'jaan'di① ʔjabitani①. sjakutu① kunu① tuzinu① ʔiibunnu①,
持つだろうな。」と 言いました。 すると この 妻が 言うには、

'wannee① kumankai① caru① ʔizooja① kumadu① sinidukuru①,
「わたしは ここ(夫のところ)に 来た 以上は こここそが 死にどころ(です),

kumajaka① sutoo① maankain① ʔicabiran①. ʔunzoo① 'juuçiran①
ここより ほかは どこにも 行きません。 あなたは つまら

neen① siwa① simisjooran① gutu①, hweeku① hasiqtu① naimißeeru①
ない 心配を なさらない で、 早く 丈夫に おなりになる

gutu① simißeebi'reen'di① ʔjabitani①.
よう なさいませ。」と 言いました。

'jaibiisi'ga①, kunu① 'utoo①, tuzinu① ʔan① ʔicanteema'N①, duunu①
ですが、 この 夫は、「妻が そう 言ったところで、 自分が

sinee① caaga① nati① ʔicura① 'wakaran①. ʔaa① ʔannin①, sizin①
死ねば どう なって 行くか わからない。 ああ 残念、 死んでも

sinarann`di① ʔici① nadandeen① ʔutusjuru① ʔjooʃi① ʔjaibiita`N①.
死にきれない。」と 言って 涙なども 落とす ようす でした。

ʔansjakutu①, kunu① tuzee①, ʔunzuga① ʔurihudu① siwa①
すると, この 妻は, あなたが それほど 心配

simiseera`a① ʔwaa`kakugu① ʔumikakijabi`ran`di① ʔici①,
なさるなら わたしの覚悟を お目にかけましょう。」と 言って,

simukara① hoocaa① muqci① qei① duunu① hana① ʔusiciqci①
台所から 包丁を 持って 来て 自分の 鼻を 切って

misijabita`N①. kunu① tuzee① kaagisiga`tan① qemasai①
見せました。 この 妻は 容姿も 人にまさり

tacimasati① curasaibiitaʃi`ga①, cimukukuruN① mata① duqtu①
たちまさって 美しかったのですが, 心も また 大変

migutuni① muqcooru① ʔwinagu① ʔjaibiita`N①. ʔutoo① kunu①
りっぱに もっている 女 でした。 夫は この

ʔarisama① ʔNnci① kukuru① sukukara① ʔutageenu① haritaku`tu①,
ありさまを 見て 心の 底から 疑いが 晴れたので,

ʔurikaraa① kukuru① ʔjuruci① hwiija① kuutuguutu① bjooicin①
それからは 安心 して 日 増しに 病気も

masi① nati①, ʔicimeeʔici`mee① kabi① haziʃitiiNne`e① cuucaN①
よく なって, 一枚一枚 紙を はぎ捨てるように たちまち

hasiqtu① nati①, kweeciʔuiweende`e① sjuru① gutu① naibita`N①.
元気に なって, 快気祝いなどを する ように になりました。

ʔansi① mutunu① karata① nati① ʔNncakutu①, hana① ʔusiciqcaru①
そうして 元の 体になつて 見たところ, 鼻を 切った

tuzinu① kaagin① mutunu① ʃigatatu① kurabiti① tamitoo① ʔNndaran①
妻の 顔立ちが 元の 姿と 比べて 二目とは 見られなく

najabita`N①. nuci① sukuti① kwitaru① ʔunzinu① ʔaru① tuzi①
なりました。 命を 救って くれた 恩義の ある 妻

ʔjaibiʃi`ga①, ʔurikaraa① susoonkaro`on① qsi① ʔatunu① ʔunzuminee①,
ですが, それからは 粗末にし軽んじて あげくの はてには,

ʔjaaçiraa① ʔNndaran①. ʔnziti① ʔiki①. nama① ʔnziti① ʔiki①.
おまえの顔は 見られない。 出て 行け。 いま 出て 行け。

tadeema① ʔnziti① ʔikiN`di① ʔiei① ʔunu① tuzi① ʔwiihooti①, mata①
たったいま 出て 行け。」と 言って その 妻を 追い払って、 また

biçikara① miituzi① tumeeibita`N①. ʔataimeenu① ʔutuduN① ʔjaree①,
ほかから 新しい妻を めとりました。 普通の 夫で あるならば、

duunu① tamini① hana① ʔusiciqcaru① tuzi① caqsa① kaagigawa`i①
自分の ために 鼻を 切った 妻を いくら 面変わり

natin① ʔjukun① ʔumuriwadu① ʔjaibişi`ga①, kunu① hakuzoonu① ʔutoo①
しても かえって 思うべき なのですが、 この 薄情な 夫は

makutuni① ʔumaaran① ʔwikiga① ʔjaibiita`N①.
まったく 考えられない(ような) 男 でした。

ʔurikara① gurukunintiga`roo① taqci① zuuguja① ʔatee`igisa`ibişi`ga①,
それから 五、六年とか 経って 十五夜 だったのでそうですが、

kunu① hakuzoonu① ʔutunu① ʔatutuzitu① ʔusiçiriti① çicinagami①
この 薄情な 夫が 後妻と 連れだって 月見を

sjuşi①, hana① ʔusiciqcaru① sacituzinu① ʔuri① ʔNnci①, çicija①
するのを、 鼻を 切った 先妻が それを 見て、 「月は

ʔnkasikara① kawaru① kutu① nesa`mi①, kawati① ʔiku① munuja①
昔から 変わる ことが ない。 変わって 行く ものは

hwitunu① kukuru⁹⁾`di① ʔjuru① ʔuta① ʔjunabita`N①.
人の 心」と いう 歌を 詠みました。

sjakutu①, hwirumasii① muN①, namamadi① sajaka① titi① ʔutaru①
すると、 不思議な ことに、 いままで さやかに 照って いた

çicinu① tadeema① kacikumuti①, hudiikan`nai① naikuziriti①, ʔunu①
月が にわかにかき曇って、 雷が 鳴りひびいて その

hakuzoonu① miitundanu① ʔwiinkai① kannainu① dateenna① ʔutu①
薄情な 夫婦の 上に 雷が 大きな 音を

tatiti① ʔutitandi`ru① hanasi① ʔjaibiin①. duudu① mizirasii① hanasee①
立てて 落ちたという 話 です。 たいへん 珍しい 話では

ʔaibira`ni①.
ありませんか。

注

- 1) 沖縄の歴史に関しては、比嘉春潮「沖縄の歴史」(1959)を参考にした。

- 2) 共通語といっても今日言うような共通語とは意味が違ふ。首里方言は、沖縄本島南部以外の地域では、首里・那覇の人と交渉をもつような一部の人々にとっての共通語であったというに過ぎない。すなわち、本土における廃藩以前の江戸や上方のことばと同様である。
- 3) 仲原善忠「おもろ新釈」(1957)の数字による。
- 4) 「おもろさうし」は伊波普猷によって「校訂おもろさうし」(1925)として刊行されたが、その後、仲原、外間両氏によって諸本の校合が行なわれ、それをもとにした「おもろさうし」の辞典と総索引が両氏によって完成しつつあると聞いている。
- 5) ただし、「おとうさん」を意味する土族語 taarii に関して「大人」の借用語であるとすする説、「大令」の借用語であるとすする説があるようである。
- 6) 長い例文としてはほかに、本文篇の Yugwan[ⓐ] (祈願)の項に、「屋敷のお願」の祈禱の文句が収められている。この祈禱の文句は、島袋氏の母堂(国頭カメ氏 1868~1936)が記憶していたものを島袋氏が母堂の生前に記録したものに基づく。
- 7) 例文は音韻表記であるが、イントネーション、プロミネンスなどは記されていない。例文に記したアクセントは、実際の発音に際しては、イントネーションおよびプロミネンスによる修正を蒙る。たとえば 'waa[ⓐ]kakugu[ⓐ] [wa:[ⓐ]kakugu] (わたしの覚悟)は、例文中では kakugu[ⓐ] にプロミネンスが置かれるため、音声的に表記すれば [wa:[ⓐ]kakugu] と記載すべきものである。また、文法的な結び付きの度合の強い二つのアクセント単位(「文節」)の間では、そのうちの後ろにある形式のアクセントが消失したり、前の形式に影響されたりすることがしばしばあるが、このような現象についてはここで表記されていない。(アクセントが[ⓐ]の形式ではしばしばその下降が消失する。また、アクセントが[ⓐ]の形式では、逆にその初めの部分が前の形式の影響で高くなり、ために[ⓐ]の形式のような下降が生じる。たとえば、siwa[ⓐ] sjaru[ⓐ] <心配した>の sjaru[ⓐ] は siwa[ⓐ] との文法的結び付きが強い(しかし依然として二単語)ため、アクセントが消失して[ⓐ]のように平板に聞こえ、また hwikasariiru[ⓐ] kutoo[ⓐ] <引かれることは>の kutoo[ⓐ] も hwikasariiru[ⓐ] との結び付きが強い(しかしやはり二単語)、しばしば [kuto[ⓐ]o] のように発音される。)
- 8) Yasan[ⓐ] banun[ⓐ] (朝も晩も)と、Yizoo[ⓐ] (以上)とはあるいは標準語の影響による新しい形か。
- 9) 琉歌の部分は、実際は二度くりかえして朗読された。また、琉歌の中の kawaru[ⓐ], kawati[ⓐ], Yiku[ⓐ], kukuru[ⓐ] が本文篇見出し語の kawajuN[ⓐ], YieuN[ⓐ], kukuru[ⓐ] とアクセントが相違しているのは、文語朗読調のためと見られる。

Ⅲ 首里方言の音韻と表記法¹⁾

1 母音音素

母音音素は次の5個である。

i, e, a, o, u

発音のしかたは大体標準語のそれに近いが、uは円唇母音であり、oは標準語のそれと同じ、ないし、わずかに広めである。

うち、eとoとはきわめてわずかな例外を除き、いつも、長い母音として、またはN(はねる音)かQ(つまる音)に先立って用いられる。すなわち、短いe, oはeN, eQ, oN, oQとなる場合のほかには、ほとんど用いられない。俗に首里方言が3母音であると言われるのはこのことである。

短いeとoのきわめてわずかな例としては次のものがある。

短いe……haberu①(蝶), sanbeku①(三百。ただし sanbjaku①ともいう), ruqpeku①(六百。ただし ruqpjaku①ともいう), ʔane①(あれ。ほら。感動詞), ʔune①(それ。ほら。感動詞), menumenuu①(めえ。山羊を呼ぶ声。擬声語), 'eisaa①(七月踊りの際のはやしの文句。またそのはやしの入る歌や踊り), sicigwaçieisaa①(七月踊り。前項との複合語), hei①(おい。感動詞)

短いo……ʔohoʔoho①(ごほんごほん。咳の声。擬声語), boronboron①(つづみの音。擬声語), horohoro①(衣ずれの音。擬声語)

このように例外の多くは感動詞か擬声語であり、それ以外で、しかも変わり語形のないものはhaberu①(蝶)の一語のみである。このhaberu①は文語にはhabiru①という形もある。

eQ, oQの例もきわめて少ない。

eQの例……gweqtai①(ぬかるみ), ceqkunsin①(接貢船。中国への進貢船を迎えに行く船)

oQの例……coqcongwa①(笹鳴きするうぐいす)

eN, oNの例はかなりあるが、擬声語や中国語からの借用語に多い。

ただし、組踊り、琉歌などの文語には、'Nzo①〔無蔵〕(恋人)、subedu①〔そばいど〕(裏戸)などのように、短いe、oを含む語が少数見いだされる。また、口語で長いee、ooが文語では韻律の関係で短められる場合がある。しかし、これらの場合も節をつけて歌われるときには長められる。

〔標準語との対応〕 標準語の五つの母音は、短母音の場合、首里方言と次のように対応する。

標 準 語	i e	a	o u
首 里 方 言	i	a	u

すなわち、標準語の短いeとoとは、首里方言でそれぞれiとuになるため、標準語におけるiとe、oとuとは首里方言では区別されなくなる。

標 準 語	首 里 方 言			
a	「田 (ta ^ˈ)」	taa①	}	a
	「花 (hana ^ˈ)」	hana①		
	「高さ (ta ^ˈ kasa)」	takasa①		
i	「血 (ei)」	cii①	}	i
	「息 (#i ^ˈ ki)」	ʔiici①		
	「道 (mici)」	mici①		
e	「毛 (ke)」	kii①	}	i
	「手 (te ^ˈ)」	tii①		
	「雨 (#a ^ˈ me)」	ʔami①		
o	「帆 (ho)」	huu①	}	u
	「音 (#oto ^ˈ)」	ʔutu①		
	「雲 (ku ^ˈ mo)」	kumu①		
u	「湯 (ju ^ˈ)」	ʔjuu①	}	u
	「牛 (#usi)」	ʔusi①		
	「奥 (#o ^ˈ ku)」	ʔuuku①		

ただし、標準語の「ス(su)」「ツ(cu)」「ズ(ず、づ)(zu)」は原則としてそれぞれ首里方言の si (土族男子は si)、ci (土族男子は ci)、zi (土族男子は zi) に対応する。

標準語	首里方言(かっこ内は士族男子)
su { 「煤 (su'su)」 「臼 (#u'su)」	siisi① (šiīši①) } si(ši) ʔuusi① (ʔuuši①)
cu { 「綱 (cunaʔ)」 「何時 (#i'cu)」	cina① (çina①) } ci(çi) ʔici① (ʔiçi①)
zu { 「藪 (ka'zu)」 「水 (mizu)」	kazi① (kaži①) } zi(zi) mizi① (miži①)

なお、母音の対応については、子音音素 ʔ, s, c, z などの項、音素 N の項、アクセントの項などを参照。

2 半母音音素

半母音音素は次の2個である。

j, w

うち、j は母音音素 a, u, o に先立ち、子音音素 h, ʔ, ', p, b, m, n に先立たれる。また、士族男子の場合は s にも先立たれる。w は母音音素 i, e, a に先立ち、子音音素 h, ʔ, ', k, g に先立たれる。

なお、語頭の ʔee および 'ee はいつも ʔee① (藍) [ʔe:]³⁾, 'eema① (八重山。地名) [ie'ma] などのように入りわりに軽い口蓋化が認められるが、ほかに [ʔe:] [e:] など口蓋化のない音で始まる語が首里方言にはないから、これらは ʔjee, 'jee とせず、ʔee, 'ee とするのが適当である。

[標準語との対応] 子音音素 ʔ, ' の項を参照。

3 子音音素

子音音素は次の15個である。

h, ʔ, ', k, g, p, b, m, s, c, z, n, r, t, d

士族男子の場合はさらに次の3個が加わる。

ʂ, ʑ, ʒ

(1) ʔ, '

首里方言では、母音および半母音の前に声門破裂音 [ʔ]⁴⁾があるかないかによって単語の意味が違ってくる。すなわち、声門破裂音の有無による音韻的対立

をもつ。そこでその声門破裂音が伴う場合を子音音素ʔがあるとし、声門破裂音が伴わない場合を子音音素'があるとす。たとえば次の四対の語は声門破裂音の有無によってのみ互いに区別されるものである。

{ ʔiN① [ʔiN] (犬)	{ ʔutu① [ʔu'tu] (音)
{ 'iN① [iN] (縁)	{ 'utu① [u'tu] (夫)
{ ʔjaN① [ʔja'N] (言わない)	{ ʔwiqcu① [ʔwittʃu] (老人)
{ 'jaN① [ja'N] (だ。である)	{ 'wiqcu① [wittʃu] (酔った人)

標準語の場合、語頭の「ア(#a)」「イ(#i)」「ウ(#u)」「エ(#e)」「オ(#o)」はふつう声門破裂音に先立たれている。たとえば「犬(#inu^u)」は[ʔi'nu], 「音(#oto^u)」は[ʔo'to]のようにふつう発音される。しかし、これを声門破裂音なしに[i'nu], [o'to]のように発音してもさしつかえないし、おかしいとも感じられない。また、標準語の「ヤ(ja)」「ヨ(jo)」「ユ(ju)」「ワ(wa)」はふつう声門破裂音を伴わずに発音され、「矢(ja^u)」は[ja], 「輪(wa^u)」は[wa]のように発音される。これらが[ʔja] [ʔwa]と発音されることはあまりないが、たとえあっても、やはり「矢」「輪」の意味になる。また、標準語で「犬」「音」は語頭ではふつう声門破裂音があっても、「山犬」「物音」のように複合語の途中に来ると[ja'mainu] [mo'noo'to]のように声門破裂音は消失する。したがって、標準語の話し手は声門破裂音の有無に関して無関心なのである。他のすべての本土方言の話し手もやはり無関心である。

首里方言の場合は声門破裂音の有無によって別の単語になってしまうので、声門破裂音の有無はいつもはっきりしており、同じ単語が両様に発音されることはない。この辞典の見出し語にʔがある場合は声門破裂音を際立たせ、'がない場合は反対に声門破裂音がないことを際立たせて発音しなければならない。

首里方言で母音音素、半母音音素がʔに先立たれる場合の発音では声門の破裂とほぼ同時に声帯が正常に振動して声の状態になるが、母音音素、半母音音素が'に先立たれる時、すなわち声門破裂音を伴わない時の発音では、声帯は初め、閉じておらず、ゆるやかに振動し始めて、声の状態に漸強的に移行する。したがって、声の高さがʔに先立たれる場合より低く始まり、そのモーラ(短音節)自体としてもʔで始まるモーラよりもやや低目に発音される。また、ʔで始まるモーラの発音よりも息の流出が大きいために、'iや'uの場合にはしばしば弱い摩擦音[j][w]

が聞かれ、ために 'i, 'u の音声はそれぞれ [ji], [wu] のように表記されることもある。

'iN④ (縁) [iN]~[jin]

'uN④ (居る) [uN]~[wun]

ただし、子音音素 ' は語頭の場合、母音音素 a に先立つことがない。つまり首里方言には 'a で始まる語はあるが、 'a で始まる語はない。

また、ʔ と ' とは次のように音素 N (いわゆるはねる音「ン」)にも先立つことができる。

{ʔNmi④ [ʔɲi] (稻)	{ʔNmi④ [ʔm̄mi] (梅)
{'Nni④ [ɲ'ni] (胸)	{'Nmi④ [m̄'mi] (嶺井。地名)

また、ただ一語であるが、首里方言には [ʔ] が [m] に先立った [ʔme'nse:N] (いらっしゃる) という語がある。これを ʔmeNʂeeN④ と表記することにする。この語は平民の場合には meNʂeeN④ [meNʂe:N] とも発音されるし、ほかに [ʔ] が [m] や他の子音と結合する例は首里方言にはないので、ʔm は首里方言の音韻体系の中では例外的な結合といえる。⁵⁾

つぎに、ʔ と ' が語中に用いられる場合について述べる。まず、いわゆる「長母音」「二重母音」の第二成分、および母音音素とはねる音 (N) との結合した場合の N は声門破裂音に先立たれないので当然次のように ' をもつものと考えられる。

{ta'a④ [ta:]~[taa] (田)
{me'e④ [me:]~[mee] (前)
{hu'u④ [ʔu':]~[ʔu'u] (帆)
{tu'i④ [tui] (鳥)
{ma'a'i④ [ma:i]~[maai] (まり)
{ha'u④ [ha'u] (ああん。口を開くこと。擬声音)
{ʔi'N④ [ʔiN] (犬)
{i'N④ [iN]~[jin] (縁)
{sju'N④ [ʃu'N] (する)

しかし、いちいち ' を記すのは繁雑なので、本書では、' は自立語の語頭以外は一切省略することにし、上記の語もそれぞれ、taa④, mee④, huu④, tui④, maai④, hau④, ʔiN④, i'N④, sjuN④ のように表記する。

?で始まる語が複合語の第二成分となる場合には、複合語の両方の成分が意味上または形態上の独立性が比較的強いと、多くの場合、声門の閉鎖が不完全となつて声門破裂音が弱まったりするが、なお喉頭の弱い緊張が認められるので、たとえば次のように?が保持されていると認める。

?ami⑩ (雨) → guma?ami⑩ (小雨)

?uja⑩ (親) → 'winagu?uja⑩ (女親)

?iibi⑩ (指) → qcusasi?iibi⑩ (人差指)

しかし、成分の意味上または形態上の独立性が弱まると、?は消失する。すなわち、次のように'がある(ただし表記されない)と認められる。

ciiru⑩ (黄色。「黄色」に対応) tuiee⑩ (交際。「取り合い」に対応)

その中間として、次のように両様の形が認められる場合もある。

mizi?iru⑩ ~ miziiru⑩ (青。「水色」に対応。)

munu?ii⑩ ~ munii⑩ (言い方。「物言い」に対応)

'で始まる語が複合語の第二成分となる場合には、複合語の両方の成分が意味上または形態上の独立性が強ければ、ていねいな発音では、両成分の切れ目を際立たせるために語頭の'の特徴、すなわちゆるやかに漸強的な声立てという特徴が保持される。

'uncuu⑩ (おじさん) → ?uhuuuncuu⑩ (上のおじさん)

'un⑩ (恩) → guun⑩ (御恩)

'uu⑩ (緒) → kutubanuuiu⑩ (ことばのあや)

一方、いわゆる「長母音」「二重母音」などで、その中間に意味の切れ目のない場合には、このようなゆるやかに漸強的な声立てはふつう起こらない。たとえば kutubanuuiu⑩ の最後の三個の u のところで、一番目と二番目の間には意味の切れ目があるので、語頭の'の特徴が見られるが、二番目と三番目の間には意味の切れ目がないからそのような特徴はあまり目立たない。しかし、いわゆる「長母音」「二重母音」も首里方言では正確には「長母音」「二重母音」と言えないもので、各モーラ(短音節)に独立性があり、たとえば taa⑩ (田), tui⑩ (鳥), kau⑩ (顔。文語)もていねいな発音では、それぞれ [taa], [tɯji], [kawu] のように発音される傾向がある。母音音素にNが続く場合も同様で、?in⑩ (犬)はていねいに発音すると [ʔin̩] である。

〔標準語との対応〕 標準語のア行の語頭の「ア(#a)」「イ(#i)」「ウ(#u)」「オ(#o)」で、標準語文語でもア行に属するものは、首里方言ではʔに先立たれる。

	標準語	首里方言
「ア(#a)」	「雨(#a'me)」	ʔami①
	「泡(#awa'）」	ʔaa①
	「赤い(#akai)」	ʔakasan①
	「扇(#oogi')<あふぎ」	ʔoozi①
	「青い(#ao'i)」	ʔoosaN①
	「相手(#aite'）」	ʔeeti①
「イ(#i)」	「犬(#inu'）」	ʔiN①
	「胃(#i)」	ʔii①
	「行く(#iku)」	ʔicuN①
	「言う(juu)<いふ」	ʔjuN①
	「稲(#i'ne)」	ʔNni①
「ウ(#u)」	「牛(#usi)」	ʔusi①
	「歌(#uta'）」	ʔuta①
	「上(#ue)」	ʔwii①
	「植える(#ueru)」	ʔwiijuN①
	「梅(#ume)」	ʔNmi①
	「うわべ(#uwabe)」	ʔwaabi①
「オ(#o)」	「音(#oto'）」	ʔutu①
	「帯(#o'bi)」	ʔuubi①
	「大風(#ooka'ze)」	ʔuukazi①
	「老いる(#oi'ru)」	ʔwiijuN①
	「追われる(#owareru)」	ʔwaarijuN①

標準語語頭の「ヤ(ja)」「ユ(ju)」「ヨ(jo)」「ワ(wa)」および、標準語文語で「え」「ゑ」であった「エ(#e)」, 同じく「ゐ」であった「イ(#i)」, 同じく「を」であった「オ(#o)」は、首里方言で'に先立たれる。

	標準語	首里方言
「ヤ(ja)」	「山(jama)」	'jama①
	「屋(ja-)」	'jaa①
	「八重(ja'e)」	'ee-(e'edaki① 八重岳。地名)
	「様子(joosu) < やらす」	'joosi①
「ユ(ju)」	「床(juka)」	'juka①
	「湯(ju)」	'juu①
	「夕(juube)」	'juubi①
	「ゆい(勞力交換)(jui)」	'ii①
「ヨ(jo)」	「夜(jo)」	'juu①
	「嫁(jome)」	'jumi①
	「弱い(jowa'i)」	'joosan①
	「用意(jo'oi)」	'juui①
「ワ(wa)」	「腹(わた)(-wata)」	'wata①
	「割る(waru)」	'wajun①
	「若い(waka'i)」	'wakasan①
	「王(#o'o) < わう」	'oo①
「エ(#e)」 < え	「縁(#e'n)」	'in①
	「枝(#eda)」	'ida① ~ 'juda①
	「江戸(地名)(#edo)」	'idu①
	「得る(#e'ru)」	'iijun①
	「襟(#eri)」	'wiiri①
「エ(#e)」 < え	「柄(#e)」	'wii①
	「絵(#e)」	'ii①
	「遠方(enpoo)」	'inpoo①
	「酔う(jo'u) < ぶふ」	'wiijun①
「イ(#i)」 < ゐ	「えぐる(egu'ru)」	'wiigujun①
	「齒(#i)」	'ii①
	「亥(#i)」	'ii①
	「居る(坐る)(#iru)」	'ijun①

	標準語	首里方言
「オ(#o)」 <を	「踊り(#odori)」	'udui①
	「居る(<をり)(#o`ru)」	'uN①
	「桶(#o`ke)」	'uuki①
	「甥(#oi)」	'wii①

「夢」は ?imi①, 「指」は ?iibi① で、それぞれ「いめ」「いび」に対応している。また、上の例で明らかなように、「エ(<え)」「エ(<ゑ)」は首里方言で 'i~'ii となる例と, 'wi~'wii となる例とがある。また、上にも例があるが、標準語の ai と ae は首里方言で ee に、標準語の ao および「開音」に対応する oo は首里方言で oo に、また「合音」に対応する標準語の oo は首里方言で uu に、標準語の awa は首里方言で aa にそれぞれ対応するのが普通である。

	標準語	首里方言
ai	「藍(#a`i)」	?ee①
	「貝(ka`i)」	kee①
	「灰(hai)」	hwee①
ae	「前(ma`e)」	mee①
	「蠅(hae)」	hwee①
ao	「青い(#ao`i)」	?oosAN①
	「竿(sao`)	soo①
	「倒れる(taore`ru)」	toorijUN①
oo <「開音」	「唐(to`o)」	too①
	「王(#o`o)」	'oo①
oo <「合音」	「通り(toori`)」	tuui①
	「胴(do`o)」	duu①
awa	「川(kawa`)」	kaa①(井戸)
	「繩(nawa`)」	naa①

なお、ここまでにあげた例でも明らかなとおり、首里方言には1モーラ(仮名一字で表わされる音の単位)の自立語はなく、たとえば次のように標準語の1モーラの自立語はすべて首里方言では2モーラとなる。

「目(me`)」 mii① 「田(ta`)」 taa① 「帆(ho)」 huu①

(2) h

u および w の前で [Φ], i および j の前で [ɸ], その他の場合に [h] である。
 [標準語との対応] 標準語の語頭のハ行のうち、「ヒ(hi)」「へ(he)」と「フ(hu)」「ホ(ho)」は首里方言で唇音性を保って、それぞれ hwi([Φi]), hu([Φu]) に対応し、「ハ(ha)」は単語によって hwa([Φa]) または ha([ha]) に、ただし「ハイ(hai)」「ハエ(hae)」と「ホー(hoo) <開音> はそれぞれ hwee([Φe:]) と hoo([ho:]) に対応する。「拗音」(「ヒャ」「ヒュ」「ヒョ」) は首里方言でも唇音性をもたない。

	標準語	首里方言
「ヒ(hi)」	{「火(hi ^ː)」	hwiiⓄ
	{「引く(hiku)」	hwicuNⓄ
「へ(he)」	{「屁(he ^ː)」	hwiiⓄ
	{「下手(heta ^ː)」	hwitaⓄ
「フ(hu)」	{「筆(hude)」	hudiⓄ
	{「舟(hu ^ː ne)」	huniⓄ
「ホ ₁ (ho)」	{「帆(ho)」	huuⓄ
	{「骨(hone ^ː)」	huniⓄ
「ハ(ha)」	{「葉(ha)」	hwaaⓄ
	{「破風(hahu)」	hwaahuuⓄ
	{「灰(hai)」	hweeⓄ
	{「蠅(hae)」	hweeⓄ
	{「歯(ha ^ː)」	haaⓄ
	{「鼻(hana)」	hanaⓄ
	{「花(hana ^ː)」	hanaⓄ
	{「方(ho ^ː o)<はう>」	hooⓄ
「拗音」	{「百(hjaku ^ː)」	hjakuⓄ~hjaakuⓄ
	{「拍子(hjoosi ^ː)」	hjoosiⓄ

「ハ」に対応するものには、haQkaⓄ~hwaQkaⓄ(薄荷), haniⓄ~hwaniⓄ(羽)のように両様の形のあるものもあり、また、若い世代には「ハ」の場合はもちろん「ヒ」「へ」の場合にも唇音性を失う傾向が見られるようである。

語中の場合には、Yuhusan⑩(多い), kuhwasan⑩(堅い。「こわい」に対応する)など、無声の唇音の保たれる語が少数見いだされる点が注目される。また、Pの項参照。

(3) k, g

kは[k], gは語頭・語中ともに[ŋ]で鼻音化しない。また、首里方言には kj, gj という結合はない。

〔標準語との対応〕 標準語の「カ(ka)」「ケ(ke)」「ク(ku)」「コ(ko)」の子音は kに、「ガ(ga)」「ゲ(ge)」「グ(gu)」「ゴ(go)」の子音は g に対応するのが普通である。

標 準 語		首 里 方 言
「カ(ka)」	「皮(kawa ^ː)」	kaa⑩
「カ(ka)<くわ」	「火事(ka ^ː zi)」	kwazi⑩
「ケ(ke)」	「毛(ke)」	kii⑩
「ク(ku)」	「草(kusa ^ː)」	kusa⑩
「コ(ko)」	「粉(ko ^ː)」	kuu⑩
	「声(ko ^ː e)」	kwii⑩
「ガ(ga)」	「がん丈(gaNzjoo)」	gaNzUU⑩
「ガ(ga)<ぐわ」	「頑固(ga ^ː Nko)」	gwanku⑩
	「外戚(gaiseiki)」	gweesici⑩
「ゲ(ge)」	「影(ka ^ː ge)」	kaagi⑩ (ただしkazi⑩という形もある。)
「グ(gu)」	「道具(doogu ^ː)」	doogu⑩
「ゴ(go)」	「ごみ(gomi ^ː)」	gumi⑩

ただし、次の語では標準語の語頭のカ行の子音に首里方言でgが対応している。

標 準 語	首 里 方 言	標 準 語	首 里 方 言
「蟹」	gani⑩	「串」 「こまい(西日本方言)」 「軽い」	guusi⑩
「烏」	garasi⑩		gumasan⑩
「鯨」	guzira⑩		gaQsan⑩

(ただし、kaQsan⑩「お産などが軽い」という語もある。)

標準語の「キ(ki)」の子音kとカ行の「拗音」のkj, および「ギ(gi)」の子音gとガ行の「拗音」のgjは、首里方言では口蓋化現象によってそれぞれc

([tʃ]), z ([dʒ]) に対応する。

標準語	首里方言	標準語	首里方言
「肝(kimo ^ㄚ)」	cimuⓄ	「義理(giri ^ㄚ)」	ziriⓄ
「客(kjaku)」	cakuⓄ	「人形(niNgjoo)」	ninzooⓄ
「給仕(kju ^ㄚ uzi)」	cuuziⓄ		

ただし、「木」のみは例外でkiiⓄとなり、kを保っている。また、標準語の「ケ」「ゲ」でそれぞれ ci, zi に対応する例もかなりある。

	標準語	首里方言
「ケ」	「系図(keezu)」	ciiziⓄ
	「見物(kenbucu)」	cinbuçiⓄ
「ゲ」	「下駄(geta)」	zitaⓄ
	「芸能(geenoo)」	ziinuuⓄ

また、標準語で「カ」「ケ」「ガ」「ゲ」の子音が i に先立たれている場合には、首里方言ではしばしば口蓋化が起こって、これに c, z が対応する例が見られる。

標準語	首里方言
「如何(#ika-)(文語)」	caaⓄ(文語では ?icaⓄ)
「烏賊(#ika)」	?icaⓄ~?ikaⓄ
「近い(cika ^ㄚ i)」	cicasaNⓄ~cिकासaNⓄ
「池(#ike ^ㄚ)」	?iciⓄ
「にがい(niga ^ㄚ i)」	?nzasaNⓄ
「*ひが-(higa-)(東)」	hwizaⓄ(比嘉, 比謝。地名・人名)
「機嫌(kigen)」	ciziNⓄ
「ひげ(hige)」	hwiziⓄ

また、標準語の「クラ(kura)」「クレ(kure)」および「グラ(gura)」「グレ(gure)」は、首里方言でしばしば次のような形に対応する。

	標準語	首里方言
「クラ」	「枕(makura)」	maqkwaⓄ
	「盲(mekura)」	miqkwaⓄ
	「食らう(kurau)」	kwajunⓄ

「グラ」 「めぐらす(megurasu)」 mingwasjuN⁶⁾ⓐ

また Qkwaⓐ(子) は「子ら」との対応が考えられる。

「クレ」 { 「ふくれる(hukureru)」 huqkwijunⓐ
「呉れる(kureru)」 kwijunⓐ

「グレ」 「夕間暮れ(juuma`gure)」 `jumangwiⓐ

(4) p, b, m

p は [p], b は [b], m は [m]。

〔標準語との対応〕 標準語のp行, b行, m行の子音は, それぞれ首里方言でも p, b, m に対応するのが普通である。p は, 標準語同様語頭のp行がp音を保存していないので, 語頭に立つ例はわずかである。首里方言の si, ši のあとでは, 語中のp行がpを保っている例がまれに見られる。この場合, si, ši の母音は無声化する。(なお, ši の例は本文篇参照)

標準語

首里方言

「四百(sihjaku⁷⁾)」

sipjaakuⓐ(銭400文)

「塩からい(sio kara⁷i)」

sipukarasanⓐ

「しほたる(古語)」

siputajuNⓐ(しめる)

なお, m に関しては n, N の項を, b に関しては N の項を参照。

(5) s, c, z; ʃ, ʒ, ʒ

s は a, o, u の前で [s] であり, i, e の前および貴族・士族男子の sj の場合に [ʃ] である。c はいつも [tʃ] である。z は [dʒ] であるが, 母音間では弱まった破擦音 [dʒ] または摩擦音 [ʒ] となる。c と z はそれ自身口蓋化した音素であるから, j とは結合しない。

貴族・士族の成年男子は, s, c, z のほかに, 平民および女子供のもたない子音音素 ʃ, ʒ, ʒ, および平民のもたない音素結合 sj をもつ。s は i と e の前にのみ用いられ, [s] ~ [ʃ] である。ʒ は [ts] ~ [tʃ], z は [dz] ~ [dʒ] (ただし母音間では弱まった破擦音 [dʒ] ~ [dʒ], または摩擦音 [ʒ] ~ [ʒ]) である。貴族・士族の男子は和文, 漢文などの学習と年長者による厳しいことばづかいのしつけによって ʃ, ʒ, ʒ, sj を獲得し, ʃ, sj を s から, ʒ を c から, ʒ を z から区別して発音できるようになる。そして, 平民や女子供の発音とみずからの発音とを区別する。

〔標準語との対応〕 標準語のサ行の子音は, 平民風発音ではすべて s に対応す

るのがふつうである。貴族・士族の成年男子の場合は、標準語の「サ(sa)」「シ(si)」「ソ(so)」の子音は s に、標準語の「ス(su)」の子音は s̥ に、標準語のサ行の「拗音」の sj は sj に対応するのがふつうである。「セ(se)」の子音は、人または語によ⁷⁾って s, s̥ の両方の場合がある。

標準語	首里方言
「サ」 { 「猿(sa ¹ ru)」 「幸(saiwai)」	saaru⓪ (士)seewee⓪, (平)seewee⓪
「シ」 { 「椎(si ¹ i)」 「島(sima ¹)」	sii⓪ sima⓪
「ス」 { 「砂(suna)」 「煤(su ¹ su)」	(士)šina⓪, (平)sina⓪ (士)šiiši⓪, (平)siisi⓪
「セ」 { 「世間(se ¹ keN)」 「世話(sewa ¹)」	sikiN⓪ siwa⓪(心配)
「ソ」 { 「側(so ¹ ba)」 「添える(soeru)」	suba⓪ (士)šiijun⓪, (平)siijun⓪
「拗音」 { 「尺(sjaku ¹)」 「書物(sjo ¹ mocu)」	(士)sjaku⓪, (平)saku⓪ (士)sjumuçi⓪, (平)sumuci⓪

標準語の「チ(ci)」「ツ(cu)」の子音、およびタ行の「拗音」の cj は、平民風発音では c に対応し、貴族・士族の成年男子の場合は「ツ」の子音のみが ç に、他は c に対応するのが普通である。

標準語	首里方言
「チ」 「血(ci)」	cii⓪
「ツ」 { 「面(cura ¹)」 「対(cui)」	(士)çira⓪, (平)cira⓪ (士)çii⓪, (平)cii⓪
「拗音」 { 「茶(cja)」 「中風(cjuubuu)」 「ちょうど(cjoodo)」	caa⓪ cuuhuu⓪ coodu⓪

標準語のザ行の子音および「ヂ(=ジ)」, およびザ行・ダ行の「拗音」の zj は平民風の発音では z に対応し、貴族・士族の成年男子の場合は「ザ(za)」「ズ=ヅ(zu)」「ゾ(zo)」の z は z̥ に、他は z に対応するのが普通である。ただし、貴族・士族

の成年男子の場合も zi と zi の区別は s と s, c と ç の場合ほどは厳重に守られていないようである。

標準語	首里方言	
「ザ」 「座(za)」	(士)zaaⓐ, (平)zaaⓐ	
「ジ」 「字(zi)」	ziiⓐ	
「ズ」 「水(mizu)」	(士)miziⓐ, (平)miziⓐ	
「ゼ」 「銭(ze'ni)」	ziNⓐ	
「ゾ」 「溝(mizo)」	(士)Nzuⓐ, (平)Nzuⓐ	
「拗音」	「蛇(zja ¹)」	zaaⓐ
	「重箱(zjuubako)」	zuubakuⓐ
	「上等(zjootoo)」	zootuuⓐ

なお、首里方言でも標準語同様、「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」の区別は保存されていない。

標準語の「ス」「ツ」「ズ(ず, づ)」はそれぞれ原則として、貴族・士族の成年男子の場合は si, ci, zi に、平民風発音においては si, ci, zi に対応するが(母音音素の項参照), 前後の母音に同化されて, 前者の場合に su, cu, zu, 後者の場合に su, cu, zu となることがある。

標準語	首里方言
「ス」 「裾(suso)」	(士)susuⓐ (平)susuⓐ
「ツ」 「作る(cuku'ru)」	(士)çukujunⓐ (平)cukujunⓐ
「ヅ」 「埋める(#uzumeru)」	(士)?uzununⓐ (平)?uzununⓐ

以上述べた貴族・士族の成年男子と平民や女子供との発音の差異は, 中年以下の層では失われていて, 平民風の発音となっている。ただし, 標準語の普及により, 若い層では標準語の sj に対応することが明らかな語については sj の発音もされる。この辞典の本文は, とくに断わらない限り, 貴族・士族の成年男子式の発音に基づいて表記されている。しかし, s, ç, z についてはそのセディーラ(,)を除いて読み, sj については j を除いて読めば平民式発音が得られる。

(6) n

a, e, u, o の前で [n], i の前および nj の場合に [p]。

[標準語との対応] 標準語のナ行の子音は, 首里方言で n に対応するのが普

通である。また、標準語の mj, mij, mi は首里方言でしばしば次のように n に対応する。

「脈(mjaku⁷)」 naaku①~mjaku①

「苗字(mjo⁷ozi)」 noozi①~mjoozi①

nuUN① (機織り用語。「三読み(mijomi)」に対応する)

nuNçikee①~mjUNçikee① (御案内。「みおみ(miomi-)」+「使い(-cukai)」に対応)

nuun① (見る。mii①「見(mi)」と 'uN①「居る」の複合)

nunUN① (飲む。numi①「飲み(no⁷mi)」と 'uN①「居る」の複合)

また、naa①(もう)は「今(#i⁷ma)」に、naada①は「いまだ(#i⁷mada)」に対応する形かと思われる。

(7) r

発音は標準語の r とほぼ同じ。また、rj という結合はない。

[標準語との対応] 標準語の語頭のラ行の子音は、那覇方言では r に対応するが、首里方言では通常 d に対応する。首里方言で語頭を r に発音するのは教養ある貴族・士族の成年男子の発音、文語的な発音、または新しい発音である。

標準語	{ 「楽 (raku ⁷)」	{ 「利 (ri ⁷)」	{ 「蠟 (ro ⁷ o)」	{ 「琉球 (rjuukju ⁷ u)」	{ 「両方 (rjoohoo)」
首里 方言	{ 普 通 の 発 音 daku①	{ dii①	{ doo①	{ duucuu①	{ doohoo①
	{ 土 族 風 ま た は 文 語 的 な 発 音 raku①	{ rii①	{ roo①	{ ruucuu①	{ roohoo①

標準語の語中の「ラ(ra)」「レ(re)」「ル(ru)」「ロ(ro)」の子音は首里方言でも r に対応するのが普通である。

標準語	首里方言	標準語	首里方言
「ラ」	{ 「面(cura ⁷)」 gira①	「ル」	{ 「猿(sa ⁷ ru)」 saaru①
	{ 「皿(sara)」 sara①		{ 「汁(si ⁷ ru)」 siru①
「レ」	{ 「これ(kore)」 kuri①	「ロ」	{ 「泥(doro ⁷)」 duru①
	{ 「切れ(命令)(ki ⁷ re)」 ciri①		{ 「古い(huru ⁷ i)」 hurusAN①

標準語の語中の「リ(ri)」は首里方言で r が脱落して i に、標準語のラ行の「拗音」の rj も、r が脱落して j に対応するのが普通である。

標準語	{ 「針 (ha ⁷ ri)」	{ 「まり (mari ⁷)」	{ 「ふたり (hutari ⁷)」	{ 「鳥 (tori ⁷)」	{ 「森 (mori ⁷)」	{ 「瓜 (#u ⁷ ri)」
-----	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

首里方言 haai① maai① tai① tui① mui①(丘) ?ui①

標準語 「取る(to`ru)」 「取り合わせる(toriawase`ru)」
 首里方言 tujuN① (tui①+'uN①) tujaasjuN①
 ただし、「リ」が標準語で e または i に続く場合は、首里方言でも r が保持される例が多い。

標準語 {「霧(kiri)」
 「桐(kiri)」
 「塵(ciri)」} 「襟(#eri) < あり」 「縁(heri)`」 「滅り(heri)」
 首里方言 ciri① 'wiiri① hwiri① hwiri①

ただし動詞連用形「入り」「切り」などについては文法の項参照。

なお, k, g の項, N の項を参照。

(8) t, d

t は [t], d は [d] である。ともに j とは結び付かない。

〔標準語との対応〕 標準語の「タ(ta)」「テ(te)」「ト(to)」の子音は首里方言で t に、標準語の「ダ(da)」「デ(de)」「ド(do)」の子音は首里方言で d にそれぞれ対応するのが普通である。

	標準語	首里方言	標準語	首里方言	
t	「田(ta)`」	taa①	d	「抱く(daku)」	dacun①
	「手(te)」	tii①		「出来る(deki`ru)」	dikijun①
	「鳥(tori)」	tui①		「泥(doro)`」	duru①

ただし、「竹(take)」は首里方言で daki① となる。

しかし「タ」「テ」「ト」、「ダ」「デ」「ド」の子音が標準語で i に先立たれている場合には、首里方言では口蓋化によって次のように c, z に対応することがある。

	標準語	首里方言
「タ」	「板(#i`ta)」	?ica① ~ ?ita①
	「痛い(#ita`i)」	?icasan① (惜しい)
	「下(sita)」	sica①
「テ」	「御手(mi-+te)`」	'nci①
	「居て(#ite) < みて」	'ici①
	「見て(mi`te)」	'NNci①
	「書いて(ka`ite) < 書いて」	kaci①

	「いとなし(古語)」	ʔicunasasN① (忙しい)
「ト」	「人(hito)」	ʔcu①
	「ひとり(hito`ri)」	cui①
「ダ」	「左(hidari)」	hwizai①
	「乱れ(midare`)」	`Nzari①
「デ」	「出てくいでて」	ʔNziti①
「ド」	「おみ(#omi-)」+「胴(do`o)」に対応	ʔunzu① (あなた)

4 その他の音素

母音音素, 半母音音素, 子音音素のほかに, 次の2個の音素がある。

N, Q

Nはいわゆるはねる音(ン)であり, Qはいわゆるつまる音(ッ)である。Nはʔ, 'hのいずれかとともにモーラをなし, Qはそれだけでモーラをなす。

(1) N

標準語の「ン(N)」とほぼ同様に発音されるが, 標準語の「ン」よりはっそう成節的である⁸⁾。また, 次のように語頭のモーラとなることができる。

ʔNma① (馬) 'Nni① (胸)

また, Nを含むモーラが二つ以上重なる場合もある。

ʔNNDii①(蕉), ʔNN① (うん。親しい同等・目下への肯定・承諾の返事)・

'NNZuN①(見る), 'NNN`N① (ううん。親しい同等・目下への否定・拒絶の返事)

④ ʔN

ʔNまたはʔNNに続くことのできる音素は閉鎖を伴う有声の子音音素に限られる。すなわち m, n, b, d, z, g の6個である。

[標準語との対応] 標準語で「マ・ナ・バ・ダ・ガ」の各行に先立つ語頭の「イ(#i)」「ウ(#u)」は首里方言でʔNに対応することが多い。

マ行の前	{ 標準語 「いも(#imo)`」「馬(#u`ma)`」「臍(#umi)`」「梅(#ume)」 首里方言 ʔNmu① ʔNma① ʔNmi① ʔNmi①
ナ行の前	{ 標準語 「稲(#i`ne)」 「うなぎ(#unagi)」 「うなじ(#unazi)」 首里方言 ʔNni① ʔNnazi① ʔNnazi①①

バ行の前	{	標準語	「産湯(#ubuju)」 「奪う(#uba`u)」
		首里方言	?Nbujuu① ?Nbijun① (文語。口語はboojun①)
ダ行の前	{	標準語	「いでて(文語)(#idete)」
		首里方言	?Nziti①
ガ行の前	{	標準語	「動く(#ugo`ku)」 (またはその方言 #igoku)
		首里方言	?Nzucun①

ただし、?Nbiijun①(「おびえる(#obie`ru)」に対応)、?Nbusan①(「重い(#o-moi)」に対応)の二語では ?N が「オ」に対応している。

④ 'N

?N の場合と異なり、どの子音音素の前にも立ちあがる。

[標準語との対応] 標準語の漢字音に含まれる「ン」は 'N (ただし ' は語中では表記しない) に対応する。

「天(te`N)」 tin①, 「三年(sannen)」 sannin①

標準語で母音、半母音以外の音に先立つ語頭の「ミ(mi)」 「ム(mu)」は、次のモーラに母音 i, u を含まないとき、首里方言では多く 'N に対応する。

	標準語	首里方言
「ミ」	「御衣(みそ)(古語)」	'Nsu①
	「味噌(mi`so)」	'Nsu①
	「皆(mina`)	'Nna①
	「見て(mi`te)」	'Nnci①
	「御(mi-) + 鼻(hana)」	'Npana①
	「編笠(#amiga`sa)」	?anzasa①
「ム」	「胸(mune`)	'Nni①
	「空(muna-)」	'Nna-
	「向かう(mukau)」	'NkajuN①
	「むかで(mukade)」	'Nkazi①
	「昔(mukasi)」	'Nkasi①

ただし、「婿(mu`ko)」 muuku①, 「村(mura`)

mura① など例外もある。

標準語で次のモーラに母音 i, u を含む場合には、首里方言でもそのまま mi, mu に対応することが多い。

「ミ」	標準語	「道(mici)」	「耳(mimi ⁷)」	「水(mizu)」
	首里方言	mici①	mimi①	miʒi①
「ム」	標準語	「虫(musi)」	「麦(mu ⁷ gi)」	「むつかしい(mucukasi ⁷ i)」
	首里方言	musi①	muzi①	muçikasjan①

標準語の語末の「ミ」は、2モーラの場合、首里方言でも mi となる 경우가多く、3モーラ以上だと 'N (N と書く) となる場合が多いようである。

「ミ」	標準語	（「蚤」	「耳」	「墨」	「波」	「海」	「神」
		(nomi ⁷	mimi ⁷	sumi ⁷	nam ⁷ i	#u ⁷ mi	ka ⁷ mi
	首里方言	numi①	mimi①	ʒimi①	nam ⁷ i①	ʔumi①	kami①
「ミ」	標準語	（「鏡」	「しらみ」	「暗隅(九州方言)」	「御」+「神」		
		(kagami ⁷	sirami	kurasumi	mi-ka ⁷ mi		
	首里方言	kagan①	siran①	kurasiN①	'Ncan①		

(ただし「君(kimi)」は ciN①~cimi① となる。)

標準語の「ニ(ni)」「ヌ(nu)」もときに 'N に対応することがある。

	標準語	首里方言
「ニ」	「にがい(niga ⁷ i)」	'Nzasan①
「ヌ」	「衣(ki ⁷ nu)」	ciN①
	「犬(#inu ⁷)」	ʔiN①

標準語の「ラ・レ・ロ・ル」に先立つ「ビ(bi)」「ブ(bu)」「グ(gu)」「ズ(ず, づ)(zu)」などは次のように首里方言で 'N に対応することがある。

「くびる(kubiru 九州方言)」kunzun①, 「油(#abura)」ʔanda①, 「かぶる(kabu⁷ru)」kanzun①, 「めぐらす(megura⁷su)」mingwasjun①, 「夕間暮れ(juuma⁷gure)」'jumangwi①, 「かずら(kazura) < かづら > kanda①, 「はずれる(hazure⁷ru) < はづれる > handijun①

④ hN

hN という結びつきは感動詞の hNN① (うん), hNN① (ふん) の二語しかなく、例外的なものである。

(2) Q

標準語のつまる音(ッ)とはほぼ同じに発音されるが、いっそう成節的である。語末に立つことはなく、また、Q に続くことのできる音素は k, p, s, ʒ, c, ɟ, t のみで、標準語同様、有声音は続くことができない。

ʔaQkan① (歩かない), ʔaQpi① (あれだけ), 'waQsan① (悪い), ʔiQʃin① (1寸), ʔaQeun① (歩く), kaQʃikanun① (ひつつかむ), 'uQti① (おととい)
 また、次のように語頭にも立つことができる。

Qkwa① (子。「子等」に対応?)⁶⁾, Qeu① (人。「人(hito)」に対応), Qsa① (しよう),
 Qsi① (しろ, せよ), Qsi① (して。「して(site)」に対応), Qc:① (来て。「来て(kite)」に対応)

ただし語頭に Q の立つ例は以上で全部である。3 モーラ以上の例は上の語を成分とする複合語 (QcubaQpee① 「人違い」など), 上の語に助詞の付いた形 (Qcoo① 「人は」など) のほかに例がない。

〔標準語との対応〕 標準語の漢字音に含まれる「つまる音(っ)」はふつう Q に対応する。

「一杯(#iQpai)」 ʔiQpee① (非常に), 「鉄砲(teQpoo)」 tiQpuu①
 他の場合は繁雑なので省略。なお k の項参照。

5 例外的な発音

音素体系の例外をなすものとしては、これまでに述べた ʔm, hN のほかに、次のような応答, 呼び掛けの感動詞に限って現われる鼻音化現象がある。

	はい(肯定・承諾)	はい(呼ばれたときの返事)	いいえ(否定・拒絶)	さあ(呼び掛け)
目下の年長へ	ʔoo① [ʔōːō]	hoo① [hōō]	'oooːo① [ōōōːō]	'oohoo① [ōōhōō]
目下・親しい同等へ	ʔii① [ʔiːi]	hii① [çiːi]	'iiiːi① [iːiːiːi]	'iihii① [iːiçiːi]

これらの 8 語はいずれも普通は鼻音化して発音され, もし鼻音化しないと, ぶっきらぼうな, または乱暴な印象を与える。

6 モーラ(短音節)の種類

以上に述べた各音素の組み合わせによってできる首里方言のすべてのモーラ(短音節)を一覧表にすれば, 次のページの表となる。[] で示したものはそのモーラが語頭に用いられた場合の国際音声表記である。その下の仮名は島袋盛敏氏が稿本で用いた仮名表記である。

hi	he	ha	ho	hu	hja	hjo	hju
[çi]	[he]	[ha]	[ho]	[Φu]	[ça]	[ço]	[çu]
ヒ	ヘ	ハ	ホ	フ	ヒヤ	ヒョ	ヒユ

hwi	hwe	hwa	hN
[Φi]	[Φe]	[Φa]	[nŋ] ~ [Nŋ]
フイ	フエ	フワ	

ʔi	ʔe	ʔa	ʔo	ʔu	ʔja	ʔjo	ʔju
[ʔi]	[ʔe]	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ʔja]	[ʔjo]	[ʔju]
イ	イェ	ア	オ	ウ	イヤ	イョ	イユ

ʔwi	ʔwe	ʔwa	ʔN	ʔme
[ʔwi]	[ʔwe]	[ʔwa]	[ʔm] ~ [ʔŋ] ~ [ʔŋ]	[ʔme]
ウキ	ウエ	ウワ	ム	メ

i	e	(a)	o	u	ja	jo	ju
[ji]~[i]	[je]	[a]	[o]	[wu]~[u]	[ja]	[jo]	[ju]
キ	エ		ヲ	ヲウ	ヤ	ヨ	ユ
(キ)	(エ)	(ア)	(ヲ)	(ヲウ)			

'wi	'we	'wa	'N
[wi]	[we]	[wa]	[m] ~ [ŋ] ~ [ŋ]
エイ	エ	ワ	ン ~ [ŋ]
(エイ ウイ)	(エ ウエ)		(ン)

ki	ke	ka	ko	ku
[ki]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]
キ	ケ	カ	コ	ク

kwi	kwe	kwa
[kwi]	[kwe]	[kwa]
クキ	クエ	クワ

gi	ge	ga	go	gu
[gi]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]
ギ	ゲ	ガ	ゴ	グ

gwi	gwe	gwa
[gwi]	[gwe]	[gwa]
グキ	グエ	グワ

pi	pe	pa	po	pu	(pja)	(pju)
[pi]	[pe]	[pa]	[po]	[pu]	[pja]	[pju]
ピ	ペ	パ	ポ	プ	ピヤ	ピユ

bi	be	ba	bo	bu	(bjja)	(bjjo)	(bjju)
[bi]	[be]	[ba]	[bo]	[bu]	[bjja]	[bjjo]	[bjju]
ビ	ベ	バ	ボ	ブ	ビヤ	ビョ	ビユ

mi	me	ma	mo	mu	mja	mjo	mju
[mi]	[me]	[ma]	[mo]	[mu]	[mja]	[mjo]	[mju]
ミ	メ	マ	モ	ム	ミヤ	ミョ	ミユ

si	se	sa	so	su	sjā	sjō	sjū
[ʃi]	[ʃe]	[sa]	[so]	[su]	[ʃa]	[ʃo]	[ʃu]
シ	シエ	サ	ソ	ス	シヤ	シヨ	シユ

ʃi	ʃe
[ʃi]~[ʃi]	[ʃe]
スイ	セ

ci	ce	ca	co	cu
[tʃi]	[tʃe]	[tʃa]	[tʃo]	[tʃu]
チ	チエ	チャ	チヨ	チユ

ci	(ce)	(ca)	co	cu
[tʃi]~[tʃi]	[tʃe]	[tʃa]	[tʃo]	[tʃu]
ツイ				ツ

zi	ze	za	zo	zu
[dʒi]	[dʒe]	[dʒa]	[dʒo]	[dʒu]
ジ	ジエ	ジャ	ジヨ	ジユ
ヂ	ヂエ	ヂャ	ヂヨ	ヂユ

zi	ze	za	zo	zu
[dʒi]~[dʒi]	[dʒe]	[dʒa]	[dʒo]	[dʒu]
ツイ	ゼ	ザ	ゾ	ズ・ツ

ni	ne	na	no	nu	nja	nju
[ni]	[ne]	[na]	[no]	[nu]	[nja]	[nju]
ニ	ネ	ナ	ノ	ヌ	ニヤ	ニユ

ri	re	ra	ro	ru
[ri]	[re]	[ra]	[ro]	[ru]
リ	レ	ラ	ロ	ル

ti	te	ta	to	tu
[ti]	[te]	[ta]	[to]	[tu]
テイ	テ	タ	ト	トゥ

di	de	da	do	du
[di]	[de]	[da]	[do]	[du]
デイ	デ	ダ	ド	ドゥ

Q
[ʃ][ʃ][k]
ッシ (Qsi), <ワ (Qkwa), ちユ (Qcu)

前のページのうち、太い線で囲んだ部分は貴族・士族の成年男子のみが用いるものである。また、音素表記を()でくくったものは、そのモーラが語頭に用いられる例が見いだされないことを示す。また、島袋氏の仮名表記には、語頭と語頭以外とで違った表記がなされている場合があるが、その場合は語頭以外の場合を()に入れて示してある。()の中に二種以上の表記のあるものは、そのモーラが語頭以外で二種以上の表記がなされていたことを示す。島袋氏の仮名表記は、'の系列やzとzの系列などにわずかな不統一があるほかは、不便な仮名によって各モーラをたくみに表記し分けたものである。島袋氏の稿本にそのモーラを含む語がなかった場合には、島袋氏の表記の欄が空欄になっている。

なお、これらのモーラを含む語例については、本文篇凡例、本文篇を参照。

7 文語の伝統的表記法

組踊り、琉歌などは沖縄独特の漢字仮名まじり文で表記されている。その表記法はそれを読む場合の発音と大きく食い違っており、ためにこれら沖縄文学は本土の人々に読みにくいものとなってしまっている。この辞典にも、その表記によって組踊り、琉歌などを引用しているので、その表記法についてもここで簡単に触れておきたい。

先にも述べたように、「おもろさうし」は変体仮名を含む平仮名で書かれ、漢字はほんの少ししか用いられていない。これは島津の琉球入り以前から成立していた表記法で、当時の発音と表記との関係はまだ充分明らかになっていない。組踊りや琉歌の表記も、「おもろさうし」式の表記を大体受け継いでいるが、「おもろさうし」のそれに比べると、標準語文語の知識に支えられている点がいっそう多く、漢字もかなり多く用いられているし、仮名の使い方も、発音との関係がはっきりしている。そして組踊り、琉歌を通じて大体固定化しており、今日でも琉歌を表記する場合などにしばしば用いられている。仮名は、一定の慣用的規則によって方言音を表わして使い分けられている。伊波普猷氏が「琉球戯曲集」の序文に、組踊りの仮名の使い方を実際の発音と対照させた一覧表を掲げているので、ここではその発音の表記をこの辞典に使用した音素表記に改めて、さきにあげたモーラの一覧表に準じて配列したものを次に掲げることとする。

hi ひへ	hee はいえへ	ha は	hoo ほう	hu ふほ	hja ひや	hjoo ひやう	hju ひゆよ	hwi ひへ	hwee はいえへ	hwa は
?i いえ	?ee あいえ	?a あ	?oo あうお	?u うお	?ja いや	?joo いやう	?ju いゆう	?wi ういへお	?wee おや	?wa うわお
'i ゐ	'ee え		'oo わう	'u を	'ja や	'joo やう	'ju ゆよ	'wi ゐ	'wee わい	'wa わ
ki きけ	kee かいかえ	ka か	koo かう	ku くこ				kwi くゐ	kwee くわい	kwa くわ
gi ぎげ	gee がいがえ	ga が	goo がう	gu ぐこ				gwi ぐゐ	gwee ぐわい	gwa ぐわ
pi ぴべ	pee ぱい	pa ぱ	poo ぱう	pu ぷほ	pja ぴや	pjoo ぴやう	pju ぴゆべう			
bi びべ	bee ばいへ	ba ば	boo ばう	bu ぶほ	bja びや	bjoo びやう	bju びゆべう			
mi みめ	mee まいへ	ma ま	moo まう	mu むも	mja みや	mjoo みやう	mju みゆみお			
si しせ	see しやい	sa さ	soo さう	su すそ	sja しや	sjoo しやう	sju しゆしよ			
si す	see せいへ									
ci ちや	cee ちやい	ca ちや	coo ちやう	cu ちゆよ						

çi つ	çee つあい	ça つあ	çoo つあう	çu つ			
zi じ ぢ ぢぎ	zee じやい ぢやい ぢぎやい	za じや ぢや ぢぎ	zoo じやう ぢやう ぢぎやう	zu じゆよ ぢゆよ ぢぎよ			
zi ず	zee ざい	za ざ	zoo ざう	zu ぞ			
ni に (nyi) ね (ni)	nee にやい (nyê) ない (nê)	na な	noo なう	nu ぬ の	nja にや	njoo にやう	nju にゆ によ
ri れ り	ree らい	ra ら	roo らう	ru る ろ	rja りや	rjoo りやう	rju りゆ りよ
ti て	tee たい	ta た	too たう	tu と			
di で	dee だい	da だ	doo だう	du ど			

ただし、このもとの表がどの程度精密な調査によったものかは明らかでない。また、この表には「はねる音(?Nと'N)」と「つまる音(Q)」がないが、?Nは「い」または「う」、'Nは「ん」「ぬ」「む」「も」、Qは「つ」のように表記されるのが普通のようなのである。また、表中の rja, rjoo, rju は口語にはないものである。伊波普猷はまた、このもとの表で本土方言の「ニ(ni)」に対応する「に」をnyi, 本土方言の「ネ(ne)」に対応する「ね」をni, また「にやい」をnyê, 「ない」をnêのように表記し分けられているが、現代の首里方言には、文語を読む場合にもこのような区別はなく、「ね」「に」はともにni⁹⁾, 「にやい」「ない」はともにneeである。

漢字は、本土方言の場合と同様に用いられるほか、沖縄独自の語を表わすために、表音的または表意的な慣用字として組踊り・琉歌などの中に限らず、和文の文書などの中にも多く用いられる。

〔親雲上〕 peeciN①(位階名)

〔按 司〕 ?azi①~?anzi①

〔宮童・美童〕 mijarabi①(おとめ。「女童」に対応。)

[加那志] -ganasi(敬愛の意を表わす接尾辞)

[小] -gwaa(東北諸方言の「こ」に似た接尾辞。<Qkwa①子)

[美] mi-~'N-(敬語の接頭辞。「御(み)」に対応。) [城] guşikū①(城)

[無蔵] 'Nzo①(愛人。男から女をいう。文語)

慣用字のもっとも多いものは地名¹⁰⁾と人名(ことに姓)であり、これらの大部分は本土方言の人には読むことができない。たとえば次のようなものである。

[喜屋武]can① [宜野湾]zinoon① [仲村渠]nakan dakari①

[保栄茂]bin① [国頭]kunzan① [今帰仁]nacizin①

8 アクセント

首里方言のアクセントは平板型と下降型の二つに分かれる。音韻表記の末尾に平板型を②で、下降型を①で示す。アクセントは単語ごとに定まっているが、アクセントの単位をなすものはいわゆる「文節」である。

平板型のアクセントを持つ単語は、はじめ中程度のあるいはやや低い高さで始まり、終わりまで大体同じ高さが続く。

?aa②[?a:](泡), ?ami②[?ami](雨), sjumuçi②[?sumutsi](本), sutumiti②[?sutumiti](朝)

下降型のアクセントを持つ単語は平板型の単語よりも高く始まり、かつ第1モーラは第2モーラ以下と比べてやや強く発音される。そして2モーラの単語の場合には第1モーラだけが高く、第2モーラは低い。

kaa①[ka:](井戸。「川」に対応), hana①[ha`na](鼻)

3モーラ以上の下降型の単語では、通常第2モーラまでが高く、以下のモーラは低く終わりまで平らに続く。

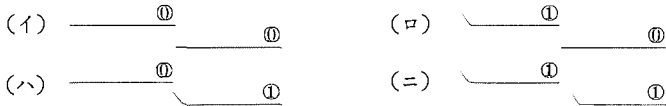
tubun①[tubu`N](飛ぶ), nacigwii①[nat`ji`gwi:](泣き声), ?Nmaridusi①[?mma`ricufi](十二支の上の生まれた年)

しかし、第2モーラが'と母音音素からなる場合、および第2モーラが'Nである場合には第2モーラも低くなる傾向があり、とくに第1・第2モーラがいわゆる「長母音」となる場合にはその傾向が著しい。

taaçi①[ta`tsi](二つ), naasati①[na`sati](翌々日)

首里方言のアクセントには、不完全ながら文節の切れ目を認知させるための機能

も認められる。すなわち、文中にあって後の文節は前の文節よりも全体として低く発音される傾向がある。すなわち、二つの文節が続く場合、それらが平板型であるか下降型であるかによって四通りの組み合わせができるが、比嘉春潮氏の発音によってそれぞれを図式的に示すと次のようになる。¹¹⁾



首里方言では平板型の単語の方が下降型の単語に比してずっと多いので、この四つのうち(イ)の組み合わせが一番多い。平板型の文節が続く場合には、文節はつぎのように段階状に下降する。



また、平板型の文節は末尾のモーラがやや上昇する場合があるが、その場合、平板型の連続は下のようになり、やはり文節の認知に役立つ。



首里方言ではすべての文節が平板型、下降型のいずれかに属するが、一部の複合語および、種々の助詞や接尾形式のついたものの中には、次のように二次的な下降をもつものがある。その下降を´によって示す。

ʔuukuba`a①(奥歯) ʔjumanta`N①(読まなかった)
 muujaba`aja①(家の中央部の柱) ʔwaacimiʃe`eN①(お歩きになる)
 tuimudusju`N①(取り戻す) kagusimama`di①(鹿児島まで)

しかし、下降型の単語の場合には、初めの下降が著しいために二次的な下降はあまり目立たず気づきにくい。また、長い単語の場合、二次的な下降が二つ認められる場合があるが、その場合も一方がさして目立たず気づきにくい。

ʔjudoote`era`a①(読んでいたのなら)
 ʔjudeeta`nte`eN①(読んであったところで)

また、平板型の二つの形式が結合して複合語となる場合、その複合語も多くは平板型となるが、二つの結合度が弱い場合に、たとえば次のように二次的な下降がその継ぎ目に現われることがある。

taruu①(太郎)+sjumuçi①(本) taruu`sjumuçi①(太郎の本)

その場合、前の形式が2モーラであると、その複合語は○○´○○○…のような

形となり、下降型アクセントを持つ形式と型がほぼ同じになる。しかし、前の形式がいわゆる長母音の場合でも二次的下降は第2モーラのあとで起こる場合があるので、その場合は、いわゆる長母音で始まる下降型の単語とは下降の場所が異なる。

nuu^hsigutuⓄ(何の仕事), 'ii^hkaNgeeⓄ(いい考え)

この辞典の見出し語にアクセントを記入した時にはこの事実に関心できなかったもので、このような場合の本文見出し語のアクセントの記入には、一部ではあるが、不十分な箇所があるように思われる。しかし一般に、首里方言の複合語のアクセントは、その第1成分が平板型である場合にはいつも平板型となるから、本文見出し語に、第1成分(2モーラ)が自立語として用いられた場合に平板型であるのにその複合語が下降型と記されているものがあれば、それはこの種の二次的下降をもつ平板型と見なすことができる。

〔標準語との対応〕 琉球諸方言のアクセントの型の統合のしかたは、全体として九州諸方言のそれに似ている。うち、首里方言のそれは、九州西南部の二型アクセントのそれと似かよった面がある。金田一春彦博士の類別法に従って「一音節」および「二音節」の名詞について示せば次のようになる。()の中は東京方言のアクセントによる標準語。

下降型	「一音節名詞」 「二音節名詞」	{ 1類 「血(cí)cíiⓄ, 「帆(ho)jhuuⓄなど。 2類 「名(na)naaⓄ, 「葉(ha)jhwaáⓄなど。 1類 「鼻(hana)jhanaⓄ, 「風(kaze)jkaziⓄなど。 2類 「音(#oto ^h)j ^h utuⓄ, 「橋(hasi ^h)jhasiⓄなど。
平板型	「二音節名詞」	3類 「花(hana ^h)jhanaⓄ, 「耳(mimi ^h)jmimiⓄなど。
		4類 「息(#i ^h ki)j ^h iiciⓄ, 「今日(kjo ^h o)jcuuⓄなど。
		5類 「桶(#o ^h ke)j ^h uukiⓄ, 「声(ko ^h e)jkwiíⓄなど。

注目すべき現象として「二音節」名詞の4類・5類に属する単語のうち一群のものが、その「第一音節」が長くなることがあげられる。

4類 「息(#i^hki)j^hiiciⓄ, 「糸(#i^hto)j^hiicuⓄ(絹)~j^hiicuuⓄ(糸), 「奥(#o^hku)j^huukuⓄ, 「帯(#o^hbi)j^huubiⓄ, 「空(so^hra)に対応?j^hsuuraⓄ(先.梢), 「中(na^hka)jnaakaⓄ, 「箸(ha^hsi)jhaasiⓄ, 「臼(#u^hsu)j^huuusiⓄ, 「松(ma^hcu)j^hmaaciⓄ など。

5類 「影(ka'ge)」kaagi①(ただし kazi① という形もある), 「猿(sa'ru)」saaru①, 「婿(mu'ko)」muuku①, 「桶(#o'ke)」'uuki①, 「蛇(he'bi)に対応?」hwiibu①(蛇) など。

しかし、同じ4類・5類であっても、次のように長音化しない語もある。

4類 「跡(#a'to)」?atu①, 「粟(#a'wa)」?awa①, 「稻(#i'ne)」?nni①, 「海(#u'mi)」?umi①, 「笠(ka'sa)」kasa①, 「糟(ka'su)」kaši①, 「今日(kjo'o)」cuu①, 「汁(si'ru)」siru①, 「下駄(geta)」zita①(足駄), 「筋(su'zi)」šizi①, 「銭(ze'ni)」zini①, 「種(ta'ne)」tani①(男根), 「苗(na'e)」nee① など。

5類 「汗(#a'se)」?asi①, 「雨(#a'me)」?ami①, 「蔭(ka'ge)」kazi①(ただし kaagi① という形もある), 「琴(ko'to)」kutuu①, 「露(cu'ju)」çiju①, 「春(ha'ru)」hwaru①(ただし文語), 「鶴(cu'ru)」çiru①, 「秋(#a'ki)」?aci①(ただし文語)など。

注

1) 「編集経過の概要」に記したように、首里方言の音素体系を研究するに際しては、服部四郎博士の指導を受けた。したがって、ここに述べるものも、博士の「琉球語」(「世界言語概説」下巻1955)の記述を基礎にしている。

2) 以下単に「標準語」という場合には、東京方言の話し手によって発音された場合のそれをいう。なお、対応形としてあげる標準語は「」に入れて示し、さらに「」に入れて標準語の音素表記とアクセント(の下がり核)を示す。(本土の他の方言や文語を対応語としてあげる場合はアクセントを示さない。)標準語の音素表記中、#は語頭のゼロ子音音素を示す。また、標準語の音素表記と首里方言のそれとでは、c, s, zの場合に違ひ音声を表わす場合があることに注意。すなわち、標準語の「ツ(cu)」 「チャ(cja)」 「チュ(cju)」 「チョ(cjo)」 「セ(se)」 「ズ(zu)」 「ジャ(zja)」 「ジュ(zju)」 「ジョ(zjo)」 と近似の音をもつ首里方言のモーラは、それぞれ、çu, ca, cu, co, şe, zu, za, zu, zo のように記される(子音音素 c, s, z; ç, ş, z の項参照)。

また、標準語の動詞・形容詞の「終止形」を対応語としてあげてある場合、その語尾の部分はふつうそのまま首里方言に対応しない(文法の項参照)。しかし、とくに必要な場合を除き、いちいちそのことを断わらない。

3) 「」でくくってあるローマ字母による表記は音声表記。その他のローマ字母表記はすべて音素表記である。

4) 声門破裂音[ʔ]とは、喉頭にある声門を一たん閉じておいてから急激に開く時に発する音である。咳のはじめの音や、便所でいきむ時の音は強い声門破裂音である。また、口を大きくあけておいたまま息を止めることができるのは、声門が閉ざされるからである。

- 5) ただし、琉球方言の中には、名瀬方言などの奄美大島北部方言のように、
 [ʔma](馬), [ʔni](稲)のような語があって、鼻音が声門破裂音をもつかどうかによって別の子音音素となる方言もある。このような方言では

$\mu([\ʔm]) : m([m])$

$\nu([\ʔn] \sim [\ʔɲ]) : n([n] \sim [ɲ])$

のような音韻的対立があると考えられる。

- 6) 村山七郎氏が「日本語の比較研究から」(「国語学」47号)でこの語に関して述べられた箇所を上村の言として「日本語のoに対応する琉球語のuの後ろに立つrが消滅する確実な例は1つもない」と記されているが、これは村山氏と上村とが電話で話をしたため、話を通じなかったものであり、「本土方言のkor-に琉球方言でkw-が対応する確実な例を上村は知らない」の意であった。したがって、首里方言のqkwa①(宮古島東仲宗根方言では[ffa], 奄美大島諸鈍方言では[k'waː], 喜界島阿伝方言では[k'a]となる)と本土方言のkoraとの対応の可能性は充分考えられるが、まだ証明されたとは言えない。なお、語中のrに関しては、子音音素rの項の説明にある通りである。
- 7) 鳥袋盛敏氏の発音ではsの場合が多く、比嘉春潮氏の発音ではʃの場合が多いようである。
- 8) すなわち、標準語と同様、後続の音によって調音位置が異なる。ʔNmi①(梅)[m̥mi], 'Nna①(皆)[ɲna], 'Nkasi①(昔)[ɲkasi]など。ただし、服部博士は、このNはふつう同時に[N]の調音も伴うようだと述べている(琉球語「世界言語概説」下巻1955)。
- 9) 首里方言では、標準語の「ネ」「ニ」に対応する音はともにni([ɲi], ただしnの口蓋化の程度は標準語のそれに比してやや少ないように思われる)であり、両者は区別されない。しかし、たとえば喜界島阿伝方言では「ネ」は[ni], 「ニ」は[ɲi]であり、両者の区別が保たれている。首里方言でも一時代前までこれと同じような仕方で両者の区別がなされたのかもしれない。
- 10) 付録の地名一覧を参照。
- 11) ただし、前の「文節」があとの「文節」に直接統合される場合など、二つの「文節」が文論上近い関係にある場合に限る。長い文の中で二つの文節の間に大きな文論上の切れ目がある場合はこの限りでなく、またそのことが長い文の中で文節と文節との関係を示すのに役立つ。

IV 首里方言の文法¹⁾

以下に文法として述べることは、辞典を利用するために必要な限りの動詞・形容詞・連詞の形態論的な構造にとどめる。

1 動詞

(1) 動詞の活用

① 規則動詞

動詞の活用形の例として、たとえば動作性の意志動詞の中から 'junuN①「読む」について「…する(肯定普通態現在の「終止形」)」という形と、「…しない(否定普通態現在の「終止形」)」および「…して(普通態の「分詞」)」という形とをあげると、次のようになる。

'junuN① (読む), 'jumaN① (読まない), 'judi① (読んで)

首里方言の動詞の諸種の活用形や派生形式は、不規則動詞を除き、この三つの形を知ればそれから類推することができる。したがって、本文の規則動詞の見出し語にはこの三つの形だけを示した。たとえば、

'ju=nuN① (他 =maN, =di)

とあるのは、この三つの形が 'junuN①, 'jumaN①, 'judi① であることを示す。

この三つの形に含まれている 'jun-, 'jum-, 'jud- を語幹と呼ぶことにし、服部四郎博士に従って 'jun- を連用語幹, 'jum- を基本語幹, 'jud- を音便語幹と呼ぶことにする²⁾。この三つの語幹は末尾の子音が n, m, d のように交替している。

つぎに、'junuN①にならって首里方言の規則動詞のすべての型について「…する」「…しない」「…して」の三つの形と、ほかに「…し(いわゆる「連用形」)」とをあげると次のようになり、首里方言には次の14種類の規則動詞が認められることになる。語幹末の交替する部分をゴチックで示す。

	「…する(肯定普通態現在の「終止形」)」	「…し(肯定普通態の「連用形」)」	「…しない(否定普通態現在の「終止形」)」	「…して(肯定普通態の「分詞」)」
(i) イ.	tujUN① (取る)	tui① (取り)	turan① (取らない)	tuti① (取って)
ロ.	?ukijUN① (起きる)	?ukii① (起き)	?ukiran① (起きない)	?ukiti① (起きて)
ハ.	?ukijUN① (受ける)	?ukii① (受け)	?ukiran① (受けない)	?ukiti① (受けて)
ニ.	koojUN① (買う)	kooi① (買い)	kooran① (買わない)	kooti① (買って)
(ii)	'warajUN① (笑う)	'waree~'warai① (笑い)	'wara ^o an① (笑わない)	'warati① (笑って)
(iii)	kaNzUN① (かぶる)	kaNzi① (かぶり)	kaNdan① (かぶらない)	kaNti① (かぶって)
(iv)	kacUN① (書く)	kaci① (書き)	kakan① (書かない)	kaei① (書いて)
(v)	nasjUN① (産む)	nasi① (産み)	nasan① (産まない)	naei① (産んで)
(vi)	kunzUN① (くびる)	kunzi① (くびり)	kundan① (くびらない)	kuncei① (くびって)
(vii)	cijUN① (着る)	cii① (着)	ciran① (着ない)	cici① (着て)
(viii)	tubUN① (飛ぶ)	tubi① (飛び)	tuban① (飛ばない)	tudi① (飛んで)
(ix)	'junUN① (読む)	'jumi① (読み)	'juman① (読まない)	'judi① (読んで)
(x)	?wiizUN① (泳ぐ)	?wiizi① (泳ぎ)	?wiigan① (泳がない)	?wiizi① (泳いで)
(xi)	?irijUN① (入れる)	?irii① (入れ)	?iriran① (入れない)	?iqti① (入れて)
(xii)	'jumarijUN① (読める)	'jumarii① (読め)	'jumaran① (読めない)	'jumaqti① (読めて)
(xiii)	tacUN① (立つ)	taci① (立ち)	tatan① (立たない)	taqci① (立って)
(xiv) イ.	cijUN① (切る)	cii① (切り)	ciran① (切らない)	cici① (切って)
ロ.	?ijUN① (射る)	?ii① (射)	?iran① (射ない)	?iqci① (射て)

それぞれの種類の、標準語文語との対応およびその種類に属する動詞の例をあげれば次のようである。

- (i) イ. ラ行四段の大部分。?atajUN①(「当る」), keejUN①(「返る」) など。
 ロ. 上二段の大部分。?wiijUN①(「老ゆ」), ?izijUN①(「過ぐ」) など。
 ハ. 下二段の大部分。meejUN①(「燃ゆ」), tatiJUN①(「立つ」), 'iijUN①

(もらう。「得」に対応) など。

ニ、ハ行四段のうち、語幹末に a を有するものの一部。moojun①(「舞ふ」), hoojun①(「這ふ」), ʔoojun①(「戦う」。「合ふ」に対応), noojun①(「縫う」。「縋ふ」に対応?), boojun①(「奪ふ」) など。音便語幹からの類推によって生じた種類である。

(ii) ハ行四段のうち、語幹末に a を有するものの一部。narajun①(「習ふ」), cikajun①(「使ふ」) など。ただし、この種類に属する語は、人によって「…しない」の形が nararan①(「習わない」) などのように(i)の型となる場合がある。

(iii) ラ行四段のうち、語幹末に bu などをも有するもの。ʔanzun①(「炙る」), ʔanjzun①(「そこなう」。「破る」に対応), ninzun①(「眠る」) など。

(iv) カ行四段。ʔaqcun①(「歩く」), cicun①(「聞く」), hwicun①(「引く」) など。

(v) サ行四段。ʔnzasjun①(「出す」), noosjun①(「直す」), toosjun①(「倒す」) など。

(vi) ラ行四段のうち、語幹末に bi などをも有するもの。不規則動詞 ʔnnzun①(「見る」) もこれに近い。

(vii) 上一段の大部分。nijun①(「似る」), nijun①(「煮る」), ʔijun①(「坐(ゐ)る」) など。

(viii) バ行四段。ʔjubun①(「呼ぶ」), ʔaʃibun①(「遊ぶ」), kurubun①(「転ぶ」) など。

(ix) マ行四段。nunun①(「飲む」), ʔuganun①(「拝む」), ʔjanun①(「病む」) など。

(x) ガ行四段。kuuzun①(「漕ぐ」), ʔisuzun①(「急ぐ」), ʔizun①(「継ぐ」) など。

(xi) ほかに、hwirijun①(「捨る」)。また受身動詞。たとえば ʔjumarijun①(「読まる」), ʔutarijun①(「打たる」), ʔjubarijun①(「呼ばれる」) など。

(xii) 規則的に作られる可能動詞。たとえば tatarijun①(「立たる」), kakarijun①(「書かる」), ʔwaraarijun①(「笑はる」) など。

(xiii) タ行四段。ʔucun①(「打つ」), macun①(「待つ」), mucun①(「持つ」) など。

(xiv)イ。標準語で2モーラのラ行四段で、その語幹にiを有するもの。ʔijun①(「入る」自動詞), ʔijun①(「要る」), sijun①(「知る」)など。

ロ。上一段の一部。ほかに hwijun①(「干る」), 下一段の kijun①(「蹴る」)。ただしこの kijun① は(i)ロの種類を活用もする。

なお、これらのうち「…する」の形が ijun で終わっているもの、すなわち、(i)ロ, (i)ハ, (ii), (vii), (xi), (xiv)イ, (xiv)ロの各種は、「…する」の形を iin で終わることもできる。すなわち, ʔukiin①(「起く」), ʔukiin①(「受く」), ciin①(「着る」), ʔiriiin①(「入る」他動詞), ʔjumariiin①(「読まれる」), ciin①(「切る」), ʔiin①(「射る」)などのようにもいう。また, (ix)の「…する」の形は首里周辺には nun で終わるかわりに ʔjumun①(「読む」)のように mun で終わることもあり、首里では、古風な形としては ʔjumjun①ということもある。

② 動詞のいろいろな形

次に ʔjunun① を例として、各語幹と「連用形」から作られるいろいろな形を一覧表にして示す。なお、その中には ʔun①(いる)との複合によるものがあるが、その ʔun① の語幹までが含まれている形を融合語幹と呼ぶことにする。

一覧表のうちゴチックで示してあるものは、その形がさらにいろいろに活用することを示す。矢印によって、その形について解説してある章節の番号を示してある。普通の活字で示してあるものは、ʔjunun① の肯定普通態現在に属する形(→(2)①)である。肯定普通態現在のいろいろな形を代表するものは、その「終止形」(ʔjunun①ならば ʔjunun① がそれ)である。なお、アクセントはこの場合すべて①なのでいちいち記さない。

この ʔjunun① の一覧表から、他の規則動詞についても類推によって同様な形を作ることができる。

基本語幹から	ʔjum-	{ -aN(読まない)→(2)⑦⑧ -arijun ³ (読まれる)→(3)⑥ -arijun ³ (読める)→(3)⑥ }	ʔjum-	{ -asjun ³ (読ませる)→(3)⑦ -a (読もう) -a'ii(読もうよ) -ana(読みたいな) }
--------	-------	---	-------	--

- 'jum-
- ajumaa(読もう読もうと)
 - aa(-awa)(読んだら)
 - ee(読めば)
 - ee 'jaa①(読もうかな)
 - iwadu(読めばこそ)
 - i(読め)
 - ee(読めよ)
 - uganaasi³⁾(読めるだけ)
 - una⁴⁾(読むな。'jumaN④の命令の形→(2)⑦⑧)
 - una 'kee(読むなよ)
 - uka(読むほど)

「連用形」から

- 'jumi-
- busjan(読みたい)→(3)④
 - gisaN(読むそうだ)→(3)①
 - juusju 'N(読むことができ)る)→(3)⑤
 - mišeeN~-NšeeN(お読みに)なる)→(3)③

ほかに -haNsjuN(読みそこなり), -cijun(読みきる), -hazimijun(読み始める) その他の語彙論的な複合語が作られる。

'jumi④(読み=「中止形」)

- 'jumi④
- du(読みこそ)
 - ²duN(読みこそも)
 - ga(読みに)
 - N(読みも)

'jumiini(読む時に)~'jumiinee⁵⁾(読むと)

'jumee④(<'jumi+-ja)(読みは)

連用語幹から

- 'jun-
- abiin(読みます)→(2)⑨
 - agijun(読みつつある)→(3)②
 - agacii(読みながら)

融合語幹から

(基本語幹的)

- 'junur-
- a(読むだろうか)
 - aa(読むのなら)
 - ee(読むならば)

(「連用形」的)

'junui④(読んでおり=「中止形」)

'junui- -gi'saN(読んでいるそうだ)→(3)①

'junui④

- ²duN(読むのででも, 'juni-i'²duN④ šee④「読むのででもあれば」すなわち, 'junuree④を強調した形)

- 'junuir-⁶⁾
- a(読んでいるだろうか)
 - aa(読んでいるのだったら)
 - ee(読んでいるのなら)

(短縮形語幹)⁷⁾

- junu-
- ga(読むか)
 - kutu(読むので)
 - mi(読むか)
 - N(読む。「終止形」)
 - ru(読む。「連体形」)
 - ²ruN(読むものだから)
 - sa(読むよ)
 - ši(読むの。「準体形」)
 - šiga(読むか)

(音便語幹的)

'junut- { -aN(読んでいた)→(2)⑤
 -eeN(読んでいたのだ)→(2)⑥
 -ii(読んでいたか。'junutan
 ⑩ の質問の形→(2)⑤)

音便語幹から

'jud- { -aN(読んだ)→(2)⑤⑨
 -eeN(読んだ)→(2)③⑤⑥
 ⑨
 -eeN(読んだのだ)→(2)⑥

-oo'cuN(読んでおく)→(2)④
 ⑤⑥⑨

'jud-

-oon(読んでいる)→(2)②⑤
 ⑥⑨

-ai(読んだり)

-i(読んで)

-idu(読んでこそ)

'judee('judi+-ja)(読んで)

'jud-

{ -ii(読んだか。'judaN⑩ の質
 問の形→(2)⑤)
 -iN(読んで)

この表の普通の活字で示した形式のうち、融合語幹から作られる形は「連用形」と「居り」に対応する 'uN⑩ との複合によって生じたものである。

なお、'junuga⑩, 'junumi⑩, 'junuN⑩, 'junuru⑩, 'junu'ruN⑩, 'junusa⑩, 'junuši⑩, 'jnušiga⑩ は、「読むか」「読むか」「読む」…など標準語の動作性動詞の現在の形がもつ意味のほかに、「読んでいるか」「読んでいるか」「読んでいる」…など現在の動作の進行・反覆など、現在の状態をも意味しうる。たとえば, nuu⑩ sjuga① は「何をするか」のほかに「何をしているか」も意味しうる。

③ 不規則動詞

①に述べた 14 種のどれにも属さない動詞を不規則動詞と呼べば、不規則動詞には次のようなものがある。

(イ) ?aN⑩(ある), 'uN⑩(いる), meen⑩ ~ moojun⑩(「いる」「行く」「来る」の目下の年長に対する敬語), mišeen⑩(なさる。「する」の敬語), ?meNšeen⑩(いらっしゃる。「いる」「行く」「来る」の敬語), そのほか -mišeen, -Nšeen で終わる敬語動詞, たとえば 'jumimiše'en⑩(お読みになる), ?utabimiše'en⑩(賜わる), ?ukumuimiše'en⑩(おかくれあそばす)など多数。neen⑩ ~ neeran⑩(無い)など。

(ロ) sinuN⑩(死ぬ), ?umujuN⑩(思う), nuuN⑩ ~ 'NNZuN⑩(見る), ?juN⑩(言う), ?icuN⑩(行く), sjuN⑩(する), maasjuN⑩(死ぬ),

-juusjuN(...できる), cuuNⓄ(来る)など。

(イ)は一般の動詞と異なって'uNⓄとの複合が起こっていないため、あるいは他の動詞と同様には起こっていないために不規則となったもの(ただしneenⓄ~neeranⓄは他の点でも非常に不規則)である。(ロ)は'uNⓄとの複合は起こしているが、その他の点で不規則なものである。以下にこれらの不規則動詞について各語幹および「連用形」と、それらから作られる不規則な形の主なものを記す。ただし語幹だけが不規則なものは語幹だけしか記さない。

ʔaNⓄ (ある)

基本語幹 ʔar-, ただし、否定は neenⓄ~neeranⓄ となる。ʔaranⓄ は 'janⓄ(だ, である)の否定である。「連用形」ʔaiⓄ, 連用語幹 ʔaj-, 短縮形語幹 ʔa-, 音便語幹 ʔat-。

なお, ʔaN(ある), 'jan (だ, である。連詞の項参照), および形容詞(ʔaNとの複合によって作られる。例: takasaⓄ+ʔaNⓄ>takasaNⓄ 高い)について、現在の肯定と否定とを「終止形」であけて対比すると、次のようになる。

肯定	ʔaNⓄ (ある)	'janⓄ(だ, である)	takasaNⓄ(高い)
否定	neenⓄ~neeranⓄ (ない)	ʔaranⓄ(ではない)	takakooⓄ neenⓄ~ (高く takakooⓄ neeranⓄ ない)

'uNⓄ (いる)

基本語幹 'ur-, 「連用形」'uiⓄ, 連用語幹 'uj-, 短縮形語幹 'u-, 音便語幹 ut-。

meenⓄ~moojuNⓄ(「いる」「行く」「来る」の目下の年長に対する敬語)

基本語幹 moor-, 「連用形」meeiⓄ~mooiⓄ, 連用語幹 meej-~mooj-, 短縮形語幹 mee-~mooju-, 音便語幹 mooc-。

miʃeenⓄ (なさる。mis- の部分は「召す」との対応が考えられる) など

基本語幹 misjoor-, 「連用形」miʃeeiⓄ, 連用語幹 miʃeej-, 短縮形語幹 misee-, 音便語幹 misjooc-。

ʔmeNʃeenⓄ (いらっしゃる), 'jumimiʃe'enⓄ (お読みになる) その他, -miʃeen, -Nʃeen で終わる敬語動詞はみなこれに準ずる。

neenⓄ~neeranⓄ (ない)

ʔaŋ(ある)の否定の形。一般の動詞の否定の形に準じて活用する。ʔjumaŋⓄの項参照。ただし、連用語幹を neejabiʔraŋⓄ(ありません)の場合に用いる。

基本語幹 neendar-, 「連用形」 neeŋⓄ, 連用語幹 neej-, 短縮形語幹に相当すべき語幹 neen-。ただし、「終止形」と「連体形」も neeŋⓄ~neeraŋⓄ, 音便語幹 neeŋt-。

neeŋⓄ~neeraŋⓄ は元来, nee-, neera- の部分も N の部分も否定辞であるから, 形の上では否定が二つ重なっていることになる。この丁寧体は neejabiʔraŋⓄ (ありません), 尊敬の敬語は neemisjooraʔŋⓄ (おありにならない) で, やはり否定辞が重なる。「連用形」 neeŋⓄ は neeŋⓄ najuŋⓄ (なくなる), neenooⓄ ʔaraŋⓄ (なくはない) などのようにも用いる。

sinuŋⓄ (死ぬ)

基本語幹 sin-, 「連用形」 siniⓄ, 連用語幹 sin-, 短縮形語幹 sinu-, 音便語幹 siz-。

この語幹をもつものが sinuŋⓄ 1語なので, 不規則とした。「ナ変」の特徴は保持していない。

ʔumujuŋⓄ (思う)

基本語幹 ʔumur-, ただし, 否定の形に ʔumaanⓄ (思わない), 可能の形に ʔumaarijuŋⓄ (思える) など古い形が共存している。「連用形」 ʔumuiⓄ ~ʔumiiⓄ, 連用語幹 ʔumuj-, 短縮形語幹 ʔumuju-, 音便語幹 ʔumut-。

nuuŋⓄ~ʔNNzuŋⓄ (見る)

基本語幹 mir-~ʔNŋd-, 「連用形」 miiⓄ~ʔNNziⓄ, 連用語幹 mij- など (mijabiraⓄ~mjaabiraⓄ~naabiraⓄ 見ましょう, など), 短縮形語幹 nuu-~ʔNNzu-, 音便語幹 ʔNŋc-。

miiⓄ(見), nuuŋⓄ(見る), ʔNŋciⓄ(見て) など規則的な音韻変化によって生じた形と, ʔNNziⓄ(見), ʔNNzuŋⓄ(見る) など類推によって生じた形とが共存しているため不規則となった。

ʔjuŋⓄ (言う)

基本語幹 ʔj-, ʔarijuŋⓄ(言われる), ʔjaaⓄ~ʔjawaⓄ(言ったら) など。ただし, ʔijaⓄ(言おう), ʔeeⓄ(言え), ʔiwaduⓄ(言えよ), ʔiiⓄ(言え), ʔeeⓄ(言えよ)。「連用形」 ʔiiⓄ, 連用語幹 ʔj-, 短縮形語幹 ʔju-, 音

便語幹 ?ic-

語頭の ?i が母音に続く際に生じた音韻変化のため不規則となった。

?icuN① (行く)

基本語幹 ?ik-, 「連用形」 ?ici①, 連用語幹 ?ic-, 短縮形語幹 ?icu-, 音便語幹 ?Nz-

音便語幹から作られる形のみが「往ぬ」に対応するため不規則となった。たとえば, ?Nzi①(行って)は「往にて」に対応する。

sjun① (する) など

基本語幹から作られる形式にあたるものは san①(しない), sarijun①(される), simijun①(させる), Qsa①(しよう), saa①~sawa①(したら), see①(すれば), Qsiwadu①(すればこそ), Qsi①(しろ), see①(しろよ), sjuna①(するな), sjuka①(するほど) など。「連用形」 sii①, 連用語幹 sj-, 短縮形語幹 sju-。音便語幹から作られる形にあたるもの sjan①(した), seen①(してある, したのだ), sjoon①(している), sjai①(したり), Qsi①(して) など。

やや特殊な音韻変化および類推による変化によって不規則となった。maa-sjun①(死ぬ)と -juusjun(…できる)は sjun① に準じて活用する。

cuuN① (来る)

基本語幹から作られる形にあたるものは kuun①(来ない), kuurarijun①(来られる), kuu①(来よう), kuuwa①~kwaa①(来たら), kuuree①(来れば), kuuriwadu①(来ればこそ), kuu①(来い), kuuwa①~kwaa①(来いよ), kuuNna①(来るな) など。「連用形」 cii①, 連用語幹から作られる形にあたるものは cabiin①(来ます) など。短縮形語幹 cuu-, 音便語幹 c-, ただし qci①(来て)。カ行変格の特色を保持しているため不規則となっている。

(2) 動詞の形態論的構造(その1)

① 肯定普通態現在 'junuN①(付 'junui①, 'junuira① など)

肯定普通態現在に属する形は前節の②(61~63 ページ)の一覧表で普通の活字で示したものである。ここでは、それぞれの形の用法および相互の関係について簡単に述べる。

(イ) ふつう, 述語となって文を終えるのに用いられる形

'junuN① (読む, 読んでいる)

動詞のいわゆる「終止形」。「読み居り」に対応するといわれるが、末尾の部分は直接「居り(wori)」の終止形「居り(wori)」に対応するのではなくもしそうならば 'junui となるはず、末尾の N は、古くは話し手の主観的な判断を表わしたと思われる *m にさかのぼるもので、客観的な叙述を表わしたと思われる語尾 *ri (「有り」「居り」の「り」と対立したものであろう。'junun①(読む), 'un①(いる)の質問の形が 'junumi①(読むか), 'umi①(いるか)であり、かつ質問の意を表わす接尾辞が -i であること、および、奄美群島の多くの方言に m 系の「終止形」と ri 系の「終止形」とが共存していることによってこのことが推定される。なおこの *m は標準語文語の「助動詞」の「む」「らむ」「けむ」, 「助詞」の「なむ(希望の場合)」などの m と関係あるものであろう。

'junusa①(読むよ, 読んでいるよ, 読むさ, 読んでいるさ)

'junun① よりも柔らかい表現であると同時に、客観的叙述であることを示す「確言」のニュアンス(「さ」)をもつようである。

'jumi①(読め), 'jume①(読めよ)

前者はいわゆる「命令形」に対応する。後者は前者の柔らかい表現。

'juma①(読もう)

いわゆる「未然形」に対応する。意志動詞の場合は近い将来に行なおうとする意志、または仲間への誘いかけを表わし、無意志動詞の場合は近い将来に起ころうとしている動作・変化への推測を表わす。なお、'junura①の項参照。

'jumana①(読もうよ, 読みたいな) 'juma①の柔らかい表現。

'juma'ii①(読もうね) 仲間へ親しく誘いかけて同意を求める表現。

なお、'juma①を反覆形にした 'jumajumaa①(読もう読もう)という形があり、'jumajumaa① sjuN①(読もう読もうとする), 'utira'utira① sjuon①(まさに落ちそうにしている)などのように用いる。

'jume① 'jaa①(読もうかな, 読んだらなあ)

'jume①(読めば)に助詞 'jaa①を付けたもの。

'junura①(読むだろうか)

疑わしいと思う気持ちを表わす。文末に用いるほか、連用形の「中止法」のようにも用いる。sjumuçiga① 'junura①.(本を読むのだろうか。)読むこと

自身が疑わしい場合には 'jumiga⑩ sjura⑩(読むのだろうか)となる。

'junura⑩ hazi⑩(読むだろう) 'junuru⑩ hazi⑩ ともいう。

'juma⑩(読もう)と 'junura⑩(読むだろうか)との対立は肯定普通態現在のみに認められるようで、たとえば肯定持続態現在の 'judoora⑩は「読んでいよう」「読んでいるだろうか」の両方を意味し、肯定普通態過去には 'judara⑩「読んだだろうか」のみがある、また、ʔa⑩の場合には ʔara⑩「あるだろうか」しかなく、'uN⑩の場合には 'ura⑩は「いよう」「いるだろうか」の両方を意味する。

'junumi⑩(読むか), 'junuga⑩(読むか)

前者は「はい」「いいえ」で答えられる質問文に、後者は疑問詞を伴う質問文に用いる。ʔjaaja⑩ 'junumi⑩. おまえは読むか。taaga⑩ 'junuga⑩. 誰が読むか。

(ロ) おもに文中に用いられて文末の述語に統合される形

'jumi⑩(読み)

口語では、中止的に用いることは少ない。助詞 -du, -dun, -N, -ja, -ga などがついて、次のように用いられる。

'jumiḍu⑩ sjuru⑩(読みこそする, 読むのだ。'junuN⑩を -duによって強調したもの), 'jumi'dun⑩ see⑩(読みでもすれば。'jumee⑩「読めば」を強調したもの), 'jumi'dun⑩ saa⑩(読みでもしたら。'jumaa⑩「読んだら」を強調したもの), 'jumi'dun⑩ siinee⑩(読みでもした時には。'jumiinee⑩「読んだ時には」を強調したもの), 'jumiN⑩ san⑩(読みもしない。'jumaN⑩「読まない」を -Nによって強調したもの), 'jumee⑩ san⑩(読みはしない。'jumaN⑩を -jaによって強調したもの), 'jumiga⑩ sjura⑩(読むのだろうか。'junura⑩「読むだろうか」の疑わしい気持ちを -gaによって強調したもの)など。また、目的を表わす -ga(に)がついて、移動を表わす動詞に先立って用いられる。ʔiju⑩ tuiga⑩ ʔicun⑩. 魚を取りに行く。

'judi⑩(読んで)

標準語の「…して」と同様に文中に用いられるほか、文末にも 'judan⑩(読んだ)に近い意味で用いられることがある。また、'judikara⑩(読んでから),

'juđin⑩ (読んで)がある。また、単独で、または -du, -N, -ja などの助詞がついて他の動詞(「補助動詞」)に先立ち、その動詞とともに一つの述語として用いる。それには次のようなものがある。'judi⑩ ʔaŋcuN⑩(読んでばかりいる), 'judi⑩ neen⑩(読んでしまった), 'judi⑩ ʔicun⑩(読んでいく), 'juđi⑩ cuun⑩(読んでくる), 'judi⑩ tuujun⑩(読破する), 'judi⑩ 'uN⑩(読んでいるんだ。'judoon⑩ のぶっきらぼうな言い方), 'judi⑩ ʔan⑩(読んであるんだ。'judeen⑩ のぶっきらぼうな言い方), 'judi⑩ 'NNZUN⑩(読んでみる), 'judi⑩ misijun⑩(読んでみせる), 'judi⑩ turasjun⑩(読んでやる), 'judi⑩ kwijun⑩(読んでくれる), 'juđi⑩ taboori⑩(読んでください), 'juđidu⑩ 'uru⑩(読んでいるのだ。'judoon⑩「読んでいる」を -du によって強調したもの), 'juđidu⑩ ʔaru⑩(読んでいるのだ。'judeen⑩ を -du によって強調したもの), 'juđee⑩ 'uran⑩(読んでいない。'judoon⑩「読んでいる」の否定), 'juđee⑩ neen⑩(読んでない。'judeen⑩「読んである」の否定), 'judin⑩ 'uran⑩(読んででもない。'juđee⑩ 'uran⑩「読んでいない」を -N によって強調したもの)など。

'jumaa⑩~'jumawa⑩(読んだら)

標準語文語の「未然形」+「ば」に対応する。後者の発音もあるが前者が多い。

ʔariga⑩ 'jumaa⑩ ʔjaan⑩ 'jumee⑩。もし彼が読んだらおまえも読め。

'junuraa⑩(読むんだったら、読むのなら)

'junuraa⑩ 'jumee⑩。読むんだったら読め。

'jumee⑩(読めば)

標準語文語の「已然形」+「ば」に対応する。'jumee⑩ 'wakajun⑩。読めばわかる。ʔutuŋee⑩ 'warijun⑩。落とせば割れる。

'jumiwadu⑩(読めばこそ)

'jumee⑩(読めば)を -du によって強調した形である。主として次のように用いる。'jumiwadu⑩ 'jaru⑩(ぜひ読まなくては), 'jumiwadu⑩ najuru⑩(読まなければならない。'jumanda'ree⑩ naran⑩ともいう)。

junuree⑩(読むならば)

'junuree⑩ 'wakajusa⑩。読むならば(その時には)わかるよ。

'jumaa⑩(読んだら)と 'jumee⑩(読めば)との区別、すなわち、「未然

形]+「ば」と「已然形」+「ば」の区別は、肯定普通態現在以外の場合にもいつもあって、両者の意味の違いははっきりしており、前者は仮定のことを、後者は既定の、または必然のことを表わす。肯定普通態単純過去の場合を例とすると、両者は次のように違ふ。

ʔutucaraaⓈ 'waritaNⓈ. もし落としたら割れた(だろう)。…過去の事実

ʔutucareeⓈ 'waritaNⓈ. 落としたら割れた。…過去の事実

しかし、'jumaaⓈ と 'junuraaⓈ との区別、および 'jumeeⓈ と 'junureeⓈ との区別は、普通態現在の場合に限られるようである。

その他

その他、普通、文の途中に用いられて文末の述語に統合される形として、'jumiiniⓈ(読むときに、読んだ場合)～'jumiineeⓈ(読むときには、読んだ場合には、読むと)、'junukutuⓈ(読むので)、'junuʔunⓈ(読むものだから)、'junuʂigaⓈ(読むが)などがあり、さらに、これらとやや文論的機能が異なるものとして 'junagaciiⓈ(読みながら)、'judaiⓈ(読んだり)、'jumigataaⓈ(読みそう)、'jumukaⓈ(読むほど)など、また、このほか「連体形」を用いた 'junurumaʔdiⓈ(読むまで)、'junuruⓈ ʔweedaⓈ(読むまでの間)、'junuruⓈ gutuⓈ(読むように、読むほど)、'junuruⓈ munⓈ(読むのに)など、「終止形」を用いた 'jununneeⓈ(読むように。比喩に用いる)もあげられる。

(ハ) その他の形

'junuruⓈ(読む。「連体形」)

首里方言の活用する語は、否定の場合を除いて、いつも「終止形」と「連体形」とを区別する。

sjumuçiⓈ 'junuNⓈ. 本を読む。

sjumuçiⓈ 'junuruⓈ qeuⓈ. 本を読む人。

また、首里方言の「連体形」は、助詞 -du のあとで文を結ぶという、いわゆる係り結びの用法をもつ。

'waagaⓈ 'jununⓈ. (わたしが読む。)→'waagaduⓈ 'junuruⓈ. (わたしが読むのだ。)

'junuN①. (読む。)→'jumidu① sjuru①. (読むのだ。sjuru①は
sjun①(する)の「連体形」)

'junuſi① (読むの。「準体形」)

体言に準ずる機能をもつ。sjumuçi① 'junuſee① (本を読むのは)。また
-ſee に終わる形 (-si に助詞 -ja の付いたもの) は「…のだよ」の意で、文
末にも用いられる。'waaga① 'juma`ndi① sjootaru① mun①, ʔunu①
qcuni① 'jumaqti① neenſe`e①. わたしが読もうとしていたのに、その
人に読まれてしまったのだよ。

(付) 'junui①, および 'junuira① (読んでいるだろう) など。⁶⁾

首里方言動詞の普通態の現在と過去とを対比すると、現在の 'junuN①
(読む、読んでいる) に対して、過去には 'judan① (読んだ), 'junutan①
(読んでいた) の二つがあることが注目される。前者を単純過去、後者を継続
過去と呼ぶことにする。後者は過去の一定時において継続または反覆してい
た動作や、過去の習慣などを表わす(状態動詞 ʔan①「ある」, 'un①「い
る」は継続過去を欠く)。一方現在は、元来は継続的現在(「読んでいる」)
を表わしたと見られる 'junuN① が単純な現在(「読む」)をも表わすように
なったため、過去におけるような「単純」と「継続」との形式上の区別を失っ
てしまったものである。ところが、継続的現在のみを表わす次のようないくつ
かの形式も首里方言でまれに用いられる。

'junui① (読んでおり), 'junuira① (読んでいるのだろう。読んでい
るだろうか), 'junuiraa① (読んでいるのなら), 'junuiree① (読んでい
るならば), 'junuigi`san① (読んでいそうだ)。

'junui①, 'junuira① に例をとれば、たとえば次のように用いる。

ʔaree① sjumuçi① 'junui①, 'wannee① zii① kacun①. 彼は本を読
んでおり、わたしは字を書いている。

kuneeɗa① 'waaga① karacaru① sjumuçee①, ʔaree① namaa①
'junuira①. この間わたしが貸した本は、彼はいま読んでいるだろう。

② 肯定持続態現在 'judoon① (読んでいる)

この形は、'judee① (読んで \langle 'judi+ -ja) と 'un① (いる) との複合し
たもので、動作・変化がすでに完了して現在にいたっていることと、動作・変

化が継続または反覆されて現在も続いていることの二通りを意味する。前の場合は「…している・…してしまっている・…してしまった・…した」などと訳され、後の場合は「…している・しつづがある」などと訳される。

naçi① natoon②. 夏になった(もう夏になっている)。

namaa① sjumuçi② 'judoon②. 今は本を読んでいる。

'yaN② (ある) は持続態を欠くが, 'uN② (いる) は持続態 'utoon② (いる, ずっといる) をもつ。

'waaga② cuuruma'di② ?Nmanakai② 'utoori②. ?NN②, 'utoosa②,

わたしが来るまでそこに(ずっと)いろ。うん, (ずっと)いる。

持続態に属するいろいろな形の作りかたは次のようである。¹⁰⁾

基本語幹から

'judoor- { -a (読んでいよう, 読んでい
るだろうか)
-a'a (読んでいたら)
-e'e (読んでいれば)
-i (読んでいろ)
-ee (読んでいろよ)

'judoonna (読んでいるな。'judee②
'uran② の命令)

「連用形」から

'judooi- { -bu'sjan (読んでいたい)
-gi'saN (読んでいるそうだ)
-miše'eN (読んでいらっしゃ
る)
-juusju'N (読んでいること
ができる)

'judooi② (読んでおり)

{ -'duN ('judooi'duN② še②.
読んでいでもすれば, など)
-ni (読んでいる時に) ~-nee
(読んでいると)

連用語幹から

'judoo'j- -abiin (読んでいます)

'judooj- -agi'in (読んでいつつある)

短縮形語幹から

'judoo- { -ga (読んでいるか)
-ku'tu (読んでいるので)
-N (読んでいる。「終止形」)
-ru (読んでいる。「連体形」)
-'ruN (読んでいるものだから)
-sa (読んでいるよ, 読んで
いるさ)
-ši (読んでいるの。「準体
形」)
-'ši'ga (読んでいるが)

音便語幹から

'judoot- { -a'N (読んでいた)
-e'eN (読んでいたのだ)
-ai (読んでいたり)
-i (読んでいて)
-i'i (読んでいたか)
-i'N (読んでいても)

これらの形の相互関係や、それぞれの用法は肯定普通態現在の場合に準ずる。

③ 肯定結果態現在 'judeen⑩ (読んである)

'judee⑩ (読んででは <'judi+-ja) と ?an⑩ (ある) の複合したもので、動作用が完了してその結果が現在残存していることを示す。'judeen⑩ は同時に確言単純過去(読んだのだ)も意味するが、それは過去の項で述べる。

?an⑩ (ある) および他の無意志動詞(たとえば miijun⑩ 生える), および 'un⑩ (いる) は結果態を欠く。

結果態に属するいろいろな形の作り方は次のとおりである。¹⁰⁾

<p>基本語幹から</p> <p>'judeer- { -a (読んであるだろう) -a'a (読んであったら) -e'e (読んであれば)</p> <p>「連用形」から</p> <p>'judeei- { -gi'san (読んであるそうだ) -miſe'eN (読んでおありになる)</p> <p>'judeei⑩ (読んであり) -duN ('judeei'duN⑩ ſee⑩)</p>	<p>よんでありでもすれば、など) -ni(読んである時に)~-nee (読んである場合には)</p> <p>連用語幹から 'judee'j- -abiin (読んであります)</p> <p>短縮形語幹から 'judee- ('judoon⑩の短縮形語幹'judoo- の場合と同じ)</p> <p>音便語幹から 'judeet- ('judoon⑩の音便語幹'judoot- の場合と同じ)</p>
--	--

④ 肯定保存態現在 'judoo'cuN⑩ (読んでおく)

'judee⑩ (読んででは <'judi+-ja) と ?ucun⑩ (置く) の複合したもので、動作の結果を保存しておこうとする意を表わす。保存態に属するいろいろな形の作り方は、持続態の場合にはほぼ準ずる。

基本語幹 'judook-, 連用形 'judooci⑩, 連用語幹 'judooc-, 短縮形語幹 'judoocu-, 音便語幹 'judooc-。

⑤ 肯定過去(①~④の過去)

①, ②, ③, ④とその過去とを「終止形」で対比して示せば次のようになる。

	現	在	過	去
普通態	'junuN⑩(読む・読んでいる)		単純	'judaN⑩(読んだ)
			継続	'junutaN⑩(読んでいた)
持続態	'judoon⑩(読んでいる)		'judoota`N⑩(読んでいた)	
結果態	'judeeN⑩(読んだである)		'judeeta`N⑩(読んであった)	
保存態	'judoo`cuN⑩(読んでおく)		'judoo`can⑩(読んでおいた)	

過去に属するいろいろな形の作り方は、次のようである。¹⁰⁾

基本語幹から

短縮形語幹から

'judar-
 'junutar-
 'judootar-
 'judeeta-
 'judooocar-
 「連用形から」¹¹⁾(元来は⑥に属したもの)
 'judeei-
 'junuteei-
 'judooteei-
 'judeetei-
 'judooceei-
 'judeei⑩, 'junuteei⑩, 'judooteei⑩,
 'judeetei⑩, 'judooceei⑩(読ん(同上)ので
 あり)

(-ga(読ん(だ・でいた・でいた・であった・でいた・でいた)か)
 -ku`tu(読ん(同上)ので)
 -^oN(読ん(同上)。「終止形」)
 -nte`en~nte`eman
 (読ん(同上)ところで)
 'juda-
 'junuta-
 'judoota-
 'judeeta-
 'judoooca-
 (-ru(読ん(同上)「連体形」)
 -`ruN(読ん(同上)ものだ
 から)
 -sa(読ん(同上)よ、読ん
 (同上)さ)
 -ši(読ん(同上)の。「準体
 形」)
 -ši`ga(読ん(同上)か)

なお、疑問詞を伴わない場合の質問の形は、それぞれの現在の音便語幹を用いて次のように作られる。「…して」の形(分詞)に質問の接尾辞 -i を付したものである。

'judii⑩, 'junutii⑩, 'judooti`i⑩, 'judeeti`i⑩, 'judoooci⑩(読ん(だ・でいた・でいた・であった・でいた)か)

¹¹⁾
 ⑥ 肯定確言過去

過去のことを根拠のある確かなこととして表わすもので、⑤と対比すると、次のようになる。なお、普通態確言単純過去は結果態現在と同形である。

	過 去	確 言 過 去
普通態 単純	'judan①(読んだ)	'judeen①(読んだのだ)
普通態 継続	'junuta`N①(読んでいた)	'junute`eN①(読んでいたのだ)
持続態	'judoota`N①(読んでいた)	'judoote`eN①(読んでいたのだ)
結果態	'judeeta`N①(読んであった)	'judeete`eN①(読んであったのだ)
保存態	'judoo`caN①(読んでおいた)	'judooce`eN①(読んでおいたのだ)

たとえば、次のように用いる。

namaa① hagimoo① 'jašiga① 'Nkasee① kusanu① miitoote`eN①.

いまははげ野だが、昔は草が生えていたのだ。

確言過去に属するいろいろな形の作り方は過去の場合に準ずる。ただし、次のように音便語幹にさらに -eN を付けて回想的な確言過去にすることもできる。

'judeete`eN①(読んだのだだったのだ。ただし、結果態確言過去と同形), 'junute`ete`eN①(読んでいたのだだったのだ), 'judoote`ete`eN①(読んでいたのだだったのだ), 'judeete`ete`eN①(読んであったのだだったのだ)など。

⑦ 否定現在(①～④の否定)

現在の肯定と否定とを対比して「終止形」で示せば、次のとおりとなる。否定は普通態のほかは二語に分けて表わされる。

	肯 定	否 定
普通態	'junun①(読む, 読んでいる)	'juman①(読まない)
持続態	'judooN①(読んでいる)	'judee① 'uraN①(読んでいない)
結果態	'judeen①(読んである)	'judee① neeN①(読んでない)
保存態	'judoo`cuN①(読んでおく)	'judee① ?ukan①(読んでおかない)

'juman①に属するいろいろな形の作り方はつぎのとおりである。¹⁰⁾'uraN①, neeN①, ?ukan①も 'juman①に準ずる。なお, neeN①については不規

否定の過去に属するいろいろな形式の作り方は、肯定の過去の場合にはほぼ準ずる。なお、否定の確言過去も、否定の過去と同様に 'jumante'en⑩(読まなかったのだ), 'judee⑩ 'urante'en⑩(読んでいなかったのだ)のように作られる。また否定には単純過去と継続過去の区別がない。

⑨ 丁寧体

①から⑧までの形を常体と呼べば、それに対して丁寧体が区別される。現在と過去の肯定および否定のそれぞれの終止形について丁寧体をあげれば、次のようになる。

(イ) 肯定

	現	在	過	去
普通態	'junabiin⑩ (読みます)		単純	'junabita'n⑩(読みました)
			継続	'junabiita'n⑩(読んでいました)
持続態	'judoo'jabiin⑩(読んでいます)		'judoojabiita'n⑩(読んでいました)	
結果態	'judee'jabiin⑩(読んであります)		'judeejabiita'n⑩(読んでありました)	
保存態	'judoo'cabiin⑩ ~ 'judi⑩ ꜱucabiin⑩(読んでおきます)		'judoocabita'n⑩ ~ 'judi⑩ ꜱucabitan⑩(読んでおきました)	

(ロ) 否定

	現	在	過	去
普通態	'junabi ⁽ⁿ⁾ ra'n⑩(読みません)		'junabiranta'n⑩(読みませんでした)	
持続態	'judee⑩ 'ujabi'ra'n⑩(読んでいません)		'judee⑩ 'ujabiranta'n⑩(読んでいませんでした)	
結果態	'judee⑩ neejabi'ra'n⑩(読んでありません)		'judee⑩ neejabiranta'n⑩(読んでありませんでした)	
保存態	'judee⑩ ꜱucabi'ra'n⑩(読んでおきません)		'judee⑩ ꜱucabiranta'n⑩(読んでおきませんでした)	

-abiin は「はべる」に対応するものであろう。なお、上の表のうち、末尾が jabiin となるのはやや古風な発音で、ふつうは ibiin ということが多い。また、持続態および結果態の過去肯定は -jabiita'n となり、継続過去の場合と同じであるが、これは 'un⑩(いる)および ꜱan⑩(ある)の丁寧体過去肯定が

それぞれ 'ujabiita¹N① (いました), ʔajabiita¹N① (ありました) のように
 継続過去の形をとり、かつ単純過去と継続過去の区別をもたないことと関連し
 ている。

丁寧体に属するいろいろな形の作り方は普通態の場合、次のようである。

<p>基本語幹から</p> <p>'junabi¹r-</p> $\left\{ \begin{array}{l} -aN(\text{読みません}) \\ -a(\text{読みましょう}) \\ -a^1a(\text{読みましたら}) \\ -e^1e(\text{読みますれば}) \end{array} \right.$ <p>「連用形」</p> <p>'junabiii① (読みまして)</p> <p>短縮形語幹から</p> <p>'junabiir-</p> $\left\{ \begin{array}{l} -a(\text{読むでしょう, 読んで} \\ \text{いるでしょう}) \\ -a^1a(\text{読みますのなら}) \\ -e^1e(\text{読みますならば}) \\ -ga(\text{読みますか}) \\ -ku^1tu(\text{読みますので}) \\ -mi(\text{読みますか}) \end{array} \right.$	<p>'junabii-</p> $\left\{ \begin{array}{l} -N(\text{読みます。「終止形」}) \\ -ru(\text{読みます。「連体形」}) \\ -^1ruN(\text{読むものですから}) \\ -ʃi(\text{読みますの。「準体形」}) \\ -ʃi^1ga(\text{読みますが}) \\ -a^1N(\text{読んでいました}) \\ -e^1eN(\text{読んでいたのです}) \\ -i^1i(\text{読んでいましたか}) \end{array} \right.$ <p>音便語幹から</p> <p>'junabit-</p> $\left\{ \begin{array}{l} -a^1N(\text{読みました}) \\ -eeN(\text{読んだのです}) \\ -i(\text{読みまして}) \\ -i^1N(\text{読みまして}) \\ -i^1i(\text{読みましたか}) \end{array} \right.$
---	--

普通態以外の丁寧体に属する形の作り方、およびこれらの形式のうち、さら
 にいろいろに活用する形の作り方については、これまでに述べたことから大体
 類推しうるので省略する。

なお、丁寧体の「命令形」は尊敬の敬語動詞の場合にのみ、たとえば次のよう
 に用いられる。

- 'junuN①(読む) → 'jumimiʃeebi¹iN①(お読みになります) →
- $$\left\{ \begin{array}{l} 'jumimiʃeebi¹ri①(\text{お読みなさいませ}) \\ 'jumimiʃeebi¹ree①(\text{お読みなさいませよ}) \end{array} \right.$$
- 'jumaN①(読まない) → 'jumimiʃeejabi¹raN①(お読みになりません) →
- 'jumimiʃeebi¹nna①(お読みなさいませな)

(3) 動詞の形態論的構造(その2)

動詞は普通、さらに次に述べるような派生の形をもち、そのそれぞれはあたかも一つの動詞のようにふるまう。すなわち、これら派生動詞は「動詞の形態論的構造(1)」と類似の構造をもつ。ただし、①と④とは形容詞と類似の構造をもち、あとに続く形に対しては形容詞的にふるまう。

- ① 推定・伝聞 'jumigisaN①(読むそうだ)など
- ② 進行 'junagijUN①(読みつつある)など
- ③ 尊敬 'jumimiſeeN①(お読みになる)など
- ④ 希望 'jumibusjaN①(読みたい)など
- ⑤ 可能 'jumijuusju'N①(読むことができる)など
- ⑥ 受身・可能・尊敬 'jumarijUN①(読まれる, 読める)など
- ⑦ 使役 'jumasjuN①(読ませる)など

これら七種の派生形式は、たとえば 'jumimiſeejagi'jUN①(お読みになりつつある。②と③), 'jumasarijUN①(読まされる。⑥と⑦)などのようにさらに組み合わせた形を作ることができるものである。①~⑦は、そのように組み合わせる場合にあとに置かれるものから順に並べてある。

① 推定と伝聞 (-gisaN)

'jumigisaN①(読むそうだ), 'junagiigi'saN①(読みつつあるそうだ)など。「(する)そうだ」「…らしい」「…ということだ」などの意。-gi'saN は形容詞に準じて活用するが、-gisaa (…そう, …そうに)という形もある。'jumigisaa①'jaN①(読むそうである)。形容詞の項参照。

② 進 行 (-agijUN~-agiiN)

'junagijUN①(読みつつある), 'jumimiſeejagi'in①(お読みになりつつある)など。-agijUN は「上げる」に対応する。普通はその時から未来へ向けての動作の進行を表わすが、ʔaN①(ある)に付くと多くの存在を表わすようである。

'jaanu① ʔuhooku① ʔajagiita'N①. 家がたくさん(かたまって, または続いて)あった。

規則動詞の(i)に準じて活用する。ただし、意味が状態的であるためか、過去の場合に単純過去の形を用いないなどの点が特異である。'junagiita'N①(読みつつあった)。

「命令」「意志」の形は用いる。'junagiri[ⓐ] (読みつつあれ), 'junagira[ⓐ] (読みつつあろう)。

③ 尊 敬 (-mišeeN, -NšeeN)

'jumimiše^{en}[ⓐ] (お読みになる), 'jumijuusiše^{en}[ⓐ] (読むことがおできになる)など。

ʔujumiŋanaasi[ⓐ] mišeeN[ⓐ], ʔujumiŋanaasi[ⓐ] namiše^{en}[ⓐ], ʔujumimisjoorari^{jun}[ⓐ] (いずれも「お読みあそばされる」), ʔujuminsjo^{oci}[ⓐ] ʔutabiše^{en}[ⓐ] (お読みになってくださる)などは、たとえば女中が按司に向かって言う場合など、非常に尊敬の度合の高いもので、あまり用いられない。また ʔuʂooziše^{en}[ⓐ] (お考えあそばす), ʔukumuimiše^{en}[ⓐ] (おかくれあそばす)などは、主として王などについて用いるものであり、現在では用いられない。

ʔujumiŋše^{en}[ⓐ], ʔujumimiše^{en}[ⓐ], 'jumimišeeN[ⓐ] (いずれも「お読みになる」)は、目上または親しくない対等に対する敬語で、ʔujumiŋše^{en}[ⓐ] がもっとも尊敬の度が高く、以下この順となる。'jumiŋše^{en}[ⓐ] (読まれる)は目下の年長などに対するやや軽い敬語。

活用のしかたは不規則動詞の項を参照。¹²⁾ただし、丁寧体は 'jumimišeebiⁱⁿ[ⓐ] などのように ja~i が脱落することが多い。なお、'judoo^{imišeeN}[ⓐ] (読んでいच्छる)と 'jumimisjooco^{on}[ⓐ] (お読みになっている)はともに使うようであるが、同義。

④ 希 望 (-busjan)

'jumibusjan[ⓐ] (読みたい), 'jumijuusibu^{sjan}[ⓐ] (読めるようになりたい)など。-busja < husja (「欲しさ」に対応)。形容詞に準じて活用する。

⑤ 可 能 (-juusjuN)

'jumijuusjuⁿ[ⓐ] (読むことができる), 'jumasijuusjuⁿ[ⓐ] (読ませることができる)など。

動作の主体にその能力があることを示す。sjun[ⓐ] に準じて活用する。ただし、意味が状態的であるために過去の場合に単純過去の形を用いない点などが特異である。'jumijuusjutaⁿ[ⓐ] (読むことができた)。「命令」「意志」の形も用いる。

'jumijuuQ'si⑥ (読めるようになれ), 'jumijuuQ'sa⑥ (読めるようになろう)。

⑥ 受身・可能・尊敬 (-arijuN³)

'jumarijuN⑥(読まれる・読める), 'jumasarijuN⑥(読まされる)など。

受身の場合と可能の場合とでは活用のしかたが異なる。規則動詞の項参照。また、受身の形は軽い尊敬の意にも用いうる。'jumariri⑥ (読まれよ。受身または軽い尊敬)。無意志動詞(たとえば miijuN⑥ 生える)は普通、受身の形がないようである。また、この可能は、主としてその時の状況が動作を可能にしているということを表わし、⑤の可能(主体の能力を表わす)とやや異なる。「命令」「意志」などの形は用いられない。

⑦ 使役 (-asjuN, -imijjuN³)

'jumasjuN⑥(読ませる)など。

活用は規則動詞の(v)に準ずる。ただし、sjuN①(する)の使役は simijjuN①(させる)となり、また規則動詞の(v)(サ行四段に対応するもの)の使役は、nasimijjuN①(産ませる)、toosimijjuN①(倒させる)などとなる。

2 形容詞

(1) 形容詞の活用

takasaN⑥(高い), ?uturusjaN⑥(恐ろしい)の二語を例にとって、その標準語の「連用形」に対応する形と、「終止形(現在肯定)」とを次にあげる。

(1) takaku⑥(高く) takasaN⑥(高い)

(2) ?uturusiku⑥(恐ろしく) ?uturusjaN⑥(恐ろしい)

この「終止形」(現在肯定)はそれぞれ、「高さ」に対応する形と動詞 ?aN⑥(ある)との複合、「恐ろしさ」に対応する形と ?aN⑥(ある)との複合である。

首里方言のすべての形容詞は、このように、ku に終わる「連用形」(これを ku 連用形と呼ぶことにする)と、「形容詞語幹+さ」に対応する形と ?aN⑥ との複合形(これをサアリ形と呼ぶことにする)の二つをもち、サアリ形は ?aN⑥(ある)に準じて活用する。また、一部の形容詞(主として「シク活用」に対応するもの)に多いが、その範囲未調査には、このほか、?uturusii⑥(恐ろしい)、mizirasii⑥(珍しい)などの連体形がある(これをイ連体形と呼ぶことにする)。そして、(1)

takasan① などのように、「ク活用」形容詞に対応するものはゴチックで示した部分が ku~san と交替するのに対して、(2)ʔuturusjan① のように、「シク活用」形容詞に対応するものはゴチックの部分が普通 siku~sjan のように交替する。首里方言の形容詞の種類は、大きく分けるとこの二種類となる。この二種類をやはり「ク活用」「シク活用」と呼ぶことにする。

しかし、「シク活用」に属するものの中でも ʔajaqsan① (あぶない。「あやしい」に対応), sabiqsan① (さびしい), cibiqsan① (きびしい) など, sjan に終わらないものもあり、これらは、「ク活用」に属する ʔwaqsan① (悪い), ʔjaqsan① (安い), ʔaqsan① (浅い。ʔasasan① ともいう) などとサアリ形では区別できない。しかし、ku 連用形には次のように両者の区別がある。

「シク活用」 ʔajasiku①, sabisiku①, cibisiku①

「ク活用」 ʔwaruku① ʔjaşiku①, ʔasaku①

また、平民風の発音では sjan はすべて san となるから、すべての形容詞はサアリ形では区別できない。

また、「シク活用」に属しながら、kanasjan① (かわいい) と kabasjan① (香りがいい) は、ku 連用形がそれぞれ kanaku①, kabaku① となる。

(2) 形容詞の形態論的構造

主として takasan① (高い) を例として述べる。

① ku 連用形 takaku① (高く)

中止的にも、副詞的にも用いる。

tatanoo① miiku①, tuzee① huruku①. 畳は新しく妻は古く。munoo① maaku① kamee①. 食べ物はおいしく食べろ。takaku① najun①. 高くなる。

助詞 -N (も), -ja (は) が続きうる。

takakun① neen① (高くもない), takakoo① neen① (高くはない, 高くない。takasan① の否定)。

② サアリ形 takasan①

サアリ形は ʔan① (ある) に準じて活用する。ʔan① と同様、持続態・結果態・保存態などをもたず、また、継続過去をもたない。また現在には、「命令」「意志」などの形がない。したがって、形容詞のサアリ形に属する形は、一般

の動詞に比べるとずっと少なく、その形態論的構造も簡単である。

サアリの形に属するいろいろな形の作り方は次のようである。¹³⁾ 動詞の場合と同様、ゴチックで示したものは、さらにその形が一定の活用をするものである(活用のしかたは動詞の場合に準ずる)。

<p>基本語幹から</p> <p>takasar- { -a (高いだろう) -aa~awa (高かったら) -ee (高ければ) -iwadu (高ければこそ)</p> <p>「連用形」から</p> <p>takasai- ¹⁴⁾ -gi¹saN (高いそうだ) -mi²se¹eN (高くていらっしゃる)</p> <p>takasai^① (高く) -¹duN (高くでも。takasai¹- duN^① see^①, 高くでもあれば、など)</p> <p>連用語幹から</p> <p>takasaj- -abi¹iN (高いです。takasa- ibi¹iN^① ともなる)</p> <p>短縮形語幹から</p>	<p>takasa- { -ga (高いか) -kutu (高いので) -mi (高いか) -N (高い。「終止形」) -ru (高い。「連体形」) -¹ruN (高いものだから) -¹si (高いの。「準体形」) -¹si²ga (高いが)</p> <p>音便語幹から</p> <p>takasat- { (-a¹N (高かった) -e¹eN (高かったのだ) -ai (高かったり) -i (高くて) -i¹i (高かったか。takasata¹- N^① の質問形) -iN (高くて)</p>
---	--

常体・丁寧体の現在と過去、肯定と否定とを「終止形」によって次に示す。

		肯	定	否	定
常 体	現在	takasaN ^① (高い)		takakoo ^① neeN ^① (高くない)	
	過去	takasata ¹ N ^① (高かった)		takakoo ^① neeNta ¹ N ^① (高 なかつた)	
15) 丁 寧 体	現在	takasajabi ¹ iN ^① (高いです)		takakoo ^① neejabi ¹ raN ^① (高 くありません)	
	過去	takasajabiita ¹ N ^① (高かつた です)		takakoo ^① neejabiraNta ¹ N ^① (高 くありませんでした)	

③ イ連体形 ?uturusii^① (恐ろしい)¹⁶⁾

?uturusii^① niNziN^① (恐ろしい人間), mizirasii^① hanasi^① (珍しい話), hwirumasii^① kutu^① (ふしぎなこと)など。

サアリ形の「連体形」と異なり、過去・否定などの形はなく、また係り結びの結びに用いられることもない。もっぱら体言を「修飾」するのに用いられる。

④ takasa⑩(高さ)および takasanu⑩(高くて、高いので)

この -sa, -sja に終わる形は、名詞的にも、たとえば

'wannee⑩ ?ukaasjadu⑩ ?uhusaru⑩. わたし(の病状)は危険が多い
(?ukaasjan⑩. あぶない。 -du ?uhusaru⑩ は係り結び)。

などのように用いえるが、文の終わりに次のように述語のようにして用いることが多い。その場合、文は感嘆文のような意味をもつ。

?anu⑩ muinu⑩ takasa⑩. あの山の高いことよ。

また、主体の感情を表わす形容詞のこの形は、次のように sjun⑩(する)と結びついて「…したがる」の意を表わす。

?uturusja⑩ sjun⑩(こわがる), ?uqsja⑩ sjun⑩(うれしがる), kanasja⑩ sjun⑩(かわいがる), 'jumibusja⑩ sjun⑩(読みたがる)など。
takasanu⑩(高くて、高いので)は、-sa に終わる形に助詞 -nu(が)が付いてできた形であろう。後に続く部分の理由・根拠などを示して用いられる。

3 連詞

'jan⑩, deebiru⑩, ?waanʃeen⑩~?wenʃeen⑩など、および gutoon⑩を連詞と呼ぶことにする。

① 'jan⑩(だ、である)

kuree⑩ sjumuçi⑩ 'jan⑩. これは本だ。

返答の文、問い返し文では、単独でも文となりうる。

'jan⑩. そうだ。 'jami⑩. そうか。

?an⑩(ある)に準じて活用するので、'jan⑩に属するいろいろな形も ?an⑩に準じて作られる。ただし、否定の形は ?aran⑩となる。否定の形は普通、助詞 -ja(は)とともに用いられる。肯定の場合と同様に単独でも用いえる。

kuree⑩ sjumuçee⑩ ?aran⑩. これは本ではない(sjumuçee⑩ < sjumuçi⑩ + -ja)。?aran⑩. そうではない。?arani⑩. そうでないのか。

常体と丁寧体の現在と過去、肯定と否定とを「終止形」によって次に示す。

		肯	定	否	定
常 体	現在	'jan① (だ, である)		ʔaraN① (ではない)	
	過去	'jataN① (だった, であった)		ʔarantaʔN① (ではなかった)	
15) 丁寧 体	現在	'jajabiʔin① (です)		ʔajabiʔran① (ではありません)	
	過去	'jajabiitaʔN① (でした)		ʔajabirantaʔN① (ではありませんでした)	

② deebiru① (であります, でございます)

cuoja① 'iiʔinCi① deebiru①. きょうはいいお天気でございます。

-du 'jajabiʔiru① または du-ʔajabiʔiru① の縮まったものか。平民は da-jabiru① ともいう。defective な連詞で、ほかに、deebiimi①, deebiiga① など、肯定現在の短縮形語幹に属する形を用いる。

③ ʔwaanʂeen①~ʔwenʂeen① (でおありになる, でいらっしゃる)

'jan①(だ, である)から規則的に作られる尊敬の形 ʔujainʂeʔen①~ʔujanʂeʔen① と同じ。ʔunzoo① maa① ʔwaanʂeebiiga①. あなたはどなたでいらっしゃいますか。

④ gutooN① (ようだ, ようである)

'junuru① gutooN①. 読むようだ。sjumuçinu① gutooN①. 本のようだ。

gutoo① (<gutu①+ja. gutu① は「如(ごと)」に対応)と ʔaN① (ある)の複合したものであろう。様態を推量する意にも、また比喩にも用いる。「連体形」のあと、または名詞 +nu (の)のあとに用いる。¹⁷⁾ ʔaN① に準じて活用する。

注

1) 首里方言の文法のまとまった研究には次の二つがある。

B. H. Chamberlain: *Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language* (1895) の文法の部分。

服部四郎「琉球語」(「世界言語概説」下巻 1955) の文法の部分。

この章を書くにあたっては、この二つを大いに参考とした。形態論的な分析の方法に関してはとくに後者の方法に準拠したところが大きい。そのいちいちの箇所についてその旨を断わりきれないので、ここにこのように記すにとどめる。また、次の論文からは、形態論的構造に関して少なからぬ示唆を受けた。

鈴木重幸「首里方言の動詞のいいきりの形」(国語学 41 号)

この章にあげた首里方言の形はその大部分が比嘉春潮氏の言語を上村が観察した結果である。ただし、本書の出版間際には同氏はハワイ大学の東西センターで研究中であったため、二三の疑問の点については島袋盛敏氏、および同

じく首里出身の見里朝慶氏に当たって補った。

- 2) ただし、これらの名称は通時的見地にもとづく便宜的なものに過ぎない。「融合語幹」(61 ページ)という名称についても同様である。
- 3) 本文の見出しには便宜上それぞれ、-rijuN, -rijun -sjuN(-simijun), -ganaasi の形で出している。
- 4) 基本語幹末に r をもつ動詞は、この形がたとえば tuNna@ (取るな), ʔukiNna@ (起きるな), misjuonNa@ (なさるな) などのようになる。
- 5) -ni~-nee は、連用形末尾のモーラが 'i (ただし単に i と書かれる) よりなるものには直接付き、末尾のモーラが他の子音音素と i よりなるものには、それにさらに 'i (i と書く) を重ねた形に付く。たとえば tui- (取り), ʔukii- (起き) は tuinee@, ʔukiinee@ となり、kanzi- (かぶり), kaci- (書き), は kanziinee@, kaciinee@ となる。
- 6) この 'junuir- という語幹は、'junui- にさらに「居り」が複合したものか。ただし鳥袋氏はこの語幹から作られる形を用いないようである。
- 7) B. H. Chamberlain が 'junuga@ (読むか), 'junukutu@ (読むので) などの 'junu- を apocopated form (短縮形) と呼んでいるので、この語幹を便宜的に短縮形語幹と呼ぶことにする。ただし、この語幹が「短縮」によって生じたとは思われない。
- 8) 66~67 ページを参照。
- 9) 鳥袋氏は ʔaʔeun@ を補助動詞としては用いない。
- 10) 'judoon@ (読んでいる) の語幹はすべて 'un@ (いる) と融合した語幹であるから、元来は融合語幹の基本語幹、融合語幹の連用語幹などと呼ぶべきものであるが、わずらわしいので、普通態の語幹と同じ呼び方をした。'judeen@ (読んである) および過去の場合も同様なことがいえる。また否定の形の語幹も肯定普通態の語幹に準じて呼んだ。
- 11) 鳥袋氏は確言過去の形(過去の項に記したものを除く)を用いないという。
- 12) たとえば、'jumimisjoora'a@, 'jumimiʔeera'a@ はそれぞれ、'juma@, 'junuraa@ の尊敬の形。
- 13) 語幹の名称については注 10) と同様のことがいえる。
- 14) -gisan は一部の形容詞の「語根」に付く場合があるが、意味が異なる。
(ʔidagisan@ (涼しそうだ) (ʔuturugisan@ (恐ろしそうだ)
(ʔidasaiḡisan@ (涼しいそうだ) (ʔuturusjaigisan@ (恐ろしいそうだ)
- 15) 末尾の jabiin は ibiin ともなる。71 ページ参照。
- 16) 琉球大学の比嘉亀盛氏の国語学会研究発表会(1962年11月)でのお話によれば、「イ連体形」と「サアリ」系の連体形には、ニュアンスの差があり、前者にはやや換情的、強調的なニュアンスがあるという。
- 17) ただし、'waa-(わたしの<'wan@), ʔjaa@ (おまえ), taa@ (だれ) など、および人名には 'waaguto'on@ のように直接つき、ʔari@ (彼), ʔunzu@ (あなた) などは、-ga(が)が付いて ʔariga@ gutoon@ のようになる。

本 文 篇

凡 例……………89~98

本 文……………99~607

配 列 順

ʔa(-a)	b	c, ɕ	d	ʔe	'e
99	130	140	173	183	185
g	h	ʔi	'i(-i)	ʔj	'j(-j)
186	197	244	264	269	270
k	ʔm	m	n	ʔN	'N(-N)
297	352	353	399	430	434
ʔo	'o	p	q	r	s, ʂ
439	441	442	444	447	451
t	ʔu	'u(-u)	ʔw	'w(-w)	z, ʒ
501	536	576	581	587	597

()の中は接尾的な成分や助詞などが見出し語となる場合

凡 例

(1) 見出し語の形

単語(最小自由形式)を見出し語とすることを原則とした。したがって、複合語も独立の見出し語として扱われている。慣用句の中でしか用いられない形は、(句)としてその慣用句を見出し語の中に加えた。また、単語より小さい接頭辞、接尾辞などの付属形式は、接頭的なものはその末尾に-(ハイフン)を付け、接尾的なものはその初めに-(ハイフン)を付けて見出し語の中に加えた。ただし、同じ形が単語としても、また付属形式として接頭的あるいは接尾的にも用いられる場合には、単語として見出し語に出し、その接頭的あるいは接尾的な用法は、意味分類の中で示した。その場合、見出し語に付けたアクセント記号は、その形が単語として用いられた場合のものである。

また、助詞は種々の品詞に付く文末の助詞と、間投的な助詞とは-(ハイフン)を付けないで、その他の助詞は初めに-(ハイフン)を付けて、見出し語としてある。

変わり語形や、活用する語の活用形・派生形については、次のように扱った。

- ① 貴族・士族の成年男子の発音である *ç*, *ş*, *z*, *sj* は、その他の人びとの発音では、それぞれ規則的に *c*, *s*, *z*, *s* となるが(解説篇参照)、前者の場合のみを見出し語としてかかげ、後者の場合を見出し語としない。
- ② *ijun* で終わる動詞(たとえば *ʔukijun*Ⓞ「起きる」、*ʔijun*Ⓞ「入る」)はすべて、*iin* (たとえば *ʔukiin*Ⓞ「起きる」、*ʔiin*Ⓞ「入る」)ともいうが(解説篇参照)、これらの動詞はいつも、*ijun* で終わる形だけを見出し語としてかかげる。
- ③ *nun* で終わる動詞(たとえば *ʔjunun*Ⓞ「読む」、*nunun*Ⓞ「飲む」)は、*sinun*Ⓞ(死ぬ) 1語を除き、すべて、*mun* で終わる(たとえば *ʔjumun*Ⓞ「読む」、*numun*Ⓞ「飲む」)こともあり、また、古風な発音では *mjun* で終わる(たとえば *ʔjumjun*Ⓞ「読む」、*numjun*Ⓞ「飲む」)こともあるが(解説篇参照)、これらの動詞はいつも、*nun* で終わる形だけを見出し語としてかかげる。
- ④ 活用する語(動詞・形容詞・連詞)は、その肯定現在(動詞の場合はその普通態)のいわゆる「終止形」(解説篇参照)のみを見出し語とする。ただし、肯定普通態現在の「終止形」を欠く動詞(たとえば *teewa*Ⓞ「お食べ」、*taboori*Ⓞ「下さい」)のように命令形しかない動詞はこの限りでない。

- ⑤ 標準語の「形容詞語幹+サ」に対応する形(たとえば takasa①「高さ」, ʔuturusja①「恐ろしさ」など。その用法は解説篇参照)は見出し語としない。形容詞の肯定現在の「終止形」(たとえば takasan①「高い」, ʔuturusjan①「恐ろしい」)の末尾の N を除くと、この形が規則的に得られるからである。
- ⑥ 口語では長く発音されて2モーラに数えられるものが、組踊り(kumiudui①)・琉歌(ruuka①)などの文語で韻律の関係から短く1モーラに数えられることがあるが、そのような場合の文語の形は見出し語としない。たとえば 'waa-(わたしの)は、文語では韻律の関係で 'waʔujaga'nasi①(わが親御)のようにしばしば短く 'wa-(わが)となるが、この 'wa- は見出し語に入れない。
- ⑦ 以上のような規則的に得られる変わり語形を除き、一語一語の個別的な変わり語形は可能な限り見出し語に加えた。たとえば「似合い」に対応する語は nee①とも niee①とも niiee①ともいうが、いずれも見出し語として出している。

(2) 見出し語のアクセントの表記

アクセント(詳細は解説篇参照)は見出し語の音韻表記のすぐ次に、平板型の単語は①、下降型の単語は②を付けて示す。また、二次的な下降は、見出し語の音韻表記中の、その下降が起こる位置に直接¹を付けて示した。ただし自立語以外の形(前か後ろにハイフンを付けた形)にはアクセント(二次的下降を除く)を付けない。

(3) 見出し語の配列

見出し語の配列はアルファベット順であるが、ローマ字のアルファベットにない字母(ʔ, ', e, s, z の5個)とスモールキャピタル(N, Q の2個)は次のように扱った。なお、見出し語のローマ字は貴族・士族の成年男子の発音にもとづく音韻表記(詳細は解説篇を参照)である。この「凡例」の末尾にかかげた「字母およびモーラ(短音節)一覧表」を参照されたい。

- ① ʔ と ' — これらは存在を無視して扱う。すなわち、この二つは a, e, i, j, m, N, o, u, w の9種の字母の前で用いられるので、この9種の字母の来るべき位置に置く。たとえば ʔa は a の来るべき位置、つまり冒頭に置き、ʔe は e の来るべき位置、つまり d のあと g の前(fはない)に置く。ただし、ʔ はいつも ' の前に置く。たとえば ʔe は 'e の前に、また ʔw は 'w の前に置く。また、語中の ' は省略して表記しない(解説篇参照)ので、たとえば語中の ʔe は e (本来は 'e と書くべきもの)の前に置かれている。

- ② c, s, z — これらは、セディーラを無視して、それぞれ、c, s, z と同一のものとして扱い、c, s, z の来るべき位置に置く。このような扱いをしたのは女・子供や平民、また最近の一般の発音では c と c̣, s と ṣ, z と ẓ は相互に区別されない(解説篇参照)ので、この方が見出し語を検索するのに便利かと考えたからである。ただし、セディーラの有無によってのみ二つの見出し語が区別される場合には、セディーラのない方の語をさきに置く。たとえば zaa①(座)は zaa①(蛇)のすぐあとに置き、sina①(砂)は sina①(品)のすぐあとに置く。
- ③ N — これは ?N, 'N, hN の三種の結合としてしかあらわれない。まず、?N と 'N とは n のあと、?o の前に置いて、…n, ?N, 'N, ?o… の順に並べる。なお、'N は語中では ' を省略して単に N と書いてある。また hN は h の項の中に hj のあと、ho の前に置く。もっとも hN を含む語は全部で2語しかない。
- ④ q — これは p のあと、r の前(q はない)に置く。

(4) 品詞名などの注記

見出し語の単語にはすべて、その属する品詞名を次のように示してある。

- (名) 名詞 (いわゆる代名詞, および, いわゆる形容動詞の語幹を含む)
- (自) 自動詞
- (他) 他動詞
- (形) 形容詞
- (連詞) 連詞 ('jaN①「だ, である」, gutooN①「ようだ」など)
- (副) 副詞
- (連体) 連体詞
- (接続) 接続詞
- (感動) 感動詞
- (助) 助詞

しかし、首里方言の文法のくわしい研究があまり進んでいないので、これらの注記は便宜的なものに過ぎない。動詞を自動詞と他動詞に分けて記したのも同様である。また、助詞と記したものがすべて単語(この場合、付属語)であるとはいえないが、標準語の文法で普通「助詞」とされているものの大部分はここでも便宜的に助詞と記した。ただし、いわゆる「接続助詞」に相当するものはその大部分を(接尾)に入

れた。また、通常「助動詞」とされるものは、一部は連詞に、一部は動詞・形容詞・連詞などに含まれた成分として、(接尾)に入れた。

単語以外のものの注記は次のようにした。

(句) 二単語またはそれ以上から成る慣用句で、それを構成する単語のどれかが、その慣用句以外では用いられないもの。

(接頭) 接頭辞および接頭的な諸種の付属形式

(接尾) 接尾辞および接尾的な諸種の付属形式

(5) 活用の注記

規則動詞はその「…しない(否定普通態現在の「終止形」)」の形と、「…して(普通態の分詞)」の形とを、たとえば次のように記してある。

'ju=nun④(他 =maN, =di)…「読む」

これは 'junun④(読む。肯定普通態現在の「終止形」)の「…しない」の形が 'ju-maN④(読まない)、「…して」の形が 'judi④(読んで)であることを示す。

不規則動詞と連詞(全部不規則)はたとえば次のように、「不規則」と記されている。

sjun④(他・不規則)…「する」

なお活用の細部(および形容詞の活用)については解説篇参照。

(6) 見出し語における文語・古語・新語などの注記

[]で示した注記の意味は次のとおりである。

[文] ふつう文語としてのみ用いられる語。その大部分は組踊り(kumiudui④)、琉歌(ruuka④)などの韻文中に用いられるものである。

[古] 明治の中ごろから末期ごろにはすでにあまり用いられなくなっていたと思われる語。

[新] 明治以降使われるようになった語。標準語からの借用語を含む。

[新?] 明治以降使われるようになった新語(標準語からの借用語を含む)かもしれないと思われる語。

(7) 見出し語および例文における文語の表記

[]に入れて示した漢字および平仮名は、文語の伝統的な表記である(解説篇参照)。このうち、組踊りから採った例文の表記は、伊波普猷編「琉球戯曲集」(1929)のそれにほぼ従った。他のもの(琉歌を含む)の表記は、島袋氏または比嘉氏の表記

に従った。また、組踊りから採った例文は[]の末尾にその組踊りの題を記してある。琉歌は8・8・8・6の定型をもっているので、例文に琉歌を採った場合、それが琉歌であることをいちいちわかっていない。

なお、地名の漢字表記は[]で囲まなかった。

(8) 意味の記し方

見出し語の意味が多義にわたる場合には、適宜 ⊖, ⊕, ⊙, …などのように分けて記した。大体、⊖に基本的な意味を、⊕以下に派生的な意味を記した場合が多い。まれに、⊖, ⊕, ⊙, …などのさらに下位の分類として イ、ロ、ハ、…を用いた。なお、地名が見出し語となっている場合に、意味の説明のところに「(地)参照。」と記されているのは付録の「地名一覧」を参照されたいという意味である。

(9) 例 文

例文も見出し語と同じく音韻表記によって記した。また、その例文が文語である場合には、さらに[]の中に漢字平仮名の伝統的な表記を記した。見出し語を例文の中でそのまま単語として用いる場合には、省略符号 ~ を用いて示した。ただし、活用、助詞の融合その他の理由で例文の中の形が見出し語と違っている場合は ~ を用いなかった。また、見出し語の形が複合語の成分として例文の中に用いられた場合にも ~ を用いなかった。

例文にはすべて直訳調の訳文を付したが、見出し語に sjun⓪(する)を付けただけの例文に限り、訳文がなくても意味が明らかな場合には訳文を付けなかった。

(10) 字母およびモーラ(短音節)一覧表

字母 (配列順) による)	その字母を 含むモーラ (配列順) による)	その音 声表記	島袋氏 の稿本 の表記	語 例	その音声 表 記	島袋氏の 表 記	意 味
ʔa	ʔa	[ʔa]	ア	ʔami⓪	[ʔami]	アミ	(雨)
b	ba	[ba]	バ	baa⓪	[ba:]	バー	(場合)
	be	[be]	ベ	bee⓪	[be:]	ベー	(倍)
	bi	[bi]	ビ	bin⓪	[biN]	ビン	(紅)
	bjā	[bjā]	ビヤ	sanbjaku⓪	[sambjaku]	サンビヤク(三百)	
	bjo	[bjo]	ビョ	bjooci⓪	[bjo:tʃi]	ビョーチ	(病氣)
	bju	[bju]	ビュ	bjuu⓪	[bjuː]	ビュー	(廟)
	bo	[bo]	ボ	boohujaa⓪	[bo:Φuja:]	ボーフヤー(ほうふら)	

字母 (配列順) による)	その字母を 含むモロー (配列順) による)	その音記 声	島袋氏 稿本の 表記	語 例	その音記 表	島袋氏の 記 意 味
	bu	[bu]	ブ	bura①	[bu'ra]	ブラ (ほら貝)
c, ç	ca	[tja]	チャ	caa①	[tja:]	チャー (茶)
	○ça	[tsa]	ツァ	maçaa①	[matsa:]	マツァー (松…平民 の人名, 卑 称)
	ce	[tje]	チェ	micee①	[mi'tje:]	ミチェー (道は)
	○çe	[tse]	ツェ	sjumuçee①	[ʃumutse:]	シユムツェー (本は)
	ci	[tji]	チ	cimu①	[tʃimu]	チム (心, 肝)
	○çi	[tsi]	ツイ	çiburu①	[tsiburu]	ツイブル (頭)
	co	[tʃo]	チョ	coociN①	[tʃo:tʃiN]	チョーチン (提燈)
	○ço	[tso]	ツォ	çoon'çoon①	[tso:n'tso:N]	ツォーンに入るはヤ ツォーンしの文句
	cu	[tʃu]	チュ	cuu①	[tʃu:]	チュー (きょう)
	çu	[tsu]	ツ	çukujun①	[tsukujun]	ツクユン (作る)
d	da	[da]	ダ	daki①	[da'ki]	ダキ (竹)
	de	[de]	デ	dee①	[de:]	デー (台)
	○di	[di]	ディ	dikijun①	[dikijun]	ディキユン (できる)
	do	[do]	ド	doo①	[do:]	ドー (ろうそく)
	○du	[du]	ドゥ	duku①	[duku]	ドゥク (毒)
ʔe	○ʔe	[ʔie]	イエ	ʔeesaçi①	[ʔie'satsi]	イヤツィ (あいさつ)
'e	○'e	[ʔe]	エ	'eema①	[ʔe'ma]	エーマ (八重山)
g	ga	[ga]	ガ	gaanaa①	[ga:na:]	ガーナー (鷺鳥)
	ge	[ge]	ゲ	teegee①	[te:ge:]	テーゲー (大概)
	gi	[gi]	ギ	ʔagi①	[ʔa'gi]	アギ (陸)
	go	[go]	ゴ	googuci①	[go:gutʃi]	ゴークチ (不平)
	gu	[gu]	グ	gumi①	[gumi]	グミ (ごみ)
	○gwa	[gwa]	グワ	gwaNziçi①	[gwandʒitsi]	グワンジツィ (元日)
	○gwe	[gwe]	グエ	gweqtai①	[gwettai]	グエッタイ (ぬかるみ)
	○gwi	[gwi]	グヰ	gumagwii①	[gumagwi:]	グマグヰー (小声)
h	ha	[ha]	ハ	haa①	[ha:]	ハー (歯)

	he	[he]	へ	hei①	[he'i]	へイ(おい…感動詞)
	hi	[çi]	ヒ	hija①	[çi'ja]	ヒヤ(えい…感動詞)
	hja	[ça]	ヒャ	hjaaku①	[ça:ku]	ヒャーク(百)
	hjo	[ço]	ヒョ	hjoosi①	[ço:ʃi]	ヒョーシ(拍子)
	hju	[çu]	ヒュ	hjuusi①	[çu:ʃi]	ヒュージ(ひよどり)
	OhN	[N̄N̄]	フン	hNN①	[N̄N̄:]	フン(ふん…感動詞)
	ho	[ho]	ホ	hootu①	[ho:tu]	ホトウ(鳩)
	hu	[Φu]	フ	husi①	[Φu'ʃi]	フシ(星)
	Ohwa	[Φa]	フワ	hwaa①	[Φa':]	フワー(葉)
	Ohwe	[Φe]	フエ	hwee①	[Φe':]	フエー(蠅)
	Ohwi	[Φi]	フィ	hwii①	[Φi:]	フィー(火)
ʔi	ʔi	[ʔi]	イ	ʔiN①	[ʔiN]	イン(犬)
'i	○'i	[ʃi]	キ	'iN①	[ʃiN]	キン(縁)
ʔj	○ʔja	[ʔja]	イヤ	ʔjaa①	[ʔja':]	イヤー(おまえ)
	○ʔjo	[ʔjo]	イョ	ʔjooii①	[ʔjo:i:]	イョーイー(おきな子)
	○ʔju	[ʔju]	イユ	ʔjun①	[ʔju'N]	イユン(言う)
'j	'ja	[ja]	ヤ	'jaa①	[ja:]	ヤー(家)
	'jo	[jo]	ヨ	'joosaN①	[jo:saN]	ヨーサン(弱い)
	'ju	[ju]	ユ	'juu①	[ju:]	ユー(湯)
k	ka	[ka]	カ	kaa①	[ka:]	カー(皮)
	ke	[ke]	ケ	keesjuN①	[ke:ʃuN]	ケーシュン(返す)
	ki	[ki]	キ	kii①	[ki:]	キー(木)
	ko	[ko]	コ	koojuN①	[ko':juN]	コーユン(買う)
	ku	[ku]	ク	kuu①	[ku:]	クー(粉)
	Okwa	[kwa]	クワ	kwaa①	[kwa:]	クワー(桑)
	Okwe	[kwe]	クエ	kweejuN①	[kwe:juN]	クエーユン(肥える)
	Okwi	[kwi]	クヰ	kwii①	[kwi:]	クヰー(声)
ʔm	○ʔme	[ʔme]	め	ʔmeNʃeen①	[ʔme'Nse:N]	めンセーン(いらっ しゃる)
m	ma	[ma]	マ	maaçi①	[ma:tsi]	マーツイ(松)
	me	[me]	メ	mee①	[me:]	メー(前)

字母 (配列順) による	その字母を 含む (配列順) による	その音 声表記	島袋氏 の表記	語 例	その音声 表記	島袋氏の 表記	意 味
	mi	[mi]	ミ	mimi⑩	[mimi]	ミミ	(耳)
	mja	[mja]	ミヤ	mjaku⑩	[mjaku]	ミヤク	(脈)
	mjo	[mjo]	ミョ	mjoozi⑩	[mjo:ʒi]	ミョージ	(苗字)
	mju	[mju]	ミュ	mjuu⑩	[mjuː]	ミュー	(妙)
	mo	[mo]	モ	moo⑩	[mo:]	モー	(野原)
	mu	[mu]	ム	mucun⑩	[mutʃun]	ムチュン	(持つ)
n	na	[na]	ナ	naa⑩	[naː]	ナー	(名)
	ne	[ne]	ネ	neeN⑩	[ne:N]	ネーン	(無い)
	ni	[ni]	ニ	nii⑩	[ni:]	ニー	(荷)
	nja	[nja]	ニヤ	njaa⑩	[njaː]	ニヤー	(もう)
	nju	[nju]	ニュ	njuNzu⑩	[njuˈNdʒu]	ニュンジュ	(あなたさま)
	no	[no]	ノ	noojuN⑩	[no:juN]	ノーユン	(直る)
	nu	[nu]	ヌ	nuu⑩	[nu:]	ヌー	(何)
?N	○?N		マ	?Nma⑩	[?m̩ma]	マ	(馬)
'N	'N		ン	'Nna⑩	[n̩'na]	ンナ	(皆)
?o	?o	[?o]	オ	?oeee⑩	[?o:e:]	オーエー	(けんか)
'o	○o	[o]	ヲ	'oo⑩	[o:]	ヲー	(王)
p	pa	[pa]	パ	paasuNkoo⑩	[pa:suŋko:]	パース ンコー	(菓子名)
	pe	[pe]	ペ	peecin⑩	[pe:tʃin]	ペーチン	(位階名)
	pi	[pi]	ピ	piipii⑩	[pi:pi:]	ピーピー	(ねずみの 小児語)
	pja	[pja]	ピヤ	ruQpjaku⑩	[ruppjaku]	ルッピーヤク	(六百)
	pju	[pju]	ピュ	?iQppjuu⑩	[?ippju:]	イッピーュー	(一俵)
Q	Q			qcu⑩	[tʃʰu]	チュ	(人)
r	ra	[ra]	ラ	kura⑩	[kura]	クラ	(倉)
	re	[re]	レ	kuree⑩	[kureː]	クレー	(位階)
	ri	[ri]	リ	kuri⑩	[kuˈri]	クリ	(これ)
	ro	[ro]	ロ	?iroo⑩	[?iro:]	イロー	(色は)
	ru	[ru]	ル	?iru⑩	[?iru]	イル	(色)

s, ʃ	sa	[sa]	サ	saataa①	[sa:ta:]	サーター	(砂糖)
	○se	[fe]	シェ	seeki①	[fe:ki]	シェーキ	(開墾)
	ʃe	[se]	セ	ʃee①	[se:]	セー	(ばった)
	si	[fi]	シ	sii①	[fi:]	シー	(椎)
	○ʃi	[si]	スイ	ʃii①	[ʃi:]	スイー	(菓)
	sja	[fa]	シャ	sjaakaganasi①	[fa:kaganaʃi]	シャーカー	(おしゃか さま)
	sjo	[fo]	ショ	sjoogwaçi①	[fo:gwatsi]	ショグワツィ	(正月)
	sju	[fu]	シュ	sjuu①	[fu:]	シュー	(潮)
	so	[so]	ソ	soo①	[so:]	ソー	(竿)
	su	[su]	ス	suujuN①	[suːjuN]	スーユン	(吸う)
t	ta	[ta]	タ	taa①	[ta:]	ター	(田)
	te	[te]	テ	teegee①	[te:ge:]	テーゲー	(大概)
	○ti	[ti]	ティ	tii①	[ti:]	ティー	(手)
	to	[to]	ト	too①	[to:]	トー	(中国)
	○tu	[tu]	トゥ	tui①	[tui]	トゥイ	(鳥)
ʔu	ʔu	[ʔu]	ウ	ʔumi①	[ʔumi]	ウミ	(海)
ʔu	○ʔu	[wu]	ヲ	ʔuN①	[wuːN]	ヲン	(居る)
ʔw	○ʔwa	[ʔwa]	ウ	ʔwaa①	[ʔwa:]	ウワー	(豚)
	○ʔwe	[ʔwe]	ウェ	ʔweeka①	[ʔwe:ka]	ウェーカ	(親戚)
	○ʔwi	[ʔwi]	ウヰ	ʔwii①	[ʔwiː]	ウヰー	(上)
ʔw	ʔwa	[wa]	ワ	ʔwaN①	[waN]	ワン	(わたし)
	○ʔwe	[we]	エ	ʃeewee①	[ʃeːwe:]	セーエー	(さいわい)
	○ʔwi	[wi]	エイ	ʔwinagu①	[winagu]	エイナグ	(女)
z, ʒ	za	[dʒa]	ジャ, ヂャ	zama①	[dʒaːma]	ジャマ	(邪魔)
	za	[dza]	ザ	zaa①	[dza:]	ザー	(座)
	○ze	[dʒe]	ジェ, ヂェ	kazee①	[kaʒeː]	カジェー	(風は)
	ze	[dze]	ゼ	zeegi①	[dze:gi]	ゼーギ	(銘木)
	zi	[dʒi]	ジ, ヂ	zii①	[dʒi:]	ジー	(字)
	○zi	[dzi]	ヅ	miʒi①	[miːzi]	ミヅィ	(水)

字母順 (配列順) による)	その字母を 含むモーラ (配列順) による)	その音 声表記	鳥袋氏 の稿本 表記	語 例	その音 声記 表	鳥袋氏 の記 表	意 味
	zo	[dʒo]	ジョ, ヂョ	zoo①	[dʒo:]	ジョー	(門)
	zo	[dzo]	ゾ	zooi①	[dzoːi]	ゾーイ	(とても)
	zu	[dʒu]	ジュ, ヂュ	zuubaku①	[dʒuːbaku]	ジューバク	(重箱)
	zu	[dzu]	ズ, ヅ	zuri①	[dzuːri]	ヅリ	(女郎)

○印は標準語に近似的な音のないもの。くわしくは解説篇参照。

(11) 本文篇中に付した*(星印)について

鳥袋・比嘉両氏の話す首里方言、および首里方言についての両氏の記憶にはわずかながら異なる点がある(「編集経過の概要」参照)。*(星印)はそのような食い違った箇所を示すもので、鳥袋氏が本文篇の校正刷りを通読した際に行なった指摘に基づいて研究所が付けたものである。すなわち、見出し語の右肩に*のあるものはその見出し語が、⊖、⊕……などの意味分類の番号の右肩に*のあるものはその見出し語のその部分の意味が、意味を記した文・例文・訳文の文末の右肩に*のあるものは、その意味・その例文・その訳文が、それぞれ鳥袋氏の知らないもの、または鳥袋氏の首里方言の記憶と違っているものである。

ʔa, - a

ʔaa① (感) ああ。物事に深く感じた時発する声。

ʔaa② (名) 泡。ʔaabuku ともいう。～nu tacuN. 泡が立つ。

ʔaa③ (名) 安和。《地》参照。

ʔaaʔaa① (感・副) ああああ。ため息をつくさま。～sjun. ああああと嘆息する。

ʔaabaasaabaa② (副) ペちゃくちゃ。とりとめもなくしゃべるさま。～munu 'junuN. ペちゃくちゃしゃべる。

ʔaabuku② (名) 泡。あぶく。

ʔaaci② (助詞的に用いられる) 同時に。 <ʔaasjuN (合わせる)。ʔieusitu ~. 行くのと同時に。ʔjuʔitu ~. 言うのと同時に。

ʔaacirahja'acira② (副) ペちゃくちゃ。べらべら。とりとめもなくしゃべるさま。～munu 'junuN. ペちゃくちゃしゃべる。

ʔaaguuru② (名) かくれんぼ (kwaqkwindooree) で、隠れた者を捜し出せずに鬼が降参すること。また、その降参する時に言うことば。鬼が ʔaaguuru と叫ぶと、隠れた子供たちが現われ、鬼にお辞儀をさせてから、やり直す。

ʔaahjan garee② (感) 短気を起こした時などに発する声。ちくしょう。

ʔaa=juN② (自 =raN, =ti) 合う。計算が合う・時計が合うなどの意では、新しくは ʔatajun を多く用いるようになった。ʔunu hujaa ʔjaahwisjatu ʔaajumi. その靴はおまえの足に合うか。saNminoo ʔaatoomi. 計算は合っているか。

ʔaaka=sjuN② (他 =saN, =ci) 割る。裂く。離す。また、割れ目を入れる。

ʔaakeezuu② (名) とんぼ。

ʔaaki② (名) 裂け目。割れ目。ひび。すき間。hasirunu ~kara suumi sjun. 雨

声のすき間からのぞき見する。hwiiraa ja haajanu ~nakain 'un. ごきぶりは柱の割れ目にもいる。

ʔaakii② (名) 組踊り用語。愁嘆場。親子兄弟の別離・再会などで、感情が高まる場面。ʔaki ʔicaga najura. (ああ、どうなることか), ʔaki ʔimiga 'jajura. (ああ夢ではないか)などの ʔaki を、地謡が長く引き延ばして歌うのでこういう。

ʔaaki=juN② (自 =raN, =ti) ⊖割れる。裂けて離れる。また、ひびが入る。裂け目ができる。ʔicanu kariti ~. 板が枯れて割れる。muraziNmi sjaʔiga, ʔikuçinunkai ʔaakitan. 村の協議をしたが、意見がいくつにも割れた。⊖言行が食い違ふ。つじつまが合わない。矛盾する。taiga ʔjuru kutubanu ʔaakitooN. ふたりの言うことばは矛盾している。ʔariga ʔjuru kutoo ʔatutu sacitu caa ~. 彼の言うことは前とあとといつも食い違ふ。

ʔaamni② (名) 泡盛。普通は単に saki という。

ʔaaqca② (名) ʔaaqca (歩くことの小児語) と同じ。

ʔaaraNceee② (名) 麻布の一種。さらしてない無地の麻布。bingata [紅型] や ʔee-gata [藍型] などに加工する前の布。

ʔaaraNkaa② (名) 飾り気のない人。ありのままで遠慮のない人。ʔaree ~ 'jaku-tu, maqtoobandi ʔicee maqtooba 'jan. 彼はありのままの人だから、正直といえど正直だ。

ʔaasa② (名) ⊖海草の名。青のりの一種。あおさ。わかめのようにして汁の実などにする。mooʔaasa と区別して ʔumiʔaasa

ʔaasaʔirici

ともいう。⊖ mooʔaasa (きのこの一種)と同じ。

ʔaasaʔiriciⓐ (名) 料理名。mooʔaasa の油いため。

ʔaasiⓐ (名) 泡瀬。中頭郡東海岸にある港。

ʔaasikaganⓐ (名) 合わせ鏡。後ろ姿を見るために、前後から鏡を合わせて見ること。
～ sjuN.

ʔaasimUNⓐ (名) 裕。裏付きの着物。

ʔaasizINⓐ (名) ʔaasimUN と同じ。ʔaasimUN を多く用いる。

ʔaa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ⊖合わせる。適合させる。規準などに合わせる。⊖調合する。kusui ~. 薬を調合する。⊖牛などを戦わせる。ʔusi ~. 牛を戦わせる。

ʔaa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 粉に水などを加え、練りかえす。こね合わせる。nui ~. のりをこね合わせる。

ʔaata¹baiⓐ (名) またぐらの痛い時など、またを横に広げるようにして歩くこと。その滑稽な歩き方を嘲笑して言う語。ʔaata- は ʔataku, ʔatabici (ともに蛙の種類の名) の ʔata- と関係ある形か。ʔaatabai は蛙のよちよち歩く歩き方と似ている。
～ sjuN. 足を広げてよちよち歩く。

ʔaataⓐ najuNⓐ (句) 疲れてくたくたになる。疲れてぐにゃぐにゃになる。のびる。

ʔaatootuⓐ (感) 神仏を拜む時に発する声。あなとると。女は ʔuutootu とも言う。

ʔabaaⓐ (名) 姉。ねえさん。農村で用いる語。首里では、士族については ʔNmii, 平民については ʔaNgwaa という。

ʔabacino¹oriⓐ (副) もて余すさま。身動きのとれないようなさま。～ sjuN.

ʔabacisigutuⓐ (名) 手に余る仕事。もて余す仕事。

ʔaba-cuNⓐ (自 =kaN, =ci) たくさんの着物・大きすぎる着物などを着てもて余す。

また、仕事などをもて余す。sigutu ʔu-hooku ʔiiçikiraqti ʔabacoosa. 仕事をたくさん言い付けられてもて余しているよ。

ʔabaraaⓐ (名) 大食い。大食漢

ʔabarajaⓐ (名) [文] あばらや。

ʔabasiⓐ (名) おてんば。おしゃべりな女。

ʔabasiⓐ (名) 魚の名。おこぜの類。暖海に産し、刺がたくさんある。

ʔabasjaaⓐ (名) ʔabasi (おてんば) と同じ。

ʔabiigwiiⓐ (名) 叫び声。kaamakara ~ nu cikariiN. 遠くから叫び声が聞こえる。

ʔabiihoo=ju¹Nⓐ (自 =raN, =ti) わめき散らす。どなり散らす。

ʔabiiʔuduruka=sju¹Nⓐ (他 =saN, =ci) 大声でどなって驚かす。

ʔabijaaⓐ (名) ⊖叫ぶ者。わめく者。泣きわめく者。鳴くもの。⊖鳴くせみ。鳴かないせみは çiiɡaa という。

ʔabijaatii¹jaaⓐ (副) わめき散らすさま。また、大勢がわいわい騒ぐさま。喧喧ごうごう。～ sjuN.

ʔabi=junⓐ (自 =raN, =ti) ⊖叫ぶ。大声で呼ぶ。また、わめく。どなる。ʔabiti¹NNdee. 大声で呼んでみろ。⊖大声で泣く。泣き叫ぶ。⊖ほえる。犬・猫・豚などが鳴く。

-abi=jun (接尾 =raN, =ti, 一部不規則) ます。…します。話し相手に対する丁寧の敬語。-abiIN ということが多い。'uN (いる)と複合した動詞 (すなわち一般の動詞) に付く時には、その「終止形」から uN を除いた形につく。kacuN (書く)→kacabiIN (書きます), tujun (取る)→tujabiIN (取ります)など。'uN (いる), ʔaN (ある), ʔjaN (だ)などに付く時には末尾の N を除いた形に付き, ʔujabiIN, ʔuibiiN (います), ʔajabiIN, ʔaibiIN (あります), ʔajabiIN, ʔaibiIN (です)のように, -jabiIN もしくは -ibiIN となる。形容詞の場

合も同じく tuusan (遠い)→tuusaja-biin, tuusaibin (遠いです) のようになる。'junabira. 読みましょう。'jumi-mišeējabiimi. お読みになりますか。

ʔabu① (名) 安部。《地》参照。

ʔabu=cuN① (自 =kaN, =ci) 飯などが吹きこぼれる。沸騰して吹き出る。

ʔabu=cuN① (自 =kaN, =ci) 暑くて蒸し蒸しする。蒸すように暑い。

ʔabui① (名) あぶみ。

ʔabuikuu① (名) 魚や餅などを焼く金網。

ʔabu=juN① (他 =raN, =ti) あぶる。食物などを焼く。また、火にかざし暖める。muci ~. 餅を焼く。tiinusaci ~. 手の先をあぶる。

ʔabunasjaN① (形) [文・新] 危い。元来は ʔukaasjaN という。ʔabunee tukuru. 危い所。

ʔabusi① (名) あぜ。田のあぜ。

ʔabusibaree① (名) あぜ祇いの意。旧暦4月に行なう田の祭り。仕事を休み、ごちそりを作って一日を遊び暮らす。また、海人草 (nacoora) を煎じて飲み、海人草の雑炊を食べる。海人草は回虫を除くにのに効くとされる。

ʔabusimaku'ra① (名) [文] 稲の穂がみのり、ʔabusi (あぜ) を枕にすること。豊作を形容している語。

ʔabusimici① (名) あぜ道。

ʔaca① (名) あした。あす。

ʔaca'ʔasa① (名) あしたの朝。

ʔacagai① (名) 時期が終わること。

ʔacaga=juN① (自 =raN, =ti) ⊖時期が去る。時期はずれとなる。ʔacineenu ~. 商売の時期が終わる。⊖飽きが来る。仕事・人などに対する熱がさめる。tageeni ʔiqpee kanasja sjootaru mun, kunee-daŋšee ʔacagatooru gutoosa. 互いにとても愛し合っていたのに、このごろは熱がさめたようだ。

ʔaca'juru① (名) あしたの夜。

ʔaca'jusandi① (名) あしたの晩。

ʔaca'sutumiti① (名) あしたの朝。

ʔaci① (名) ⊖[文] 秋。秋という季節感がないので、口語ではほとんど使わない。
⊖[古] 収穫の時期。刈り入れ時。

ʔaçibee① (名) 熱灰。まだ火気のある灰。~Nkai hwisja ʔiqtannee. 熱い灰に足を入れたように。非常にあわたるさま。

ʔaçibii① (名) 柔らかい御飯。おかゆと御飯との中間ぐらいの、子供・病人などに食べさせる御飯。

ʔaçibiiraci① (名) はれものなどが熱をもって痛むこと。また、やけどが痛むこと。

ʔaçiguni① (名) 暑い地方。熱帯地方。hwi-iguni の対。

ʔaçihaisigutu① (名) 飽きてしまうような仕事。きりのないやいやながらの仕事。~nu ʔasihaisigutu. いやいやながらの仕事は、よけい汗の出る仕事となる。

ʔaçihaisii① (名) いやいやながらすること。~sjun.

ʔaçihatibeesaN① (形) 飽きが早い。飽きっぽい。

ʔaçihati=juN① (自 =raN, =ti) 飽きる。

ʔaçijaahuu'jaa① (副) 暑くて、ふうふういうさま。盛んに暑がるさま。~sjun.

ʔaçika=juN① (他 =aŋ, =raN, =ti) ⊖扱う。取り扱う。使いこなす。ʔeeku ~. 權をあやつる。⊖こき使う。酷使する。ʔaçikaariin. こき使われる。

ʔaçikeegurisjaN① (形) 人・道具などが扱いにくい。使いにくい。

ʔaçiki① (名) ゆげ。また、蒸気。ʔusjoo-rooja ~du ʔusjagajuru. 御精霊は湯気を召しあがる。お供えものは熱いうちに、または、ふたを取って供えろの意。

ʔaçikookoo① (副) ほやほや。煮えたばか

ʔaçimajuN

りのさま。また、料理の熱いうちに。～sjooini kamee. ほやほやのうちに食べる。ʔubuN ~ kanuN. 御飯を熱いうちに食べる。

ʔaçima=juNⓄ (自 =raN, =ti) [新] 集まる。元来は surijuN という。

ʔaçimi=juNⓄ (自 =raN, =ti) [新] 集める。元来は surirasjuN という。

ʔacineeⓄ (名) 商売。あきない。～sjuN.

ʔacineeguhwasanⓄ (形) 商売がうまく行かない。

ʔacineemuNⓄ (名) 商品。

ʔacineeNcuⓄ (名) 商人。

ʔacineesjaaⓄ (名) 商人。

ʔacineezooziⓄ (名) あきない上手。商売上手。

ʔacinuʔijuⓄ (名) まぐろ。ʔakaʔaci と siruʔaci とある。

ʔacirakaⓄ (名) 明らか。公明。正しいこと。～na qeu. 公明な人。

ʔaçirasikeesaaⓄ (名) 何度も暖め直した食物。

ʔaçira=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 熱くする。食物などを暖める。

ʔaçireeⓄ (名) あつらえ。注文して作らせること。ʔjamatusoobe tooʔaçiree. その項参照。

ʔaçiree=juNⓄ (他 =raN, =ti) あつらえる。注文して作らせる。

ʔaçireemuNⓄ (名) あつらえ物。注文して作らせたもの。

ʔaçiri=juNⓄ (自 =raN, =ti) 熱くなる。暖まる。食物などについて多くいう。

ʔaçisakamarasaaⓄ (名) 暑さ嫌い。暑さを苦にする者。

ʔaçisanⓄ (形) ⊖暑い。hwiisan (寒い) の対。⊕熱い。hwizurusan (冷たい) の対。

ʔaçisan① (形) 厚い。hwiqsan (薄い) の対。

ʔaçisaʔumiiⓄ (名) 暑がり。暑がる者。

ʔaçizaranⓄ (自) (否定形のみがある) ⊖飽き足りない。不満である。～mun. 飽き足りない者。不満を感じさせる者。～munuʔiikata. 不満を感じさせる言い方。⊕なごり借しい。～'wakari. なごり借しい別れ。ʔaçizaranoo ʔaçiga mata ʔjaa. なごり借しいけど、また会おうね。

ʔaçiziiⓄ (名) 寝た時の足もと。maqkwagwan (枕元) の対。

ʔacoodaaⓄ (名) 商人。卑称。

ʔacooduⓄ (名) 商人。多く仲買い人をいう。

ʔacoodugueiⓄ (名) 仲買い人のことば。上手だが信用できない話しぶりをいう。「仲人口」に似た語。

ʔa=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖明く。開く。hasirunu ~. 戸があく。ʔananu ʔacoon. 穴があいている。⊕空く。ʔjaanu ʔacoon. 家があいている。

ʔacuuⓄ (名) 熱いものの小児語。

ʔadaⓄ (名) 安田。《地》参照。

ʔada① (名) あだ。徒勞。～natan. 徒勞になった。

ʔada① (名) かたき。あだ。～ʔucuN. かたきをうつ。

ʔadaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 声高に叱りつける。どなりつける。'warabi ~. 子供をどなりつける。

ʔadakiⓄ (名) あの高さ。あんなに高く。あれだけの高さ。～ʔagatoon. あの高さに上がっている。

ʔadanasiⓄ (名) ʔadani (阿旦) の気根。また、その繊維で作った縄。

ʔadaniⓄ (名) 阿旦。たこのき科の亜熱帯性常緑灌木。気根を生じ、葉は細長く、とがり、刺がある。葉からござ・帽子などを作り、気根の繊維は縄などにする。ʔadanともいう。

ʔadanⓄ (名) ʔadani (阿旦) と同じ。

Yadanbaa① (名) Yadani (阿旦) の葉。
Yadanbaamusiru① (名) Yadanbaa で作ったむしろ。
Yadanbaasaba① (名) Yadanbaa で作ったぞり。
Yadanna① (名) 安谷屋。《地》参照。
Yadasi① (連体) [文] はかない。はかない。～ 'jununakani nagaraiti 'ututi. [あだし世の中に ながらへて居とて(忠臣身替)] はかない世の中に長らえていて。
Yadati=jun① (他 =raN, =ti) 捜す。捜し求める。尋ね求める。求めてあちこち聞いて回る。「あだて」と関係ある語か。namaa YadatitiN, 'jaaja tumeegurisjan. 今は捜しても、家は見つげにくい。
Yadu① (名) かかと。
Yaduširiširi① (名) 足すり。子供などが足を地にすりつけて、だだをこねることをいう。～ sjun.
Yaduzisi① (名) ①かかとの裏。②かかとの裏にできる、うおのめのようなはれもの。はれて堅くなり、痛む。焼き針を立てたり、焼き瓦を当てたりして治療した。
Yaee① (名) あり合わせ。Yaiee ともいう。～nu munsaani siinasjun. あり合わせのものでうまくやる。
Yagacaa① (名) 労働者。筋肉労働者。
Yagacihai① (副) 忙しそうに働くさま。精出すさま。-hai<hajun (走る)。～ sjun.
Yagacihata'raci① (名) 一生懸命働くこと。精出すこと。
Yaga=euN① (自 =kaN, =ci) ①働く。肉体労働をする。また、よく働く。精出す。②仕事などが、はかどる。はかが行く。sigutunu muru Yagakan. 仕事全然はかどらない。cuhwirujaka ?wiini Yagacan. (機織りが) 一尋以上はかどった。③家畜が成長する。
Yagai① (名) 地面の高いところ。かみ。sagai の対。

Yagaihana① (名) 日の上りはじめ。
Yagaitiida① (名) 上る日。朝日。～du 'uganuru, sagaitiidaa 'ugaman. 上る日は拝むが、落ちる日は拝まない。権勢のよい者につく意。
Yaga=jun① (自 =raN, =ti) ①上がる。昇る。空間を上がる。また、物価などが上がる。tiidanu ~. 日が昇る。maainu ~. まりが上がる。niinu ~. 値が上が。nubujun の項参照。②上達する。tiinu ~. 腕が上がる。ziinu ~. 字が上達する。?uta Yagarasjun. 歌を上達させる。③できあがる。また、終わる。macinu ~. 市が終わる。④かえって悪い。よくあるべきものがいっそう悪い。Qkwa-jaka ~. 子供より悪い。nusudujaka ~. どれぼり以上だ。
Yagami=jun① (他 =raN, =ti) あがめる。敬う。
Yagance① (名) 儉約。節約。経済。～nu 'jutasjan. 節約がうまい。
Yagance=jun① (他 =taN, =ti) 節約する。儉約して大事に使う。mookirazijaka Yaganeeri. もうけるよりも儉約せよ。(ことわざ。mookirazi は形は否定だが、意味は肯定。mookijusijaka ともいえる。)
Yagari① (名) 東。Yiri (西) の対。
Yagarii① (名) 東江。《地》参照。
Yagarikata① (名) 東の方。東の地方。
Yagarime'e① (名) 東江前。《地》参照。
Yagarinu?umi① (名) 太平洋。東の海の意。
YagariNkee① (名) 東向き。
Yagari?uma'ai① (名) 東方めぐり。行事の名。穀物がはじめて作られたといわれるところ(知念村の ?ukinzuhainzu, 与那原村の ?weegaa など数箇所)を女が巡拝する。
Yagari?wi'i① (名) 東江上。《地》参照。
Yagata① (名) あっちの方。あちら側。?u-

ʔagatoo

Nnadaki ~ satuga ʔNmarizima, muin ʔusinukiti kugata nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島 森も押しのけて こが たなきな] 恩納岳のあちら側は恋しい男の生まれ故郷, その山も押しのけてこちら側にしたい。

ʔagatoo① (名) あの遠さ。あんなに遠く。~kara cii. あんなに遠くから来たか。namadiikara ~nu ʔiqtamadi keejun naa. こんなに遅くあんな遠くの君の家まで帰るのか。

ʔagi① (名) 陸。おか。~nu hurimun. 女が女郎にうつつをぬかす男などを嘲笑している語。おかの気のふれたもの。

ʔagi① (名) 上げ。歌・三味線などの高い音の部分。また、三味線の二上がり (nii-ʔagi)。

ʔagibusi① (名) sansin (三味線) の二上がりの調子の歌。

ʔagida① (名) 安慶田。《地》参照。

ʔagidoohu① (名) 揚げ豆腐。

ʔagihwiigurumaa① (名) [新] おか蒸気。汽車。明治の初め汽車ができたという話を聞いてできた語。hwiigurumaa は蒸気船。ʔagi は陸。沖縄に軽便鉄道ができてからは kisja というようになった。

-**agiinaa** (接尾) …しながら。…しつづ。同時に動作を進行させる意を表わす。<-agijun. -gacii ともいう。ʔaqcagiinaa (歩きながら), ʔjunagiinaa (読みながら), sjagiinaa (しながら), ʔumujagiinaa (思いながら) など。ʔaqcagiinaa ʔuuzi kanun. 歩きながら砂糖きびを食う。ʔaqcagiinaa(nu kutu) ʔjatan. 歩きながら(のこと)だった。

ʔagi=jun① (他 =ran, =ti) ①上げる。ta-ku ~. たこを揚げる。tii ~. 手を上げる。naa ~. 名を上げる。nii ~. 値を上げる。②楽器や声の調子を高くする。kwii ~. 声の調子を高くする。声を出す意で

は, tucinukwii ~, (ときの声をあげる)のほかはあまり用いないようである。③油で揚げる。ʔagimun ~. 揚げ物を揚げる。④献上する。進上する。さし上げる。ʔu-sjagijun よりも格式ばった、ていねいな語。nuu ʔagiiga. 何を進上しようか。⑤もどす。吐く。あげる。saki numinee caa ʔagijuru kusunu ʔan. 酒を飲むといつも吐く癖がある。

-**agijun** (接尾・不規則) …しつづある。…している。進行の意を表わす。-agiin とすることが多い。ふつう動詞の「終止形」から un を除いた形に付く。ʔjunun (読む) → ʔjunagiin (読みつづある) など。

ʔagimaa=sjun① (他 =san, =ci) せきたてる。dii ʔikaʔika qsi ʔagimaacasiga, ʔjuujuutu sjootan. さあ行こう行こうとせきたてたが、のんびりしていた。

ʔagimun① (名) 揚げ物。油揚げにしたもの。てんぷらなど。

ʔagina① (名) 安慶名。《地》参照。

ʔagisagi① (名) 上げ下げ。上げたり下げたりすること。

ʔagizi① (名) 習字の清書。習字で、けいこを終えて清書すること。

ʔagu=jun① (自 =ran, =ti) よじ登る。繩などをたぐって登る。まれな語。ʔanu kiinkai çina kaçimiti ʔagura. あの木に繩をたぐって登ろう。

ʔagunaa① (名) 粟国島 (ʔaguni) の者。卑称。粟国島は下男下女の出身地として知られていた。

ʔaguni① (名) 粟国島。那覇の西北方にある島の名。

-**ʔagu=nuN** (接尾 =man, =di) あぐむ。できずにもて余す。ʔaqciʔagunun (歩きあぐむ), siiʔagunun (しあぐむ) など。kaçiriNnu simaja kajuibusja ʔašiga, ʔwanamazonu ʔusjunu kijaiʔagudi. [勝連の島や 通ひぼしやあすが 和仁屋

真門の湖の 蹴やいあぐで] 勝連の村に通いたくはあっても、その途中の和仁屋真門の湖を渡りあぐんでいる。

Yahaai①② (感) やあい。人を嘲り笑う語。

Yahahaa② (感) 大いに笑うさま。あはっは。

Yahjaa② (名) ①家畜などの親。母体となるもの。人については言わない。②親豚。**YahjaaYwaa**の略。③酢・酒・塩辛・漬物などのもととなるもの。酵母など。生じふやすもと。siinu ~。酢を作る際、もととなる酢や水など。sakinu ~。酒を作る際、少量入れる酒など。

YahjaaYwaa② (名) 親豚。

YahjanGaree② (感) [文] やけくそになった時に発する声。どうともなれ。口語は **Yaqpangaree**。

Yahusu② (名) 安富祖。(地) 参照。

Yahwa② (名) 安波。(地) 参照。

Yahwaca② (名) 安波茶。(地) 参照。

Yahwagee=juN② (自 =raN, =ti) **Yahwageerijun** と同じ。

Yahwageeri=juN② (自 =raN, =ti) ①味が薄くなる。味が足りなくなる。②不まじめになる。ちゃかして馬鹿らしいことばかり言う。不まじめにおどける。**Yariga Yju-see Yahwageeriti ciciN naraN**。あいつの言うことは馬鹿らしくて聞く気にならない。

Yahwageerimun② (名) 不まじめな者。ちゃかしてばかりいる者。まじめに話をしない者。

Yahwaguci② (名) 薄味。また塩加減の少ない味。また、薄味を好む者。

YahwaguN② (名) 阿波根。(地) 参照。

Yahwakee② (名) **Yahwakuu** と同じ。

Yahwakuu② (名) 二枚貝。はまぐりなど、二枚貝の総称。また、二枚貝の貝がら。**Yahwakee** ともいう。

Yahwana=cuN② (自 =kaN, =ci) 寝やが

る。「寝る」の卑語。**Yahwanakee**。寝やがれ。**Yahwanaci kwatoon**。寝てやがる。ひっくりかえっていやがる。

Yahwari② (名) 阿波連。(地) 参照。

Yahwasan② (形) 味が薄い。甘味・塩味などが少ない。

Yahwee=juN② (自 =raN, =ti) 酒・酢などが、水っぽくなり、味が落ちる。気がぬける。

Yahwi② (名) あれだけ。あれくらいの量・大きさ。~du Yaru。あれだけしかない。

Yahwigwaa② (名) **Yaqpigwaa** と同じ。

Yahwii② (名) ①兄。にいさん。平民に呼んでいる語。農村では **Yaqpii** というところもある。士族については **'jaqcii** という。②にいさん。平民の若者をいう語。

Yahwiigwaa② (名) 一番下の兄。すぐ上のにいさん。平民に呼んでいる。

Yahwina② (連体) あれほどの。あれほどの量の。また、あんなに大きな。あんなに尊い。~Yazisuinu misjaru kutu cikana。[あへな按司そひの めしやる事聞かな(二童敵討)] あんなに尊い按司様のおっしゃることを聞かないで。

Yahwiraa② (名) あひる。**Yahwiru** ともいう。

Yahwiraazun② (名) 子供のぼんのくぼのところに少し長く伸ばした髪。あひるのしっぽに似ているのでいう。zuu はしっぽ。そこを刈るとその子の **Yunci** (運氣) が弱るといって、そこだけ少し伸ばしておく習慣であった。

Yahwiru② (名) **Yahwiraa** と同じ。

Yai② (感) 珍しいものに接した時、また、何か間違った時などに発する声。あら。おっと。人の足を踏んだ時には、~ **macigee**。(おっと、ごめん。) と言う。

Yai② (名) 蟻。**Yaikoo** ともいう。

Yaibigaa② (名) **Yeebicaa** と同じ。

Yaice② (名) **Yaee** と同じ。

ʔaigwaamee

ʔaigwaamee[Ⓞ] (名) お嬢さま。士族の未婚の娘の敬称。使用人や平民が多く言う。那覇では ʔutugamaa という。古語に ʔwengunsori という語もある。

ʔaikoo[Ⓞ] (名) 蟻の小兒語。～～, dusi ʔjudi kuu, ganikunu kusunzi gani ʔjaci kwira. (童謡) 蟻よ、蟻よ。友達を呼んで来い。我如古の後ろで蟹を焼いてやろう。ganiku [我如古] は宜野湾間切の村の名。gani と頭韻をふんだもの。

ʔaimee[Ⓞ] (名) [古] 貴族の嫁がしゅりとめを敬って言う語。他からは、普通、ʔaqtomee, ʔuhuʔaqtomee などという。

ʔainuiguruma[Ⓞ] (名) [新] 相乗りの人力車。

ʔainuii[Ⓞ] (名) [新] 人力車の相乗り。また、ʔainuiguruma の略。

ʔaizoo[Ⓞ] (名) ʔajazoo と同じ。

ʔaizooʔuhumici[Ⓞ] (名) [綾門大路] ʔajazoo と同じ。

ʔaizooʔuu ʔnna[Ⓞ] (名) [綾門大繩] ʔaizooʔuhumici [綾門大路] で行なわれた、首里の東西対抗の綱引き。çinahwici の項参照。

ʔaizu[Ⓞ] (名) ありか。あり場所。

ʔaja[Ⓞ] (名) 縞。着物などの縞をいう。ただし、kutubanu ～。[文] ことばのあや。～ mamizun. 布を織る時、縞糸の数を間違える。mamizun の項参照。

ʔajaa[Ⓞ] (名) 母。おかあさん。士族についていう語。平民については ʔanmaa という。

ʔajaaʔansi ʔrari[Ⓞ] (名) [古] çuma (王の妾で身分の低い者)を敬っていう語。

ʔajaamee[Ⓞ] (名) ⊖ ʔajaaʔansirari と同じ。⊖奥様。既婚の士族の婦人に対して平民のいう語。士族同志ではいわない。

ʔajaameegwaa[Ⓞ] (名) 若奥様。士族の若奥様に対して平民のいう語。ʔuhuʔajaa-me (大奥様) と区別していったもの。

ʔajaameeudui[Ⓞ] (名) 踊りの一種。士族の女の服装とする踊り。首里の士族は単に ʔwinaguudui (女踊り) という。

ʔajaataarii[Ⓞ] (名) 父母。おとうさんおかあさん。士族についていう。ciriti musiritin ～。着物はぼろぼろでも、ʔajaa, taarii を使う。貧乏士族が身分に執着するのを笑ったことば。～ ʔuncu ʔugadi kwiri ʔjoo. 御両親によろしく言ってくれ。

ʔajaaʔuuja[Ⓞ] (名) 母親のあとばかりを追いかける子。いくじなしの子。士族についていう。平民についてならば ʔanmaa ʔuuja という。

ʔajabuni[Ⓞ] (名) [文] 船の美称。中国への進貢船などをいう。

ʔajabuniçike ʔe[Ⓞ] (名) [文] 進貢船で中国へ行く使者。

ʔajagacikoogaci[Ⓞ] (副) まだらによごれたさま。顔・手足などが、ところどころよごれたさま。～ sjoon. まだらによごれている。

ʔajagu[Ⓞ] (名) 宮古島に伝わる歌謡の一種。micinu curasaja kaijanu mee, ～nu curasaja mjaakunu ～。[道のきよらさや仮屋の前 あやごのきよらさや宮古のあやご] 道の美しいのは在番役所の前で、あやごの美しいのは宮古のあやご。

ʔajagwaa[Ⓞ] (名) 細かい柄。着物の模様についていう。

ʔajagwaaazi[Ⓞ] (名) 柄(模様)の細かい着物。

ʔajahaberu[Ⓞ] (名) [文] 蝶の美称。美しい蝶。

ʔajahaberu ʔsu[Ⓞ] (名) [文] 晴れ着の美称。蝶のように美しい御衣(みそ)。

ʔajahuni[Ⓞ] (名) [文] ʔajabuni と同じ。

ʔajakaa=jun[Ⓞ] (自 =ran, =ti) あやかかる。

ʔajamaci[Ⓞ] (名) あやまち。道徳的な間違え。

ʔajamai[Ⓞ] (名) あやまち。過失。失敗。

caaru ~nu ʔati, ʔnzasaʔtaga ʔjaa.
どんな過失があって離縁になったのかねえ。

ʔajamaigutuⓐ (名) あやまち。過失。

ʔajama=juNⓐ (他 =raN, =ti) あやまちを犯す。誤る。謝罪する意はない。

ʔajamamiziⓐ (名) 布を織る時、縞糸の数を間違えること。

ʔajamariⓐ (名) [文] ʔajamai の文語。

ʔajamecⓐ (名) [古] 貴族の嫁がしゅうとめを敬って言う語。ʔaimee ともいう。

ʔajameekusa'meeⓐ (名) 邪魔。仕事の邪魔。~nu ʔuhusan. 邪魔が多い。'warabinu ~ qsi sigutunu naran. 子供が邪魔して仕事ができない。

ʔajamuNⓐ (名) 縞物。縞模様の着物・布地。tuqçiri (かすり), kataçiki(型付)などに対する。

ʔajannaakaaⓐ (名) 縞の間にかすり模様のある布地・着物。かすり模様だけのものは muruđuqçiri という。

ʔajaqsaNⓐ (形) 危い。ʔukaasjan ともいう。

ʔajazooⓐ (名) [綾門] 首里の守礼門と中山門との間の大通りをいう。ʔaizoo ともいう。また、俗に ʔaizooʔuhumici という。

ʔaju=nuNⓐ (自 =maN, =di) [文] 歩む。ʔajudi ʔajumaran, namadu çicaru. 歩いても歩いても着かなかったが、いまやっと着いた。

ʔakaⓐ (名) 頭髮・衣服などについたよごれ。皮膚の垢は hwingu, ふけは ʔirici という。~N nugaN. 仕事がかどらない。効果が目に見えない。すき櫛がよくない時、髪によごれがなかなかとれないことからいう。ciNnu ~ ʔutusjuN. 着物のよごれを落とす。

ʔakaⓐ (名) 阿嘉。《地》参照。

ʔakaⓐ (名) 阿嘉島。慶良間列島 (kirama) の島の名。

ʔakaⓐ (名) 赤。色の名。~nu tanin. [新?] 赤の他人。

ʔakaʔaciⓐ (名) まぐろ。ʔacinuʔiju 参照。

ʔakaʔakaatuⓐ (副) あかあかと。denki çikiʔakagaraci, ʔjaanuʔuci ~ sjoon. 電気をつけて家の中があかあかとしている。ranpujaka denkee ~ sjooee sani. ランプより電気は明るいのではないか。

ʔakaaⓐ (名) 赤いもの。

ʔakabanaaⓐ (名) ぶっそうげ(仏桑華)。亜熱帯植物で高さ3メートル余りに達し、深紅の花が咲く。霊前に供える。

ʔakabanaaⓐ (名) 鼻の赤い者。赤鼻。

ʔakabəsjaaⓐ (名) ʔakabusjaawarabaa と同じ。

ʔakabusjaawarabaaⓐ (名) 赤ちゃけた髪を振り乱している子供(卑称)。

ʔakaçiciⓐ (名) あかつき。夜明け。明け方。

ʔakaçicibusiⓐ (名) 明けがたの星。まばらで少ないものたとえとなる。

ʔakaçicigurasinⓐ (名) あかつきやみ。月のない夜の明けがた。

ʔakaçicimuduiⓐ (名) 遊郭(那覇にあった)から、明け方に帰ること。遊郭の朝帰り。

ʔakaçiciʔukiⓐ (名) 夜明けに起きること。

ʔakaçicizicnuⓐ (名) 有明けの月。明けがたの月。

ʔakagaaraⓐ (名) 赤瓦。

ʔakagaiⓐ (名) ⊖あかり。燈火。⊖明るい所。明るみ。kurasin の対。

ʔakagaiçiki=juNⓐ (自 =raN, =ti) すっかり明るくなる。

ʔakagantaaⓐ (名) 赤い髪のおかっぱ頭をした者。kizimun (魔物の一種), kaagarimoo (河童) などのようす。また、赤ちゃけた髪をおかっぱにしている子供などをもいう。-gantaa<kantu (髪)の卑語)。

ʔakagiⓐ (名) 植物名。赤木。亜熱帯性の

ʔakagii

喬木。木肌が赤い。その実は、熟すれば食べられる。

ʔakagii① (名) 赤毛。赤ちゃけた髪をした者。

ʔakaginumūqkuu① (名) ʔakagi (赤木) の実。

ʔakagucaamee① (名) [文] hwinukan (火の神) の異称。赤い口をした尊いお方の意。kweena (旅歌) にある語。

ʔakaguu① (名) さつまいもの一種。肉が黄色で、黄色の粉をふき、美味。金時という種類に似ている。

ʔakahacimaci① (名) [古] かんむりの名。hacimaci の項参照。

ʔakahadaka① (名) 赤裸。丸裸。

ʔakaha=nuN① (自 =maN, =di) よごれがたまる。よごれる。垢じみる。karazinu ʔakahadoon. 髪の毛がよごれている。ciNnu ʔakahadoon. 着物がよごれきっている。

ʔakahazi① (名) 赤恥。大勢の前でかく恥。

ʔakahuda① (名) [新] zuri (女郎) が伝染病によって営業を禁止されること。

ʔakahudaa① (名) [新] 伝染病により、検診に不合格になって営業を禁止された zuri (女郎)。

ʔakahwira① (名) 赤平。《地》参照。

ʔakahwizaa① (名) 赤いひげをしている者の卑称。赤ひげ。

ʔakahwizi① (名) 赤ひげ。赤いひげ。

ʔakaʔijuu① (名) 金魚。

ʔakaʔiru① (名) 赤い色。

ʔakai① (名) 障子。あかり障子。

ʔakaisanbasiri① (名) [文] 障子。明るい棧のある引き戸の意か。～ ʔiciʔakiti miriba, niwanu siracikunu sacaru curasa. [あかりさんはしり つきあけて見れば 庭の白菊の 咲きやるきよらさ] 障子をさっとあけて見ると、庭の白菊が美しく咲いている。

ʔakaisanbasiru① (名) [文] ʔakaisanbasiri と同じ。

ʔakajukusi① (名) 真赤なうそ。

ʔakakabi① (名) ⊖赤い紙。⊖正月などに、祭壇と火の神の前に供える赤い紙。白・赤・黄の三枚の紙 (ʔukazaikabi) を重ねて供える。表裏とも赤く、紙質は百田紙 (hjakuđasi)。お祝いの時、聯を書く赤い紙は sjugami という。

ʔakakoozi① (名) 米で作る赤い麴。cinbeeru ～。あかんべえ。

ʔakakooziʔubun① (名) ʔakakoozi で赤く染めて炊いた御飯。

ʔakamaamii① (名) あずき。

ʔakamaamiiʔuʔun① (名) あずき入りの赤飯。ʔakaʔubun の項参照。

ʔakamataa① (名) 蛇の一種。有毒であるが、はぶほどはこわがられていない。錦色で、美男に化けるといわれる。

ʔakamigeei① (副) 赤くなったさま。泣きはらした目・できものなどについている。miinu (kasanu) ～ sjoon. 目が(できものが)赤くなっている。

ʔakamii① (名) 卵の黄身。

ʔakamiibaju① (名) 魚名。あかめばる。miibaju (めばる) の一種。色は赤で、時に毒を有する。

ʔakamuutii① (名) 赤元結び。赤い色の元結び。muutii の項参照。

ʔakana① (名) 植物名。紫蘇。

ʔakanaa① (名) 童謡などにある語。月の中にいる者の意に用いる。月の薄黒い部分を、水桶をかついで立っている者と見立てたものらしい。ʔakanaajaanu ʔakitan doo, nacuru ʔwarabee miʔi kumaʔee, nakan ʔwarabee kani ʔutaʔee. (童謡) アカナーの家が焼けたぞ。泣く子は水を汲ませろ、泣かない子は鉦を打たせろ。(泣く子を泣きやませるために歌う歌。)

ʔaka=nuN① (自 =maN, =di) 赤くなる。赤

- ぼむ。ciranu ~. 顔が赤くなる。kuni-bunu ~. みかんが赤くなる。
- ʔakaNca① (名) 赤土の土地。赤土の土質。
- ʔakaNca① (名) 赤土。
- ʔakaNgwa① (名) 赤ん坊。
- ʔakaNgwaa① (名) 赤ん坊 (卑称)。
- ʔakaNgwaaʔiju① (名) 人魚。顔が人に似て、前肢のようなひれのある哺乳類。南海に産する。じゅごん。ʔaNnuʔiju ともいう。
- ʔakaNmi① (名) 赤嶺。《地》参照。
- ʔakaraaʔwaa① (名) ʔakariʔwaa と同じ。
- ʔakaragweei① (名) 人が血色がよくて太っていること。sirugweei, kurugweei などの語もある。
- ʔakarahwiru① (名) 真昼。白昼。
- ʔakarakwaa① (副) 派手なさま。けんらんたるさま。豪華なさま。着物の模様・部屋の装飾などについていう。~ sjooru ciN. 派手な着物。
- ʔakari=juN (自 =raN, =ti) ⊖ 離れる。器物などがこわれて、離れる。また、はがれる。⊖ 乳離れする。主として家畜についていう。
- ʔakariʔwaa① (名) 乳離れした豚。主として親豚をいうが、子豚の方をさすこともある。
- ʔakariʔwaagwaa① (名) 乳離れした子豚。
- ʔakasabi① (名) 赤錆。鉄に生ずる錆。
- ʔakasakurasa① (名) 明暗。明るいことと暗いこと。~N 'wakaraN. 明るい暗いかわからない(ほど熱中する)。無我夢中である。
- ʔakasaN① (形) 赤い。明るい意では用いない。ただし、ʔakasakurasa (明暗) という複合語はある。明るい意では、ʔaka-ʔakaatu sjoon, ʔakagatoon などという。
- ʔakaʂee① (名) 遊戯の名。言い当てる遊び。

- ʔakasi① (名) 松の幹を薄くそいだたきつけ。tubusi ともいう。<ʔakasjuN (引き離す)。'janbaaraaga ʔiqcon doo, ~N tamunuN kensjoorani. (童謡) 山原船 ('janbaraabuni) がはいつてるぞ。たきつけやまきも買いませんか。
- ʔakasimaa① (名) 織物の名。白地に茶褐色のかすりのあるもの。多くは八重山地方の産。sima (縞) は織物の模様をいう。sima 参照。
- ʔakasimuN① (名) 考えもの。謎。
- ʔaka=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖ 引き離す。大きいものから小さいものを引き離す。また、ひっぱがす。はがす。tubusi ~. 松のたきつけを幹からはぐ。kiikara kaa ~. 木から皮をはがす。ʔakasiwadu najuru sjakunu hwingu. はがなければならぬほどのたいへんな垢。kasabuta ~. かさぶたをはぐ。⊖ 乳離れさせる。主として家畜についていう。
- ʔaka=sjuN① (他 =saN, =ci) 明かす。夜を明かす。'juu ʔakasikantii. 夜を明かしかねて。
- ʔaka=sjuN① (他 =saN, =ci) 明かす。なぞなどの答えを明かす。言い当てる。
- ʔakata① (名) 赤田。《地》参照。
- ʔakataʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔugusiku の項参照。
- ʔakatiida① (名) 赤い太陽。夕日をいう。
- ʔakaʔubun① (名) ʔakakoozi や食紅などで赤く色をつけて炊いた御飯。赤飯。あずきを入れた赤飯には ʔakamaamiiʔubun という。
- ʔakaʔusi① (名) 赤牛。茶色い牛。
- ʔakauu① (名) 織物の名。赤味を帯びた上等の芭蕉布。tanasi (その項参照) などを作る。
- ʔakauuziN① (名) ʔakauu で織った着物。地は赤味を帯び、派手なかすりなどの模様がある。tanasi など、女物の上等な着物。

Yakazakura?iru

Yakazakura?iru① (名) 赤味を帯びた桜色。人の血色が赤く美しいことにいう。

Yakazinaa① (名) ⊖銅の一厘銭。主として寛永通宝。kurukanii に対する。⊖のちの、5厘・1銭・2銭などの銅貨。

Yakaziraa① (名) 赤い顔。赤ら顔。また、赤面。～ najun. 赤面する。

Yakazumii① (名) 茶褐色に染めた布。主として芭蕉布で、その染料は tikaci という木の皮や根から取る。

Yakee=juN① (自 =ran, =ti) 明るくなる。朝焼け・夕焼けなどで、また、にわか雨の前夜などに、あたりが異常に明るくなることをいう。

Yakezubani⁷su① (名) [文] 夏の晴れ着の美称。秋津羽のような御衣(みそ)。とんぼの羽のように美しい着物。

Yaki① (感) あら。女が驚き・悲しみなどを表わして言う語。～ caa sjuga. あら、どうしよう。

Yakigata① (名) [文] 明け方。夜明け方。普通は Yakagaci。

Yakigumu① (名) [文] 明け方にたなびく雲。tamasakanu kujui tuija ?utarutun, sibasi ~ni nasaki ?arana. [たまさかの今宵 鳥や歌るとも しばし明雲に情あらな] たまに会う今夜だから、鶉は時を告げても、しばらくの間、夜明けの雲に情があって夜が明けないようにしてほしいものだ。

Yakihana=sjuN① (他 =san, =ci) あけ放す。開放する。障子などすっかり開ける。

Yakihataki=juN① (他 =ran, =ti) (胸などを) はだける。

Yakihwirugi=juN① (他 =ran, =ti) あけ広げる。開放する。

Yakijo① (感) [文] ああ。あわれ。～ ziju naran kutuju mata 'jarawa, niwijacon sudini ?u?uci tabori. [あけよ自由ならぬ ことよまたやらば 匂やちよも袖

に 移ちたばうれ] ああ自由にならないことであるのなら、匂いだけでも袖に移して下さい。

Yakijoo① (感) あら。驚いた時などに女が発する語。

Yaki=juN① (他 =ran, =ti) 開ける。Yakai ~. 障子をあける。Yakitai micitai. あけたりしめたり。

Yaki=juN① (自 =ran, =ti) 明ける。'juunu ~. 夜が明ける。

Yakikuri① (名) [文] 明け暮れ。日夜。

Yakikwii① (名) あけたて。開閉。hasirunu ~. 雨戸のあけたて。-kwii <kuu-juN.

Yakimadusi① (名) 明けた年の美称。新年。

Yakimi?kwa① (名) あき盲。目はあいているが、目が見えないこと。また、その者。また、文盲。

Yakisamijoo① (感) あれえっ。きゃあっ。助けてくれ。非常に驚いた時、悲しい時、苦痛にたえない時、救いを求める時などに発する声。

Yakisamijoo① (副) 悲鳴の声をあげるさま。助けてくれと叫ぶさま。～ sjun. 悲鳴をあげる。～ sjutakutu ?nzi 'Nncan. 悲鳴があったので行って見た。

Yakitoonaa① (感) おやまあ。あらまあ。驚いた時、失敗した時などに女のいう語。

Yakookuroo① (名) 夕暮れ。薄暮。たそがれ時。夕方の暗くなりかけ。'jumangwi (夕間暮れ) という語とともに、夕方の一種の不安な感じを伴う語。'jusandi (夕さり), 'juu?irigata (夕方) などにはこのような語感はない。

Yaku① (名) 悪事。～ takunun. 悪事をたくらむ。

Yaku① (名) あく(灰汁)。洗濯の時、または芭蕉布を煮て柔らかにする時などに用いる。

Ŷakubi① (名) あくび。
 Ŷakugami① (名) [赤頭] 平民の初階の位階。
 Ŷakugani① (名) 銅。あかがね。
 ŶakuganijaQkwan① (名) 銅のやかん。
 Ŷakuin① (名) [文] 悪縁。くされ縁。前世からの罪悪によりつながれた男女の悪縁。
 Ŷakuma① (名) [悪魔] 根性の悪い者。意地の悪い者。
 Ŷakumahuku¹rugi① (名) 意地悪く邪魔する者。恋の邪魔などをする者。hukurugiはとげのある植物の名。
 Ŷakuni① (名) 悪人。奸悪な人。
 Ŷakuta① (名) あくた。ごみ。
 Ŷakutabii① (名) ごみを燃やす火。火力弱く、すぐ消える。
 Ŷakutadamun① (名) ごみを集めて燃料としたもの。落葉・ごみ・木ぎれなど掻き集めて煮焚きなどする場合にいう。
 Ŷakutoo① (名) [新?] 恐ろしい人。こわい人。
 Ŷakutooraasan① (形) [新?] 恐ろしい。こわい。叱りつけそうな、また、恐ろしいことをしそうな人についていう。
 Ŷakuu① (名) 人を叱ってばかりいる人。小言ばかり言う人。ŶaQku (叱責) をする人の意。
 Ŷama① (名) 阿真。《地》参照。
 Ŷama① (名) ⊖あそこ。あっち。あちら。kuma (ここ), Ŷuma (そこ), maa (どこ) に対する。~kara can. あそこから来た。⊖あのかた。Ŷari (彼。彼女), ŶanuQcu (あの人) などの敬語。Ŷamaa maa ŶujanŶeebiiga. あのかたはどなたでいらっしゃいますか。歌では、男から女をさしては Ŷari, 女から男をさしては Ŷama と使いわけることがある。tukeja hwizamitin tiru cicija hwituçi, Ŷarin nagamijura kijunu suraja. [渡海や隔ても 照る月や一つ あれも朧めよら

今宵の空や] 海を隔ても照る月は一つ、彼女もながめているだろう今宵の空を。この歌を女が歌うときには、Ŷaman naga-mijura (あのかたもながめているだろう) と変える。

Ŷamabiri=jun① (自 =ran, =ti) 甘くなり過ぎる。糖分が多すぎて、料理が甘ったるくなる。

Ŷamagaka① (名) Ŷamagaku と同じ。

Ŷamagaku① (名) ⊖虫の名。雨の降る前に蛙に似た声で鳴く。けらのことか。⊖あまのじゃく。何でもわざと人に反対する者。次のような伝説がある。あまのじゃくの子を心配した親が、墓を山に作ってもらいたいと思い、墓は河原に作れと遺言して死んだ。しかし、子は遺言だけは守り、雨が降りそうになると、大水を心配して泣いた。そこであまのじゃくを Ŷamagaku といふ。

Ŷamagasa① (名) ⊖雨傘。雨天用の傘。⊖月がさ。雨の前などにかかる、月のかさ。

Ŷamagasi① (名) 甘酒の一種。端午の節供に作る。大麦を煮つめ、少量の麴を入れて一日ぐらい水にひたして発酵させて作る。菖蒲の葉を切ったものを箸の代わりに用いる。

Ŷamaguci① (名) 甘言。Ŷamakuci ともいう。~ taratara sjun. 甘言をたらたら言う。

Ŷamagui① (名) 雨乞い。首里の崎山町にŶamaguibanta という高台があり、旱魃の時には女ばかりが集まって、Ŷamitabori (雨を給われ) の歌を歌って祈った。

Ŷamaaikuma¹hai① (副) あちこちかけずり回るさま。東奔西走。-hai < hajun (走る)。~ sjun.

Ŷama¹iikuma¹iïi① (副) 話し方が整然としないさま。あっちを言い、こっちを言い。しどろもどろ。~ sjun.

Ŷamai① (名) 余り。余分。'nkasin¹cunu

Yamaimun

- kutubanee Yamaee neen. 昔の人のこと
 には無駄がない。
- Yamaimun^① (名) 余りもの。余ったもの。
- Yamaimun^① (名) あばれ者。乱暴者。
- Yamajaa^① (名) 乱暴者。あばれん坊。
- Yamajumikuma⁷jumi^① (副) あちこちを
 飛び飛びに読むさま。～ sjun.
- Yama=juN^① (自 =raN, =ti) ①余る。残り
 が出る。②越す。以上になる。sicizuu
 Yamati kunu Yawari sjun. 七十歳を越
 してこんな苦勞をする。rukuzuu Yama-
 ree Yamutunu sica. 六十歳を越せば土手
 の下に捨てる。六十歳以上は世間の邪魔。
- Yama=juN^① (自 =raN, =ti) あばれる。い
 たずらなどをして騒ぐ。主として子供・犬
 猫などについていう。YamaNnaakee. あ
 ばれるなよ。
- Yamajuu^① (名) [文] 豊年。nigajuu (凶
 年) の対。
- Yamakaau^① (名) [天川] 踊りの名。
 男女で踊るもの。
- Yamakuci^① (名) Yamaguci と同じ。
- Yamakuma^① (名) あちこち。あちらこち
 ら。
- Yamakutaraku^① (副) 甘言で人をつるさ
 ま。うまりまと。<YamasaN (甘い)。
- Yamami^① (名) 甘味。Yamamee caaga.
 甘味はどうか。
- Yamamicuu⁷siniricuu^① (名) [あまみきよ
 しねりきよ] 琉球列島を創造したといわれ
 る神の名。男女二柱の神か、あるいは単な
 る対語か。また、Yamami- は奄美と関係
 ある形と思われる。
- Yamamiikuma⁷mii^① (副) あちこち見回
 すさま。きよろきよろ。～ sjun.
- Yamamijasirinirija^① (名) [文] [あまみや
 しねりや] Yamamicuusiniricuu (琉球創
 造の神) の故国。東方にあり、そこから五
 穀が渡来したといわれる。
- Yamamiku⁷siniriku^① (名) [文] [あまみ

- こしねりこ] Yamamicuusiniricuu と同
 じ。
- Yamamizi^① (名) 真水。淡水。sjuumizi
 (塩水) の対。
- Yamamun^① (名) 甘いもの。菓子など、甘
 い食べ物。
- Yamamuti^① (名) あちら側。あっちの方。
- Yaman^① (名) やどかり。節足動物の名。
- Yamanju^① (名) [文] 昔の世。昔の時代。
 zitudee sjusitarimee Yutuigizi sjabi-
 ra, ~nu sinugu Yujurusimisjooiri.
 [地頭代主したり前 お取次しやべら あ
 まん世のしのぐ お許しめしよろれ(恩納
 節)]地頭代様申し上げます。昔の世のしの
 ぐ踊り(sinugu)をお許し下さい。
- Yamari^① (名) [文] YamaYuri, Yamori,
 Yamooi, Yamoori と同じ。天降り。
- Yamarikaa^① (名) Yarikaa と同じ。
- Yamasaaikuma⁷saai^① (副) 珍しがって方
 をなで回すさま。～ sjun.
- YamasaN^① (形) 甘い。甘味がある。味が
 薄い意では Yahasana という。
- Yamasitamun^① (名) 品行の悪い者。乱暴
 者。もて余し者。
- Yamasjoogaa^① (名) 菓子の名。甘しよ
 りが。しよりがを砂糖で煮つめたもの。
- Yama=sjun^① (他 =saN, =ci) 余す。余りを
 残す。
- YamaYuri^① (名) [文] 天女が天からくだ
 ること。天降り。Yamari, Yamori, Yamoo-
 ri, Yamooi などともいう。
- Yamazaahja⁷azaa^① (副) あれやこれやと
 思い悩むさま。～ qsi nindaranTan. 心
 配の余り眠れなかった。
- Yamazaki^① (名) 酢。šii, hweei ともし
 ろ。昔は甘酒をいったものか。
- Yamazarahja⁷azara^① (副) Yamazaahja-
 azaa と同じ。
- Yamazicikaa^① (副) ①ゆらゆら。ぐらぐ
 ら。しきりに揺らぐさま。②うろたえるさ

ま。また、ためらうさま。mii ~ sjun.
 (狼狽して) 目をうろろうさせる。
 Yamazi-cuN① (自 =kan, =ci) ⊖揺らぐ。
 動揺する。動揺が起こる。mii ~。(狼狽
 して) 目をうろろうさせる。⊖ためらう。
 躊躇する。cimunu Yamazun. と同じ。
 Yama=zuN① (自 =gan, =zi) 揺らぐ。揺れ
 る。動揺する。kiikusanu ~。草木が揺
 れる。cimunu ~。心が動揺する。ためら
 う。hwiinu ~。ほのおが揺れる。Yama-
 gasjun. ゆする。動揺させる。
 Yamazuu① (名) 甘塩。薄味の塩漬け。
 Yamee=jun① (自 =ran, =ti) 増長する。
 つけあがる。kuneedansee Yameetoon.
 このごろは増長している。
 YameeYuzoo① (名) 首里城の門の名。Yu-
 guşiku の項参照。
 Yami① (名) 雨。~nu hujun. 雨が降
 る。~nu harijun. 雨がやむ。雨があが
 る。(~nu 'janun. とは元来はいわない。)
 Yami① (名) 網。魚網など。
 Yami① (名) 飴。
 Yamiçiju① (名) [文] 雨と露。'jutakana-
 ru mijunu sirusi Yarawariti, ~nu
 migumi tucin tagan. [豊なる御代の
 しるしあらはれて 雨露の恵み 時もたが
 ぬ] 豊かな御代のしるしがあらわれて、順
 調に雨と露が恵まれる。
 Yamidai① (名) ⊖軒。⊖軒下。~nakai
 taqcooN. 軒下に立っている。
 Yamidaimizi① (名) 雨だれ。軒から落ち
 る雨だれ。
 Yamigasa① (名) [文] 編み笠。Yanzasa
 もいう。
 Yamigunu① (名) 雨雲。
 Yamigwaa① (名) 小雨。gumaYami と
 もいう。霧雨には、さらに gumaYami-
 gwaa という。
 Yamihui① (名) 雨降り。雨天。
 Yamihuiçizici① (名) 雨降り続き。雨天続

き。

Yamihuisa① (形) 雨が降りそうであ
 る。Yamihuisaa 'jatakutu. 雨が降り
 そうだったので。
 Yamihuiğumai① (名) 雨ごもり。雨降り
 で家に引きこもること。
 YamihuiinuYatu① (名) 雨降りのおと。雨
 後。
 Yamihuiçitaku① (名) 雨天に外出する時
 のしたく。雨具を用意すること。
 Yami=jun① (自 =ran, =ti) 水浴する。水
 浴びをする。行水する。単に、体に水を浴
 びるには mizi kanzun (水をかぶる)、
 mizi kakijun (水をかける) などと言
 い、また、受動的に水を浴びるには mizi
 kakirarijun などという。'warabi Yami-
 rasjun. 子供を行水させる。
 Yamikazi① (名) 雨風。
 Yamikoo=jun① (自 =ran, =ti) 味噌を作
 る過程で、nuci (大豆・えんどうなどを煮
 てつぶしたもの) と麴とをまぜたものが発
 酵する。
 Yamiku① (名) 天久。《地》参照。
 Yamimujuusi① (名) 雨模様。雨の降りそ
 うな気配。
 Yaminaa① (名) おたまじゃくし。蛙の子。
 Yamibunii① (名) 雨のもと。雨の根。雨を
 降らす黒雲・遠雷などをいう。~nu ciri-
 ran. 雨の根が切れない。まだ、雨が降り
 そうである。
 Yamirika① (名) アメリカ。米国。
 Yamirikaa① (名) アメリカ人。卑称。
 Yamisuku① (名) 天底。《地》参照。
 Yamizi① (名) みみずに似た小動物。みみ
 ずより小さく、悪臭があり、色・形などは
 みみずに似ている。つぶすと螢光を発す
 る。
 Yamooci① (名) Yamuci, Yamutu と同じ。
 Yamooi① (名) Yamoori と同じ。
 Yamoori① (名) 天降り。天人が地上に降

ʔamoorigaa

りること。ʔamaʔuri, ʔamari, ʔamori, ʔamooi などともいう。

ʔamoorigaaⓄ (名) 天人が降って水浴びしたという井戸。羽衣伝説とともに、方々にこの名の井戸がある。

ʔamooringwaⓄ (名) 天人と人間との間に生まれた子。年とってからできた一人子などをそういうことがある。

ʔamoriⓄ (名) [文] 天人の天降り。ʔamari, ʔamaʔuri, ʔamoori, ʔamooi などともいう。

ʔamuciⓄ (名) ʔamutu と同じ。

ʔamurnⓄ (名) 安室。《地》参照。

ʔamusirareⓄ (名) [古] [あもしられ] ʔansitari (首里三平等にいる、女の神官) と同じ。

ʔamutuⓄ (名) 土手。堤。耕地と山野の境目に築いた土手をいう。ʔamuci, ʔamoo-ci ともいう。rukuzuu ʔamaree ~nu sica. 六十歳を越せば土手の下に捨てる。昔は六十歳を越すと土手の下に捨てた、という伝説がある。

ʔanaⓄ (名) 穴。くぼんだ穴。貫通した穴・欠損・欠点などはmii という。~ hujun. 穴を掘る。~nu ʔacoon. 穴があいている。

ʔanaaⓄ (名) 上流家庭の女子の世話役をする女。男の世話は男がして、それには'jakaa という。

ʔanagacisaNⓄ (形) 昔が思い出され、再会したいと思う。また、再会してうれしい。なつかしい。ʔanagacisa sjun. なつかしがる。ʔanagacikoo neeraN. なつかしくない。ʔanagacisanu cuusaN. とてもなつかしい。

ʔanagiⓄ (名) あの長さ。あれだけの長さ。あんなに長く。距離についていう。

ʔanaguiʔNza=sjuʔNⓄ (他 =saN, =ci) 細かなもの、細かなことをほじくり出す。

ʔanaguizuusaNⓄ (形) 詮索し過ぎる。ʔa-

naguizuusainee ʔooee najun. あまり詮索するとけんかになる。

ʔanagu=junⓄ (他 =raN, =ti) 細かいものをほじくる。また、(余計な)詮索をする。ʔanagujuru munoo ʔaraN. あまり詮索するものではない。

ʔanajaⓄ (名) 掘立小屋。穴を掘って柱を立てた、そまつな小屋。

ʔanami=junⓄ (他 =raN, =ti) [古]物のありかを捜し求める。人を捜すのには言わない。

ʔanarawaN* (副) [文] ʔanerawaN と同じ。

ʔaneⓄ (感) ⊖ほら。それ。遠方の物をさし示して注意をうながす語。~, ʔaman-kai ʔasec. ほら、あそこにあるよ。⊖珍しい時、意外な時に発する語。おや。あれ。あら。

ʔaneʔaneⓄ (感) (ʔane を強めて言った語) ⊖ほらほら。⊖あれまあ。おやまあ。

ʔaneeruⓄ (連体) ʔanneeru と同じ。

ʔanerawaNⓄ (副) [文] ⊖そうでも。そうではあっても。口語では ʔanneerawaN という。⊖どうであって。どうあろうとも。口語では caa narawaN といい。nakaNkari subedu maʔidaiwa sagiti, ~tumiba sinudi ʔimori. [仲村柄そばいとますだれは下げて あにあらはんとまば 忍でいまれ (仲村柄節) 仲村柄の美しい娘の住む家の裏の戸はいつもすだれを下げてあるが、どうなってもよいと思ふならば、忍んでいらっしやい。

ʔaneruⓄ (連体) [文] そんな。そのような。口語では ʔanneeru という。~ ʔjumudujaja cicarawaN ʔjutasja. [あにあるよも鳥や聞きやはもよたしや] そんな鳥どもが聞いたとしてもかまわない。

ʔanijjaaⓄ (名) あいつ。あの野郎。ʔanuhjaa ともいう。

ʔanu① (連体) あ。ʔunu (その), kunu (この) に対する。～ 'jaa. あの家。～ sjumuçi. あの本。

ʔanuca① (名) あのとし。あのとし。あのとし。-ca < 'juca.

ʔanugutooru① (連体) あんな。あのような。

ʔanugutooruu① (名) あんなもの。あのようなもの。また、あれと同じようなもの。

ʔanugutu① (副) あのように。あんなに。

ʔanuhjaa①* (名) あいつ。あの野郎。ʔanuhjaa ともいう。

ʔanuhwin① (名) あのと。あのと。

ʔanujoo① (名) あのように。やや文語的な語。～na. あのような。～ni. あのように。～ 'jami. あのようなか。ʔanugutooru, ʔanugutu などというのが普通。

ʔanujuca① (名) ʔanuca と同じ。

ʔanujuu① (名) あのと。来世。後生。kunujuu の対。

ʔanukuru① (名) あのと。過去についていう。

ʔanunama① (名) あのまま。

ʔanuceu① (名) あの人。ʔari (彼) というよりも丁寧。妻が他人に対して夫をいう場合にも用いる。

ʔanusjaku① (名) あのと。あれくらい。あれほどの量・程度。

ʔanutuci① (名) あのと。

ʔanuukunuu① (副) しどろもどろ。整然ともものが言えないさま。～ sjuN. しどろもどろになる。

ʔan① (名) 餌。菓子・餅などの中に包みこむもの。握り飯の中に入れるものなどをさす。

ʔan① (副) ⊖そう。～ 'jaibiin. そうです。ʔanee ʔajabiran. そうではありません。～du 'jaru. そうだ。しかり。～dun 'jaree. そうであるならば。それな

ら。～ 'jaigaciinaa. そうでありながら。それにもかかわらず。～ 'jakutu. そうだから。だから。～ 'jasa. そうさ。～ 'jatin. それでも。けれども。～ 'jaraa. そうなら。それなら。～ 'jara hazi. そうであろう。そうだろう。～ 'jaru hazi ともいう。～ 'jara 'jaa. そうだろうねえ。～ 'jarawan. そうだろうが。～ 'jarugutoon. そうらしい。ʔanee ʔjan mun. そうは言うべきでない。そうは言わないもの。ʔanee san. そうはしない。また、そうしてはいけない。よしなさい。⊕ああ。あんなに。あのように。ʔizunu kija 'jukati ~ curasa sacui, 'wamin ʔizu 'jatuti masira sakana. [伊集の木やよかてあんきよらさ咲ちゆい 我身も伊集やとて真白咲かな] 伊集の木は榮えて、あのように真白に咲いているが、わたしも伊集となって真白に咲きたい。～ ʔicai kan ʔicai sjuN. ああ言ったりこう言ったりする。言を左右する。～ ʔumutai kan ʔumutai. ああ思ったりこう思ったり。～ga 'jara, kan'ga 'jara. ああだろうが、こうだろうか。

ʔan① (自・不規則) ⊖ある。有る。在る。否定は neen または neeran. ʔaran は 'jan の否定として用いる。zinu ~. 金がある。'jaanu ~. 家がある。gaqko-onu ~. 学校(授業)がある。kigani-nnu ~. 被害者がある。(子供がある・妻があるなどにはふつう ʔan は用いず、'un を用いる。) ʔami, neeni. あるか、ないか。ʔaiga sjura. あるかしら。ʔunzoo tabakunu ʔamişeebiimi. あなたはたばこがおりになりますか。⊕補助動詞として、…してある。'judidu ʔaru. 読んであるとも。'judeen (読んである) の強調形。hukurasjadu ʔajuru. [文][ほこらしやどあゆる] とともうらしい。

ʔanbee① (名) 按配。加減。調子。ぐあい。

味・気分・病状などについていう。天気についてはいわない。敬語は ʔwaanbee. ~ja caaga. ぐあいはどうか。~ sjun. 按配する。加減する。調節する。

ʔanbin① (名) 水差し。やかんの形をした大きな陶器。

ʔanceen① (名) そのくらい。それっばかり。それっぼっち。ʔanteen ともいう。~nu kutunin kusamicumi. それっばかりのことに怒るのか。

ʔanceengwaa① (名) それっばかり。それっぼっち。~ ʔjaman. それっぼっち痛くない。

ʔancoo① (名) 重曹。ʔandaagii を作る時、ふくらますために使う。

ʔanda① (名) 油。脂。~ mudusjun. 揚げ物をする場合、においを消し温度を調節するために、あらかじめ何か別なものを揚げる。

ʔanda① (名) [安駄] kagu (駕籠) の敬語。普通は、さらにその上の敬語 ʔunaanda を用いる。kagu の項参照。

ʔandaagii① (名) 菓子的一种。揚げ菓子。麦粉を水でこね、油で揚げたもの。kuban-ʔagii ともいう。砂糖のはいったものは saataaʔandaagii という。

ʔandabutubutu① ⊖ (副) 脂っこいさま。~ qsi kamaran. 脂っこくて食べられない。⊖ (名) 豚などの脂身。

ʔandaçaa① (名) とかけ。

ʔandaçibu① (名) 油つぼ。頭髮用の油を入れるつぼ。

ʔandaduqkui① (名) 油用のとっくり。

ʔandagaaki① (名) 久しく肉食をしないこと。-gaaki <kaakijun.

ʔandagaami① (名) 油がめ。食用油を入れるかめ。髪油は ʔandaçibu に入れる。

ʔandaguci① (名) お世辞のうまいこと。油を塗ったようなぬめらかな甘言。油口。~ taratara sjun. おべんちゃらをたらたら

言う。

ʔandajaa① (名) 油屋。

ʔandakasi① (名) 豚の脂をしぼって取ったかす。食用となる。

ʔandamaa=jun① (自 =ʔan, =ti) 脂ぎる。人・食べ物などに、脂が多く行き渡る。

ʔandamuci① (名) 祭祀用の菓子の名。麦粉を薄くのべ、油でこねたもの。hjaagaa という菓子といっしょに供える。食用とはしない。

ʔandamucihjaa'gaa① (名) ʔandamuci と hjaagaa. とともに祭祀用の菓子で、法事などにいっしょに供える。

ʔandanaabi① (名) 揚げものをするために、油を煮えたぎらせてある鍋。

ʔandaNSu① (名) 味噌を油いためしたものの。味噌の中には肉などを入れる。茶うけにしたり、握り飯の中に入れてたりする。また、湯にとけば、そのまま味噌汁になるので、旅行用の味噌として用いる。

ʔanda=sjun① (他 =san, =ci) 溢れさせる。

ʔandazuusan① (形) 脂っこい。

ʔandee① (感) あれ。おや。ほら。~ taka taka takusinu kusikara miijun doo. あれ、鷹が沢岬村の後の方に見えるぞ (童謡の文句)。~ kunihjaa. おやこいつ。

ʔandi=jun① (自 =ʔan, =ti) 溢れる。

ʔanguooru① (連体) あのような。あんな。

ʔanguooruu① (名) あのようなもの。

ʔanguutu① (副) あのように。あんなに。

ʔangwaa① (名) ⊖姉。ねえさん。平民についていう。⊖ねえさん。娘さん。娘。平民の若い娘をいう。

ʔangwaamooi① (名) 踊りの一種。平民の女の服装でする踊り。浜千鳥節はその一つ。ʔwinaguudui に対する。

ʔangwee① (名) 案外。~na. 案外な。

ʔangweedui① (名) ʔangweeii と同じ。

ʔangweeii① (名) あぐら。あぐらをかいてすわること。~ sjun. あぐらをかく。

- hwiraku 'ijun ともいう。
- ʔaŋʔiikanʔii① (副) ああ言いこう言い。
言を左右するさま。～ sjun. 言を左右する。
- ʔaNkanboozi① (名) 髪を剃った頭。坊主頭。
- ʔaNkoomajaa① (名) 目を光らした、すごい猫。怪猫。
- ʔaNma① (名) [新] 元来は duumimizi などという。按摩。また按摩を業とする者。
- ʔaNmaa① (名) ①母。おかあさん。おっかさん。平民についていう。土族の母は ʔa-jaa。②娼家の場合は、抱え主である女 (zuriʔanmaa) をいう。やりてばば。
- ʔaNmaaʔuujaa① (名) 母親のあとばかりを追いかける子。いくじなしの子。平民についていう。土族については、ʔajaaʔuu-jaa という。
- ʔaNmadi① (副) あんまり。ʔaNmari ともいう。ʔaNmadee ʔarani. あんまり (ひどい) ではないか。～ nanzee ʔaran. さまで苦勞ではない。
- ʔaNmagaikaNʔimagai① (副) ああ曲がったりこう曲がったり。曲がりくねったさま。～ sjoon. 曲がりくねっている。
- ʔaNmajoo① (感) あれまあ。あれっ。びっくりした時、つまづいた時などに、女・子供などが発する語。「おかあさん」の意か。
- ʔaNmaku① (名) ①腕白。きかん坊。乱暴者。maku の項参照。②やどかりの大きいもの。
- ʔaNmari① (副) ʔaNmadi のやや文語的発音。
- ʔaNmasimuN① (名) 頭をなやます事。頭痛の種。やっかいなこと。おっくらな、やりたくない事。tooinu naasaa ʔatunu ～。当座に安易にしておくのとあとがめんどろなことになる。ʔicaNdagwaqei ʔatunu ～。ただでごちそうになると、あとがやっかい。
- ʔaNmasjabuciʔgee① (名) 気分が悪いこと。気分がすぐれないこと。
- ʔaNmasjan① (形) ①気分が悪い。頭が重い。ʔaNmasja sjun. 気分が悪くなる。また、卒倒する。気絶する。気を失う。②頭をなやます。やっかいである。面倒である。ʔaNmasii kutu. 面倒なこと。
- ʔaNmatui① (名) [新] 按摩とり。按摩を業とする者。
- ʔaNmee① (名) 乳母。母に代わって幼児に乳を飲ませる女。ciiʔanmee または、ciiʔan ともいう。
- ʔaNmisi① (名) 中に ʔan を入れた握り飯。ʔan には ʔandaNsu (その項参照) などを用いる。
- ʔaNmuci① (名) 餡餅。中に餡を入れた餅。
- ʔaNna① (名) 安仁屋。《地》参照。
- ʔaNna① (連体) あんな。～ sjumuçi. あんな本。
- ʔaNnagee① (名) あの長さの時間。また、あんなに長い間。時間についていう。～ mataci. あんなに長く待たして。～ nu kurusimi. あんなに長い間の苦しみ。
- ʔaNnaikaʔnai① (副) ああなったりこうなったり。ああやったりこうやったり。決まったことをしないさま。～ sjun.
- ʔaNnee① (名) 案内。～ sjun.
- ʔaNneenasiku① (副) 何のあいさつもなく。断わりもなく。ʔaNneenasini ともいう。～ qcunu ʔaankai ʔiqei cuun. 断わりもなく人の家にはいって来る。
- ʔaNneenasini① (副) ʔaNneenasiku と同じ。
- ʔaNneerawaN① (副) ʔanerawaN の口語的発音。
- ʔaNneeru① (連体) そんな。そのような。多く悪い意味に用いる。ʔaNneetaru ともいう。～ mun ʔitiri. そんなもの捨てろ。
- ʔaNneetaʔru① (連体) そんな。そのような。悪い意味に用いる。～ ninzin. そんな

ʔaNumii

な(悪い)人間。

ʔaNumii② (名) あじろの目の荒いもの。

垣根・茅ぶき小屋の壁などに用いる。目のつまったものは cinibu という。

ʔaNraku① (名) 安楽。～na kurasi. 安楽な暮らし。

ʔaNsawaNkaNʔsawaN② (副) ああかこうか。何とか。～ Qsi 'NNZUSA. 何とかしてみよ。

ʔaNsii② ⊖ (副) そんなに。それほど。また、微妙な感動の意を表わして用いる。なんと。あとを連体形で結ぶのが普通である。～ curasaru. なんてきれいだろう。～ hwirumasjaru. なんて不思議だろう。

～ duujaqsaga 'jaa. そんなにやさしいのか。⊖ (接続) そうして。そして。それから。～ caa sjuga. そしてどうするか。

ʔaNsii② (名) おかみさん。平民の主婦に対する軽い敬称。ʔee～。もし、おかみさん。

ʔaNsiiikaNʔsii② (副) ああしたりこうしたり。～ sjuN.

ʔaNsiiimee② (名) おかみさん。平民の主婦に対する敬称。kumanu～ja ʔuzimuzurasanu… ここのおかみさんはお恵み深くて… (sicigwaçieisaa の時の歌の文句)。

ʔaNsikanʔsin② (副) ああしてもこうしても。どうしたところで。

ʔaNsirari② (名) [古] [あもしられ] ⊖ ʔaNsitari と同じ。⊖ ʔaNsitaree と同じ。

ʔaNsitakuʔtu② (名) そうしたこと。そんなこと。

ʔaNsitanʔmee② (名) 士族の妾(平民)が老女となったときの称。士族の妾と遊女とは、身分は平民と決められていた。

ʔaNsitaree② (名) ⊖ [文] やや身分のよい平民の主婦に対する敬称。口語は ʔaNsii。⊖ ʔudun [御殿]などに使われている、やや身分のある平民の主婦の敬称。おかみさん。

ʔaNsitari② (名) 首里三平等 (sjuimihwira) に一人ずつ、計三人いる、神に仕える女。cihwizIN (きこえ大君)に属し、この三人が実際は全国の nuuru (のろ) を支配した。

ʔaNsjuka② (副) それほど。さほど。さして。あとへ否定的表現が続く。～ curakoo neen. それほど美しくはない。

ʔaNsjukawaaki② (副) それほどまで。あとへ否定的表現が続く。～ ʔjantin ši-mee sani. それほどまで言わなくてもいいではないか。

ʔaNsjuʔN② (自・不規則) (ʔaNs sjuN のつまった形) そうする。“ʔuhuqcu naraa ʔurandakai ʔicuN.” “hweeku ʔaNssee.” 「おとなになったら西洋へ行く。」「早くそうしろ。」 ʔaNsimişeebiree. そうなさいませ。ʔaNqsi. そして。それから。ʔaNssee. そうしたら。“ziNnu neen natan.” “ʔaNssee caa sjuga.” 「金がなくなった。」「それじゃどうするか。」 ʔaNssee naran. そうしてはいけない。ʔaNsii najuru munui. そんなことをしてできるものか。ʔaNssee ʔaran. そうするものではない。そんな法はない。ʔaNsjuraa. それなら。そうしたら。ʔaNsjuraa ʔaNssee. そんならそうしろ。ʔaNsjuru munnu. それなのに。そうなのに。“saki numiinee çiburunu ʔjanun.” “ʔaNsjuru muNnu nunumi.” 「酒を飲むと頭が痛い。」「それなのに飲むのか。」 ʔaNsjookee. そうしとけ。ʔaNsjooru ʔucini. そうしているうちに。そのうちに。ʔaNsjukutu. それだから。だから。“ʔaca ʔicumii.” “ʔaNsawaN sjusa.” 「あした行くか。」「そうするかもしれない。」 ʔaNsjaNteeman. そうしても。それでも。“hana mimigee.” “ʔaNsjaNteeman ʔukiran.” 「鼻をつまめ。」「それでも起きない。」 ʔaNsjaNteem. ʔaNsjaNteeman と同じ。ʔaNsii. そうして。

Yaⁿsi kwiri. そうしてくれ。
 Yaⁿteen[Ⓞ] (名) Yaⁿceen と同じ。
 Yaⁿtikutu[Ⓞ] (名) そういうこと。～nu Yaⁿ-mi. そういうことがあるか。～nu munu-Yiⁿjoonu Yaⁿmi. そんな口のきき方があるか。
 YaⁿZumiikan[?]Yumi[Ⓞ] (副) ああ思いこり思い。思い迷うさま。～sjun.
 Yaⁿzasa[Ⓞ] (名) 編み笠。農民の用いるもの・乗馬用のもの・踊りの時のものなどがある。
 Yaⁿzi[Ⓞ] (名) [接司] Yaⁿzi と同じ。
 Yaⁿzikabi[Ⓞ] (名) 彼岸その他の祭祀の時、祖先を祭るために燃やす、銭型を打った紙。紙銭。この紙を燃やす彼岸の行事は 'ncabi, kabiYaⁿzii などという。
 Yaⁿ=zun[Ⓞ] (他 =daⁿ, =ti) あぶる。火にかざす。また、焼く。Yaⁿbuⁿともいう。tii ～。手をあぶる。kabi ～。紙を焼く。
 Yaⁿqca[Ⓞ] (名) 歩行の小児語。あんよ。naa ～sjumi. もうあんよするか。
 -Yaⁿqcaa (接尾) 歩く人・旅行する人などの意。'janbaruYaⁿqcaa (よく山原へ行く人), 'jamatuYaⁿqcaa (よく日本本土へ旅行する人)。
 Yaⁿqcaa[Ⓞ] (感) Yaⁿqkaa と同じ。
 Yaⁿqcamce[Ⓞ] (名) kacaasii (三味線・歌の急調子の曲)に合せて舞う、急調子の即興的な踊り。農村の若者たちが mooYaⁿšibii (その項参照)で好んで踊るもので、一定の法式も型もない。Yaⁿqcameegwaa と同じ。
 Yaⁿqcamegwaa[Ⓞ] (名) Yaⁿqcamce と同じ。
 Yaⁿqci[Ⓞ] (名) ⊕歩くこと。⊖旅行。
 Yaⁿqcihazimi[Ⓞ] (名) 幼児などの歩きはじめ。
 Yaⁿqcihwi[?]ci[Ⓞ] (名) 出歩くこと。しばしば外出すること。kuneedaⁿšee ～qsi, 'jaanee kakarantaⁿ. 近ごろは外出ばかりして家にはいなかった。
 Yaⁿqcinaree[Ⓞ] (名) 歩く練習。病後などの足ならし。

Yaⁿq=cuⁿ[Ⓞ] (自 =kaⁿ, =ci) ⊖歩く。歩行する。Yaⁿqkaraⁿ Yaⁿqci. いやいやながら、または無理に歩くこと。Yaⁿqcagacii. 歩きながら。みちみち。mici ～。道を歩く。micibikeei ～。働かずに、ふらふら出歩いてばかりいる。gira muqcee Yaⁿqkaraⁿ. 世間に顔出しができない(顔を持っては歩けないの意)。'jama ～。山仕事をする。haru ～。畑仕事をする。百姓をする。⊖行く。進む。移動して行く。動いて行く。tuciinu 'janditi Yaⁿkaⁿ natoon. 時計がこわれて動かなくなった。huninu ～.*船が進む。Yumi ～。海に行く。航海する。また、漁師をする。⊖*…して暮らす。…ばかりしている。いつも…する。また、…の状態が続く。Qkwanucaaga mookiti Yaⁿqcuⁿkutu, 'wannee sjumuⁿciⁿbikeei 'judi ～。子供たちがずっと働いていてくれるから、わたしは本ばかり読んで暮らしている。'wajaanaguci ŋici Yaⁿqcuru gutoon. わたしの悪口を言い続けているようだ。hataraci ～。ずっと仕事がある。kunu hatakee caa hwibariti ～。この畑はいつも干割れてばかりいる。Ⓞ元気である。達者である。Yaⁿqcumii. 元気か。目下に対するあいさつのことば。目上へは 'waacimišeebiimi という。Yaⁿqcutii. 元気だったか。目下に対するしばらくぶりのあいさつのことば。歩いている人に対して言うわけではない。しかし、平民・いなかの者は、立っている人へ taⁿqoomi. (立っているか)、坐っている人へは 'icoomi. (坐っているか)などというあいさつもする。
 Yaⁿqcuu[Ⓞ] (名) Yaⁿcuu と同じ。
 Yaⁿqkaa[Ⓞ] (感) 痛い時に発する語。あいた。
 Yaⁿqkijoo[Ⓞ] (感) ⊖ああ。失望した時などに女の発する語。⊖死者を悲しんで女が泣く声。中国人が哀号と泣くのと似ている。
 Yaⁿqku[Ⓞ] (名) 叱りつけること。叱責。～

ʔaʔkukata

ʂjuN.

ʔaʔkukataⓄ (名) 行く先。～ ʔuujuN.
行く先先をつけまわす。

ʔaʔkumuʔkuⓁ (名) 散散に叱りつけること。～ ʂjuN.

ʔaʔpajamasisiⓄ (名) [文] 伏山敵討(組踊りの名)に登場するいのしし。大いのししの意か。ʔaʔpa- は ʔahjaaʔwaa (母豚)などの ʔahjaa と関係ある形か。

ʔaʔpaŋgareeⓄ (副) やけを起こすさま。～ ʔsi sakibikeei nudoon. やけを起こし酒ばかり飲んでいる。

ʔaʔpeeruⓄ (連体) あれぐらいの。あれだけの。あれほどの。量・大きさなどについていう。～ ʔisi. あの大きさの石。

ʔaʔpiⓄ (名) あれだけ。あのくらい。あれほど。量・大きさなどについていう。

ʔaʔpigwaaⓄ (名) あれっぽち。あれっぽかり。

ʔaʔpiiⓄ (名) ⊖兄。にいさん。若者。農村で用いる語。首里・那覇では、士族については ʔaʔcii, 平民については ʔahwii という。⊖いなかの若者。あんちゃん。

ʔaʔsaⓄ (名) あれだけ。あれぐらいの数量。あれほど。

ʔaʔsaNⓄ (形) ʔasasaN と同じ。

ʔaʔtaⓄ (名) 熱田。《地》参照。

ʔaʔta-(接頭)にわか・不意・突然の意を表わす接頭辞。ʔaʔtaʔweekiNcu (にわか分限), ʔaʔtabui (にわか雨)など。

ʔaʔtaaⓄ (名) あの人たち。彼ら。

ʔaʔtabazooⓄ (名) ちょっと見。また, ちょっと見た目にはよく見えるもの。

ʔaʔtabuiⓄ (名) にわか雨。

ʔaʔtagutuⓄ (名) 不意なこと。突然なできごと。～ ʔjati caa see ʔjutasjaga ʔwakaraNtaN. 突然のことでどうしたらよいかわからなかった。

ʔaʔtakangeeⓄ (名) にわかの考え。不意の思いつき。

ʔaʔtamiⓄ (名) 精肉。butaʔaʔtami (豚肉), ʂinuʔaʔtami (牛肉), ʔjamaʔaʔtami (猪の肉)など。

ʔaʔtaniⓄ (副) にわか。不意に。いきなり。突然。～ kusikara munu ʔaʔtaN. だしぬけに後ろから呼びかけられた。

ʔaʔtaraⓄ (副) あたら。惜しくも。

ʔaʔtaruⓄ(連体) 惜しい。手離せない。～ ʔuhuʔiju hwiŋgaci ʔicasataN. 惜しい大きな魚を逃がして残念だった。

ʔaʔtaʔduduruciⓄ (名) 急に驚くこと。俄然色を失うこと。

ʔaʔtaʔunitaciⓄ (名) にわかの思い立ち。

ʔaʔtaʔuzumiⓄ (名) 偶然の機会。ひよんなきっかけ。

ʔaʔtaʔweekiNcuⓄ (名) にわか分限。成金。

ʔaʔtooganasiimeeⓄ (名) ⊖降嫁してʔazi [按司]の妻となった王女の敬称。奥方様。⊖ʔaʔtoomeeの敬称。奥方様。その使用人などがいう語。

ʔaʔtoomeeⓄ (名) ʔazi [按司]の妻。ʔumee [御前]の妻。奥方。

ʔaraⓄ (名) あら。掲いだ穀物の中にまじっている, もみその他の雑物。

ʔara-(接頭)新しいこと, はじめてのことを示す。ʔaratabi (新旅), ʔaranubui (新上り), ʔarakudai (新下り)など。

ʔara-(接頭)荒い・粗雑な・乱暴ななどの意を表わす。ʔarasikuci (荒仕事), ʔarabaakii (目のあらいざる)など。

ʔaraʔaraⓄ (名) 大体。ざっと。～nu hanasi. 大体の話。～ hanasee cicoon. ざっと話は聞いている。

ʔaraaⓄ (名) 粒の大きいもの。粒のあらいもの。

ʔarabaacaaⓄ (名) 葉のあらい茶。粗茶。

ʔarabaakiiⓄ (名) 目のあらいざる。いもなどを入れる。ʔjunabaakiiの対。

ʔarabiⓄ (名) たたり。また, たたりの前

兆。たたりが起きるといふ警告。凶兆。
 ʔarubi ともいう。nuugananu ʔarabee
 ʔarani. 何かのたたりの警告ではないか。
 harunu ~. 墓のたたり。
 ʔaraci① (名) 荒荒しいこと。乱暴。~na
 mun. 乱暴な者。~ni sjuna. 荒荒しく
 するな。
 ʔaradati=juN① (他 =raN, =ti) 荒立てる。
 騒ぎを大きくする。
 ʔaradumeei① (名) 初婚。男についてい
 う。初めて妻をめとること。dumeei <
 tumeejuN. 女の初婚は ʔaraniibici また
 は ʔaramuci という。
 ʔaragaa① (名) ㊦競争。ʔNma ~ sjun.
 馬の競争をする。㊦口論。議論。~ sjun.
 ʔaragaaee① (名) 競い合うこと。競争。
 ʔaragaa① (名) ʔaragaa と同じ。
 ʔaragaa=juN① (他 =raN, =ti) ㊦競う。競
 争する。あらがる。㊦口論する。議論する。
 ʔaragee=juN① (自 =raN, =ti) ㊦大きくな
 る。野菜・穀物などが普通より大きくなる
 ことをいう。大きくなり過ぎる。ʔara-
 geetooru maaminaa maakoo neen. 大
 きくなりすぎたもやしはおいしくない。㊦
 身体が大きくなる。多く、子供・女などが
 普通より大きく、たくましくなることに
 いう。
 ʔaraguſiku① (名) 新城島。八重山群島の
 島の名。また、新城。《地》参照。
 ʔaraſicenu① 'juru① (句) [文] 初めて会
 う夜。初夜。satume ʔuturusjaja ~ju,
 ʔanma ʔuturusjaja ʔasan 'jusan. [里
 前おとろしやや あら行逢の夜よ あんま
 おとろしやや 朝もよさも] 男のかたが恐
 ろしいのは初めての夜だが、かかえ親は年
 中恐ろしい。女郎のよんだ歌とみえる。
 ʔaraſee① (名) 洗濯する場合の代わりの
 衣類。
 ʔarajaci① (名) 素焼き。zoojaci の対。
 ʔarajaciqkwan① (名) 素焼きのやかん。

ʔarajacimakai① (名) 素焼きのどんぶり。
 ʔara=juN① (他 =aN, =ti) 洗う。また、洗
 濯する。sintaku の項参照。karazi ~.
 髪を洗う。
 ʔarakaci①① (名) 新垣。《地》参照。
 ʔarakudai① (名) 初めて都から地方へ下
 ること。初下り。
 ʔaramakai① (名) 大きい粗末などんぶり
 (makai)。農村などで飯をもるのに用い
 る。
 ʔaramakajaa① (名) ʔaramakai と同じ。
 ʔaramooki① (名) 荒かせぎによるもうけ。
 大もうけ。ぼろもうけ。
 ʔaramuci① (名) 初婚。女が初めて結婚す
 ること。ʔaraniibici ともいう。
 ʔaranami① (名) 荒波。
 ʔaraniibici① (名) 初婚。女についていう。
 初めてとつぐこと。ʔaramuci ともいう。
 男の初婚は ʔaradumeei という。
 ʔaranubui① (名) 初めて地方から都へ上
 ること。初上り。
 ʔarasan① (形) ㊦乱暴である。荒っぽい。
 saki numiinee ʔaraku najun. 酒を
 飲むと乱暴になる。㊦荒い。荒っぽい。
 'jahwasan, kumasan などの対。kutu-
 banu ~. ことばが荒い。zinzikeenu ~.
 金使いが荒い。㊦荒い。sizika 'jan の対。
 kazinu ~. 風が荒い。naminu ~. 波が
 荒い。㊦太い。糸などが太い。また、目や
 粒などが粗い。ʔuroosan の対。ʔajanu
 ~. 稿が粗い。miinu ~. 目が粗い。
 ʔarasi① (名) 嵐。おとなの使う語。最も普
 通の語は ʔuukazi. teehu (台風) は文
 語的な語。~ hucun. 嵐が吹く。'Nzoga
 nizasicini ~ hucikumaba, kugarijuru
 'waminu ʔiniNtumuri. [むぞが寝座敷
 に 嵐吹きこまば 焦れよる我身の 遺念
 とまれ] 恋しい君の寝室に嵐が吹き込んだ
 ならば、恋しているわたしの恨みの念と思
 え。

Yarasigutu

Yarasigutu① (名) Yarasikuci と同じ。

Yarasigwii ① (名) [文] 不幸な知らせ。

死んだという知らせなど。Yarasigwinu Yaraba 'wamija ca sjuga. [あらし声のあらば わみやきやしゆが(忠臣身替)] 不幸な知らせがあったら、わたしはどうしようか。

Yarasi① (名) 競争。Yaragai, sjuubu ともいう。

Yarasikuci① (名) 荒仕事。体力のいる仕事。

Yara=sjuN① (他 =saN, =ci) 石白などの目を立てる。Yuuſi Yarasjabira. 白の目を立てましょう。白の目立てを業とするものが呼び歩く文句。

Yara=sjuN① (他 =saN, =ci) 荒らす。kazinu muzukui ~. 風が作物を荒らす。

Yarasuu=jun① (他 =raN, =ti) 競争する。勝敗などを争う。

Yaratabi① (名) 初旅。

Yaratama=jun① (自 =raN, =ti) 改まる。

Yaratami① (名) 検査。調査。調べ。ninzu-
Yaratami は人員調査。戸口調査。

Yaratami=jun① (他 =raN, =ti) ①改める。simuci ~. 性質を改める。②調べる。検査する。

Yarawari=jun① (自 =raN, =ti) 現われる。あらわになる。露見する。また、明らかになる。kakuci kakusarimi njamata Yarawarira. [隠ち隠されめにや又あらはれら(手水之縁)] 隠しても隠せるものではないから、では名前をあかしましょう。'jutakanaru mijunu sirusi Yarawariti ...[豊かなる御世のしるしあらはれて...] 豊かな御世のしるしがあらわれて…。

Yarawa=sjuN① (他 =saN, =ci) 現わす。あらわにする。あばく。姿を現わすなどの意ではあまり用いないようである。また、書物を著わす意では kacun(書く)という。hada ~. 肌を現わす。zici ~. 事実をあばく。

YarazaraNku⁷tu① (名) 根も葉もないこと。ありもしないこと。saNzaN ~ Yjun. 散散根も葉もないことをいう。

Yarazukui① (名) 下ごしらえ。大体を作ること。

Yarazukui① (名) 新たに作ること。新造。

Yarazuutee① (名) 所帯持ちが悪いこと。またそのような世帯。

Yareegami① (名) 洗い髪。洗ったあとの結ってない髪。

Yareegeei① (名) Yaraigeei と同じ。

Yareekarazi① (名) Yareegami と同じ。

YareemuN① (名) 洗い物。洗濯物。

Yareesikuci① (名) 洗濯。洗濯仕事。

Yareezin① (名) 洗濯した着物。

Yari① (名) Yuri(それ), kuri(これ) に対する。①あれ。あの物。あの事。~jaka kuree masi. あれよりこれはよい。②あれ。あの者。彼。彼女。Yama(あのかた), Yanuqcu(あの人)よりはぞんざいな形。また、Yamaの項参照。③(感)ほら。人に指摘する場合などに発する。目上に対しては、男は Yarisai, 女は Yaritai と言い、目下などをさげすんでいう時には Yariqsa, Yarihjaa などという。

YariYarii① (感・副) あれよあれよ。~sjarinagaraa Yutitan. あれよあれよと言われながら落ちた。

Yarici① (名) 荒地地。

Yarigateeku⁷tu① (名) ありがたいこと。感謝すべきこと。Yarigatasan という形は用いないようである。

Yarihat=jun① (自 =raN, =ti) 荒れ果てる。荒廃する。

Yarihjaa① (感) ほら。ほら、こいつ。目下に対してさげすんで、また、喧嘩などで、注意をうながすために発する語。

Yarijaakuri⁷jaa① (副) あれやこれや。あれこれ。

Yari=jun① (自 =raN, =ti) ①荒れる。Yu-

minu ~. 海が荒れる。kazinu ~. 風が荒れる。hadanu ~. 肌が荒れる。㊦大きくなる。大きくなり過ぎる。たくましくなる。ʔarageejun と同じように用いる。keenanu ~. 腕がたくましくなる。

ʔarikaa① (名) あの辺。

ʔarikaakuri'kaa① (名) あちこち。あちらこちら。

ʔarikuru① (副) 彼自身で。

ʔarimasaraakuri'masaraa① (副) あっちがいいだろう、こっちがいいだろう。絶えず気が変わるさま。

ʔariqsa① (感) ほら。ほら、こいつ。目下に対してさげすんで、また、喧嘩などで、注意をうながすために発する語。

ʔarisaaikuri'saai① (副) 珍しがって、あれこれとさわるさま。~ sjun.

ʔarisai① (感) ほら。男が目上に対して、注意をうながす時などに発する語。

ʔarisama① (名) [文] 有様。様子。ʔicaru ~ni najai ʔimega. [いきやる有様になやいいまいが(花売之縁)] どんな様子になっていらっしゃるか。

ʔaritai① (感) ほら。女が目上に対して注意をうながす時などに発する語。

ʔarizumiikuri'ʔumii① (副) あれこれ思いなやむさま。~ sjun.

ʔaru① (連体) 或る。文語的な語。~ tira. 或る寺。普通は nuuganandiru tira. とか maaganandiru tira. などという。

ʔarukasi'ruka① (名) あるもの全部。一切合切。ことごとく。~nu mun. 一切合切のもの。~ muru ʔnzacan. 一切合切全部出した。

ʔarumi① (名) 有銘。《地》参照。

ʔarumun'neenmun① (名) あるもの無いもの。あるもの全部。一切合切。~ ʔnzaci ʔutuimuci sjun. 一切合切出しておもてなしする。

ʔaruʔuqpi① (名) あるだけ。あるかぎり

(の量)。

ʔaruʔuqpii① (名) あるだけですます人。また、あるだけ何でもさらけ出す人。隠しててのない人 (nuukakusinu neen q-cu)。

ʔaruʔuqsa① (名) あるだけ。あるかぎり。全部(の数量)。

ʔasa① (名) 朝。単独にはあまり使わない。ʔasaʔakeei (朝焼け), ʔasajusa (朝夕) などの複合語に現われる。普通は sutumiti. また、sutumiti の方が ʔasa よりも早い時間をさす感じがある。

ʔasa① (名) 阿佐。《地》参照。

ʔasa① (名) 麻。

ʔasaʔakeei① (名) 朝焼け。

ʔasaban① (名) [朝飯] 昼飯。正午ごろ食う食事。朝飯は sutumitimun という。一般人は sutumitimun, ~, 'juuban の三食。労働者は sutumitimun, ~ (昼ごろ食う), hwirumamun (午後3時ごろ食う), 'juuban の四食が普通であった。昔は、二食の風があったらしく、上流婦人は長く ~, 'juuban の二食しかとらなかつた。~ mucun. 昼飯(の弁当)を持って行く。

ʔasaban① (名) 朝晩。明け暮れ。

ʔasabansugai① (名) 昼飯の支度。

ʔasabanuni① (名) 昼飯時分。正午ごろ。

ʔasaçiju① (名) 朝露。

ʔasadaci① (名) 朝早く出発すること。朝立ち。

ʔasadnri① (名) 朝なぎ。'juuduri (夕なぎ) の対。~ 'juuçuri. 朝なぎ夕なぎ。

ʔasageera=sjun① (他 =san, =ci) ものを捜して、ひっかけ回してとりちらかす。

ʔasagi① (名) 立棲。着物の襟下。

ʔasagu=jun① (他 =ran, =ti) かき回して捜す。あさって捜す。ʔasajun ともいう。

ʔasagumui① (名) 朝曇り。

ʔasaju① (名) [文] 朝夕。明け暮れ。

ʔasajun

ʔasa=jun① (他 =ran, =ti) あさる。ほじくって捜す。ʔasagujun はその意味を強めた語。

ʔasajusa① (名) [文] 朝夕。明け暮れ。

ʔasakaagi① (名) 朝の日陰。また、朝の日陰のある時刻。日中は暑いので、～, 'juukaagi に出歩くように心掛ける。

ʔasakii① (名) あんなにたくさん。あんなに多く。～nu qcu. あんなに多くの人。

ʔasamajuma① (名) [文] [朝間夕間] 朝夕。

ʔasamasjan① (形) あさましい。ʔasamasii ninzin. あさましい人間。

ʔasamiiguci① (名) 朝の口あげ。商売人は朝の口あげを縁起のよいものとして喜び、siibun (おまけ) を付けたりする。

ʔasanaa① (名) 朝寝坊。朝寝 (ʔasani) する者の卑称。

ʔasani① (名) 朝寝。

ʔasanihwiNni① (名) 朝寝昼寝。怠けて寝てばかりいること。

ʔasanunu① (名) 麻ぬの。

ʔasaNnaara① (副) 朝っぱらから。朝早くからあまりよくないことがあるときいう。～zin ʔimijun. 朝っぱらから金を催促する。

ʔasasaa① (名) せみの一種。羽が白い。sirubanii ともいう。また鳴き声から sansasanaa ともいう。

ʔasasan① (形) ʔaqsan ともいう。⊖浅い。ʔasasaru ʔici. 浅い池。cimunu ～. 心が浅い。⊖色が薄い。ʔirunu ～. 色が薄い。

ʔasatabi① (名) [古] 政務を司る役。三人いたので sansikwan [三司官] ともいう。国務卿の意。ʔaʔitabi ともいう。sansikwan の項参照。

ʔasati① (名) あさって。明後日。

ʔasatiNnaaca① (名) しあさって。あさっての次の日。明明後日。

ʔasatu①① (名) 安里。《地》参照。

ʔasaʔubun① (名) 昼飯飯。ʔasaban (昼飯) の丁寧語。

ʔasaʔuki① (名) 朝早く起きること。早起き。hweeʔuki ともいう。

ʔasaziki① (名) 軽く塩に漬けた漬けもの。浅漬け。ただし大根には限らない。

ʔasaziN① (名) 麻の着物。あさぎぬ。

ʔasi① (感) そうさ。けんか・口論の時、怒った時などに相手を侮蔑して肯定の返事をする語。ʔasiqsa, ʔasihjaa などともいう。

ʔasi① (名) ⊖食用にする場合などの、豚などの肢。⊖足。足の意味では普通 hwisja といい、ʔasi は慣用句以外には用いられない。～nu 'Nkajuru mama. 足の向くまま。ʔuhwee ～ hajamiri. 少し足を早めろ。少し急げ。また、複合語としては、ʔasitu (足音), ʔasiza (下駄) など。

ʔasi① (名) 汗。～hajun. 汗が出る。汗が流れる。

ʔaʔibaa① (名) ʔaʔibjaa と同じ。

ʔaʔibi① (名) ⊖歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。類義語に kuniri, sinugu などの古語がある。kijuja ʔwice 'ugaii ʔiruʔirunu ～, ʔacaja ʔumukazinu tacuratumiba. [今日は御行合拜で 色色の遊び 明日や面影の 立ちゆらとめば] きょうはお会いしていろいろの遊びを楽しもう。あすはおもかげが立つと思えば。～Nkai nin ʔijun. 歌・踊りなどの遊びに夢中になる。⊖子供などのする遊び。

ʔaʔibiburi① (名) 遊ぶことに心を奪われること。子供などが遊びほうけること。

ʔaʔibidusi① (名) 遊び友達。遊び仲間。

ʔaʔibiguni① (名) 踊り・村芝居などの盛んな村。また、男女の交際の自由な村。kuni は村里の意。同義語に hanaguni (その項

参照)。
 ʔaʃibiʔicunasa① (名) 遊ぶために忙しいこと。
 ʔaʃibinaa① (名) ʔaʃibi (その項参照) を催す場所。村芝居をする所。naa は庭のほかにも、広場という意味がある。
 ʔaʃibiŋgwee① (名) 徒食。遊食。
 ʔaʃibisigutu① (名) ʔaʃibisikuci と同じ。
 ʔaʃibisikuci① (名) 遊び仕事。遊びながらでもできる、簡単な仕事。
 ʔaʃibizurasan① (形) 歌・三味線・踊り・芝居などが上手である。踊り・芝居などが美しい。ʔanu muraa ~。あの村は演芸がうまい。
 ʔaʃibjaa① (名) 遊び人。遊蕩人。
 ʔaʃibu① (名) あせも。
 ʔaʃi=buN① (自 =baN, =di) ⊖遊ぶ。子供などが遊ぶ。ʔaʃibumi. 遊ぶか。子供にいうあいさつ。⊖遊ぶ。仕事をしないでいる。namaa ʔaʃidoon. 今は仕事をしていない。今は失業している。⊖歌・三味線・踊りなどに興ずる。娯楽を楽しむ。
 ʔaʃidooni① (名) 足の力。脚力。~nu neeN. 足の力がない。足が弱い。
 ʔaʃigacaa① (名) せっかち。性急な者。
 ʔaʃigaci① (名) 気をもむこと。やきもきすること。あせり。~sjun. あせる。やきもきする。
 ʔaʃigacinoori① (名) あせること。気をもむこと。やきもき。いらいら。~sjan-teemaN, najuru gutudu najuru. やきもきしたところで、なるようにしかならない。
 ʔaʃiga=cuN① (自 =kaN, =ci) あせる。いらだつ。いらいらする。
 ʔaʃigu=nuN① (自 =maN, =di) 汗ばむ。
 ʔaʃiguruma① (名) 足枷。~ʔiriʔun.] 足枷をはめる。
 ʔasihaimiʔi'hai① (副) 汗水流して。~hataracuN. 汗水流して働く。

ʔasihajaa① (名) 汗かき。よく汗をかく者。
 ʔasihjaa① (感) そうさ。そうさ、この野郎。ʔasi の項参照。
 ʔasihwisja① (名) 足の卑語。ʔasi, hwisja とともに足の意。~ʔiriNna. 家に足を入れるな。出入りするな。
 ʔaʃii① (名) 昼飯 (ʔasaban)。農村で使う語。
 ʔaʃii① (名) 安勢理。《地》参照。
 ʔasijoo① (名) 足弱。足の弱いこと。足の弱い者。
 ʔasijooʔaa① (名) ʔasijoo と同じ。
 ʔasikusi① (名) 足腰。~N tataN. 足腰も立たない。
 ʔasimarubi① (名) 足を滑らして転ぶこと。また、あわてふためいて走ること。~Qsi caN. あわてて (走って) 来た。
 ʔasimarubitiimarubi① (名) あわてふためいて走ること。~Qsi haaee nati caN. あわてふためいて走って来た。
 ʔasiNmi① (名) 安次嶺。《地》参照。
 ʔasiqsa① (感) そうさ。そうさ、この野郎。ʔasi の項参照。
 ʔasiree=jun① (他 =raN, =ti) ⊖あしらう。いい加減にもてなす。軽く扱う。ʃimanu cuubaankai kakati ʔNzaʃiga, ʔasiree-raqtan. すもうの強い者にかかって行ったが、軽くあしらわれた。⊖[新?]配合する。とりあわせる。
 ʔaʃitabi① (名) [古] ʔasatabi と同じ。
 ʔaʃitibici① (名) 料理名。豚の足の料理。高級な料理とされている。
 ʔasitu① (名) 足音。ʔasiʔutu ともいう。~nu kaazi. 足音のするたび。
 ʔasiʔutu① (名) 足音。hwisjaʔutu ともいう。
 ʔasiza① (名) 下駄。駒下駄。表つきの下駄には zita, 日本本土の菌を入れた足駄には tacibaaʔasiza という。~nu 'uu. 下駄の緒。

ʔasizamaciʔa

ʔasizamaciʔa①(名) はきもの店。下駄屋。

ʔasiziraamoo①(名) 芝(ʔasiziri)が一面に生えた所。芝生。

ʔasiziri①(名) 足の裏に生ずる、あかぎれに似た裂け目。はだしで歩く労働者に多くできる。寒さのためとは限らない。ʔjunziri, ʔasizirijunziri ともいう。

ʔasiziri①(名) 芝。芝草。

ʔasiziriʔjunziri①(名) ①ʔasiziri(芝草)の卑称。②ʔjunziri(足の裏が切れること)の卑称。ʔasi-には足の意のほかに、悪いという語感もある。

ʔasjagi①(名) 農村の比較的裕福な家の前庭にある離れ屋。もと、祖神を祭った建物で、母屋よりも美しくしてあり、客間にしたり、倉にしたり、機を置いたり、いろいろな用に用いている。足上げの意か。mee-nujaa(前の屋)ともいう。

ʔasjura①(名) [文] ゆくえ不明。tama-kuganicuigwa ʔnzaru sangwaçini ~ sici ʔuran. [玉黄金一人子 去ぢやる三月に あしゆらしち居らぬ(女物狂)] 大事な一人子が去る三月にゆくえ不明になって、いない。

ʔatabicaa①(名) ʔatabici と同じ。

ʔatabici①(名) ①蛙。蛙の総称。②蛙の一種。土色の小さいもの。

ʔatagahuu①(名) [文] 思いがけない幸福。突然の果報。ʔata-<ʔaqt(aにわか)。haa kwahun çicuşigadu çicin çicizurasa. ʔatagahudu çicaru. kwahuna ʔwamiya. [はあ 果報も付きゆすがど 付きも付き清らさ あた果報ど付きやる 果報な我身や(大川敵討)] ああ、幸運も付いてはいるが見事に付いたものよ。幸運なわたしは、不意の幸運にめぐまれた。

ʔatai①(名) ①王室内の庶務係。身分の高い、若い者になる。②(接尾)係。-tai ともなる。koosakuʔatai(農事係), ʔjamatai(山林係), hanatai(王室の接待係

の少年), kuratai(王室の倉庫係)など。

ʔatai①(名) 屋敷内にあり、野菜などを作る畑。菜園。複合語に hanaʔatai(花畑), ʔuuʔatai(芭蕉畑)など。

ʔatai①(名) くらい。ほど。ʔunu ~ nu kutuni kusamikuna. それぐらいのことに怒るな。

ʔataimee①(名) ①当然そうあるべきこと。義務。ʔujanu kutoo qkwanu ~. 親の世話は子の義務。②あたりまえ。普通。尋常。ʔaree ~ ja ʔaran. 彼は普通ではない。異常がある。

ʔataipeecin①(名) [当親雲上] 士族の位階の名。

ʔata=jun①(自 =ʔan, =ti) ①当たる。的中する。相当する。また、合う。また、出来事に会合。事に当たる。saNminco ʔatatoomi. 計算は合っているか。cimunu ~. 気が合う。心が通ずる。miitunda ʔjatin cimunu ʔataran kutunu ʔan. 夫婦でも心の通わないことがある。ʔata-tidu sijuru. 実際に経験して、はじめてわかる。ʔatataru husjoo. 悪いことに会ったのが運のつき。当たったのが運が悪い。②食物に当たる。食中毒する。③悪いこと・やましいことが、思い当たる。痛いところを突かれる。[ʔatajuru gutu ʔjun. 痛いところを突くように言う。自分が攻撃されているのでない時、自分自身のやましい点を思い当たった場合は duuʔatai sjuN という。

ʔataku①(名) 蛙の一種。青蛙。芭蕉の葉によくいるので、ʔuuʔataku ともいう。~ natoon. 青蛙のように坐りこんで動かない。坐りこんで働かないさま、だだをこねて動かないさまなどをいう。

ʔatama①(名) ①頭領。かしら。(身体名の「頭」は çiburu) ②慣用句として、はじめ。あたま。~kara qçudu ʔuşeetooru. あたまから人を見くびってかかって

いる。～ni. 最初から。
ʔatamawaiⓄ (名) [新] 頭割り。人数割り。普通は ʔiziwai または ʔiburuwai という。
ʔataraⓄ (副) あたら。口語は ʔaqtara。～ninziinni ʔnmarijai 'uʔsiga. [あたら人間に 生れやい居すが] あたら人間に生まれてはいるが。
ʔatarasimuⓄ (名) 大事なもの。手離せないもの。
ʔatarasjanⓄ (形) 大事である。手離せない。ʔatarasii nasimuNnuqkwa. 大事な生みの子。ʔatarasja sjuN. 大事がる。手離したがらない。
ʔatiⓄ (名) ㊦当て。目あて。心あて。目標。㊦心覚え。心当たり。～nu neen. 心当たりがない。覚えがない。熟睡中に起こったことなどについている。㊦思慮。分別。munnu ʔatee neen. 分別がない。危険を知らない。㊦音さた。たより。nuuʔatin neen. 何の音さたもない。naguja 'janbarunu ʔicihatiga 'jajura, namadi nagubuninu ~ja neraN. [名護や山原の行き果てがやゆら なまで名護船のあてやないらぬ] 名護は山原のはてであろうか、いまだに名護からの船のたよりもない。
ʔatiga=junⓄ (他 =aN, =ti) 目星をつける。擬する。ʔatigaarijun. 目星をつけられる。容疑者とされる。'wannee nuun sanʔsiga ʔatigaaqti kusamikariisaa. わたしは何もしないのに目星をつけられて、しゃくにさわるよ。taaga ʔjaa ʔatigajuga, duuʔatai qsi. だれが君だというものか、自分でひがんで。
ʔatigeehuuⓄ (名) あてずっぽう。当て推量。
ʔati=junⓄ (他 =raN, =ti) ㊦当てる。的中させる。接着させる。あてはめる。相当させる。また、合わせる。haajankai kii ~. 柱に木を当てる。tucii ~. 時計を合わせ

る。㊦なぐる。人の体を打つ。那覇などではなぐることを、多く kurusun, taqkurusun, tataqkurusun などというが、首里ではやわらかに ʔatijun と多くいった。

ʔatikawa=junⓄ (自 =raN, =ti) 当てがはずれる。

ʔatinasiⓄ (名) 無邪気な者。あどけない者。女・子供など思慮分別のない者。timiʔitiʔi siran ~ju demunu, 'juruci tabori. [手水です知らぬ あてなしよだいの許ちたばうれ(手水之縁)] 手水ということを知らない、いとけない者ですから、お許し下さい。

ʔatiqteenⓄ (副) 女・子供などの、あどけないさま。無邪気なさま。～sjoon. あどけないさまをしている。

ʔatisjooⓄ (名) 思慮。～nu neen. 思慮がない。

ʔatitiNpuuⓄ (名) ʔatitiqpuu と同じ。

ʔatitiqpuuⓄ (名) あてずっぽう。

ʔatuⓄ (名) (後方の意には多く kusi という。また、跡の意では、複合語を除き、多く sirusi という。) ㊦のち。後刻。将来。また、死後。～kuuwa. あとでこいよ。～nu kutu. あとのこと。また、死後のこと。～nu ʔuzumi. あげくのはて。結局。～nu ʔuzumeekaramiraqtan. あげくのはては、つかまえられた。㊦次。ʔunu ~. その次。㊦子孫。また、後継者。～teejun. あとが絶える。

ʔatuʔatuⓄ (名) あとあと。のちのち。将来。

ʔatubaraⓄ (名) 後妻の子。

ʔatubisjaⓄ (名) 動物のあとあし。

ʔatuʔiziⓄ (名) あと継ぎ。相続人。嗣子。

ʔatudumeeiⓄ (名) ʔatudumi と同じ。

ʔatudumiⓄ (名) 後妻。sacidumi (先妻) の対。

ʔatukataⓄ (名) あとかた。痕跡。～N

ʔatukatagiki

- neen. あとかたもない。
- ʔatukatagiki① (名) あとかたづけ。あと始末。
- ʔatumasaʔigahuu① (名) あとになつてりまく行くこと。あとの方がかえつてよくなること。
- ʔatumi① (名) 跡目。あと継ぎ。後継者。
- ʔatumudui① (名) あと戻り。また、退歩。
- ʔatunainai① (副) meenainai の対。㊦だんだん後へさがるさま。㊦しりごみするさま。人の後になろうとするさま。～bikeen qsi. しりごみばかりして。
- ʔatunaisaci^mnai① (副) ㊦あとになつたり、先になつたり。㊦相前後して。～ʔjamatunkai can. 相前後して日本に来た。
- ʔatusaci① (名) あとさき。前後。
- ʔatusizicaa① (名) ʔatusizici と同じ。～sjun.
- ʔatusizici① (名) あとずさり。後退。また、しりごみ。～sjun.
- ʔatufusii① (名) [新] 車のあと押しを業とする者。立ちん坊。首里の坂の下などに、人力車のあと押しを業とする者がいた。
- ʔatufwii① (名) あとをつけて行くこと。尾行。-ʔwii<ʔuujun.
- ʔawa① (名) 粟。
- ʔawaawaa① (名) あばばば。口を手でたたきながら声を出す幼児の芸。
- ʔawaçizi① (名) 粟粒。
- ʔawari① ㊦(感) [文] あわれ。ああ。～kunu taija ʔicaga najura. [あはれこの二人や いきやがなゆら] あわれ、このふたりはどうなることか。㊦(名) あわれ。つらいこと。みじめさ。苦勞。～sjun. みじめになる。苦勞する。～çikusjun. あわれをきわめる。ʔjanbaruni ʔikiba ~duja siguku, miru kataja neran ʔumitu ʔjamatu. [山原に行けば あはれどや至極 見る方やないらぬ 海と山と] 山原に行けばどんなにつらいことか、海と

- 山ばかりで、ながめるものとてない。
- ʔawatihjaatii① (副) 大急ぎでするさま。大あわてでするさま。zikanNu ʔakutu ~ qsi ʔNzan. 時刻が決まっているので、大急ぎで行った。
- ʔawati=jun① (自 =ran, =ti) ㊦急ぐ。ʔawatiti see. 急いでしろ。㊦あわてる。
- ʔawatinoori① (副) ㊦大急ぎでするさま。ʔunu basjoo ~ sjootan. その時は大急ぎだった。㊦あわてふためくさま。
- ʔaweesjukwee① (副) あわてふためくさま。大あわて。tadeemanu kutu nati, ~ simiraqtoon. 突然のことで大あわてさせられている。
- ʔaza① (名) 安謝。《地》参照。
- ʔaza① (名) ほくろ。あざは sumi という。
- ʔazagwaa① (名) 小さいほくろ。
- ʔazakee① (名) [文] シャこ貝。口語は ʔazikee. その貝がらは魔よけとして用いられる。tusija nagukaradu ʔjujundici cicuru, nagutu sjuiçakeni ʔazake ʔwirana. [年や名護からど 寄ゆんでいち聞きゆる 名護と首里境に あざ貝植ゑらな] 年(砥石)は名護から寄つて来るという話だが、名護と首里との間にシャこ貝を植えて年が来ないよりにしよう。名護は砥石(tusi)の産地であった。
- ʔazama① (名) 安座間。《地》参照。
- ʔazamuciwaree① (名) あざ笑い。嘲笑。ʔazawaree ともいう。
- ʔazamu=cun① (他 =kan, =ci) あざける。軽蔑してかかる。あざむくは nuzun という。qcu ~. 人をあざける。
- ʔazana① (名) [古] 首里城内にあった、旗を立てて時刻を示した台。首里城内に二箇所あった。
- ʔazanaa① (名) あだな。綽名。～nu çicoon. あだなが付いている。
- ʔazannatu① (名) 安謝港。首里の西北方、旧真和志間切にある港。

Yazawaree① (名) あざ笑い。嘲笑。Yazamuciwaree ともいう。～ sjUN. あざ笑う。嘲笑する。

Yazi① (名) [按司] ?anzi ともいう。位階の名。大名。'oozi [王子] の次, ?weekata [親方] の上に位する。もとは地方に一城をかまえて割拠したが、尚真王時代(1477～1526)に首里に中央集権が敷かれた際、首里に集められ、一間切を領する身分となった。Yazi が首里に作った邸宅は ?uduN [御殿] とよばれ、また、Yazi は人びとから ?umee [御前] と呼ばれるようになった。?azizituu の項参照。

Yazi① (名) 機織りの器具の名。経糸を上下に分けるもの。meegusa (その項参照) に穴をあけ、ひもで結び付ける。<?azijUN.

Yazi① (名) ⊖味。食物の味。?azee caaga. 味はどうか。⊕味見。味加減を見ること。～ sjUN. 味見をする。

Yazi① (名) えら(鰓)。

Yazibi① (名) [按司部] ?azi [按司] の身分の人びと。諸侯。また按司に対する敬称。按司様。?azibi?umingwanu gutoosa. 按司様のお子様のようだ。上品で美しい子供を形容している。

Yaziganasii① (名) 按司様。?azi [按司] に対する敬称。-ganasii は敬意を表わす接尾辞。

Yaziganasiimee① (名) 御按司様。?azi [按司] に対する敬称。

Yaziimee① (名) ?azi [按司] の子が父親に対していう呼び掛けの語。

Yazi=juN① (他 =raN, =ti) 交叉する。十字に交わる。

Yazika=juN① (他 =raN, =ti) 預かる。

Yazikee① (名) しゃこ貝。?azi-<?azijUN. 貝がらがかみ合りのでいう。つるしておく

と邪気が通らないとして邪気をはらうまじないとされる。

Yaziki=juN① (他 =raN, =ti) 預ける。

Yazikuutaa① (名) 味のよいもの。深い味わいのあるもの。こくのあるもの。

Yazimaa① (名) 交叉したもの。交叉したところ。sanazinu ～. ふんどしの結び目。またその結び目の当たる腰の部分。micinu ～. 四つ角。十字路。

Yazimaamusubi① (名) 十字に結ぶこと。荷造りなどで、縦横のひもの交叉したところを結ぶこと。

Yazimee① (名) 按司様。?azi [按司] の敬称。普通は ?umee という。

Yazimuku① (名) ?azi [按司] の婿の意か。夜、掃除をすることは忌むが、どうしてもしなければならぬ時に、この語を唱えながらする。

YaziN① (名) 杵。手杵。太い一本の棒で、中央の握る所を細くしてあるもの。つき杵は kakizici という。

Yazisui① (名) [文] 按司様。?azi [按司] の敬称。-sui は mundašii [百浦添], ?urašii [浦添] などの -šii と同じく、もと治める意かと思われる。

Yazitaka① (名) 鷹の上等な美しいもの。?azi [按司] が飼う鷹の意か。

Yaziwee① (名) 味わい。おとなの使ひ語。～nu ?aN. 味わいがある。

Yazizituu① (名) [按司地頭] suuzituu [総地頭]・'wacizituu [脇地頭] の上。地方に一間切の領地をもつ領主。その位階は ?azi [按司], その邸宅は ?uduN [御殿] と呼ばれる。?azizituu と suuzituu とは二重に一間切を領する。両者を併称して roosuuzituu [両総地頭] という。

b

- baa**Ⓜ (名) ㊦場合。折。時。ʔunu ~ja caa sjuga. その時はどうするか。㊦わけ。理由。caaru ~ga. どういうわけか。
- baa**Ⓜ (名) 叔母。叔母さん。父母の妹。士族についていう。平民については baacii という。伯母(士族)は ʔuhuʔajaa という。叔母が三人いるとすれば、ʔuhubaa (大きい叔母さん), baa, baagwaa (小さい叔母さん) などと呼び分ける。
- baabaa**① (副) 火の燃えるさま。ぼろぼろ。~ meejuN. ぼろぼろ燃える。
- baacii**Ⓜ (名) ㊦叔母。叔母さん。父母の妹。平民についていう語。士族については baa という。㊦下女をさしている語。小母さん。
- baacira**① (名) 下品な女。あばずれ女。
- baagwaa**Ⓜ (名) 小さい叔母さん。一番下の叔母。
- baahabakai**Ⓜ (名) 場所ふさぎ。広い場所を占有して、邪魔になること。
- baakee**Ⓜ (名) 奪い合い。
- baakeekara¹kee**Ⓜ (副) 奪い合うさま。~ sjun.
- baaki**Ⓜ (名) ざる。かご。底が四角で、底を中心に丸く竹で編みあげたざるをいう。穀物・いもなどを入れる。目は密なもの粗なものといろいろある。sookiの項参照。
- baan**Ⓜ (名) 番。番すること。また、番人。守衛。順番の意の「番」は ban という。
- baanjaa**Ⓜ (名) 番小屋。bantii ともいう。
- babaqkwaa=sjun**① (他 =san, =ci) ごまかす。まぎらわしくしてごまかす。mamaqkwaasjun, mamiqkwaasjun ともいう。
- baci**Ⓜ (名) ばち。悪行に対する神仏などからの報い。~ kanzun. ばちが当たる。ばちを受ける。~ kwajun. [新] 凶に当たる。すばらしい目にあう。すごい。うまい。ʔitineci nati ~ kwatoon. [新] いい天気になってうまいぞ。
- baci**① (名) ㊦撥。太鼓・ドラなどを打つ棒。㊦撥。こまを打って回すもの。竹ぎれなどの先に布やひもを結びつけたもの。
- baçi**① (名) 罰。sinziini ~ sarijun. 先生に罰される。
- baçikanzaa**Ⓜ (名) 罰当たり。ばちが当たった者。
- bagu**① (名) 馬具。bagudoogu ともいう。
- bagudoogu**① (名) bagu と同じ。
- baki=jun**Ⓜ (自 =ran, =ti) [新] 化ける。また、変装する。
- bakuca**Ⓜ (名) bakuci (ばくち) の卑語。~ ʔucun. ばくちを打つ。
- bakuci**Ⓜ (名) ばくち。bakuca ともいう。
- bakujoo**Ⓜ (名) ㊦ばくろう。馬の売買を業とする者。ʔNmbakujoo ともいう。転じて、馬以外の家畜を売買する者をも ʔusibakujoo (牛の売買をする者), ʔwaabakujoo (豚の売買をする者) のようにいう。㊦仲買人。ブローカー。周旋屋。卑しめている場合が多い。zuribakujoo (女郎周旋屋) など。㊦商売上の利益を目的とした交換。~ sjun. もうけのための交換をする。
- bama**Ⓜ (名) 浜。《地》参照。
- bani**Ⓜ (名) ばね。発条。
- ban**Ⓜ (名) ㊦番。順番。~ tujun. 順番を決める。~ ʔatajun. 番が当たる。waa-banui. わたしの番か。門番などの「番」は baan という。㊦(接尾)番。ʔiciban (一番) など。
- ban**Ⓜ (副) ばん。強く打つさま。また、その小兒語。~ sarijun doo. ばんとぶたれるぞ。

baNbaaraaⓄ (副) がらんどろ。広い家などに何もいさま。ʔuubaNbaaraa ともいう。

baNbataaⓄ (名) 玩具の名。竹の柄の付いた円形の金属板(または針金の輪の中を紙で張ったもの)の両端にひもを付け、そのひもの先に小さい金属球をとりつけたもの。柄を回して、カランカランと鳴らす。

baNdukuruⓄ (名) [文] **banzu** [番所] の文語。韻文で用いる。makutu nani tacuru sjujanu ~, nakajamaja kusjati 'Nnatu me naci. [まこと名に立ちゆる塩屋の番所 中山やくしやて 港前なち(花売之縁)] まことに名高い塩屋の番所だ。中山を背にし港を前にして。

baNkuⓄ (名) 野外で芝居をする時の舞台。普通の舞台は butee.

baNmika=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ばんとくらわす。やっつける。

baNniNⓄ (名) 番人。

baNsiruuⓄ (名) ばんじろう。蕃石榴。南国特有の果樹の名。

baNtiⓄ (名) [文] ⊖番人。haa kuinu maši ~ sjuru munuja ʔaraN, dezi-sarami 'wamija ʔisuzi nugira. [はあ恋のませ番手 しゆるものやあらぬ 大事さらめ我身や 急ぎぬげら(手水之縁)] やあ恋のませ垣の番をするものではない。大変なことだ。わたしは急いで逃げよう。⊖番小屋。

baNziⓄ (名) まっ最中。たけなわ。まっ盛り。ʔikusanu ~. いくさのまっ最中。mumunu ~. やまもものまっ盛り。~nu niisee. 若盛りの青年。

baNzooganiⓄ (名) [番匠金] かね尺。直角に曲がったものさし。

baNzuⓄ (名) [番所] maziri [間切] の役場。

baQeinⓄ (名) [罰金] 罰金。過料。kwasin [科銭] ともいう。~ kakirarijun. 罰金

をかけられる。

baQpeeⓄ (名) 間違い。誤り。また、あやまち。~ sjun. 間違いをする。~ 'jakutu kuneeti kwiri. あやまちだからこらえてくれ。複合語に, micibaqpee (道を間違えること), sanminbaqpee (計算間違い), qcubaqpee (人違い) など。

baQpee=junⓄ (他 =raN, =ti) 間違える。間違り。sanmin ~. 計算を間違える。“caasi ʔansi baqpeetaga.” “nuutun-ganaasi baqpeeti neen mun.” 「どうしてああ間違えたか。」「何となしに間違えてしまったんだもの。」

-bara (接尾) 名詞は hara. …の方。…の側。…の身内。…の一族。nisibara [西原] (地名。首里の北側の意), hweebara [南風原] (地名。首里の南側の意), caqcibara (長男の一族), zinanbara (次男の一族), hwizabara (比嘉一族) など。

baranⓄ (名) 尾花。すすきの花。すすきは gusici という。

basikaaⓄ (名) ⊖basikee と同じ。⊖basikaaʔiju と同じ。

basikaaʔijuⓄ (名) 太刀魚。

basikeeⓄ (名) 芭蕉の葉柄の裏皮。ひもなどに用いられる。表側からは繊維をとり、芭蕉布とする。

basjaaⓄ (名) 芭蕉布。芭蕉は 'uu, または basjuu.

basjaanunuⓄ (名) 芭蕉の布。basjaa と同じ。

basjaazinⓄ (名) 芭蕉布で作った着物。夏の男女用。

basjanaiⓄ (名) 芭蕉の実。バナナ。

basjazinⓄ (名) 芭蕉布の喪服。染めてない無地の芭蕉布で作り、葬式にのみ用いる。男は袖を通して着るが、女は袖を通さずに頭からかぶる。

basjuⓄ (名) ⊖場合。折。時。ʔunu kutoo ʔariga caru ~ 'jataga 'jaa. その

ことは彼が来た時だったかね。ʔariga cuuru basjoo 'wannee 'urandi ʔee. 彼が来た場合にはわたしはいないと言え。~nu ~ 'jati 'juujuutu hanasiN naraNtan. 場合が場合で、ゆっくり話もできなかつた。㊦緊急な事のある場合。不幸の折・もうけ時・チャンス・機会など。~nu ʔacinee. もうけ時の商売。㊦場所。buciriina ~. きたない場所。㊦わけ。理由。caaru ~ga, ʔaaga ʔan sjuʔee. どういうわけだ、おまえがそうしたのは。㊦(接尾)不幸の折。tarubasjuni cootaru qcu. (太郎の不幸の時に来ていた人)

basjuu㊦(名) 芭蕉。'uu ともいう。

basjuukabi㊦(名) 紙の一種。芭蕉紙。芭蕉の繊維で作る。品質は落ちるが、丈夫で、下級の役所などで用い、また、三味線の胴にも張る。basjuusi ともいう。

basjuusi㊦(名) basjuukabi と同じ。

batin㊦(名) 馬天。島尻郡旧佐敷間切にある港。

bazoo㊦(名) 見かけ。外見。また、見かけがよいこと。見かけがよいもの。~nu ʔan. 見かけがよい。~nu neen. 見かけが悪い。ʔaqtabazoo (ちょっと見がよいこと。ちょっと見がよいもの), 'jamatubazoo (日本品のちょっと見のよさ) などの語もある。

bee㊦(感) いやだ。拒絶する場合の卑語。beeru ともいう。相手を軽蔑・罵倒して言う。けんかの時には、さらに卑語 hjaa をつけて、beehjaa, beeruhjaa などと言う。

bee㊦㊦(名) 倍。二倍。~ ʔan. 二倍ある。~ kanun. 二倍食う。㊦(接頭)倍の。beenanzi (二倍の難儀), beesikuci (二倍の仕事)など。㊦(接尾)倍数を示す。sanbee (三倍), sa ʔ:(c)(c) (三倍) など。

beebee㊦(名) 山羊 (hwiizaa) の小児語。鳴き声によったもの。

beebee㊦(名) 笈 (hwiizaa) の小児語。

beenaNzi㊦(名) 倍の難儀。

beeru㊦(感) いやだ。拒絶する場合の卑語。bee と同じ。

beesikuci㊦(名) 倍の仕事。

-bi (接尾) [部] …の階層の者。…の階層の人たち。また敬称ともなる。様。ʔazibi [按司部], ʔweekatabi [親方部], ʔumi-naibi [思姉部] など。

-bicee (接尾) 相当。…に相当する・…に匹敵する・…に代わりうるの意を表わす。<hwicajun. zuuniNbicee (十人力), 'juubanbicee (夕飯代わりとなるもの) など。

bici㊦(名) 別。~nu. 別の。hukanu ともいう。

bicidan㊦(名) 別段。格別。~na kutu. 格別のこと。~ nuun ʔaran. 別段何でもない。

-bicii (接尾) べき。文語的な接尾辞。kacibicii kutu (書くべきこと), ʔiribicii 'jan. (入れるべきである) など。

bideetiN㊦(名) 弁才天。七福神の一つ。

bideetiNgumui㊦(名) 弁才天を祭った池。弁天池。首里にある。

biibii㊦(名) 吹いて鳴らす類の玩具。また、笛の小児語。

biicaa㊦(名) ねずみの一種。普通のねずみより小さく、臭気がある。これが鳴くと喧嘩口論が起こるといふ俗信があり、'iikutu katari (いいことを語れ) というまじないを唱える。

biiguda'tan㊦(名) 備後表の畳。biiguii (備後藪) で作った畳。

biiguii㊦(名) 備後藪。勝連村・与名城村・具志川村などで栽培されていた。biigumusiru (備後表) を織る。ʔootuuzin, tuuzinii ともいい、その髓は燈心にする。

- biigumusiru**① (名) 備後表。biigui (備後瀧) で織ったむしろ。一般に琉球表と称しているものは七島瀧で作るもので、それは sacii という。
- biima**① (名) かすり模様。Tijabiima (矢がすり), marubiima (丸模様のかすり) など。
- biiraa**① (名) 弱虫。弱い者を罵倒している語。<biiru。
- biirakwa'ara**① (副) へなへな。ぐにゃぐにゃ。柔らかく力のないさま。~ sjoon. へなへなしている。
- biiru**① (名) ①みる (海松)。海草の名。②くにくくにして弱体の者。足腰の立たない者。
- biisi**① (名) 備瀬。《地》参照。
- bika'an** (助) ばかり。ばかり。saataa~ namijun. 砂糖ばかりなめる。bikeei, bikeen ともいう。
- bike'ei** (助) ばかり。-bikaan, -bikeen ともいう。また、文語では -bikei となる。Tukwaasi~ kadi. お菓子ばかり食べて。kadi~ 'uinee 'wata 'janzun doo. 食べてばかりいると腹をこわすぞ。
- bike'en** (助) -bikaan, -bikeei と同じ。'warabi~ gikajun. 子どもばかりを使う。
- binasahaganasa**① (名) 不便だったり不足したりすること。
- binasan**① (形) ①ふつつかである。不調法である。普通のレベルに達せず、用をなさないことをいう。nuu simitiN binasai-biikutu. 何をさせてもふつつかですから。②ひよわである。病弱である。duunu ~. 体がひよわである。
- binasawaQsa**① (名) 不行きとどき。不調法で行きとどかないこと。
- binuci**① (名) 辺野喜。《地》参照。
- bin**① (名) 便。手紙。たより。binoo Tami. たよりはるか。
- bin**① (名) 紅。染料の紅, 食紅, 口紅など。また、紅色。
- bin**① (名) 瓶。
- bin**① (名) 保栄茂。《地》参照。
- binbinja'ajaa**① (名) 赤い模様のある着物の小児語。赤いおべべ。bin は紅の意。
- binboo**① (名) [新] ログセのように貧乏なことをこぼす者。貧乏なことは hwinsuu という。
- bindaree**① (名) 金だらひ。
- binduku**① (名) 便毒。横根。多く花柳病に起因するもの。
- bingata**① (名) ①染め物の柄の名。布の上には型紙を置き、その上から紅の染料を塗って、花鳥山水などの模様を染めつけたもの。②bingatawatazin と同じ。
- bingatawatazin**① (名) bingata の watazin (冬の礼服)。首里の上流婦人が着用したもの。
- bingi**① (名) えのき(桜)。
- binkuu**① (名) [弁口] 能弁。口が達者なことに。
- binkuumuN**① (名) 能弁な者。口の達者な者。
- binnutaki**① (名) 弁が岳。弁の御岳。首里の東側にある山。
- binri**① (名) 便利。~na muN. 便利なもの。
- binroo**① (名) 植物名。檳榔。のやし。kuba (びろう) と似ているが別種。
- binsibni**① (名) 紅のしほり染め。女の子の着物の模様の名。
- binšii**① (名) [瓶水] 酒を入れる錫製の器。背が高く、上部の口の部分が細くすぼまっている。一對あって、Tugwan (願)・婚礼などに用いる。口に木の栓をして、その上を赤紙・黄紙を重ねて折り曲げたものでおおう。
- binšja**① (名) [弁者] 能弁な者。雄弁な者。
- binŋa**① (名) 鬢。耳の前に垂れた髪。また、

biŋtoo

顔のその部分。

biŋtoo④ (名) 弁当。

biŋtui④ (名) [瓶取] 結婚式で三三九度の杯を取り交わす時、そばで biŋŋii [瓶水] を持って酒をつぐこと。またその役。十四、五歳の処女が行なり。花嫁は花婿の家族とも杯を取りかわす風がある。⊖酌婦。料理屋の売春婦。

biŋziki④ (名) [鬢附] 頭髮用のねばり強い固形の油。ポマードのようなもの。

biŋzuru④ [鬢頭廬] biŋzuru と同じ。

biŋqceen④ (副) ちょっと。ちょっぴり。ほんの少し。biŋqceengwaa ともいう。saa-taa ~。砂糖ほんの少し。~'jaree ʔan.ほんの少しならばある。~ dukiti kwiree. ちょっとどいてくれ。

biŋqceengwaa④ (副)ほんのちょっと。ちょっぴり。ほんの少し。~du ʔaru.ほんの少ししかない。~ dukiti kwiree.ほんのちょっとどけてくれ。

biŋqcin④ (名) [別珍] 紙入れ。財布。

biŋqsee④ (名) いたずら。ふざけること。~ sjun.

biŋqseekarakee④ (名) いたずらしたりからかったりすること。~ sjun.

biŋqsuu④ (名) (口をゆがめて) 軽蔑の情を表わすこと。また、羨望して、やきもちをやくこと。岡焼き。いまいましそうにすること。~ sjun. いまいましそうにする。

biŋqsuuguci④ (名) 軽蔑して、またはいまいましげに、ゆがめた口。

biŋqteen④ (副) げんなり。しょんぼり。力なくしおれたさま。'watanu ~ natoon.おなががすいてぺしゃんこになっている。

biraa④ (名) ねぎ(葱)。ziibira ともいう。

biragaramaci④ (名) 料理の名。ゆでたねぎで魚肉を巻き、味噌煮にして酢味噌をかけたもの。

-biree (接尾) 付き合い。また、仕えること。<hwiree. ʔusibiree (友だち付き合い),

tunaibiree (隣との付き合い), situbiree (姑への仕え方), 'utubiree (夫への仕え方) など。

bitabita④ (副) のりのついていない、柔らかい布の感触。ʔiicu ~ kaiki horohoro.絹はビタビタと柔らかい肌ざわりで、甲斐絹はホロホロと衣ずれの音を立てる。

bitaraasjan④ (形) めめしい。優柔不断である。いくじがない。

bitataikaatai④ (副) しなびたさま。病人の皮膚などが弾力がなく、しわがよったさま。~ sjoon. しなびている。

bitataimun④ (名) いくじなし。

bitataizin④ (名) よれよれの着物。のりの付いていない着物。

bitata=jun④ (自 =raŋ, =ti) しなびる。生気が衰えてしぼむ。植物・人間などにいう。

biwa④ (名) びわ(枇杷)。

biŋzuru④ (名) [鬢頭廬] 神を祭ったところにある円形の石。仏像の形はしていない。biŋzuru ともいう。ʔugwan (祈願)をしてそれが聞き入れられれば、軽く持ち上げられ、聞き入れられなければ重くなって持ち上げにくいという。その場合は、供物を丁重にしたり、物知りに教えを乞うたりして、軽く持ち上げられるよう手を尽す。

bjoobu④ (名) 屏風。普通は noobu という。しかし金屏風は cinbjoobu。

bjooci④ (名) 病気。'janmee よりも上品な語。

bjoonin④ (名) 病人。'janmeemun は病弱者、病気がちの者の意。

bjuu④ (名) 廟。王の祖先を祭ったところなど。また、那覇久米村には kuusibjuu (孔子廟)がある。

bonbon④ (副) たぶたぶ。水などが満ちあふれているさま。“kaanu miŋee caaga.” “~ sjoon.” 「井戸の水はどんなか。」 「いっぱいある。」

booⓄ (名) 棒。荷物をつづく棒, 武術用の棒など。bui の項参照。

booⓄ (名) はかりごと。たくらんで, だますこと。~ sjun. はかる。だます。~ saqtaN. はかられた。だまされた。

booʔaʔgaiⓄ (名) 増長。つけ上がること。

boohooⓄ (名) 坊や (小児語)。

boocakuⓄ (名) [文] 忘却。ʔunzi ~ nasaki ciri ʔakara. [恩義忘却 情け切れやから (大川敵討)] 恩義を忘れ情愛のなくなったやつ。

boociʔraaⓄ (名) わがまま者。強情者。boocirimun ともいう。

boocirimunⓄ (名) わがまま者。強情者。

booduisiʔduiⓄ (名) ⊖乱暴を働くこと。
⊖勝手に他人の物を持ち去ること。

booduruⓄ (名) 練乳。外来語か。

boogaiⓄ (名) 目上に対して乱暴を働くこと。

boohujaaⓄ (名) ぼうふら。棒を振る者の意。那覇では ʔaminuqkwa (雨の子) という。

boo=juNⓄ (他 =raN, =ti) 奪う。ふんだくる。ʔnbajun は文語。

boontaaⓄ (名) 丸い球。球形のもの。橋のらんかんの擬宝珠 (ぎぼし) などをいう。

boontuuⓄ (名) boontaa と同じ。

boosiⓄ (名) [新] 帽子。

boosicinaaⓄ (名) 自由労働者。棒だけを持ち, それを尻に敷いて雇う人の来るのを待つ, 最下層の労働者。立ちん坊。

boosjuuⓄ (名) 芒種。二十四節の一つ。小満 (sjuumaN) とともに沖縄で最も雨の多い季節。

boozaaⓄ (名) 坊や。小さい男の子の愛称。その敬語は boozuu (ぼっちゃん)。

booziⓄ (名) ⊖坊主。僧侶。⊖坊主頭。また, 幼児などの頭。

boozimaaⓄ (名) 棒縞の着物。白地に黒の太い縞が縦にあるもので, 青少年の夏の着

物。

boozinadiiⓄ (名) 産剃り。小児が生まれて七日目に初めて産毛を剃る式。boozii (頭) を剃るということばを避けて nadi (撫で) といったもの。

boozii^(r)Ⓞ (名) 棒切れ。bunziri ともいう。

boozii^(s)Ⓞ (名) 豚の背中肉。豚肉中最も上等。豚ロース。

boozuuⓄ (名) 目上の家の小さい男の子の愛称。ぼっちゃん。平民が用いる。

boronboronⓄ (副) つづみの音。旧暦3月3日には平民の娘たちがつづみを打ち, 歌を歌って遊ぶ習慣があった。

-bu (接尾) 分 (ぶ)。10分の1の分量を表わす単位。ʔicibu (1分), gubu (5分) など。

buciⓄ (名) 鞭。竹などの細長い棒。

buçiⓄ (名) 仏。~nu ʔusii. 仏の教え。

buçidanⓄ (名) 仏壇。先祖代々の位牌をまつてある壇。仏像はないのが普通。たんの形のものもあるが, 多くは家に戸棚のように作りつけてある。

bucigeeⓄ (名) 気分が悪いこと。また, 貧血。卒倒。目まい。bucikun よりも程度が軽い。~ najun. 気分が悪くなる。貧血を起こす。卒倒する。ʔanmasja sjun ともいう。

buçiinⓄ (名) [文] [物縁] (物との) 縁。ʔaa ʔnzoosaja ~nu neejabiraN, muzukuitun husaaraN... [ああ無蔵さや 物縁の無いやべらぬ 物作りともふさあらぬ... (花売之縁)] ああ, かわいそうなことに物との縁がありません。作物を作ってもうまくいかず…。

bucikunⓄ (名) ⊖卒倒。気絶。qeuun ~ natoon. 人が卒倒している。⊖気分が悪いこと。元気のないこと。~ ʔatana. 気分が悪かった。

buciriiⓄ (名) 不潔。きたないこと。cirii

bucuui

(きれい・清潔の意)の対。～na tii qsi.
きたない手をして。

bucuui①(名) 発育が悪いこと。発育不良。
-cuui < cuujuN. ～na 'warabi. 発育が
悪い子供。

bufeesaci①(名) いやいやながらの挨拶。
不快そうな挨拶。また人に挨拶を返さない
こと。無愛想。～na muN. 無愛想者(?ee-
soomuciの対)。

bufeesoo①(名) 無愛想。～na. 無愛想な。

buhjoosi①(名) 折が悪いこと。あいにく
なこと。'iihjoosi (好機会)の対。～'ja-
teesa 'jaa. あいにくだったねえ。

bui①(名) 棒切れ。短い棒。長い棒は boo,
竹などの細い棒は buci という。～ muq-
ci ?uujuN. 棒切れを持って追いかける。
～saani sugujuN. 棒切れでなぐる。

bui①(名) 胴あげ。罰として行なう。bui-
doo ともいう。～ cicuN. 胴あげにしてこ
らしめる。

-bui (接尾) ぶり。-huunaa ともいう。?u-
huqebui (おとなぶること) など。

buidoo①(名) 胴あげ。<bui doo (bui だ
ぞ)。罰として行なった。bui と同じ。

bukaqkoo①(名) 不格好。～na. 不格好
な。

bukarii①(名) 不吉。縁起の悪いこと。
karii (嘉例)の対。～na kutu. 不吉なこ
と。

buki①(名) 桃色。うす赤い色。淡紅色。
buki?iru ともいう。

buki?iru①(名) buki と同じ。

bukubukuu①(名) bukubukuzaa と同
じ。

bukubukuzaa①(名) 茶を泡立てたもの。
茶せんで茶を泡立てて、椀に盛り上げ、そ
の上に南京豆などを置く。夏の清涼食品と
して、女・子供などに好まれる。bukubu-
kuu ともいう。

bukukuci①(名) ⊖不愉快。～na miin-

kai ?iqci. 不愉快な目に会って。⊖病気な
どで、気分が悪いこと。～ 'jatašiga ?i-
hwi 'jukutakutu nootan. 気分が悪かつ
たが少し休んだので直った。

bukutoo①(名) でぶ。ぶくぶく太った人。

bukuu①(名) 不器用。～na muN. 不器用
な者。

bun①(名) ⊖身分。～nu ?aru qcu. 身
分の高い人。⊖身分にそなわる品位。品
格。名分。～ ?utusjuN. 品位を落とす。
徳をなくす。～ tacuN. (事が明らかとな
って) 名分が立つ。samureenu ～ mu-
cuN. 士族としての身分と品位を保つ。
šiižanu ～ mucijuusan. 兄としての貫
祿を保てない。⊖分。分け前。取り分。ま
た、分量。～nu ?uhusan. 分量が多い。

bun①(名) 盆。盂蘭盆会。?usjoooro
ともいう。

bun①(名) 盆。食器などを載せて運ぶ道具。

bun?agai①(名) 身分が上であること。

bun?cin①(名) 文鎮。

bun?i'rimi①(名) 盆の費用。

bunkaku①(名) 身分と家柄。～nu ?aru
qcu. 身分や家柄のよい人。caaru ～nu
munğa. どんな身分・家柄の者か。

bunkuu①(名) 文庫。書類を入れる箱。本
箱。

bunma'ci①(名) 盆の市。盆のために開か
れる市。盆に用いる器具・食品・玩具など
が売られる。

bunme'e①(名) 盆の前。年の暮れととも
に最も忙しい時。

bunmucaa①(名) 気取り屋。貫祿を示した
がる者。品格・体面を保ちたがる者。

bunnin①(名) [凡人] 位のない普通の士
族。

bunnoo①(名) 煩悩。心を煩わして、悩む
こと。?uja ～ qkwa cikusjoo. 親は子
のために心配するが、子は親を思わず畜生
同然。

buNsAn① (名) 庭池の中にある石。
buNsee① (名) 文才。～nu ʔaN. 文才がある。
buNtuku① (副) 髪が乱れているさま。ぼうぼう。karazIN ~ natoosa. 髪がぼうぼうになっているよ。
buNzee① (名) 分際。身のほど。
buNzi'kee (名) 盆の時に使う金銭や品物。
buNzi'ri① (名) 盆を期限とする半年の決算。盆限りの意か。
buNziri① (名) 棒切れ。いったん工作した棒切れをいう。そうでないものは kiiziri (木切れ)。
-buqkwa (接尾) ふくれたところ、かたまつたところなどの意を表わす。ciibuqkwa (乳房, おっぱい), hanabuqkwa (鼻のふくれ, 鼻), taabuqkwa (たんぼ, 田がかたまってあるところ) など。
buqpoo① (名) 仏法。学問ある人の使う語。
buqtakwa'qta① (副) べたべた。粘りつくさま。
buqtarakoo① (名) でぶ。でぶちん。丸丸と太った者。子供などについていう。buqtarakuu ともいう。
buqtarakuu① (名) buqtarakoo と同じ。
buqtee① (名) でぶ。太った者。buqtarakoo ともいう。
buqtii① (名) 捨てることの小兒語。～sjun. 捨てる。パイする。
buqtuu① (名) 丸くふくれ上がったもの。いぼ・こぶなど。
buqtuuhi'qtuu① (名) いぼいぼ。丸くふくれたものがいくつもあること。また、そのさま。また、いくつもあるいぼ。
bura① (名) 法螺(ほら)。ほら貝の笛。綱引き・村芝居など、にぎやかな行事に吹き鳴らす。
buraa① (名) gakubura (楽器の名) を奏する楽人。
-buraari① (接尾) 不足。tiiburaarii (手

不足), kamiburaari (栄養不良), kun-ciburaari (根気不足) など。
buraa=rijun① (自 =riraN, =qti) 足りなくなる。不足する。hanmeenu buraaq-toon. 食糧が不足している。
burabura① (副) ①よろよろ。ふらふら。よろめいて歩くさま。'wiiti ~. 酔ってふらふら。②よちよち。幼児が歩くさま。～ʔaqcun. よちよち歩く。
buraburaaʔaqci① (名) よちよち歩き。
buragee① (名) ①法螺貝。笛としては bura という。②体が大きいのに何の役にも立たぬ者。うどの大木。
buraii① (名) 色気違い。色情狂。buraʔii かもしれない。男についていう。女については kuiburi などという。
buraisarai① (副) 老人・病人などがひょこひょこ歩くさま。
burasan① (形) 力量・修養などが足りない。また、頼りない。安心して任せられない。'wakasanu ~. 若いので頼りない。
huri- (接頭) むらがる意を表わす接頭辞。buribusi (群星), huriʔnma (その項参照) など。
buribusi① (名) 群星。たくさんの星。tin-nu ~ja 'jumiba 'jumarijun, ʔujanu 'jusigutuja 'jumin naran. [天の群星や読めば読まれゆん 親の寄せ言や読みもならぬ] 天の群星は数えれば数えられる。親の教訓は数えることもできない。
burigiidaci① (名) 身の毛がよだつこと。ぞっとすること。～sjun.
burigiida=cun① (自 =tan, =qci) burigiidaci sjun と同じ。
burii① (名) 無礼。失礼。敬語は guburii. ~na mun. 無礼な者。kuneiaa ~ qsi. 先だつては失礼した。
burijasici① (名) ひとところに密集している家。多くは貧民窟。
buriki① (名) [新] ブリキ。もとは sicita-

burikizeeku

- Ngani といった。
- burikizeeku® (名) [新] ブリキ屋。
- buriniŋzu® (名) 人が大勢集まること。~'jaN. たいへんな人出た。
- burinma® (名) 群れ馬の意。競馬が終わったあとなど、たくさんの馬が入り乱れて駆けること。~ sjuN. たくさんの馬を走らす。
- busahun® (名) 無作法。ぶしつけ。~na. 無作法な。
- busata® (名) [新] 無沙汰。元来は satan neeN. という。
- bušecwee® (名) ふしあわせ。不幸。~na qcu. 不幸な人。
- busi® (名) 達人。武芸・唐手などのすぐれた者、大方のある者などをいう。武士の転意。
- bušici® (名) 好きでないこと。きらい。食べ物についていう。その反対は zoogu. 'wannee sakee ~ 'jaqsaa. わたしは酒は好きじゃないよ。~na saki siiraqti. きらいな酒を強いられて。
- busizoo® (名) [不修行] 不粋。やぼ。世間知らず。busizooniiseegwaa. 世間知らずの青二才。~na muniikata. 不粋なものの方。
- busjan (接尾) たい。…したい。動詞の「連用形」について希望の意を表わす。ʔicibusjan (行きたい), miibusjan (見たい) など。'učiui miibusjatakutu ʔnzan. 踊りを見たかったので行った。'učiuiu miibusjan. 踊りが見たい。'učiui miibusja sjooru qcu. 踊りを見たがっている人。
- busjoo® (名) 物覚えが悪いこと。~ na-toosa. 物覚えが悪くなったよ。子供などについては sjoonu neen. という。
- buta-, -buta (接頭・接尾) 豚は ʔwaa といいますが、複合語には butaʔanda (豚の油), butaju (豚の油), sjuubuta (豚肉

- の塩づけ)などの語がある。
- butaʔanda® (名) 豚の油。ラード。butaju ともいう。
- butaʔaqtami® (名) 豚肉。
- butaa® (名) でぶ。太っちょ。
- butaaku® (副) 太く。厚く。butaku と同じ。butaku < butasan
- butaju® (名) butaʔanda と同じ。
- butan® (名) 牡丹。観賞用に庭に栽培する。
- butankoo® (名) 菓子の名。米の粉をおもな材料にして、牡丹の花の形に作って彩色したもの。祭祀用。
- butasan® (形) 太っている。肥満している。butaku najun. 太る。
- butee® (名) 舞台。
- butee=juN® (自 =raN, =ti) muteejun と同じ。
- butibutiutu® (副) でっぷり。太っているさま。~ sjoon. でっぷりしている。
- butubutu® (名) ⊖豚の白い脂肉。⊖脂肪ばかりのもの。⊖ぬかるみ。泥濘。~ kuuzun. ぬかるみを漕ぐようにして行く。泥濘びさを没する。
- butuu® (名) 太った者。でぶ。kweetuu ともいう。
- buu® (名) 水・湯の小児語。buubuu ともいう。
- buu® (名) 人夫。人足。
- buubuu® (名) 水・湯の小児語。buu と同じ。
- buubuu® (名) 吸血療法 (buubuunuzi) に用いる竹筒。
- buubuu® (副) 激しく風が吹くさま。また、虫などが群がって飛ぶさま。びゅうりゅうり。ぶんぶん。
- buubundaku® (名) 豚の一種。四角い大きなたこで、紙ひもがついており、それが buubuu と鳴る。
- buubuunuzi® (名) 民間で行なわれている

吸血療法。瘻血した所を少し傷つけ、短い竹筒（これを buubuu という）に泡盛を入れて火をつけ、竹筒の中の空気を稀薄にして傷口に押し当てて、吸血を行なうもの。

buubuntuubeo① (名) ぶんぶん群がること。虫などが乱れ飛ぶこと。また、子供などが群がること。～ sjuN. ぶんぶんと群がる。

buusaa① (名) じゃんけんの種類。虫けん。日本本土の虫けんとは逆で、親指は人さし指に、人さし指は小指に、小指は親指に勝つ。子供は一本勝負、おとなは二本勝

負で事を決する場合が多い。酒宴などで興を増すために行ない、負けた者が酒を飲まされたりする。buusaaganasii (菩薩) が、親指・人さし指・小指の三本を出しているの

で、それに由来する語だという説がある。

buusaaganasii① (名) 菩薩様。

bunsagwa'asa① (副) がやがや。大勢が騒ぐさま。～ sjuN.

buuwaʒa① (名) 人足労働。いやしい下等の労働。

buzi① (名) 無事。変事・過失などが無いこと。～ jataN. 無事だった。～ ni cica-ga 'jaa. 無事に着いたかね。

caa⑩ (名) 茶。

caa⑩ ⊖ (副) いつも。常に。～ ?anu miei tuujun. いつもあの道を通る。～ ja ?anee ?aran. ふだんはそうではない。
⊕ (接頭) いつも…し通し。…し続けの意を表わす。caa?azikai (預かり通し), caa?ici (行きっぱなし, 行ったっきり), caahwingi (逃げ通し), caahaee (走り続け) など。

caa① (副) どう。～ga. どうか。どうだ。～ga sai. いかがですか。目上に対して男がいう。女は～ga tai. という。～deebiruga. いかがですか。～ga ?jara. どうなのだろう。～?atee ?inuga. どうしたらよいかしら。多く女が言う。～Qsi. どうして。なぜ。～Qsi ?an ?juga. どうしてそう言うのか。～sjuga. どうするか。どうしようか。～N naran. どうにもならない。～N neen. どうもない。何ともない。大丈夫だ。

-caa (接尾) たち。ら。複数の人を表わす。'warabincaa (子供たち), ?ujanucaa (親たち), dusinucaa (友人たち) など。複数の人を表わす接尾辞には -taa という形もある。

caadin① (副) 何とも。caadundin ともしう。

caadundin① (副) 何とも。～?jaran. 何とも言えない。nuundundin ?jaran. ともしう。

caagana① (副) どうにか。なんとか。～narani. なんとかならないか。～Qsi. どうにかして。?urandankai ~ Qsi ?ikarija sanga ?jaa. 西洋に何とかして行けないかなあ。

caagi① (名) いぬまき。楨の一種。木材は

固く淡黄白色で、沖縄産の最上の用材となる。

caagibaaja① (名) caagi の柱。

caahwiihwii⑩* (副) ごたまぜ。まぜこぜ。区別なし。平等。帳消し。caahwiitoo ともしう。'iiqcun ?janaqcun ~. 善人も悪人も一緒くた。?weekincun hwinsuumunun ~. 金持ちも貧乏者も平等。?iratai ?iraacai caqsaga natoora 'wakananşiga, naa ~ ?jaa. 貸したり借りたりいくらになっているかわからないが、もう帳消しだね。

caahwiitoo⑩ (副) caahwiihwii と同じ。

-caai (接尾) ⊖切断了なもの(木の枝・砂糖きび・布など)を数える接尾辞。30センチ内外の長さのものを多くいう。cucaai (一切れ), tacaai (二切れ), cucaainakara (一切れ半) など。⊕田畑の小区画を数える接尾辞。cuciri (一枚) 中のわずかな面積をいう。

caa=jun① (自 =ran, =ti) 消える。火について多くいう。姿が消えることは miiran najun. (見えなくなる) などという。caatai çikatai. 消えたりついたり。

caajutijaa⑩ (名) 湯こぼし。飲み残しの茶をあけておく器。-jutijaa < ?jutijun.

caakabi⑩ (名) 紙の一種。わら製で、黄色がかっている。茶・菓子などの包装や、張り子などを張るのに用いる。

caakaşi⑩ (名) 茶かす。茶がら。

caaki⑩ (副) すぐ。じき。şiğu の方が上品な語。hwinbinoo ~ ~. 返済はすぐにするもの。

caanuguri⑩ (名) 茶のおり。guri は、かす・沈澱物。

caanusin⑩ (名) 茶柱。俗に吉兆とする。

caanⓄ (名) ちゃぼ(矮鶏)。
caanKaanaⓄ **naraN**Ⓞ (句) どうもこうもならない。どうしようもない。
caaraaⓄ (名) 油いため。油でいためたもの。
caaracaaraⓄ (副) 油で揚げる時の音。
caaruⓄ (連体) どんな。～'wakiga. どんなわけか。～'anbeega. どんな按配か。
caasiⓄ (副) どうして。～'ansjuga. どうしてそうするか。
caasinⓄ (副) どうしても。～'icuN. どうしても行く。
caasinKaasinⓄ (副) どうでもこうでも。何としても。
caasiziNⓄ (名) 消し炭。
caasjukaⓄ* (副) どれほど。どんなに。～'uqsjaga 'jaa. どんなに嬉しいだろう。
caa=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 消す。火についでいる。
cabunⓄ (名) 茶盆。
cadakiⓄ (名) どのくらいの丈。どのくらいの高さ・長さ・へだたり。～'aga. どのくらいの丈があるか。
cadeeⓄ (名) 茶托。
cadooguⓄ (名) 茶道具。茶器。cabun(茶盆), cuukaa(急須), cawaN(茶碗)の類。cawandooguともいう。
cagatooⓄ (名) どのくらいの遠さ。どんな遠方。どんなに遠く。～'jatin 'icuN. どんなに遠くても行く。
cagwasiⓄ (名) 茶菓子。
cahanⓄ (名) 脚絆。cahwaNともいう。
cahwaNⓄ (名) cahaNと同じ。
cahwiⓄ (名) caqpiと同じ。
cakuⓄ (名) ㊦客。㊦娼妓の客。
cakucakuuⓄ (名) 軽はずみな者。そそっかしい者。そこつ者。caqkujaaともいう。
cakumagaⓄ (名) 嫡孫。嫡子の嫡子。cakusi?Nmagaともいう。

cakusiⓄ (名) 嫡子。家をつぐ長男。caqci [嫡系]ともいう。
cakusi?NmagaⓄ (名) cakumagaと同じ。
camisiⓄ (名) どれほど。いかほど。～nu kutu. どれほどのこと。～najuga. どれほどのことができるか。大したことはできまい。
camisikaⓄ (名) どれほど。いかほど。大したことはないの意で多く用いる。camisikaa 'aran. 大したことはない。～numunga. いかほどの者か。大した者ではない。
canagiⓄ (名) どのくらいの長さ。どれほどの長さ。～'aga. どのくらいの長さあるか。～'atin. どんなに長くても。
canuⓄ (連体) どの。～'qeu. どの人。
canubaaⓄ (名) どの場合。
canugutoonⓄ (<canu + gutoon) どんなである。どんなふうである。(ただしこの形ではいわない) canugutooru. どんな。どのよるな。canugutooga. どんなか。どんなふうか。
canugutooruuⓄ (名) どんなもの。どんなふうのもの。～ga. どんなふうのものか。
canugutuⓄ (副) どのように。どんなふうに。どんなに。～'qsi sjuga. どういうふうにしてするのか。～'uqsjaga 'jaa. どんなに嬉しいことか。
canujooⓄ (名) どのよう。やや文語的な語。～na. どのよるな。～ni. どのよるに。caaru, canugutooru, canugutuなどというのが普通。
canuqeuⓄ (名) どの人。その場にい合わせない人をさしている。面前ではzinuqeuという。
canusjakuⓄⓄ (名) どれほど。どのくらい。分量・程度などについている。～nu kutoo 'aran. 大したことはない。
canusjukaⓄ (副) caasjukaと同じ。
canutuciⓄ (名) いつ。なんどき。

caN① (名) 喜屋部。《地》参照。

caN① (名) 喜屋武。《地》参照。

caNcaNʔNma¹gwaa① (名) おもちゃの小馬。動かすとチャンチャンと鳴る仕掛けがあるのでいう。

caNdakasi① (名) とうごま。蓖麻(ひま)。ひまし油を取る植物。果実は金米糖状で、美しいので zurigwaamuQkuu ともいう。

caNkuruu① (名) 子供のする賭けごとの名。ceNkuruu ともいう。拳で勝った者が皆から集めた一厘銭を手にしたせ、石臼の上に軽く投げ、裏返ったものを取る。皆が順次残った銭で同じことをする。明治のころまで旧正月に行なわれていた。

caNmisaci① (名) 喜屋武崎。沖縄本島南端の岬。

caNna① (連体) どんな。caaru を多く用いる。

caNnagee① (名) どんなに長い間。どのくらいの時間。～ maQcootaga. どんなに長く待っていたか(疑問および反語)。

caNnagi=ju¹N① (他 =raN, =ti) うっちゃる。投げ捨てる。捨ててしまう。ʔuQcaN-gijun ともいう。ʔa¹Nneeru 'uucirisa-bagwaa nuu sjuga. caNnagiree. 'jo-sjoki 'joosjoki ʔuri ſitiNna 'joo…そんな緒の切れたぞりりなど何になる。捨てちまえ。まてまて、それを捨てるなよ…(廃物利用の歌)。

caNneeru① (連体) どのような。どんな。～ kutuga. なんかことか。

caNpuruu① (名) 料理名。豆腐・野菜などの油いため。中国からの借用語らしい。

caNtu① (副) ちゃんと。きちんと。予想した通り。karazin cinun ~ qsi ʔikee. 髪も着物もきちんとして行け。

caQci① (名) [嫡系] 嫡子。あととり。ca-kusi ともいう。

caQciʔusikumi① (名) 嫡子をないがしろにして 次男などを立てること。廃嫡。

caQkujaa① (名) おっちょこちよい。そこつ者。

caQperu① (連体) どのくらいの。どれほどの。～ muN 'jaga. どれくらいのものなのか。

caQpi① (名) どれほど。どのくらい。どれだけ。量・大きさ・程度などについている。～ ʔaga. どれほどあるか。

caQsa① (名) どれくらいの(数量・程度)。どれほど。いくら(の値段)。ʔunu ʔijoo ~ ga. その魚はいくらか。～ ʔuqsjaja. どれほど嬉しいだろうか。

caQsaN① (副) いくらでも。無制限に。どれほどでも。～ koojuN. いくらでもたくさん買う。

caQsaNkaQsaN① (副) いくらでも。無制限に。やたらに。～ kooinee mucijuusaN. いくらでもやたらに買うと持ちきれない。

-cara (接尾) 按司(ʔazi)の意。'wakacara (若按司), 'unazara (按司の妻)など。

casakii① (名) どんなに多く。どんなにたくさん。どれほどの量。～ nu Qcunu cootaga. 人がどんなに多く来ていたか。

cataN① (名) 北谷。《地》参照。

catoo① (名) [茶湯] 靈前に供える茶。普通は ʔucatoo という。

cawaki① (名) 茶請け。普通 ʔucawaki を多く用いる。

cawaN① ⊖ (名) 茶碗。茶を飲む器。⊖(接尾) 飯などを数える語。一杯。cucawaN (一杯), tacawaN (二杯) など。上層の人は飯を ʔubunʔucawaN (misizawaN) に盛るのでこら数えるが、下層の人は ʔaramakai に盛るので cumakai, tamakai のように数える。

cawaNdoogu① (名) 茶器。cadoogu と同じ。

cee① (感) おや。おお。まあ。珍しく思った時、感心した時などに発する語。男女とも

使う。～ hwirumasii mun. おや、珍しい。～ curasan. おお、美しい。

ceNkuruu⑥* (名) cankuruu と同じ。

ceQkunsin① (名) [接貢船] 進貢船 (cin-kunsin) を迎える名目で、翌年中国へ行く船。貿易を行なうのが目的で、名前は口実のために付けたもの。

-çi (接尾) 一つ、二つ…の「つ」に当たる。ものの数・年齢などを示す。tiigi (一つ) から kukunuçi (九つ) まで、および ʔikuçi (いくつ) に付いている。

çibaci⑥ (名) つばき(樺)。

ciba=juN① (自 =ran, =ti) がんばる。精出して働く。cibajumi. 働いているか。目下の働いている者へのあいさつ。目上の働いている人へは、ʔucibaimišeebiimi. という。ʔjaa ʔajameeju, ʔagati cinamuraja tajuizima demunu, ʔucibaimisjoori ʔutumumu sjabira. [やあや前よ やがて喜名村や たより島だいの御気張よめしやられ 御供しやべら (大川敵討)] ねえおかあさん、やがて着く喜名村は縁故のある村ですから、がんばって下さい。お供しましょう。

çibana⑥ (名) あざみ。とげがあるので、ʔNziçicaa (とげの付いたものの意) ともいう。

cibana⑥ (名) 知花。《地》参照。

cibanajaci⑥ (名) 知花焼き。中頭郡美里間切知花村に産する焼きもの。土と焼き方に特色があり、珍重された。

çibi① (名) ㊦尻。～ çiciisijun. 尻餅をつく。～nu kaqsan. (女が) 尻が軽い。浮気である。(çibigaqsan とは異なる) ㊦器物などの下部・底・末端。㊦末尾。結末。しまつ。～nu neen. あとしまつをしない。～N ciriran. 煮えきらない。あいまいではっきりしない。cibiN ciriran (気味も切れないの意か) ともいう。㊦びり。

çibigaqsan① (形) 気軽に動く。

çibiñugibaaki① (名) ㊦底抜けのざる。㊦転じて、しまりのない者。助力のしがいのない者。

çibikuci① (名) 尻と口の意。つじつま。次の句で用いる。～nu ʔataran. つじつまが合わない。尻と口とが合わない意。～nu ʔaaran ともいう。

çibikukui① (名) しめくくり。結末。結着。

çibikusu① (名) びり。また、最下等のもの。

çibikusuu① (名) ㊦尻ぬぐいをしないこと。また、その者。㊦仕事のしめくくりをしないこと。また、その者。㊦びり。びりの者。

çibinizirii① (名) いざり。膝行。また、いざる者。幼児の膝行は çibisuncaa という。

çibinuğujaa① (名) 人の失敗などのあとしまつ。尻ぬぐい。また、尻ぬぐいをする者。

çibinuguqsui① (名) 尾髄骨。

çibinumaai① (名) 直腸(の粘膜や筋層)。～ nugasjun. 脱肛する。

çibinumii① (名) 肛門。

çibiʔNbusan① (形) 無精である。骨惜しみをして働かない。尻が重い意。

cibiqsan① (形) きびしい。厳格である。

cibiraasjan① (形) きびきびして気持よい。てきばきしている。かいがいいい。

çibisagui① (名) ようすをこっそりさぐること。

çibisaziraa① (名) 尻がやせてとがった者。

çibisuncaa① (名) ㊦いざり。膝行。幼児などがすわったままで進むこと。また、その者。㊦仕事などのしめくくりをしないこと。また、その者。

çibitai① (名) 尻べた。尻たぶ。尻の肉の垂れ下がった部分。

çibitaiʔuubi① (名) 尻の方にさがった帯。

çibitaNda

またそのような、男のだらしない格好。

çibitaNda① (名) 尻べた。尻たぶ。尻の肉の多い部分。

çibitaQcuu① (名) 尻のとがった者。尻の突き出た者。

çibitaqtuu① (名) うつぶせになり、尻を高く持ち上げること。

çibitugajaa① (名) 寝てばかりいる無精者。ものぐさ。尻がとがっているため坐れないかのように、寝ている者という意味。

cibjoo① (名) 仮病。うその病気。çukui-jaNmee ともいう。

cibjoo① (名) 気のやまい。気やみ。心配から起こる病気。神経衰弱。cijami ともいう。

çibu① (名) ㊦壺。ʔaŋcaçibu(油壺)など。㊦酒杯。

çibu① (名) つぼ。灸をすえる場所。灸点。

çibu① (名・接尾) 坪。土地の面積の単位。口語では畝・段などは使わず、すべて坪でいう。cuçibu(一坪)、taçibu(二坪)など。

çibudukuru① (名) ㊦つぼどころ。灸点。灸穴。㊦急所。nuciçukuru ともいう。

çibunî① (名) 壺折り。着物の裾を折りからげること。尻からげ。裾全体を折りまげて帯にはさむ。日本流に後ろの裾だけをからげることには 'jamatuçibui といい。

çibujajaci① (名) 壺屋焼き。çibuja(那覇の近くの地名)で焼く陶器。

çibujamaci① (名) 陶器市。瀬戸物市。~nu gutoosa. 足の踏み場もない。

çibunî① (名) 蕾。多くは muçkuu といい。

çibu=nuN① (自 =maN, =di) 蕾む。蕾となる。çibuî 'uru hana. [つぼでをる花] 蕾んでいる花。

çiburu① (名) ㊦頭。つぶり。~nu 'januN. 頭が痛い。~nu 'ŋzukiwadu zuuN 'ŋzucuru. (諺) 頭(かしら)が動いて始め

て尾(手下)も動く。㊦ふくべ。ひょうたん。実は若いうちは食用にし、熟したのちは中をくり抜いて容器とする。また、その容器。形が頭に似ているのでいう。杓子型のものをいい、ひょうたん型に中央がくぼんだ形のもの hjootaŋçiburu という。

çiburugaçpai① (名) 鉢合わせ。二人が頭をぶっつけ合うこと。

çiburuguu① (名) 頭。多くは単称として用いる。~'warariN doo. 頭を割られるぞ。頭をたたき割ってやるぞ。

çiburujaN① (名) 頭痛。

çiburuŋNbuu① (名) 頭が重いこと。頭が重く気分がすぐれないこと。

çiburusaace① (名) 子供の競技の名。帽子とりに似て、相手の頭に触れたら勝つ団体競技。~saace はさわり合い。

çiburusjookaŋ① (名) [頭傷寒] 脳脊髄膜炎。脳膜炎。

çiburuwaaee① (名) ごった返しの混雑。狭い場所で大勢がひしめき合うこと。頭の割り合いの意。

çiburuwai① (名) 頭割り。人数割り。çizîwai ともいう。

çicaga=juN① (他 =raN, =ti) つけ上がる。増長する。

çicagi=juN① (他 =raN, =ti) 押し上げる。背負っている子がずり落ちそうな時に押し上げる場合などにいう。

çicagimoosjagi① (名) 告げ口。陰口。

cicaramucii① (名) cikaramucii と同じ。

cicarukakita① (名) (貧乏で、または旅先などで) 着替えのないこと。着たきり雀。~ qsi 'aŋcun. 着替えのない生活をする。

cicasaŋ① (形) 近い。cikasaŋ ともいう。

cicaŋNpadaŋ① (名) 御近親。近い御親戚。ŋNpadaŋ は親戚の敬語。

çici① (名) ㊦(天体の)月。㊦(暦の)月。

- çiciʔaki=jun① (他 =raN, =ti) さっと開ける。荒荒しく開ける。
- çiciʔatai① (名) 突き当たり。行きどまり。
- çiciʔata=jun① (自 =raN, =ti) ㊦突き当たる。衝突する。㊦行きづまる。
- ciciburi① (名) 聞き惚れること。
- çicibusuku① (名) 早産。月不足の意。
- cicicakuN① neeN① (句) 聞きたくもない。聞き苦しい。聞くにたえない。
- çicicidui① (名) 鬪鶏 (taucii) で、けんかをけしかけるため、一羽を捕え、他の一羽をつつかせること。また、その鶏。çicicidujaa ともいう。
- çicicidnjaa① (名) ㊦çicicidui と同じ。㊦転じて、相手にけんかをけしかける者。
- çicicɪ=cun① (他 =kaN, =ci) 咳きこむ。盛んに咳をする。
- çicɪ=cun① (他 =kaN, =ci) ㊦(人・もの) つつく。また、こづく。こづくまわす。㊦ついばむ。(鳥が) つついて食う。
- çicɪ=cun① (他 =kaN, =ci) 咳きこむ。続けさまに咳をする。saqkwii ~。咳きこむ。
- çicigani① (名) つり籠。つき籠。
- ciciguN① (名) 聞いただけで返事をしないこと。相手にだけ言わせ自分は黙っていること。
- cicigurisjan① (形) 聞きにくい。よく聞かえない。
- cicigutu① (名) 聞きもの。音楽など聞いて楽しいもの。
- çicihanasee① (名) 突き放し合いの意。遊戯の名。相対して一方の手で縄を引き合い、他方の手で突き合う遊び。
- çicihana=sjun① (他 =saN, =ci) 突き放す。突っぱなす。
- çicihuga=sjun① (他 =saN, =ci) 突いて穴をあける。
- cicihuri=jun① (自 =raN, =ti) 聞き惚れる。聞いてうっとりする。
- çicihwi① (名) 月日。
- çicijunhwiijun① (副) 月を数え、日を数えて待つさま。待ちに待って。指折り数えて。
- çicikami=jun① (他 =raN, =ti) (頭上のものを) 頭で突き上げる。
- çicikaNsi=jun① (他 =raN, =ti) おっかぶせる。次から次へとおっかぶせる。sigutu ~。仕事を次から次へとおっかぶせる。cii ~。乳が出過ぎて、小児がのどをつまらせる。
- çicikazi① (名) 月影。
- cicikeesige`esi① (副) 何度も聞き返して。
- cicikee=sjun① (他 =saN, =ci) 聞き返す。
- çicikuci① (名) 付け根。mumunu ~。もの付け根。
- çicikuci① (名) 終点。行き着く所。
- çicikuzi=jun① (他 =raN, =ti) 突きさす。突いてくじる。
- cicimaa=jun① (他 =raN, =ti) 聞き回る。秘密などを、あちこちから聞き出す。
- cicimacigee① (名) 聞き間違い。
- çicimi① (名) 月見。
- çicimi① (名) 包み。çicɪN と同じ。
- çicimuee① (名) 毎月一回開く組織のmuee (無尽講)。
- çicinagami① (名) 月見。
- cicinaga=sjun① (他 =saN, =ci) 聞き流す。聞き捨てにする。
- çicini① (名) 狐。沖繩にはいない。人をだます動物として話に出る。
- çicinii① (名) 戌(つちのえ)。十干の一つ。
- cicinikusaN① (形) 聞いて腹が立つ。聞いただけでも憎い。
- çicinuʔamagasa① (名) 月暈(つきがさ)。
- çicinujuu① (名) 月夜。
- çicinukaazi① (名) 月ごと。毎月。
- çicinumun① (名) 月のもの。月経。zuumunici ともいう。
- çicɪ=nun① (他 =maN, =di) 包む。
- çicinuʔu① (名) 己(つちのと)。十干の一つ。
- çicɪN① (名) 包み。包んだ物。çicimi とも

いう。ꞑucukwiizicIN. (ふろしき包み)
ciciNtaaⓄ (名) ciiciNtaa と同じ。
ꞑiciciiⓄ (名) 月末。つきずえ。
ꞑicisimiⓄ (名) ⊖言行をつつしむこと。つ
 つしむ。⊖物忌み。
ꞑicisi=nunⓄ (他 =maN, =di) ⊖つつしむ。
 礼をつくし、気を付ける。ひかえ目にする。
 ⊖物忌みをする。
ꞑicisiruⓄ (名) [文] [月代] 尚巴志王が守
 護神として祭った神の名。~nu mamui
 sidakanu mamun mikazi tiriwatati
 kunija marumu. [月代の守り 勢高さの
 真物 美影照り渡て 国やまるむ] 月代の
 神の守りであり気高い偉人である尚巴志王
 の御威光が輝いて国はよく治まる。尚巴志
 王の三山統一をたたえた歌。
cicisjuuraasjanⓄ (形) 聞いて味がある。
 聞いて心をひかれる。聞きがいいがある。
ciciꞑubiⓄ (名) 聞き覚え。前に聞いて覚え
 ていること。
ciciꞑujaⓄ (名) [文] 父親。
ciciꞑutu=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 聞き落と
 す。聞きもらす。
ꞑiciꞑuusiⓄ (名) 搦き臼。širiꞑuusi (摺り
 臼) に対していう。
ꞑiciwaiⓄ (名) 月割り。月の数に割りふる
 こと。
ciciwakiⓄ (名) 聞き分け。了解し得心する
 こと。~nu neeraN. 聞き分けがない。
 わからず屋である。
ciciwaki=junⓄ (他 =raN, =ti) 聞き分け
 る。聞いて納得する。ꞑiiwakiraa cici-
 wakiti turasee. 筋を立てて話した場合
 には、聞き分けておくれ。
ꞑicizimuⓄ (名) 近付いて来る人の心。次の
 句で用いる。~du kanasja. 近づいて来
 る者はかわいい。
cicizooziⓄ (名) 聞きじょうず。
ci=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 聞く。音・話を
 耳にする。また、尋ねる。また、承諾する。

kiQsa cicaN. さっき聞いた。cikasjuN.
 聞かせる。また、話して聞かせる。cika-
 rijun イ. 聞かれる(受身)。ロ. 聞こ
 える。(cikwijun は有名になるの意。)
 cikaa ciku tukuruni šitiri. (諺) 人の
 非難・悪口などは、聞いたら聞いた所で聞
 き捨てにせよ。人に伝えるとやっかいが起
 きる。cikaN minꞑuziraa huunu ꞑaN.
 (諺)聞かないつんぼはしあわせである。
 聞けば腹を立ててやっかいになるだろう。
 cieuru muNnu ꞑireejumi. 聞いている
 者が答えるものか。聞こえながら知らぬ振
 りをして返事をしない者を皮肉に言ったこ
 とば。cicooti ꞑuqsja sjoosiga. 聞いて
 喜んではいるが。おめでたのあった人に会
 い、まだお祝いに行っていない場合にいう
 あいさつ。cicoori ꞑoo. おぼえてろよ。
 ciciꞑucoori. [文] おぼえてやがれ。cika-
 ndaraa cikaN kwanna. 聞かないなら
 聞かないでいやがれ。
ci=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) 利く。効果があ
 る。kusuinu ~. 薬が利く。kazi ~. 利
 く。ききめがある。効果がある。(kazi は
 意味不明。単独では用いない) kazi cie-
 ru kusui. ききめのある薬。caQsa ꞑicIN
 kazee cikaN. いくら言ってもききめは
 ない。
ꞑi=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖付く。durunu
 ~. 泥が付く。ꞑcunu ~. 人が付く。人
 気が集まる。hwiinu ~. 火がつく。⊖着
 く。舟・荷・人などが着く。ꞑiꞑi sjuinkai
 ꞑicaga. いつ首里に着いたか。
ꞑi=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) ⊖突く。槍など
 で突く。⊖撞く。鐘をつく。
ꞑicuuⓄ (名) 月夜。
cidaiⓄ (名) 落胆。がっかりすること。気
 落ち。cirudai ともいう。~ sjuN.
cidatiⓄ (名) 気立て。性質。心だて。~nu
 ꞑjutasjan. 気立てがいい。
cideekuniⓄ (名) 人參。黄大根の意。

- çigaai**① (名) 交替。
- çigaa=jun**① (自 =raN, =ti) 交替する。交替制で仕事をする場合などにいう。
- çigaaruu**① (名) 交替。交替ですること。～Qsi katamira. 交替でかつごう。
- çigakai**① (名) 気がかり。～na. 気がかりな。心配な。
- çigaki**① (名) 心がけ。～nu 'jutasjan. 心がけがよい。
- çigaki=jun**① (他 =raN, =ti) 精出す。(仕事などに) 励む。
- çigari=jun**① (自 =raN, =ti) けがれる。(宗教的な意味で) 不浄になる。
- çigee**① (名) 気分。～nu 'jutasjan. 気分がよい。～sjun. くつろぐ。
- çigee**① (名) 関節。つがい目。～darusan. 関節がだるい。～nu handijun. 関節がはずれる。
- çigeehaNdaa**① (名) 関節がはずれた人。
- çigeemi**① (名) 差異。また、間違い。çigu wakajuru ʔatainu ～. すぐ分かるほどの差異。sanminnakai ～nu ʔateeigisan. 計算に間違いがあったらしい。
- çigi**① (名) [文] 告げ。告知。
- çigi=jun**① (他 =raN, =ti) 告げる。知らせる。
- çigoo**① (名) 都合。
- çigu**① (名) しゅろ(棕櫚)。
- çiguci**① (名) [津口] 商売によい場所。人の多く集まるような所。さかり場。もとは港の意。
- çigucijukumi**① (名) [古] [津口横目] 港湾管理官。
- çigucizebaN**① (名) [古] [津口在番] 役所の名。港湾出入管理所。
- çigu=nuN**① (他 =man, =di) (口を) つぐむ。黙る。
- çigutu**① (名) 不吉を予告する怪しい音。夜中に棺桶を作る音・夜中の大勢の泣き声など。
- çigwan**① (名) 祈願。
- çigwanzu**① (名) 祈願所。神に祈願する所一般をいう。
- çigweemuN**① (名) なま意気な者。横柄な者。ciigweemuN ともいう。
- çigwee=jun**① (自 =raN, =ti) なま意気になる。横柄になる。
- çihwa**① (名) 津波。《地》参照。
- çihwa**① (名) 津覇。《地》参照。
- çihwahwa**① (名) つわぶき(植物名)。
- çihwanahwa**① (名) 津花波。《地》参照。
- çihwanuku**① (名) 津波古。《地》参照。
- çihwan**① (名) 帰帆。中国・日本本土などから船で帰ること。帰国。
- çihwee**① (名) [気早] 意気込みがよいこと。～nu ʔan. 意気込みがよい。～namun. 意気込みのよい者。
- çihwizin**① (名) [聞得大君] きこえ大君。国王の祖先を祭る神官。斎宮に相当する神職で、国家の宗教的元首である。代代、王の娘、または王妃、王の未亡人があたり、全国の nuuru (のろ) をも統御した。
- çihwizinganasii**① (名) çihwizin の敬称。
- çihwizinʔuduN**① (名) [聞得大君御殿] çihwizin の住む御殿。また、çihwizin の敬称ともなる。
- çii**① (名) ⊖乳。乳汁。～ja ʔami. お乳は出るか。～ʔucun. 離乳する。乳を措く意。～nu ʔeejun. 乳が出る。⊖乳。乳房。
- çii**① (名) 慶伊瀬島。沖縄本島と慶良間列島(kirama) の中間にある小群島。
- çii**① (名) 血。血液。～nu hajun. 血が流れる。～hwicun. イ. 血を引く。血統を引く。ロ. (薬などが) 気がぬける。
- çii**① (名) 気。「気」に対応するがあまり用いず、cimu (心。「肝」に対応する語)の方を多く用いる。～ni kanajun. 気に入る。心にかなる。～ni çieun. 気がつく。気にとまる。

- ciic**① (名) 易。卦。～tatijun. 卦を立てる。
ciic- (接頭) 動詞の前につき, …してしまふ, 思い切つて…する, 軽く…するなどの意を表わす。kee-と同じ意味。ciikeejun (替えてしまふ), ciihakun (首にかけてしまふ) など。
ciic② ⊖ (名) 対。二つ相對して一組となっているもの。⊖ (接尾) 対のものを数える接尾辞。?iqcii (一対) など。
ciic③ (名) つるべ。井戸の水を汲んで釣り上げる桶。農村には檜櫛の葉で作ったものも見られた。
ciicakari④ (名) 乳離れ。離乳。～sjun.
ciican⑤ (名) 乳母。ciicanmeeの略。
ciicanmee⑥ (名) 乳母。単にciican または canmee ともいう。
ciiba⑦ (名) ⊖牙。⊖犬齒。糸切り齒。
ciibeesan⑧ (形) 気が早い。
ciibuqkwa⑨ (名) 乳房。盛りあがった乳。おっぱい。上品な語ではない。
ciieaa⑩ (名) 犬の小兒語。わんわん。
ciieaacieaa⑪ (感) 犬を呼ぶ声。
ciici⑫ (名) ⊖景色。風景。'iiciei 'jan 'jaa. いい景色だなあ。文語では cisici。⊖〔新?〕景気。
ciicigeei⑬ (名) 脱臼。
ciicigee=ju'n⑭ (自 =ran, =ti) 脱臼する。
ciicii⑮ (名) 乳の小兒語。おっぱい。
ciiciikaakaa⑯ (副) 食べものが胸につかえるさま。食べものがのどにつかえるさま。karamunoo ~ qsi kamaran. おかずがないとのどにつかえて食べられない。
ciicintaa⑰ (名) 屋久貝 (さざえに似て大型の貝) の蓋。文鎮などにする。ciicintoo, cicintaa ともいう。
ciicintoo⑱ (名) ciicintaa と同じ。
ciicoodee⑲ (名) 乳兄弟。乳姉妹。
ciidakamun⑳ (名) 生意気な者。高ぶった者。
ciidakasan㉑ (形) 生意気である。高ぶっている。
ciidaki㉒ (名) 着たけ。身長に合う着物のたけ。
ciidarakaa㉓ (副) 血だらけ。血まみれ。ciidarukaa ともいう。tooriti ~ sjootan. 倒れて血まみれになっていた。
ciidarukaa㉔ (副) ciidarakaa と同じ。
ciidi㉕ (名) ついで。よいつごう。～nu ?aini muqei kuuwa. ついでがある時に持って来いよ。
ciidoori㉖ (名) 着倒れ。着物にぞいたくして産を傾けること。sjuincoo ~, naahwancoo kweedoori, tumaincoo, siidoori. 首里の人は着倒れ, 那覇の人は食い倒れ, 泊の人は働き倒れ。
ciidumigusa㉗ (名) 血止め草。さんしちそう。せり科の多年生草木。葉の汁が止血・消毒になる。
ciiga㉘ (名) 三味線 (sansin) の胴。方形で角に丸みがある。両面に大蛇の皮を張ったものは zahwibai (蛇皮張) といい, 上等である。ほかに, 紙張りで芭蕉の渋を塗った sibubai がある。
ciiga㉙ (名) 枞。また, 枞目。枞で測った量。～nu taran. 枞目が足りない。
ciigaa㉚ (名) ⊖おし。ciiguu の卑称。⊖鳴かないせみ。雌のせみ。
ciigaa㉛ (名) つるべ井戸。滑車のないものをいう。滑車のあるものは kurumagaa という。
ciigasa㉜ (名) 乳房にできる悪性の腫物。乳腺炎。
ciigaziraa㉝ (名) 乳不足の者。母にも子にもいう。
ciigaziri㉞ (名) 乳不足。乳が十分出ないこと。また, 乳不足のため, 乳児がやせおとろえること。gaziri < gazirijun (やせ細る)。
ciigukuci㉟ (名) 着心地。

ciignu④ (名) おし。啞者。<ciGUNUN (つぐむ)。

ciigwaa④ (名) 小さい乳。少女の乳。

ciigweemUN④ (名) cigweemUN と同じ。

ciiha=cUN④ (他 =kaN, =ci) 首にかけてしまう。首にはいてしまう。

ciihai④ (名) こり。うっ血。katanu ~ sjoon. 肩がこっている。

ciihainihai④ (名) こり。うっ血。ciihai を強めていう語。~nu cuusaN. こりがひどい。

ciihuruma=sjuN④ (他 =saN, =ci) 着古す。

ciihwaku④ (名) [輕薄] 傲慢。~na niN-zin. 傲慢な人間。

ciihwieikabi④ (名) 野紙。野引き紙の意。

ciificu`N④* (自・不規則, 活用は YicuN と同じ) 行ってしまう。思いきって行く。行っちゃう。

ciifiri④ (名) 気に入った物。お気に入り。

ciifiru④ (名) 血色。~ ?NZitooN. 血色がよい。

ciikaki④ (名) 着始めの着物。一二度着ただけの新しい着物。

ciikasagni④ (名) 血痰。

ciikee=ju`N④ (他 =raN, =ti) 替えてしまう。替えちゃう。

ciikee=juN④ (他 =raN, =ti) 着替える。

ciiku④ (名) 共謀。ぐる。示し合わせてたくらむこと。Yuqtaaja ~ sjooteesa. 彼らは示し合わせていたのだ。

ciiku④ (名) 稽古。~ sjun.

ciikumUN④ (名) 稽古して習うもの。学問・技能・工芸などをいう。'winagunu ~. 女が稽古するもの。裁縫など。

ciikwaanii`kwaa④ (副) つっけんどんなさま。~ sjun.

ciikweebaa④ (名) 乳歯。

ciimUN④ (名) 冬の単衣。裏のない一重の冬着。男女用。

ciini④ (副) めったに。~ neen kutu.

めったにないこと。

ciiniisaN④ (形) 気が長い。悠長である。のんびりしている。

ciinukubi④ (名) 乳首。

ciinumingwa④ (名) ちのみご。乳児。

ciinuuu④ (名) つるべ縄。つるべの綱。

ciinuwaʒa④ (名) ⊖血がさせる業。悪いと知りながらやめられぬ悪事。血統がさせる業。やめられぬ喧嘩・放蕩など。⊖悪血がもたらす病気。

ciin④ (名) 織機の箆(おさ)の種類の名。経糸 880 本を通すもの。また、それで織った布。huduci の項参照。

ciiru④ (名) 黄色。

ciiruhacinaci④ (名) [黄冠] 黄色の冠。peecin のかぶるもの。

ciirukabi④ (名) 正月などに祭壇と火の神の前に供える黄色の紙。白・赤・黄の三枚を重ねて供える。

ciirukarasju④ (名) うにの塩辛。黄色い塩辛の意。

ciiruNkoo④ (名) kusiciiYukwaasi (祭祀用の菓子) の一種。ciisuNkoo と同じ。

ciiruu④ (名) 黄色いもの。

ciisaçi④ (名) [新] 警察。明治のはじめごろ一時使われた語。

ciisii④ (名) 機織りの器具の名。重い木や石に、木・竹の柄を立てたもの。経糸を巻いた macica (巻板) を立てかけたり、あるいは糸を繰る時 kana (かせ糸) を掛けたり、種々の用をする。

ciisibjuu④ (名) [啓聖廟] siibjuu (聖廟) と同じ。

ciisiqta=ju`N④ (自 =raN, =ti) ぐったりする。元気がなくなる。

ciisizi④ (名) 血筋。血統。

ciisuNkoo④ (名) kusiciiYukwaasi (祭祀用の菓子) の名。その項参照) の一種。落花生入りで黄色に赤白の模様のあるもの。paasunKoo などとともに中国伝来の名と

çiitaci

思われる。

çiitaci① (名) ついたち。月の第一の日。

çiitatijaa① (名) 易者。cii (卦) を立てる者の意。sanziNsoo (三世相) ともいう。

çiitee① -şin çiitee の頂参照。

ciiʔuja① (名) 乳母。ciiʔanmee (乳母) は雇われて来る者をいうが、ciiʔuja はその限りでない。

ciizi① (名) 系図。

çiizi① (名) [辻] 那覇にあった遊郭の名。本土人・中国人・首里那覇の上流人を相手とした高級な遊郭であった。那覇には、çiizi, nakasima [中島], 'watanzi [渡地] の三つの遊郭があり、çiizi が高級で、nakasima は首里・那覇相手、'watanzi はいなか相手と、それぞれ、客の層が異なっていた。

ciiziitu①① (副) [文] 心が苦しく責めつけられるさま。消え消えとの意か。'wazimu ~ naruga sinci. 苦しくてわが心が消え入りそうな心地。

ciizin① (名) 春秋に上から羽織る単衣の礼服。男女用。貴族は絹、士族は木綿で作った。husatuga 'watazin ʔucihaziti ciizingukuruni ʔucikusiti. [富里がわた衣 うちはちて 単衣ごころに うちくして(越来より節)] 富里(男の名)が晴れ着をぬいで、ciizin のつもりで女に打ち着せて。

cijaciabui① (名) 雨がばらばら降ること。小雨。

cijai ① (名) 木遣り。重い材木を多人数で歌を歌いながら運搬すること。またその時に歌う歌。kunzansabakui はその歌の名。

cijami① (名) 気の病。神経衰弱。cibjoo ともいう。

cijoo① (名) 気の保養。精神的な保養。

çiju① (名) 露。文語ではわずかなもの・はかないものたえとする。sinjuru 'wa-

ga ʔinuci ~hudun ʔuman. [死にゆるわが命 つゆ程も思まぬ] 死ぬわが命は露ほども惜しいと思わぬ。~nu ʔinuci. [露の命] はかない命。

cijumi=jun① (他 =raN, =ti) 清める。宗教的なけがれをなくす。

ci=jun① (他 =raN, =qci) 切る。斬る。刃物などで切断する。

ci=jun① (他 =raN, =ci) 着る。cin ~. 着物を着る。

çi=jun① (自 =raN, =ti) ⊕ひきつける。小児が高熱でけいれんを起こす。⊖手足の筋などがつる。

çi=jun① (他 =raN, =ti) 釣る。ʔiju ~. 魚を釣る。

çika① (名) ⊕束(たば)。⊖つか。柄。刀剣・鎌などの手に握るところ。

cikalwina① (名) 東辺名。《地》参照。

cikaʔinaka① (名) 都(首里)に近いなか。中頭・島尻の一部などをいう。

çikaja① (名) [塚屋] 墓のそばに建て、死後49日間寝泊まりする小屋。近親の者が寝泊まりして霊をむらったが、後には代わりに番人を雇うようになり、その風もいつかすたれた。

cikaju=jun① (自 =raN, =ti) 近寄る。

çika=jun① (自 =raN, =ti) (火が) つく。(燈火が) ともる。hwiinu ~. 火がつく。

çika=jun① (他 =aN, =raN, =ti) ⊖(人・物などを) 使う。使用する。hooaa ~. 包丁を使う。zin ~. 金を使う。tii ~. 唐手を使う。⊖使いにやる。遣わす。çikee çikajusa. 使いを遣るよ。çikataru ʔujanu ʔjaankai ʔiki. 遣わした親の家へ行けの意。燈火に寄って来た虫を殺さずに放してやる時に言いまじない。

çika=jun① (自 =raN, =ti) ⊖(水中に) つかる。ひたる。⊖(漬げ物が) 漬かる。

cikamagara① (名) [近間柄] 近親。近い親戚。tuumagai a に対する。

cikamiⓐ (名) 近眼。
cikamiciⓐ (名) 近道。
çikana=juNⓐ (他 =aN, =rAN, =ti) ⊖(家畜類を) 飼う。⊖(下男などを) 養う。'Nza ~. 下僕を養う。農村では家族を養う場合にもいうことがある。
çikaneemuNⓐ (名) 家畜。
çikaneengwaⓐ (名) 養子。養い子。
çika=nuNⓐ (他 =maN, =di) つかむ。普通は kaçimijun を用いる。
-çikaN (接尾) つかみ。cuçikaN (一つかみ), taçikaN (二つかみ) など。
cikaraⓐ (名) 力。
cikaraaⓐ (名) 力のある者。力持ち。
cikaradamisiⓐ (名) 力だめし。
cikaramuuciⓐ (名) 力持ち。力のある者。
cikaramuuciiⓐ (名) 力餅。旧暦12月8日鬼餅(muucii)の日に作って子供に与える餅の名。その餅は kuba の葉, saNnin (月桃) の葉, 甘蔗の葉などで包むが, kuba の葉で包んだ大きいものを特別に作り, 男の子に与える。それをいう。cicara-muucii ともいう。
çikari=juNⓐ (自 =rAN, =ti) 瘦れる。疲労する。多く精神的に瘦れることにいう。肉体的に瘦れる意では kutandijun, 'uta-juN などという。sindoobikeei qsi çikaritoon. 心配ばかりして瘦れている。
cikasaNⓐ (形) 近い。cicasan ともいう。tuusaru ?weekajaka cikasaru tanin. 遠い親戚より近い他人。
çikasiⓐ (名) つっぱり。支え。支柱。つかい棒。
cikataⓐ (名) 地所。
cika?weekaⓐ (名) 近親。近い間柄の親戚。cikamagara ともいう。
çikazanⓐ (名) 津嘉山。《地》参照。
cikazi=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) 近付く。
cikaziki=juNⓐ (他 =rAN, =ti) 近付ける。
çikaznⓐ (名) [塚所] 墓地のこと。上品な

語。

çikeeⓐ (名) さしつかえ。さしさわり。~ja neen. さしつかえない。
çikeeⓐ (名) ⊖使い。使者の意。用事の意はない。⊖招き。招待。
çikeebinaiⓐ (名) 使い減り。使ったために起きる減りや痛み。-binai <hwinajuN (減る)。~N saN. 使ってもへりも痛みもしない。
çikeehwikeeⓐ (副) つっかえつつかえ。本をすらすら読めないさまなど。
çikee=juNⓐ (自 =rAN, =ti) つかえる。とどこおる。支障が起きる。
çikeekataⓐⓐ (名) (人・物の) 使い方。使用法。
çikeemiciⓐ (名) ⊖(物・金銭・人などの) 使い道。用途。使途。⊖仕途。仕官の道。
çikeemiziⓐ (名) 用水。せんたくなどで使う, 飲料にならない水。
çikeemuNⓐ (名) 使用人。
çiki?agiⓐ (名) 料理の名。魚肉をつぶし, にんじん・ごぼうの類を切つてまぜ, 油で揚げたもの。付け揚げの意。
çiki?akagara=sju'Nⓐ (他 =saN, =ci) あかあかにつける。あかりをつけて, 明るくする。raNpu ~. ランプをあかあかにつける。
çikibiⓐ (名) つけ火。放火。hwiiçikee ともいう。
çikidakiⓐ (名) つけ木。苦竹(にがたけ)の皮で作ったので, çikidaki (つけ竹) という。
çikidakigwaaⓐ (名) マッチ。
çikignsuiⓐ (名) つけ薬。外用薬。
çiki=juNⓐ (他 =rAN, =ti) ⊖付ける。duru ~. 泥を付ける。⊖着ける。huni ~. 船を着ける。(着物には言わない) ⊖(燈火などを) つける。hwii ~. イ. 燈火をつける。火をともす。ロ. 火をつける。roo ~. ろうそくをつける。tee ~. たいまつ

をとます。㊤種付けをする。交尾させる。
ʔwaa ~. 豚を交尾させる。

çiki=jun㊤ (他 =raN, =ti) 漬ける。ひたす。また、漬け物を漬ける。mižin kai cin ~. 水に着物を漬ける。

çikimun㊤ (名) 漬け物。香の物。koorunmun ともいう。

çikina㊤ (名) 漬け菜。漬け物用の菜。

çikin㊤ (名) 津堅島。沖縄本島勝連岬 (ka-qeiNnumisaci) の南方にある島。また、津堅。〔地〕参照。

çikituduki㊤ (名) ㊤最後のしまつ。あとしまつ。㊤老後の寄るべ。㊤お返し。お礼に物品を返すこと。

ciku㊤ (名) 菊。

cikudun㊤ (名) [筑登之] 位階の名。最下位の位階で、王子から数えて九番目、里之子 (satunusi) の次。

cikudunpëeciN㊤ (名) [筑登之親雲上] 位階の名。王子から数えて六番目で、cikudun が昇進してなる。

cikudunšizimi㊤ (名) [筑登之筋目] cikudun [筑登之] になる士族の家柄。satunusišizimi とともに、譜代の士族の家柄である。

çikuku㊤ (名) ふくろう。みみずくは ma-jaazikuku という。

çikunaamuku¹naa㊤ (副) くしゃくしゃ。もみくちゃ。<çikunaasjun.

çikunaa=sjun㊤ (他 =saN, =ci) ㊤(紙などを) しわくちゃにする。cikunaasaqtoon. しわくちゃである。㊤丸める。たたまずに、一つにまとめる。

cikun㊤ (名) [氣根] 元気。~nu çicoon. 元気がある。

cikunbucikun㊤ (名) 元気のある時とない時。

çikura㊤ (名) 魚名。ぼら。

çikuri㊤ (名) 極致。kutubanu ~. ことばの極致。ことばで言い表わせることの最

上。kutubanu çikuree 'eezinu kamizuu, hakarigutunu çikuree muraburunu hjaatuži. ことばの極致は八重瀬の亀千代、計略の極致は村原の比屋の妻。いずれも組踊りの登場人物を言ったもので、その組踊りの名はそれぞれ、忠臣身替と大川敵討。

çikuri㊤ (名) 費用。出費。ついで。ʔikiranu çikuree ʔaran. 少々の費用ではない。nuunu ~ga. 何でそんなに金がかかっているのか。

çikuri=jun㊤ (自 =raN, =ti) 費用がかかる。金がついえる。kunu 'jaa çukuindi ziibun çikuritoon doo. この家を建てるのにずいぶんかかっているぞ。

cikusazi㊤ (名) [筑佐事] 廃藩前の警官。警吏。捕縛吏。その長は ʔuhuciku [大筑]。

cikusjoo㊤ (名) 畜生。また、畜生のような者。

cikusjooğiinaa㊤ (副) 畜生のようなさま。無慈悲なさま。~ sjun. むごいことをする。~, ʔunna kutunu najumi. 畜生のように、そんなひどいことができるか。

cikusjoomun㊤ (名) 不人情な者。残酷な者。saasa, 'junagatasaganagata 'wan tatitii, ~. サーサ (拍子)、一晚中わたしを立てしておくのか、ひどい人。(遊女が客を恨んだことば)

çiku=sjun㊤ (他 =saN, =ci) 尽くす。koo ~. 孝を尽くす。

cikuʔuzaki㊤ (名) [菊御酒] 旧暦9月9日の重陽の節供の酒。菊の葉を入れて壺前に供え、一家の無事息災を祈って飲む。

çikuziku㊤ (副) つくづく。よくよく。

cikwii㊤ (名) 聞こえ。評判。また、外聞。~nu takasan. 評判が高い。

cikwii=jun㊤ (自 =raN, =ti) ㊤世に聞こえる。評判が高くなる。有名になる。㊤合点が行く。うなずける。cikwiiran kutu

ʔjun. 合点の行かないことを言う。
cikwiitamun① (名) 世に聞こえた者。有名な人。
çimagu① (名) ひづめ(蹄)。
çimai① (名) 詰まること。窮すること。困窮。
çima=juN① (自 =raN, =ti) ① 詰まる。金銭・ことばなどに窮する。çimaiçiqoon. 窮しきっている。② 詰まる。(穴などが)塞がる。③ 詰まる。小さくなる。(洗濯した布などが)縮まる。
çimakasi① (名) わがまま。勝手。放縦。~na muN. わがままな者。ʔjaa ʔisikawa, ʔwaga zicini sumuku ~nu ʔjakara, ʔisuzi hwicitatiti sunçi ʔiki. [やあ石川 わが下知に背く 気まかせのやから 急ぎ引立てて そんち行け (大川敵討)] 石川 (家来の名), そいつはわが下知にそむく勝手なやつ, 早く引立ててひきずって行け。
çimakurubi① (名) つまづいて転ぶこと。ʔasimarubi şiruna ~ şiruna [足まろびするな つまころびするな (銘荊子)] つまづいて転ぶな。
çimama① (名) 気まま。ほしいまま。~na kurasi. 気ままな暮らし。
çiman=cuN① (他 =kaN, =ci). (洗濯した布・衣類を) しわを無くするために, しめして引き伸ばす。
çimaruu① (名) 背たけが低く小さい者。体が詰まっていて小作りな者。ちび。
çimi① (名) ① 首里や地方の王家筋の宗教をつかさどる神女。cihwiziN [聞得大君] に直属し, 各間切 (maziri) の nuuru (のろ) よりも位が高い。② [文] 君。主君。ʔjaa hwahwaʔujaju, tiŋtu zinu nakani çimiʔujanu tieija tumuni tiN kamiti, zija humantijari. [やあ母親よ 天と地の中に 君親の敵や 供に天かめて 地やふまぬてやり (忠臣身替)] やあ母よ,

天と地の間に君や親のかたきは俱に天を戴いて地をふまぬといわれています。

çimi① (名) 詰め。勤務。ある場所に詰めて勤務すること。複合語に, ʔeemaçimi (八重山勤務), ʔjuçimi (夜の当番。宿直) などがある。

çimi① (名) ① 爪。② 紡錘。つむ。糸をつむぐ機についた鉄錐。ʔjaamanu ~. 糸車の紡錘。

çimibuukuu① (名) 詰めきりの奉公。昼夜詰め切って奉公すること。

çimidima① (名) 積み賃。舟の運賃。

çimigukuru① (名) (女郎を) 独占したい心。(女郎を) 独占したく思うほどの親密さ。

çimihukui① (名) 首里城の建物の名。ʔuguşiku の項参照。

çimihukuiʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔuguşiku の項参照。

çimi=juN① (自・他 =raN, =ti) ① 詰める。任地に詰めて勤務する。banzunakai ~. 役場に詰める。② 詰める。切って短くする。danpaçi ~. 髪を切る。çimi ~. 爪を切る。③ (女郎を) 買い切って他の客をとらせないようにする。çuri ~. 女郎を独占する。④ [文] 思い詰める。思いがつのる。şjuimedei şimaci muduru micişigara, ʔunnadaki miriba sirakumunu kakaru, kuisisaja çimiti mibusjabikei. [首里めだいすまち 戻る道すがら 恩納岳見れば 白雲のかかる 恋しさやつめて 見欲しやばかり] 首里での御奉公をすまして帰る道すがら, 恩納岳を見れば白雲がかかっている, 恋しさはつり会いたくてたまらない。

çimikata① (名) 爪跡。爪でつけたかた。爪による傷跡。

çimikusu① (名) ① 爪の垢。② 爪の垢ほどの少量。

çimimaajaa① (名) 爪のところでできる腫物。

çimini

çimini① (名) 積み荷。

çimituga② (名) つみとが。罪科。文語的な語。

çimizuri③ (名) ある客が一定期間独占して買い切った女郎 (zuri)。çimi- <çimi-jun (詰める)。

çimjuu④ (名) 奇妙。不思議。~na kutu. 奇妙なこと。

çimu⑤ (名) ⊖肝。肝臓。食物としての、豚などの肝臓。⊕心。心情。情。kukuru (心) よりもはるかに多く使う。~ ?uraakijun. 自分の心を慰める。心を水に浸す意。?uta ndee ?judi ~ ?uraakira. 歌でもよんで心を慰めよう。~ kwijun. 情をかける。心をくれるの意。makutu sinziçinu 'wazimudun kwiraba murabaruğa kutun ?ijana ?ucumi. [誠真実の我肝ども呉らば 村原が事も いやな置きゆめ(大川敵討)] わたしが本当に情をかけてやるならば、女も村原のことを言わずには置かないだろう。~ tagaajun. 心が合わない。意志が疎通しない。誤解する。~ dacun. 悲しみでいっぱいになる。憂い悩む。~ dakarijun. 憂いや悲しみにとざされる。~ eiikeerasjun. 心を動転させる。また、突然狂い出す。~ tumeejun. 心を取り直す。乱れた心を静める。~ tumeejasjun. 慰めて心を落ち着かせる。~ tujaasjun. 心を整える。心配事などを処理して、心を安んずる。~ tujaasaran. 心が乱れ、考えがまとまらない。~ tujun. 機嫌をとる。~ tun teetun kanaan. 何事もままならない。buçii nnu neeja-biran, muzukuitun husaaran, mata sjuu takiba ?aminu huiçizicai, katagata ~tun teetun kanaaran 'jooşı 'jajabiitan. [物縁の無いやべらぬ 物作ともふさあらぬ 又塩焚けば雨の降続きやり 旁々肝ともたいとも叶らん様子ややべいたん (花売之縁)] 縁がないのか、作物

もうまくいかず、また塩を焚けば雨が降り続くし、全くどうにもしよろがなく、途方に暮れた様子でありました。~nu kuihwici. 心の底から悔いなやむこと。心からつらく思うこと。~nu sacinin kakiran. 全く気にしない。少しも懸念しない。~nu sibasan. 心が狭い。kukurunu sibasan. ともいう。~nu sinubaran. 心にしのびない。(見るに・聞くに) しのびない。~nu suku. 心の底。kukurunu suku ともいう。~nu tuukiran. 心が解けない。釈然としない。kukurunu tuukiran. ともいう。~nu tukurun neen. 心の居所がない。心配などで、心が落ち着かない。~nu nuriran. 気乗りがしない。心が進まない。~nu neen. また、~N neen. 熱意がない。する気がない。また、冷淡である。心ない。~N neen sikata. 心のこもらぬやりかた。また、心ないしかた。~nu 'jucajun. 心が合う。また、意志が通ずる。納得がいく。~ noosjun. 心をと直す。機嫌を直す。また、心をなだめ柔らげる。~ noojun. 機嫌が直る。怒りがおさまる。~ huzun. 満足する。十分と思う。~N hugan. 満足しない。~N hugan dāraa 'joosjookee. 意に満たないならばよして置け。~ 'janun. 心を痛める。また、後悔する。nanmi nnu kezoja sjuinu kezotumuti, satu ?ukuei 'jaraci 'wazimu 'janusa. [波上の開静や 首里の開静ともて 里起ちやらち 我肝病ぬさ] 波上の護国寺のあかつきの鐘を首里の円覚寺のそれと思い違いして、恋しい君を帰してしまい、後悔で心が痛む。~N saazaatu najun. 気もせいせいする。心もさっぱりとする。~N taqkuzirariiru gutoon. 悩みごとで、心も突き破られる思いである。~N ciiziitu najun. 心が責めつけられて、心も消え消えになる。~N ~ naran. 心も心ならず。とうていし

のびない。とうてい落ち着いてられない。
kurimadijutumba ~N ~ naraN, ʔi-
ca sigana biçini hakareeja nerani. [こ
れ迄よと思は 肝も肝ならぬ いきやしが
な別に 計ひやないらね (忠臣身替)] こ
れまで(で別れるか)と思うと、とうてい
しのびない。何とかして別の計らい方はな
いものか。~N teen ʔaraN. 悲しみ・
憂いで心も体もどうにもならない。~N
moodoo najuN. 心が乱れ、どうしてよい
かわからなくなる。~ 'wajuN. 胸襟を開
く。心を開く。

cimuʔamaziⓐ (名) 心の動揺。~ sjuoN.
心が動揺している。

cimuʔasasanⓐ (形) 浮気である。貞操観念
が乏しい。mjaakuwinaguja cimupʔa-
sasanu, ʔiramazaci haimiguriba, 'u-
tu muta 'utu mutajuu. (歌) 宮古の女
は浮気なので、夫の船がイラマ崎をめぐっ
て出て行くと、もう、夫がほしい、夫がほ
しいという。

cimuʔasigaciⓐ (名) 心がいらだつこと。
~ sjun.

cimuʔatigeeⓐ (名) あて推量。臆測。

cimubeesanⓐ (形) 目覚めやすい。睡眠中、
ちょっとの物音で目をさます。kukuru-
beesan ともいう。

cimubirusanⓐ (形) 心が広い。度量があ
る。

cimubutumiciⓐ (名) (希望などで)胸をと
きめかすこと。~ sjun.

cimucaaganasanⓐ (形) うら悲しい。寂
しく、慰めるものがない。

cimudakudakuⓐ (副) 胸さわぎするさま。
胸がどきどきするさま。

cimudakumiciⓐ (名) 胸さわぎ。不安・
恐怖などで胸がどきどきすること。~ sju-
N.

cimuduuiⓐ (名) 思い通り。考えの通り。
~ nataN. 思い通りになった。

cimueeⓐ (名) 意味。わけ。理由。kunu
kutubanu ~nu 'wakaraN. このことば
の意味がわからない。caaru ~ga. どう
いうわけか。~ja neen. 無意味である。
理由がない。

cimugakaiⓐ (名) 心掛かり。気掛かり。

cimugakiⓐ (名) 心掛け。kukurugaki と
もいう。

cimugaki=juNⓐ (他 =raN, =ti) 心掛ける。
kukurugakijuN ともいう。

cimuganasjanⓐ (形) 心からかわいい。義
理で愛するのではなく、心からかわいらし
い。

cimugasiiⓐ (名) 心の加勢の意。精神的な
援助。慰めたり励ましたりすること。~
sjun.

cimugawaimuNⓐ (名) cimugawaimuN
と同じ。

cimugawaimuNⓐ (名) 凡人とは違った心
の者。心掛けが違う者。多くは、いい意味
に使う。

cimuguciⓐ (名) 胸元。みぞおち。'nnigu-
ci ともいう。

cimugurasanⓐ (形) 薄暗い。ほの暗い。燈
火などが暗く、心まで暗い感じがする意。

cimugurigiinaaⓐ (副) cimugurugiinaa
と同じ。

cimugurisjanⓐ (形) 不憫である。気の毒
である。かわいそうである。ʔaree qkwa
sinaci duqtu ~. 彼は子を死なせて、とて
も不憫だ。cimugurisii muN. かわいそ
うな者。不憫な者。

cimugurugiinaaⓐ (副) かわいそくに。気
の毒に。不憫なさま。cimugurigiinaa と
もいう。~, ʔikiindi ʔjariimi. かわいそ
くに、「行け」と言えるか。

cimuguumuNⓐ (名) 小心者。内気者。恥
ずかしがり。

cimugusanaⓐ (形) 小心である。気が小さ
い。また、内気である。

cimuhukui

- cimuhukui**Ⓜ (名) [文] 歓喜。心の喜び。
 ?icaru kutu ?atuti ~ sjujuga. [いきやる事あとして 肝ほこりしゆゆが (孝行之巻)] どんな事があって喜んでいいのか。
- cimuhwicagi**Ⓜ (名) 気掛かり。心配。不安。
- cimu?िकास**Ⓜ (形) 心が痛む。かわいそうに思う。気の毒に思う。
- cimu?icunas**Ⓜ (名) せわしい。心が忙しい。気ぜわしい。
- cimu?iri**Ⓜ (名) 好意。親切。心をこめること。kukuru?iri ともいう。~nu nin-nukwaa. 好意が過ぎて迷惑となること。ありがた迷惑となること。
- çimui**Ⓜ (名) ⊖積もること。積み重なること。⊖見積もり。⊖心積もり。あて。
- cimujuosa**Ⓜ (形) 気が弱い。
- çimu=jun**Ⓜ (自 =raN, =ti) 積もる。積み重なる。sigutunu ~. 仕事が積もる。
- çimu=jun**Ⓜ (他 =raN, =ti) あらかじめ見積もる。心積もりをする。あてにする。çimuraraN. あてにできない。
- cimukukuru**Ⓜ (名) 心。心を強めていう語。çimu も kukuru も心の意。~ ?ucaasjun. 心を合わせる。一致協力する。~nu ?jutasjan. 心が立派である。
- cimumajui**Ⓜ (名) 心の迷い。
- cimumuci**Ⓜ (名) 心の持ち方。心掛け。~nu ?jutasjan. 心掛けがよい。
- cimumucimu**Ⓜ (名) 温い心の持ち主。人情のある人。
- cimunagasa**Ⓜ (形) 気が長い。のんびりしている。
- cimunige**Ⓜ (名) 心願。たえず心で願っていること。
- cimunu?amai**Ⓜ (名) 心の余裕。心のゆとり。
- cimunuhwima**Ⓜ (名) 心の余裕。心のいとま。心配事などがなくないこと。
- cimunukasii**Ⓜ (名) cimugasii と同じ。

- cimununubi**Ⓜ (名) 心のゆとり。寛大で、むやみに立腹しないこと。寛容。
- cimunurusa**Ⓜ (形) 熱意がたりない。不熱心である。nurusaN はのろい。
- cimunu?umii**Ⓜ (名) 気のせい。~ga ?jatarata, dateen nati miijutan. 気のせいか大きく見えていた。
- cimuri**Ⓜ (名) [文] 煙。?juin ?akaciçin narisi ?umukazinu tatan hwija nesami sjujanu ~. [宵も暁も 馴れし佛の立たぬ日や無いさめ 塩屋の煙 (花売の縁)] 宵もあかつきも馴れたおもかけが塩たく家の煙のように立たない日は無い。
- cimusawazi**Ⓜ (名) 胸騒ぎ。不安・心配などで心が穏やかでないこと。~ sjuN.
- cimusikaraasa**Ⓜ (形) 心さびしい。うらさびしい。心の底から寂しい。
- cimusipusa**Ⓜ (形) 片意地である。偏屈である。
- cimusipuu**Ⓜ (名) 片意地者。偏屈者。
- cimutaturuci**Ⓜ (名) 心が迷うこと。心が定まらないこと。心の迷い。
- cimutiiçi**Ⓜ (名) 心を一つにすること。同じ心・意見をもつこと。~ nati sjuN. 心を一つにしてやる。協力してする。
- cimu?ubi**Ⓜ (名) 心おぼえ。心に記憶しておくこと。kukuru?ubi ともいう。
- cimu?uci**Ⓜ (名) 内心。
- cimu?wii**Ⓜ (名) 心強いこと。頼もしい子を持つ親の気持ちなどをいう。qkwanu suguriti ~ ?jan. 子供がすぐれているので心強い。
- cimuwamici**Ⓜ (名) 胸さわぎ。心が落ち着かないこと。楽しいことのために心が浮き立つ場合にいう。
- cimuwasa**Ⓜ (副) 胸さわぎするさま。心が浮き浮きするさま。
- cimuzawai**Ⓜ (名) 気にさわること。しゃくにさわること。~ sjuN. しゃくにさわる。
- çimuzi**Ⓜ (名) 紬。久米島で産した。

cinuzuraNcu① (名) 心がやさしい人。恵み深い人。

cinuzurasaN① (形) 心がやさしい。恵み深い。

cinuzurii① (名) 心を合わせること。協力。～sjun. 協力する。

cinuzuusaN① (形) 心強い。安心できる。

cina① (名) 知名。《地》参照。

çina① (名) 綱。繩。naa (繩) と意味は変わらないが、çinaの方を多く用いる。強調して çinanaa ともいう。～noojuN. 繩をなう。

çinaa① (名) 喜名。《地》参照。

çinahwici① (名) 綱引き。沖縄の年中行事の一つ。首里・那覇を始め、各村で夏、稲の収穫が終わり、藁ができるころに行なわれた。村で東西が対抗して行なう。首里では、各村が独立して別個に行なうものと、首里全体が東西に分かれて行なう ʔaizoo-ʔuunna [綾門大繩] とがあった。後者は首里城正門前にある綾門大通りで行ない、最も盛大であった。çinahwici に用いる綱は、その頭部が輪になり、雌綱 (miinna) の輪は大きく、雄綱 (ʔuunna) の輪は小さい。雄綱の輪を雌綱の輪に入れ、雄綱の輪に棒 (kanici という) を通し、雌綱の輪と組み合わせる。雌綱、雄綱ともに太くて引きにくいので、さらにそれに細い綱 (tiinna という) をたくさん付けて、人はその細い綱を引く。三本勝負で、二勝すれば勝ち。

çinanaa① 綱。繩。çina の意味を強めた語。-naa は繩。ʔjanamuN çiriree ~ kaka-juN. 悪者といっしょにいと綱目にかかる。

çinazaara① (名) 短い綱を折り曲げて作ったたわし。saara はたわし。

çina=zuN① (他 =gan, =zi) (糸・紐などを) つなぐ。

çinazuu① (名) 布を織り上げて、最後に巻

き板に巻いた残りの経糸。つなぎ緒の意。つなぎ合わせて用いるのでいう。

cinee① (名) ㊦家庭。家族。㊦(接尾) 家族。cucinee (一家族, 一家), tacinee (二家族) など。

cinegusi① (名) 一家全部が引っ越すこと。家族全体の転居。

cineekaʔzi① (名) 家ごと。戸ごと。～ʔa-çun. 家ごとに訪問する。

cineeniʔzu① (名) 家族。家族全体。また、家族の人数。

cineezuu① (名) 家族中。一家全体。

çini① (名) ㊦常。平素。sizika narisumiri ~ni miga kukuru, nami tatan mizidu kazija ʔuçiru. [静なれそめれ常に心が心 波立たん水ど 影やうつる] 常に心を静かに持て。波立たぬ水にこそ影が映るのだ。㊦あたりまえ。並み。普通。㊦転じて、平気。～du ʔjaru. 平気だ。

cinibu① (名) あじろの目の細かいもの。竹を密に編んだもの。垣や壁などにする。

cinibugaci① (名) cinibu の垣根。

cinii① (名) きのエ(甲)。十千の第一。

cinin① (名) 知念。《地》参照。

cininʔaʔci① (名) 知念岬。島尻郡の東端の岬。

çinu① (名) つの(角)。

çinuʔaqtami① (名) [古] 牛肉。角のあるものの肉の意。

cinuciei① (名) 気が利くこと。～nu ʔan. 気が利く。～nu neeraN ʔwarabi. 気の利かない子供。

cinuduku① (名) ㊦[文・古] 残念。tama-muranu ʔwakaʔazi tuinugaci ʔuraN, niburu miN niraN ~du ʔjataru. [玉村の若按司 取逃ちをらん ねぶる目もねらん 気の毒どやたる (忠臣身替)] 玉村の若按司を取り逃がしてしまつて、寝ようにも安心して寝られない。残念である。㊦[新] 気の毒。

cinuku

cinuku④ (名) きのこと。傘と柄のはっきりしている、いわゆるきのこの形をしたものをいう。したがって、mooʔaasa, mimigui などは cinuku といわない。食用のものも、有毒のものもさすが、主として食用のものをいうようである。simizi (しめじ) など。

cinumata④ (名) つのまた。海草の名。食用となり、また、糊を作る。

cinumijaa④ (名) 角の生えたもの。牛・鬼など、角の生えて恐ろしいもの。

ci=nuN④ (他 =maN, =di) [文] つねる。口語は **ciNcikijun**。ʔwagami ʔidi ʔncidu ʔjusunu ʔwija sijuru, muri ʔiruna ʔuciju nasakibakari。[わが身つで見ちど 他所の上や知ゆる。無理するな浮世なさけばかり] わが身をつねって他人の身の上を知る。無理をするな。浮世は情だけでもつのだ。

ci=nuN④ (=maN, =di) ⊖(他) 積む。ta-muN ~。たきぎを積む。⊖(自) 積もる。ʔararinu ~。あられが積もる。

ci=nuN④ (他 =maN, =di) (草花・桑の葉などを) 摘む。

ci=nuN④ (他 =maN, =di) 詰める。詰めて入れる。ʔuzuu ~。重箱に詰める。

cinutatii④ (名) [角立] 男の子が三歳になった時、頭のまわりを剃り、さらに頭の頂上から前額の方に細く溝形に剃る古い行事。男性を象徴しており、女の子の sara-tatii (その項参照) に対する。

cinutu④ (名) きのと(乙)。十千の第二。

cinuu④ (名) きのり。昨日。

cinuncuʔu④ (名) きのうきょ。昨今。

cinuunujuru④ (名) おとといの晩。一昨晩。一昨夜。昨晩は ʔjuubi, ʔuqtiinujuru はやはり一昨晩の意になるが、あまり用いない。

cinuʔeeku④ (名) 角細工。角類で器具を作ること。また、それを作る人。

cin④ (名) cimi (王家筋の宗教をつかさどる神女) と同じ。

cin④ (名) 着物。衣服。その敬語は ʔnsu。着物の種類をあげれば、夏物には、男子用に ʔirunucin, 女子用に tanasi, ʔeeʔuburuu など、男女用に basjaazin, sudiciraa などがある。冬物には、男子用に duubuku, ʔirunucin など、男女用に各種の ʔwatazin, また、ʔaasimuN, ciimuN, ʔwataʔiri, hwiitaa, rin kwaa などがある。春秋には男女用に ciiziuN がある。それぞれその項参照。

cin④ (名) 金武。《地》参照。

cin④ (名) 金。~ ʔukijun。金の粉で漆器などに字や絵を浮かせる。蒔き絵にする。

-**cin** (接尾) 斤。重量の単位 (160 匁)。ʔiq-cin (一斤), hanziN (半斤) など。

-**cin** (接尾) 間(けん)。長さの単位。ʔiq-cin (一間), nicin (二間) など。

cinbaa④ (名) [新] 金蘭。

cinbaai④ (名) 金針の意。鍼。鍼術師が医療に使う針。金で造る。

cinbeeru④ ʔakakoozi④ (句) あかんべえ。べっかんこ。下まぶたを指で引き、赤い裏を見せ、侮辱の意をこめて拒絶の意を表わすこと。beeru は侮辱的な拒絶の意を表わす語。ʔakakoozi は食紅用の麴。

cinbiN④ (名) [巻餅] 菓子の名。麦粉を水でこね、黒砂糖と卵を混ぜて、油を引いた鍋で焼いて巻いたもの。

cinbjoobu④ (名) 金屏風。cinnoobu ともいう。

cinbooraa④ (名) 海産の小さい巻き貝の名。ほら貝型のきわめて小さい貝。にし的一种。

cinbuçi④ (名) 見物。~ sjuN。

cinbuçiniN④ (名) 見物人。

cinbuku④ (名) 釣り竿。

cinbuN④ (名) 検分。立ち合って取り調べること。

- ciNbuN① (名) 見聞。
- ciNburugeei① (名) でんぐり返し。頭を下にしてひっくりかえること。ciNburu-<ciNburu (頭)。
- ciNcaan① (副) ぎょろり。目を大きく開いて光らせるさま。mii ~ natoon. 目をぎょろりと光らせている。
- ciNcihwada① (名) [衣着肌] 衣類。着物。衣裳。肌に着けるもの。~nu ʔariwadu maakain ʔikariiru. 着る物があってこそ、どこにでも行ける。
- ciNciida nari① (名) 着物の着こなし。-cii-<cijun (着る), -danari<tanari (ありさま, 体裁)。
- ciNciiki=ju`N① (他 =raN, =ti) つねる。指先などで強くねじる。
- ciNcinaa① (名) ひばり。ciNcin と鳴く声から名づけたもの。
- ciNcin① (副) ピーチク。ひばり (ciNcinaa) の鳴き声。
- ciNcinbisja`gwaa① (名) 足の細い者。悪口として使い、ひばり (ciNcinaa) の足の細いになぞらえていったもの。
- ciNcinʔnma`gwaa① (名) おもちゃの馬。足に車が付いていて、動くと ciNcin と鳴るのでいう。caNcaNʔnmagwaa ともいう。
- ciNciruka`a① (名) 衣類。着るもの。衣・着る皮の意。cirukaa ともいう。~N neeN. 着る着物もない。
- ciNcco① (名) [新] 県庁。廃藩当初一時用いられた語。のち、kiNcco というようになった。
- ciNdami① (名) つましらべ。音締め。琴・三味線などの音調をととのえること。
- ciNdan① (名) ciNraN と同じ。
- ciNdee① (名) 見台。書物を載せて読む台。
- ciNshabu① (名) はぶの一種。金色で小さく、毒が強い。
- ciNjaku① (名) 儉約。政府が行なう場合には敬語にして guciNjaku という。
- ciNkan① (名) 金柑。
- ciNki=juN① (自 =raN, =ti) つねる。ciN-cikijun と同じ。
- ciNku① (名) [金鼓] 綱引きの時、鉦と太鼓を打ち合わせる一種の合奏。首里・那覇の綱引きでは、リーダー格の青年が鉦を打ち、白鉢巻の四、五十人の青年がそろって太鼓を打ち鳴らす。
- ciNkuni`Nzu① (名) 綱引きの時に、鉦太鼓をたたく一団。
- ciNkunsiN① (名) [進貢船] 進貢船。中国へ貢物を持って行く船。それを迎える翌年は ceqkunsin [扱貢船] が中国へ行った。
- ciNkwaa① (名) かぼちゃ。naNkwaa ともいう。
- ciNmaasaa① (名) 土や石を積みめぐらせて円形に盛り上げたところ。上に赤木やガジマルを植えてある。一里塚のように里程標としたものと思われる。
- ciNmaga=ju`N① (自 =raN, =ti) ひん曲がる。
- ciNmagaru① (名) ⊖ひん曲がること。⊖寒さなどで、縮こまること。
- ciNmamu① (名) [君真物] cihwiziN (きこえ大君) のかしずく神。すなわち、ci-hwiziN に憑く神。神のうちで最高。
- ciNmi① (名) 斤目。目方。量目。秤で計る物の重さ。
- ciNmii① (名) ciNmiidaka と同じ。
- ciNmiidaka① (名) 金色の目をした鷹。鷹のうちで最も上等とされ、高価なので、貴族の子弟が買ってもらうことが多かった。士族の子弟は値の安い kaʔizeemii (灰色の目の鷹) を買ってもらった。
- ciNnaa① (名) かたつむり。
- ciNnoobu① (名) ciNbjooobu と同じ。
- ciNnooibaai① (名) 縫い針。裁縫針。普通は単に haai という。
- ciNnoojaabaai① (名) ciNnooibaai と同じ。

ciNnuku

ciNnuku① (名) [鶴の子] 芋の一種。やつがしら。

ciNnukubi① (名) 着物の襟。きぬのくびの意。

ciNnukuu① (名) 着物のつくろい。kuu (綱)の項参照。

ciNnuN① (名) 唾を飲むこと。かたずを飲むこと。気をつけて事のなりゆきを見守る時などにいう。～ sjUN. かたずを飲む。

ciNnsubaa① (名) 着物の前すそ。子供がふろしき代わりにして物を運んだりする。

ciNnuuu① (名) 着物のつけひも。子供などの着物に帯代わりにつけるひも。衣の緒の意。

ciNpee① (名) 唾。つばき。～ tuhweemikasjuN. 唾をぺっとはく。唾は魔よけとなるので、怪しいものを見ればその方向に唾をはく。落とし物をすれば唾を手のひらにのせ、kizimunaa kizimunaa 'waa-muN tumeeraci kwiri. (きじものよ、きじものよ、わたしの物を捜させてくれ。kizimunaa は木の精) と言い、その唾を指で打ち、唾の飛んだ方向を捜す。腫物なども、唾をつけると痛みなどが早くひくとされる。

ciNpiN① (名) 近辺。近く。

ciNpoo① (名) 近傍。近辺。また、あたり。辺。kwazee maanu ~ga. 火事ほどのあたりか。

ciNpuki=juN① (他 =raN, =ti) 突き抜ける。くぐり抜ける。

ciNraN① (名) 金欄。ciNdAN ともいう。

ciNsa① (名) [新] 検査。satoociNsa (砂糖の等級を決める検査) などがある。

ciNsiN① (名) 賃銭。料金。

ciNsiNgai① (名) 賃借り。料金を出して借りること。

ciNsjA① (名) [文] [検者] 廃藩前の役名。間切番所に首里からおもむく監督役。

ciNsukoo① (名) 菓子の名。米の粉と砂糖

をまぜ、油を入れて練り、型に入れて作るもの。油を入れないものは koogwaasi, 大きく牡丹の花の形に作って彩色したものは butaNkoo という。各項を参照。

ciNtaa① (名) 次の句で用いる。～ keejuN. (上が重くて) ひっくり返る。～ keerijuN. ともいう。

ciNtaakeei① (名) (上が重くて) ひっくり返ること。

ciNtee=ju'N① (自 =raN, =ti) まるまると太る。幼児などについていう。

ciNtu① (副) ぴったり。きっちり。ちょうど。～ ?atatoon. ぴったり合っている。

ciNtuNteN① ⊖(副) 三味線の音。⊖(名) 五本の指を屈伸する小児の芸。にぎにぎ。三味線に合わせて踊る気持ちをあらわしたものの。

ciNzaci① (名) 金武崎。沖縄本島東海岸にある岬。

ciNzi① (名) 禁止。文語はcizi。

ciNzu① (名) 隣の家。隣家。

ciNzubaree① (名) 近所払い。近隣からの追放。廃藩前の一種の私刑。のちには村八分をもいうようになった。

ciNzubiree① (名) 近所づきあい。隣近所との交際。

ciN=zuN① (他 =gaN, =zi) 紡ぐ。綿・繭などをつむにかけて糸にする。また、糸によりをかける。

ciNzuzurii① (名) 近所の集まり。近隣の寄り合い。

ciQcuu① (名) 吉兆。縁起のよいしるし。

ciQkuu① (名) ⊖結構。立派。⊖堅固。～na 'jaa. 堅固な家。

ciQpaku① (名) 潔白。～na. 潔白な。

ciQpen① (名) [橋餅] 菓子の名。kunibuの砂糖漬。kuuri ~ ?amasjoogaa. 氷砂糖に橋餅に甘しょうが。

ciQtu① (副) ⊖きつく。強く。しっかりと。sasinaa muqci cikaku 'jutikarani,

matan kakusjuraba ~ kunsimiri. [差
繩持つち 近く寄てからに 又も隠しゆら
ば きつとくんしめれ(大川敵討)] 捕繩を
持って近く寄って、またも白状しないな
らばきつく縛れ。⊙きつと。必ず。～
'jami. 必ずそうか。間違いないか。

çiraⓄ (名) 顔。文語や複合語には kau と
いう形もある。～ ?arajuN. 顔を洗う。
～ hurakaran. 合わせる顔がない。穴が
あれば入りたい。hurakaran は開けられ
ないの意。～ taka?ucagi. 顔を高く上げ
ること。高慢にそりかえること。また、足
もとに気をつけないこと。

çira?ahwasanⓄ (形) おもはゆい。恥ずか
しくて見られない。見る方が恥ずかしくな
る。

çirabuiⓄ (名) 顔をそむけること。そっぽ
を向くこと。負けたり面目を失ったりした
場合のそれにいう。

çiraçiikunⓄ (名) 顔をつつ込むこと。乳児
が母の胸に、また、水泳で水中に顔をつつ
込むことなど。

çiraciraⓄ (副) きらきら。光のきらめくさ
ま。

çiradamasiⓄ (名) かしこい顔つき。～nu
?an. 聡明な顔つきをしている。tamasi-
kweekaagi ともいう。

çiragakuⓄ (名) 顔の輪郭。顔のかたち。

çiragamaciⓄ (名) づら。çira (顔) の卑語。
kamaci は頭の卑語。～ 'wararin doo.
づらを割られるぞ。けんかの時のことば。

çiragatakaⓄ (名) 次の句で用いる。'innu
～. 緑が顔をかばう。緑のある者は、ひい
き目で顔もきれいに見える。-kataka はか
ばりものの意。

çiragwaaⓄ (名) 次の句で用いる。～ na-
jun. 恥ずかしくて顔を向けられない。顔
が小さくなる心地がするの意。

çirahazikasjanⓄ (形) おもはゆい。顔を
見られるのが恥ずかしい。

çirahuqkwaaⓄ (名) 不平不満などで、ふ
くれっつらをした者。

çirahuraaⓄ (名) 馬鹿づら。人を罵倒して
いう語。-huraa < hurijun.

çirahwaahwaaⓄ (名) 顔がほてること。微
熱のある時、恥ずかしい時などにこるな
る。

çirajooⓄ (名) 泣きそりな顔。べそ。悲し
そりな顔。

çirajugusiⓄ (名) [新] つらよごし。

cira=juNⓄ (他 =aN, =ti) 嫌う。

çirakaagiⓄ (名) 顔だち。容貌。

ciraka=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 散らかす。
とり散らす。

çiramiikuciⓄ (名) 顔色。顔のようす。-mi-
ikuci は一見することの意。

çiramiqkwasanⓄ (形) 顔が憎らしい。

çiramiqkweeⓄ (名) かわいらしい者。と
てもかわいい者。わざわざ反対に「顔が憎
い者」といった語。

çiramukumiⓄ (名) 顔つき。面相。づらが
まえ。mukumi は木目。

çiraniⓄ (名) ⊖長歌。琉歌の長歌。⊖連歌。
琉歌をふたり以上でよみつらねること。ま
た、よみつらねた歌。

çiranikusanⓄ (形) 顔が憎らしい。

çiranuhaziⓄ (名) 顔に現われる恥。恥ず
かしさが顔の色に現われること。～nu
?ariwadu ninzin 'jaru. 恥じる色があ
ってこそ人間だ。

çiranukaa?açiiⓄ (名) づらの皮が厚い者。
厚顔。あつかましい者。

çirasicimaciⓄ (名) 顔(面目)を抵当にす
ること。証文を入れずに面目によって金な
どを借りること。

cirasigusuiⓄ (名) 散らし薬。

cira=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) (品物を) 切ら
す。sakee namaa ciracoosa. 酒はいま
切れているよ。

cira=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) (腫れものなど

cirataacaa

を) 散らす。cirasigusui cikiti kasa ~。散らし薬をつけてできものを散らす。

cirataacaa① (名) 二枚舌。内股膏薬。顔が二つある者の意。

ciratamajaa① (名) 額と顎が高く、中央がくぼんだ醜い顔。

ciratiŋi① (名) 生き写し。瓜二つ。顔がそっくりなこと。那覇では hainuzi という。

ciraŋuciki① (名) 顔つき。

cirawaa① (名) 顔の広さ。また、大きい顔。また、度胸のある、人前で恥じない顔。反対には、ciragwaa najun. (恥じて顔が小さくなる) という。

cirawaidoogu① (名) 顔がつぶれること。面目を失うこと。

ciraziraatu① (副) 面とむかって。~ ŋii-cijun. 面とむかってのしる。

ciree① (名) してはいけないこと。禁止すべきこと。「嫌い」に対応する。

ciremun① (名) してはならぬもの。経験的あるいは迷信的理由から禁止されていること。タブー。妊婦の家に表門から入って、裏門から出ること (必ず入った所から出なければいけない) など。また、腹をこわした時に ŋandamun (揚げもの) を食うことなど。

ciri① (名) ㊦きれ。布。㊦きれ。切れ端。

ciri① (名) 塵。ごみ。~N 'jama najun. 塵も積もれば山となる。

ciri① (名) 桐。

ciri① (名) 霧。

-**ciri** (接尾) ㊦田畑を数える時の接尾辞。枚。cuciri (一枚), taciri (二枚) など。㊦切れ。魚・菓子などの切ったものを数える時の接尾辞。(-caai の項参照)

çiri① (名) 連れ。同伴者。仲間。

ciriŋakuta① (名) 塵芥(ちりあくた)。

ciriban① (名) [切板] たばこを刻むための切りばん。

ciribanboocaa① (名) たばこを切る包丁。普通の包丁よりもずっと大きい。

ciribira① (名) なら。

ciriçimi① (名) 家計を切りつめて、余裕を与えないこと。切りつめの意。夫が妻に金を出し惜しむ場合など悪い意味に使う。

ciricirii① (名) 料理名。牛肉を醬油などで炒りつけたもの。ciriciri と音を立てるところから名づけたもの。

çiridee① (名) [連台] 長方形の大きな盆。重箱や食器類を載せて運ぶのに用いるもの。

ciricee① (名) 打ち合わせ。下相談。

cirihasi① (名) 切れはし。重箱につめた残りの食べものの切れはし、材木の切れはしなど。

cirihukui① (名) 塵埃。ちりとほこり。

cirihwa① (名) 物事・言行のけじめ、または、きり。~nu 'jutasjan. きりがいい。~nu 'waqsan. きりが悪い。

cirihwizi① (名) [文] 塵と泥。hubana saciziriba ~N çikan, siracanija nabi-ci ŋabusimakura. [穂花咲き出れば 塵ひぢもつかぬ 白種子やなびち あぶしまくら] 稲の穂花が咲き出ると塵も泥もつかずに、稲はあぜを枕にする豊作(でありますように)。

cirii① (名) きれい。清潔。bucirii (不潔) の対。ciriiN ともいう。~na. きれいな。

ciriiN① (名) きれい。清潔。~na. きれいな。~ni sjun. きれいにする。

ciri-jun① (自 =ran, =ti) ㊦(刀物が) 切れる。hasan (鋏), hoocaa (包丁), šiigu (小刀) などが、切れる。刀・かみそりなど、刃の切れ味を特に尊ぶものが切れることには tacun という。㊦切れる。切断される。(糸などが、また関係などが) 切れる。'inni ~. 縁が切れる。'in ~. 愛想がつきる。すっかりいやになる。

ciri-jun① (自 =ran, =ti) ㊦散る。腫れもの腫れが引く。㊦(花が) 散る。㊦にじむ。色が染まって散る。šiminu ~. 墨

- がにじむ。
- ciri=juN**④ (他 =raN, =ti) 連れる。同伴する。ʔusicirijun ともいう。
- cirikizi**④ (名) 切り傷。刃物で切った傷。
- cirikuci**④ (名) 切り口。
- cirikuru=sju**ˊN④ (他 =saN, =ci) 切り殺す。
- cirikuzan**④ (名) 切り刻むこと。
- cirimi**④ (名) 切れ目。切れた所。ʔjaʂeenu ~. 野菜の切り口。
- çirimi**④ (名) 同じ年ごろ。結婚の相手としてころあいな同年輩。ʔinuçirimi ともいう。satimu sati ʔanmaa, ~ naru ʔwikiga…(泊阿嘉) 何とまあ、ばあや、同じ年ごろの男が…。
- cirimusiri**④ (名) 古くなった衣類などが、切れたり破れたりしてみすばらしいこと。
- ciritiN musiritiN ʔajaataarii.** (切れても破れてもアヤー・ターリーを使う。貧乏士族が身分に執着するのをあざけたことば) などともいう。ʔajaa はおかあさん、taarii はおとうさん、ともに士族の使う語。
- cirimuzi**④ (名) うどん。
- cirinaataranaa**④ (副) 切らしたり、足りなくなったりするさま。金銭・店頭の商品などが順調にそろわないさま。
- çirinagaanagaa**④ (副) 列をなして長くつらなるさま。延延と。
- çirinasan**④ (形) つれない。情ない。çirinasaja ʔjuminu jununakani ʔututi ʔasaju zirinu ʔwini ʔumuikutaci. [つれなさや夢の世の中に居て 朝夕義理の上に 思いくち] 情ないことに短い一生のうちで、いつも義理の上に思い悩んで。çirinasii sikata. つれない次第。情ないていたらく。
- çiriniNzu**④ (名) 連れの人たち。同行の人たち。
- ciriN**④ (名) 麒麟。中国の想像上の動物。
- ciriNtooo**④ (名) 植物名。緋桐(ひぎり)。
- ciriʂiti**④ (名) ごみだめ。ごみ捨て場。
- ciriʂiti=ju**ˊN④ (他 =raN, =ti) 切り捨てる。切って捨てる。
- ciritaikaatai**④ (副) ずたずた。ぼろぼろ。着物などが切れて垂れ下がり、みすばらしいさま。
- ciritami**④ (名) たばこ入れ。刻みたばこを入れる木製の小箱。切り溜めの意。
- ciritoo=sju**ˊN④ (他 =saN, =ci) (立木などを) 切り倒す。
- ciritui**④ (名) 塵取り。掃除道具の名。
- ciriʔuri**④ (名) 霧が降りること。霧・かすみが立ちこめること。
- ciriziri**④ (副) 散り散り。別れ別れ。離散したさま。
- cirizirini**④ (副) [文] 散散(さんざん)。~ ʔjaçiri kunu naiju ʔjariba. [散々にやつれ 此のなりよやれば(花売之縁)]さんざんにやつれ、こんなさまであるから。
- cirjuu**④ (名) [新] 寄留。本籍地を離れて、他郷に住むこと。cizuu [居住]と同じ。
- ciroo**④ (名) [器量] 才能。才器。ciroo は人にそなわった才能をいい、個個、折り折りの才智は多く ʂee という。
- ciroonin**④ (名) 器量人。手腕のすぐれた人。才能のある人。才子。
- çiru**④ (名) ⊖つる。琴・三味線・弓などの弦。⊖筋。筋肉のすじ。nuudiiziru (のどの筋), ʔudiziru (腕の筋), ʔadzuru (アキレス腱) など。
- çiru**④ (名) 鶴。çiruntui ともいう。sin-çiru mankami. 鶴は千年、亀は万年。
- çiru=buN**④ (自 =baN, =di) つるむ。交尾する。
- çiruçiru**④ (副) よたよた。よちよち。歩きはじめの幼児などの走りまわるさま。
- çirudai**④ (名) 失望。落胆。がっかりして体中の筋がだれる意。~ sjun.
- çiruga=juN**④ (自 =raN, =ti) ⊖連なる。

つながる。続く。tintu ziitu çirugatoon. 天と地と連なっている。⊖(つながって…まで) 達する。…に及ぶ。mizinu kubimadi çirugatoon. 水が首まで達している。ʔuhooku kadi nuudiimadi çirugatoon. たくさん食べて(食物)のどまで達している。⊖(水などに) つかる。(水などにつかって、水が)…まで達する。kubidaki mizinkai ~. 首の高さまで水につかる。Ⓞ(接尾)…し続ける。ʔimi miicirugajun. 夢を長く見続ける。munu ʔjunçirugajun. はてしなくおしゃべりを続ける。

çirugi① (名) ⊖つながっているもの。連なるもの。⊖(接尾) nitaçirugi (二反続きの反物), ninmeeçiruginu musin (二枚続きの毛布) など。

çirugi=jun① (他 =raN, =ti) 連ねる。連続させる。

çirukaa① (名) 着る皮の意。着物のこと。ciñcirukaa ともいう。

çirumuN① (名) 着る物。衣類。着物。ciñcihwada ともいう。

çiranTui① (名) çiru (鶴) と同じ。

çiruzi① (名) けづめ。鳥類の攻撃用の爪。

çiru=zuN① (他 =gaN, =zi) つなぐ。連結させる。

çisana① (名) ちしゃ。野菜の名。葉を食用とする。

çisanabaa① (名) çisana と同じ。また, çisana の葉。

çisi① (名) 喜瀬。《地》参照。

çisi① (名) [文] 岸。海岸。口語は ʔumibata。

çisici① (名) [文] 景色。口語は ciici. ʔjumuunu ~nu ʔumusiruja. よもの景色の面白や。

çisi=jun① (自 =raN, =ti) 秘結する。便秘する。

çisimutu① (名) 岸木。《地》参照。

çisiri① (名) きせる(煙管)。

çisirizoo① (名) ラオ(羅宇)。きせるに用いる竹の管。-zoo<soo(竿)。

çisjaba① (名) 喜舎場。《地》参照。

çisuku① (名) [新?] 規則。kata ともいう。

çita① (名) つた。かずら。

çita=jun① (他 =raN, =ti) [文] 伝える。ʔNkasimunugatai mumu çitai cicun. [昔物語 百伝え聞きゆん(手水之縁)] 昔物語をいくたびも伝え聞いている。

çitanasan① (形) きたない。不潔である。sitanasan と同じ。hagoosan ともいう。

çitawa=jun① (自 =raN, =ti) 伝わる。

çitee① (名) 伝え。言い伝え。伝説。ʔan ʔjuru ~nu ʔan. そらいう言い伝えがある。

çiteebanasi① (名) 伝え話。伝説。

çitee=jun① (他 =raN, =ti) 伝える。

çiti① (名) つて。手づる。

çitoo① (名) 祈禱。

çitooçaa① (名) 祈禱の代わりとなるもの。祈禱に代わりうる効能。家を新築した場合などに、立派な三味線で歌の上手な人に歌ってもらえば、その家は祈禱したほどの効能があるなど。

çitu① (名) みやげ。みやげもの。「つと」に対応する。

çituda=çun① (他 =taN, =çci) 乗り気になる。思い立つ。気が進む。

çitumi① (名) 勤め。勤務。

çitumi=jun① (他 =raN, =ti) ⊖勤める。勤務する。⊖努める。また、辛抱する。我慢する。çitumiti maçeooree. 辛抱して待ってろよ。

çiwa① (名) きわ。とき。際。tacitoorini ʔujubu ~. [文] 立ち倒れに及ぶ際の意。危急存亡の時。

çiwama=jun① (自 =raN, =ti) 決まる。定まる。決定する。taruga ʔicundici ~.

太郎が行くことに決まる。

ciwami=jun⓪ (他 =raN, =ti) 決める。定める。決定する。taaNkai ciwamiiga. だれに決めるか。

ciwasjan⓪ (形) きつい。きびしい。人の性格についていう。

ciweekutu⓪ (名) cuweekutu と同じ。

ciweemuN⓪ (名) cuweemuN と同じ。

çizaahazaa⓪ (名) 継ぎはぎ。継ぎ合わせてつくろうこと。～ sjun.

çizaasihazaasi⓪ (名) çizaahazaa と同じ。

çizaa=sjun⓪ (他 =saN, =ci) 継ぎ合わせる。つなぎ合わせる。

cizaku⓪ (名) 真鍮。

cizakuzii^hwaa⓪ (名) 真鍮のかんざし。平民の用いるもの。

cizamideekuni⓪ (名) 切り干し大根。

cizamikuubu⓪ (名) 刻み昆布。細かく切り刻んだ昆布。

cizamitabaku⓪ (名) 刻みたばこ。

çiza=nuN⓪ (他 =maN, =di) ①刻む。細かく切る。②彫刻で、刻んで物の形を作る。

cizi⓪ (名) 悪いこと。劣ること。比較して悪い場合にいう。Ŧuqtujakan ~. 弟よりも悪い。Ŧjanmeenu ~ natoon. 病気が悪化している。

çizi⓪ (名) 粒。複合語に Ŧubunçizi (御飯粒), kumiçizi (米粒), Ŧawaçizi (粟粒) など。

çizi⓪ (名) ①頭上。～ni kamijun. 頭上に戴く。奉戴する。②頂上。山・坂などのてっぺん。hwiranu ~. 坂の上。

çizi=cuN⓪ (自 =kaN, =ci) 続く。nagaŦaminu ~. 長雨が続く。

çiziguci⓪ (名) 継ぎ目。

cizi=jun⓪ (他 =raN, =ti) 人の行為を、さえぎる。止める。また、禁止する。qcunu Ŧaqcusi ~. 人の歩くのを止める。通行を止める。sigutu sjuŦi ~. 仕事をする

のをさえぎってとめる。また、仕事するのを禁止する。

çiziki⓪ (名) つぎ木(接木)。

cizimaga=jun⓪ (自 =raN, =ti) 縮みあがる。すっかり縮む。また、寒さ・恐怖などで、縮みあがる。

cizimi⓪ (名) 織物の名。縮み織り。

cizimi=jun⓪ (自 =raN, =ti) (縮ませて) しわをよせる。

cizinuhwee⓪ (名) [文] 禁札。Ŧunna maçisitani cizinuhwenu tacuŦi, kui sinubumadinu cizija nesami. [恩納松下に禁止の牌の立ちゆす 恋忍ぶまでの 禁やないさめ] 恩納番所の松の下に禁札が立っているが、恋をすることまで禁止することはあるまい。

çizinumun⓪ (名) 飯・粥など、米粒の形をしたもの。米粒の入っていない重湯に對する。病人の食事の場合などにいう。

cizi=nuN⓪ (自 =maN, =di) (縮んで) しわが寄る。単に縮む意では Ŧincaku najun. などという。

ciziN⓪ (名) 機嫌。Ŧicizinnu tucini Ŧjun. 機嫌のいい時に言う。

çiziN⓪ (名) つづみ(鼓)。

çiziNduuruu⓪ (名) 綱引き (çinahwici, その項参照)の時に、旗頭 (hatagasira, その項参照)の上につける燈籠。その形が鼓に似ているので名付けたもの。

ciziNkaa⓪ (副) 寒さ・恐怖などで、縮みあがったさま。～ sjoon. 縮みあがっている。

ciziri⓪ (名) ①契り。固い約束。②契り。宿世の縁。

çizisun⓪ (名) 先祖から受け継いだ、先祖と同じような運命。çizi<çizun. suu は運命。～ kamijun. 先祖から受け継いだ、先祖と同じような運命を受ける。

ciziŦuri⓪ (名) 神の託宣。

çiziŦuri⓪ (名) 継ぎ降りの意。苦勞して死

んだ者が先祖にあり、その先祖の祭りを怠った場合、子孫にも同様な苦勞が続くこと。

qiziwai® (名) 頭割り。人数割り。費用など人数に応じて割り当てること。qiburuwaiともいう。

qizoo® (名) 知行。領地。また、領地を支配し、年貢などを得ること。

qizui® (名) 千鳥。海浜に群れて鳴き飛ぶ小鳥。cizujaaともいう。文語は hama-ciduri。

cizujaa® (名) 千鳥。qizui と同じ。

cizujaa® (名) 縮れ毛の者。

cizuka® (名) 喜如何。《地》参照。

qi=zuN® (他 =gaN, =zi) ⊖ 継ぐ。(切れた糸などを) つなぐ。また、(割れた茶碗などを) 継ぎ合わせる。接合する。⊖ 継ぐ。相続する。gwan-su ~。先祖のあとを継ぎ、祭祀を営む。

qi=zuN® (他 =gaN, =zi) つぐ。器に注ぎ入れる。saki ~。酒をつぐ。

cizuu® (名) 縮れ毛。縮れた髪。また、縮れ毛の人。

cizuu® (名) [居住] 寄留。本籍地を離れて、他郷に住まうこと。

cizuuniN® (名) 寄留人。

coNeon® (副) ぼたぼた。ぼたりぼたり。水滴の落ちる音のさま。

coNdaraa® (名) [京太郎] かいらい師。人形使い。万歳行者。manzai, janzajaaともいう。首里郊外の特殊部落にいた賤民で、年の初めには家々の門に立ち、祝言を唱え、人形を舞わせ、また葬式の時は念仏鉦をたたき、念仏を唱えるなどして銭を得た者。

coo® (名) 疔。悪性の腫れものの名。

cooban® (名) [京判] 一升枧。

coocikutoo® (名) 夾竹桃。観賞用となるが、有毒である。迷信家は庭に植えるのを喜ばない。

coocin® (名) 提燈。

coocinmuci® (名) 提燈持ち。結婚の時に提燈を持つ役。新郎の方から新婦を迎えるため、かごかきと共に男の子が二人その役になって行く。新婦の方からも二人の子供が出るので、新婦を迎えて新郎の家に来る時には、大きな提燈が四つ揃って行列の先頭に立つこととなる。提燈を持つ手は取り換えないものとされているので、新婦の家が遠い時には、提燈持ちにも少し大きな者が当たる。

coodanſi® (名) [新] 京箏筥。明治以後本土から渡来した家具。

coodee® (名) 兄弟。兄弟姉妹。農村では ?utuzandaともいう。

coodeeguhwasan® (形) 兄弟の仲が悪い。

coodu® (副) ちょうど。折よく。端数なく。さながら。~ 'jutasjan. ちょうどよい。kunu hujaa ~ 'jan. この靴はぴったりだ。~ 'jamatun'eunu gutoon. まるで日本人(本土の人)のようだ。

coodumi® (名) 帳面に書きとめること。記帳。会計事務、集会の場合の人名などを記入することなど。

cooginaa® (名) おどけ者。

coogin® (名) ⊖ 狂言。芝居。演劇。能狂言ではなく芝居一般。中には ?uja?an-maacooGIN [おやあんま狂言]のような悲劇もある。切狂言は ſiicoogin という。⊖ こっけいなこと。~ 'jasa. こっけいなことだ。

coogwee® (名) しも肥え。

coohacimaci® (名) [朝帕] 衣冠束帯に相当する礼装。coozin と hacimaci の意。coo?isjooともいう。

coo?isjoo® (名) [朝衣裳] coohacimaci と同じ。

coomii® (名) 長命。長生き。tanmii の対。~na. 長命な。~ sjuN. 長生きする。

coomin® (名) 帳面。

coomuN① (名) 経文。お経。～ 'junuN.

読経する。

coonan① (名) 長男。cakusi ともいう。

coonuʔunjuhwee① (名) 朝賀。朝拜。正月元旦、国王が中国に向かって行なう遙拜式。君臣そろって七回行なう。ʔunjuhwee の項参照。

-co'on (助) すら。さえ。-ja (は) のあとに用いるようである。ʔicimusee ~ ʔuja ʔumujun. けどものですら親を思う。kaneru mumukwahuja ʔimijacoN 'N-dan. [かにやる百果報や 夢やちやうも見だぬ (孝行之巻)] こんな幸福は夢にさえ見ない。

cooroo① (名) 禅宗で一山の長老。また、住持。また、僧侶。沖縄の寺は多くが禅宗なので、住持は皆 cooroo といい、さらに、普通の僧侶をもいうようになった。敬って cooroomee というのが普通。

cooroomee① (名) 住持さま。お坊さま。

coosii① (名) 一食。一度分の食糧。～N neeran. 一食分もない。

coosjuN① (名) 長春花。ばら。

cootu① (名) 京都。

coozanu① ʔuhusjuu① (句) [長者之大主] 踊りの名。村芝居で最初に出る踊りで、福祿寿の三徳を兼備した人間最高の理想的人物を表わしたものの。また、その人物。

coozi① (名) 丁子。植物名。また、それから取る香料。

coozibukuru① (名) 丁子袋。丁子を入れる袋。着物の中などにはさんでおくと、いい香りがする。

cooziburu① (名) 丁子風炉。丁子を焚く香炉。

coozika① (名) ①経塚。経巻を筒に納め、土中に埋めて築いた塚。②地震の時の呪文の文句。首里の郊外にある経塚は金剛経が埋めてあり、地震の時にもそこだけは揺れないというので、地震の時には “～ ～。”

(「経塚経塚」)と唱える。

coozin① (名) [朝衣] 三司官以下の礼服。芭蕉布で作り、参内のとき着用する。黒色のものを kurucoo, 白色のものを sirucoo という。明治以後、白朝衣は葬礼にのみ用い、黒朝衣は結婚に際して、花嫁が頭からかぶる時にのみ用いるようになった。

coozoo① (名) 重畳。この上なく満足なこと。hacizuumadi ʔicicooree tookaci santin ~ ʔjasa. 八十まで生きていれば、米寿の祝いはしなくても十分満足だ。

coQcoNgwaa① (名) ささ鳴きするところのうぐいす。ささ鳴きの声から名付けたもの。kacinumiinu ~, ʔasani suna ʔjoo ~ ʔjagati ʔjacimeeni sasarin doo. (童謡) やぶの中のうぐいすよ、朝寝するなよ、うぐいすよ。あやうくぼっちゃんに刺されるぞ。

cu- (接頭) 一・ひとつ・同一の意を表わす。cui (ひとり), cukaki (ひとかけら), cukatana (一刀), cutusi (同じ年) など。

cubaci① (名) 一撃。一回の打撃。baci は撥。～nakai nuci cirasjun. 一撃で殺してしまふ。cirasjun は切らせる。

cucaai① (名) ①切断したもの(木の枝・砂糖きび・布など) 一切れ。30センチ内外のものを多くいう。②田畑の一小区画。

cucawan① (名) 一杯。飯・茶など、茶碗に一杯。

cuçibu① (名) 一坪。

cuçici① (名) 一月(ひとつき)。

cuçicigusi① (名) 一月おき。隔月。

cuçika① (名) 一つか。一束。

cuçikaN① (名) 一つかみ。

encinee① (名) 一家族。一家。

enciri① (名) ①田畑の一枚。田畑を数える単位。②一切れ。

cuda① (名) 許田。《地》参照。

cudaci① (名) 一かかえ。-daci < dacun (抱く)。

cuhaku① (名) 一箱。çikidakigwaa ~.

cuhari

マッチ一箱。

cuhari①(名) ちょっとの晴れ間。変わりやすい天候の際の晴れ間。

cuhudi①(名) 一筆。～ kaci kwiri. 一筆書いてくれ。

cuhusi①(名) ①音楽の一曲。②竹などの一ふし。

cuhwaa①(名) [一葉] 布を織る時の、経糸二本。

cuhwara①(名) ①腹一杯。満腹。～ kadan. 腹一杯食べた。②十分。～ nintan. 十分寝た。③飽き飽き。こりこり。hunatabee ～. 船旅はもう飽き飽きした。

cuhwani①(名) 一羽。鳥の一羽。

cuhwiru①(名) 一尋。

cuhwisja①(名) ひと足。一步。～ sacinajun. ひと足先になる。Qcunu ～ ?aqeiini duuja tahwisja ?aqcun. 人が一歩歩く間に自分は二歩歩く。

cuiiici①(名) 一息。～ ni numee. 一息に飲め。

cui①(名) ひとり。一人。

cuiçigaaruu①(名) ひとりずつ交替すること。ひとり交替。十人ずつ交替すれば zu-uninçigaaruu となる。

cuidaci①(名) ひとり立ち。独立。

cuiçurasi①(名) ひとり暮らし。独身生活。duucuigurasi ともう。

cuijuizi①(副) 互いに譲り合うさま。

cuiinaa①(名) ひとりずつ。ひとりひとり。

cuiinaakaaruu①(名) ひとりずつ交替すること。cuiçigaruu と同じ。

cuiŋwa①(名) ひとり子。～ nu hwirugai. ひとり子から子孫がひろがって栄えること。

cuisii'zii①(副) 互いに助け合うさま。sikinoo ～ qsidu kurasjuru. 世の中は互いに助け合って暮らすのだ。

cui'tareedaree①(副) 互いに補い助け合うさま。

cui'YuseeYusee①(副) 互いに軽蔑し合うさま。

cui'YuusiYuusi①(副) 互いに押し付け合うさま。互いに(相手ひとりに)負わせようとするさま。

cuiwikigaŋwa①(名) ひとりむすこ。

cuiwinaguŋwa①(名) ひとり娘。

cuiZIN①(名) [古] [一人衣] 貴族の長男が七歳になった年の5月5日に行なり、芭蕉布の着物を一日で作る行事。芭蕉の繊維をつなぎ、つむぎ、経糸・緯糸を作るの一日でするので、容易なことではなく、貴族にして初めてできる行事であった。親類の者が大勢集まり、ごちそうを作って行なり。一反の布で一人前の着物を作る、すなわちおとなになることを祝う行事で、織り始めのところまでするのが普通であった。

cujaa①(名) 一軒。②同じ家。同じ一軒の家。③一家。一軒に住む者全部。

cujaaniŋzu①(名) 一家族。また、家族中。一家中。

cujumi①(名) 織機の箆(おさ)の粗密を表わす単位。一よみ。'jumi, huduci の項参照。

cujuru①(名) 一晚。一夜。また、一晚中。

cukaki①(名) 一かけら。食べものなどの、一切れ。

cukasabi①(名) 一重ね。

cukata①(名) ①一方。片一方。片端。～ kara katazikijun. 片一方からかたづけられる。～ naadii keerasjun. 片っぱしからひっくりかえす。②専心。専念。一事に専念すること。～ nati hataracun. 一事に専念して働く。

cukataa①(名) 一事にこる者。こり性。

cukatami①(名) 一荷。ひとかつぎの荷。-katami<katamijun.

cukatana①(名) ひと太刀。一刀。～ ni ci-

rikuruci turasa. 一刀で切り殺してやるぞ。

cukeeNⓂ (名) 一回。-keeN は回数を表わす接尾辞。

cukeetunaiⓂ (名) 隣近所。keetunai ともいう。

cukuciⓂ (名) ①一口。一度に口に入れること。また、その分量。②一口。一口の持ち分。～ ʔijun. (無尽などに) 一口はいる。

çukuibanaⓂ (名) 造花。

çukuibanasiⓂ (名) 作り話。

çukuigutuⓂ (名) 作りごと。無いことをあのように見せかけること。

çukuigwiiⓂ (名) 作り声。作った声。

çukuihwirumi=junⓂ (他 =raN, =ti) 作ってひろげる。(家などを)増築する。

çukuijaNneeⓂ (名) 仮病。cibjoo ともいう。

çukuijaNziⓂ (名) 作りそこない。できそこない。

çukuijaN=zu⁷NⓂ (他 =daN, =ti) 作りそこなる。

çukuikataⓂ (名) 作り方。製造法。

çukuikaza⁷iⓂ (名) 装飾。飾り付け。

çukuikéeⓂ (名) 作りかえ。改造。

çukuimuniiⓂ (名) çukuimunuʔii と同じ。

çukuimunuʔiiⓂ (名) 作りごと。無いことをあのように言うこと。

çukuimuNⓂ (名) ①作物。農作物。～nu dikiraN. 作物ができない。②加工品。

çukuimuʒu⁷kuiⓂ (名) 農作物。季節季節の作物。

çukuiwaakiiⓂ (名) 作物の折半。分作り。一方が土地・資金・種子・苗などを出し、一方が耕作して利益を折半すること。

çukuiwareeⓂ (名) 作り笑い。

çukujaaⓂ (名) ①作者。製作者。②農夫。農民。ʔNmuçukujaa (芋作りの意)ともいう。③おしゃれ。

çuku=junⓂ (他 =raN, =ti) ①作る。製作する。製造する。こしらえる。ʔjaa ~. 家を建てる。②(農作物を)作る。ʔNmu ~. さつまいもを作る。また、農業をする。百姓をする。③化粧する。めかす。(顔を)作る。

çukumuiⓂ (名) 銭百文。2厘のこと。hjaaku ともいう。ziN の項参照。

çukuniⓂ (名) ①一団。②國中。

çukurii=junⓂ (他 =raN, =ti) çukurijun と同じ。

çukuriikuNtiiⓂ (名) つくろい整えること。ʔwazikana munsaani ~ qsi miikwaasjun. わずかな物でつくろい整えて間に合わせる。～ sjaanteemaN sudacee ʔwakajun. どんなにつくろっても育ちはわかる。

çukuri=junⓂ (他 =raN, =ti) ①つくろう。補修する。修繕する。②小細工をする。ごまかす。とりつくろう。③つくろい整える。野菜の悪い葉を除くとか、果物のへたを取るなど。また、化粧する。

cukusaiⓂ (名) ①一揃い。一式。お供えもの・道具などの一式。～nu miiçi. 一揃いのものが三つ。三組。②一緒。～ najun. 一緒になる。

cukutuⓂ (名) 一事。一事件。

cukutubaⓂ (名) ①一言。②片言。

cukwiiⓂ (名) 一声。

çumaⓂ (名) [妻][妻]に対応する。王の妾。王の妻妾(hwii, huziN, çuma)の中で最も身分が低く、身分に関係なく王に拾われた妾をいう。平民の場合はその家族は士族になる。出身地の名をかぶせて、何何ʔajaa と呼ばれた。ʔajaaʔansirare ともいう。

cumaaiⓂ (名) ①一回り。帯などの、一巻き。②一かかえ。大木などの、両手をひろげて抱くほどの大きさ。

cumaarasiⓂ (名) 年が十二歳違うこと。

cumakai

年齢が十二支で一回り違うこと。～nu šiiga. 十二歳の年長。

cumakai① (名) 飯碗の一杯。上流では cawana という。makai の項参照。

cumazin① (名) 一束。一積み。積み上げた一つ。稲について多くいう。

cumi① (名) 一目。ちょっと見ること。miguşikuni nubuti tisazi mucagiriba, haihuninu nareja ~du mijuru. [三重城に登って 手拭持上げれば 走舟のなれや 一目ど見ゆる] 三重城に登って手ぬぐいを上げて合図すると、速い舟のことなので一目しか見えない。

cumici① (名) 一つの道。同じ道。同じ方針で進むこと。協力してすること。'inumici は「前に来たのと同じ道・だれかの進んだのと同じ方針」などの意。miitundaa ~. 夫婦は協力すべきもの。

cumigui① (名) 一めぐり。一巡。一周。

cumora① (名) ①一村。②全村。村中。

cumutu① (名) 一もと。一本。生えている植物を数えるのにいう。

cunaagi① (名) ひと長さ。一定の長さ。ある距離の全体。～ni kii ?wiijun. 一定の距離にわたって木を植える。

cnNnaa① (名) 喜友名。《地》参照。

cuNzii① (名) [象棋] 中国式の将棋。日本式のものとは異なる。

cuNzuN① (名) 仲順。《地》参照。

cuQpuziQpu① (名) 時時。時折。間隔をおいて折折。çiburunu ~ 'janun. 頭が(ある間隔をおいて)時時痛む。

cura- (接頭) 美しい・盛大な・立派ななどの意を表わす。curazin (美しい着物), curawinagu (美女), cura?udabi (盛大な葬式) など。

curaa① (名) 美しいもの。また、美人。nakaguşikucuraa といえは、ミス中城の意。

curaaku① (副) ①きれいに。清潔に。～

susuree. きれいに拭け。②きれいに。残らず。～ ?ucikadi neen. きれいにたいらげてしまった。③見事に。立派に。

curagasa① (名) 天然痘。疱瘡。忌み恐れて、逆に美しい(cura-)かさ(-gasa)といったもの。

curakaagi① (名) 美貌。

curakaagii① (名) 美人。美女。

curaNcaagi① (名) 美しいお顔(の方)。

curakaagii (美人) の敬語。

curasan① (形) 美しい。きれいである。また、清潔である。curaku nasjun. イ。美しくする。きれいにする。ロ。洗骨する。

curasugai① (名) 美しく装うこと。盛装。～ sjun.

cura?udabi① (名) ①盛大な御葬式。会葬者が大勢の盛大な葬式。②平民の葬式を盛大にするために頼まれて参列する士族の婦人。婦人は親戚縁者の葬式にのみ参列する習わしであるが、ときに何の縁もない平民の家から頼まれて、その家の名誉のために会葬参列することがある。参列の最後に連なり、白朝衣(sirucoo)をかぶって顔は見えないが、一見して士族の婦人であることがわかる。その数の多少が名誉の大小にもなった。

cura?uncoobi① (名) ①美しいおぐし(?uncoobi)。②女の髪のかき方の名。?usiru (えりあし) の項参照。

cura?utuui① (名) ?ugwan (祈願) の筋が立派に通じ、神仏に聞き入れられること。～ sjoosa. お願いの筋が立派に通ったよ。

cura?uuhuu① (名) 立派なことは使い。よそゆきの敬語。

cura?wiisuga'i① (名) 美しいお装い。御盛装。

curawinagu① (名) きれいな女。美女。別嬪。

curazin① (名) 美しい着物。晴れ着。

cusakazici① (名) さかすぎの一杯。

- cusina**Ⓞ (名) 一品。
cutaaguⓄ (名) taagu (水桶) の一杯。
cutabaiⓄ (名) 一束。一たばね。
cutaiⓄ (名) 一しずく。一滴。
cutarukaⓄ (名) cutaruki と同じ。
cutarukiⓄ (名) 一族。一門。まれな語。
 cutaruka ともいう。
cutiⓄ (名) ⊖ひと手。一隊。一グループ。
 kasiinu ~ ʔiqcooN. 加勢が一隊はいつている。⊖経糸八本。すなわち **cuhwaa** (その項参照)を四つ。
cutiNdukuruⓄ (名) 一つのとりえ。一つの長所。tuNnukusuunin cutiNdukuroo ʔaŋ. 鶉のふんにも一つのとりえはある。
cutuⓄ (名) 一年。ひととせ。
cutugusiⓄ (名) 一年おき。隔年。
cutukumaⓄ (名) 一ところ。一箇所。cutukuru を多く用いる。
cutukuruⓄ (名) ⊖一ところ。一箇所。~nakai nagee 'uN. 一ところに長くいる。⊖おひとり。人数を数える時の敬語。ʔuʂiiŋnu ~ ʔmenʂeen. お客がおひとりいらっしゃる。
cutusiⓄ (名) 同じ歳。同年齢。'inutusi ともいう。
cutusiNeuⓄ (名) 同じ歳の人。同年齢の人。
cutu'tatuⓄ (名) 一, 二年。
cutuuiⓄ (名) 一通り。
cuuⓄ (名) ⊖きょう。今日。~nu kuniija maakaiga. きょうこんなに遅くどこへ行くか。~nu 'jukaru hwii ~nu masaru hwii. きょうのよき日まさる日。女が神に ʔugwaN (願) をする時に言うことば。⊖こんには(目下へのあいさつ)。目上へは ~'uganabira. という。
cuubaaⓄ (名) 強い者。力の強い者。また、体の丈夫な者。'joobaa の対。
cuubjooⓄ (名) ⊖急病。⊖重病。
cuucaNⓄ (副) たちまち。急に。俄然。
 kusui nudakutu ~ masi natoon. 薬を飲んだらたちまちよくなった。
cuucuuⓄ (名) ちんちん。陰茎の小児語。
cuugooⓄ (名) ⊖協議。⊖しめし合わせる。こと。ʔaqtaja ~ sjooteesa. 彼らはしめし合わせていたのだ。
cuuhuuⓄ (名) 中風。
cuuiⓄ (名) 発育。成育。また、体力の回復。<cuujuN. ~nu niisaN. 発育が遅い。回復が遅い。
cuuibeesaNⓄ (形) 発育が早い。また、体の回復が早い。
cuuiniisaNⓄ (形) 発育が遅い。また、体の回復が遅い。
cuu=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖強くなる。丈夫になる。健康になる。病人・産婦などの体が、回復する。腕力などが強くなることには **cuuku najuN**, **cuumajuN** などという。⊖子供が、発育する。育つ。
cuujuruⓄ (名) 今夜。
cuukaaⓄ (名) 急須(きゅうす)。
cuukuⓄ (副) 強く。はげしく。うんと。~ ʔucun. 強く打つ。
cuuknuⓄ (名) 共有。一つの物(子供なら玩具など)をふたり以上で共有すること。那覇では **kaataa** という。~ **sjun**. 共有する。~ **Qsi ʔaʂibee**. なかまにして遊べよ。
cuuma=juNⓄ (自 =raN, =ti) 強まる。強くなる。
cuumi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 強める。強くする。çiru ~. 琴・三味線の弦を締めて音を高くする。
cuumiŋhu'uⓄ (名) [古] [朱明府] 那覇の久米村(kuniŋda)の古称。
cuumuNⓄ (名) 中門。中庭を仕切った垣(kaaraʔisigaci が多い)に設けられた門。
cuumuNⓄ (名) [新?] 注文。元来は ʔaçiree を多く用いる。

cuunici

cuunici① (名) (彼岸の) 中日。'Ncabi (彼岸祭り) を行なう日。

cuunuhwi'i① (名) きょうの日。cuu の強意。cuuqsicuu ともいう。~ni Yuqtaati Yaminu huti. きょうに限って雨が降って。

cuuN① (自・不規則) 来る。話し手が話し相手の方へ向かって行く場合にもいう。?Nmanu ~. 馬が来る。?amakara cuuru curazurigwaa. あっちから来るきれいなお女郎さん。'wannin Yiqtaankai cuusa. わたしも君の家へ行くよ。caabira. ごめん下さい。訪問した時のあいさつ。さらに、丁寧には、男は caabira sai. 女は caabira tai. のようにいう。貴人への伺候の場合や、僕婢が言う場合には 'jusirijabira. という。caabitan. (来ました) は室内に入ってからあいさつ。cami. (来たか。cii. ともいう) は目下の来訪を受けた時のあいさつ。cooN. 来ている。kuuwa. 来い(kwaa. ともいう)。

cuu'Qsicuu① (名) きょうというきょう。大事なきょう。きょうに限って。cuu の強意。~ Yaminu hujun. きょうに限って雨が降る。

cuusaN① (形) ⊖強い。力・体などが強い。'joosaN (弱い) の対。cuuku najun. (力が) 強くなる。?uncinu ~. 運が強い。cuusaru huunaa sjun. 強いふりをする。強がる。⊖病気が、重い。⊖ことばなどが激しい。

cuusici① (名) [古] [体式] 食事。'jašimi ともいう。~ ?usjagijun. 食事をさしあげる。

cuusiçi① (名) 忠節。

cuusiN① (名) [文] ⊖注進。⊖結婚などの仲介・両家の連絡・催促などを行なうこと。また、その者。

cuusiN① (名) 忠臣。

cuuzara① (名) 中皿。中くらいの大きさの皿。suurii ともいう。

cuuzi① (名) ちょうず(手水)。お手洗い。便所を上品にいう語。cuuzee maaga. お手洗いはどちら。

cuuzi① (名) 給仕。また、給仕する者。?ucuzi sjun. お給仕する。

çuuzi① (名) 通じ。便通。

cuuzibaaci① (名) ちょうず鉢。

cuuzidaree① (名) 洗面用のたらい。ちょうずだらい。小さな桶で脚がある。

cuuzinakuu① (名) 洗い粉。

cuuzuuku① (副) たいそう強く。きつく。~ musubun. たいそう強く結ぶ。

cuwakasi① (名) [一濟・一沸] 酒一升。

cuwakasjaa① (名) 一升徳利。一升瓶。

cuweekutu① (名) 大変な事。えらい事。大ごと。一大事。

cuweemuN① (名) 大変なもの。えらいもの。

cuzaa① (名) 一座。一座の人々。

cuuzii① (名) 一字。

daa① (感) ⊖物を尋ねる時用いる。おい。ねえ。～ *hudee*. 筆はどこか、筆はどうした。⊕物を請求する意を表わす。おい。ねえ。～ *zin*. 金をくれ。～ *misiree*. どちら、見せろ。手を出して *daa* というだけでも事がたりる。⊖失敗した時にもいう。しまった。

daagu① (名) だんご。米の粉をこね、小さく丸めて蒸したもの。

daamaa① (名) *daami* の者。

daami① (名) 黒目が白いものにおおわれた、視力のない目。龍眼の実に似ているので *dinganmii* ともいう。

daa'naa① (感) しまった。女が失敗した時に発する語。～ *caa sjuga*. しまった、どうしようか。

dabi① (名) [茶毘] 葬式。沖縄ではもと火葬はなかったはずで、茶毘(だび)をそのまま葬式の意にいったものと思われる。 *cura-Yudabi*. その項参照。

daci① (名) らち。～ *N Yakan*. らちがあかない。

-**daci** (接尾) 世帯を立てる意の接尾辞。 *'winagudaci* (女世帯), *tankaadaci* (親がいなくて、若い夫婦が主となっている世帯。子供がいてもいう。多く次男・三男の分家したものをいう) など。

dacibin① (名) 水筒のようなもの。乗馬の時に酒を入れ、着物の下から脇腹に掛けるもの。陶製で、胴に密着するように扁平にできており、水筒のようにひもで肩から下げる。

daciku=nuN① (他 =*man*, =*di*) 抱きこむ。

da=cuN① (他 =*kan*, =*ci*) ⊖抱く。腕の中にかかえこむ。 *qkwa* ~. 子供を抱く。⊕奉持する。 *Yihwee* ~. 位牌を奉持する。

⊖隠し持つ。 *Yuhuzin dacoon*. 大金を隠して持っている。

daimui① (副) 体がだるく、元気がないさま。女が妊娠した時の気分など。

daimun① (名) 手足の力がなく、何の仕事もできない者。役立たず。また、だるそうにしている者。元気の無い者。

dajaa① (名) *daimun* と同じ。

dajabiru① (連詞) です。であります。でございます。他の活用形はあまり用いない。平民が用いる語。士族の *deebiru* というのと同じ。 *cuuja 'iitinci* ~. きょうはいいい天気でございます。

da=juN① (自 =*ran*, =*ti*) だれる。疲れて力がなくなる。

daki① (名) 竹。種類としては、 *maataku* (だいさんちく。りょくちく。竿・建築用材などにする), *kusan* (ほてい竹), *'nzataki* (蓬来竹。ざるなどを作る), *'janbarudaki* (琉球竹。篠竹。 *cinibu*, 屋根などに用いる), *deemjoo* (寒山竹), *karataki* (またけ。公儀用として王室で用い、また、鹿児島に移出する) などがあげられる。

dakibooci① (名) 竹箒。

dakibuci① (名) 竹ぶき (の屋根)。 *'janbarudaki* の小枝でふいた屋根。 *kajabuci* (茅ぶき) よりもずっと上等で、耐久力が強い。

dakidun① (名) 竹富島。八重山群島の島の名。また、その部落の名。武富。《地》参照。

dakigaci① (名) 竹垣。竹のいけがきの場合もある。

dakigakui① (名) 竹の囲い。屋敷などの周囲を竹で囲った垣根。

dakijuka

dakijuka④ (名) 竹で作ったゆか。竹床。
dakikuzi④ (名) 竹の釘。
dakinukaa④ (名) 竹の皮。
dakinukaasaba④ (名) 竹の皮で張ったぞり。貴族用・士族女子用とされた。
dakinuqkwa④ (名) 竹の子。
dakinuzii④ (名) 竹の幹の中空の部分。ziiは髄。
dakiŋciibuu④ (名) 竹のつぼ。竹筒。竹を切って器としたもの。
dakiŋbi④ (名) (桶などの) 竹製のたが。
dakiziihwa④ (名) 竹のかんざし。喪中に女が用いる。tumiともいう。
dakucaku④ (名) rakucakuと同じ。
dakudaku④ (副) 心臓が鼓動するさま。どきどき。'Nni～。胸がどきどき。
dakumi=cuN④ (自 =kaN, =ci) どきんとする。動悸をうつ。「だくめく」に対応する。
dakuzaku④ (名) 大工廻。《地》参照。
dama=juN④ (自 =raN, =ti) 黙る。沈黙する。damaiciqcoon。黙りきっている。
damasiŋuci④ (名) だまし討ち。
dama=sjuN④ (他 =saN, =ci) だます。あざむく。
dami=juN④ (他 =raN, =ti) (「彩む(だむ)」に対応する) ⊖筆で上から、なぞる。⊖陶器に、うわぐすりを施す。漆器の上塗りをする。⊖俳優などが、顔にくまどりをする。
dana④ (名) 田名。《地》参照。
dani④ (副) [文] まことに。本当に。ŋurikuriN ŋicin ~ ŋiraN ŋariba, ŋucini 'wakaŋazi kakurijai ŋimeN. 'ugadi 'waga kutuba makututumurariri. [おれこれも言ちも だにすらぬあれば 内に若按司 隠れやりいまいん 拜でわが言葉 まことと思られれ (忠臣身替)] いろいろ言っても本当にしないのであれば、中に若君がいらっしゃるから、お目にかかってわ

たしのことばを本当と思われよ。
daniju④ (副) [文] まことに。げに。また、しっかりと。もちろん。miminu niŋu ŋasati ~ cicitumiri. [耳の根よあさて だによ聞きとめれ (執心鑑入)] 耳の穴をほじってしっかりと聞け。nasiŋujaja ~ hwiciharoozimadin ŋunu sudati miŋeru...[なし親やだによ 引はらうち迄もおの素立めしやいる…(孝行之巻)] 生みの親はもちろんのこと、親戚までもその養育をして下さるといふ…。
danuN④ **naraN**④ (句) 段違いである。比べものにならない。想像もできない。~ qcu. 段違いの人。~ 'waza. 言語に絶するわざ。
dan④ (名) ⊖段。壇。階段。⊖段。等級。
dancuu④ (名) ⊖金魚の一種。らんちゆう (蘭鱒)。体は短くて太い。⊖小びと。侏儒。一寸法師。
dandan④ (名) 大層。仰山 ~nu ŋutumuci. 大層なおもてなし。~nu kutu 'jasa 'jaa. ご大層なことだねえ。
dangasa④ (名) [蘭傘] 洋傘。こうもりがさ。rangasa, kaabujaagasaともいう。
dangawai④ (名) 段違い。けた違い。
dangoo④ (名) [文] 談合。話し合い。相談。~ju sjabira. [談合よしやべら (忠臣身替)] 相談をしましょう。
dankaN④ (名) 欄干。てすり。rankanともいう。
danna④ (名) だんな。主人。廃藩後の巡査・役人などは danna と呼ばれた。ŋutumuzurasadu dannaŋurasa. お供が立派だとだんなも立派に見える。
danpaçi④ (名) [新?] 断髪。誤って ranpaçiともいった。
danpu④ (名) ランプ。ranpuともいう。
danzama=juN④ (自 =raN, =ti) 黙りこむ。黙る。ŋiqpooni hwicinati danzamati 'uŋiŋ çiitee. [一方に引きなて だんぎや

- まで居すんついてや (大川敵討) 一方に引きさがっておし黙っているのでは。
- danZamuNza**① (副) ぶつぶつ。ぐずぐず。不平不満をもらすさま。
- danzu**① (副) なるほど。いかにも。げにこそ。～ *tujumariru nagunu bandukuru*, *maçitu gazimarunu muteisakei*. [だんじゆとよまれる 名護の番所 松とがずまるの もたえさかえ] なるほど名護の番所は評判されるだけのことはある。松とガジマルが美しく茂っている。～ *karijusija ʔiradi sasimişeru, ʔuninu çinâ turiba kazija matumu*. [だんじゆかれよしや いらでさしみせる お船の綱取れば 風やまとも] いかにもめでたい吉日を選んでなさることだ。お船の綱を取れば、風は順風である。 *ʔisjatuu ʔisjatuu ziramiigaa, ʔjuubinu nukuee nuu kwatagaa. ʔakamaamiidu kwataru. ~ga kusu hwiçcaru*. かまきり、かまきり、いぼじろう、ゆうべの御飯の残りは何を食べたか。あずきを食べた。なるほどそれで、下痢をしたのだ。(童謡)
- daQcoo**① (名) らっきょう。
- daraa**① (名) だらしのない者。だらけ者。
- daraakwar¹aa**① (副) だらだら。のらくら。だらしないさま。
- daradara**① (副) だらだら。液体が流れて垂れるさま。 *ʔasinu ~ nagarijun*. 汗がだらだら流れる。
- dari=juN**① (自 =raN, =ti) *dajun* と同じ。
- darumi**① (名) 関節。～ *nu ʔjootoon*. 関節が弱っている。
- darusan**① (形) だるい。だるい箇所によって、 *kubidarusan* (首がだるい), *tiidarusan* (手がだるい), *hwisjadarusan* (足がだるい) などと言い分けることが多い。
- daruu**① (名) だらしのない者。だらけ者。また、いくじなし。 *daraa* ともいう。
- daruukwaruu**① (副) だらだら。だらしのないさま。なまけるさま。～ *Qsi hazirinu neeraN*. だらだらして、きびきびしたところがない。
- dasi**① (名) だし。煮出し。味を付けるために煮出した汁。
- dasica**① (名) 灌木の名。木質が緻密で堅く、杖にする。
- dasicaaguu¹sjan**① (名) *dasica* の木で作った杖。 *guusjan* は杖。
- datemaa**① (名) 大きなもの。 *kuuteema* (小さなもの) の対。
- dateen**① (名・副) 大きく。大いに。うんと。 *kuuteen* (小さく) の対。～ *ʔabiree*. 大きくさけべ。 *ʔwarabinu ~ najun*. 子供が大きくなる。～ *na muN*. 大きなもの。～ *tideejun*. うんとごちそうする。
- dazaku**① (名) 惰弱。怠惰。～ *na muN*. 怠け者。
- dec**① (名) 題。詩歌文章などの題目。
- dee**① (名) 台。物を載せて置く台。
- dee**① ⊖ (名) 代。世代。～ *hwijun*. 代を経る。⊖(接尾) *ʔicidee* (一代), *nidee* (二代) など。
- dee**① (名) 代。代価。
- deebiru**① (連詞・不規則) です。でございます。他の活用形はあまり用いない。 *ʔiitiñci ~*. よい天気でございます。
- deeciree**① (名) 大祭物。大変忌むべきこと。祝賀の席で不幸の話をする事など。 *ciree* はしてはならぬこと。
- deedakaa**① (名) 高価な物。代金の高い物。 *deedakamuN* ともいう。
- deedakamuN**① (名) 代価の高い物。
- deedee**① (名) 橙。 *ʔiñkunibuu* ともいう。
- deedee**① (名) 代代。～ *sugurimuNnu ʔNzitoon*. 代代すぐれた者が出ている。
- deedeekunibu**① (名) 橙。 *deedee* と同じ。
- dechwirimajaa**① (名) 代を経た猫。年数

deehwirimun

を経た化け猫のような猫。 <dee hwijun (代を経る)。

deehwirimun① (名) 代を経た者。

deeʔici① (名) 第一。何よりも大切なこと。最初にすべき事。

deejasii① (名) 代価の安い物。安物。

deeka① (名) 代価。代金。

deekan① (名) 大寒。二十四節の一つ。

deeku① (名) 大工の棟梁。普通の大工には seeku という。首里には deeku は指折り数えるほどしかおらず、地方の大工は皆 seeku といった。

deeku① (名) 植物名。だんちく(暖竹)。よしたけ。海岸などに生える。いけがきなどにする。

deekugaci① (名) だんちくの垣根。

deekuni① (名) 大根。ʔuhuni ともいう。

deekuniganSaa① (名) 大根の根と葉との間の堅くて食べられない部分。転じて、がんこ者。単に gansaa ともいう。

deekuniširii① (名) 大根をおろすおろしがね。seegana ともいう。

deekuniširiširii① (名) 大根おろし。大根をすりおろしたもの。

deemjoo① (名) [大名] ⊖ 貴族。samuree (士族)、hjakusjoo (平民) に対する。昔地方で一城の主であった按司 (ʔazi) たちが、中央集権によって首里に集められ、ʔudun [御殿]、tunci [殿内] の主となって、deemjoo と呼ばれるようになった。⊖ 竹の一種。寒山竹。

deeni① (名) 代価。値段。deenee caaga。値段はいくらか。hananukookara kakiti ʔumisjooree, deenee ʔiranSaa。[花の香から かけて売みしよりれ だいなや言らんさ(茶売節)] 花の香(茶の名)をはかりにかけて売って下さい。値段はかまいません。ʔiran (言わぬ) は那覇語。

deenna① (連体) 大変な。大した。~ kan-gee。大変な考え。~ kutu ʔjaqsaa。大

したことだよ。

deeri① (名) 代理。他人に代わって事を行なう者。名代。

deefu① (名) 大雨。

deeci① (名) 大変。大ごと。~na。大変な。~ najun doo。大ごとになるぞ。

deezu① (名) 台所。simu ともいう。

-deʔmunu (助) [文] …であるから。…なので。dijoori の項の例文参照。

-deʔnši (助) [文] さえ。すら。だに。ʔumukazinu~ tatana ʔuci kwiriba, ʔwaširijuru hwiman ʔajura ʔjašiga。[面影のだんす 立たな置き呉れば 忘れゆる暇も あゆらやすが] 面影さえ浮かばないでくれたら、忘れる暇もあろうのに。ʔadanigaci~ sudi kakiti hwicui, danzu mutubireja ti tuti hwicusa。[あだに垣だんす 袖かけて引ちゆい だんじゆ元びらいや 手取て引ちゆさ] 縁のないあだにの垣さえ袖をひかけて引く。それでいかにも昔なじみの人は手を取って引くのだ。

dii① (感) いざ。さあ。目下に対し誘いかける語。目上には ~ sai などという。~ ʔika。さあ行こう。~ sai ʔicabira。さあ行きましょ。

di① (名) rii (利・利子) と同じ。

diidii① (感) ⊖ さあさあ。人を強く誘う語。⊖ 「じょう談はよしてくれ」と人のじょう談に軽く抗議するときの語。目上には dii sai の dii を強く引いていう。

diigu① (名) 梯栝。旧暦4月ごろ、蝶形の、大きい、深紅の花を開く。沖縄の国花とされた。木材ではいろいろの器具を作る。

diisinbaaja① (名) [新] 電信柱。

diizin① (名) riizin (霊前、位牌) と同じ。

dijoocarū① munuja① (句) [文] [出様来る者や] 出て来た者は。まかりいでたる者は。組踊りの用語。

dijoori① (自) [文] いでよ。出会え。敵を

呼び出す語。'jaa 'eezi, miminu niju
ʔakiti miʂiku ciciugami, tamamuranu
ʔazinu mijuʒizinu ʔumigwa, ʔugaga
'jumukubija ʔunuzumiju demunu, ʔi-
suzi kubi susuti ~ ~. [やあ八重瀬 耳
の根よあけて みすく聞拝め 玉村の按司
の 御代継の思子 おががよも首やお望
みよだいのもの 急ぎ首そそて でやうれで
やうれ (忠臣身替)] やあ八重瀬, 耳をほ
じってよくよく聞け。玉村の按司の代継ぎ
の若様が, おまえの首を御所望だから, 急
いで首を洗って出会え出会え。

dijukuⓄ (名) rijuku (利欲) と同じ。

dikadikaⓄ (感) [文] さあさあ。いざい
ざ。~ mijarabi ʔaʂibikai. [でかでかみ
やらべ 遊びかえ] さあさあ娘たち遊びに
行こう。

dikajoⓄ (感) [文] いざ。さあ。口語は
diqkaa. ~ ʔusiʒiriti nagamijai ʔaʂi-
ba. [でかよおし連れて 眺めやり遊ば]
さあ連れだって眺めて遊ぼう。

dikasiⓄ (名) うまく行くこと。成功。利益
を得ること, 幸福を得ることなど。~ 'jan.
成功だ。

dika=sjunⓄ (自 =saN, =ci) でかす。うま
く行く。成功する。利益・幸福などを得
る。

dikiʔaga=ju'nⓄ (自 =raN, =ti) でき上
がる。

dikijaaⓄ (名) できぶつ。秀才。

diki=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖ (学問など
が) よくできる。⊖ (農作物が) よくでき
る。⊖ うまく行く。よくできる。成功す
る。また, 上等に仕上がる。ʔaʂibinu
dikitoon. 遊び (演芸) がうまく行ってい
る。dikita dikita. [文] でかしたでかした。
あっぱれあっぱれ。

dikiʒaataaⓄ (名) よくできた砂糖。上等
に仕上がった砂糖。

dinⓄ (名) 蕨。はす。rin ともいう。~nu

hwaa. はすの葉。

dincaaⓄ (名) rincaa と同じ。

dincciⓄ (名) rincii と同じ。

dindeeⓄ (名) rindee と同じ。

dindooⓄ (名) 伝道。《地》参照。

dingakuⓄ (名) [田築] 料理の名。taa-
ʔNmu (田芋。里芋のようなもの) を煮て,
皮をむき, 砂糖やごまをまぶしたもの。首
里・那覇では正月用の料理。

dinganⓄ (名) ringan と同じ。

dinganmiiⓄ (名) 黒目が白いものにおお
われた, 視力のない目。龍眼の実に似てい
るのでいう。daami ともいう。

dingunⓄ (名) 伝言。ことづて。ʔijai と
もいう。

dinkwaaⓄ (名) rinkwaa と同じ。

diqkaaⓄ (感) さあ。では。いざ。誘いか
ける時発する語。'uuhuu, 'oohoo, 'iihii
などともいう。それらの項参照。~ sai
ʔicabira. さあまいりましょう。~ ʔika.
さあ行こう。

diqpaⓄ (名) riqpa (立派) と同じ。

diqpukuⓄ (名) 立腹。腹を立てること。
腹が立つこと。riqpuku ともいう。~
sjun. 立腹する。kusamicun ともいう。

diqsinⓄ (名) ⊖立身。⊖嫁に行くこと。
riqsin ともいう。~ sjun. とつぐ。

donⓄ (副) どん。太鼓の音など。

dondonⓄ (副) どんどん。太鼓の音のさ
ま。

donmika=sjunⓄ (自 =saN, =ci) どんとい
う音を立てる。

dooⓄ (感) どう。馬を制止する声。

dooⓄ (名) ろろそく。roo ともいう。

dooⓄ (助) ぞ。だぞ。nusudu ~. どろ
ほうだぞ。ʔjaqciini nuraarijun ~. に
いさんに叱られるぞ。

doocuⓄ (名) [道中] 道中。また, 単に徒
歩の旅行の意。

doodinⓄ (副) どうぞ。なにとぞ。どうか。

doodoo

～ ʔaca qci kwiri. どうぞあした来てくれ。

doodooⓐ (感) 結婚式の夜、花嫁が花婿の家に来た時、花婿の友だちが花婿を擁して、花嫁の部屋へ押しかける。その時の掛け声。三三九度の式に臨むのに際して、花婿を馬に乗せたつむりの声である。

doodooⓑ (感) どうどう。馬を制止する声。

dooguⓐ (名) ⊖道具。⊖とくに、茶器。cawandoogu は食器一般。

dooguhjooguⓐ (名) あらゆる道具。道具一切。

doogumaʼsaiⓐ (名) 道具がよいこと。ʂekoo ~。大工仕事は腕よりも道具。

dookusuⓐ (名) ほくそ。ろうそくの燃えがら。rookusu ともいう。

doomaⓐ (名) 老もう。もうろく。rooma ともいう。~ sjoon. もうろくしている。

doonaⓐ (名) 童名。ʼwarabinaa ともいう。元服して名乗り (nanui) をする前の名。taruu (太郎), ziruu (次郎), san-duu (三郎) など。naa (名) の項参照。

dooriⓐ (名) 道理。すじみち。

doosaⓐ (名) 明礬 (みょうばん)。doosaa, roosaa ともいう。

doosaaⓐ (名) doosa と同じ。

doosiⓐ (名) 明礬石。roosi ともいう。

-du (助) ぞ。こそ。強意の助詞で、ふつうあとを連体形で結ぶが例文に見るようにそうでない例もある。-nu (が), -ga (が) のあとにも付きうる。ʼwan~ ʼjaru. わたしなのだ。ʼwaaga~ ʼwaqsaru. わたしが悪いのだ。niizamun~ ʼjaʂiga, maakumaaku kanagiisa. まずいものなのにおいしそうに食べてるよ。sirihwici-meehwici Qsi ʔumuinu~ ʔaee sani. 身辺をろろろして、気でもあるのだろうか。kumanakai~ ʼurui. ここにいるのか。sii~ sjurui. するのか。

-du (接尾) 度。回数を表わす接尾辞。ʔici-du (一度), nan-du (何度) など。

du=cuNⓐ (自 =kan, =ci) のく。どく。立ちのく。その場から離れる。nucun ともいう。ʔiqtaa taee dukee. おまえたちふたりはどけ。

dugecikuruʼbiⓐ (副) 盛んに転ぶさま。

dugee=juNⓐ (自 =ran, =ti) 転ぶ。duu (胴・体) が keejuN (返る) の意か。kurubun ともいう。

duwaiⓐ (名) rugwai と同じ。

dukasireeⓐ (感) こら。いたずらつ子などをおどす語。~, nama ʔNmai. こら、まだそこにいるか。

duki=juNⓐ (他 =ran, =ti) のける。どける。

dukina=juNⓐ (自 =ran, =ti) 避ける。わきへどく。

dukina=sjuNⓐ (他 =san, =ci) のける。どける。しりぞける。

dukuⓐ (名) ⊖毒。毒物。dukoo ~saani keesi. 毒は毒をもって制せよ。⊖毒。有害なこと。ʼjuru cijuni ʔutariisee ~ ʼjantisa. 夜、露に打たれるのは毒だとさ。

dukuⓐ (名) ruku (六) と同じ。

dukuⓐ (副) あんまり。ひどく。過度に。nugaʂi ~ kaneru ʼwaga sumiru kanaja, sumiriwan ʔasazi ʔirun çikan. [のがすどくかねる わが染める罌や 染めれはも浅地 色も着かぬ] どうしてこりまでもわたしの染める罌 (恋人) は、染めても色がつかない (反応がない) のか。

dukugeesiⓐ (名) 毒消し。毒気を解き消すこと。-geesi < keesjuN. ~ sjun. 毒を消す。

dukugusuiⓐ (名) 毒薬。

dukugwaçiⓐ (名) rukugwaçi と同じ。

dukuniciⓐ (名) rukunici と同じ。

dumaNgwa=sjuNⓐ (他 =san, =ci) ろろたえさせる。あわてさせる。

dumaNgwicimaʼngwiⓐ (副) ろろたえ騒

ぐさま。周章狼狽。
dumaŋwi=junⓐ (自 =raN, =ti) うろたえる。あわてる。狼狽する。
-dumi (接尾) 妻の意を表わす接尾辞。sa-
 cidumi?atudumi (前妻と後妻) など。
-duN (助) 強意の助詞。kuri~ 'wašinna.
 これを(しも)忘れるな。makutu~ 'ja-
 raa. まことにしあらば。もしも本当なら。
 ?ariga~ musika 'wasata~ sjuraba.
 [あれがどもしか 我沙汰どもしゆらば]
 もしも彼女がわたしの話をでもしたなら…。
 kaci~ see. もし書けば。kakee (書け
 ば)の強意。
duNbuinucaasiiⓐ (名) どんぶり料理を持
 ち寄ってする宴会。
duNburiⓐ (名) どんぶり。
duNnamuNⓐ (名) 鈍な者。のろま。
duNnasaNⓐ (形)のろい。鈍い。愚鈍である。
duNsiⓐ (名) どんす(緞子)。王族貴族用。
duNsuⓐ (名) duzin (胴衣)の美称。?a-
 taiunu nakagu masiru hwicisaruci,
 tabini meru satuga duNsubakama.
 [あたひ芋のなかご 真白ひき晒ち 旅にま
 いる里が どんしゆばかま] 後國に作っ
 た芭蕉のしんの糸を真白にさらして、旅に
 行く我が背子の胴着とはかまを作しまし
 ょう。
duQpekuⓐ (名) ruQpaku と同じ。
duQpekuguN'zuuⓐ (名) ruQpjakugun-
 zuu と同じ。
duqtuⓐ (副) duudu と同じ。
duragwiiⓐ (名) どら声。
duruⓐ (名) 泥。水をおびて柔らかくなっ
 た土。
durubisjaⓐ (名) 泥足。
durubuqtaaⓐ (名) 泥だらけ。泥まみれ。
duruduruⓐ (名) どろどろ。泥のように柔
 らかなさま。
durugwaqtaiⓐ (名) ぬかるみ。泥濘。
durumiciⓐ (名) 泥道。

durumiziⓐ (名) 泥水。
durumutaanⓐ (名) 泥あそび。泥いじり。
duruwakasiiⓐ (名) 料理の名。田芋 (taa-
 ?Nmu)・田芋のずいき (taamuzi)・こん
 んにゃく・揚げ豆腐などをどろどろに煮こん
 だもの。
dusadusaⓐ (副) ⊖どさどさ。どしんどし
 ん。大勢の足音など。⊖どきどき。動悸を
 打つさま。'Nni ~. 胸がどきどき。
dusamika=sjunⓐ (他 =saN, =ci) ⊖とど
 ろかす。どしんと音を立てる。sikiN ~.
 世間に大きな評判を立てる。⊖(胸を)ど
 きんとさせる。
dusiⓐ (名) 友。友だち。仲間。
dusibireeⓐ (名) 友だち付き合い。-biree
 <hwiree。
dusikugeeⓐ (名) 友だち付き合い。交友。
dusimuçiriⓐ (名) 友人と親しくなるあま
 り、他をかえり見ないこと。
dusiruⓐ (名) 身代金。人身売買の金。duu-
 ganee ともしう。sjuiwarabi nusudi,
 nahwawarabi nusudi, kunzaNni ?ujai,
 nakugamini ?ujai, takadusiru ?utidu,
 takadusiru tutidu. [首里童盗で 那覇
 童盗で 国頭に売やい 中頭に売やい
 高どしろ売てど 高どしろ取てど (女物
 狂)] 首里の子供を盗み、那覇の子供を盗
 み、国頭に売って、中頭に売って、高い身
 代金で売って、高い身代金を取って…。~
 ?irijun. 身代金を払う。
dusndiiⓐ (名) 着物の一種。そでの狭い、
 女の不断着。
dusudiimeeⓐ (名) dusudii の服装。tana-
 si (夏の礼服) や 'watazin (冬の礼服)
 のない婦人が、dusudii で間に合わせるこ
 となどをいう。
duuⓐ (名) [胴] ⊖体。~ teesici qsi 'joo.
 体を大切にしろよ。~ mucitoosjun. 体
 をこわす。~ mucijanZun. 身をもちく
 ずす。品行悪く、墮落する。~ dacun.

- イ。(負傷などで)家に引きこもる。ロ。(衣類・夜具などが)体にびったり合う。～N dakan。(着物が)だぶだぶである。
- ◎自分。自身。また、自分の体。～nu cikara. 自分の力。自力。～nu 'jaa. 自分の家。自宅。～nu kutoo kangetidu, qcunu kutoo kangeejuru. 自分のことを考えてから、ひとのことは考える。～nu ?wii. 自分の身の上。qcunu ?wiiŋdi ?umutootaşiga, ～nu ?wii natoon. ひとの身の上のことと思っていたが、わが身の上のことになった。～ja caaga. イ。体はどうか。ロ。自分自身はどうか。～mucigurisan. イ。体をもてあます。ロ。自分(の体)をもてあます(duumucigurisan とは別)。～'juhwijun.(自分を)身請けする。身代金を出して自由の身となる。～?icibunnu kurasi. 自分ひとりの生活。
- duu**◎(名) ruu(龍)と同じ。
- duu?agaci**◎(名)自活。自分で働いて暮らすこと。
- duu?agami**◎(名)自己崇拜。自分を偉いものと思い、またそりふるまうこと。うぬぼれ。duu?ujamee ともいう。
- duu?akagai**◎(名)自己暴露。自分のした事を自分であらわにすること。
- duu?atai**◎(名)自分の心に当たること。人の言を聞き、自分の事を言われたように感じ、恥じたり恨んだり怒ったりすること。～sjun.
- duubamee**◎(名)自分で弁当(または食糧)を持って行くこと。弁当(食糧)持参。
- duubeeree**◎(名)人に危害を加えようとして、かえって自分がけがすること。
- duubui**◎(名)体を前後左右に振り動かすこと。～kuuzun. 盛んに体を振り動かす。
- duubuku**◎(名)道服。羽織。男子用。
- duubumii**◎(名)自分をほめること。自

- 讃。ひとりよがり。
- duubuni**◎(名)体の骨。～'janun. 骨が痛い。瘦れた場合にいう。
- duubuninoosi**◎(名)骨休め。慰労のため酒を一杯やることなど。
- duucu'i**◎(名)自分ひとり。
- duucui?aqci**◎(名)ひとり歩き。
- duucigurasi**◎(名)ひとり暮らし。
- duucikurubi**◎(名)ひとり寝。
- duucimunii**◎(名)ひとりごと。独語。
- duueimun**◎(名)ひとり者。独身者。また、孤独な者。ひとり暮らしの者。
- duucuiwaree**◎(名)ひとり笑い。
- duucuu**◎(名) ruucuu と同じ。
- duudu**◎(副)はなはだ。非常に。とても。ずっと。比較してずっとよい場合に多く用いる。duqtu ともいう。悪い場合・劣る場合には zoi ともいう。～mizirasii mun. 非常に珍しいもの。～curasan. ぐっと美しい。
- duugana**◎(名)次の句で用いる。～kanajun. 体がかなう。体が丈夫でよく働ける。duugara kanajun. ともいう。
- duuganee**◎(名)身代金。dusiru の方を多く用いる。
- duugaqsan**◎(形)身軽である。身が軽くよく働く意に用いる。
- duugaqti**◎(名)自分勝手。身勝手。
- duugara**◎(名) duugana と同じ。
- duugumaçii**◎(名)海外で死んだ、遺骨のない者の霊をとむらうために、海辺の小石を拾って祭る行事。龍宮祭り。
- duugurisjan**◎(形)◎(人に面倒や迷惑をかけた時などに)心苦しい。duugurisja sjun. 心苦しく思う。恐縮する。◎むずかしい。困難である。
- duuhara**◎(名)自分の腹。次の句で用いる。～'janun. ほぞをかむ。くやくしく思っ苦しむ。
- duuhwi**◎(名) ruuhwi と同じ。

duuhwizujaaⓐ (名) 冷え性の者。
duujahwarasanⓐ (形) 体が弱い。
duujanziⓐ (名) 自分のやりそこない。自分の失敗。
duujaqsaⓐ (形) ㊦たやすい。容易である。㊦(気分・生活などが) 楽である。安らかである。duujaşiku 'iree. 楽に坐れ。duujaqsa sjoon. 暮らしが楽である。
duujaşiiⓐ (名) ぞうさないもの。たやすくできるもの。
duujaşimuNⓐ (名) 容易なこと。やさしいもの。
duujaşiqteenⓐ (副) やすやすと。たやすく。容易に。'jaşiqteen, 'jaşijaşitu などともいう。
duujooⓐ ㊦(名) 同様。~na kutoo manin ʔan. 同様なことはどこにもある。㊦(接尾) 同様。'wikigaduujoo (男同様), ʔujaduujoo ʔumujuN. (親同様に思う) など。
duuju'iⓐ (名) 自分ゆえのこと。自業自得なこと。
duu=juNⓐ (他 =ʔan, =ti) 同意する。賛成する。suujooNkai duuri. 皆に同意しろ。'Nnankai ~. 皆のいうことに従う。
duujuuⓐ (名) 土用。一年に四回あるが、普通は夏の土用をいう。
duukaNgecⓐ (名) 自分だけの考え。独断。
duukuruⓐ (副) 自分で。自分自身で。-ku-ru は「自身で」の意を表わす接尾辞。
duukurubiⓐ (名) ㊦(人に転ばされるのではなく) 自分で転ぶこと。㊦老人・子供などが、世話する者もなくひとりほりりっぱなしにされていること。
duukurujuuiⓐ (名) 自分で髪を結うこと。
duukuruzukuiⓐ (名) 自製。手製。
duukwegutuⓐ (名) 自滅的行為。自縄自縛のこと。
duumakaneeⓐ (名) 自弁。(食費などを) 自分で負担すること。

duumeeⓐ (名) 自分のすべき仕事。自分の持ち前。~ habaki. 自分のすべきことを早くかたづけよ。
duumişi'garaⓐ (名) 自分の身一つ。母親が子供を連れずに単身で遠くへ行く場合などにいう。単に mişigara ともいう。
duumuciⓐ (名) 自分持ち。自弁。
duumucigurisaNⓐ (形) 居づらい。折り合いが悪いなどのために、生活がしにくい。duu mucigurisaN (自分をもてあます) とは別。
duu'mucinaiⓐ (名) 身のこなし。立居ふるまい。ものごし。~nu 'jutasjan. 身のこなしがよい。
duumucizukuⓐ (名) 身のふりかた。暮らしかた。なりわい。
duumuiⓐ (名) 子供がお守りなしでひとりで遊んでいること。自分で自分の守りをする意。
duumuraⓐ (名) [同村] maziri[間切]の名と同じ名の mura (村)。たとえば具志頭間切 (gusicanmaziri) には具志頭、金武間切 (cinmaziri) には金武のように、各間切には、間切名と同じ村、すなわち duumura があつた。
duunaaⓐ (名) ㊦自分たち。その人たち自身。また、銘銘。~ja ʔaşidooti qcu çukajun. 自分たちは遊んでいて人を働かせる。㊦自分たち。われわれ。やや格式ばっている語。多くの場合、話し相手を含まない。~ja hugaqtin 'jaibiin. われわれは納得できません。
duunaakuruⓐ (副) 自分たちで。また、銘銘で。自分自分で。~ qsi. 自分たちでしろ。
duunaamunugataiⓐ (名) 銘銘が勝手に話をする事。
duuniiⓐ (名) ろめくこと。らんらんりなること。~ sjuN.
duuniikama'niiⓐ (副) ろめき声で苦痛を。

duuʔnbusan

まぎらわすさま。小さくうめき声を発するさま。

duuʔnbusan① (形) (病気で)体が重たい。自分の体を重く感じる。

duuooganasi① (名) ruuooganasi と同じ。

duusibui① (名) 肌着。hadasibui ともいう。

duuʔigari① (名) 自分に頼ること。自己算段して用をたすこと。

-duusjaa① (接尾) 同志の意を表わす接尾辞。ʔujaduusjaa (親同志), ʔkwaduusjaa (子同志) など。

duentakabi① (名) 高ぶること。尊大にかまえること。

duutan① (名) とたん。亜鉛鉄板。

dnutee① (名) 胴体。

duuʔui① (名) 身売り。身代金に代えてわが身を売ること。

duuʔujamee① (名) 自尊。自分を偉いもののように思い、またそうふるまうこと。うぬぼれ。duuʔagami ともいう。

duuwacaree① (名) 面倒な仕事を人に頼まずに自分ですること。

duuziira① (名) 体をいためること。ʔijuN (入る) とともに用いる。siira の項参照。～ ʔijuN。体をいためる。病気になる。

duuzi=juN① (自 =raN, =ti) 動ずる。臆する。肯定の形ではあまり用いない。duuzi-raN。動じない。臆しない。maan duuzi-raN。どこも恐れぬ。

duuzoosici① (名) 自炊。zoosici は炊事。

duziN① (名) [胴衣] 肌着の上に着る、たけの短い下着。じゅばんに似たもの。もとは下着ではなかったが、のちにはその上にʔwaabooi を付けたので下着となった。kakan と合わせて着る。

duziNkakan① (名) duziN と kakan。

ŷee① (感) おい。もし。目下の者へ呼び掛ける語。目上へは、男は ~ sai, 女は ~ tai と呼ぶ。非常に丁寧には、男は ~ sari, 女は ~ tari という。目下の長老へは ~ naa という。~ ŷansii。もし、おかみさん。

ŷee② (名) ⊕うち。taruutu ziruuga ~ taagana kuuwa。太郎と次郎のうちだれかが来い。ŷjaaja taaçinu ~ ziru tui-ga。おまえは二つのうちどれを取るか。ŷusakiinu qçunu ~nee nusudunu 'uiga sjura 'wakaran。それだけ多くの人のうちには泥棒がいるかもしれない。⊖間(ま)。しばらくの時間。~nu ŷan。間がある。~N neeN cuusa。間もなく来るよ。niibici qsi ~N neeNdidu ŷumuŷiga, ŷiina boozaa ŷNmaritaru basjui。結婚して間もないとばかり思っていたのに、もう男の子が生まれたのか。

ŷee③ (名) 藍。藍色染料の原料となる植物。

ŷeebicaa④ (名) 魚の名。刺身などにする、長さ20センチほどの藍色の魚。

ŷeeçi⑤ (名) [文] [相気] 互いに気が合うこと。ŷuzakamuimijuja ŷamici ~ natuti, tuci taganu ŷamiga huriba 'jugahu。[おぎやかもゑ御代や 天地相気なとて 時たがぬ雨が 降ればよがほ] 尚真王の御代は天地も気をそろえて、時節にたがわぬ雨が降れば豊年となる。

ŷeeçi'bu⑥ (名) 藍壺。藍汁を貯えておく甕。

ŷeedi'iru⑦ (名) 藍の葉で作った染料を入れておく竹のかご。tiiru はかご。

ŷeeŷee⑧ (感・副) おおい おおい。遠くから呼びかける語。~ sjun。(遠くから)おおいと呼びかける。

ŷeeŷee⑨ (感・副) おいおい。もしもし。~ sjun。おいおいと呼びかける。もしもしと呼びかける。

ŷeegamiga'sa⑩ (名) 藍色に染めた紙を張った傘。貴婦人用の傘で、一般の婦人は白い紙に油を塗っただけの傘を用いた。

ŷeegasa⑪ (名) 藍色の紙で張ったから傘。

ŷeegata⑫ (名) ŷeeŷuburuu と同じ。

ŷeeŷiju⑬ (名) 魚名。小さい魚で薬用になる。

ŷeeŷiru⑭ (名) 藍色。

ŷeeŷiruu⑮ (名) 藍色のもの。

ŷee=jun⑯ (他 =raN, =ti) あえる。あえものにする。

ŷee=jun⑰ (自 =raN, =ti) 乳・膿などが、出る。したたり出る。ciinu ~。乳が出る。

ŷeeku⑱ (名) 胎児がものに感応して、何かの動物に似て畸形などに生まれること。ŷusazinu ~。三つ口。兔唇。saarunu ~。口のとがった子など。takunu ~ sjoon。たこの申し子として生まれている。骨無しのかたわである。

ŷeeku⑲ (名) 櫂。舟を漕ぐもの。ŷweeku ともいう。

ŷeeckwee⑳ (名) [古] 言い合い。言い争い。~N neeN。言い争いもない。円満である。平和である。

ŷeence㉑ (副) あるいは。~ ŷanga 'jara 'wakaran。あるいはそうかもしれない。

ŷeenuhana㉒ (名) 藍汁に生じる泡。表面に美しく花のように浮かぶのでいう。

ŷeenuzumi㉓ (名) 相惚れ。相愛。互いに結婚を望むこと。

ŷeeraasjan㉔ (形) 愛らしい。(子供などが)かわいらしい。

ŷeeroo㉕ (名) 藍蠟。染料の名。薄水色に

ʔeesaçi

染めるもの。

ʔeesaçi① (名) あいさつ。出会った人へのあいさつにも、*cuu* 'uganabira. (こんにちへ。目上へ), *cuu*. (こんにちへ。目下へ), 'iiʔwaaçi deebiru. (いいお天気です。目上へ), 'janaʔwaaçi 'jaibiin 'jaa. (悪い天気ですねえ。目上へ), ʔukutandin saabirani. (お疲れもありませんか。目上の老人へ), cibajumi (働いているか。働いている目下の若者へ), ʔašibumi. (遊んでいるか。遊ぶ子供に), taqcoomi. (立っているか。立っている目下へ), 'icoomi. (すわっているか。すわっている目下へ), maakaiga. (どこへ。どこかへ行く目下へ) などさまざまある。

ʔeesibui① (名) 染物の名。藍色のしぼりぞめ。

ʔeesjoo① (名) 相性。陰陽家のいう男女の相性。ʔanu taija 'iiʔeesjoo 'jan. あのふたりはよく性が合っている。

ʔeesjooguhwasan① (形) 性が合わない。

ʔee=sjun① (他 =san, =ci) (乳・膿などを) 出す。したたらす。「あやす(零す)」に対応する。cii ~. 乳を出す。

ʔeesoo① (名) 愛想。~nu ʔaru qcu. 愛想のある人。~nu 'jutasjan. 愛想がよい。

ʔeesoomuci① (名) 愛想のいい者。

ʔeesumijaa① (名) 藍染屋。単に *sumija* ともいう。

ʔeeti① (名) ⊖相手。~ najun. 相手になる。~ sjun. 相手をする。⊖同等の力量。甲乙なし。~ sjun. 甲乙なし。

ʔeetu① (名) 同等の力量の者。甲乙のない者。いい相手。~ 'jan. いい相手だ。

ʔeefuburuu① (名) 藍で染めた模様。型付けで染めるので *ʔeegata* ともいう。また、その模様の着物。女の夏物にする。

ʔeeza① (名) 間。物と物との間。また、あい間。すき間。hasirutu hasirunu ~ni ʔiibi hasamaqtan. 雨戸と雨戸の間に指をはさまれた。

ʔeezagaci① (名) 行間の注記。

ʔeezi① (名) 呼ぶこと。呼んで誘うこと。~ sjun. 呼ぶ。

ʔeezumii① (名) 藍染め。藍で染めたもの。

ʔeeznu① (名) [相中] 同僚。仲間。

'e

'ee① (感) へえ。ほう。まあ。軽く感じた時、軽くあいづちを打つ時などに発する。
 ~ ?andu 'jarui. へえ、そうかね。まあ、そうなの。

'eecoodee① (名) 婚姻関係による、義兄弟姉妹。

'eedaki① (名) 八重岳。国頭地方、本部半島にある山の名。

'ee'ziqcaa① (感) あらまあ。珍しいことに接した時などに、女が発する語。

'ee'kicamee① (感) よいしょ。力を入れる時などに、主として男が発する語。

'eema① (名) 八重山群島。

'eemaa① (名) 八重山('eema)の者。卑称。

'emakaabujaa① (名) 八重山蝙蝠。

'een① (名) 織機の篋(おさ)の種類の名。八よみ。経糸640本を通すもの。またそれで織った布。huduci の項参照。

'eesazii① (名) やせがた。ほっそりした体つきの者。-sazii < sazirijun (そげる)。

'eesugii ともいう。

'eesugii① (名) やせがた。ことに、顔の細い感じの者をいう。'eesazii ともいう。

'eezidaki① (名) 八重洲岳。島尻郡にある山の名。

'eisaa① (名) sicigwaçeisaa と同じ。その時歌う歌に 'eisaa というはやしが入る。

-ga (助) ㊦が。人名・人代名詞などに付いて主格を示す。他の名詞の主格はふつう -nu (が) で表わされる。ただし、人を表わす名詞の場合、-si に終わる形の場合(逆接の -siga とは別)、その他の場合にも -ga の付く例がある。また、-ga のあとには -ja (は), -N (も), -du (こそ) などの助詞が付いて -gaa, -gaN, -gadu などとなることがある。なお 'wan (わたし) に付く時は 'waaga (わたしが) となる。ʔari~ caN. 彼が来た。'waa~ kacaru tigami. わたしの書いた手紙。sin-sii~ ʔmensoooon. 先生がいらっしゃっている。この場合は sin-siinu とも言える。しかし、たとえば ʔama (あのかた) の場合は ʔamanu と言い、ʔamaga とはふつう言わない。'Nndaŋsi~ masi. 見ない方がよい。nuu 'jatiN kanuši~ ʔami. 何か食べるものがあるか。ʔarigaa ʔicusa. 彼なら行くよ。'waagaa naraŋsiga, ʔjaa~ najumi. わたしにはできないがおまえにできるか。'jamatuNcugaa ʔanee saN. 日本人ならそうはしない。'wanjaka hukanee taa~N siraN. わたしよりほかには誰も知らない。kuree 'waa~N najuN. これはわたしにでもできる。ʔari~duN musika 'wasataduN sjuraba. [あれがどももしか 我沙汰どももしゆらば] 彼女がもしもわたしの話でもしたら。㊦の。が。属格を示す。-nu の項参照。ʔari~ sjumuçi. 彼の本。sibai 'Nnda-zijaka ʔuqsa~ sisi kamee maa haiga. 芝居を見るよりはその分の肉を食べた方がどれだけいいかわからない。㊦に。…するために。…しに。動詞の「連用形」に付く。ʔiju tui~ ʔicuN. 魚を取りに行く。

㊦疑わしさを表わす文に用いて、文の疑わしい部分に付く。あとを推量の形 (a で終わる) で結ぶ。述語となる動詞につく場合には「連用形」に付き、あとを sjura (するだろうか。ただし否定の場合は ʔara あるだろうか) などで結ぶ。ʔaree tigami~ kacura sjumuçi~ 'junura 'wakan. 彼は手紙を書いているのか本を読んでいるのかわからない。ʔai~ sjura. あるだろうか。tui~ sjabiira. 取りましょりか。naa kakiʔooran~ ʔajabiira. もう間に合わないでしょうか。ʔaN~ 'jara. そうだろうか。kuree 'waaga 'jara. これはわたしだろうか。cuu 'ugamu kutuja 'jumi~ 'jajabiira. [今日拜むことや 夢がややべいら (花売之縁)] きょうこうしてお会いするのは夢でしょうか。㊦か。疑問を表わし、疑問を表わす語に先行されて、質問文・反語文などの文末に用いる。活用する語に付く場合にはその「短縮形」(apocoped form) につく。ただしそのあとに助詞 'jaa (ねえ) が続く時は、疑問を表わす語に先立たれなくてもよい。'jaa の項参照。taamuN~. だれの物か。taa~. だれか。caa sju~. どうするか。ʔaamuee nuusaani çukutee~. 泡盛は何で作ってあるか。

gaag (名) 我。~ hajun. 我を張る。~ 'uurijun. (我が折れる) 我を折って他に従う。

gaaburaci (名) 口を大きく開くこと。-buraci<huracuN. ~ sjuN. 口をバクリとあく。

gaadaga'mi (名) むだ食い。

gaadagwe'e (名) むだ食い。gaadagami と同じ。

gaace④ (名) 綱引き (çinahwici) の時のもみ合い。綱引きの威勢をつけるため、大勢が拳を頭上に交叉して上げ、背中をむけ合ってもみあう。拳を上上げるのは、喧嘩をさけるため。<gaajun。

gaagaa④ (副) (からすなどが) 騒がしく鳴くさま。ががああ。

-gaai (接尾) 相当・匹敵の意を表わす接尾辞。zuuniŋgaai (十人に匹敵すること), 'wikigagaai (男に匹敵すること。男まさり)など。

gaaimun④ (名) 威張り散らす者。威勢をふりまわす者。<gaajun。

gaa=juN④ (自 =ran, =ti) ⊖ おごり高ぶる。威勢をふり回す。⊖ 綱引き (çinahwici) の時、東西の若者が踊り狂って、威勢をつける。

gaama④ (名) 無茶。無茶な行為。～ kakajun。無茶をする。kakaran ～ kakajun。ひどい無茶をする。

gaanaa④ (名) こぶ。打ちつけてできるこぶ。

gaanaa④ (名) 鷺鳥。

gaaradama④ (名) 曲玉。nuuru (のろ) などが首に掛けたもの。

gaarahwiçei④ (副) がたびし。物がすれ合ったり倒れたりして出る音のさま。

gaatui④ (名) [古] 鴨。

gaaza④ (名) 我謝。《地》参照。

gaaza④ (名) 我喜屋。《地》参照。

gaazun④ (名) 我の強い者。強情者。意地っぱり。

gaazuusaN④ (形) 我が強い。強情である。

gabu④ (名) 我部。《地》参照。

gabusuka④ (名) 我部祖河。《地》参照。

gaci④ (名) 食いしんぼろ。食をむさぼる者。餓鬼のような者。

gacicaa④ (名) ろに。那覇で maasju-kwee, 農村で ?unaa というようである。ciirukarasju (黄色い塩辛) にする。

gacigisaN④ (形) 餓鬼のようである。食い意地が張っている。gaciraasjan ともいう。

-gacii (接尾) ながら。つつ。がてら。?aq-cagacii 'junun。歩きながら読む。

gacikee=ju'N④ (自 =ran, =ti) 食い意地が張る。がつがつする。

gacimajaa④ (名) 餓鬼のような猫。泥棒猫。

gaciraasjan④ (形) gacigisaN と同じ。

gaçun④ (名) 鱈。

gahwagahwa④ (副) かくしゃくと。老人の頑健なさま。

gahwamika=sjun④ (他 =san, =ci) (げんこつで) こつんと打つ。koosaa ～。げんこつの先でこつんと食らわせる。

gahwara④ (名) 不潔にした頭の皮膚にたまる黒い垢。

gahwasaa④ (名) 強情者。頑固者。

gahwasi④ (名) 強情。頑固。?aree ～ 'jasa。彼は頑固だよ。

gakizaa④ (名) gakizuu (鈎) の卑語。

gakizuu④ (名) 鈎。つるし鈎。物を下げるために天井などからつるす、先の曲がった鈎。

gaku④ (名) gakubura (管楽器の名) の略。

gakubura④ (名) gakubura (管楽器の名) による音楽。

gakubura④ (名) [古] 楽器の名。ruzigaku [路次楽] など、王の行列の時に吹奏した管楽器。明笛の一種であろう。略して gaku ともいう。これを吹き鳴らす者を buraa という。piiraruura と鳴る。

gakuburi④ (名) 学問気違い。学問に熱中して世事をかえりみない者。

gakugaku④ (副) べらべら。へらず口をたたくさま。

gakumun④ (名) 学問。şimi ともいう。

gakurici④ (名) 学力。

gakusja

gakusja① (名) 学者。以前は漢学者のみを言った。

gakusjoo① (名) [学生] 学生。生徒。

gama① (名) 洞窟。ほら穴。その多くは鐘乳洞である。普天間と金武に有名なものがある。

gamaku① (名) 腰回りの細くくびれている部分。ウエスト。～ **kunsimiru minsa kwirana**。[がまこくんしめる めんさ呉らな (かなよ節)] 腰をぎゅっとしめるメソサ帯をやろうか。

gamakubuni① (名) 腰骨。

-gana (接尾) か。疑問を表わす語に付き、不定の意を示す。nuugana (何か), taagana (だれか), maagana (どこか) など。

-gana (接尾) [文] 限り。可能な限り。できるだけ。口語は **ganaasi. tinnu ?utugaminu migurugana miguti**。[天の御咎目の めぐるがなめぐて (忠臣身替)] 天のおとがめがめぐるだけめぐって。

-ganaa (接尾) ながら。?icaganaa. 行きながら。cii numaganaa nintan. 乳を飲みながら寝た。

-ganaasi (接尾) …でできるだけ。maçuganaasi maqcin kuuN. 待てるだけ待っても来ない。?agaruganaasi ?agati sagaruganaasi sagajuN. 上がれるだけ上がって、下がるだけ下がる。

ganahwa① (名) 我那覇。《地》参照。

ganaraasjan① (形) かいがいしい。けなげである。よく立ち働くさまなどをいう。

ganaragisaN① (形) ganaraasjan と同じ。

ganaramuN① (名) ganarimuN と同じ。

ganarimuN① (名) 働き者。

-ganasi (接尾) [文] -ganasii の文語。

-ganasii (接尾) [加那志] 様。尊敬の意を表わす接尾辞。?aziganasii (按司様), ?usjuganasii (国王様), 'wa?ujaganasi (わが親御様) など。また人以外の語につく

場合もある。?weesinganasii misjoori. (お休み遊ばしませ。非常な目上に対する寝る時のあいさつ) など。kanasjan の転じたものと思われる。

-ganasiimee (接尾) [加那志前] 様。尊敬を表わす接尾辞。-mee も尊敬の接尾辞で -ganasii にさらに敬意を加えたもの。?usjuganasii mee (国王様) など。

gani① (名) 蟹。

-ganii (接尾) [金] 男の名前の下につく、敬愛の意を表す接尾辞。貴族などの男の名の美称となる。maçiganii [松金], taruganii [樽金] など。

ganiku① (名) 我如古。《地》参照。

gan① (名) 龕(がん)。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。四人でかつぎ、さらに二、三人補助する者がつく。

ganca① (名) 悪知恵のある者。ganckweemuN ともいう。

gancki① (名) 悪知恵。～ kwatoon. 悪知恵をもっている。～ na muN. 悪知恵のある者。

ganckwee'muN① (名) 悪知恵のある者。gancaa ともいう。

gancoo① (名) 眼鏡。めがね。miikagan ともいう。

gandu=juN① (自 =ran, =ti) 元気をなくして、しょんぼりとする。がっかりする。

ganjaa① (名) 龕 (gan) を納めておく小屋。

ganmari① (名) いたずら。また、ふざけること。tiinu ~. 手でするいたずら。

gansaa① (名) deekunigansaa と同じ。

gansina① (名) 女が荷物を頭にのせて運ぶ時、荷物の下に敷く丸い輪。荷の坐りをよくし、頭の痛くなるのを防ぐもので、たいていは藁で編んだもの。転じて、西瓜などの下に敷くものをもいう。

gansinagwaahjoocaku① (名) ろず巻き火花。ねずみ火花。

gaNzimi① (名) 釘抜き。

gaNzuu② (名) 頑丈。強健。丈夫。ʔuganzuu 'jamiŋeeibiitii. 御壮健でいらっしやいましたか。

gaNzuugisaN③ (形) 強健らしい。丈夫そのうである。

gaNzunmun④ (名) 頑丈者。強健な者。

gaQkoo⑤ (名) 学校。gaQkoozi ともいう。首里には、各村に muragaQkoo, 平等 (hwira) ごとに hwiragaQkoo, さらにその上に kukugaku [国学] があった。

gaQkoozi⑥ (名) [学校所] gaQkoo と同じ。

gaQpai⑦ (名) おでこ。ひたい (hwicee, mukoo) の卑語。また、飛び出しているひたい。

gaQpaiçiburu⑧ (名) おでこの頭。ひたいの出た頭。

gaQpajaa⑨ (名) おでこの者。

gaQsan⑩ (形) 軽い。目方が、軽い。また、軽薄である。kaqsan とは意味が異なる。

gaQtinui⑪ (名) 合点。承知。承諾。gaQtinui. 承知するか。～ naraN kutu. 承知できないこと。～ sjun.

gara⑫ ⊖ (名) 殻 (から)。中身のない外皮。また、中身をぬいたから。～ natoon. からになっている。⊖ (接尾) sibugara (しぼりかす), 'uuzigara (さとうきびのしぼりがら) など。

gara⑬ (名) 人畜の骨 (卑語)。くずになった骨 (の全体), 捨てられた骨などをいう。～ najuru madin. くたばって死ぬまでも (悪口)。

-gara (接尾) 柄。品位・様子などの意。ci-neegara (家柄), tukurugara (土地柄) など。着物の柄は ʔaja という。

garagaraa⑭ (名) 玩具の一種。金属製の円盤に多くの小鈴をつけたもの。ふりまわすとガラガラ鳴る。がらがら。

garagwaakoojaa⑮ (名) 動物の骨を買い集

め, ぐだいて肥料にする業者。賤業とされる。

garagwaamagii⑯ (名) 図体ばかり大きい者。うどの大木。gara (骨) で売って初めて値になるような者。

garami=cuN⑰ (他 =kan, =ci) [文] 奉仕する。勤める。まれな語。ʔutumu ~. お供申し上げる。「がらめき 勤め營む事也 (混効験集)」

garasi⑱ (名) 植物名。肉桂(につけい)。樹皮は薬用にも子供の好物にもなる。

garaŋi⑲ (名) からす。凶鳥とされ, 夕方家の上を鳴いて飛ぶのを見ると, 'iikutu katarari. (よいことを語れ) と呪文をとなえる。

garaŋihwiibaa⑳ (名) からすへび。山かがし的一种。全身が暗灰色をした蛇。

garaŋimagai㉑ (名) 手足の指などの筋肉がひきつって痛むこと。からすまがり (こむらがえり) には kundaʔagajaa という。

garumun㉒ (名) 軽い物。

garunii㉓ (名) 軽い荷。

gasaa㉔ (名) がさつな者。教養の低い潤いのない人間。

gasagasa㉕ (副) ⊖ ごとごと。がさがさ。物のふれ合う音, ねずみが物を引く時の音など。⊖ 口ざわりの悪いさま。食物に砂がはいった時などにいう。じゃりじゃり。nirigasagasa ともいう。

gasi㉖ (名) 飢饉。餓死の転意。餓死は 'jaa-sazini という。

gasidusi㉗ (名) 飢饉の年。凶年。古語で nigajuu ともいう。

gasuʔitu㉘ (名) [新] 瓦斯糸。

gata㉙ (名) [新] 次の句で用いる。～ maa-jun. [俗語] (破局が) やがて来ようとしている。たとえば, 陶器にひびが入ってやがて割れようとしている時, やがて捕われそうな状態である時などにいう。gata < gataa (…しそり)。

gata① (名) 埋立地。

-gata (接尾) …しそう。ふつう -gataa を多く用いる。まさにそのことが起ころうとしていること。sinigata (死にそう) など。

-gataa (接尾) …しそう。まさにそのことが起ころうとしているさま。maajun の項参照。Yamihugataa (雨が降りそう), sinigataa (死にそう), Yutiigataa natoon. (落ちそうである), nacigataa maatoon. (泣きそうである) など。

gatagata① (副) ①がたがた。恐れ・寒さなどで体がふるえるさま。②がたがた。安定が悪く音が出るさま。hasirunu ~ sjoon. 雨戸ががたがたしている。

-gatanasaN (接尾) …し兼ねる。…し難い。(気を使うために) …しにくい。Yicigatanasana (行きにくい), 'wakarigatanasa (別れがたいこと) など。

gaweeegawee① (副) 豚の鳴き声。ぶうぶう。騒がしく鳴き立てる時の声をいう。

gazami① (名) 蟹の一種。海に産し、体が大きく、美味。

gazan① (名) 蚊。

gazan① (名) 蚊。gazan ともいう。

gazimaru① (名) 榕樹。ガジマル。沖縄至る所にある亜熱帯植物。老樹になると枝から気根が出て地中に入る。果実はいちじくに似て小さい。

gaziri=juN① (自 =raN, =ti) やせ細る。

gazirimuN① (名) やせ細った者。

gee① (名) ①害。わざわい。さまたげ。②反抗。敵対。~ sjun. 反抗する。はむかう。敵対する。'wanninkai ~i. わたしに反抗するか。

geeci① (名) [咳気] 風邪。風邪ぎみ。咳の有無にかかわらずいう。

geei① (名) ①還俗。出家して僧となったものが俗にかえること。②いったん, saNsii (賛成。明治政府支持派で、断髪した者) になった者が、のちに髪をたくわえ、もとの

husansii (不賛成。明治政府に服従せず、清に頼ろうとした派で、結髪していた) に帰ること。

gee=juN① (自 =raN, =ti) ①(勝負事に負けるなどで) 面目を失う。萎縮する。②還俗する。

geen① (名) お祓いに用いる串。すすきを数本束ね、葉の先を折り曲げて結んで作ったものが多い。mabuigumi (その項参照) の際などに用いる。

geesjaa① (名) 反抗する者。はむかう者。

gicigici① (副) ぎしぎし。きしむ音。niikeebasinu ~ sjun. 二階への階段がぎしぎしする。

giitaa① (名) 片足とび。子供の遊戯の名。

giitaamuNdo① (名) 子供の遊戯の名。片足とびをしながら相手を倒す遊び。

gikizi① (名) 灌木の名。月橘。いけがきにする。材は黄色で堅く、印材・版木・櫛・かんざしなどにする。

gikizigaci① (名) gikizi のいけがき。

giQcirigiQciri① (副) 人を乗せたかごの音。

Yukagu ~ toojamakai, tooja maajaga toojaamaa. おかごぎっちりぎっちりトヤマへ。唐はどこなの、蛹さん。(童謡)

giQcoo① (名) 遊戯の名。Yiqpaa と同じ。

giQcoo① (名) hwizajaa (左きき) の那覇語。

giraika'nai① (名) [文] [儀来河内] 海のあなたにあると信じられている常世。あの世。niraikanai ともいう。口語は gireekanee, nireekanee。

gireeYaku'gan① (名) [古] [家来赤頭] 王府の下級の役職の名。

giree=juN① (他 =raN, =ti) [古] 家屋・墓などを、普請する。造営する。混効験集には「げらいて」とある。

gireeka'nee① (名) giraikanai の口語。nireekanee ともいう。

giruma① (名) 慶留間島。慶良間列島 (ki-

rama) の島の名。また、慶留間。《地》参照。

-gisaN (接尾) …そらだ。…らしい。šida-gisarū nīkee (涼しそうな二階), ʔan ʔaigisaN (そうらしい), nootooigisaN (直っているらしい), ʔuziraasigisarū ʔwarabi (かわいらしい子供), ʔwiiriki-gisaN (おもしろそうである), naqikasi-gisa sjoon (悲しそうにしている), hui-gisaa ʔjan (降りそうである), ʔicigisaa (行きそう) など。

giši① (名) 平侍。また、平役人。下級官吏。「げす(下司・下衆)」に対応する語か。按司(ʔazi) などの高官に対する。

gizaa① (名) 意地の悪い女。那覇から来た語か。

gongon① (副) 健脚のさま。～ ʔaQCUN。どんどん歩く。

goo① (名) 輪。～ macuN。うずまく。～ kacuN。輪を書く。～ ʔukuree。輪になれ。

-goo① (接尾) 合。一升の十分の一。また、一里の十分の一。ʔicigoo (一合), nigoo (二合), saNGOO (三合), sigoo または singoo (四合), gugoo または guNGOO (五合) など。

googoo① (副) ごうごう。海鳴りの音。また、大雨の後の川の流れの音など。

googucaa① (名) 苦情ばかり言う者。いつも不平をならす者。

googuci① (名) 苦情。不平をいうこと。muNnu ～。食事の不平をいうこと。

googucihjaʔaguci① (副・名) さかんに苦情をいうさま。また不平の多いこと。不平不満。～ sjuN。

goonii① (名) 足の彎曲した不具者。ちんば。goojaa と同じ。

goojaa① (名) ⊖つるれいし。にがりり。ʔatai (菜園) に栽培され、実は長楕円形。実が緑色で柔らかいうちは食用となり、そ

の皮はにがり、肉は甘い。⊖足の彎曲した不具者。ちんば。gooii ともいう。にがりりの実の曲がり方に似ているのでいう。

goojuku① (名) 強欲。貪欲。

goojukuu① (名) 強欲者。貪欲な者。

goomaaii① (名) 車座。大勢が輪になってすわること。

goomanaa① (名) [新] 傲慢者。

goomaN① (名) [新] 傲慢。

goori=juN① (自 =raN, =ti) (穴が) ぼっかりあく。(傷口などが) ぼっくりあく。

gooruu① (名) ゆるゆる。すき間があいて、ぴったりはまらないこと。また、そのようなもの。～ sjoon。ゆるゆるである。

gu- (接頭) 御。尊敬の意を表わす接頭辞。guʔun (御恩), gusuujoo (皆様), gurii (おじぎ), gubusata (御無沙汰) など。

gu- (接頭) 五。guniN (五人。ʔicitai ともいう。また五年), gunan (五男) など。

guban① (名) 碁盤。

gubanʔaja① (名) 格子竈。着物の柄の名。

gubanGoosi① (名) 碁盤格子。着物の柄の名。

gubanZu① (名) [御番所] 首里城内の建物の名。

gubu① (名) 五分。半分。zuubun (十分) の半分。

gububuu① (名) [五分扶] 半人前の賃金。女・子供などの賃金をいう。

guburii① (名) 御無礼。burii の敬語。失礼。～ sjabira。御免下さい。失礼します。辞去する時、人前を通る時などのあいさつ。～ sjabitan。失礼しました。陳謝する時のあいさつ。

gubusata① (名) 御無沙汰。

gubuzi① (名) 御無事。

gucahwa① (名) ぜにたむし。ぜにがさ。円形にひろがる田虫。

guci① (名) 茎。草・野菜などの茎。

guci① (名) 悪口。また、口答え。～ sjuN。

悪口をいう。また、口答える。

-guci (接尾) kuci (口) の項を参照。

gucinaa① (名) あだ名。あざけって呼ぶための名。たとえば、背の低い人を maa-mii (豆) と呼ぶなど。

gucinjaku① (名) 御儉約の意。政府が行なう儉約政策などをいう。

gudama① (名) 基石。

gudun① (名) 愚鈍。愚図。~na. 愚鈍な。

guga① (名) 呉我。《地》参照。

gugoodaci① (名) 五合だき(の鍋)。

gugwaçi① (名) 五月。guNGwaçi ともしう。

guhjaaku① (名) 銭500文。1銭に当たる。zin(銭)の項参照。

guhjaakugun⁷zuu① (名) 銭550文。1銭1厘のこと。zin(銭)の項参照。

guhjoozoozu① (名) [古] [御評定所]hjo-ozoozu (その項参照)の敬称。

guhusi① (名) 骨の丸くとがっているところ。くるぶしなど、手首・足首にあるもの。

guhuuku① (名) 御奉公。

guhweeroo① (名) [古] 御拝領。王から物をいただくこと。

guin① (名) 御縁。縁の敬語。'wakaritin tageni ~ ?atikaraja ?ituni nuku hananu ciriti nucumi. [別れても互に御縁あてからや 糸に貫く花の 散れて退きゆめ] 別れてもたがいに御縁があるからには、糸に貫いた花が散り去ることがありますよか。

guin①① (名) [五音] 中国の宮商角徵羽の五音から転じて、(声の調子のよいこと)。人の声の質・歌の音色(などのよいこと)。~nu 'jutasjan. 声の質がいい。

guja① (名) 胡屋。《地》参照。

guja① (名) 呉屋。《地》参照。

gujuu① (名) 御用。公用。公務。

gujuuhwiçi① (名) [古] [御右筆・御祐筆]

役職名。昔の書記官。

gukuku① (名) [文] 五殺。

gukuNrii① (名) 御婚礼。kunriiの敬語。

gukuraku① (名) 極楽。

-gukuru (接尾) …のようなこと。また、…のようなつもり。…のような気持。coo-deegukuru (兄弟のようにしていること)、tuzigukuru (妻のような仲) など。

guma?ami① (名) 小雨。

guma?amigwaa① (名) 霧雨。guma?amiのさらにこまかいもの。

gumaa① (名) 小さいもの。magii (大きいもの)の対。

gumabui①① (名) 小降り。雨がすこし降ること。

gumagasagasa① (名) (仕事などを) ちょこちょこすること。~ sjun.

gumagii① (名) 小さい木。灌木。

gumagwii① (名) 小聲。

gumahaace① (名) 小走り。小股走り。

guma?isuzi① (名) 小急ぎ。少し急ぐこと。

gumajaa① (名) 小さい家。

gumamunugatai① (名) ひそひそ語。私語。内緒話。

gumamun① (名) ⊖小さいもの。⊖小間物。

gumamun?acinee① (名) 小間物商。

gumanusudu① (名) 小泥棒。こそどろ。

gumasaN① (形) 小さい。小型・小粒である。kuusaNの項参照。

gumazii① (名) 小さい字。細かい字。

gumazikee① (名) 小遣い。ちょっとした用に銭を使うこと。

gumazikeezin① (名) 小遣い銭。小遣い。

gumazin① (名) 小銭。わずかな金。

gumazin① (名) 小金。さして大きくない額の金。?uhuzin (大金)に対する。

gumi① (名) ごみ。塵芥。目にはいるほどの小さいものには言わない。hukui, hukucici, mincamunなどの項参照。

gumiZuci① (名) はたき。ちりはらい。
gumu① (名) [新] ゴム。
gumuçi① (名) [御物] 公有物。公共物。公有の財産。公金など。はじめは王の所有物、国有物を言ったのであろうが、後に公共物の意となった。muragumuçi (村有の物)。
gumukunarabiee① (名) 五目並べ。連珠。gumukunarabii ともいう。
gumukunarabii① (名) gumukunarabiee と同じ。
gumumaai① (名) [新] ゴムまり。
gumuN① (名) 御紋。紋所 (muN) の敬語。
gumuQtuN① (名) ごもつとも。～ deebiru。ごもつともでございます。
gumuru① (名) 灌木の名。赤い小さな実がなる。庭木として植える。
guncenzi① (名) 御内儀。奥様。人妻の敬称。
gunici① (名) いつか。月の第五の日。また、一日の五倍。
guniNzi① (名) 信仰。信心。神仏を尊び、祖先の祭祀を怠らない心がけ。
gunBoo① (名) ⊖ごぼろ。⊕zuriguNboo と同じ。
gunBookumii① (名) 料理名。ごぼろを小麦粉の衣でつつみ、油揚げしたもの。kabaguboo ともいう。
gunDaN① (名) 不平。～ sjun。不平を言う。
gunGoonakamui① (名) 五合拵。
gunGwaçi① (名) 五月。年の第五番目の月。～juqkanuhwii。旧暦5月4日。子供の日で、玩具市が立つ。また那覇ではハーリー船競争がある。juqkanuhwii の項参照。
gunZiN① (名) 権現。hutimagunZiN (普天間権現)。
gunZoo① (名) [古] 言上。申し上げること。

と。
gunZuu① (名) 銭 50 文。のちの 1 厘。ziN (銭) の項参照。
guQka① (名) guqkaN と同じ。
guqkaN① (名) 酷寒。極寒。ひどい寒さ。guqka ともいう。
guQtai① (副) ぐったり。くたくた。疲れて手足の力が抜けたさま。
guragura① (副) ぐらぐら。安定が悪く、揺れ動くさま。haanu ~ sjun。歯がぐらぐらする。
-guree (接尾) ぐらい。saataaguree kwitin simee sani。砂糖ぐらいやったっていいじゃないか。saataanu ?atai ともいう。
guri① (名) 沈澱物。かす。おり。茶・汁などを飲んだあと、容器の底に残るかすなど。caanuguri (茶のおり), sirunuguri (汁のかす) など。
guri① (名) 御辞儀。～ sjun。
guriZiN① (名) ⊖祖先の位牌をおいて、祖先を祭る祭壇。buçidan ともいう。⊕御位牌。?u?iihwee ともいう。
-gurisjaN (接尾) …しにくい、…しがたいの意の接尾辞。?iigurisjaN (言にくい), waşirigurisjaN (忘れがたい) など。
guru① (名) 殻 (から)。複合語としては、kuugaguru (卵の殻), şidiguru (ぬけ殻) など。
-guru (接尾) ごろ。nanziguru (何時ごろ), ?ikuçiguru (何歳のころ) など。
guruguru① (副) ⊖ごろごろ。物の回転するさま。⊕きよろきよろ。眼をきよろつかせるさま。
gnrui① (名) ぐりぐり。瘰癧。首すじ・太ももなどにできる淋巴腺のはれたもの。
gurukuN① (名) 魚の名。たかべに似て、やや大きい。肉が豊かで柔らかく、美味。
gurumuN① (名) すばしこい者。敏捷な者。
gurusAN① (形) すばやい。すばしこい。動

guruʔugwan

作が敏捷である。guruku.すばしこく。
'jamatuguruku (日本人らしくすばしこく)という語もある。

guruʔugwanⓄ (名) 定期的に行なう ʔugwan (祈願) の意か。

guruuⓄ (名) すばしこい者。gurumuN と同じ。

gusaNciiⓄ (名) 御参詣。国王が神仏へ参詣すること。正月, 五月, 九月に, 吉日をうらなって, 弁才天・弁岳・末吉社壇・観音堂・普天間・識名などに参詣した。

-gusi (接尾) 置き。hwiçiqigusi (一日置き), cuçiqigusi (ひと月置き), cutugusi (一年置き) など。

gusicaaⓄ (名) ⊖具志川。《地》参照。⊖具志川島。伊是名島 (ʔizina) の属島。

gusicaNⓄ (名) 具志頭。《地》参照。

gusiciⓄ (名) すすき。文語では sişici という。その花 (尾花) は baraN という。

gusiciNⓄ (名) 具志堅。《地》参照。

guşikuⓄ (名) [城] 城。とりで。防衛のため堅固に築いた建物。

guşikuⓄ (名) 城。《地》参照。

guşikumaⓄ (名) 城間。《地》参照。

guşikuNcuⓄ (名) [城人] 宮女。うねめ。首里城の御殿女中。中でも王の妾となったものは ʔuhusidubi という。

gusimjaaguşikuⓄ (名) 罕宮城。《地》参照。

gusiNdanⓄ (名) [古] [御神壇] 大名家 (ʔudun) で祖先を祭ってある仏壇。一般の家のものは ʔubuçidan (御仏壇) という。

gusjaakunakamuiⓄ (名) 五勺拵。naka-muigwaa ともいう。

gusjooⓄ (名) 後生。あの世。冥土。~ cikaku natoon. あの世(死)が近づいている。

gusjoomuduiⓄ (名) 死にそこない。あの世帰り。死に瀕してふたたび生き返った

者。または死んだという噂が立って生きていた者。sinihandaa ともいう。

gusjooNiNⓄ (名) sjooNiN (十二支の上での, 生まれ年) の敬語。御殿 (ʔudun) の按司 (ʔazi) などの gusjooNiN には, その一族の者が集まって, 組踊りなどを催したものである。

gusjoosugaiⓄ (名) 死に装束。

gusjuuiⓄ (名) [御書院] 首里城の建物の名。ʔuguşiku の項参照。

gusjuuziⓄ (名) gusuuzi と同じ。

gusjužunsideeⓄ (名) お考えのまま。御所存次第。おこころざし。sjužunsidee の敬語。~ ʔjutasjaibin. おこころざしで結構でございます。

gusugusuⓄ (副) ⊖せき込むさま。ごほんごほん。ぜいぜい。hwimici ~. 喘息であえぐさま。⊖物を切るさま。さくさく。ざくざく。hoocaasaani ~ cijun. ほうちょうでさくさく切る。

gusuuiciⓄ (名) 軟骨。

gusumika=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) さっと切る。すばりと切る。abiinee kubi gusumikasariin doo. 大声をあげたら首をすばりやられるぞ。

gusuNtoonuciNⓄ (名) とうもろこし。toonuciN はもろこし。ルソン島渡来のとらぎびの意。gusuNtoozin, rusuntoozin ともいう。

gusuNtoozinⓄ (名) gusuNtoonuciN と同じ。

gusuujooⓄ (名) [御総様] 皆様。大勢にむかって話す時, はじめに言うことが多い。聴衆がすべて目下ならば suujoo (諸君) という。~ja caa deebiruga. 皆様はいかがでございますか。

gusuuziⓄ (名) 御祝儀。お祝いの敬語。gusjuuzi ともいう。

gutagutaⓄ (副) ぐうぐう。こんこん。よく眠るさま。

gutaQtu① (副) ぐったり。疲れきって、元気がないさま。～ najun. ぐったりとなる。

gutee① (名) 手足。五体の意の転じたもの。

gutoon① (連詞・不規則) ようである。ごとし。-nu (の) のあと、「連体形」のあとなどに用いる。majaanu ～. 猫のようだ。tamanu gutoosa. 玉のようだ。Picigeejuru gutoosa. 生き返るようだ。'wikiganu gutooru 'winagu. 男のような女。?weeki sjaru ～. 金持ちになった気持だ。

gutu① (名) (前に来る語とともに副詞的に働く) ごと。ごとく。よう。よりに。「連体形」のあと、-nu (の) あとなどに用いる。hananu ～ curasan. 花のように美しい。çibudi 'uru hananu çiju cata ～. [つぼでをる花の つゆきやたとごと (御前風)] 花のつぼみが露に会ったよう。hatakee tuuran ～ mici tuuri. 畑は通らないで道を通れ。?aminu hujuru ～ tiqipudamanu ?utiti can. 雨が降るように鉄砲の玉が落ちて来た。?jaagutu curasaree masi 'jaşiga. あんたぐらいきれいだったらいいんだけど。

gutuku① (名) (火鉢の) 五徳。

guu① (名) ⊕仲間。同僚。相棒。また、ぐる。'waqtaagun. われらの仲間。～ najun. 仲間になる。ぐるになる。guunajuN とは別。⊖二つで組になった物。対の物。⊖密通の間柄。また、その相手。情婦。情夫。

guu① (名) 碁。～ ?ucun. 碁を打つ。

gun① (名) 五。普通、Picici を使う。

guuda① (名) ぐうたら。なまけ者。ぶしゅろ者。だだをこねてすわりこんだ子供などをもいう。

gunguu① (副) ぶらぶら。豚の鳴き声。鳴き叫ぶ時の声は gaweegawee という。

guuhanDaa① (名) guuhaziraa と同じ。

guuhaziraa① (名) guu (一揃い。また、仲間) からはずれたもの。不揃いになった半端。仲間はずれの者。guuhanDaa ともいう。

guuhu① (名) こぶ(瘤)。

guuhwaa① (名) 瘤のある者。

guuhwaaahwiihwaa① (副) でこぼこ。

guujaa① (名) 豚の尻の骨と肉。～nu ?u-siru. 豚の尻の骨と肉を材料にした料理。

guujaasi'Nzi① (名) 豚の尻の骨を煎じたスープ。

guumaNcaa① (名) 不揃い(のもの)。ちぐはぐなもの。箸・はき物など対のもので、形・大きさなどが不揃いなものという。

guunaa① (名) ちんばの者。びっこの者。

guunaimuN① (名) 互いに密通している男女。

guunaiNgwa① (名) 私生児。guu の項参照。

guuna=juN① (自 =ran, =ti) 私通する。密通する。

guuni① (名) ちんば。びっこ。～ kwen-kwen. びっこを引き引き。kwenkwenは、びっこを引くさま。

guuN① (名) 御恩。

guuNgeesi① (名) 御恩返し。

guuraahaQtai① (副) ぐらぐら。安定が悪く、揺れ動くさま。

guusi① (名) 串。竹串。

guusi① (名) 具志。《地》参照。

guusjan① (名) 杖。

guutumiiu① (名) 対の物。揃いの物。また、夫婦。

-guutuu① (接尾) ように。動詞の否定形につき否定の意志を表わす。?ikaNguutuu sjun. 行かないようにする。行くまいとする。kusuee 'nzasanu numanguutuu sjun. 薬は苦くて飲みたがらない。

guuZuca① (名) 碁打ち。棋士。

guzara① (名) ごけ。碁石を入れるうつ

あ。

guziNhuuⓐ (名) [御前風] 歌曲の名。御前風節。王の前で奏した次の五曲をいう。すなわち, kazadihuubusi [かぎやで風節], YuNnabusi [恩納節], nakaguşikuhan-tameebusi [中城はんた前節], kutibusi [こて節], naga?ihjabusi [長伊平屋節]。祝賀の席では, まずこの五曲を奏してから, 他の曲に移る。

guziraⓐ (名) 鯨。

guziriⓐ (名) 枯れ枝。枯れた枝ぎれ。

guzooⓐ (名) 御状。お手紙。tabinu ~ Yumaci sjabira. 旅のお手紙をお待ちしましょう。

guzumu=juNⓐ (他 =raN, =ti) 輯集する。密集する。

guzuuⓐ (名) 五十。

-gwaa (接尾) [小] <qkwa(子)。ⓐ小さいことを表わし, またその愛称となる。tugwaa (小鳥), Ynmagwaa (小馬), hakugwaa (小箱), Ynmiigwaa (一番下の姉) など。ⓑ子供の名について, 愛称となる。taruugwaa (太郎坊), cirugwaa (つる子ちゃん) など。ⓒ小量であることを表わす。kuuteengwaa (ほんの少し), Yuqpigwaa (それっぽっち) など。ⓓ軽蔑の意を表わす。Yusjumeegwaa (じじい), haameegwaa (ばばあ) など。ⓔ分家の意を表わす。kunzangwaa [囃頭小], cin-gwaa [金武小] など。

gwaaNgwaaNⓐ (副) グワーングワーン。銅羅鈺の音。綱引き (ginahwici) の時に打ち鳴らす。

-gwaasee (接尾) …ごっこ。まねごとをして遊ぶこと。-gwaa は小さい意, -see はしあうこと。Yikusagwaaasee (戦争ごっこ), miitundagwaaasee (夫婦ごっこ)

など。

gwanⓐ (名) 願。神仏に祈り願うこと。普通は ?ugwan という。韻文では単に gwan ということがある。

gwanGwanⓐ (副) にぎやかなさま。祭り・綱引き・村芝居などで, 大勢の人が集まって, 鳴り物を鳴らすなどしてにぎやかなさま。

gwanjakuⓐ (名) 丸薬。

gwanakuⓐ (名) 頑固。かたくな。固意地。~na. 頑固な。

gwanKutooⓐ (名) [新] [頑固党] husan-sii ともいう。その項参照。

gwanKuuⓐ (名) [新] gwanKutoo と同じ。

gwanSuⓐ (名) ⊖元祖。祖先。家系の初代の人。ⓑ祖先。現存者以前の人で家廟にまつられているすべての人。

gwanTaNⓐ (名) 元旦。

gwanZiciⓐ (名) 元日。一月一日。

gwaQsjukuⓐ (名) 月蝕。

gwasagwasaⓐ (副) ⊖うよりよ。うじゃうじゃ。虫などがたくさんいるさま。ⓑがやがや。がさがさ。そうぞろしいさま。ⓒごちゃごちゃ。混乱のさま。

gwatagwataⓐ (副) ぐつぐつ。ものの煮え立つ音。kwatakwata ともいう。

gweesiciⓐ (名) 外戚。姻戚。'winagunu kata ともいう。

gweNgweNⓐ (副) だろだろ。ぬかるみのさま。micinu ~ sjoon. 道がだろだろである。

gweQtaiⓐ (名) ぬかるみ。ziQtai と同じ。

gweQtaimiciⓐ (名) ぬかるみの道。

gwiikuⓐ (名) 越来。《地》参照。

gwiirigwiiriiⓐ (副) ぎいぎい。開き戸などをあけたてする時のきしむ音。

- haa① (感) ああ。おや。ほう。へえ。まあ。驚いた時・恐ろしい時・感心した時・あきれた時などに発する。ʔaa (ああ) よりも多く使らうである。～ deezina kutu. ああ大変だ。～, ʔuŋgutooru kutunu ʔateesa ʔjaa. へえ, そんなことがあったのかね。
- haa② (名) 歯。～ kuujun. (冷たさのために食物が) 歯にしみる。
- haa③ (名) 刃。
- haaci④ (名) 大皿。
- haaciburaa⑤ (名) おもちゃのお面。旧暦5月4日のおもちゃ市に出て子供が喜ぶものの一つ。「はつぶり(半首)」と関係ある語か。
- haace⑥ (名) かけ足。走ること。～ sjun. かけ足する。走る。～ najun ともいう。
- haaesjuubu⑦ (名) かけっこ。徒競走。
- haagisii⑧ (名) 歯ぎしり。
- haai⑨ (名) ⊖針。⊖鍼。
- haaibaku⑩ (名) 針箱。裁縫箱。
- haaija⑪ (感) 綱引きの時の掛け声。綱を引く時にまずこの声を発し、次にいろいろな鳴り物を buu (法螺貝), gwaaŋgwaaŋ (鉦・太鼓・銅羅など) と鳴らす。cinahwici (綱引き) の項参照。
- haainumii⑫ (名) 針の目。針の穴。針のめど。～kara hukijun. 針の目をくぐりぬける。病人が奇蹟的に直ったような時に言う。
- haainumimi⑬ (名) 針の目のある部分。針の頭の部分。
- haaisasii⑭ (名) 針刺し。針山。
- haaja⑮ (名) 柱。また、(一家の) 支柱となるもの。
- haajami⑯ (名) 歯痛。
- haajuu⑰ (名) haajuui と同じ。
- haajuui⑱ (名) 女の子の髪が短くてきちんと結えない場合の、髪を結い方。折り曲げて小さく結うもの。haajuu ともいう。男の子のそれには kanpuu という。
- haakata⑲ (名) 歯がた。歯でかんだあと。～ ʔisijuŋ(ʔirijuŋ). 歯がたをつける(入れる)。
- haakusu⑳ (名) 歯くそ。
- haamee㉑ (名) おばあさん。平民の祖母または、平民の老女をいう。
- haameezira㉒ (名) ばあさんづら。ばあさんの(よurna)顔。とくに、ひげのない者(hwizimoo, ʔutugeenanduruu) のことをいう。
- haamoo㉓ (名) 歯の無い者。-moo はあるべきものが無いことを意味する接尾辞。
- haara㉔ (名) 芭蕉糸をつむいで入れるのに用いる、竹で編んだ籠。
- haarii㉕ (名) [爬龍船] 旧暦5月4日に、泊・那覇・久米が対抗して行なう船の競争。また、その船。ペーロン。泊港から奥武山までのコースを三隻で争う。綱引きに劣らぬにぎやかな行事であった。
- haariimundoo㉖ (名) haarii (ペーロン) の時に起こるけんか。負けた二船が勝った一船を囲み、沖の無人島に漕ぎつけてけんかすることがしばしばあった。那覇と久米とは外来者の漁夫を臨時に選手にやうこともあったが、泊は地元に限られていたので、意気込みが違っていたらしい。泊が勝った時は、那覇と久米とが連合して泊とけんかし、時に死人を出すことさえあった。そこで、泊の haariiʔuta はもっとも悲壮で、戦場に行くかのようであった。
- haariiʔuta㉗ (名) ペーロンの時の歌。ペーロンに出かける時、また勝って帰る時歌

haasi

ら。

haasi① (名) 箸。hasi ともいう。また ?u-meesi ともいう。

haasidui① (名) 箸を取って、食べるまねだけすること。婚礼で 'jureenu ?ubun (新郎新婦が一つの膳に向かいあって、同じ飯をかわるがわる食べる式) の時、新郎は一口食べるが、新婦は haasidui だけする。

haatui① (名) 鶏の一種。karaaatui の略。その項参照。

haatujaa① (名) haatui と同じ。

haa?ucagee① (名) そつ歯。出っ歯。前歯がそつて出ている者。

haba① (名) 幅。

haba=cnN① (自 =kan, =ci) はかどる。仕事などが、進む。また、さばける。処理が進む。商品がたくさん売れる・食物をたくさん食べてなくなるなどをいう。muru habacii. みんなさばけたか。

habaka=juN① (自 =ran, =ti) はばかる。はだかる。広い場所をとってのさばる。恐れはばかるなどの「はばかる」の意はない。

haberu① (名) 蝶。宜湾朝保の琉語解釈に「はびる、蝶也。はびらともいふ。百首異見御かきもり云々といふ歌の註に、蝶の旧名はかはびらこと見えたり。かはびらこのかこと略したるなるべし」とある。

haberubaa① (名) 銀杏の葉。また、銀杏の木。

habiru① (名) [文] haberu (蝶) の文語。文語でも haberu ということもある。

habu① (名) はぶ。奄美・沖縄特産の毒蛇。形はまむしに似て、体長1メートル前後。淡い褐色をしていて猛毒を有し、人に恐れられる。血清注射液ができてからは命拾いも可能となった。忌んで nagamun ともいう。

habukakuzaa① (名) あご骨の張った者。意志強く、強情で鬨争的だとされる。

habukakuzi① (名) はぶのように三角形に張ったあご。

hacaa① (名) 蜂。?usjuu doo, ~. 蜂が来た時となえるまじない。「おれは王様だぞ、蜂め」の意。

hacaanuſii① (名) 蜂の巣。

hacagumi① (名) 菓子の名。もちごめを蒸し、乾かして炒り、砂糖を入れて四角に固めたもの。おこし。

hacaihwiQcai① (名) 吐いたり下したりすること。~ sjun.

haci① (名) 八。入つ。普通は 'jaaçi という。

haçi-(接頭) 初。初めての意を表わす接頭辞。haçi?aqcii (産後の初歩き)、haçimu-mu (その年の初めての楊梅) など。

haçi?aqcii① (名) 産婦の初めての外出。産児をつれてまず里方へ行き、次に親類回りをすする。

hacienun① (自・不規則) 来てしまう。来ちゃり。来るの意味を軽くいう語。hacikuu. 来ちゃえ。?jaa miibusjanu hacicasa. おまえに会いたくて来ちゃったよ。nama kee?Nzi hacikuuwa. いまちょっと行って来ちゃえ。

haçiganai① (名) 初雷。初雷がなると梅雨が上がるとか、また、初雷が大きければはぶの卵が şimuru (腐って孵化しない卵) になるなどいう。

haçigoosaa① (名) katakasira (その項参照) を初めて結った男を祝福して、その親戚・友人などが、頭に指拳 (koosaa) を加える儀礼。いたずらに強く打つ場合もある。

haçigwaçi① (名) 八月。

haçiharu① (名) [文] 初春。旧暦の正月のこと。

haçika① (名) はつか。二十日 一日の二十倍。また、月の第二十番目の日。

haçikaju① (名) [文] 旧暦二十日の夜。月

- の出が遅いため、宵闇の形容となる。～nu kurasa, ʔikusaciN miraN. [廿日夜の暗さ 行先も見らぬ(執心鐘入)] 二十日の夜の暗さで、行く先も見えない。
- haçikasjoogwaçi**① (名) 二十日正月。旧暦の正月二十日。この日を正月の最後の祝日として、簡単なごちそりを作り、一日を遊び暮らした。またこの日に zuriʔNma [尾類馬] (その項参照) の行事が行なわれた。
- haçikoo**① (名) [初科] 初めて受ける koo [科] (文官試験)。koo [科] の項参照。
- hacikooraasjan**① (形) hacikoogisaN と同じ。
- haçikoorii**① (連体) しまつにおえない。手におえない。～ ninziN. 手におえない人間。
- haçikoosaN**① (形) ㊦ごごわしている。しなやかでない。肌ざわりが悪い。basjaa-nunoo ~. 芭蕉布はごごわしている。㊦言行がなめらかでない。角がある。
- haçikoogisaN**① (形) 何となく角がありそうである。人相の悪い者などをいう。
- haciku=nuN**① (自 =maN, =di) むくむ。水気ではれぼったくふくれる。çiranu ~. 顔がむくむ。nuudii ~. 悲しみのためにのどが(はれて)つまる。悲しみがこみ上げる。
- hacimaci**① (名) [帕] 男が礼装する時に用いた冠。位階によってその色が異なり、紫は ʔazi [按司], 薄黄色は ʔweekata [親方], 濃い黄色は peeciN [親雲上], 赤は ʔuhujakuu [大屋子], satunusi [里之子], cikudun [筑登之] など、青は sju-maziriʔuqei [諸岡切掟], 緑はこれら以下、などの区別があった。
- haçimumu**① (名) その年初めての楊梅。mumu は普通 ʔjamamumu (楊梅) をさす。
- haçimun**① (名) 初もの。
- haçinaçi**① (名) [文] 初夏。旧暦四月をさす。ʔwakaçi ともいう。
- haçinai**① (名) 初なり。初めてなった果実。nai は果実。
- haçinaNka**① (名) 初七日。
- hacinici**① (名) 八日。ようか。一日の入倍、また月の第八の日。
- hacinin**① (名) 八人。ʔjaqtai ともいう。
- hacinuku**① (名) ʔusjuukoo (法要) の折に、お供物を入れる器。simimun (にしめ) を入れることが多い。
- haçiʔNmaga**① (名) 初孫。
- haciʔNza=sjuʔN**① (他 =saN, =ci) 吐き出す。
- hacinmi**① (名) 鉢嶺。《地》参照。
- haçiʔucaku**① (名) 遊女になって初めて接する客。
- haçiʔukusi**① (名) [初興] 正月三日にするはじめての仕事。仕事始め。
- haçizuri**① (名) 男が初めて買った女郎。
- hacizuu**① (名) 八十。
- hacizuuhaçi**① (名) ㊦八十八。㊦米寿。tookaciʔujuwee の項参照。
- ha=cuN**① (他 =kaN, =ci) 吐く。
- ha=cuN**① (他 =kaN, =ci) ㊦佩く。(自分の) 首に掛ける。kubikara ~. 首に掛ける。tama ~. イ。(のろなどが) 首かざりの玉を首に掛ける。ロ。丸丸と太って、皮膚がくびれる。ʔanu ʔwarabee tama haçi ʔeeraasjan. あの子供は、皮膚がくびれるように太ってかわいらしい。㊦弁償する。つぐなう。ʔwanameejun は主として対等の物で弁償することに、hacun は主として金で弁償することに用いる。hakee. 弁償しろ。
- hada**① (名) 肌。
- hadaʔaçisaN**① (形) 皮膚の体温が熱い。熱っぽい。肌がほてる。hwaahwaa sjuN ともいう。
- hadahusja**① (名) 人の肌を欲しいと思うこと。情欲を上品に言った語。～ çsi ʔju-

hadaka

ru baaja ʔaraN. 肌欲しと言うのではない。茶飲み相手として欲しいのだ。老後、結婚しようとする時などに言うことば。

hadakaⓐ (名) 裸。

hadakaamuueaaⓐ (名) **hadakaamuucii** の卑称。

hadakaamuucii ⓐ (名) 裸んぼろ。子供などについている。

hadakaamuziⓐ (名) 裸麦。

hadakaʔnmaⓐ (名) 裸馬。鞍を置かない馬。

hadamiⓐ (名) [文] 肌身。

hadamuciⓐ (名) ⊖肌の感触。肌心地。⊖気候が肌に与える感触。また単に気候。kugwaçi natakutu ~nu 'jutasiku natooN. 九月になったので、気候がよくなった。

hadasibuiⓐ (名) ⊖肌着。つつそでの肌着。duusibui ともいう。⊖死人に着せる肌着。

hadoobiⓐ (名) ふんどし (sanazi) の上品な語。肌帯。

hagaaⓐ (名) はげ。hagii の卑称。

hagaciⓐ (名) 手紙。書状。nagunu ban-dukuru tadaimanu ~ 'wanu mutaci tabori 'wanzo mjagana. [名護の番所ただいまのはがき わぬ持たちたばうれ 我無蔵見やがな] 名護の役場への至急の手紙をわたしに持って行かせて下さい。わたしの恋人に会うついでに。

hagamaⓐ (名) 釜。はがま。周囲につばのある、飯炊き用の釜。

haganaaⓐ (名) haganimuN と同じ。

haganasaNⓐ (形) 足りない。不足である。充分な量より少ない。ziNnu kuqsasaani haganasaee sani. 金がこれだけで足りなくはないか。caa kweemuNnu haganasatan. いつも食い物が足りなかった。

haganiⓐ (名) はがね。鋼鉄。

haganimu'Nⓐ (名) 頭のきれる者。きれ

者。賢い者。

haga=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 剥がす。hazun (剥ぐ) ともいう。

hagiⓐ (名) やせ地。地味のやせた土地。

hagiçiburuⓐ (名) はげ頭。

hagiiⓐ (名) はげ。はげ頭 (の人)。

hagi=junⓐ (自 =raN, =ti) ⊖はげる。毛・木などが、はげる。また、皮がはげる。⊖皮膚がむけていただける。kusinaganinu ~. 床ずれなどで、背中 of 皮膚がむける。miinu ~. 目がただれる。

hagimooⓐ (名) 荒れ地。荒れ野。畑の荒れ果てたところ、木のない山地など。

hagoogiⓐ (名) さるすべり (百日紅)。樹皮がすべすべして、さわると木全体がくすぐったそりに動くことからいう。<hagoosaN.

hagoogisaNⓐ (形) きたならしい。きたならしく見える。

hagoomuNⓐ (名) ⊖きたない物。⊖下品な者。いやらしい者。

hagooriiⓐ (連体) 大げさな。仰山な。普通でない。すごい。~ muniikata sjun. 仰山な言い方をする。ʔariga ziNnu çi-keejooja ~ mun doo. 彼の金の使いかたはすごいぞ。~ sugai. すごい (普通でない) 服装。

hagoosaNⓐ (形) ⊖きたない。不潔である。⊖くすぐったい。また、むずむずする。気持ちが悪い。また、気味が悪い。hwisja ~. 足もとが気持ちが悪い。蛇が出そうな時などいう。tii ~. 手がむずむずする。また、人のすることを見て、じれったい。⊖下品である。わいせつである。けがらわしい。いやらしい。

hagooʔumiiⓐ (名) くすぐったがりや。

haibanⓐ (名) 廃藩。

haiçeeⓐ (名) [古] 海賊。

haidasiⓐ (名) 張り出し。haigami と同じ。

haigamiⓐ (名) 張り紙。広告・通知事項など紙に書いて往来に張り出したもの。hai-

dasi ともいう。

haihati=junⓐ (自 =raN, =ti) 流れつくす。流れてなくなる。

haihuniⓐ (名) 船足の速い船。hai-<hajun. migušikuni nubuti tisazi muca-giriba, ~nu nareja cumidu mijuru. [三重城に登て 手中持ちあげれば 走舟の習や 一目ど見ゆる (花風)] 見送りのために三重城に登って手ぬぐいを上げて振ると、早い舟のことで、ちょっとの間しか見えなくなごり惜しい。

haiŋica=junˊNⓐ (自 =aN, =ti) 出会う。ひょっくり出会う。

haikawaⓐ (名) [文] 急流。hai-<hajun. siraŋi ~ni nagarijuru sakura, sukuti ŋumisatuni nucai hakira. [白瀬走川に 流れゆるさくら すくておみ里に ぬきやいはけら] 白瀬川の早い流れに流れている桜の花を拗って糸に通し、君の首に掛けてあげたい。このさくらとは、実はつづじのことであろう。~nu gutuni tusan-mija tacui, kuimuđuci mibusja mutunu 'wakasa [走川のごとに 年波や立ちゆい 繰り戻ち見ぼしや もとの若さ] 早い流れのように年波はたって行くが、もとの若さを取り戻して見たいもの。

haikwaa=sjuˊNⓐ (他 =saN, =ci) ㊦やり過ごす。あとから来た者を先へ行かせる。㊦通り過ぎてしまふ。mura ~. 村を通り過ぎてしまふ。hai-<hajun.

haikwaŋkwi=junⓐ (自 =raN, =ti) 走って隠れる。急いで隠れる。

haikwii=juˊNⓐ (他 =raN, =ti) 通り過ぎる。通過する。hai-<hajun.

haimaaⓐ (名) 杯。いなかの酒宴などで、一つの杯と徳利とを、飲んで次々に早く回すことからいう。

hainuziⓐ (名) 張り抜き。張り子の人形。型に紙を重ねて張りあわせ、あとで型を抜いて作る。

haiŋmaⓐ (名) よく走る馬。駿馬。~nu kiŋcaki. または、~nu čimakurubi. 駿馬のつまずき。上手の手から水がもる、猿も木から落ちるの類。hai-<hajun.

haiŋnaⓐ (名) 縄を張ること。また、張った縄。また、縄を張ったところ。縄張り (勢力範囲) の意はない。

haiŋzuⓐ (名) 水はけをよくするための溝。

haiŋizi=junⓐ (自 =raN, =ti) 才走る。小利口にすぎる。hai-<hajun.

haiŋiziraaⓐ (名) haiŋizirimun と同じ。

haiŋizirimuˊNⓐ (名) 才走った者。小利口者。

hajaa=sjunⓐ (自 =saN, =ci) 出くわす。予期しないで出会う。

hajaga=junⓐ (自 =raN, =ti) 超過する。費用などが、予定より余計にかかる。ŋiriminu kusakii hajagatoon. 費用がこんなに超過した。

hajamaigutuⓐ (名) 早まった事。早計。

hajami=junⓐ (自 =raN, =ti) 早める。時間・速度を早める。tucii ~. 時計を進める。sikuci ~. 仕事を早める。ŋuhwee ŋasi hajamiri. 少し急いで行け。

ha=junⓐ (自 =raN, =ti) ㊦走る。動物・舟・急流などが走るのをいう。人が走ることには haee sjun, haee najun などという。ŋnmanu ~. 馬が走る。harasjun. 走らせる (人を走らせることは haee simjun という)。huni harasjun. 舟を走らせる。㊦流れる。流れ出る。ciinu ~. 血が流れる。血が出る。ŋasinu ~. 汗が流れる。汗が出る。ŋasi harasjun. 汗を流す。汗をかく。

ha=junⓐ (他 =raN, =ti) ㊦張る。ŋakai ~. 障子を張る。kasa ~. イ. 傘を張る。傘を作る。ロ. 傘をひろげる。㊦あらわにする。露出する。mee ~. 陰部を露出する。hazi ~ ともいう。

hajuuⓐ (名) 魚名。長さ 15~20 センチく

hajunguci

らいで、口のとがった小魚。

hajunguciⓐ (名) *hajuu* (魚名) のようにとがった口。

hakaⓐ (名) 墓。kaaminakuu, hwaahuu, huineibaka の三つの形式がある。

hakabaanⓐ (名) 墓番。墓所の番人。昔は特別に小屋を作って専らこれを業とするものがいたが、近年は墓の近くの農家が頼まれる。

hakabusinⓐ (名) 墓の普請。墓を作ること。

hakadu=junⓐ (自 =raN, =ti) [新?] はかどる。仕事が着着と進行する。

hakaguciⓐ (名) ⊖ 畑仕事の端緒。鋤を入れはじめるところなど。昔はその方位について気を使った。⊖ 転じて、仕事などのしはじめ。端緒。～ Yakijun. 端緒を開く。

hakaiⓐ (名) 秤。

hakaibameeⓐ (名) 食糧不足の時、食糧を余計に炊かないよう、量を計って炊き、一定量以上食べないようにすること。

hakainumiiⓐ (名) 秤目。

hakajaamusiⓐ (名) 尺取り虫。

haka=junⓐ (他 =raN, =ti) 計る。計測する。

hakamaⓐ (名) ⊖ 女が下着として用いるはかま。首里・那覇など都会の女が多く着用した。下ばかま。首里のものは、男のさるまたに似ていて、ひも (hakamanuu) を通して結ぶ。那覇のものは足の口が狭く、帯のようなひもで上からしばった。⊖ 乗馬用のはかま (?Nmanuibakama)。男は乗馬用のもの以外に、はかまを付けることはなかった。

hakameeⓐ (名) 墓参り。

hakanuzooⓐ (名) 墓の、棺を出し入れする口。葬式の時以外は開けず、ふだんは墓石をはめてある。

hakaraasanⓐ (形) はかばかしい。はかが行く。nuu hakaraasii kutu siijuusan. 何ひとつはかが行くようなことはできな

い。

hakara=junⓐ (他 =aN, =raN, =ti) 計らう。企画する。あらかじめ考慮する。'juunusaci ~. 先の世の中のことを考えに入れる。

hakareeⓐ (名) 計らい。あらかじめの配慮・計画・処置。

hakarigutuⓐ (名) はかりごと。計略。

hakiⓐ (名) 刷毛。

haki=junⓐ (他 =raN, =ti) ⊖ 佩く。首に掛ける。şışidama ~. じゅず玉を首に掛ける。⊖ 弁償させる。つぐなわせる。罰金などを課す。kwasin ~. 罰金を課す。

hakuⓐ (名) ⊖ 箱。⊖ (接尾) 箱の数を数える時い。cuhaku (一箱), tahaku (二箱) など。

hakuruuⓐ (名) 白露。二十四節の一つ。hwakuru ともいう。

hakuzooⓐ (名) 薄情。～na 'utu. 薄情な夫。

hakuzooⓐ (名) 白状。～ sjun.

hamaⓐ (名) 浜。海浜。

hamaⓐ (名) 浜 (地) 参照。

hamaciduriⓐ (名) [文] 浜千鳥。口語は cizujaa. tariju ŷuramituti nacuga ~, ŷawan ċirinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥 会わぬつれなさや 我身も共に] 誰をうらんで鳴くのか浜千鳥よ。会わぬ悲しさはわたしも同じだ。子を失って悲しんだ歌。qkwamu-caabusi [子持節] で歌う。

hamaciduribu'siⓐ (名) 浜千鳥節。その一節は, tabija hamajadui kusanu hwađu makura, nitin 'waşiraran 'wajanu ŷusuba. [旅や浜やどり 草の葉ど枕 寝ても忘ららぬ 吾親の御傍] 旅は浜に宿って草の葉を枕に寝るが、寝ても、わが親のそばが忘れられない。あとに次のはやしが入る。cizujaa hamauti cuicuina. [千鳥や浜居て ちゆいちゆいな]

hamagaaⓐ (名) 浜川。[地] 参照。

hamahwiza① (名) 浜比嘉島。沖縄本島勝連押 (kaqciNnumisaci) 東方にある島。
 hama=juN① (自 =raN, =ti) [新?] ⊖はまる。ほどよく入る。⊖ (落ちて、溝などに) はまる。
 hama=juN① (自 =raN, =ti) はげむ。没頭する。ʔumihamajuN ともいう。
 hamamutu① (名) 浜元。(地) 参照。
 hamaʔuri① (名) 行事の名。野鳥が屋内に入ると不吉であるとし、その厄をはらい清めるため、浜に降りて行って、一日を浜で遊び暮らした。その行事をいう。
 hami① (名) 牛・馬・豚などの家畜の飼料。
 hamuN① (名) 刃物。
 hamuN① (名) 端物。はんばもの。数量の揃わないもの。
 hamuNziN① (名) はした金。
 hana① (名) ⊖花。草木の花。⊖美しいこと。はなやかなこと。~nu 'warabi. 花のように美しい子ども。⊖遊女。ʔuri の美称。
 hana① (名) 植物名。草綿。植物名としての綿。なお、沖縄には木の綿はない。
 hana① (名) 鼻。~ hucun. いびきをかく。~ huracun. 得意げに鼻をうごめかす。huracun は「開く」。鼻の穴を開く意。~ hwijuN. くしゃみをする。くしゃみをした場合には kusu kwee (「くそ食え」の意) というまじないを唱える。~ sipi-juN, 鼻をかむ。~ šišijuN. 鼻をすすする。また、鼻をすすって泣く。~nu ʔwiikara hoojuN. 増長する。つけあがる。夫の寛大さに妻がつけあがる場合などにいう。鼻の上をほう意。hooraşee ~nu ʔwiimadiN hoojuN. どこまでもつけあがる。はわせれば鼻の上までもほうという意。~nu sicanu 'Nzugwaa. 鼻の下のみぞ。人中(にんちゅう)。
 hana① (名) ⊖端。はな。はずれ。kiinu ~. 木のこずえ。⊖(接尾)端。はな。taka-

hana(高く突き出たはし。がけのふちななど), suzibana (風の強く当たる高い所) など。
 -hana (接尾) はな。はじめ。ʔirihana (入ればじめ), niilhana (煮えはじめ), ʔNzi hana (出ははじめ。茶の出花), ninzihana (寝入りばな) など。
 hanaʔasi① (名) 鼻にかく汗。
 hanaʔatai① (名) 花園。花畑。
 hanaʔatai① (名) [文] hanatai [花当] の文語。
 hanabaaci① (名) 植木鉢。
 hanabana① (名) はしばし。hanasinu ~. 話のはしばし。
 hanabasjuu① (名) 植物名。花芭蕉。ひめばしょう。赤い花の咲く、丈の低い芭蕉で、観賞用。
 hanabi① (名) [新] 花火。
 hanabira① (名) 花がつか。かつおぶしなどの薄くけずったもの。
 hanabiraa① (名) 鼻のひしゃげた者。
 hanabooru① (名) 菓子名。小麦粉に砂糖を入れ、めがねのように左右に大きく輪の形にして焼いたもの。祭祀用に作る。
 hanabuqkwa① (名) 鼻の盛り上がったところ。また、鼻の卑称。
 hanadai① (名) 鼻みず。
 hanadajaa① (名) 鼻みずを垂らしている者。はなたらし。
 hanagaci① (名) 植物名。むくげ。もくげ。夏から秋にかけ、白または紫の花をつける。
 hanagakii① (名) 端に腰かけること。ちょっと腰をかけること。
 hanagami① (名) [新?] 鼻紙。懐中用紙。
 hanagan① (名) [新?] hanagami と同じ。
 hanagasa① (名) 花笠。花の形に作った笠。舞踊・組踊りに用いるもの。
 hanagi① (名) 花を観賞するために植える木。

hanagii

hanagii① (名) 鼻毛。

hanagi=juN① (他 =raN, =ti) ふんわりとさせる。押しつけずにふわりとさせておく。飯を軽くよそう場合などをいう。

hanagumi① (名) [花米] 神前に供えるための洗い清めた米。その敬語は 'npana-gumi。

hanaguni① (名) はなやかな村。遊芸の盛んな村。

hanaguşiku① (名) 坂名城。《地》参照。

hanaŋici① (名) 花瓶。花いけ。壺前に花を供える時に用いる。

hanaŋika① (名) 料理名。いかの肉を花型に切り、食紅で染めて、塩味を付けたもの。kaşitira, kamabuku などとともに料理に色どりを添える。

hanakaa=sjuN① (自 =saN, =ci) かけ合う。二つの事件が同時に起こる。

hanakakiŋaaruu① (名) 鼻のかけた猿。次の句で用いる。~nu matagaaru 'wara-juN. 鼻のかけた猿が完全な猿を笑う。自分の欠点を知らずに、かえて他の完全なものを笑う意。

hanakatamajaa① (名) 鼻つまり。鼻がつまること。また、鼻のつまった者。

hanakusu① (名) 鼻くそ。

hanami① (名) 花見。

hanamoo① (名) 鼻のかけた者。鼻かけ。梅毒患者に見受けられる。

hanamunii① (名) hanamunuŋiiと同じ。

hananuunuŋii① (名) 鼻声。かぜを引いて、または甘えて鼻にかかった声で話すこと。

hanamusiru① (名) 花むしろ。花ごぞ。

hananusaci① (名) 鼻の先。きわめて近い所。miinumee (目の前)と同じ。

hananusima① (名) 遊里。花街。色里。

hanapiipii① (名・副) かぜを引いて鼻がつまって音をたてること。また、そのさま。

hanari① (名) 離れ島。離島。ことに沖縄群島の本島以外の島、すなわち、久米・伊

平屋・伊は名その他の島をいう。

hanari=juN① (自 =raN, =ti) 離れる。

hanarizima① (名) 離れ島。離島。

hanasi① (名) 話(演説・談話・うわさ・物語など)。~sjun. 話をする。単にしゃべる意では 'jununを用いる。~ŋuciŋ-zasjuN. 話を切り出す。hanasee hwa. 話は葉。話というものは葉ばかりで実がなく、信用できない。~hangaku. 話半学。人の話を聞けば半分学問した効果がある。~nu 'uu. 話の緒。余計な修飾。

hanasibuku① (名) 暗誦。書物をそらで復読(huku)すること。

hanasici① (名) 鼻かぜ。また、単にかぜ(風邪)。~kakajuN. かぜを引く。

hanasicikagiN① (名) 鼻かぜ気味。かぜ気味。

hanasibiraa① (名) 鼻ぺしゃ。鼻が押しつぶされたようにひらたい者。

hana=sjuN① (他 =saN, =ci) 離す。放す。(付いているものを)放す。距離を離す意では hanarasjuN という。cii ~. 乳を離す。また、離乳する。tii ~. 手を離す。また、手離す。tii hanasan gutu kaçimitoori 'joo. 手を離さないようにつかんでろよ。ŋicunasanu tiinu hanasaraN. 忙しくて手が離せない。

hana=sjuN① (他 =saN, =ci) 話す。

hanatai① (名) [花当] 王室内の接待係をする少年。小姓。

hanaŋuci① (名) 綿打ち。綿を打ち直すこと。また、それを業とする者。'wataŋuciともいう。

hanaŋui① (名) 花織り。経糸と緯糸とを交互に浮かせて織った織物。

hanaŋui① (名) 花売り。花を売る人。また、花を売ること。

hanauu① (名) 下駄・草履の前緒。足指にかかる部分のことで、緒全体(いわゆる鼻

- 緒)には niriuu (皮のものは kaauu) という。
- hanazakai① (名) ⊖花盛り。⊖転じて男女の20歳前後。青春。
- hanazii① (名) 鼻血。
- hanazumiti'isaazi① (名) 花の模様を染めた手ぬぐい。
- haneec=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖色つやが美しく出る。つやが出て美しくなる。芭蕉布などに酸類を入れてつやが出る場合などにいう。⊖花やかになる。⊖にぎやかになる。にぎわう。
- haneeka=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖にぎやかにする。zaa ~. 座をにぎやかにする。⊖花やかに美しくする。
- haneeki=jun① (他 =raN, =ti) haneeka-sjuN と同じ。
- hani① (名) 筆先ではねること。また、筆先ではねたところ。
- hani① (名) 羽。羽毛。また、つばさ。
- hanigee① (名) 羽がい。両翼の付け根の骨の部分。また、転じて翼全体。
- hani=jun① (他 =raN, =ti) ⊖はねる。水・どろなどを、はねる。mizi ~. 水をはねる。⊖筆先を、はねる。⊖計算を、御破算にする。⊖拒絶する。
- hani=cuN① (他 =kaN, =ci) はねて入れる。はねとばして入れる。
- hani?ueci① (名) 羽ばたき。
- hani?utu① (名) 羽音。羽ばたきの音。
- hani?weeziki=jun① (他 =raN, =ti) (仕事などを)押しつける。無責任に他にまかせる。sikuci ~. 仕事を押しつける。qkwa ~. 子(のもり)を押しつける。
- hanizi① (名) 羽地。《地》参照。
- han① (名) 判。印鑑。?in ともいう。~ ?icun. 判をつく。判を押す。
- han- (接頭) 半。hanri, hanmici (半里), hanbun (半分), hannici (半日) など。
- han (接尾) 半。?icirihan (一里半) など。
- hanbin① (名) はんぺん。
- hanbun① (名) 半分。なかば。
- hanbun?ieici① (名) 半死半生。半分生きの意。
- hanbunmici① (名) 道のりの半分。半道。一里の半分は hanmici という。
- hanbun?utagee① (名) 半信半疑。han?utagee ともいう。~ sjuN. 半信半疑である。
- hanbunwaakii① (名) 半分わけ。折半。
- hanbunzini① (名) 半死半生。死にかけ。~ natoon. 死にかけている。
- hancigee=jun① (自 =raN, =ti) はねっかえる。はねて元の方へかえる。
- han=cuN① (他 =kaN, =ci) はじく。弾力によってとばす。
- hancuu① (名) [新?] 半休。半分休む日。土曜日をいう。
- hancuujaama① (名) はね仕掛けのねずみ取り。hancuu < hancun. (はじく)。'jaama は機械。ねずみ取りは ?wencujaama ともいう。
- handama① (名) 野菜の名。はるたま。水前寺菜。
- handi① (名) 布を織る場合の経糸の余り。経糸は計算が不正確な場合には余ったり足りなかったりする。その時余った糸をいう。handi < handijun.
- handi=jun① (自 =raN, =ti) はずれる。kuzikara ~. くじからはずれる。?uubinu ~. 帯がほどける。
- handuu① (名) [半胴] 水がめ。炊事用・飲料用の水を入れておく、口の広い大きいかめ。handuugaami の略。
- handuugaami① (名) handuu と同じ。handuugami ともいう。
- handuugami① (名) handuu と同じ。
- hangwi=jun① (自 =raN, =ti) 解ける。ほどける。解けてはずれる。?uubinu ~. 帯が解ける。

haNgwimUN

haNgwimUN① (名) 放蕩者。

hanki① (名) 亀頭。<hankijUN. ~nu
ʔugAN. 陽石を神体として祭ったところ。
那覇の湧田にあり、中島遊郭の女たちが拝
んだという。

hanki=juN① (自 =raN, =ti) 外側に剥け
る。皮がむけて、中があらわれる。

hankwa① (名) ぜいたく。華美。派手。~
ni sjoon. ぜいたくにしている。派手に
している。kwabitoon ともいう。~na
mun. 派手な者。だて者。男について多
くいう。

hanmee① (名) 食糧。米に限らずいう。~
nu ciritooN. 食糧が切れている。

hanmici① (名) 半里。半道 (一里の半分)。
hanri と同じ。半行程の意では hanbun-
mici という。

hannagi=ju⁷N① (他 =raN, =ti) 投げ捨て
る。放棄する。

hannici① (名) 半日。

hansan① (名) [半山] 支那茶の一種で、上
質なもの。

hansi① (名) 一時的な処置。当面の処理・
解決。間に合わせ。ʔicutanu ~. 応急措
置。一時しのぎ。

hansii① (名) おばあさん。那覇で士族の祖
母・老婆をいう語。

hansjoo① (名) [半笛] 横笛。歌口のほかに
穴が七つあるのが普通。中国の管楽器の
簫は管が十六あり、横笛はその半分の八つ
あるので半簫の意か。

han=sjUN① (他 =saN, =ci) ①はずす。ʔuu-
bi ~. 帯をはずす。帯を解く。②解決す
る。処理する。zingutoo 'winagunoo ha-
nsijuusan. 経済は女では解決できない。
③ (接尾) …しそこなり。…しそびれる。
…する機会を失する。…し損じる。ʔicee-
hansjUN (会いそこなり), tuihansjUN
(取りそこなり), ʔiihansjUN (射損じる),
ʔiihansjUN (言いそびれる) など。

hansu① (名) [文] さつまいも。甘藷。

hanta① (名) 繁多。多忙。~ʔjan. 多忙で
ある。~na baa. 多忙な時。

hanta① (名) ①端。はしっこ。②崖のふ
ち。また崖。

hantagaki① (名) ①端に腰掛けること。②
ものを何かの端に掛けること。③転じて、
身のはいらないやり方。あやふやなやり
方。~qsi. いいかげんなやり方をして。

hantasjan① (形) 危っかしい。あやふやで
ある。hanta (崖のふち) にいるように、
安定がなく危いことにいう。危いは普
通 ʔukaasjan という。hantasii kutu.
危っかしい事。

hantigutu① (名) 冒険。危険をおかしてす
ること。

hantiwaza① (名) 危険な業。

hanʔutagee① (名) hanbunʔutagee と同
じ。

hanza① (名) 波平。(地) 参照。

hanzansiimee① (名) おばあさま。貴族の
祖母・老女をいう語。

hanzi① (名) 易者の判断。

hanziquu① (名) 偏頭痛。半頭痛の意。ka-
taqiburujan ともいう。

hanziri① (名) たらい。桶の底の浅いもの
で、半切りの意。那覇その他では taaree
という。

hanzoo① (名) ①繁盛。②出産。また、生
まれた子供。~sjun. 子を産む。~ja
ʔikutaiga. 子供は何人か。

haqcaka=juN① (自 =raN, =ti) 出くわす。
ぶつかる。ʔooeenu miinkai ~. 喧嘩し
ている所へ出くわす。

haqcati=juN① (自 =raN, =ti) 盛り上がる。
cii ~. 乳房が盛り上がる。

haqci① (名) 八卦。綱引きの場合の hata-
gasira [旗頭] に付ける qizinduuruu
[燈籠籠] などに入卦を描いたものがある。

haqci=juN① (他 =raN, =qci) はち切れそ

りにする。
haqcirijuN① (自 =raN, =ti) はち切れる。
 haqcirirandi sjuru sjaku kweetoon.
 はち切れるばかりに太っている。
haqciriracirira① (副) 太って、はちきれ
 そうなさま。～ sjoon. はち切れそりに
 太っている。
haqka① (名) hwaqka と同じ。
haqkaku①① (名) 八角。
haqkukuNkukuN① (副) ほお張るさま。
 ～. qsi kanun. ほお張って食べる。
haqpa=juN① (他 =raN, =ti) 大きく開く。
 穴などの表面を周囲に開く時にいう。mii
 ～. 目を見開く。
haqsaN① (名) 発散。熱が引くこと。hana-
 sycinu basjoo kusui nudi ～ simijun.
 かぜを引いたときは、薬をのんで熱を引か
 せる。
haqsaNgsui① (名) 体熱を発散させる薬。
 熱さまし。
haqsiNzuubaku① (名) 8寸四方の重箱。
 重箱のうちでもっとも大きいもので、普通
 の重箱は6寸四方。
haqtu① (名) [法度] 法度。禁止。禁制。
 ～ sjuN. 禁止する。kumautee micikara
 ŷuta sjuŷee ～ doo. ここでは道で歌を歌
 りのは禁止だぞ。'winagoo ～～, mudu-
 ri muŷuri. [女は法度法度 戻れ戻れ (執
 心鐘入)] 女人は禁制だ、帰れ帰れ。
haqturugeejaa①* (副) paqturugeejaa
 と同じ。
hara① (名) 腹。普通は 'wata という。ha-
 ra は単独ではほとんど使わないが～ nu-
 kutamijun (腹を暖める。'wata nuku-
 tamijun と同じ) とはいう。複合語と
 しては haragukuci (腹心地), haradaci
 (腹立ち) など。
hara① (名) ①方。方面。側。ŷanu ～. あ
 の方。あっちの方。maanu ～. どの方
 面。どっちの側。nisinu ～. 北の方。北

側。①(接尾) -bara ともなる。…の方。
 …の側。また、…の身内。…の親類。ŷiq-
 taahara (おまえたちの側。また、おまえ
 たちの親類) など。
harabi① (名) harubi (馬の腹帯) と同じ。
haradaci① (名) 腹を立てること。立腹。
 taŷci ～ja kiganu mutu. 短気や立腹は
 けがのもと。
haragubu① (名) 腹半分。
haragukuci① (名) 腹心地。腹ぐあい。'wa-
 tagukuci ともいう。
haraiŷutu=sjuN① (他 =saN, =ci) 払い落
 とす。ŷaku ～. 厄を払い落とす。
harajukuni① (名) 瘡の名。横腹にできる
 たちの悪い瘡で、命にかかわることがあ
 る。
hara=juN① (他 =aŷ, =ti) ①払う。(代金
 などを) 支払う。また、納めるべき物や金
 を納める意にも、返済すべき物や金を返す
 意にも用いる。①払う。ciNnu hukui ～.
 着物のほこりを払う。
harami① (名) 魚の卵。
hara=sjuN① (他 =saN, =ci) 晴らす。ŷami
 ～. 雨の晴れるまで待つ。ŷurami ～. 恨
 みを晴らす。ŷamiN harasaN, ŷnziti
 ŷnzaN. 雨のやむのも待たずに出て行っ
 た。
haratiŷi① (名) ①はらから。同じ母の兄
 弟。①同じ考えの者。共謀している者。
haraŷuubi① (名) 馬の腹帯。
harawakai① (名) 腹違い。父が同じで母を
 異にする兄弟姉妹。
haree① (名) 払い。支払い。納め。～nu
 'waqsaN. 払いが悪い。
hareemun① (名) 払うべきもの。また、納
 入・返済すべき金や物。
harijaku① (名) 厄が晴れること。ŷnma-
 ridusi (生まれ年すなわち, 13・25・37・
 49・61・73…) が過ぎること。また, ŷn-
 maridusi の翌年。ŷnmaridusi は厄年と

harijun

され、正月を盛大に祝い、その翌年は厄が晴れるので正月を小さく祝う。

hari=juN① (自 =raN, =ti) 晴れる。天候の場合は、雨がやむことをいう。ʔaminu ~. 雨がやむ。ʔaminu ʔjanuN とは元来はいわない。ʔutageenu ~. 疑いが晴れる。ʔjukunu ~. 欲がなくなる。hari-toon. 雨があがっている。曇天および晴天をいう。ʔjakunu ~. 厄が晴れる。ことに厄年 (ʔNmaridusi) が明けることをいう。

hari=juN① (自 =raN, =ti) (ふくれて) 張る。ciinu ~. 乳が張る。できものがはれるのは huqkwijun という。

harima① (名) [文] 晴れ間。

haru① (名) ①畑。主として畑をさすが、畑よりも広義。耕地。田畑。~ ʔaqcuN. 農業をする。②墓。墓 (haka) を忌んでいう語。~kai ʔicuN. イ。畑に行く。ロ*。墓に行く。墓に参る。ハ。死ぬ。忌んでいう語。~nu ʔarabi. 墓のたたり。墓の故障など。墓の故障は子孫に凶事があるとの警告とされる。

haru① (名) [文] 春。hwaru とも発音される。春の季節感がないので、口語ではあまり用いない。

haruʔaqcaa① (名) 農民。農夫。百姓。harusjaa ともいう。-ʔaqcaa <ʔaqcuN (歩く)。

harubi① (名) 馬の腹帯。harabi ともいう。

harudunai① (名) 耕地が隣合わせになっている間柄。

harujaadui① (名) 別荘。ʔjaadui ともいう。その項参照。

harumici① (名) 耕地の間の道。畑の中の道。

harumigui① (名) ①畑の見回り。②*墓の見回り。

harumi=juN① (他 =raN, =ti) 釈明する。

弁明する。疑いを晴らそうと努める。

harusikuci① (名) 畑仕事。農業。

harusjaa① (名) 農民。百姓。haruʔaqcaa ともいう。

harusjuubu① (名) 農業の成績を争う競争。増産のために二村対抗で行なわせたものの。

hasa① (名) 襦 (まち)。はかまの内股・羽織のそでの付け根などに付け足す布。

hasa=nuN① (他 =maN, =di) 挟む。

hasaN① (名) 鋏。

hasi① (名) haasi (箸) と同じ。

hasi① (名) ①橋。~ ʔwatajuN. 橋を渡る。②はしご。~ muqci kuu. はしごを持って来い。ʔjaanuʔwiinkai ~ kakiti nubujuN. 屋根にはしごをかけて登る。

hasibasi① (名) 端端。物のはしはし。すみずみ。

hasiqtu① (副) しゃんと。しっかり。元気に。病後の人・老人などが元気なさま。~ najuN. 元気になる。ʔaqcijoonu ~ sjoon. 歩きかたがしゃんとしている。naa ~ ʔjami. もう元気か。

hasiru① (名) 雨戸。くり戸。

hasiruguci① (名) 戸口。家の出入り口。

hasirunusaN① (名) 戸の上や下などにとりつけた、戸じまりの装置。

hasi① (名) 歯茎。はじし。~nu huqkwitoon. 歯茎がはれている。

hasjoohu① (名) 破傷風。

hasuN① (名) [文・新] 破損。ふつう ʔjandi または ʔjaburi という。

hata① (名) ①はた。ほとり。近く。そば。わき。ʔujanu ~. 親のそば。~ najuN. そばになる。そばに近づく。~nkai najuN. かたわりによる。わきへどく。②(接尾) はた。ほとり。ʔumibata (海ばた), kumuibata (池のはた), macibata (市場のそば) など。

hata① (名) 旗。

hataci① (名) はたち。二十歳。

hatagasira① (名) [旗頭] *çinahwici* (綱引き)の時、東西両陣営に立てる大きな旗。高さ5~6メートルくらいもあり、竿の上には *çizinduuruu* [鼓燈籠] というさまざまな形をした燈籠をのせ、のぼりを付ける。

hatagasiramuci① (名) 綱引き (*çinahwici*)の時、**hatagasira**を持つ者。力のすぐれた若者が二十人くらい選ばれてこの役に当たり、かわるがわる持つ。

hatahata① (副) 何かしようとしてあせるさま。*zin mookirandi* ~ *sjoon*. 金もろけしようとしてあせっている。

hatajumi① (名) *hateen* と同じ。

hataka=jun① (自 =*raN*, =*ti*) ⊖はだかる。広い場所をとる。⊖立ちはだかる (*taci-hatakajun*)。

hataki① (名) 畑。haru は耕地一般。~ *keesjun*. 畑を耕す。

hatakiʔaasa① (名) *mooʔaasa* と同じ。

hataraci① (名) 働き。骨折り。また、仕事の能力。稼ぎ。

hatara=cuN① (自 =*kaN*, =*ci*) 働く。仕事する。労働する。骨折る。*ʔagacuN* よりやや抽象的な意味の語。

hatazui① (名) 頭のまわりの部分だけを剃ること。小さい男の子がする。髪を結っている男の場合は、*nakazui* といって頭の真中を剃る。

hateen① (名) 機織りで、篋(おさ)の一種。二十よみ。経糸1600本を通すもので、最上の織物ができる。また、その織物もいい、宮古・八重山の上布などもこれに相当する。*huduci*の項参照。*nanajumitu hateN kasi kakiti ʔucoti, satuga ʔa-kizubaninsuju şirani*. [七裨と二十裨かせかけておきよて 里があげづ羽 御衣よすらね] はたよみの糸をかせにかけておいて、恋しい男のあきつ羽のように美しい着物を作りたい。*nanajumi* はきわめて粗

い芭蕉布をいうが、ここではとりたてるほどの意味はない。

hati① (名) はて。終わり。~*nu neeran*. きりがない。

hatii① (名) 命知らず。<*hatijun*。

hatijukuu① (名) すごい欲張り。はてしなく欲張る者。

hati=jun① (自 =*raN*, =*ti*) ⊖果てる。終わる。死ぬ意味では用いない。複合語としては、*siihatijun* (し終わる), *ʔjumihatijun* (読み終わる, 数え終わる, シャベリ終わる) など。⊖果てる。限界を越える。命を捨ててかかる。また、すっかりずりずりしくなる。*ʔwinagunu hatiree zaa najun*. 女は果ては蛇のように恐ろしいものになる。*hatitooN*. すっかりずりずりくなっている。命を捨ててかかっている。

hatimun① (名) 命知らず。*hatii* と同じ。

hatiruma① (名) 波照間島。八重山群島の島の名。

hatuma① (名) 鳩間島。八重山群島の島の名。

haʔui① (名) [新] 羽織。以前は *duubuku* (道服) といった。

haʔuta① (名) *hwaʔuta* と同じ。

hau① (感) ああん。子供に口を開かせる時発する語。また、物を食う時などの大きく口をあいたさまをいう語。*hau*. ああんしなさい。

hauhau① (副) ばくばく。大きく口を開閉するさま。*siisinu* ~ *sjoon*. 獅子舞いの獅子が口をばくばくさせている。

haumika=sjun① (他 =*saN*, =*ci*) ああんと口をあける。*haumikaşee*. ああんと口をあけなさい。

-**hazaki=jun** (接尾 =*raN*, =*ti*) 逸す。…しそこなり。…する機会を失う。-*hazikijun* ともいう。*kooihazakijun* (買いそこなり), *ʔiiihazakijun* (もらいそこなり), *ʔNNzihazakijun*, *mihazakijun*

hazi

(ともに、見そこなり)など。

hazi④ (名) ⊖恥。～nu ʔariwadu ninzi-n ʔjaru. 恥があってこそ人間である。～ciriʔun. 恥知らずである。臆面もなく、ずらずしい。恥が切れてなくなる意。⊖陰部。～ʔusujun. 陰部をおおる。

hazi① (名) ⊖筈。当然そうあるべきこと。cuuru ~ ʔjaru qeunu kuuN. 来るはずの人が来ない。～kakijun. しきたり・約束を守る。慣行通りにする。義理を満たす。siqcooru ʔjaanakai ʔuriigutunu ʔatin ʔeesaʔi saNdaree ~nu kakaran.* 知人の家に不幸があっても訪問しなければ義理を欠く。～N kakiraNnuu.* 義理を欠く人。⊖(主として、文末で)だろう。だろうこと。多分…だろうという推量の場合に用いる。cuuru ~. 来るだろう(来るはずだの意ではない)。

hazi① (名) [文] hazigi と同じ。

hazibaaja① (名) 家の周囲、縁側など、端にある柱。muujabaaja (家の内部にある柱)に対する。-baaja < haaja。

hazici④ (名) [針突] 入れ墨。女が結婚後、左右の手の甲および指の背にした入れ墨。明治の中ごろ禁止された。士族と平民の区別があり、また地方・島によっても違っていた。宮古・八重山地方では織物の模様もあったようだが、首里の女の入れ墨は、指には弓の矢、手の甲には星形や柘形、また、それらの組み合わせたものがあった。大体、結婚したしるしとなったものである。

haziciraa④ (名) 恥知らず。-ciraa は切れた者の意。hazicirimuN ともいう。

hazicirimuN④ (名) haziciraa と同じ。

hazigi① (名) 植物名。櫨の一種。りゅうきゅうはぜのき。美しく紅葉する。

hazi=juN④ (他 =raN, =ti) 脱ぐ。ciN ~. 着物を脱ぐ。ciN hazirasjuN. 着物を脱がせる。ʔuudu ~. ふとんを脱ぐ。

hazikasjaN④ (形) 恥ずかしい。hazika-

sja sjun. 恥ずかしがる。hazikasjagisa. 恥ずかしそう。

hazikasjaʔumii④ (名) 恥ずかしがり。はにかみや。

hazikechazi'kee④ (副) つまはじきするさま。また、子供などを叱る時、指をはじいて鳴らしながら言う語。～sarijuN. つまはじきされる。笑いものにされる。

-haziki=juN (接尾 =raN, =ti) -hazakijun と同じ。

hazimai④ (名) 始まり。発端。

hazima=juN④ (自 =raN, =ti) 始まる。

hazimaki④ (名) hazigi (はぜの木) にまけて皮膚病になること。

hazimi④ (名) 始め。最初。

hazimi=juN④ (他 =raN, =ti) 始める。

hazimiti④ (名) ⊖初めて。～nu kutu. 初めてのこと。⊖初対面の目下に対してあいさつとしていう語。目上に対しては～deebiru. (初めまして)のようにいう。

haziri④ (名) 歯切れ。また、言動がきびきびしていること。～nu ʔaN. 歯切れがよい。また、きびきびしている。nuu simitin ~nu ʔutasjaru qcu ʔjaN. 何をさせてもきびきびしている人だ。daruu-kwaruu qsi ~nu neeraN. だらだらしていきびきびしたところがない。

hazisi④ (名) ⊖はずれ。はし。複合語としては、murahazisi (村はずれ)など。⊖末座。

haziuuki④ (名) 桶の一種。大きく丸い桶で、さげる所のないもの。頭にのせて水を運ぶため、雨水をためるため、その他いろいろに用いる。

ha=zuN④ (他 =gaN, =zi) 剥ぐ。kaa ~. イ。皮を剥ぐ。ロ。裸にする。ʔuudu ~. ふとんを剥ぐ。

ha=zuN④ (他 =gaN, =zi) 配る。分ける。分配する。tiiginaa ʔnnaNkai hazi kwitaN. 一つずつ皆に分けてやった。

- ha=zuN**① (他 =gaN, =zi) (船などを) 作る。huni ~。船をつくる。
- hei**① (感) おい。目下へ呼びかける時いう語。taruu ~。おい、太郎。目上に対しては heisai (もし) と, sai を付ける。
- hii**① (感) ⊖(母音が鼻音化する。[çi]) 目下と呼ばれて応答する語。ああ。はい。え。⊖(鼻音化しない) 目下と呼ばれてぞんざいに応答する語。ああ。何だ。
- hii?ii**① (名) (鼻音化して発音されるのが普通。[çii?i]) ?iihii と同じ。?iihii の方を多く用いる。
- hija**① (感) 威勢をつける時に発する語。えい。それ。
- hijamika=sjuN**① (自 =saN, =ci) hija (えい。それ) と言う。hijamikašee. hija と言って力を出せ。
- hjaa**① (名) [火矢・砲] ⊖大砲。⊖爆竹の一種。15センチ位の鉄筒に火薬をつめ、点火して大きな爆発音を出すもの。旧暦8月10日から15日までの間、悪魔を退散させるために打ち鳴らした。
- hjaa**① (名) 機織りの器具の名。綜紵。緯糸を入れるために、経糸を上下させる器具。
- hjaa**① (名・接尾・感・助) 野郎。やつ。人をのしる時いう。?anuhjaa (あの野郎), ?jaahjaa (きさま), ?eehjaa (おいこいつ。やい), ?eehjaa maakaiga ~。(やい、どこに行きやがるか), nuuga ~。(何だ、やい) など。
- hjaa** (接尾) [文] [比屋] 昔の、按司の家の家来の役名。「往昔諸在郷の地頭村頭杯の称呼なり…今の山当 (山林監視官) を昔は山ノヒヤーと呼べりとかや (南島入重垣)」姓のあとへつけて、たとえば murabaru-nuhjaa [村原の比屋] (組踊り「大川敵討」の登場人物) のようにいう。-hjaa の上には ?uhjaa [大親] という役名もあった。
- hjaadaki**① (名) hjaa (綜紵) と同じ。
- hjaagaa**① (名) 祭祀用の菓子の名。小麦粉を円形に薄くのぼし、中をからに焼き上げたもの。?andamuci といっしょに供える。食用にはあまりしない。
- hjaagaa**① (名) ⊖車輪。kurumanu ~。車の輪。⊖転じて、車輪の形をしたもの。菓子名の hjaagaa もその意か。
- hjaagai**① (名) 干上がったところ。水にぬれてない、乾いたところ。
- hjaaga=jun**① (自 =raN, =ti) ⊖干上がる。水分が引いて乾き上がる。⊖雨が上がる。また、雨が上がって、日が現われる。hja-agatikara ?ikee. 雨が上がってから行け。
- hjaaguN**① (名) 比屋根。《地》参照。
- hjaagwaa**① (名) 爆竹。
- hjaai**① (名) 日照り。早魃。
- hjaai?ami**① (名) 日照りの時の雨。旱天の慈雨。
- hjaaidusi**① (名) 早魃の年。
- hjaaigannai**① (名) ⊖雨を伴わない雷。日照りなどの折の雷。音の大きいものの形容となる。⊖転じて、かんしゃく。また、かんしゃく持ち。
- hjaaku**① (名) ⊖百。hjaku ともいう。⊖2厘。ziN (銭) の項参照。
- hjaakugunzu`u**① (名) 3厘。ziN (銭) の項参照。
- hjaakumuci**① (名) 同年の人が死んだ時、2厘の菓子類を買って食った。その菓子をいう。2厘は hjaaku (百) というので、百年も生きるとのまじないである。
- hjaamii**① (名) 狭間。城壁などにある、射撃用の穴やくぼみ。
- hjaaN**① (名) 毛じらみ。
- hjaazoo**① (名) 比屋定。《地》参照。
- hjaku**① (名) 百。hjaaku ともいう。
- hjakudasi**① (名) mumudakabi と同じ。
- hjakuhataci**① (名) [文] 百二十歳。~ najuru coozanu ?uhusjuu. 農村の八月

hjakuʔicii

踊りに出る長者。

hjakuʔiciiⓄ (名) よくうそをつく人。百に一つの真しか言わない人の意。

hjakumaNgwaʼNⓄ (名) 錢百万貫。2万円にあたる。ziN (錢) の項参照。百万貫の金ができると、百万長者の祝いをした。

hjakunaⓄ (名) 百名。《地》参照。

hjakunicizaQkwiiⓄ (名) [新?] 百日咳。saqkwii はせき。

hjakuniNⓄ (名) 百年。

hjakuniNⓄ (名) 百人。

hjakuseeⓄ (名) 百歳。~nu ʔatu. 死後。

hjakusjooⓄ (名) 平民。samuree (士族) に対する身分の名。農民は harusjaa。平民は農業をしなくても hjakusjoo であり、士族は農業をしても hjakusjoo とはいわない。

hjaNnaⓄ (名) 平安名。《地》参照。

hjaNzaⓄ (名) 平安座島。沖縄本島の東側、浜比嘉島 (hamahwiza) の北にある島。また、平安座。《地》参照。

hjaNzanⓄ (名) 平安山。《地》参照。

hjaQkaniciⓄ (名) 百か日。死後百日目(に営む法事)。

hjaQkwanⓄ (名) 2円。ziN (錢) の項参照。

hjoobaNⓄ (名) 評判。~ sjun. 評判する。~ doo. 評判だぞ。~nu ʼwaqsan. 評判が悪い。

hjoobaNmuNⓄ (名) 評判者。kaagigwaja murautooti hjoobaNmunoo ʼwan ʼjašiga…。器量は村で評判者はわたしであるが…。

hjoocakuⓄ (名) 爆竹の一種。火薬を紙に包んだもの。爆発させて遊ぶ。旧暦8月の ʼjookabii にはこれを鳴らして悪魔を退散させる。gansinagwaahjoocaku は、ねずみ花火のたぐい。

hjoorooⓄ (名) 兵糧。

hjoosiⓄ (名) 機会。はずみ。きっかけ。偶

然(の機会)。ʼiihjoosi ʼjasa. いい機会だ。ʼiihjoosi の反対は buhjoosi (あいにく)。~na mun. まぐれあたりのもの。偶然なこと。

hjoosiⓄ (名) 音楽の拍子。楽曲進行の時間の小区分(音楽家の術語)。また、歌の節をたすけて調子をとること。

hjoosiziⓄ (名) 拍子木。夜回りが打ち鳴らす角材。

hjootaNçiburūⓄ (名) ひょうたん。çiburū の項参照。

hjoozoozuⓄ (名) [古] [評定所] 政府。内閣。sansikwan [三司官] と zuuguniNsjuu [十五人衆] のいるところ。

-hjuu (接尾) 俵。-pjuu, -bjuu ともなる。ʔiqpjuu (一俵), nihjuu (二俵), sanbjuu (三俵) など。

hjuuguⓄ (名) 表具。表装。~ sjun. 表装する。

hjuuruciⓄ (名) ひよめき(乳児の脳天の、呼吸のたびに動く部分)。また、脳天。頭のとっぺん。naakunu ~nkai ʔagajun. 脈が脳天まで上がる。非常に驚いた場合をいう。

hjuusiⓄ (名) ひよどり。

hnnⓄ (感) うん。ああ。目下や親しい者の呼びかけに対して応答する語。問いに対する肯定の場合には ʔNN。

hnnⓄ (感) ふん。軽く返事する声。また、鼻の先であしらう声。~ ʔanii. ふん、そりか。

hooⓄ (感) ⊖(母音が鼻音化する。[hōō]) 目下の年長に呼ばれて応答する語。はい。肯定や承諾の時には ʔoo という。⊖(鼻音化しない) 目下の年長に呼ばれてぞんざいに応答する語。ああ。

hooⓄ (名) 女の陰部。ほと。~ sjun. 交接する。

hooⓄ (名) 方。方向。maanū ~. どちらの方。

- hoo**① (名) 法, 方法。~nu neeN. 方法がない。
- hoocaa**① (名) 包丁。
- hooci**① (名) 箒。~ sjuN. 掃く。掃除する。
- hoocibu'si**① (名) ほろき星。彗星。ʔirigaNbusi ともいう。
- hoocika'ci**① (名) 掃除。箒で掃くこと。-kaci は反復する意の接尾辞。
- hoocin=cuN**① (他 =kaN, =ci) ⊖掃き込む。ひとところに掃き集める。⊖(食物を)かきこむ。
- hoociʔutu=sju'N**① (他 =saN, =ci) ⊖掃き落とす。⊖(病人をよく看護して, 病気を)掃き落とすように直らせる。
- hoo=cuN**① (他 =kaN, =ci) 掃く。
- hoocuu**① (名) ⊖料理人。hoocaa を上手に使う人。板前。⊖料理。
- hoogaku**① (名) 方角。
- hoohai**① (感) 火事の時に叫ぶまじないの語。火事を見ればかならず二声叫ばなければならぬとされた。この声を聞けば男は火事場へかけつけ、女は火の神に水をあげる。hoo (女陰) は古来魔除けになっているので、hoo をあらわにして見せるという意と思われる。-hai < hajun. 火事が起こると hoohai の声がちまちま四方に相呼応して、皆火事場へ赴いたものであった。
- hoohaimuucii**① (名) muucii と同じ。その項参照。
- hoogazimaru**① (名) 這って長く延びたガジマル (gazimaru) の木。
- hooiʔnzi=ju'N**① (自 =raN, =ti) 這い出る。
- hoo=juN**① (自 =raN, =ti) 這う。
- hoo=juN**① (他 =raN, =ti) (故意に, または誤って) こぼす。散らす。
- hooka**① (名) 曲芸。軽業・奇術・手品の類。放下。
- hoomu=juN**① (他 =raN, =ti) [文] 葬る。埋葬する。
- hooʔoo**① (名) (鼻音化して発音されるのが普通。[hōōʔōō]) ʔoo と同じ。ʔoo-hoo の方を多く用いる。
- hoori=juN**① (自 =raN, =ti) こぼれる。散らかる。
- hoorimuN**① (名) 不品行な女。家に落ち着かずに出歩く女。あばずれ。
- hootoo**① (名) 放蕩。
- hootoomuN**① (名) 放蕩者。
- hootooniN**① (名) 放蕩人。
- hootu**① (名) はと。Qkwagwaa tiicee (子供を一人) といって鳴く。kutuukwiikwii Qkwagwaa tiicee ʔoonu 'jama ʔnzi nasawa kwira 'jaa. (童話) クトゥークィークィー (はとの鳴き声), 子供を一人奥武の山へ行行って生んだらあげよう。
- hootuNgwa**① (名) 鳩の子。'jukaqcun-gwaa ~. 士族の子は鳩の子のように美しい。
- hootuNni**① (名) はと胸。
- horohoro**① (副) 布・着物などの乾いたさま。また、衣ずれのさま。ʔiieu bitabita kaiki ~. 絹は柔らかかくびったりと肌合い、甲斐絹はホロホロと音を立てて、ともに気持ちがいい。
- hubasira**① (名) 帆柱。
- hubiN**① (名) 文通または交通が不便なこと。
- hucaa=juN**① (自 =raN, =ti) 茂る。繁茂する。こんもりと茂る。hucikunun ともいう。
- hucagi**① (名) [吹上餅] 菓子の名。長円形の餅の回りにあずきを付けたもの。八月十五夜のお供えとする。次のような狂歌がある。çicija mannakani husija ʔamakumani, tature ʔakamaminu çicaru gutosa. [月や真中に 星やあまこまに たとれ赤豆の つちやるごとき] 月はまん中に、星はあちこちに、たとえてみれば餅にあずきのついた hucagi のようなものさ。
- hucan**① (名) 福建。中国の地名。

huci

huci① (名) がけ。きりぎし。山腹のけわしいところ。古語の「ほき」に対応。

hucibanta① (名) 断崖。絶壁。

hucieaa=sju⁷N① (他 =saN, =ci) 吹き消す。

huçigoo① (名) 不都合。不屈き。ふらち。～na mun. 不屈きな者。

hucijuu① (名) 煮え湯。沸騰した湯。huci-<hucUN。

huçika① (名) ふつか。二日。一日の二倍。また、月の二番目の日。

huciki① (名) 毛・繊維の切れくず。kara-zibuciki (髪の毛の散らばったもの), 'uu-buciki (芭蕉糸の切れくず) など。

hucikumi①* (名) 草や木の茂ったところ。茂み。hucikUN ともいう。

huciku=nuN①* (自 =maN, =di) (雨・風が) 吹き込む。

huciku=nuN①* (自 =maN, =di) 茂る。繁茂する。hucaajUN ともいう。ʔanu ʔasi-
cee kiikusanu hucikudoon. あの屋敷は草木が茂っている。

hucikun①* (名) hucikumi と同じ。

huçima① (名) ふすま(襖)。貴族の屋敷などにはあった。普通の家には nakabasiru (家の中の板戸) が用いられていた。

huçima① (名) さかき(榊)。その枝葉を神に供える。

huçi=nuN① (自 =maN, =di) 腫れる。虫などに刺されたあとが少しふくれることにいう。

hucin=cuN① (自 =kaN, =ci) (雨・風が) 吹き込む。

hucituba=sju⁷N① (他 =saN, =ci) 吹き飛ばす。

hucukuru① (名) ふところ。niwaja ʔjuci hujui ʔNmija hana sacui, ʔNzoga ~ja mahweðu hucuru. [庭や雪降ゆい 梅や花咲きゆい 無葎が懐や 真南ど吹きゆる] 庭には雪が降り、梅は花が咲いてい

るが、愛人のふところは暖かい南風が吹いている。

hucukuruʔoozimee① (名) 人知れず喜ぶこと。また、表面苦しそらによそおいながら、内内は安楽に暮らしていることなど。ふところで扇を持って舞う意。～ sjuN.

hu=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖(風が) 吹く。kazinu ~. 風が吹く。⊖沸く。沸騰して蒸気が吹く。ʔwacuN ともいうが、首里では hucUN を多く用いる。ʔjuunu ~. お湯が沸く。

hu=cuN① (他 =kaN, =ci) 吹く。口で吹く。ʔiici ~. 息をつく。息を吹く。hansjoo ~. 笛を吹く。tabaku ~. たばこを吹かす。hana ~. いびきをかく。

hu=cuN① (他 =kaN, =ci) (屋根を) 葺く。**huda**① (名) 札。物事を記した小さい板または紙。

huda① (副) あやうく。すんでのことで。～ kaçimirariitan. あやうくつかまえられるところであった。～ ʔjatasaa. 危いところだったよ。

hudaganasi① (副) あやうく。すんでのことで。huda ともいう。～ sariiteesaa. あやうくやられるところだったよ。

hudagasi① (副) hudaganasi と同じ。

hudaʔiri① (名) 投票。選挙の投票。競売の入札は ʔirihuda。

hudami① (名) ためにならぬこと。のちのちよくないこと。文語では tamisiçi といい。caqci suba nasiinee, ~ najuN. 嫡子を軽んずると、ためにならない。～na. ためにならないような。

hudee① (名) [譜代] 譜代の士族。もとからの士族。sinzan (新参の士族) に対する。

hudi① (名) 筆。

hudii① (名) ⊖稲光。いなすま。⊖はげ。頭の傷あとなどにできるはげをいう。kaNpaci ともいう。～ kaNpaci ʔucicuu

- ʔagaraci 'juuban kwee. はげを、お月さまを上げて光らして、その光で晩飯を食え。(はげをからから童謡の文句)
- hudiki**① (名) 不出来。出来がよくないこと。また、成績などが悪いこと。~na 'warabi. 出来の悪い子供。
- hudu**① (名) せたけ。せい。身長。~nu hwikusan. せいが低い。~ʔwiijun. せいが伸びる。成長する。~ʔwiijuru guttoosa. せいが伸びるようだ。非常に嬉しい時にいう。天に昇るようだ。「天に昇る」とは忌んで言わない。~ʔwasajun. せたけを伸びさせる。成長させる。
- huduci**① (名) おさ(箆)。織機の付属具の名。経糸の位置をととのえ、緯糸を織り込むのに用いる。薄い竹片をつらねて楕円にし、上下にわくを付けたもの。普通の布を織る時は経糸を二本ずつ通すが、ʔusjaamii という冬物を織る時は四本ずつ通す。箆の種類は nanajumi (七よみ) から hatajumi (二十よみ) まであり、一よみ (cujumi) に経糸80本を通す。そこで箆の種類と経糸の数とは次の通りとなる。nanajumi すなわち naneen (七よみ, 560本), 'een (八よみ, 640本), kukuniin (九よみ, 720本), tiin (十よみ, 800本), ciin (十一よみ, 880本), teen (十二よみ, 960本), nuun (十三よみ, 1040本), 'iin (十四よみ, 1120本), ʔiciiin (十五よみ, 1200本), miin (十六よみ, 1280本), tuunanajumi (十七よみ, 1360本), tuujajumi (十八よみ, 1440本), tuukukunujumi (十九よみ, 1520本), hatajumi すなわち hateen (二十よみ, 1600本)。nanajumi が最も粗く、粗末な芭蕉布などで、hatajumi はきわめて細かい上等の織物となる。
- huduguu**① (名) 体の小さい者。ちび。
- huduguusan**① (形) 体が小さい。hudumagisan の対。

- huduhudu**① (名) 年頃。よい年頃。~ni narawa 'ingumi sjun. 年頃になったら縁組をする。
- hudumagii**① (名) 体の大きい者。大柄な者。
- hudumagisan**① (形) 体が大きい。大柄である。huduguusan の対。
- huduni**① (名) 不同意。不承知。不賛成。また、反対すること。~'jan. 不賛成だ。~sjun. 反対する。
- huduunukami**① (名) [不動神] 廁の神。便所の神。
- huduʔwiigurui**① (名) 子供の股の付け根にできるぐりぐり。成長するためにできるとして名付けたもの。
- hugaqtiin**① (名) 不承知。承諾しないこと。~'jan. 不承知だ。'wannee~'jaibiiin. わたしは不承知です。
- huga=sjun**① (他 =san, =ci) ⊖ (穴を) あける。ほがす (九州方言)。mii ~. 穴をあける。⊖人の金などを、使い込む。gumuçi ~. 公金を使い込む。
- hugi**① (名) ⊖穴。⊖会計の欠損。hugee neeni. 欠損はないか。
- hugi=jun**① (自 =ran, =ti) (穴が) あく。ほげる (九州方言)。miinu ~. 穴があく。
- hugimuN**① (名) 穴があいたもの。穴があいた鍋・釜など。
- hugu**① (名) ほご (反故)。書き損じの紙。または、字の書いてある不要となった紙。
- hugui**① (名) ふぐり。陰囊。~tujun. 去勢する。
- hugukabi**① (名) hugu と同じ。
- huiʔasaban**① (名) 農家で、その日の食糧、すなわちさつまいもをその日に掘ること。ʔasaban は昼食のこと。
- huiiti**① (名) 不得手。不得意。huiti ともしう。
- huikée=sjun**① (自 =san, =ci) (病気が) ぶり返す。(病気が) ふたたび悪化する。

huikina

hwiqceesjuN, ʔuqceesjuNともいう。

huikina① (名) 振慶名。《地》参照。

huikumira=riʔjuN① (自 =riran, =qti)
(雨に) 降り込められる。

huimaa=sjuʔN① (他 =saN, =ci) (雨が) 降り残す。(夏のにわか雨などが) 回りに降って、そこに降らない。kunu muraa huimaacaN. この村は降り残した。

huimum① (名) 彫り物。彫刻。

huiʔNza=sjuʔN① (他 =saN, =ci) 掘り出す。地中から掘って出す。

huineci① (名) huinecibaka と同じ。

huinecibaʔka① (名) 横穴式の墓。岩石に掘ったものや、niibi (赤土岩) に掘ったものもある。墓にはこの外、kaaminakuu (亀甲式), hwaahuu (破風式) がある。

huisiti=jun① (他 =raN, =ti) 振り捨てる。振り離して捨てる。

huisudi① (名) 振りそで。貴族の少年が 'wakasju [若衆] として城中で王の給仕などをする時に着た衣裳。緋縮緬の長いそでをひるがえし、女の子のような姿をしていたと見える。廃藩後は 'wakasjuudui [若衆躰], あるいは組踊り (kumiudui) の子役でその姿がしのばれた。その風俗がすたれてからは、日本風の振りそでをいうようになった。

huiiti① (名) 不得手。不得意。huiiti ともいう。ʔutaa ~ ʔjaqsa. 歌は苦手だよ。

huja① (名) 靴。tiqpuu katamiti ~ kumaci, ʔujanu hukooja naraŋga ʔjaa. 鉄砲かついで靴はかせ、親の不孝にならないかねえ。(明治の新制度による師範学校教育を皮肉った歌。「我は官軍」の節で歌われた。)

huja① (名) (ランプの) ほや。

hujagi=jun① (他 =raN, =ti) 振り上げる。miiN hujagiran. mii (目) の項参照。

hujakari① (名) [文] 振り別れの意。(親しい者同志の) 別離。timatu ʔabuzakenu

kanusicanu hamani, ʔNzotu ~nu munu kurisja. [汀間と安部境の 河の下
の浜に 無蔵と振別れの 百の苦しや(汀
間節)] 汀間と安部の境の河の下(地名)の
浜で恋人と別れることの非常なつらさよ。

hujakari=jun①① (自 =raN, =ti) [文] (親しい者同志が) 別れる。hujakariti 'utin sinasakija tageni kajuwacidu siçin macura 'jašiga. [振別れて居ても仕情や互に通わちど節も 待ちゆらやすが] 別れていても情は互に通わせておけば再会の機会も待てるであろう。tumiti tumiraran ʔawari hujakariti ʔarasigwinu ʔaraba 'wamija ca sjuja. [とめてとめららぬ あわれふやかれて あらし声のあらば わ身やきやしゆが(忠臣身替)] 止めても止められない。ああ別れてしまっただけから不幸な知らせがあったらわたしはどうしよう。

hujawasi① (名) [文] 振り合わせの意。めぐり合わせ。sudinu ~du guinsarami. [袖の振合せど 御縁さらめ] そでを振り合わせた偶然のめぐり合わせが御縁でありましょう。

hujawa=sjuN① (自 =saN, =ci) [文] 振り合やす意。めぐり会う。tintu zinu nasaki hujawasjuru ʔuciju, ʔNzotu 'in musudi tageni suwana. [天と地の情 振合しゆる浮世 無蔵と縁結で 互に添はな(銘刈子)] 天と地の情をめぐり合わせる浮世のこと、あなたと縁を結んでいっしょになりましょう。

hujoo① (名) 散歩。保養の転意か。~ sjuN. 散歩する。

huju① (名) 冬。寒い季節。四季のうちでは naçi と huju のみが口語として用いられる。

hujumuN① (名) 冬物。冬着類。

hu=jun① (他 =raN, =ti) ⊖ 掘る。ʔana ~. 穴を掘る。zii ~. 地面を掘る。⊖ 彫

- る。彫刻する。
- hu=juN**① (自 =raN, =ti) 降る。ʔaminu ~. 雨が降る。
- hu=juN**① (他 =raN, =ti) ㊦振る。㊦ (男女間で相手を) 振る。また、(男女間で相手を) 嫌う。不満に思う。'utu hutoon. 夫を嫌っている。ʔurinu caku hutoon. 女郎が客をいやがっている。㊦不承知である。もと首を振る意か。いやである。huti kooraN. いやと言って買わない。
- hujuu**① (名) 物ぐさ。無精。~ sjuN. 無精する。~na qcu. 無精な人。
- hujuu**① (名) 芙蓉。観賞用に栽培される。
- huka**① (名) ㊦そと。ʔuci の対。~Nkai ʔNziree. 外へ出る。㊦ほか。他。以外。~nu. ほかの。ʔunu ~nee neeni. そのほかにはないか。qkwajaka ~nee takaraa neen. 子以外に宝はない。
- huka**① (名) 鱻(ふか)。'juubinuqkwa (昨晚の子の意) ともいう。
- hukadaci**① (名) 下痢。huka (外。便所は外にある) にしばしば立つ意と思われる。上品な語で、上品な家庭以外では kusu-hwirii という。~ sjuN.
- hukama**① (名) 外間。《地》参照。
- hukamaaru**① (名) 外を遊び回ること。
- hukaqti**① (名) 不向き。不勝手。不便。手腕・道具・場所などについていう。~na basju. 不便な場所。
- hukasan**① (形) 深い。ʔasasan の対。cimunu ~. 心が深い。hukasii naaka. 深い仲。ʔuraʔuranu hukasa naguʔuranu hukasa, nagunu mijarabinu ʔumuibukasa. [浦浦の深さ 名護浦の深さ 名護のみやらべの 思深さ] 深く入り込んだ浦浦の中でも名護の浦はとくに深い。それにもまして名護のおとめは情が深い。
- huka=sjuN**① (他 =saN, =ci) 沸かす。沸騰させる。'wakasjuN ともいうが、首里では hukasjuN を多く用いる。'juu ~.
- 湯を沸かす。ʔusiru ~. おつゆを沸かす。
- hukatu**① (名) 淵。川・海などの深くくぼんだ所。
- huki**① (名) 首里では使わない。農村で「おかげ」の意。ʔujanu ~. 親のおかげ。
- huki**① (名) 湯気。~nu tacuN. 湯気が立つ。
- huki=juN**① (自 =raN, =ti) さえずる。(小鳥が) 美しい声で鳴く。
- huki=juN**① (自 =raN, =ti) [文] (夜が) 更ける。老いてふけるの意では用いない。tanumu 'juja hukiti... [頼む夜や更けて...] 頼みとする夜はふけて…。
- huki=juN**① (他 =raN, =ti) くぐる。くぐり抜ける。kacinumiikara ~. やぶの中をくぐり抜ける。
- huki=juN**① (他 =raN, =ti) (野菜などを) 間引きする。
- hukoo**① (名) 不孝。kookoo (孝行) の対。~na. 不孝な。
- huku**① (名) 復習のための読書。復読。~sjuN. 復読する。
- huku**① (名) 肺。肺臓。主として動物のそれをいう。
- huku**① (名) 福。~nu ʔukami. 福の神様。
- hukuciei**① (名) ごみ。ほこり。hukui (ほこり) よりも大きく、または量が多く、着物・部屋・庭などにたまったものをいう。ciNnu ~ harajuN. 着物のほこりを払う。
- hukucicikaa**① (副) ほこりだらけ。~sjoon. ほこりだらけである。
- hukucicikaza**① (名) ほこり臭いにおい。食物などにほこりのたまった時のおい。
- hukucirgee=juN**① (自 =raN, =ti) 寒気で、鳥肌が立つ。
- hukugaa**① (名) ㊦鶉の一種。烏骨鶉。hukugii (ふくげ) のあるものの意。㊦寒さで、ふくげの立った鶉。~nu gutoon. (hukugaa のように) 鳥肌が立っている。
- hukugaadui**① (名) hukugaa と同じ。

hukugidacuN

hukugida=cuN① (自 =taN, =qci) 鳥肌が立つ。tuihukugidacuN とか hukuçiru-geejuN ともいう。

hukugii① (名) ㊦ふくげ。鶏のひなのうぶげ。㊦不揃いの小さい毛。人の髪の生え際などの短い薄い毛などをもいう。㊦(寒い時、恐ろしい時などの)鳥肌立った毛。

hukuhuku① (副) かおりのよいさま。馥郁と。juinu hanaa ~ qsi kabasjan. ゆりの花は馥郁としてかおりがよい。

hukui① (名) ほこり(埃)。目に見えないような細かなごみ。~nu tubuN. ほこりが飛ぶ。miinu ~. 目に入ったごみ。

hukuiʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔuguşiku の頂参照。

huku=juN① (自 =raN, =ti) [文・古] 喜ぶ。

hukukuri①* (名) 不心得。~na. 不心得な。

hukumaami① (名) 心臓。動物などのそれをいう。肺臓 (huku) についている豆形のもの。意。maami は腎臓。

hukumiN① (名) てんぷら。tinpura ともいう。

hukuqtu① (副) 不服そうに。不満げに。~sjooN. 不服そうにしている。

hukurasjan① (形) [文・古] 嬉しい。喜ばしい。kijunu hukurasjaja naunizana tatiru, çibuçi 'uru hananu çiju cata gutu. [けふのほこらしやや なをにぎやなたてる つぼでせる花の つゆきやたごと(御前風)]きょうの嬉しさは何にたとえられよう。花のつぼみが露に会ったようだ。namanu gutu 'jariba hukurasjaju ʔajuru. [なまの如やれば ほこらしやどあゆる(忠臣身替)]今の通りであれば嬉しいことである。hukurasja sjun. 喜ぶ。

hukuru① (名) 袋。

hukurugi① (名) きりんそう。多年生草本。葉は倒卵形で両側に刺がある。茎・葉を傷

つけると乳状の液が出て、その液は「ささを入れる (sasa の項参照)」のに用いる。

hukurusudi① (名) 袋そで。袖口を袋のように縫った、たもとのあるそで。duubuku [道服] などのそで。tamutusudi ともいう。

hukutaa① (名) ぼろ。つづれ。

hukutaamusi① (名) みの虫。

hukuzi① (名) 福木。亜熱帯喬木。葉は大判のような楕円形で厚く、子供がいろいろのおもちゃを作る。防風林・防火林にもなるので、琉球の至る所で、村・家の周囲に植えており、奥深い感じを与えている。樹皮からは黄色の染料をとる。hukugi ともいう。

hukuzi① (名) 福地。《地》参照。

hukuzigaci① (名) 福木のいけ垣。

humici① (名) 暑気。熱気。「ほめき」に対応する。

humicikaza① (名) 食物などが暑さで腐れかかったにおい。籠えたにおい。

humicimaki① (名) 夏負け。暑さ負け。

humi=cuN① (自 =kan, =ci) ㊦蒸し暑くなる。また、湿気が多く、なま暖かくなる。「ほめく」に対応する。㊦籠える。食べものが暑さなどで腐って水っぽくなる。㊦にぎわう。人が集まって暖かい感じがする。ʔjaa humikasjun. 人が集まって家をにぎやかにする。

humigui① (名) (めぐりが悪いこと) ㊦経営などがうまく行かぬこと。不振。~na-juN. 不振となる。㊦消化・血の循環などが悪いこと。ciinu ~. 血液の循環が悪いこと。体の調子がよくないこと。

humiitaq¹kwa=sjun① (他 =saN, =ci) ほめはやす。やたらにほめる。大げさにほめる。

humiitatiju¹N① (他 =raN, =ti) humitaitijuN と同じ。

humi=juN① (他 =raN, =ti) ほめる。称赞

- する。
- humiku=nuN**① (自 =maN, =di) ㊦踏み込む。闖入する。㊦身を入れる。勵む。また、とつぎ先・奉公先などで熱心に働く。gakumuNnakai humikudoon. 学問に身を入れている。
- humitati=ju`N**① (他 =raN, =ti) ほめ立てる。humiitatijun ともいう。
- hunaʔaratami**① (名) 船の検査。舟あらためめの意。
- hunaʔaʂibi**① (名) 舟遊び。舟に乗って遊ぶこと。那覇では、nagaribunii (流れ舟) という。
- hunabasi**① (名) 船橋。船を並べてつなぎ橋としたもの。ʔisaheijoo, ʂikintu kudakatu ~ kakiti ʂikinnu mijarabi 'wataci mibusja, ʔisaheijoo 'jaarasi kuikui. [...津堅と久高と 船橋かけて 津堅の女童 渡ち見ぼしや...]... (はやし)... 津堅島と久高島の間に船橋をかけて、津堅の娘達を渡して見たい。... (はやし)...
- hunabin**① (名) 船便。
- hunaciN**① (名) 船賃。備船料。また、乗船賃。
- hunadeeku**① (名) 船大工。
- hunagakai**① (名) 船がかり。船が途中の港で碇泊すること。
- hunaka**① (名) 不仲。仲が悪いこと。~ najun. 不仲になる。~na miitunda. 仲の悪い夫婦。
- hunaku**① (名) 船子。水夫。huninu tumuzina tukutukutu, ~ ʔisamiti mahu hwikiba, kazija matumuni ʔnmahwi-gizi. [船の纜 とくとくと 船子勇みて 真帆ひけば 風やまともに 午未 (上り口説)] 船のともづなをすばやく解いて、船子が勇んで真帆を引くと、風は午未 (南南西) の順風。
- hunakusi**① (名) 富名腰。舟越とも書く。《地》参照。
- hunanici**① (名) 船路。航路。
- hunanui**① (名) 船乗り。船員。
- hunaNkee**① (名) 船で来る者を出迎えること。また、船を出迎えること。島国の関係で旅人の出迎えばほとんどが hunaNkee となる。
- hunatabi**① (名) 船旅。
- hunatoo**① (名) 幹部船員。
- hunaʔukui**① (名) 船出を見送ること。旅に出る人の船を見送ること。旅行の見送りはほとんどが hunaʔukui である。
- hunawii**① (名) 船酔い。huncei ともいう。
- huncei**① (名) 船酔い。~ sjuN. 船酔いする。上陸後感ずるものには ziibuneei という。
- huni**① (名) ㊦骨。生きものの骨。qcunu ~. 人骨。~ kweesjuN. 骨を肥やす意。何もしないでなまける。骨を惜しむ。(尽力する意の「骨を折る」という表現は元来はない) ㊦(障子などの) 骨。器物の軸。ʔakainu ~. 障子の骨。㊦植物の茎。'warabinu ~. わらびの茎。
- huni**① (名) 舟。船。~ nusijun. 島流しにする。流罪にする。~ nusirarijun. 島流しにされる。㊦
- huniguni**① (名) 骨組み。骨格。また器物・家屋などの組み立て。
- hunijan**① (名) 骨の痛み。過労・けがなどで骨が痛むこと。
- hunin**① (名) 念を入れられないこと。不熱心。~na qcu. 不熱心な人。
- huninzoo**① (名) 不人情。薄情。~na 'wikiga. 不人情な男。
- huniʔo'obu**① (名) 骨膜炎。単に ʔoobu ともいう。
- hunoo**① (名) 不納。税金・無尽の金など納めるべき金を納めないこと。~ sjuN. 納めない。
- hunui**① (名) ふのり。海藻の名。洗髪・洗濯などに用いる。

-hUN (接尾) 本。本数を数える接尾辞。
ʔiqpUN (一本), nihUN (二本), sanbUN
(三本) など。

huNbiqi① (名) 分別。思慮。また、考え。
計りごと。murabarUN tumuni ʔuciha-
tasaNDinu ~wa ʔNZaci, ʔikutubawa
kazati… [村原も共に 打果さむでの 分
別は出ち い言葉は飾て… (大川敵討)]
村原もいっしょに打ち果たしてやろうと
計って、ことばだけは飾って…。

huNBUN① (名) 本分。なすべき務め。

huNcoosi① (名) 本調子。琴・三味線の調
子の名。sagi (下げ) ともいう。本調子の
ほかに、琴には二弦上げと四弦上げがあ
り、三味線には二上がりと三下がりがあ
る。本調子にはたとえば saginakahuu
[下仲風], sagisjuQkwee [下述懐] など
の歌曲がある。

huNdee① (名) ⊖わがまま。子供などが泣
いたり甘えたりしてわがままにすること
をいう。~ sjuN. わがままをする。⊖(接
尾) 放題。siibusahundee (したい放題),
tuibusahundee (取りたい放題) など。

huNniN① (名) 本人。当人。zintii ともし
う。

huNnu① ⊖(名) 本当。~ ʔjan. 本当だ。
~ nu kutu. 本当のこと。⊖(副) 本当に。
~ curasan. ほんとにきれいだ。mura-
barutuzija miikuci ʔjahwajahwatu
kuusjuuraasii kaagi, ~ ʔnea ʔnsja-
mun ʔjasin ʔiitee… [村原妻や 目口や
はやはと 小しほらしいかあげ ほんのむ
ちやむしやものやすんついてや… (大川敵
討)] 村原の妻は目もと口もとがやさしく
かわいらしい容顔で、ほんとにまあ、申し
分のないしっかり者なので…。

huNpaN① (名) ⊖一膳。一椀。お代わりを
しないこと。~ qsi ʔjutasabiin. 一膳
でよろしゅうございます。⊖一食。一回の
食事の給付。

huNpaNzikanee① (名) 一食のまかない。
一食を給付すること。一食しか給付しない
こと。

huNʂi① (名) [風水] ⊖家屋・墓地などの位
置のよしあしを占うこと。また、そのよし
あし。家相。風水。ʔiihunʂi. いい家相。
いい風水。~ nu ʔwaqsAN. 家相が悪い。
風水が悪い。⊖墓の異名。

huNti① (名) 本手。正しいしかた。正道。
琴・三味線・囲碁などでの術語。

huNtoe① (名) [新?] 本当。ziqi を多く使
う。~ nu kutu. 本当のこと。

huNziruu① (名) [焚字炉] hugu (字を書
いた、不要になった紙) を燃すための炉。
また、地に落ちた頭髮なども拾い上げて
hunziruu で燃した。字を書いた紙 (ʂi-
mikabi) はすべて神聖視され、不要にな
れば丁寧に hunziruu で燃す。道で誤っ
て踏んだ場合には、おしいてから石
垣の穴につめる。hunziruu は1メートル
くらいの高さに石を積み上げた炉で、各部
落にかならず一つはあり、その他、ʔuɖUN
[御殿], tunci [殿内] の屋敷の一隅、学
校の校庭のすみなどにも見受けられた。

huNzuri① (名) もと娼妓であった者。女
郎あがり。zuriʔagai ともしう。huruzuri
とは異なる。

huNzuruu① (名) hunziruu と同じ。

huqea① (名) 富着。《地》参照。

huqea① (名) 堀川。《地》参照。

huqegisaN① (形) かわいい。かわいらし
い。

huqcee=sjuN① (自 =san, =ci) huicee-
sjuN, hwiqceesjuN と同じ。

huqkwi① (名) 腫れもの。皮膚がはれて盛
り上がったもの。

huqkwi=jUN① (自 =raN, =ti) ふくれる。
腫れる。皮膚が腫れ上がる。また、怒って
ふくれる。gira ~. 怒って顔がふくれる。

huqkwisoori① (名) (むくみなどが) はれ

たりひいたりすること。

huraa① (名) 気違い。気のふれた者。また、馬鹿者。<hurijun。

hura=cuN① (自 =kaN, =ci) あく。(目・口・器物の口などが、また穴が) あく。ʔana huracooN. 穴がいている。kuci ~. 口があく。mii ~. 目があく。hana ~. 鼻の穴が大きくあく。転じて、傲慢になる。えらそうにする。得意がる。

huraki=juN① (他 =raN, =ti) あける。(袋・壺・目・口などを) あける。戸などは ʔa-kijun という。kuci ~. 口をあける。また、腫物などに口をあけて、うみを出すなど。mii ~. イ。目をあける。口。啓発する。学問をさせる。

huraŋsi① (名) フランス。

huriburiitu① (副) ぼんやりと。ぼかんと。呆然と。makutukaja zicika 'wazimu ~ nizami ʔudur:cinu 'juminu kuku-ci. [誠かや実か わ肝ほれほれと 寝覚め驚きの 夢の心地] (子を失ったのは) 本当のことなのか、わたしの心は呆然として、驚いて目がさめても夢心地のようで本当とは思えない。

huridakuma① (名) 狂人の知恵。気違いの働かず知恵。気違いのくせに自分の得となることには知恵が働く場合などにいう語。

huri① (名) お上からの通知。おふれ。布告。

huri① (名) 体の震え。また、体の震える病気。フィラリヤの一種で、発熱し、悪寒がして体が震える。

huriigaci① (名) おふれ書き。

huriuu=sju^hN① (他 =saN, =ci) あまねく知らせる。布告して行き渡らせる。

huri=juN① (自 =raN, =ti) 震える。人・動物が寒さ・恐怖などで震えることにいう。

huri=juN① (他 =raN, =ti) ふれる。布告する。一般に知らせる。ʔumancuni ~.

人びとに知らせる。

huri=juN① (自 =raN, =ti) ① 惚れる。恋におちる。'winagunkai ~. 女に惚れる。ʔuritu huriti. 女郎と惚れ合って。② 惚れる。すっかり気に入る。kunu 'jaa-nkai ~. この家に惚れる。

huri=juN① (自 =raN, =ti) 気がふれる。気が狂う。気違いになる。hurijuru guttoosa. (いらいらして) 気が狂いそうだ。

hurimakutu① (名) 馬鹿正直。お人よし。単に makutuna mun. といっても、その意味になる。

hurimunii① (名) hurimunuʔii と同じ。

hurimunuʔii① (名) ① 狂人めいたことば。理に合わぬことば。② たわごと。馬鹿げたことば。

hurimuN① (名) ① ならず者。不良・やぐざなど。② 馬鹿。~ nasjun. 馬鹿にする。軽蔑・侮辱する。③ 気違い。狂人。ふれ者。sjooburimun ともいう。ʔaginu hurimunoo 'wikiga. 陸上の気違いは男。男が女郎にうつつをぬかすことをいったことば。

hurizikara① (名) 馬鹿力。

huru① (名) 便所。在来のものは石畳で囲んだもので、中に豚を飼い、糞は豚の飼料となった。

huru=buN① (自 =baN, =di) ① [文] 滅びる。滅亡する。② 人に貸した金が取れなくなる。貸した金を踏み倒される。hurubasjun. 借金を踏み倒す。hurubasarijun. 貸した金を踏み倒される。

hurubuQkwi=juN① (自 =raN, =ti) 古ぼける。古くなってみすぼらしくなる。

huruci① (名) 古血。けがれた血液。とくに梅毒にかかった人の血。

hurucoo① (名) 古い帳面。古い文書。古文書。

hurudoogu① (名) 古道具。

hurudooguu

- hurudooguu① (名) 古道具屋。
hurugin① (名) 古堅。《地》参照。
huruhugu① (名) 古い反故。古い不用の書きちらした紙など。
huruhwiiziri① (名) 焼け残りの木切れ。huruhwiiziree teeçikijaqsan. 焼け残りの木切れは焚きつけやすい。一度関係のあった男女はよりをもどしやすい意。
hurujaa① (名) 古い家。mijaa の対。
hurukizi① (名) ⊖古傷。⊖旧悪。
huruma=sjun① (他 =san, =ci) 古くする。古くまで大切に使う場合・長くおいてよくする場合にいう。hurumaceeru saki. 長くおいてある酒。kuusju (古酒)と同じ。
hurumici① (名) 旧道。miimici の対。
hurumi=jun① (他 =ran, =ti) hurumajsun と同じ。
hurumun① (名) 古物。古くなった器物など。miimun (新品) の対。
huru=nuN① (自 =man, =di) 古くなる。古びる。'jaanu hurudoon. 家が古びている。
huruqeu① (名) 梅毒にかかったことのある人。huruci の人。miiqeu の対。
hurusana① (形) 古い。多くの年月を経ている。
huruşii① (名) ⊖古巢。soominanu ~。目白の古巢。⊖旧居。
hurutuzi① (名) 元の妻。前妻。この反対は namanu tuzi (今の妻)。
huruwata① (名) 古綿。すでに使用した綿。
huruzi① (名) 古着。質流れの衣服を多くいう。
huruzi'faci'nec① (名) 古着商。もっぱら婦女子が営んだ。
huruzi'faco'odu① (名) 古着商人。huruzi'facinee をする者。
huruzima'ci① (名) 古着市。
huruziN① (名) 古くなった着物。古着。miizIN の対。

- huruzuri① (名) [古尾類] わかしなじみの女郎。zuri は女郎。
husa① (名) ふさ(房)。~ tarijun. ふさが垂れる。~nu sagatoon. ともいう。
husaa=jun① (自 =ran, =ti) 適する。ふさわしくなる。相応する。文語的な語。husajun ともいう。husaaran muniikata. ふさわしくない言い方。
husa=jun① (自 =an, =ran, =ti) husaajun と同じ。文語的な語。husatoomi. 適しているか。
husakee=jun① (自 =ran, =ti) ふさふさと茂る。繁茂する。
husaku① (名) (農作物の) 不作。mansaku (豊作) の対。~ 'jan. 不作だ。
husan① (名) 不参。来ないこと。
husansii① (名) [新] ⊖不賛成者。不賛成派。⊖明治の初め、廃藩騒ぎの時、明治政府に反対し、中国に属することを望んだ一派。kuruu, gwankuu ともいい、髪をたくわえていたが、日清戦争後すっかり衰えた。
husansii① (名) [新] 不賛成。~ sjun. 不賛成である。
husatu① (名) 富里。《地》参照。
husa=zun① (他 =gan, =zi) ふさぐ。閉じる。ふたをずる。mii ~。穴をふさぐ。qecunu mijja husagaraN. 人の目からは隠せない。
husi① (名) 節。⊖関節。~nu 'janun. 関節が痛む。⊖竹・葦・草の幹などの節。⊖柱・板などの節。⊖糸・ひもなどのこぶのようになっている部分。⊖音楽の曲節。メロディー。
husi① (名) ⊖星。名の付いた星はきわめて少ないが、例としては, nanaçibusu (北斗七星), miçibusu (オリオン座の三つ星), 'jookaabusu (明けの明星), 'juubanmanzaa(-busu) (よいの明星), qkwamucaabusu (子持ち星。そばに小さい星を従

えた星)など。~nu ʔutijun. 星が落ちる。星が流れる。人はそれぞれ、天にその人に対応する星をもつと考えられたので、流れ星はどこかで人が死んだ印とされた。
 ⊖転じて運命。運。~nu ʔoosaN. 運が弱い。
husiʔanaⓐ (名) 節穴。husihugi とともいう。
husibari=juNⓐ (自 =raN, =ti) 晴れて星が輝く。星空が晴れわたる。
husibusiⓐ (名) 節節。あちこちの関節。
 ~nu ʔjanuN. 節節が痛む。
husihugiⓐ (名) 節穴。
husikaʔriⓐ (名) たきぎなどがよく乾いて枯れていること。~sjoomi. よく枯れているか。
husikooⓐ (名) [古] [星功] 役人の勤務評定。勤勉度や勤務内容の程度に応じて、表につける星印。
husimuNⓐ (名) 干し物。洗濯して干してあるもの。
husinujaaʔuuciiⓐ (名) 流れ星。星の星移り(移転)の意。
husi=nuNⓐ (他 =maN, =di) 欲する。欲しく思う。nooga(ʔweeki) husidoon. 名誉(富)を欲している。nuci husidi. 命を惜んで。nuciN husimaN. 命も惜しくない。
husiⓐ (名) 不審。不思議。ʔimani ~na ʔanu kani. [いまに不審なあの鐘(執心鐘入)] いまだに不審なあの鐘。
husiⓐ (名) 普請。~sjun.
husiŋamiⓐ (名) 不審紙。読書の際、不審な箇所につけておく赤紙。付箋。
husitakaraaⓐ (名) 節だらけ。甘蔗・竹の根などについていう。
husiziⓐ (名) 防ぐこと。防御。
husiziⓐ (名) 不思議。~na. 不思議な。hwirumasii, cimjuuna などともいう。
husi=zuNⓐ (他 =gaN, =zi) 防ぐ。防御す

る。hwiisa ~. 寒さを防ぐ。
husjakanasjaⓐ (名) (子供などを) 欲しく思い、かわいく思うこと。qkwa ~ sjoon. 子供を欲しがり、かわいがっている。
husjanⓐ (形) 欲しい。qkwa ~. 子供を欲しい。qkwanu ~. 子供が欲しい。zin husja sjun. 金を欲しがる。ʔwikigan-gwa husja qsi ʔjuubee tumeejun. 男の子が欲しくて妾をもらう。
husjooⓐ (名) 不祥。よくないこと。めでたくないこと。ʔatataru ~. また ʔicatataru ~. 悪いことに当たった。運悪く災難に当たった時にいう。
husjooŋinⓐ (名) [新] 保証人。kunuu とともいう。
hu=sjunⓐ (他 =saN, =ci) 干す。干して乾かす。cin ~. 着物を干す。
husoouuⓐ (名) 不相応。身分に過ぎることなど。~na cin cicoon. 不相応な着物を着ている。
husuⓐ (名) へそ。ほぞ。~cizun. へその緒を切る。切るという語を忌んで cuzun(継ぐ)という。
husuⓐ (名) 細上布。宮古・八重山地方産の麻織物の名。
husukaraziⓐ (名) へその緒と髪の毛。生まれた時に取っておき、死んだ時に棺に納めて埋葬する。
husukuⓐ (名) ⊖不足。足りないこと。⊖落度。あやまち。⊖神仏・祖先の祭祀を怠ること。
husumuNⓐ (名) 襟。kubi とともいう。
husuʔuubiⓐ (名) 角帯。博多帯の一種。男子用。ʔuhuʔuubi の対。
hutaⓐ (名) 蓋。容器のふた。
hutaguⓐ (名) ふたこ糸。二すじより合わせた糸。またそれを経緯として織った普通平織りの綿織物。ふたこ織り。冬物にする。
hutagakuruⓐ (名) [文] 二心。異心。sjuzin tai tanudi ~ mucuru ʔicisakasi

hutakacanu miju

'Nzanu ʔimasimini sjun. [主人二人たので ふたごころもちゆる 生族むぎのいましめにしゆん (忠臣身替)] 主人を二人持って二心を持っているなまいきなやつのいましめにする。

hutakacanu① miju① (句) [文] 太平の御世の意か。古琉球 (伊波普猷) には島津氏と中国の両国に属していた苦難の時代をいうとされているが、古歌に, mirukujuja minume hwicijusiti 'uſiga, hutakacanu nunuja ʔutami 'warabi. [弥勒世や目の前 ひきよせて居すが ふたかちやの布や 織ためわらべ] (豊年は目前に迫っているが, フタカチャの布は織ったか, わらべよ。) とあるのを見ると, hutakaca は二つの蚊帳という意ではなく, 管弦の遊びをする時, 舞台に使う幕の類かとも思われる。

hutamakai① (名) 蓋のある makai. 蓋付きのどんぶり類。

hutanari① (名) 不似合い。不体裁。不適切。tanari の対。tanarinu neeraN ともいう。~na munuʔijoo. 不適切な言い方。

hutaqsja① (名) へた。達者 (巧みの意) でないこと。'jamatuguci ~. 日本語はうまくない。

hutarubi① (名) [文] 螢火。普通は ziinaa-bii という。

hutasika① (名) 不確か。不確実。~na. 不確かな。

hutaʔuja① (名) ふた親。両親。tainu ʔuja ともいう。

hutima① (名) 普天間。《地》参照。

hutimamee① (名) 普天間参り。普天間権現にお参りすること。普天間権現は航海の守護神として信仰され, 海外に旅する時, 観音堂とともに必ず参拝したところ。

hutu① (名) 臨時。不時。不図の転意か。~nu ʔikeehwa. 臨時の時の金。

hutucimusun① (名) ほどきむすびの意。

片結び。紐の一方を引けばすぐほどけるようにする結び方。お祝い物を包む時や結婚の際はこの結び方を避ける。

hutuciʔukoo① (名) 一本一本にほどいた線香。ʔumuçiriʔukoo (束のままの線香) に対する。

hutu=cuN① (他 =kaN, =ci) (結び目・縫い目などを) ほどく。また, (願を) 解く。gwan ~. 願を解く。

hutuduci① (名) ⊖不行き届き。注意などが行き届かぬこと。不注意。'waahutuduci 'jatan. わたしの不行き届きだった。⊖不届き。違法な非難すべきこと。~namun. 不届き者。

hutuhtu① (副) 欲しがって得ようとするさま。また, 一刻も早くしようとするさま。~sjun. じれる。

hutuhtuu① (副) ぶるぶる。がたがた。寒さ・恐怖などで身を震わせるさま。~sjoon. ぶるぶる震えている。

hutuhtuugwii① (名) 震え声。

hutuki① (名) ⊖仏。普通は, 三十三年忌をすませしていない祖先の霊を hutuki という。三十三年忌以後の祖先の霊は神 (kami) となる。⊖仏像。⊖お人好し。飾り物的人物。

hutukii① (名) 人形。

hutuNgwi① (名) ほころび。着物の縫い目のほどけ。

hutuNgwi=juN① (自 =raN, =ti) (結んだもの・縫ったものが) ほどける。ほころびる。

huu① (感) 目上に呼ばれた時の応答の語。はい。すなわち, 「はい, ここにおります」が「はい, 何ですか」の意の「はい」。目上の問いへの肯定は ʔuu。

huu① (名) 果報。幸運。~nu ʔa. 運がよい。~nu neen qeu. 運のない人。

huu① (名) 頬。huuʔira というのが普通。

huu① (名) 穂。

huu① (名) 風。風俗。風習。'jaanu (mu-ranu) ~. 家の(村の)習俗。maanu ~ga. どここの風俗か。
huu① (名) 封。~ sjuN. (書状・箱などに)封をする。
huu① (名) 帆。布またはむしろで作る。
huubi① (名) ほろび。
huuci① (名) ふいご。
huuci① (名) 流行病。伝染して流行する病気。風気。かぜなどのたぐい。~nu hwee-jun. 流行病がはやる。
huuci① (名) もぐさ。
huucibaa① (名) よもぎ。若葉は食用になり、餅にも入れる。老熟した葉はもぐさにする。
huucicee① (名) ふいご祭り。旧暦11月7日に鍛冶屋で行なり祭り。
huucigamarasjan① (形) 流行病の勢いが激しい。流行病が大いにはやる。
huucigeesi① (名) 流行病よけ。酒は流行病よけだといって、飲める人は飲み、飲めない女などは手・顔・首筋などを酒で拭く。
huucimu`ci① (名) 草餅。よもぎを入れた餅。
huucoopa`Ncoo① (副) ふいごの音。
huuga① (名) 風雅。~na qcu. 風雅な人。ʔamanu zooja ~ 'jaqsaa 'jaa. あそこの門は風雅だねえ。
huugawai① (名) 風変わり。風体・性癖などが人と変わっていること。~na. 風変わりな。
huuhuda① (名) 護符。神仏の霊がこもり、人を守護する札。紙に呪文を書いたもので、家の入口の柱にはりつける。
huukudaga`ai① (名) 護符代わり。護符と同様に魔除けになるもの。恐ろしい顔の人間、醜女などが描かれているものが多い。
huuhui`coo① (副) huuhwiqcoo と同じ。
huuhuu① (名) 小児が痛がる箇所へ、痛く

ないようにするまじないとして、親などがフーフーと息を吹きかけてやること。~ qsi kwiree. 「フーフー」をしてくれ。
huuhuu① (副) 富み栄えるさま。富裕なさま。'jaanu ~ sjoon. 家が富み栄えている。
huuhudaamaa① (名) 花芭蕉の実。子供がこれを管の一方の口に置き、他方の口から吹き上げて遊ぶ。
huuhwi`qcoo① (副) ほろほけきよ。うぐいすの鳴き声。
huuʔin① (名) 封印。
huui① (感) ㊦ふうっ。熱いものを吹きさます音。㊦落ちた食べ物を拾って食べる時にいうまじないの語。huui と言わずに食うと、男は hwizimoo (ひげ無し) になるといわれる。㊦夜、子供が水を飲む時、母親がその水を huui と吹いてから飲ませる。その時の声。水の中の魔物を吹き払うためのまじないとしてする。
huuihuui① (副) 口笛の音。ひゅうひゅう。
huuʔjuu① (名) 非常に目上に対することは使い。呼ばれた時には huu と答え、肯定・承諾の時には ʔjuu と答える話し方。huu, ʔjuu などの項参照。ʔjuuhuu という語はない。
huukasi① (名) ほら (を吹くこと)。誇張した言い方。~nu magisaN. 大ほらを吹く。
huukasjaa① (名) ほら吹き。大きなことばかり言ひ者。
huuka=sjuN① (他 =saN, =ci) ほらを吹く。誇張して言う。
huukee=juN① (自 =raN, =ti) ふくれる。ふくらむ。(餅などが) ふくれ上がる。mucinu (hjaagaanu) ~. 餅(ヒャーガー。菓子の名)がふくれる。huukeera-sjuN. ふくらます。
huukeeri=juN① (自 =raN, =ti) ふくれる。ふくらむ。膨脹する。

huukubuu

huukubuu① (名) 頬がくぼむこと。頬のくぼみ。また、頬のこけた人。

huukubuugwaa① (名) 頬の小さいくぼみ。また、えくぼ。～nu ʔNzijuN. えくぼが出る。

huukuu① (名) 奉公。その敬語は guhuu-kuu. ～sjun.

huukuuni① (名) 奉公人。ʔuijuN [御殿], tunci [殿内] などに奉公する者。

huumaasi① (名) 帆船船。huusiN ともう。中国へ渡る toosiN, 小さい ʔanbaraabuni などがある。

huumi① (名) 風味。酒・上等な食べ物・たばこなどの味や香り。

huunaa① (名) 真似。ふり。nuunu ～sjo-oga. 何のまねをしているのか。ʔNndan ～. 見ないふり。siran ～. 知らぬふり。複合語としては、ʔuhuqehuunaa (おとなのまね), niNtahuunaa (寝たふり) など。

huuni① (名) 運のよい人。果報者。

hauoo① (名) 鳳凰。王の宮殿の天井などに描かれている。

huurin① (名) 風鈴。

huuriNna① (名) ほうれん草。

huuroo① (名) 十六ささげ。ささげの一種。

huusiN① (名) 帆船。huumaasiN と同じ。

huusjuga¹mi① (名) [奉書紙] 奉書紙。貴人の辞令などに用いる。

huusjuka¹bi① (名) huusjugami と同じ。

huutai① (名) ①鶏のくちばしの下で垂れ下がった肉。②垂れ下がった頬。miminu ～. 耳たぶ (mimitai ともう)。

huutajaa① (名) 頬の垂れ下がった者。

huutajaagwaa① (名) 頬の垂れ下がった子供。

huutoo① (名) ふともも (蒲桃)。びわに似た果実がなる。

huuʔuu① (名) ʔuuhuu と同じ。しかし、ʔuuhuu を多く用いる。また huuʔuu sjun とはいわない。

huuzi① (名) ①風儀。風習。風俗。しきたり。流儀。sjuinu ～. 首里の風俗。simabukunu ～. 島袋氏の流儀。②風采。なりふり。ようす。ʔiihuuzi. いいなりふり。～nu neeN. また, huuzee neeN. なりふりが悪い。みっともない。

huuzira① (名) ほった。頬。

huwa① (名) 不和。仲が悪いこと。団体間の不和をいう。個人間の不和は hunaka という。ʔanu muratoo ～natoon. あの村とは不和になっている。ʔaaniNzu ～. 家族が仲が悪い。

huzi① (名) [文] 不義。不正。zii ～N ʔwakaran ʔakara. 正不正もわからぬやから。

huzi① (名) 不時。～nu ʔirijuu. 不時の入り。

huzi① (名) 藤。

huzijuu① (名) 不自由。意のままにならぬこと。～na. 不自由な。

huziN① (名) [夫人] 王の妾。王の妻妾のうち、正妻である hwii (きさき) に次ぎ、çuma (身分の低い妾) より上に位する。simamuci [島持] 程度の知行をもらう。

huzisarasa① (名) 菓子の名。山芋で作った蒸し菓子的一种。

huzoo① (名) [宝蔵] 女持ちのたばこ入れ。宝珠のような形に縫った袋物である。

huzoomaki① (名) 不浄負けの意か。葬式など不浄なところへ行き、原因不明の皮膚病などにかかること。

hu-zuN① (他 =gaN, =zi) 単独では用いない。cimu huzuN (満足する) の項参照。

huzubun① (名) 不充分。～na. 不充分な。

hwaa① (名) 葉。

hwaahuu① (名) ①破風。建築様式の一つ。切妻。中央に棟があって両側面に傾斜した二枚屋根の建築。四面に傾斜した屋根 (寄棟) には いわない。②破風式の墓。墓の様

式の一つ。上部を家の屋根のように作った墓。

hwaahuzi① (名) 祖父母。

hwaahwaa① (名) 竹とんぼ。また、ブリキの円板に穴を二つあけ、糸を通し引いたりゆるめたりして円板を回して遊ぶもの。いずれもその発する音から名付けたもの。

hwaahwaa① (副) 熱気があたるさま。ほてるさま。かっかっ。また微熱などで、体がほてるさま。gira ~ sjoon. 顔がほてるている。

hwaa=sjun① (他=san, =ci) 鍍金する。めっきをする。

hwahwa① (名) [文] 母。

hwahwakata① (名) 母方。母の里のかた。文語的な語。

hwahwaʔuja① (名) [文] 母親。'jaa ~ ju. [やあ母親よ(銘苺子)] ねえ、おかあさん。

hwakuruu① (名) 白露。二十四節の一つ。hakuruu ともいう。

hwani① (名) [古] hani (羽・翼) の古語。
-hwani (接尾) 鳥を数える接尾辞。一羽。cuhwani (一羽), tahwani (二羽), ʔiku-hwani (何羽) など。

hwaNnai① (副) 熱が高いさま。火の熱・病熱などが盛んに出るさま。niçinu ~ sjoon. 熱がとても高い。

hwaNsan① (名) 支那茶の名。半山。han-san ともいう。

hwaQka① (名) 薄荷。haqka ともいう。

hwaru① (名) [古] haru (春) の古語。

hwaʔuta① (名) 端歌。俗謡。流行歌。ʔuhubusi (いわば、古典音楽) に対する。

hwaudui① (名) [羽踊] hwaʔuta に合わせて踊る踊り。kumiudui [組踊], coogin [狂言] に対していう。

hwee① (名) ⊖南。⊖南から吹く季節風。hweekazi ともいう。

hwee① (名) [新] 肺。元来は huku と

いった。

hwee① (名) 灰。

hwee① (名) 蠅。

hweebaN① (名) 早番。順番が早いこと。

hweebaru① (名) 南風原。(地) 参照。

hweebeetu① (副) 早々と。~ ʔmensee-biri 'joo. 早々とおいで下さいませよ。

hweebucaa① (名) 南風の吹く季節。夏。

hweebuci① (名) hweekazi (南から吹く夏の季節風) と同じ。

hweebuN① (名) 配分。配り分けること。

hweeciri① (名) (小児が) 這い回ること。~ sjun.

hweegaQtin① (名) 早合点。

hweegasa① (名) 頭にできる一種の湿疹。蠅がたかるので蠅瘡といったものか。

hweehuci① (名) 灰吹き。たばこの灰をたたき入れる竹筒。

hweehwee① (副) はあはあ。息を切らしてあえぐさま。ʔiqsan natakatu ʔiici ~ sjun. 一散に走ったので、はあはあ息が切れる。

hweeʔiru① (名) 灰色。

hweeʔiruu① (名) 灰色のもの。

hweeci① (名) (衣服・病氣・風俗などの) はやり。流行。kunu kanmuae namanu ~ 'jan. この帽子は今の流行だ。

hweeci① (名) 酢。ʔamazaki ともいう。

hweeikutuba① (名) 流行語。たとえば、ʔisjadu 'jaru. (彼は医者だ。何でも上手な者をさしていう), baci kwatoon. (うまいことをした場合にいう。こまを回すばちがよく利いている意か) などがあった。

hweeciʔuta① (名) はやり歌。流行歌。民間にはやる小唄の類。明治の末ごろまでに流行した有名なものとしては, caaʔuibusi [茶売節], kabirabusi [川平節], sjuun-tuuzii [主も妻], sjuikaracoosiga [首里から来やうすが], bakucajaabusi [ばくちやや節], gwiikuujoo [越来よう],

hweejuN

kanaajoo [かなよ], hwicimuNkuduci [挽物口説], Yurukusumijabusi [小祿染屋節], minaYurisaNŕeebusi [皆おれ賛成節] などがあった。

hwee=juNⓐ (他 =raN, =ti) 張る。張り渡す。「延ぶ」に対応する。hwiqpeejuN ともいう。Yucinaatu 'eema 'iNnu Yitu hweeti, Yumukazinu tataba tageni hwikana. [沖繩と八重山 緑の糸はへて佛の立たば 互に引かな] 沖繩と八重山の間に緑の糸を張り渡して、おもかげが浮かんだら互いに引っ張り合う。

hwee=juNⓑ (自 =raN, =ti) はやる。流行する。huucinu ~. 伝染病がはやる。

hweekaziⓐ (名) 夏に南から吹く季節風。hwee, hweebuci ともいう。ただの南風は hweenukazi。

hweekuⓐ (名) (時刻が)早く。また、以前。昔。Yasa ~. 朝早く。朝の早い時間。~nu qcu. 以前の人。昔の人。~tu nama-too muru kawatoon. 以前と今とではすっかり変わっている。~kara. 以前から。早くから。かねてから。つとに。~kara dikijaa 'jataN. 以前からよくできる者だった。~karanu sikaa. 以前からの臆病者。

hweemaaiⓐ (名) (冬などに) 風向きが南に回る。なま暖かい風が吹き、雨になりやすい。

hweemaasiⓐ (名) 早死に。年若くして死ぬこと。農村などでは hweezini ともいう。-maasi < maasjuN.

hweemuNⓐ (名) 早いもの。naa natootii, ~ 'jasa 'jaa. もうできていたか、早いもんだねえ。

hweeniibiciⓐ (名) 早婚。niibici は結婚。

hweeniNziⓐ (名) 早寝。夜早く寝ること。

hweenuhwiraⓐ (名) 南風之平等。《地》参照。

hweenukaziⓐ (名) 南風。hweekazi は夏

に南から吹く季節風。

hweenukusunⓐ (名) そばかす(雀斑)。蠅のくその意。

hweenusimaaⓐ (名) 踊りの名。頭に棕櫚の皮をかぶり、棒を持って、南洋土人の風をして踊るもの。南の島の者の意。

hweenuYuduNⓐ (名) 首里城の建物の名。Yuguŕiku の項参照。

hweeYnmariⓐ (名) 早生まれ。正月から3月ごろまでに生まれたもの。nibuYnmari (遅生まれ, 11~12月生まれ) の対。

hweeNkeeⓐ (名) 南向き。

hweeraNhuuziⓐ (名) はやらない風儀の意。異常な服装, 常識はずれの流儀などをいう。

hweereeⓐ (名) 追いはぎ。「人をこなし気任するを云唐音也懣懶と書(混効験集)」~ Yicati. 追いはぎに会って。takookuru-jama ~tiN doo, cinaabanzuni tumarana 'jaa. 'winagutiramun bantzuni tumajumi, Yisuzi suzisuzi 'jadu kakara. (歌の文句) 多甲黒山は追いはぎが出るそうだ、喜納番所に泊まろうかなあ。女とあろうものが番所に泊まれるものか、さあ大急ぎで家へ帰ろう。

hweeriN=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) はいり込む。

hweeriQsiNⓐ (名) ⊕早い出世。⊖(女の)早婚。

hweerooⓐ (名) 勲功などにより、国王から品物をいただくこと。拝領の意。guhweeroo はその敬語。~ najun. (国王から)いただく。

hweesaNⓐ (形) 早い。速い。時刻・速度がはやい。hweeku Yaqcun. 早く歩く。(時刻の「早く」は hweeku の項参照)

hweesiⓐ (名) ⊕はやし。はやしことば。声を出して歌曲の詞を助けるもの。たとえば saQsa, haija, hijaruga, 'Nzojo, sjurajo など。~ Yirijun. はやしを入

れる。⊖kuducibeesi と同じ。
hweesidimaⓐ (名) (鏡などの) みがき賃。
 (刃物の) とぎ賃。
hweesitati=ju[~]nⓐ (他 =raN, =ti) はやし
 たてる。けしかけ、扇動する。また、おだ
 て上げる。
hwee=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ⊖囃す。多く
 は、hweesi ?irijuN (はやしを入れる),
 hweesitatijuN (はやしたてる) を用いる。
 ⊖染物の色揚げをする。さらに染め上げ
 る。kana hweecakutu curaku natoon.
 かせ糸を染め上げたら美しくなった。⊖染
 やす。みがく。みがいて光らせる。とぐ。
 kagan hweesabira. 鏡 (金属製) をみ
 がきましよう。hoocaa ~. 包丁をと
 ぐ。
hwee=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 切りきざむ。
 けずる。「はやす」に対応する。kaçuu ~.
 かつお節をけずる。deekuni ~. 大根を
 切りきざむ。
hwee?ukiⓐ (名) 早起き。
hweewazaⓐ (名) 早業。
hweeçeeⓐ (名) [配剤] 薬の調合。処方。
hweeçeeçaciⓐ (名) 処方箋。
hweeçimeeⓐ (名) 早く支度ができること。
 早仕舞の転意。
hweeçoomiNⓐ (名) [新] ひや素麵。
hweeçuraaⓐ (名) hweeçuri と同じ。
hweeçuriⓐ (名) 街娼。辻君。遊郭以外で
 売春する者。-çuriは女郎。hweeは禁止の
 意か。また、「昔は公娼は牌尾類とて牌板
 に其名を書き列ね公示したりと。然るに今
 は牌尾類と云へば密娼のこととなれり」(真
 境名安興)。hweeçuraa ともいう。~
 sjuN. 街娼となって売春する。
hweeçzuiⓐ (名) 発育が早いこと。cuuiは
 発育。
hweNsaⓐ (名) はやぶさ。「はいんさ 鷹の
 惣名(混効喉集)」
hwibaciⓐ (名) 火鉢。たばこ用の小さなも

のには ?uciritui, または hwiitui とい
 う。

hwibanaⓐ (名) 火花。火の子。
hwibariⓐ (名) ⊖干割れ。亀裂。ひび。~
 ?iqcooN. ひびが入っている。⊖皮膚にで
 きるひび。あかぎれ。
hwibari=juNⓐ (他 =raN, =ti) ひびが入る。
 干割れる。?adunu hwibaritoon. かかと
 が干割れている。
hwibiⓐ (名) [文] 日日。毎日。日常。口語
 は hwiibii. ~nu ?itunamini hwikasa-
 riti 'waminu 'ugamibusja ?atin ziju-
 ja naraN. [日目のいとなみに ひかされ
 て我身の 様みほしやあても 自由やなら
 ぬ] 毎日の暮らしに引きずられて、わたし
 はお会いしたくても自由にはなりません。
hwibiciⓐ (名) hwibiki (干割れ) と同じ。
hwibiciⓐ (名) [新?] 響。音響。
hwibi=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) 響く。音が
 震動して伝わる。
hwibikiⓐ (名) hwibari と同じ。ただし、
 おとなの使う語。hwibici ともいう。
hwibiki=juNⓐ (自 =raN, =ti) hwibarijuN
 と同じ。
hwibuⓐ (名) 日歩。
hwibusiⓐ (名) 日干し。日の当たる所で干
 すこと。kaagibusi (陰干し) の対。
hwicaasiⓐ (名) 神仏のお引き合わせ。神
 仏の助け。
hwicaa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ⊖(戸・障
 子などを) 引いて閉める。両方から閉める
 場合、または、すき間なく閉める場合に
 いう。⊖(人を) 引き合わせる。また、対決
 させる。hwicaasarijuN. イ. 引き合わ
 せられる。ロ. 神仏の力によって、よい運
 命に引き合わせられる。神仏の力で助けら
 れる。
hwicagi=juNⓐ (他 =raN, =ti) (後進など
 を) 引き上げる。うまく行くように、助け

hwicagijun

上げる。(具体的な動作を表わす場合は hwiciʔagijun という。その項参照) ʔu-jani hwicagiraqti riqsiN sjoon. 親の光で出世している。hwicagiraqtoon. 助かっている。幸運にめぐまれている。

hwicagi=juN① (他 =raN, =ti) 案ずる。心配する。心を引き上げるといふ意。Qkwanu hurimun nati caa hwicagitidu ʔaqcuru. 子がやくざになって、いつも心配している。

hwicagiʔurusi① (名) 心配したり安心したりして心をわずらわすこと。一喜一憂すること。-ʔurusi < ʔurusjuN.

hwicai① (名) ⊖光。hwiinu ~. 日の光。⊖光沢。つや。

hwica=juN① (自 =raN, =ti) 光る。また、つやが出る。hagiçiburunu ~. はげ頭が光る。

hwica=juN① (自 =aN, =ti) ⊖引き合う。商売して損をしない。商売として利がある。⊖相当する。匹敵する。

hwicarahwicara① (副) きらきら。ぴかぴか。日光・星・刃物などが光るさま。

hwicarasaN① (形) (きらきら光って) まばゆい。まぶしい。hwicarusaN ともいう。

hwicarusaN① (形) hwicarasaN と同じ。

hwicawasi① (名) [文] hwicaasi (神仏のお引き合わせ) の文語。tiNnu ʔutaşiki-ka kaminu ~ka. 天のお助けか、神の引き合わせか。

hwicce① (名) ひたい。mukoo ともいう。

hwiccegutu① (名) 対決によって決する事。対決を要するよな事。甲乙に対して丙が二枚舌を使ったため、甲乙が同席して丙に対してその実否をただすよな場合をいう。

hwici① (名) (「引き」に対応する) ⊖つて。縁故。⊖親姻戚関係。縁を引いている者。縁者。遠い親戚までも含めていう。ʔjaaja maanu ~ga. おまえはどこの縁者か。

ʔamatu ~ 'jan. あそこと親戚だ。⊖助け。援助。~ sjun. 援助する。助けを出す。

-hwici (接尾) 匹。-pici, -bici ともなる。ʔiqpici (一匹), nihwici (二匹), saNbi-ci (三匹) など。

hwiciʔagi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖引き上げる。引いて高く上げる。hwicagijun の項参照。⊖抜てき・登用する。⊖引き揚げる。ある場所から、すっかり退く。mookinu neenkutu hwiciʔagiti caN. もうけがないので引き揚げて来た。

hwiciʔati① (名) 引きあて。照合。金額や目録に見合う物品などを照合すること。coomintu ~ sjun. 帳面と照合する。

hwiciiciika'acii① (副) 着物・皮膚などがひきつったさま。ciNnu ciijoonu neen, ~ qsi. 何という着物の着かただ、ひきつって。

hwiciiciikaaciizi① (名) ひきつった着かた。~ sjoon. ひきつって着ている。

hwiciçizi① (名) (事務などの) 引き継ぎ。

hwiciçi=zuN① (他 =raN, =ti) 引き継ぐ。あとを引き受けて続ける。kawaiee qsi ~. 交替して引き継ぐ。

hwicicuuka'acuu① (副) hwiciiciikaacii と同じ。

hwicidamisi① (名) 琴・三味線などを弾いて音をためすこと。

hwicidu① (名) あげ窓。引き窓。

hwicigee① (名) 現金引き替えて売買すること。

hwicihana=sju'N① (他 =saN, =ci) 引き離す。引き離して別れさせる。

hwiciharoozi① (名) [文] 親類縁者。遠い親戚までも含めた親族集団をいう。なお、-haroozi という形は単独では用いない。ʔinuci ʔusjagiraba, nasiʔujaja daniju ~madiN, ʔunu sudati miseru ʔwiiçigutu 'ugadi. [命おしやげらは なし親や

だによ 引はらうじ造も おの素立めしや
いる およす事拜で(孝行之巻) 命をさし
上げたならば、生みの親はもちろんのこ
と、その親類までも面倒を見て下さるとの
仰せを拜して。

hwicihwici① (副) ひき替えひき替え。何度
もひき替えるさま。seesiN ~ ?irirasju-
N. お代わりを何度も入れさせて食べる。

hwicija=juN① (他 =raN, =ti) 引き破る。
びりっと破る。

hwicijaN=zun① (他 =daN, =ti) 悪へ誘惑
する。誘惑して墮落させる。

hwicijusi=juN① (他 =raN, =ti) 引き寄せ
る。引いて自分の方へ寄せる。

hwicikee=sjuN① (自 =saN, =ci) 引き返
す。もと来た方へ帰る。

hwiciku=nuN① (他 =maN, =di) 引き込む。
hwicinuNと同じ。

hwiciku=sjuN① (自 =saN, =ci) 引越す。

hwicimaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 打とう
として構える。tii ~. 打とうとして、手
を構える。'juuci ~. 斧を構える。

hwicimaga① (名) hwici?Nmaga と同じ。

hwiciniui① (名) 横目。流し目。

hwicimuN① (名) 差し押さえ。また差し押
さえられた物。~ sarijuN. 差し押さえ
られる。

hwicimuN① (名) 挽物。ろくろがんなで
作ったもの。木の皿・椀・盆など。

hwicimuNzeeku① (名) 挽物師。

hwicina=juN① (自 =raN, =ti) 引き下が
る。身を引く。抜ける。ziNmigutukara
~. 協議から身を引く。'nnaa ?wiiriki-
gisa ?asidooru muNnu, duucui hwi-
cinati nuu 'jaga. みんなは面白そうに遊
んでいるのに、自分ひとり抜けてどうした
か。

hwicina=sjuN① (他 =saN, =ci) とって置
く。(一部を) 残して置く。?uqsa muru
?ikaan gutu, taa?imi?ee hwicinaci ?u-

kee. それだけ全部使わないように、ふた
つみつはとって置く。

hwicinoo=sjuN① (他 =raN, =ti) 引き直
す。改めて引く。◎改める。直す。?uubi-
nu 'jugadookutu hwicinoo?ee. 帯が
曲がっているから直せ。

hwicinuba=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き伸
ばす。

hwicinu=zun①① (他 =gaN, =zi) 引き抜く。
引いて抜く。

hwici?Nmaga① (名) 玄孫。やしやご。ひ
まごの子。hwicimaga ともいう。

hwici?Nzasii① (名) ひきだし(抽斗)。

hwici?Nza=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き
出す。引いて外へ出す。◎預金などを出
す。

hwicini=cun① (他 =kaN, =ci) 引き込む。
引っぱって入れる。hwicikunuNと同じ。
kaagarimooga 'warabi kaaranakai ~.
かっぱが子供を川に引っぱり込む。

hwicisa=cun① (他 =kaN, =ci) 引き裂く。

hwicisaga=juN① (自 =raN, =ti) 空腹で元
気がなくなる。

hwicisimi=juN① (他 =raN, =ti) 引き締め
る。儉約する。

hwicisju① (名) 引き潮。hwirisju ともい
う。

hwicita=cun① (自 =taN, =qci) 引き立つ。
目立ってすぐれる。kunu cinoo ~. この
着物は引き立つ。

hwicitati=juN① (他 =raN, =ti) 引き立
てる。抜てきする。

hwicitoo=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き倒す。
引いて倒す。

hwicitu=juN① (他 =raN, =ti) 引き取る。
自分の方に受け取る。

hwicitunuga=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き
ちぎる。強く引いてとばす。

hwici?uki=juN① (他 =raN, =ti) (仕事・
責任などを) 引き受ける。

hwici?utusjuN

hwici?utu=sjuN④ (他 =saN, =ci) 引き落とす。

hwici?uusi④ (名) ひき臼。ひき臼にも石臼と木臼とがある。

hwiciwatasi④ (名) 引き渡し。

hwigizi④ (名) 十二支の未(ひつじ)。時間は午後2時。方向は西寄りの南。動物の羊は meenaahwiizaa という。

hwicizibuN④ (名) hwicizimuN と同じ。

hwicizimuN④ (名) ①*引き出物。祝宴などで客に配る物。②結婚の時、婿の家で姑が嫁に与えるもの。多くは反物を与える。

hwicoonu'sidui④ (名) [古] [日帳主取] 麿藩前の役名。書記官長にあたり、二人いた。sašinusuba の下にあって、zuuguninsjuu [十五人衆] 中に入っている。

hwicui④④ (名) [文] ひとり。口語では cui という。tanumu 'juja hukiti ?utuzirija neraN, ~ 'jamanuhwanu çicini 'Nkati。[頼む夜や更けて 音づれやないらん 一人山の端の 月に向かって] 心待ちにしていた夜は更けて、おとずれはない。ひとり山の端の月に向かって待ちこがれているばかりだ。

hwi=euN④ (=kaN, =ci) ①(自)引く。後へさがる。また、減ずる。?usjunu ~。潮が引く。huqkwinu ~。腫れが引く。②(他)引く。kuruma ~。車を引く。tii ~。(子供などの)手を引く。また、(仕事などから)手を引く。duu ~。身を引く。šizi ~。筋を引く。線を引く。guukarasaN ~。5から3を引く。nukuzirisa-ani kii ~。のこぎりで木をひく。kuzi ~。くじを引く。kaca ~。かやを吊る。

hwi=euN④ (他 =kaN, =ci) 弾く。sansin (kutuu) ~。三味線(琴)を弾く。

hwicuru=jun④ (自 =raN, =ti) hwicuruujun と同じ。

hwicuruu=jun④ (自 =raN, =ti) 長引く。のびのびになる。事がもつれ、解決などが

延引する場合にいう。hwicurujuN ともいう。sigutunu ~。仕事が長引く。

hwicuruumucuruu④ (副) 長引くさま。事がもつれ解決などが長引くさま。~ sjuN。

hwidama④ (名) hwiidama と同じ。

hwidamageesi④ (名) hwiigeesi と同じ。

hwidata=jun④ (自 =raN, =ti) (間柄が)へだたる。疎遠になる。距離については hwizamijuN という。?ujatu qkwađu 'jašiga hwidatatoon. 親と子なのに疎遠になっている。

hwidati④ (名) へだて。関係をさえぎるもの。疎遠にするもの。?iceewa coodee, nuu ~nu ?aga. 出会ったら兄弟だ。何の隔てがあるものか。~ mucuN. 疎遠になる。疎遠な感情をもつ。

hwidati=jun④ (他 =raN, =ti) (間柄を)隔てる。疎遠にする。距離については hwizamijuN という。

hwidiri④ (名) 日照り。旱魃。hjaai ともいう。

hwidu④ (名) 辺土岬。沖繩本島北端の岬。また辺戸。(地)参照。

hwidui④ (名) 日取り。移転・結婚・願かけ・普請・かまど作りなどについて吉日を選ぶこと。

hwigana④ (名) 彼岸。hwiŋgan ともいう。彼岸に行なう祭り('Ncabi, kabi?anzii) のことをもいう。

hwigara④ (名) 日柄。日のよしあし。

hwigasa④ (名) 日傘。

hwigasi④ (名) 東。(地)参照。

hwigataka④ (名) 日おおい。日よけ。日光をさえぎるためのもの。hwiigataka ともいう。

hwigu④ (名) 植物名。へご(紗羅)。

hwigwasi④ (名) 干菓子。

hwihwaçi④ (名) 華菱(ひはつ)。胡椒に似た植物の名。実は芳香辛味がある。naka-

- minušiimun (豚料理の一種) などに入れて食べる。
- hwihwanazi① (名) 花火。多くは線香花火。
- hwii① (名) 火。ほのお。また、燈火。また、火事。～ çikijun. 火を付ける。点火する。放火する。～nu ?nzijun. 火事が出る。
- hwii① (名) 非。非難されるべき悪いこと。Qcunu ~ ?akagarasjun. 人の非をあばく。～ ?usujun. 悪事をかくす。～ kaçimijun. 非をとらえる。
- hwii① (名) 胃腸。内臓。～ ?ucun. 胃腸を悪くする。～nu joosan. 胃腸が弱い。hwiijoosan ともいう。
- hwii① (名) 尻。～ hwijun. 尻をひる。
- hwii① (名) ①日。太陽 (tiida)。また、日光。～nu katancoon. 日が傾いている。～nu niçi. 太陽の熱。～nu ?jooku natoon. 日の光が弱くなった。②日。昼間。～nu nagaku natoon. 日が長くなった。③日。こよみの上の日。～ tujun. 日を選んで定める。転居・かまど作り・結婚などに吉日を選ぶことを多くいう。
- hwii① (名) 王妃。きさき。敬して ?uhwii ともいう。王の正妻で、deemjoo (大名、貴族) の身分の娘から選ばれ、佐敷 (sasiçi) 間切の知行を受ける。王の妻妾には、hwii, huzin, çuma の三種がある。
- hwii① (名) 緋。緋色。
- hwiiëaa① (名) 蛇の一種。山かがし。hwiiëbu の卑称であるが、もっぱら山かがしをさす。
- hwiiëaasi① (名) 火箸。
- hwiiëataraci① (名) ①火事場での働き。消火の仕事。②転じて、一生懸命な働き。
- hwiiëbii① (副) 日に日に。～ hwiiëku najun. 日に日に寒くなる。
- hwiiëbu① (名) 蛇。次の諺以外にはほとんど使わない。miëkwanu ~N ?uziran. 盲蛇に怖じず。
- hwiiëcaabaace① (名) 引っ張りだこ。引っ張り合い、奪い合うこと。
- hwiiëcaasjaa① (名) 消防夫。-caasjaa < caasjun (消す)。
- hwiiëcece① (名) 引っ張り合い。～ sjun.
- hwiiëci① (名) ひいき。偏愛。複合語としては、katabiëci (えこひいき), qkwabiëci (子どもひいき), tuzibiëci (妻ひいき) など。
- hwiiëcin① (名) [新?] 平均。普通は tunami また narasi という。
- hwiiëcin① (名) 布巾。ふいきん (九州方言)。
- hwiiëdama① (名) 火の霊。球状をなして空を飛ぶあやしい火で、火事を起こす魔物だと信じられていた。また美女に化けるともいう。hwiiëdama ともいう。
- hwiiëdukuru① (名) 寒い所。寒冷地。
- hwiiëgaci① (名) 板塀。
- hwiiëgataka① (名) hwiiëgataka と同じ。
- hwiiëgeesi① (名) 火事のあった時、村の入り口などで鐘・太鼓を鳴らして火の霊を入れないようにするまじない。hwiiëcamageesi ともいう。
- hwiiëguni① (名) 寒い地方。寒い国。?açiguni の対。
- hwiiëgurumaa① (名) [新] 蒸気船。蒸気船を見聞するようになったころの語。類語に ?açihwiiëgurumaa (おか蒸気)。
- hwiiëhuci① (名) 火吹き竹。
- hwiiëhwaa① (名) あき俵。藁むしろで作った穀物用のあき俵。
- hwiiëhwiituu① (名) ①全く平等。②勝負なし。議論などでどちらが勝ったか結果がわからなくなったような場合にいう。③立ち消え。相談事などが立ち消えになってしまうような場合にいう。
- hwiiëhwinan① (名) 非難されるべき欠点。
- hwiiëhwiraa① (名) よく尻をひる者。
- hwiiëhwirikuzi① (名) 空くじ。はずれたく

hwiiʔiru

- じ。karakuzi ともいう。
- hwiiʔiru**① (名) 緋色。
- hwiijoosaN**② (形) 胃腸が弱い。
- hwiiikusasaN**③ (形) 尻のにおいがしてくさい。
- hwiiкуси**④ (名) 欠点。非難すべき点。ʔaran ~ ʔikiti ʔwiiʔnzacaN. あらぬ難くせをつけて追い出した。~ kaʔimijun. 他の非をにぎる。~ nu ʔuhusaru mun. 難点の多い者。
- hwiiikusunaQ'tai**⑤ (名) 尻のようなもの。何も役に立たぬつまらぬもの。
- hwiiimaki**⑥ (名) 太陽の熱に負けて弱ること。日射病など。
- hwiiimeesaa**⑦ (名) 下働き。火を燃やす者の意。台所仕事ばかりする者の卑称。
- hwiiimiN**⑧ (名) [新] 平民。普通は hjakusjoo という。
- hwiiinusi**⑨ (名) 甘藷に食い入っている虫。
- hwiiimusjaa**⑩ (名) hwiiimusi のついた甘藷。虫食いも。ʔirimusjaa ともいう。
- hwiiimutaan**⑪ (名) 火遊び。
- hwiiinaa**⑫ (名) 火繩。しゅろの毛で作り、火持ちがよく、マッチの不自由な時代に農民がたばこの火のために多く用いた。
- hwiiinumutu**⑬ (名) 火の元。
- hwiiinuniçi**⑭ (名) 火熱。火の熱。hwiiinuniçi は太陽の熱。
- hwiiira**⑮ (名) へら。農具の一つ。苗を植えたり草を取ったりするもの。
- hwiiiraa**⑯ (名) ㊦油虫。ごきぶり。家屋のじめじめしたところなどにいる平たい黒茶色の虫。平たいものの意。㊦南京虫。Qcu-kweebiiraa ともいう。
- hwiiira=cuN**⑰ (自 =kaN, =ci) 疼 (ひひら) ぐ。(切り傷・やけどなどが) ひりひり痛む。
- hwiiiroo**⑱ (名) 肺結核。まれな語。「肺癆」に対応する。普通は tanjanmee という。
- hwiiiruu**⑲ (名) [焙炉] 手あぶり用の小さ

- い火鉢。あんか。丸い土焼きで、上部にくつも丸い穴がある。老人が暖をとるのに多く使われる。
- hwiiisagatagata**⑳ (副) 寒さでがたがたするさま。~ sjun.
- hwiiisaguhwai**㉑ (名) 寒さにこごえること。
- hwiiisahusizi**㉒ (名) 寒さよけ。防寒。
- hwiiisakurisja**㉓ (名) 寒さに苦しむこと。~ sjun.
- hwiiisamagai**㉔ (名) 寒さでちぢこまること。
- hwiiisamaki**㉕ (名) 寒さに負けて体をそくなること。
- hwiiisaŋuu**㉖ (名) 悪寒。病的な寒さを感じ、体がぞくぞくすること。マラリヤの際の悪寒など。~ sjun. 悪寒がする。
- hwiiisaN**㉗ (形) 寒い。冷たいは hwizurusaN.
- hwiiisaʔumii**㉘ (名) 寒がり。寒がること。また、寒がる者。
- hwiiisicaa**㉙ (名) 十能。おき・炭火を取るための道具。
- hwiiitaa**㉚ (名) 羽織に似た、冬用の着物の名。そでは長く、すそは短い。男女用。裏に munpa (裏地用の厚い綿布) を付けたものが普通であるが、綿を入れたものもある。
- hwiiitaQtaa**㉛ (名) 火ぶくれ。やけどで皮膚がふくれること。またその箇所。
- hwiiitaiii**㉜ (名) ㊦のろし。舟などへの合図として用いられた。㊦煙突。
- hwiiitaiimoo**㉝ (名) hwiiitaimoo と同じ。
- hwiiitaimoo**㉞ (名) のろし台。のろしを上げる場所。
- hwiiiteeçikijaa**㉟ たきつけ。teeçikijun はたきつける。
- hwiiitu**㊱ (名) いるか。名護湾に大群をなして押し寄せることがあり、その時は名護全体が戦場のような騒ぎとなる。

hwiitui① (名) 煙草盆に入れる火種用の小さい火鉢。首里では上品に ꠘuciritui とすることが多い。
hwiiꠘuci① (名) 忌中。死後の四十九日間。
hwiiza① (名) (袴などの) ひだ。
hwiizaa① (名) やぎ。その小児語は beeb-
bee。
hwiizaa① (名) [樋川] かけひ (笈)。その小児語はやぎのそれと同じく beeb-
bee。
hwiizaagaa① (名) 湧き水をかけひで引いて、水を汲めるようにしたところ。-gaa <kaa (井戸)。
hwiizaaꠘuzoo① (名) 首里城の門の名。ꠘu-
gusiku の項参照。
hwiizii① (名) 平常。ふだん。
hwiizi=jun① (自 =raN, =ti) 泣く。上流階級の用いた上品な語。hwiizimiseen。お泣きになる。nuundici ꠘunzoo hwiizimiseega。なぜあなたはお泣きになるのか。
hwiizikee① (名) 放火。火付け。~ sjun。
hwiizimi① (名) 火攻め。焼き打ち。
hwiizintoo① (名) 幼児の遊戯の名。左右の一方の手のひらに他方のひじをのせ、離し、それを左右交互にくりかえしながら歌を歌うもの。幼児に運動させるための遊戯である。siijaabuu ともいう。
hwiiziri① (名) 火のついたたきぎの切れはし。燃えさし。
hwii=zun① (他 =gaN, =zi) ①ひしく。押しつぶす。②いじめる。
hwi=jun① (自 =raN, =qci) 干る。ꠘusjunu ~。潮が干る。sirunu ~。汁が干る。煮物の水分がなくなる。
hwi=jun① (他 =raN, =qci) ひる。hana ~。くしゃみをする。hwii ~。屁をひる。
hwi=jun① (自 =raN, =ti) 減る。hwinajun ともいう。siinu ~。負債が減る。hanmeenu ~。食糧が減る。hwiti ꠘi-

cuN. 減っていく。

hwi=jun① (他 =raN, =ti) 経る。経過する。dee ~。年代を経過する。世代を経る。

hwiiju① (名) 平癒。病気の全快。nagawacaree sjootasiga ~ sjan. 長く寝ていたが、全快した。

hwiiju① (名) 日傭とり。日雇い労働者。

hwikari① (名) ①光。hwicai と同じ。②威光。また、名誉。ほまれ。その敬語は ꠘuhwikari。ꠘujanu ~ najun. 親の名誉になる。~ tacun. 荣誉が高くなる。

hwikasa=rijun① (自 =riraN, =qti) 愛情に引かされる。また、誘惑される。

hwikazi① (名) 日数。

hwikec① (名) ①控え。写し。副本。②控え。そばに控える者。

hwikee=jun① (他 =raN, =ti) ①控える。写しを取る。②控える。控えて待つ。③控え目にする。また、ためらう。

hwikeezu① (名) ①控え所。官公庁などの待合室。②特に葬式の時、式が終わって葬列の発するまで待つ所。

hwikin① (名) 北京。hwicin ともいう。

hwikusan① (形) 低い。(空間的位置、また身分などが) 低い。

hwima① (名) 暇。~ kwijun. 暇をやる。休暇をやる。~ ꠘnzasjun. 暇を出す。解雇する。

hwimadaari① (名) 空しく暇をつぶすこと。空しく徒食すること。賃金をかせげないでいること。

hwimasimun① (名) ひま人。

hwimasini① [文] 日増しに。日に日に。口語は hwiibii.

hwimicaa① (名) 喘息やみ。

hwimici① (名) 喘息。~ gusugusu. 喘息で苦しむさま。

hwimudui① (名) 日帰り。

hwimun① (名) 碑文。金石文。

hwinaa

hwinaa① (名) すね者。ひねくれ者。hwinsjaa ともいう。

hwinaagata① (名) ⊖ 雛型。実物の模型。
⊖ 手本。様式。書式。

hwina=juN① (自 =raN, =ti) 減る。少なくなる。また、摩滅する。'watanu ~。腹が減る。hwinarasjuN. 減らす。

hwinaka① (名) 半日。

hwinakasigutu① (名) 半日仕事。

hwinazi① (名) 辺名地。《地》参照。

hwinii① (名) ひのえ (丙)。十干の第三位。

hwini=juN① (他 =raN, =ti) ひねる。ねじる。繕る。koowiiuru ~。こよりをよる。

hwinubi① (名) 日延べ。延期。

hwinuci① (名) 檜 (ひのき)。

hwinukan① (名) 火の神。かまどの神。
ʔumicimun ともいう。

hwinuku① (名) 辺野古。《地》参照。

hwinutu① (名) ひとの (丁)。十干の第四位。

hwiN① (名) 変。おかしいこと。また、すねること。反対。ʔaree kunuguru ~doo. 彼はこのごろ変だぞ。~na mun. 変なもの。また、すね者。ひねくれ者。hwinaa, hwiNsjaajaa ともいう。~sjun. すねる。ひねくれる。

hwiN① (名) 辺。あたり。maanu ~ga. どの辺か。

hwiN-(接頭) 動詞につき、急に・はげしくなどの意を表わす。ひん。hwiNmudijun (強くつねる, ひんねじる), hwiNmaga-jun (ひん曲がる), hwiNtubi (ふっ飛ばすこと) など。

hwiNbin① (名) 返済。返済。hwiNbinoo caaki caaki. 借りたものを返すのはできるだけ早く。

hwiNcaajNma① (名) 怒って人にかみついたりする馬。暴れやすい馬。

hwiNci① (名) 急に気が変わって反抗的になること。人・馬などが、急に不機嫌にな

ること。~sjun. 急に気が変わって怒り出す。~na mun. 急に不機嫌になる者。

hwiNga① (名) (顔などに) 垢がたまっている者。

hwiNgaamajaa① (名) hwiNga と同じ。majaa は猫。猫はしょっちゅう顔を洗っているので、猫の顔はいつもよごれていると見たのであろう。

hwiNgan① (名) hwiNgan と同じ。

hwiNga=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖ のがす。逃がす。⊖ (子どもなどを) 死なす。平民が使ら。'warabaa ~。子どもを死なす。sinasjuN をさけて言ったもの。

hwiNgi=juN① (自 =raN, =ti) 逃げる。

hwiNgima¹ai ① (名) 逃げ回ること。仕事から逃げ回る場合などにもいう。~sjun.

hwiNgiʔNma① (名) 放れ馬。逃げ出した馬。

hwiNgu① (名) 垢。「へぐろ」(九州方言、鍋墨の意)に対応する語か。~ciun. 垢が付く。~nu tamati hwiirasaaidu ʔukusjuuru. 垢がたまったらで起こすほどだ。

hwiNgujoogaci① (副) 垢だらけ。垢がたまってきたさま。まだらによごれたさまは ʔa-jagacikoogaci という。

hwiNkee① (名) 口答え。目上への反抗的な返答。~sjun.

hwiNmaga=ju¹N① (自 =raN, =ti) ひん曲がる。強く曲がる。

hwiNmudi=ju¹N① (他 =raN, =ti) 強くねじる。強くつねる。

hwiNnaa① (名) 昼寝ばかりする者。

hwiNnai① (名) 昼寝。~sjun.

hwiNnuga=sju¹N① (他 =saN, =ci) すり抜けさせる。すり抜けられて逃がす。

hwiNnugi=ju¹N① (自 =raN, =ti) すり抜ける。すり抜けて逃げる。

hwiNpuN① (名) 家の前にある塀。門前から家の中を見透かされるのを防ぐためのもので、石を立てたものも cinibu (竹で編

- んだもの)を使ったものもある。
- hwiNrii**① (名) 返礼。お返しを贈ること。
~ sjuN.
- hwiNsee**① (名) 返済。借金を返すこと。~
sjuN.
- hwiNsjaa**① (名) ひねくれ者。すね者。
hwiNaA と同じ。
- hwiNsuu**① (名) 貧乏。
- hwiNsuumurasi**① (名) 貧乏暮らし。
- hwiNsuumuN**① (名) 貧乏者。ʔweekinCu
(金持ち)の対。~nu taka ʔitaNnee. 貧
乏者が鷹をもらったよう。大変な喜び方の
形容。鬼の首を取ったよう。鷹は富貴な人
のものとするのでこういう。
- hwiNtoo**① (名) 返答。
- hwiNtu**① (名) つと。わらづと。持ち運ぶ
ために、食物を藁・芭蕉の葉などで包んだ
もの。つとにした弁当。首里では bintoo
ということが多い。
- hwiNtubi**① (名) ふっ飛ぶこと。すっ飛ぶ
こと。~ sjuN. ふっ飛ぶ。すっ飛ぶ。
- hwiNtuna**① (名) 辺土名。《地》参照。
- hwiNzi=juN**① (自 =raN, =ti) hwiNgijun
と同じ。
- hwiNzimuN**① (名) 反逆者。また、不良。
村の総意に従わないならず者など。
- hwiQcaa=sjuN**① (他 =saN, =ci) hwiCaA-
sjuN と同じ。
- hwiQcati=juN**① (他 =raN, =ti) ⊖ ひっさ
げるようにして持ち上げる。重い物を地
面から持ち上げる場合などにいう。⊖(金
などを)一時的に借りる。hjaqkwanbi-
keen hwiQcatiraci kwiranna. 銭100
貫ばかり一時貸してくれないか。
- hwiQcatiruu**① (名) ⊖一時的に金を借りる
こと。一時的に金を融通してもらうこと。
⊖方方で金を借り歩く者。
- hwiQcatiruuibici**① (名) 本人に相談な
く不意に嫁がせる結婚。金銭などを受け
取って出戻りの女を老人に嫁がせる場合な
どに多い。
- hwiQceec=juN**① (自 =raN, =ti) ひっくり返
える。mii hwiQceerasjuN. 目を回す。
気絶する。
- hwiQceec=sjuN**① (自 =saN, =ci) (病気が)
ぶりかえす。hwiQceesjuN, huQceesjuNと
もいう。ʔjanmeenu ~. 病気がぶりかえ
す。
- hwiQcii**① (名) 一日。また、一日中。終日。
月の第一日は ciitaci. ~ja kuutuguutu
nukubaajuN. 日一日と 暖かくなる。
- hwiQciibaruu**① (名) 一日がかりの畑仕事。
畑に出たまま、一日家に帰らずにする畑
仕事。速くに畑のある者が昼の弁当持参でそ
うする。
- hwiQciigusii**① (名) 一日おき。隔日。
- hwiQciiju`qci**① (名) 一日中。朝から晩ま
で。ひねもす。多くは悪い意味の時いう。
~ munu ʔjunuN. 朝から晩までおしゃべ
りする。
- hwiQciisikuci**① (名) 一日仕事。朝から晩
までかかる量の仕事。
- hwiQci=juN**① (他 =raN, =Qci) ⊖ 引き切
る。引きちぎる。cina hwiQciqcoon. 縄
を引きちぎっている。⊖(金銭・品物など
を)切らす。ziN hwiQciqcoon. 金を切
らしている。
- hwiQciki=juN**① (他 =raN, =ti) ひっつけ
る。くっつける。
- hwiQciraka`acira**① (副) 切らしがちなさ
ま。(金銭・品物などが)不足がちなさま。
~ sjuon. 切らしがちである。
- hwiQcira=sjuN**① (他 =saN, =ci) (金銭・
品物などを)切らす。
- hwiQciribiqiri**① (副) ⊖ 切れ切れ。いく
つにも小さく切れたさま。⊖ 小きざみ。細
かく切りきざむさま。また、(金などを)
少しずつ支出するさま。
- hwiQciri=juN**① (自 =raN, =ti) (金銭や品
物が)切れる。

hwiQeirizaNmiN

hwiQeirizaNmiN①(名)こま切れの計算。
ばらばらの能率の悪い計算。

hwiQeirizuutee①(名)生活費などが不足
がちの所帯。金を切らしがちな所帯。ま
た、毎日金が小さきみに入るような所帯。

hwiQcoo①(名)比較。比べること。ʔwee-
kiNcutu hwiNsuumuNtu ~ja nara-
nsa. 金持ちと貧乏人と比較はできないよ。

hwiQkaki=juN①(他 =raN, =ti) ひっ掛け
る。鈎などに掛けて下げる。

hwiQkatan=cuN①(自 =kan, =ci) ⊖没頭
する。熱中する。傾倒する。gakumunu-
nkai ~. 学問に没頭する。⊖一辺倒とな
る。

hwiQkumu=juN①(自 =raN, =ti) 引き
こもる。ʔjaanakai hwiQkumuti maa-
nkain ʔNzirAN. 家に引きこもってどこ
にも出ない。

hwiQku=nuN①(自 =maN, =di) 引っこむ。
また、家などに引きこもる。miigaa ~. 疲
勞してまぶたがくぼむ。

hwiQpaikaʔapai①(副)(着物・皮膚など
が)引きつったさま。ciNnu ~ sjoon.
引っ張られたような着物の着かたをしてい
る。

hwiQpa=juN①(他 =raN, =ti) ⊖引っ張る。
⊖着物にのりをつけてピンとさせる。着物
をきちんと、さっぱりと着る。sikutajuN
の対。⊖転じて、派手にする。羽振りよく
する。威勢よくする。hwiQpati ʔaQcuN.
羽振りよく暮らす。

hwiQpaku①(名)逼迫。貧乏で困窮するこ
と。~ sjoon. 貧乏で生活に苦しんでい
る。

hwiQsa=cuN①(他 =kan, =ci) 引き裂く。

hwiQsagi=juN①(他 =raN, =ti) ひっさげ
る。さげて持つ。

hwiQsaN①(名)[筆算]読み書きそろばん。

hwiQsaN①(形)薄い。(厚み・濃度が)薄
い。kabinu ~. 紙が薄い。karazinu ~.

髪が薄い。ʔucanu ~. お茶が薄い。

hwiQsaNniN①(名)平民で学問のある人。
平民で読み書きそろばんなどのできる人。

hwiQsja①(名)[筆者]役職名。王府の役
所(hjoozoozu など)の書記官。

hwiQsui①(副)ぴくん。ずきん。どきん。
ぎくり。

hwiQsuihwiQsui①(副)ぴくんぴくん。動
脈が動くさま。また、ずきんずきん。脈打つ
ように痛むさま。また、どきんどきん。非
難などが胸にこたえるさま。hjuurucinu
~. ひよめきがぴくんぴくん。haanu ʔja-
di ~ sjuN. 歯がずきんずきんと痛む。
ʔNninu ~ sjuN. 胸がどきんどきんする。
胸がぎくりとする。

hwiQsuimika=sjuN①(自 =saN, =ci) ぴく
んとする。ずきんと痛む。どきんとする。
ぎくりとする。

hwiQtaku=juN①(他 =raN, =ti) ひったく
る。荒荒しく奪い取る。

hwiQtakumaQʔtaku①(副)べちゃくちゃ。
おしゃべりするさま。~ sjuN.

hwiQtiN① neeN①(句)(子供が一人で遊
び)世話が要らない。ʔanu ʔwarabee ~.
あの子は世話がやけない。

hwiQtu=juN①(他 =raN, =ti) 強く取る。
残らず取る。取ってしまう。

hwiQtunuga=sjuN①(自 =saN, =ci) けし
飛ぶ。また、不意に行ってしまう。

hwira①(名)坂。「猶追ひて黄泉比良坂の
坂本に到る時に(古事記上巻)」の「比良」
と関係ある語かと思われ、「比良」もまた
坂の意であったかと思われる。また、
nuhwanu ʔisikubiri [伊野波の石くび
り], minimakubiri [みにまくびり]など
の語の語末の部分と関係あるか。なお、
sakuhwira (急な坂)という語もある。

hwiraa①(名)平たいもの。

hwiracisjuuhu①(名)家屋などの解体修理。

hwira=cuN①(他 =kan, =ci) 開く。haka

～。(葬式などで)墓を開く(haka ʔaki-jun とはいえる)。ʔuzuu ～。重箱(のごちそう)を開く(ʔuzuu ʔakijun とはいわない)。

hwiragaQkoo ㊦ (名) [平等学校] sjuimi-hwira [首里三平等] に一つずつ計三つ置かれていた中等教育の学校。kukugaku [国学] (大学相当) の下, muragaQkoo [村学校] (小学校相当) の上。

hwiraguN ㊦ (名) [平組] ㊦平組み。より糸三本を平たく編んだもの。㊦清朝時代の中国男子の弁髪。tooja ~ 'jamatoo kanpuu, saraba ʔucinanu katakasira. [唐や平組 大和やかんぷり さらば沖繩の敬警] 唐は弁髪, 大和はちょんまげ, そして沖繩のかたかしら。㊦[新] 女学生などが三つ編みに編んで下げた髪。

hwirahwa'gusa ㊦ (名) おおぼこ(車前草)。薬草として, 煎じて飲んだり, 雑炊に入れて炊いたり, 根太の吸い出し膏薬にしたたり, 種々の病に効く。hwiruhwagusa ともいう。

hwirajacii ㊦ (名) 料理名。ʔNmukuzi-hwirajacii と同じ。

hwirajakuniN ㊦ (名) [平等役人] hwirazu [平等所] に務める役人。

hwira=juN ㊦ (他 =aN, =ti) つきあう。交際する。また, (目上に) 仕える。謙(へ)り合ひ意か。qeu ~。人ときつきあう。'utu ~。夫に仕える。hwirajuru situN 'uran. 仕えるべき姑もない。

hwirakaa ㊦ (名) 平川。《地》参照。

hwirakaamuzi ㊦ (名) 押し麦。

hwiraka=sjuN ㊦ (他 =saN, =ci) ㊦平らにする。押しつぶす。ぺちゃんこにする。㊦(喧嘩の相手を) やっつける。

hwiraki=juN ㊦ (自 =raN, =ti) ㊦平たくなる。ぺちゃんこになる。㊦疲れてすわり込んでしまう。

hwiraki=juN ㊦ (自 =raN, =ti) 開(ひら)け

る。開化する。

hwiraku=nun ㊦ (自 =maN, =di) しびれる。

hwisja ~。足がしびれる。

hwiramaaça ㊦ (名) hwiramaaçi と同じ。

hwiramaaçi ㊦ (名) 平松。枝が低く平らに広がった松。ʔujamahwiramaçinu 'judamucinu curasa, ʔujamamijarabinu tihuizurasa. [大山平松の 枝持ちの清らさ 大山みやらべの 手振清らさ] 大山の平松の枝ぶりは美しく, 大山の乙女の踊る手振りは美しい。

hwirami=juN ㊦ (他 =raN, =ti) 平らにする。平たくする。mimi ~。耳をすます。耳を傾ける。また, (動物などが) 耳を立てる。

hwiramusiru ㊦ (名) おおたにわたり。暖国の陰地に産する水龍骨科賢衆(やぶそてつ) 属の植物。

hwiramusiruu ㊦ (名) hwiramusiru と同じ。

hwiranuci ㊦ (名) 箆(おさ)に経糸を二本ずつ通して織った普通の布。ʔusjaamii (四本ずつ通したものの) の対。

hwiranusuba ㊦ (名) [古] [平等の側] 庶藩前の役名。法務長官にあたる。zuuguniNsjuu [十五人衆] のひとり。

hwiraN ㊦ (名) hwiranmee と同じ。

hwiranmee ㊦ (名) 麦飯。大麦の押し麦だけをたいたものをいう。

hwiraQteen ㊦ (副) 平たく。平らに。ぺしゃんこに。ぺたんと。

hwirasaN ㊦ (形) 平たい。平らである。また, 押しつぶされて, ペしゃんこである。hwiraku 'ijun. あぐらをかく。hwiraku najabira. あぐらをかきましょ。

hwirata ㊦ (名) 平田。《地》参照。

hwirazu ㊦ (名) [平等所] 庶藩前の役所の名。警察署・裁判所・刑務所を兼ねた役所。

hwiree ㊦ (名) 付き合い。交際。また, 目上

hwireegurii

- へ仕えること。<hwirajuN。複合語は -biree の項参照。
- hwireegurii① (名) 付き合いにくい者。気むずかしい者。
- hwireegurisaN① (形) 付き合いにくい。気むずかしく、交際しにくい。
- hwireejaQsaN① (形) 付き合いやすい。気安い。心安い。
- hwireeniNzu① (名) 付き合い合っている人びと。日ごろ、交際している人びと。
- hwiri① (名) ①へり。ふち。②畳のへりの布。
- hwiri① (名) 減り。減ること。kunu kumee ~nu neeraN。この米は(精米して)減りが少ない。
- hwirihoo=ju³N① (他 =raN, =ti) (屁などを) ひり散らす。やたらに屁をする。
- hwirihwiri① (副) 下痢するさま。<hwijuN。~ sjuN。下痢する。
- hwiriingami① (名) つまみ食い。拾って食う意。
- hwi=rijuN① (他 =riran, =qti) 拾う。hwirajuN とはあまり言わない。ziN ~。金を拾う。
- hwirikuma=ju³N① (自 =raN, =ti) (遊里などに) 入りびたる。流連する。zurinujaanakai ~。遊郭に入りびたる。
- hwiriku=nuN① (自 =maN, =di) 入りびたる。qcuujuanakai ~。人の家に入りびたる。
- hwirisju① (名) 干潮。hwiisju, また hwiicisju ともいう。
- hwiru① (名) ①尋。長さの単位。昔は布の長さ、井戸の深さなどすべて尋で計った。kunu nunoo ~nu Yamatoon。この布は長さがたっぷりある。②(按尾) 尋。cu-hwiru (一尋), tahwiru (二尋) など。
- hwiru① (名) 大蒜 (にんにく)。
- hwiru① (名) 昼。日中。
- hwirugai① (名) ①広がり。②子孫がふえ

- 栄えること。cuiNgwanu ~。一人っ子からたくさんの子孫ができ、栄えること。
- hwiruga=juN① (自 =raN, =ti) 広がる。広がる。また、蔓延・伝播・流布する。また、(子孫が) 広がる。繁殖する。
- hwirugi=juN① (他 =raN, =ti) 広げる。?ucukwii ~。ふろしきを広げる。qkwa?Nmaga ~。子孫を繁殖させる。
- hwirugusarimuN① (名) なま臭いもの。魚特有の悪臭を放つもの。
- hwirugusasaN① (形) なま臭い。魚特有のにおいがする。
- hwiruhwa'gusa① (名) hwirahwagusa と同じ。
- hwiruma① (名) ①午後。昼過ぎ。②hwirumamuN (午後の食事) の略。
- hwiruma=juN① (自 =raN, =ti) 広まる。普及する。あまねく伝わる。
- hwirumamuN① (名) 午後(3時ごろ) する食事。労働をする者などが sutumitimuN (朝飯), Yasaban (昼飯), 'juuban (夕飯) の三食のほか、午後にとる軽い食事。丁寧には hwiruma?ubun, mi-hwiruma?ubun という。
- hwirumasjaN① (形) 不思議である。怪しい。奇妙である。いぶかしい。珍しい事件などについていう。hwirumasii kutu。不思議なこと。珍しい、怪しい事。
- hwiruma?ubun① (名) hwirumamuN (午後にとる軽食) の敬語・丁寧語。
- hwirumi=juN① (他 =raN, =ti) 広める。拡張・宣伝・流布する。
- hwirusaN① (形) 広い。(空間・交際・知識・心などが) 広い。sibasaN (狭い) の対。
- hwiruu① (名) [披露] 訴訟。裁判に訴えること。~ sjuN。訴訟する。
- hwirubiruu① (副) 広広と。~ sjuon。広広としている。
- hwiruzi① (名) 広い場所。広場・広間など。
- hwiru=zuN① (他 =gan, =zi) 布の長さな

どを、尋で計る。nunu ~. 布の長さを尋で計る。caqsaga ʔara hwiruzi 'NNdee. 何尋あるか計って見ろ。

hwiruzuu① (名) 昼中。終日。

hwisagi=jun① (他 =raN, =ti) ひっさげる。手にさげる。hwisagirariiru ʔataii. 手にさげられるぐらいか。

hwisi① (名) [干瀬] 満潮の時は隠れ、干潮になると現われる岩や洲。大隅風土記の「海中之洲者隼人俗語云必至」の「必至(ひし)と比較される。~ni 'uru tuija micisju ʔuramijui, 'wamija ʔakaçicinu tuidu ʔuramijuru. [干瀬に居る鳥や満潮恨みゆい 我身や暁の鳥ど恨みゆる] 沖の石にいる鳥は満潮を恨むが、わたしは恋人との別れを知らせるあかつきの鳥が恨めしい。

hwiŋi① (名) 栓。~sjun. 栓をする。

hwiŋibataa① (名) うすっぱらな布地。

hwisica① (名) 平敷屋。(地) 参照。

hwisici① (名) 平敷。(地) 参照。

hwisihwisi① (副) ⊖ずきずき。脈打つように痛むさま。haanu ~'janun. 歯がずきずき痛む。⊕ひしひし。びしびし。(非難などが) 胸にこたえるさま。~ʔatajun. ひしひしと胸にこたえる。~nucihwici sjun. びしびしと非を指摘する。

hwiŋii① (名) 薄いもの。

hwiŋi=jun① (自 =raN, =ti)(厚み・濃さが) 薄くなる。

hwiŋikaagaa① (名) 薄物を通して見える物のかけ。~mijun. 薄物を通して物のかけが見える。

hwiŋi=cun① (他 =kaN, =ci) 手荒くさしこむ。押しこむ。

hwiŋisan① (形) hwiŋsaN と同じ。

hwiŋja① (名) 足。足首より下をも足全体をもいう。「ひざ」に対応する語か。~takudi 'icoon. 足をたたんで坐っている。すなわち、無為徒食している。また、楽を

して何もしないでいる。kumaja raku-rakutu ~ takudi 'ututi, murabaru-nuhjaaga hakarigutu tajuti… [こまや楽々と ひしやたくで居とて 村原の比屋が 謀たよて…(大川敵討)] こちらは楽々とすわっていて、村原の比屋の謀りごとを利用して…。hwiŋjanu 'nkajuru mama. 足の向くまま。どこに行くという目的もなく。これには ʔasinu 'nkajuru mama. ともいう。hwiŋja hagoosaN. 足元が気味が悪い。藪などで蛇を恐れる時などにいう。

hwiŋjabuni① (名) 足の骨。

hwiŋjadakaa① (名) 背伸び。つま先立ち。~sjun. 背伸びする。

hwiŋjadarusaN① (形) 足がだるい。

hwiŋjakata① (名) 足跡。踏んだ足のかた。

hwiŋjakubi① (名) 足首。

hwiŋjamaNci① (名) 端坐。正坐。~sjun. 端坐する。

hwiŋjamoo① (名) 足無し。足の無い者。

hwiŋjamookaa① (名) 足の無い者。足無し。前項と次項の単称。

hwiŋjamookuu① (名) 足の無い者。足無し。hwiŋjamoo の単称。

hwiŋjanaa① (名) 足の甲。

hwiŋjanuwata① (名) 足の裏。また、土ふまず。wata は腹。

hwiŋjaŋiŋiŋiŋi① (名) 足ずり。子供が身をもがいて足をするのをいう。

hwiŋjazikara① (名) 脚力。足の力。~nuneen. (病後などに)足の力がない。

hwiŋsu① (名) [新] 碓素。

hwiŋta① (名) 下手。~'jan. 下手だ。~nakutu sjun. まずい事をする。

hwiŋtani① (副) ひたすら。~ni zinmookizukubikeei. ひたすら金もうけばかり。

hwiŋtu① (名) [文] 人。口語は qcu. ~nukukuru. 人の心。

hwiŋtuçi① (名) [文] 一つ。口語は tiçi.

hwitumagee

tukeja hwizamitin tiru cicija ~. [渡海や隔めても 照る月や一つ] 海はへだても照る月は一つ。

hwitumagee① (名) [文] 人違い。口語は qcumagee, qcubaqpee, hwitumageja ʔarani mizisirazi satume. [人まがひやあらに 見ず知らず里前(手水之縁)] 人違いではありませんか, 見ず知らずのお方。

hwitumasai① (名) [文] 人にまさっていること。satuja hanazakai ~ ʔariba. [里や花盛り 人まさりやれば(手水之縁)] 恋しいあのかたは若い花盛りで, 人よりもすぐれているから。

hwitunusudu① (名) [文] 人さらい。qcu-nusudu の文語。

hwiza① (名) 比謝。《地》参照。

hwiza① (名) 比嘉。《地》参照。

hwizagaa① (名) 比謝川。川の名。中頭郡にあり西海岸に注ぐ。

hwizahoo① (名) 東の方。農村で多くいう語。首里では普通 ʔagarikata という。

hwizai① (名) 左。

hwizaidiinagaa① (名) 泥棒の別名。左手が長い者の意。

hwizaigaqti① (名) 左きき。hwizajaa ともいう。

hwizaiguN① (名) 膳部の飯と汁を反対に置くこと。飯左, 汁右が正しく, 反対にすると作法に反する。左組みの意。

hwizaimacaa① (名) 左巻き。つむじが左巻きの方。また, 一癖ある者。

hwizaimigui① (名) 左前。経営がうまく行かないこと。また, 経営が下手なこと。~ qsi muutumadi neen natan. 経営が左前になって元手まで無くなった。

hwizainuudii① (名) 音痴。声が調子はずれな者。hwizai (左) は不器用の意。

hwizaiʔucaasi① (名) 着物を左前に着ること。古くは左前の風があったのか, 農村の老女などに見掛けられる。教養の無いかっ

こうとされている。sjui nahwani nubuti, sudi hujuru sinssi, 'unazaraja namān hwizaiʔucasi. いなかから首里・那覇に上って袖を振って歩く田紳, 奥方は今でも左前に着物を着る。廃藩後の田舎紳士を皮肉った歌。

hwizaizii① (名) 左文字。印鑑などのように, 裏側から見た字。

hwizajaa① (名) 左きき。左ぎっちょ。hwizaigaqti ともいう。

hwizama=juN① (自 =ran, =ti) へだたる。間にはいってへだたる。また, 距離が離れる。mura tiigi hwizamatoon. 村一つはさんで離れている。

hwizami① (名) ⊖へだて。間をへだてるもの。~nu neeran. 間をへだてる物がない。~ ʔuqtuti zaa tiigi nasjuN. へだてを取り払って一つの座敷にする。⊖(接尾)…をへだてるもの。…をへだてた隣。kubihwizami (壁をへだてること。壁一つへだてた隣) など。

hwizami=juN① (他 =ran, =ti) へだてる。間に入れてへだてる。また, 距離をへだてる。離れる。ʔamatu kumatoo ʔumi hwizamitooN. あそことこことは海をへだてている。sanri hwizamitooN. 3里をへだてている。kaama hwizamitooN. 遠く離れている。

hwizarugisaN① (形) 不器用らしい。ぎごちない。また, (姿が)ぶかっこうである。おろかしく見える。

hwizaruu① (名) ⊖不器用。ぶかっこう。また, そのような者。⊖間が悪いこと。ぼつが悪いこと。~ najuN. ぼつが悪くなる。

hwizaʔunna① (名) 東恩納。《地》参照。

hwizi① (名) 返事。~ hwiNtoo. 返事返答。hwizi を強めたことば。

hwizi① (名) ⊖ひげ。複合語としては, ʔwaahwizi (鼻ひげ), sicahwizi (あごひ

げ), hwizimoo (ひげなし), 'jamahwizaa (ひげだらけの人) など。⊖植物のひげ根。～ sasjun. ひげ根が出る。ひげ根が伸びて行く。

hwizi① (名) 比地。《地》参照。

hwiziei① (名) 杼(ひ)。機織りの器具の名。緯糸を巻いた管を入れるもの。舟型をしており、これを上下に開いた経糸の間に差し入れて、布を織る。高機のは小さく、地機のは大きい。

hwizigee① (名) hwizikee と同じ。

hwizigee magii① (名) 腕の太い者。腕っぶしの強い者。

hwizikee①* (名) 肘。また、肘を中心とした腕。腕っぶし。hwizigee ともいう。

hwizimoo① (名) ひげ無し。ひげの無い人。ʔutugeenan duruu (おとがいすべすべ), haameezira (ばあさんづら) などともいう。

hwizui① (名) 冷え。冷えこむこと。また、冷氣。～ ʔijun. 冷氣におかされる。冷えこんで病気になる。

hwizucii① (名) 冷えこむと起きる病気。神経痛・リュウマチスの類。

hwizukaa① (副) 食物などが冷えているさま。～ sjoon. 冷えている。

hwizuiʔooi① (副) 体・手足などが冷えこむさま。～ sjun.

hwizu=juN ① (自 =ran, =ti) 冷える。冷たくなる。さめる。ʔubunnu ～. 御飯が冷える。dii, hwizuraN maadu kamee. さあ, さめないうちに食べろ。hwizura-

sjun. 冷やす。

hwi=zuN① (他 =gaN, =zi) そぐ。へぐ。薄く削り取る。

hwizuqteen① (副) ひやりと。冷え冷えと。冷たいさま。

hwizuruʔasi① (名) 病気などで気分の悪い時に出る汗。病気の時の寝汗など、冷たい感じのする汗。恥じたり気を使ったりする時のひや汗の意では用いない。

hwizurukaNzaa① (副) 冷え冷えとしたさま。寒寒としたさま。火の気・女気などのないさま。～ maatoon. 寒寒としている。

hwizurukaNzi①* (名) 冷え冷えとした感じ。寒寒とすること。～ sjun.

hwizurukaN=zu`N①* (自 =dan, =ti) 冷え冷えとする。寒寒とする。

hwizurukazi① (名) 冷たい風。ひやりとする風。

hwizurumizi① (名) 冷たい水。冷水。

hwizurumuN① (名) ⊖冷たい物。(食物などの) 冷えたもの。⊖よく切れる刃物。鋭い刃物。

hwizurusaN① (形) 冷たい。また、涼しい。精神的な冷淡さにはいわない。hwizuruku najun. 冷たくなる。涼しくなる。ʔunzuga tiija ～. あなたの手は冷たい。cimu hwizuruku najun. 危くて心がひやっとする。肝を冷やす。

hwizuruʔubuN① (名) ひや御飯。

hwizuu① (名) 日中。昼間中。また、一日中。～ nuun santan. 一日中何もしなかった。

- ʔi-**(接頭) [文] 美称の接頭辞。名詞に付き、意味に特殊な価値を添える。ʔikataree (男女の語らい), ʔikutuba (故老のことは、言い伝え), ʔihwanasi (説話) など。
- ʔibadukuru**Ⓞ (名) ʔibaidukuru と同じ。
- ʔibaʔibaatu**Ⓞ (副) 小じんまりと。部屋などが狭くてしっくりした感じを与えるさま。
- ʔibai**Ⓞ (名) 狭い所。窮屈な所。たくさんの人で、また家が建てこんで窮屈なところ。
- ʔibaidukuru**Ⓞ (名) ʔibai と同じ。
- ʔibainumii**Ⓞ (名) 狭苦しいところ。窮屈な中。
- ʔibajaa**Ⓞ (名) [新] いばっている者。
- ʔibajaasiicee**Ⓞ (副) 窮屈なさま。狭苦しいさま。人・建物・道具などがひしめいているさま。
- ʔiba=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) [新] いばる。
- ʔibasaN**Ⓞ (形) 狭い。窮屈である。狭苦しい。いる人・ある物に対して、その場所が狭いのにいふ。sibasaN の項参照。ʔusakii qcunu ʔaçimaidun ʃee, caaru ʔasici ʔjatin ʔibasadu ʔaru. そんなに人が集まるならぼどんな部屋だって狭いさ。ʔibasanu naakankai ʔwaikudi ʔicuN. 窮屈な中に割り込んで行く。
- ʔibi**Ⓞ (名) えび(蝦)。
- ʔibi**Ⓞ (名) [威部] 神のいる場所。また、神。sakamutunu ~ja ɗanzu tujumariru, ʔjujuzuraga cumutu kubanu mimutu. [坂本のいべや だんじよとよまれる よよぎよらが一本 こばの三本] 坂本の拝所はなるほどほめはやさされる。くろつぐが一本、びろうが三本あって由緒ありげである。
- ʔibiraa**Ⓞ (名) けちんぼ。物惜しみする者。
- ʔibiri=juN**Ⓞ (他 =raN, =ti) けちけちする。物惜しみする。ʔibiritoon. けちである。
- ʔibiriʔNza=sjuN**Ⓞ* (他 =saN, =ci) [新?] (嫁などを) いじめて追い出す。
- ʔibuikabui**Ⓞ (副) ʔibuisiizii と同じ。
- ʔibuisiizii**Ⓞ (副) 盛んに値切るさま。ʔibuikabui ともいう。~ ʔjaʃimirasjuN. しきりに値切って安くさせる。
- ʔibujaa**Ⓞ (名) いつも値切る者。
- ʔibu=juN**Ⓞ (他 =raN, =ti) 値切る。
- ʔibusuci**Ⓞ (名) 指宿。鹿児島地名。
- ʔica**Ⓞ (名) 板。ʔita ともいう。
- ʔica**Ⓞ (名) いか(烏賊)。ʔika ともいう。
- ʔica**Ⓞ (副) [文] いかに。どう。口語は caa. ~ ʔuʃoozi miʃeega. どのように思召されますか。~ga najura. どうなるだろうか。
- ʔicaa=juN**Ⓞ* (自 =raN, =ti) ʔicajuN と同じ。
- ʔicaasikantii**Ⓞ (名) 収支つぐなわないこと。やりくりしかねること。収支を合致しかねる意。ʔunu ʔatainu ziɓcuuʃee kurasee ~ja ʔarani. そのぐらいの月給では暮らしはやりくりがむずかしくないか。
- ʔicaasikwaasii**Ⓞ (副) やりくり算段するさま。ʔjarasiikwaasii, ʔjaracaikwaacai などともいう。ʔanu ʔjaaja ~ qsiɗu, ta-qci ʔNzooee sani. あの家はやりくり算段で、やっと立って行っているのではなからうか。
- ʔicaa=sjuN**Ⓞ (他 =saN, =ci) ⊖(人と人とを)あわせる。⊖(ひもなどを) ちょうどよい長さにあわせる。⊖(支出と収入とを)あわせる。収入に見合った支出をするよう

にする。

TicabuⓄ (名) きぬた。布を打ち柔らげるための、厚い板で作った台。

TicadataⓄ (名) 畳の大きさに作った板張りの敷物。部屋と部屋の間を通路として使う場合などに、畳のかわりに敷く。本土の板畳とは異なる。

TicagarasjuⓄ (名) いかの塩辛。

TicaficaatuⓄ (副) 手ひどく。こっぴどく。きびしく。～**Tiiciqci turasju**。こっぴどく言ってる。

TicaihancaiⓄ (名) 言ったり答えたりすること。ことばのかけひき。応酬。受け答え。

Tica=juⓄ (自 =aN, =ti) **Ticaaju** ともいう。⊖行き会う。出会う。遇う。**Ticataru husjoo**。出会ったのが運のつき。**Tatataru husjoo** ともいう。⊖会う。面会する。**Ticeega ca**。会いに来た。**Tari Ticata**。彼に会った。**Ticeewa coodee, nuu hwidatinu Taga**。いったん会えば兄弟と同じこと、何のへだてがあるか。⊖合う。逢す。(ひもなどが) 届く。また、(収支が) 合う。Ⓞ* 交接する。

TicanukuriⓄ (名) いかの墨。単に **kuri** ともいう。

Tica=nuⓄ (自 =maN, =di) いきむ。息を止め、腹に力を入れる。

TicaNdaⓄ (名) ただ。無料。代金を払わないですむこと。

TicaNdabunkuuⓄ (名) ただ働き。

TicaNdamuⓄ (名) ただの物。無代の物。**TicaNdamunoo niidakasan**。ただの物は高くつく。もらった物はかえて返礼に金がかかる意。

TicaNdazikeeⓄ (名) むだ使い。浪費。

TicaNpaiⓄ (名) いきむこと。息を止め、腹に力を入れること。～**sjun**。

TicaraziciⓄ (名) 板良敷。《地》参照。

TicaruⓄ (連体) [文] いかなる。口語は**caa-**

ru。～**kutu Tatuti tumeti cicaga**。[いきやる事あとて とめてちちやが] どんな事があって尋ねて来たか。

TicasaⓄ (形) ⊖惜しい。失うのが惜しい。愛惜の情を感じる。**Tungutu suguringwa sinaci** ～ **'jaa**。それほどすぐれた子を死なせて惜しいねえ。**'juuciraa neen mun kooti zinudu Ticasaru**。用のないものを買って金が惜しい。**Ticasa sjun**。惜しむ。**Ticasa saqtootidu Ticicootin sinnu Taru**。惜しまれてこそ生きていてもかがある。⊖痛痛しい。また、苦しい。**Ticasii kutu**。痛痛しいこと。かわいそうなこと。**qcunu Ticasaa siran**。人の苦痛はわからない。

TicasiganaⓄ (副) [文] どうにかして。口語では **caagana qsi** という。**Tumuikugaritin ziju najumi 'jasiga**, ～**Tasaju 'ugamibusjanu**。[思ひ焦れても自由なゆめやすがいきやしがな朝夕 拝みぼしやの] 思いこがれても自由にはならないのだけれど、どうにかして朝夕お会いしたい。

TicaziriⓄ (名) 板きれ。

TiceeⓄ (名) 会うこと。会見。会談。**Taritu kuritunu** ～**ja caa nataga**。彼とこの者との会見はどうなったか。

TiceecizeeⓄ (名) 行き違い。

TiceecoodeeⓄ (名) 父を異にする兄弟姉妹。異父兄弟。**Ticee**<**Ticaju**。

TicecguriiⓄ (名) 会いにくい人。なかなか会えない人。

TiceehandiⓄ (名) (ひもなどの) 長さが足りないこと。短くて届かないこと。**Ticee**<**Ticaju**。 **handii**<**handijun**。～**'jasa**。(ひもなどの) 長さが足りなくて結べない。

Ticeehan=sjunⓄ (自 =saN, =ci) 会いそこなう。会いそびれる。

TiceekantiiⓄ (名) ⊖会いかねること。会

Ƴiceekazi

えないこと。⊖長さが足りないこと。届かないこと。達しないこと。kunu Ƴuubee tamaaine Ƴamajuſiga, mimaainee ~ ʼjan. この帯は二回りでは余るが、三回りには足りない。curabana ʼjaſiga ~ qsi mujuusan. きれいな花だが、手が届かないので、もげない。

Ƴiceekazi① (名) 魔風。死霊または悪霊のこもった風。その風に会ると普通の病気と違った病気になるといわれた。

Ƴici② (名) ⊖1。一。普通は tiſi といふ。
⊖(接頭) イ。数の一を示す。Ƴicimee (一枚), Ƴiqsju (一升) など。ロ。大変な・重大ななどの意を表わす。Ƴiciguɔun (大馬鹿), Ƴicihazı (大恥), Ƴicideezi (一大事) など。

Ƴici③ (名) 庭池。観賞用に人工を施した池。天然のものは kumui といふ。

Ƴici④ (名) 伊計島。沖繩本島の東側にある島。また、伊計。《地》参照。

Ƴici⑤ (名) 伊地。《地》参照。

Ƴici⑥ (名) 行き。往路。mudui (戻り) の対。

Ƴici⑦ ⊖(感)いつ。五つ。声を出して数える時にだけいふ。⊖(接頭) Ƴiſikeen (五回), Ƴiſitai (五人), Ƴiſihwani (五羽) など。

Ƴici⑧ (名) いつ(何時)。~madin. いつまでも。永遠に。~caga. いつ来たか。

Ƴicibana⑨ (名) 生け花。

Ƴiciban⑩ (名) 一番。

Ƴicibandui⑪ (名) 一番鶏。

Ƴicibaru⑫ (名) 池原。《地》参照。

Ƴicibun⑬ (名) ⊖面目。人ひとりの面目。一分。~nu tatan. 面目が立たない。
⊖ひとりの意。ɔuu ~. 自分ひとり。

Ƴiſiſi⑭ (名) 五つ。5。また、5歳。時刻の場合は午前午後の8時。

Ƴici=cun⑮ (自 =kan, =ci) 生きる。Ƴicicooru Ƴweeda. 生きている間。生涯。Ƴici-

cootaru Ƴweeda. 生きている間。Ƴicicooru kaziri. 生きている限り。一生涯。Ƴicicooru sin. 生き甲斐。Ƴicikasjun. 生かす(Ƴicikijun ともいふ)。Ƴicicibusjan. 生きたい。Ƴicikaran Ƴicici. 苦しい生きかた。貧苦・病苦などで、生きるに生きられぬような生き方。

ƳicidaNnakutu⑯ (名) [文] 一大事。また、一段とよいこと。

ƳicidaNtu⑰ (副) [文] 一段と。~ ʼjutaſjan. 一段とよい。

Ƴicidee⑱ (名) 一代。人の一生。~ni Ƴicidu. 一生に一度。

Ƴicideezi⑲ (名) 一大事。大事件。

ƳicideNnakutu⑳ [文] 一大事。大事件。

Ƴicidu㉑ (名) 一度。cukeen (一回) ともいふ。

Ƴicidui㉒ (名) 生けどり。

Ƴicigatanasan㉓ (形) 行きにくい。敷居が高い。

Ƴicigee=juN㉔ (自 =ran, =ti) 生き返る。蘇生する。Ƴicigeerasjun. 生き返らす。蘇生させる。

Ƴicigoo㉕ (名) 一合。一升(Ƴiqsju)の10分の1。また一里(Ƴiciri)の10分の1。

Ƴicigoonakamui㉖ (名) 一合枩。単に nakamui ともいふ。

Ƴicigu㉗ (名) [文] 一生涯。生涯。一期(いちご)。~ mamatumuti Ƴikataren sjaſiga, satuja cimuwawati ʼjusuni nariti. [いちごまともて い語らひもしやすが さとや肝かはて 他所に馴れて] 生涯一緒になると思ってちぎりも交わしたが、君は心変わりしてよその人と親しくなってしまった。

Ƴicigudun㉘ (名) 大変な愚鈍者。大馬鹿者。

Ƴicigruru㉙ (名) いつごろ。

Ƴicigwaſi㉚ (名) 1月。正月。

Ƴicihati㉛ (名) はて。行き着くもつとも遠い所。naguja ʼjanbarunu ~ga ʼjaju-

ra, namađi nagubuninu ȳatinu neraN.
 [名護や山原の 行き果てがやゆら なまで
 名護舟の あてのないらぬ] 名護は山原の
 はてであろうか。いまだに名護からの舟の
 便がない。

ȳicihazı① (名) 大恥。~ kacuN. 大恥を
 かく。

ȳiciȳici① (名) いちいち。ひとつひとつ。

ȳiciiiiN① (名) 布の織る箒(おさ)の種類
 の名。十五よみ。経糸1200本を通すもの。ま
 た、それで織った布。huduci の項参照。

ȳici=juN① (他 =raN, =ti) (花を) いける。

ȳicika① (名) いつか。~ maaganauti ȳi-
 cataN ȳjaa. いつかどこかで会ったねえ。
 sjuduNmijarabinu ȳjucinurunu hagu-
 ci, ~ ȳjunu kuriti mikuci suwana.
 [諸鈍めやらべの 雪のろの 歯ぐき いつ
 か夜の暮れて み口吸はな] 諸鈍の娘たち
 の美しい雪色の歯に、いつか日が暮れて口
 づけしたい。

ȳicikawaiga ȳwai① (副) 変転するさま。
 kunuju ninziNnu sakaiȳuturuija, na-
 ğitu hujugukuru ~. [この世人間の 盛
 衰や 夏と冬ごころ いき替り替り(花売
 之縁)] この世の人間の盛衰は夏と冬によ
 りに変転きわまらない。

ȳiciki=juN① (他) (他 =raN, =ti) 生かす。
 ȳicikasjuN (ȳicicuN の使役形) ともい
 ろう。

ȳicikumui① (名) [古] 錢500文。1錢に
 当たる。ziN (錢) の項参照。

ȳicikumuiġu ȳnzun① (名) 錢550文。1錢
 1厘に相当する。ziN (錢) の項参照。

ȳicikuuweekutu① (名) 大変なこと。一大
 事。

ȳicima① (名) 池間島。宮古群島の島の名。

ȳicimabui① (名) 生きている人の靈魂。い
 きすだま。生靈。

ȳicimaN① (名) 1万。

ȳicimaNgwa ȳN① (名) [古] 錢の1万貫。

200円に当たる。ziN の項参照。

ȳicimee① (名) 一枚。

ȳicimeehwiġpai① (名) 一張羅を着こなす
 こと。一枚しかない着物を小ざっぱりと着
 ること。-hwiġpai は着物にのりを付け、
 折目正しく着る意。

ȳicimeemaaminukaa① (名) 着たきりす
 ずめ。豆の皮のように着物が一枚しかない
 こと。

ȳicimi① (名) 現世に生きていること。ま
 た、現世。この世。gusjoo (後世) の対。
 ~nu gutu ȳaree. この世のようであれば。

ȳicimitutuumi① (名) 生きている限り。
 一生。一生涯。~nu kweekuci. 一生食べ
 られる食いぶち。

ȳicimudui① (名) 行き帰り。往復。haru-
 nu ~ harunu ȳjuġcaini… [はるの行き
 戻り はるの行きやひに…(銘苺子)] 畑を
 行き帰りする時に…。

ȳicimuN① (名) 生きもの。動物。

ȳicimuN① (名) 一門。一族。

ȳicimuNmi① (名) 一もんめ(奴)。

ȳicimuNȳusiimii① (名) 一門全体で行な
 う清明祭。

ȳicimuNzuriıı① (名) 一族のものが集まる
 こと。親族会議。

ȳicimusi① (名) ㊦けだもの。禽獸。畜生。
 ~jakaN eizi. 禽獸よりも悪い。㊦畜生。
 虫けら。人をののしっている語。

ȳicinaı① (名) [文] 成り行き。ȳuhuka-
 wanu nasigwa ȳanmeetu hutai ȳica-
 ru ~ni najai ȳujuga. [大川のなし子
 あむまへと二人 いちやる行成に なやい
 居ゆが(大川敵討)] 大川の息子と乳母の
 ふたりはどんな成り行きになっているか。

ȳicinaNka① (名) 五七日。死後35日目に
 営む法事。

ȳiciniċi① (名) 一日。hwiġcii ともいう。
 月の初めの日(ついたち)は ğiıtaci とい

ZiciniN

ら。

ZiciniNⓄ (名) 一人。ひとり。普通は *cui* という。

ZiciniNⓄ (名) 一年。cutu ともいう。

ZiciniNmeeⓄ (名) (食物などの) 一人前。ひとり分。

ZicinukeyiⓄ (感) [文] 一回。口語は *cu-keen*。Yisinagu (遊戯の名) の時の文句にある。

Zicinuku=ju⁷NⓄ (自 =raN, =ti) 生き残る。

ZiciniⓄ (名) [文] 意見すること。他人の非をいさめること。~ 'jusigutuja minu 'wiinu takara. 意見や教訓は身の上の宝。

ZicinkuduciⓄ (名) [意見口説] *kuduci* [口説] の名。

ZiciquⓄ (名) 生きている人。siniqu (死んだ人) の対。

ZiciriⓄ (名) 一里。

ZiciriⓄ (名) 一礼。~ sjuN.

ZicirizikaⓄ (名) 一里塚。

ZicisakasiNzaⓄ (名) [文] 生意気なやつ。~nu 'Zjuru kutunu nikusa. [いきさかしんざの 言ふことの憎さ (忠臣身替)] なまいきなやつの言うことの憎さよ。

ZicisijuruⓄ (連体) [文] 行きずりの。行く道で袖をすって行くような。harujanun 'jamaN 'juinu hanazakai, ~sudinun niwinu sjurasu. [春や野も山も百合の花ざかり 行きすゆる袖の 匂のしほらしや (手水之縁) 春は野も山もゆりの花ざかり, 行きずりの袖に付くにおいのゆかしいことよ。]

ZicisiniⓄ (名) 生き死に。生死。

ZicisiriⓄ (名) [文] 行きずり。satuja ~nu hanatu 'uminasjura, 'wamija 'içimadin tanudi 'uşıga. [里や行きずりの 花と思なしゆら 我身やいつまでも 頼ですが] あなたはわたしを行きずりの

花とみなしているのでしょうか。わたしはいつまでも頼っているのに。

ZicisiziⓄ (名) 行き過ぎ。

Zicisizi=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖ 行き過ぎる。通り過ぎる。⊖ 行き過ぎる。行き過ぎた行為をする。

ZicitaiⓄ (名) 五人。guniN を多く用いる。

Zicita=junⓄ (自 =raN, =ti) 行きとどく。ふつら、否定の形のみを用いる。Yicitaran kutoo cui tareedaree. 行きとどかぬことは、たがいに補い合い。

ZiciwaiⓄ (名) [文] いつわり。

ZiciwakariⓄ (名) 生き別れ。生別。

ZicizamaⓄ (名) ⊖ 生霊。生きている人の怨霊。恨みのある人にとりついてわざわざいをなす。⊖ のろい。のろうこと。~ sjuN. のろう。昔はのろう者は罰せられた。

ZicizimiⓄ (名) [文] 拷問。生き責めの意。cukatanani sicija çimi 'asasa 'amunu ruusjagumi sicoti ~ju sjoori. [一刀にしちや 罪浅さあもの 牢舎ごめしちよて 生き責めよしよろれ (忠臣身替)] 一刀で殺しては刑が軽いから、牢に入れておいて拷問にせよ。

ZicizimuⓄ (名) 心。心情。人間としての心。生きている人間本来の心。生き肝には *namazimu* という。~ muqcooti 'unna kutunu najumi. 人の心を持ちながらそんな(むごい)ことができるか。

ZicizirasanⓄ (形) ⊖ 息苦しい。呼吸が苦しい。⊖ 狭苦しい。窮屈である。また、(目上の人の前で、また世の中などが) 窮屈である。

Ziciziri=junⓄ (自 =raN, =ti) 息切れがする。息が続かなくて苦しい。

ZicubiⓄ (名) いちご (莓)。

ZicuiⓄ (名) 勢い。勢力。権勢。~ muqpara. 権勢をふりまわすさま。

ZicukažiⓄ (名) 糸数。《地》参照。

ZicukuⓄ (名) いとこ (従兄弟姉妹)。

- ʔicukuubamaa**① (名) 父母の従姉妹。いとこおば (従姉妹小母)。
- ʔicukuuzasaa**① (名) 父母の従兄弟。いとこおじ (従兄弟小父)。
- ʔicumaN**① (名) 糸満。《地》参照。
- ʔicunasan**① (形) 忙しい。いとまがない。せわしい。ʔicunasa sjoon. 忙しくしている。
- ʔicun**① (自・不規則) ⊖行く。ʔicabira. 目上への辞去のあいさつ。失礼いたします。ʔikaii. 目下への辞去のあいさつ。さよなら。~tee ʔikantee. 行くといい、行かないといい。行く行かないが決まらないさま。ʔNzi cuun. 行って来る。ʔNzai cai. 行ったり来たり。ʔNzaru saNgaŋi. 去る三月。ʔNzan. 行った。去った。⊖行く。(事態が)進行する。…して行く。caaga. kuneedanŋee 'juu ʔNzoomi. どうだ。このごろはうまく行っているか。'judi ~. 読んで行く。読み進む。
- ʔicuta**① (名) しばらくの間。ちょっとの時間。huNnu ~ maŋcooru ʔweekanakai. ほんのちょっと待っている間に。huNnu ~ 'jaŋsa. ほんのちょっとの時間だ。
- ʔicutaa**① (副) ちょっと。しばらく。呼び出す時、呼び止める時などにもいう。~matee. ちょっと待てよ。sjuikara cooŋiga kama ~. (流行歌の文句) 首里から来たんだけど、カマさんちょっと。kama は zuri (女郎) の名。
- ʔicutabukuraja**① (名) 一時の喜び。また、一時は喜んでする (が、長続きしない) こと。
- ʔicutanuha**① (名) 一時しのぎ。一時の間に合わせ。応急措置。
- ʔicuzi**① (名) 糸洲。《地》参照。
- ʔigaahai**① (名) 口論。言い争い。
- ʔigaai**① (名) ʔigaahai と同じ。
- ʔigu**① (名) 以後。これからあと。
- ʔigumasi**① (名) 意気込んでする企て・準備。
- ʔiguma=sjun**① (他 =saN, =ci) 意気込んで企てる。意気込んで用意する。
- ʔiguN**① (名) 遺言。普通には ʔNzani という。
- ʔihaciro'ohaci**① (名) 手入丁口入丁。弁論・手腕ともすぐれているさま。
- ʔihii'ʔahaa**① (副) 笑いさざめくさま。談笑するさま。~Qsi ʔwiirukigisaN 'jaa. 笑いさざめいて楽しそうだねえ。
- ʔihja**① (名) ⊖伊平屋島。沖縄本島北方にある島の名。kusizii ともいう。⊖伊平屋・伊是名 (ʔizina) の両島を含めている。
- ʔihuuna**① (連体) 変な。異様な。異風な。~sikata. 変わったやりかた。~ŋcu. 異風な人。
- ʔihwa**① (名) 伊波。《地》参照。
- ʔihwa**① (名) 伊瀬。《地》参照。
- ʔihwanasi**① (名) 昔物語。伝説。また、教訓的な話。説話。
- ʔihwee**① (名) [文] 位牌。口語は ʔiihwee, ʔuʔiihwee。
- ʔihwi**① (名) 少し。わずか。少量。~'ja-sa. 少しだよ。ʔihwee 'wakajun. 少しはわかる。~jaka 'wakaran. 少ししかわからない。
- ʔii**① (感) (普通、鼻音化して発音する。[ʔi̠] 鼻音化しないとぞんざいに聞こえる) はい。そう。ああ。目下に対して、承諾・同意を表わし、肯定する語。目下に呼ばれて返事する場合は hii という。hii, ʔuu, ʔoo, ʔNN などの項参照。
- ʔii**① (名) [新?] 胃。豚などの胃には ʔu-hugee という。
- ʔii**① (名) 人畜の胆汁。
- ʔiiʔaa=sjun**① (他 =saN, =ci) 相談する。談合する。話し合って決める。kuneeda ʔiiʔaacaru gutu 'jaa. こないだ相談して決めたようにね。
- ʔiiʔati=juN**① (他 =raN, =ti) 言い当てる。

ʔiibi

- ʔiibi**① (名) 指。～ hucun. 指笛を吹き鳴らす。人さし指を曲げて口の中に入れて鳴らす。いなかななどで事件があった時若者を呼び集めるためなどに鳴らす。
- ʔiibiban**① (名) 搦印。指先に朱肉や墨を塗って印鑑がわりに押すこと。
- ʔiibibaneci**① (名) ㊦つまびき。琴・三味線の類を指先でひそかに弾くこと。㊦指先ではじくこと。
- ʔiibiganii**① (名) 指輪。ʔiibinagii というのが普通。
- ʔiibinagii**① (名) 指輪。
- ʔiibinnuci**① (名) ㊦指さすこと。指さして指摘すること。～ sjun. 指さす。㊦(指さして) 非難面責すること。～ sarijun. 非難のまとなる。後ろ指をさされる。
- ʔiibinumata**① (名) 指のまた。指と指との間。
- ʔiibingwaa**① (名) 小指。
- ʔiibiui**① (名) 指折り数えること。～ sjooti macun. 指折り数えて待つ。～ qsi kazuujuN. 指折り数える。
- ʔiibizaci**① (名) 指先。
- ʔiibun**① (名) 言い分。ʔwaaʔiibunoo. わたしの言い分は。ʔariga ~ni. 彼が言うには。
- ʔiibusjahundee**① (名) 言いたい放題。ʔiibusjakaqtii ともいう。
- ʔiibusjakaqtii**① (名) 言いたい放題。ʔansi ~ siinee kutoo matumajuru munoo ʔaran. そう言いたい放題のことを言っは事はまとまるものではない。
- ʔiibuu**① (名) 魚名。とびはぜ。～saani taman cijun. えびで鯛を釣る。
- ʔiibuuziʔraa**① (名) かまきり。
- ʔiici**① (名) 息。呼吸。～ sjun. 息をする。呼吸する。～ keejun. 息を吹き返す。気絶から蘇生する。～ tuqcijun. 息をつまらせる。むせる。nuudii tuqcijun という。～ hucun. 激しく呼吸する。(走っ

たあとなどに)あえぐ。～ hwechwee. あえぎあえぎ。

- ʔiiciʔakuʔbi**① (名) 息とあくび。次のような句で用いる。～N naran. 息もあくびもできない。少しの余裕もない。～N simiran. 息もあくびもさせない。息つく暇も与えない。
- ʔiicigeeci**① (名) ㊦息をつぐこと。息がえの意。～ sjundi ʔucagatan. 息をつぐために(水中から)浮きあがった。㊦息ぬき。一息入れて休息すること。ʔicunasanu ~N naran. 忙しくて息ぬきもできない。
- ʔiiciguN**① (名) (水にもぐる時などに)しばらく息を止めておくこと。
- ʔiici=juN**① (他 =raN, =qci) ののしる。きめつける。極言する。極端に悪く言う。
- ʔiiciki**① (名) 言い付け。命令。
- ʔiicikigata**① (名) 指推。指図。
- ʔiiciki=juN**① (他 =raN, =ti) 命令する。言い付ける。
- ʔiicikunaa=juN**① (他 =saN, =ci) 言まくる。言い負かす。
- ʔiicimadii**① (名) 空息。madii は失う意の接尾辞。
- ʔiicimii**① (名) 空気孔。息をするための穴。虫を入れた箱にあける穴など。
- ʔiicu**① (名) 絹。ʔitu ともいう。～ bita-bita kaiki horohoro. 絹は柔らかかくびたぴたと肌に気持ちよく触れ、甲斐絹はほろほろと衣ずれめ音を立てて気持ちがよい。
- ʔiicuʔiʔicuu**① (名) 絹糸。
- ʔiicuu**① (名) 糸。普通には木綿糸をさす。
- ʔiicuziʔN**① (名) 絹の着物。
- ʔiidataasjan**① (形) 言い方が仰々しい。言い方が大げさである。
- ʔiidati**① (名) 大げさな言いかた。誇張した表現。ʔuree ~ʔjaa. それは大げさだよ。
- ʔiigwaasa**① (名) 言い過ぎ。ひどい言い方。
- ʔiihai**① (名) 言い張ること。言い張って口

論すること。

ʔiiha=jun① (他 =raN, =ti) 言い張る。あくまで主張する。

ʔiihii① (名) ⊖(鼻音化する。[ʔiʔiʔi]) 目下または、きわめて親しい同年の者に対することば使い。肯定の時には ʔii ([ʔiʔi]) と言い、呼ばれた時には hii ([ʔiʔi]) と答える話し方。親しい同年の間柄どうしでは tageeniʔiihii となる。ʔjukaqcoo hjakusjooNkaee muru ~ sjutaN. 土族は平民に対してあらゆる場合にイーヒーしたものだ。⊖(鼻音化しない) 軽蔑した物言い。高慢な話し方。ʔikani nuu ʔjatin ~ qsi. いくらなんでもそんな軽蔑した話し方をして。

ʔiihjaa① (感) ののしって返事する語。けんか口論の時などに使う。~ ʔasihjaa. そうだ、このやろう。ʔasihjaa もけんか口論の時の対応の語。~ ʔasihjaa sjun. (けんか口論で) ののしる。

ʔiihoo=juʔN① (他 =raN, =ti) (入っているもの全部を) 勢いよくあける。ぱっとあける。ʔiikeerasjun ともいう。

ʔiihu① (名) 大雨などで濁水が運んで来た土。多くは肥えている。流出土。

ʔiihumaki① (名) ʔiihu (大雨などで濁水が運んで来た土) に皮膚が触れてかぶれること。かゆくなり皮膚にぶつぶつができる。

ʔiihwee① (名) 位牌。普通は ʔuʔiihwee という。また、guriiziN ともいう。文語では ʔihwee という。

ʔiihweedacaa① (名) 喪主。あとを継ぐ者がこれに当たる。葬式の時、位牌のあとに従って行く。位牌を抱く者の意。

ʔiihweezii① (名) 戒名。法名。位牌に書いてある字の意。

ʔiihiraci① (名) 言い開き。申し開き。弁明。~ sjun.

ʔiihirugi=jun① (他 =raN, =ti) 言いふらす。吹聴する。

ʔiiʔiri=jun① (自 =raN, =ti) 説得する。言って聞かせ、納得させる。

ʔiijan=zun① (他 =daN, =ti) ⊖言いそこなう。へたな言い方をする。⊖人を中傷して悪く言う。けなす。

ʔiijoo① (名) 言いよう。言い方。~nu ʔaree cicijooN ʔaN. 言いようがあれば聞きようもある。よく言えばよく聞かれ、言いようによって聞きようも違ってくる。

ʔiijunumii① (名) 幼児の遊戯の名。「むすんでひらいて」のたぐい。魚の目を指さすつもの文句があるのでいう。文句と動作は次のとおり。~ ~ (左手のひらに右の人さし指を二度当てる), miimiNmee miimiNmee (左右の耳を引っばる), hwiizintoo hwiizintoo (左右のひじを交互に左右の手のひらに乗せる), siijaabuu siijaabuu (体を左右に揺り動かす)。

ʔiikaa① (名) 衣桁。着物を掛けておくもの。

ʔiikaki① (名) 言いかけ。話のなかば。

ʔiikaki=jun① (他 =raN, =ti) 言いかける。言いはじめる。

ʔiikeera=sjuʔN① (他 =saN, =ci) (容器内のものを) あける。(容器を傾けて中味を全部) こぼす。ʔiihoojun ともいう。

ʔiikeeri=juʔN① (自 =raN, =ti) (容器が傾いて中味が全部) こぼれる。

ʔiikeesigeesi① (副) 何度もくりかえして言うさま。くどくど。ʔinukutoo ~ qsi. 同じことを何度もくどくと言って。

ʔiikee=sjun① (他 =saN, =ci) (前言・約束・商談などを) 取り消す。

ʔiiku① (名) 植物名。もっこく。良材となり、また、樹皮から茶褐色の染料をとる。

ʔiikubaʔaja① (名) ʔiiku (もっこく) の柱。良材として尊重される。

ʔiikuzi=jun① (他 =raN, =ti) 中傷する。けなす。

ʔiikwaaee① (名) 言い合い。口げんか。論

ʔiikwii

争。

ʔiikwii① (名) 縁談。ʔii は承諾の意または話しかける意, kwii は、くれる(与える)意で、申し込まれて、与えるという意か。

ʔiimaara=sjuN① (他 =saN, =ci) 言いまざらす。言いぬける。ことば巧みにごまかす。

ʔiimacigee① (名) 言い間違い。言いそこない。

ʔiimagi=jun① (他 =raN, =ti) ⊖歪曲して言う。⊖相手をことばで押えつけて、ものを言わせないようにする。

ʔiimakaʃee② (名) 論争。言い負かし合い。

ʔiimaka=sjuN① (他 =saN, =ci) 言い負かす。論破する。

ʔiimaki=jun① (自 =raN, =ti) 言い負ける。論破される。

ʔiimaŋwa=sjuN① (他 =saN, =ci) 言いまざらす。

ʔiimudu=sjuN① (他 =saN, =ci) 破談にする。(婚約などを)解消する。

ʔiina② (副) はや。もう。そんなに早く。～ ʔNzi cii. もう行って来たか。

ʔiinagasinaga`si① (副) 口でばかり言って実行にうつさないさま。～ Qsi maada ʃee neeN. 口でばかり言っていて、まだしてはない。

ʔiinanuhwee② (副) はや。もう。そんなに早く。ʔiina と同じ。～ ʔukitoosa. もう起きてるよ。

ʔiinaraasi② (名) しつけ。ふだんの教育。～ nu `waqsaN. しつけが悪い。

ʔiinaraa=sjuN① (他 =saN, =ci) しつける。礼儀・作法などを教える。

ʔiinoo=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖言い直す。前言を訂正する。⊖ひとりが縁起の悪いことを言った時、他のひとりがいい意味に言い直す。

ʔiinuku=sjuN① (他 =saN, =ci) 言い残す。

ʔiiʔNza=sjuN① (他 =saN, =ci) 言い出す。

ʔiiʔNzasigurisjan. 言い出しにくい。

ʔiiqkwa① (名) 言い過ぎ。失言。～ sjuN.

ʔiiraa② (名) くらげの一種。かつおのえぼし。泳いでいる人を刺す。ʔiraa ともいう。刺された場合には siikwaasjaa (橋)の汁をつける。

ʔiisagi=jun① (他 =raN, =ti) こきおろす。

ʔiisiqtaraki=jun① (他 =raN, =ti) ʔiisi-tarasjuN と同じ。

ʔiisitara=sjuN① (他 =saN, =ci) けなす。

悪く言う。ʔiisiqtarakijun ともいう。

ʔiisizi① (名) [文] 言い過ぎ。

ʔiisizi=jun① (他 =raN, =ti) 言い過ぎる。

ʔiitati=jun① (他 =raN, =ti) 言い立てる。言って騒ぐ。また、大げさに言う。誇張する。nuun ʔaraN kutu ~. 何もないこと(根も葉もないこと)を言い立てる。`wazikana kutoo ʔiitatiti. わずかな事を大げさに言って。

ʔiitu② (名) 労働の時のかけ声のこと。また、労働歌。～ N sjanʃee boczinu ni-ŋguru. かけ声もかけないのは僧侶の情婦。

ʔiizuci① (名) 言い置き。るすの時言い残しておくこと。

ʔiizu=cun① (他 =kaN, =ci) 言い置く。言い残しておく。

ʔiiwaki① (名) 言いわけ。弁解。また、陳謝。あやまること。～ sjuN.

ʔiiwaki=jun① (他 =raN, =ti) 弁解する。言い分けを言う。あやまる。また、わかるように筋を立てて言う。ʔiiwaki sjuN ともいう。

ʔiiwata② (名) 腸。

ʔiiwatagwaa② (名) 直腸。

ʔiiwatasi② (名) [文] 言い渡し。命令。布告。

ʔiizee② (名) [飯匙] しゃもじ。-zee<kee (さじ)。首里の上品な語で、いなかでは misigee という。

ZiizimaⓄ (名) 伊江島。沖縄本島本部崎西方にある島。

ZiizuⓄ (名) 伊祖。〔地〕参照。

ZijaⓄ (感) [文] いや。やあ。～ *šiisanna kuzuu*。[いや推参な小僧] やあ、生意気な小僧。

ZijaⓄ (名) えな。胎盤。あとざん。

ZijaⓄ (名) 矢。?i- は射の意か。

ZijabiimaⓄ (名) 矢がすり。矢羽根の模様を織り出したかすり。

ZijadinⓄ (副) きっと。言わでもの意。
'jakusuku 'jakutu ~ cuusa。約束だからきっと来るよ。

ZijaiⓄ (名) 伝言。ことづて。言い遣りの意。

ZijaimunⓄ (名) ことづかりもの。頼まれもの。

ZijanuQkwaⓄ (名) 機織りの器具の名。織った布の部分巻くもの。いのあし。いのつめ。きぬまき。

ZijasjaaⓄ (名) けちんぼ。いやしんぼ。

ZijawareeⓄ (名) *Zija* (あとざん) を家の裏に埋めて、隣近所の子供を集めてそこで大いに笑わせた昔の習俗。あとざんは家の裏に埋めたが、その上を虫がはると、その赤んぼらが虫をこわがるようになるとされたので、それを防ぐまじないである。

ZijuⓄ (名) 魚。さかな。生きものおよび食品としての魚。*sakana* は酒席の料理。～ *tuiga ZicuN*。魚をとりに行く。

ZijumaciⓄ (名) 魚市。魚市場。首里では与那原あたりから来る魚が多いので、夕方立つのが普通であった。

ZijunumiiⓄ (名) 魚の目。手のひら、足の裏などにできる小さい丸い皮膚のかたまり。

Zi=juNⓄ (他 =ran, =qci) 射る。弓で射る。鉄砲でうつ。*tiqpuusaani tui ~*。鉄砲で鳥をうつ。*tiqpuu ~*。鉄砲をうつ。*'jumi ~*。弓を射る。

Zi=juNⓄ (自 =ran, =qci) 入る。はいる。

Zi=juNⓄ (自 =ran, =qci) 要る。必要である。入用である。*Zijuraa muqci 'ikee, 'irandaraa muqcee 'ikunakee*。要るなら持って行けよ。要らないなら持っては行くなよ。*'iran 'jusigutu*。無用な忠告。*zinoo 'irani*。金は要らないか。

ZijutiNpuraⓄ (名) 魚のてんぶら。

ZijutujaaⓄ (名) 漁夫。りょうし。*'umi-neuu* (海の人) ともいう。

ZijuZujaaⓄ (名) 魚売り。魚を売り歩く人。

ZijuziiⓄ (名) 釣り針。

ZijusisiⓄ (名) (食物としての) 魚と肉。

ZikaⓄ (名) いか(烏賊)。?ica ともいう。

ZikaiⓄ (名) 錨。

ZikanaⓄ (連体) [文] いかなる。どのような。*Zicaru* ともいう。口語は *caaru*。～ *tinzikunu ?unitacinu ?uzon kuinu mici 'jariba ?acidu sjujuru*。[いかな天竺の 鬼立の御門も 恋の道やれば あきどしゆゆる(手水之縁)] どんな天竺の鬼の立っている門も、恋の道ならば開きもしよう。

ZikanasinⓄ (副) [文] いかにしても。どうしても。どんなことがあっても。口語は *caasin*。～ *'ikan*。どうしても行かない。

Zika=sjuNⓄ (他 =san, =ci) 生かす。*kunu hjaa 'ikacee 'ukaran*。この野郎生かしておけない。

ZikataⓄ (名) ⊖(金属を鑄造する時の) 鋳型。⊖転じて、型にはめて造るものの型。帽子の型、菓子型の型など。

ZikatareeⓄ (名) [文] 男女の契り。男女の語らい。*?i-* は接頭辞。

ZikiraⓄ (名) わずか。少し。少々。～ *nu cikuree 'aran*。少々の費用ではない。～ *du 'aru*。少しある。*kungutu ~ qsi nuu najuga*。これうばかりで何になるか。

ZikiraⓄ (副) どんなに。いかばかり。うれ

Yikiragwaa

しい時にいう。canugutu ともいう。～
Yuqsjaga 'jaa. どんなにうれいだろう
ね。

Yikiragwaa⑩* (名)ほんの少し。ちょっぴり。

Yikiramun⑩ (名)少しのもの。少ししかないもの。～du nukujuru. 皆が遠慮するので、少ししかない珍しい食べ物がかえって最後まで残る。

Yikiraniŋzu⑩ (名)小人数。少数の人。

YikirasaYuhu'sa⑩ (名)多い少ない。量の多少。

YikirasaN⑩ (形)少ない。僅かである。kuQ-saŋee Yikirasami.これだけでは少ないか。

Yiku- (接頭) 幾(いく)。個数を尋ねる接頭辞。Yikukeen (幾回), Yikuçi (いくつ), Yikutai (何人) など。

Yikuçi⑩ (名)いくつ。何個。また、何歳。～N miçiN. いくつも。たくさん。(いくつも三つもの意)

Yikuhwiru⑩ (名)幾尋。何尋。

Yikujuru⑩ (名)幾夜。幾晩。

Yikukeen⑩ (名)幾回。何度。

Yikunaai⑩ (名)幾回り。何回り。

Yikumigui⑩ (名)幾めぐり。Yikumaa
ともいう。

Yikusa⑩ (名)いくさ。戦争。'winagoo ~
nu sacibai. 女はいくさのさきがけ。女
はいざという時には強くなるの意。

Yikusabuni⑩ (名) [新?] いくさ船。軍艦。

Yikusaci⑩ (名)行く先。行く手。haçika-
junu kurasa ~N miran. [廿日夜のく
らさ 行先も見らん(執心鐘入)] 旧暦二十
日の夜は暗くて、行く手も見えない。

Yikusagwaŋee⑩ (名)戦争ごっこ。

Yikusajuu⑩ (名)戦乱の世。戦国時代。沖
繩では特に三山(北山, 中山, 南山)時代。

Yikutai⑩ (名)いくたり。幾人。何人。

Yikutainiŋzu⑩ (名)何人と指折り数えら

れる、すぐれた少数の人。Yirabiniŋzu
ともいう。

Yikutuba⑩ (名)ことば。言い伝え。昔の
人の言い残したことばなどをいう。Yi- は
接頭辞。'nkasinuncunu ~. 昔の人のこと
ば。ことわざ。格言。

Yikutukuru⑩ (名) Yikutai (何人) の敬
語。何人様。

Yimahuu⑩ (名) nakahuu [仲風] と同じ。

Yimamee⑩ (名) 新参。いままいり。Yu-
Nzoo ~nu Yucakudu 'jaru. あなたは
近ごろの新しいお客だ。

Yimani⑩ (副) [文] どうもの意か。また、
いまだにの意か。～husinna ŋanu ka-
ni. [今に不審なああ鐘(執心鐘入)] いか
にも不審なああ鐘。

Yimasimi⑩ (名) いましめ。懲戒。sikiNnu
～. 世間のいましめ。

Yimee⑩ (名) おいでになること。いらっ
しゃること。来ること・居ること・行くこ
との敬語。～nu najumi. いらっしゃるこ
とができますか。YimeNsjoorarijumi. と
いうのと同じ。

Yimeenuka'azi⑩ (感) [文] 船を漕ぐ時の
かけ声。芝居用語。

YimeeN⑩ (自・不規則) おいでになる。い
らっしゃる。いる・行く・来るの敬語。同
等や目上に使う。さらに上の敬語は Yime-
NseeN, YimeNseeN, 目下の年長への敬語
は meeN, Yimoori. おいでなさい。Yu-
cini 'wakaazi kakurijai YimeN. [内に
若按司 隠れやりいまいん(忠臣身替)]
中に若按司が隠れておいでになる。

YimeNŋeeN⑩ (自・不規則) おいでになら
れる。いらっしゃられる。いる・行く・来
るの敬語。YimeNŋeeN よりさらに丁寧な
形。

Yimi⑩ (名) 夢。Yimeecoon 'NndaN. 夢
にさえない。少しも思わない。Yimee
ŋaraŋga 'jaa. 夢ではないか。～'Nca-

- ru gutoon. (楽しくて) 夢のようだった。
 ~ miigamarasjan. 悪い夢ばかり見る。
 夢見が悪い(不幸の前兆とされる)。~N
 miikeesigeesi. 深く思って夢にまで何度
 も見て。~ miiçirugajun. 夢を見続け
 る。毎晩夢ばかり見る。
- Yimi**① (名) 量・体積がふえること。外米の
 ように、煮るとふえて、徳用になるという
 場合に多く用いる。~ sjun. ふえる。ふ
 えて得である。
- Yimi**① (名) 喪に服すること。忌み。~ni
 kakajun. 喪に服するような近い関係に
 ある。
- Yimi**① (名) [新] 意味。普通には cimuee
 という。
- YimiZaki**① (名) 忌み明け。喪の期間が終
 わること。
- Yimigakai**① (名) 喪に服すべき続き柄。
- Yimi=jun**① (他 =ran, =ti) 催促する。
- Yimizigo'ozu**① (副) 矢の催促をするさま。
 ~ qsi. 盛んに催促して。
- YimuN**① (名) 鋤物。
- YimuNçiburu**① (名) はげ頭。
- YimuNjaqkwan**① (名) 鉄びん。鋤物薬罐
 の意。
- YimuNnaabi**① (名) 鉄なべ。
- Yinahuku**① (名) 稲福。《地》参照。
- Yinaka**① (名) いなか。多くは首里・那覇
 に対して島尻・中頭をさす。国頭はふつう
 'janbaru (山原) というが、国頭をいう
 こともある。
- Yinakaa**① (名) いなか者。特に、島尻・中
 頭の者。YinakaNcu の卑称。村の人の意
 では simanu qcu という。
- Yinakahuuzi**① (名) いなか風。いなかの
 習俗。
- Yinakakutuba**① (名) ①いなかことば。
 方言。②島尻や中頭の方言。国頭方言は
 'janbarukutuba という。
- Yinakamaai**① (名) いなか回り。
- YinakaNcu**① (名) いなかの人。特に、島
 尻・中頭の人。
- Yinakasudaci**① (名) いなか育ち。
- Yinamuduci**① (名) 料理名。猪の肉の代わ
 りに豚肉を白みそで料理したもの。いのし
 しもどきの意。
- Yinin**① (名) [遺念] ①死者の遺念。死者が
 残した念。また、遺念のこもった死者の靈
 魂。いろいろな形となって現われるが、多く
 は夜 Yininbii となって現われる。②あと
 へ残した気持ち。あとへ残した恨みの念。
- Yininbii**① (名) [遺念火] ひとだま。死者
 の遺念が火となって現われるとされるも
 の。旧暦8月の 'jookabii にはことに多
 く現われる。
- Yinuci**① (名) [文] 命。口語は nuci。
- Yinuhwi**① (名) 柴野比。《地》参照。
- Yinu=juN**① (他 =ran, =ti) [新] 祈る。元
 来は 'uganun という。
- YiN**① (名) ①犬。~nu haaniN numi. 犬
 の歯にも蚤。まぐれ当たりの意。犬の歯は
 不揃いだが、それでも蚤をかみ当てること
 があるという意。~tu majaatu. 犬と猫
 と。仲の悪いたとえ。犬猿というのと同
 じ。~nu tacinaci. 犬が夜、怪しい声で
 長泣きすること。魔物を見て泣くとされ
 る。②十二支の戌(いぬ)。時刻は午後8
 時、方向は北寄りの西。
- YiN**① (名) 印。han ともいう。
- Yincaa**① (名) 短いもの。YincamuN と
 もいう。背の低い者には Yincoo という。
- Yincaanagaa**① (名) 短いや長い。長
 短不揃い。
- Yincaboo**① (名) 短い棒。次の句で用いる。
 ~ muqci naga?uui sjun. 短い棒を持っ
 て長追いする。十分な根拠や力がないの
 に、しつこく追及するのを非難めいて言う
 時に使う。
- YincamuN**① (名) 短いもの。Yincaa と
 もいう。

ʔiNcaSan① (形) 短い。

ʔiNcirii① (名) 英国。ʔiNzirii ともいう。

ʔiNcoo① (名) 背の低い者。ちび。ʔiNcaa は短いもの。

ʔiNcu① (名) 隠居。年寄って公役を免ぜられること。また、罰せられて役職を免ぜられること。また、楽隠居。

ʔiNdaagii① (名) ぶらんこ。

ʔiNduumijamadumi①* (名) [海留め山留め] 農村で稲の花が咲くころのある期間、稲を驚かさないうために、鳴り物や大きな音をさけること。また、その期間。単に munuʔutu ともいう。

ʔiNduu① (名) ʔiNduumaami と同じ。

ʔiNduumaami① (名) えんどう豆。

ʔiNgua① (名) [文] 因果。多く不幸をなげいていう。ʔwanguatoru siguku ~nu munuja ʔuran. [我知る至極因果の者や居らぬ(花売之縁)] わたしのようなひどく因果な者はいない。

ʔiNgwaa① (名) 小犬。犬ころ。

ʔiNgwaaʔooi① (名) 四つんばい。犬のよりに四つんばいになってはうこと。

ʔiNkunibu① (名) 橙。deedee ともいう。

ʔiNmajaa① (名) 犬猫。畜生。

ʔiNmaju① (名) [文] 犬猫。畜生。ʔasama-sija hwiui ʔumuikugarituti, micisibanu ʔijutu tumuni ciihatiti, ~nu ʔiziki najuratumba. [浅間しや一人思焦れとて 道柴の露と 共に消え果てて 犬猫のゑじき なゆらと思ば(花売之縁)] あさましいことよ、一人で思い焦がれながら路傍の露と消え果てて、犬猫の餌食になるだろうと思うと。

ʔiNteen① (名) 少し。わずか。kuuteen と同じ。ʔiNteenoo ʔasa. 少しはある。~du ʔjaru. 少しだ。

ʔiNteengwaa① (名) ほんの少し。

ʔiNtuku① (名) 陰徳。人に知られない善行。~tujuN. 人に知られない善行を行な

う。気の毒な人を助けた場合などにいう。

ʔiNziNmaami① (名) いんげん豆。

ʔiNzirii① (名) 英国。ʔiNcirii ともいう。

ʔiQcaa① (感) あら。まあ。女が、不思議なもの、きれいなものなどを見た場合に使う。

ʔiQcaakuʔcaa① (感) おやまあ。あれまあ。女が使う。あきれた時などに指を鳴らしながらいう。

ʔiQqigahuu① (名) ʔiQqigahwii と同じ。

ʔiQqigahwii① (名) いつ見ても変わらないこと。また、そのようなもの。悪い意にいう。変わりばえがしないもの、パットしないもの、いつもなまけているものなど。ʔiQqigahuu, ʔiQqinhwii, ʔiQqinhuu ともいう。ʔariga cinbikeenun ʔaran, kanuru munun ~ʔjasa. 彼の着物ばかりではない、彼の食うものもいつも同じだよ。

ʔiQqii① (名) 一對。二つ相対して一組となるもの。

ʔiQqiiʔin① (名) ʔizibin と同じ。ʔizibin はいつも一對で使うのでいう。

ʔiQqikutaʔciku① (名) 遊戯の名。「ずいずいずっころばし」のたぐい。数人が輪になって両こぶしを握って、握りこぶしの輪をつくる。ひとりが輪になったこぶしに指で順順にさわりながら文句をとえ、その最後の文句 ʔjai が当たった者が芸をすとか、順番に当たるなどする。文句は、~zuuniga hwiigaa cikumuku cinbooraagaa ʔuduNnu kusinzi huuruga ʔjai. または、~zooniga ciigaa eikumuku cinburu ciicintaagaa huuruga ʔjai. など。文句には一貫した意味はなく、南洋語のまねのつもりである。hweenusimaa (南の島人。踊りの名) の文句に由来する。

ʔiQqin① (名) 事件。一件。

ʔiQqin① (名) 一斤。160匁。

ʔiQqin① (副) 最も。一番。~mee. 一番

前。～'waQsaN. 一番悪い。
ZiqcinNhunⓄ (名) Ziqqigahwii と同じ。
ZiqcinNhwiiⓄ (名) Ziqqigahwii と同じ。
Ziqka① (名) 何日。月の第何日かを聞く時にいう。日数を聞くには nannici という。
Ziqkwa'guhjaakuⓄ (名) 銭1貫500文。3銭に相当する。zin (銭) の項参照。
ZiqkwanⓄ (名) 銭1貫。2銭に相当する。zin (銭) の項参照。
ZiqkwanDarumiiⓄ (名) 小魚の名。
ZiqkwanmagiⓄ (名) [古] 髪結い料金の名。料金2銭(1貫)で、赤元結いを用いたもの。katakasirajuujaa (髪結い床) の項参照。
ZiqpaaⓄ (名) 子供の遊戯の名。また、その道具の名。大小二本の短棒の、大きい方で小さい方を打ち上げて遠くへ飛ばし、その距離を争う遊戯。giqcoo ともいう。
ZiqpeeⓄ (副) たいそう。非常に。たいへん。～curasan. たいそう美しい。
ZiqpeekuQ'pee① (名) 方方。あっちでもこっちでも。
ZiqpiciⓄ (名) 一匹。
ZiqppjuuⓄ (名) 一俵。
ZiqpoomuciⓄ (名) [一方持] 扶持米のみをもらい、知行のない者。すなわち、名目だけの実在しない領地をもつ者。nihoomuci [二方持] の対。
ZiqpoonkeeⓄ (名) 一方に偏すること。かたよること。偏向。
ZiqpukuZiqsjooⓄ (名) 一腹一生。同じ両親から生まれた岡柄。はらから。両親を同じくする兄弟姉妹の関係。ʔanu 'jaatu kunu 'jaatu 'nkasee ~ 'jatan. あの家とこの家は昔は同じ親から生まれた岡柄であった。
ZiqpunⓄ (名) 一本。
ZiqpunmaaciⓄ (名) 一本松。
ZiqpuuhuuⓄ (名) 一刻者。一徹者。がん

こ者。
Ziqsai① (名) [新] 一切(いっさい)。ふつうは muru, muqtu などという。
ZiqsanⓄ (名) 一散に走る。一生懸命走る。一目散。～nati ʔikee. 一散に走って行け。
ZiqsanbaaceⓄ (名) 一散に走る。一目散に走る。toosin doo ʔi sjantee-man, ~ naranʂija…(俗語) 唐船だぞと言ったところで、一目散に走らない者は…。
Ziqsii① (名) 志。～tatijun. 志を立てる。
ZiqʂinⓄ (名) 一寸。中指を折り曲げた中程の長さを基準にした。五寸は指をひろげた時の親指の先と中指の先との長さを基準にした。
ZiqsiNguuⓄ (名) 子供をあやす遊戯の名。子供をひざの上に立たせ、両手をとって前後に揺り動かす。動かしながら、ZiqsiNguu sikuteesiku (意味は船の進む時の形容か) というはやしの入った童謡 ʔakasin tamunun kensoorani (たい松やたきぎは買いませんか) を歌うので、この名がある。たい松やたきぎは山原から船で運ばれて売られた。
ZiqsjakuⓄ (名) 一尺。
ZiqsjakuⓄ (名) 一勺。
ZiqsjuuⓄ (名) 一升。
ZiqsjudaciⓄ (名) 一升だきの鍋。
ZiqsoociiaaⓄ (名) 不断着。ʔwaazi (暗れ着) の対。
ZiqsoonaadiiⓄ (副) Ziqsooziicii と同じ。
ZiqsooziiciiⓄ (副) 片はしから。残らず。すっかり。Ziqsoonaadii ともいう。caaru sjumuçi 'jatin ~ 'judi tuujun. どんな本でも片はしから読破する。
ZiqsuikaQ'sui① (副) いそいそ。うれしいことなどあって、急ぐさま。ʔuqsjagutunu ʔakutu ~ sjoosa. うれしいことがあるので、いそいそと急いでいるよ。
ZiqsuuⓄ (名) 一艘。

ʔiqtaa

- ʔiqtaa**① (名) ⊖おまえたち。きみたち。
 ʔjaa の複数。⊖おまえの家。～utee。おまえの家では。⊖おまえさん。ʔjaa (おまえ) よりもやや丁寧な感じをもつ。Ⓣ (接頭) おまえたちの。きみたちの。おまえの。ʔiqtaajaa (おまえの家。ʔjaajaa とはあまり言わない), ʔiqtaahara (おまえの側, きみの方) など。
- ʔiqtaahá'ra**① (名) おまえのがわ。おまえたちの方。
- ʔiqtamun**① (名) 必要な物。重宝な物。便利な物。
- ʔiqtan**① (名) 反物の一反。
- ʔiqtin**① (名) 一緒。ひとまとめ。合併。
 kunu sigutoo ʔjaatu 'wantu ~ni sana. この仕事はきみとぼくと一緒にやろうか。ʔjaatacaa 'jašiga muutujaankai ~ni najun. 分家であるが本家と合併する。kutašicinu muntu kuŋšicinu muntu ~ni sanmin še. 先月分と今月分とひとまとめに勘定しなさい。
- ʔiqtu**① (名) 一斗。
- ʔiqtuci**① (名) しばらくの時間。暫時。～matee. しばらく待て。～du 'jasa. しばらくの間だよ。
- ʔiqtugajoo**① (名) おはじき。女兒の遊戯の名。
- ʔiraa**① (名) すけべえ。好色な者。
- ʔiraa=sjun**① (他 =saN, =ci) 貸す。立て替えて貸す。(小額の金, 少量の米・味噌など, 消費するものを) 一時立て替えて貸す。大金・家などを貸すには karasjun という。
- ʔirabiniŋzu**① (名) 選ばれた人々。少数のすぐれた人々。選手。ʔikutainiŋzu という。
- ʔirabinukusi**① (名) えりのこし。選び残したものの。
- ʔirabiŋza=sju'N**① (他 =saN, =ci) 選出す。
- ʔirabišizi=jun**① (他 =raN, =ti) 選びすぎ

- る。えり好みしすぎる。
- ʔirabu**① (名) ⊖伊良部島。宮古群島の島の名。⊖沖永良部島。奄美群島の島の名。
- ʔira=buN**① (他 =baN, =di) 選ぶ。
- ʔirabun**① (名) えらぶうなぎ。海蛇の一種。沖永良部島付近に産するのでいう。滋養分に富み, 薬用となる。
- ʔirabuusi'Nzi**① (名) えらぶうなぎを煎じた汁。
- ʔirahwa**① (名) 伊良波。〔地〕参照。
- ʔira=jun**① (他 =aN, =ti) 借りる。立て替え借りする。(小額の金, 少量の米・味噌などを, その時使用するために) 一時借りる。同量をあとで返す場合に使う語で, 同一物を借りて返す場合, たとえば家などには kajun という。
- ʔirana**① (名) 鎌。kama ともいう。
- ʔiranazika**① (名) 鎌の柄。軽いもののたとえとなる。tabee ~N nii najun. (諺) 旅は鎌の柄も荷になる。
- ʔiranmja**① (名) 伊良皆。ʔiraNna ともいう。〔地〕参照。
- ʔiraNna**① (名) 伊良皆。ʔiranmja ともいう。〔地〕参照。
- ʔiree**① (名) 応答。返事。答え。
- ʔirechwi'zi**① (名) 応答。返答。返事。
- ʔiree=jun**① (自 =raN, =ti) 答える。返事する。
- ʔireekai**① (名) 借りてばかりいること。貧しい暮らしのさまをいう。ʔiree<ʔirajun, -kai<kajun.
- ʔireekute'e**① (名) 応答。返答。～N neeN. うんとすんとも言わない。
- ʔiri**① (名) 錐(きり)。
- ʔiri**① (名) 西。ʔagari (東) の対。[入] または [西] と書かれた。nisi は北。
- ʔirica**① (名) 屋根のむね。いらか。かやぶき屋根の頂上のかまぼこ型になっているところをいう。～hucun. 屋根を葺く。
- ʔirici**① (名) ⊖うろこ。⊖頭のふけ。

Ziricigaa=jun① (自 =raN, =ti) 入れ代わる。交替する。

Ziricii① (名) 油いため。油でいためた料理。toohu?irici (炒り豆腐), kuubu?irici (昆布その他をいためたもの), その他いろいろのものがある。

Zirici=jun① (他 =raN, =qci) 射て(撃って)しとめる。

Ziricirii① (名) 住み込み。雇用人が住み込んで働くこと。

Ziri=eun① (他 =kaN, =ci) 炒る。また、油でいためる。

Ziridaka① (名) 収入額。入って来る金高。?Nziridaka (支出高)の対。

Ziricee① (名) 夕暮れ。日暮れ。入相。?juu-Ziricee ともいう。

Zirigan① (名) 入れ髪。かもじ。婦人の髪に加える髪。

Ziriganbusi① (名) 彗星。ほうき星。形が?irigan に似ているのでいう。hoocibusi ともいう。

Ziriganhaajuu① 男子の4~5歳ころの髪のかき方。入れ髪してその端を折り曲げて結ったもの。

Zirigasa① (名) はしか。麻疹。

Zirigu① (名) 材料。

Zirihana① (名) ⊖茶の出花。茶の入れてすぐのもの。⊖人が家などに入っすぐ。入りはな。

Zirihuda① (名) 入札(にゅうさつ)。huda-Ziri は選挙の投票。

Zirihuga=sju^hN① (他 =saN, =ci) (錐などで穴を)あける。

Zirihuga=sjuN① (他 =saN, =ci) (鉄砲で)撃ち抜く。

Zirihui① (名) 不平。不満。着物・食物など物質上の不平不満にいう。他の場合には cimoo hugan (意に満たない) などという。cinnu ~ sjuN. 着物の不平を言う。munnu ~ sjuN. 食物の不平を言う。

Zirihuni① (名) 入船。港に入る船。また、入港。

Zirihuni?uiwee① (名) 旅に出た人の船が港(那覇)に入った時の、出迎への祝。入船ほっけ。

Zirihwi① (名) (彼岸の)入りの日。王家・大名家などが彼岸祭り('ncabi)を行なう日。

Zirihwi① (名) 入り日。夕日。

Zirii① (名) 伊礼。《地》参照。

Ziri=jun① (他 =raN, =ti) ⊖入れる。⊖食べ物をつぐ。よそら。munu ~. 飯をつぐ。šeesin ~. お代わりをつぐ。

Zirijuu① (名) 入用。必要。

Zirikee=jun① (他 =raN, =ti) ⊖入れ替える。⊖お代わりをする。

Zirikeesii① (名) 品物を掛け買いし、次の品物を買う時などに、先の勘定をする買い方。商取引の一種の慣習で、hwicigee (代金ひきかえの買い方)に対する。~ sjuN.

Ziriku① (名) 入れ子。大小の箱または道具が、大きな物の中に次々と納まるようにできたもの。

Zirikumaqkwa① (名) 入れ子式の枕。ひのき板で箱のように作った、夫婦用の枕で、入れ子式に、一方の枕が他方に納まる。

Zirimee① (名) 収入。

Zirime'e① (名) 西江前。《地》参照。

Zirimi① (名) 入り目。ものいり。出費。金がかかったり、物がいったりすること。

Zirimii① (名) [新] 入り目。義眼。

ZirimuN① (名) 入れ物。容器。

Zirimusi① (名) 甘藷が虫に食われること。虫食い。

Zirimusjaa① (名) 虫食いいも。hwiimu-sjaa ともいう。

Zirimuuku① (名) 入り婿。婿養子。~ tu-jun. 入り婿をとる。~ najun. 入り婿となる。

Zirimuukuu① (名) ?irimuuku (婿養子)の卑称。

YiriNkee

YiriNkee① (名) 西向き。

Yirišii=juN① (他 =raN, =ti) 追加する。入
れて添える。

Yiritakii① (名) (容器に物を) 入れたまま。
～ muqci kuuwa. 入れたまま、持って
来い。

Yirituba=sju^hN① (他 =saN, =ci) すっかり
射る。撃ちまくる。

YiriZunuti① (名) 西表島。八重山群島の
島の名。

YiriZwi'i① (名) 西江上。《地》参照。

Yiriwai① (名) 言い合い。口論。～ sjuN.

Yiriwaikaawai① (副) 言い争うさま。～
sjun.

Yiru① (名) 色。また、顔色。～ ?NzijuN.
色が出る。また、顔色がよくなる。血色が
よくなる。～ tubuN. 色が飛ぶ。また、
色を失う。驚いて真青になる。～ nugi-
juN. 色が抜ける。色がなくなる。また、
血色がなくなり顔色が悪くなる。～ mi-
wakasjuN. 差別する。人によって分けへ
だてする。～ 'wakasjuN ともいう。Yi-
roo hujuunu ～, hadaa 'Neitamagunu
～. 顔の色は芙蓉の色、肌はうで卵をむい
たような色。美人を形容していう。

Yiručikimucigoo① (名) kusici?ukwaa-
si (祭祀用の蒸し菓子) の一種。赤青黄の
三色で、波形模様がある。

Yirudui① (名) 色どり。彩色。

Yirudujaasi① (名) 色のとりあわせ。配色。

YiruYiru① (名) いろいろ。さまざま。～
'jaqsaa. いろいろだよ。～nu. いろい
ろ。

Yirujuku① (名) 色欲。

Yiruka① (名) 色香。色と香り。

Yirukaži① (副) 種類。種類雑多。いろい
ろ。hananu ～ sacoojabiiN. 花がいろ
いろ咲いています。

Yirukisa① (名) 顔色。血色。

Yirumigaai① (名) ⊖(驚いて) 顔色が急変

すること。⊖変節。

Yirumiijaqsan① (形) (喜怒哀楽の情が)
顔色に現われやすい。現金である。

Yirumiijasii① (名) 現金な人。

Yirunoosi① (名) 染め直し。色あげ。

Yirunucin① (名) 芭蕉布に着色した土族男
子用の礼服。色の衣の意。夏用は水色無
地、冬用は茶色無地。

Yirunugaa① (名) 血色の悪い者。また、
(驚いて) 青くなった者。-nugaa <nugi-
juN. ～ natoon. 顔色が悪い。

YiruNna① (連体) ⊖いろいろな。いろん
な。?aree ～ sjumuçi ?uhooku mu-
qcoon. 彼はいろいろな本をたくさん持っ
ている。⊖変な。妙な。異様な。kunugu-
runu sikinoo ～ kutunu ?aqsaa. この
ごろの世の中は普通でないことがあるね
え。

Yirusigamaasi① (名) あいにく。折あしく。
～ 'jaqsaa 'jaa. あいにくでしたねえ。

Yirusjumo'osju① (名) 次の句で用いる。
～ nugijuN. 驚いて青くなる。色を失
う。

Yirusoomo'osoo① (副) 驚いて顔色が青く
なるさま。

Yiruwaki① (名) 色分け。色別。物事の区
別。

Yiruwakiti① (副) 特に。とりわけ。特に
区別して。

Yiružici① (名) 色好み。好色。

Yiruzurasan① (形) (人・花・器物などの)
色が美しい。

Yisa① (名) 伊佐。《地》参照。

Yisami=juN① (他 =raN, =ti) 励ます。慰
めて励ます。激励する。

Yisamita=cuN① (自 =taN, =qci) 勇み立
つ。

Yišeec① (名) ⊖委細。くわしいこと。～ni
hanasawa cicimisjoori. くわしく話すか
ら、聞いて下さい。～na kutoo mata.

くわしいことはまたあとで。⊖たしかに。
はつきり。~ni 'NNcAN. たしかに見た。
~ja natikara 'wakaisa. たしかなこと
(くわしいこと)はその場でわかるよ。

Yisi①(名)石。

Yisizana①(名)石切り場の石を切りとった
穴。

Yisibasi①(名)石橋。

Yisibee①(名)いしばい。石灰。貝がらな
どを焼いて粉末にしたもの。しっくい・肥
料などにする。

Yisibjaa①(名)昔の大砲。-bjaa<hjaa。

Yisibuku①(名)つぶて。投げるための小
石。

Yisibutuki①(名)石仏。

Yisicaa①(名)石川。《地》参照。

Yisici①(名)伊敷。《地》参照。

Yisiduuruu①(名)石燈籠。

Yisigaci①(名)石垣。台風の被害を防ぐた
めに、ほとんどの家は石垣に囲まれてい
る。

Yisigaci①(名)石垣島。八重山群島の島の
名。また、石垣。《地》参照。

Yisigaciguu①(名)ざる碁。へたな碁。石
垣を積むように、やたらに石を並べるので
いう。

Yisigakui①(名)石囲い。屋敷などを囲っ
た石の垣。

Yisigantoo①(名)[石敢当] T字形の道の
突き当たりの家にかかげる魔除け。家がT
字形の道の突き当たりには、石敢
当の三字を石垣や塀に彫るか、板に書く
かしておく。中国に石敢当という豪傑がお
り、向かう所敵なきありさまだったとい
うので、この家には石敢当がいるぞと魔物
をおどかすためのものと伝えている。

Yisigee①(名)nisigeeと同じ。

Yisiguu①(名)さんご礮などを砕いた細か
い砂利。道路などに敷く。石粉の意。

Yisiguumici①(名)Yisiguuを敷きつめた

道。石灰岩の砂利道。

Yisiguu?Nmu①(名)甘藷の一種。堅くて
石のようで、蒸すと粉をふく。

Yisii①(名)⊖権勢。威勢。⊖意気盛んなこ
と。威勢がよいこと。

Yisikabuizoo①(名)左右に大きな石を積
み上げた門。

Yisikahwa①(名)石嘉波。《地》参照。

Yisikaraamici①(名)石ころ道。

Yisikizai①(名)石段。石の階段。

Yisikubiri①(名)[文]石のある小坂。nu-
hwanu ~ 'Nzo qiriti nuburu, njahwi-
N ~ tusawa ?arana. [伊野波の石小坂
無蔵つれてのぼる にやへも石こびり 遠
さはあらな]伊野波の石ころの坂道を恋す
る女をつれて登る。もっと石ころの坂道が
遠くまでであるといひ。

Yisimakuradoo①(名)[新]石枕党。日清
戦争時代の、首里の頑固な一派。清のひい
きをしたが、清が敗北したので、壊滅した。

Yisimici①(名)石を敷き並べた道。石の舗
道。首里の道路はほとんどが石を敷き並べ
た道であった。

Yisinaguu①(名)女の子の遊戯の名。いし
など。小石を投げ上げ、手の表裏で受け
止めたりするもの。Yisinagunu Yisinu
?uhusi narumadin ?ukakibusemisjori
'wa?usjuganasi. [いしなごの石の 大瀬
なるまでも おかけばさえ召しよれ 我御
主がなし]いしなごの石が大岩になるまで
も、お治め下さい国王様。沖縄の君が代
のような歌で、明治以後も保守派(kuruu)
は宴会の初めに歌った。

YisiNmi①(名)石嶺。《地》参照。

Yisi?uusi①(名)石臼。

Yisizeeku①(名)石工。石屋。Yisizeekuu
ともいう。

Yisizeekuu①(名)石工。石屋。

Yisizi①(名)⊖礎石。いしずえ。⊖くつぬ
ぎの石。

ʔisizoo

ʔisizoo① (名) 石造りの門。石垣の門。

ʔisja① (名) 医者。ʔamatuʔisja (蘭方医) と ʔucinaaʔisja (漢方医) とがある。

ʔisjaakaa=jun①* (自 =raN, =ti) 喜びはしゃぐ。手足を振り動かして喜び騒ぐ。
ʔisjakajun ともいう。

ʔisjaara① (名) 石原。《地》参照。

ʔisjadoo① (名) 伊舎堂。《地》参照。

ʔisjaka=jun① (自 =raN, =ti) ʔisjaakaa-jun と同じ。

ʔisjatuu① (名) かまきり。

ʔisjoo① (名) 衣裳。衣服。着物。

ʔisjoocihwada① (名) 衣類。衣裳着肌の意。ciNcihwada ともいう。

ʔisjoosja① (名) [文・古] うれしさ。楽しさ。うきりきすること。nagunu ʔuhuganiku ʔNma haraci ʔisjosja, huni haraci ʔisjosja ʔwaʔuradumai。[名護の大兼久 馬はらちいしやうしや 舟はらちいしやうしや 我浦泊] 名護の大兼久馬場は馬を走らせて楽しいが、舟を走らせて楽しいのはわが村の港。~ sjuN。楽しむ。老女などが ʔwiirikisa sjuN の意で用いる。

ʔisju①* (名) 主旨。意趣。

ʔisuzi① (名) 急ぎ。至急。~nu ʔikee。急ぎの使い。

ʔisu=zuN① (自 =gaN, =zi) 急ぐ。ʔisugaa maari。急がば回れ。

ʔita① (名) 板。多くは ʔica という。

ʔitabuqkwi① (名) 不機嫌で顔がふくれること。~ sjuN。

ʔitabuqkwi=jun① (自 =raN, =ti) (不機嫌で顔が) ふくれる。

ʔita=nuN① (自 =maN, =di) (家・器具・食物などが) 痛む。破損したり、腐ったりして悪くなる。

ʔitari=jun① (自 =raN, =ti) 奥義をきわめる。奥義に達する。ʔitaritooN の形で多く用いる。buzini ʔitaritooN。武芸をきわめている。

ʔitazira① (名) むだ。いたずら。~ni ʔunna kutu qsi nuu najuga。むだにそんな事をして何になるか。ʔwaaga kaN sjuʔee ʔitaziraa ʔaraN。わたしがこうするのはむだにしているのではない。

ʔitaziragutu① (名) むだな事。

ʔitu① (名) 絹。ʔiicu と同じ。ʔiicu を多く用いる。

ʔitujanazi① (名) [文] 糸柳。しだれ柳。zurigwamija ʔawari ʔitujanazigukuru, kazinu ʔusumamani nariti ʔiicusa。[尾類小身やあはれ 糸柳心 風の押すままに なれていきゆさ] 女郎の身はあわれ、糸柳のように、風の押すままに馴らされて行く。

ʔitu=jun① (他 =raN, =ti) いたう。きらう。

ʔitumagwii① (名) いとまごい。ʔitumagwijutumuti muqcaru sakazicija namida ʔawamuraci numiN naraN。[暇乞よともて 持つちやるさかづきや 涙あはもらち 飲みもならぬ] いとまごいだと思って持ったさかずきは、涙がいっぱいたまって飲むこともできない。

ʔitumuN① (名) 絹物。

ʔitumusi① (名) 蚕。

ʔitunami① (名) [文] いとなみ。生業。hwibinu ~ni hwikasariti ʔwaminu ʔugamibusja ʔatin zijuja naraN。[日 日のいとなみに 引かされて我身の 痒み ぼしやあても 自由やならぬ] 日目の生活にひかされて、わたしはお会いしたくても自由になりません。

ʔiwa① (名) [文] 岩。口語は sii, または ʔuhusi という。

ʔiwari① (名) いわれ。由来。

ʔiwee① (名) 祝い。ʔjuuwee ともいう。

ʔizaa① (名) 大胆な者。勇者。意地のある者。

ʔizai① (名) いさり。火を使う、夜の漁。

ʔizaibii① (名) いさり火。漁火。

YizaihoⓄ (名) [古] 貞操試験。久高島の習俗。若い女にいかがわしい風評が立った時、森の神前で眼かくしをして小橋の上を渡らせる。無事に渡れば貞節の証明となる。不品行を確実に知っている者が見物人の中から石を投げて、その非をあらわす。

YizasicaⓄ (名) 伊差川。《地》参照。

YiziⓄ (名) ⊖勇氣。意地。意気地。元気。～nu ʔan. 勇氣がある。～ʔnziree. 元気を出せ。～cijun. (子供が) しっかりしている。母親にすがったりなどしない。～N ciraN mun. 意気地なしの子供。⊕怒り。怒気。ʔaree ～ʔnzitooN. 彼は怒っている。～nu šiiraran. 怒りを制しきれない。腹にすえかねる。～nu ʔnziraa tii hwiki, tiinu ʔnziraa～hwiki. 腹が立っても手(暴力)を出すな。手が出そうになったら自分の怒りを静めよ。

Yizicirimu NⓄ (名) しっかり者。年少者についていう。母親にすがったりしない子供など。ʔizin ciraN mun. (いくじなし)はその反対。

YizinaⓄ (名) 伊是名島。沖縄本島北方、伊平屋島(ʔihja)の南にある島。伊平屋島(kusiziiともいう)に対してmeezii[前地]ともいう。また、伊是名。《地》参照。

YizinⓄ (名) しあわせ。気楽。親が子に、

しゅうとめが嫁に責任を譲って安楽になる場合などにいう。Qkwanu cuuree ʔujaa ～. 子供が大きくなれば親は楽でしあわせ。ʔjuminu cakutu sjutoo ～ sjoosa. よめが来たので、しゅうとめは気楽にしている。

YiziriⓄ (名) 意気。意気地。気力。～nu neen. 意気地がない。

Yizirimu NⓄ (名) しっかり者。

YizizuⓄ (名) 気丈者。意地のある者。ʔizizuumunともいう。

YizizuumunⓄ (名) ʔizizuと同じ。

YizuⓄ (名) [文] [伊集] 植物名。口語はʔNZU. さざんか的一种。椿に似た厚い葉で、白く美しい花が咲く。良材となる。～nu kija ʔjukati ʔan curasa sacui, ʔwamin～ʔjatuti masira sakana. [伊集の木やよかて あんきよらさ咲ちゆい 我身も伊集やとて 真白咲かな] 伊集の木はさかえて、あのよう美しく咲いている。わたしも伊集の木のようになって真白に咲きたいものだ。

YizuⓄ (名) 伊集。ʔNZUともいう。《地》参照。

YizumiⓄ (名) 伊豆味。《地》参照。

YizunⓄ (名) 泉。

YizunzaciⓄ (名) 泉崎。《地》参照。

'i, -i

- i (助) か。疑問の助詞。文の末尾に付けて質問文を作る。qcuī. 人か。taruui. 太郎か。Nに終わる語に付く時はそのNをnuに変える。ʔin. (犬)→ ʔinui. (犬か)ただし、活用する語の「終止形(現在肯定)」に付く場合にはNをmに変える。kacuN. (書く)→ kacumi. (書くか), 'wakasan. (若い)→ 'wakasami. (若いか)など。また否定の形に付く時にはNをnに変える。kakan. (書かない)→ kakani. (書かないか), neen. (ない)→ neeni. (ないか)など。また活用する語の過去の形に付く時には、過去の「終止形」には付かず、「音便形+て」の形に付く。ʔan 'jatan. (そうだった)→ ʔan 'jatii. (そうだったか), kacan. (書いた)→ kacii. (書いたか)など。また, ʔan (そう), kan (こう)などは ʔanii. (そうか), kanii. (こうか)となる。なお -du を用いる係り結びの文にも用いる。'wandu 'jarui. わたしなのか。なお、疑問詞を用いた質問文は -i で結ばず, -ga で結ぶ。
- 'ici① (名) 益。利益。~nu neen kutu qsi. 無益なことをして。
- 'ici① (名) 易。易經を応用した占いの法。
- 'ida① (名) 枝。'juda ともいう。kiinu ~. 木の枝。
- 'idahwaa① (名) 枝葉。'judahwaa ともいう。
- 'idamuci① (名) 枝ぶり。'judamuci ともいう。
- 'idu① (名) 江戸。
- 'ii① (名) 藺(い)。燈心草。hiiguii, saciii の二種がある。
- 'ii① (名) 絵。kata ともいう。
- 'ii① (名) ゆい。労力交換による協同労働。

田植え・砂糖製造など一時に多数の労力が必要な時、順番に加勢し合って労働力の交換をすること。~kansijun. ひとの仕事をしてやって、他日自分の仕事をさせる権利をもつ。ゆいをかぶせる意。~kanzun. 自分の仕事をひとにしてもらい、労働の負債をもつ。ゆいをかぶる意。

- 'ii① (名) 支(い)。十二支の一つ。時間は午後10時、方向は西寄りの北。
- 'ii① (名) 椅子。腰掛けるもの。
- 'ii- (接頭) よい。いい。非常に多くの名詞に付く。'iiʔacinee (いい商売), 'iiʔimi (よい夢), 'iiqcu (よい人) など。'jana- (悪い) の対。
- ii (助) よ。ねえ。意志を表わす形(すなわち「未然形」の単独の形)に付く。対等・目下に対する親しみの気持ちを表わす。'juma~. 読もうねえ。ʔansa~. そうしようねえ。ʔikan ʔuka~. 行かないでおこうねえ。
- 'iiʔacinee① (名) いい商売。もうけの多い商売。大もうけ。cuuja hurimun ʔi-cati ~ sicasa. hweku 'jaakai ʔiki-wadu 'jaru. [今日やふれ者行逢て 良い商ひしちやさ 早く家かい行きはどやる (茶売節)] きょうは馬鹿者に会っていい商売をした。早く家に帰らなくては。
- 'iiʔanbee① (名) いい接配。物事が順調に進んでいること。また、病人の状態がよいこと。
- 'iiʔbaa① (名) よい折。いい機会。'iibasju, 'iihjoosi と同じ。~ 'jaqsaa. ちょうどよかった。
- 'iiʔbasju① (名) よい折。いい機会。'iibaa, 'iihjoosi と同じ。
- 'iiʔibin① ʔikan① (句) 尻が落ち着かな

い。席の暖まる暇もない。すわった尻が付かない意。

'iɪci=cuN④ (自 =kaN, =ci) ⊖居付く。住み付く。ひとところに落ち着いて暮らす。⊖(回っているこま, 上がっているたこなどが) 動揺せずに安定する。

'iici④ (名) 懐胎。妊娠。月経が止まって妊娠が確定すること。

'ii'cii④ (名) ⊖いい気。思い上がった気持ち。～ nati. いい気になって。⊖いい気持ち。saki nudakutu ～ nataN. 酒を飲んだのでいい気持ちになった。

'ii'ciici④ (名) いい景色。よい眺め。

'iiciiri④ (名) かすり(緋)。tuqeciri ともいう。

'iidaki④ (名) すわった高さ。座高。

'iidatan④ (名) 琉球表の畳。備後表の畳は biigudatan という。

'ii'dusi④ (名) いい友達。親友。

'iiee④ (名) その場に居合わせること。ʔu-jacoodee ～nu ʔwii hanasjuN. 親兄弟が居合わせた上で話す。

'ii'gukuci④ (名) 居ごこち。すわりごこち。住みごこち。

'iihii④ (感) ([ʔiɪciɪ]) のように鼻音化して発音される。鼻音化しないとぞんざいに聞こえる。) さあ。じゃあ。目下に対して誘いかける時発する語。diqkaa ともいう。目上に対しては 'uuhuu, 目下でも年長者に対しては 'oohoo という。～ ʔika. さあ行こう。

'ii'hjoosi④ (名) よい折。いい機会。'iibaa, 'iibasju と同じ。

'iihudi④ (名) 絵筆。

'ii'huuzi④ (名) ⊖いい身なり。いい風采。また、よい習わし。よい流儀。

'ii'hwii④ (名) いい日。吉日。

'ii'ʔimi④ (名) いい夢。吉夢。

'iii'i④ (感) ([ʔiiɪ]) 鼻音化して発音されるのが普通。鼻音化しないとぞんざいに聞こ

える。) いいえ。いや。目下に対して、否定または拒絶の意を表わす語。目上に対しては 'uuuu, 目下の年長者に対しては 'oooo という。

'iiimuN④ (名) もらい物。もらった物。

'iiingwa④ (名) もらい子。'iiringwa ともいう。

'iiizin④ (名) 'iirizin と同じ。

'iijaa④ (名) 婿の家を代表して、縁談の申し込みをする者。<'iijuN. kuujaa ともいう。

'ii=juN④ (他 =raN, =ti) ⊖もてあそぶ。hutukii ～. 人形をもてあそぶ。⊖得意とする。('iitooN の形で用いる) ʔarce zii 'iitooN. 彼は書が得意だ。

'ii=juN④ (他 =raN =ti) もらう。zin ～. 金をもらう。'iiteeruj zin. もらった金。

'iikaci④ (名) 絵かき。画家。沖縄の画家としては、殷元良、自了の二人がもっとも有名。

'ii'kaNgec④ (名) いい考え。名案。妙案。

'ii'kukuci④ (名) いい気持ち。よい気分。kusi tataci kwiree ʔiqpee ～'jasa. あんまをしてくれたらとてもいい気持ちだ。

'iikuru④ (名) ⊖大よそ。大かた。大体。たいてい。～ natooN. 大よそできている。～nu qcu. たいていの人。naa ～ 'jan. もり大体できている。⊖どこでも。たいていのところ。～ ʔasa. たいていのところにある。

'iikutu④ (名) いい事。めでたい事。縁起のよいこと。吉事。～ katari. よい事を語れ。からすなど不吉な鳥が屋内や屋根の上で鳴いた時, biicaa (ねずみの一種) が鳴いた時に言まじない。

'ii'kutu④ (名) いいこと。よい事柄。よい事件。

'iimaaru④ (名) 順番に労力交換 ('ii) を行なりこと。主として農家の畑仕事についていうが、転じて他の仕事についてもいう。

'iimuN

- 'ii`muN① (名) いい物。
'iimusiru① (名) 琉球表。saciii でつくったむしろ。
'ii`naaka① (名) いい仲。親しい仲。仲よし。
'ii`nee① (名) よく似合うこと。また、似合いの男女。
'iiniibui① (名) 居残り。～ kuuzun. こっくりこっくりをする。
'iinoo=jun① (自 =ran, =ti) 「居直る」に対応する。辞去しようとして、また、しばらくとどまる。
'iinuu① (名) あいこ。引き分け。勝負なし。
'ii`Nmanukura① (名) いい馬の鞍の意。罪・責任を転嫁させるかっこうな相手。Zariga 'wannee ~Ndi Zumutooru gutoon. 彼がわたしをいい馬の鞍だと思っているらしい。
'iin① (名) 縁。縁側。廊下。
'iin① (名) 織機の箆 (おさ) の種類の名。十四よみ。経糸 1120 本を通す。また、それで織った布。huduci の項参照。
'ii`Qeu① (名) いい人。善人。
'ii`Qkwa① (名) いい子。善良な子。'iQkwa とは異なり、子供についてのみいう。
'iira=rijun① (自 =riran, =qti) ①もらわれる。'iijun (もらう) の受身。②信頼される。重宝がられる。気に入られる。Zaree sikinkara 'iiraqtoon. 彼は世間から信頼されている。
'iirimun① (名) ①おもちゃ。玩具。②趣味としているもの。得意とするもの。
'iiringwa① (名) 'iiringwa と同じ。
'iirizin① (名) お年玉。新年に親類・近所などからもらう金。'iirizin ともいう。
'iisaba① (名) 藪で作った草履。
'iishi① (名) 江洲《地》参照。
'iisikuci① (名) 座業。すわり仕事。'iiwaza ともいう。
'ii`sirasi① (名) いい知らせ。吉報。

- 'ii`sjoogwaci① (名) ①いい正月。②新年おめでと。新年のあいさつ。目上には～ deebiru という。
'ii`sjuubu① (名) いい勝負。接戦して勝ち負けのつきにくい勝負。
'ii`tacinaaka① (名) いい縁組。嫁いで行くのにちやうど似合いの相手。女の方からいう語。
'iiti① (名) 得手。得意とするもの。～ sjun. 得意とする。
'ii`Twaacici① (名) いい天気。晴天。
'ii`waza① (名) いい職業。いい仕事。
'iiwaza① (名) 座業。すわり仕事。'iisikuci ともいう。
'i=jun① (自 =ran, =ci) ①すわる。'imi-seeN. おすわりになる。'imišeebiree. おすわり下さいませ。'iree. すわれ。'icoomi. すわっているか。すわっている目下へのあいさつ。②落ち着く。同じところにいる。kuma ～. ここに居るの意。(放蕩していた者などが) 家に落ち着いて、遊びに歩かない。③沈没する。底に沈む。
'inu- (接頭) 同じ。同等・同量・同様の意にも、同一の意にも用いる。非常に多くの名詞に付く。'inutusi (同年), 'inunaa (同名), 'inuqeu (同一人) など。kuree kiqsa cootašitu 'inumajaa. これはさっき来ていたのと同じ猫か。
'inuca① (名) 同年配。同じ年かっこう。'inujuca ともいう。Zujan Qkwan ~ natoon. 親も子も同年配になっている。子が大きくなって親同様になった意。
'inuci① (名) 健康時のような元気。平常と同じ元気。'inucee neen. 元気がない。まだ元気が回復しない。
'inucimu① (名) 同じ心。年長らしくない心。年長の者が幼い者と同じ気持ちになって争う場合にいう。
'inuçira① (名) ①同じ顔。似た顔。②同類。一味。仲間のひとりの行為が全体のつ

- らよごしになる場合にいう。～ najuN.
同類のように見られる。
- 'inugu④ (名) 絵の具。
- 'inugutoon④ (<'inu+gutoon) 同様である。同じようである。
- 'inugutooruu④ (名) 同様なもの。同じようなもの。
- 'inugutu④ (副) 同じように。同様に。同じく。～ 'jan. 同じようにだ。
- 'inuhwii④ (名) 同日。同じ日。
- 'inuhwisja④ (副) その足で。同じ足で。休んだり泊ったり、いったん帰ったりせずに、そのまま行く場合にいう。～ keejun. その足で帰る。
- 'inu'iihii④ (名) 親しい同等・同年輩間の話し方。たがいに, 'ii [ʔii] と答え, hii [çi] と応ずる話し方。きみほくの会話。tageeni'iihii ともいう。
- 'inui④ (名) ㊦同じ時節。一年の同じ季節。'inu + 'uui. ～gutuni ʔNbiʔNzasjun. (一年の) 同じところに思い出す。㊦一周忌。
- 'inujca④ (名) 'inuca と同じ。
- 'inukan④ (名) 同感。同じように考え思うこと。また、同じ考え。
- 'inumicii④ (名) 同じ道。前に来たのと同じ道・別の人と同じ方針などの意で用いる。cumici の項参照。～ kunuN. (前に来たのと) 同じ道に行く。(前人と) 同じ方針で行く。
- 'inumun④ (名) 同じもの。同じこと。また、同一物。ʔansin kansin ～du 'jaru. ああしてもこうしても同じことだ。
- 'inunaa④ (名) 同名。
- 'inunagi④ (名) 同じ長さ。'innagi ともいう。
- 'inuqcu④ (名) 同じ人。同一人。また、同じ人間。ʔarin 'wannin ～du 'jaru. 彼もわたしも同じ人間だ。
- 'inusaa④ (名) 同じ姓(さが)の意。十二支の年が同じであること。同年, 1歳と13歳と25歳など。
- 'inutaki④ (名) 同じだけ。同じ高さ。'in-taki ともいう。
- 'inutiici④ (名) 同一。'inutiicii. 同一か。
- 'inutuci④ (名) 同じ時。同時。
- 'inutusi④ (名) 同年。同じ歳。cutusi ともいう。
- 'inuʔuqsa④ (名) 同量。同額。'insa ともいう。
- 'inuʔuuhuu④ (名) 互いに敬語を使って話す話し方。tageeniʔuuhuu ともいう。ʔuuhuu の項参照。
- 'inuu④ (名) 同じもの。同様なもの。
- 'in④ (名) 縁。ゆかり。また、血縁・夫婦の縁など。～ musubun. 縁を結ぶ。～ cirijun. イ。縁が切れる。ロ。愛想がつかなくなる。いやになる。～nu çiragataka. 縁が顔をかばう意。縁のある者は、ひいき目で顔もきれいに見える。
- 'in- (接頭) 'inu- と同じ。'innagi (同じ長さ), 'intaki (同じだけ) など。
- 'inbici④ (名) 縁故。縁引き。縁を引いている者。狭義には姻戚関係(にある者)。
- 'ingumi④ (名) 縁組。～ sjun. 縁組を結ぶ。
- 'inin④ (副) 期日が延び延びになるさま。延引したさま。～ natoosa. 延び延びになっているよ。～ qsi burii natoosa. 延び延びになって失礼したね。
- 'inkirahwaa④ (名) 同じ状態。同じようす。前よりよくなるべきもの(学問・病気など)が、前の状態と変わらないこと。進歩のないこと。kiramaa maakara 'Nncin ～.* 慶良間島はどこから見ても同じに見える。ʔanu qcoo ʔiçimadin ～.* あの人はいつまでたっても変わらない。
- 'inmaoo④ (名) 閻魔王。
- 'innagi④ (名) 同じ長さ。'inunagi と同じ。
- 'inpi④ (名) 同じ大きさ。'inpinaa 'waki-jun. 同じ大ききさずつ分ける。

'iNpoo

'iNpoo① (名) 遠方。遠くの方。kaama と
もいう。

'iNru①① (名) 遠慮。人に対してひかえ目
にすること。～ sjuN.

'iNsa① (名) 同量。同額。YinuYusa の略。
'iNsanaa. 同量ずつ。同額ずつ。

'iNsju① (名) 火薬。'Nsju ともいう。

'iNtaki① (名) 同じたけ。同じ高さ。'inu-
taki ともいう。

'iQkwa① (名) ⊖いい子。かわいい子。⊖
親切な人。いい人。おとなや目上に対して
もいう。Yanuqcoo ~ 'jan. あの人は親
切な人だ。

'isici① (名) 尻。けつ。「居敷」に対応する
語か。

'isici① (名) ⊖屋敷内にある、店子 (naagu)
などの家の建っている土地。据える ('isi-

juN) 土地の意か。または、「居敷」に対応
する語か。

'isicigane① (名) 店子 (naagu) などの
家の建っている土地の地代。

'isi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖すえる。置く。
'jaqkwan ~. やかんを置く。cimu ~.
心を落ち着ける。⊖設ける。つくる。haaka-
ta ~. 歯型を付ける。kata ~. 規則を設
ける。⊖すわらせる。taqcooru qcu ~.
立っている人をすわらせる。⊖地位につけ
る。Yari muragasirankai 'isitan. 彼
を村がしらにした。

'isika=juN① (自 =raN, =ti) 居やがる。
'ijun (すわる), 'un (居る) の卑語。す
わっている、仕事をしない、長居するなど
を悪くいうのにも使う。「居敷く」と関係あ
る語か。

ʔj

- ʔjaa① (名) ⊖おまえ。きみ。目下に対する第二人称。目上は ʔunzu。複数は ʔiq-taa。⊕(接頭)おまえの。きみの。ʔjaa-sjumuçi。おまえの本。
- ʔjaagutooru① (連体)おまえのような。おまえごとき。非難の意でいう。～ ninzin。おまえごとき人間。
- ʔjaagutooruu① (名) おまえとそっくりの者。ʔamanakai maqtaci ~nu 'usa。あそこに全くおまえとそっくりの人がいるよ。
- ʔjaakuru① (副) ʔjan-kuru と同じ。
- ʔjan-cui① (名) おまえひとり。cui はひとり。ʔjaa cui ともいう。
- ʔjan-kuru① (副) おまえ自身で。-kuru は自身の意。ʔjaakuru ともいう。～ qsi。自分でしろ。
- ʔjooii① (名) (泣く子をあやす声から転じて) おさな子。赤ん坊。ʔunukuroo ʔjaa-

- ja ~du 'jateekutu。そのころはおまえはおさな子であったから。
- ʔjooii-gwaa① (名) 赤ちゃん。かわいい幼子。ʔeeraasjaru ~ deemun naa。かわいらしい赤ちゃんですね。
- ʔjooiiʔjooii① (感) 泣く子をあやす声。子守歌のはじめによく用いられる語。
- ʔjun① (他・不規則) 言う。ʔici kwiri。言ってくれ。ʔiigurisjan。言にくい。遠慮して言にくい。また、表現や発音がしにくい。ʔimişeen。おっしゃる。言われる。ʔicaru magisa。(言った大きさの意) 大きいことをいう者を笑う時いう。
- ʔjuu① (感) はい。はあ。非常に目上の人に対して、肯定・承諾の意を表わす語。一般の目上には ʔuu という。
- ʔjuuniN① ʔnjuban① (句) 言うに及ばぬ。言うまでもない。

'j, -j

'ja- (接頭) 八。'jahwani (八羽), 'jakeen (八回) など。

-ja (助) は, ii, ee, aa, oo, uu などに終わる語に付く時は -ja のままである。'waqtaaja (わたしたちは), cuuja (きょうは) など。しかし短い, i, a, u に終わる語に付く時は, それらの母音と融合し, ee, aa, oo となる。kuri (これ) → kuree (これは), kuma (ここ) → kumaa (ここは), Yiru (色) → Yiroo (色は) など。また N に終わる語に付く時は N を n に変えて noo となる。zin (銭) → zinoo (銭は), siran (知らない, 知らないで) → siranoo (知らないでは) など。ただし 'wan (わたし) に付く時は 'wannee (わたしは) となる。主格を表わす -ga (が), -nu (が) に付くこともできる。'waagaa YicuN. わたしなら行く。Yamanoo Ymenŋeesa. あのかたならいらっしゃるよ。また, 'jan (である), 形容詞 (たとえば 'wakasan=若い), 「…している」(たとえば 'judoon=読んでいる), 「…してある」(たとえば 'judeen=読んである) などの否定の形にはふつう -ja の付いた形を用いる。sjumuŋee Yaran. 本ではない。'wakakoo neen. 若く(は)ない。'judee 'uran. 読んで(は)いない。'judee neen. 読んで(は)ない。cuuja 'iitinci deebiru. きょうはいい天気でございます。ŋimee siranoo sjooti. 学問は知らないで(は)いて。Yae sani. ありはしないか。

'jaa① (感) ねえ。なあ。もし。やあ。呼びかける時, 同意を求める時発する語。~ hwahwaTujaju. [やあ母親よ (銘 茄子)] もし, おかあさん。~ Yan 'jara

'jaa. ねえ, そうだろうねえ。~ hunnu. ねえ, ほんとに(同情した時などに, 女が言う)。

'jaa① (感) や (八)。やっつ。声を出して敬える時にのみいう。

'jaa② (名) ①家。家屋。家庭。~ humikasjun. (歌・三味線などで) 家をにぎやかにして祝う。~ gujukun. 家を建てる。~ tatijun. 分家させる。一戸をかまえさせる (~ 'wakasjun) ともいう。~ tacun. 分家する。一戸立てとなる (~ 'wakajun) ともいう。~ nee kakaran. 家にいない。外出ばかりする。②(接尾) 軒。cujaa (一軒), tajaa (二軒) など。

'jaa① (助) ねえ。なあ。念を押したり, 同意を求めたりする場合に用いる。cuuga ~. 来るかねえ。Yicuga ~. 行くかねえ。(疑問の助詞 -ga は通常疑問詞のある文に用いられるが, この 'jaa が続く時は疑問詞なしでも用いられる。) Yika ~. 行こうねえ。Yan 'jara ~. そうだろうねえ。Yansana ~. そうしようねえ。Yikana ~. 行きたいねえ。'Nncan doo ~. 見たんだねえ。

'jaabuci② (名) 屋根をふくこと。かやぶき屋根についていう。瓦ぶきには kaaranusijun (瓦のをせる) という。

'jaaburu② (名) 便所。屋根のある便所で, ここでは豚を飼わない。豚を飼う便所は huru。

'jaabusin② (名) 家の普請。

'jaaci① (名) 八。やっつ。また, 8歳。時刻は午前午後の2時。

'jaacukui② (名) 'jaazukui と同じ。

'jaacuu② (名) 灸。やいと。~ 'jacun. 灸をすえる。

- 'jaadu① (名) 宿。宿屋。'jadu ともいう。
- 'jaadui① (名) ㊦都落ちした士族の部落。都に定職なく都落ちした士族は、平民の村落と離れた所に居を定め、農業を営むようになった。その部落をいう。㊦別荘。貴族の別荘には 'tujaadui, 王家の別荘には 'udun という。那覇では別荘を harujaa (畑の中の家の意) という。
- 'jaaduguci① (名) 戸口。
- 'jaaduu① (名) やもり。
- 'jaagumai① (名) 家にこもること。籠居。
- 'jaagumajaa① (名) 家にこもって出歩かない者。
- 'jaagwaa① (名) 小さい家。小屋。
- 'jaa'izaa① (名) うち弁慶。'izaa は勇気のある者。
- 'jaajaa① (名) 着物の小見語。おべべ。
- 'jaajaa① (感) [文] やあやあ。組踊りで人に呼び掛ける語。
- 'jaajaatu① (副) 静かに。安らかに。騒ぎが静まったさま。また、ほっと。安堵するさま。～ najun. (騒ぎが) 静まる。また、ほっと安心する。
- 'jaajasici① (名) 家屋敷。家屋と敷地。
- 'jaakajaa① (名) 借家人。家を借りる者。
- 'jaakaracijaa① (名) 不断着。家で着る着物。
- 'jaakazai① (名) 家および家財道具。財産。
- 'jaakazi① (名) ㊦家の数。戸数。㊦家ごと(に)。戸ごと(に)。～ hata 'agijun. 家ごとに旗をあげる。
- 'jaakazihwirujaa① (名) 移り気の奉公人。あちこち転々と渡り歩く奉公人。hwirujaa は捨り者の意。
- 'jaama① (名) ㊦糸車。糸搓り車。織機に付属する器具。右に車、左に紡錘があって、糸をより合わせる器具。㊦転じて、機械。'weNeujaama (ねずみとり機) など。
- 'jaamadii① (名) 宿無し。住居を失うこと。-madii は失って迷うこと。～ sjoon. 宿無しになっている。
- 'jaamanuçimi① (名) 糸搓り車 ('jaama) の管をさしこむ鉄錘。
- 'jaamucaa① (名) 所帯持ちの上手な者。
- 'jaamuci① (名) 所帯持ち。所帯の持ち方。～nu 'jutasjan. 所帯持ちがよい。
- 'jaamucidoogu① (名) 所帯道具。
- 'jaamucizuku① (名) 所帯のきりもり。所帯を維持して行く手段。家政。
- 'jaanaree① (名) 家での教育。しつけ。～du hukanaree. 家の中でのしつけが、よそに出た時の教育になる。
- 'jaaniNzu① (名) ㊦家の人数。家族数。㊦家族。
- 'jaanubaaN① (名) るす番。
- 'jaanunuusi① (名) 家主。貸家の主人。
- 'jaanu'uci① (名) 家の中。屋内。
- 'jaanu'wii① (名) 屋根。～Nkai nubujun. 屋根に登る。
- 'jaan① (名) 来年。
- 'jaaNnaa① (名) 家号。苗字。姓。'jagoo ともいう。家号と別に苗字がある時には、その苗字には mjoozi, noozi という。
- 'jaasakurisia① (名) 飢えの苦しさ。～sjun. 空腹で苦しむ。
- 'jaasanoosi① (名) 虫おさえ。空腹を一時しのぐために少し食うこと。
- 'jaasan① (形) ひもじい。空腹である。'jaasa. ひもじさ。飢え。空腹。
- 'jaasao① (名) すぐ腹のへる人。食ってもすぐひもじがる者。食いしんぼう。
- 'jaasawata① (名) 空腹。ひもじい腹。
- 'jaasazini① (名) 餓死。飢え死に。gasi は飢饉の意。
- 'jaasi① (名) 椰子。
- 'jaasigwaa① (名) 椰子の実。実の外側からは酒をいれる器として珍重されている。
- 'jaatacaa① (名) 分家した者。分家。
- 'jaatiiçi① (名) 一つ家。一つの家に暮らす

***jaati sjun**

こと。

- *jaati@ sjun@** (句) 人の家にわが家のよ
うに出入りし、入りびたる。**'jaatee sa-**
raN. 入りびたるわけにはいかない。
- *jaa?uucii@** (名) 引っ越し。転宅。士族以
上の身分ある者の引っ越しは **tun?ci?uucii**
という。
- *jaawakajaa@** (名) 分家した者。分家。
'jaatacaaともいう。
- *jaazeeku@** (名) 大工。家を作る大工。
- *jaazi@** (名) 屋宜。《地》参照。
- *jaazi=cuN@** (自 =kaN, =ci) 家に居つく。
(犬猫などが) 家に住みつく。
- *jaazina@** (名) 家風。家の品格。
- *jaazisii@** (名) なれない家で寝た場合に、
眠れないこと。金武(cin) では **'jaagusi**
という。-kusi は忌避する意。~ Qsi ni-
ndaraN. なれない家なので眠れない。
- *jaazisiisjaa@** (名) なれない家では眠れな
いくせのある人。
- *jaazoo@** (名) 棟門。瓦門。瓦屋根のある
門。もとは貴族の家に限られていた。
- *jaazukui@** (名) 家を建てること。家の建
築。**'jaaçukui**ともいう。
- *jabaN@** (名) [新] 野蛮。
- *jabiku@** (名) 屋比久。《地》参照。
- *jabiraa@** (名) 衰弱した者。**'jabirimun**
ともいう。
- *jabiri=jun@** (自 =raN, =ti) 病み衰える。
衰弱する。体が弱る。
- *jabirimun@** (名) 衰弱した者。**'jabiraa**
ともいう。
- *jabu@** (名) 屋部。《地》参照。
- *jaburi@** (名) **'jandi** と同じ。
- *jabuu@** (名) 鍼灸師。はり医者。
- *jaçi@** (名) たちの悪いこと。性悪。また、
たちの悪いことをたくらむこと。~ sjun.
悪だくみをする。また、(たちの悪い腫れ
もの・病気などが) こじれる。~na ni-
nziN. たちの悪い人間。

- *jaçi@** (名) やっつ(時刻)。午前午後の2
時。
- *jacibaa@** (名) 焼き鍼。やいばり。外科
の発達しない時代の医術の名。
- *jacidoohu@** (名) 焼き豆腐。路傍で焼き、
道行く人に売っていた。kan?toohu と
もいう。
- *jaci?iN@** (名) 焼き印。
- *jaçimaga@** (名) **'jaçi?Nmaga** と同じ。
- *jacimee@** (名) ⊖ぼっちゃん。士族以上の
男の子をいう。⊖貴族の男の子を、その下
の子や使用人がいう語。おぼっちゃん。
'jaçciimee ともいう。
- *jacimun@** (名) 焼き物。磁器・陶器・素
焼きの類一切をいう。
- *jaçi?Nmaga@** (名) 子孫といったような
意。~ hwici?Nmaga mata?Nmaganu
caa. 大勢の子孫たち。coozanu ?uhu-
sju [長者の大主](その項参照) のことば。
- *jaciN@** (名) 家賃。
- *jaçiri=jun@** (自 =raN, =ti) ⊖やつれる。
やせ衰える。憔悴する。⊖おちぶれて身な
りが悪くなる。おちぶれる。⊖ことさらに
姿を悪くする。身をやつす。また、仮装す
る。変装する。
- *jaci?usi@** (名) 色の黒い人。皮膚が真黒
にやけた人。くろんぼ。~nu gutoon.
くろんぼのようだ。
- *ja=cuN@** (他 =kaN, =ci) 焼く。
- *jadu@** (名) ⊖宿。宿屋。**'jaadu** ともいう。
~ sjun. 宿をする。人を泊める。また、
人の家に泊まる。⊖[文] 家。**'waga** ~.
わが宿。
- *jaducin@** (名) 宿賃。宿泊料。
- *jaduja@** (名) 宿屋。旅館。
- *jadu=jun@** (自 =raN, =ti) 泊る。宿泊
する。また、元来の住みかでないところ
にいる。宿る。
- *jaga@** (名) 屋我。《地》参照。
- *jagaci@** (名) 屋我地島。沖縄本島本部半

- 島の東に接してある島。
- 'jagamaa① (名) いなかで娘たちが夜集まって仕事する場所。娘宿。一種の女子集会所。'junabi ~ja tunmiguti... dika-dika mijarabi Yašihikai. [夜なべやがまや とん巡て... できやできやめやらべ遊びかい(越来節)]夜なべ仕事をする娘の集会所に立ち寄って..., さあさあ娘たち, 遊びに行こう。
- 'jagamasjan① (形) やかましい。騒がしい。
- 'jagati① (副) ⊖やがて。間もなく。sara-ba taciwakara 'jusumi nen 'yucini, ~'yakaçicinu tuin nacura. [さらば立ち別れ 与所目ないぬうちに やがて暁の鳥も鳴きゆら]では別れよう, 人目のないうちに。やがて暁の鳥も鳴くだろう。⊕もう少しで。あやうく。~ sinuta-n. もう少しで死ぬところだった。~ 'jacimeeni sasariN doo. も少しで, 坊ちゃんにもちで刺されるぞ。(童謡)
- 'jagoo① (各) 家号。姓のほかにある, 家による呼び名。'jaanna ともうい。
- 'jagujagutu① (副) おとなしく。sjuru kutoo qsi ~ sjoon. やることはやって, のんびりしている。'anu 'warabee 'amajaatiijaa sjootašiga ~ niNtoon. あの子ははしゃぎ回っていたが, おとなしく寝ている。'ooetiiee sjootašiga ~ qsi niNtoon. 暴れ回っていたのが, おとなしく寝ている。
- 'jagumisa① (名) 恐れはばかること。恐縮。'ija kuhwina 'azisuinu 'umeni 'juširijai, ~N siran munu'zi nikusa. [いや こへな按司そひの 御前によしれやり やぐめさも知らぬ 物言にくさ(忠臣身替)]いや, このような薄い城主様の御前に出て恐れはばかることも知らないものの言い方がにくい。narasu 'juçidakinu 'utuni mazirijai, 'ujagumisa 'a-

tin 'yusuba 'jutaru. [鳴らす四つ竹の音にまぎれやり おやぐめさあても お側寄たる] 鳴らすカスタンネットの音にまぎれて, (踊りながら) 恐れ多いけれども, おそばに寄って行った。~ sjun. 恐れはばかる。恐縮する。~N neeran. 恐れはばからぬ。

- 'jagusami① (名) やもめ。後家。未亡人。
- 'jagwii① (名) 労働の時のかけ声をいう。重い物を持ち上げる時に出す, hija という声など。
- 'jahusu① (名) 屋富祖。《地》参照。
- 'jahwajahwatu① (副) [文] やわらかに。やんわりと。やさしく。mutubu nacizina 'jadu kaiga kurawa, kutuba ~ muduci 'jarasi. [本部今帰仁にやが 宿かりが来らば 言葉やはやはと 戻ちやらせ(本部汀間と節)] 本部や今帰仁の者が宿を借りに来たら, やんわりとしたことばで断わって帰してしまえ。
- 'jahwan① (名) 夜半。夜中。'juhwan ともうい。
- 'jahwanmee① (名) 夜半にお参りすること。ことに, 夜半に女が男装して拝所に参り, 思う男に会いたいと祈ること。お冠船躍('yukwansinudui)のあとに現われたことだという。それに出演した首里三平等(mihwira)の美男子をしたって, 女が決死の覚悟で夜半参りをしたのがはじまりだという。
- 'jahwaqteen① (副) やさしく。柔らかに。おだやかに。munu'ijioonu ~ sjoon. ことばつきがやわらかい。
- 'jahwaqteenngwaa① (副) やさしく。柔らかに。tii ~ kaçimiti. やさしく手をとって。
- 'jahwaraa① (名) 病弱者。
- 'jahwara=cun① (自 =kan, =ci) ⊖柔らくなる。⊕おだやかになる。柔らぐ。また, 争わなくなる。⊕(体が) 弱る。衰弱

'jahwaragaNzuumuN

- する。'jahwaracoON. 衰弱している。
- 'jahwaragaNzuumuN① (名) 病弱そうで健康な者。また、病弱ではあるが、重病をしない者。
- 'jahwarageera① (副) 病弱なさま。病気ばかりするさま。caa ~ sjoON. いつも病気ばかりしている。
- 'jahwarageeraa① (名) 病弱な者。病気ばかりしている者。
- 'jahwaraki=jun① (他 =raN, =ti) ①柔らかくする。柔らかげる。②和解させる。和合させる。
- 'jahwaramun① (名) 病弱な者。体が弱い者。'jahwaraa, 'jahwataimun, 'jahwatajaa などともいう。~nidu cirin ʔakutan ʔicuru. 弱い者に塵も芥もつく。弱い者にはすぐ何の病気でもとりつく意。
- 'jahwarasaN① (形) ①柔らかい。②体が弱い。病弱である。
- 'jahwarazuusii① (名) 雑炊。おじや。単に zuusii ともいう。
- 'jahwatagusa① (名) 植物名。むらさきかたばみ。かたばみに似て、紫色の美しい花の咲く雑草。はじめ、首里の平良殿内の主人が観賞用に中国から輸入したといわれるが、のち、田畑に繁殖し、農作物にひどい害を及ぼすようになった。
- 'jahwataikeetai① (副) 病弱なさま。病弱でぶらぶらしているさま。~ sjun.
- 'jahwataimun① (名) 病弱な者。病弱でぶらぶらしている者。
- 'jahwatajaa① (名) 病弱な者。
- 'jai① (感) やい。おい。乱暴に呼びかける語。~ ʔandu sjurui. やい、そんなことしていいか。~ miiʔatitan. やい、見つけた。
- 'jai① (名) 槍。
- 'jaiba① (名) [文] やいば。刀剣。口語では taci という。
- 'jaihoo=ju^hN① (他 =raN, =ti) 破り散らす。

- (紙・着物などを) ずたずたに破る。
- 'jaišiti=ju^hN① (他 =raN, =ti) 破り捨てる。
- 'ja=jun① (他 =raN, =ti) 破る。cin ~. 着物を破る。ʔakai ~. 障子を破る。
- 'jaka① (名) 屋嘉。《地》参照。
- ja^hka (助) 老人は -juka という。①より。比較の時使う。ʔari~ kuree masi. あれよりこれはよい。tuzi~ kanasjan. 妻よりかわいい。②より。より外に、以外にの意の場合に用いる。'wan~ hukanee taagan siran. わたしより外には誰も知らない。'jamatu ʔNmariti kuncaaboozaa nara~ ʔucinaa ʔNmariti karihaamee. 日本に生まれてざんぎり頭になるよりは 沖縄に生まれてくたばりばあになった方がまだよい。廃藩のころ日本本土の断髪をののしって言ったことは。
- 'jakaa① (名) 守り役。上流家庭の男の子の守り役。非常に身分の高い家柄の男の子には ʔuhujakaa (輔導役) と 'jakaagwaa (遊び相手) の二人の守り役がつけられた。
- 'jakaagwaa① (名) 非常に身分の高い家の男の子の遊び相手にやとわれる守り役。お相手役。
- 'jakabi① (名) 屋嘉比。《地》参照。
- 'jakabu① (名) 屋嘉部。《地》参照。
- 'jakara① (名) ①やつ。やから。~, ʔjuru kutu cikani. このやろう、言うことを聞かないか。②'jakaramun と同じ。
- 'jakaramun① (名) 力持ち。力のある人。また、しっかり者。働きのある人。
- 'jakari- (接頭) ずうずうしいやつ、太いやつの意。ʔNninu hun ʔaran muzinu hun ʔaran, 'jakarimumudujaga kakai-sigai. [稲の穂もあらぬ 麦の穂もあらぬ やかれよも鳥が かかりすがり] 稲の穂でも麦の穂でもないのに、うるさい鳥め(男たち)がつきまとう。
- 'jakeen① (名) 八回。
- 'jakii① (名) 入重山にある風土病の名。高

熱が間歇的に出る。
 'jaki=jun① (自 =ran, =ti) ⊖焼ける。燃焼する。⊖(食物が) 焼ける。⊖(皮膚などが日に) 焼ける。
 'jakina① (名) 屋慶名。《地》参照。
 'jakiziri① (名) 焼けた木切れ。燃えさし。
 'jaku① (名) 厄。わざわい。災難。たとえば小鳥が家に入ることは厄だとして、その厄を祓い清めるために hama?uri (その項参照) を行なう。
 'jaku①(名) ⊖役。～(ni) tacun. 役に立つ。～nee tatan. 役には立たない。⊖役。公務。割り当てられた職務。
 'jakudusi①(名) 厄年。その翌年は harijaku (晴れ厄) という。生まれた年の干支に当たる年は厄年とされる。
 'jakugee① (名) 屋久貝。夜久貝。夜光貝。螺鈿 (らでん) にする。
 'jakumceda① (名) 屋久前田。《地》参照。
 'jakumii① (名) ⊖兄。兄さん。ただし、30～40台の壮年者である兄、またはその年配の者をそれより年の少ない者がいう。古くは役人の尊称で ?uhujakumui [大やくもえ、親雲上] であったが、後に年長者にいうようになったものか。⊖壮年。中年。tusju (年寄り), 'wakamun (青年) に対していう。
 'jakumiitaa① (名) 壮年者たち。
 'jakumui① (名) 1銭6厘。zin(銭)の項参照。
 'jakumuiguNzUU① (名) 銭850文。1銭7厘に相当する。zin(銭)の項参照。
 'jakumusi① (名) 虫の名。芋虫のように大きく、黒い。
 'jakusja① (名) すもうの手の名。右手を相手の左肩の上から背に回して帯をつかみ、相手をひねり倒すわざ。
 'jakusuku① (名) 約束。
 'jakuta=cun① (自 =tan, =qci) 役立つ。役に立つ。'jaku tacun と同じ。

'jakuzoo① (名) 約定。契約。取引の約束。
 'jama① (名) ⊖林。山野。山林。やま。樹木が多く茂っているところをいう。しかし平地の林はほとんどないので、'jama といえば山林である。山岳の意の山には mui という。～?aqcun. 山仕事をする。⊖混乱。乱雑。ごたごた。～ najun. 乱雑になる。ごたごたする。～ cirijun. ごたごたする。混乱する。めちゃめちゃになる。?Nzi 'Nncakutu ?umiN 'juran kutunu ?ukuti, ～ciqcootan. 行って見たら、思いも寄らない事が起こって、とんでもないことになっていた。～cirakasjun. 散散にちらかす。混乱させる。
 'jama- (接頭) 野性の意を表わす。'jama-?in(のら犬), 'jamamajaa (のら猫), jamakanda (野生のつる草の名) など。
 'jama?aqcaa① (名) 山仕事をする者。林業に従事する者。-?aqcaa<?aqcun(歩く)。
 'jama?aqtami① (名) [古] いのししの肉。
 'jama?atai① (名) [文] [山当] 営林の役人。森林係。口語は 'jamatai。
 'jamabiku① (名) 山びこ。山にひびくこだま。'jamahibiku ともいう。kuinu 'jama-?ukuni tuuku humimajuti taninu ～nu ?utugwibakari. [恋の山奥に 遠く踏み迷って 谷のやまびこの 音声ばかり] 恋の山奥に遠く踏み迷って、聞こえるものは谷のやまびこの声ばかり。
 'jamabuzoo① (名) 山奉行。山林監督官。
 'jamaci① (名) 山内。《地》参照。
 'jamacirigutu① (名) 混乱。ごたごた。収拾のつかない困った事。
 'jamacirimun① (名) ごたごたを起こす者。秩序を乱す者。
 'jamada① (名) 山田。《地》参照。
 'jamadanaa① (名) 'jamadanii の卑称。
 'jamadanii① (名) 私生児。ててなし子。
 'jamadanaa (卑称), 'jamadaningwa

ʼjamadaniNgwa

ともいう。ともに音が tani (陰茎)に通ずるのであまり用いられない。ʼjamana-siNgwa ともいう。

ʼjamadaniNgwaⓄ (名) ʼjamadanii と同じ。

ʼjamagaaⓄ (名) 山川。《地》参照。

ʼjamagaamiiⓄ (名) 陸上にいる亀。ʼjanbarugaami ともいう。ʼumigaamii (海がめ) に対する。

ʼjamagazanⓄ (名) やぶ蚊。野生の蚊の意。普通の蚊より大きく荒々しい。

ʼjamagooⓄ (名) 山川。鹿兒島の地名。

ʼjamaguⓄ (名) ずるいこと。狡猾。那覇語であるが、首里でもいうようになった。ʼjanihjaa ~ ʼjawai. あいつめ、狡猾だわい。ʼjawai は那覇語。

ʼjamaguciⓄ (名) 山口。《地》参照。

ʼjamaguruciⓄ (名) 植物名。山黒木(やまくろぎ)。浜柄檀(はませんだん)。その材は建築用、家具指物用などになる。

ʼjamaguşikuⓄ (名) 山城。《地》参照。

ʼjamagwaaⓄ (名) やぶ。小さい荒地など。

ʼjamahibikuⓄ (名) ʼjamabiku と同じ。

ʼjamahwizaaⓄ (名) ひげの多い者。ひげもじゃ。

ʼjamaʼicubiⓄ (名) takaʼicubi と同じ。

ʼjamaʼinⓄ (名) 何の字かわからない、だれにも使用できるように作ってある三文判。

ʼjamaʼinⓄ (名) のら犬。野犬。

ʼjamajuunaⓄ (名) 植物名。あかめかしわ。葉を煎じて胃腸病の薬にする。

ʼjamakaagaaⓄ (名) 人見知り。内気で人前に出るのを嫌うこと。また、その人。~ sjun. 人見知りする。

ʼjamakaguⓄ (名) 駕籠の一種。身分の低い者が乗る、囲いのない駕籠。病人を運んだりするのに用いる。

ʼjamakandaⓄ (名) 植物名。多年生で、朝顔に似た花が咲き、さつまいもに似た小

さい芋ができる。観賞用にもなる。ひるがおの一種か。野生のかずらの意。kanda はさつまいもの植物としての名。

ʼjamakandaⓄ (名) ʼjamakanda と同じ。

ʼjamakuⓄ (名) きこり。murikawaja tuuku ʼjanbaruni ʼuriti, ~ karikuri-nu hataraciju sjuntijari. [森川や遠く山原に下りて 山工彼是の 働きよしゆんでやり(花売之縁)] 森川は遠く山原に下って、きこりなどの仕事をしているということである。

ʼjamamajaaⓄ (名) のら猫。泥棒猫。

ʼjamamiciⓄ (名) 山道。

ʼjamamumuⓄ (名) やまもも。楊梅。単に mumu ともいう。mumu の項参照。

ʼjamausiNgwaⓄ (名) 私生児。ててなし子。

ʼjamanaziⓄ (名) なた。木を切る刀。山刀。

ʼjamauçiziⓄ (名) 頂上。山頂。

ʼjamañuhwaⓄ (名) [文] 山の端(は)。tanumu ʼjuja hukiti ʼtutuzirija nerañ, hwicui ~nu ʼciçini ʼNkati. [頼む夜やふけて おとずれやないらぬ 一人山の端の 月に向かて] 頼みにしている夜はふけても、おとずれはない。ただひとり山の端の月に向かっているばかり。

ʼjamañuhwaⓄ (名) 山入端。《地》参照。

ʼjamañunaakaⓄ (名) 山の中。山林の中。

ʼjamañusuduⓄ (名) 山賊。~nu gutoo-sa. 山賊のようだ。ひげぼうぼうの者などをいう。

ʼjamaʼnmuⓄ (名) やまいも。自然薯。

ʼjamañkaziⓄ (名) さそり。

ʼjamasisiⓄ (名) いのしし。⊖いのししの肉。

ʼjamasisitujaⓄ (名) 獵師。

ʼjamasjuubuⓄ (名) 山仕事の競争。山村で二村を対抗させて行なう林業奨励の行

- 事。仕事の成績を争った。
- 'jamatai① (名) 営林の役人。森林係。文語は 'jamaʔatai。
- 'jamatu① (名) ①日本。沖縄に対して日本本土をいう。②薩摩。ʔuhujamatu (日本本土の全体) に対する。
- 'jamatuçibui① (名) 日本流のしりからげ。着物の後ろのすそだけをからげるからげかた。çibui の項参照。
- 'jamatuguci① (名) 日本語。
- 'jamatugujumi① (名) 新暦。太陽暦。
- 'jamatuguruku① (名) 日本人の機敏さ。日本人らしくきびきびと。日本人のようにすばやく。guruku < gurusaN. nuu 'jatin ~ doo. 何でも日本人なみにきびきびやれ。
- 'jamatuʔisja① (名) 蘭方医。漢方医 (ʔucinaaʔisja) に対していう。西洋医療は日本から伝わり、始めは日本本土から来た蘭方医を 'jamatuʔisja といったが、うち、沖縄人で蘭方医を開業する者が出ると、それをもういうようになった。
- 'jamatujukumi① (名) 中国貿易監視官。薩摩の役人が当たる。
- 'jamatujuu① (名) 明治12年廃藩置県以後、日本政府の統治下になった時代。日本政府時代。ʔucinaajuu に対する。
- 'jamatumuN① (名) 日本品。
- 'jamatumusuN① (名) じきに解けるように、または体裁よく結ぶ結びかた。花結び。蝶結び。
- 'jamatuNcu① (名) ①日本人。日本本土の人。②薩摩人。その場合、他の日本人は ʔuhujamatuNcu という。
- 'jamatusjoobee① (名) 日本製品が粗末にできていること。粗製濫造ぶりをこきおろした語。sjoobee は粗製品。tooʔaçiree (中国製品があつらえもののように上等であること) に対する。
- 'jamatusoobee① (名) 'jamatusjoobee と同じ。
- 'jamatutabi① (名) 日本本土への旅。tootabi (唐旅) の対。
- 'jamatuzihwee① (名) 日本人の気の早さ。沖縄人に比べて、日本本土の人が気早く勢いのよいことをいう。
- 'jamaʔuku① (名) 山奥。ʔukujama ともいう。
- 'jamazatu① (名) 山里。《地》参照。
- 'jami① (名) ①やみ。暗やみ。'unzi 'waşiririba ~ nu 'junu kumici, 'waduɖu sukunajuru ʔajumigurisja. [恩義忘れれば 闇の夜の小路 我胴ど損なゆる 歩みぐれしや] 恩義を忘れれば闇の夜の小道を歩くようなもの、自身をそこならばかりで歩みにくい。②乱世。
- 'jami① (名) 病氣。文語的な上品な語。普通は 'janmee, bjooci という。musika kunu ~ ni şititi saci naraba. [もしこの病に 乗って先ならば] もしもこの病氣であとに残る者を捨てて死んだならば。
- 'jamii① (名) 二日酔い。
- 'jami=jun① (他 =raN, =ti) やめる。廃する。行なわなくする。saki ~. 酒をやめる。
- 'jamiwacaree① (名) 病み患い。病気でわずらうこと。
- 'jamiwandee① (名) 看病。病人を介抱・世話すること。
- 'jana- (接頭) 悪い意を表わす。悪い・醜い・いやな・性悪の・不正な、など。'ii- (いい) に対する。'janasaN は主として見た目の美醜などに関して用いるが、'jana- はそれだけでなく、'waqsaN の意も含み、非常に多くの語につく。'janatinci (悪い天気。天気が悪いという時には, tiŋcinu 'waqsaN. という), 'janakaagii (不美人), 'janakaʒa (悪臭), 'janamici (邪道) など。
- 'janaʔabii① (名) 悪い叫び声。いやな叫び声。

***janaa**

***janaa**① (名) 悪い物。また、悪人。民間語源説に「むかし鳩目銭を通融せし頃、寛永銭八貫文をヤナーといひしは、ト之部トナーの条下にいへるが如し。その頃奴僕を雇ふに最もわるいものをヤナーの銭にて雇ひたるよしにて、わるい人をヤナモンといふより、ひづりて、何物因らず、わるい物にはヤナーといふとぞ (南島入重垣)」。

janabu**① (名) 植物名。てりはぼく。おとぎりそう科。木材は建築用など、種子は燈油になる。jarabu** ともいう。

***jana'buru**① (名) 悪い狂い方。とてもなおりそうにない狂い方。ひどい気違い。-buru < hurijun。

***jana'ci**① (名) 悪い血。病毒をふくんだ血。

***jana'dakuma**① (名) 奸智。悪知恵。

***jana'dakumi**① (名) 奸計。悪だくみ。

janagamasjan**① (形) (音などが) うるさく、不快である。(人などが) しつこく、不快である。janagamasii muN**。しつこい、いやなやつ。

***jana'gataa**① (名) 悪い型の者。感じの悪い人間。いやな人間。

***janaguecaa**① (名) 口の悪い者。毒舌家。

***janaguci**① (名) 悪口。また、悪い乱暴なことば。毒舌。

***jana'gukuru**① (名) 悪い心。悪心。

***jana'gusi**① (名) 悪い癖。悪い習慣。

janagutu**① (名) 悪事。janakutu** より意味が強い。

***jana'gwii**① (名) 悪い声。いやな声。不快な感じを与える声。

***jana'huuzi**① (名) 悪い風儀。悪い風習。悪習。

***janahwa**① (名) 屋那覇島。伊是名島 (ʔizina) の属島。

***jana'ʔii**① (名) 悪口。あしざまに言うこと。

***jana'ʔimi**① (名) 悪い夢。悪夢。不吉な夢。

***jana'kaagi**① (名) 醜い顔。不器量。

***janakaagii**① (名) 器量の悪い者。女についていう。不美人。

***jana'kaʒa**① (名) 悪いにおい。悪臭。

***janakazi**① (名) 悪い靈気。悪靈。魔風。人に害を与える、風のような魔物。~ ʔi-cajun。悪い靈気に会う。

***jana'kutu**① (名) 悪い事。

***jana'kutuba**① (名) 卑語。卑しいことば。

***jana'mici**① (名) 悪路。悪い道路。

***janamici**① (名) 邪道。正しくない道。~ kunun。邪道に入り込む。

***jana'mii**① (名) いやな目。いやな境遇。~ haqcajun。いやな目に会う。

***jana'miʔkwasaN**① (形) 憎憎しい。非常に憎い。

***janamunii**① (名) ***janamunuʔii** と同じ。

jana'munuʔii**① (名) 悪いものの言い方。縁起の悪いことを言うこと。janamunii** と同じ。

***janamuN**① (名) ⊖妖怪。魔物。悪靈。⊖悪者。悪人。⊖いやなやつ。tuin ʔikamin naran ~。煮ても焼いても食えないやつ。取りもつかみもできない、いやなやつ。の意。

jana'muN**① (名) 悪い物。iimun** の対。

***jana'muNdakuN**① (名) 悪だくみ。奸計。

***jananaraasi**① (名) 悪いことを教えこむこと。教唆。悪い教育 (naraasi)。

jana'ʔcu**① (名) 悪い人。ʔakuniN** (悪人) より軽い意。

***jana'rikuʔi**① (名) 悪がしこい才智。悪知恵。~ kwatooN。悪がしこい才智がある。

janasaN**① (形) 悪い。醜い。いやな感じがする。waqsaN** が主として、そのものの正・不正、またそのものの質の良・不良に関して使われるのに対して、***janasaN** は主として見た感じの美醜などに関して使われる。また ***waqsaN** の方が多く用いられる。なお、***jana-** の頃参照。kunu' ci-

noo ~. この着物は(柄などが)悪い。
(kunu cinoo 'waqsan. この着物は、品質などが、悪い。) 'janaku najun. (容貌が)醜くなる。

'jana'sii① (名) 悪い仕方。たちの悪いやりかた。

'jana'simuci① (名) 悪い性質。根性が悪いこと。意地悪。

'jana'siQpa① (名) いやに強情なこと。ひどく腕白なこと。また、そのような者。

'janasiQpamun① (名) いやに強情な者。ひどい腕白者。

'jana'tinci① (名) 悪い天気。悪天候。'jana'waaqici ともいう。

'jana'Zwaaqici① (名) 悪い天気。悪天候。'janatinci ともいう。

'jana'wacaku① (名) 意地の悪いいたずら。悪意あるからかいかた。

'jana'warabi① (名) 悪い子供。いたずらっ子。にくまれっ子。

'jana'waza① (名) 卑しい職業。賤業。

'jana'zee① (名) 悪い才智(see)。悪知恵。

'janazi① (名) 柳。

'janaziguui① (名) 柳行李。

'jana^(v)zimu① (名) 悪心。悪い心。~nu Yukurijun. 悪心が起こる。悪いこと、乱暴などをしようとする心が起こる。

'jana'zi① (名) 悪い着物。質または柄などがよくない着物。

'jani① (名) 竹を細くけずること。また*骨組みを作ること。'janijun の項参照。kubaja cinkubani dakija Yahusudaki, ~ja sirakacini haija Yunna. [こばや金武こばに 竹や安富祖竹 やねや瀬良垣に 張りや恩納] びろうの葉は金武で取り、竹は安富祖の竹で、けずるのは(組み立ては*)瀬良垣で、張るのは恩納。kubagasa (びろうの笠)を作る過程を歌った歌。

'jani① (名) やに。樹皮から出る粘液。また、きせるにたまるやに。

'jani=jun① (他 =ran, =ti) ⊖竹などを細くけずる。daki ~. 竹をけずる。⊖*骨組みを作る。竹などで、尻・笠・かご・かやぶき屋根などの骨組みを作る時にいう。kuu ~. 鳥かごを作る。

'ja=nu① (自 =man, =di) 病む。病気になる。患う。また、痛む。çiburunu ~. 頭が痛い。'jamasjun. 病気させる。また、痛める。けがする。tii ciqi 'jamacan. 手を切って痛めた。tunzakunu 'waqsanu 'warabi 'jamaci. 世話が足りずに子供を病気させた。cimu 'jamasjun. 後悔させる。惜しがらせる。

'ja=nu① (自 =man, =di) やむ。(続いていたものごと)とどまる。ただし、雨がやむことは harijun という。

'jan① (連詞・不規則)だ。である。単独でも文になりうる。~. そうである。kan ~. ころである。Tan 'jami. そうか。'jami, Tarani. そうなのかそうでないのか。taruuja bjooçi 'jaigisan. 太郎は病気がしい。nuuga 'jara. 何だろうか。Tan 'jakutu. そうだから。Tan 'jaree. そうならば。~tee Tarantee. そうであると言ひ、そうでないと言ひ。甲論乙駁。'jaru tuui Yee. ありのままを言え。'wara-bidu 'jaru mun. 子供なのに。子供でありながら。taruu 'jarawan 'jaraci kwiree. 太郎でもよこしてくれ。

'janba① (名) しおり。木の枝を折り、またそれを山道にさして、道しるべとしたもの。山の木の葉の意。sjuraga kusjuran-di ~ saci Yucen, sudija tanigawanu sukuni hwitaci. [しほらが越しゆらんで山葉さち置ちえん 袖や谷川の 底にひたち] 恋人が越えて来るだろうと思って、しおりをさして置いてある。袖は谷川の底にひたしたように涙にぬれて。

'janbaraa① (名) ⊖山原 ('janbaru) の人間。山原者。⊖'janbaraabuni と同じ。

'janbaraabuni

- ⊖ 'janbaraadaki と同じ。
- 'janbaraabuni① (名) 山原船。帆前船 (huumaasin) の小型なもの。もともとは山原通いの船の意。
- 'janbaraadaki① (名) 山原竹。琉球竹。篠竹の一種。'janbarudaki ともいう。cini-bu, 屋根などにする。
- 'janbaru① (名) [山原] 国頭地方。～ni ʔikiba ʔawariduja siguku miru kata-ja neraN ʔumitu 'jamatu。[山原に行けば 哀れどや至極 見る方やないらぬ 海と山と] 山原に行けば至極あわれである。海と山ばかりで見えるものもない。
- 'janbaruda'ki① (名) 'janbaraadaki と同じ。
- 'janbaruga'amii① (名) 陸上にいる亀。'jamagaamii と同じ。
- 'janbarugoo'raa① (名) むこうずねにできる瘡の一種。なおりにくく、穴がふさがらず、赤くただれる。-gooraa < goorijun。
- 'janbaruku'tuba① (名) 国頭方言。山原弁。沖縄北部方言。
- 'janbaruta'bi① (名) 'janbaru (国頭地方) への旅。
- 'janbatabi① (名) [文] 'janbarutabi と同じ。山原地方への旅。韻律の関係で短くなったもの。ʔunimucinu zibun ~ ʔatati。[鬼餅の時分 やんば旅あたて] 鬼餅の時分 (12月8日) 山原へ旅することになった。
- 'jandi① (名) 破損。こわれ。'jaburi とともいう。
- 'jandi=jun① (自 =raN, =ti) ⊖ こわれる。破損する。⊖ (話が) こわれる。破談になる。⊖ うまく行かない。よくできない。できそこなり。失敗する。dikijun の対。
- 'jandizaataa① (名) できそこないの砂糖。
- 'janmee① (名) やまい。病気。'jami, bjo-oci ともいう。
- 'janmeemuN① (名) 病気がちの者。病弱

- な者。
- 'janmuci① (名) 鳥もち。小鳥や昆虫をとらえるもち。ガジマルの木からとる粘液で作る。
- 'jantuN① (接続) そうであっても。けれども。しかし。
- 'janzai① (名) condaraa と同じ。
- 'janzajaa① (名) 'janzai, condaraa と同じ。
- 'janziN① (名) 洋銀。ニッケル。銅・亜鉛の合金。
- 'jan=zun① (他 =dan, =ti) ⊖ こわす。tii-mutaan qsi, 'warabinu tucii 'jantan いたずらして、子供が時計をこわした。⊖ (接尾) …しそこなり。…し損ずる。kacijanzun (書きそこなり), siijanzun (しそこなり), ʔiijanzun (イ。言いそこなり。ロ。けなす) など。
- 'jaqcii① (名) 兄。にいさん。士族についている。貴族は 'jacimee, 平民は ʔahwii。兄が三人いれば、上から順に ʔuhujaqcii, 'jaqcii, 'jaqciigwaa と呼び分ける。
- 'jaqciigwaa① (名) 一番下の兄。すぐ上の兄さん。士族についている。
- 'jaqciimee① (名) お坊っちゃん。貴族の男の子を、使用人などがいう語。
- 'jaqcuku① (名) [新] ⊖ 薬を調合する人。薬剤師。⊖ 病院の薬局。
- 'jaqkee① (名) 厄介。～na。厄介な。qcu-nu ~ najun。人の厄介 (世話) になる。
- 'jaqkeemuN① (名) 厄介者。'jaqkeemuN-ʔaʔikee saqtaN。厄介者扱いされた。
- 'jaqkwa① (名) tamagai (人だま。その項参照) を見るために、高い木の上に遠くを望めるように築いた望楼。旧暦8月10日から15日ごろまでの間に、方々に現われる人だまや、怪しい音などの、いろいろな奇怪を見聞するために作る。小は二、三人のすわれるものから、大は十数人も入れるものまで作られた。那覇では 'jangwaa [屋小] と

- いう。
- 'jaQkwanaaⓄ (名) 大ぎんたま。象皮病で鞆丸がやかんのよう大きい者。
- 'jaQkwaNⓄ (名) ⊖やかん。鉄瓶。湯をわかすのに用いるもの。⊖鞆丸。きんたま。形が似ているのでいう。
- 'jaQpa=junⓄ (自 =raN, =ti) がんばる。ふんばる。
- 'jaQsaNⓄ (形) (値段が) 安い。
- 'jaqtaiⓄ (名) 八人。普通 haciniN という。
- 'jaqtukaqtuⓄ (副) やっと。ようやく。かろうじて。～ tuzimataN. やっと(話が)まとまった。
- 'jaraⓄ (名) 屋良。《地》参照。
- 'jarabuⓄ (名) 'janabu と同じ。
- 'jaracaikwaacaiⓄ (名) やりくり算段。'jarasiikwaasii, 'icaasikwaasii などともいう。～ sjun.
- 'jarasiiⓄ (名) 旅の平安を祈る時の踊りの名。日本本土、中国などに旅に出ている人の家で、旅の平安を祈る歌を歌う際、畳を上げ、大勢の女が輪を作り、床をふみとどろかせて回ること。親類中の女が集まって行なった。
- 'jarasiikwaasiiⓄ (名) やりくり算段。'icaasikwaasii, 'jaracaikwaacai などともいう。～ sjun.
- 'jara=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 遣る。つかわす。行かせる。'winaguʔatinasija tici-nu tini 'jaraci maçiideenu cizuku minbukuja ca sjuga. [女あてなしや 敵の手にやらち 末代の恥辱 面目や如何しゆが (大川敵討)] 女子供を敵の手にやって、末代までの恥辱、面目をどうするか。
- 'jariⓄ (名) 破れ。破れたところ。cinnu ~. 着物の破れ。
- 'jariʔakaiⓄ (名) 破れ障子。
- 'jarici'riⓄ (名) (着物などの) 破れたり切れたりしていること。
- 'jarigasaⓄ (名) 破れ傘。破れ笠。
- 'jari=junⓄ (自 =raN, =ti) 破れる。破ける。cinnu ~. 着物が破れる。
- 'jarikwankwanⓄ (副) びりびり。ずたずた。ひどく破れたさま。cinnu ~ sjoon. 着物がびりびりである。
- 'jarimiiⓄ (名) 破れ目。破れたすきま。
- 'jarisakiⓄ (名) 着物などの破れや裂け。
- 'jarizinⓄ (名) 破れた着物。
- 'jašeeⓄ (名) 野菜。
- 'jašeeʔujaaⓄ (名) 野菜売り。やおや。
- 'jasiciⓄ (名) 屋敷。家の敷地。
- 'jasiciganeēⓄ (名) 屋敷の地代。また、屋敷にかかる租税。
- 'jasicinuʔugwaNⓄ (名) 家屋敷についての祈願(ʔugwaN)。家族や家屋敷の無事息災を祈願する祭りで、旧暦2月、8月に吉日を選んで行なった。屋敷の四隅と huduunu ʔukami (便所の神)には酒と御花米('npa-nagumi)を供えて祭り、nakazin (家の中心)と門には重箱を供えて祭る。重箱には一つにはにぎりめし、他の一つには肉類や揚げ物などをつめる。祈願(ʔugwaN)には、その家の女主人が当たる。祈願の文句は ʔugwaN の項参照。
- 'jašigaⓄ (接続) だが。しかしながら。けれども。
- 'jasigaruuⓄ (名) やせっぽち。やせぎす。体がやせて細い者。
- 'jašigooiⓄ (名) 安く買うこと。
- 'jašiiⓄ (名) やすり。
- 'jašijašituⓄ (副) やすやすと。容易に。'jašiqteen, duujašiqteen ともいう。
- 'jaš=junⓄ (自 =raN, =ti) やせる。'joo-garijun ともいう。
- 'jasikuzinⓄ (名) 'jasjukuzin と同じ。
- 'jašima=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖休まる。休息できる。⊖我慢できる。'jašimaran. 我慢できない。立腹してこらえることができない。

ʔjašimi

- ʔjašimi**Ⓞ (名) ⊖〔新?〕 休み。休暇。休業。
⊖〔古〕 食事。cuusici ともいう。～ ʔu-sjagijun. 食事をさしあげる。
- ʔjašimi=jun**Ⓞ (他 =ran, =ti) 休める。duu ~. 体を休める。
- ʔjašimi=jun**Ⓞ (他 =ran, =ti) 安くする。
(代価を) 低くする。また、(代価を) まける。
- ʔjašimu**Ⓞ (名) 安物。安価な物。
- ʔjasina=jun**Ⓞ (他 =an, =ran, =ti) 養う。
- ʔjasinecŋwa**Ⓞ (名) 養い子。ʔjasineeʔuja に対する語。その項参照。かりに自分の子として、名を与えたり。
- ʔjasinecʔuja**Ⓞ (名) 養い親。子供の体が弱い時、親を変えると強健になるというので、養い親を別に定め、従来の名を変え、養い親の名をもらってつける。上流では寺院の僧侶に頼み、一般では親類中の強健な人、福德円満な人に頼む。普通の養父母、育て親の意とは異なる。
- ʔjaši=nu**Ⓞ (他 =man, =di) (勤めなどを) 休む。休息の意では多くは ʔjukujun という。cuuja ʔjašinum. きょうは休むのか。
- ʔjaši=nu**Ⓞ (自 =man, =di) (物の代価が) 安くなる。
- ʔjasi**Ⓞ (名) 野心。～ muqcoon. 野心がある。～na mun. 野心家。陰謀家。
- ʔjasiŋutu**Ⓞ (名) 謀叛。野心のあるたくらみ。tancaʔamajaaga ~ takudi. [谷茶あまやが 野心ごとたくで (大川敵討)] らんぼうな谷茶の殿様が謀叛をたくらんで。
- ʔjašiqteen**Ⓞ (副) やすやすと。容易に。たやすく。ʔjašijašitu, duujasiqteen ともいう。naminu ʔarasatin ~ ʔwiizun. 波が荒くてもやすやすと泳ぐ。
- ʔjaširani**Ⓞ (名) 布の織りかたの名。たてよこのしまが交互に出る織り。
- ʔjašizui**Ⓞ (名) 安売り。

- ʔjasjukuzin**Ⓞ (名) 足の短い膳。平常は用いず、祝祭の時、客に出すのに使う。ʔjasikuzin ともいう。もと夜食膳の意か。
- ʔjasunzi**Ⓞ (名) あきらめ。安んずること。ある程度で満足すること。～nu ʔjutasan. あきらめがよい。
- ʔjasunzi=jun**Ⓞ (自 =ran, =ti) あきらめる。安んずる。ある程度で満足する。ʔunu ʔituminakai ~. その職で満足する。ʔjasunzijuusan. あきらめきれない。
- ʔjatati**Ⓞ (名) 矢立て。旅行用の筆硯。
- ʔjatu-**(接頭) 特に大きい意を表わす。大(おお)。巨大な。ʔjatumuci (大きな餅), ʔjatuʔwaa (大豚), ʔjatumagii (巨大なもの) など。
- ʔjatugaciʔuhugaci**Ⓞ (名) 大変な食いしんぼう。人のものを奪って食うような食いしんぼう。
- ʔjatu=jun**Ⓞ (他 =ran, =ti) 雇う。hwijuu ~. 日雇いを雇う。
- ʔjatumagii**Ⓞ (名) 巨大なもの。特に大きなもの。
- ʔjatumagisa**Ⓞ (形) 巨大である。特に大きい。
- ʔjatumuci**Ⓞ (名) 大きな餅。特に大型に作った餅。
- ʔjatumu**Ⓞ (名) 巨人。大男。ʔjatuu ともいう。
- ʔjatuu**Ⓞ (名) 巨人。大男。ʔjatumu ともいう。
- ʔjatuʔwaa**Ⓞ (名) 大豚。巨大な豚。
- ʔjoo**Ⓞ (名) 糞(より)。悪性のできもの名。
- ʔjoo**Ⓞ (助) 呼びかける時、また、念を押す時。いう。よ。ねえ。なあ。taruu ~. 太郎よ。ʔansi kwiri ~. そうしてくれよ。
- ʔjoobaa**Ⓞ (名) 弱虫。弱い者。cuubaa の対。
- ʔjoogaa**Ⓞ (名) ゆがんだもの。形がゆがんだり曲がったりした物。また首の曲がった者。ʔjoogee ともいう。

- 'joogaahwi'igaa① (副) 曲がりくねったさま。くねくね。くにやくにゃ。taanu ʔabusinu ~ sjoon. 田のあぜが曲がりくねっている。
- 'joogaahwiigaaʔaqci① (名) 千鳥足。まっすぐに歩かず、曲がりくねって歩くこと。'wiiti ~ sjuN. 酔って千鳥足で歩く。
- 'joogaahwiigaagaci① (名) ゆがんだ書体。行が曲がりくねった書き方。~ sjuN. ゆがんで不揃いを書く。
- 'joogaazici① (名) 聞き間違ふこと。正しく聞かないこと。
- 'joogarihw'iigari① (副) やせ細るさま。~ sjuN.
- 'joogari=jun① (自 =ran, =ti) やせる。'jašijun ともいう。
- 'joogee① (名) 'joogaa と同じ。
- 'joogeehw'iigee① (副) 'joogaahwiigaa と同じ。
- 'jooi① (名) 容易。たやすいこと。'jooee ʔaran. 容易ではない。~ naran kutu 'jašiga. 容易ならぬ事だが。~na. 容易な。~ni cikan. 容易に聞かない。
- 'jooimun① (名) 'joorimun と同じ。
- 'joojaku① (副) ようやく。やっと。~ natan. やっとできた。
- 'joo=jun① (自 =ran, =ti) 弱る。弱まる。(人・物品・ひもなどが) 弱くなる。
- 'jookaabusi① (名) 明けの明星。金星。
- 'jookabii① (名) 旧暦8月8日。また、その日から行なり行事。この日から11日まで厄日なので、厄を払ういろいろな行事が行なわれる。8日から hjoocaku (爆竹) を鳴らし、11日には盛んに爆竹を鳴らし、御馳走を作り、家をにぎやかにする。
- 'joomi① (名) 弱り目。弱い所。弱い時。~ ʔiqcoon. 弱いところができている。弱っている。
- 'joon① (副) 弱く。軽く。柔らかに。~ saajun. 軽くさわる。~ ʔjun. 柔らかに言う。
- 'joonci① (名) 容器に一杯ないこと。満たないこと。半分、あるいはそれ以下くらいしかない時に多くいう。弱満ちの意か。米・酒など量目に関するものについていう。mitan karakaranu 'jooncigukuru. 満たぬ酒瓶は、かえて大きな音がする。大言する者はかえて内容が乏しい意。
- 'joongwaa① (副) 軽く。きわめて弱く。~ ʔucun. 軽く打つ。
- 'joonnaa① ゆっくり。'joon は軽く、-naa は「ずつ」の意。~ ʔaqcun. ゆっくり歩く。
- 'joora① (名) わきばら。横ばら。まれな語。文語は 'juhwara。
- 'jooraakwa'araa① (副) 'jooruuakwaaru と同じ。
- 'joorimun① (名) 弱った者。弱った物。弱くなり役立たなくなったもの。'jooimun ともいう。
- 'jooruu① (副) ゆるゆる。ゆるんでいるさま。たるんでいるさま。ʔuubinu ~ natoon. 帯がゆるんでいる。kucinu ~ natoon. 口もとがしまっていない。
- 'jooruuakwa'aru① (副) ゆるゆる。大いにゆるんでいるさま。ʔuubinu ~ natoon. 帯がゆるゆるにゆるんでいる。
- 'joosa① (形) 弱い。力がない。病弱である。(ひもなどが) 切れやすい。(器物などが) こわれやすい。'jooku natoon. 弱っている。衰弱している。
- 'joosi① (名) 養子。~ najun. 養子になる。~ tujun. 養子にもらう。
- 'joosi① (名) ようす。また、(病人の)容態。tiçinu ~ sagujun. 敵のようすを探る。~ ʔici kusui tuti kuuwa. 容態を言って薬をとって来い。
- 'joosjoo=cun① (他 =kan, =ci) ⊖やめておく。よしておく。しないでおく。'joosjooki. よせ。するな。'joosjooke şinurumunnu. そんなことをなさらなくても。

'joosjoojun

人が進物など持って来た時に言い挨拶。やめておけばすむものをの意。⊖だまっておく。ほうっておく。見のがしておく。'joo-sjookan. 容赦はしない。'joosjooki kunu hja. だまっておれ、この野郎。

'joosjoo=jun① (自 =raN, =ti) よしておく。だまっておく。かまわずにおく。ʔunu basjoo 'joosjooti, nama natakutu ʔan ʔici. その時はだまっていて、今になってそう言って。

'jootee① (名) 容態。病状。

'jooʔusumasjan① (形) ⊖うす気味が悪い。うっかりできない。'jooʔusumasii niNziN. うっかりできない人間。⊖ものすごい。こわい。'jooʔusumasanu 'juin naran. ものすごくて近寄れない。

'joozi① (名) ⊖楊枝。つま楊枝。⊖結婚の時、菓子にそえて出す、桃の小枝で作った小さい楊枝。

'joozoo① (名) 治療。病気の^手当。養生の転意。

'joozoo^{hwi}'izoo① (副) ⊖治療するさま。⊖修繕するさま。

'joozooʔukuri① (名) 手おくれ。病気の治療が手おくれになること。

'ju- (接頭) 四。'juhwani (四羽), 'jukeen (四回) など。

-ju (助) [文] を。韻文でのみ使う。口語では「を」に当たる助詞を用いない。taru ~ ʔuramituti nacuga hamaciduri. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥] 誰を恨んで鳴くか浜千鳥。

'juʔaki① (名) [文] 夜明け。~ sirakumutu ʔiriti nubura. [夜明白雲と 連れて登ら] 夜明けの白雲とともに(首里に)のぼろう。

'jubi① (名) 'jubita と同じ。

'jubi=cun① (自 =kaN, =ci) やせる。そげる。sisinu ~. 肉が落ちる。人にもいうが、家畜ことに馬などによくいう。

'jubijusi=jun① (他 =raN, =ti) 呼び寄せる。

'jubimudu=sjun① (他 =saN, =ci) 呼び戻す。呼び帰す。召還する。

'jubiʔnza=sjun① (他 =saN, =ci) 呼び出す。

'jubisuraa=sjun① (他 =saN, =ci) 呼び集める。召集する。

'jubita① (名) 泥田。'jubi ともいう。

'jubukui① (名) 首里城の建物の名。ʔugusiku の項参照。

'ju=bun① (他 =baN, =di) ⊖呼ぶ。声を立てて呼ぶ。⊖呼ぶ。使い・手紙などで人を呼ぶ。称するの意では ʔjun (言う) を用いる。⊖(女郎を)買う。'jubarijun. (女郎が) 客に買われる。

'juca① (名) 年配の意。老人について、年がいもなくという意の場合に用いる。慣用句のほかは、単独では用いない。複合語では、'jucanumuN (年配者), ʔanujuca (あの年) など。'jucaa neen. 年がいもなく。

'jucaa=jun① (自 =raN, =ti) (心が) 合う。また、(境遇などに) しっかり合う。cimunu ~. イ. 心が合う。気が合う。ロ. 心がなごむ。機嫌がよくなる。

'jucanumuN① (名) 年とった者。年とって思慮あるはずの者。年配の人。~ ʔnzi-tooti. いい年をしながら。

'jucci① (名) [雪] あられ。雪は降らないから、韻文などに雪とあるのもあられをさす。

'jucci① (名) 時刻のよつ。午前午後の10時。

'jucciʔasi① (名) 四つ足。四足獣。主として牛・馬・豚など家畜をいう。

'jucciʔazimaa① (名) 四つ角。十字路。kazimajaa ともいう。

'juccidaki① (名) 四つ竹。竹製のカステネット。両手に竹片を各二枚ずつ持ち、手のひらを開閉し打ち鳴らして踊る。ʔucinarasi narasi ~ja naraci, kijuja ʔu-

za ʔnziti ʔaʃibu ʔurisja. [打ち鳴らし
鳴らし 四つ竹や鳴らち 今日や御座出ぢ
て 遊ぶうれしや (港原節)]四つ竹を大い
に打ち鳴らして、お座敷に出て踊るきよ
のうれしさよ。

'juçigun① (名) 祝いなどの時の正式のお
膳・飯・汁・ʔutibiei・酢のもの四種類
が揃ったごちそう。四つ組の意。くわしく
は ~nu ʔuhurumee という。'juuçii と
もいう。

'juçii① (名) 余分。余計。~na kutu. 余
計なこと。~nu mun. 余分のもの。

'juçiihwa① (名) 余裕。金、消費する物な
どに余裕があること。gunzuunu ~N
neeran. 一厘の余裕もない。

'juçii=juN① (他 =ran, =ti) 儉約して余裕
を出す。余裕を残す。coosii ~. 一食分
の余裕を出す。

'juçiju① (名) 夜露。

'juçijuçii①① (副) ゆうゆうと。余裕綽々
と。ゆったりと。'juçiqteen ともいう。

'juçiku① (名) 豊か。富裕。~na mun.
富裕な者。~ni. 豊かに。~ni sudatiju-
N. 何不自由なく育てる。

'juçimi① (名) 余裕。(物質的な、また精神
的な) ゆとり。~nu neeran. 余裕がな
い。~çikijun. ゆとりを持たせる。

'juçinuʔnjuhwee① (名) ʔunjuhwee の
項参照。

'juçiqteen① (副) ゆったりと。ゆうゆう
と。余裕綽々と。'juçijuçii ともいう。
~sjoon. ゆったりとしている。

'juçisan① (形) 余裕がある。ゆったりして
いる。ゆとりがある。たっぶりしている。
心にも物質にもいう。kunu ʔuubee ~.
この帯は長さがゆったりしている。kura-
sinu 'juçiku najun. 暮しにゆとりがで
きる。

'juçisimu① (名) あられや冷雨。

'juçiwai① (名) 'juuçiwai と同じ。

'juda① (名) 枝。'ida ともいう。

'judaci① (名) 末裔。傍系。分家筋。(枝系
の意か) muutu に対する。

'judaçi① (名) 胸かけ。山原地方の婦人が、
着物の上に首から掛けて胸をおおうもの。
'waga ~ haziti satuni ʔucikusiti,
ʔumukazinu tataba 'wannitumuri.
[わがゆだつはづて 里に打着せて 俵の
立たば 我胸ともれ] わたしの 'judaçi
を脱いでわが恋人に着せておいて、わたし
を思い出した時には、それをわたしの胸と
思ってください。

'judahwaa① (名) 枝葉。'idahwaa ともい
う。

'judai① (名) よだれ。~ daradara. よだ
れをたらたら。~ hwicun. 食物がく
さって糸を引く。

'judaikuzoo① (名) 子供がよだれをたら
してしゃべること。また、転じて、おとなが
いつまでもむだ口をきくこと。~ sjun.

'judanuci① (名) 枝ぶり。'idamuci とも
いう。

'judan① (名) 油断。また、怠慢。kwaqçii
saa ~ sjuna. (諺) 御馳走になったら油
断するな。また、御馳走になったら働け。
~ sjooti 'inutimai. なまけていて同じ
賃金をもらえるか。

'judanta'ari① (名) 怠慢。なまけること。

'judidaku① (名) ゆでだこ。

'judi=juN① (他 =ran, =ti) ゆでる。うで
る。

'juditamagu① (名) [新] ゆで卵。

'judiziru① (名) ゆで汁。うで汁。

'judumaihwidu'mai① (名) たびたび泊る
こと。夜泊り日泊りの意。~ sjun. たび
たび泊る。~nu ʔuhusan. たびたび泊
ることが多い。

'judumi=juN① (他 =ran, =ti) ⊖(水)を)
よどます。⊖とどまらず。引き止める。滞
在させる。

'judunun

'judu=nuN① (自 =maN, =di) ①よどむ。
(水が)とどこおる。①立ち止まる。また、
とどまる。一箇所に長逗留する。

'jugahuu① (名) [世界報] 豊年。ʔama-
juu, mirukujuu ともいう。

'jugahuudusi① (名) [世界報年] 'juga-
huu と同じ。

'jugakiti① (副) 夕暮れに。日が暮れて。夕
方に。～ kuuwa. 夕方になってから来い。

'jugami① (名) 'jugaN と同じ。

'jugami=juN① (他 =raN, =ti) ゆがめる。
歪曲させる。

'juga=nuN① (自 =maN, =di) ゆがむ。曲
がる。歪曲する。よこしまになる。

'jugaN① (名) ゆがみ。'jugami ともいう。

'jugawai① (名) 'juugawai と同じ。

'jugeence① kanaan① (句) ①力が弱い。
無力である。力がない。～ muN. 力のな
い者。①力もないくせに。～ meenainai
qsi, hwiqkudoori. 力もないくせにで
しゃばって、引っこんでいろ。

'juguri① (名) よごれ。よごれたところ。

'juguri=juN① (自 =raN, =ti) よごれる。
きたなくなる。

'jugu=sjuN① (他 =saN, =ci) よごす。き
たなくする。

'juhoobun① (名) [四方盆] さかずきをの
せる四角の台。さかずき台。

'juhudu① (名) 余程。大分。～ masi na-
toon. 大分よくなった。～nu kutu. よほ
どのこと。

'juhuku① (名) 'juuhuku と同じ。

'juhwan① (名) 'jahwan (夜半) と同じ。

'juhwaru① (名) [文] わきばら。口語は
'joora. rakubuçinu miʔubi ~ ʔusi-
mawaci, sjuNZanasimedei di 'wane sa-
dara. [らくぶつの御帯 よわらおし廻ち
首里ぎやなしみやだい でわないさだら]
三司官の大帯を腰にしまして、首里王府の御
奉公に、さあわたしは先がけしよう。

'juhwi=juN① (自 =raN, =ti) [古] 身請け
する。普通は dusiru ʔirijun (身のしろ
金を払う) という。

'juhwinu① (名) 饒平名。(地) 参照。

'jui① (名) 'juju と同じ。

'jui① (名) ゆり(百合)。

'jui① (名) ゆえ。せい。taajuiga. だれの
せいか。

'jui① (名) 宵。～N ʔakaçiein narisi ʔu-
mukazinu tatan hwija nesami sjuja-
nu cimuri. [宵も眺も 馴れし俤の 立
たぬ日やないさめ 塩屋の煙 (花売の縁)]
宵も眺も思ふ人の面影が塩たく家の煙のよ
りに立たない日はない。

'jui① (名) ふるい。穀物のからをより分け
る道具。浅く広い円形をしている。

'juimuN① (名) 漂着物。流れついたもの。

'juinagasan① (形) 'jujunagasan と同
じ。

'juju① (名) 竹などの節と節との間。「よ」
(古語) と関係ある語。

'jujunagasan① (形) [文] (竹などの) 節
と節との間が長い。また、子供のすねの長
いことなどにもいう。ほっそりしている。

'ju=juN① (自 =raN, =ti) ①寄る。近づく。
一方へ寄る。片寄る。neenu ~. 地震が
起きる。①集まる。qçunu ~. 人が集ま
る。①立ち寄る。②(年が) 寄る。'jujuru
tusi. 寄る年。

'jujuzuru① (名) [文] 植物名。maani(く
ろつぐ)の文語。節々が美しいものの意。
sakamutunu ʔibija danzu tujumari-
ru, ~ga cumutu kubanu mimutu. [坂
本のいべや だんじよとよまれる よよぎ
よらが一本 こぼの三本 (坂本節)] 坂本
の拜所はほめはやされるのはもっともなこ
と。くろつぐが一本、びろうが三本あって
いかにも由緒ありげである。

'jujuzurasan① (形) [文] 節と節の間がす
んなりして美しい。よなよと美しい。

'juka① (名) ゆか。床。家の中の板張りの、畳を敷けるようになっていところ。畳の敷いてない場合には、karajuka という。-ju^uka (助) より。老人が言う。意味は -jaka と同じ。

'jukaaqeu① (感) ⊖御苦労さま。老女が目下の労苦を謝する場合にいう。⊖いい子ね。おりこらね。女が子供をほめる時にいう。

'jukagita① (名) 床を支えるためにさし渡す細い材木。

'jukai① (名) ⊖かなり。相当。主として量についていう。ziNnu ~ ?asa. 金が相当あるよ。~nu diki. 相当の収穫。~namun. 相当な者。⊖(接頭) かなりの。相当の。'jukaihataraci (相当な働き), 'jukaimun (相当な者), 'jukai?uqsa(相当の量), ziN 'jukaidamii seen. (金を相当ためてある), 'jukaisun 'jaqsaa. (大損だよ) など。

'jukai?Nmu① (名) よくできたさつまいも。

'jukai?Nni① (名) よくできた稲。

'jukai?uqsa① (名) 相当の量。かなりの量。

'juka=juN① (自 =raN, =ti) おい茂る。繁茂する。また、(作物が) よくできる。よくみえる。?Nninu 'jukatoon. 稲がよくみえている。

'jukamuci① (名) 根太(ねだ)。床板を支えるためにある、床下の横木。

'jukaqeu① (名) 土族。samuree ともいう。

'jukaqeuNgwa① (名) 土族の子。'jukaqeuNgwaa hootuNgwa. 土族の子は鳩の子のように美しい。

'juku① (連体) [文] よき。縁起のよい。cuunu ~ hwini. [今日のよかる日に] きょうのよき日に。

'jukasja① (名) 床下。床板の下。

'jukeen① (名) 四回。四度。

'juku① (名) 欲。欲望。おもに悪い意味に

用いる。~ sjun. 欲ばる。欲ばったことをする。不当に欲ばって他に被害がおよぶ場合にいう。ziN 'wakiini ~ qsi ?uhoo-ku tutan. 金を分けるのに、欲ばって多く取った。

'juku① (名) 横。tati(縦)の対。また、側方。「横になる(寝る)」には nagabooi sjun (長長と寝る) などという。

'juku① (副) なお。さらに。もっと。一層。"ʔjaaja curasan." "ʔunzoo ~." 「おまえは美しい。」「あなたはもっと。」tucii noosandi qsi, ~ 'jantan. 時計を直そうとして、かえってこわした。qkwa ?iinaraasi qsi, ~ 'waruku natan. 子供を教育してなお悪くなった。

'jukubai① (名) ⊖横ばしり。横に行くこと。わきへそれること。蛇口から水がわきへそれる場合などをいう。⊖まっすぐ家へ帰らずによからぬ所へ行くこと。よからぬわき道をする。~ sjun.

'jukudui①(名) 横取り。~ sjun.

'jukudusi① (名) 翌年。naajaan ともいう。

'jukugaN① (名) 誤解。また、邪推。~ tujun. 誤解する。邪推する。

'jukugau① (名) 横顔。'jukugao curasan 'jaa. 横顔はきれいだねえ。

'jukui ① (名) 休憩。休息。いこい。

'jukui① (名) [文] ゆくえ。nasaki ?atikaraja ?umijamanu sukun, tazinirana ?ucumi ?ariga ~. [なきけあてからや 海山の底も 尋ねらな おきゆめ あれが行くゑ] 愛情があるからには、彼女のゆくえを海山の底までも尋ねないではおくものか。

'jukuidukuru① (名) 休み所。休憩所。

'jukuimaaruu①(名) 休む番。休息の番。

'jukujai① (名) (着物などの) かぎざき。横破りの意。

'jukujuku① (名) [新?] よくよく。余程

'jukujun

- の。万やむをえない場合。～nu kutu. よくよくのこと。
- 'juku=jun① (自 =raN, =ti) ①休む。休息する。いこう。②横になって休む。寝る。また、病臥する。
- 'jukumi① (名) [横目] 役名。目付役。監視官。'jamatujukumi, 'uuzijukumi, 'iguceijukumi などがある。
- 'jukumi① (名) わき見。よそ見。
- 'jukumici① (名) ①横道。わき道。支道。また、方向違いの道。②わき道。邪道。
- 'jukumizi① (名) 横に引いた水。田などで、水の流れから直角の方向に引いた水。
- 'jukumui① (名) 銭400文。8厘に当たる。ziN(銭)の項参照。
- 'jukumunii① (名) 顧みて他を言うこと。相手の間にまっすぐ答えず、はぐらかすこと。～sjun.
- 'jukumunu?ii① (名) 'jukumunii と同じ。
- 'jukunee① (名) 宵。晩。
- 'jukunee gurasi① (名) 宵やみ。月の出のおそい晩の暗いこと。
- 'jukunee niibui① (名) 宵の口から眠たがること。～sjun.
- 'jukunee niibujaa① (名) 宵の口から眠たがる者。子供などについている。
- 'jukunee zicuu① (名) 宵月夜。夕月夜。宵の闇だけの月夜。上弦の月の夜。
- 'jukunumata① (名) 欲の股の意。次の句でいう。～sakijun. 欲ばかりすぎて大損をする。
- 'jukunuudii① (名) 横喉の意。飲食物を急いで食べた時にむせるところ。～Nkai Yiqcoon. 食物が気管に入ってむせる。
- 'jukun① (副) さらに。なお。もっと。一層。～curasan. 一層美しい。
- 'jukusi① (名) うそ。いつわり。
- 'jukušii① (名) [文] 行く末。
- 'jukusimunii① (名) うそ。うそごと。うそをつくこと。～ja zoonu ?weeman

- tuuran. うそは門の間も通らない。うそは長続きしない。～sjun. うそをつく。
- 'jukusimuniisja'a① (名) うそつき。うそをつく者。～ja nusudunu ?uja. うそつきは泥棒の親。うそつきは泥棒の始め。
- 'juku=sjun① (他 =saN, =ci) ①讒言する。中傷する。②誘う。誘惑する。かどわかす。また、横取りする。'junu hukirumadin nugasi ?umisatuja, 'jukusariga sica-ra ?atin neraN. [よのふけるまでものがす思里や よこされがしちやら あてもないらぬ] 夜がふけるまでもどうしたことか、思う人は他に誘われたのかゆくえがわからない。③あるべき方向から横にそらす。水の流れなどにもいう。
- 'jukutee=jun① (他 =raN, =ti) ①横たえる。横向きに置く。②(竿などを) 渡す。
- 'jukuu① (名) 欲張り。'juukuu と同じ。
- 'jukuujukuu① (副) よくよく。つくづく。～'NNZUN. よくよく見る。
- 'jukwaa=sjun① (他 =saN, =ci) 休ませる。動物の働くのを休ませる場合にいう。
- 'jumaNgwi① (名) 夕まぐれ。'jusandi などの語に比べ、一種の寂寥感のある語。
- 'juuni① (名・接尾) 織機の筈(おさ, huduci) の粗密をあらわし、同時に経糸の密度(布の地合い)を示す語。織りの細かさ。おさ羽40枚を kujumi (一読み) とする。1枚の間に経糸2本を通すので kujumi は経糸80本である。nanajumi (七読み) から hateen (二十読み) までである。huduciの項参照。～Yiqcoon. 布の地合いが密である。織りが細かい。
- 'jumi① (名) 弓。武器の名。～N Yijanturan. 弓も矢も取らない。少しも謀叛の心はない。謀叛の心のない者が疑われた場合にいう。
- 'jumi① (名) 嫁。息子の妻。嫁した女。その敬語は ?weejumi. ～nasjun. 嫁にやる。～tujun. 嫁をもらう。

- 'jumici① (名) 夜道。'juumici ともいう。
- 'jumi'duimuku¹'dui① (副) 嫁にやったり婿をもらったりするさま。ʔanu 'jaatu ~ sjun. あの家と嫁をやったり婿をもらったりする。~ sjuru naaka. 嫁にやったり婿をもらったりする間柄。
- 'jumihai① (名) 弓張りぢょうちん。
- 'jumiʔibiraa①* (名) [新?] 嫁をいじめる者。嫁いびりするしゅうとめ。
- 'jumija① (名) 弓矢。弓と矢。
- 'juminuʔija① (名) 弓の矢。ʔija は矢。
- 'jumu① (名) [文] よも。四方。~nu ci-sicinu ʔumusiruja. [四方の景色の面白や(四季口説)] 四方の景色のおもしろや。
- 'jumu- (接頭) 悪罵・嫌悪の意を表わす接頭辞。いやな。…め。'jumuwinagu (あま。女をののしっている語), 'jumudui (鳥め) など。'jun- の項参照。
- 'jumudui① (名) 鳥め。鳥をののしっている語。'jumudujaa ともいう。⊖[古] 雀。
- 'jumudniguci① (名) くちびるのわきが白く化膿すること。からすの灸。
- 'jumudujaa① (名) 'jumudui と同じ。
- 'jumukubi① (名) 首の卑語。首ったま。tamamuranu ʔazinu mijuʔizinu ʔumigwa ʔugaga ~ja ʔunuzumiju demunu, ʔisuzi kubi susuti dijoori dijoori. [玉村の按司の 御代継の思子 おががよも首やお望みやだいの 急ぎ首そそて でやられてやられ(忠臣身替)] 玉村の按司の代つぎの御子がおまえの首をお望みだから、急いで首をふいて出てこい。
- 'jumuwinagu① (名) あま。女め。女をののしっている語。
- 'jumuziramiʔkwee① (名) たまらなくかわいい顔。あまりかわいいのでわざと「にくい顔め」のように言ったもの。
- 'juna① (名) 与那。《地》参照。
- 'juna- (接頭) ⊖米の。'junabaakii(米を入
- れるざる) など。⊖砂の。砂利の。'junamici (砂の道) など。'junabaru [与那原], 'junaguni [与那国], 'junaguʂiku [与那城] などの地名の 'juna- も砂の意と思われる。
- 'junabaakii① (名) 米などを入れる、密に編んだざる。
- 'junabaru① (名) 与那原。《地》参照。
- 'junabarumazikuN① (名) 魚名。鯛の一種。美味で第一等の魚である。
- 'junagata① (名) 終夜。一晚中。夜通し。
- 'junagatasanagata① (名) 一晚中。夜通し。saasa ~ 'wan tatiti, cikusjoomun. [さあさ 夜ながたさながた 我身立てて畜生者(かまやしな節)] サーサ(はやし), 一晚中わたしに立ちんぼをさせて待たせて、ひどい人。遊女が客を恨んでいう文句。
- 'junaguni① (名) 与那国島。八重山群島の島の名。琉球列島の西端の島。
- 'junaguʂiku① (名) 世名城。《地》参照。
- 'junaguʂiku① (名) 与那城。《地》参照。
- 'junahwa① (名) 与那覇。《地》参照。
- 'junahwadaki① (名) 与那覇岳。国頭地方にある山の名。
- 'junahwadoo① (名) 与那覇堂。《地》参照。
- 'junaka① (名) 夜中。夜半。深夜。
- 'junakamudui① (名) ⊖夜中に帰ること。⊖遊郭で夜を明かさずに、夜中に家に帰ること。
- 'junaN① (名) 四男。第四番目の男の子。
- 'junaNka① (名) 四七日。死後28日目に営む法事。
- 'junaNmi① (名) 与那嶺。《地》参照。
- 'junazi① (名) 麻・芭蕉布などの洗濯に用いる液。米酢の意。重湯・かゆなどを腐らせ、残飯あるいは米のとぎしるなどを加えて作る。その酸味により、麻・芭蕉布が光沢よく涼しく晒される。'junazi のかわりに ʂiikwaasjaa (橘の一種) の汁を用いる

'juni

こともある。

'juni① (名) ①米。②砵。šina の雅語。

'juninuʔuiwee① (名) 'juninuʔujuwee と同じ。

'juninuʔujuwee① (名) 米寿の祝。tookaciʔujuwee と同じ。

'jununaka①① (名) 世の中。世間。

'jununusi① (名) [文] もと一國の元首の意だが、後に一城の主すなわち按司 (ʔazi) にいうようになった。dijooearumunuja simazirinu ~ 'eezinu ʔazi [出様ちやる者や 鳥尻の世の主 八重瀬の按司 (忠臣身替)] まかり出た者は鳥尻の城主である八重瀬の按司。

'ju=nuN① (他 =man, =di) ①読む。sjumuçi ~。本を読む。②数える。tinnu buribusija 'jumiwa 'jumarijui, ʔujanu 'jusigutuja 'jumin naran. [天のぶり星や 読めば読まれゆい 親の寄せ言や 読みもならぬ] 天の群星は数えれば数えられるが、親の教訓は数えることもできない。③しゃべる。munu ~。しゃべる。④詠む。ʔuta ~。歌を作る。

'jun- (接頭) 嫌悪の意を示す接頭辞。'juningasimasjan (やかましい), 'juningusamici (立腹), 'junhagoosan (きたならしい), 'junguasasan (いやなにおいがする) など。名詞に付く場合には 'jumu- となることが多い。

'juNci① (名) [古] [寄満] 首里城の建物の名。

'juNcu① (名) [古] [与人] 廃藩前、先島・久米島にあった役名。

'juningasimasjan① (形) かましい。やかましい。うるさい。

'juningusamici① (名) 憤慨。立腹。腹立たしく思うこと。

'juningusasan① (形) いやなにおいがする。とてもくさい。

'junhagoosan① (形) きたない。きたなら

しい。

'juNkaNsi=juʔN① (自 =raN, =ti) シャベリまくる。しゃべり立てる。'jun-<'junun.

'juNnu① (名) 与論島。奄美群島最南の島。

'juNnuʔirabu① (名) 与論島と沖永良部島。

'juNnujuʔa① (名) 死後 49 日目の夜、mabuiwakasi の祭り、'juta (占いをする巫女) を呼んで行なら、死人の口寄せ。死んだのは運命であったとか、祖先の祭りを怠ったためであるとか、いろいろの報告がされる。また、それを行なら 'juta. sinmajuta ともいう。~ 'isijun. 'juta が神がかりの状態になって、死人になりかわることをいう。

'juNtaa① (名) おしゃべり。饒舌家。

'juNtaahwiʔntaa① (副) 'juntakuhwiʔntaku と同じ。

'juNtaku① (名) おしゃべり。~ sjun.

'juNtakuhaʔntaku① (副) 'juntakuhwiʔntaku と同じ。

'juNtakuhiʔntaku① (副) むやみにしゃべるさま。べらべら。

'juNtakuu① (名) おしゃべりの者。

'juNtaNza① (名) 読谷山。《地》参照。

'juNzici① (名) 閏月。ʔuruzici ともいう。

'juNziri① (名) 足の裏にできる、あかぎれに似た裂け目。はだして歩く労働者などに多くできる。寒さのためにできるとは限らない。ʔasiziri ともいう。

'juogasima① (名) 硫黄島 (ゆおうじま)。薩摩半島の南にある三島の一つ。

'juQcai① (名) [文] 往復。行き帰り。harunu ~ni...[原の行きやひに... (銘荊子)] 畑の往復に...

'juQka① (名) よっか。月の第四の日。また、一日の四倍。

'juQkanuhwii① (名) 旧暦 5 月 4 日。gun-gwaçi ~ともいう、一年中で最大の厄日というので、子供に元気を付け、喜ばすため、

各家庭で玩具を買って子供に与える。そのために玩具市が立つ。幼児には ?uqcirikubusi (起き上がり小法師), banbataa (振って鳴らす小さいつづみ) など、大きい男の子には taci (太刀), haaciburaa (お面), cancan?nmagwaa (チャンチャンとなる馬の玩具) など、女の子には ?umentuu (紙人形) や ?umentuubaku (紙人形箱) など、いろいろなものを与える。各家庭では cinbin, poopoo などのごちそらを作る。また、那覇ではこの日 haarii (ペーロン=爬龍船競争) が催される。

'juqkaziiru④ (名) [四日地炉] 子供が生まれて四日目に行なう祝宴。その日は厄日とされるので、親類・知人・隣人などを招いてごちそらし、歌舞音曲、組踊りの朗読などしてにぎやかに徹夜した。ziiru はその項参照。

'juqkwa=sjun④ (他 =san, =ci) (日) 暮れさせる。道中や仕事なかばなどで日が暮れる場合にいう。qcunu 'jaauti 'juu 'juqkwacan. 人の家で、日が暮れてしまった。

'juqkwi④ (名) 世富慶。《地》参照。

'juqkwi=jun④ (自 =ran, =ti) (日) 暮れる。'juu ~. 日が暮れる。「日 (hwii) が…」とはいわずに、「夜 ('juu) が暮れる」という。

'juqtai④ (名) よったり。四人。

'juqtaiqwa'qtai④ (副) 桶・池・容器などの中で液体が揺れ動いて、音を発するさま。たぶたぶ。~ sjun.

'juraa=jun④ (自 =ran, =ti) 'jurajun と同じ。

'juraa=sjun④ (他 =san, =ci) ⊖ (人) 集める。集合させる。⊖一食分を分けて食べさせる。母子が一つの椀から食べる場合、また、子供ふたりに一食を分けて食べさせる場合などをいう。

'jura=jun④ (自 =an, =ti) 一食分を分け

合って食う。また、分けてもらって、いっしょに食事する。bintoo tiiçi 'jurati kanun. 一つの弁当を分け合って食べる。

'jurarijaa④ (名) なまけ者。遊び人。

'jurari=jun④ (自 =ran, =ti) なまける。むだに時を過ごす。また、道草を食う。

'jurasihai④ (副) なまけがち。

'jurasimun④ (名) なまけ者。'jurasjaa ともしう。

'jurasjaa④ (名) 'jurasimun と同じ。

'juratii④ (名) 一つの器から食物を分け合って食うこと。~ sjun. 分け合って食べる。~ simijun. 分け合って食べさせる。

'juree④ (名) 無尽講。頼母子講。muee ともしう。寄り合い (集会) の意だが、単なる集会は普通, surii (揃いの意) という。

'jureeci④ (名) 由来記。nacizin ~. [今帰仁由来記] 書名。

'juree=jun④ (自 =ran, =ti) 寄り合う。集まる。集会する。

'jureenukuzi④ (名) 無尽講の金を受けとるくじ。容易に当たらない例にされる。

'jureenu?ubun④ (名) 結婚式で新郎新婦が同一膳で同一の食器から分けて食う儀式。

'jureesi'gutu④ (名) 集まってする仕事。寄り合い仕事。

'jureesi'idu④ (名) 'juree (無尽講) の親。無尽講の発起人。

'jurii④ (名) ⊖休暇。~ 'iijun. 休暇をもらう。~ ?nzasjun. 休暇を出す。~ tujun. 休暇をとる。⊖許可。免許。tiqpuunu ~ muqcoon. 鉄砲の免許をもっている。~ tujun. 許可をとる。免許をとる。

'juru④ (名) ⊖夜。'juu よりもいくらか文語的。⊖(接尾) 夜。晩。夜の数・宿泊の数などを数える時の接尾辞。cujuru (一夜, 一晚), tajuru (二夜, 二晩) など。

'juruhwiru④ (名) 夜昼。日夜。夜も昼も。

'jurui④ (名) 鎧。戦いに着るもの。

'juruitu

'juruitu① (副) ゆるりと。のんびりと。くつろぐさま。'juruqtu ともいう。～natan. ほっとした。—安心だ。

'jurujunaka① (名) 夜よなか。真夜中。

'jurujuru① (副) ゆるりと。'juruitu と同じ。

'jurukubi① (名) よろこびごと。めでたい事。～nu ?an. よろこびごとがある。

'juruku=buN① (自 =ban, =di) ⊖[文] (めでたいことを) よろこぶ。ことほぎ祝う。⊖[新] 喜ぶ。?uqsja sjuN というのが普通。

'juruumi=jun① (他 =ran, =ti) ゆるめる。ゆるくする。?uubi ～。帯をゆるめる。

'jurumiQkwaa① (名) 鳥目(とりめ)。夜盲症。また、鳥目の者。

'juruqtu① (副) 'juruitu と同じ。

'jurusan① (形) ⊖ゆるい。⊖手ぬるい。?ansi nuratin 'jurusadu ?aru. あれだけ叱っても手ぬるい。

'juru=sjuN① (他 =san, =ci) 許す。

'juruzinamuN① (名) 間食に食ういろいろの物。菓子・果実など。よろずのものの意。

'jusajusa① (副) ごたごた。事が起こって落ち着かないさま。～sjoon. ごたごたしている。

'jusanDi① (名) 夕方。夕暮れ。日暮れ時。

'jusanDi?akagai① (名) 'jusanDi?akeei と同じ。

'jusanDi?akee① (名) 'jusanDi?akeei と同じ。

'jusanDi?akeei① (名) 夕焼け。

'jusanDibana① (名) 植物名。おしろいばな。夕化粧。紅・白・紫などの花が漏斗状に咲く。

'jusanDimaci① (名) 宵市。夕方に立つ市。魚市は朝のところが多いが、首里は海がない関係で夕方立つ。?waagwaamac (豚

市), tuimaci (鶏市) など、多くが日暮れところに始まる。

'jusi?asi① (名) よしあし。善悪。可否。～N 'wakaran. よしあしもわからない。～nu hwizi hweeku qsi kwiri 'joo. 可否の返事を早くしてくれよ。

'jusibin① (名) 錫製の器の名。形はとっくり(tuqkui) に似て、とっくりよりやや口が大きい。祭祀や婚礼などの時には酒を入れる。

'jusidoohu① (名) おぼろ豆腐(料理名)。

'jusiga① (名) [文] よもすがら。終夜。一晚中。hujunu 'junu ~ tageni katajabira. [冬の夜のよすが 互に語やべら(執心鐘入)] 冬の夜の夜もすがら互いに語りましょう。

'jusigutu① (名) 教訓。忠告。tinnu buribusija 'jumiwa 'jumarijui, ?ujanu ~ja 'jumin naran. [天のぶり星や 読めば読まれゆい 親の寄せ言や 読みもならぬ] 天の群星は数えれば数えられるが、親の教訓は数えることもできない。

'jusi=jun① (他 =ran, =ti) ⊖寄せる。çina ~. (綱引きで双方が) 双方の綱を互いに近付け合う。çinahwici (綱引き) の項参照。⊖忠告する。?arinkai ~. 彼に忠告する。?ujajusi Qkwajusi. [親寄せ子寄せ] 親が教えたり、子が教えたり。

'jusimi① (名) 四隅。四方の隅。

'jusimi=jun① (他 =ran, =ti) ⊖止まらせる。立ち止まらせる。⊖引き止める。思いとどまらせる。

'jusi=nuN① (自 =man, =di) ⊖止まる。立ち止まる。とどまる。?isugu mici 'jusidimiru hudun ?akan, ?uciganikujamanu hazinu mumizi. [急ぐ道よしで 見る程もあかぬ 内兼久山のはじの紅葉] 急ぐ道を立ち止まっていつまで見てもあきない内兼久山のはぜの紅葉。sadamataru kutunu nja 'jusimarimi. [定まる事

の にやよしまれめ (孝行之巻) 定まった運命がもはやとどまることができようか。⊖さしひかえる。思いとどまる。しんばりする。'jušidi 'jušimaran kuinu nareja. [文] おさえてもおさえられない恋のことだから。

'jusiri=jun① (自 =ran, =ti) 参る。参上する。訪問する。伺候する。身分の上の人の家へ伺う。'jusirijabira. ごめん下さい。貴人の邸宅で案内を請う時のあいさつ。

'jušizimi① (名) [文] 夜のしじま。夜の静けさ。~ga nariba ?a 'ici 'urariran, tamakuganiçikenu nja curatumiba. [よすずみがなれば あみち居られらぬ 玉黄金使の にや来ゆらとめば] 夜のしじまが訪れると、ああ、じっとしていられない、恋しい方からの招きがもうすぐ来ると思うと。

'juši=zuN① (他 =gan, =zi) ゆすぐ。ゆり動かして洗う。

'jusu① (名) [与所] よそ。よその場所。また、よその人。他人。'wagami çidi 'Nci-du ~nu ?wija sijuru, muri şiruna ?uciju nasakibikei. [我身つで見ちど 与所の上や知ゆる 無理するな浮世 なさけばかり] わが身をつねって人の身の上を知る。無理をするな、浮世は情だけで結ばれている。

'jusuhwicinu?uzoo① (名) [よそへちのおぢやう・右掖門] 首里城の門の名。?uguşiku の項参照。

'jusumi① (名) よそ目。人目。他人に見られること。~ maduhakati sinudi ?imori. [与所目まどはかて 忍でい参れ] 人目のすきをうかがって忍んでいらっしやい。

'juta① (名) 巫女。いちこ。うらないを業とし、神を祭り、生霊死霊の口寄せを行なう女。「いたこ」(奥羽地方の巫女)と関係ある語か。

'jutajuta① (副) ゆらゆら。ゆれ動くさま。

'jutaka① (名) 豊か。豊富。富裕。kurasigatanu ~ 'jan. 暮らしが豊かだ。~na kurasi. 豊かな暮らし。

'jutami=cun① (自 =kan, =ci) ゆらゆらと動揺する。揺れ動く。ゆらめく。cimunu ~. 心が動揺する。

'jutamunii① (名) 'juta (巫女)の言うような迷信的なことば。御幣かつぎ。

'jutamunu?ii① (名) 'jutamunii と同じ。

'jutasjaN① (形) ⊖よい。いい。よろしい。良好である。善良である。'jutasja 'wa-qsā. よしあし。⊖よい。よろしい。承知・許可の意にも、辞退の意にも用いる。'jutasja 'jutasja. よしよし。'jutasjajabin. よろしゅうございます。

juti=jun① (他 =ran, =ti) こぼす。誤ってまたは故意に水などを容器からこぼす。

'jutikeera=sjun① (自 =san, =ci) どっと押し寄せる。夕立・大量の水などがどっと押し寄せる場合にいう。?uhu?aminu ~. 大雨がどつと押し寄せる。

'jutiri=jun① (自 =ran, =ti) (容器から液体などが) こぼれる。

'jutu① (名) ⊖四年。よとせ。⊖一昨昨年。おととしの前の年。四年前の意。

'juu① (感) 四。よ。よっつ。声を出して数える時にだけいう。

'juu① (名) 湯。

'juu① (名) 夜。~'juqkwijuN. 日が暮れる。~nu ?akijuN. 夜が明ける。~ ?akasjuN. 夜を明かす。徹夜する。

'juu① (名) 世。代。~nu ?aru kaziri. 世のある限り。~ çizun. 代を継ぐ。

'juu① (副) よく。良好に。また、しばしば。~ ?jun. よく言う。悪く言わずに、よく表現する。また、しばしば言う。munoo ~ ?juru mun. ものによく言うべきもの。事実はことばに従うので、よく言った方がよいという意。~ 'NNZUN. よく見る。また、しばしば見る。~ sjun. イ。

よくする。よくやる。ロ。気をつける。ハ。しばしばする。ʔujanu kutu ~ sjUN. 親によく尽す。ʔjaaga ~ siijuusjundi ʔumutoomi. おまえが自分でよくできると思っているのか。~ sjooru çimu ʔjaşiga, siijanti. 気をつけていたつもりだが、しくじった。~ qsi. 気をつけろ。~ sja-biisa. 気をつけます。~ sandaree. ひょっとしたら。悪くすると。~ sandaree nusudu doo. ひょっとしたら泥棒だぞ。~ siinee. もしかすると。ひょっとしたら。~ siinee ʔacaurumee ʔami hujusa. もしかすると、あしたごろは雨が降るよ。

ʔjuuʔakasikaNiiiⓐ (名) 夜を明かしかねること。夜の明けるのを待ちかねること。ʔUNniinee ~ ʔjatan. その時には夜が明けるのが待ち遠しかった。

ʔjuuʔakeeiⓐ (名) 夕焼け。ふつりは ʔjusa-ndiʔakeei あるいは ʔjusa-ndiʔakagai という。

ʔjuuʔakiduusiⓐ (名) 夜通し。徹夜。~ hanasi sjUN. 夜通し話をする。~ nu sigutu ʔjatan. 徹夜の仕事だった。

ʔjuuʔakiduusiiⓐ (副) 夜通し。徹夜で。~ sjumuçi ʔjudan. 徹夜で本を読んだ。

ʔjuuʔakiwarabiⓐ (名) 夜が明けるように発育の早い子供。

ʔjuuʔamaiⓐ (名) 余り物。使い残し。不用品。

ʔjuubaimiiⓐ (名) 石垣の下にある、小さい排水口。ゆばり目の意。

ʔjuubanⓐ (名) 夕飯。夕食。

ʔjuubanbiceeⓐ (名) 夕飯代わり。

ʔjuubanaanzaaⓐ (名) 宵の明星。金星。夕飯を欲しそらに見る者の意。manzaa-busi ともいう。

ʔjuubansugaiⓐ (名) 夕飯の支度。

ʔjuubanuuiⓐ (名) 夕飯時。晩飯時。

ʔjuubeeⓐ (名) 妾(めかけ)。suba ともい

う。貴人の妾は ʔusuba という。「よばひ」の転化か。~ tumeejUN. 妾をもらう。

ʔjuubeeNgwaⓐ (名) 妾の子。庶子。ʔjuubeenu qkwa ともいう。

ʔjuubiⓐ (名) ゆうべ。昨晚。昨夜。cinunu ʔjuru (きのうの夜) は一昨晚の意となる。

ʔjuubinuqkwaⓐ (名) ふか。さめ類の大形のもの。昨晚の子の意。

ʔjuuciⓐ (名) 小型のおの。手おの。よき。

ʔjuuçiⓐ (名) 四。よつつ。また、四歳。

ʔjuuçiiⓐ (名) ʔjuuçiguNと同じ。

ʔjuuciraⓐ (名) 次の句で用いる。ʔjuuciraneen. 何の益もない。無益な。むだな。~N neen hanasi. 何の役にも立たない話。むだ話。

ʔjuuçiwaiⓐ (名) 四つ割り。四つに分けること。ʔjuciwai ともいう。

ʔjuucuuⓐ (名) 泡盛を水で割ってかんをすること。また、そのもの。

ʔjuucuzuukaaⓐ (名) ʔjuucuu を盛るうつわ。

ʔjuuduⓐ (名) ⊖よど。よどみ。よどむこと。⊖立ち止まること。⊖滞在すること。長逗留すること。~ sjUN. 長逗留する。

ʔjuuduriⓐ (名) 夕なぎ。

ʔjuugarasiⓐ (名) 夕方に出てくる鳥。夕方に鳴く鳥の声はとくに不吉とされており、屋根の上で鳴くのを聞くと ʔiikutu kata-ri. (よい事を語れ) と言ってまじなる。

ʔjuugawaiⓐ (名) 世の変遷。世の移り変わり。また、革命など。ʔjugawai ともいう。

ʔjuungee=sjUNⓐ (他 =saN, =ci) 熱湯でやけどする。

ʔjuuhukuⓐ (名) 裕福。富裕なこと。ʔjuuhuku ともいう。~na qeu. 裕福な人。

ʔjuuhuruⓐ (名) ふろ。~ ʔijuN. ふろに入る。

ʔjuuhuruciNⓐ (名) ふろ銭。入浴料。

ʔjuuhurujaaⓐ (名) ふろ屋。

'juuhwizui① (名) 夕方冷えること。夜になって涼しくなること。
 'juu'irice① (名) 夕方。夕暮れ。
 'juu'irigata① (名) 夕方。夕暮れ。日暮れ。
 'juui① (名) ㊦用意。～sjun. 用意する。㊦常備。Yigi 'jatin ~nu sakinu ?an. いつでも用意の酒がある。～nu kanzimuN. 常備の夜具。
 'juuijuui① (感) トートー。鶏を呼ぶ声。
 'juu=juN① (他 =ran, =ti) ㊦結う。karazi ~. 髪を結う。㊦縛る。?juru kutu cikandaraa 'juurarijun doo. 言うことを聞かないと縛られるぞ。
 'juujuu① (名) 鶏の小児語。
 'juujuutu①① (副) ゆうゆうと。ゆっくり。のんびり。～simišeebiree. ごゆっくりなさいませ。
 'juujuuturaasjan① (形) のんびりしすぎる。のんきすぎる。気長である。
 'juukaagi① (名) 夕方、日が西に傾き、道路などに陰ができて涼しくなること。またその時刻。夕陰。日中は暑いので、?asakaagi か 'juukaagi に出歩くように心がける。
 'juuki① (名) ㊦夜遅くまで起きていること。夜ふかし。㊦出産の時や病人の看護の時に、親類の者が集まって徹夜すること。出産の時には、産後一週間は産物が子の命をねらうので、親類の若い男女が交代して徹夜した。ごちそうや酒が出され、にぎやかに組踊りなどを朗読して夜を明かす。
 'juukuu① (名) 欲張り。'jukuu と同じ。
 'juukuajuukuu① (副) よくよく。じっくり。老女が多く用いる語。～'Nncakutu. よくよく見たら。～soodan qsi 'Nndee. よくよく相談してみれば。
 'juumaai① (名) 夜警。夜回り。夜、拍子木を打って回り、警戒すること。また、その者。
 'juumici① (名) 夜道。'jumici と同じ。

'juumizi① (名) 湯水。～cikajunnee zin cikajun. 湯水を使うように銭を使う。
 'juumu① (名) ㊦[古] 猿。普通には saaru という。その項参照。㊦猿のような者。口のとがった者への悪口としていう。
 'juumuuguci① (名) 猿のような口。とがった口の悪口としていう。
 'juumuuzira① (名) 猿のようなつら。口のとがった顔の悪口としていう。
 'juuna① (名) 植物名。はまぼろ。おおはまぼろ。しまはまぼろ。黄檗。あおい科の灌木。花は黄色、葉は円形で厚く、農村で食物をのせたり、ちりがみの代用にしたりする。
 'juunaabi① (名) 夜なべ。夜業。
 'juunaabii① (名) 夜なべする場所。夜業の作業場。
 'juunaagaasja① (名) 'juuna の葉。kaasja は広い葉。
 'juunuku① (名) 麦こがし。砂糖を入れ、粉のまま、または熱湯をそそいで練りかためて食べる。
 'juunusaci① (名) 世間の将来。世の先の意。～hakarataru qeuja 'uraN. 未来のことを察知した人はいない。
 'juurii① (名) 幽霊。死人の霊。着物はわかるが顔はわからず、厚みがないとされる。足は特に問題にされない。また、姿がなく声だけのものもある。
 'juuriibanasi① (名) 幽霊の話。怪談。
 'juusibai① (名) 寝小便。
 'juusiN① (名) 用心。念のためにすること。～nu tamini naa ?ihwee zin muqci Yikee. 用心のために、もう少しはお金を持って行けよ。
 'juusi'ta① (感) ざま見ろ。いい気味だ。～'jasa. ともいう。?ansitakutu qsi ~. そんなことをしやがって、ざま見ろ。
 -juusjuN (接尾・不規則) …することができる。…される。主体にその能力があること

'juusjuu

を示す。-rijun とは意味が異なる。その頂参照。動詞の「連用形」または「連用形」から末尾の i を除いた形に付く。tjuN (取る)→ tui- (取り)→ tuijuusjuN, tujuusjuN (取ることができる) など。

'juusjuu④ (名) [文] 幼少。～nu kuru. 幼少のところ。

'juusjuugwaa④ (名) おさな子。幼少の子供。～nu 'uN. おさな子をかかえている。

'juutee④ (名) 遊蕩人。遊び人。ごろつき。

'juutuzi④ (名) ㊦夜伽。夜のつれづれを慰めること。㊦出産・看護・葬式の夜などに、家族・近親の者が集まって、世話・相手などをすること。

'juuʔubun④ (名) 晩御飯。'juuban の丁寧語。

'juuwaa④ (名) 硫黄。

'juuwaabii④ (名) 硫黄が燃える時の青い火。動物を窒息させるため、蛇の穴などでたく。

'juuwee④ (名) 祝い。ʔiwee ともいう。敬語は ʔujuwee, ʔuiwee。

'juuzi④ (名) どてら。袖のある、厚い綿を

入れた広幅の夜具。

'juuzi④ (名) 与儀。《地》参照。

'juuzikii④ (名) 湯づけ。飯に湯をそそいだもの。

'juuzu④ (名) 用事。しなければならないこと。

'juuzuci'rimun④ (名) 用のなくなった物。無用の物。

'juuzuka'ci④ (名) 用事。用足し。-kaci は反復の意の接尾辞。

'juza④ (名) 与座。《地》参照。

'juzadaki④ (名) 与座岳。島尻郡にある山の名。

'juzee④ (名) 余財。余裕のある財産。

'juzeemuci④ (名) 財産家。金満家。金持ち。

'juzi=juN④ (他 =raN, =ti) 譲る。譲渡する。また、譲歩する。また、(土地・財産などを) 売り渡す。

'juzimi④ (名) 夜詰め。宿直。夜勤。

'juziri④ (名) 親などから譲り受けたもの。遺産・遺業、遺伝した性質など。

'juzuu④ (名) 夜中。夜っぴて。夜通し。

k

-ka (接尾) ほど。qiranu kusjaa naruka ʔaoku sjun. 顔が向けられなくなるほど叱る。'watanu haqciriruka munu kadan. 腹がはち切れるほど食べた。ʔiicinu ciriruka haace najun. 息が切れるほど走る。sinukanu ʔawari simiraqtaN. 死ぬほどの苦勞をさせられた。miiranka miiranka sjoon. かすかに見えている。

kaaⓐ (名) 皮。皮膚・皮革・樹皮など、ものの表面に張ったもの。

kaaⓑ (名) 井戸。また、天然に湧いていて用水に使われるものをもさす。「川」に対応する。kurumagaa (車井戸), qiigaa (桶を手でたぐり上げて汲む井戸), hwiizaa-gaa (湧き水を樋で引いたもの) などの種類がある。

-kaa (接尾) 程度のはなはだしいさまをいう。siqtaikaa (びしょぬれ), kakikaa (欠けたところだらけ), ʔandikaa (こわれたところだらけ) など。

-kaa (接尾) 辺。あたり。ʔarikaa(あの辺), kurikaa (この辺), kumarikaa (この辺), maarikaa (どの辺) など。あるいは -rikaa を接尾辞とすべきものか。

kaabišiiⓐ (名) 皮の薄いもの。皮膚の薄い者。

kaabisuuⓑ (名) kaabišii と同じ。

kaabuiciiⓐ (名) 柑橘類の一種。実は皮が厚く、甘味が強い。

kaabuiⓐ (名) 醬油・味噌などに生ずる薄いかび。～kuujun. (醬油・味噌などの表面に) かびが生える。～sjun ともしう。

kaabuiⓑ (名) (否定・拒否の意を表わして) 顔を横に振る動作。かぶり。

kaabuikaabuiⓐ (名) かぶりかぶり。いやいや。顔を横に振る小児の芸。

kaabujaaⓐ (名) こうもり(蝙蝠)。

kaabujaagasaⓐ (名) [新] こうもり傘。洋傘。daNgasa ともしう。

kaaciiⓐ (名) 夏至。二十四節の一つ。

kaacibeeⓐ (名) 夏至のころ吹く南風。

kaagaaⓐ (名) ⊖影。水・鏡などに映る影。⊖影。影法師。

kaagaauuiⓐ (名) [新] 活動写真。影踊りの意。

kaagarimooⓐ (名) かっぱ。水に住む想像上の動物。ʔakaganTaa (赤ちゃけた髪のおかっぱ頭) をして、恐れられる。那覇では kamuroo という。

kaagiⓐ (名) ⊖姿。また、容貌。～nu 'waqsaN. 器量が悪い。curakaagi. 美貌。⊖陰。日陰など。光の当たらない暗い所。kiinu ～. 木陰。

kaagibusiⓐ (名) 陰干し。

kaagigawa'iⓐ (名) おも変わり。老衰・病氣などで、容貌が変わること。

kaahaiⓐ (名) (ひからびて) 皮のように張り付くこと。また、その張り付いたもの。hanadainu ～. 鼻みずのひからびて張り付いたもの。

kaaha=junⓐ (自 =raN, =ti) ⊖皮が張る。皮が生じる。また、ひからびて皮のように張り付く。⊖転じて、いじきたなく…する。ぐずぐずと長居する、未練がましく長生きする、などの意に用いる。ʔjukunu kaahati. 欲の皮が張って。いじきたなく欲張って。

kaakaaⓐ (名) 辛いものの小児語。

kaakanⓐ (名) 川上。《地》参照。

kaakanzaaⓐ (名) 目がかすむこと。また、

kaakasjaa

目がかすんでいる者。皮をかぶった者の意。
kaakasjaa① (名) 鮎 (taaʔiju) の燻製。
kaaka=sjuN① (他 =saN, =ci) 乾燥させる。
 (火にあぶって) 乾かす。
kaakii① (名) ①賭け。②指切り。互いに小指をひっかけてする子供の約束。～sjun. 指切りする。
kaaki=juN① (自 =raN, =ti) ①(のどが) 渴く。②(水が) 涸れる。干上がる。(地面などが) 乾く。
kaama① (名) 遠方。遠く。ʔinpo ともいう。～kara caN. 遠くから来た。
kaami① (名) 壘(かめ)。
kaamii① (名) 亀。水陸両棲の亀。海亀は ʔumigaamii という。
kaamiikuʔu① (名) 亀の甲。～jaka tusinukuu. 亀の甲より年の功。
kaaminakuu① (名) ベッコウ。
kaaminakuuʔuhwaʔka① (名) 亀甲式の墓。墓の様式の一つで、屋根が亀の甲の形にできているもの。
kaaminakuuziihwa① (名) ベッコウのかんざし。平民の老女が儀式の時に差した。
kaaminuʕibitiʔiʕi① (名) (夫婦の骨が) 死後一つの壘の中に収められること。死後一緒になること。
kaamiNkuubi① (名) 着物のえりが首の内側に曲がること。亀の首のように、愚物らしく見える。
kaamiNzari① (名) 壘・瓦などの破片。
kaanunusi① (名) 菓子などを分ける時、皆に分け与えて自分の分け前が無くなってしまった分配者をこっけいにいう語。「皮の主」すなわち包みの皮の持主の意。
kaara① (名) 瓦。屋根に用いるほか、垣として積み、また城内・境内などの道路に敷く。～nusijun. 瓦で屋根をふく。
kaara① (名) 川。河。川原の転意。
kaarabaNta① (名) 川端。川べり。川岸。
kaarabuʔci① (名) 瓦ぶき(の家)。以前

は首里・那覇だけに多く、他では番所 (baNzu) だけが瓦ぶきであった。
kaarabuʔteeʔisiʔbuʔtee① (感) 女の子と遊んでいる男の子をからかって言うことば。
kaara=euN① (自 =kaN, =ci) 乾く。水分・湿気が去る。kaaracooru ciN. 乾いた着物。
kaaraʔisigaci① (名) 瓦石垣。上半を瓦と土、下半を石で築いた垣。屋敷内の中門の左右に多く見受けられる。
kaarajaʔa① (名) 瓦ぶきの家。
kaarajacaa① (名) 瓦屋。瓦焼きを業とする者。
kaarakanzujaa① (名) かわせみ。kaaramaʔtaraa ともいう。
kaarakisaN① (形) (道などが) 乾いている。kaarakisaru mici. 乾いた道。
kaaramaʔtaraa① (名) かわせみ。kaara-kanzujaa ともいう。
kaasaba① (名) 草ざり。雪駄。
kaasaci① (名) 川崎。《地》参照。
kaasaree① (名) 井戸さらえ。
kaasiNdaa① (名) 皮膚がただれている者。やけどなどで皮膚がむけている者。
kaasja① (名) 木の葉の広いもの。食物を盛ったり、包んだりする。多く用いるものは ʔjuunaagaasja, ʔuugaasja, saNniNgaasja, kubagaasja など。
kaasjabinoo① (名) 芭蕉の葉に包んだ弁当。
kaasjanuhwaa① (名) kaasja と同じ。
kaasjanuhwaaʔiju① (名) 魚の名。平目。また、かれい。
kaasjanuhwaaʔiziciN① (名) kaasja (木の葉の広いもの) で包んだもの。
kaata① (名) 川田。《地》参照。
kaaʔurii① (名) 出産祝いの行事。昔, kaa(湧き水のある所)に降りて行って、みそぎをしたのでこの名がある。小さい蟹

を何匹もうぶ着の上にはわせる。~nu ʔuhurumee. 出産祝いのごちそう。平民は ʔNbagii ともいう。

kaauu① (名) 下駄・ぞりりなどの皮の鼻緒。士族の娘および貴族が用いた。一般の士族は niriuu を用いた。なお, hanauu の項参照。

kaazeeku① (名) 革細工。また, それを業とする者。

kaazeeku① (名) 革細工を業とする者の卑称。

kaazi① (名) つど。度。たびに。ごと。ごとに。ʔicuru ~. 行くたびに。

kabaʔanda① (名) 香油。丁子などを入れて香りを付けた髪油。

kabacideekuni① (名) 料理名。にんじんを小麦粉で包み, 油で揚げたもの。

kabaguboo① (名) 料理名。ごぼうを小麦粉で包み, 油で揚げたもの。

kabajaci① (名) かば焼き。

kabakaza① (名) 芳香。よいにおい。

kabasjan① (形) 香りがよい。かんばしい。

kabi① (名) 紙。caakabi, 'waradoosi, basjuusi, mumudakabi, sugiwaru, huusjugami, minugami などの種類がある。おのおのその項参照。

kabiʔanzii① (名) 春秋の彼岸の祭り。平民の用いる語。銭型を打った紙を焚いて祭るのでいう。紙あぶりの意。士族は 'Ncabi という。

kabibai① (名) 紙張り。

kabigi① (名) こうぞ。紙の原料の木。

kabira① (名) 川平。《地》参照。

kabiʂicaa① (名) 紙漉きを業とする者。

kabiʔuci① (名) 彼岸その他の祭祀用に, 紙に銭型を打ちつける鉄製の道具。これで銭型を打ちつけた紙は ʔucikabi, ʔanzi-kabi などという。

kabu① (名) かんざしの端のしゃくし型の部分。

kabui① (名) 門・便所 (huru) などの上のおおい。

kabuimun① (名) かぶりもの。帽子など。

kabu=juN① (自 =raN, =ti) 商売で損をする。kanzunと同じ。ʔudukijun ともいう。

kabutu① (名) かぶと。

kaca① (名) 蚊帳。~ hwicun. 蚊帳を吊る。

kacaasii① (名) 三味線の曲の一種。ジャズのように急テンポで乱調子のもの。ʔaqca-meegwaa という乱舞に合わせるもの。

kacaa=sjuN① (他 =saN, =ci) かき混ぜて一緒にする。「かき合わせる」に対応する。

kacagi=jun① (他 =raN, =ti) (燈心などを) かき上げる。

kaca=nuN① (他 =maN, =di) ひっかく。爪でかきむしる。

kacaNkwa=sjuN① (他 =saN, =ci) 盛んにひっかく。かきむしる。

kaci① (名) 徒歩。~kara ʔicun. 徒歩で行く。

kaci① (名) 勝ち。

kaci① (名) 垣根。単独では, 普通いけ垣をいう。垣根の種類は ʔisigaci (石垣), kaaraʔisigaci (瓦と石の垣), hwiigaci (板垣), dakigaci (竹垣, また竹のいけ垣), deekugaci (deekuの垣), gikizigaci (つげの垣), hukuzigaci (福木の垣), cini-bugaci (竹を編んだ垣)など。

-kaci (接尾) 働くことに関係のある語の下につけ, 反復の意を表わす接尾辞。susui-kaci (ぞうきんがけ), hoocikaci (掃き掃除), 'juuzukaci (用足し) など。

kaciçiki① (名) 書き付け。また, 文書。

kacihoon=juN① (他 =raN, =ti) 掻き散らす。

kacihoorii① (名) 散らかっていること。乱雑。

kaciʔikusa① (名) 勝ちいくさ。

kaciʔiri=jun① (他 =raN, =ti) 書き入れ

kacikunun

- る。書き込む。
kaciku=nuNⓐ (他 =maN, =di) (食物を) かけ込む。
kacikN=sjuˊNⓐ (他 =saN, =ci) 突きくずす。搦いてくずす。
kacikuzi=juˊNⓐ (他 =raN, =ti) ひっかき回す。ほじくり回す。
kacimakiⓐ (名) 勝ち負け。勝敗。
kaçimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) ㊦つかむ。にぎる。ʔutiraN gutu ʔjuda ~. 落ちないように枝につかまる。㊦つかまえる。捕える。nusudu ~. 泥棒をつかまえる。
kacimiNgwa=sjuˊNⓐ (他 =saN, =ci) かけ回して濁らす。また、かけ乱す。かけ回して紛糾させる。
kaçimiNsoorceⓐ (名) 鬼ごっこ。つかまえないさの意。
kacimuNⓐ (名) 書きもの。
kaciunhanaⓐ (名) 垣花。《地》参照。
kacişigaişigaiⓐ (副) 抱きつき、すがりつくさま。~ sjun.
kacişii=juˊNⓐ (他 =raN, =ti) 書き添える。
ka=cuNⓐ (自 =taN, =qci) ㊦勝つ。㊦まさる。すぐれる。ziNbnunoo neeNşiga, kaagee kaqcoon. 才能は無いが、容姿はすぐれている。
ka=cuNⓐ (他 =kaN, =ci) ㊦(かゆい所などを) かく。㊦(恥を) かく。ʔicihazı ~. 大恥をかく。
ka=cuNⓐ (他 =kaN, =ci) 書く。描く。
ka=cuNⓐ (他 =kaN, =ci) 組み立てる。「構(かく)」に対応する。tana ~. 棚を作る。
kaçuuⓐ (名) かつお。かつおぶしの意もある。~ hweesjun. かつおぶしをけずる。
kaçuuⓐ (名) 嘉津宇。《地》参照。
kaçubusiⓐ (名) かつおぶし。
kaçudakiⓐ (名) 嘉津宇岳。国頭郡本部半島にある山の名。
kaçunsiˊNziⓐ (名) かつおぶしのだし汁。

- kadikaru**ⓐ (名) 嘉手刈。《地》参照。
kadinaaⓐ (名) 嘉手納。《地》参照。
kaduⓐ (名) 義理固さ。廉直な心。~nu ʔariwadu ninziN ʔjaru. 義理があつてこそ人間だ。
kaduⓐ (名) 角(かど)。
kaduda=cuNⓐ (自 =taN, =qci) 角が立つ。円滑にいかない。
kadunucaasiⓐ (名) 軒を相接した隣。すぐ隣(の家)。
kagama=juNⓐ (自 =raN, =ti) かがむ。しゃがむ。うずくまる。
kagana=juNⓐ (自 =raN, =ti) 関係する。関与する。
kagana=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 手を下す。手を加える。関与する。関係する。taagan naraN. ʔariga tii kaganasiwadu najusa. だれにもできない。彼が手を下してはじめてできる。
kaganⓐ (名) 鏡。~ hweesjun. 鏡(金属製)をみがく。catan mosizanja mizinu ʔwinu ~, ʔugamarija sjuşiga zijuja naraN. [北谷まうしぎやねや 水の上の鏡 拝まれやしゆすが 自由やならぬ] 北谷まうし(女の歌手の名)は自分にとっては水鏡と同じこと、顔を見ることはできても、自由にはならない。
kaganhweesaaⓐ (名) 鏡(金属製)をみがくことを業とする者。kagan hweesabira (鏡をみがきましょ)と呼んで歩いた。
kageeⓐ (名) 支配・保護のもとにあるもの。領地。封土。支配圏。勢力圏。また、配下にある者。
kagee=juNⓐ (他 =raN, =ti) 支配する。また、保護する。sima ~. 部落を支配する。duku kageeşiziinee ʔwarabinu tamee ʔaran. あまり保護しすぎると子供のためにならない。
kageeʔuciⓐ (名) 領内。支配圏内。
kagiⓐ (名) 欠け。欠けること。欠けたも

の。欠員・欠席者など。kaki とは別。
kagi=juN① (自 =raN, =ti) 欠ける。不足する。また、欠席して欠ける。欠番となる。kakijuN とは別。
kagiN① (名) 加減。kaginoo caaga. (味などの) 加減はどうか。geecikagiN (かぜ気味)。
kagu① (名) 駕籠。貴族のみが普通に用いた。士族は、公用・婚礼・葬式などにのみ用いた。その敬語は ʔanda, ʔunaanda. 平民は病人などを運ぶとき、囲いのない ʔjamakagu を用いた。
kaguçukujaa① (名) 駕籠作りを業とする者。
kaguduuru① (名) 竹で籠のように編んだ、あんどん式の燈籠。畳めないが、安価なので、一般に多く用いられた。
kaguisiʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔuguşiku の項参照。
kagukaci① (名) 駕籠かき。
kagusami=juN① (他 =raN, =ti) ⊖監督する。監督して勉強などをさせる。⊖加護する。神仏の通力を加えて守る。tuidenşi mijama sigeru tani ʔiradi, ʔwagami kagusamiru kutunu sjurasja. [鳥だいでんす深山 しげる谷選で わが身かぐさめる ことのしほらしや] 鳥でさえ深山のしげった谷を選んで自分を守ることの殊勝さよ。
kagusima① (名) 鹿児島。
kahuu① (名) 家風。
kahuusi① (名) ありがと。目下への感謝の語。目上へは nihwee deebiru という。~ siibicii kutoo ʔarani. 感謝すべきことではないか。~ ʔjata. ありがと。
kai① (名) 仮。~nu haNsi. 仮の間に合わせ。
-ka^{vi}i (助) へ。に。目的地を示し場所を表わす語につく。gaqkoo~ ʔicuN. 学校へ行く。maa~ ʔicuga. どこへ行くか。

ziruutaa~ ʔicuN. 次郎の家へ行く。
kaigu① (名) 蚕。ʔitumusi ともいう。
kaija① (名) [仮屋] ⊖仮屋。仮小屋。綱引き(çinahwiçi)の時などに見物席として作る仮の棧敷。⊖在番奉行の役所。
kaikoo① (名) [開合・開口] 開合。開音と合音との区別。エ段、オ段の母音を [i], [u] と発音し、またキをチのように沖繩式に発音するのを合とし、それらを「けせて…」、「こそと…」、「き」のように書き、または、読書の場合などに日本本土式に発音するのを開とする。~ tadasjuN. 開合を正す。
kaikuN① (名) 開墾。~ sjun.
kaikwato① (名) [開化党] saNsii と同じ。
kaimuN① (名) 借りもの。
kaja① (名) 茅。屋根をふくのに用いる。
kajaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 持ち運ぶ。とくに、何度も持ち運ぶ場合にいう。
kajabuci① (名) 茅ぶき。
kajabucijaa① (名) 茅ぶきの家。
kajajaa① (名) kajabucijaa と同じ。
kajoo① (名) 嘉陽。[地] 参照。
kajui① (名) ⊖通うこと。⊖渡り廊下。母屋と離れなどを結ぶ、板敷きの通路など。
kajuizi① (名) [文] 通い路。ʔwakasa hwi-tutucinu ~nu suraja ʔjaminu saku-hwiraN kurumatoobaru. [若き一時の通路の空や 闇のさくひらも 車たうばる] 若い時代に女のもとに通う身には、暗やみの急な坂も砂轡車(kuruma)を据えつけるような平原と同じである。
kaju=juN (自 =raN, =ti) [文] 通う。口語では多くは単に ʔicuN (行く) という。
ka=juN① (他 =raN, =ti) 借りる。ʔirajuN の項参照。
ka=juN① (他 =raN, =ti) 刈る。
kakaidee① (名) ねばり強い力。一事に執心できる力。~nu ʔa. 物事にねばり強い。

kakaimuN

kakaimuN①(名) 憑きもの。もののけが憑くこと。生霊または死霊が何か頼みごとなどあって人に憑くこと。

kakaisa'araci①(名) さしさわり。障害。nuunu ~N neen. 何のさしさわりもない。

kakaisi'gai①(副) ろるさくつきまとうさま。まつわりつくさま。?Nninu huN ?a-ran muzinu huN ?aran, 'jakara 'ju-mudu'jaga ~. [稲の穂もあらぬ 麦の穂もあらぬ やからよむ鳥が かかりすがり] 稲の穂でも麦の穂でもないわたしに、ろるさい鳥(男)どもがつきまとして来る。

kaka=juN①(自 =ran, =ti) ①掛かる。ひっかかる。また、掛かって下がる。?ami-dainakaj taciinee mizinu ~. 軒下に立っていると水がかかる。②(費用が)掛かる。③たよる。厄介になる。ši'za ~. 兄にたよる。?jušidu kakajuru. 言う人に頼む。④碇泊する。⑤かかわる。…の対象となる。sikiNnu kucišibani ~. 世間のうわさに上る。⑥及第する。合格する。

kakan①(名) [下裳] 女が腰から下に着ける着物。腰巻状で後ろに合わせる式のもの、労働用の前から股を通すふんどし式のもの二種ある。duzin と一緒に着る。

kakawai①(名) 係わり。関係。掛かりあい。

kakawa=juN①(自 =ran, =ti) 係わる。関係する。

kakazi①(名) 賀数。《地》参照。

kakazi①(名) 嘉数。《地》参照。

kakazi=juN①(他 =ran, =ti) かじる。?u-janu mun ~. 親のすねをかじる。

kakechicee①(副) いろいろなものが互いに関連し合うさま。~ ?imi 'NNZUN. いろいろなものが結び合わさった夢を見る。

kaki①(名) かけ値。売値より高いいう値。

kaki①(名) かけら。茶碗などの欠けたは

し。

kaki?aa=ju`N①(自 =ran, =ti) 間に合う。定められた期限内に間に合う。

kaki?aasimu`N①(名) 期限付きのもの。正月用・婚礼用に頼まれた物など。

kaki?aa=sju`N①(他 =san, =ci) 間に合わせる。期限に遅れないようにする。

kakibanasi①(名) 横になって話をすること。

kakibuku①(名) 掛保久。《地》参照。

kakiçi=zun①(他 =gan, =zi) あとを継いで掛ける。掛け継ぐの意。無尽などの掛金を引き継いで、その掛金を取る権利を得る。

kakiee①(名) 掛け合い。談判。

kakiguNzuu①(名) びた一文。きわめてわずかな銭。欠けた一厘銭の意。

kaki=juN①(他 =ran, =ti) ①掛ける。kanmui ~. 帽子を掛ける。hasi ~. 橋を掛ける。mizi ~. 水を掛ける。?udi ~. 腕ずもうで、互いの腕を掛ける。sanazi ~. ふんどしをする。nasaki ~. 情をかける。

②(費用・掛け金を)掛ける。また、賭ける。hjaqkwan ~. 2円掛(賭)ける。③掛け値をいう。kakiti ?icoon. 掛け値を言っている。④掛けもつ。tatukuru ~. 二箇所掛け持つ。⑤(はかりに)掛ける。hakai ~. はかりに掛ける。kakiree kitanudu 'uuriiru. 掛ければ、はかりの竿が折れる。甲乙ない。また、どっちもどっちだ。⑥領する。支配する。統治する。sima ~. 領土を支配する。⑦(接尾)…し掛ける。…し始める。kamikakijun (食べ掛ける)など。

kaki=juN①(自 =ran, =ti) 肘をつき、手で頭をささえて横になる。

kaki=juN①(自 =ran, =ti) 欠ける。損じる。cawanu ~. 茶碗が欠ける。

kakikaa①(副) 欠けたところだらけ。~ sjooru cawan. 方々欠けた茶碗。

kakikutubaⓄ (名) 掛けことば。音が同じか類似していて、両様の意味を兼ね含ませたことば。たとえば *ʔicaga nati ʔicura hatija siranaminiu*… [いきやがなて行きゆら 果や白波の…] どうなって行くか果ては白波の(知らないが)…。

kakimeeⓄ (名) 無尽などで、掛けておいてまだ受け取っていない出し前。のちに利子と共に受け取る権利のある掛け金。ʔukuimee (送り前) の対。

kakimuciⓄ (名) 掛け持ち。二つ以上の仕事を兼ね持つこと。

kakimuNⓄ (名) 掛け軸。掛け物。

kakimuN① (名) 欠けたもの。欠けた茶碗など。

kakininⓄ **ʔooran**Ⓞ (句) お話にならない。とてつもない。～ *magii ʔjan*。とてつもなく大きいのだ。～ *ʔjaqsan*。お話にならないほど安い。

kakiruma① (名) 加計呂麻島。奄美群島の島の名。

kakisiNⓄ (名) 掛け金。無尽などの掛け金。

kakiʔutaⓄ (名) 諷刺歌。物にたとえてよんだ歌。たとえば, *kamagwa ʔutugakuja kuhwinʔuku ʔjašiga, ʔazinu miʔutugeja ʔanpamisaci*。(真壁按司の愛妾カマグワのあごは古辺底のように短いが、真壁按司のおあごは残波岬のように長く出ている。) のようなもの。

kakiziciⓄ (名) 丁字形をした杵。穀物・餅などを搗くもの。また、杭などを打つ槌として用いるもの。

kakooⓄ (名) 「かかふ」に対応する。⊖衣類のぼろ。⊖おしめ。おむつ。⊖ぼろをより合わせて作った火種。畑・山などに行く時、たばこの火種として持って行くもの。

kakoobikazaⓄ (名) きな臭いにおい。～ *sjun*。きな臭いにおいがする。

kakuⓄ (名) 病名。食道癌・胃癌・胃かいようななどをいう。酒が原因ならば *sakiga-*

ku という。

kakuⓄ (名) 水夫。舟子。「かこ」に対応する。

kakuⓄ (名) 四角。方形。

kakubiçiⓄ (名) とくに仲のよい間柄。ʔaritu 'wantoo ~ ʔjan。彼とわたしとは別懇の間柄だ。

kakuganiⓄ (名) 掛けがね。戸をかたくとぎすための用具。

kakuguⓄ (名) [格護] ⊖大切にしまいこむこと。秘蔵。～ *sjun*。秘蔵する。⊖守護。 *kamizuuga* ~ ʔjudan suruna。[亀千代が格護 油断するな (忠臣身替)] 亀千代を守護して油断するな。

kakuguⓄ (名) 落としぶた。箱の内側にはまりこむように作ったふた。また、他の箱の内側のへりにはまりこむように作った箱。衣服を入れる *kee* に付いている。

kakuguⓄ (名) 覚悟。

kakui① (名) 囲い。屋敷などの周囲の垣。石で囲ったものは *ʔisigakui*、竹のものは *dakigakui*。

kaku=junⓄ (他 =*ran*, =*ti*) ⊖囲う。かくまう。専有する。 *zuri* (女郎) の場合は *çimijun* という。⊖ *cunzii* (中国式の将棋) で、王を囲う。

kaku=nuNⓄ (他 =*man*, =*di*) 囲む。

kakusiⓄ (名) 隠すこと。隠しだて。 *nuu-kakusinu neeN qcu*。隠しだてのない人。

kakusigutuⓄ (名) 隠しごと。

kakusiimaaʔsiiⓄ (副) ひた隠しに隠して。大事に隠して。

kaku=sjunⓄ (他 =*san*, =*ci*) 秘密にする。他に知られないように隠す。ただ見えないように隠すことは *kwaqkwasjun* という。

kakuziⓄ (名) あご。下あご。両わきに出たあごの骨もふくめて下あご全体をいう。口の下のとがった部分は *ʔutugee* という。～ *ʔusujun*。あごをおさえる(がっ

kama

かりした場合の動作)。

kamaⓐ (名) 神谷。《地》参照。

kama① (名) かまど。昔は石三つで作ったので *ʔumiçimun* (かまどの神) という名がある。のち、土をこねて作るようになった。

kama① (名) 鎌。ʔirana ともいう。

kamabuku① (名) かまぼこ。多く飛魚で作る。

kamaciⓐ (名) ⊖かまち。農家の土間からの上がり口の上に渡した横木。⊖頭の単語。～'wararin doo. 頭を割られるぞ(けんかの文句)。

kama=jun① (他 =an, =ti) かまう。kamu-jun と同じ。kamaan. かまわない。ほうっておく。

kamanui① (名) かまど作り。こまかく刻んだわらを土とこね合わせて作る。かまどは宗教的に大事なものであるので、吉日を選んで行なり。

kamanuibiiⓐ (名) かまど作りの日。吉日が選ばれる。

kamaNtaⓐ (名) ⊖大なべのふた。農家できつまいもを煮る大きななべのふたをいう。かや・わらなどを編んで作る。⊖魚名。あんこう。形がなべのふたに似ているのでいう。

kamaNtaⓐ (名) 情夫。かくし男。

kamarasjaa① (名) 気むずかしい者。

kamarasjan① (形) 気むずかしい。よく苦情をいう。きげんをとりにくい。kamarasii qcu. 気むずかしい人。

kamasaaⓐ (名) 魚名。かます。

kamaⓐ **sikajuN**ⓐ (句) 男女・夫婦などが、仲よくしっくり行く。nootaru kama-du sikajuru. 相応の者が夫婦となる。kama sikati taija ʔanujumadin. [文] 仲よくふたりはあの世までも。

kamazeeⓐ (名) こおろぎ。kama (かまど) のそばにいる see (ばった) の意。

kamaziiⓐ (名) かます。穀類を入れる四角い袋。

kamazisaaⓐ (名) 愛想のない者。

kamazisi① (名) 無愛想。～kuujuN. なが虫をかみつぶしたように、無愛想にしている。

kameeⓐ (名) [かまい] 首里城の建物の名。

kamee① (名) 構え。こしらえ。作り。また、身の構え。zaagamee. (座敷のつくり)

kameeimunⓐ (名) 拾い物。拾った物。tumeeimun ともいう。

kamee=junⓐ (他 =ran, =ti) (tumeejun と同義であるが、やや下品な語) ⊖(落とし物などを)拾う。拾いものをする。⊖捜し求める。tuzi ~. 妻をめとる。

kamiⓐ (名) 神。天の神・地の神・屋敷の神・便所の神・かまどの神など、神は至る所に多い。死者の霊も三十三年忌を過ぎると神になる。

kamiʔacineeⓐ (名) (女が) 商品を頭にのせて売り歩くこと。

kamiʔasjagiⓐ (名) [神軒] 部落の神を祭っている建物。その前の広場で祭りなどを行なり。

kamiburaariⓐ (名) 栄養不良。食うことが不足 (buraari 参照) している意。

kamiburiⓐ (名) kamidaari と同じ。-buri <hurijun (狂う)。

kamiciⓐ (名) 胃けいれん。また、胃けいれんの持病があること。胃けいれんで苦しむことを kamirarijun という。

kamidaariⓐ (名) 神がかり。神人 (kamiNcu) になる際の精神異常の状態。しきりに神事を口走る。kamiburi ともいう。

kamigudeeⓐ (名) 先史時代。大昔。上御代の意。

kamigurisjanⓐ (形) 食べにくい。歯痛・遠慮などのために食べにくい。

kamihaN=sju`Nⓐ (他 =saN, =ci) 食べそこなり。食いはぐれる。また、失業する。
kamihutukiⓐ (名) 神仏。
kamiiⓐ (名) 係り。係りの役人。<kamujun。
kamijaaʔusiⓐ (名) よく人を突く牛。
kamijamaⓐ (名) 神山。《地》参照。
kami=juNⓐ (他 =raN, =ti) ㊦頭の上ののせる。(女が運搬のために荷を) 頭にのせる。kamirasjun。(女の頭に荷を) のせてやる。ひとりで運べるが、ひとりでは頭にのせられない時、それを手助けする場合をいう。㊦いただく。長上からもらう意の敬語。頭上におしいただく意。㊦(牛が) 角で突き上げる。㊦上のにのせる。
kamikuⓐ (名) 上の句。琉歌は上の句8・8, 下の句8・6, 全体で30字より成る。
kaminigeeⓐ (名) 神への祈願。お祈り。
kaminiiⓐ (名) 頭にのせて運ぶ程度の荷物。kami-<kamijun。mucinii より重い。
kaminiNziⓐ (名) 神を信仰すること。神に祈ること。神頼み。
kaminukusiⓐ (名) 食べ残し。食べ残すこと。また、食べ残した余り物。
kamiNeuⓐ (名) 神に仕える人。神人。神の人の意。nuuru, nigami, ʔukudi およびそれらに仕える女たちの総称。その項参照。
kamirarijaaⓐ (名) 胃けいれんの持病のある者。
kamira=rijuNⓐ (自 =riraN, =qti) 胃けいれんなどで苦しむ。棒で突き上げられるように痛む状態をいう。牛の角で突かれることを kamirarijun といい、そのように突き上げられるのでいう。kamijun の受身の形。
kamira=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 火の上ののせて暖める。<kamijun (上のにのせる)。caa ~。お茶を暖める。ʔusirun kami-

racikara numi ʔoo. おつゆも暖めてからお上がり。
kamisasiⓐ (名) 男用のかんざし。男が髪を結っていたころのもので、梅の花の形をした飾りが付いていた。貴族のものは金製、士族のものは銀製、平民のものは真鍮と決められていた。貴族のものは敬って mi-kamisasi または 'ncanzasi という。
kamisasibanaⓐ (名) 植物名。さくららん。
kamisimuⓐ (名) 身分などの上下。上の者と下の者。
kamjaⓐ (名) 神谷。《地》参照。
kamuⓐ (名) 鴨。
kamu=juNⓐ (他 =raN, =ti) かまう。関係する。干渉する。世話する。kamunna. かまうな。干渉するな。nuun ʔaraN munnu qeu kamuti. 何の関係もない人が人に干渉して。
kamurooⓐ (名) ㊦子供の髪の結い方の一種。髪の上部をまげて元結び糸でとめるもの。㊦kaagarimoo (かっぱ) の那覇語。
kamuroowarabiⓐ (名) 髪を kamuroo に結っている子供。
kanaⓐ (名) 膝 (かな)。かせにかける前の一束にした糸。kana を染色したのち、かせ (kasi) にかける。のち、seejaNgasi が輸入されてからは、kana を作るのは芭蕉布を織る時のみとなった。~ sikoojun. kana を作る。
kanaⓐ (名) かな。大工道具の一種。
kanaⓐ (名) 仮名。~ tadasjun. 発音を正しくする。逐字的に仮名で書いたとおりに正す意。平民式発音を士族式の発音に矯正する。すなわち、たとえば cici (月) を çici, mizi (水) を miçi, suubu (勝負) を sjuubu のように改める。士族の子弟はこのような発音の矯正を受けて、士族式の音韻体系をもつようになる。
kanaahwica`aⓐ (副) やたらに噛むさま。また、よく噛むさま。~ sjun.

kanaasjuN

kanaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 噛む。咀嚼する。

kanaganaatu① (副) 愛想よく。仲よく。また、かわいがって。taee ~ sjoon 'jaa. ふたりは仲よくしているねえ。

kanagi=juN① (他 =raN, =ti) からげる。まくり上げる。qibui ~. 尻をからげる。tamasi ~. 心をひきしめる。

kanagu① (名) 金具。器具につける金物。

kanagušiku① (名) 金城。(地) 参照。

kana=juN① (自 =aN, =ti) ①達者である。働ける。自由がきく。かなりの意。duugara ~. 体が達者で働ける。tiinu kanaaN. 手の自由がきかない。kucinu ~. 口が達者である。口答えをよくする。②かなり。望み通りとなる。nigeegutunu ~. 願いがかなり。③かなり。敵し得る。'wagaa kanaaN. わたしではかなわない。④気に入る。ciini ~. 気に入る。心が合う。kukuruni kanajuru 'winagu. 心かなり女。気に入った女。

kanakudii① (名) かななくず。

kanakusu① (名) kanikusu と同じ。

kanami① (名) 交際上のかなめとなる点。すなわち、挨拶。また、交際上のかんどころ。~ kakijun. 挨拶すべき所には必ず挨拶する。義理をかかさない。

kanamizoozi① (名) 挨拶上手。交際上手。

kanamuN① (名) 金物。金属製品。

kanamuNjaa① (名) 金物屋。金物を売る店。

kanarazi① (副) 必ず。文語的な語。kan-nazi または kan-naazi が普通。

kanasiNgwa① (名) いとし子。愛兒。

kanasiru① (名) 金気のある汁。新しい鍋釜で物を煮た場合などに出る汁。

kanasjaN① (形) かわいい。愛らしい。kanasja sjun. かわいがる。愛する。

kanazicaa① (名) kanizicaa と同じ。

kane① (名) ①借地料。また、小作料。

②地租。また、租税一般。

kaneegakai① (名) 他人の土地を小作すること。

kaneegaki① (名) 土地を他人に小作させること。

kaneejusi① (名) 小作料を集めること。小作料を持った小作人たちが地主の家に集まり、地主はその日ふるまいをするのが例。

kaneemuN① (名) 働き者。よくかせぐ者。

kani① (名) ①矩。かねじゃく。L字形のものさし。②生活上・社交上のわく。社会的な規範。常識。また、常識があること。頭がしっかりしていること。理性。理解力。~nu neen. 常識がない。理性がない。~nu handitoon. 常識をはずれている。頭がおかしい。~ kakijun. (社交などで) 常軌をはずさない。

kani① (名) 金。金属。金銭の意では zinkani という。

kani① (名) 鋸。また、鉦。

kanibutuki① (名) 金仏。金属製の仏像。

kanibuubuu① (名) こがね虫。かなぶんぶん。

kaniciei① (名) 綱引き (qinahwici) の時、雄綱 ('uunna) と雌綱 (miinna) とのつなぎ目に通す木の棒。両方の綱の先端は輪になっており、雌綱の輪に雄綱の輪を入れて、その雄綱の輪に丸木棒を通し、両方で引き合う。kaniciboo ともいう。

kaniciboo① (名) kaniciei と同じ。

kanicicizaa① (名) 綱引き (qinahwici) の時、雄綱と雌綱とが互いに kanicigui に寄せて来た時、kaniciei を両方の綱に貫き通す役の者。大力の者が選ばれて当たる。

kanicigui① (名) 綱引き (qinahwici) の時、雄綱と雌綱とが相接し、互いにつなぐ場所。綱引き場の中央に当たる。

kanigaa① (名) 鉦山。とくに銅山。沖縄では鉦山としては羽地に銅山があっただけであった。金 (kani) の井戸 (kaa) の意。

kanigara① (名) かなてこ。鉄杖。
kaniguşiku① (名) 兼城。《地》参照。
kanihandi=juN① (自 =raN, =ti) 蹙辱する。ぼける。老人以外にも、ぼける・性格がルーズになることにいう。sjookaninu handijun ともいう。kani はかね尺・常識などの意。
kanihwiibasi① (名) 金火箸。金属製の火箸。
kanii① (名) かのえ(庚)。十千の一つ。暦の上では吉日として、転宅・建築などの日に選ばれる。
kani=juN① (他 =raN, =ti) 兼ねる。口語では kakijun, taaçi sjun などという。
kani=juN① (他 =raN, =ti) さえぎる。mizi ~. 水の流れをさえぎる。çinasaani kaniti qcu tuusan. 綱でさえぎって人を通さない。
kanikadan① (名) 兼階段。《地》参照。
kaniku① (名) ①海岸地方の砂地。②馬場。③地名に多く、kaniku [兼久], Yuhuganiku [大兼久], meeganiku [前兼久], Yuciganiku [内兼久] などがある。
kanikusu① (名) かなくそ。鉄を焼いてきたえる時に落ちるかす。
kanimaa=sju'N① (他 =saN, =ci) ①包囲する。とり囲む。②かぼら。擁護する。
kanisi① (名) 兼次。《地》参照。
kanisjoo① (名) 金性。木火土金水の五行の一つで、これを人の生年に配したもの。
kaniti① (名・副) かねて。以前。また、前もって。あらかじめ。~karanu nige. かねてからの願い。宿願。
kaniyubi① (名) 金属製のたが。桶類のたがで、鉄・銅などで作ったもの。
kanizicaa① (名) 金づち。kanazicaa ともいう。
ka=nuN① (他 =maN, =di) 食う。食べる。敬語は YusjagajuN. 動物について、また、卑しめている場合は kwajuN 'とい

ろ。kamaran. 食べられない。kamaraNkami. 食べられないのに、食べ(ようとす)ること。

kanutu① (名) かのと(辛)。十千の一つ。
kaN① (名) 寒。寒さ。cuuja ~nu Yaqsaa 'jaa. きょうは寒いねえ。'jamatunu kanoo Yucinaatu kawajuN doo. 日本本土の寒さは沖縄と違うぞ。
kaN① (名) 勘。さと。~ tujuN. さと。了解する。
kaN① (名) 羹(かん)。羊羹の類をいう。kumigaN (米の粉の羹), maamigaN (小豆の羹)など。
kaN① (副) ころ。かく。かように。~ nataru Ywija sikataa neen. ころなった以上しかたがない。~ kuuwa. ちょっと来い。子供を呼ぶ時にいう。~ caaNdi. ちょっと来て見る。~ kuuwa. と同じ。
kaNbin① (名) 勘弁。他人の過失を許すこと。
kaNbjoo① (名) 看病。~ sjun.
kaNcegee① (名) 勘違い。
kaNceiku① (名) 寒菊。茎や葉を茶に入れて飲み、その風味を愛する。
kaNda① (名) ①かずら。つる草の類。②甘藷。さつまいも。その植物としての名。また、そのつる。根は ?Nmu という。
kaNdabaa① (名) さつまいもの葉。
kaNdabuni① (名) さつまいもの茎。-buni <huni (骨)。
kaNduu① (名) 鈍感。勘が鈍いこと。
kaNgee① (名) 考え。思考。考案。
kaNgee=juN① (他 =raN, =ti) ①考える。思索する。②世話する。面倒をみる。?ariga kutu ~. あの人の世話をする。
kaNgeemuN① (名) 考えごと。
kaNka'N① (副) ころころ。かくかく。~ nakutunu Yatan. かくかくのことがあった。
kaNmui① (名) かんむり。頭にかぶるもの

kaNmusi

- 一般。帽子。
- kaNmusi⑩ (名) 虫気。体質の弱い幼児のひき起こす癩。
- kaNna⑩ (名) [新] カンナ。だんどく。hanabasjuu と同じ。
- kaNnaa⑩ (名) 漢那。《地》参照。
- kaNnaazi① (副) 必ず。kaNnazi, kana-razi ともいう。
- kaNnai⑩ (名) かみなり。
- kaNnazi① (副) kaNnaazi と同じ。
- kaNneeru⑩ (連体) かよるな。こんな。kaneeru ともいう。文語は kaneru。～muN. こんなもの。また、こんなつまらないもの。こんなやつ。
- kaNnin⑩ (名) 堪忍。
- kaNnuu① (名) 肝要。～na muN. 肝要なもの。かなめとなる大切なもの。
- kaNpaci① (名) はげの一種。頭の傷跡などにできて、赤く光る。hudii ともいう。hudii ~ ꞑucicu ꞑagaraci ꞑjuban kwee. はげはげ、お月さまを上がらせ光らせて、夕飯を食え(はげをからかった童謡の文句)。
- kaNpuu⑩ (名) 男の子の髪型。髪が短くて結えない場合に、折りまげて小さく結うもの。女の子のそれには haajuui という。また男の子が4～5歳ごろ入れ髪をして結うものは Piriganhaajuu という。
- kaNru⑩ (名) 寒露。二十四節の一つ。沖繩で鷹の渡る季節である。
- kaNruu⑩ (名) kaNru と同じ。
- kaNsaci① (名) 鑑札。営業免許証などを書いた札。
- kaNsi① (副) かように。こんなに。<kaN +qsi (して)。～nanzi ꞑandee ꞑumaantaN. こんなに難儀だとは思わなかった。
- kaNsi=juN⑩ (他 =raN, =ti) かぶせる。かぶらせる。boosi ~. 帽子をかぶらせる。ꞑunzi ~. 恩を着せる。
- kaNsjuka① (副) これほど。かほど。hwiN-suuja ~ kurisjandisee namadu ꞑa-kajuru. 貧乏はこれほど苦しいのだということが、今になってわかった。
- kaNsjukaawaaki⑩ (副) これほどまで。～muçikasii mun ꞑandee ꞑumaantaN. これほどまでにむずかしいものとは思わなかった。
- kaNsjuN ꞑN⑩ (自・不規則) kaN (こう) と sjun (する) のつまった形。こうする。
- kaNsui⑩ (名) かみそり。
- kaNsuiçikee⑩ (名) かみそりを使うこと。かみそりの使い方。
- kaNtaa⑩ (名) おかっぱ。少女の髪型。髪を結うまでにならない年ごろの、耳のあたりまで垂らして切った髪。また、おかっぱ頭をした平民の少女。また、おかっぱ頭の少女(士族)をその家族の者などが呼ぶ語。召使が呼ぶ場合には、敬語にして kaNtuuu という。貴族の少女の場合は kaNtuumee と呼ぶ。
- kaNtii (接尾) …しかねること。…できかねること。macikantii (待ちかねること), ꞑiikantii (言いかねること), ꞑiceekan-tii (会いかねること。届きかねること) など。
- kaNtoohu⑩ (名) 焼き豆腐。路上で女たちが扇をはたはたさせて焼きながら売っていた。ꞑacidoohu ともいう。
- kaNtu⑩ (名) 髪 (karazi) の卑語。
- kaNtukuumee⑩ (名) 髪のかみ合い。女のけんかをいう。
- kaNtuuu⑩ (名) kaNtaa (おかっぱ娘) の敬語。召使などが主人のおかっぱの娘を呼ぶ語。
- kaNtuumee⑩ (名) おかっぱ (kaNtaa) にした貴族の娘を召使などが呼ぶ敬称。
- kaNzaa⑩ (名) 鍛冶屋。鍛冶を業とする者。
- kaNzaajaa⑩ (名) 鍛冶小屋。
- kaNzatu⑩ (名) 神里。《地》参照。
- kaNzeeku⑩ (名) 鍛冶屋。また、いかけ屋。

kanzaa ともいう。
 kaNzeeku① (名) kaNzeeku と同じ。
 kaNzi① (名) ①たてがみ。②とさか。
 kaNzimun① (名) ①頭にかぶるもの。②夜、体をおおうもの。ふとん。夜具。
 kaNzin① (名) [肝煎] 葬式の時、一切の世話をする世話役。隣近所の人が受け持つ。
 kanzoo① (名) 勘定。金銭の計算。sanmin ともいう。
 kanzoo① (名) 甘草 (かんそう)。あまぎ。薬草で、産婦の乳が出るまでの間、煎じて産児に飲ませたりした。
 kanzujaa① (名) かわけせみ。もと kanzui といった。
 kan=zun① (他 =dan, =ti) ①かぶる。boosi ~. 帽子をかぶる。②(負債などを) 負う。損をする。sii ~. 負債を負う。muutu ~. (商売で)元がとれずに、損をする。③(接尾) いっぱいに…する。こぼれるほど…する。sacikanzun (咲きこぼれる), 'wareekanzun (盛んに笑う。笑いこぼれる) など。
 kaqçika=nun① (他 =man, =di) つかむ。ひつつかむ。
 kaqcin① (名) 勝連。《地》参照。
 kaqcinnumisaci① (名) 勝連岬。沖縄本島東海岸にある岬。
 kaqkoo① (名) 格好。ようす。なりふり。
 kaqkuikaqkui① (名) 下駄 (の音) の小兒語。
 kaqpa① (名) 合羽。
 kaqpicı① (名) 親類。Yweeka と同じ。
 kaqsan① (形) ①(お産・病気などが) 軽い。②(進物などが) 軽少である。目方が軽い意では gaqsan という。
 kaqti① (名) 勝手。都合のよいまま。きまま。'waakaqti. わたしの勝手。Yariga ~. 彼の勝手。
 kara① (名) (豆などの) さや。maaminu

~. 豆のさや。maamiguru ともいう。
 kara① (名) から。からっぽ。中身がないこと。'Nna ともいう。
 kara① (名) 体格。また、体力。~ çicun. 体力がつく。
 -kara (助) ①から。空間・時間の起点を示す。kuma~ Ymamadi. ここからあそこまで。cuu~ Yacamadi. きょうからあしたまで。sigutoo şimaci~ muduree. 仕事は済ませてから帰れ。②を。通行する場所を示す。Yariga mici~ Yaqcutan. 彼が道を歩いていた。③で。通行の手段を示す。kaci~ Yicun. 徒歩で行く。huni~ Yicun. 船で行く。④から。原料・根拠などを示す。sakee kumi~ çukujun. 酒は米から作る。Yunu kutu~. そのことから。
 -kara (接尾) 匹。頭。豚などの家畜を数える時の接尾辞。cukara (一頭), takara (二頭) など。
 karabasi① (名) 利口者。主に才智のある子供をいう。
 karagaaki① (名) 井戸・川などが、すっかり干上ること。
 -karagi (接尾) 束。束ねたもの(糸・たきぎ・萱・牧草など)を数える接尾辞。cukaragi (一束。また、一束になるほどの分量), takaragi (二束) など。
 karahaai① (名) 羅針盤。kara (唐) 渡来の haai (針) の意。
 karahaatui① (名) 鶏の一種。大型で、闘鶏用にもされる。略して haatui ともいう。カラバ (ジャカルタの古称) から来た鳥の意か。
 karahuni① (名) 骸骨。がら。肉の付いていない骨。~nu gutoon. 骸骨のようにやせている。
 karahwaahu① (名) 唐破風。首里城正殿 (munđasıi) の屋根を特にさす。また、首里城正殿の俗称。

karahwee

karahweeⓄ (名) たきぎの灰。

karahwisjaⓄ (名) はだし。

karaʔibaiⓄ (名) [新] からいばり。

karajoosaNⓄ (形) 体が弱い。

karajukaⓄ (名) 板敷き。何も敷いてない板の間。

kara=juNⓄ (他 =aN, =ti) (家畜などを) 飼う。

karaka=juNⓄ (他 =raN, =ti) 長くかかる。手間どる。cusigutu nagee karakatooN. 一つの仕事に長くかかっている。

karakaniⓄ (名) 青銅。唐金。

karakaraaⓄ (名) 酒を入れる器の一種。いろいろの形があるが、丸くて扁平、中央に注入口、わきに注出口が付いた形のものが多。倒れにくく、また倒れてもこぼれにくい。mitaN ~ 'jooNciguhwiN. 少少足りない人間。満たない karakaraa や、いっぱいはない小瓶の意。振ればかえって大きい音がする。mitaN ~ 'jooNcigukuru. ともいう。

karakasaⓄ (名) 唐傘。かぶる笠に対する、柄のあるさし傘。

karakuiⓄ (名) ⊖機械。⊖三味線 (saNsini) のねじ。mudi, ziihwaa ともいう。

karakuimagi'buiⓄ (副) からみつぎ、まつわりつくさま。~ sjUN.

karaku=juNⓄ (自 =raN, =ti) からみつく。まつわりつく。

karakuziⓄ (名) からくじ。はずれたくじ。hwiihwirikuzi (屁ひりくじの意) ともいう。

karamaaⓄ (名) 玩具の名。蝶型をしていて、ばねじかけで羽が閉じるようになっており、あげたこの糸に通して空中を上下させる。

karama=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 巻きつける。ʔiicuu ~. 糸を巻きつける。

karami=juNⓄ (他 =raN, =ti) からめる。捕えて縛る。

karamitu=juNⓄ (他 =taN, =ti) からめとる。karamijUN と同じように使う。

karamuNⓄ (名) 辛いもの。刺激性の辛いものをいう。塩辛いものは sjuuzuumun。

karamuNⓄ (名) おかず (katimun) のない飯。飯だけ。

karanaⓄ (名) 唐名。貴族・士族のもっていた中国風の名前。たとえば羽地朝秀の唐名は向象賢 (sjoo sjooken)。

karaʔNmuⓄ (名) [新?] さつまいも。薩摩人が伝えた語か。普通は単に ʔNmu という。

karaNpanaⓄ (名) 洗い清めてない 'Npanagumi (その項参照)。

kararaⓄ (名) 金良。《地》参照。

karasaNⓄ (形) 辛い。刺激性の辛さ(唐辛子・わさびなど)をいう。塩味については sipukarasaN, 塩味が強いことは sjuuzusaN という。

karasiⓄ (名) 軽石。

karasiⓄ (名) 辛子。

karasijaaⓄ (名) 貸家。

karasiniⓄ (名) むこらずね。「からずね」と対比される。

karasjuⓄ (名) 魚貝類を塩漬けにしたもの。塩辛。

kara=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ⊖(草木などを) 枯らす。⊖(声を) 枯らす。

kara=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 貸す。ʔiraa-sjuN 参照。

karataⓄ (名) 体。身体。体格。kara ともいう。

karatakiⓄ (名) [唐竹] まだけ。竹の一種。公儀用として王室のために用い、また鹿児島に移出した。

karawibaciⓄ (名) からえずき。吐き気をもよおしながら、何も吐けないこと。

karazaaⓄ (名) から茶。お茶うけなしのお茶。

karazi① (名) 髪。頭髪。文語では kasi-ra ともいう。敬語では ʔuncoobi, nu-ncoobi, 卑語では kaNtu という。~ tu-jaasjun. 髪の乱れをととのえる。~ ʔjuu-jun. 髪を結う。~ nu kii. 髪の手。
karazibuciki① (名) 抜け落ちた毛髪。抜け毛。
karazigii① (名) 髪の手。頭髪。
karazijuujaa① (名) 髪結い床。katakasi-ra を結うことを業とする者。一般人相手の職業となったのは明治以降である。
karazikwee① (名) かみきり虫。
karazusui① (名) 乾いたぞうきんで拭くこと。からぶき。
karazuusan① (形) 体が強い。
karewaakii① (名) 家畜を共同で飼育して、利益を折半すること。たとえば、豚を飼うのに甲が資金を出し、乙が飼育して、甲乙で利益を分け合うなど。
karibaa① (名) 枯れ葉。
karigii① (名) kariki と同じ。
kariguni① (名) 寒村。産物とくに農産物の豊かでない土地。枯れ困の意。
karihati=juN① (自 =raN, =ti) 枯れ果てる。
kariʔica① (名) するめ。
karii① (名) 嘉例。吉例。めでたいこと。縁起のよいこと。bukarii の対。~ na-mun. 縁起物。成功した人のみやげなど。
kariida① (名) karijuda と同じ。
karijuda① (名) 枯れ枝。
kari=juN① (自 =raN, =ti) ⊖(草木が) 枯れる。⊖(声が) かれる。
karijusi① (名) [嘉例吉] めでたいこと。縁起のよいこと。danzu ~ja ʔiradi sasimiseru, ʔuninu ɕina turiba kazija matumu. [だんじゆ嘉例吉や いらでさし召しやいる お船の綱取れば 風やまとも] まことにめでたい旅行は、日を選んでなさるので船の綱をほどくと風は順風。(旅人の無事を祈って一族が集まり、歌い

踊る時の歌)

kariki① (名) 枯れ木。karigii ともいう。
karikuri① (名) [文] あれこれ。~ nu si-gutu. あれやこれやの仕事。
karikusa① (名) 枯れ草。
karugaruutu① (副) 軽軽と。軽く。ʔNbu-mun ~ mucun. 重い物を軽軽と持つ。~ ʔiqti kwiree. (飯などを) 軽くよそってくれ。
karuku① (名) 家祿。大名をはじめ ʔwee-dainin (役人) の与えられた祿。
karukumuci① (名) 家祿持ち。俸祿を与えられている家柄。
karu=nun① (自 =man, =di) 分婉する。軽くなる意。
karuNzi=juN① (他 =raN, =ti) 軽んずる。大事にしない。ʔuja ~. 親をそまつにする。nuci ~. 命を軽んずる。
karuwaza① (名) 軽業。hooka ともいう。
kasa① (名) 傘。笠。~ hajun. 傘を張る。傘を作る。傘の種類は、dangasa (蘭傘) または kaabujaagasa (こもりがさ、すなわち洋傘), ʔeegamigasa (藍紙傘、貧婦人用), toogasa (唐傘) または ʔoogasaa (青傘) の男子用, kubagasa (びろうの笠、農民用), mintariigasa (面垂笠、編笠の一種で農民用), munzurugasa (麦藁笠、いなかの娘用), ʔamigasa (編笠、芝居用), hanagasa (花笠、芝居用) など。
kasa① (名) 瘡。悪性の腫れものをいう。普通の腫れものは niibutaa という。
kasaba=juN① (自 =raN, =ti) ⊖重なる。二重になる。⊖かさばる。
-kasabi (抜尾) 重ね。cukasabi (一重ね), takasabi (二重ね) など。
kasabi=juN① (他 =raN, =ti) 重ねる。
kasabuta① (名) かさぶた。腫れものがつぶれてから、上に生ずる厚い皮。kasanta ともいう。

kasagijun

kasagi=junⓄ (自 =raN, =ti) はらむ。みごもる。妊娠する。女は siduugahuu sjoon. (ありがたい頂戴物をいただいている) などという。kasagirasjun. はらませる。妊娠させる。不義の場合などという。

kasagiNcuⓄ (名) 妊婦。

kasaguiⓄ (名) 挾。

kasahajaaⓄ (名) 傘張り。傘作りを業とする者。

kasakiⓄ (名) 瘡のできかかる気配・性質。

kasani gasaniⓄ (名・副) 重ね重ね。~nu kutu. 重ね重ねのこと。~ ?jun. 何度も言う。

kasa=nuNⓄ (自 =maN, =di) かさむ。かさばる。

kasaNtaⓄ (名) kasabuta と同じ。

kasazeekuⓄ (名) 傘作りを業とする者。傘屋。

kasiⓄ (名) ①袷糸 (かせいと)。綴(かせ)。布を織る経糸。②袷(かせ)。経糸を巻きつける器具。~ kakijun. かせにかける。一反分の糸を張りわたす。

kašiⓄ (名) かす。よいところを取った残り。酒・豆腐のかすなど。

kasi?ajaⓄ (名) 縦縞。

kasiciⓄ (名) 布の織り始めの部分。織り始めて1尺ぐらいまでをいう。~ ?ucun. 1尺ぐらい布を織った時、ひもを切って布を巻きつける。

kasiciiⓄ (名) もち米を蒸した飯。おこわ。強飯。旧暦8月10日に作って祝う。

kasigaaⓄ (名) 南京袋などに用いる粗布。木の繊維で作る。

kasigaabukuruⓄ (名) 南京袋。

kasiⓄ (名) 加勢。手伝い。援助。応援。~ sjun.

kasiikasi'iⓄ (副) さっさと。手早く。~ see. さっさとしる。

kaši=junⓄ (自 =raN, =ti) 痛飲する。大酒

を飲む。kaširee ?arakacii, numee hwi-zaa. 大いに飲めよ、新垣、比嘉。(?aragacii, hwi-zaa は平民の人名。語末母音を短くすれば士族の人名となる。)

kasimasjanⓄ (形) かしましい。やかましい。うるさい。音に限らず用いる。

kasinuciⓄ (名) 経糸と緯糸。かせ糸とぬき糸。

kasinucisiragaⓄ (名) 経糸・緯糸ともに siraga (その項参照) の布。純絹。

kasinucitunbjanⓄ (名) 経糸・緯糸とも tunbjan (その項参照) で織った布。最上の夏物となる。

kasiraⓄ (名) [文] 髪。?agari ?akagari-ba šimi narega ?icun, ~ 'juti taberi 'wa?ujaganasi. [あがりあかがれば 墨習れが行きゆん かしら結てたばうれ 我親がなし] 東の空が明るくなれば学問を習いに行きます。髪を結って下さい、おかさま。

kasiraⓄ (名) かしら。長。

kasiradacuNⓄ (自 =taN, =Qci) かしら立つ。長として立つ。

kasiragiiⓄ (名) [文] 頭髮。髪の毛。kasi-raginu simuja ?iginu mani hutaga, cimuja nama harunu sakari 'jašiga. [髪の毛の霜や いつの間に降たが 肝やなま春の 盛りやすが] 髪の毛の霜はいつの間に降ったか。心はまだ春の盛りなのに。

kasirajakuⓄ (名) [文] かしら役。組踊り用語から察すると、群雄割拠時代に城主按司の相談役・長官を兼ねていた役であったろうと思われる。

kašitiraⓄ (名) ①カステラ。菓子名。②料理名。魚肉をすりつぶし、卵を入れて作る。材料も味も伊達巻きに似ている。

kašizeeⓄ (名) 泡盛のかす。酒かす。

kašizee?eeiⓄ (名) 酒かすの汁であえたえ物。

kašizeemiiⓄ (名) 鷹の灰色をした目。また、

その鷹。比較的安価で士族の子供たちが買ってもらった。貴族の子供が買う *cinmii* (金色の目の鷹) に対する。

kataⓐ (名) 肩。～ *kurabijun*. 肩を並べる。比肩するの意。

kataⓑ (名) ⊖型。典型。⊖型だった絵。
ʔnmanu ～。馬の絵。⊖跡かた。ⓐ規則。規定。規準。～ *'isijun*. イ。規定を作る。規準を定める。ロ。かたをつける。爪あとなどをつける。ⓐかた。抵当物。担保。

kata- (接頭) 片。片一方の。 *katahwisja* (片足), *katadii* (片手) など。

-**kata** (接尾) ⊖方向。方面。方。 *ʔagarikata* (東の方), *simukata* (島尻方面), *sjugatanu samuree* (首里の士族) など。⊖仲間。味方。 *taruukata* (太郎の味方) など。

kataʔagaiⓐ (名) 料理などが片側だけでき上がること。半煮え。蒸し物などが片側だけ煮えて、他の側が煮えない場合などをいう。

katabaiⓐ (名) 肩の盛り上がったところ。また、肩の張りぐあい。

katabaruⓐ (名) 渦。干渦。遠浅で、潮の干満によって現われたり隠れたりするところ。 *haru* は平原。

katabiiciⓐⓑ (名) えこひいき。偏愛。

katabuiⓐ (名) かたしぐれ。片方は晴れていながら片方で降る夏の雨。 *naçinu ʔamee ʔnmanu naganiN huiwakasjun*. (夏の雨は馬の背も降りわけるといふ) という。

kataciⓐ (名) ⊖敵 (かたき)。⊖気の合わない者。

kataciⓑ (名) ⊖形。⊖姿。容貌やなりぶり。～ *nu ʔutasjan*. 姿がいい。

kataçiburujanⓐ (名) 偏頭痛。 *hanziçuu* ともいう。

kataçikiⓐ (名) 型付け。染め方の一種。型紙を布の上に張り、その上から染料を塗って模様をつけるもの。また、その染めた

布・着物。 *bingata*, *ʔeegata* などがある。

kataçikijaaⓐ (名) 型付け (*bingata*, *ʔeegata* など) を業とする者。

kataçimiganigwaaⓐ (名) かにの一種。海産で、一方のはさみだけが大きい。

kataçinsiⓐ (名) 片ひざ。～ *tatijun*. 片ひざを立ててすわる。昔の男女の正座のしかたである。のちには、男は端座、女は横ずわりが正座となった。

katadiiⓐ (名) 片手。片方の手。

kataduⓐ (名) 半身。体の右あるいは左の半分。

katagataⓐ (副) たまたま。あいにく。一時に両様のことがある場合にいう。 *ʔikiwadu ʔjataşiga*, ～ *ʔicunasii basju ʔjati*, *ʔikarantaN*. 行くべきだったが、ちょうど忙しくて行けなかった。

katagenaⓐ (名) 肩から二の腕にかけての部分进行。

kataguⓐ (名) 片方。一対あるものの片方。

katagumaNcaaⓐ (名) 片ちんば。ちぐはぐ。箸・下駄など、一対となるべきものが互いに不揃いなこと。

katahabaⓐ (名) 肩幅。

kataharaⓐ (名) かたわら。わき。 *'waree ~Nkai*. かけらはわきへ。割れものを落として割った時、そばの者が先回りしてひやかすことば。

katahuⓐ (名) [文] 片帆。片方の帆。 *muruhu* (諸帆の意) の対。～ *mucagiriba kataminu nada ʔutuci*, *muruhu mucagiriba muruminu nada ʔutuci*. [片帆もちやげれば 片目の涙落ち 諸帆もちやげれば 諸目の涙落ち (おやあんま狂言)] (別れを悲しんで) 片方の帆をあげれば片方の目の涙を落とし、両方の帆をあげれば両目の涙を落として。

katahwaⓐ (名) 片刃。 *muruhwa* (両刃)

katahwa

の対。

katahwaⓐ (名) 片輪。不具。

katahwaaⓐ (名) 片輪者。

katahwamuNⓐ (名) 片輪者。katahwaa
ともいう。

katahwašii³guⓐ (名) 片刃の小刀。

katahwiciⓐ (名) 畸形。

katahwicimuNⓐ (名) 畸形の者。

katahwisjaⓐ (名) 片足。

kataibiⓐ (名) [文] 語る人。「語り部」に
対応すると見られる。-bi の付く語にはほ
かに sirasibi (知らせる人) などがある。

kata=juNⓐ (他 =raN, =ti) [文] 語る。ka-
tajabira. 語りましょう。'iikutu katari.
[口語] からすが鳴いた時に言うまじな
い。いいことを語れの意。

katakaⓐ (名) ㊦遮蔽。さえぎるもの。tii-
dagataka (日よけ), kazigataka (風よ
け) など。㊦庇護。かばうこと。'innu ci-
ragataka. 縁が顔をかばう。縁のある者は
顔までいい顔に見える。~ sjuN. さえぎ
る。よける。また、かばう。

katakakiⓐ (名) 片手落ち。不公平。cuunu
ciikazija kuniguniN tijura, ~N ne-
ranu tinnu ųuzimu. [けふの月影や
国々も照ゆら 片欠もないらぬ 天のお肝]
きょうの月影は国国を照らすだろう。不公
平もない天の御心。

katakaki=juNⓐ (他 =raN, =ti) 兼務する。
掛け持つ。片手間に他の仕事をすする。くり
合わせて仕事する。ųicunasaN katakaki-
ti. 忙しいのもくり合わせて。

katakakimaa³kakiⓐ (副) 方方の仕事を掛
け持ちするさま。

katakamiciⓐ (名) ひっこんだところにあ
る、人目につかない道。

katakasaaⓐ (名) katakasi と同じ。

katakasiⓐ (名) 魚名。赤味を帯びた黒い、
ありふれた魚で、干物にすることが多い。

katakasiraⓐ (名) [敬訾] 成人男子の髪

型。元は頭の右辺に結び、後には中央に結
ぶようになった。貴族は15歳で、一般は
10歳内外で結った。

katakasirajuuiⓐ (名) [敬訾結] 元服。男
子が10歳前後に達した時、はじめて ka-
takasira を結う儀式。親戚中の人格者・
成功者に結ってもらい、盛大に祝って、供
の者を従えて親類回りをして披露した。貴
族の場合は、15歳で行ない、zinbuku (元
服) という。

katakasirajuujaaⓐ (名) 髪結い床。ųiq-
kwaNmagi (一貫鬘), nikwanmgi (二
貫鬘) など、料金の別があった。

katakuciwareeⓐ (名) 微笑。ほほえみ。片
口笑いの意。

katakukuruⓐ (名) 片心の意。次の句でい
う。~ 'jurusjuN. (すっかり安心するの
でなく) ひとまず安心する。一息つく。

katakusinuziⓐ (名) 片袖を脱ぐこと。女
が働きやすくするためにする。

katakuziraⓐ (副) ㊦始終。ずっと。kuu-
sainikara ~. 小さい時からずっと。㊦…
をはじめとして。tuzikwa ~ nukurazi-
ni kuruci, mikatani kigaja ųicininuN
'ujabiraN. [妻子かたくづら 残らずに
殺ち 味方に怪我や 一人も居やべらぬ
(忠臣身替)] 妻子をはじめ残らず殺し、
味方にけがはひとりもおりません。㊦早
早。ciija ~. 来るが早い。

katamadoociⓐ (名) 一段落。仕事などが
一段落してちょっと暇になること。

katamaiⓐ (名) かたまり。

katama=juNⓐ (自 =raN, =ti) つまる。塞
がる。hananu ~. 鼻がつまる。'Nzunu
~. 溝がつまる。katamarasjuN. つまら
せる。

katamiⓐ (名) 男女の契り。また、契りと
して取りかわすもの。

katamiⓐ (名) 形見。死者または長く別れ
る人の形見。

-katami (接尾) 荷。かつぎ上げる荷を数える接尾辞。cukatami (一かつぎ), takatami (二かつぎ) など。

katamifacinee① (名) 行商。また、行人。荷をかついで商う男をいう。荷を頭にして行商する女は kamifacinee。

katamici① (名) 片道。

katamidima① (名) かつぎ賃。かついで運ぶ手間賃。

katamii① (名) ①片目。一方の目。～ kuu-jun. 片目を閉じる。②片目。隻眼。また、片目の者。

katami=jun① (他 =raN, =ti) かつぐ。荷を肩にのせる。tiqpuu ～. 鉄砲をかつぐ。

katami=jun① (他 =raN, =ti) ①濃くする。茶・色彩などについていう。②[新] 固くする。

katana① (名) 刀。

kataneeciri① (名) 肩上げ。子供の着物のゆきを肩のところに縫い上げておくこと。

katanii① (名) 半分の荷。半荷。～ Yuru-sjun. 負担が軽くなる。

katanii① (名) 片方だけ煮えて、他の片方がよく煮えていないこと。半煮え。

kata?nazi① (名) 着物をゆがめて着ること。褌が合わないこと。?nazi は背縫いのことで、これが片方にゆがむ意。

kataNci① (名) 傾き。傾斜。

kataNcibai① (名) 恥じてこそそそと急いで行くこと。傾き走りの意。

kataN=cuN① (自 =kaN, =ci) ①傾く。hwi-inu kataNcooN. 日が傾いている。②傾倒する。熱中する。

kataNki=jun① (他 =raN, =ti) 傾ける。

katara=jun① (他 =aN, =ti) 仲間に入れる。味方に引き入れる。「語らう」に対応する語だが、-kata (方, 味方) との連想がある。

katarge① (名) ①仲間となること。仲間入りを約束すること。②男女の一緒になる約

束。?ikataree ともいう。

katasaci① (名) 一方の手を伸ばした、その先端から他方の肩先までの長さ。布の長さなどを計る基準。肩先の意。鯨尺3尺。

katasaN① (形) ①固い。堅い。②濃い。那覇では kuusaN という。kunu ?usiroo 'Nsunu ～. このおつゆはみそが濃い。kunu ?aka naa ?ihwee katasaree 'jaa. この赤がもう少し濃ければねえ。③堅い。堅実である。義理堅く、品行が正しい。katasii qcu. 堅い人。

katasijuu① (名) 髪油。女が髪につける油。

katašimi① (名) 片隅。

katašizi① (名) 布を織る時の、経糸一本。cuhwaa (経糸二本) に対して片すじの意。

katasudi① (名) 片袖。

katasudinuzi① (名) katakusinuzi と同じ。

katatima① (名) 片手間。

katatuci① (名) [文] 片時。'wakaribija gimati ?acaga hwini nariba, ～N ?usuba hanarigurisja [別れ日やつまて明日が日になれば 片時もお側 はなれぐれしや] 別離の日が迫って、あすの日になると片時もお側を離れられない。

kata?udi① (名) ①片腕。②最も頼みとなる、協力者。片腕。

kata?uja① (名) 片親。また、片親しかいないこと。

kata?umui① (名) 片思い。片恋。

katawaki① (名) 不公平な配分。片寄った分け方。

katawakitii① (名) 勝負事で人数を二手に分けること。

katawari① (名) 片割れ。割れた一片。

katazaa① (名) 濃い茶。～ nudi miigu-hwai sjooN. 濃い茶を飲んで眠れない。

kataziki=jun① (他 =raN, =ti) 片付ける。

kateemuN① (名) 困った事。やっかいな

katijun

事。生活難・家庭の不和などをいう。

kati=junⓄ (他 =raN, =ti) おかずにする。
おかずにして飯といっしょに食う。首里では単に「加える・付加する」の意では用いない。

katimuNⓄ (名) おかず。お菜。<katijun。

katooⓄ (名) 堅固。丈夫。'jaanu simaree ~ni qsi 'joo. 戸じまりは堅固にしる。~na haka. 堅固な墓。

kauⓄ (名) [文] 顔。口語は çira。

kawaⓄ (名) [文] 井戸。口語は kaa。

kawa=enNⓄ (自 =kaN, =ci) (のどが) 湯く。おとなの語。子供なら kaakijun という。

kawaiⓄ (名) 代わり。代理。代用。

kawaieeⓄ (名) 交替。役目などの交替。~sjun.

kawaiikutuⓄ (名) 変わった事。珍しい事。

kawaiimuNⓄ (名) ⊖変わったもの。珍しいもの。⊖殊勝な者。

kawa=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖変わる。変化する。また、異なる。tusinu ~. 年が改まる。nuusinu ~. 主が変わる。'Nkasitu kawaran. 昔と変わらない。Yucinaatu ~. 沖縄と違っている。⊖代わる。入れ代わる。交替する。cigaajun ともいう。

kawaqtakutuⓄ (名) ⊖変わった事。珍しい事。nuun kawaqtakutoo neeni. 何も変わった事はないか。⊖とんでもない事。思いもよらない事。"tanmee sai hikookinkai numişeebiimi." "haa ~." 「おじいさん、飛行機にお乗りになりますか。」「おお、とんでもない。」

kawarumiZuzooⓄ (名) 首里城の門の名。Zuguşiku の項参照。

kawatiⓄ (副) とりわけ。格別。特に。ことに。cuuja ~ sikaraasjan. きょうは特別寂しい。

kazaⓄ (名) におい。niwi ともいう。ni-

wi はおとなの使う上品な語。~sjun. イ. においをかぐ。ロ. においがする。hana ~sjun. 花のにおいをかぐ。

kazadihuubusiⓄ (名) [かぎやで風節] 歌曲の名。祝宴の最初に歌うめでたい歌の節の名。guziNhuubusi [御前風節] に属する。「この名称、漠然と拠るところなけれども、或人の説に、カンチャードーフなり、むかし国頭間切奥間村の鍛冶屋尚円王を救ひ奉りたる御褒賞によりて、国頭間切総地頭を命ぜられ、按司の位に叙せられたる嬉しさをかたどりて作りたる歌曲にして、カンチャードーフ首里に出るの風儀といふの意なりといふ。此の外多説あれども、此の説近きに似たり。斯く記して後人の参考を待つ。鍛冶屋の末世は今の馬氏国頭按司家也。(南島入重垣)」代表的な歌詞を二つあげておく。kijunu hukurasjaja nuanizana tatiru, çibudi 'uru hananu çiju cata gutu. [けふのほこらしややなをにぎやなたてる つぼでせる花の つゆきやたごと] きょうのうれしさは何にたとえられようか。花の蕾が露に会ったようだ。Zatagahunu çicaşı 'jumijacon 'Ndan, 'wadu 'jariba 'wadui 'ugadi şidira. [あた果報の着きやす 夢やちよも見らぬ 我胴やれば我胴い 拜ですでら] こんな幸運が来るとは夢にも見なかった。わが身がわが身であるとも思えない。ありがたくいただきます。

kazaiⓄ (名) 飾り。装飾。

kaza=junⓄ (他 =raN, =ti) 飾る。kazai-tatijun. 飾り立てる。

kaziⓄ (名) 陰。光の当たらない場所。kii-nu ~. 木陰 (kiinu kaagi ともいう)。

kaziⓄ (名) 舵。

kaziⓄ (名) 風。

kaziⓄ (名) うなじ。えりくび。

kaziⓄ (名) 織維。筋。

-kazi (接尾) ごと。たび。ごとに。たびに。
 qcukazi (人ごとに), cineekazi (家ごと
 に) など。'jaakazi hatanu taqcoon. 家
 ごとに旗が立っている。

kazi⑩ (名) 数。

kazibusi⑩ (名) 陰干し。日陰で干すこと。

kazi⑩ cicuN⑩ (句) cicuN(利く)の項参
 照。

kaziciriʔabii① (名) 声を限りに叫ぶこと。
 絶叫。

kazigaa① (名) kazi (うなじ) の卑語。首
 のねっこ。-gaa < kaa (皮)。

kazigataka① (名) 風よけ。風を防ぐため
 のもの。kataka は遮蔽物。

kazigwee⑩ (名) 堆肥。

kazihuci① (名) 暴風。-huci < hucun。

kazihuciʔaakeezuu① (名) とんぼの一種。
 暴風の吹きそろうな時、その前触れのように
 群れ飛ぶ赤とんぼ。

kazihucimaamina① (名) ひょろ長く、細
 いもやし。

kazii⑩ (名) ①ねばり強い者。容易に負け
 ない者。②下品な者。下等なもの。

kazikaki=juN① (他 =raN, =ti) 念を押す。
 だめを押す。また、約束する。

kazikazi⑩ (名・副) たびたび。~nu ku-
 tu 'jati. たびたびの事で。~ gumindoo
 kakiti. たびたび御面倒かけて。

kazimaai① (名) 風が回ること。風向きが
 変わること。

kazimaci① (名) 旋風。つむじ風。海上の
 龍巻きは ruu (龍) という。

kazimajaa⑩ (名) ①風車 (かざぐるま)。
 風に舞うものの意か。hananu kazimaja-
 ja kazi ciriti miguru, 'wamija dusi
 tumeti ʔašibibusjanu. [花の風車や
 風つれてめぐる 我身やどしとまひて 遊
 びぼしやの (女物狂)] 花の風車は風と一
 緒に回る、わたしは友だちを捜して一緒に
 遊びたい。~nu ʔuiwee. 九十九歳の祝
 い。来客にみやげとして風車を贈る。②転

じて、十字形のもの。③十字路。四つ角。

④首里の尚家の角にある十字路。⑤植物
 名。くちなし。その白い花が十字形をし
 ているのでいう。kucinasi ともいう。

kazimihuka=sjuʔN⑩ (他 =saN, =ci) 大事
 にしまい込んで、どこにあるのかわからな
 くなる。

kazimi=juN⑩ (他 =raN, =ti) 秘蔵する。
 大事にしまって置く。

kazimimuN⑩ (名) 大事にしまって置いた
 もの。とっておき。秘蔵品。

kazinaraNmuʔN⑩ (名) 教えるに足りない
 者。自分の謙称として使う。不肖。

kaziraasjaN⑩ (形) 卑しい。さもしい。

kaziramaai① (名) 軒下の盛り土したとこ
 ろ。家の周囲の軒下に石を並べ土を盛っ
 て、地面よりやや高くして、水はけをよく
 する。その盛り土した部分。

kaziri① (名) ①限り。きり。hamaa ʔnzi-
 n ʔnzin ~nu neeraN. 浜は行っても行
 っても限りがない。②期限。~ sjun. 期
 限を決める。kaziree sjootin hwinbinoo
 saN. 期限は決めておいても返しはしない。
 ③(接尾) 限り。ありったけ。nucikaziri
 hataracuN. 命の続く限り働く。

kaziti① (副) きっと。かならず。~ cuun
 'jaa. 必ず来るねえ。

kazitui① (名) 舵取り。操舵手。

kaziʔwaara①① (名) 風上。kaziwaara
 ともいう。

kaziwaara①① (名) kaziʔwaara と同じ。

kazooridamuN⑩ (名) 風で折れた木の枝
 をたきぎとしたもの。

kazoorimuN⑩ (名) 蕁麻疹。ほろせ。

kazoorimuN⑩ (名) 風で折れた木の枝な
 ど。

kazoosan① (形) 風が強い。大風というほ
 どではないが、室内で紙が飛んで障子をし
 めなければならぬ程度の風。海上なら、
 小さい漁船が警戒する程度の風をいう。

kazuu=juNⓄ (自 =raN, =ti) (予定より) ふえる。増す。加増の意か。niNzunu ~. 人数がふえる。ʔiriminu ~. 入費がふえる。

kazuu=juNⓄ (他 =raN, =ti) 数える。普通は 'junuN という。

keeⓄ (名) 櫛。ʔeeku, ʔweeku ともいう。

keeⓄ (名) 貝。

keeⓄ (名) さじ(匙)。

keeⓄ (名) ひつ。衣裳箱。唐櫃に似た中国風の箱であるが、足はない。衣類を入れる。かぶせぶたがあり、さらに kakugu という中ぶたがあって、その下に衣類を入れる。婚礼の時、花嫁が着物をいっぱい入れて持参する。敬語は 'Ncee。

keeⓄ (名) 粥。ʔukee ともいう。

kee-(接頭) 動詞につき、ちょっと…する、軽く…する。また、思い切って…する、…しちゃうなどの意を表わす。接頭辞 cii- と似ている。keehoocun (ちょっと掃く), keenadijun (ちょっとなでる), keekoojun (買ってしまふ, 思いきって買う) など。

-kee(接尾) 階。家の階数を数える接尾辞。niikee (二階), sankee (三階) など。

-ke'e(助) よ。「禁止形」に付く。<ʔukee (置けよ)。sjuna~. するなよ。ʔikuna~. 行くなよ。

keehaciu'uNⓄ (自・不規則) 来てしまふ。keehacikuu. 来ちゃえよ。

keēʔicu'NⓄ (自・不規則) 行ってしまふ。思い切って行く。

keeiⓄ (名) おつり。つり銭。keesimudusi ともいう。

keeiⓄ (名) 帰り。帰路。

keeiⓄ (名) keeruu と同じ。

keemiciⓄ (名) 帰りみち。帰途。

keezinⓄ (名) 着替え。着替えの着物。

kee=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖(自宅・もといた場所に) 帰る。⊖(もとの所有者・状態、

もとあった位置に) 返る。⊖(複合語として) ʔutikeejun (子供の状態に返る), 'warabi naikeejun (老衰して、子供に返る) など。

kee=juNⓄ (他 =raN, =ti) 替える。変える。cin ~. 着物を替える。zin ~. 金をくずす。

keekoo=ju'NⓄ (他 =raN, =ti) 買ってしまふ。思い切って買う。

keenaⓄ (名) かいな。二の腕。肩から肘までをいう。

-keen(接尾) 回。回数を数える接尾辞。cukeenⓄ(一回), takeenⓄ(二回), mi-keenⓄ(三回), 'jukeenⓄ(四回), ʔi-keenⓄ(五回), mukeenⓄ(六回), nanakeenⓄ(七回), 'jakeenⓄ(八回), kukunukeenⓄ(九回), tukeenⓄ(十回), ʔikukeenⓄ(何回) など。

keerasikuru'basiⓄ (副) ひっくり返したところがしたり。物を粗末に扱うさまなどをいう。~ sjun.

keera=sjunⓄ (他 =saN, =ci) ⊖keejun (帰る, 返る) の使役形。帰す。帰らせる。返らせる。⊖ひっくり返す。siisi ~. 獅子舞を踊る。獅子をひっくり返すようにして踊るのでいう。

keeri=juNⓄ (自 =raN, =ti) ひっくり返る。くつがえる。転覆する。

keeriku'rubuⓄ (名) 抱腹絶倒。笑いこぼること。

keeriNkuru'binⓄ (副) ⊖ころげ回るさま。⊖(不精して) ごろごろしているさま。

keerirakee'riraⓄ (副) ひっくり返りそう。~ qsi, 'NNcin ʔajaqsaN. ひっくり返りそうで、見ていてはらはらする。

keeruuⓄ (名) 交換。取り替えっこ。keei ともいう。

-keesaa(接尾) 何度もくり返すこと。また、そうしたもの。ʔNburasikeesaa (何度も蒸し直した料理), ʔaʔirasikeesaa (何度も暖め直した食物), noosikeesaa sjun.

- (何度も直す) など。
- keesi**Ⓞ (名) ⊖お返し。返礼。～ sjuN.
返礼をする。⊕し返し。返報。～ ꞥucun.
し返しをする。復讐する。⊕地震のゆり返
し。余震。大風の吹き返し。暴風が途中で
いったんやんでから、反対の方向から吹き
返すこと。～ ꞥucun. 吹き返しが起こる。
- keesibaru**Ⓞ (名) keesibataraci と同じ。
- keesibataraci**Ⓞ (名) 耕作の労働。田畑を
打ち返す労働。keesibaru ともいう。
- keesimaa**Ⓞ (名) 着物を裏返しに着ること。
- keesimudusi**Ⓞ (名) おつり。つり銭。keei
ともいう。～ ja namaja neejabiraN.
šinabiisa. [返し戻しや 今や無いやべら
ぬ すみやべいさ(茶売節)] おつりは今は
ございません。結構です。
- keesjoo**Ⓞ (名) 航海中。船が航海を続け海
上にあること。kagusimaNkainu ~ nu
basju ꞥuukazi nati. 鹿児島への航海中
に嵐になって。
- kee=sjuN**Ⓞ (他 =saN, =ci) ⊖(もとの所有
者・状態、もとあった位置に)返す。⊕(人
を) 帰す。この意味では多く keerasjuN
という。⊕耕す。(田畑を) 打ち返す。ta-
geesjuN ともいう。hataki ~. 畑を打ち
返す。⊕(接尾)…し返す。tuikeesjuN(取
り返す) など。
- keetee**Ⓞ (副) かえって。むしろ。keeti,
keetiNkai ともいう。～ ꞥuree masi. か
えってそれはよい。
- keeti**Ⓞ (副) かえって。むしろ。keetee,
keetiNkai ともいう。
- keetiNkai**Ⓞ (副) かえって。むしろ。kee-
ti, keetee ともいう。
- keetuihwici'tui**Ⓞ (副) 他人のものを取っ
たり、ごまかしたりするさま。
- keetu=juN**Ⓞ (他 =raN, =ti) かっぱらう。
ちょろまかす。かすめとる。
- keetu^unai**Ⓞ (名) 隣近所。cukeetunai と
もいう。
- keetuci**Ⓞ (名) 小皿。kužara ともいう。
お茶請けなどを盛るもの。
- keezoo**Ⓞ (名) [開静] 寺院で明けがたに鳴
らす鐘。「日出卯の楼鐘百八の声を云(混効
駁集)」もともと禅林で晨朝板を鳴らすこ
とで、静眠を開覚する意。nanminnu ke-
zoja sjuinu kezotumuti satu ꞥukuci
'jaraci 'wazimu 'janusa. [波上の開静
や 首里の開静ともて 我起ちやらち 我
肝やぬさ] 波上護国寺の鐘を首里円覚寺の
鐘と思ひ違えて、愛する人を早く起こして
帰してしまい残念だ。辻遊郭の遊女のよ
んだ歌。護国寺の鐘は円覚寺の鐘より早く
鳴った。
- keezoogani**Ⓞ (名) [開静鐘] keezoo と同
じ。sikeja kurajamika ꞥuzumu cuja
'uraN, 'jagati kezoganiN najura 'jasi-
ga. [世界やくらやみか うずむ人や居ら
ぬ やがて開静鐘も 鳴ゆらやすが] 世の
中は暗やみなのか、目ざめる人はいない。
やがて夜明けの鐘も鳴るであろうのに。革
命の近いのを諷した歌。
- kenken**Ⓞ (副) 念仏宗のこじき (ninbu-
caa) のたたく鉦の音。
- kibujaatunuruu**Ⓞ (名) よく燃えないで盛
んにくすぶること。
- kibu=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) けぶる。くす
ぶる。燃えずに煙ばかり出る。
- kibusan**Ⓞ (形) けむい。けむたい。
- kibusi**Ⓞ (名) 煙。cimuri ともいう。～
macaasjuN. 煙がうずを巻く。
- kibusikaza**Ⓞ (名) 煙臭いにおい。
- kici**Ⓞ (名) たるき。
- kidu**Ⓞ (名) ~ nucun (疎遠になる)とい
う句で用いる。間柄という意味らしい。
- kiga**Ⓞ (名) ⊖けが。負傷。⊕被害。損害。
nuun ~ nu neen. 何の被害もない。ta-
nei haradacija ~ nu mutu. (諺) 短気・
立腹は損害を受けるもと。
- kiganiN**Ⓞ (名) ⊖けがが人。負傷者。⊕被害

者。

kii①(名)木。樹木。木材。

kii①(名)毛。毛髪・羽毛・獣毛など。hwi-
ziは顔のひげのみをいう。

kiibisjaa①(名)竹馬。木の足の意。

kiibutuki①(名)木仏。木造の仏像。

kiihagimootui①(名)毛のぬけたつぐみ。
老衰した者のたとえとなる。おいぼれ。kiihukugidaci①(名)鳥肌が立つこと。
kiiは毛、hukugiは細毛。

kiiʔiru①(名)毛色。獣類の毛の色。

kiikaʃi①(名)おがくず。

kiikusa①(名)草木。kusakiともいう。

kiikuzi①(名)木釘。

kiimaa①(名)毛深い者。毛むくじゃら。

kiimaqkwa①(名)木枕。もと枕はすべて
木製で、木の柱を四角に切ったものを用い
たが、のちに四角の指物になり、黒い漆を
塗った。kiinukuci①(名)毛髪のはえぎわ。額・
えりくびなどの髪のはえぎわ。~kiimoo①(名)あるべきところに毛の無い
こと。また、その者。ひげの無い者はhwi-
zimooという。kiimumu①(名)皮に細毛のある桃。毛桃
の意。水蜜桃に似て小さい。単にmumu
といえばふつう楊梅をいう。

kiimusi①(名)毛虫。

kiinubui①(名)木登り。

kiinuhwaa①(名)木の葉。

kiinuhwaaʔuzoo①(名)緑門。木の葉の緑
で飾ったアーチ。

kiinuhwizi①(名)植物の気根。

kiinukaa①(名)木の皮。樹皮。

kiinukaagi①(名)木陰。

kiinumata①(名)木のまた。木の枝の分か
れる所。~kara ʔNmaritaN。木のまたか
ら生まれた。親不孝者の形容としていう。
ʔjaaja ~karadu ʔNmaritii。おまえは
木のまたから生まれたのか、この不孝者。kiinumuqkuu①(名)木の実。小さい、食
べられない実を多くいう。kiinunaiはた
いてい大きくて食べられるもの。

kiinunai①(名)木の実。果実。くだもの。

kiinunii①(名)木の根。

kiinusin①(名)こずえ。木の(先端の)芯
の意。kiisiru①(名)獣類の毛のぐあい。毛並・毛
色・毛のつやなど。

kiitu①(名)毛糸。

kiiʔui①(名)きゅうり。

kiiʔuusi①(名)木白。木製の白。つき白と
石白型のひき白とがある。kiizeeku①(名)大工。ʔisizeeku(石工)、
kaNzeeku(鍛冶屋)などに対する語。kiizicaa①(名)木づち。ʃeezicaaともい
う。kiiizihwaa①(名)木製のかんざし。平民の
女がさすもの。

kiiziri①(名)木切れ。木片。

kiizoo①(名)木造の門。ʔisizoo(石垣の
門)、ʔjaazoo(屋根門)などに対する。

kiju①(名)[文]cuu(きょう)の文語。

ki=juN①(自=raN, =ti)抵触する。さし
さわる。かち合って支障を生ずる。まれな語。
nuutun kiraN。何ともかち合わない。二
種の薬を飲んでも害がない場合、転居・祭
祀などの日がさしさわりがいい場合などに
いう。

ki=juN①(他=raN, =qci)蹴る。

kikaci①(名)木立。屋敷内の木立などを
いう。kikaraa①(名)木のかげら。木のかげりく
ず・切れはし・根の割ったかけらなど。

kikarazi①(名)毛髪。

kinkin①(名)健堅。(地)参照。

kinzii①(名)[硯水]酒・さかななどの贈
りもの。親類の家の普請などの際に、大工
などに贈る酒・さかななどをいう。

kiqcaki①(名)つまずき。また、失敗。

hai?Nmanu ~. 駿馬のつまずき。猿も木から落ちるの類。~ sjun. つまずく。
 Yisinkai ~ sjan. 石につまづいた。
 kiqkiriikii① (副) ちゃぼの鳴き声。
 kiQsa① (名) さっき。さきほど。~ can.
 さっき来た。
 kiQtaakiririn① (副) 綱引きの時の鉦鼓 (sjoogu) の音。
 kiQtu① (名) [新] ケット。毛布。
 kirama① (名) 慶良間列島。沖縄本島南部の西方にある列島。kiramaa miijušiga maçigee miiran. 慶良間は見えるがまつ毛は見えない。「燈台もと暗し」の意。
 kiramatama'ziri① (名) [慶良間二間切] 慶良間の二つの間切(maziri), すなわち渡嘉敷(tukasici) 間切と坐間味(zamami) 間切。
 kirihoo=ju¹N① (他 =raN, =ti) 蹴散らす。
 kirikeera=sju¹N① (他 =saN, =ci) 足にかけてひっくりかえす。蹴ってひっくりかえす。
 kirituba=sju¹N① (他 =saN, =ci) 蹴飛ばす。
 kirooku¹noo① (副) 散散小言を言うさま。がみがみ。~ sjun. がみがみ言う。
 kisazi① (名) 慶佐次。《地》参照。
 kita① (名) 桁。屋根・床などにさし渡す細い材木など。屋根の桁は tinzoogita, 床に渡すものは 'jukagita という。kakii-dun šee ~nudu 'uuriiru. はかりにかければ桁が折れるの意。優劣なし。また、どっちもどっち。
 kizaa=sjun① (他 =saN, =ci) かきまぜる。かき回す。
 kizai① (名) 階段。きざはし。
 kizi① (名) 傷。器物・人体の傷。また、容姿・行為などの欠点。
 kizihoorii① (副) kizihui と同じ。
 kizihui① (副) 食物を食い散らすさま。kizi-<kizun. ~ sjun.

kizimunaabii① (名) 夜, 山中などで見える, 線香の火のような小さな火をいう。kizimun の火の意。
 kizimunaadusi① (名) くされ縁の友達。kizimun は漁がうまく, その友達になれば漁にめぐまれるので縁を切りにくくなると言われる。そこで, くされ縁の悪友をこういう。
 kizimunaajaacuu① (名) 皮膚にできる, 原因不明のやけどのような傷。kizimun のしわざといわれる。
 kizimun① (名) 邪神の一種。木の精。背は小さく, Takagantaa (あかちゃけたおかっぱ頭) をしているという。漁がうまく, 魚の目玉だけを食い, また, 人家に火をもらいに来るといふ。kizimun に関してはさまざまな民話がある。
 ki=zun① (他 =gan, =zi) ㊦まぜる。攪拌する。㊦皮肉をいう。(人)を中傷する。
 konkon① (副) こんこん。せきこむ音。
 koo① (名) [科] 士族男子の受ける文官試験の第一次試験をいう。士族の中でも, 身分によって受験資格が違っていた。合格はなかなかむずかしく, はじめての受験(haçikoo) で合格する者はいたって少なかった。koo に合格すれば šeekee [再科] を受ける。
 koo① (名) 次の句で用いる。~ sjun. 告げ口する。(子供が母親などに) 言い付ける。koozin sjun ともいう。
 koo① (名) 線香。普通は Tukoo という。
 koobeetamagu① (名) 料理名。紅梅卵。うで卵を赤く染め, 輪切りにしたもの。ぬたあえに添えて用いる場合が多い。
 koobusi① (名) 植物名。浜すげ。またその塊状の地下茎。香付子。地下茎は漢方薬となる。
 kooci① (名) 幸地(古くは川内)。《地》参照。
 kooci① (名) 幸喜。《地》参照。

koociN

koociN① (名) [新] 鶏の一種。コーチン。交趾鶏。

koodati① (名) kudee [供台] に飾りとして取りつけるもの。甲立て。また、踊りで、若衆 ('wakasju) が額の上につける飾り。

koogaakii① (名) ほおかむり。頭からほおにかけて手ぬぐいをかぶること。農民の習俗で、首里那覇では酒宴の席で、踊りの時する者があった。

koogu① (名) 次の句で用いる。～ magajun. (年寄って) 腰が曲がる。

koogu① (名) ⊖(年寄って) 腰の曲がった者。⊖せむし。

koogwaasi① (名) 菓子の名。落雁。米の粉に砂糖を入れて作った菓子で、正月用。

koojuka'qcu① (名) 士族の身分を金で買った者。16万貫の金を出せば平民から士族になることができた。

kooimun① (名) ⊖買物。物を買うこと。また、買った物。～ siiga 'icuN. 買物に行く。'usakiinu ～. たくさんの買物。

kooimunsjaa① (名) 買物をする人。得意。

kooingwee① (名) 買い食い。

kooi'uziraasjan① (形) 買物上手である。利口な買い方をする。'wikigadu 'jašiga ～. 男なのに買物がうまい。

koojaku① (名) 膏薬。šipuigoojaku (吸い出し膏薬), miijaaigoojaku (傷口に肉を生じさせる膏薬) など。

koo=juN① (他 =raN, =ti) 買う。

koojree① (名) 講。近隣の相互扶助的な組織。gan を共同で持ち、ふだん金を出し合い、葬式の際の費用一切をまかなうなどする。

kookoo① (名) 孝行。～na mun. 孝行者。

kookorooko'o① (副) しゃも (taucii, ta-wacii) の鳴き声。

koomu=juN① (他 =raN, =ti) ころむる。「受ける」の謙譲の意に用いる。guun

～. 御恩を受ける。

koonusisi① (名) ⊖鹿。⊖鹿の肉。

kooree① (名) 朝鮮。

kooreegusju① (名) とうがらし。

kooreegusjukwee① (名) かなへび。とかげに似た爬虫類の動物。'waatu'oojaa ともいう。

kooreemuci① (名) kusici'ukwaasi (祭祀用の蒸し菓子) の一種。黒砂糖入りで薄茶色。

koorigasi① (名) [新] 高利貸し。takadiimigui の新語。

koorumaa① (名) 輪回しの輪。また、その遊び。

koorumaaziri① (名) 輪切り。円筒形のを横に切ること。

koorumun① (名) 香の物。おこうこ。çikimun (漬け物) ともいう。

kooruu① (名) おこうこ。漬け物の小児語。

koosaa① (名) 指を曲げ、指 (中指・人差し指) の関節のところがったところで、こつんと打つこと。子供を叱る時に、おでこなどを打つ。

koosaa① (名) 疥癬にかかった者。

koosaku① (名) [古] koosaku'tatai と同じ。

koosaku'tatai① (名) [古] [耕作当] 農村で、耕作に関する事をつかさどった役人。農事係。suugoosaku'tatai の項参照。

koosi① (名) 疥癬(かいせん)。ひぜん。

koosi① (名) 格子。

koosinumii① (名) ⊖格子の枠の間のすきま。⊖格子戸。

kootii① (名) 皇帝。中国の皇帝。

kootu① (名) 鳥獣の爪先。犬・猫・鳥などの爪または爪先。また、人の手・手先の卑語。～ taqpirakasarijun doo. 手をうちひしがれるぞ。～ neejun. (すりなどが) 手を出す。

koowiiruu① (名) こより。

koozaa① (名) 稻の品種の名。

koozaa① (名) 霜降り。白と黒がまだらにまじっていること。また、そのもの。

koozi① (名) ㊦こうじ。醸造用に穀物を蒸して作るこうじ。㊦かび。～ hucun. かびがはえる。

koozin① (名) [荒神] 告げ口。讒言。もとは火の神(かまどの神)が天帝に悪事を報告する意。～ sjun. 告げ口する。ʔujanu gusamaruja činiitugan neran, kačirinnu ʔazinu koozimi sjooči… [親の護佐丸や 罪科も無らぬ 勝連の按司のからずみしやうち… (二童敵討)] 親の護佐丸は罪科もない。勝連の按司が讒言なさって…(koozimi は koozin の文語)。

ku-(接頭) 九。kunici (九日), kunin (九人または九年) など。

kuba① (名) 久場。《地》参照。

kuba① (名) びろう (蒲葵)。しゅろ科の植物で、枝は無く、広い葉が長い柄につく。葉で、みの・笠・扇などを作る。霊地坪所に多い。binroo (檳榔)とは似ているが、別種。

kubaʔagii① (名) kubaʔagi と同じ。

kubačikasa① (名) kuba (びろう) のおい茂っている聖地。那覇の辻遊郭にあって、zuriʔnma の行列の時、礼拝する。

kubagaa① (名) 久場川。《地》参照。

kubagaasja① (名) びろう(kuba) の葉。

kubagasa① (名) びろうで作った笠。クバ笠。主として農民用で、細くけずった竹で形を作り、その上を kuba の葉で張る。次の歌は kubagasa の工程を歌ったもの。kubaja cinkubani dakija ʔahusudaki, ʔanija sirakacini haija ʔunna.

[蒲葵や金武蒲葵に 竹や安富祖竹 やねや瀬良垣に 張りや恩納] びろうは金武のびろうを、竹は安富祖の竹を使い、削るのは(また、骨組みは*) 瀬良垣でして、恩納で張って完成する。

kubagaši① (名) 蜘蛛の巣。

kubaiʔati=jun① (他 =ran, =ti) [新] 割り当てる。配当する。

kubaimun① (名) 配りもの。方に配って分けるもの。

kuba=jun① (他 =ran, =ti) 配る。配布する。分配する。配置する。ʔaa ～. 席を割りふりする。

kubama① (名) 小浜島。八重山群島の島の名。また、小浜。《地》参照。

kubamee=sjun① (他 =san, =ci) 節約する。儉約する。ʔainidu kubameesjuru. ある時にこそ節約する。

kuban① (名) 小判。昔の金貨。

kubaʔagi① (名) 菓子的一种。ʔandaagii と同じ。昔、金持ちが小判を油揚げして客に出したという伝説がある。

kubaʔagii① (名) kubaʔagi と同じ。

kubaʔoozi① (名) びろうの葉で作ったうちわ。次の歌は kubaʔoozi をほめたもの。kubanu hwađu ʔašiga mutinasinu ʔjutasja, ʔačisa šidamasjuru tamanu ʔuciwa. [蒲葵の葉どやすが もてなしのよたしや 暑さすだましゆる 玉の団扇] びろうの葉であるが作り方がよい。暑さをさます玉のうちわ。

kubasi① (名) [文] 小橋。小さな橋。口語は gumabasi. nakasimanu ～ wataigurisja. [中島の小橋 渡りぐれしや] 中島遊郭への小橋は渡りにくい。

kubi① (名) ㊦首。頸。～ ʔuurijuN. 屈伏する。頭が上がらなくなる。㊦襟。着物のえりくび。husumun ともう。

kubi① (名) 壁。板壁が多い。農村には竹で編んだ cinibu の壁もある。

kubidaki① (名) 首までの高さ。首の丈。

kubidarusan① (形) 首がだるい。長く上を見ていて首が疲れた時などにいう。

kubigaa① (名) うなじ。首すじ。首の後部。

kubihwizami① (名) 壁をへだてた隣。

kubirijun

<kubi(壁) + hwižamijun (へだてる)。~ 'jašiga žumui neN nakaja, nuja-ma hwižamitaru šimikagukuru。[壁へぎめやすが 思ひないぬ中や 野山へぎめたる 住家ごころ] 壁一枚へだてて隣にいるが、思っていない仲は野山をへだてた住み家にいるのと同じだ。

kubiri=juN① (自 =raN, =ti) 首をくくる。首をつって死ぬ。

kubirizini① (名) 縊死。首つり。

kubu② (名) [文] 蜘蛛。mijamakubuden-ši kaši kakiti ųucai, 'wan 'winagu natuti 'judan sjabimi。[み山こぶだいなす かせかけておちやい わ身女なとて 油断しやべめ] 奥山にすむ蜘蛛ですらかせをかけて布を織っている。わたしは女なのだから、うっかりなまけていられましょるか。

kubun① (名) くぼみ。へこんだ所。くぼ地。

kubusii① (名) 子供の腹かけ。金時が腹にしている形のもの。金太郎。

kubušimi① (名) いかの一種。こぶしめ。大型で胴が太く丸い。のぼせ・月経不順などの薬となる。

kuca① (名) 古知屋。《地》参照。

kuca① (名) 若夫婦が寝室として使う部屋。上流家庭のものは 'Neuca という。

kuci① (名) こち。東風。春先に東から吹く風。

kuci① (名) ⊖口。~ kuujun。口を閉じる。だまる。~ suujun。口を吸り。口づけする。sjudunmijarabinu 'jucinuru-nu haguci, ųiçika 'junu kuriti mikuci suwana。[諸鈍めやらべの 雪色の歯口 いつか夜のくれて み口吸はな] 諸鈍の乙女の雪色の歯をした口、早く日が暮れてあの美しい口を吸いたい。~ tugarasjun。口をとがらす。不満そうな顔つきをする。~ tu tookaci。口と斗掻きの意。

余裕のないぎりぎりの暮らし。斗掻きでかきならしたように、食うだけしかなく、少しも余らない。~ 'janzun。口がおごってしまふ。美食癖をつけてしまふ。~ 'jušizun。口をゆすぐ。うがいです。⊕職。就職口。~ tumeejun。職を捜す。⊕食。食物の分け前。~ hwikarijun。食物を他の人の分として渡らされる。~ hwicuN。食物の分け前を渡らす。ųujanu ~ hwicuN。(子が) 親の分まで食べてしまふ。⊕物を出し入れなどする口。biNnu ~。瓶の口。⊕口に出して言うこと。ことば。言語。~ ųujuN。事実がことばを追うの意。縁起のよいことを言えば、その言の通りのことがあり、悪いことを言えば悪いことが実現することをいう。~ nu 'wakaran。ことばがわからない。ことばが通じない。~ kanajun。口が達者である。また、(長上に対し) 口答えする。~ šiNdakasjun。口をすべらす。言うべきでないことをうっかり口にする。~ nin saaran munuųiikata。絶対に口にすべきでないことを言うこと。~ nu 'waqsan。口が悪い。物事を悪しざまに言う癖がある。~ hujuN。物を言わせてみて様子を探る。それとはなしに意中を尋ねる。tasikani murabarunu hjaaj 'jašiga sikaitu miiųubinu neeran. mazi ~ huti saguti 'Ndo。[たしかに村原ひややすが しかいと見覚の無らぬ まづ口振て探て見だう(大川敵討)] 確かに村原の比屋だが、しかと見覚えがない。まず物を言わせてみてさぐって見よう。⊕(接尾)言語名をあらわす。語。ųucinaaguci (沖繩語), 'jamatuguci (日本語), toonukuci (中国語), ųurandaguci (西洋語) など。⊕端緒。はじめ。⊕(接尾) 端緒, しはじめの意を表わす。miiguci(商売の口あけ), hakaguci (仕事のしはじめ), nuuguci (布の織りはじめ) など。

kuçi①(名) 骨(こつ)。遺骨。

kuci?aQsaN① (形) 口が軽い。軽軽しく口をきく。?aQsaN は浅い。
kuciba① (名) くつわ。馬の口につける金具。
kucibeesaN① (形) 口が早い。早口にしゃべる。また、食べるのが早い。
kucibita① (名) 口べた。訥弁。～na。口べたな。
kucibuci① (名) 春先に東風が吹くこと。こち吹きのこと。
kucibuuci① (名) ほらを吹くこと。大言壮語。
kucidumi① (名) 口止め。他言しないようにとどめておくこと。自分が慎む場合にもいう。
kucigani① (名) 口金。器の口に付ける金具。
kucigansui① (名) 口がかみそりのように鋭いこと。口達者。口巧者。
kucigaQsaN① (形) 口が軽い。軽軽しく口をきき、秘密をもらしやす。い。
kuciguci① (名) 口口。みんなのことば。
kuciguhwaa① (名) ことばが荒荒しい者。口が悪い者。毒舌家。
kuciguhwasaN① (形) ことばが荒荒しい。また、口が悪い。毒舌を吐く。
kuciguruma① (名) 口車。zurinu ~ ?ucaku ?ucinusiti。女郎の口車、お客うち乗せて。
kucigusi① (名) 口癖。
kucigatu① (名) 口論。言い争い。口げんか。
kucihagoosaN① (形) 口ぎたない。物の言い方が卑しい。
kucihwiNkee① (名) 口ではむかうこと。口答え。
kucihwiNtooo① (名) 口返答。口答え。kucihwiNkee (口はむかい)の方がやや積極的反抗。
kucijagamasjaN① (形) 口やかましい。小

言ばかり言う。

kucikarazi① (名) 口と髪。次の句で用いる。～'januN。子供などを叱り続けて疲れる。小言を言い続けて頭も痛くなり、口もだるくなる意。karazi (髪) はこの場合、頭の意か。
kucikazi① (名) ①口数。ことば数。②飯を食う口の数。すなわち、人数。
kuciki① (名) 朽木。
kucimaai① (名) 口実。言いのがれ。逃げ口上。文語は kucimigui。
kucimaasaN① (形) 食欲が出て、何でもおいしい。病気の回復時などにいう。kuciniisaN の対。
kucimigui① (名) [文] kucimaai の文語。?uhu?umini ?uriti sjuukumigatijari, hwahwaja ?iru?iruni ~ katara。[大海に下りて 潮汲みがてやり 母や色々に口めぐり語ら (孝行之巻)] 海に降りて潮を汲みにとか、母にはいろいろ口実を言おう。
kucinasi① (名) くちなし。植物名。kazi-majaa ともいう。
kuciniisaN① (形) 食欲が無い。
kucinoosi① (名) 口直し。にがい薬を飲んだあとで砂糖をなめるなど。
kucinumee① (名) 自分ひとりがやっと食べられるだけの働き。
kucinuuu① (名) 口癖。いつもふた言目には言い出すようなこと。口の緒(?uu)の意。
kucinu?waabi① (名) 口先。うわべだけのことば。
kuci?NbusaN① (形) 口が重い。話がへたである。訥弁である。
kuciNda① (名) 東風平。《地》参照。
kuçiruzi① (名) くつろぎ。
kuçiru=zuN① (自 =gaN, =zi) くつろぐ。体を休めて、のんびりする。
kucisabiQsaN① (形) 口がさびしい。空腹というほどではないが、何かを口にした

kucisaci

い。

kucisaci① (名) 口先。本心でなく、うわべのことば。

kučisan① (形) 苦しい (のどをしめられた時など)。また、つらい。情ない。やるせない。

kučišiba① (名) うわさ。評判。口唇の意。sikiNnu ~ni kakajuN. 世間のうわさにのぼる。悪いことの場合にいう。

kučisiru① (名) 唾。よだれ。口の中にたまった唾液。~ ziizii. よだれをたらたら。

kučiʔunkee① (名) 骨をお迎えすること。よそに葬った骨を、改葬するために持って来ること。

kučiʔuucii① (名) 墓の移転の場合など、骨を移すこと。

kuciwiigoosan① (形) えぐい。口がえぐい。
kučiʔansin① (名) 白三味線。口で三味線 (sansin) の音をまねること。

kučiʔukui① (名) 何か少し食べて食欲をそらすこと。たとえば外出の時、ほんの少し食べて、食事をした気分を作って出かけること。~ sjuN.

kucoo① (名) 故郷。普通は sima という。~nu nagurinu tacuN. 故郷が目に見えぬ。①帰郷。~ sjuN. 帰郷する。

kučubi① (名) いぼ。皮膚に盛り上がってできるいぼ。

kučugu=jun① (他 =raN, =ti) くすぐる。

kučukucu① (感・副) こちょこちょ。人をくすぐる時にいう語。~ kučugujun. こちょこちょくすぐる。

ku=cuN (自 =taN, =qci) 朽ちる。くさってこわれる。

kučuusija① ʔaNni① (句) [文] [口惜しや残念] 口惜しや残念。組踊り用語。

kuda=cuN① (他 =kaN, =ei) 砕く。うちこわして細片にする。

kudagu① (名) 機織りの器具の一つ。緯

糸を巻きつけて梭 (ひ) に入れる小さい管。木綿糸・絹糸用で、芭蕉糸や tunbjan糸用の kuudaguusi より小さい。

kudai① (名) ㊦下り。高所から低所へ降りること。㊦下り。首里からいなかへ、また、本土から沖縄へ下ること。

kudaikuduci① (名) [下り口説] tabikuduci [旅口説] の項参照。

kudaka① (名) 久高島。沖縄本島南部知念崎 (cininzaci) の東方にある島。また、久高。《地》参照。

kudaki① (名) この高さ。こんなに高く。

kudaki=jun① (自 =raN, =ti) 砕ける。こわれて細片となる。

kudami① (名) ㊦踏み台。高い所のものを取ったりするための台。㊦地機道具の一つ。足をかけるもの。㊦縁の外にある、はきものをぬぐ石。くつぬぎ石。踏み石。

kudami=jun① (他 =raN, =ti) 踏む。踏みつける。

kudasi① (名) 下痢。

kudasigusui① (名) 下剤。

kuda=sjun① (他 =saN, =ci) ㊦下す。本土から沖縄へ、また、首里からいなかへ、人・物を送る。㊦下痢する。

kudee① (名) 仏壇にある台。一番上の台に位牌を安置し、二段目・三段目の台には供物を供える。

kudi① (名) 一族を代表する神官。ʔukudiともいう。その項参照。

kudikin① (名) 久手堅。《地》参照。

kuduci① (名) [口説] 歌謡の一種。一種の叙事的な歌謡曲。もとは教訓を含めた歌で、だれにでも歌いやすい調子のものであったが、のち、教訓の意を含まない流行歌もできるようになった。数節の歌詞を同じ曲譜で歌う。巷間にもはやされたものとしては、ʔicinʔukuduci [意見口説]、tabikuáuci [旅口説] (nubuikuáuci [上り口説] と kudaikuáuci [下り口説] より

なる), sicikuduci [四季口説], kurusi-makuduci [黒鳥口説] などがある。歌詞はほとんど全く日本語の沖縄説みで、七五・七五の連続より成る。

kuducibeesi① (名) [口説拍子] 口説 (kuduci) の歌詞と歌詞との間に、舞踊する者が即興的に入れる文句。本土のはやしことばのように短いものではなく、八八調や八六調などのことばをたくさん続ける。新築の祝いには家屋を賛し、還暦祝い・生年祝いには長寿を祝福し、子孫繁盛を祈願するなど、才人でなければできない。

kugaci① (名) 古我知。(地) 参照。

kugani① (名) こがね。黄金。

kuganiganasiimee① (名) 王世子をさしていう敬語。皇太子様。

kugani?iibiganii① (名) 金の指輪。

kugani?iibinagii① (名) kugani?iibiganii と同じ。

kuganii① (名) 橘。こがね色の実がなるのでいう。?iikwaasjaa ともいう。初夏、香り高い白い花が咲く。未熟の酸味の強い青い実は、芭蕉布をさらすのに用いる。

kuganiikunibu① (名) kuganii と同じ。

kuganikamisasi① (名) 金のかんざし。男子用。王・王子・按司が用いたもの。kamisasi の項参照。

kugani?uduN① (名) 首里城の建物の名。?ugu?iku の項参照。

kugani?eeku① (名) kugani?eeku と同じ。

kugani?eeku① (名) 飾り職。金属でかんざし・金具などを作るのを業とする者。

kugani?iilhwaa① (名) 金のかんざし。女子用。?uminaibi および ?aqtoganasii-mee, すなわち女王以上の身分の女がさしたもの。?iilhwaa の項参照。

kugara=sjuN① (他 =saN, =ci) 焦がす。焼いて黒くする。

kugari=jun① (自 =raN, =ti) ⊖焦げる。

⊖恋いこがれる。

kugarizini① (名) こがれ死に。恋いこがれて死ぬこと。

kugasi① (名) 水につけておいた米をすりつぶし、水にといたもの。その煮たもの (niikugasi) は病人・老人などの流動食にし、なまのままのもの (namakugasi) は悪酔いをさますのに用いる。

kugata① (名) こちら側。こっち。?uNna-daki ?agata satuga ?Nmarizima, mu-in ?usinukiti ~ nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島 森も押のけて こがたな さな] 恩納岳の向こう側は恋しい方の生まれ故郷、あの山も押しかけてこちら側にしたいもの。

kugatoo① (名) こんな遠方。この速さ。

kugee① (名) kugeei と同じ。

kngee① (名) 社交。交際。付き合い。「公界 (くげい)」から転じた語 (伊波普猷)。多人数相手の場合をいう。個人的な交際は hwiree という。~ sjun. たくさんの人を招いてごちそうする。

kugeei① (名) ⊖動くこと。揺れること。揺れ。⊖寝返り。

kugee=jun① (自 =raN, =ti) ⊖動く。揺れる。huninu ~. 船が揺れる。⊖寝返りをうつ。

kugeezin① (名) 訪問着。晴れ着。

kugeezin① (名) 交際費。社交費。

kugunii=jun① (他 =raN, =ti) 慎む。慎重にする。うやうやしくする。

kugu?iku① (名) 小城。(地) 参照。

kugu?iku① (名) 湖城。(地) 参照。

kugwa?i① (名) 九月。kuNgwa?i ともし

kuhuu① (名) くふう。~ sjun. しう。

kuhwa-(接頭) 堅い・柔和でないなどの意を表わす。kuhwamuci (堅い餅), kuhwa-?ibururu (堅い頭, 男の頭をさしている), kuhwahwizi (つつけんどんな返事) など。

kuhwaa① (名) 毒蛇の一種。はぶ (habu)

kuhwaa

に似ているが、はぶより短い。

kuhwaaⓐ(名) 堅いもの。

kuhwabaniiⓐ(名) 強くはねのけること。
荒唐しく拒絶すること。

kuhwaçiⓐ(名) 小波津。《地》参照。

kuhwaçiburūⓐ(名) 堅い頭。男の頭をさ
している。

kuhwadiisiⓐ(名) 植物名。「沖縄産有要植
物(金城三郎)」には「しまほう」「こぼで
いし」とある。葉は円形で、径15センチく
らいに達する。墓の庭に植える。人の泣き
声を聞いて成長するといわれている。材は
良質で建築用・器具用。葉は紅葉する。

kuhwadiisaⓐ(名) [文] kuhwadiisi の文
語。～nu ʔuçici madumadudu tijuru,
'jusumi madu hakati sinudi ʔimori.
[こはでさのお月 まどまど照ゆる よそ
めまどはかて しのでいまうれ] kuhwa-
diisi の葉陰に照る月はところどころにし
か照らぬ。人の目のすきをねらって忍んで
いらっしやい。

kuhwadooriⓐ(名) 日ごろ体の強い者が急
病で倒れ、あるいは急死すること。

kuhwahwiziⓐ(名) つっけんどんな返事。
怒りをおびた返事。

kuhwa=juNⓐ(自 =raN, =ti) ⊖(柔らかい
ものが) 堅くなる。固まる。kuhwatoon.
(=kuhwaku natoon.) 固まっている。⊖
仲が悪くなる。不和になる。kuhwatoon.
不和である。⊖こごえる。寒さで体が堅く
なる。ⓐ目がさめる。また、目がさえる。
眠れない。mii ～。目がさめる。

kuhwamuciⓐ(名) 堅い餅。

kuhwaNⓐ(名) [籠飯] 祭祀の場合の花米
(hanagumi…洗い清めた米) を盛る器。
丸い重箱の三つ重ね。普通は ʔukuhwaN
という。もともとは、その中に入れた米の
意。

kuhwaNgwaⓐ(名) 小波葎。《地》参照。

kuhwaNgwaⓐ(名) 古波葎。《地》参照。

kuhwasanⓐ(形) ⊖堅い。ʔuudunu ～。

ふとんが堅い。⊖仲が悪い。不和である。
ʔanu miitundaa ～。あの夫婦は仲が悪
い。

kuhwasicaⓐ(名) 小橋川。《地》参照。

kuhwaziri=juNⓐ(自 =raN, =ti) すっかり
固まる。堅くなりきる。腫物などがうんで
から、堅くなる場合などにいう。

kuhwaçuşiiⓐ(名) 炊きこみ御飯。いろ
いろなものをまぜ、味を付けて炊いた飯。
単に çuşii ともいう。

kuhwinaⓐ(連体・名) この大きさの。こ
のくらの。また、こんなに大きい。～
muN. この大きさのもの。これくらのも
の。～nu muN. こんなに大きいもの。～
ʔuza. こんな貴い御座敷。

kuhwiNⓐ(名) 小瓶。酒・水などを入れる
小さい瓶一般をいう。多くは陶製。

kuiⓐ(名) [文] 恋。ʔikana tinzikunu
ʔunitacinu ʔuzoN, ～nu mici 'jariba
ʔakidu sjujuru. [いかな天竺の 鬼立の
御門も 恋の道やれば 明きどしゆゆる(手
水之縁)] どんな天竺の鬼の立っている御
門でも、恋の道なら開きもしよう。

kuiⓐ(名) 古宇利島。沖縄本島本部半島東
北方にある小島。また、古宇利。《地》参
照。

kuiburiⓐ(名) 恋に狂った者。女について
いうことが多い。-buri<hurijun。

kuihaiⓐ(名) ぶつぶつ。不平をいうさま。
また、不平。kujaahajaa ともいう。～
sjun. ぶつぶつ言う。

kuihuniⓐ(名) くり舟。丸木舟。一本の木
をくりぬいて作った舟。şinni ともいう。
şinni ～nu ʔicuru tuke 'jariba,
kijuja ʔzni 'ugadi ʔacaja cuşiga. [す
んねくり舟の 行きゆる渡海やれば 今日
や行ぢ拜で 明日や来ゆすが] くり舟の行
ける海だったなら、きょう行ってお会いし
てあすは帰って来るのだけれど。

kuihwici① (名) いたく後悔すること。kuu-kwee より後悔の度が深刻。
kuika① (名) 恋歌。
kuikce=ju[~]N① (他 =raN, =ti) くり替える。ふり替える。
kuikeerun① (名) くり替え。支払い先の決まった金を一時他に流用することなど。
kuikesige[~]esi① (副) くりかえし。何度も。
kuikce=sjuN① (他 =saN, =ci) くり返す。
kuimaasi① (名) やりくり。融通。
kuimaa=sju[~]N① (他 =saN, =ci) 融通する。やりくりする。
kuimee① (名) 機織りの器具の名。十字形の中心に軸があり, kana (かせ糸) をかけて回転させ, 糸を繰るもの。
kuimudu=sju[~]N① (他 =saN, =ci) [文] くりもどす。また, くりかえす。'jujuru tusi mudusi 'wakaku nararijumi, kuimuduci mibusja hananu mukasi。[奇ゆる年戻ち 若くなられゆめ くり戻ち見ほしや 花の昔] 寄る年を戻して若くなれようか。花の昔をくりもどして見たいものだが。
kuizi① (名) [文] 恋路。
kuizinaa① (名) kuiziN の卑語。
kuiziN① (名) 恋に浮き身をやつす者。恋に夢中な者。
kuja① (名) [文] こうや。紺屋。普通は sumimuNjaa という。'asazi kunzuminu 'iruwakin neran, sumiwakaci tabori ~nu 'aruzi。[浅地紺染の色わけもないらぬ そめわかちたばうれ 紺屋のあるじ] 浅く染めるのと濃く染めるのとの色分けもこちらではできません。こうやの主人さんそちらで染め分けて下さい。
kujaahajaa① (名) ぶつぶつ。不平を言うさま。また, 不平。~nu 'uhusan。不平が多い。
kujami① (名) 悔み。人の死を悔んで言う

ことば。~ 'juN。お悔みを言う。

kuja=nuN① (他 =maN, =di) 悔む。後悔する。cimunu 'januN または kuukwee sjuN の方を多く用いる。また, お悔みを言う意では kujami 'juN という。

kujoo① (名) ⊖ 供養。死者の霊の供養。⊖ 供養。墓を作る, 橋をかけるなどの石普請をする時, その落成に際して石の神を祭り, 供物を供え, 祝儀をすること。hakanu ~ (墓の供養), hasinu ~ (橋の供養) などという。

kujoo① (名) 苦勞。心勞。

kujui① (名) [文] 今宵。今夜。tamaskanu ~ tuija 'utarutuN, sibasi 'akigumuni nasaki 'arana。[たまさかの今宵 鳥やうたるとも しばし明雲に 情あらな] たまに会う今宵であるから, 鶏は時を告げて, しばらくの間夜明けの雲に情があって, 夜が明けないようにしてほしいもの。宜湾朝保の歌。

kujumi① (名) 曆。旧曆は 'ucinaagujumi, 新曆は 'jamatugujumi という。

ku=juN① (他 =raN, =ti) 繰る。kana ~ かせ糸を繰る。

kukaru① (名) 小鳥の名。4~5月ごろ姿を見せる。凶鳥として忌み嫌われている。

kuku① (名) ⊖ 仲が悪いこと。剋の意。taruuja ziruutu ~。太郎は次郎と仲が悪い。⊖ 食いあわせ。'andamuntu hwi-zurumizee ~。油こいものと冷水は食いあわせ。

kuku① (名) [文] 殺物。殺の意。

-**kuku** (接尾) 石。一斗の10倍。'icikuku (一石), nikuku (二石) など。

kukuba① (名) 国場。《地》参照。

kukubu① (名) 国分。鹿児島地名。

kukuci① (名) 気持ち。気分。心地。~nu 'waqsan。気分が悪い。

kukuçi① (名) 癩癩。

kukugaku① (名) [国学] 首里の龍潭池畔

kukui

の松崎に尚温王の時(1858年)に設けられた国立の学校。王みずから「海邦養秀」の額を書き、教育を奨励した。

kukui①(名) ⊖しめくくり。まとまり。しまり。⊖くけ縫い。

kukuibaai①(名) くけ針。

kukuijaku①(名) [総り役] しめくくり役。まとめ役。

kuku=jun①(他 =ran, =ti) ⊖結ぶ。結んでまとめる。一緒にまとめる。'ututu ~. 離縁していた妻を和解させて夫と一緒にする。また、死後、別に葬られていた妻の骨を、夫の骨と一緒に、一つの骨がめに入れる。⊖(裁縫で) くける。⊖しめくくる。結末をつける。

kukumui①(名) つぼみ。

kukumu=jun①(自 =ran, =ti) (花が) つぼむ。つぼみとなる。coosjunnu kukumutoon. ばらがつぼみをもっている。

kukuniin①(名) 織機の箴(おさ)の種類の名。九読みの意。経糸720本を通すもの。またそれで織った布。huduciの項参照。

kukunu① ⊖(感) ここの。九つ。声を出して数える時ののみいう。⊖(接頭) kuku-nukeen (九回), kukunuhwani (九羽), kukunukumui (1銭8厘) など。

kukunuçi①(名) ⊖九。ここのつ。⊖昼・夜の12時。

kununukan①(名) 生後九か月目に行なり食べ初めの式。赤飯をたき, 'jugigun (その項参照)のごちそうをする。その子供にはおかゆのような柔らかい飯を食べさせる。

kununukumui①(名) 1銭8厘。zin (銭)の項参照。

kununukumuigan⁷zuu①(名) 1銭9厘。zin (銭)の項参照。

kuku=nuN①(他 =man, =di) 口に含む。口にくわえる。口でしゃぶる。cii ~. 乳

をしゃぶる。

kununutai①(名) 九人。まれな語。普通はkuniNという。

kununutugu⁷zuu①(名) 四十九歳。'jaano ~ najun. 来年は四十九になる。

kunanzaki①(名) 口移しに酒を飲ませること。含み酒の意。昔、国頭地方などで男が女に対してこうする風があった。

kukoo①(名) 国王。

kukuraki①(名) むなやけ。甘藷などを食べ過ぎた場合などに胸がやけること。

kukuri①(名) 注意する心。気をつける心。用心。~nu ?aru qeu. 気をつける人。注意心のある人。

kukuri①(名) 心得ること。心得。理解。

kukuri=jun①(他 =ran, =ti) 気を付ける。用心する。注意する。kukuriti ?aqki 'joo. 気を付けて歩けよ。

kukuru①(名) 心。精神。心情。意志。cimu (肝・心)と意味はほとんど同じだが、cimuを多く用いる。~nu 'nkaan. 心が向かない。しようとする意志がない。~nu nuriran. 気乗りがしない。また、納得しない。~ ?uci?akijun. 心を打ちあける。~nu sibasan. 心が狭い(cimunu sibasanともいう)。~nu suku. 心の底(cimunu sukuともいう)。~nu tuikiran. 心が解けない、釈然としない(cimunu tuikiranともいう)。~'jurusjun. 安心する、心をゆるめる(cimu 'jurusjunともいう)。kukuroo 'jurusaran. 安心できない。

kukuru?ati①(名) 心あて。心で期待すること。

kukurubeesan①(形) 目ざめやすい。睡眠中、ちょっとした物音ですぐ目をさます。cimubeesanともいう。

kukurugaki=jun①(他 =ran, =ti) 心掛ける。また、励む。gakumun ~. 学問に励む。

kukurugawai① (名) 心変わり。変心。

kukuru?iri① (名) 好意。親切。心をこめること。cimu?iri ともいう。

kukurujaQsaN① (形) 心安い。気づかいがない。安心である。

kukurumi① (名) 試み。ためし。

kukurumuci① (名) ところ持ち。気持ち。

kukurumutunasaN① (形) 心もとない。不安である。きずかわしい。

kukuru?ubi① (名) 心覚え。心に記憶しておくこと。cimu?ubi ともいう。

kukuruzasi① (名) ところざし。志。

kukuruziki① (名) 心付け。僕婢に手当てとして与える金品。また、物品を取納する役人に対する心付けをもいう。

kukuruzikijaku① (名) [心付役] kura-jaku と同じ。受け取る物品のうちから心付けとして上前をはねることが公然と許されていたのでこういう。

kukutimiNgwaa① (名) 目まい。目がくらむこと。脳貧血。miikuragaN ともいう。

kukutimiNgwi① (名) kukutimiNgwaa と同じ。

kukutimiNgwi=ju N① (自 =raN, =ti) 目まいがする。目がくらむ。脳貧血を起こす。

kukutirusaN① (形) [文] やるせない。うらさびしい。masi kumati 'uriba kukutirusa ?amunu, ?usukazitu ?iriti sinudi ?irana. [ませこまで居れば ここのさあもの うそ風とつれて 忍でいらな] 引きこもっているときさびしくてたまらないから、恋人のところへそよ風と一緒にこっそり入り込もう。

kuku?u① (名) 穀雨。二十四節の一つ。

kuma① (名) 熊。沖縄にはいないが、話や毛皮などで知られていた。

kuma① (名) ⊖ここ。こちら。この場所。～'icoon. (ここにすわっている意) イ。しっかりしている。思慮がある。ロ。家に落ち着いている。(放蕩者が)遊びに出歩か

ない。⊕あなたさま。また、このお方。こちらさま。貴人に対する二人称および三人称。kumaa taa 'jaimi?eega. あなたさまはどなたでいらっしゃいますか。

kumageei① (名) 寝返り。

kumaguma① (名) こまごま。詳細なこと。～nu hanasi. こまごまと詳しい話。

kuma=juN① (自 =raN, =ti) こもる。籠居する。また、女郎屋に居続ける。

kumakii① (名) 砕けたかけら。細かいかけら。tamuNnu ～。薪を割った時に出る薪のかけら。caanu ～。茶の粉になったもの。kwasinu ～。菓子のかげら。

kumamuti① (名) こちら側。こっちの方。

kumarikaa① (名) kurikaa と同じ。

kumasaN① (形) (所帯の持ち方などが) つつましい。?arasaN の対。sjuuteegumasaN ともいう。hwiiziija kumasa sjooti, nuuganandi ?iinee, ?umicicqtu ?ikajun. 平常は儉約して何かという時には思いきりよく使う。

kumeeki① (名) ⊕つつまじやかなこと。質素。儉約。⊖綿密。細心。詳細。

kumeekijaa① (名) ⊖儉約家。しまりや。⊖物事を丁寧にする者。細かい者。

kumeeki=juN① (他 =raN, =ti) ⊖つつましくする。儉約して質素に暮らす。zin kumeekiti ?ikajun. 金をつつましく使う。⊖細かく注意を払う。また、詳細にする。hanasi kumeekiti cikasee. 話を詳しく聞かせてくれ。

kumi① (名) ⊖組。仲間。同義語の kuna は組織する・まとめるなどの動作性の意をも含む(kuna sjun. 組織する)。～na-jun. 組になる。～?ukujun. 組を作る。⊖組。一揃いのもの。⊖(接尾)組。zuu-baku cukumi. 重箱一組。

kumi① (名) 米。

kumi?areemizi① (名) 米のとぎしる。しろみず。kuminusiru ともいう。

kumiçizi

kumiçizi① (名) 米粒。

kumidaara① (名) 米俵。

kumigan① (名) 米の粉で作った羊羹のようなもの。

kumigasira① (名) [与頭] 組の代表。部落内の親族集団, 耕作組, 砂糖組などの代表。muragasira の項参照。

kumigura① (名) 米倉。

kumi=juN① (他 =raN, =ti) 押し入れる。

(かご・棚などの中へ) 入れる。「こめる」に対応する。

kumikaN① (名) こめかみ。

kumikaNgoojaku① (名) こめかみごうやくの意。頭痛のする時に女子供がこめかみに貼るこりやく。

kumimacija① (名) 米穀店。米屋。

kuminukuu① (名) 米の粉。

kuminusiru① (名) 米のとぎしる。しろみず。kumi?areemizi ともいう。

kuminutama`ziri① (名) [久米二間切] 久米島の二つの間切。すなわち具志川 (gusicaa) 間切と仲里 (nakazatu) 間切。

kumi=euN① (他 =kaN, =ci) 汲みこむ。

(水がめなどに水をたくさん) 汲んで入れる。

kumi=euN① (他 =kaN, =ci) 踏み込む。踏み入れる。hwisja ~. 足を踏み入れる。

kumiraa① (名) kumiru と同じ。

kumiru① (名) くいな(水鶏)。稻田などで小魚・小虫を食う水鳥。体長30センチたらずで褐色。

kumişi① (名) 米須。《地》参照。

kumitati=juN① (他 =raN, =ti) 組み立てる。

kumiti① (名) 組み手。唐手で相手と組んで戦う練習法の名。

kumitu=juN① (他 =raN, =ti) 汲み取る。

kumiudui① (名) [組躍・組踊] 沖縄の古典劇。能と歌舞伎とを折衷したような形式をもつ楽劇。台詞・地謡とも韻文であり、間

の物・道行き・踊り・立ち回りなどいろいろのものが組み合わせられている。日本本土の能の影響が見られる。鹿藩前は国営の劇, すなわち国劇であった。享保4年(1719), 尚敬王の時の冊封使(正使海宝, 副使徐葆光)が渡来した際, その歓迎のために玉城朝薫(tamagaşiku cookuN)が躍奉行('uduibuzoo)に任ぜられて, 組躍五番(kumiudui guban)を創作した。組躍五番とは, mikarusii [銘苺子], sjuusiNkani?iri [執心鑑入], kookoonumaci [孝行之巻], 'unnamunugurui [女物狂], nidootici?uci [二童敵討]である。ほかに有名なものとしては, 田里(tasatu)作の maNzai [万歳], zisiNmunugatai [義臣物語], ?uhuguşikuku?iri [大城崩]の三番, 平屋敷朝敏(hwisica coobin)の timizinuin [手水之縁], 高宮城(takamjaaguşiku)の hana?uinuin [花売之縁], 古堅(huruziN)ほか数名の合作の cuukoohuzin [忠孝夫人], そのほかに, zuNciNnukwan [巡検之官], euusiNmigawai [忠臣身替], tin-gwanwaka?azitici?uci [天願若按司敵討], ni?anwabuku [二山和睦], simaitici?uci [姉妹敵討], çikahwinajuuci [東辺名夜討], mutubutaihwaru [本部大腹]などがある。国劇であったから, 政庁の役人が中心となって, 貴族の子弟から抜擢された貴公子が役者となり, 国費を投じて数年におよぶ練習ののち演ぜられたのであった。鹿藩後は一般公衆のものとして公演されるようになった。

kumizima① (名) 久米島。沖縄本島西方の島。

kumu① (名) 雲。

kunui① (名) 池。沼。自然のもの・人工の溜池のどちらをもいう。庭園の池は ?ici という。

kumui① (名) 曇り。

-**kumui** (接尾) 金銭勘定の単位。2厘。zin (銭)の項参照。cukumui (2厘), takumui (4厘)など。

kumuibata① (名) 池の端。

kumuidiNei① (名) 曇りの天気。曇天。

kumu=juN① (自 =raN, =ti) 曇る。

kumuzaa① (名) あばた。また、あばたのある者。maazaa ともいう。

kumuzi① (名) あばた。

kumuziri① (名) [文] 雲の切れ目。雲の絶え間。

kuna① (名) 組。kumi の項参照。~ kunuN. 組を作る。組織する。sjuiganasimedei nananu ~. [首里加那志美公事七の組] [文] 首里王域に仕える七つの組。すなわち、ʔweekatabi [親方部] 二人, ʔuzasicisjuu [御座敷衆] 二人, ʔataipeeciNta [当親雲上た] 二人, sidupeeciNta [勢頭親雲上た] 二人, gusjuinpeeciNta [御書院親雲上た] 二人, satunusita [里之子た] 二人, cikudunTa [筑登之た] 二人, gireeʔakugaN [家来赤頭] 七人(真境名安興による)。役目の下につく -ta は複数を表わす接尾辞。

kunaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 踏みつける。踏みにじる。踏み荒らす。

kunaba=juN① (自 =raN, =ti) 並ぶ。二つのものが一線にそろる。また、肩を並べる。優劣がない。

kunabi=juN① (他 =raN, =ti) 並べる。並べて比べる。比較する。

kunagi① (名) この長さ。こんなに長く。

kuna=sjuN① (他 =saN, =ci) ①踏みつける。②(人)を踏みつけにする。(弱い者を)あなどり、しいたげる。③消化する。(食物を)こなす。④耕作する。耕して十分土の手入れをする。'wan 'warabitumuti kunasjuraba kunasi, kunasidanu ʔNninu ʔabusimakura. [わんわらべともて こなしゆらばこなせ こなし田の稲の

あぶしまくら] わたしを子供だと思ってい始めるのならいじめよ。よく耕された田の稲はあぜを枕にするほど実るのだから。⑤(受身の形で) 修養を積む。鍛練を経る。kunasaqtooru qcu. 修養のできている人。

kuneeda① (名) この間。先日。先ごろ。

kuneedaNši① (名) 近ごろ。最近。この間。~nu kutu ʔari ʔicatan. この間彼に会った。kuneedaNšee. 近ごろは。

kunee=juN① (自 =raN, =ti) ①こらえる。我慢する。kuneeti turašee. 我慢しておくれ。②(けんかしてのち) 仲直りする。すなわち、こらえてけんかをやめる。dii kuneera. さあ、仲直りしよう。

kuni① (名) ①村落。落部。村。sima, mura などと同じ意味。複合語に、hanaguni (芸能のさかんな村), kariguni (寒村) など。②封土。領土。知行所。知行としてもらう村。③故郷。郷土。出身の部落。④国。国家。

kunibu① (名) オレンジ類の総称。みかんなど。kaabucii (実の皮が厚く、汁が少なく、甘いもの), ʔootoo (実の皮が薄く、汁が多く、すっぱいもの) などの種類がある。

kunici① (名) ここのか。月の九番目の日。また、一日の九倍。

kunicoodee① (名) 血縁関係のない他人同志でいて、まるで兄弟のように似ている者。他人のそら似。coodee は兄弟。

kunihjaa① (名) kunuhjaa と同じ。

kunija① (名) ①この時分。今ごろ。'jaaNnu ~. 来年の今ごろ。②こんなに遅く。こんな時間。~ maakaiga. こんなに遅くどこへ行くのか。~'jubukasani 'warabigwinu ʔašiga, ʔitu husizidemunu, ʔisuzi cikani. [こねや夜ぶかさにわらべ声のあすが いと不思議だいの急ち聞かね(執心鐘入)] こんな夜ふけに子

kuninuzuku

供の声がするが、実に不思議だ。急いで行って聞いてみよう。

kuninuzuku①(名) ⊖ 国の風俗。⊖ 村里・郷土の風俗。土俗。

kuninda①(名) 久米村。《地》参照。

kuniri①(名) [古] [こねり] 舞踊。オモロなどにある語。

kunisi①(名) 国吉。《地》参照。

kuniwaa①(名) 国内。国の広さ。

kunizuu①(名) 国中。国全体。

kunu①(連体) この。～ *sjumuçi*。この本。

kunuca①(名) この歳。この老境。kunujuca ともいう。

kunuguru①(名) このごろ。

kunuguruŋsi①(名) このごろ。昨今。最近。～ *ja maaŋkaiga ʔnzara*。[此ごろむすや まあむかへが行ぢやら(花売之縁)] このごろはどこへ行つたやら。

kunugutooru①(連体) こんな。このよな。かよな。kunugutooru ともいう。～ *mun*。このよなもの。また、こんなつまらぬもの。

kunugutooruu①(名) こんなもの。このよなもの。これと似たもの。

kunugutu①(副) このよに。こんなに。かよに。kunugutu ともいう。

kunuhjaa①(名) こいつ。こやつ。この野郎。kunuhjaa ともいう。

kunuhuzanee①(名) これしき。こんな些細なこと。kunu ʔatai(nu kutu) ともいう。

kunuhwin①(名) この辺。このあたり。

kunujoo①(名) このよ。やや文語的な語。～ *na*。このよな。～ *ni*。このよに。kunugutooru, kunugutu などというのが普通。

kunujuca①(名) この歳。この老境。kunuca ともいう。～ *ni natin*。この歳になっても。

kunujuu①(名) この世。現世。ʔanujuu の対。

kunumi①(名) ⊖ 考案。立案。計画。⊖ 企て。計略。ʔjanagunumi。(悪い企て)

kunu=nuN①(他 =*man*, =*di*) ⊖ 考案する。立案する。計画する。kunu cinnu ʔajaa ʔjuu kunudeen。この着物の模様はよく考案してある。⊖ 企てる。策謀する。

ku=nuN①(他 =*man*, =*di*) ⊖ 組む。編む。hwiragun ~。組みひもを組む。boosi ~。帽子(パナマ帽)を編む。⊖ 組む。組織する。kuna ~。組をつくる。

ku=nuN①(他 =*man*, =*di*) (はきものを) はく。ʔasiza ~。下駄をはく。huja ~。靴をはく。

ku=nuN①(他 =*man*, =*di*) 汲む。mizi ~。水を汲む。

kunuqcu①(名) この人。

kunusjaku①(名) このくらい。これくらい。これほどの量。～ *dikiree ʔjutasjan*。このくらいでできればよろしい。

kunutaki①(名) これほど。～ *nu kutu*。これほどのこと。～ *ni ʔwanun najagajai ʔuŋiga, cini kanau ʔwinagu subani mata ʔuran*。[此たけに我も なやがやい居すが 気に叶ふ女 側にまた居らぬ(大川敵討)] これほどにわたしも高い身分になったが、気に入った女がそばにはいない。ʔjaa kamizuu, ʔawari ~ *ni naihatiti ʔuŋiga, tanumusija mutunu makutu ʔwaŋiriran*... [やあ亀千代 あはれ此たけに なり果ててをすが たのむしや元の 誠忘れらぬ... (忠臣身替)] やあ亀千代、あわれこれほどまでに落ちぶれてしまっている、頼もしいことに昔の誠を忘れずに...。～ *ni natoondee muru ʔumaantan*。これほどになっているとは全然思わなかった。

kunutuci①(名) この時。

kunuŋuci①(名) 近いうち。近日中。～

- cuura hazi. 近いうちに来るだろり。～ nakai sjuſee masi. 近いうちにやった方がよい。
- kunuu**ⓐ (名) 保証。保証人となること。「口入(く)にゆり)」に対応する。～ ʔijun. 保証する。保証人となる。
- kunuu**ⓑ (名) 不平。苦情。抗議。cinnu ～. 着物についての不平。
- kunuumanuu**ⓑ (名) 大いに不平をいうこと。不平たらたら。～ nu ʔuhusan. 不平が多い。～ Qsi san. 不平ばかり言って、やらない。
- kunuzu**ⓑ (名) この間中。このところずつと。～ ʔicunasatan. このところずつと忙しかった。
- kuN-**(接頭) 動詞について「強く…する」, 「はげしく…する」などの意を表わす。kuNsibajun (強くしぼる), kunsimijun (ぎゅっと締める) など。
- kuNcaa**ⓑ (名) ⊖癩病患者。⊖こじき。癩病患者はこじきに多いので、こじきの別名ともなった。
- kuNcaaboozaa**ⓑ (名) kuNcaaboozi の卑語。ʔjamatu ʔnmariti ～ narajaka, ʔucinaa ʔnmariti karihaamee. 日本に生まれてざんざり頭になるよりは、沖繩に生まれてきたばりばあになつた方がまだよい。廃藩のころ、日本本土の断髪をのして言ったことば。
- kuNcaaboʔozi**ⓑ (名) ざんざり頭(卑語)。断髪が悪口としていう。～ N ʔwaaboozi. (諺) ざんざり頭でも自分の頭。自分のものは何でもよい意。
- kuNcaka=jun**ⓑ (自 =raN, =ti) (水などが) ひっかかる。(水などを) あびる。
- kuNcaki=jun**ⓑ (他 =raN, =ti) (水などを) ひっかける。あびせる。ʔjuu ～. 湯をあびせる。
- kuNcee=jun**ⓑ (自 =raN, =ti) kuNkeejun と同じ。
- kuNcee=sjun**ⓑ (他 =saN, =ci) kuNkeesjun と同じ。
- kuNci**ⓑ (名) 癩病。
- kuNci**ⓑ (名) 根気。
- kuNciburaari**ⓑ (名) 根気がたりないこと。根気不足。
- kuNſici**ⓑ (名) 今月。
- kuNci=jun**ⓑ (他 =raN, =Qci) 横切る。横切つて近道をする。kuN-<kunun(踏む)。
- kuNſika=jun**ⓑ (他 =aN, =ti) こき使ひ。酷使する。
- kuNſiki=jun**ⓑ (他 =raN, =ti) 踏みつける。強く踏んで荒す。
- kuNſirimici**ⓑ (名) 近道。畦などを伝つて近道をする。また、その道。
- kuNſirimiicii**ⓑ (名) 畦を伝ふなど、道でない所を横切つて近道すること。～ sjun.
- kuNcisjuubu**ⓑ (名) 根気くらべ。
- kuNciʔuzinii**ⓑ (名) 体力をつける食物。滋養物。tamagoo tadeemanu ～. 卵はすぐ効果のある栄養物。
- kuNcuu**ⓑ (名) 困窮。貧窮。貧乏。
- kuNcuu=jun**ⓑ (自 =raN, =ti) (病人・子供などの足が) 強くなる。立つて歩けるようになる。maada kuNcuuran, burabura sjoon. まだ足の力がなくてよろよろしている。
- kuNcuumuN**ⓑ (名) 困窮者。貧乏で生活に困る者。
- kuNda**ⓑ (名) こむら。ふくらはぎ。
- kuNdaʔagajaa**ⓑ (名) こむらがえり。ふくらはぎの筋が急にけいれんして激痛を覚えること。
- kuNda=sjun**ⓑ (他 =saN, =ci) (行事を) とりやめる。お流れにする。ʔami huti kuNdasaQtan. 雨が降つてとりやめにさせられた。
- kuNdi=jun**ⓑ (自 =raN, =ti) ⊖(こすれて) 消える。(字・印などが) 鮮明でなく

なり、わからなくなる。sirusinu kunditi 'wakaraN natoon. 標識が消えてわからなくなっている。⊖(催しが)中止になる。お流れになる。cuunu hanabee kunditan. きょうの花火はお流れになった。

kuNdu①(名)今年。ことし。kundoo 'jugahuudusi. ことしは豊年。

kuNgutooru①(連体) kunugutooru と同じ。

kuNgutu①(副) kunugutu と同じ。

kuNgwaçi①(名)九月。年の第九番目の月。kugwaçi ともいう。～ kunici cikuřuzaki. [九月九日菊お酒]9月9日の重陽の節供に、酒に菊の葉をひたして供え、また飲むこと。

kuNhan=sjuN①(他=san, =ci) 踏みはずす。踏みそこなって、足場を失う。

kuNjaku①(名) こんにゃく。

kuNkeç=juN①(自=raN, =ti) (貧乏・病気などから) 立ち直る。kunceejuN ともいう。kuN<kumi-(踏み) -keçjuN (かえる)。

kuNkeç=sjuN①(他=san, =ci) 立ち直る。(貧乏・重病などを) 克服する。kuncee-sjuN ともいう。hwinsuu kunkeçci řweeki sjoon. 貧乏を克服して、金持ちになった。

kuNkoo①(名) 勲功。国家に尽した功勞。

kuNkoomuci①(名) 勲功のある人。

kuNkunsii①(名) [工工四] 琉球音楽の曲譜。三味線のものとは琴のものがある。いずれも安富祖流と野村流の両派がある。三味線(sansin)の場合は'uuziru(一の糸), nakaziru(二の糸), miiziru(三の糸)について、それぞれ次のような符号で表わす。一の糸: 合(不掩), 乙(人差指), 老(中指), 下老(無名指)。二の糸: 四(不掩), 上(人差指), 中(中指), 尺(小指), 下尺(小指下)。三の糸: 工(不掩), 五(人差指), 六(中指), 七(小指), 八(小

指下), 九(又下)。打音ㄨ, 掛音ㄱ, 極音ㄴ, 列弾ㄷ, 声出ㄹ, 声切ㄱ。もとは楽譜もなく、面授口伝であったものを、向氏屋嘉比朝寄が音曲のことを調べ、はじめて音楽譜工工四を作り、のち数代を経て歌氏知念積高が大成し完全なものにした。知念は平民で無系の者であったが、声楽にすぐれていたので士同列歌職を命ぜられ、功を以て歌氏という新家譜を賜わった。琴(kutu-u)の譜は、弦名は日本のものと同じく、一二三四五六七八九十斗為巾の13弦でこれを三味線の譜に調べ合わせたものである。

kuNkurubaşee①(名) 押し合いへし合い。人を押しのけたり、突き倒したりの大混雑。sjuNcoo suriiřurii, naahwancoo naahaibai, kunindancoo ~, tumaincoo tumeeidumeei. 首里の人は打ち揃って、那覇の人はばらばらに走り、久米の人はおし合いへしあい、泊の人は互いに助け合つて。(頭韻を踏んでいる)

kuNkwaa=sjuN①(他=san, =ci) 無理に食わせる。また、(酒・薬などいやがるものを) 無理に飲ませる。

kuNmaa=sjuN①(他=san, =ci) 踏まないようにさけて通る。(水たまりなどをさけて) ちょっと回り道する。

kuNmi①(名) 小嶺。《地》参照。

kuNna①(連体) こんな。

kuNnagee①(名) ⊖こんなに長い間。～ macundee řumaantan. こんなに長い間待つとは思わなかった。⊖従来。以前。前。～ja hataki 'jataşiga moo natoon. 以前は畑だったが、野原になってしまった。

kuNnoo=juN①(自=raN, =ti) 立ち直る。勢いをもりかえす。病気などがよくなる。また、貧困から浮かび上がる。

kuNnoo=sjuN①(他=san, =ci) 持ち直す。回復する。(病気などが) よくなる。

kuNnu=zun①(他=gaN, =zi) 追い越す。

- kuNnugarijun. 追い越される。
- kuNpaika'apai④ (副) 大いにふんばるさま。kunpainipai ともいう。
- kuNpainipai④ (副) 大いにふんばるさま。durumici ~ qsi ʔaqeun. 泥道を一步一步踏みしめながら歩く。
- kuNpa=juN④ (自 =raN, =ti) ①足をふまえる。ふんばる。②がんばる。頑固に抵抗する。
- kuNpeN④ (名) 菓子の名。麦粉を油で練り、ごまをあんに入れた焼き菓子。
- kuNpici④ (名) 蹂躪(じゅうりん)。
- kuNpii=zuN④ (他 =gaN, =zi) 踏みつぶす。踏みにじる。蹂躪する。
- kuNpiraka=sjuN④ (他 =saN, =ci) 踏みつぶす。あやまって踏みつぶす場合にいう。kuNpiizuN は意識してする場合に多くいう。
- kuNrii④ (名) 婚礼。結婚式。身分のある人の婚礼をいう。王子・王女の婚礼は gukurnrii (御婚礼) という。一般人の婚礼は niibici, その敬語は ʔunibici という。
- kuNsi④ (名) 君子。教養ある人の使う語。
- kuNsju④ (名) 豆腐を作る時、煮て、豆腐をしぼる前の汁。にがりを入れて固める前のものをいう。固まってまだしぼらぬものは ʔusidoohu という。
- kuN=sjuN④ (他 =saN, =ci) 消す。とすつて消す。すり消す。zii ~. 字を消す。
- kuNsugu=juN④ (他 =raN, =ti) ひったくる。奪い取る。ひっさらう。
- kuNtaba=juN④ (他 =raN, =ti) 強く縛る。束ねて強く縛る。
- kuNtoo=sjuN④ (他 =saN, =ci) 踏み荒らす。踏み倒す。
- kuNtu=juN④ (他 =raN, =ti) 奪い取る。ひったくる。
- kuNzaahwiNzaa④ (名) 幾重にも縛りつけ、結びつけること。~ sjuN. やたらに縛り、結びつける。
- kuNzaN④ (名) ①kuNzaNhoo と同じ。②国頭。《地》参照。
- kuNzaNhoo④ (名) [国頭方] 沖縄の旧行政区画で、のちの国頭郡。ʔjanbaru (山原) ともいう。
- kuNzaNsabakui④ (名) [国頭さばくり] 国頭木遣音頭。国頭から首里王府へ重い材木を多人数で運ぶ時の歌。入調の長歌ではやしをつけて歌う。
- kuNzi④ (名) 紺地。紺の地の布・着物。
- kuNziN④ (名) 金神。陰陽上の方角の神。その方角に対して物事をするのを避ける。
- kuNzoo④ (名) 悪意。意地悪。根性が悪いこと。立腹しやすい根性。~ ʔnzijun. 怒る。立腹する。
- kuNzooʔabii④ (名) 怒声。怒ってどなる声。
- kuNzoomuN④ (名) 根性の悪い者。意地悪。
- kuN=zuN④ (他 =daN, =ci) くびる。くくる。しめて結ぶ。縛る。また、捕縛する。
- kuQkuruuʔu'u④ (副) おんどりが時をつくる時の鳴き声。こけこっこう。
- kuQpeeru④ (連体) これほどの(量の)。この大きさの。
- kuQpeeruu④ (名) この大きさのもの。これだけの量のもの。
- kuQpi④ (名) これほどの(量)。これくらい(の分量)。この大きさ。
- kuQsa④ (名) これだけ(の数)。これくらい(の数量)。これほど。
- kura④ (名) 倉。倉庫。
- kura④ (名) 鞍。牛馬の背におくもの。
- kuraa④ (名) 雀。ʔjumudui はその古語。
- kurabi=juN④ (他 =raN, =ti) 比べる。比較する。kunabijun ともいう。
- kuragaa④ (名) 甘藷の一種。上等な品種である。
- kuraguratu④ (副) [文] 暗暗と。不安・疲労・恐怖などのために、目の前が暗くなる。

kurajaku

- さま。mimutu ~ naruga sinai. [目もとくらぐらと なるが心気(銘刈子)] 目の前がまっくらになる心地。
- kurajaku**④ (名) [蔵役] 物品を収納する役所の役人。出納人。kukuruzikijaku ともいった。
- kurajami**④ (名) 暗やみ。暗黒。
- kuramutu**④ (名) [蔵元] 先島の行政役所の名。徴税を主な仕事とした。
- kurasan**④ (形) 暗い。
- kurasi**④ (名) 暮らし。生活。生計。
- kurasiyata**④ (名) 暮らし方。生計。生活の方法。tuzimiitu cutukuruni ~ naran. [妻めいと一所に 暮らし方ならぬ(花売之縁)] 夫婦がひとところに生活することができない。
- kurasiyurisan**④ (形) 暮らしにくい。暮らしが楽でない。kurasigurisjaru 'juu 'jaqsaa 'jaa. 暮らしにくい時代だねえ。
- kurasiyaqsan**④ (形) 暮らしやすい。暮らしが楽である。?anu simaa ~. あの部落は暮らしやすい。?aree kurasiyaqsasjoon. 彼は楽に暮らしている。
- kurasin**④ (名) まっ暗なところ。暗やみ。暗すみの意。~utee nuun miiran. 暗やみでは何も見えない。
- kura=sjun**④ (他 =san, =ci) 暮らす。?jamatuuti nannin kuracooga. 日本で何年暮らしているか。
- kuratai**④ (名) 王室の倉庫係。
- kurazoori=juN**④ (自 =ran, =ti) (日暮れ方などに) 薄暗くなる。
- kuree**④ (名) ⊖位。位階。⊖(接尾) くらい。canukuree (どのくらい), saataaja kunukuree caaga. (砂糖はこのくらいでどうか) など。
- kuri**④ (名) くれ(樽)。おけ・たるなどを作るために小さく切った板。
- kuri**④ (名) いかの墨。
- kuri**④ (名) これ。この物。この事。また、

この者。

- kuriigirii**④ (副) 狂わんばかりに嘆き悲しんで。~ ?jun. 深く嘆いて言う。
- kuriimajaa**④ (名) さかりのついた猫。恋猫。
- kurii?waa**④ (名) さかりのついた豚。
- kurikaa**④ (名) この辺。このあたり。
- kurikara**④ (名) これから。今後。
- kurima**④ (名) 来間島。宮古群島の島の名。
- kurisjan**④ (形) 苦しい。kurisja sjun. 苦しむ。
- kuroo**④ (名) 苦勞。
- kuru**④ (名) ころ。時分。'waaga 'waka-sataru kuroo. わたしの若かったころは。?ikuçinu ~. 何歳のころ。
- kuru** (接尾) 「自身で」の意を表わす接尾辞。英語の -self に似ている。'wanKuru (わたし自身で), duukuru (自分自身で), ?unzukuru (あなた自身で), ?janKuru (おまえ自身で), ?arikuru (彼自身で), nanKuru (おのずから), ?amanu ?unzukuru (あの方御自身で), taruukuru (太郎自身で) など。
- kurubasee**④ (名) 子供の遊戯の名。転ばし合い。toosee ともいう。相手を倒し、組み敷いて起き上がらせない方が勝。組み敷かれて起き上がれない場合は相手に ?wenmi. (降参) と言う。
- kurubazaa**④ (名) 目分量による計算。大ざっぱな勘定。めのご勘定。
- kurubee**④ (名) 黒かび。夏, 白い着物などに生ずる黒いかび。
- kurubinkeerin**④ (名) ころげ回ること。
- kuruboo**④ (名) 植物名。柿科。果実は魚毒を消し、酒の酔をさます。くさのがき。琉球柿。
- kuru=buN**④ (自 =ban, =di) 転ぶ。転がる。kurubasjun. 転ばす。転がす。
- kurucani**④ (名) 稲の品種の名。
- kuruci**④ (名) 植物名。くろき。琉球黒檀。

- kurucoo**① (名) 黒色の coozin [朝衣]。coozin の項参照。
- kuruguma**① (名) 黒胡麻。kuruʔuguma と同じ。
- kurugweei**① (名) 筋肉隆々として頑丈なこと。黒くたくましくふとること。
- kurujoogari**① (名) 栄養不良などでやせて、色が黒くなること。
- kurukani**① (名) くろがね。鉄。
- kurukanii**① (名) 鉄の一厘銭。ʔakazinaa に対する。
- kurukumu**① (名) 黒雲。
- kurukuru**① (副) ころころ。物のところがるさま。
- kuruma**① (名) ㊦製糖場の圧搾車。㊦車。車輪。また、荷車・人力車など、車のついた運送具。もとは㊦以外には kuruma と名のつくものは、ほとんどなかったようである。
- kurumaa**① (名) [新] 人力車夫。車屋。kurumahwicaa ともいう。
- kurumaami**① (名) 黒豆。烏豆。黒大豆。大豆の一種。
- kurumabo**ʔo① (名) 車棒の意。豆などの脱穀に用いる。長短二本の棒からなり、短い方を手に持ち、長い方を車のように回して豆類をたたいて脱穀する。からざお。
- kurumaga**ʔa① (名) 車井戸。滑車につるべ縄をかけて水を汲む井戸。
- kurumahwicaa**① (名) [新] 車引き。人力車夫。kurumaa ともいう。廃藩後零落した士族でこの職業につく者が多かった。そこで、気位高く、平民・いなか者に対して、kuruma nuti ʔikee。(車に乗って行け) と言ひ、乗る方が caqsaqsi nusiti kwimiseega。(いくらでのせて下さいますか) という光景を演じたりした。
- kurumiibaju**① (名) 魚名。くろめばる。miibaju (めばる) の一種。
- kuru=nuN**① (自 =maN, =di) 黒くなる。
- 黒ずむ。黒む。打撲傷を受けた時皮膚が黒くなることもいう。
- kuruN**① (名) ころも。僧衣。
- kuruNgeeci**① (名) ころもがえ。更衣。旧暦4月、冬物から夏物へ、また、旧暦10月、夏物から冬物へころもがえすること。
- kururuNsii**① (名) kunKunsii と同じ。
- kurusaN**① (形) 黒い。ʔirunu ~。色が黒い。
- kurusibii=juN**① (自 =raN, =ti) 黒ずむ。(顔色・肌の色が) 黒ずんで色つやが悪くなる。
- kurusima**① (名) 黒島。八重山群島の島の名。
- kurusimakuduci**① (名) [黒島口説] kuduci [口説] の一つ。
- kurusimi**① (名) [文] 苦しみ。
- kurusi=nuN**① (自 =maN, =di) [新] 苦しむ。
- kurusju**① (名) 黒潮。大海の潮の黒く見えるもの。
- kuru=sjuN**① (他 =saN, =ci) ㊦殺す。主として動物を殺すのにいう。㊦打つ。なぐる。tataqkurusjuN などともいう。やや乱暴な語。上品には ʔatijun という。また、これに対し sjoogurusi (ほんとに殺すこと) という語がある。
- kurusjuʔoosju**① (名) 大海原のこと。黒潮青潮の意。
- kurusjuʔuzuutu**① (副) 人の顔色が黒みがかって色つやがあり、一種の味のあるさま。にがみ走っているとか、渋味があるなどといわれる顔つきをいう。
- kurutuN**① (名) [新] 植物名。クロトウ。マライ原産の観賞用植物の名。
- kuruʔuguma**① (名) 黒胡麻。kuruguma ともいう。
- kuruu**① (名) ㊦黒。黒色。また、黒いもの。㊦反対党。正統派 (siruu) に反対するもの。㊦特に、明治の廃藩時代に、明治

kuruzaataa

政府に反対し、旧制度維持をもくろんだ頑固党をいう。husaNsi(不賛成)ともいい、明治政府支持の開進派(siruu または saNsii)に対する。明治の末ごろまでも髪を切らず、Pusjuganasiimee(琉球王)をたたえた。

kuruzaataaⓐ(名) 黒砂糖。普通は単に saataa という。

kusaⓐ(名) 病名。フィラリヤ。突然発熱し、寒気がして体が震える。慢性で、しまいに象皮病になる。南国に多い地方病。～hurijun。フィラリヤにかかる。体が震えるので hurijun(ふるえる)という。

kusaⓐ(名) 草。とくに、雑草。～nu mii-jun。雑草がはえる。～tujan。雑草を取る。

kusabanaⓐ(名) 草花。

kusabiⓐ(名) くさび。楔。

kusabuqkwaaⓐ(名) ませた者。おとなぶる者。また、ペダンティックな者。

kusabuqkwi=junⓐ(自 =raN, =ti) ませる。こましゃくれる。また、物知り顔にふるまう。

kusahurijaaⓐ(名) フィラリヤ患者。

kusaiⓐ(名) 支配。支配力。～nu 'joosaN。支配力が弱い。

kusaiⓐ(名) 鎖。

kusa=junⓐ(他 =raN, =ti) ㊦つなぎ合わせる。一つにする。合体する。分家をもとにもどして一つにする場合などもいう。mii-tundanu kuçi tiicinkai～。死後、夫婦の骨を一つにして納める。㊦支配する。'jaa～。家を支配する。mura～。村を支配する。

kusakaciⓐ(名) 農具の名。かながき。鉄製の熊手のようなもの。草掻きの意。

kusakaiⓐ(名) 草刈り。

kusakajaaⓐ(名) 草刈りをする者。子供が多くこれにあたる。また、草刈りの道具。

kusakajaawarabaaⓐ(名) 草刈りをする

子供。

kusakiⓐ(名) 草木。kiikusa ともいう。

kusakiiⓐ(名) こんなにたくさん。こんなに多く。Yiriminu～hajagatoon。費用がこんなに超過している。～nu qcu。こんなにたくさんの人。

kusakusaⓐ(副) くさくさ。気がめいり、心がふさぐさま。

kusamicino¹oriⓐ(副) 憤慨するさま。いきどおるさま。

kusami=cuNⓐ(自 =kaN, =ci) 怒る。憤慨する。

kusamuniiⓐ(名) ませたものの言い方。おとなびた話し方。また、ペダンティックな口のきき方。camisika şimee siranoo sjooti～bikeei qsi。大して学問はないくせに、物知り顔な口のきき方ばかりして。

kusamunu?iiⓐ(名) kusamuniiと同じ。

kusanuhwaaⓐ(名) 草の葉。

kusanumiiⓐ(名) 草原の中。

kusanuniiⓐ(名) kusa(病名)の病根。

kusanuniiⓐ(名) 草の根。

kusandakiⓐ(名) ほていちく。竹の一種。節が多く、葉は細かく、杖や格子などにする。

kusaraaⓐ(名) 腐ったもの。kusarimun ともいう。

kusari=junⓐ(自 =raN, =ti) 腐る。腐敗する。食物のいったん煮たものが腐敗する場合は şiijun という。kusaritooru ?iju。腐った魚。

kusarimunⓐ(名) 腐ったもの。kusaraa ともいう。

kusasaNⓐ(形) 臭い。悪臭がする。kusasa kusasa。臭い臭い。とても臭い。

kusatuiⓐ(名) 草取り。

kusazinaⓐ(名) 植物名。くさぎ。

kusa=zuNⓐ(他 =gaN, =zi) こそげる。こするようにして、けずり落とす。(密着したものを) そぎ落とす。'uuzi～。イ。砂糖

きびの枯葉を幹からそぎ落とす。ロ。盆祭りに具える kwasiuuzi (菓子きび) の場合には、その幹の皮をそぎ落とす。

kuṣeeku① (名) 男の裁縫師。巧妙な刺繍などの手工芸を業としている。

kusi① (名) すきぐし。髪をすいてあかを取るための、歯の密な櫛。普通の櫛は sabaci という。

kusi① (名) 久志。《地》参照。

kusi① (名) ①背中。背。また、腰。腰および背面全体。背中は kusinagani ともいう。また腰まわりの細い部分は gamaku という。～ tatacuN. 背中をたたく。あんまをする。～ ṣijun. (風呂などで) 背中を流す。～ ʔusjun. (坂道を上る時などに) 背中を押す。～ hwicuN. (親兄弟・一族などの) 名をはずかしめる。つらよごしをする。ʔujanu ~ hwicuru ʔukunee qsi. 親の恥となるような行為をして。ʔitumikara haimi hukirutun 'waminu nujudi ʔumisatunu mikusi hwi-cuga. [糸目から針目 ほけるとも我身のよで思里の 御腰引きゆが] 糸が針の目をくぐるようなかほそい暮らしをしても、何でいとしいあなたの不名誉になるようなことをしましょか。②[後]うしろ。後方。背後。'jaanu ~. 家の後ろ。～ nasjun. 背を向ける。そっぽを向く。(いやだと) 顔をそむける。kusjaa nasjun ともいう。

kusi① (名) 嫌って避けること。忌避。～ sjun. 嫌り。忌避する。

kusi① (名) 欠点。きず。nuu ~N neeN qcu. 何の欠点もない人。ciri tiiqin nee-ran curasadu ~. [ちり一つもないらぬ清らさどくせ(姉妹敵討)] 塵一つもないのが欠点。掃除がきれいにできたことを自慢する文句。

kusi① (名) 癖。性癖。'janagusi. (悪癖)

kusibuni① (名) 背骨。naganibuni と同

じ。

kusici① (名) 戸籍。～ ʔirijun. (結婚して) 入籍する。～ nuzun. (離婚などで) 除籍する。

kusicii① (名) こしき。せいろう。強飯・菓子の類を蒸すもの。木のわくの底に竹のすのこを敷いたもの。

kusicii ʔukwaasi① (名) こしきで蒸して作った菓子。蒸し菓子。もっぱら祭礼用で、米の粉と砂糖を主にして、香料や、味をよくするため南京豆などを少々入れる。種類多く、ciisunkoo, paasunkoo, nisi-cimucigoo, ʔiruçikimucigoo, kooreemuci などがある。

kusidaki① (名) 久志岳。国頭地方にある山の名。

kusidee① (名) ①腰の力。-dee < tee (力)。②頼みとする力。頼みとなるもの。～ najun. 頼みとなる。～ 'joojun. イ。腰の力が弱る。ロ。頼みに思う者がいなくなり、力が弱る。

kusigaki① (名) ①頼みにすること。頼りにすること。②転じて、かさに着ること。鼻にかけること。威を借りること。ʔuja ~ sjun. 親の威をかさに着る。zin ~ sjun. 金銭を鼻にかける。③の意で多く用いる。

kusigirama① (名) [後慶良間] 座間味 (zamami) 間切の別称。

kusihazii① (名) もろ肌脱ぎ。帯から上を腕いで、上半身の肌をあらわすこと。

kusihwici① (名) 名折れ。つらよごし。不名誉。親兄弟・一族などの名をはずかしめること。<kusi hwicun.

kusihwicimun① (名) 一族一門などに不名誉となることをする者。つらよごし者。

kusi hwizurusaN① (形) 背筋が寒くなる。(こわい夜道を歩く時などに) 恐ろしさでぞっとする。急な危険の時、または人の危険を見た場合には 'nnihwizurusaN (はっ

kusijoosan

とする)という。

kusijoosan① (形) 心細い。頼る者がなくて、心細い。

kusi=juN① (他 =raN, =ti) 着せる。また、着せ与える。着物を作り、または求めて、人に与える。ciN ~。着物を着せる。

kusijuqkwii① (名) [腰顔]骨休め。農繁期の仕事が終わってする骨休めの行事。部落ごとに酒宴を開き、余興にうち興ずる。砂糖仕事の後にするのが普通。

kusinagani① (名) 背中。単に kusi または nagani ともいう。

kusiree=juN① (他 =raN, =ti) 魚や家畜の類を料理しやすい形に切り分ける。(魚を)おろす。(家畜の類を)解きわかつ。

kusitataci① (名) 腰をたたくこと。あんま。

kusizaa① (名) 機織りの器具の一つ。地機で *ʔijanuqkwa* (織った布を巻くもの。いのあし) と紐で結び、織る人の腰にかけるもの。

kusizii① (名) [後地] 伊平屋島 (*ʔihja*) をいう。

kusjaa① (名) 後ろ。後方。背後。~ *ʔuqcee=juN*。仰天する。びっくり仰天する。後ろへびっくり返る意。~ *najuN* ともいう。~ *nasjuN*。イ。後ろにする。ロ。後ろを向く。顔をそむける。kusi *nasjuN* と同じ。*ʔiranu* ~ *naruka ʔaʔku sjuN*。顔が向けられなくなるほど、叱る。~ *mucisuri=juN*。後ろにそりかえる。

kusjati① (名) ⊖後ろにすること。背にすること。haaja ~ *sjuN*。柱を背にする。makutu nani tacuru sjujanu ban-dukuru, nakajamaja ~ minatu me naci。[まこと名に立ちゆる 塩屋の番所 中山やこしやて 港前なち (花売之縁)] まことに名高い塩屋の番所は、中山を後ろにし、港を前にしている。⊕頼りになる者。転じて夫。また、ひとり息子*。~ *ʔusina=juN*。夫 (または、ひとり息子*) を失う。

⊕根拠。nuu ~ *ʔsi ʔan ʔjuga*。何を根拠にして、そういうか。

kusjatikata① (名) 夫のかた。嫁入り先の方。nasimii (里方) の対。

ku=sjuN① (他 =saN, =ci) 越す。越える。*ʔacakaranu ʔasati satuga bannubui taNca kusju ʔaminu hurana ʔajaʒa*。[明日からの明後日 里が番のぼり 谷茶越す雨の 降らなやすが] 明後日は恋しいかたが首里へ勤務に向かう日だが、谷茶の村を越えてしまいくらいの雨が降って出発できなくなればいいのだが。

kusjuqkwii① (名) kusijuqkwii と同じ。

kusu① (名) くそ。大便。首里の上品な家庭では *ʔura* という。~ *kwee*。くそくらい。くしゃみをした時にいうまじない。~ *majuN*。大便をする。くそまの意。上品には *ʔura tacun*。または *huru ʔijuN*。などという。

kusuciribai① (名) 一目散に走ること。

kusugwee① (名) 下肥え。

kusuhwirii① (名) 下痢。上品には *hukadaci* という。-*hwirii* < *hwijuN*。

kusui① (名) 薬。tuti *ʔikiiru kusuee neeN*。とってつける薬はない。馬鹿につける薬はない。~ *kusoobee*。[新] 薬九層倍。~ *majuN*。薬を盛る。調合する。

kusuidee① (名) 薬代。医者に払う治療費すべてをもいう。

kusuijaa① (名) 薬屋。薬売り。また、薬局 (*kusuimacija*)。

kusuimacija① (名) 薬局。薬屋。

kusunuci① (名) くすのき。楠。樟。

kutaʔici① (名) 先月。越えた月の意。前月は *meenuʔici*。

kutaNdi① (名) くだびれ。疲れ。疲労。nagamici *ʔsi* ~ *ʔnzacoon*。長道して疲れが出た。*ʔukutandiN saibirani*。お疲れではございませんか (長老へのあいさつ)。

kutaNdi=juNⓄ (自 =raN, =ti) くたびれる。疲れる。疲労する。過労などの場合をいう。走った時などの一時的な疲れは 'utajuN といひ、また、精神的な疲労は çikarijuN といひ。

kutaNдиноosiⓄ (名) 疲れを直すこと。慰勞。また、疲労回復になる食べ物など。

kuta=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 腐らせる。いもかすなどをわざわざ腐らせる場合にいう。

kutee=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖答える。普通は hwintoo sjun といひ。⊖(苦痛が)こたえる。kuteerasaqtoosa. だいぶこたえ(させられている)。

kutibusiⓄ (名) [特牛節] 歌曲の名。御前風 (guziNhuu) 五曲の中の一つ。?uhunisinu kutija nazicinadu şicuru, 'wasita 'wakamunuja hanadu şicuru. [大西のこてや なづち菜ど好ちゆる わした若者や 花ど好ちゆる] 大西(部落名。北のはずれの意)のことい牛はナジチ菜を好むが、われら若者は花(女)を好む。この歌詞に kuti とあり、これを本歌として歌ったので、kutibusi といわれた。のち、いろいろの歌詞で歌われるようになり、kutibusi の名のいわれがわからなくなった。

kutii?usiⓄ (名) 牝牛。「ことい牛」「こつて牛」などと比較される。

kutuⓄ (名) こと。事。ことがら。また、事件。変事。?uraNdanakai ~nu ?ukutoon. 西洋で事件が起こっている。~kazun. 事欠く。不足し、不自由する。kutoo kagan. 事欠かない。足りて不自由しない。~'jariba ~i. [文] 物かは。何でもない。物ともしない。cizinu masigaciN ~'jariba ~i, hanani çiku habiru cizinu najumi. [禁止のませ垣も ことやればことい 花につく胡蝶 禁止のなゆめ(執心鐘入)] 恋には禁止のませ垣く

らい何物でもない。花につく蝶をとめることができようか。

-ku⁽ⁿ⁾tu (接尾) から。ので。理由を表わす。活用する語の「短縮形」(apocopated form) につく。?icukutu. 行くから。?aY 'jakutu. そうだから。

kutubaⓄ (名) ⊖訛り。訛語。方言。~sjun. 訛りがある。方言を使う。⊖(接尾) 方言。…弁。?inakakutuba (いなかの方言), naahwakutuba (那覇弁。那覇方言), 'janbarukutuba (山原弁。山原方言) など。地方的、非標準的なものをいう。kuci の項参照。⊖ことば。表現。~?uujuN. ことばを迫る意。kuci ?uujuN と同じ。kuci の項参照。~kunzun. あげ足を取る。言いそこね、言い過ぎなどをとらえて攻撃する。~nu çikuri. ことばの極致。洗練され、含蓄のあることば。

kutubakaziⓄ (名) ことば数。口数。kuci-kazi ともいう。

kutubanuuuⓄ (名) ことばのはし。ことばのあや。ことばの緒の意。~du 'jaru. 言い回しの上のことに過ぎない。

kutubazikceⓄ (名) ことば使い。

kutubuciⓄ (名) [文] [寿] ことぶき。ことほぎ。

kutujusiⓄ (名) ことよせること。かこつけること。口実。

kutujusiⓄ (名) 忠告。訓育。'jusigutu の動作性名詞。~sjun. 忠告する。教訓をたれる。

kutujusi=juⁿⓄ (他 =raN, =ti) ことよせる。かこつける。口実を設ける。?umaN 'juikaradu zirini kutujusiru, kakurihusu micinu ?arana ?ueumi. [思まぬ故からど 義理にことよせる 隠れほそ道の あらな置きゆめ] 思っていないから義理にかこつけるのだらう。思っているならばこっそり通り細道がないはずはない。

kutukaakutukaaⓄ*(感) kutukutu と同

kutukazi

じ。

kutukazi⑩ (名) 事欠くこと。足りずに不自由すること。

kutukazi⑩ (副) ことごとに。そのたびごと。～ googuci sjuN. ことごとに苦情をいう。

kutukutuu⑩ (感) 猫を呼ぶ声。沖縄では猫の名前を *tuku* (徳) と名付けるので、呼ぶ時には、どの猫でも *kutukutuu* で間にある。 *kutukaakutukaa* ともいう。

kutusabi⑩ (名) わざわい。悪いできごと。

kutusi① (名) [文] ことし。今年。～ *mu-zukuija*… ことしの作物は…。

kutuʔucei⑩ (名) 事をあなどること。軽視。

kutuu⑩ (名) 琴。十三絃で、野村流と安富祖流の二流がある。沖縄では琴を単独に弾く流儀はなく、正式には三味線の伴奏として弾くことが多い。絃名は日本と同じく、一二三四五六七八九十斗為巾の十三絃。～ *hwicuN*. 琴を弾く。～ *nu çimi*. 琴爪。日本本土の琴爪より大きく長い。～ *nu çiru*. 琴糸。三味線の糸のように生糸で作る。

kutuunuʔnma⑩ (名) ことじ (琴柱)。形が馬に似ているのでいう。

kutuwa=juN⑩ (他 =*raN*, =*ti*) ことわる。拒絶する。辞退する。

kutuwaki⑩ (名) 言いわけ。陳謝。わけを言ってわびること。～ *sjun*. 陳謝する。

kuu⑩ (名) ㊦いかけ。なべ・おけ・ばけつなどの穴をふさぐこと。綯(こ)の意。また、そのふさいだ箇所。 *naabinu* ~ *sjun*. なべの穴を修繕する。㊦衣服のつぎ。 *cin-nu* ~ *sjun*. 着物のつぎをする。

kuu⑩ (名) 粉。粉末。「粉(こ)」に対応する。 *muzinakuu* (小麦粉), *maamina-kuu* (きなこ) など。～ *narasjun*. 粉にひく。 *'wajun* (割る) という語を忌んで、 *narasjun* (鳴らす) と言う。～ *hucun*. (蒸したさつまいもなどが) 粉を吹く。

kuu⑩ (名) 劫(こう)。碁の手。

kuu⑩ (名) (亀・かになどの) 甲。こうら。

kuu⑩ (名) 功。あまり使わない語。 *kaa-miikuujuka tusinukuu*. 亀の甲より年の功。

kuu① (名) こつ。要領。 *habutuinee ~nu ʔaN*. はぶ捕りにはこつがある。

kuu① (名) 九。普通は *kukunuçi* という。

kuu① (名) かご。鳥かごをいう。 *soomi-naakuu* (目白のかご) など。

kuuʔaçisa① (名) 小暑。二十四節の一つ。

kuubaa⑩ (名) 腹 ('*wata*) のごく軽い敬語。目下の年長などに用いる。普通の敬語は '*Neuubu*, さらに上は *ʔuNeuubu*.

kuubaa⑩ (名) 蜘蛛。こぶ (九州方言)。文語は *kubu*.

kuubeesan⑩ (形) 味がこまやかである。味わいがある。たとえば南京豆・くるみ・栗など、噛んで味のよいものについていう。

kuubi⑩ (名) 植物名。ぐみ。果実は子供の好物。

kuubu⑩ (名) 昆布。

kuubuʔirici⑩ (名) 料理名。昆布を細く切り刻み、肉・かまぼこ・卵焼き・揚げ豆腐などをまぜて油いためしたもの。正月ごろ多くする料理。

kuubumaci⑩ (名) 料理名。昆布巻。昆布を巻いて中に魚肉を入れ、砂糖と醤油で煮たもの。

kuucoo⑩ (名) 弦楽器の名。胡弓。形は三味線に似て小さく、弦は馬の尾に松やにをつけたもので、三弦。出す音は細いが、恨みをこめて訴える一種独特の音色を持ち、琴・三味線・笛と合奏する。

kuuda⑩ (名) 芭蕉糸を竹串に巻き、その竹串から引きぬいたもの。おだま (芋環)。

kuudaguusi⑩ (名) 機織りの道具の一つ。芭蕉布または *tunbjan* 糸を巻きつけて、おだまを作る竹串。木綿糸などに用いる *kudaguu* より太くて長い。管串の意。

kuuga① (名) ①卵。単独ではふつう鶏卵をいう。tamagu ともいう。他は生み主の名をかぶせる。kaamiikuuga (亀の卵), ?ahwiraakuuga (あひるの卵), soominaakuuga (目白の卵), ?ijunu ~ (魚の卵), habunu ~ (はぶの卵) など。②(人・動物の) 睾丸。きんたま。形の類似からいう。

kuugaa① (名) 植物名。さるなし。しらくちづる。実は盆の祭りに miigaa (みょうが) とともに供える。実の形が卵に似ているのでいう。

kuugaguru① (名) 卵のから。

kuugahuwahuwaa① (名) 卵焼き。huwahuwaa は焼き立てのほやほやの意。

kuugatuuce① (名) 子供の遊戯の名。鶏卵大の小石を四つ置き、鬼がその上に四つんばいになって守り、石を取りに来る者を足で蹴る。取る者は蹴られないように機敏に取り、蹴られれば代わって鬼となる。

kuugi① (名) 陰毛。脇毛は 'wacikuugi といい。

kuugusui① (名) 粉薬。散薬。

kuu?iju① (名) 鯉。

kuui① (名) 財産・道具などを入れておく裏部屋。「庫裡(くり)」と関係ある語。

kuuigwaa① (名) kuui の小さいもの。kuui と別にあって、とくに女の持ち物などを入れておく、あるいは、みそ・酒などを貯蔵する小部屋。

kuuzii① (名) もらい乳。乞い乳の意。

kuujaa① (名) 娘のいる家にその娘を嫁にもらいたいと申し込みに行く者。多くは男方の親類縁者が行く。乞う者の意。~ja ?meNsooran doo. 申し込む人がいらっしやらないよ。女の子のおてんばをたしなめる文句。

kuujaa?nma① (名) 人にかみつく馬。あばれ馬。荒馬。?wenda?nma (おとなしい馬) の対。

kuujuci① (名) 小雪。二十四節の一つ。

kuu=juN① (他 =raN, =ti) ①かみ付く。?iNnu Qcu ~. 犬が人にかみ付く。②歯でくわえる。haa ~. 食物などが冷えて、歯にしみる。歯が食われるように感ずるのでいう。

kuu=juN① (他 =raN, =ti) 嫁に来てくれと頼む。「乞う」に対応する。?jumi ~. 嫁に来てくれと頼む。

kuu=juN① (他 =raN, =ti) 閉じる。kuci ~. 口を閉じる。mii ~. 目をつむる。hakanu zoo ~. 墓の入り口を閉じる。kasa ~. 傘をすばめる。

kuukwee① (名) 後悔。~ sjun.

kuumooi① (名) 小おどり。雀躍。喜んで躍り上がること。

kuunii① (名) ?utibici (肉・豆腐・野菜の類を醬油で煮る料理) の料理法の一つ。材料を比較的小さく切って煮るもの。?utibici の項参照。

kuu?Nmunii① (名) 料理名。米の粉・甘藷・?akakoozi (その項参照) をまぜて煮て、砂糖を加えて練ったもの。正月の ?Nmaridusi, tusibii などの祝いのとき(いずれもその項参照)に作る上等な食べ物。きんとんに似ている。

kuuri① (名) ①氷砂糖。kuuri?aataa ともいう。②[新] 氷。

kuuribuntu① (名) ところてん。「こころぶ」とは関係ない語か。tiN?iikan ともいう。

kuuri=juN① (自 =raN, =ti) こわれる。くずれる。?isigacinu ~. 石垣がくずれる。

kuuri?aataa① (名) 氷砂糖。単に kuuri ともいう。

kuuri?eewee① (名) こぼれざいわい。僥倖。失敗などがかえってさいわいとなること。

kuurizisi① (名) 料理名。卵とじ。肉や細かく切った季節の野菜を使う。

kuuruu① (名) 植物名。塊根を ?akasmaa

kuuruu

(織物の名)の染料とする。

kuuruu⑩ (名) こま。子供の玩具の名。

kuusaini① (名) 小さい時。幼時。'wannee kuusainee 'jahwaraa 'jatan. わたしは小さい時は病弱だった。~nu kutu 'jati 'wakaran. 小さい時のことでわからない。

kuusan① (形) 小さい。また、幼い。kuusaru Tucini. 幼時に。同義語 gumasan は小さい・細かい・小粒であるの意。

kuusanKuu① (名) 唐手の型の名。

kuusee⑩ **neen**⑩ (句) (人が) 如才ない。また、(商売などが) 失敗のおそれがなく、安全である。たとえば文房具商は、商品が痛まないで **kuusee neen**. のようにいう。Taree nuu simitin ~. 彼は何をさせても如才ない。

kuusi⑩ (名) 孔子。

kuusiikaa'sii⑩ (副) ついだりはいだり。また、つぎはぎだらけ。

kuusiimun① (名) 貧乏者。細民。貧民。'jucikuna mun の対。

kuusiZui① (名) 家を解体して売ること。また、まとまった古道具などを分売すること。

kuusju① (名) 古酒。泡盛の百年以上経たものもあり、珍重される。nanbangaami (南蛮がめ)に入れて、密閉してたくわえ、消費しただけ新たにに入れて量を減らさない。

kuu=sjuN⑩ (他 =saN, =ci) こわす。くずす。解体する。'jaa ~. 家をこわす。

kuusjuuraasjan① (形) かわいらしい。

kuutee⑩ (名) 小さい物。小さい者。ちび。kuuteemaa ともしう。<kuusan.

kuuteemaa⑩ (名) kuutee と同じ。

kuuteenuu⑩ (名) kuutee, kuuteemaa と同じ。

kuuteen⑩ (名) 少し。わずか。ちょっと。また、小さく。量に関していう。時間に関

しては Picuta という。~kwiri. 少しくれ。~na Tuoqka. わずかな負債。~Qsi sinun. ちょっとでいい。

kuuteeNgwaa① (名) ほんの少し。ちょっとびり。

kuuteeNnaa① (名) 少しずつ。小量ずつ。

kuutoo① (名) [公当] 公平。公正。~na Qcu. 公平な人。Tariqa sjuru kutoo caa ~'jan. 彼がすることはいつも公平だ。

kuutu⑩ (名) 以外。よりほか。Tarijaka ~ taaga siqcooga. 彼よりほかにだれが知っているか。Tajaakuutoo taagan 'nndan. 母以外にはだれも見ない(幼児を夜外出させる時に言うまじないの文句)。

kuntuguutu⑩ (副) ごとに。ことごとに。hwijia ~. 日ごとに。一日一日と。qicee ~. 月ごとに。

kuuwaree⑩ (名) くすっと笑うこと。~sjun.

kuuwee⑩ (連体) 大変な。危い。とんでもない。たとえば子供が酒を飲もうとした時、おとながびっくりして ~ kutu. とか ~ mun. などという。~ Qcu. 無鉄砲な人。~ miinkai Tijun. とんでもない目にある。

kuuzi① (名) [公儀] 王府。官府。

kuuzi① (名) 訴訟。裁判。hwiruugutu ともしう。

kuuzigutu① (名) おおやけの事。公儀。公用。公務。

kuuzimuci① (名) 国費で事を行なうこと。官費。公儀持ちの意。

kuuzoo① (名) 幼児のおしゃべり。幼児のかわいらしい話し方。

kuu=zuN⑩ (他 =gaN, =zi) 漕ぐ。huni ~. イ. 船を漕ぐ。ロ. 居眠りをする。niibui ~. (眠りを漕ぐ) ともしう。

kuwan① (名) 小湾。(地) 参照。

kuwee=juN⑩ (他 =raN, =ti) [文] 加える。口語では **šiijuN** などという。

kuza④ (副) こなごな。こなみじん。～ na-juN. こなごなになる。cubacainakai kara ~ nasjuN. 一撃で瓦をこなごなににする。

kuzaa④ (名) 古謝。(地) 参照。

kuzara④ (名) 小皿。

kuzi④ (名) くじ。～ ?atajuN. くじに当たる。

kuzi④ (名) 故事。muziN ~N 'waka-ran. 文字も故事もわからぬ意。物の道理をわきまえない。

kuzi④ (名) 釘。

kuzi④ (名) 澱粉。くず粉。

kuzibici④ (名) くじ引き。

kuzigatami④ (名) くず粉で固めること。～nu ?usiru. くず粉でとろりとさせた汁。

kuziguhwasan④ (形) くじに弱い。くじ運がない。kuzijahwasan の対。

kuzijahwasan④ (形) くじ運が強い。(無尽講などで) くじによく当たる。kuziguhwasan の対。

kuzi=juN④ (他 =ran, =ti) ⊖くじる。えぐる。ほじくる。穴の中をかきまわし、または中のものをえぐり出す。⊖皮肉をいう。

kuzikee④ (名) (役場などの) 小使。

kuzimi④ (名) 入相の鐘。「こじみ (昏鐘鳴)」に対応する。

kuzinuzaa④ (名) 釘抜き。

kuzirigoosi④ (名) muruduqciri の那覇話。

kuziri=juN④ (自 =ran, =ti) くずれる。?isigacinu ~. 石垣がくずれる。

kuzi=sjuN④ (他 =san, =ci) くずす。整ったものを乱す。また、盛ったごちそうなどに手をつける。zii ~. くずし字を書く。?uzuu ~. 重箱のごちそうに手をつける。taariini ?umikakitikara kuzisee. おとらさんにお目にかけてから(ごちそうに)手を付けなさい。

kuzu④ (名) 去年。「こぞ」に対応する。

kuzuu④ (名) 九十。

kuzuu④ (名) 小僧。仏門の小僧をいう。

kwaa④ (名) 過の意。数量・程度などが過ぎること。～ natoon. やり過ぎている。また、多過ぎる。ziNnu singwan ~ sjo-on. 金が1000貫多過ぎる。

kwaa④ (名) 桑。

kwaagi④ (名) 桑木。桑の木。

kwaaginumata④ (名) (桑木の股の意) kwaaginusica と同じ。

kwaaginusica④ (感) (桑木の下在意) 桑原 桑原。雷をおそれて唱えるまじないの文句。雷が桑の木に落ちて桑の枝にはさまれて死んだという伝説がある。kwaaginumata ともいう。

kwaahusuku④ (名) 過不足。

kwaaninaa④ (名) おしゃれな者。

kwaaniN④ (名) おしゃれ。服装や容貌を飾ること。官人の意か。～ sjun. おしゃれをする。

kwaanujumi④ (名) 子供が生まれた時、悪魔払いのまじないとして桑で作った小さい弓で矢を射る習俗があった。その桑の弓。

kwaanKwaanuu④ nanamakai④ (句) 食べない食べないと言っておきながら、七杯も食べる。食わずぎらいで、食べてみれば大いに食べる。食べてみなければ好ききらいはわからないという場合にいう。

kwaanKwaanuu④ nanamakajaa④ (句) 食べない食べないと言っておきながら、七杯も食べる者。食わずぎらいでいながら、食べてみて大いに食う者。

kwaarakwaara④ (副) ごろごろ。雷の鳴る音。

kwaasi④ (名) 菓子。kwasi ともいう。

kwaasijaa④ (名) 菓子屋。kwasija ともいう。

kwaasjun

kwaa=sjunⓐ (他 =saN, =ci) 両側からはさみ込む。かみ合わせる。はさんでくわえるようにさせる。

kwaa=sjunⓐ (他 =saN, =ci) ㊦食わせる。kwajun (食う。kanun の卑語) の使役形。(家畜・こじき・けんか相手などに) 食わせる。㊦くらわす。こうむらせる。baçi ~. 罰をくらわす。tiizikun ~. 鉄拳をくらわす。

kwaa=sjunⓐ (他 =saN, =ci) くり出す。くり出して先へ送る。また、手送りにしてよこす。投げたり、地をころがしたりせずに、間にいる人の手を経て、よこす。'uu ~. 紙だこのひもをくり出す。kumankai kwaašee. 手づたいに、こっちへよこせ。

kwabii=juNⓐ (自 =raN, =ti) 華美にする。ぜいたくにする。

kwacikwaciⓐ (副) ぶんぶん。大いに立腹するさま。

kwacuuⓐ (名) 短気。せっかち。「火急」に対応するものか。~na mun. せっかちな者。

kwagunⓐⓐ (名) 過言。言い過ぎ。無礼なことば。

kwahuuⓐ (名) 果報。幸運 (にめぐり合うこと)。単に huu ともいう。~nu ʔaN. 運がよい。~na mun. 果報者。

kwahwiiⓐ (名) [文] 威厳。

kwa=juNⓐ (他 =aN, =ti) ㊦食う。kanun (食べる) の卑語。(動物・こじき・けんか相手などが) 食う。㊦ばくちなどで、利益を得る。kwaarijun. イ. 食われる。ロ. ばくちなどで、負けて金品を取られる。㊦(接尾)…しやがる。ʔicikwajun (行きやがる), eiikwee (来やがれ), tuikweewa (取りやがれ) など。

kwamuciⓐ (名) 料料。罰金。昔はむちを用いたのでいう。kwasiN と同じ。

kwanaNⓐ (名) 火難。火事の災難。

kwanⓐ (名) 官。~nu kutu. おおやけの

こと。政府に属すること。

kwan-(接頭) 巻。kwanNuʔici (巻の第一巻) など。

-kwan(接尾) 巻。書籍を数える接尾辞。ʔiqkwan (一卷) など。

-kwan(接尾) 貫。古くは錢1000文。明治以後は2錢を1貫(ʔiqkwan)とした。hjaqkwan (100貫。2円), siNgwan (1000貫。20円) など。ziN (錢) の項参照。

kwanbakuⓐ (名) 棺箱。棺桶。首里では忌んで takaramun ともいう。

kwanGwaraasjanⓐ (形) 子供に甘い。盲愛している。

kwanhwaaⓐ (名) 官話。標準中国語。中国へ留学する場合や、役人として派遣される場合にそなえて、ハイカラな青年達が勉強した。

kwanKwanⓐ (副) 上品で威厳のあるさま。中年以上の男の、ゆったりとして立派なこと、福福しいことなどをいう。ʔunCi ~. 顔が立派で威厳のあること。ʔunCi ~tu hwizija tada mišizi. お顔はご立派で、ひげはたった三本(歌の文句。ひげの少ないのをあざけたもの)。

kwanmuciⓐ (名) 官費。留学・旅行などの費用を官側がもつこと。

kwanNniⓐ (名) 官人。役人。「高給をとり、美しく着飾った、一般人のあこがれの的であるお役人」といった語感がある。kwanNniN でもないくせに、着飾っている者という意味で, turankwanNni (取らぬ官人) という語がある。

kwanNuNⓐ (名) 観音。kwanNuNdoo にある千手観音をいう。旅に出る時に必ず参拝した。

kwanNuNcikuⓐ (名) 観音竹。庭に栽培される矮小な竹で、幹の高さ50センチ内外。八重山の観音山の原産なのでこの名があるという説がある。

kwaNnuDooⓄ (名) 観音堂。首里から那覇への出口にある。

kwaNsinⓄ (名) [冠船] ?ukwaNsin と同じ。

kwaNsooⓄ (名) かんぞう (萱草)。わすれぐさ。花・葉・白い茎は食用となり、不限症にきく。

kwaNtuNⓄ (名) 広東。広州。

kwaNtu?u?iⓄ (名) すいか。広東瓜の意か。

kwaNzimiⓄ (名) [新] かんづめ。

kwaQciiⓄ (名) ごちそう。「活計」に対応する語か。～ sjabira. ごちそうになります。～ sjabitan. ごちそうさまでした。

kwaQciikwaQciiⓄ (名) おいしいおいしい。おいしい意味の小児語。

kwaQkwa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 隠す。

kwaQkwigutuⓄ (名) 隠しごと。密事。秘密。

kwaQkwi=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖隠れる。⊖雨宿りする。kwaQkwirasjun. イ. かくまう。人を隠れさせる。ロ. 雨宿りさせる。

kwaQkwima?aiⓄ (名) 逃げ隠れること。隠れ回ること。

kwaQkwiNdooreeⓄ* (名) kwaQkwintooruu と同じ。

kwaQkwiNtooruuⓄ (名) 隠れんぼ。その時の用語は, tooi. (もういいかい), too-ru. (もういいよ), ?aaguuru. (鬼が隠れた者を見つけ出せない時にいう。降参) など。～ sjuN.

kwarakwaraⓄ (副) かんかん。日が強く照りつけるさま。tiida ~ tijun. 日がかんかん照る。

kwasiⓄ (名) kwaasi と同じ。

kwasijaⓄ (名) kwaasijaa と同じ。

kwasiNⓄ (名) 料料。罰金。科銭の意。kwamuci ともいう。～ hakijun. 罰金を課する。

kwasiuuziⓄ (名) 甘蔗の一種。製糖用の甘蔗に似ているが、茎が太く汁が甘い。製糖

用にせず、盆に盞前に供えるのに使う。

kwasooⓄ (名) [新] 火葬。

kwasoobaⓄ (名) [新] 火葬場。

kwatakwataⓄ (副) ぐつぐつ。ものの煮えたつ音。gwatagwata ともいう。

kwatiiⓄ (名) 道楽者。放蕩者。

kwaziⓄ (名) 火事。

kwazimiimeeⓄ (名) kwazimimee と同じ。

kwazimimeeⓄ (名) 火事見舞い。

kweeⓄ (名) こえ。こやし。肥料。

kweeⓄ (名) 桑江。《地》参照。

kweeⓄ (名) 鋏。

kweebutaaⓄ (名) でぶ。肥大漢。kweetaa, kweetuu ともいう。

kweebuuⓄ (名) 食にありつく果報。～ nu?aN. 食にありつく果報がある。ごちそうの席に不意に来訪した人などをいう。-buu < huu (果報, 幸運)。

kweeciⓄ (名) 病気が全快すること。「快気」に対応する。

kweeci?uiweeⓄ (名) kweeci?ujuwee と同じ。

kweeci?ujuweeⓄ (名) 快気祝い。全快祝い。

kweedooriⓄ (名) 食い倒れ。美食をして財産を失うこと。sjuincoo ciidoori, naahwancoo ~, tumaincoo siidoori. 首里の人は着倒れ、那覇の人は食い倒れ、泊の人は働き倒れ。

kweegweetuⓄ (副) でっぷり。太っているさま。～ sjoon. でっぷりと太っている。

kweehooriiⓄ (名) ⊖食い散らすこと。食い荒らすこと。⊖財産などの浪費。

kwee=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖(体が)太る。⊖(土地) が肥える。

kweekuciⓄⓄ (名) 食費。食いぶち。～ ?ucikiree. 食費を出せ。

kweemuNⓄ (名) 食いもの。食物。

kweenaⓄ (名) [こゑにや・くわいにや] 歌謡の一種。旅人の平安を祈るために、留守

家族・親類の女たちが集まって歌う長い歌。旅歌と訳されることがある。ʔuhuguʃi-kugweena, ʔurizingweena などがある。ʔumuigweena といって、昔は祭式などの折に歌われた。ʔumui は「おもろ」の意。

kweeniibuuⓐ (名) 肥びしゃく。

kweetaaⓐ (名) 太った者。でぶ。kweetuu, kweebutaa ともいう。

kweeta'ndaⓐ **ʔucun**ⓐ (句) まるまると太っている。ぶくぶく太っている。-tanda は「たぶら」に対応する。ʔucun (打つ) には特に意味はない。

kweeteeⓐ (名) 懐胎。妊娠。～ sjoon. 妊娠している。

kweetoo=sjunⓐ (他 =san, =ci) 食い倒す。(財産などを) 食いつぶす。

kweetuuⓐ (名) kweetaa の愛称。でぶ。でぶちん。

kweeukiiⓐ (名) 肥桶。肥たご。

kweeziraaⓐ (名) 穀つぶし。食ってばかりいるなまけ者。

kweezirimunⓐ (名) kweeziraa と同じ。

kweNkweNⓐ (副) ㊦ゆらゆら。ちゃぶちゃぶ。運ぶ桶の水などがゆれるさま。㊦びっこを引くさま。guuni ～。びっこを引き引き。

kwiiⓐ (名) くい。地中に打ちこむ棒材。～ ʔucun. くいを打つ。

kwiiⓐ (名) ㊦声。～ tatijun. 声を立てる。㊦消息。次のように用いる。～ cicun. 消息を聞く。安否を尋ねる。その敬語は ʔuncuu 'uganun, 'waagan ～ cicutandi ʔunnjukiti kwiri. わたしからもよろしくと言っていたと申し上げてくれ。ʔunzunu ～ cicabiitan. あなたによろしくとのことでした。

kwiiⓐ (名) 戸棚。たんす代わりに着物などを入れるためのもので、中に棚があり、戸を取り付けてある。作り付けのもの (siçi-

kigwii) と持ち運びできるものとあり、上を仏壇にしたものが多い。

kwiicaa=junⓐ (自 =ran, =ti) 強くかみ合う。(戸などが) かたくしめる。hasirunu kwiicaati ʔakan. 戸が強くしまって開かない。

kwiicaa=sjunⓐ (他 =san, =ci) ㊦(歯を) 強くかみ合わせる。くいしばる。㊦(戸などを) 強くしめる。強くかみ合わせる。

kwiiçi=cunⓐ (他 =kan, =ci) 食いつく。かみつく。kwiiçikijun ともいう。

kwiiçi=junⓐ (他 =ran, =qci) 食い切る。噛み切る。

kwiiçi=junⓐ (他 =ran, =qci) 密封する。味噌を作る時や漬け物をする時などに、空気がはいらぬように密封する。

kwiiçiki=junⓐ (他 =ran, =qci) 食いつく。かみつく。かじりつく。

kwiiğaiⓐ (名) 声変わり。

kwii=junⓐ (他 =ran, =ti) 越える。hasi ～。橋を越える。'nnzu ～。溝を越える。ʔujanu ʔwiikara ～。親の言うことを聞かない。親を何とも思わない。

kwii karaaⓐ (名) 声がかれること。また、かれた声。しわがれ声。また、しわがれ声の者。

kwii kuciⓐ (名) (きせるなどの) 吸い口。

kwii mci=junⓐ (他 =ran, =ti) 閉めきる。(雨戸などを) すっかりしめる。

kwii muukuⓐ (名) 乞婿。娘の婿になってくれと所望すること。また、その婿。

kwii nu=zunⓐ (他 =gan, =zi) 吸い出す。吸い出しごりやくがらみを吸い出す場合などをいう。

kwii rikwii riⓐ (副) きしきし。ぎいぎい。車など、物のきしむ音。～ sjun. ぎいぎいいう。

kwii wa=junⓐ (他 =ran, =ti) (黒砂糖・堅い菓子などを) かんで割る。

kwii zi=ki=junⓐ (自 =ran, =ti) ㊦しっかり

とせおう。ʔuhwa ~. しっかりとおんぶする。⊖しょい込む。…からのがれられない。ʔjanmee ~. 病気をしょい込む。
 hwinsuu ~. 貧乏からのがれられない。
kwiižukuiⓐ (名) こわづくり。ことさらにせきばらいなどして、そこに人がいることを知らせること。~ sjuN.
kwi=juNⓐ (他 =raN, =ti) くれる。与え

る。やる。また, (…して) やる。(…して) くれる。敬語は kwimišeen (下さる), さらにその上は ʔutabimišeen (賜わる)。また, ʔusjagijun(さしあげる)。ʔarin kai sjumuçi tiiçi kwirana. 彼に本を一冊やろう。ʔuree 'wanninkai kwiri. それはわたしにくれ。ʔansi kwimišeebiree. そうして下さいませ。

ʔm

ʔmeNʂeeN① (自・不規則) いらっしゃる。
おいでになる。いる・行く・来るの敬語。
同等および目上に対して用いる。ʔimee-
N よりも丁寧であり、さらに丁寧には
ʔimeNʂeeN となる。meNʂeeN という平

民的発音もある。siNsiinu ʔmeNʂjoo-
coon. 先生がいらしている。ʔmeNʂeebi-
ree. いらっしゃいませ。kumaNkai ʔm-
eNʂjooree. こちらへいらっしゃい。

ma- (接頭) ⊖士族以上の男女の童名 ('warabinaa) につける美称の接頭辞。maja-matuu [真山戸] ('jamatuu という男の名を敬っていったもの), madamaçii [真玉津] (女の名), masannduu [真三郎] (男の名) など。⊕真。真の・純粹のなどの意を表わす。mahwiru (真昼), majunaka (真夜中)。maa-となることもある。maaziN (真きび。toonucIN に対する) など。

maa⊕ (名) ⊖どこ。~kai Yicuga. どこへ行くか。~kaiga. どちらへ(歩いて行く人へのあいさつ)。~nu 'warabiga. どの子供か。~nu mangura. どの辺。~nu hwin. どの辺。~ haiga. どれほどよいかわからぬ(卑語)。hai-<hajun. sibai 'NNDazijaka, Yuqsaga sisi kamee ~ haiga. 芝居を見るより、それだけ肉を食った方がどれだけいいか知れない。⊕どなた。だれ(taa)の敬語。~ Yujanşeebiiga. どなたでいらっしゃいますか。

-maa (接尾) 密にある意の接尾辞。kiimaa (毛深いこと, 毛深い人)。

maaʔanda⊕ (名) 種油。菜種油。

maaçi⊕ (名) 松。

maaçibaa⊕ (名) 松葉。面積の狭いもののたとえとなる。qcunu nasakee ~nin çiqinUN. 人の情は松葉にも包む。情は物の量で計ることができない意。

maaçikasaa⊕ (名) 松かさ。松ぼっくり。

maaçinuʔanda⊕ (名) 松やに。松の幹から出る脂。

maaçuu⊕ (名) 松林。松原。

maada⊕ (副) まだ。いまだ。naada ともいう。~ şee neen. まだしてない。

maadu⊕ (名) 前(に)。…にならないうち(に)。…する前(に)。'juubanNU ~nu kutu. 夕飯にならない前のこと。'Nnani kwiiru ~, ʔazi qsi 'NNdee. 皆にあげる前に味見をしてみろ。

maagamaagaa⊕ (副) どこだどこだと。あわてて捜し回るさま。~ sjun.

maagana⊕ (名) どこか。~kai YicUN. どこかに行く。~kai YicumI. どこかに行くのか。道などで目下に会ったときのあいさつ。~tigaroonakai ʔatandi ʔjuru hanasi. どことかいうところにあったという話。

maagu⊕ (名) 藁製のかご。女の下着・くず物・布切れなどを入れる。

maaguu⊕ (名) しわの寄った物。しわの寄った人。<magujun.

maaguuhwiiguu⊕ (副) しわくちゃ。しわだらけ。maguihwigui ともいう。~ sjoon. しわだらけである。

maaguuzira⊕ (名) しわだらけの顔。

maahaNdaa⊕ (名) どれにも合わないもの。使いものにならないもの。無用の長物。人についてもいう。役立たず。

maahwanacaa⊕ (副) 仰向け。~ keerijun. 仰向けにひっくりかえる。~ natoon. 仰向けになっている。

maahwanacaaʔwiizi⊕ (名) 背泳。背泳ぎ。ninZaaʔwiizi ともいう。

maahwin⊕ (名) どの辺。maanU hwin ともいう。~ga. どの辺か。

maaʔisjaa⊕ (名) 黒色の堅い石。村の青年達が sasiʔisi (力だめしの石) にする。

maai⊕ (名) まり。手まり。suutiigibukui (そてつの芯にある綿のようなもの) を中にして丸め、糸糸で模様をつけて作る。

～ʔucun. まりをつく。

maai① ⊖(名) 回り。回ること。また、周
囲 (maaru)。⊖(接尾) …周。…回り。
tamaainu ʔuubinu mimaa natoosa.

(やせて)二回りの帯が三回りになったよ。

maabeekuu② (名) ある地点へ行くのに左
右両方に分かれ、早く行き着く競争。

maainagiee③ (名) まりの投げあい。まり
投げ。

maaiʔuucee④ (名) まりつき。女の子のす
る遊戯の名。～sjun.

maa=juun① (自 =raN, =ti) ⊖回る。回転
する。また、(物の周囲を)回る。また、迂
回する。⊖行き渡る。全部に回る。⊖すっ
かり…の空気、…の状態となる。hwi-
zurukanzaa ~. (火の気または女気がな
くて) 寒寒とする。nacigataa maatoon.
今にも泣きそうになっている。gata maa-
toon. やがて(破局が)来ようとしている。
陶器が割れる寸前にある、人が捕われ
る寸前にある、などの俗な言い方。gata
は maasigataa (死にそう)、ʔamihui-
gataa (雨が降りそう)などの接尾辞-ga-
taa (そう)を単語にして使ったもの。
ʔanguu hwiqpati ʔaʔcuʂiga, gata
maatoon doo. あれだけ派手にしていた
が、もう破産しそうになっているぞ。

maajuui② (名) 髪の結い方の一種。丸
髷。簡単に丸く結うだけのもの。女・元服
前の少年、服喪中、急ぐ時の一時的処置な
どの結い方。元服前の士族の少年のそれ
には ʔusirii ともいう。

maaku③ (名) 幕。maku ともいう。

maakuma'aku④ (副) ⊕うまそうに。お
いしそうに。niizamundu 'jaʂiga ~ka-
nagiisa. まずいものなのに、うまそう
に食べているよ。⊖いい食べ物を食べるさ
ま。munoo ~kadi kunei cikiri 'joo.
いいものを食べて体力をつけなさいよ。

maakuqsa⑤ (名) うんと。たんと。たく

さん。相当の量。あまり上品でない語。
maakusa ともいう。普通には ʔuhooku
という。～nu qcu. たくさんの人。～ʔa-
N. うんとある。

maakusa⑥ (名) maakuqsa と同じ。

maakwaa⑦ (名) ⊖袖の長い、たけの短い
中国風の上着。男用。結びボタンがついて
いる。中国語「馬褂」の借用語。女用のもの
は dinkwaa という。⊖*明治以後、袖の
長いシャツをも言った。

maamadin⑧ (副) どこまでも。あくまで
も。

maami⑨ (名) ⊖豆。普通は大豆をいう。
⊖腎臓。形が似ているのでいう。

maamigaa⑩ (名) 豆の皮。大豆の皮。

maamigan⑪ (名) あずきで作った羊羹。

maamigaraa⑫ (名) 豆のから。大豆のから。
大豆の実を取り去ったあとの枝や茎。

maamina⑬ (名) もやし。豆のもやし。ʔoo-
maamii で作る。

maaminacaNpuruu⑭ (名) 料理名。もや
しの油いため。

maaminakuu⑮ (名) きなこ。大豆を炒っ
て粉にしたもの。

maamusubii⑯ (名) 真結び。こま結び。玉
結び。

maamutii⑰ (名) どの方向。どの方角。～
Nkai 'Nkaasjuga. どの方角へ向けるか。

maani⑱ (名) 植物名。くろつぐ。高さは3
メートルくらいになり、葉・茎ともに長
い。若芽は食用になり、幹の繊維は網の材
料となる。茎を子供が刀のおもちゃにす
る。

maanu⑲ ⊖(連体) どの。maa の項参
照。⊖(感) なんの。とんでもない。“ku-
nu saraa ʔjaaga 'watara 'jaa.” “～,
'wannee saain sandee.” 「この皿はおま
えが割ったろうね。」「とんでもない、わ
たしはさわりもしないよ。」

maaNkwiiN⑳ (副) どこもかも。どこもか

しこも。～ nicoon. どこもかも似ている。
maaʔoohwaaⓄ (名) 植物名。のげし。は
 るののげし。けしあざみ。野生の草だが、
 野菜の代用になる。
maarikaaⓄ (名) どの辺。
maaruⓄ (名) ㊦回り。周囲。maai と
 もいう。'jaanu ~. 家の周囲。㊦番。順番。
 'waamaaru. わたしの番。
maaruuⓄ (名) 順番に回ること。順番制。
 ʔweeke ~. 富は順ぐりに回って来るも
 の。
maaruugurusiⓄ (名) 袋だたき。大勢で
 一人をなぐること。
maasamuNⓄ (名) うまいもの。おいしい
 食べ物。
maasanⓄ (形) うまい。おいしい。女は丁
 寧には ʔunsiraasjan という。
maasigataaⓄ (名) 死にそう。死にかかっ
 ていること。瀕死。sinigataa は主とし
 て動物についていう。～nu qeu. 死にそ
 うな人。～ najuru hudu ʔutatootan.
 死にそurnaほど疲れていた。
maasjuⓄ (名) 塩。食塩。
maasjumiziⓄ (名) 塩水。はらい清める時
 に使う。葬式の帰りなどに戸口で塩水をふ
 りかけてから中にはいる。
maa=sjunⓄ (他 =san, =ci) 回す。回転さ
 せる。また、次から次へ回す。ただし
 maasjun (死ぬ) の語感をさけるため、
 migurasjun を多く使う。
maa=sjunⓄ (自・不規則) 死ぬ。なくな
 る。sinun よりも丁寧な語で、sinun は
 多く動物についていう。
maasjutacaaⓄ (名) 塩たき。製塩。製塩
 のため海水を煮つめること。また、塩をた
 く人。製塩業者。～ sjun. 塩たきをす
 る。
maasjuʔujaaⓄ (名) 塩売り。塩商人。多
 く泊の前島の女が売り歩いた。
maatagaataaⓄ (名) 肩車。股肩の意。那

覇では buututukwaan という。
maatakuⓄ (名) 竹の一種。だいさんちく。
 りよくちく。高さ10メートル近くにもな
 る最も普通の竹。たけのこは食用、幹は
 竿・建築用材などにする。
maaumaa'uⓄ (副) にゃあにゃあ。猫の鳴
 き声。
mauuⓄ (名) 猫の小児語。
mauuⓄ (名) まお(真芋)。からむし。麻
 の一種。夏物の上等の麻衣にする。
maazaⓄ (名) 真喜屋。《地》参照。
maazaaⓄ (名) あばた。痘痕。また、あ
 ばたのある人。中国語から来たものか。
 curagasa kakati ~ natoon. 天然痘に
 かかってあばたになっている。
maaziⓄ (名) 真和志。《地》参照。
maaziⓄ (名) 赤土質の土壌。
 -maaziⓄ (接尾) [真地] 王の使用する馬場
 の意か。teeramaazi (平良馬場), sicina-
 maazi (識名馬場) の二か所がある。
maazimuⓄ (名) mazimu と同じ。
maazinuhwi'raⓄ (名) 真和志之平等。《地》
 参照。
maaziNⓄ (名) 黍。きみ。
mabuiⓄ (名) 魂。靈魂。生きている人の
 魂をいう。死者の魂は tamasii という。
 ~nu 'nkatooteesa. 魂が向かっていたの
 だ。噂している人が来た場合にいう。噂を
 すれば影。～ nugijun. たまげろ。驚い
 て魂がぬける。～ nugasjun ともいう。
mabuiⓄ (名) 摩文仁。《地》参照。
mabuigumiⓄ (名) 魂をこめること。の意。
 mabuiʔuti をして人の体から離れた魂を
 ふたたび体にこめること。また、そのため
 の祈願。ごちそうと本人の着物を、魂が落
 ちた現場へ持って行き、その着物の中に魂
 を招き入れて持って帰り、本人にごちそ
 うを食べさせると同時に、その着物を着せ
 る。ごちそうの膳には小石三個を置き、茶

mabuiʔuti

碗に一杯水を用意して、ごちそりを食べる前に、mabujaa mabujaa ʔuuti kuu ʔjoo, ʔuhumee ʔjatumee kwira ʔjaa. (魂, 魂, ついて来い。大きな大きなめしをやるぞ)と言って、その水(ʔubii という)をひたいに指で三度つける。

mabuiʔutiⓄ (名) 魂が抜ける病気。魂が体から抜け落ちること。怪しい物を見たり、転んで驚いたりした時などに起きる。病気のように元気がなくなり、衰弱して、ほうっておくと死に至ることもあるというので、mabuigumi をして元にもどす。

mabuiwakasiⓄ (名) ①生きている人の魂と死んだ人の魂とがいっしょに遊んだりすると(多く子供にある)、生きた人の魂があの人に連れ去られることがあるというので、それらの魂を引き分けるために祈禱を行なう。その祈禱をいう。②人の死後四十九日の夜に、死んだ人の魂と家族の魂とを引き分けるために ʔjuta (巫女) を呼んで行なう祈禱。その祈禱を行なうことを ʔju-nnujuta ʔisijun ともいう。

mabujaaⓄ (名) mabui と同じ。

mabujaauuⓄ (名) 子供の着物の背に付ける飾り。もとは七色の糸で房を作って付けたが、のちには布切れでハート型を作って付けるようになった。

macaa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 取り巻く。たかる。群れ集まる。kibusinu ~. 煙が取り巻く。

maciⓄ (名) 市(いち)。商品の種類によって、huruzimaci (古着市), ʔijumaci (魚市), tuimaci (鶏の市), ʔwaagwaamacaci (豚の子の市), ʔnmumaci (さつまいもの市), ʔwaasjaamacaci (肉市), ʔibujamaci (瀬戸物市) などがあり、季節によって buNmaci (盆市), siwaasimaci (師走市), sjoogwaçimaci (正月市) などがある。~kai ʔicuN. 市へ(売りにまた

は買いに)行く。単に市場へ行く意では macinumeekai ʔicuN という。

maciⓄ (名) ①つむじ。また、そのほか人・馬などの毛のうず。つむじは一つあるもの(tiçiçimacaa)より、二つあるもの(taaçiçimacaa)の方が、一癖あるものとされ、男の子は喜ぶ。②相撲の手の名。首投げ。相手の首に手を巻いて倒す手。~ ʔicuN. 相手をあおむけにたたきつける。

maciʔaka=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) [文] 待ち明かす。待って夜を明かす。

maçibaraNⓄ (名) maçiraN と同じ。

macibataⓄ (名) ①市場のほitori。市のそば。②首里では町名となった。町端。(地) 参照。macibataNcunu nidujuuban. 町端の人の二度夕飯。町端の人は ʔjusandimaci (宵市) に上等の魚が出ると、夕飯をすましたあとでも、また魚を買って二度も夕飯を食べたという。

maçibuiⓄ (名) 男女の離れられない関係。まつわりつきの意。

maçibu=juNⓄ (自 =raN, =ti) ①からみつく。巻きつく。②(子が母に)まつわりつく。つきまとう。また、(男女が)からみ合う。

macicaⓄ (名) 機の付属具の名。おまき。ちきり。経糸を巻く芯にするもの。

maçidanⓄ (名) maçiraN と同じ。

maçigaaⓄ (名) 松川。(地) 参照。

maciga=juNⓄ (他 =raN, =ti) ①間違う。macigeejuN ともいうが、macigeejuN は那覇語か。②あやまつ。道義にそむく。

maciganeⓄ (名) 市場使用料。市に使う土地の使用料。

macigasiraⓄ (名) 市の商品の筆頭。市で一番立派な品。たとえば西瓜の出るころ、市で一番大きく一番値段の高い西瓜。

macigeeⓄ (名) 間違ひ。過失。失敗。~. ごめんなさい。失礼。人の足を踏んだ時などに目下にいう。目上には ~ deebiru.

(ごめん下さいませ。失礼いたしました。) という。

macigeegutuⓄ (名) (道徳的に) 間違ったこと。

macigee=juNⓄ (他 =raN, =ti) 間違える。macigajuN ともいう。その項参照。

maçigiⓄ (名) まつ毛。kiramaa miijuşiga maçigee miiraN. 慶良間島は見えるが、まつ毛は見えない。灯台もと暗し。また、自分の非は見えにくい。

macihoo=ju`NⓄ (他 =raN, =ti) まき散らす。

macijaⓄ (名) ⊖店。商店。店舗をかまえて売る店。⊖(接尾) …店。…屋。kumimacija (米屋), tabakumacija (煙草店), řasizamacija (はき物店), sjumuçimacija (書店) など。

macijagwaaⓄ (名) 小店。小さい店。

maçijaniⓄ (名) 松やに。maaçinuřanda と同じ。

maçi=juNⓄ (他 =raN, =ti) (祖先・死んだ人) を祀る。

maçikaziⓄ (名) 菓子の名。松風。米の粉に砂糖を加え、平たく延ばして結んだもの。胡麻などを入れて風味をよくする。主として祝賀用。

macimaaiⓄ (名) 町回り。芝居の役者が総出で人力車に乗り、広告して回ること。

macimuduiⓄ (名) 市場帰り。首里・那覇などの市に売りに出て、あるいは何か買っただけの帰り。

maçimutuⓄ (名) 松本。《地》参照。

maciugeesaⓄ (名) 待ちどおしいこと。hjakuşe narumadija macinagesa řamunu, hanazakariřucini matan řugama. [百歳なるまでや 待ち長さあもの花盛りうちに またも拜ま] あの世界まで待つのは待ち遠しいから、若いうちにまたお会いしましょう。

macinatuⓄ (名) 牧港。《地》参照。

maçinuhwaⓄ (名) [文] 松葉。面積が狭いものたたとえとなる。hutari řaru řwedaja ~ni sudaci, namaja basjunuhwaN řibaku natosa. [二人やる間や松の葉に育ち 今や芭蕉の葉も いばくなとさ] 夫婦二人の間は松葉のように狭い家に育ち、子孫がふえた今では芭蕉の葉のような広い家も狭くなった。

macinumeeⓄ (名) 市場。市 (maci) のある所。

maçiranⓄ (名) 植物名。風蘭。松・赤木 (řakagi) などに寄生する蘭科の常緑草本。葉は細長く、花は黄または白で香気がある。maçidan, maçibaran ともいう。

maçiriⓄ (名) まつり。祖先の祭祀。

macisiⓄ (名) 牧志。《地》参照。

macisooziⓄ (名) 市 (maci) の掃除。

macisooziiⓄ (名) 市場掃除人。

maciřuki=ju`NⓄ (他 =raN, =ti) 待ち受ける。待ちかまえる。

maciwaraⓄ (名) 巻薬。唐手の練習のため、短い柱に薬を巻きつけたもの。こぶして突く練習をするためのもの。

ma=cuNⓄ (他 =taN, =qci) 待つ。macuganaasi maqçin kuuntan. 待てるだけ待っても来なかった。

ma=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 蒔く。播種する。

ma=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 巻く。うずを巻く。また、円筒形に巻く。

madanbasiⓄ (名) 真玉橋。《地》参照。

-ma^odi (助) まで。到達点 (場所・時間など) を示す。kuma~ kuuwa. ここまで来い。koogu magajuru~ řicicoon. 腰が曲がるまで生きている。řariga cuuru~ maqcookee. 彼が来るまで待っている。

-madii (接尾) 失って惑う意を表わす接尾辞。řujamadii (親を失うこと), řaamadii (家を失うこと), řiicimadii (窒息) など。

madoo=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖(かたづ

madookijun

いて) あき間ができる。⊖(仕事がかたづいて) 暇になる。madoocoomi. 暇か。
madooki=juN⊕ (他 =raN, =ti) ⊖(整理して) あき間を作る。⊖(仕事をかたづけて) 暇を作る。tiiçi tiiçi madookitı hwima nataN. 一つ一つかたづけて暇になった。
madu⊕ (名) ⊖あき間。すき間。すいている空間。⊕すいている時間。仕事のあいま。すき。暇。～ 'jami. 暇か。～ 'jaraa, ʔicutaa tanuma. 暇だったらちょっと頼もう。⊕人の見ないすき。kuhwadisanu ʔuçiçi madumadudu tijuru, 'jusumi ~ hakati sinuđi ʔimori. [くはでさのお月 まどまどど照ゆる 与所目まどはかてしのでいまうれ] kuhwadiisi (植物名) を通して照る月の光はあちこちしか照らない。他人の目にもすきがあるから、すきをぬすんで忍んでいらっしやい。⊕平素。平生。不断。ふつうの時。ʔaşıbi-busja ʔatin ~ni ʔaşıbarimi, sjujuiti-nzanasi ʔuiwe 'jakutu. [遊びぼしやあても まどに遊ばれめ 首里天加那志 御祝やこと] 歌ったり踊ったりして遊びたくても、不断は遊べようか。きょうは国王様のお祝いだからこうして楽しく遊べる。～nu 'jurarijaaja ʔaşıbiʔicunasa. 不断なまけている者は、遊びの時になるとかえって忙しい。
madumadu⊕ (名) ⊖暇暇(に)。暇を見て。tuisigutunu ~ja hananu ʔiruʔiru ʔukuti nagami, mata ʔutande ʔjudi kuraci 'ujabiitan. [とり仕事のまどまどや 花の色々作て眺め 又歌もだいよで暮ち居やべいたん (花売之縁)] 仕事の暇暇にはいろいろの花を作って眺め、また歌などをよんで暮らしていました。～du najusa. 暇暇にしかできない。⊖すき間すき間。maduの例文参照。
madunaNka⊕ (名) 死後七日目ごとに四十九日まで行なう法事のうち, haçinaNka

(初なのか), miraNka (三なのか), san-zuugunici (五なのか), sinzuukunici(四十九日) 以外の日。間のなのかの意。madunaNka の法事は近親のみで軽く営む。
madunumuN⊕ (名) 間食。
magai⊕ (名) ⊖彎曲(したもの)。⊖湾。
magaiğuci⊕ (名) 曲がり口。曲がり角。
magaihwı'gui⊕ (副) 曲がりくねったさま。くねくね。
magajaa⊕ (名) 曲がり道。道路の大きく曲がっているところ。おお曲がり。
magajaaħwıgujaa⊕ (副) 曲がりくねったさま。くねくね。
maga=juN⊕ (自 =raN, =ti) ⊖曲がる。⊖かがむ。屈する。⊕屈服する。屈従する。ʔucinaancu 'jatin namaa magatee 'uraN doo. 沖縄人だってもう屈従してはいないぞ。⊕道理にはずれる。心がねじける。
magara⊕ (名) [間柄] 血縁関係(のある者)。続きあい。親類。～nu 'umi. 血縁の者がいるか。caaru ~ga. どんなつながりか。
magaruħwigaruu⊕ (名) 曲がりくねったもの。また、心のひねくれた者。
magaruħwıguruu⊕ (名) magaruħwigaruu と同じ。
magi⊕ (名) 鬘(まげ)。男子が頭に結う鬘。ʔiqkwanmagi は髪結び賃が2銭の鬘。
magi⊕ (名) 曲げ物。食物を入れる木製の丸い容器。
magıwıı⊕ (名) 大声。
magıı⊕ (名) ⊖大きい物。大きい者。guma'の対。⊖相撲の強い者。その出身部落の名を冠している。
magı=juN⊕ (他 =raN, =ti) 曲げる。
magımagıtu⊕ (副) 大きく。太く。nuzumee ~ mucuru muN. 希望は大きく持つべきもの。
magısan⊕ (形) 大きい。太いの意でも用い

る。Pícaru magisa. 言ったことの大きさよ。大言する者を嘲笑していることは。

magui④ (名) しわ。

maguihwi⁷gui④ (副) しわくちゃ。しわだらけ。magujaahwigujaa, maaguuhwiiguu などともいう。

maguikaa④ (副) しわくちゃ。しわの寄ったさま。～ sjooru ciN. しわくちゃの着物。

maguizira④ (名) しわくちゃの顔。また、ひげのない顔。

magujaahwigu⁷jaa④ (副) maguihwigui と同じ。

magu=juN④ (自 =raN, =ti) (皮膚・着物・紙などに) しわが寄る。また、しわが寄って縮まる。

magukuru④ (名) [文] 真心。

maguraa④ (名) なまくら。刃物・きり・針などの刃や先がにぶったもの。

maguraa④ (名) magurimuN と同じ。

maguri=juN④ (自 =raN, =ti) ⊖しわになる。しわくちゃになる。⊖(紙のはし・着物のえり・刀先などが) めくれる。(刀が) なる。

maguri=juN④ (自 =raN, =ti) 道義がなくなる。義理をわきまえない。

magurimuN④ (名) 義理をわきまえない者。わからずや。借りた金を返さない者などという。maguraa とともいう。

mahu④ (名) [文] 真帆。二本マストの船で、大きい主要な帆のことか。～ hwikibakazija matumuni ʔnmahwiçizi. [真帆引けば 風やまともに 午未(上り口説)] 真帆を引くと風は南々西の順風。

mahuqkwa④ (名) 暑い真昼。照りつける夏の昼間。～ nu doocuuja kasanu neeNdaree naraN. 暑いまっ昼間は傘なしでは歩けない。

mahuu④ (名) 魔法。魔術。

mahwee④ (名) 真南。karajaçizi nubuti

mahwe 'Nkati miriba, simanuradu mijuru satuja miranu. [瓦屋つちのぼて 真南向かって見れば 鳥の浦と見ゆる 里や見らぬ] 瓦屋(那覇に近い地名)の丘の上に登って真南の方を見ると、村のかげは見えるが、恋人は見えない。

mahwiru④ (名) 真昼。ʔakarahwiru とともいう。

mai④ (名) 競技の場合、故障が出て一時中止すること。野球などのタイムというのに似ている。～ sjUN. タイムにする。namaa ~ ʔjan. 今はタイムだ。

maiciraka=sju⁷N④ (他 =saN, =ci) (くそを) たれ散らす。

majaa④ (名) 猫。上品には majuu とともいう。

majaagu⁷ci④ (名) 猫舌。

majaasarigutu④ (名) 魔がさして起こした事。

majaa=sjuN④ (他 =saN, =ci) 惑わす。魔力で人を迷わす。majaasarijuN. 惑わされる。魔がさす。立派な身分の人が欲に目がくらんで罪を犯した場合、また、変死の場合などにいう。

majaazikuku④ (名) みみずく。<majaa(猫) + çikuku(ふくろう)。

maju④ (名) 眉。

majugii④ (名) 眉毛。

majunaka④ (名) 真夜中。

ma=juN④ (他 =raN, =ti) (大便を) する。まる。那覇では大小便両方についていう。kusu ~. 大便をする。くそまる。下層の者などが大便するのをいう。首里ではふつうは huru ʔijuN (便所にすわる) といひ、上流の婦人は ʔura tacun (裏に立つ) といひ。

majuu④ (名) 猫。majaa の上品な語。

makaabutuki④ (名) nioobutuki の項参照。

makabi④ (名) 真壁。(地) 参照。

makabi

makabi① (名) 真嘉比。(地) 参照。

makai① (名) ①飯あるいは汁を盛る椀。どんぶり。普通は陶製。主として労働者、農民など下層階級が用いる。天目茶碗のように大きく、すり鉢形をしている。上品には doogu という。②(接尾) 飯などを makai に盛った数を示す。cumakai(一杯), tamakai(二杯) など。上流は cucawan, tacawan と数える。

makanee① (名) まかない。食事を提供すること。また、提供された食事。

makaneejaa① (名) 軽食堂。

makanDunci① (名) [真壁殿内] sjunmitunci [首里三殿内] の一つ。maazinu-hwira [真和志之平等] の ʔansirari [あもしろれ] のいる神の宮。

maki① (名) 負け。勝負に負けること。また複合語に humicimaki (暑さまけ, 夏やせ), ʔurusimaki (うるしにかぶれること), hazimaki (はげの木にかぶれること) など。

makiʔikusa① (名) 負けいくさ。

maki=juN① (自 =raN, =ti) (勝負に) 負ける。商品の値を引くことは ʔašimijun, hwicun などという。

maku① (名) 幕。maaku ともいう。

maku① (名) 腕白。勇猛な者。乱暴者。また、大したやつ。相当な者。有能な者。多くは餓鬼大将・乱暴者・喧嘩の達者な者などをいうが、競争で一等になった者・学力優等で一番になった者などをもちいうことがある。ʔuumaku, ʔanmaku, šitimaku などともいう。

makubu① (名) 魚名。鯛に類する上等な魚。taman とならんで珍重される。

makugaN① (名) maqkwagwan と同じ。

makutu① (名) ①誠。誠実。正直。律義。~na mun. 律義者。正直なお人よし。②真実。本当。~ka ʔa ʔicika, ʔwazimu huriburitu nizami ʔudurucinu ʔjumi-

nu kukuci. [誠かや実か わ肝ほればれと寝覚め驚きの 夢の心地] 本当のことなのだろうか、わたしの心は茫然として、夢からさめて驚いたときの気持ちがする。子を失った時の歌。

mama① (名) ①まま。ʔunu ~. そのまま。qkwanu ʔjuru ~. 子の言いまま。②通り。ninziNnu sjuru ~ saarun sjun. 人間のする通りに猿もする。③(接尾) 言うなりになる意。ʔutumama (夫の言うなり), tuzimama (妻の言うなり) など。

mama① (名) 一緒。共。qkwatoo maa-madin ~. 子とはどこまでも一緒。ʔicigu ~tumuti ʔikataren sjašiga. [一期まともて い語らひもしやすが] 一生涯一緒になると思って恋も語ったが。

mama- (接頭) まま(継)。血縁のない親子、兄弟姉妹の関係を意味する。mama-ʔuja (まま親), mamaqkwa (まま子), mamacoodee (腹ちがいの兄弟姉妹) など。

mamami① (名) [文] あずき。元来は豆の美称か。口語は ʔakamaami. ʔucimamitu ~ ʔwaʔnmagwani kekwaci, ʔašibinanu kažini šidaci ʔNzira. [打豆と真豆 我馬小にけ食はち 遊び庭の數に すだち出ちら(伊江島の打豆節)] うち豆(豆の種類の名か)と真豆をわが愛馬に食わせて、馬の競技のたびに着飾って出場しよう。

mamaqkwaasjuN① (他 =saN, =ci) babaqkwaasjuN と同じ。mamiqkwaasjuN ともいう。

mamiku① (名) 植物名。まみく。くすのはかえでの一種。落葉喬木。

mamiqkwaasjuN① (他 =saN, =ci) babaqkwaasjuN と同じ。mamaqkwaasjuN ともいう。

mami=zuN① (他 =gaN, =zi) とり違える。間違える。ʔuruku timigušiku kacinu-

hana mimura mimuranu ʔaNgwataga surutooti nunuʔuibanasi ʔaja mamiguna ʔjoo mutu kaNzUN doo. [小祿豊見城 垣花三村 三村のあんぐわたが揃とて布織り話 あやまめぐなより 元かんちゆんどり (三村師節)] 小祿, 豊見城, 垣の花の三つの村の娘たちがうち揃って布織り話をしている。話に夢中になって縞糸の数をまちがえるなよ。もとがとれなくなるぞ。

manui① (名) ①守ること。守り。守護。防備。②(規則などを)守ること。遵守。～nu ʔaru qcu. 道徳家。

mamu=juN① (他 =raN, =ti) ①守る。守護する。防御する。見守る。②(規則などを)守る。ʔujanu ʔjusigutu ～. 親の教訓を守る。

mamukoo① (名) 真むこう。正面。

mamuN① (名) [真物] 神。または、神の霊力のついた偉人。

manee①* (副) 時には。まれには。～ʔuna kutun ʔaN. 時にはそんなこともある。

mani① (名) まね。模倣。手本にして模倣すること。動作表情などのまねは neebi という。sinsinu ～ ʔukitooN. 先生のもつを見習って受け取っている。

mani①* (副) もし。kaN siini, ～ ʔariga ʔaN sjuʃee caa sjuga. こうした時に、もし彼がああしたらどうするか。

mani=cuN① (他 =kaN, =ci) [文] 招く。manucun ともいう。

manisi① (名) 真北。北。

manuci① (名) 織機の部品の名。地機で hja (あぜ糸) を引っ張るために足にかけて引くもの。

manu=cuN① (他 =kaN, =ci) [文] mani-cuN と同じ。

manuku① (名) 眉間。また、まゆね。～ cicaasjun. まゆを寄せる。(心配事の時な

どに) まゆをひそめる。

maN① (名) つむぎ。つむぎ糸で織った絹布。

maN① (名) 万。多数の意にもなる。

maNburi① (名) 首ったけ。まる惚れの意。

maNcaahwi ʔNcaa① (副) まぜこぜ。ごたまぜ。雑多に入り混じったさま。kumitu muzitu ～. 米と麦とまぜこぜ。

maN=cuN① (自 =kaN, =ci) 混じる。入り混じる。混入する。

mandaci① (名) しっかりと抱くこと。抱きしめること。

mandamasi① (名) 魂全体の意。次の句でいう。～ nugijun. びっくり仰天する。おったまげる。tamasi nugijun を強めた俗語。

mandee① (名) 万代。いつまでも。長い年数。

mandoo=N① (自 =ti) (持続態のみを用いる。また、否定の意では ʔikiraſaſaſa, neenなどを多く用いる。) たくさんある。たくさんいる。hananu ～. 花がたくさんある。mandooru zin ʧikaandin ſaſa. たくさんある金を使おうともしない。zinnu mandooinee maasamuN kanuN. 金がたくさんある時にはうまい物を食う。

maNgura① (名) あたり(辺)。おおよその場所を示す。ʔanu ～. あの辺。gaqkoonu ～. 学校のあたり。maanu ～nakai ʔaga. どの辺にあるか。

maNguru① ①(名) ころ。おおよその時を示す。ʔiçinu ～. いつごろ。gugwaçinu ～. 五月ごろ。②(接尾)ころ。ʔiçiman-guru (いつごろ), ʔjunakamaNguru (夜中ごろ) など。

maNgwa=ſjuN① (他 =ſaſaſa, =ci) 惑わす。まぎらわす。maNgwasaqtoon. 惑わされている。ʔari maNgwaci turasa. 彼を惑わしてやろう。

maNgiwi① (名) うろたえること。気が転倒すること。～ Yucun. 気が転倒する。(驚きや悲しみで) どうしてよいかわからなくなる。

maNgiwi=juN① (自 =raN, =ti) うろたえる。惑わされる。どうしてよいかわからなくなる。

maNʒici① (名) 万一。

maNki=juN① (他 =raN, =ti) (多くのものに少しのものを) 混ぜる。混入させる。

maNkuu'sjuu① (名) 糸満の人たちのことを皮肉にいう語。maNkuu [満子] は糸満(地名)の男に多い名前。

maNmaN① (名) まんま。飯の小児語。

maNmaru① (名) まん丸。完全な丸。

maNna① (名) 満名。《地》参照。

maNna=juN① (他 =raN, =ti) のろろ。他に災害のあるように祈る。

maNnaka① (名) まん中。中央。

maNnin① (名) 万人。また、たくさんの人。

maNnin① (名) 万年。また、多くの年月。

maNnuN① (名) 丸飲み。かまずに飲み込むこと。～ sjun.

maNrici① (名) 万力。家の柱など重量のあるものを持ち上げるのに使う大工道具。

maNsaazi① (名) つむぎで作った saazi (ターバンのように頭に巻くもの)。

maNsaku① (名) [文] [満作] 満作。豊作。

maNsaN① (名) [満産] 子供が生まれて七日目の夜、親類縁者が集まってする祝い。うぶたちの祝い。七夜の祝い。

maNtakii① (副) maqtakii と同じ。

maNwataNsu① (名) maNwatazin と同じ。'Nsu は cin (着物) の敬語。

maNwatazin① (名) つむぎで作った礼服。maNwataNsu ともいう。

maNzaabusi① (名) 宵の明星。金星。'juubanmaNzaa (夕飯をうらやむ者の意) の略。

maNzai① (名) [万歳] ⊖ condaraa と同

じ。その項参照。⊖ 舞踊の名。takadeeramanzai [高平万歳] (能の望月に似たもの) と 'jeezinu ~ [八重瀬万歳] の二種がある。

maN=zuN① (他 =daN, =ti) ⊖ ほしそりに見る。うらやましそりに見守る。ʒinnu sisi mantannee. 犬が肉をほしそりに見ているように。⊖ 見守る。miimanzun ともいう。

maNzuu① (名) まんじゅう。首里では 'jamagušikumanzuu (山城まんじゅう) が学生などに喜ばれ、那覇では tinpinumeemanzUU (天妃前まんじゅう) が子供たちに喜ばれた。祭祀や法事などには hanagatamanzUU (花型まんじゅう) が用いられ、普通のまんじゅうは子供の進級祝い、誕生日などにも使われた。

maNzuuii① (名) パパイア。果実は美味で、腎臓病の薬にもなる。

maŋciiru① (副) 真黄色(に)。～ sjooru hana. 真黄色な花。

maŋciiruu① (名) 真黄色のもの。

maŋcizi① (名) 頂上。てっぺん。

maŋkaara① (副) 真赤(に)。～ sjooru hana. 真赤な花。çiranu ~ nati. 顔が真赤になって。

maŋkaaraa① (名) 真赤なもの。

maŋkoo① (名) 植物の名。はりつるまき。米粒ほどの実がなる灌木で、観賞用として鉢に栽培される。

maŋkuuru① (副) 真黒(に)。tinnu ~ nati ʒami hutan. 空が真黒になって雨が降った。

maŋkuuruu① (名) 真黒なもの。

maŋkwa① (名) ⊖ 枕。kiimaŋkwa (木枕), toomaŋkwa (唐枕) などがある。⊖ 土台・基礎とするもの。また、手本、kuri ~ qsi çukuree. これを手本にして作れ。～ sjun. イ. 枕にする。ロ. 土台にする。ハ. 手本にする。

maqwabakuⓄ (名) ⊖枕の一種。枕箱。
上面が正方形の箱形の枕で、中に引き出しがあり、くしなどを入れる。⊖枕箱。枕を入れる箱。

maqkwagwanⓄ (名) 枕上。枕もと。makugaNともいう。Paqizii (寝た時の足もと)の対。

maqsaciⓄ (名) まっ先。

maqsiiiguⓄ* (副) まっすぐ。～sjooru. まっすぐな。～na. [新?] まっすぐな。

maqsiiiguⓄ* (名) ⊖まっすぐな物。⊖単純な人。真正直な者。

maqsiiiraⓄ (副) 真白(に)。～sacoon. 真白に咲いている。

maqsiiiraaⓄ (名) 真白なもの。

maqsisiⓄ (名) 赤肉。脂肪のまじってない赤身の精肉。masisiともいう。

maqtaciⓄ (名) そっくり。～nicoon. まったくよく似ている。Paqicijoonu ~'jan. 歩き方がそっくりだ。～nu mun. よく似ている者。

maqtakiiⓄ (副) 全部。まるまる。そっくり。mantakiiともいう。～kwitan. 全部やった。

maqtakuuⓄ (名) 紙だこの一種。十字の骨に紙を張った、簡単な紙だこ。maqtaraaともいう。形がこうもりに似ているので、那覇ではkaabujaaという。

maqtaraaⓄ (名) ⊖つばめ。⊖maqtakuuと同じ。

maqteemaaⓄ (名) まん丸いもの。

maqteenⓄ (副) まん丸く。まるまると。mii ~ najun. 驚いて目がまん丸くなる。duunu ~ sjoon. 体がまるまると太っている。

maqtoobaⓄ (副) まっすぐ。一直線。また、正しいさま。～sjoon. まっすぐである。

maqtoobaaⓄ (名) ⊖まっすぐなもの。⊖単純な人。馬鹿正直な者。

maraⓄ (名) 陰茎。

mariⓄ (名) まれ。～ni. まれに。duqtu ~na kutu. 大変まれなこと。

marimariⓄ (名) まれ。～na kutu. まれなこと。～du 'jaru. まれである。まれにしかない。

marineeⓄ (連体) まれな。～mun. まれな物。～qcu. まれな(偉い)人。

maruⓄ ⊖(名) まる。円。円形。⊖(接頭)イ。円形のもの。marubun (丸盆), maruzuzin (丸い御膳)など。ロ。全体・すっかりなどの意。maru?nzasi (まる出し)など。

marubaiⓄ (名) まる出し。まるあき。陰部などを露出すること。

marubiimaⓄ (名) 丸い模様のかすり。

marubuNⓄ (名) 丸盆。丸い盆。

marucaⓄ (名) まないた。

maruciziNⓄ (名) まとまった金。大金。

maru=cunⓄ (他 =kan, =ci) 支配する。治める。国家・家などを統一して采配をふるう。

maruhadakaⓄ (名) まる裸。全裸。

marukeetiⓄ (名) まれ(に)。たま(に)。～du ?aru kutu. たまにある。たまにしかないこと。“meenici ?icumi.” “～du ?icuru.” 「毎日行くか。」「たまにしか行かない。」～nu sugai. たまのおしゃれ。

marumaruuuⓄ (副) すっかり。まるまる。一つ残らず。～'wasiti. すっかり忘れて。

marumi=juNⓄ (他 =ran, =ti) ⊖丸める。丸くする。円形・球形にする。⊖他人を意のままに従わせる。心服させる。意のままにする。marumiraqtoon. 意のままになる。心から信服している場合をいい、丸めこまれる意ではない。

marumuNⓄ (名) [間の物・間の者] ⊖組踊り(kumiudui)の間にはさむ狂言。組踊りの筋を運ぶ助けをする喜劇風の部分。また、それを演ずる役者。その部分のせりふには口語が用いられる。独立した狂言

は coogin という。⊖ 転じて、おどけ者。

maru=nuN① (自 =maN, =di) ⊖ (月などが)丸くなる。⊖まとまる。円満に治まる。
çicisirunu mamui şidakasanu mamun
mikazi tiriwatati kuniya marumu.
[月代の守り 勢高さの真物 美影照り渡
て 国やまるむ] 月代のやしろの守りである
気高い偉人尚巴志王は、その姿が照り輝
いて、国はよく治まる。尚巴志王の三山統
一を歌った歌。

maruʔnzasi① (名) まる出し。

marusan① (形) 丸い。円形または球形である。

maruʔuziN① (名) 丸膳。丸い御膳。

maruu① (名) 丸い物。円形・球形のもの。

masagagutu① (副) 案の定。予期の通り。
はたして。~ çici natoon. 案の定その
通りになった。

masai① (名) まさっていること。すぐれて
いること。masaiʔuturui. 優劣。

masa=juN① (自 =raN, =ti) まさる。すぐ
れる。masaru ʔicasa. [文]人がすぐれ
ていることを快く思わないこと。

masakai① (名) 真マコトの盛り。全盛。青年男
女・花などの全盛時をいう。

masasjan① (形) 靈験がある。靈験あらた
かである。masasja ʔwaamişeen. 靈験
あらたかでいらせられる。

masi① (名) [文] 竹や木で密に作った垣。
ませ垣。ʔjuʔaki sirasiratu niwanu ma-
siʔucini çiju kamiti sacuru hananu
curasa. [夜明しらしらと 庭のませ内
に 露かみて咲きゆる 花の清らさ] 夜
が白々と明けるころ、庭のませ垣の中に露
をいただいて咲いている花の美しさよ。
kuinu ~ banti sjuru munuja ʔaran,
dezisarami ʔwamija ʔisuzi nugira. [恋
のませ番手 しゆるものやあらぬ 大事
さらめわ身や 急ぎぬげら (手水之縁)]

恋の邪魔するませ垣となって番人をするも
のではない。大変なことになるだろうから
急いで逃げよう。

masi① (名) まし。一方よりまさること。
一方よりよいこと。ʔarijaka ~. あれよ
りいい。naahwin ~na kutunu ʔami.
もっといいことがあるか。

-masi (接尾) まち (町)。田の枚数を数え
る時の接尾辞。cumasi (田一枚), tama-
si (田二枚), ʔikumasi (田何枚) など。
畑を数える時には -ciri という。

masi① (名) 柘目。柘で計る量。~nu ʔa-
N. 柘目がある。柘で計って量がある。

masici① (名) 真志喜。《地》参照。

masigaci① (名) [文] ませ垣。masi と同じ。

masisi① (名) maqsisi と同じ。

masukagami① (名) [文] [増鏡] 和歌に用
いられる語を借用したもの。ʔujubaran-
tumiba ʔumui ~, kazijacon ʔuçuci
ʔugamibusjanu. [及ばらぬとめば 思増
鏡 影やちよん映ち 拝みほしやの] 及ば
ないと思うと、思いは増すばかり。せめて
面影だけでも映して見たいもの。

mata① (名) 股。ももとももの間。また、
木の枝のまた。

mata- (接頭) 全き。完全な。matamun (完
全なもの), hanakakizaarunu mataza-
aru ʔwarajun. (鼻欠け猿が完全な猿を
笑う。) など。

mata① ⊖ (接統) また。taruun kaci, ~
ziruun kacun. 太郎も書き、また、次
郎も書く。⊖ (副) イ。また。再び。~
kuu ʔjoo, またおいで。ロ。また。kurin
~ ʔagijabira. これもまたあげましょう。

matabasi① (名) またぐら。またの間。

matabasigoojaku① (名) 二股膏薬。両方
につき、去就の一定しないこと。

matadumeei① (名) 再婚。再度妻をめとる
こと。女の側からは matamuci という。
-dumeei < tumeejun.

matagarasi① (名) 又貸し。
mataʔicuku① (名) 再従兄弟姉妹。またい
とこ。ふたいとこ。両方の親がいとこ同志
である子の関係。
matamuci① (名) 再婚。再度夫を持つこ
と。女の場合にいう。男の場合は mata-
dumeei という。muci < mucuN。
matamuN① (名) 完全なもの。無きずの
物。
mataniibici① (名) 再婚。女の場合を多く
いう。
matanui① (名) 馬乗り。またがって乗る
こと。片方に両足を揃えて乗る女の乗り方
は subanui という。
mataʔnmaga① (名) ひまご。曾孫。
matankaa① (名) 真向かい。真正面。ま
とも。tankaa は正面。
matasan① (形) 全しの意。完全である。
かけたところがない。matasii mun. イ。
完全なもの。ロ。信頼のおける人。
matu① (名) 的。目標。めあて。
matuma=juN① (自 =raN, =ti) ①[文] 統
治される。一つに支配される。②[新] 統
一する。(意見などが) まとまる。
matumi=juN① (他 =raN, =ti) ①[文] 統
治する。すべる。一つに支配する。②[新]
統一する。(話などを) まとめる。
matumu① (名) 舟のとももの方向。また、
その方向から吹く風。順風。mahu hwi-
kiba kazija ~ni ʔnmahwiʔizi. [真帆
引けば 風やまともに 午未(上り口説)]
帆を引くと風は南々西の順風。
mawasi① (名) [文] ふんどし。口語では
sanazi または hadoobi という。
maza① (名) 真喜屋。《地》参照。
maza① (名) 真謝。《地》参照。
mazece① (副) まず。まずは。mazi と同じ
ように用いる。~ 'judi 'Nnda. まず読
んでみよう。
mazi① (副) ①まず。はじめに。~ 'wa-

Nkara qsi 'Nnda. まず、わたしからやっ
てみよう。②しばらく。~ mati. しま
らく待て。

mazi=juN① (他 =raN, =ti) 混ぜる。
mazikina① (名) 真境名。《地》参照。
mazikuN① (名) 魚名。鯛の一種。ʔjuna-
barumazikuN は美味で、第一等の魚。
mazimu① (名) 正直な心。正直な人。ma-
azimu ともいう。
mazimuN① (名) 魔物。化物。精。種類の
自然物に宿る精をいう。kiimazimuN は
木の精。
mazi=nuN① (自 =maN, =di) 積む。積み重
ねる。積み上げる。ʔisi ~. 石を積み上げ
る。ʔweekiNcunu ʔjaanee ziNnu ma-
zimaqtoon. 金持ちの家には金が積み上
げられている。
maziN① (名) ʔNnimaziN (いなむら) と
同じ。<mazinuN。
-maziN (接尾) 束。稲・たきぎなど、束ねた
もの・積み上げたものを数える時にいう。
cumaziN(一束), tamaziN(二束) など。
maziri① [間切] ①(名) 市町村制以前の行
政区画の単位。現行政区画の村にほぼ相
当する。もと、按司地頭(ʔazizituu), 惣
地頭(suuzituu)の領した采邑で、はじめ
は境界の意であったものが転じたもの。英
祖王の時、検地を行ない間切制を定め、
課税を画一にした。地頭は首里に住むよう
になり、かわりに土地の豪族などを地頭代
(zitudee)とし、間切を統治させた。地頭
代は明治になって間切長(maziricoo)と
いう名に変わった。明治41年に間切制
は廃され、間切は市町村制による村とな
った。②(接尾) 間切の名につけ、または間
切を数える時の接尾辞。nagumaziri(名
護間切), cumaziri(一間切)など。
maziri①(名) [文] あるだけ。すべて。一
切。全体。もと境界の意だが、転じて一方
は間切となり、他方で全体、残らずなどの

maziricoo

意となったものと思われる。YumaNcu-nu ~ ʔauzi 'ugama. [御真人のまぎり 仰ぎ拜ま] 人民全体で仰いで拜もう。

maziricoo① (名) [新] [間切長] maziri (間切)の項参照。

maziri=jun① (自 =raN, =ti) 混ざる。混じる。

maziri=jun① (自 =raN, =ti) まぎれる。見分けがつかなくなる。

mazirimun① (名) 混ぜもの。混ぜるもの。米が不足の時に混ぜる麦など。

maziwai① (名) 交わり。付き合い。交際。

maziwa=jun① (自 =raN, =ti) 交わる。交際する。つきあう。交叉する意には使わず、かわりに ʔazijun という。

mazn① (名) 一緒(に)。共(に)。~ ʔjatan. 一緒だった。~nu qeu. 一緒の人。ʔjaqciitu ~ ʔicuN. 兄と一緒に行く。

mazuun① (名) mazun と同じ。

medei① (名) [文] [美公事・みおやだいに] 王府への御奉公。ʔweedai よりさらに上の敬語。

medeigutu① (名) [文] 王府への御奉公。すなわち、公務。公用。~ ʔatuti sjuini nuburu. 御奉公のことがあって首里にのぼる。

mec① (名) ①前。前方。また、そば・近く、…のある所などの意もある。~ nasjun. 前にする。前に置く。また、そばに置く。gaqkoonu ~. 学校の前。また、学校のある所。ʔaree qkwa ~ nacoomi. 彼は子供と一緒に暮らしているか。②前。以前。時間についていう。~uti. 前に。③前のもの。陰部。~ hajun. 陰部をあらわす。

mec① (名) 行くこと・来ること・居ることの目下の年長に対する敬語。~nu najumi. おいでになれるか。moorarijumi というのと同じ。

mec① (名) 前。《地》参照。

mec① (名) 飯。米の飯をいう。農民の用い

る語。さつまいもが常食であったので、ごちそうの意を含んでいる。くしゃみをした時、はたから kusu kwee. (くそ食え) と言ってからかわれるが、その時 mookiti ~ kwee. (もうけて米の飯を食え) と言いつ返す。

mee-(接頭) 尊敬の意を表わす接頭辞。meewikiga (殿方), meewinagu (淑女) など。

mee-(接頭) 毎。meenin (毎年), meenici (毎日) など。

-mee(接尾) [前] 様。尊敬の意を表わす接尾辞。ʔusjuganasiimee [御主加那志前] (国王様), ʔazimee [按司前] (按司様), ʔajaamee (奥様), satunusimee [里之子前] (里之子様), ʔjacimee (ぼっちゃま) など。

-mee(接尾) 持ち前。割り当ての分。mucimee (持ち前。負担すべき分), ʔukuimee (無尽で定期的に償還すべき金), kakimee (掛け前。無尽で定期的に出すべき掛け金), ʔiciniNmee (食物などの一人前) など。

-mee(接尾) 枚。着物・紙などを数えるときの接尾辞。ʔicimee (一枚), niNmee (二枚) など。

meeʔagai① (名) meegai (増長) と同じ。

meeʔaga=jun① (自 =raN, =ti) meegajun と同じ。

meeʔasa① (名) 毎朝。

meeba① (名) meebaa と同じ。

meebaa① (名) 前歯。

meebaN① (名) 順番が早いこと。順位がよいこと。

meebaree① (名) 前払い。前金。

meebisja① (名) 前足。四つ足のものの前足。

meecaa① (名) 農村で女の用いるふんどし。

meecaasanazi① (名) 越中ふんどし。sanazi は男のふんどし。形が女の meecaa

に似ているのでいう。

meeciŋtaⓐ (名) つんのめること。前にのめること。

meedaⓐ (名) 前田。《地》参照。

meedaⓐ (名) 真栄田。《地》参照。

meedeeraⓐ (名) 真栄平。《地》参照。

meedimaⓐ (名) 賃金 (tima) の前払い。

meegaaⓐ (名) 前川。《地》参照。

meegaiⓐ (名) 前借り。賃金を前もって借りること。

meegai① (名) 増長。横柄にすること。meeʔagai ともいう。

meega=juNⓐ (自 =raN, =ti) 増長する。横柄にふるまう。meeʔagajuN ともいう。

meegakiⓐ (名) ⊖相撲の手。足を前の方からかけて倒す術。⊖転じて、前もって駄目を押すこと。警告。～ʔirijuN. 前もって警告する。

meeganikuⓐ (名) 前兼久。《地》参照。

meegaŋtaaⓐ (名) 前髪が伸びて乱れた者。

meegaŋtuⓐ (名) 前髪。前髪が長くて目立つのはあまり上品でないといわれるので、kantu (髪 of 卑語) という。

meegasiⓐ (名) (賃金などの) 前貸し。

meegiramaⓐ (名) [前慶良間] 渡嘉敷 (tukasici) 間切の別称。

meeguciⓐ (名) 家の表口。家の前面。おもて。

meegusaⓐ (名) 織機の付属具の名。経糸を巻き板に巻く時にはさむ細い棒。両端が布幅より2~3センチぐらいずつ長く、両端の経糸がずり落ちるのを防ぐ。はたかさ。

meehabaⓐ (名) 着物の前みごろの幅。前幅。

meehanazi① (名) 子供が大人の前をはしゃいで行くこと。～sjun.

meehwiⓐ (名) 前日。期日の前の日。

meejuijuiⓐ (名) 前に寄ろう寄ろうとすること。出しゃばろうとすること。meenainai ともいう。

mee=juN① (自 =raN, =ti) 燃える。

meejuruⓐ (名) 毎夜。毎晩。

meekanijoozooⓐ (名) 病気の予防。前もって体に注意し養生すること。

meekanitiⓐ (名) あらかじめ。前もって。～uti ともいう。～(uti) ʔicooke masi ʔjataru muN. 前もって言うておけばよかったのに。～nu kukurugaki. 前もっての心掛け。

meekatakasiraⓐ (名) katakasira [敬警] を結った時の髪で、前方に結ったもの。おかしく愚鈍に見える。按司 (ʔazi) など身分の高い貴族は金の重い kamisasi (かんざし) を用いるので、自然前になる傾きがあり、それは重重しくも見えるが、身分の低い士族が、重くもない銀の kamisasi を用いて前方に結うとかえってこっけいに見えた。

meekatakasiraⓐ (名) katakasira を前寄りに結った者。律義者。融通のきかない者。しゃれけのない者。ぬけ作。～ʔuu-ʔwaakarajaa. まぬけの能なし。ʔuu-ʔwaakarajaa (豚の種付け業者) も能のない者の代表とされている。

meenteⓐ (名) 御飯の小兒語。まんま。

meemeⓐ (名) 前前。～kara tanudeetan. 前前から頼んであった。

meemeeguujaaⓐ (名) さざえの殻。子供の用いる語。

meemoi① (名) ⊖行列の前に立って舞いながら行くこと。式典・催し物が行なわれる際などに見受けられる。⊖子供が親の前をはしゃいで踊って行くこと。～sjun.

meemuci① (名) ʔudun [御殿], tunci [殿内] の中の、男のいる部屋。ʔuucibara に対する。

meenaⓐ (名) 綿羊。羊。

meenaahwiizaaⓐ (名) meena と同じ。hwiizaa は山羊。

meenainaiⓐ (名) 出しゃばること。前にな

meenici

ろうなろうとすること。duku ~nu sziiti. あまり出しゃばりが過ぎて。~ sjuna. 出しゃばるな。

meenici① (名) 毎日。

meenini① (名) 毎年。

meenubagai① (名) ①前に伸び上がること。また、危険なところに顔を出すこと。危険なもののをぞぎ込むこと。②出しゃばること。~ sjun.

meenuçici① (名) 前月。

meenui① (名) 地機で、布を織る前に糸のりをつけること。糸が、けばだたないようにして織りやすくするため。

meenujaa① (名) 離れ座敷。Tasjagi ともいう。その項参照。

meenu① (自・不規則) いる・行く・来るの平民の年長に対する敬語。おられる。行かれる。来られる。

meesaa① (名) へつらう者。おべっか使い。

meesi① (名) 箸。首里・那覇では多くは ?umeesi という。

meesi① (名) お世辞。おべっか。へつらい。~ taramici. お世辞たらたら。

mee=sjun① (他 =saN, =ci) 燃やす。

meesuba① (名) 着物の前すそ。つま。

mee?uubii① (名) 帯を前に結ぶこと。前帯。沖繩の習俗として、女は帯をしないが、労働をする女が細い帯をしめる時には前で結ぶ。男も髪を結っていた時代には、みな帯を前で結んだ。

meewikiga① (名) 殿方。mee- は敬意を表わす接頭辞。

meewinagu① (名) 淑女。御婦人。mee- は敬意を表わす接頭辞。

meezatu① (名) 真栄里。《地》参照。

meezici① (名) 毎月。

meezii① (名) [前地] 伊是名島 (?izina) をいう。

meezin① (名) 前金。品物を受け取る前に代金を払うこと。また、その金。

meezira① (名) (家などの) 前面。前がわ。

meezu① (名) 開き戸。舞戸。

menumenuu① (感) 山羊を呼ぶ声。

meNseeN① (自・不規則) ?men?seeN の平民的発音。

mi- (接頭) 三。mikeen (三回), mihwani (三羽), miqcai (三人) など。

mi- (接頭) [美] 御(み)。御(おん)。尊敬の接頭辞。mi- がつかず、'N- がつく語もある。'N- の項参照。mihwisja (おみ足), mihwizi (御ひげ), mikusi (御腰), mizita (御下駄), mi?uubi (御帯) など。

-mi (接尾) ①目。順序を表わす。'judumi (四度目), rukudeemi (六代目) など。②匁。もんめの略。hjakumi (100匁), hjakurukuzuumi (160匁) など。

mibiçin① (名) biçin (紙入れ・財布) の敬語。お財布。

mibuN① (名) 身分。階級。

mica① (名) [文] miçca の文語。

micaai① (名) 三分すること。三つ割り。また、三切れ。~Nkai sjun. 三つ割りにする。

micaa=jun① (自 =raN, =ti) 癒着する。miijaajun と同じ。

mici① (名) ①道。道路。②人の行なりべき道。また、方法。③(接尾) 道。また方法。qkwanasimicee siçei sudatimicee siran. 子の産み方は知っていて、育て方は知らない。

miçi① (名) 蜜。花の蜜。

miçiba① (名) 野菜の名。みつば。

micibaqpee① (名) 道を間違えること。道に迷うこと。

micibata① (名) 道ばた。路傍。

micibi=cun① (他 =kaN, =ci) [文] 導く。口語では sooti ?icuN (連れて行く), naraasjun (指導する) などという。

miçibusi① (名) (オリオン座の) 三つ星。

miciçujaa① (名) 道が三方に分かれる所。

三つ角。三叉路。

micigwaaⓐ (名) 小道。

micihwizamiⓐ (名) 道路をへだてること。家などが道をへだてて向き合うこと。

micijuNⓐ (他 =raN, =ti) 閉ざす。(戸・ふたなどを) 閉める。hasiru ~。雨戸を閉める。

micijuNⓐ (他 =raN, =ti) 満たす。mitasjun ともいう。満ちるは micun という。kaami ~。かめを満たす。

micijurariⓐ (名) 道草を食うこと。

miçikiⓐ (名) ㊦鑑定。見立て。品物・人物などを見分けること。㊦診断。㊦見込み。~nu taqcooN。見込みが立っている。将来性がある。

miçikicigeeⓐ (名) 見込み違い。見立ての誤り。誤診。

micikumi=ju’Nⓐ (他 =raN, =ti) 閉じ込める。

micimaaⓐ (名) 遊戯(の道具)の名。十六武蔵。

micimakuⓐ (名) [道幕] 貴族の葬式の際、婦人の行列は両側を幕でかこんで進む。その幕。

micinakaⓐ (名) 途中。道中。~ga ’jajura kurusariga sicara。[道中がやゆら殺されがしちやら(手水之縁)] まだ引かれて行く途中であらうか、もう殺されてしまったらうか。

micinakaraⓐ (名) 中途。なかば。naka-ramici ともいう。

micinusimaⓐ (名) 十島(土噶喇列島)と奄美群島。薩摩への道の島の意。

miçingwaⓐ (名) 三つ子。三歳の子。物の道理をわきまえぬ小兒。三生児は miçuu という。

micisibaⓐ (名) [文] 道ばたの草。’asamasija hwicui ’umuikugarituti, ~nu giçjutu tumuni eiçhatiti, ’inmajunu ’iziki najuratumba。[浅間しや一人

思焦れとて 道柴の露と 共に消え果てて 犬猫のゑじき なゆらとめば(花売之縁)] なさけないことよ。ひとりでも思いこがれながら、路傍の露と消え果てて、犬猫のゑじきになるかと思うと。

micisigaraⓐ (名) 道すがら。道中。道のついで。satume huni ’ukuti muduru ~, huran naçigurini ’wasudi nuraci。[里前船送て 戻る道すがら 降らぬ夏ぐれに 我袖ぬらち] 愛する男の船を送って 帰る道すがら、夏の雨に会ったわけではないのにわが袖をぬらした。~ ’jatan。道のついでだった。

micisjuⓐ (名) 満潮。hwisini ’uru tuija ~ ’uramijui, ’wamija ’akaçicinu tudu ’uramu。[干瀬に居る鳥や 満潮恨みゆい 我身や暁の 鳥と恨む] 潮の引いた岩の上にいる鳥は満潮を恨んでいるが、わたしはあかつきを告げる鳥を恨む。

micizuciⓐ (名) 馬による散歩。馬の遠乗り。

micizutaⓐ (名) [道歌] 俚謡の一種。いなかの道を行きながら歌う歌。たとえば、次のようなもの。mutubu nacizinaga ’jaidu kaiga kurawa, kutuba ’jahwajahwatu muduci ’jarasi。[本部今帰仁なが 宿借りが来らは 言葉やはやはと 戻ちやらせ] 本部や今帰仁の者が宿を借りに来たら、乱暴者だからことばやさしくことわってやれ。nagukaraja hanizi ’izasi-çaja ’iciri, mazaganikumadija nirinu çimui。[名護からや羽地 伊差川や一里 真喜屋兼久までや 二里のつもり] 名護からだや羽地の伊差川までは一里、真喜屋の馬場までは二里とされている。

miçiwaiⓐ (名) miçiwai と同じ。

miçiziⓐ (名) ふくさ。進物・神仏へのお供え物の上にかける、小さい四角の絹の布。çizi (頂) に mi- (敬意の辞頭辞) のついた形か。

miciziri

miciziri① (名) 道連れ。道中を連れだって行く人。

micizukui① (名) 道普請。道路工事。

micu① (名) mitu と同じ。

micukuru① (名) 御三人。miqcai の敬語。mitukuru, ?umicukuru ともいう。

mi=cuN① (白 =taN, =Qci) 満ちる。いっぱいになる。充満する。mitaN karakaraa 'jooncigukuru。中身のいっぱいない酒瓶(内容のない人間)はかえってそうぞうしい。miqci ?amajuN。才走る。満ちて余る意。

-**mi=cuN** (接尾 =kaN, =ci) 擬声語・擬態語について、…という音を出す、…という状態になるなどの意を表わす。…めく。'jutamicuN (ゆらめく), dakumicuN (どきどきする、ときめく) など。

midari① (名) (秩序・規律などの) 乱れ。'nzari の項参照。

midari=juN① (白 =raN, =ti) (秩序・規律などが) 乱れる。'nzarijuN の項参照。

midarijuu① (名) 乱世。

midukuru① (名) 見どころ。miidukuru と同じ。

miduri① (名) 芽。草木の芽。枝から出る芽。また、種子から出る芽。～ sacuN。(草木の) 芽が出る。

miduruma① (名) 目取真。《地》参照。

migaci① (名) 銘。刀・鎧・位牌などの銘。

migataci① (名) めがたき(女敵)。恋がたき。

migawai① (名) 身代わり。

migui① (名) 「めぐり」に対応する。⊖周囲。まわり。⊖回転。また、金の回転・事業の経営・食物の消化など。⊖(接尾) 周。めぐり。まわり。cumigui (一周) など。

miguidunruu① (名) まわり燈籠。走馬燈。盆と正月16日に用いる。

miguijanzi① (名) 金の回転・事業の経営などの失敗。

miguimuN① (名) 働き者。活動家。

migu=juN① (白 =raN, =ti) ⊖めぐる。回る。回転する・周囲を回る・角を曲がる・方々を回るなど。⊖立ち寄る。ちょっと寄る。

migumi① (名) [文] 恵み。'jutakanaru mijunu sirusi ?arawariti ?amiçijunu ~ tucIN taganu。[豊なる御世のしるしあらはれて 雨露のめぐみ 時もたがぬ] 豊かな御世のしるしがあらわれて、雨露の恵みも時節をたがえない。

migura=sjuN① (他 =saN, =ci) migujuN の使役の形。めぐらす。回す。また、金などを回転させる。maasjuN (回す) は maasjuN (死ぬ) と同音なので、忌んで migurasjuN を多く用いる。

miguruNtooruu① (名) 小児の遊戯の名。敏速に体を回して倒れない方が勝ち。

migurusjan① (形) 見苦しい。みっともない。miigurisjan ともいう。

migutu① (名) 見事。すぐれて立派なこと。'uganguTu はその敬語。cimukukuruN ~ ni muqci, hataracigataN siguku zo-obunna 'utuku 'jajabiitašiga。[肝心も見事に持つち 働き方も至極上分な男ややべいたすが(花売之縁)] 心も立派に持ち、働き方もいたってよい男でありましたが。

mihuN① (名) [新] 見本。もとは tihuN といった。

mihusi① (名) 星の敬語。星は尊いものとされていた。人にはおのおのの命となる星があって、それが落ちると死ぬとされる。

mihwira① (名) [三平等] sjuimihwira の項参照。

mihwiruma① (名) mihwiruma?ubuN と同じ。

mihwiruma?ubuN① (名) お昼御飯。hwi-rumamuN (昼飯, その項参照) の丁寧語。

mihwisja① (名) おみ足。足の敬語。

mihwizi① (名) 御ひげ。ひげの敬語。

mii① (感) みい。みっつ。声を出して数える時にのみいう。

mii① (名) ㊦目。～hajun. (驚いて、またあきれて) 目を見張る。～huracun. 目を開く。～hwiqceerasjun. 目を回す。気絶する。～kuhwajun. 目がさめる。また、眠られなくなる。～kuujun. 目を閉じる。見まいとする。また、死ぬ。～maqteen najun. (驚いて) 目をまん丸くする。～mugeejun. 見ていてむかむかお腹が立つ。～ni kwiijun. (わがままなどの度が過ぎて) 目に余る。～nu hwee yuuri. 目の蠅を追い。人をかれこれ言わずに自分のことをせよ。～nu kweejun. 目が肥える。鑑識力が増す。～nu moojun. 見ていて腹が立つ。～N siru naci warajun. 目がなくなるほど目を細めて笑う。～N tuza najun. 目に角立てて怒る。～N hujagiran. 目を上げて見ようともしない。無視する。また、恥じて顔も上げられない。また、疲れ切っても動かせない。～tu hana. 目と鼻(の間)。きわめて近い所。～tu hanabana ともいう。～tu yintaki. 目と同じ高さ。また、子が成長して親と同じくらいになること。～tu yintaki naree, kirookunoo sjuru munoo yaran. 子が大きくなったら(目と同じ高さになったら), とやかくごごとを言うものではない。㊦穴。貫通した穴を多くいう。yisigacinu ～。石垣のすきまの穴。haainu ～。針の目。針のめど。hasirunu ～kara sjuumi sjun. 雨戸の穴からのぞき見する。㊦欠点。欠陥。また、会計上の欠損。また、手落ち。～yacun. イ。穴があく。ロ。会計・仕事などに、欠損・手落ちが生じる。ハ。期日などに間に合わずに恥をかく。～kwaasjun. イ。穴を埋める。ロ。会計の穴を埋める。また、間に合わせの処置をする。～nu yuhusan. 欠点(手落ち)が多い。㊦刻み目。目盛り。

gubannu ～。碁盤の目。hakainu ～。はかりの目盛り。㊦境遇。立場。'janamii haqcakati. いやな目に会って。yiraran ～Nkai yiqci. 恥ずかしい目に会って。困った目に会って。㊦めえっ。叱ることの小児語。目を見ろの意。子供をにらんで叱る時にいう。～sjun. 「めえっ」と言って叱る。㊦(接尾) …目。順番を表わす。taaçimii (ふたつ目), sanbanmii (三番目), gunicimii (五日目) など。

mii① (名) ㊦中。間。物体・群衆などの、中。yuhookunu qcunu ～Nkai yiqcin yuziran. 大勢の人の中に入っても怖じない。mizinumii. 水の中。'Neanumii. 土の中。㊦間(ま)。時間についていう。nuunu ～niga çicaga. いつの間に着いたか。

mii① (名) ㊦実。中身。内容。実質。～nu yijun. 実が入る。みのる。～nu yiqcoon. 実が入っている。中身が充実している。～nu yijuru naaka kubi 'uuriri. みのるほど頭を低くたれよ。立派になるほど謙遜せよ。～nasjun. 物にする。実のあるものにする。完成させる。～najun. 物になる。完成する。㊦汁の中に入れる実。㊦[新] 実。果実。元来は nai という。

mii① (名) 命(めい)。運命。yunu ～'jateesa. そういふ運命だったのだ。人が死んだ時などにあきらめて言うことば。

mii① (名) いっぱい。kaaminu ～mizikunun. かめにいっぱい水を汲む。'watanu ～kanun. 腹いっぱい食べる。

mii① (名) 巳。十二支の第六位。方角なら東南やや南寄り、時刻なら午前10時ころ。

mii① (名) [文] 姪。

mii- (接頭) 新しい意を表わす接頭辞。mii-zin (新しい着物), miizun (新しい銭), miijaa (新しい家), miizoo (新しい門) など。

mii- (接頭) 牝。めすの。miiyusi (牝牛),

miifaasjun

miigaara (雌瓦) など。

miiʔaa=sju^Nⓐ (他 =saN, =ci) 見比べる。
比較対照する。

miiʔati=ju^Nⓐ (他 =raN, =ti) 見つける。
見つけ出す。nanean tasikani miiʔa-
titan. 今はたしかに見つけた。

miibaⓐ (名) 見かけ。みば。外見。~too
naameeme. 見かけとは反対だ。

miibaaraaⓐ (名) 目のあらい竹かご。目か
ご。鶏を飼う場合などに用いる。~qsi
tui ʔusujun. 目かごを鶏にかぶせる。

miibaiⓐ (名) 魚名。目張(めばる)。飛び
出た大きな目をしている。miibaju と
もいう。ʔakamiibai, kurumiibai の両種
がある。

miibajuⓐ (名) miibai と同じ。

miibaqpeeⓐ (名) 見間違い。見誤り。

miibukuruuⓐ (名) 目のはれぼったいこ
と。(泣いたあとなどで)まぶたがはれる
こと。また、そのような目をした人。

miiburiⓐ (名) ほれぼれと見ること。見と
れること。

miibusihuqkwaⓐ (名) miibukuruu と
同じ。

miicaasiri^{ca}ⓐ (名) 知り合い。日ごろ知
り合っている間柄。~nu mun. 知り合い
の者。

miicakuN^N neeNⓐ (句) みっともない。
見苦しい。

miiçiⓐ (名) みっつ。三。また、三歳。
ʔikuçiN ~N. いくつも。たくさん。

miici=juNⓐ (他 =raN, =qci) 見切る。見
限る。見捨てる。miicirarijun. 見捨て
られる。

miiçiki=juNⓐ (他 =raN, =ti) 見つける。
見いだす。miiʔatijun ともいう。

miiçiki=ju^Nⓐ (他 =raN, =ti) 見つめる。

miiciraaⓐ (名) まぶたに傷あとのある者。
南国特有のもので、暑さのためまぶたには
れ物ができ、その傷あとのために、まぶた

が切れ、眠っている時も薄目をあいている
ように見える。miicirii ともいう。

miiciriiⓐ (名) miiciraa と同じ。

miiçitiçiⓐ (名) 三分の一。

miiçiwaiⓐ (名) 三つ割り。三分。micaai,
miciwai ともいう。

miiciwami=ju^Nⓐ (他 =raN, =ti) 見きわ
める。

miiçuuⓐ (名) 三つ子。三生児。三歳の子
の意では miçingwa という。

miida=cuNⓐ (自 =tan, =qci) 目立つ。

miidaiiⓐ (名) 目じり, あるいはまぶたが
垂れ下がった者。下がり目。miidajaa と
もいう。

miidajaaⓐ (名) miidaii と同じ。

miidarusaNⓐ (形) 目がだるい。目が疲れ
てだるい。

miiduiⓐ (名) めんどり。~nu ʔutaree
ʔjaku. めんどりが時を告げたら厄がある。

miidukuruⓐ (名) 見どころ。見る価値の
あるよいところ。

miidusiⓐ (名) 新年。

miiduusaNⓐ (形) 久しく会わない。久し
ぶりである。miiduusa. お久しぶり。
しばらく。久しく会わなかった目下への
あいさつ。目上へは ʔugançuusa と
いう。

miigaaⓐ (名) まぶた。目の皮の意。~
hwiçkunun. (疲労して)まぶたがひっこ
む。~ʔukurijun. (元気が回復して)ま
ぶたが盛りあがる。

miigaaⓐ (名) 植物名。みょうが。

miigaaraⓐ (名) 雌瓦。ʔuugaara (雄瓦)
の下に置く, 平らな瓦。沖縄の瓦屋根は,
暴風を防ぐために, 雌雄二種の瓦を組み合
わせてしっくい固めて葺く。

miigamarasjanⓐ (形) 見るにたえない。
見たくないような。見るのがいやな。

miigasimasjanⓐ (形) ⊖見るにたえない。
見たくないような。どうかと思うような。

◎目をわずらっている。眼病である。nuu miigasimasja miʃeebiiNnaa. 何か目でもお悪いのですか。

miiguci① (名) (商売の) ぐちあげ。

miiguhwaa① (名) よいっぱり。夜遅くまで目をさまして寝ない者 (子供)。

miiguhwai① (名) 夜眠れないこと。また、不眠症。

miiguhwasan① (形) ◎遅くまで起きている。よいっぱりである。◎眠くない。眠れない。多く、子供についている。

miigurisjan① (形) ◎見にくい。見ることが困難である。◎見苦しい。みっともない。醜いの意では 'janasan という。

mii'guruguru① (副) ◎ (物を捜す時などに) 目をきょろきょろさせるさま。~ sjuN. ◎ぱっちり。小児などの目のさま。

miiguruguru① (名) 目をきょろきょろさせている者。

miigurumaai① (名) 目をきょろきょろさせて見回すこと。~ sjuN.

miigusti① (名) 目薬。cannu ~. 喜屋武の目薬。小量で高価なものの代表としている。

miigwaa① (名) 小さく細い目。また、そういう目をした者。そういう人は概して小利巧だといわれる。

miihaahaa① (感) miihahaa と同じ。

miihagaa① (名) miihagii と同じ。

miihagi① (名) ただれ目。目のふちが赤くただれて痛む病気。

miihagii① (名) ただれ目にかかった者。miihagaa ともいう。

miihahaa① (副) ヒヒーン。馬の鳴き声。

miihaiʔadaasi① (名) にらみつけてどなること。miihaiʔadaasiともいう。~nu duku ʃiziti. どやしつける度が過ぎて。~ sjuN.

miihaigutu① (名) 啞然とするようなできごと。意外な、驚くべきこと。詐欺・盗難に会った場合などにいう。

miihainusudu① (名) 目の前で泥棒をはたらくこと。また、まんまと詐欺にかけること。また、そのような泥棒・詐欺漢。

miihaiʔadaasi① (名) miihaiʔadaasi と同じ。

miihana=sjuʔN①① (他 =san, =ci) 見放す。見捨てる。

miihandaa① (名) 期待はずれ。あてはずれ。~ natan. あてがはずれた。~nu kutu. 期待はずれのこと。

miihanuu① (名) miihandaa と同じ。

miihan=sjuʔN① (他 =san, =ci) 見そこなう。見る機会を失する。

miihaqpai① (名) miiciri と同じ。目がひきつっていること。

miihaqpajaa① (名) miiciraa と同じ。目のひきつった者。

miihati=juʔN① (他 =ran, =ti) 見終わる。残らず見る。

miihugaa① (名) 一厘銭。穴あき銭。miiは穴。hugaa < hugijun. 明治年間に通用していた一厘銭には四角な穴があいていた。20枚を一繩にして一貫 (ʔiqkwan) といった。

miihwa① (名) 見かけ。みば。外見。mii-ba と同じ。

miihwaahwaa① (名) 失望感・羞恥感などにおそわれて、目がはてるように感ずること。~ natoon. (失望感や羞恥感で) ぼろっとしている。~nu kutu. (失望感や羞恥感で) ぼろっとするようなこと。

miihwica=juʔN① (自 =ran, =ti) にらんで目を光らせる。にらむ。目が光る意。mii-hwicati ʔNndee. にらんでごらん。ʔari-nkai miihwicaraqtan. 彼ににらみつけられた。

miihwarasjan① (形) まぶしい。まばゆい。

miiʔindee① (名) ものもらい。目のふちにできる腫れもの。

miiʔiri

- miiʔiri**①① (名) 新入り。新参者。
miijaa① (名) 新しい家。新築した家。また、あらたに分家した家。
miijaa=ju¹N① (自 =raN, =ti) 癒着する。傷口がなおってふさがる。
miijahwaragisaN① (形) 体が弱そうである。ひよわそうに見える。mii- は身の意か。
miijaigoojaku① (名) 癒着させるための膏薬。
miijami① (名) 眼病。
miijan=zu¹N① (他 =daN, =ti) 見誤る。見そこなう。
miijaQsaN① (形) ⊖見やすい。容易に見られる。⊕見られる。見るにたえる。miija-siku natoon. (病状・暮らしなどの見るかげもなかった者が回復して) 見られるようになる。
miijoo① (名) ⊖見よう。見かた。見る方法。⊕目くばせ。目で合図すること。⊕外見。みば。体裁。
miijookuci¹joo① (名) 目つきや口の形で合図すること。~ sjun.
miijukaQeu① (名) 新参の士族。廃藩前に、平民から士族となった者。sinzan ともいう。また 16 万貫の金を出せば士族となれたので、そのような士族にもいう。またこの場合は kooijukaQeu ともいう。
miijumi① (名) 花嫁。新婦。
mii=juN① (自 =raN, =ti) 生える。生ずる。haanu ~. 歯がはえる。kusanu ~. 草がはえる。
mii=juN① (自 =raN, =ti) 見える。目にうつる。huninu ~. 舟が見える。
miikaaiiba¹a① (名) 乳歯のあとに生え代わった歯。永久歯。
miikaa=ju¹N① (自 =raN, =ti) 生え代わる。
miikagan① (名) めがね。gancoo ともいう。
miikahwakahwa① (副) 寝つきの悪しさ

ま。また、眠られないさま。目がこぼる意。

- miikaNgee**① (名) 世話。見て考えてやる意。ʔariga kutu 'juu ~ sjuN. 彼のことをよく世話する。
miikaNgee=ju¹N① (他 =raN, =ti) 世話する。miikaNgee sjun と同じ。
miikeeraa① (名) (疲れて) 目がくぼむこと。疲れた目つきをしていること。~ natoon. (疲れて) 目がくぼんでいる。
miikeesige¹esi① (副) くりかえし見るさま。ʔimiN ~. 夢を何度も何度も見て。
miikee=sju¹N① (他 =saN, =ci) 見返す。くり返して見る。
miikoogaa① (名) 疲れた時などに目がくぼむこと。miikeeraa ともいう。
miikubuu① (名) 目がくぼんでいる者。
miikuci① (名) 表情。顔つき。目と口の意。まれな語。~ 'jahwajahwatu. 表情がやさしく。
miikugee① (名) 目を動かすこと。また、目を離すこと。~N naraN. ちょっとも目が離せない。
miikuhwai① (名) ⊖(朝など) 目がさめること。目ざめ。⊕miiguhwai と同じ。
miikuhwajaa① (名) ⊖目ざまし。おめざ。朝など目をさました時に与える菓子の類。⊕*夜眠れない人。不眠症の人。
miikuni① (副) 新しく。あらたに。miikun ともいう。~ ʔukuraQtooru mici. 新しく作られた道。~ misjooooru sin-sii. 新しくいらした先生。
miiku=nuN① (他 =maN, =di) (相手の出方などを) 見すかす。
miikun① (副) miikuni と同じ。
miikuNdaa① (名) 見た目にはっきりしない物。見ても何だかわからない、形のくずれた物。字体・模様・織り目などについていう。
miikuNdaazii① (名) 何だかわからない字。

読めないようなくずれた字。

miikuraga① (名) 目まい。目がくらむこと。

miikusaa① (名) ㊦始終目やにを出している者。㊦(人の悪口として) 目くそやろう。ばかたれ。

miikusu① (名) 目くそ。目やに。

miikuunee① (名) にらめっこ。まばたきしたり、笑ったりすれば負けとなる。

miikuutii① (名) 死ぬことの小児語。目を閉じる意。

miikwaa=sjun① (他 =saN, =ci) 間に合わせる。kurisaai miikwaacookee. これで間に合わせておけ。

miimaai① (名) 見回り。見回ること。また、見回って世話すること。～ sjun.

miimaa=ju①① (他 =raN, =ti) 見回る。

miimaaraakuu① (名) 石合戦。

miimaci^mgee① (名) 見間違い。見そこない。

miimaju① (名) 目と眉。また、容貌。顔だち。～ kurugurutu curaniisee 'jaibiiN. 眉目秀麗な青年でございます。

miimaN=zu① (他 =daN, =ti) 見守る。大事に見守る。qkwa?Nмага～。子や孫を見守る。

miimee① (名) 見舞い。不幸・病気などを見舞うこと。

miimee① (名) 新米でたい飯。また、その飯をたく祝い。農家でいう。

miimici① (名) 新道。hurumici (旧道) の対。

miimiihuugaa① (副) 穴だらけ。～ natoon. 穴だらけだ。

miimiikuuzii① (名) 隅々までほじくりあさること。重箱のすみをほじくるようなこと。また、人のあら捜しをすること。～ sjun. すみをほじる。また、あら捜しをする。～nu cuusan. あら捜しがひどい。

miimiteedee① (副) くまなく。すみずみ

まで。

miimunaa① (名) miimun (雌) と同じ。

miimun① (名) 見もの。見ておもしろいもの。

miimun① (名) 雌。動物のめす。miimunaa ともいう。

miimun① (名) 新しいもの。新品。

miimusi① (名) 目の虫の意。次の句でいう。～ hoojun. (朝寝すると) 目に虫がはう。朝寝坊をあざけて言う。

miimuuku① (名) 新郎。花婿。

miinada① (名) 涙。目にたまる涙。

miinai① (名) ようすを見てみる。また、見立て。

miinaicici^lnai① (名) miinaricicinari と同じ。

miina=jun① (自 =raN, =ti) 見立てる。ようすを見る。見てきめる。duukuru miinati kooree. 自分で見立てて貰え。basju miinatikara sjun. その場の空気を見てからする。

miinara=ju① (他 =aN, =ti) 見習う。見て覚える。

miinaricici^lnari① (名) 見たり聞いたりすること。見聞き。見聞。miinaicicinai ともいう。～ sjun. 見聞する。～nu hwi-rusan. 見聞が広い。

miinari=ju① (他 =raN, =ti) 見なれる。

miina=sjun① (他 =saN, =ci) [文] 見なす。

miinici① (名) 命日。普通は ?umiinici といい。月を同じくする年一回の命日は sjo-o?umiinici という。

miinisi① (名) 秋ごろに吹き始める北風。

mii<miisan. nisi は北・北風。

miinuçibi① (名) 目じり。まなじり。～ qsin 'Nndan. (軽蔑して) 見むきもしない。眼中におかない。

miinucihana^lnuci① (副) ㊦子供が悪ふざけをするさま。目を突いたり鼻を突いたり意。㊦人のあら捜しをするさま。また、

意地悪なことを言うさま。～ sjuN.

miinugaara=sju¹Nⓐ (他 =saN, =ci) 見のがしてやる。見ないふりをして許してやる。

miinuhuciⓐ (名) 目のふち。まぶち。

miinukuciⓐ (名) 目がしら。miinuçibi の反対側。

miinumeeⓐ (名) 目の前。目先。眼前。～ nu kutu. さし迫った事。

miinusiNⓐ (名) ひとみ。瞳孔。

miinuuuⓐ (名) 目の緒の意。文語は minuu. 次の句で用いる。～ ni sagajun. まぶたに浮かんで離れない。目の前にちらついて離れない。

mii¹NmasimuNⓐ (名) 骨借しみする者。なまけ者。

mii¹Nmuⓐ (名) 収穫後、自然に生えたさつまいも。mii-<miijun (生える)。

mii¹Nmukuzijaaⓐ (名) 人の畑の mii-¹Nmu を掘りあさる貧困な者。

mii¹Nza=sju¹Nⓐ (他 =saN, =ci) 見つけ出す。見いだす。

mii¹Nzi=ju¹Nⓐ (自 =raN, =ti) 生え出る。

miinⓐ (名) 織機の筵(おさ)の種類の名。十六よみ。経糸1280本を通すもの。また、それで織った布。huduci の項参照。

miiNnaⓐ (名) 雌綱。綱引きの時の一方の綱。'uunna (雄綱) に対する。çinahwici の項参照。

miiNna'baiⓐ (名) むなしく目をあけていること。ぼんやりと見ていること。ポカンとしていること。また、嘔然としていること。～ sjoon. ポカンとしている。嘔然としている。

miiçeuⓐ (名) 梅毒にかかったことのない人。mii-<miisan. huruçeu の対。

miiçkwaⓐ (名) 姪。

miirankaⓐ **miiranka**ⓐ (句) 遠方にあっかすかに見えるものさま。～ sjoon. かすかに見えている。

miiriganⓐ (名) ¹irigan (かもじ・入れが

み)の敬語。miçiin ともいう。

miisageeⓐ **neeraN**ⓐ (句) ひっきりなしに。絶え間なく。～ çcunu tuujun. ひっきりなしに人が通る。～ sjuumaNboosjuunu ¹aminu huiçizicunnee ¹jun-taku sjun. ひっきりなしにつゆの雨が降り続くようにおしゃべりを続ける。

miisagi=ju¹Nⓐ (他 =raN, =ti) 見下げる。輕蔑する。

miisanⓐ (形) 新しい。tatanoo miiku, tuzee huruku. 畳は新しく、妻は古く。cinoo miiku miiku, nucee cuuku. 着物はいつも新しく、命は強く。子に新しい着物を着せる時にいうことば。

miisicihana¹çiciⓐ (名) 病氣。かぜなど。hanasici は鼻かぜ。miisici の mii-は、鼻に対して目といったまでのもの。duucimunoo ~nu basju sjuçkwee sjun. ひとり者は病気の時に困る。

miisi=ju¹Nⓐ (他 =raN, =çci) 見知る。知り合いになる。顔見知りになる。miisiraran. 会ってもわからない。(成長した場合などに) 見違えるようによろすが変わる。¹ja-aja miisiraran natoosa. おまえは見違えるようになったよ。miisiran. 見知らぬ。

miisima=sju¹Nⓐ (他 =saN, =ci) (大したものではないこと)を見破る。見抜く。

miisiriçiriⓐ (副) (起床直後などに) 目をこするさま。～ sjun.

miisiti=ju¹Nⓐ (他 =raN, =ti) 見捨てる。miisitirarijun. 見捨てられる。

miisjuⓐ (名) 名所。また、名産地。

miitooNⓐ **neen**ⓐ (句) みっともない。見苦しい。miicakun neen と同じ。～ kutoo san mun dee. みっともないことはしないことだよ。

miituⓐ (名) 夫婦。めおと。

miitudukiⓐ (名) 見とどけること。確認。

miituduki=ju¹Nⓐ (他 =raN, =ti) 見届け。たしかに認める。終わりまでよく見

る。
miitunDa① (名) 夫婦。主として平民が使う語。-da は複数 の意か。
miitunDagwaasee① (名) おとうさんおかあさんの役になってするままと。
miitunDa?icee① (名) 夫婦関係。夫婦の性的な関係。
miitunDamuugetai① (名) 夫婦だけの話。夫婦の寝物語。
miitunDa?o'oee① (名) 夫婦げんか。miitunDa?oeeja ?inNun kwaan. 夫婦げんかは犬も食わぬ。
miitunDaziri① (名) 夫婦連れ。
miitunsi① (名) 見とおし。洞察。
miituzi① (名) 新しい妻。にいづま。
mii?ubi① (名) 見覚え。～nu neeraN. 見覚えがない。
mii?ubi=ju`N① (他 =raN, =ti) 見覚える。見て覚える。
mii?uci① (名) ⊖まばたき。⊖目くばせ。
mii?ukui① (名) 見送り。～ sjuN. 見送る。～ sjuru qeu. 見送り人。
mii?uru=sju`N①① (他 =saN, =ci) 見おろす。
mii?usi① (名) 牝牛。
mii?usi`na=ju`N① (他 =aN, =ti) 見失う。
mii?utui① (名) 死ぬこと。また、臨終。定められた命が落ちる意。～ sjuN. 命を終える。「死ぬ」の上品な表現。
mii?utusi① (名) 見落とし。
mii?utu=sju`N①① (他 =saN, =ci) 見落とす。
mii?uzi① (名) 見ただけでおじけづくこと。
miiwaka=sju`N① (他 =saN, =ci) 見分ける。弁別する。?uja ～。(幼児が)親を見分ける。
miiwaki① (名) 見分けること。見分け。区別。miwaki ともいう。?iikutu ?janakutunu ～N neeraN. 善悪の区別もつかない。

miiwaki=ju`N① (他 =raN, =ti) 見分ける。見て区別する。
miiwaku① (名) 不面目。不名誉。恥さらし。
miiwaree① (名) ほほえみ。微笑。～ sjuN.
miiwazaNkuci`wazaN① (名) 顔をしかめること。疲労した時・痛い時・酸っぱい物を食べた時などに、目をすぼめ口をゆがめること。-wazaN < `wazaNuN.
miiwiiQ`kwa① (名) 甥姪。
mii?iguuzi① (副) ぶつぶつ不平やこごとをいうさま。～ sjuN. ぶつぶつ言う。
mii?iinziiN① (名) (頭などを強打して)目から火が出ること。また、その火。ziiN-ziiN. はほたるの小児語。～ tubuN. 目から火が出る。
mii?iN① (名) 新しい着物。
mii?iru① (名) 雌弦。三味線 (saNsIn) の三の糸。最も細く、最も音の高い糸。'uu-ziru (一の糸), naka?iru (二の糸) に対する。
mii?itanasaN① (形) 薄ぎたない。
mii?ookii① (名) み(箕)。米麦など穀類をふるって、殻や塵をよりわけする道具。竹を編んで作り、円形で、浅く広い。
mii?uurukunici① (名) 正月16日に営む法事。正月16日は一般に墓参の日であるが、前年に死んだ者のある家では特に法事を営む。その法事をいう。
mija① (名) 宮。神をまつた建物。?iisi-nu ～ (末吉の宮), ?asatunu ～ (安里の宮) などがある。
mijaku① (名) 都。国王のいる地。また、都市。
mijama① (名) [文] 深山。奥山。
mijarabi① (名) 娘。おとめ。「めわらべ」に対応する。農村の未婚の娘をいう。
mijati① (名) 目あて。目標。
miju① (名) [文] 御世。
mikaki① (名) [文] 見掛け。外見。～too

- 'uuziraN. 外見とは合わない。見掛け倒し, あるいは見掛け以上。
- mikamisasi**① (名) 男のするかんざし (kamisasi) の敬語。御かんざし。
- mikaN**② (名) 蜜柑。
- mikaNšii**② (名) 蜜柑水。明治時代にあった飲み物の名。
- mikarahwisja**① (名) はだしの敬語。御素足。
- mika**=**sjun** (接尾 =**saN**, =**ci**) 擬声語・擬態語につき, …という, …という音を立てるの意を表わす。**dusamikasjun** (どしんという音を立てる), 'jutamikasjun (ゆらゆらさせる), hijamikasjun (えいと言ふ) など。
- mikata**① (名) 味方。
- mikazi**① (名) [文] [美影] 御姿。
- mikazici**① (名) 三日月。
- nikiimajaa**① (名) 三毛猫。
- mikuci**① (名) お口。kuci (口) の敬語。
~ **saNsikwaN**, **ʔunzu biiru**. 口は三司官のように達者だが, 体はみるのようによくにやぐにやでたよりにならない。
- mikumi**② (名) 見込み。
- mikumui**① (名) 銭 300 文。6 厘に当たる。
zin の項参照。
- miku**=**nuN**② (他 =**maN**, =**di**) 見込む。あてにする。望みありと見る。予定する。
- mikusi**① (名) [文] 御腰。kusi の敬語。
~ 'uganuN. あんましてさしあげる。
- mikusidaci**① (名) [文] 主君を助けて後楯となること。**ʔinuci hurišititi** ~ **širiju**. [命ふり捨てて 御腰立すれよ (忠臣身替)] 命を捨てて主の後楯となれ。
- mikusigana**① (名) 腰をもむこと (kusitacaci) の敬語。あんますることの敬語。貴族をあんまする場合には, さらに丁寧に, **misiigana** という。
- mimee**② (名) miimee (見舞い) と同じ。
- mimi**② (名) 耳。~ **hwiramijun**. 耳を傾ける。熱心に聞く。耳をすます。また, (動物が) 耳を立てる。
- mimigaa**② (名) 耳の皮の意。耳たぶ。豚肉料理でいう。
- mimigaasasimi**② (名) 料理名。豚の耳の酢のもの。焼いて毛を取り去った豚の耳を煮て, 薄く切り, 野菜をまぜて酢であえたもの。
- mimigani**② (名) 理解力。かしこい頭。聡明さ。~**nu ʔaN**. 理解力がある。かしこい。
- mimigasimasjan**② (形) やかましい。うるさい。
- mimigui**② (名) きくらげ。きのこの一種。木にはえ, 形が人の耳に似ている。干したものを食用にする。
- mimikusu**② (名) 耳くそ。耳あか。
- mimikuzijaa**② (名) 耳かき。
- mimikuziraa**② (名) **miNkuziraa** と同じ。
- miminuhuutai**② (名) **miminutai** と同じ。
- miminuhwaa**② (名) 耳たぶ。外耳全体をいう。~**nin ʔiriraN**. 聞こうともしない。~**madiN 'warajuN**. 耳まで笑う。非常に喜んで笑うさまをいう。
- miminutai**② (名) 耳たぶ。耳の下部の垂れ下がった部分。**miminuhuutai** とみいう。
- mimizi**② (名) みみず。
- mimi**=**zuN**② (他 =**gaN**, =**zi**) ⊖(身体を, また野菜などを) もむ。⊖いじめる。とちめる。**mimigarijun doo**. いじめられるぞ。
- mimuci**② (名) 身持ち。体の保ちかた。また, 品行。その敬語は **ʔunzumuci**。~ **teesicini Qsi 'joo**. 体を大切にしろよ。お大事に。
- mimunuʔuzoo**② (名) 首里城の門の名。**ʔugušiku** の項参照。
- miutu**② (名) [文] 目もと。目のあたり。**nasigwa miʔukuini kurimadiju cašiga**, **ʔawari ʔirinasaja ʔatukazin mi-**

ran, ~ kuraguratu naruga sinci. [なし見送りに これまでよ来やすが あわれつれなさや あと影も見らぬ 目もとくらぐらと なるが心気 (忠臣身替)] 子の見送りにここまでは来たが、ああ、つれないことに後姿も見えない。目の前が暗くなる心持ちである。

minadaⓄ (名) miinada と同じ。

minankaⓄ (名) 三七日。死後 21 日目の法事。

minareeⓄ (名) 見習い。業務などを実際に ついて練習すること。

miniisjaⓄ (名) ひもじさの敬語。御空腹。貴族の家庭で使われる語。~ ?waamišeebiira 'jaa. 御空腹でいらっしやいませうねえ。

minudaruⓄ (名) 料理名。豚肉にいかの墨と黒ごまとをつけ、醤油味にして蒸したものの。

minugamiⓄ (名) 紙の一種。美濃紙。

minumeeⓄ (名) miinumee と同じ。

minuuⓄ (名) [文] miinuuu の文語。目の緒の意。

minu?wiiⓄⓄ (名) [文] ⊖身の上。境遇。⊖わが身。自分の身の上。?icin 'jušigutuja ~nu takara. [意見寄言や 身の上の宝] 意見や忠告はわが身にとっての宝。

minbukuⓄ (名) 面目。minmuku ともいう。~nu neeran. 面目ない。~nu tatan. 面目が立たない。~nu toorijun (面目が倒れる)ともいう。

minbutukiiⓄ (名) 植物名。いぬびえ。飢饉の時に食用となる雑草。

mincabaaⓄ (名) 耳の卑語。ののしっている時に使う。

mincamunuⓄ (名) 目に入ったごみ。mincamunaa mincamunaa kiranu kusinkai ?iki 'joo. 目に入ったごみよ、目に入ったごみよ、慶良間島のむこうに飛んで行け。目に入ったごみをふっと吹いて取

る時となえるまじない。tanabaruja-manu ~. tanabarujama (棚原山) は西原村にあり、その村の娘たちが松の枯葉を集めに行くところ。そこへ首里の青年たちが遊びに行き、目に入ったごみを取ってくれと称して娘に近付く。娘が男の目に口を近付けた時、男は接吻を盗む。その遊びをいう。そこでは、一人の娘が他の娘の所に近づこうとする時には、?nmaa maacijabaa ?ami. (そこには松葉はあるか) と声をかけ、kumaa neen. (ここにはない) と返事があれば、察して近づかないというような、不文律ができていたという。

mincasaⓄ (形) やかましい。うるさい。<mimi + ?icasan.

mindasimuⓄ (名) 珍しい物。

mindasjanⓄ (形) 珍しい。mizirasjan ともいう。

mindooⓄ (名) 面倒。厄介。~na kutu. 面倒な事。~'jan. 面倒だ。

mingwa=sjunⓄ (他 =san, =ci) 濁らす。濁らせる。

mingwa=sjunⓄ (他 =san, =ci) ⊖回す。めぐらす。migurasjun ともいう。kuuruu ~. こまを回す。⊖惑わす。

mingwiⓄ (名) 濁り。濁ること。濁っていること。~nu ?an. 濁っている。

mingwi=junⓄ (自 =ran, =ti) (水などが) 濁る。

mingwi=junⓄ (自 =ran, =ti) ⊖回る。めぐる。migujun ともいう。⊖惑う。

minkaaⓄ (名) つんぼ。次項の卑称。

minkuuⓄ (名) つんぼ。次項参照。

minkuziraaⓄ (名) つんぼ。また、耳の遠い者。minkaa, minkuu, mimikuziraa, minkuzirimun ともいう。

minkuzirimunugataiⓄ (名) 耳の遠い者との話。また、そのようなとんちんかんで互に通じない話。

minkuzirimunⓄ (名) minkuziraa と同

じ。

miNkwaauu① (名) ㊦ひどくよごれたりに
じんだりして、もとの形がわからないも
の。そのような字体など。㊦顔がすっきり
よごれること。また、ひどくよごれた顔。
～ sjUN. (子供をこわがらせる時などに)
指で目や口を引っ張って、恐ろしい顔つき
をする。

miNmuku① (名) miNbuku と同じ。

miNna① (名) 植物名。るりはこべ。瑠璃
色の小さい花が咲く。家畜の飼料となる。

miNna① (名) ㊦水納島。沖縄本島本部半
島西方にある小島。㊦水納島。宮古群島の
島の名。

miNnii① (名) 壬(みずのえ)。十干の一つ。

miNnukuu① (名) 水の子。水の実。祭祀
の際、なまのまま小さく四角に切って施餼
鬼用として供える野菜。

miNnutu① (名) みずのと(癸)。十干の一
つ。

miNsaa① (名) ㊦布の名。緯糸を合わせて
太くして織ったもので、帯用。㊦それで
作った帯。miNsaaYuubi と同じ。nasaki
kwirubikei tisazi kwiti nu sjuga,
gamaku kunsimiru miNsa kwirana.
[情呉ゆるびけい 手巾呉てのしゆが 腰
くんしめる みんな呉らな(かなよ節)]
贈り物をするぐらいなら、手ぬぐいぐらい
やって何になるか、腰をぎゅっとしめるメ
ンサ帯をやりたい。

miNsaaYuubi① (名) miNsaa の帯。いな
かの女が用いるもの。

miNsi① (名) 真綿。屑繭を引き伸ばした絹
綿。

miNtama① (名) 目玉。目の玉。眼球。

miNtana① (名) 流し。台所の流し台。水
棚の意。

miNtanasiiri① (名) 台所の流しの先に設け
る水だめ。

miNtariʔanzasa① (名) 顔を深くおおう編

み笠。深編み笠。

miNtarii① (名) miNtariʔanzasa と同じ。

miNzai① (名) 耳だれ。耳の穴から流れ出
るりみ。また、その病気。

miNzaigusa① (名) 植物名。雪の下。井戸
ばたなどの湿地に生える草。葉をもんで油
とまぜたものを耳だれの薬にする。

miNzici① (名) [面付] 名義。taaminzici
natooga. だれの名義になっているか。

miNzici① (名) [面付] 顔付き。顔色。相
手・状況によって変わる顔付きをいう。

miNzicigee① (名) 名義変更。

miNzoo① (名) [面状] 顔付き。面相。～nu
'waqsan. 顔付きが悪い。

miQca①① (名) 三日。みっか。一日の三
倍。月の第三日は多く saNnici という。

miQcai① (名) 三人。～ suriree sikiN. 三
人そろえば世間となる。

miQcakaan① (名・副) いっぱい。満ちて
いるさま。kaaminu ~ mizi kunun. か
めにいっぱい水を汲む。～ sjoon. いっ
ぱいに満ちている。

miQcaka=ju⁷N① (自 =raN, =ti) 満ちる。
いっぱいになる。

miQcanusiku① (名) 正月3日の祝い。そ
の日、国王は円覚寺・天王寺・天界寺の三
寺に参詣し、一般家庭では sikamuduci
(料理名。その項参照) などのごちそうを
作って祝った。

miQcanuʔuiwee① (名) miQcanuʔujuwee
と同じ。

miQcanuʔujuwee① (名) 旅に出た人の家
で、出帆後三日目に行なり祝い。帆船時代
に 'jamatu に行く船が三日目あたりに七
島灘の難所にかかるので、その無事を祈る
ために祝ったものであろう。

miQciʔamajaa① (名) 才走った者。小利口
者。

miQka① (名) 三日。みっか。

miQkuu① (名) めくらの人。盲人。miq-

kwaá ともいう。
miQkwaⓐ (名) 盲。盲目。～nu hwiibun ʔuziraN. 盲蛇に怖じず。
miQkwaáⓐ (名) miQkuu と同じ。
miQkwaatoruuⓐ (名) 遊戯の名。めぐらおに。鬼が目隠しをしてする鬼ごっこ。
miQkwasamuNⓐ (名) 憎い者。憎まれ者。憎らしい者。
miQkwasaNⓐ (形) 憎い。憎らしい。
miQtaⓐ (名) めった。むちゃ。～na kutu.* めったなこと。むちゃなこと。～ni. むやみに。やたらに。～ni qcu nurajuN. やたらに人を叱る。
mirujukuⓐ (名) でき心。見ると起こる欲。
mirukuⓐ (名) 弥勒(みろく)。弥勒菩薩。首里の赤田に首里殿内があり、そこに祀っている。旧暦8月16日に弥勒会が行なわれる。ʔakata sjuNcunuci kuganiúuruu sagiti ʔuriga ʔakagariba ~ ʔunke. [赤田首里殿内 黄金燈籠下げて おれが明かがれば 弥勒御迎 赤田の首里殿内にこがねの燈籠を下げて、それに火がともったら、弥勒をお迎えしよう。～nu ʔwartaNnee. 弥勒が笑ったように。にっこりと笑ったさま。
mirukujagahuuⓐ (名) [弥勒世果報] mirukujuu と同じ。
mirukujuuⓐ (名) [弥勒世] 豊年。mirukujuja minume hwicijušiti ʔušiga hutakacanu nunuja ʔutami ʔwarabi. [弥勒世や目の前 ひきよせて居すが ふたからやの布や 織ためわらべ] 豊年は目の前に近づいているが、hutakaca (その項参照)の布は織ったか、子供よ。
mirukuNgwaⓐ (名) 弥勒会 (mirukuʔunkee) の時、弥勒のお供をする子供たち。美しく装束して行列をにぎやかにする。
mirukuʔunkeeⓐ (名) 弥勒会。旧暦8月16日に、首里赤田の首里殿内で行なわれる。

mirumiruⓐ (副) 見ていながら。見す見す。～ hwiNgacaN. 見す見す逃がした。
misaciⓐ (名) 岬。海中に突き出た陸地。
misarceⓐ (名) ʔusaree, misareepaapaa と同じ。
misareepaa ʔpaaⓐ (名) 士族の結婚式の世界話役をつとめる平民の老女。花嫁を迎え、儀式の案内・進行など、いろいろの世話をする。
misatuⓐ (名) 見里。(地) 参照。
mišeeNⓐ (他・不規則) 〇言うの敬語。仰せられる。ʔimišeeN (おっしゃる。対等・目上に用いる) よりもさらに目上に用いる。〇するの敬語。あそばす。おやりになる。simišeeN (なさる。される。対等・目上に用いる) よりもさらに目上に用いる。〇食べるの平民年長に対する敬語。あがる。
-mišeeN (接尾・不規則) お…になる。…なさる。…される。「連用形」(または「連用形」から末尾の i を除いた形)に付き、尊敬の敬語を作る。ʔjumimišeeN (読まれる), ʔujumimišeeN (お読みになる), ʔwakasaimišeeN (お若くていらっしゃる), kacimišeejabiiN (お書きになります) など。なお、-NšeeN の項参照。
mišigamišⓐ (副) 見す見す。見ていながら。わかっていながら。～ saqtaN. 見す見すやられた。
mišigaraⓐ (名) 体ひとつ。単身。身すがら。kunu kwaduN šititi ~ni nariba, sjutu cuiga kutuja zijuni najun. [此子ども捨てて 身すがらになれば 姑一人が事や 自由になゆん (大川敵討)] この子を捨てて身ひとつになれば、しゅうとめひとりの世話はできる。
misigeⓐ (名) しゃもじ。農民が多く使う語。首里では多く ʔiizee という。
misihwaⓐ (名) 見え。外見の飾り。見せかけ。

mišiiN

mišiiN① (名) かもじの敬語。miirigaN ともいう。普通は ʔirigaN という。

misiugaN① (名) 貴族の腰をあんますること。kusitataci の貴族に対する敬語。

misi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖ 見せる。ʔuqtu ~. 次の子ができる。二番目以降の子が生まれる時にいう。弟を見せる意。⊖(…して) 見せる。ʔNzi ~. 行って見せる。ʔjudi ~. 読んで見せる。ʔNzi misiri. 行くなら行って見ろ。qei misiri. 来るなら来て見ろ。ともに、制止しても聞かない場合にいう。⊖(接尾)…しやがる。命令形で用いる。-misiri, -misiree の項参照。

mišikamunugatai① (名) [文] 男女のひそかな語らい。

mišikaqteen① (名・副) ひそかに(に)。内密。内緒。~na hanasi. ひそかな話。~du ʔjateeru. 内密であったのだ。~nu kutu. ひそかなこと。ʔariga ~ ʔici kwitan. 彼がひそかに話してくれた。

mišiku① (副) [文] 丁寧に。慎重に。よくよく。「みすく、こまく、能々密の心也(混効験集) ʔjaa nasigwa ~ ciciugami. [やあ産し子 みすく聞拜め(銘刈子)] さあ子供よ、よくよく聞け。ʔunasakinu ʔuzimu ~ tuiʔukiti cimu ʔwariti zicini ʔunnukijoori. [御情の御肝 みすく取請けて 肝割れて実におんによけやられ(大川敵討)] お情深いお心を丁寧に受け、心を開いて真実を申し上げよ。

misikuuga① (名) ⊖ 見せ卵の意。産卵しようとする鶏の巣に、あらかじめ入れておく卵。産卵を促進させる意味です。⊖ 転じて、子を生むことを望んだ夫婦が、出産を誘うために、仮にもらって来た子供。

misimuN① (名) 見世物。

misinaaku① (感) めっそりな。女の発する語。あきれた場合、あるまじいことを見

聞きした場合などに、多くは指を鳴らしながらいう。misinataaku, misinataraaku ともいう。qiru qiru ~. つる子、つる子、あきれたねえ。saqtimu saqtimu ~. なんとまあ、めっそりな。

misinataaku① (感) misinaaku と同じ。

misinataraaku① (感) misinaaku と同じ。

-misiʔree (接尾) …しやがれ。-misiri の項を見よ。

-misiʔri (接尾) …しやがれ。-misiree ともいう。ʔjumimisiree (読みやがれ。ʔjudi misiree. 一読んでみろ一とは別)、tuimisiree (取りやがれ)、ʔicimisiri (行きやがれ) など。

misita① (名) 目下。多くは tiisica という。

misiʔuki① (名) (下宿業などで) まかないをすること。

misiwāN① (名) 飯椀。御飯茶碗。

mišiziri① (名) 神の託宣。cihwiziN (きこえ大君)、ciN (君)、nuuru (のろ) などの託宣のことば。ʔukami ʔarawariti, ʔukutubanu ʔariba, ~nu ʔariba. [御神あらはれて お言葉のあれば みすずりのあれば(孝行之巻)] 神様が現われておことばがあったので、御託宣があったので。

mitamita① (副) ゆらゆら。ゆれ動くさま。hasinu ~ qsi ʔuturusjan. 橋がゆらゆら揺れてこわい。

mita=sjuN① (他 =saN, =ci) 満たす。いっぱいにする。micijun ともいう。kaami ~. かめを満たす。

mitati① (名) ⊖ 見立て。鑑定。見て決めること。~ sjun. 見立てる。⊖ 見込み。~nu ʔjutasjan. 見込みがある。

mitu① (名) 三年。みとせ。micu, saNnin ともいう。

mituduki① (名) 見とどけること。確認。

- miituduki ともいう。
- mitui**ⓐ (名) 見てとること。見定めること。見て決めこむこと。～ sjun.
- mitujutu**ⓐ (名) 三, 四年。
- mi?uubi**ⓐ (名) おみ帯。帯の敬語。
- miwaki**ⓐ (名) miwaki と同じ。
- mizi**ⓐ (名) 水。～nu kan ?iqcoon. 冬になって水が冷たくなった。水が寒に入った意。～ maajuN. (食物が) 腐って水っぽくなる。(食物が) 汗をかく。
- mizi?aree**ⓐ (名) 水洗い。
- mizibukuruu**ⓐ (名) 水ぶくれ。やけどのあとなどにできる水ぶくれ。
- mizidaki**ⓐ (名) 水の高さ。水かさ。水深。
- mizigaami**ⓐ (名) 水がめ。炊事用水・飲料水を井戸から汲んで入れておくかめ。多くは handugaami という。
- mizigani**ⓐ (名) 水銀。mizikani (鉛) とは別。
- mizigasa**ⓐ (名) 水痘。水疱瘡。
- mizigasaa**ⓐ (名) mizigasa と同じ。
- miziguruma**ⓐ (名) 水車。
- mizigusui**ⓐ (名) 水薬。
- mizihanadai**ⓐ (名) 水ばな。鼻みず。
- mizihanee**ⓐ (名) ⊖水かけ遊び。水のかかけ合い。⊖水かけ論。
- mizihanii**ⓐ (名) 水鉄砲。
- mizihwici**ⓐ (名) 水引き。仏壇の前の卓に掛ける小さな幕。
- mizi?iri**ⓐ (名) 水入れ。硯にさす水を入れておく小さい器。
- mizi?iru**ⓐ (名) 青。水色。藍のやや薄い色。?ooruu は緑色をいう。
- miziiru**ⓐ (名) mizi?iru と同じ。
- mizikaagaa**ⓐ (名) 水鏡。水に姿を映して見ること。
- mizikani**ⓐ (名) 鉛。mizigani (水銀) とは別。
- mizikazaa**ⓐ (名) 湿気によって腐ること。多雨・冠水などで、さつまいもが腐ること
- など。
- mizikazaa?Nmu**ⓐ (名) 湿気によって腐ったさつまいも。冠水いも。
- mizikubusi**ⓐ (名) 便所で女のみが使う手洗い。昔は便所で紙を使用せずに水を使用した。そのための水を入れておく器をいう。
- mizimaki**ⓐ (名) 水に負けること。他郷などで、慣れない水のために体が弱ること。
- mizimui**ⓐ (名) ⊖見つもり。目算。あらかじめする概算。⊖あて。
- mizimuisooi**ⓐ (名) 目算がはずれること。あてがはずれること。
- mizimutaan**ⓐ (名) 水遊び。
- mizinumii**ⓐ (名) 水の中。水中。?ijoo ~utin ?iici siigisan. 魚は水の中でも息をするらしい。kunu kusaa ~nakai sudacuN. この草は水中で育つ。
- miziqteen**ⓐ (副) みずみずしいさま。水のしたたるようなさま。mizitaratara ともいう。～ sjoon. みずみずしい。
- mizirasjan**ⓐ (形) 珍しい。mindasjan ともいう。
- mizisirazi**ⓐ (名) 見ず知らず。一面識もないこと。～ satume timiziti?i siran ?atinasiju demunu ?juruci tabori. [見ず知らず里前 手水てす知らぬ あてなしよだいもの ゆるちたばうれ(手水之縁)] 見ず知らずのあなた様、わたしは手水ということを知らない心の幼い娘ですからお許し下さい。～nu qcu. 見ず知らずの人。
- mizisjoo**ⓐ (名) 水性。陰陽家のいう水の性(をもった者)。
- mizita**ⓐ (名) zita (表付きの下駄) の敬語。
- mizitamai**ⓐ (名) 水たまり。雨水などのたまったところ。
- mizitaratara**ⓐ (副) miziqteen と同じ。～ sjoon. みずみずしい。
- mizi?uNcee**ⓐ (名) じゅんさい。水草の名。水面に生える。葉茎を食用とする。

miziʔutu

miziʔutu① (名) 水音。水の音。

mizuN① (名) いわし。

mjaadeera① (名) 宮平。《地》参照。naadeera ともいう。

mjaagi① (名) みやげ。naagi ともいう。

mjaaguʂiku① (名) 宮城。《地》参照。

mjaaku① (名) naaku ともいう。○宮古群島。○宮古島。宮古群島の主島。

mjaazatu① (名) 宮里。《地》参照。naazatu ともいう。

mjaku① (名) 脈。脈搏。naaku ともいう。

mjooga① (名) 名著。ほまれ。冥加の転意したもの。nooga ともいう。

mjoosi① (名) 苗字。noosi ともいう。家号と同じ苗字の場合は 'jaanNaa という。

mjuNei① (名) お顔。ʔunci (お顔) のさらに上の敬語。nuNci ともいう。naminu kwiN tumari, kazuN kwiN tumari, sjuitinZanasi ~ 'ugama。[波の声もとまれ 風の声もとまれ 首里天ぎやなし 美御機拜ま] 波の声も静まれ、風の声も静まれ、首里の国王様の御機嫌を伺おう。

mjuNeigutu① (名) 仰せ。国王のおことば。nuNceigutu ともいう。

mjuNeikee① (名) 御招待。また、御案内。貴人を招待または、案内すること。ʔunʂeikee のさらに上の敬語。

mjuNcoobi① (名) [美御美髪] 貴族の髪への敬語。おぐし。nuNcoobi ともいう。髪への普通の敬語は ʔuncoobi。

mjuNkaki=jun① (他 =raN, =ti) 御覧になる。見る ('NNZUN) の敬語で、ʔumikakijun よりさらに上の敬語。nuNkakijun ともいう。

mjuNnjuki=jun① (他 =raN, =ti) 奏上する。言上する。(国王などに) 申し上げる。ʔunNukijun のさらに上の敬語。nuNnukijun ともいう。

mjuNzu① (名) [美御胴] あなたさま。第二人称の貴族に対する敬語。njuNzu, nu-

Nzu ともいう。

mjuu① (名) 妙。変。奇妙。~na kutu。妙なこと。duqtu ~ 'jan。とても変だ。

mjuukoo① (名) njuukoo と同じ。

mjuuzaree① (名) nuuzaree と同じ。

moo① (名) 野。野原。耕地でもなく、林でもない荒れ野。harunu ~ natoon。畑が荒れ果てている。

-moo (接尾) 体のある部分が無い者。…無し。hanamoo (鼻の無い者), kiimoo (あるべきところに毛の無い者), hwizimoo (ひげ無し) など。

mooʔaasa① (名) 植物名。きのこの一種。野(moo)に生える ʔaasa (青のり)の意。かさは平たい円形で緑色、径4~5センチ。柄はきわめて小さく、地面に生える。乾かしたものを水にもどして食用にする。

mooʔaʂibii① (名) 農村で夜、若い男女が野原(moo)に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りに打ち興じ、しばしば夜を明かす。

mooCaN① (名) 頭巾。中国風の頭巾で、布製。

moodoo① (副) 心が乱れるさま。どぎまぎ。おろおろ。cimun ~ najun。おろおろする。

mooʔi'cubi① (名) 植物名。苗代苺。山野に自生し、実は熟すると深紅色となる。食用になる。

mooi① (名) 蓬頭。髪が乱れてばさばさしていること。~ kwankwan。髪をふり乱しているさま。

mooi① (名) 踊り。舞い。

mooihani① (名) 踊ったりはねたりすること。欣喜雀躍。~ sjun。

mooii① (名) 髪を結っていない幼児。

moo=jun① (自・不規則) 行かれる。来られる。行く・来るの平民の年長に対する敬語。hei niʂetaa, namadu mooCaN naa. cuu 'junagata ʔaʂibi dikirasa 'jaa. [へい二歳た 今どまうちやんな 今日夜な

- がた 遊び出来らさや] やあ青年たち、
今来られたか。今晚は一晚中うまく遊べ
るぞ。
- moo=juN**① (自 =raN, =ti) ①踊る。舞う。
即興的に踊る場合を多くいう。正式な舞踊
の場合には、'udujuN を多く使う。③喜
んで踊りあがる。
- mookaa**① (名) ①体のある一部分が無いこ
と。mookuu の卑語。hananu ~ natoon.
鼻がもげて無い。③(接尾)体のある一
部分が無い者の卑称。…無し。tiimoo-
kaa (手の無い者) など。
- mookahuu**① (名) 真岡 (もうか)。真岡木
綿。浴衣などにする木綿の布地。
- mooki**① (名) 儲け。商売の利益。また、
働いて得る賃金。
- mooki=juN**① (他 =raN, =ti) ①儲ける。
商売で利益をあげる。mookirazijaka
ʔaganeeri. 儲けるよりも儉約せよ(こと
わざ。mookirazijaka は形は否定だが、
意味は肯定。mookijuşijaka ともいえ
る)。③働いて賃金を得る。mookihanşee
kamihansjuN. 賃金をもらいそこなえば
喰いはぐれる。
- mookitikanaa**① (名) その日暮らしの労働
者。労働してその日の食を得る者の意。
- mookizuku**① (名) 儲けることのみに偏す
ること。儲け一本槍。
- mookuu**① (名) ①体のある一部分が無い
こと。hananu ~ natoon. 鼻がもげて無
い。hwizinu ~ ʔan. ひげ無しだ。③(接
尾)…無し。体のある一部が無い者の意。
-muqkoo, -mookaa, -moo ともいう。
tiimookuu (手の無い者), zuumookuu
(尾なし) など。
- moomoo**① (名) 牛の小児語。もうもう。
- moomoogwaa**① (名) 子安貝。寶貝。漁村
で網のおもりに使う。
- mooşiʔNzi=juN**① (他 =raN, =ti) 申し出
る。
- moosjagi**① (名) 告げ口。密告。また、陰
口。
- mootui**① (名) つぐみ。
- mooʔui**① (名) 植物名。しろうり。きゅう
りに似たうりで、食用となる。
- mooʔuʔi**① (名) 自生の瓜。
- moozi**① (名) 孟子。
- mu-**(接頭) 六。muhwani(六羽)、mukeen
(六回) など。
- mubaa**① (名) [無場] あいにくなこと。~
nu ʔami ʔaqsaa ʔjaa. あいにくの雨だ
ねえ。~ ʔjati kuuraran. あいにく来ら
れない。
- mucaga=juN**① (自 =raN, =ti) 持ち上が
る。高く盛り上がる。高まる。
- mucagi=juN**① (他 =raN, =ti) 持ち上げる。
もたげる。高く上げる。çiburu ~. 頭を
もたげる。
- mucamuca**① (副) ねばねば。粘りつくさ
ま。~ sjun.
- muci**① (名) ①餅。主として法要、祭祀に
用いる。普通は米の粉で作られる。mu-
cii は別。~ çukujuN. 餅を作る。③し
っくい。防風用として屋根瓦の接合に多く
用いられる。③鳥もち。ʔjanmuci ともい
う。
- muçi**① (名) 財産。資産。~ kwirazijaka
sjoo kwiri. (子に) 財産を与えるより、
立派な性質を与えよ。子孫のために美田を
買わず。
- muçi**① (名) 時刻の六つ。朝晩の6時。
- muciʔasaban**① (名) 弁当持ち。昼飯持参。
- mucibanmee**① (名) 弁当。また、弁当・食
糧を持って行くこと。手弁当。弁当持参。
~ sjun. 弁当(食糧)を持って行く。
- muciçicaa**① (名) しっくい作りをする者。
- muciçicaaʔuʔa**① (名) しっくい作りの時
に歌う歌。hananuu という労働歌を多
く歌う。歌詞は、hanaanu kazimajaja
kazi çiriti miguru, ʔwanja dusi çiriti

muciçici

ʔašibu, ciNtuntentun maNcintEn.
(花の風車は風につれて回る。われは友をつれて遊ぶ。以下はやし)

muciçici⑩ (名) しっくいを作ること。石灰にわらくず・粘土などを入れ、ふのりの液汁をまぜ、練り合わせて作る。女が気長に歌などを歌いながら作ることが多い。

muciciri⑩ (名) 持ったきり。持ち通し。ひとり占め。

mucicirija`a⑩ (名) 独立家屋。一軒の家。

mucicirisi`gutu⑩ (名) ひとりでする仕事。独占してする仕事。

mucidee⑩ (名) 持ちこたえる力。持久力。tee はたえる力。

muciee⑩ (名) 持病。

mucigumi① (名) 餅米。

mucihanDi=ju`N⑩ (他 =raN, =ti) (身を) 持ち崩す。墮落する。handijun は外れる。duu ~。身を持ち崩す。

mucii① (名) [無系] 系図のないこと。平民で系図がなく、身分の低いこと。また、その者。平民はほとんどが無系であるが、功勞によってあらたに系譜を与えられることがあった。たとえば、音楽家の cinin miilhagii は平民で無系であったが、音楽の功勞により歌氏を与えられた。

mucijuku① (名) 物欲。金錢・財産への欲望。ʔirujuku (色欲), muNnujuku (食物への欲) と合わせて sanjuku (三欲) という。

muçikasjan① (形) ⊖むずかしい。困難である。やりにくい。⊕(病人が)危い。⊕機嫌をとりにくい。気むずかしい。⊕非凡である。偉い。muçikasii qcu. 非凡な人。すぐれた人。

mucikeekami`kee⑩ (副) 持ちかえたり、頭にのせかえたりするさま。ああ持ったりこり持ったり。kami-<kamijun. また、あっちへやったり、こっちへやったり。ああやったり、こりやったり。

mucikwaa=rijuN⑩ (-riran, =qti) mucikwajun の受身。

mucikwa=juN⑩ (他 =aN, =ti) ⊖(馬・荷・才能などが人を)引き回す。ʔNmanu qcu ~。馬が人を引き回す。şeeni mucikwaa-qti. 才能に引き回されて。⊕熱中させる。傾倒させる。夢中にする。多く、受身の形で用いる。mucikwaaqti munun kamaN. 熱中して飯も食わない。

mucimee⑩ (名) ⊖自分の持っている分。持ち分。負担分。持つ義務のあるもの。⊕自分が祀るべき祖先。

mucinasi⑩ (名) ⊖持ちかた。手入れ。cin-nu ~。着物の手入れ。kugani saci`utin nanza saci`utin cimunu ~du kazai sarami. [黄金さちをても 白銀さちをても 肝の持なしど かざりさらめ] 金のかんざしをさしていようと、銀のかんざしをさしていようと、心の持ちかたこそ飾りになるものだ。⊕世話。tusjuinu ~。年寄りの世話。

mucinii⑩ (名) 手に持てる程度の荷物。手にさげる荷。手荷物。kaminii より軽い。

mucinoo=ju`N⑩ (自 =raN, =ti) (病状などが) 回復に向かう。持ち直す。'janme-enu ~。病気が持ち直す。

mucinoo=sju`N⑩ (他 =saN, =ci) 持ち直す。(病状などを) 回復に向かわせる。'janmee ~。病気を持ち直す。

mucinuizeeku① (名) 左官。

mucinujaa⑩ (名) 左官。mucizeeku とともいう。-nujaa は塗る者。

mucin① (名) 無賃。乗物などで料金を払わないこと。

mucin=cuN⑩ (他 =kaN, =ci) 持ち込む。

muciqkwa⑩ (名) 持ち過ぎ。負担過重。

muçiri① (名) 男女が互いに離れられない仲になること。

muçiri=juN① (自 =raN, =ti) ⊖ (男女が)

仲よくなって、離れられなくなる。「睦る」と関係ある語。睦まじくなりすぎる。
 ◎* [文] (糸などが) もつれる。口語では 'NzarijuN という。
mucisaN① (形) 粘っこい。粘り気がある。ねばねばしている。kunu 'jaNmucee mucikoo neeraN. この鳥もちは粘りがない。
mucitukaasja① (名) 男女の仲のよい密な関係。餅とそれを包む葉のように離れない関係。
mucizeeku① (名) 左官。muci はしっこい。mucinuja, mucinuizeeku ともいう。
mu=cuN① (他 =taN, =qci) ①持つ。手に持つ。また、所有する。維持する。受け持つ。②とつぐ。(女が) 結婚する。また、子供ができる。'utu ~. (女が) 結婚する。とつぐ。Qkwa ~. 子供ができる。妊娠する。また、出産する。maada mutani. イ。まだ嫁に行かないのか。ロ。まだ子供ができないのか。③(自)もつ。持続する。
mu=cuN① (自 =taN, =qci) むくむ。はれてふくれあがる。mukunun とやや異なり、全体がふくれてはれあがる場合をいう。girankai muqcooN. 顔がむくんで、はれあがっている。hwisjankai muqcooN. 足がむくんで、はれあがっている。
mudi① (名) 三味線(sansin)のねじ。karakui, ziihwaa ともいう。
mudi?aja① (名) 白糸と黒糸とをより合わせて織った模様。mudi-< mudijun.
mudiciNki=ju`N① (他 =raN, =ti) ひねったり、つねったりする。ciNkijuN はつねる意。
mudi=juN① (=raN, =ti) ①(他)よじる。指先などでねじる。ひねる。②(自)ねじれる。よじれる。また、(人間が)ひねかれる。すねる。
mudikeera=sju`N① (他 =saN, =ci) ひねり倒す。ねじり倒す。
mudiku=juN① (自 =raN, =ti) もつれる。

(糸・藤の枝などが) もつれあう。
mudimuci① (名) 祭祀用の餅の名。細長い餅にきなこをつけたもの。ひねりもちの意だが、別にひねってはない。あずきをまぶした hucagi という餅と形が似ている。
muditoo=sju`N① (他 =saN, =ci) ひねり倒す。ねじふせる。
mudu=cuN① (他 =kaN, =ci) さからう。そむく。反抗し非難する。「もどく」に対応する。muduci mudukaraN. (親などに) さからおうとしてもさからえない。
mudui① (名) 戻り。帰り。
mudu=juN① (自 =raN, =ti) ①戻る。帰る。?icuN (行く)の反対の運動を表わすには keejuN よりも mudujuN を多く用いるようである。②離縁となって里へ戻る。
mudu=juN①* (自 =raN, =ti) もとる。そむく。反抗する。?ujankai ~. 親にそむく。
muduru=cuN① (自 =kaN, =ci) 「もどろく」に対応する。①老衰して視力が衰える。物がぼっとしか見えなくなる。②決めかねる。判断に迷う。ためらう。
-mudusi (接尾) 往復の回数を表わす接尾辞。cumudusi (一往復), tamudusi (二往復) など。
mudu=sjuN① (他 =saN, =ci) ①戻す。返す。帰す。?ujanu kutuba ~. 親のこたばを返す。②戻す。吐く。
muce① (名) [模合] 無尽講。頼母子講。'juree ともいう。年一回開くものは ni-nmuee, 月一回開くものは cicimuee という。
mugakN① (名) 無学。musaN ともいう。~na muN. 無学な者。?imiN siran muN ともいう。
mugee① (名) おもがい。馬具の一つ。馬の頭からくつわにかける組みひも。また、駄馬には木製のものをを用いる。
mugee=juN① (自 =raN, =ti) 沸騰する。わく。煮え立つ。sirunu ~. 汁が煮え立

つ。'watanu ~. はらわたが煮えくりかえる。非常に立腹する。

mugUN① (名) 無言。

muhoo① (名) 無法。規律などに反すること。~na muN. 無法者。

muhUN① (名) ①謀叛。②反抗。~na muN. 反抗的な者。siizankai ~ qsi. 兄に反抗して。

muhUNniN① (名) ①謀叛人。②反抗的な者。反逆的な者。

mui① (名) ①muijaku と同じ。②子守りをする。お守り。~ sjUN.

mui① (名) [森] 丘。山。土が盛り上がって高くなっているところ。'jama は林を意味する。saN はそびえて山らしい地形をしたもの、taki は拝所のある山をいう。?anu nuce takazaN natooN. あの丘は高くそびえている。?unnadaki ?agata satuga ?Nmarizima, ~N ?usinukiti kugata nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島 森も押しのけて こがたなさな] 恩納岳のあちら側は恋しいかたの生まれ故郷である。山(恩納岳)をも押しのけてこちら側にしたいものだ。

-**mui** (接尾) [文] 殿。様。人名に付き、敬意を表わす接尾辞。?ikusamui [いくさもい](英祖王の幼名), ?uzagamui [おぎやがもい](尚真王の幼名)など。口語の ?umee, ?ajaamee などの -mee, および 'jakumii などの -mii と語源を同じくするものか。tujumu zanamuiga zana?wibaru nubuti ki?agitaru cijunu tamanu curasa. [とよむ謝名もいが 謝名上原のぼて 蹴上げたる露の 玉の清らさ] 名高い謝名の按司様が謝名上原に登って、蹴散らした露の玉の美しさよ。

muigwaa① (名) 小さい丘。小山。

muijaku① (名) 身分の高い子弟のもり役。身分の高い子弟の身のまわりの世話をする役。

muikubana① (名) まつり(muikwa)の花。芳香高く、茶に入れて賞味する。tiN-sjagunu hanaja ?weguNsiori ?wemunu, ~ kubana satuga ?wemunu. [てんしやごの花や うえぐんしよりおや物 むいく小花 里がおや物] ほろせんかの赤い花はお嬢様の物、まつりの白い花は御主人の物。奉公人が主家の庭をほめた歌。(男女の陰部を庭の花にたとえたものか*)

muikuci① (名) もいだ跡。果実などをもぎとった箇所。

muikwa① (名) 植物名。もりか。もろりんか。まつり。ジャスミンの一種。もくせい科に属し、葉は光沢ある円形。花は白く芳香がある。花を茶に入れて賞味する。

muiniNsi=ju'n① (他 =raN, =ti) もりをして寝かせる。muiniNsirariiru gutooN. もりをされながら眠るときのようだ。こちよく眠りにつく場合にいう。

muin=cuN① (自 =kaN, =ci) (心身が) ぐったりする。(非常に眠い時、疲れはてた時などに) 体が地にめりこむように感じる。

muin=caN① (他 =kaN, =ci) (果実などを) 盛んにもぐ。どンドンもぐ。

muitati=ju'n① (他 =raN, =ti) (子)をおもりして育てる。立派におもりをする。

muitati=juN① (他 =raN, =ti) 盛り立てる。盛り上げる。

muizukwaasi① (名) 法事の時、盆に盛る各種の菓子。kusciiizukwaasi, hanabooru, soo?uburu, cinsunkoo など。いずれもその項参照。

mujaa① (名) ①子もり。子もりをする者。qkwamujaa ともいう。②かつて、自分の子もり(qkwamujaa)であった者。

mujaga=juN① (自 =raN, =ti) 盛りあがる。

mujamuja① (副) 蠢動するさま。虫などがむらがって動くさま。うようよ。~ sjUN.

mujoo① (名) ①模様。様子。状態。②模様。織物・染物などの模様。

mujui① (名) 最寄り。近くの便利なところ

ろ。～nu basju. 最寄りの場所。～～ni Yaçimari. それぞれその最寄りの場所に集まれ。

mujuku① (名) 無欲。欲のないこと。～na mun. 欲のない者。

mu=juN① (自 =raN, =ti) 漏る。すきまから漏ってこぼれる。

mu=juN① (他 =raN, =ti) (果実を) もぐ。

mu=juN① (他 =raN, =ti) 盛る。盛り上げる。飯を盛る意では Yirijun という。

mu=juN① (他 =raN, =ti) 子もりをする。qkwa ～. 子供のもりをする。

mujuu① (名) 無用。～na. 無用な。

mujuugu`tu① (名) 無用な事。

mujuusi① (名) ⊖催し。企てて行なう行事。⊖きざし。saNmujuusi は産気づくこと。

mujuusimuN① (名) 催し物。

mujuu=sjuN① (=saN, =ci) ⊖(他)催す。催し物をする。⊖(自)きざす。(病気などが)発生しかかる。(便意などを)催す。kasanu mujuucooN. できものができかかっている。

mukataa① (名) 容貌の醜い者。kata (型) の無い者の意。

mukizi① (名) 無傷。傷のないこと。また、欠陥のないこと。～na mun. 無傷なもの。欠陥のないもの。

mukoo① (名) 額。ひたい。

mukoobaree① (名) 先方払い。受け取り人払い。

mukookizi① (名) むこう傷。額の正面にうける傷。

mukoosiruu① (名) (牛・馬・犬などの) 額の白いもの。

mukuduijami`dui① (副) `jumiduimukudui と同じ。

muku`zin① (名) むく犬。むく毛の犬。

muku`ziri① (名) 婿入り式。結婚の日に、花婿が花嫁の家に招待されて行く式。婿は

mukuziri といっしょに行き、花嫁の家では sooba (接待役) の接待により宴を催す。式がすむと sooba 以外の親類の者が次々と婿に酒をすすめる。婿を見に近隣の者が大勢押しかけて、しばしば大騒ぎになる。

mukui① (名) 報い。応報。悪の報いをいう。～ kanzun. 報いを受ける。

mukujoosi① (名) 婿養子。娘に婿を迎えて養子にすること。また、その養子。

mukumi① (名) 木目。木材の年輪。

mukumui① (名) 銭 600 文。1 銭 2 厘に当たる。zin (銭) の項参照。

muku=nuN① (自 =maN, =di) むくむ。mucun とやや異なり、全体がはれてふくれあがるというほどではない。çiranu mukudoon. 顔がむくんでいる。

mukuruku① (名) 目録。

mukurami① (名) もくろみ。企て。胸算用。

mukuru=nuN① (他 =maN, =di) もくろむ。企てる。

mukuziri① (名) 結婚の日、muku`ziri (その項参照) に際して、婿の付添い役として嫁の家に行く役目の者。縁起のよい者が選ばれ、子供のない人・再婚した人などは避けられる。

mukuzooi① (名) mukuziri と同じ。

mumi① (名) 親。

muniguta① (名) もめ事。争い事。

mumin① (名) 木綿。

mumizi① (名) [文] 紅葉。沖繩では hazi (はぜの木) のほかに、ほとんど紅葉するものがなく、年中青々としている。Yisugu mici `juduti miru hudun curasa, Tuciganikujamanu hazin ～. [急ぐ道よどで 見る程もきよらさ 内兼久山の 櫛の紅葉] 内兼久山のはぜの木の紅葉は急ぐ道を立ち止まって見るほど美しい。

mumu① (名) 股 (もも)。足の上。～nu

- çicikuci. ももの付け根。
- mumu**Ⓜ (名) [文] 百。また、たくさん。
nasigwa hujakarinu ~nu kurisja.
[なし子ふやかれの 百の苦しや(銘荊子)] 生みの子と別れることの大きな苦しさを。
- mumu**Ⓜ (名) 楊梅。山桃。'jamamumu と
もいう。実は赤く、春の清明祭(ʔusiimii)
のころ盛りとなる。美味で、塩漬けにし
て、年中、茶請けにする。中頭郡越来村の
山内および諸見里あたりに多く産する。桃
(水蜜桃)は kiimumu という。
- mumu-** (接頭) [文] 百, または、多くの・
大いなどの意を表わす接頭辞。mumu-
tu (百年), mumuzana (多くの按司),
mumukakusikakusi (ひた隠しに隠して)
など。
- mumuci**Ⓜ (名) [文] 命。tuiN nacišimiti
ʔakigumun tacui, njamata ʔiçi 'ugadi
~ nuhjuca. [鳥も鳴きそめて 明雲も立
ちゆりにやまた何時をがで 百き延びゆ
が] 鳥も鳴きはじめて夜明けの雲も立っ
ている、今度はいつお会いして命を延ばせる
だろうか。
- mumudakabi**Ⓜ (名) [百田紙] 紙の一種。
大きさは半紙よりやや大きく、美濃紙より
やや小さい。ころぞ (kabigi) 製。役所の
記録用などに用いた最も普通の紙。hja-
kudasi ともいう。
- mumugahuu**Ⓜ (名) [文] たくさんの果
報。大きな幸運。ʔimijacon 'ndaN mu-
mugahuu çicaru. [夢やちやらん見だぬ
百果報どつちやる (銘荊子)] 夢にも思わ
ない、大きな幸運が舞い込んだ。
- mumu'kakusika'kusi**Ⓜ (副) [文] ひた
隠しに隠して。'jaçimatanu kurani ~
ʔaru kutuju cikiba. [八つ俣の倉に も
も隠し隠し あることよ聞けば (銘荊子)]
八つまたの高倉に (羽衣が) ひた隠しに隠
してあることを聞いたので。

- mumumaqkwa**Ⓜ (名) ひとつのももを枕に
すること。ひざ枕。
- mumunuci**Ⓜ (名) ももひき。
- mumusuqkwa**Ⓜ (名) (長く歩いたあとな
どに) ももが痛むこと。
- mumutu**Ⓜ (名) [文] 百年。また、百歳。
mumu は「百(もも)」, -tu は cutu
(一年), tatu (二年) などと同様、年を表
わす接尾辞。~ ʔiçimađin. [ももといつ
までも] 百歳までも。
- mumuʔuiʔangwaa**Ⓜ (名) 楊梅 (mumu)
を売る娘。宜野湾村の大山、真志喜あたり
の娘たちが買い出しに行き、首里・那覇な
どを売り歩いた。
- mumuʔukwaasi**Ⓜ (名) 桃の形に作った祭
祀用の菓子。
- mumuzana**Ⓜ (名) 多くの按司 (ʔazi) の
意。-zana は 'unazara [女按司], 'waka-
zara [若按司] の -zara と同じく按司の
意。~nu haka. 今帰仁村運天にある百按
司の墓。
- munanka**Ⓜ (名) 六七日 (むなのか)。死
後 42 日目に営む法事。
- mumii**Ⓜ (名) munuʔii と同じ。sjuimunii
は、首里風なことば使い。
- munu**Ⓜ (名) (mun ともいう。ただし ⊖
の意では munu を多く用いる。なお接尾
辞としては -mun を用いる。) ⊖ 食べ物。
食事。飯。~ kanun. 飯を食う。munoo
maasami. 飯はうまいか。病人を見舞う時
のことば。食欲があれば病状がよいのでい
う。~ sjuN. 食事のしたくをする。⊕者。
maan ~ga. どこの者か。⊕物。物質。
⊕もの。物事。事物。~ ʔubitikara. 物心
がついてから。munoo ʔumaaN. ものを思
わない。思慮がない。苦勞がない。~ siju-
N. 物事の道理を知る。苦勞する。~ sira-
sarijun. 罰せられる。~ ʔjasimiraN. も
のも言わせない。munoo naraN. ものにな
らない。成功しない。~N kutun neeN. な

にもものを言わない。～N kutun ʔuma-
araN. 何事も思ふ余裕がない。どうして
いいかわからない。munoo ʔjuu ʔjuru
mun. (事実はことばの通りになるので)
ことばは縁起よく言うべきものだ。㊟魔物。
ものけ。～ni mutarijun. 魔物につか
れる。神隠しに会う。

-munu (接尾) [文] 活用する語の「短縮形」
(apocoped form) につく。㊟ものを。
ʔwamin murutumuni naraN sjumunu.
[我身も諸共に ならんしゆもの] 私もも
ろともになろうものを。㊟のに。ʔjaminu
ʔjunu garaši nakanmunu sijumi. [開
の夜の鳥 鳴かんもの知ゆみ] 開の夜の
鳥が鳴かないのに、知るものか。㊟から。
ので。ʔjaminu ʔjunu hwitun nisizimati
ʔumunu, ʔuzoni ʔnzimisjori kataribu-
sjanu. [開の夜の人も 寝静まて居もの
御門に出ちみしやられ 語れぼしやの] 開
の夜で人も寝静まっているから、御門に出
ていらっしやい。語りたいで。

munuʔakašee㊟ (名) 物を言い当てる遊
び。考え物。なぞなぞ。

munuʔatarasja㊟ (名) 物を大事にすること。
大切にして惜しがること。～ sjun.

munubuzoo㊟ (名) [古] [物奉行] 魔藩前
の役名。財務長官に当たる。zuuguniN-
sjuu [十五人衆] に属し、三人いた。

munugarii㊟ (名) 豚の飼料。

munugatai㊟ (名) 話。談話。物語は ʔnka-
simunugatai という。～ sjun. 話をす
る。

munugataiziʔci㊟ (名) 話し好き。

munngusi㊟ (名) 食物の好ききらいをす
ること。

munuhacibusjan㊟ (形) 吐き気がする。
胸がむかつく。

munuhusja㊟ (名) 物を欲しがること。物
欲しそうにすること。また、食物を欲しが
ること。～ sjun.

munuhusjagisaN㊟ (形) 物欲しそうであ
る。

munuʔii㊟ (名) ことばつき。ことば使い。

munuʔiigwii㊟ (名) 話し声。話す声。
taruumunuʔiigwii ʔjatan. 太郎の話し
声だった。

munuʔihazimi㊟ (名) 小児のことばの使
い始め。

munuʔiikata㊟ (名) ものの言い方。こと
ばの使い方。話し方。

munuʔiinaci㊟ (名) ものを言いながら泣
くこと。泣きながら言うこと。

munuʔiiniisaN㊟ (形) (小児が) ことばを
使い始めるのが遅い。

munuʔitanari㊟ (名) ものの言いかた。
ことばつき。話しぶり。tanari は風采。

munuʔiwaʔree㊟ (名) 談笑。話したり
笑ったりすること。

munuʔiizoʔozi㊟ (名) 物言い上手の意。挨
拶・応待などがうまいこと。話し上手。

munuʔimi㊟ (名) 食べ物を欲しがること。
ʔimi-<ʔimijun (催促する)。

munuʔiri㊟ (名) ものいり。入費。munu-
ʔirimi と同じ。

munuʔirimi㊟ (名) ものいり。いりめ。入
費。大勢の来客など費用のかかること。

munuʔjoocigiʔsaN㊟ (形) (人・器物が) 弱
弱しい。きゃしゃである。こわれそうに見
える。munujoogisaN ともいう。

munuʔjoogisaN㊟ (形) munuʔjoocigisaN
と同じ。

munujumaa㊟ (名) おしゃべり。饒舌家。
munujunaa ともいう。-jumaa <ʔjunun.

munujunaa㊟ (名) munujumaa と同じ。

munukaNgee㊟ (名) 思案。思索。～ sjun.

munukukuNʔabii㊟ (名) ふくみ声。口に
何かふくみながら言うような声。

munuknui㊟ (名) 物乞いをすること。

munukkuujaa㊟ (名) こじき。

munukweemuuku㊟ (名) ごちそうにばか

munumaii

りなって結構な婿。婿は嫁の家で大事にされ、ごちそうになるばかりで結構だという時使う語。

munumaiiⓄ (名) 精神異常で家出してゆくえ不明になること。神隠し。魔物に迷う意。mununi mutarijun ともいう。

munumiⓄ (名) 物見。物見台。貴人の屋敷に設けられた。

munumiganⓄ (名) 心配顔。物案じ顔。nugaši tamakugani ~ sicoru, 'jubi 'ncaru ūiminu 'wazimu kakati. [のがす玉黄金 物思顔しちよる 夕べ見ちやる 夢の 我肝かかて] 愛見よ、どうして心配顔をしているか。昨夜見た夢がわたしの気にかかる。

mununuŷatuⓄ (名) 食後。

mu=nuN① (=maN, =di) ⊖(他) もむ。mimizuN ともいう。⊖(自) もめる。miitundanu ŷiqcinu mudoon. 夫婦間の事件がもめている。

munusirariⓄ (名) [文] 案内を乞うこと。問いかけて、応待を乞うこと。kunu 'jadunu ŷucini ~ sjabira. [この宿のうちに 物しられしやべら (執心鐘入)] この家にいる方に案内を乞うて泊めてもらいましょう。

mununsirasidu'kuruⓄ (名) 苦勞を知らせるところ。苦勞の多いところ。また配所。takahanarizimaja ~, nja munu sijabitān 'juruci tabori. [高離島や 物知らしどころ にや物知やべたん ゆるちたばうれ] 高離島は苦しみを教える配所、もう充分苦しみました。許して下さい。

munusiriⓄ (名) ⊖物知り。博識な者。⊖易者。

munuscodaNⓄ (名) 相談。~ sjun. 相談する。

munusugaiⓄ (名) 食事の支度。

munuŷubiⓄ (名) 物覚え。記憶。

munuŷumiiⓄ (名) 物思い。悲嘆に暮れる

こと。

munuŷumiigisanⓄ (形) 物思いに沈むようすである。心配がありそうである。munuŷumiigisakuN neen. 何の心配も知らず、あどけない。無邪気である。

munuŷutuⓄ* (名) ⊖物音。主として、不幸などを知らせる予言的な音をいう。前兆となる音。きねの音・念仏鈺の音などは死の前兆、騒音は火事などの前兆とされる。~ nu ŷatan. 前兆の音があった。⊖病人のある家などで、のこぎりの音・釘の音・その他縁起の悪い音を立てないようにすること。また、その期間。namaa ~'jan. 今は音を禁止する期間だ。⊖ŷindumijamadumi と同じ。

munuŷutusiⓄ (名) 落とし物をする事。

munuŷuziⓄ (名) 物怖じ。物事をこわがり、恐れること。

munuwareeⓄ (名) 物笑い。人に嘲笑されるようなこと。

munuwašiⓄ (名) 物忘れ。munwaši ともいう。

munuziciⓄ (名) 物好き。変わったものを好むこと。また、そのような者。munzici ともいう。

munⓄ ⊖(名) munu ともいう。その項参照。~ najun. イ. 成人する。人となる。立派になる。ロ. (腫れ物が) 大きくなり、かさになる。ハ. 熟する。~ nasjun. イ. 人となす。成功させる。ロ. 熟させる。~ naraasjun. しつける。家庭で礼儀作法を教える。~ nareehatitindicee neen. ものを学び尽くすということはない。⊖(接尾) 物・者・食物・食事などの意。ŷareemun (洗い物), nooimun (縫い物), sirabimun (調べ物), sutumitimun (朝飯), 'jahwaramun (体の弱者), duucumun (ひとり者) など。

munⓄ (名) [文] 門。普通は zoo という。

muN① (名) 紋。家の紋所。
muN① (助詞) よ。もの。さ。「連体形」に付く。Yicuru ~. 行くよ。Yikan ~. 行かないさ。
munbaN① (名) [文・新] 門番。普通には zoobaN という。
muNcaui① (名) 悶着。もめごと。
muNceni① (名) 農作物の種。種子。
muNcaN① (名) ちび。小人 (こびと)。また、小さい子供など。
muNciki① (名) [新?] 紋付。紋付の羽織。
muNcin① (名) 木戸銭。芝居などの入場料。
muNcuu① (名) [門中] 一族。一門。一族中。
muNcuubaka① (名) 一門の共同の墓。
muNcuuzurii① (名) 一門全体の集会。surii は集会。
muNdakuN① (名) 悪たくみ。謀略。
muNdani① (名) 餌。漁獵などで用いる餌。
muNdašii① (名) 首里城の建物の名。Yugusiku の項参照。
muNdoo① (名) [問答] 口論。いさかい。けんか。~nu Yahjaa. けんかの発頭人。
muNdoohwi`Ndo① (名) けんか口論。いざこざ。~ sjuN.
muNgawai① (名) 貨幣価値の変更。平価切り下げ (切り上げ)。
muNguci① (名) 木戸口。芝居の入り口。
muNgun① (名) [文言] 文章。論文。~ gujukun. 作文する。~ kacun. 文章を書く。
muNgwaa① (名) ちび。小さい者。おとなで体の小さい者をいう。
muNmi① ⊕ (名) 量目。匁で計る重さ。~nu ?ami. 量目はあるか。⊖ (接尾) …匁。Yicimunmi (一匁), nimunmi (二匁) など。
muNnaku① (副) もみくちや。くしゃくしゃ。~ natooru kabi. しわくちやの紙。

muNnakwa`Nnaku① (副) もみくちや。くしゃくしゃ。muNnakwaNna ともうら。~ natoon. もみくちやだ。
muNnakwaNna① (副) muNnakwaNnaku と同じ。
muNnami① (名) 首里城の建物の名。Yugusiku の項参照。
muNnaraasi① (名) 家庭での教育。しつけ。家庭で礼儀作法などを教えること。
muNnaree① (名) 礼儀作法を学ぶこと。しつけを受けること。
muNnu?ati① (名) 思慮。用心深さ。危険に対する用心。いざという時の心がまえ。muNnu?atee neeN. 危いことを恐れる心がない。危険を知らない。
muNnu?atu① (名) mununu?atu と同じ。
muNnugooguci① (名) 食べ物の不平。
muNnu?irihui① (名) 食べ物の好ききらい。食べ物の不平。
muNnujuku① (名) 食べ物に関する欲望。食欲。sjujukuku ともうら。Yirujuku (色欲), mucijuku (物欲) とあわせて sanjuku (三欲) という。健康の目安としての食欲の意ではあまり用いない。病後に起きる食欲は sakadaci という。
muNnuki`muN① (名) 魔よけ。護符。お守り。
muNnumee① (名) 食事の前。食前。
muNnuzibuN① (名) 食事時。時分時。
muNpa① (名) 紋羽。裏地に使用する木綿の厚い布。
muNwaši①* (名) munuwaši と同じ。
muNzaai① (名) かぶれてなる皮膚病。蕁麻疹。kazoorimun のた、い。muN は魔物の意。
muNzici①* (名) munuzici と同じ。
muNziree① (名) 病気の時、食べてはいけないとされるもの、また、食べてはいけないと禁じられること。
muNzuru① (名) 麦わら。

- muNzurugasa④ (名) 変わらで作った笠。
 muNzuruu④ (名) 変わらで作った笠。変
 わら帽子をもいう。
 muQcaihwiq⁷cai④* (副) muQcoohwiqcoo
 と同じ。
 muQcaikwaq⁷lai④ (副) ねばねば。べとべ
 と。mucamuca より一層粘るさま。～
 sjun.
 muQcaka=ju⁷N④ (自 =raN, =ti) 粘りつく。
 粘ってくっつく。taqcakajun ともいう。
 muQcirugeei④* (副) 大勢がいっしょに騒
 ぐさま。がやがや。～ sjun.
 muQcoohwiq⁷coo④ (副) はかどらないさ
 ま。手間どるさま。もたもた。～ sjun.
 muQcoori=ju⁷N④ (自 =raN, =ti) (仕事な
 などが) 手間どる。はかどらない。muru
 sigutunu muQcooritooti. 全く仕事が手
 間どっていて。
 muQceurugeei④ (副) 押えようとしても押
 えられないさま。なかなかつかまらな
 いさま。逃げる子・うなぎなどについて
 いう。～ sjun.
 -muQkoo (接尾) …なし。体のある部分が
 切れてなくなった者、もげてなくなっ
 た者の意。tiimuqkoo (手が切れて、ない者)、
 hwisjamuqkoo (足のない者)、zuumu-
 qkoo (尾が切れて、ないもの) など。類
 義の接尾辞に、-moo, -mookuu, -moo-
 kaa などがある。それぞれの項参照。
 muQkkuu④ (名) ⊕つぼみ。⊖小さい実。草
 木の実。果実など、大きい実は nai と
 いう。
 muQpara④ (名) もっぱら。そのことばか
 り。Yicui ~ 'jan. 権勢のみをふりまわ
 している。Yariga simaa cikara ~, nuun
 tiija neeraN. 彼のすもうは力ばかりで、
 何も手はない。
 muQtai④ (名) 六人。「むたり」に対応す
 る。rukuniN を多く用いる。
 muQtu④ (副) 全然。全く。少しも。～

- miiraN. 全然見えない。
 muQtuN④ (名) もっとも。道理至極。～na
 kutu. もっともなこと。～ 'jan. もっと
 もだ。
 mura④ (名) 村。村落。もと、間切制の時
 には、間切(maziri)の中の個々の部落が
 行政上の村(mura)であった。市町村制に
 なってからは、一つの間切、あるいは間切
 をいくつか合わせたものや間切を二分した
 のなどが行政上の村となった。
 muraYasibi④ (名) 村芝居。旧暦8月15日
 の夜などに、各村で催した。
 murabaree④ (名) 村払いの意。村から追
 放すること。悪事を働いた者などをその家
 族とともに村から追放したもの。
 muragaa④ (名) 村の共同井戸。
 muragani④ (名) どら(銅鑼)。形はいろい
 ろあるが、丸い盆の形のものが多く、ばち
 で打ち鳴らす。綱引き(cinahwici)その他
 の催し物の時、打って氣勢を添える。
 muragaqkoo④ (名) [村学校] 首里・那覇
 の各村に置かれていた学校。もっぱら漢籍
 を教えた。また、その村の事務所を兼ねて
 いた。
 muragasira④ (名) [村頭] 村がしら。任命
 制である Yuqci に対し、村民の代表とな
 る者。部落代表。suugasira (部落全体の
 代表) と kumigasira (組ごとの代表) よ
 りなる。また、首里の村がしらは ziigasi-
 ra といった。
 muragumuçi④ (名) 村有物。
 muragutu④ (名) 村全体の事件。また、村
 のためにする事。
 murahazisi④ (名) 村はずれ。
 murajaa④ (名) [村屋] 村役場。村の事務
 を執った所。
 murajaadu④ (名) [村宿] 各村の人が首
 里・那覇に出た時、泊まる宿。各村ごと
 に宿が決まっていた。村の指定の宿。
 muramuci④ (名) 費用を村で負担するこ

- と。村もち。kwanmuci (政府負担), duumuci (自己負担) などに対する。
- murasaci**① (名) 紫。色の名。
- murasacihaci¹maci**① (名) 紫のかんむり。按司 (?azi) が用いる。hacimaci の項参照。
- murazakee**① (名) 村境。村界。
- murazurii**① (名) 村中の人が集まること。村民の集会 (surii)。
- murazuu**① (名) 村中。村全体。～nu qcu. 村中の人。～nu zinmi. 村全体の協議。
- muri**① (名) 無理。～na kutu. 無理なこと。～ni hataracun. 無理に働く。～širuna ųuciju nasakibakari. [無理するな浮世 情ばかり] 無理するな、浮世は情に満ちている。
- muri=juN**① (自 =raN, =ti) ⊖(光・うわさなどが) 漏れる。水については多く **mujuN** というようである。⊖(腕) 脱落する。行き渡らない。
- muru**① (副) ⊖皆。全部。～miitooN. 全部生えた。kuqsasaani ~ 'jaN. これで全部だ。⊖まるで。全く。全然。～siraN. 全く知らない。
- murubisja**① (名) 両足。
- murudqciri**① (名) かすり模様 (tuqciri) だけの布地。他の縞のまざらないもの。女の着物にする。那覇では kuzirigooisii という。縞の間にかすりのあるものには ųajannaakaa という。
- muruhaku**① (名) muruhwaku と同じ。
- muruhu**① (名) [文] 諸帆の意。両方の帆。katahu (片帆) に対する。その項参照。
- muruhwa**① (名) 両刃。
- muruhwaku**① (名) 諸白 (もろはく)。最上等の酒。muruhaku と同じ。
- murunooi**① (名) 全治。病気の全快。
- murun**① (名) もろみ。酒・しょうゆのもろみ。
- murunGa¹ami**① (名) もろみを入れるかめ。
- murunZatu**① (名) 諸見里。《地》参照。
- nurusaageejaa**① (副) ごろごろ。かたまりがあるさま。ųisinu ~ sjooru mici. 石がごろごろしている道。mucinu ~ Qsi maakoo neeraN. 餅にかたまりがあっておいしくない。
- murusi**① (名) かたまり(塊)。
- murusigee=juN**① (自 =raN, =ti) かたまりができる。かたまりがある。murusigee-tooru ųukee. ごろごろかたまりのあるおかゆ。
- murutumu**① (名) [文] もろとも。口語では mazun (いっしょ) という。
- muruwašii**① (名) 丸忘れの意。すっかり忘れること。
- musagee=juN**① (自 =raN, =ti) にぎやかに騒ぐ。ざわめく。さんざめく。
- musaN**① (名) 無学。無算の意。mugaku と同じ。hwiqsan に対する。平民についていう。平民の枕詞のように使われた。～na hjakusjoo. 無学な平民。
- musaqtu**① (副) 毛頭。少しも。～siraN. 少しも知らない。
- musi**① (名) ⊖虫。昆虫、くもなど。⊖腹の虫・けんかの虫などの場合の虫。～ųukusjuN. (少しだけ食べると腹の虫を起こして) かえって食欲を起こす。～kuujuN. むやみにけんかをしたが。同じことを ųoimusi kuujuN と同じ。
- musi**① (副) もし。かりに。musika と同じ。～ti¹cinu 'jutasaraa ųicusa. もし天気よかつたら行くよ。
- musiba**① (名) [新] 虫歯。musikweebaa と同じ。
- mušibaa=juN**① (自 =raN, =ti) [古] mu-

mušibun

- subaaJun と同じ。
- muši=buN**① (他 =baN, =di) [古] musu-bun と同じ。
- musici**① (名) ①回虫などによって起こる病気。②虫気。子供の種々の病気をいう。
- musigusui**① (名) 虫下し。旧暦4月, ʔabusibaree (その項参照) のころ, nacoora (海人草) を虫下しとして, 家族全員が煎じて飲んだり, または, 雑炊に入れて食べたりする。
- musijoogari**① (名) 幼児の栄養不良。虫気。musici (小兒結核など) で体が衰えること。
- musi=juN**① (他 =raN, =ti) むしる。つかんで引き抜く。karazi ~. 髪をむしる。kusa ~. 草をむしる。
- musika**① (副) もしか。もしも。ʔarigadun ~ ʔwasatadun sjuraba ʔawari nacutandi katati tabori. [あれがどももしか 我沙汰どもしゆらば あわれ泣きゆたんで 語てたぼうれ] 彼女がもしかわたしの話でもしたら, かわいそうに泣いていたと言ってください。~nu kutunu ʔaine. もしものことがあったら。
- musikuci**① (名) 失業。
- musikwee**① (名) 虫食い。虫に食われていること。また, そのもの。たとえば, 甘藷などをいう。
- musikweeba'a**① (名) 虫歯。musiba ともしう。
- musimikagan**① (名) 虫めがね。中国から輸入され, 易者などが用いた。
- musiN**① (名) 毛布。ケット。
- musiri=juN**① (自 =raN, =ti) 破れてぼろぼろになる。むしられたようになる。
- musiru**① (名) むしろ(蓆)。bigumusiru (備後表のむしろ), ʔimusiru (琉球表のむしろ), ʔadanibaamusiru (阿旦の葉のむしろ), 輸入された hanamusiru (花むしろ), toomusiru (籐むしろ) などがあ

- る。ʔanbarunu nareja ʔadanibanu ~, sikaba ʔirimisjori sjuinu sjunume. [山原のなれや 阿旦葉のむしろ 敷かば入りめしよれ 首里の主の前] 山原のことで阿旦の葉のむしろしかありませんが, 敷いたらお入り下さい, 首里の旦那様。
- musirubiici**① (名) むしろごと引っ張ること。子供などがむしろに寝ている時などに, むしろごと引いて動かすこと。
- musirusicaa**① (名) 妾の別名。寝ござを敷く者の意。
- musiʔuduraku**① (名) 啓蟄(けいちつ)。二十四節の一つ。
- musiʔuturuu**① (名) 虫をこわがる者。虫ざらい。
- musjoo**① (副) 無性に。我を忘れて。~nataN. 我を忘れた。
- musjookusjoo**① (副) 無性に。やたらに。musjoo の強意。
- musjooNi**① (副) 無性に。~ kamibusiku nataN. 無性に食いたくなつた。
- musjootu'sjoo**① (副) 無性に急いで。渡法あわてて。~ natooru 'jooši. 渡法あわてているようす。
- musubaa=juN**① (自 =raN, =ti) 取っ組み合う。組み打ちをする。
- musubii**① (名) 契約。牛馬の売買の契約など。契約が成立した時, 相方で金を出し合つて小宴を張るが, そのことをもいう。~ sjun.
- musubikuubu**① (名) 料理名。結びこんぶの意。こんぶを結んで煮たもの。
- musubizoomin**① (名) そうめん的一种。そうめんを作る時, 乾かないうちに結んだもの。油揚げにして, 新年の料理に多く使う。
- musu=buN**① (他 =baN, =di) ①(ひもなどを) 結ぶ。②(夫婦の縁を) 結ぶ。結婚する。契る。ʔaraN 'iN musudi. 結ぶべからざる男女の縁を結んで。musubaqtaru

mee naa, ʔatu naa. 結婚の前だったかね、あとだったかね。

-mutaaN (接尾) …遊び。いたずらすること・もてあそぶことの意。tiimutaan (手でいたずらすること), mizimutaan (水遊び), hwiimutaan (火遊び), durumutaan (泥いじり) など。

mutaaNhwita¹an^① (副) もてあそぶさま。いじくり回すさま。～ sjuN.

muta=buN^① (他 =baN, =di) もてあそぶ。いじる。mizi ~. 水遊びをする。

mutaraNmuci^① (名) 荷物・仕事・財産など、持てないものを無理に持つこと。～ ʔajateesa ʔjaa. 無理に持っていたんだねえ。

muteeisake¹ei^① (副) 繁栄するさま。ʔumanəcuja suruti kaminigeju sjabira, migumi ʔaru mijuja muteisakei. [お真人やそろて かめ願よしやべら 恵みある御代や もたえさかえ] 国中の人が揃って神に祈願をしましょう。恵みのある御代は栄えて行くのである。

mutec=juN^① (自 =raN, =ti) ⊖(体が)太る。⊖茂る。繁茂する。⊖榮える。繁栄する。buteejuN ともいう。

muti^① (名) ⊖方。方向。方面。側。ʔamatunu ~. 日本の方。⊖(接尾) 方。側。…の一団。…の一族。ʔamamuti (あっちの方, あっち側), maamuti (どっちの方, どっち側), sicamuti (下の方, 下側), ʔagarimuti (東の方, 東側), kusimuti (後の方, 後側), micimuti (道側), ʔamatumuti (日本の方, 日本側), sjui-muti (首里の方, 首里側), caqcimuti (長男の側, 長男の一族), hwizamuti (比嘉側, 比嘉一族) など。

mutiʔama=sju¹N^① (他 =saN, =ci) もて余す。qkwa ~. 子をもて余す。

mutinasi^① (名) 取り扱い。作りかた。kubanu hwadu ʔjašiga ~nu ʔutasja, ʔačisa šidamasjuru tamanu ʔuciwa.

[蒲葵の葉どやすが もてなしのよたしや 暑さすだましゆる 玉の団扇] びろりの葉に過ぎないが、作りかたがよいので、暑さを柔らげる玉の扇である。

mutiwaka=sju¹N^① (他 =saN, =ci) ⊖手こずる。もてあます。⊖特別待遇する。(客・子供などを) 特に区別して遇する。

mutu^① (名) [文] 許(もと)。そば。ʔujanu ~. 親許。tiçinu ~. 敵のいる所。

mutu^① (名) ⊖元。元来。～nu karata. 元の体。⊖muutu と同じ。

mutu^① (名) むとせ。六年。

-mutu (接尾) 株。本。もと。生えている植物を数える接尾辞。cumutu (一株)。

mutubirec^① (名) 昔交際した人。昔なじみ。-birec < hwiree.

mutubu^① (名) 本部。《地》参照。

mutubuzaci^① (名) 本部崎。国頭地方の本部半島先端の岬。

mutudunai^① (名) もとの隣。昔の隣人。

mutumi=juN^① (他 =raN, =ti) [文] 求める。

mutuu=juN^① (自 =raN, =ti) 長続きする。永続する。続けて…する。ʔanu ʔwinagutoo mutuutoomi. あの女とは長続きしているか。

mutuu=sjuN^① (他 =saN, =ci) [最通しゆん] 長続きさせる。永続させる。続けて…する。一つの仕事を長く続ける, 一つの物を長く使うなど。ʔanu ʔwazaa ʔariga mutuusijuusaN. あの仕事は彼には長続きできない。ʔanu ʔwinagutoo mutuuccoomi. あの女とは長続きさせているか。ʔunu nekutaibikeei mutuuci çikajuN. そのネクタイばかり続けて使う。

muu^① (感) む。むっつ。声を出して数える時にのみいう。

muu^① (名) 藻。水中・海中の藻。

muuçi^① (名) 六。むっつ。また、六歳。時刻は muçi という。

muucii

muuciiⓄ (名) [鬼餅] 旧暦12月8日、子供たちに餅を作って与える行事。また、その時の餅。くわしくは *hohaimuucii* という。びろう (*kuba*) または月桃 (*sannin*) の葉に包んだ餅を、たくさん (ただし奇数) 天井から下げて子供たちに与える。人を食いに来た鬼を、餅を食って見せて追いはらうという伝説にもとづいて行なわれるという。男の子には一つ特に大きな *cicaramuucii* (力餅) をまぜて与える。餅は、富者は米ばかりで、貧者は黍で、あるいは甘藷をまぜて作る。

muuciihiisaⓄ (名) *muucii* のころ、ことさらに感じる寒さ。

muujaba'ajaⓄ (名) 家の中にある柱。家の周囲・縁側などにある柱 (*hazibaaaja*) に対する。母屋柱の意か。

muukuⓄ (名) 婿。娘の夫。娘の親からいう語。

muukuodeeⓄ (名) 妻同志が姉妹である義兄弟。

muutiiⓄ (名) 元結い。髪を結う時、髪のもとどりを結ってつかねるもの。男の元結いには ?*akamuutii* (赤色の元結い) と ?*oorumuutii* (緑色の元結い) とがあり、*katakasirajuuja* (髪結い床) では赤の方が料金が安かった。

muutuⓄ (名) ⊖元。本。みなもと。また、先祖。⊕もとで。資本。元金。～ *tuikeesjun*。もとを取り戻す。～ *kanzun*。もとを取れずに、損失をこうむる。

muutudu'kuruⓄ (名) 宗家。大本である家筋。本家。

muutuja'aⓄ (名) 本家。

muutukweeciriⓄ (名) 元金を食いつぶすこと。商売で損をしてもとでをも失うこと。

muzarakwazaraⓄ (副) うじゃうじゃ。たくさんのものがうごめくさま。～ *sjoon*。

うじゃうじゃしている。

muziⓄ (名) 文字。～*N kuzin 'wakaran maçigaanu hwimun*。文字もわからぬ松川の碑文。松川の碑文は風化して文字がわからない。物の道理のわからない人間をたとえていう。*kuzi* は故事の意だがさして意味はなく、*muzi* の対句として並べたもの。同じ意味で、*ziiziran 'wakaran*。(字づらもわからないの意か) ともいう。

muziⓄ (名) 麦。沖縄には *Tuhumuzi* (大麦)、? *Nnamuzi* (小麦)、*hadakaamuzi* (裸麦) の三種がある。

muziⓄ (名) *taa?Nmu* (里芋に似た芋) の茎。ずいきの一種。*taamuzi* と同じ。

muzinakuuⓄ (名) 麦粉。小麦粉。

muzinu?usiruⓄ (名) *taa?Nmu* (里芋に似た芋) のずいきを入れた汁。

muzinbunⓄ (名) 知恵が足りないこと。知恵なし。< *zinbun* (知恵)。～*na mun*。知恵のない者。

muzi?useeⓄ (名) *taa?Nmu* (里芋に似た芋) のずいきのあえもの。

muzooⓄ (名) [文] ⊖無情。冷酷。⊕無情。哀れ。～*na mun*。哀れな者。

muzukuiⓄ (名) 農作。農業に従事すること。

muzuku=junⓄ (自 =*ran*, =*ti*) (木の芽などが) 出かかる。(腫れものなどが) できかかる。*muqkuunu muzukutoon*。つぼみができかかっている。

muzumuzuⓄ (副) むずむず。*muzuru-muzuru* ともいう。～ *sjun*。

muzumuzuⓄ (副) むずむず。うずうず。やろろとしていらだつさま。～ *sjun*。

muzurumuzuruⓄ (副) ⊖*muzarakwazara* と同じ。⊕むずむず。蚕などが着物の下などでうごめくさま。*muzumuzu* ともいう。

-na (接尾) な。禁止の意を表わす。ふつう本土方言の「終止形」に対応する形に付く。'jumuna. (読むな) など。ただし、ラ行の動詞の場合は PabiNna. (泣くな), tuNna. (取るな) などとなる。また -na のあとに -kee (<ʔukee. 置けよ) を付けていうこともある。sjunakee. (するなよ) など。

-na (接尾) 動詞の「未然形」に付いて希望の意をそえる。cikana. (聞こうよ。聞きたい) など。

naaⓐ (名) からし菜, 菜, すなわち葉野菜一般は ʔoohwa という。

naaⓐ (名) 縄。

naaⓐ (名) ⊖名。名前。人や物の名。～ ʔjarijun. 名高い。有名だ。ʔaree ~ ʔjaqtoon. 彼は有名である。⊖名前, とくに童名 ('warabinaa) すなわち生まれる時に付けられる名前。例をあげれば次のようなものがある。

士族男子…… taruuⓐ, ziruuⓐ, san-duuⓐ, 'jamaaⓐ, maçuuⓐ, kamiiⓐ, ʔusiiⓐ, 'nntuuⓐ, kanaaⓐ, kamadeeⓐ, makaruuⓐ, sjumiiⓐ, sutaaⓐ, 'wicaaⓐ, ciruzuuⓐ, turazuuⓐ, kaniiiⓐ, nabiiⓐ など。

平民男子…… taraaⓐ, ziraaⓐ, san-daaⓐ, maçaaⓐ, kamizaaⓐ, ʔusjaaⓐ, 'nntaaⓐ, kamadaaⓐ, masiiⓐ, tukaaⓐ, nijooⓐ, niwaaⓐ など。

士族女子…… çiruuⓐ, ʔutuuⓐ, kamiiⓐ, kamaɖuuⓐ, nabiiⓐ, ʔusiiⓐ, makateeⓐⓐ, guziiⓐ, maziniiⓐⓐ, meenuuⓐ, mamaciiⓐ, ʔndaruuⓐ, maçuuⓐ など。

平民女子…… çiraaⓐ, ʔutaaⓐ, kami-

zaaⓐ, kamaaⓐ, nabaaⓐ, ʔusjaaⓐ, makaaⓐ, guzaaⓐ など。

このほか、貴族男子は ma- [真] を冠して majamatuuⓐ, masanjiuuⓐ など、また ʔumi- [思] を冠して ʔumiziruuⓐ, ʔumikanaaⓐ, ʔumikamiiⓐ などと、またあとへ -ganii [金] を付して taruganiiⓐ, maçiganiiⓐ, turazuganiiⓐ などと呼ばれ、貴族女子は ma- [真] を冠して maziruuⓐ, moosiiⓐ などと呼ばれた。身分によるこのような区別は明治の中ごろまでであった。

naaⓐ (名) ⊖農家の前庭。家の前の、仕事をするための広場。⊖(接尾) 広場を意味する。…場。ʔusinaa (闘牛場), simanaa (相撲場), ʔašibinaa (村芝居をする広場) など。

naaⓐ (名) おまえさん。あんた。目下の年長に対し、幾分敬意を含めていう、二人称の人代名詞。～ ja ʔiçi moocaga. おまえさんはいつ来られたか。

naaⓐ (副) おしまい。終わり。完了したさま。hweeku ~ nasi. 早く終わりにしろ。～ natooru sigutu. 終わった仕事。～ 'jan. おしまいだ。もうできた。

naaⓐ (副) もう。いまや。もはや。njaaともいう。～ cukeen. もう一回。～ kuu-teen. もう少し。～ ʔikan. もう行かない。～ caan naran. もはやどうにもならない。～ i. もういいかい。～ 'jasa. もういいよ。～ ʔihwi siinee. もう少しのところで。もうちょっとで。～ ʔnzi cii. もう行って来たか。

naaⓐ (助) かい。かねえ。の。軽く尋ねる場合に用いる。'junun ~. 読むかい。ʔari ~. あれかね。

naa-(接頭) おのおの・銘銘の意を表わす接頭辞。あとに付く語を重複させる。naa-jaa²jaa (めいめいの家), naa²ʔii²ʔii (めいめいが違うことを言うこと) など。

-naa(接尾) ずつ。tiiginaa turee. (一つずつ取れ), 'insanaa (同量ずつ), kuu-teen²naa (少しずつ), 'joo²naa (ゆっくり。弱くずつの意) など。

naabaⓐ(名) きのご。cinuku と同じく、かさと柄のはっきりした、きのご型のものをいう。食用になるものをもいうが、主として食用にならぬものをいうようである。cinuku の項参照。

naabaruⓐ(名) 梅毒。nabangasa ともいう。

naabeeraaⓐ(名) 植物名。へちま。実は未熟のうちには食用にする。へちま水は咳・やけどの薬、酒の酔ざましに用いる。熟して肉を取り去ったものは浴用に用いる。

naabiⓐ(名) 鍋。釜は hagama という。小さい順に、gugoo²daci (5合だき), ʔiq-sjudaci (1升だき), nisjudaci (2升だき), ni²nmeenaabi, sa²nmeenaabi, si²nmeenaabi などの種類がある。

naabikacikaciiⓐ(名) あぶらぜみ。鍋のしりをかき落とすような騒がしい声で鳴くのでいう。

naabinakuuⓐ(名) naabinukuu と同じ。

naabinuhutaⓐ(名) 鍋のふた。甘藷を煮る時などの編んだ大きなふたは kamania という。

naabinuhwinguⓐ(名) 鍋壘。鍋釜のしりにつく煤。

naabinukuuⓐ(名) 鍋釜の修理。鍋釜の穴のあいたものをふさぐこと。いかけ。また、いかけ屋。鍋の (naabinu) いかけ (kuu) の意。

naabisaguiⓐ(名) つまみ食い。鍋の中をさぐって、食べること。

naacaⓐ(名) 翌日。明日は ʔaca という。

ʔunu ~nu 'juuʔirigata. その翌日の日の暮れがた。~ hweeku. 翌日早く。~nu sutumiti. 翌朝。

naacaʔasaⓐ(名) 翌朝。

naacamiiⓐ(名) 葬式の翌日に婦人が行なり墓参。死後49日間、男は毎日墓参する習慣となっているが、女は翌日だけ墓参する。死者がもしや蘇生することはないかと翌日見に行った習慣が残ったものだと言い伝えられている。

naaciri'ziriⓐ(副) 銘銘が散り散りになること。四散すること。'jaaninzu ~nati. 家族が散り散りになって。

naadaⓐ(副) まだ。いまだ。maada ともいう。~ kuun. まだ来ない。~ 'jan. まだだ。

-naadii(助) から。を。通。つて。經由路・經由点を示す。kuma ~ ʔikee. ここから(この道を通って)行け。cukata~. 片端から。maa~ ʔicuga. どこを通って行くか。kagusima~ ʔicun. 鹿児島經由で行く。

naaduu'duuⓐ(名) 銘銘。各自。また、銘銘勝手。ʔujan qkwan ~. 親も子も銘銘勝手。

naagatiⓐ(副) やがて。~ 'juunu ʔaki-jun. やがて夜が明ける。

naagiⓐ(名) みやげ。mjaagi ともいう。

naaguⓐ(名) 「名子」に対応する。元来は農村で農奴的な使用人をさしたが、首里では転義して分家をいうようになった。

naahai'baiⓐ(名) 銘銘勝手に散り散りになること。各人ばらばら。sjuineoo surriizurii, naahwan²coo ~, kunindancoo kunkurubaasee, tumain²coo tumeeidumeei. 首里の人はうち揃って、那覇の人はばらばらで、久米村の人は互いに争って、泊の人は互いに捜し合(頭韻をふんでいる)。~nu sikata. 各自ばらばらのやり方。

naahwa①(名) 那覇。

naahwa①(名) 那覇の者。単称。

naahwaNcu①(名) 那覇の人。

naahwicibi'ci①(名) 銘銘の縁故。または、銘銘のひいき筋。

naahwiN①(副) もっと。さらに。なお。一層。～ kwimisjoori. もっと下さい。～ curasan. さらに美しい。

naa?ii'ʔii①(名) 各人各様に言うこと。銘銘が(別なことを)言うこと。～ 'jatan. 各人各様に言っていた。

naaʔjuru①(連体) 名高い。有名な。～ mun. 有名な物。～ qcu. 有名な人。

naaja①(副) もはや。もう。今となつては。～ kan nataru ʔwiija sikataa neen. もはやこうなった以上しかたがない。

naajaa'jaa①(名) 各自の家。銘銘の家。

naajaan①(名) ㊦再来年。naanCuともいう。㊦翌翌年。naanCuともいう。ʔunu～。その翌翌年。

naaka①(名) 中。中央。内部。中間。naakaa nuunu ʔiqooga. 中は何が入っているか。～ tujun. 中庸をとる。～ ni kwaasarijun. 中にはさまれる。板ばさみになる。

naaka①(名) 仲。交情の仲。～ noojun. 仲直りする。～ tuinoosjun. 仲をとりなす。仲直りさせる。

naakaahuukaa①(名) 中空。中がから(のもの)。

naakaguhwai①(名) 仲たがい。naakatageeともいう。-guhwei<kuhwajun.

naakame'egame'e①(名) 各自思い思いに構えること。銘銘違った構え方をすること。ばらばらで統一のないこと。各人各様。ʔanuhwiNnu 'jaaja 'Nna ~ 'jasa. あの辺の家は構え方がてんでんばらばらだ。～nu kangee. 各人各様の考え。ʔaqtaja nuu 'jatin ~ sjun doo. 彼らは何をすのまばらばらだぞ。

naakamee'igamee'i①(副) おのおのが捜し合うさま。～ sjun.

naakanooi①(名) 仲直り。和解。

naakaNgeekan'gee①(名) 各自思い思い。銘銘が違った考えをもつこと。～nu ʔujatu Qkwa. それぞれの考え方の違ひ親子。niibicini ʔiitee ʔujan Qkwan ~ 'jan. 結婚については親も子も考えが別別だ。

naakatagee①(名) 仲たがい。nakatageeとは別。hunaka, naakaguhwaiともいう。

naaka'tuihatatui①(副) 仲をとりもつさま。仲裁して円満にさせるさま。仲を取り端を取る意。～ sjun.

naaku①(名) 脈。脈搏。mjakuともいう。

naaku①(名) 宮古島。mjaakuともいう。

naakudaamaa①(名) taamaaと同じ。

naakusjaagu'sjaa①(名) 銘銘がそっぽを向くこと。各人が背を向けて一致しないこと。'jaatiicidu 'jašiga, ʔamanu 'jaaja ~ 'jan. 一つの家に住みながら、あそこの家は各人がそっぽを向いて暮らしている。

naakuu①(名) 宮古島(naaku, mjaaku)の者。単称。

naakwee'gwee①(名) 銘銘が別別に働き、別別に食うこと。各人が自活すること。ʔamanu 'jaaja ʔujatu Qkwatu ~ 'jan. あそこの家は親と子が別別に暮らしている。

naamee'mee①(名) 銘銘。各自。～nu mun. 銘銘の物。

naamuti'muti①(名) 銘銘の受け持ち。各人の得意。銘銘の専門。～nu ʔakutu. 銘銘の得意があるから。

naanCu①(名) ㊦翌翌年。その時から三年目の意。-Ncu< mitu. ㊦再来年。naajaanともいう。

naaNkeeN'kee①(名) 銘銘の向き向き。銘銘の好みや向いた仕事など。～nu sigutu.

銘銘に向いた仕事。
naarabiⓐ (名) mjaarabi と同じ。
naasatiⓐ (名) 翌翌日。翌日 (naaca) の次の日。ʔunu ~. その翌翌日。
naaʒibiⓐ (名) なす。「なすび」に対応する。
naasiruⓐ (名) 苗代。
naasirumabuiⓐ (名) 案山子(かかし)。
naatamasidaʼmasiⓐ (名) 銘銘の分。各自に分け与えられたもの。~nu ʔukwaasi. 銘銘のお菓子。
naatumeeʼidumeeʼiⓐ (名) おのおのが捜し合うこと。
naawakaiwakaʼiⓐ (名) 銘銘別れ別れ。各自別別。~ najun. 各自別別になる。~nu miitunda. 別別になっている夫婦。
naaziciⓐ* (名) 翌月。ʔunu ~. その翌月。
naazikiiⓐ (名) 名付け。命名。また、小児が生まれて七日目に名前を付けること。
nabakuimuNⓐ (名) なぶり者。からかわれる者。
nabaku=juNⓐ (他 =raN, =ti) からかう。なぶる。ひやかす。
nabaŋgasaⓐ (名) 梅毒。南蛮瘡の意。nabaru ともいう。
nabi=euNⓐ (自 =kaN, =ci) なびく。風に、また、人に、なびく。
nabigeceⓐ (名) おたま。しゃくし。鍋匙の意。汁をすくうもの。
naçiⓐ (名) 夏。
naçiʔaka=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 泣き明かす。泣いて夜を明かす。
nacibusiⓐ (名) 泣き虫。
nacibusjaaⓐ (名) 泣き虫。nacibusi ともいう。
nacigauⓐ (名) 泣き顔。
nacigeegceⓐ (副) 激しく泣くさま。泣いてしゃくり上げるさま。また、泣かんばかりに嘆くさま。~ sjooru qcu. 泣かんばかりに嘆いている人。

naçiguciⓐ (名) 初夏。夏の初め。
naçiguriⓐⓐ (名) 夏のわか雨。夕立。文語的な語。nagasi ともいう。satume huni ʔukuti muduru micisigara, huran ~ni ʼwasudi nuraci. [里前船送て戻る道すがら 降らぬ夏ぐれに 我袖ぬらち] 恋しい君の船を見送って帰る道すがら、降らぬ夕立にわが袖を濡らしてしまった。
naçigwiiⓐ (名) 泣き声。
naçiʔi=juNⓐ (自 =raN, =qci) 泣き入る。ひどく泣く。
naçikaka=juNⓐ (自 =raN, =ti) 泣きつく。泣いて訴える。泣いて、くっつかかる。
naçikasjanⓐ (形) 悲しい。mikarusii ʼNŋci naçikasiku nati nadanu ʔutitana. 銘子(組踊りの名)を見て、悲しくなって涙が出た。naçikasii sibai. 悲しい芝居。
naçikura=sjuNⓐ (自 =saN, =ci) 泣き暮らす。
naçikwaa=rijuNⓐ (他 =riN, =qti) 泣きつかれる。泣いて、くっつかかれる。
naçimakiⓐ (名) 夏負け。夏やせ。humicimaki (暑気あたり) ともいう。
nacimuniiⓐ (名) nacimunuʔii と同じ。
nacimunuʔiiⓐ (名) 泣き声、または泣くような甘え声で、ものを言うこと。
naçimuNⓐ (名) 夏着。夏物。夏の着物。
nacincebiⓐ (名) 泣きまね。~ sjun.
naciwareeⓐ (名) 泣き笑い。
nacizinaaⓐ (名) 今帰仁 (naciziN) の者。卑称。
naciziNⓐ (名) 今帰仁。(《地》)参照。
naciziNugamiⓐ (名) 行事の名。一門を代表する女が、数年おきに今帰仁 (naciziN) の城 (guʒiku) に詣でる行事。
nacooraⓐ (名) 植物名。海人草。まくり。虫下しの薬となる海草。ʔabusibaree の項参照。

na=cuN④ (自 =kaN, =ci) ⊖泣く。(悲しんで)泣く。泣きさけぶ意では ʔabijun という。⊖ [文] 鳴く。口語では、鶉の鳴くのは ʔutajun, 目白・うぐいすなど小鳥の場合は hukijun, 犬・猫・豚の場合は ʔabijun という。taruju ʔuramituti nacuga hamaciduri, ʔawan ʔirinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥 会わぬつれなさや 我身も共に] 誰を恨んで鳴くのか浜千鳥よ, 子を失って会えぬ悲しみは, わたしも同じだ。

nada④ (名) 涙。~nu ʔutijun. 涙が出る。

nada④ (名) 灘。波の高い, 航海の難所。

nadagurumaai④ (副) 涙ぐんださま。いまにも泣きそうなさま。nadagurumaajaa ともいう。~ sjooru 'warabi. いまにも泣きそうな子供。

nadagurumaajaa④ (副) nadagurumaai と同じ。~ natoon. いまにも泣きそうである。

nadajaqsan④ (形) [灘安さん] おだやかである。心安い。nadajasii kutu. 心安いこと。ʔariga nadajasikoo hwizee san hazi. 彼がおだやかに承諾はしないだろう。

nadajoosan④ (形) 涙もろい。すぐ泣く。

nadakeemun④ (名) 名高いもの。naa-ʔjuru mun ともいう。

nadi=juN④ (他 =raN, =ti) なでる。手のひらでなでる。

nadisudati④ (名) 撫育。愛育。かわいがって育てること。

naduqte'en④ (副) なめらかなさま。つるつるしたさま。kwiinu ~ sjoon. 声がなめらかである。

nagaʔaqci④ (名) 長旅。長い期間旅をすること。また, 長歩き。遠足などで長いこと歩くこと。~ sjun.

nagaʔami④ (名) 長雨。

nagaa④ (名) 長いもの。

nagabi=cuN④ (自 =kaN, =ci) 長引く。遅滞する。

nagabooi④ (名) 長長と寝ること。ねそべること。~ sjun.

nagaboojaa④ (名) nagabooi と同じ。~ sjun.

nagabui④ (名) 長降りの意。長雨。

nagaçibaa④ (名) 長居する人。長じりの者。ぞうりの裏を焼く(sabanu ʔura 'jacun.) と帰るといわれている。

nagaçibi④ (名) 長居。長じり。

nagaçizici④ (名) 長続き。~ sjun.

nagadee④④ (名) 長い間。久しい間。~ 'nndan. 長い間見ない。~nu 'janmee. 長い間の病氣。

nagadoo④ (名) 長堂。(地) 参照。

nagaduusi④ (名) ずっと。続いて。続く限り。長い間ずっと。nagiduusi ともいう。micinu ~ hanasinu teeran. 長い道のりの間, 話が絶えない。

nagagakai④ (名) 長くかかること。工事などが長引くこと。

nagagarakee④ (名) 長くかかること。効果があがらずに長引くこと。-garakee < karakajun.

nagahama④ (名) 長浜。(地) 参照。

nagahweeraa④ (名) 長長と延びたもの。へちまなど, 大変に長いもの。

nagahwicurui④ (名) (事件・病氣などが) 長引くこと。

nagahwicuruu④ (名) nagahwicurui と同じ。

nagahwicuruui④ (名) nagahwicurui と同じ。

nagaʔici④ (名) 長生き。長命。

nagaʔihjabusi④ (名) [長伊平屋節] 御前風(guziNhuu)の一つ。

nagaii④ (名) 長居。

nagajami

nagajami① (名) 長わずらい。長い間の病気。

nagajašimi① (名) 長休み。長期欠勤。

nagami① (名) 寛容。寛容性。nubi ともいう。~nu ʔaN. 寛容性がある。

nagami① (名) ながめ。眺望。

nagamici① (名) 長途。長い旅路。

nagami=juN① (他 =raN, =ti) 免ずる。
qkwani nagamiti kuneeree. 子に免じて我慢してくれ。

nagami=juN① (他 =raN, =ti) 眺める。

nagamuci① (名) 長もち。長くもつこと。
長く使用できること。

nagamuN① (名) ながもの。蛇(主として、はぶ)を忌んでいう語。

nagani① (名) 背中。kusinaganiともいう。

naganibuni① (名) 背骨。kusibuniともいうが、kusibuni は背骨の下の方を主としてさすようである。

nagani① (名) 長年。多年。

naganubito'ori① (名) 長長とねそべること。なまけ者や不健康な者のさま。

nagaNsaazi① (名) tiisaazi (手ぬぐい)の敬語。お手ふき。saazi は頭に巻く手ぬぐい。

-nagara (助) ながら。とはいうものの。ではあるが。tuzi~ nihweendi ʔumujun. 妻ながらありがたいと思う。

nagara=juN① (自 =aN, =ti) [文] 長らえる。生き長らえる。

nagari① (名) ㊦流れ。㊦質流れ。

nagaribuunii① (名) 舟遊び。舟に乗って遊ぶこと。

nagari=juN① (自 =raN, =ti) ㊦流れる。
㊦質流れする。

nagasaN① (形) 長い。時間についても距離についてもいう。

nagasi① (名) 夏の通り雨。夕立。流すように降ってすぐ晴れる雨。

naga=sjun① (他 =saN, =ci) ㊦流す。㊦質

に流す。

nagaʔuui① (名) 長追い。長い間追いかけること。遠くまで追いかけること。ʔinca-boo muqci ~ sjun. 短い棒を持って長追いする。充分なよりどころがないのに、しつこく追求する。

nagaʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔugu-siku の項参照。

nagaza① (名) 長座。長居。~ sjun.

nagee① (名) 長い間。長らく。久しく。~ kangeejun. 長い間考える。~ najuru kutu. 長いこと。

nageesaN① (形) 久しい。時間が長かつた。ʔicatikara ~. 会ってから久しい。nageesa 'jaa. 久しぶりだねえ。nageesa 'uganabirantašiga, tuncee gusuujoo ʔusawain saamišeebirani. 長いことお目にかかりませんでした。お宅は皆様お変わりもございませんか。

nagi① (名) 長さ。

nagihakaree① (名) 投げ散らすこと。

nagiduusi① (名) ずっと。続いて。続く限り。長い間ずっと。nagaduusi ともいう。kumakara ʔamamadi ~ 'jaanu gi-zicoon. ここからあそこまでずっと家が続けている。~nu kii muru maagidu 'jaru. 見渡す限りずっと松だ。

nagiee① (名) 投げあい。

nagigwii① (名) 自分の用だけ言って、返事を聞かずに立ち去ること。投げ声の意。

nagihoorii① (名) 投げ散らしておくこと。投げやり。

-nagii (接尾) ころ。あたり。時についていう。cuunagii (きょうあたり), 'jaanna-gii (来年ごろ), ʔacanagiija nukuku najusa. (あしたあたりは暖かくなるよ)など。

-nagiina (接尾) …ながら。…しているのに。…にもかかわらず。逆説の場合に用いる。ʔumiinagiina (思いながら、思って

いるのに), sirinagiina (知りながら, 知っているのに), ʔujanu ʔjaanu mee tuuinagiina nubagain san. (親の家の前を通りながら, 寄りもしない) など。
nagi=juNⓄ (他 =ran, =ti) 投げる。
nagin=cuNⓄ (他 =kan, =ci) 投げ込む。
nagu① (名) 名護。《地》参照。
nagudaki① (名) 名護岳。国頭地方にある山の名。
naguiⓄ (名) 豚に食わせる人糞。便所に豚を飼い, 人糞を食わせたのでいう。
nagumagaiⓄ (名) 名護湾。
naguraNⓄ (名) 植物名。蘭の一種。名護蘭 (なごらん)。名護は地名。観費用。
naguriⓄ (名) ⊖なごり。心残り。hujakariti ʔatunu ~ neN gutuni kataiçiku-sariru kuizi ʔarana. [ふやかれてあとの名残無ぬごとに 語りつくされる 恋路やらな] 別れたあとの心残りがないぐらいに, 充分語りつくされる恋であればよいがなあ。~nu ʔan. (別れて) 心残りをする。⊖あらしなどの余波。ʔuukazinu ~ni ʔuminu ʔaritoon. 台風の余波で海が荒れている。
nagurisjaNⓄ (形) なごり惜しい。
nagusami① (名) 慰め。慰安。
nagusami=juNⓄ (他 =ran, =ti) 慰める。
nagusa=nuNⓄ (他 =man, =di) 慰むに対応する。(自分を) 慰める。文語的な語。ʔutaNdee ʔjudi duu ~. 歌でもよんで自分の心を慰める。
nahuda① (名) 名札。名前を書いた札。
nahwaⓄ (名) 那覇港。港の名としての那覇。町の名としてはふつう naahwa という。
nahwajuʔmaciⓄ (名) [那覇四町] 旧行政区画による那覇の四つの町。
naiⓄ (名) なり。ありさま。身なり。san-zaNni ʔaçiri kunu ~ju ʔjariba. [散々にやつれ このなりよやれば (花売之縁)]

ひどくおちぶれて, このありさまであるから。

naiⓄ (名) 実。果実。くだもの・瓜など, 大きなものをいう。小さな実は muqkuu (つぼみの意もある) という。

-nai (助) へ。に。の方へ。の所へ。のそばへ。人・動物を表わす語に付く。ʔari~ ʔicuN. 彼の所へ行く。ʔjaa çikataru ʔuja~ ʔiki. おまえを遣わした親の所へ行け(夜など, 捕えた虫を放す時にいうことば)。

naici=juʔNⓄ (自 =ran, =qci) なりきる。すっかり…になる。nusudu naiciqoon. 泥棒になりきっている。

naičiziⓄ (名) 果実になりかかった小さい粒。

-naigataa (接尾) なりかけ。ʔwinagunai-gataa* (女になりかけ), ʔuhuqçunaigataa (おとなになりかけ), ʔatabicaanai-gataa (蛙になりかけ。足のはえたおたまじゃくし) など。

naihaNci① (名) 唐手の型の名。

naihan=sjuʔNⓄ (自 =san, =ci) ⊖なりそこなう。sinsii ~. 先生になりそこなう。⊖不成功に終わる。できそこなう。sigutunu ~.* 仕事が不成功に終わる。

naikuziri=juʔNⓄ (自 =ran, =ti) できそこなう。悪い結果になる。

naikuzirimuNⓄ (名) できそこない。できそこないの物, または人間。

naimuNⓄ (名) 「なりもの」に対応する。果実。くだもの。

naimuN① (名) 鳴り物。楽器の総称。

naiuuⓄ (名) バナナのなる芭蕉。実芭蕉。

najagaimuN① (名) 自負心の強い者。思いつ上がっている者。うぬぼれた者。

najaga=juNⓄ (自 =ran, =ti) ⊖[文] 名が高くなる。名があがる。kunu takini ʔwanuN najagajai ʔuşıga, cini kanoo ʔwinagu subani mata ʔuran. [此たけ]

に我も なやがやり居すが 気に叶ふ女
側にまた居らぬ (大川敵討)] これだけわ
たしも名があがっているが、心にかなり女
が側にはいない。⊖思い上がる。うぬぼれ
る。思い上がって出しゃばる。duubikeei
najagati. 我こそはと思ひ上がって。
ʔaree caa ~ doo. 彼はいつも思い上
がって、でしゃばっているぞ。

na=juNⓐ (自 =raN, =ti) ⊖(ある状態に)
なる。ʔuhuŋcu ~. おとなになる。ha-
takinu moo ~. 畑が野となる。cuuku
~. 強くなる。⊖行く。寄る。ʔamaNkai
naree. あっちに行け。⊖できる。なしう
る。なる。kuree 'waagan ~. これはわ
たしでもできる。kunu sigutu ʔjaaga
najumi. この仕事が君にできるか。~.
できる。naraN. できない。sandaree
naraN. しなければならぬ。せねばなら
ぬ。saNcuN ʔaree naraN. ともいう。
naraa. できれば。なるべく。naraa ʔi-
cuŋsee masi. なるべく行った方がいい。
naraa ʔjanKuru kakec. なるべくおま
え自身で書け。naree. なるべくなら。

na=juNⓐ (自 =raN, =ti) (実が) なる。
kunibunu ~. オレンジがなる。

na=juNⓐ (自 =raN, =ti) 鳴る。kaninu
~. 鐘が鳴る。

nakaⓐ (名) 仲。naaka (仲) と同じ。~
sjuN. 仲裁する。仲をとりもつ。また、
媒介する。

nakaⓐ (名) naaka (中) と同じ。

nakabaⓐ (名) なかば。中間。半分。

nakabasiruⓐ (名) 部屋の間を仕切る板の
引き戸。板のふすま。

nakabiⓐ (名) なかぞら。中空。中天。ca-
taN mosizaniga ʔutagwi ʔucizasiba,
~ tubu tuiN 'jududi cicusa. [北谷真牛
ぎやねが 歌声打出せば なかべ飛ぶ鳥も
よどで聞きゆさ] 北谷まうし (女歌手の
名) が歌を歌い出せば、中空を飛ぶ鳥もと

まって聞く。

nakaciⓐ (名) 仲地。《地》参照。

nakadaⓐ (名) 仲田。《地》参照。

nakadaciⓐ (名) ⊖なこうど。結婚の仲立
ちをして、結婚式の時 niibicinCu (その
項参照) を務める人。⊖仲立ち。仲介。

nakadumaiⓐ (名) 仲泊。《地》参照。

nakagudeeⓐ (名) 歴史時代。nakanKasi
(中昔) ともいう。kamigudee (先史時代)
に対していう。

nakaguruⓐ (名) 中ごろ。

nakaguŋikuⓐ (名) 中城。《地》参照。

nakaguŋikuha'Ntameebusiⓐ (名) [中城
はんた前節] 御前風 (guzinhuu) の一つ。

nakaguuⓐ (名) [中子] 芯。中心部にある
もの。植物の種子の部分。葉などの中に包
みこまれた部分など。ʔNmunu hwaja
ʔNbuci, dakinu hwaja dakaci, sutiŋi-
banu nakagu ʔumui misjori. (童謡) い
もの葉は蒸して、竹の葉は抱かせて、そて
つの葉が包んだ芯のように、心から思っ
て下さい。

nakahuduⓐ (名) 仲程。《地》参照。

nakahuuⓐ (名) [仲風] 歌の形式の一つ。
和歌と琉歌の混合した形式のもの。七・七・
八・六の形をもつ。ʔimahuu ともいう。こ
とばも本土方言と沖縄方言の混合である。

nakaʔiibiⓐ (名) 中指。

nakaʔiriⓐ (名) 仲介。周旋。仲立ち。

-nakai (助) に。の中に。存在する場所を表
わす。sjui~ ʔataru hanasi. 首里にあっ
た話。maa~N neeN kutu. どこにもない
こと。ʔama~ ʔuminu miijuN. あっち
に海が見える。ʔamanu mici~ 'juurii-
nu ʔNzitootaNdisa. あの道におぼけが
出たということだ。

nakajaŋimiⓐ (名) 中休み。仕事の途中で
しばらく休むこと。

nakajukuiⓐ (名) nakajaŋimi と同じ。

nakamaⓐ (名) 仲間。《地》参照。

nakamaⓐ (名) 名嘉間。《地》参照。

nakameeⓄ (名) 茶の間。居間。家の中央にあり、中庭に面している部屋。遊郭では表の出入り口をいう。

nakamiⓄ (名) 豚などの小腸。食物としての名。～nu šiimUN. 料理名。豚の小腸を炙にした吸いもの。

nakanuiⓄ (名) 一合拵。正確には ʔici-goonakamui という。

nakamuigwaaⓄ (名) 五勺拵。gusjaaku-nakamui ともいう。

nakamukasiⓄ (名) 中昔。nakagudee ともいう。ʔuhunkasi (大昔。先史時代) に対して、歴史時代をいう。

nakamuutuⓄ (名) ʔuhumuutu (本家の先祖) に対して、中ごろの先祖、すなわち分家の先祖をいう。

nakanisiⓄ (名) 仲西。《地》参照。

nakaniwaⓄ (名) 中庭。中門の中にある庭。

nakanooiⓄ (名) naakanooi と同じ。

nakaNdakariⓄ (名) 仲村渠。《地》参照。

nakaNmiⓄ (名) 仲嶺。《地》参照。

nakaraⓄ (名) なかば。半分。半量。量・距離などについていう。nakaraa neeN. 半分は無い。

nakaramiciⓄ (名) 中途。道・事業などのなかば。micinakara ともいう。

nakaraNuaciⓄ (名) 無理に泣こうとすること。子供が泣いておとなを牽制しようとする時などにいう。～du ʔjaru. 無理に泣こうとしているんだよ。

nakarawataⓄ (名) 腹半分。腹半分食べること。ʔwatanakara ともいう。

nakasimaⓄ (名) [中島] 那覇にあった遊郭の名。

nakatageeⓄ (名) ⊖中途半端。帯に短く、たすきに長いこと。⊖女が婚期を逸していること。

nakatiiⓄ (名) 中の物。中手。大中小など三種ある場合の中のもの。

nakazaⓄ (名) 仲座。《地》参照。

nakazatuⓄ (名) 仲里。《地》参照。

nakaziciⓄ (名) 織機の器具の名。布を織る時、経糸を上下に分けてまん中に入れるもの。

nakazinⓄ (名) ⊖中心。中央。まん中。面の中心。また、屋敷の場合は前面の中央。⊖果実の芯、身体の中心部など。

nakaziruⓄ (名) 三味線 (sansin) の二の糸。中弦。

nakazuiⓄ (名) 中剃り。男が髪を結っていた時代、頭髪の中央部だけを剃ること。前額部にかけて剃る本土の月代(さかやき)とは形が異なる。

nakazuniⓄ (名) 仲宗根。《地》参照。

nakeemaⓄ (名) 仲栄間。《地》参照。

nakeemaⓄ (名) 仲井間。《地》参照。

nakooⓄ (名) 仲尾。《地》参照。

nakoosiⓄ (名) 仲尾次。《地》参照。

nakugamihooⓄ (名) [中頭方] 沖縄の旧行政区画の名で、のちの中頭郡。

nakunakuⓄ (名) 泣く泣く。tuzimiitu cutukuruni kurasigata naran, ~N tatu mituja ʔwakati hataracai…[妻めいと一所に暮し方ならぬ 泣く泣くも二年三年や 別て働きやり…(花売之縁)] 夫婦ひとところに生活できない。泣く泣く二、三年は別れて働いて…。

namaⓄ (名) なま。食物の煮たり焼いたりしてない状態。

namaⓄ (名) ⊖今。また、現在。現代。～kara. 今から。～nu qcu. 現代の人。⊖いまに。もう。もうすぐ。やがて。～ʔutijuN doo. いまに落ちるぞ。～cuusa. もうすぐ来るよ。

namacaaⓄ (名) 気の荒い者。向こう見ず。無鉄砲者。

namaciⓄ (名) 気の荒いこと。向こう見ず。無鉄砲。～na muN. 気の荒い者。

namaçiburujanⓄ (名) 軽い頭痛。

namadiiⓄ (副) いまだに。こんなに遅く

なっても。まだ。naguja 'janbarunu
 Zicihatiga 'jajura, namadi nagubuninu
 ?atija neraN. [名護や山原の 行き果て
 がやゆら なまで名護船の あてやないら
 ぬ] 名護は山原のはてであろうか。こんな
 に遅くなっても、名護通いの船の便りもな
 い。～ kuunſiga caa sjuga. まだ来ない
 が、どうするか。～ nati guburii natoo-
 N. こんなに遅くなって失礼しました。

namagata① (名) 今しがた。ちょっと前。
 namasaci ともいう。

namaguru② (名) 今ごろ。

namagurusi③ (名) なま殺し。半殺し。

namakugasi④ (名) kugasi (すりつぶし
 た米のかゆ) の煮ないもの。悪酔をさます
 のによい。kugasi の項参照。

namamizi⑤ (名) なま水。

namamunusiri⑥ (名) 半可通。いいかげ
 んな物知り。

namamuN⑦ (名) なまもの。煮たり焼いた
 りしてないもの。

nama?Nmu⑧ (名) なまのさつまいも。

namaraa⑨ (名) namarimun と同じ。

namari⑩ (名) 鉛。sirukani ともいう。そ
 の項参照。

namari=juN⑪ (自 =raN, =ti) ①なまる。
 刃の切れ味がにぶる。②おどける。不まじ
 めになる。また、ずりずりしくなる。

namarimuN⑫ (名) おどけ者。また、ずり
 ずりしい者。namaraa ともいう。

namasaci⑬ (名) いまさつき。いましがた。
 namagata ともいう。

namasan⑭ (形) ①なまである。煮えて(焼
 けて) いない。②無神経である。無感覚で
 ある。また、ずりずりしい。

namaſi⑮ (名) 料理名。なます。魚をなま
 のまま酢であえたもの。

namasibai⑯ (名) あぶら汗。病気の時、
 苦しい時などに出る汗。

namasiraga⑰ (名) 生絹。すずし。縷らな

い生糸で織った布。薄くて、軽い。

namatari=juN⑱ (自 =raN, =ti) ①なまけ
 る。②病気が長引く。病がなまける意。

namatarimuN⑲ (名) なまけ者。

namatee⑳ (名) おどけ者。

namauu㉑ (名) 芭蕉布の一種。煮てない芭
 蕉から糸を抜いて織ったもので、白色。

namawaree㉒ (名) 薄笑い。嘲笑的にや
 にや笑うこと。

namazibuN㉓ (名) 今時分。今ごろ。

namazimu㉔ (名) 生き肝。殺したばかり
 の人畜の肝。

namazira㉕ (名) ①ずりずりしい顔。厚顔。
 恥知らずの顔。②おどけた顔。

namaziraa㉖ (名) ①厚顔な者。ずりずり
 しい者。②いつもおどけ顔をしている者。
 おどけ者。

namazirimuN㉗ (名) namaziraa と同じ。

namazisi㉘ (名) ①なま肉。なまの肉。②
 無神経な人間。ずりずりしい人間。nama-
 zisjaa ともいう。

namazisjaa㉙ (名) 無神経な人間。ずりず
 りしい人間。

namee㉚ (名) 人の名前。人名。物の名は
 naa という。

nami㉛ (名) 波。

nami㉜ (名) 並み。平凡。普通。～nu
 mun. 普通のもの。

namida㉝ (名) [文] 涙。口語は nada。

namikazi㉞ (名) ①波風。波風のあること。
 ②世間の波風。

namimusi㉟ (名) namimusjaa と同じ。

namimusjaa㊱ (名) なめくじ。namimusi
 ともいう。

namiti㊲ (名) 平均して。一般に。総体に。
 概して。kunu muranu qcoo ~ 'iiqcu
 'jan. この村の人は概していい人だ。～nu
 kutu 'jan. 一般的なことだ。

namuzaa㊳ (名) 道理のわからぬ者。わか
 らずや。

nana① ⊖(感) なな。ななつ。声を出して数える時だけいう。⊖(接頭) なな。七。**nanahwani** (七羽), **nanakeen** (七回) など。
nanaci① (名) ななつ。七。また、七歳。時刻の場合は午前午後の4時。
nanacibusi① (名) 七つ星。北斗七星。
nanahwiru① (名) 七尋。女物の着物一着分の長さ。女物の布一反。
nanahwiruNna`akari① (名) 七尋半。男物の着物一着分の長さ。男物の布一反。
nanajuhwii① (名) **nanajuhwiibaka** の略。
nanajuhwiiba`ka① (名) **nanajuhwii** は七度身請けする意。親のため七度身を売り、七度身請けしたという伝説のある孝子の墓。その付近の地を **naneehwa** という。
nanajumi① (名) 七よみ。織機の篋(おさ)の種類の名。経糸560本を通す。またそれで織った布。最も目が荒く、芭蕉布などの粗末な織物である。**huduci**の項参照。~**tu hateN kasi kakiti ꞑucoti, satuga ꞑakezubaniNsuju şirani**。(hateenの項参照)
nanakumui① (名) 1銭4厘。**ziN**(銭)の項参照。
nanakumuigu`Nzuu① (名) 1銭5厘。**ziN**(銭)の項参照。
nananaNka① (名) **sizuukunici**と同じ。
nanatai① (名) 七人。普通は **siciniN** という。
nanawazaN① (名) 非常ににがにがしい顔をすること。苦虫をかみつぶしたような顔をすること。
naneen① (名) **nanajumi**と同じ。
nanibuN① (名) **naNbuN**と同じ。
nanigasi① (名) なにがし。人の名がわからないとき用いる語。**ꞑjaaja maanu ~ga**。おまえはどこの何という者か。
nanui① (名) 名乗り。士族以上の男子が成

人してから、名乗る実名。島袋盛敏・比嘉春潮などの、盛敏・春潮は名乗りである。
'warabinaa (童名) に対する。

nanuigasira① (名) 名乗りの頭に用いる字。氏によって一定していて、たとえば、尚氏・向氏は朝、毛氏は喜・栄・盛・宗・安・清、馬氏は維・良・正・厚、翁氏は忠・重・盛・可、など。なお、尚・向の両者はともに **sjoo** と読まれるが、前者は王子以上の家柄に限られている。

nanu=juN① (自 =**raN, =ti**) ⊖名乗り (**nanui**) を付ける。**ꞑjaaja nanutoomi**。おまえは名乗りを付けたか。⊖[文] 名乗る。**nanuti ꞑNziree**。名乗って出よ。

na=nuN① (自 =**maN, =di**) ⊖[文] 並ぶ。⊖揃う。平均している。(同等なものが) 並ぶ。**nadoon**。揃っている。**nadaru curasa**。揃ってどれも美しい。

naN① (名) ⊖難。災難。⊖難。欠点。

naN-(接頭) 何。**naNdu**(何度), **naNniN**(何年) など。

nanban① (名) ⊖南蛮。⊖**naNbaNgaami** の略。

nanbaNgaami① (名) 南蛮焼き。南洋から渡来した素焼きの甕。酒を入れると味がよくなるというので重宝がられる。単に **naNban** ともいう。

nanbeci① (名) 斜め。真正面でないこと。また、傾いていること。

nanbee=juN① (他 =**raN, =ti**) ⊖傾ける。斜面にする。⊖斜めにする。真正面に向かせない。

nanbici① (名) 何匹。

nanbuN① (名) なにぶん。**nanibuN** ともいう。~**nu hwizi cikaşee**。なにぶんの返事を聞かせろ。

naŋcɪci① (名) こげ付き。こげて鍋などに付いたもの。

naŋcɪkaza① (名) 飯などのこげつくにおい。こげくさいにおい。

naNdeesii

naNdeesii①(名) 桑の実。おもに農民が使う語。首里では kwaaginu muqkuu ということが多い。

naNdu①(名) 何度。幾度。

naNduci①(名) 何時(なんじ)。時刻を尋ねるときに使う。

naNdurumici①(名) すべりやすい道。ぬかるみになった道。

naNdurumuN①(名) すべっこいもの。すべりやすいもの。zinoo ~。銭は失いやすいもの。

naNdurnusaN①(形) すべっこい。なめらかである。つるつるする。

naNduruu①(名) すべっこいもの。

naNka①(名) 人が死んで七日目ごとに行なう法事。なぬかごとの法事。月の第七日および七日間の意では sicinici という。hacinanka(初七日), tananka(ふた七日), minanka(み七日), 'junaNka(よ七日), 'içinanka(いつ七日), munanka(む七日), sizuukunici または nanananka(四十九日, なな七日) など。

naNkanusiku①(名) 正月7日の節供。若菜を雑炊に入れて祝う。

naNku①(名) 遊戯の名。短く折った箸などを手の中ににぎって差し出し、その数を当てさせるもの。何個。

naNkuru①(副) ひとりでに。自然に。~ miijun. 自然に生える。

naNkurumii①(名) 自生。野生。-mii <miijun.

naNkwaa①(名) かぼちゃ。caNkwaa ともいう。

naNmaçi①(名) 松並木。

naNnici①(名) 何日。幾日。月の第何日の意では 'içka という。

naNniN①(名) 何人。幾人。

naNniN①(名) 何年。幾年。

naNnuukaN'nuu①(名) 何のかの。文句をいうこと。~ sjun. 何のかのと言う。~

nu 'uhusaN. 何のかのと文句が多い。

naNsaN①(名) 難産。

naNsiN①(名) 難船。

naNza①(名) 銀。

naNzatu①(名) 並里。《地》参照。

naNzaziihwa①(名) 銀のかんざし。土族の女子が使う。

naNzi①(名) 難儀。苦勞。'wakasaininu naNzee kootin Qsi. 若い時の難儀は買ってでもした方がよい。

naNziku'Nzi①(名) たくさんの難儀。多くの苦勞。~nu 'uhusaN. 苦勞が多い。~ sjun.

naNzu①(副) たいして。それほど。~ 'iimunoo 'araN. たいしていいものではない。~ dikiraN. たいしてできない。

naNzuu①(名) いさかい。悶着。もめごと。「難波」に対応する。

naNzuuhwinzuu①(名) ごたごた。もめごと。~ sjun. ごたごたともめる。~nu 'içpee 'a. もめごとがたくさんある。

-naQ'kwee(助) などと。なんて。なんか。'uNcuu~ 'jaaga 'jariimi. おじさんなどとおまえが心安く言えるか。'warabinu 'Nzitooti saki numasi~, soouusaN. 子供のくせに酒を飲ませろなどとおこがましい。'jakooi tatan sjooti qsa~ndi 'içi. 役に立たないくせにやりましょうなどと言って。

naQtuu①(名) 料理名。本土の納豆とは異なる。'Nmuqaçi(その項参照)をこねて煮たもの。砂糖・ごまなどを加えたものは saataanaqtuu という。

naraasi①(名) ⊖教育。しつけ。'warabee ~nu muN. 子供はしつけがもっとも大切だ。⊖習慣。習性。

naraa=sjun①(他 =saN, =ci)教える。習わせる。munu'iijoo ~。ことば使いを教える。naraasaqtoon. イ。教えられている。ロ。そそのかされている。入れ知恵さ

- れている。
- naraba**Ⓞ (副) [文] できれば。なるべく。
口語は *naraa*。<*najuN*。
- narabi**Ⓞ (名) 並び。また、並んでいる隣。
gaqkoonu ~。学校の隣。
- narabi=juN**Ⓞ (他 =*raN*, =*ti*) 並べる。
- nara=buN**Ⓞ (自 =*baN*, =*di*) 並ぶ。列を作る。
- nara=juN**Ⓞ (他 =*aN*, =*ti*) 習う。学ぶ。教
えを受ける。
- narasi**Ⓞ (名) 衣紋竿。衣紋竹。竿を横に渡
し、何枚も着物を掛けるようにしたもの。
- narasi**Ⓞ (名) 平均。 *tunami* ともいう。
- narasi**Ⓞ (名) 薬指。無名指。 *narasi?iibi*
ともいう。
- narasi?iibi**Ⓞ (名) 薬指。単に *narasi* と
もいう。
- nara=sjuN**Ⓞ (他 =*saN*, =*ci*) ⊖平らにする。
ならず。⊖ならず。平均する。 *tunami-
jun* ともいう。 *naraci caqsaga*。平均し
ていくらか。
- nara=sjuN**Ⓞ (他 =*saN*, =*ci*) 粉にする。碾
(ひく)。ひき臼で粉に砕く。
- nara=sjuN**Ⓞ (他 =*saN*, =*ci*) (楽器などを)
鳴らす。
- naree**Ⓞ (名) 習わし。習慣。 *?urandaanu*
~*ja guriiya saN*, *tiidu nizijuru*。西洋
人の習わしは、お辞儀はしないで、手をに
ぎる。「…のことであるので」という軽い
意味にも用いる。 *?janbaru nu nareja ?a-
danibanu musiru*, *sikaba ?irimisjori*
sjuinu sjunume。 [山原のなれや 阿旦
葉のむしろ 敷かば入りめしやうれ 首里
の主の前] 山原のこととて阿旦の葉のむし
ろしかありませんが、敷いたらお入り下
さい、首里の旦那様。
- naree** (接尾) 習い。習うこと。練習。 *si-
minaree* (学問), *munbaree* (作法など
を習うこと), *?wiizinaree* (泳ぎの練習)
など。
- nareja**Ⓞ (副) [文] なるべく。なるべくな
らば。できることなら。口語は *naree*。<
najuN, *?iqtaazooni macumi*, *kazima-
jani macumi*, ~ *kazimajaja masija*
?arani。 [いつた門に待ちゆめ 風回に待
ちゆめ ならいや風回や ましやあらね]
きみの家の門で待つか、四つ角で待つか。
なるべくなら四つ角がよくはないか。
- nari**Ⓞ (名) 慣れ。習慣。 *naree* ともいう。
~ *natoon*。習慣となっている。
- narihuzi**Ⓞ (名) [文] 姿。みなり。容姿。
satuja ~*nu sigata tuimišera*, *'wamija*
sinasakinu 'indu tujuru。 [里やなりふ
じの 姿取りめしやいら わみやしなさけ
の 縁ど取ゆる] あなたは容姿の美しいの
をお取りになるでしょうが、わたしは情愛
の深い縁を取ります。
- narijuci**Ⓞ (名) [文] なりゆき。いきさつ。
てんまつ。
- nari=juN**Ⓞ (自 =*raN*, =*ti*) ⊖(人に) 慣れ
る。親密になる。なじむ。 *?icigu mama-
tumuti ?ikataren sjašiga*, *satuja ci-
mu kawati ?jusuni nariti*。 [いちごま
もて い語らひもしやすが 里や肝変て
他所に馴れて] 一生涯一緒になると思っ
て語らいもしたが、君は心変わりして他の女
と親しくなってしまった。⊖(ものごとに)
慣れる。習熟する。習慣となる。⊖(酒な
どが) なれる。しっとりとしたよい味にな
る。
- narimuN**Ⓞ (名) 割れ物。陶磁器の類。割
れるという語を思んで鳴り物といったもの
か。ただし、楽器類の鳴り物は *naimun*
という。
- narimuNdo'ogu**Ⓞ (名) 瀬戸物類。皿・茶
碗などの道具。
- narisumi**Ⓞ (名) [文] なれそめ。
- narubici**Ⓞ (副) なるべく。なるだけ。~
kuujoo。なるべく来いよ。 *narubicee 'ii-
mun tujun*。なるだけいい物を取る。

naruhudu

naruhudu① (副) [文] なるほど。口語では 'Nca という。

nasaga=sjuN① (他 =saN, =ci) 陰口を言う。

nasaki① (名) ⊖[文] 情。あわれむ心。～
ʔati kakusi nubinu hanašišici, taiga
tamanuunu ʔusisa ʔaraba. [情あて
かくせ 野辺の花薄 二人が玉の緒の
惜しさあらば] 情をもって隠してくれ、野
辺のすすきよ、ふたりの命を惜しいと思
うなら。⊖愛のしるし。男女間の贈り物。
nuun ~N 'iitee 'uraN. 何も愛の贈り
物ももらってはいない。

nasifağa=jun① (他 =raN, =ti) 生みあげ
るの意。子を何人が生んでのち、生まな
くなる。また、(鶏が) 卵を生まなくなる。

nasigwa① (名) 生みの子。生んだ子。愛
児。ʔamori sici 'wamija 'juminu-
du 'jašiga, tageni narisumiti ~ 'wane
hutai. [天降してわ身や 夢の間どやす
が 互になれ染めて なし子わな二人
(銘苺子)] 天から降りて来て、わたしは夢
のように過ごしたが、その間に男と愛し
合って生んだ子がわたしにはふたりある。

nasihanZoo① (名) 出産。単に hanZoo と
もいう。~ sjun. 出産する。

nasihwi'rugi① (名) 子孫をふやすこと。
繁殖。

naši=juN① (他 =raN, =ti) なする。なす
りつける。塗りつける。ʔanda ~. 油を
なすりつける。

nasimee① (名) お産の前。産前。

nasimii① (名) 里方。kusjaticata (嫁入
り先) に対していう。~nu kutu sjun.
里方への補助をする。

nasimuNnuQkwa① (名) 生みの子。

naširee=juN① (他 =raN, =ti) かんべんす
る。おだやかに許してやる。宥恕する。ま
れな語。

nasisu'dati① (名) 生み育てること。

nasifuja① (名) 生みの親。

nasifutu=sju'N① (他 =saN, =ci) 生み落と
す。

nasizici① (名) 産み月。臨月。

na=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖(ある状態に)
する。なす。Qkwa qcunu 'Nza ~. 子
を人の召使にする。ʔariga tuzi ~. 彼
の妻にする。curaku ~. 美しくする。
⊖移す。移動させる。寄せる。kuma-
Nkai našee. こっちに場所を移せよ。

na=sjuN① (他 =saN, =ci) 生む。Qkwa ~.
子を生む。nacaru ʔujajaka sudatinu
ʔuja. 生みの親よりも育ての親。nasi-
mijun. 生ませる。

nauri① (名) [文] 名折れ。ticini kubi
magiti koosaNju širaba businu minu
~…[敵に首曲げて 降参よすらば 武士
の身の名折…(忠臣身替)] 敵に首を曲げて
降参をすれば、武士の身の名折れ…

nawaasjan①* (形) 似合わしい。似つかわ
しい。ふさわしい。nawatoon (<nawa-
juN) を多く用いる。nawaasikoo neen.
似つかわしくない。nawaasii mun. 似
つかわしいもの。

nawai①* (名) 似合い。似合うこと。つり
合うこと。~nu 'winagoo 'uranga 'jaa.
似合いの女はいないかなあ。

nawa=juN①* (自 =raN, =ti) 似合う。つり
合う。ちょうどよい。ciNnu 'juu nawa-
toon. 着物がよく似合っている。tusi-
hudunu ~. 年ごろである。takihudunu
nawatoon. 背たけがちょうどよい。'juu
nawatooru miitunda. 似合いの夫婦。

nažasi① (名) 名ざし。指名。

nažatu① (名) 名里。(地) 参照。

nažiki① (名) そぶり。ふり。migi husja-
ja nažiki tawahuridu 'jajuru. [水欲
しややなづけ たはふれどやゆる (手水之
縁)] 水が欲しいのはそぶりだけで、たわ
むれであろう。šikaN ~ Qsi.* 好かぬふ
りをして。

-nazikii (抜尾)…するふり。'juminazikii (読むふり), ?aQcinazikii qsi kuma 'NNcootan. (歩くふりをしてこっちを見ていた) など。

nazimaⓄ (名) 名目だけの領地。名のみあって実在しない領地。～'uganuN. 名前だけの領地をいただく。沖縄は土地が狭いために有名無実の論功行賞として与えられることがあった。

nazinataⓄ (名) なぎなた。

nazinatasabaⓄ (名) はきくずして長くのびた草履。

neeⓄ (名) 地震。～nu 'jujuN. 地震が起きる。

neeⓄ (名) 苗。

nee① (名) 似合い。似合うこと。ふさわしいこと。つりあうこと。niee, niieeともいう。'iinee 'jasa. よい似合いだ。

-nee (助) (…する) ように。(…した) ごとく。比喻の場合に用いる。hwiNsuumuNnu taka 'iitan～. 貧乏者が鷹をもらったように。'juumigi cikajuN～ zin cikajuN. 湯水を使うように銭を使う。nuuzinu taqcooN～ qsi curasatan. 虹が立ったようにきれいだった。

neebiⓄ (名) まね。動作・表情などのまね。すなわち、外面的なまねごとをいう。一方、mani は模倣して見習うこと。saarunu qeunu ～ sjuN. 猿が人まねをする。

neebuNⓄ (名) 内分。内内。公にしないこと。～nu hanasi. 内分の話。

neeciriⓄ (名) 着物のあげ。縫いあげ。

neequuⓄ (名) [文] 内通。YiruYiruni Yiimawaci rakucakuju simiti, huminu kajuwasini ～ju širiju. [色色に言ひまわち 落着よしめて 文の通はしに 内通よすれよ (忠臣身替)] いろいろに言い抜けて敵を安心させ、手紙で内通してくれ。

neegaaⓄ (名) neeguu の単称。neezaa ともいう。

neeguuⓄ (名) 足の動きが不自由なもの。びっこ。ちんば。guunaa ともいう。< neezuN.

nee=juNⓄ (自 =raN, =ti) 萎える。(草木などが) しおれる。しなびる。活力がなくなる。tiidanu ～. 日ざしが弱る。

nee=juN① (他 =raN, =ti) 差し出す。前に出す。突き出す。šiba ～. 舌を出す。tii ～. 手を差し出す。tii ?NzasjuN. (手を出す) はげんかになる意。zin ～. 金を差し出す。

neekaⓄ (名) ①今晚。今夜。きょう来るべき晩をいう。すなわち、朝・昼に今晚についていう語。～nu 'juru ともいう。夜に今晚のことをいう時には単に cuu (きょう) を用いる。②死後。死んだあと。～ qsi kwijuru qeun 'uran. または ～ nati ?atu qsi kwijuru qeun neeraN. とともに、死んだあとを見してくれる人もいない。

neemaiⓄ (名) せがむこと。(子供が) ねだること。

neemiⓄ (名) 縫い目。

neeneeⓄ (名) 内内。ひそかに。～ YicuN. ひそかに行く。～nu hanasi. 内内の話。

neenⓄ (自・不規則) ①無い。?aN (ある) の打ち消し。neeraN ともいう。neejabiraN. ありません。～ nasjuN. 無くする。～ najuN. 無くなる。～ 'jaa. 無いねえ。～ga 'jaa. 無いかなあ。～ga ?ara. 無いだろうか。neenuN ?araN. 無くもない。'judee ～. 読んでない (judeeN—読んである—の打ち消し)。cinu ciijoonu ～, hwiciciikaacii qsi. 着物の着かたがなっていない、あっちこっち引きつって。nesami. [ないさめ] [文] ないだろう。②…してしまった。kadi ～. 食べてしまった。'judi ～. 読んでしまった。nutunganaasi baqpeeti ～ muN. 何となしに間違えてしまったんだもの。

neeraNⓄ (自・不規則) neen と同じ。

neeraNmuNⓄ (名) 無いものと思ってしまっておく物。金など、あると思うと使ってしまうので、無いこととして、大事にとっておくこと。

neesjuuⓄ (名) 内証。内密。

neesjuubanasiⓄ (名) 内証話。

neetukeetuⓄ (名) 似合い。似たり寄ったり。同じ程度。甲乙なし。多くは、程度が低い場合にいう。～nu miitunda. 似合いの夫婦。duNnasaa ～. 愚鈍さはどちらもどっちだ。

neezaaⓄ (名) neegaa と同じ。

nee=zuNⓄ (自 =gan, =zi) 「蹇ぐ」に対応する。足が不自由で歩行できない。

-ni (助) ⊕に。najuN (なる), nasjuN (する) などをういて「…になる」「…にする」などの意を表わす場合には、ふつう助詞をういない。sinsii naibusjan. (先生になりたい), taruu hwiitai nasjuN. (太郎を兵隊にする) など。また「に」に相当する助詞には、ほかに、-nkai, -nakai, -kai, -nai, -ga (それぞれの項参照) などがあるので -ni の用いられることは比較的少ない。kurumani nusijun. 車にのせる。ʔujani kanasja sarijun. 親にかわいがられる。ʔjaqciini nuraaqtan. にいさんに叱られた。ciini kanajuN. 気に入る。心にならう。ʔumancuni hurijun. 人びとに知らせる。tusibcenee ʔuziran. 年には似合わない。⊖…するときに。…した場合に。-ja (は)が付いて -nee となると「…する時には」「…したら」「…すると」などの意となる。ふつう活用する語の「連用形」、または「連用形」にさらに i を加えた形につく。kansiiini mani* ʔariga ʔansjuʃee caa sjuga. こうやった時にもし彼がああやったらどうするか。ciciinee. 聞いた時には。聞いたら。cika-ndainee. 聞かなかった場合には。聞かなかったら。ʔainidu kubameesjuru. ある

時にこそ節約する。ʔaʔikookoo sjooini kamee. 熱いうちに食べろ。

nibaNduiⓄ (名) 二番鶉。一番鶉について鳴く鶉。

nibuʔnmariⓄ (名) 遅生まれ。hweeʔN-mari の対。ただし、11～12月ごろに生まれたことをいう。

nibuʔuqtaciⓄ (名) 遅く出発すること。次の句でいう。～nu hweeriqsin. イ. おそく出発して早く成功すること。才ある者は遅くやり出しても早く立身すること。ロ. 女の場合には、縁談が遅く始まってすぐまとまるのをいう。riqsin は女については結婚の意。

-nici (接尾) 日 (にち)。日数・日付けを表わす。ʔicinici (一日), sannici (みっか) など。

niçiⓄ (名) 熱。熱気。また、体熱。～nu ʔaN. (病気で) 熱がある。hwiinu ～. 太陽の熱(hwiinuniçi は火熱)。niçee ʔami. イ. 熱はあるか。ロ. (相手を揶揄して) 生きているのか。気はたしかか。kamanu subaa ～nu hwaahwaa sjun. かまどのそばは熱気がかかかとしている。

niçisamasiⓄ* (名) [新?]熱さまし。解熱薬。

niciziNⓄ (名) 日限。期日。

niduⓄ (名) 二度。再度。

nidumiiⓄ (名) 二度目。

nieceⓄ (名) 似合い。niiee, nee ともいう。tuseedu ～ju ʔariba. [年やいど似合よやれば(孝行之巻)] 年ごろが似合いであるから。この場合、nijai とも発音する。

niga=juNⓄ (他 =aN, =ti) 願う。

nigajuuⓄ (名) [文] 凶年。

nigamiⓄ (名) 一部落(旧行政区画の村)の神官である女。数部落の神官である nuru (のろ) の下、一門の神官である kudi の上。nigami のいる家を niidukuru または niija という。

nigaNgamiⓄ (名) まずそうに食べること。

～ sjuN.
nigaNhwiga¹N① (副) まずそりに食べるさま。niiguhwiigu ともいう。～ sjuN.
nigau① (名) 寝顔。niNzigau ともいう。
nigee① (名) 願い。願望。～ du šeewee.
 願ってれば、それがかなえられて幸いとなる。
nigee²gutu① (名) 願いごと。
nigee³ka¹nee① (名) 強い願い。強く願うこと。nigee の意味を強めた語。～ sjuN.
 強く願う。
nigoo① (名) 二合。niN²goo ともいう。
nigruma① (名) niiguruma と同じ。
nigutu① (名) 寝ごと。ʔumukutudu ～。
 思うことが寝ごとに出るものだ。
niguuniguu① (副) ゆっくり落ち着いてするさま。食べる場合に多くいう。ゆったり。～ sjoon. ゆったりとしている。
nigwaçi① (名) 2月。niN²gwaçi ともいう。
nihaciguru① (名) [文] 二入のころ。男女十六歳のもっとも花やかなころ。
nihjaaku① (名) 錢 200 文。4 厘。ziN の頂参照。
nihoomuci① (名) [二方持] 領地と扶持米とを持つ者。ʔiqoomuci [一方持] (扶持米のみあって、領土は名目のみの者) の対。
nihwa① (名) 饒波。nuhwa, nuuhwa ともいう。《地》参照。
nihwee① (名) [御拝・美拜] ありがたく思うこと。感謝すること。古風な発音では mihwee。～ doo. どうもありがとう。～ deebiru. ありがとうございます。目下に対しては kahuusi という。平民は身分の上の者に対して sidugahuu deebiru という。～ ʔjuN. お礼をいう。
nii① (名) ①根。草木の根。②病根。また、はれものの堅くなっている部分。～ cira-sjuN. 根治する。③怒り・恨みなどの心

の底に残っているもの。～ muqcooN. 根にもっている。
nii① (名) 荷。荷物。また、負担。～ ʔuusi-jun. (牛馬に) 荷を負わせる。tabee ʔiranažikan ～ najun. 旅は鎌の柄(のように軽いもの)でも荷になる。
nii① (名) そば。近所。近く。ʔujanu ～。親のそば。gaqkoonu ～。学校の近く。
nii① (名) 子(ね)。十二支の第一。方角は北、時刻は午前零時。
nii① (名) 二。普通は taaçi という。
nii① (名) 値。値段。～ sjuN. 値段を付ける。
nii① (名) 音(ね)。sansinnu ～。三味線の音。
niiʔagi① (名) 二上がり。三味線 (sansin) で、二の糸を本調子より一段高くした調子。干瀬節 (hwisibusi), 子持節 (qkwamucibusi), 仲風 (nakahuu), 述懐 (sju-qkwee), 散山 (sanjamaa) など哀調をおびた節に多い。祝宴の席では、はじめに本調子の賀歌を歌い、宴が進むに及んで二上がりの歌が奏せられる。単に ʔagi ともいう。
niibai① (名) ①草木の根が張ること。根張り。②瘡・腫れ物などの周囲が堅くなること。
niibi① (名) 赤くざらざらした堅い土質。堅いので niibbaka という形式の墓が掘られる。
niibi¹baka① (名) 墓の形式の一つ。niibi (堅い赤土の層) に掘って作った墓。沖縄の墓はすべて横穴式であり、身分の高い家では、岩に掘るかまたは石を積み、しっくいを塗って固め、亀甲式または破風式に作る。しかし、それには多額の費用を要するので、一般人は niibi に穴を掘って作る。
niibici① (名) ①結婚の行事。結婚式。婚礼。丁寧には ʔunibici, 身分のある人の婚礼は kunrii, 王子・王女などのそれは

- gukunrii という。㊦結婚。
- niibieNeu**①(名) 婚礼の時、花嫁を迎えに行き、また式の進行などをする世話役。女二人が当たる。nakadaci ともいう。
- niibieizaa**①(名) 婚礼の日、花婿の友人などを招いて宴会を行なう宴会場。
- niibinuhuni**①(名) niibi (堅い赤土) の特に岩のように堅いもの。
- niibiru**①* (名) 植物名。のびる。ねびる。ねぎに似た小さな野草で、食用となる。
- niibu**①(名) ひしゃく。
- niibugaa**①(名) 井戸の一種。水位の高い、または浅い井戸。ひしゃく (niibu) で汲めるような井戸 (kaa)。
- niibui**①(名) 眠気がさすこと。～ sjun. 眠気がさす。眠たがる。
- niibuiga'man**①(名) 子供が眠たがって泣くこと。
- niibuikaa'bui**①①(副) しきりに眠気がさすさま。～ sjun. とても眠そうにする。
- niibuimii**①①(名) 眠そうな眠。
- niibuimusi**①(名) 寝坊。眠ってばかりいる者のあだ名。
- niibujaa**①①(名) しょっちゅう眠たがる者。寝坊。
- niibutaa**①(名) 根太。腫れ物の一種で脂肪分の多い箇所のできるもの。niibutu ともいう。
- niibutu**①(名) niibutaa と同じ。
- niici**①(名) 寝息。
- niiciri=juN**①(自 =ran, =ti) 全治する。根治する。すっかり直おる。
- niidakasan**①(形) 値段が高い。高価である。ʔicandamunoo ～. ただの物は(お返しなどで)かえて高くつく。
- niidukuru**①(名) 村の神官の家。niija ともいう。根どころの意。一部落(旧行政区画の村)に一軒ずつあり、その部落でもっとも有力な一族の本家にあるのが普通。nigami (神官たる女) と、niiNeu (その男主人) とがいる。
- niiee**①(名) 似合い。つりあい。niee, nee ともいう。
- niiguhwiigu**①(副) まずそりに食べるさま。nigaNhwigan ともいう。～ sjun.
- niigui**①(名) 根っこ。根株。
- niiguruma**①(名) 荷車。niguruma ともいう。
- niihuda**①(名) 荷札。出荷証。板に書かれる。
- niihuQkwa**①(名) 無愛想な者。いつも顔をふくらませている者。女について多くいう。
- niiʔisi**①(名) 土台石。家屋の土台石。
- niija**①(名) niidukuru と同じ。
- niijaQkee**①(名) 荷厄介。負担をもてあますこと。～ na mun. 荷厄介なもの。～ sjun. 荷厄介である。
- nii=juN**①(他 =ran, =ti) ㊦練る。ʔnmunii ～. いも練り(料理名)を練る。㊦転じて、なぐる。ʔunihjaa niiti turasee. その野郎、なぐってやれ。nama niirarijun doo. いまになぐられるぞ。いまになぐるぞ。
- nii=juN**①(自 =ran, =ti) 煮える。
- niikara**①(名) 根っから。全く。絶対。～ narandi ʔjun. 絶対にできないという。～ nu hurimun. 全くの馬鹿。
- niikee**①(名) 二階。
- niikeebasi**①(名) 二階に上る階段。はしごだん。
- niikecjaa**①(名) 二階屋。二階建ての家屋。
- niikuta**①(副) 煮えてくたくたになるさま。～ natoon. くたくたに煮えている。
- niimaaraa**①(名) 背が低く横に太った者。ずんぐりした体つきの者。
- niimasi**①(名) 似てはいるが、まさっていること。ʔanu 'winaguwarabee ʔujatu ～ ʔjan. あの女の子は親に似てしかも親よりもきれいだ。

niimiciei'mi① (副) 根掘り葉掘り聞くさま。～ sjun.

niimutu ① (名) 根元。

niinai ① (名) もとなり。瓜などが、根の近くに実を結ぶこと。また、その実。simunai, suuranai (うらなり) の対。

niinii① (名) ねんね。寝ることの小児語。

niinuhana① (名) 行商の口あげ。普通の商品の口あげは miiguci という。

niinuhwa① (名) 子(ね)の方角。北。～nu mihusi. 北極星。

niinuzi① (名) 肉を煮つめてとった汁。肉からとったスープ。煮抜きの意。

niincu① (名) niidukuru (村の神官の家) の男主人。

niirihwi'iri① (名) 恥じていたたまれないこと。～nu miinkai ʔiqci. 恥ずかしくてたまらないような目に会って。

niisahweesa① (名) 遅速。早い遅い。

niisanumaasanu① (名) まずいのうまいの。食べ物不平をいうこと。～nu ʔuhusan. 食べ物不平が多い。～ sjun.

niisan① (形) 遅い。のろい。速度がのろい。時間が遅い意味では、ʔusisan ともいう。また, niNku の項参照。

niisan① (形) まずい。食べ物がおいしくない。

niisee① (名) 二才の意。青年。～。年長者が青年を冷笑し、あるいはたしなめる時のことば。

niiseeudui① (名) [二才躍] tabikudueci [旅口説] に合わせて踊る舞踏の名。

niisisi① (名) 根元。付け根。～kara ʔusi-ciree. 根元から切ってしまう。

niisizi=juN① (自 =raN, =ti) 煮え過ぎる。

niisuura① (名) 根とこずえ。

niitasaN① (形) 恨めしい。恨みに思う。niitasa sjun. 恨む。

niiʔusaa① (名) 荷馬。駄馬。

niiuu① (名) 芭蕉布の一種。芭蕉を煮てか

ら抜いた糸で織ったもの。黄色味を帯びている。

niiwacaree① (名) 荷厄介。荷物にわずらわされること。

niiwandee① (名) 荷物にわずらわされること。荷造りが悪く持ちにくいとか、重過ぎるとか、運搬中の困難をいう。

niizamun① (名) まずい物。おいしくない物。

niizi=cun① (自 =kaN, =ci) 根付く。移植した草木に根が付いて育つ。

niizukui① (名) 荷造り。梱包。

-nija (接尾) [文] [仁屋] -njaa の文語。

nijoobutuki① (名) nioobutuki と同じ。

ni=juN① (他 =raN, =ci) 煮る。飯をたく、いもをふかすなどの場合にも nijun を用いる。ʔubun ～。御飯をたく。ʔnmu ～。さつまいもをふかす。

ni=juN① (自 =raN, =ci) 似る。ʔarin kai nicoon. 彼に似ている。taani nicooga. 誰に似ているか。taatu nicooga. ともいう。

nikaa① (名) にかわ。

niku① (名) 肉。人体の筋肉をも、食肉 (sisi) をもいう。

nikubuku① (名) 藁縄で編んだむしろ。農家で用いる。

niku=nuN① (他 =maN, =di) 憎む。miq-kwasa sjun ともいう。

nikun① (名) にきび。

nikusan① (形) [文] 憎い。口語では mi-qkwasan という。nikwii 'eeziga ʔakujukuja 'jamaN. [にくい八重瀬が 悪欲ややまぬ (忠臣身替)] 憎い八重瀬の悪欲はやまず。

nikwanmagi① (名) 髪結いの料金の名。料金が2貫(4銭)で、背元結いを用いた。katakasirajuujaa の項参照。

nimuçi① (名) 荷物。

niniNgwii① (名) 寝相の悪いこと。寝てい

- て転げまわること。niNniNgwii ともいう。～ sjuN.
- niN① (名) 念。気をつける気持ち。熱心な気持ち。～ ʔirijuN. 念を入れる。～ nu neeN. 念がない。熱心でない。
- niN (接尾) 人。人数を数える時の接尾辞。rukuniN (六人), siciniN (七人) など。
- niN (接尾) 年。guniN (五年), zuuniN (十年) など。
- niNbucaa① (名) 念仏宗のこじき。鉦たたき。葬式に鉦をたたき、また那覇の垣花 (kacinuhana) あたりではお経を読むこともあった。会葬者はその鉦の音によって尋ねて行くことができる。
- niNbucaasiʔidu① (名) 乞食の頭目。
- niNbuçi① (名) niNbucaa のやや上品な語。普通は niNbucaa という。その項参照。
- niNbuçiğani① (名) niNbucaa のたたく鉦。
- niNbutukii① (名) 植物名。すべりひゆ。随所に自生する雑草である。
- niNci① (名) 年忌。法事の年忌。sjuukoo の項参照。niNcee ʔiçimadi ʃidooga ʔjaa. 法事の年忌はいつまですんでいるか。
- niNdee① (名) 年代。
- niNgaki① (名) 志。志望。ʔisja najuru ~ ʔjaN. 医者になるよう志している。
- niNgaki=juN① (他 =raN, =ti) 心がける。念頭におく。志す。
- niNganiNzuu① (名) 年がら年中。
- niNgoo① (名) 二合。nigoo ともいう。
- niNguru① (名) 情人。いろ。情婦または情夫。
- niNgwaçi① (名) 二月。nigwaçi ともいう。
- niNgwan① (名) 念願。神仏に対する願い。ʔumigwa tuimudusu ~nu ʔatuti. [思子取戻す 念願のあとて(大川敵討)] 若君を取りもどす念願があって。
- niNhwiri① (名) 年を経ていること。年数を経た動物や一箇所に長くいて事情によく通じている者などについていう。
- niNʔiri① (名) 念入り。念を入れること。また、熱心なこと。
- niNku① (副) のろく。遅く。速度についていう。niiku ともいう。niiku < niisaN. 時間については niqka という。
- niNmee① (名) 二枚。nimee とはいわない。
- niNmecnaabi① (名) 鍋の一種。鍋 (naabi) の項参照。
- niNmuee① (名) 年に一回開く組織の muee (無尽講)。
- niNniN① (名) 年年。年年歳歳。
- niNniNgusa① (名) 植物名。ねむりぐさ。おじぎそら。
- niNniNgwii①* (名) niniNgwii と同じ。
- niNnukwaa① (名) 念の入れすぎ。念が入りすぎること。また、思い過ごし。～ du ʔjaru. 念が入りすぎている。
- niNpu① (名) 年賦。niNziri ともいう。
- niNpu① (名) 人夫。
- niNrıcı① (名) 念力。精神力。思い込むことによって出る力。
- niNşii① (名) 年末。年の暮れ。
- niNsi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖寝つかせる。眠らせる。寝かせる。⊖横に倒す。(立石などを) 寝かせる。
- niNsja①① (名) [念者] 念を入れる人。熱心な人。
- niNsoo① (名) 人相。
- niNsaku① (名) 人足。人夫。
- niNsuu① (名) 年数。
- niNtahuunaa① (名) 寝たふり。たぬき寝入り。～ du ʔjaru. たぬき寝入りだ。～ sjuN.
- niNtuu① (名) 年頭。年始。～ nu ʔugami. 年頭に一年中の無事息災を神社仏閣に祈願して回ること。
- niNtuumaai① (名) 年始回り。
- niNzaaʔwiizi① (名) 背泳。maahwanacaa-

- ʔwiizi ともいう。
- niNzi**① (名) 念じ。信仰。信仰心。普通は guniNzi という。～nu ʔaru qcoo kawatoon. 信仰のある人は偉い。
- niNzibusjaN**① (形) 眠い。眠たい。また、寝たい。
- niNzibusuku**① (名) 寝不足。睡眠不足。
- niNzicigee**① (名) niNzicizee と同じ。
- niNzicizee**① (名) 寝違え。睡眠中に筋を違えること。niNzicigee ともいう。
- niNzigau**① (名) 寝顔。nigau ともいう。
- niNzigukuci**① (名) 寝ごころ。
- niNzigunasi**① (名) ふて寝。ふてくさって寝ること。
- niNzihagi**① (名) 床ずれ。長く病床にあって肩や腰などがすれて痛むこと。
- niNzihana**① (名) 寝入りばな。
- niNzihuri=juN**① (自 =raN, =ti) 寝忘れる。寝てしまって時を忘れる。
- niNzijaN=zuN**① (自 =daN, =ti) 寝そびれる。寝そこなる。
- niNzi=juN**① (他 =raN, =ti) 念ずる。心に祈る。信心する。信仰する。
- niNzikee**① (名) 気がかり。心配。懸念。ʔuhwiN ~ja neeN. 少しも懸念はない。
- niNzikugee**① (名) 寝返り。
- niNzimunugatai**① (名) 寝物語。夜、寝ながら話し合うこと。
- niNziN**① (名) 人間。ʔatara ~ni ʔNmarijai 'uʃiga rakurakutu kurasu hwi-manu neraN. [あたら人間に 生れやい居すが 楽々と暮らす 暇のないらぬ] あたら人間に生まれていながら、安楽に暮らす暇がない。
- niNziNsaNsici**① (名) 植物名。三七草。下剤・通経・消毒などに効く薬草。
- niNziri**① (名) 年切り。年ぎめ。年季。また年賦。奉公などの年限。また、代金・身代金などを、年数をきめて払うこと。～ qsi kootaN. 年賦で買った。
- niNzizama**① (名) 寝ざま。寝相。nizama ともいう。
- niNzoo**① (名) ㊦人形。hutukii ともいう。また、人形のようにかわいらしい者。㊦無表情な美人にもいう。
- niNzoo**① (名) 人情。
- niNzu**① (名) ㊦人数。㊦(…の)一団。…のグループ。また、その構成員。団員。複合語には、'uduiniNzu (踊りの一団), tabiniNzu (旅の一団), 'jaaniNzu (家族) など。
- niNzuʔaratami**① (名) 人員調査。人数調べ。また、点呼。
- niN=zuN**① (自 =daN, =ti) 眠る。寝る。睡眠する意にも就床する意にも用いる。niNtai ʔukitai. 寝たり起きたり。nindi. おやすみ。寝る目下へのあいさつ。目上に対しては ʔweesimiʃebiri. という。
- niNzuu**① (名) 年中。一年中。～nu siʔuu-gahuu. 年末に神社仏閣を回り、一年中のお礼をする祭り。～nu 'ugami ともいう。
- niobutuki**① (名) 仁王。一對の仁王の一方を女に見たてて、一對の仁王を俗に、～ makaabutuki という。nioo (男) も makaa (女) も、ともに平民に多い名。
- nioo=juN**① (自 =raN, =ti) 似合う。つりあう。ふさわしくなる。多く、いい意味にいう。着物が似合う意では多く ʔuʃijun という。niootooru miitu. 似合いの夫婦。
- niqci**① (名) 日記。
- niqcii**① (名) 植物名。肉桂(につけい)。
- niqcirikee'ciri**① (副) ゆっくりゆっくり。のろのろ。～ ʔaqcun. のろのろ歩く。
- niqka**① (副) 遅く。時間についていう。速度には niiku, niNku という。～ najun. 遅くなる。
- niqsjuku**① (名) 日蝕。
- niraika'nai**① (名) [文] giraikanai と同じ。

nireeka`neeⓄ (名) gireekanee と同じ。
niriⓄ (名) 食物の中にまじっている砂など。
nirigasagasaⓄ (副) niri (食物の中にまじった砂など) が齒にあたって発する音のさま。～ sjUN. 食物に砂などがまじってじゃりじゃりする。
niri=juNⓄ (自 =raN, =ti) 飽きる。(人・仕事・食物などが) いやになる。
niriuuⓄ (名) 下駄・草履などの鼻緒の一種。竹の皮、葦などをよって作ったもの。貴族は kaauu (皮の鼻緒) を用い、士族は、娘以外は kaauu は許されず、niriuu を用いた。hanauu の項参照。
nirumiⓄ (名) 根路銘。《地》参照。
nisabu=juNⓄ (他 =raN, =ti) 不満足に思う。いやがる。好まない。'waqsandiga ʔumutoora nisabuti kooran. 物が悪いと思っているのか、不満足に思って買わない。'janakaagiindici nisabutoon. 不美人(または、ぶおとこ)なので、いやがっている。ʔNmoo nisabutoon. さつまいも(を食べるの)はいやがっている。
nisasibuⓄ (名) 根差部。《地》参照。
nisiⓄ (名) 便所。雪隠(せっちん)。
nisiⓄ (名) [西] 北。西は ʔiri という。
nisiⓄ (名) 西。《地》参照。
nisibaruⓄ (名) 西原。《地》参照。
nisibuciⓄ (名) 北風。冬に北から吹く季節風。
nisiciⓄ (名) 錦。
nisicimucigooⓄ (名) kusiciʔukwaasi (祭祀用の菓子) の一種。上は桃色、下は白。
nisigeeⓄ (名) 露店。大道に大きな傘をさしかけ、その下に商品を並べて売る。ʔisigee ともいう。
nisiiⓄ (名) 似せて作ったもの。模造品。イミテーション。また、にせ物。sjoomuN (本物) の対。

nisi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 似せる。まねてする。また、似せて作る。模造する。偽作する。ʔcuni nisiti sjUN. 人をまねてする。
nisimiⓄ (名) 西銘。《地》参照。
nisimuNⓄ (名) にせもの。模造品。nisii と同じ。
nisinuhwiraⓄ (名) 西之平等。《地》参照。
nisinuʔuduNⓄ (名) 首里城の建物の名。ʔuguşiku の項参照。
nisinuʔumiⓄ (名) 東支那海。北(nisi)と西(ʔiri)とを混同しているが、ここは西の海の意。
nisiNkeeⓄ (名) 北向き。
nişizi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 煮過ぎる。
nisjudaciⓄ (名) 二升だきの鍋。
nitakamaNtaⓄ (名) 似た者同志。kamaNta は、編んで作る鍋のふた。
nitamairuku`zuuⓄ (名) rukuzuu (豆腐を小さく切り、塩をつけて焼いたもの) を少し腐らせたもの。茶人のお茶請けにする。
nitamaiziraⓄ (名) 生気のない顔。笑ったことのないような顔。腐れかかった顔の意。
nitama=juNⓄ (自 =raN, =ti) 腐りかかる。(食物などが) 腐える。
nitaNçirugiⓄ (名) 二反続きの反物。一匹の反物。
niuiⓄ (名) [文] におい。香氣。niwi [文・口] ともいう。
niwaⓄ (名) 庭園。觀賞用の庭。仕事用の前庭は naa という。
niwagiⓄ (名) 庭木。庭園に植える木。
niwatuiⓄ (名) 鶏。普通は tui という。
niwiⓄ (名) におい。悪臭にも芳香にもいう。
niwidakasaNⓄ (形) 臭い。強くにおう。
niżamaⓄ (名) 寝相。寝ざま。niNziżama ともいう。～nu 'waqsan. 寝相が悪い。
niżamasaⓄ (名) 寝ぼけること。～ sjUN.

nizami① (名) 根謝銘。《地》参照。

nizamiʔuduruci① (名) 恐ろしい夢など見て、驚いて目ざめること。makutukaja zicika 'wazimu huriburitu ~nu 'juminu kukuci. [誠かや実か 我肝ほれほれと 寝覚め驚きの 夢の心地(散山節)] 夢かまことか、わたしの心は茫然として、夢を見て驚いて目ざめた時のこちである。子を失った時の歌。

nizasici① (名) 寝座敷の意。寝間。寝室。'Nzoga ~ni ʔarasu hucikumaba, kugarijuru 'waminu ʔiniN tumuri. [無葎が寝座敷に 嵐吹き込まば 焦れよるわみの 遺念ともれ] わが愛する女の寝室に嵐が吹き込んだならば、思い焦られるわたしのしたわざと思え。

nizidee① (名) 耐える力。忍耐力。-dee<tee. ~nu ʔaʃigadu ʔuhuʔijoo tujuuru. 忍耐力のある者が大魚を取る。

niziikantii① (名) こらえかねること。耐えかねること。我慢できないこと。~sjun. niziiku'nee① (副) 我慢するさま。辛抱するさま。-kunee<kuneejuN. ~sjun. 我慢する。辛抱する。

nizijaa① (名) けちゃんぼ。握り屋。

nizi=juN① (他 =raN, =ti) 握る。tii ~。手を握る。

nizi=juN① (他 =raN, =ti) こらえる。耐える。我慢する。

nizi=juN① (他 =raN, =ti) つねる。

niziri① (名) ねじ。

niziri① (名) 右。hwizai (左) の対。

nizukui① (名) niizukui と同じ。

nizuu① (名) 二重。~ni natoon. 二重になっている。

nizuu① (名) 二十。

nizuuguniNci① (名) 二十五年忌。

nizuusikoo① (名) 二十四孝。中国の二十四人の孝子の物語を書いた家庭教育書。本・掛け軸・絵巻物などになっていて、幼

年時代に深く印象づけられたものである。

njaa① (副) もろ。もはや。naa ともいう。takahanarizimaja munusirasidukuru, nja munu sijabitan 'juruci tabori. [高離島や 物知らせ所 にやもの知やびたん 許ちたばりれ] 高離島は流刑の地で、苦勞を知らせるところ。もはや苦勞は知りました。許して下さい。

-njaa (接尾) [仁屋] 土族・平民の初階の位の名。姓のあとにつけていう。文語は -nija.

njaaja① (副) もろ。もはや。naaja と同じ。

njahwin① (副) [にやへも、みやへも] もっと。さらに。naahwin の文語。nuhwanu ʔisikubiri 'Nzo ʃiriti nuburu, ~ ʔisikubiri tusawa ʔarana. [伊野波の石小坂 無葎つれてのぼる にやへも石こびり 遠きはあらな] 伊野波の石ころの坂道を恋人(女)をつれて上る。もっと石ころの坂道が遠くまでであるといひ。

njamata① (副) [文] もはやまたの意。もう二度と。tuin naciʃimiti ʔakigumun tacui, ~ ʔiçi 'ugadi mumuci nubjuga. [鳥も鳴きすめて 明雲も立ちゆりにやまた何時をがで 百き延びゆが] 鳥も鳴き始めて、夜明けの雲も立っている。生き長らえてもう二度といつお目にかかれようか。

njuNzu① (名) mjuNzu と同じ。

njuukoo① (名) ʔukoo (線香) の敬語。

njuukoosizi① (名) nuukoosizi と同じ。

noobu① (名) 屏風。

nooga① (名) mjooga と同じ。

nooimuN① (名) 縫い物。裁縫。針仕事。

noo=juN① (他 =raN, =ti) ⊖ 縫う。⊖ ならう。çina ~。綱をならう。

noo=juN① (自 =raN, =ti) 直る。癒える。改まる。よくなる。

noo=juN① (自 =raN, =ti) nioojuN と同じ。

nooninkwaanin

nooninkwaanin④ (副) 読経の声。～ sju-N. 読経の声を立てる。
noonoo④ (名) 花の小児語。
noo=sjuN④ (他 =san, =ci) 直す。改善する。修理する。治療する。
nootakeeta④ (名) 相応すること。似合うしいこと。似合い。～nu munoo 'urani. 似合いの者はいないか。
nootaru④ (連体) 然るべき。相応の。ふさわしい。似つかわしい。<noojun. ～munoo 'jaija sani. 然るべき人間だろう。それ相応の者であろう。'wanni ～kutoo qsiwadu 'jaqsa. わたしに相応の事はしなければならぬよ。～kama-du sikajuru. 相応のかまどをつくる。相応の者が夫婦になる意。
noozi④ (名) mjoозиと同じ。
-nu (助詞) ⊖の。属格を示す。Qcu～mun. 人の物。mumu～hana. 桃の花。sjui～kwaannundoo. 首里の観音堂。'jama～'wii. 山の上。hana～'warabi. 花の(ような)子供。ただし、人名や一部の人代名詞、nuu (何) などの場合は、ふつうたとえば、tarusjumuci (太郎の本)、taamun (だれのもの)、Yiqtaa'uja (おまえたちの親)、nuusigutu (何の仕事) などのようにいう。⊖が。の。主格を示す。ただし、人名や一部の人代名詞などの主格はふつう -nu を用いずに -ga によって示す。-ga の項参照。また、-nu のあとには -ja, -N, -du などの助詞が付くことができる。tiida～'agajun. 太陽が昇る。tui～nacun. 鳥が鳴く。'ama～'meNsjoocoon. あのかたがいらしている。mizi～numibusjan. 水が飲みたい (mizi numibusjan の「水」をとりたてて強調したもの)。nusudu～siibusikoo neeNkutu hwiinsuu sjoon. 泥棒がしたくないので貧乏している。'amanoo 'meNšeesa. あのかたならいらっしゃるよ。

miitunda'ooeeja Yin～N kwaan. 夫婦喧嘩は犬(でさえ)も食わぬ。sirihwici-meehwici qsi 'umui～du 'aee sani. 身辺をうろうろして、気でもあるのかしら。
-nu (接尾) …なので。…くて。形容詞の「終止形(現在)」から末尾の N を除いた形につく。Yicunasanu, Yicijuusan. 忙しくて行けない。'jumibusjanu. 読みたくて。読みたいなあ。
nubaciri=juN④ (自 =ran, =ti) のびる。くたばる。
nubacirimun④ (名) ぐうたら。だらしない者。
nubacirisigutu④ (名) ぐうたらにする仕事。いいかげんな仕事。
nubagaikaagi④ (名) 次の句でいう。～nu neen. (ときどき来る人が) ちっとも顔を見せない。
nubaga=juN④ (自 =ran, =ti) ちっと覗く。ちっと顔を出す。ちっと立ち寄る。hantankai ～. がけのふちに首を出してのぞく。
nuba=sjuN④ (他 =san, =ci) (縮んだものを) 伸ばす。長くする。また、延期する。hwii ～. 日を延ばす。
nubi④ (名) ⊖伸び。伸びること。伸縮性。⊖延びること。延長。延期。⊖寛大さ。寛容。～nu 'an. 寛大である。～nu neen. 短気である。
nubicizimi④ (名) 伸び縮み。伸縮。
nubidee④ (名) 抱擁力。寛容性。～nu 'an. 抱擁力がある。
nubi=juN④ (他 =ran, =ti) ⊖伸べる。伸ばす。⊖(期日などを)延ばす。延期する。hwii ～. 日延べする。⊖こらえる。我慢する。堪忍する。許してやる。'jaaga nubiree. おまえが我慢しなさい。'wannee Yiqpee nubitooibiin. わたしはたいそう我慢をしております。

nubinubi① (副) 延び延び。期日などが延び延びになるさま。～ natoon. 延び延びになっている。

nubu① (名) 野甫島。伊平屋島 (?ihja) の属島。また、その部落名。《地》参照。

nubui① (名) ①上り。登り。高いところへ上ること。②いなかから都へ、また、沖繩から本土へ上ること。

nubui kudai① (名) [文] 上り下り。上がったたり下がったり。?akanu hwizimijija ?winkaidu hucuru, kamadugwaga cimuja ～. [阿嘉の髻水や 上んかいど吹きゆる かまど小が肝や 上り下り]阿嘉(地名)の滝の水はひげのように上に吹き上げるが、カマドグ(女の名)の心は上ったり下がったりして落ち着かない。～ sjuN.

nubui kuduci① (名) [上り口説] tabiku duci [旅口説]の項参照。

nubu=juN① (自 =raN, =ti) ①上る。登る。空間を上がることは ?agajun という。niikeenkai ～. 二階へ上がる。kiiinkai ～. 木に登る。②上る。いなかから都へ、また、沖繩から本土へ上る。

nu=buN① (自 =haN, =di) ①(縮んでいるものが) 伸びる。長く伸びる。②(期間が) 延びる。延期になる。

nubunZaa① (名) 登川。《地》参照。

nubusi① (名) のぼせること。頭部が熱くなり、頭痛などを起こす病気。～ sagijun. のぼせをさます。

nubusidama① (名) 宝珠の玉。如意宝珠。

nubusi=juN① (自 =raN, =ti) のぼせる。頭が熱く痛くなる。夢中になる・逆上するなどの意には用いなかった。

nubusi=juN① (他 =raN, =ti) ①高いところへ上げる。②人・物をいなかから都へ、また、沖繩から本土へおくる。

nucasi① (名) ごちそうを持ち寄って会をすること。旧暦3月3日には重箱を持ち寄って宴会を開く。

nucaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 寄せ集める。金品などを持ち寄る。

nucaga=juN① (自 =raN, =ti) 抜けて上がる。抜けて上に出る。?ida?idatu kumunu 'Nsuja ?ucihaziti ?imiti nucagajuru ?icinu curasa. [すだすだと雲の 御衣や 打はづて 澄みて抜上ゆる 月のきよらさ] すがすがしく雲の衣を脱いで、澄んで出て来た月の美しさよ。

nucagi=juN① (他 =raN, =ti) 下からささえて上げる。さし上げる。

nuci① (名) 命。文語では ?inuci ともいう。～ ?incasan. 命が短い。～ tabujun. 死なずに生きながらえる。命をたくわえる意。～ cirijun. 命が切れる。死ぬ。sakisai ～ tutaN. 酒で命を落とした。

nuci① (名) 貫(ぬき)。貫き木。柱の間を横に貫く材。

nuci① (名) 緯(ぬき)。緯糸(ぬきいと)。横糸。

nuci① (名) 味噌をつくる時、麴をまぜる前のもの。米・大豆あるいは豌豆を煮てつぶしたもの。

nuci?aja① (名) 横縞。

nuciciribataraci① (名) 命の限り働くこと。死物狂いで働くこと。

nucida?iki① (名) 命を救うこと。救命。助命。

nuciduknru① (名) 急所。

nucigahuu① (名) [命果報] 運よく命が助かること。nucinuahuu ともいう。～ nu ?ateesa. 運よく命拾いしたよ。

nucigusui① (名) ①命の薬。長寿の薬。②転じて、非常においしいもの。

nucihwici① (名) 非難攻撃すること。他の欠点を責めとがめること。nuci-<nucun (突く)。～ sjuN.

nucikaziri① (名) 命がけ。一生けんめい。～ ?jatan. 一生けんめいだった。～ nu hataraci. 命がけの働き。

nucikurusjuN

nucikuru=sjuN① (他 =saN, =ci) 刺し殺す。'jaisaani ~. 槍で刺し殺す。
 nucimaci① (名) 布を織る時、かせを抜いたり巻いたりすること。
 nucimuN① (名) 縫い取り。刺繍。
 nucinugusjuuzi① (名) 命拾いしたお祝い。
 nucinuhuu① (名) nucigahu と同じ。
 nucinusiNtaku① (名) 命の洗濯。平常の苦勞を慰めるための気晴らし。
 nucinuʔuja① (名) 命の恩人。
 nucinuun① (名) 命の恩。命を助けてくれた恩。
 nucisiN① (名) 募金。餽金。nuci-<nucun (つのる)。~ sjun.
 nucišitaa① (名) 命知らずの者。
 nucišitimuN① (名) 命知らずの者。
 nucišitiwaza① (名) 命がけの仕事。
 nucitukakugaa① (名) 命がけ。命ととりかえですること。~ 'jan. 命がけだ。
 nucizijaa① (名) 貫き木のある家。本建築の家。農村で、茅ぶきではあっても単なる掘立小屋 (ʔanaja という) でなく、礎石を置き、柱に貫き木を通して造った家。農村の家では上等の部に入る。
 nuciziru① (名) 命の緒の意。~ 'joojun. 命が弱る。命が縮まる。非常な心配事などしたときにいう。
 nu=cuN① (自 =kaN, =ci) ①のく。退く。立ち去る。ducun ともいう。ʔašidi nukariran ʔucajaʔudun. [遊でのかれらぬ御茶屋御殿] 景色がよいので、遊ぶと立ち去ることができない御茶屋御殿。①離間する。夫婦・友人などの仲がこわれる。また、別れる。離縁する。ʔiqtaa tae nukee. おまえたちふたりは別れろ。
 nu=cuN① (他 =kaN, =ci) ①ぬく。貫く。穴に通す。ʔiicuu ~. (針に) 糸を通す。①突く。差す。指先や棒の先で突く。ʔiibi ~. 指さす。

nu=cuN① (他 =kaN, =ci) 募る。ziN ~. 金を募る。
 nudaki① (名) 野嵩。《地》参照。
 nuduka① (名)[文] のどか。~naru hwarunu. [のどかなる春の] のどかな春の。
 nugaa=juN① (自 =raN, =ti) のがれる。免かれる。nugaarasjuN. 解放する。放免する。のがしてやる。許してやる。
 nugasi① (副) [文] いかにして。どうして。~ 'waga sudija kusanu hwan ʔaran, 'jumangwini nariba ʔijunu 'jaduru. [のがすわが袖や 草の葉もあらぬ 夕暮になれば 露のやどる] どうしてわが袖は、草の葉でもないのに、夕暮れになると露が宿るのか。
 nuga=sjuN① (他 =saN, =ci) のがす。逃げられる。
 nugihwasi=juN① (自 =raN, =ti) 逃走する。
 nugi=juN① (自 =raN, =ti) ①抜ける。脱げる。haanu ~. 歯が抜ける。①ぬきんでる。すぐれる。
 nugi=juN① (自 =raN, =ti) 逃げる。ただし hwiŋgijun を多く用いる。
 nugiʔNzi=juʔN① (自 =raN, =ti) ぬきんでる。ひいでる。suguriti gaqkooutin nugiʔNzitoon. すぐれて学校でもぬきんでている。
 nugizikooi① (名) 逃げ支度。
 nugu=juN① (他 =raN, =ti) ぬぐる。ふきとる。
 nugunaa① (名) 何かいろいろもの。何がし。~ja kuuntii. 何がしは来なかったか。ʔjaaja ʔariga ~ 'jara 'jaa. おまえは彼の何とかだろ。
 nuguN① (名) 野国。《地》参照。
 nuhwa① (名) [古] [能羽] 芸能。nuza の項参照。
 nuhwa① (名) 饒波。nihwa ともいう。《地》参照。

nuhwaⓐ (名) 伊野波。(地) 参照。
nuhwiⓐ (名) 饒辺。(地) 参照。
nuhwinaⓐ (名) 饒平名。(地) 参照。
nuiⓐ (名) 糊。物を貼るもの、また、洗濯した布につけるもの。
nuimuNⓐ (名) 塗りもの。漆器。
nuimuNⓐ (名) 乗りもの。
nuimuNjaaⓐ (名) 塗りもの屋。漆器商。
nuiʔnmaⓐ (名) 乗用の馬。
nujamaⓐ (名) [文] 野山。～kwiru micija ʔikuri hwizamitin, ʔjamini tada hwicui sinudi ʔicuN. [野山越へる道や幾里へざめても 闇に唯一人 忍で行きゆん] 野山を越える道は幾里へだたっている、闇にただひとり忍んで行く。
nu=juNⓐ (自 =raN, =ti) ㊦乗る。車馬・舟などに乗る。ʔnman kai ~. 馬に乗る。「(人が)机の上に乗る」(sjukuN kai nubujuN), 「(人が)紙の上に乗る」(kabi kudamijuN) などの「のる」の意には用いない。㊦載る。記載される。ciizina kai nutooN. 系図にのっている。
nu=juNⓐ (他 =raN, =ti) 塗る。ʕimi ~. 墨を塗る。
nukaⓐ (名) 糠(ぬか)。
nukabacaaⓐ (名) 蜂の一種。形は小さいが、毒は強い。
nukaguⓐ (名) 虫の名。米・糠などの中に生じる、黄色のきわめて小さい虫。～nugutooN. 「ヌカグ」のようだ。非常に小さい物をたとえていう。けしつぶのようだ。
nuki=juNⓐ (他 =raN, =ti) のける。しりぞける。どける。dukijuN ともいう。
nukubaa=juNⓐ (自 =raN, =ti) (天候が), 暖かくなる。
nukudukuruⓐ (名) 暖かい所。
nukudusiⓐ (名) 暖かい年。暖冬の年。
nukuguniⓐ (名) 暖国。暖かい地方。
nukuiⓐ (名) 残り。
nukuidakaⓐ (名) 残高。

nukuimuNⓐ (名) 残りもの。
nuku=juNⓐ (自 =raN, =ti) 残る。
nukumi=juNⓐ (他 =raN, =ti) [新] 暖める。元来は、nukutamijuN (体を、暖める), ʔaçirasjuN (食物を、暖める) などを用いた。
nuku=nuNⓐ (自 =maN, =di) 暖まる。暖を取る。nukumee. 火に当たれ。
nukusaNⓐ (形) 暖かい。nukuku najuN. 暖かくなる。
nukusiⓐ (名) 残したもの。食べ残しなど。
nuku=juNⓐ (他 =saN, =ci) 残す。
nukutama=juNⓐ (自 =raN, =ti) 暖まる。体などが暖かくなる。暖をとる。
nukutami=juNⓐ (他 =raN, =ti) 暖める。体などを暖めることを多くいう。食物を暖める意では ʔaçirasjuN を多く用いる。
nukuziriⓐ (名) のこぎり。
numiⓐ (名) 鑿(のみ)。工具の名。
numiⓐ (名) 蚕(のみ)。
numidusiⓐ (名) 飲み友達。酒飲み仲間。
numigusuiⓐ (名) 飲み薬。内服薬。
numiku=nuNⓐ (他 =maN, =di) ㊦飲みこむ。㊦理解する。会得する。
numimiziⓐ (名) 飲み水。飲料水。nunmizi ともいう。çikeemizi (用水) に対していう。
nunuⓐ (名) 布。nunoo nucinooi, ʔutoo tuzinooi. 布は緯糸次第、夫は妻次第でよくも悪くもなる。-nooi < noojuN (適合する)。
nunubataⓐ (名) 織機。機(はた)。普通は古くからある地機をいう。
nunudakiⓐ (名) 一反の布の長さ。普通女物は七尋、男物は七尋半である。tidaja ~ni hwiN kuriti ʔumunu, katatuciN ʔisuzi sinudi ʔicuN. [てだや布だけに 日も暮れてをもの 片時も急ぢ 忍で行きゆん (忠臣身替)] 日は布の長さほどに地

平線に迫り、日も暮れているから、すぐにも急いで忍んで行こう。

nu=nuN① (他 =maN, =di) ⊖飲む。⊖酒を飲む。

nuNuZujaa① (名) 機織りを業とする者。

-nu ʔnziti① (句) …のくせに。…でありながら。ʔnziti<ʔnzijun (出る)。ʔnzitooti ともいう。'warabi~ saki nudi. 子供のくせに酒を飲んで。

-nu ʔnzitooti① (句) …のくせに。…でありながら。-nu ʔnziti ともいう。'jucanu-muN~. いい年をしながら。

nuNci① (名) mjuNci と同じ。

nuNcigutu① (名) mjuNcigutu と同じ。

nuNçikee① (名) mjuNçikee と同じ。

nuNcoobi① (名) mjuNcoobi と同じ。

nuNdee① (名) お叱り。ʔuNdee のさらに上の敬語。

nuNkaki=juN① (他 =raN, =ti) mjuNkaki-jun と同じ。

nuNkku① (名) [暖鍋] 料理名。のっぺいのようなもの。大根・にんじん・こんにゃく・昆布・揚げた豆腐などをさいの目に切って煮たもの。

nuNmizi① (名) numimizi と同じ。

nuNnaka① (名) 布の織りかけ。まだ織り終わらない布。

nuNnaki=juN① (他 =raN, =ti) mjuNnaki-jun と同じ。

nuNzu① (名) mjuNzu と同じ。

nuraa=rijun① (=ri-raN, =qti) 叱られる。nurajun (叱る) の受身。

nura=juN① (他 =aN, =ti) 叱る。「呪う」に関係ある語か。呪うは ʔicizama sjun という。ののしるは ʔaʔku sjun という。叱られる(受身)は nuraarijun。

nuregutu① (名) 陰口。陰で呪うこと。呪い。

nuri=juN① (自 =raN, =ti) 気が進む。乗り気になる。nuriraN. 気乗りがしない。

kukurunu nuririwadu sigutoo najuru. 乗り気になってこそはじめて仕事はできる。cimu ~. 気が進む。

nuru① (名) nuuru と同じ。

nurukumii① (名) [のろくもい] nuuru (のろ) の敬称。

nurumi=juN① (他 =raN, =ti) ぬるめる。少し暖める。

nuru=nuN (自 =maN, =di) (水などが) ぬるむ。

nuruNtu`ruN① (副) とろとろ。まどろむさま。

nuruQkwi=juN① (自 =raN, =ti) さめてぬるくなる。なまぬるくなる。ぬるくなって、おいしくなくなる。

nuruQkwijuu① (名) ぬるま湯。

nuruQkwikaa① (副) さめてなまぬるいさま。ぬるくておいしくなさそうなさま。~sjoon. (茶・吸い物などが)ぬるくなっている。

nuruQkwimuN① (名) なまぬるい者。ぐず。

nurusaN① (形) のろい。(動作が)鈍い。(速度が)遅い。

nurusaN① (形) (液体などの温度が)ぬるい。

nusi① (名) 熨斗(のし)。進物につける熨斗。nusi çikiti muçci ʔikee. 熨斗をつけて持って行け。

nusi① (名) 相撲の手。乗せの意。相手を腹の上に乘せてかかえ、投げるわざ。

nusidui① (名) [主取] 廃藩前の役名。役所で事務をとる役。

nusi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖乗せる。馬・車・船などに乗せる。⊖載せる。記載する。

nusikaimuN① (名) 何にでも顔を出す者。差し出がましい者。出ししゃばり。

nusika=juN① (自 =raN, =ti) ⊖少し出る。出かかる。ちょっと先が出る。çicinu ~.

月が出かかる。⊙ちょっと立ち寄る。ちょっと顔を出す。

nusiki=jun① (他 =ran, =ti) 差し出す。ちょっと出す。tii ~. イ. 手を差し出す。ロ. けんかをしかける。手を出す。

nusudu① (名) ぬすとの意。ぬすびと。泥棒。~ni mutaqtin 'wakaran. 泥棒に持ち上げられてもわからない。熟睡のさま。~nu kubinu takasan. 泥棒の首が高い。泥棒は発覚を恐れるあまり、かえって露見しやすい態度をとる。

nusuduNgwee① (名) 盗み食い。

nusu=nuN① (他 =man, =di) 盗む。泥棒する。

nuta① (名) 料理名。ぬた。ぬたあえ。

nuu① (名) 広広としていること。広さ。屋外について、また人の心などについている。「野」に対応する語か。ʔamarikaaja ~nu ʔan. あの辺は広広としている。~nu neen. 狭い。

nuu① (名) 何。~nu ʔaga. 何があるか。~'jaga. 何か。~hwidatinu ʔaga. 何のへだてがあるか。~ʔumiin neen. 何の心配もない。無邪気な。~ga. 何か。~ga ~'jara 'wakaran. 何が何だかわからない。~ga ~'jaga, munoo maasami. 一体どうした、飯はうまいか。~kara ~maai. 何から何まで。~ga 'jara. どうしたのか。どうしたわけか。cuuja nuga 'jara ʔumukazinu ʔumukazinu minuni sagatoti kurasaran… (かまやしな節) きょうはどうしたことか、面影が、面影が目の前にちらついて、じっとしてられない。~ganai ʔee. 何となれば。なぜなら。~gadun 'jaree. ともいう。~sjuga. イ. 何するか。何をしているか。ロ. 何になるか。何の役に立つか。ʔjaaja ~sjuga. おまえは何をしているか。ʔanneeru mun ~sjuga. そんな物何になるか。~tun. 何とも。~tun kiran. 何ともかち

あわない。~tun saaran. 何ともさしさわりがない。~dunin ʔjararan. 何とも言えない。ことばで表わせない。~nu. 何の。何が。~nu 'ukasjaga. 何がおかしいか(反語)。~nu miini. いつの間に。~nu miini cootaga. いつの間に来ていたか。~jakan. 何よりも。~jukan. ともいう。~jakan masi. 何よりもよい。~'jatin. 何でも。~'jatin kanusiga ʔami. 何でもいから食うものがあるか。~N neen. 何もない。~ndi ʔicaru kutuga. 何ということだ。何たることだ。~Nci. なぜ。~'nūicee neen. 何ということはない。何という理由はない。

nuubi① (名) 伸び。疲れた時などに、手足を伸ばすこと。

nuucu'ku① (名) 互いの曾祖父母が兄弟姉妹である間柄(の者)。mataʔicuku (またいとこ)の子同志。

nuudii① (名) のど。咽喉。

nuudiguuhu① (名) のどぼとけ。甲状軟骨の突起。

nuudiiʔwaagwaa① (名) のどちんこ。のどびこ。懸壺垂。

nuudiziru① (名) 声帯。~nu hwiqciri-iru sjaku ʔabijun. 声帯がちぎれるほど叫ぶ。

nuu'din① (副) 何でも。何でもいから。~muqci kuuwa. 何でもいから持ってこい。

nuu'doo① **kwi'doo**① (句) 何だかだ。~Ndi ʔjuru baaja ʔweekanu ʔuhooku 'uʔee masi. 何かという場合には親戚が多くいるのがよい。

nuugana① (名) 何か。~ʔaee sani. 何かありはしないか。

nuuguci① (名) 布の織り始め。

nuugu'tu① (名) 何事。~ga. 何事か。

nuuhwa① (名) 饒波。nuhwa, nihwa ともいう。(地) 参照。

nuuʔiciŋkwiiʔiciŋ

nuuʔiciŋkwiiʔiciŋ① (副) 何のかのと言っても。～ sikataa neen. 何のかのと言っても仕方がない。

nuuʔaakwiʔijaa① (名) 何やかや。～ kooisuraasjuN. 何やかや買い集める。

nuuʔatinkwiiʔatini① (副) どうあろうと。ともあれ。

nuukoosizi① (名) [文] [美御小筋] 細い線香のことか。ʔugwan (祈願) の文句などでいう語。

nuuʔkwii① (名) 何やかや。何のかの。～ Ndi ʔiciŋ. 何のかのと言っても。

nuume① (名) 玄米。

nuumeeganasi① (名) [美御前加那志] 国王に対する呼び名。ʔusjuganasiimee ともいう。

nuuʔnu① kwiiʔnu① (句) 何のかの。～ Ndi ʔici kuunTan. 何のかのと言っても来なかった。

nuunuʔu① (名) 何何。何と何。～ koojuga. 何何を買うか。

nuuN① (他・不規則) ʔNNzuN と同じ。

nuuN① (名) 織機の箎(おさ)の種類の名。十三よみ。経糸1040本を通す。また、それで織った布。huduci の項参照。

nuuʔNkwiiʔN① (副) 何もかも。すっかり。～ nicooN. 何もかも似ている。

nuurakwaʔara① (副) ぬらぬら。べとべと。汚物が所かまわずあるさま。durusai tiihwisja ~ sjoon. 泥で手足がべとべとだ。hanadainu ~ sjoon. 鼻みずをべとべとにたらしめている。

nuuri① (名) こげ。～ hoojuN. こげが生えひろがる。hoojuN は這う。

nuuru① (名) 沖縄固有の宗教の、いわゆる、のろ。祝女。みこ。神に奉仕する女。数部落の宗教的代表者で、部落ごとの神官である nigami, 一門ごとの神官である ʔukudi は nuuru に属し、nuuru 自身は、国家の宗教的元首である cihwiziŋ (きこえ大

君) に属する。

nuuʔsabiN① neen① (句) 何のさしさわりもない。いっこうさしつかえない。maakara ʔaŋciŋ ~. どんな所へ出て、いっこうさしさわりない。

nuuʔsawaN① (副) どうしても。何をやっても。

nuusi① (名) ぬし。あるじ。主人。持ち主。

nuuʔsizi① (名) [文] [美御せじ] 神様。神の敬称。

nuusjankwiiʔisjan① (副) 何のかの。～ Ndi ʔicanTeemaN sikataa neen. 何のかのと言ったところでしかたがない。

nuusjaru① (連体) 何ほどの。何の。何する。たいしたことはない。ʔaree ~ munuga. あいつ、何ほどのものか。ʔiisjoo-gwaŋi ʔjaa, ʔurigwaa. nusjaru ʔiisjoo-gwaŋiga, tusizirija, satume. 「いい正月だねえ、女郎さん。」「何がいい正月なものですか、お歳暮はどうしました、だんなさん。」katanabani sawaru munuja nusjaru munuga. [刀ばにさはる者や のしやる者が(手水之縁)] 刀のさまたげをする者は何するものか。

nuuʔtikutu① (名) 何ということ。nuutikutoo neen. 何と限ったことはない。何もかも。～ N neen. 何という返事もない。

nuuʔtuŋganaasi① (副) 何かの拍子に。ふとしたはずみに。ひょっと。～ ʔubiʔNzasjuN. 何かの拍子に思い出す。

nuuʔtuŋkwiiʔtuN① (副) 何ともかとも。何とでも。～ ʔjarijuN. 何とでも言える。

nuuʔzaree① (名) 御草履。草履(saba)の敬語 ʔuzaree をさらに敬っていった語。mjuuzaree ともいう。

nuuzi① (名) 虻。

nuʔa① (名) [古] 芸。演技。技芸。nuhwa は芸能そのものをいう。

nuʔatu① (名) 野里。《地》参照。

nuʔigaci① (名) 抜き書き。抜粋。

nuzihwa① (名) 遺骨や遺体を移す場合に、その場所に靈魂が残らぬように祭ること。
nuzisasi① (名) 組み立て式の装置。抜いたり差したりできる道具。
nuzi?uci① (名) だまし討ち。nuzi- < nuzuN (だます)。
nuzumi① (名) 望み。希望。願望。所望。相撲で負けて今一度勝負を望む時などに、nuzumi と言う。
nuzumiduui① (名) 望みどおり。
nuzu=nuN① (他 =maN, =di) ⊖望む。ほし

がる。希望する。⊖結婚の相手に望む。結婚を申し込む。惚れる。nuzumaqtoon. 惚れられている。

nu=zuN① (他 =gaN, =zi) ⊖抜く。taci~. 太刀を抜く。⊖脱ぐ。hada ~. 肌を脱ぐ。hakama ~. 下ばかまを脱ぐ。nugasjuN. 脱がす。gancoo ~. 眼鏡をはずす。着物を脱ぐ場合は、hazijuN という。

nu=zuN① (他 =gaN, =zi) だます。cama-sjuN ともいう。qeu ~. 人をだます。

- ʔNba① (名) 食品名。さらしくじら。ぬたにして食べる。
- ʔNba① (名) 食品名。ゆば。
- ʔNbagii① (名) ʔNbagiimee と同じ。
- ʔNbagiimee① (名) 農家で、出産祝いに出す飯。略して ʔNbagii ともいう。首里では kaaʔuriinu ʔuhurumee ともいう。
- ʔNbaitu=juN① (他 =raN, =ti) [文] 奪い取る。
- ʔNba=juN① (他 =aN, =ti) [文] 奪り。口語は boojun。
- ʔNbasi① (名) 植物名。くわずいも。薬草となる。里芋に似ているが、有毒。
- ʔNbee=juN① (自 =raN, =ti) (傷口や腫れものが) 化膿する。里芋など食物によって腫れものが悪化する場合にいう。
- ʔNbee=juN① (他 =raN, =ti) うめる。水を入れてぬるくする。
- ʔNbi=juN① (自 =raN, =ti) おびえる。ぞっとする。また、悪夢でうなされる。
- ʔNbujuu① (名) 産湯。
- ʔNbumizi① (名) 出産の時、生まれた赤子の額に数滴の水をつけてやること。また、その水。
- ʔNbumun① (名) 重い物。
- ʔNbunii① (名) 重荷。重い荷物。
- ʔNbuqwi=juN① (自 =raN, =ti) おぼれる。
- ʔNburasjan① (形) 重重的。品格がある。
- ʔNburasikesaa① (名) 料理の暖めかえし。蒸しかえした食物。
- ʔNbura=sjuN① (他 =saN, =ci) 蒸らす。たいた御飯などが蒸れるようにする。
- ʔNburi=juN① (自 =raN, =ti) ⊖(御飯などが) 蒸れる。⊖蒸されるように暑い。ʔNburijuru gutoon. 蒸されるように暑い。
- ʔNbusan① (形) 重い。
- ʔNbusi① (名) ⊖おもし。漬けものなどのおもし。⊖秤のおもり。分銅。⊖心の重荷となるもの。～ 'jatan. 重荷だった。
- ʔNbusii① (名) 料理名。野菜を主として、豆腐・肉などを加え、汁を少なくして煮たもの。
- ʔNbu=sjuN① (他 =saN, =ci) 蒸す。ふかす。
- ʔNbuzin① (名) 産着(うぶぎ)。
- ʔNgaʔNga① (副) おぎゃあおぎゃあ。生まれたばかりの赤んぼりの泣き声。
- ʔNma① (名) ⊖馬。⊖琴・三味線のこま。形が馬に似ているのでいう。
- ʔNma① (名) 午(うま)。十二支の第七位。方角は南、時刻は昼12時。
- ʔNma① (名) ⊖そこ。そっち。そちら。⊖そのかた。第三人称の ʔuri(その者)の敬語。ʔNmaa maa ʔujanʂeeɡa. そのかたはどなたでいらっしゃいますか。
- ʔNmadima① (名) 農村の結婚はたいてい同部落の間で行なわれたが、まれに他村から嫁をもらう場合、男は女の村の青年たちに酒代を出す習慣があった。その酒代をいう。
- ʔNmaga① (名) 孫。
- ʔNmagasagasakuma ʔgasagasa① (副) あちこちでちょこちょこ仕事をするさま。～ Qsi sjooraasii sigutoo tiic̄in ʂee neen. あちこちでちょこちょこ仕事をし、まともな仕事は一つもしてない。
- ʔNmagwaa① (名) 子馬。
- ʔNmahwicaa① (名) 馬方。馬を引く者の意。ʔNmamucaa ともいう。
- ʔNmakuma① (名) そこここ。あちこち。
- ʔNmamucaa① (名) 馬方。馬を持っている

者の意。ʔNmahwicaa ともいう。

ʔNmamuti① (名) そっちの方。そっち側。

ʔNmanuhwa① (名) 午(うま)の方角。南。

ʔNmanui① (名) 馬乗り。乗馬。また、馬に乘る人。

ʔNmanuibakama① (名) はかま。男子用。乗馬の時にのみ着用したのでいう。haka-ma は女用の下着。

ʔNmanujaa① (名) 馬乗り。馬に乘る人。相当の資産があり、名馬を求め、方方の馬場で競馬があるたびに出場して、勝負を争った。

ʔNmanujaa① (名) うまや。馬小屋。

ʔNmaʔNmaa① (名) 馬の小児語。

ʔNmari① (名) 生まれ。出生。

ʔNmaribii① (名) 生まれた日。誕生日。

ʔNmaridakasaN① (形) 生まれがいい。尊い生まれである。

ʔNmaridusi① (名) 十二支の上での生まれた年。生まれてから12年ごとにめぐってくる年。すなわち、13・25・37・49・61・73歳…の年。厄年とされる。sjoonin ともいう。harijakuの項参照。

ʔNmari=juN① (自 =ran, =ti) ⊖生まれる。ʔNmariran ʔNmari。生まれがいのない生まれかた。生まれなかったらと思われるようなあわれな境遇。⊖(砂糖や型に入れた菓子などが) うまくできあがる。

ʔNmarikaa① (名) その辺。

ʔNmarikaa=juN① (自 =ran, =ti) (死後に) 生まれ変わる。

ʔNmarikucoo① (名) 生まれ故郷。

ʔNmarisjoosiçi① (名) 生まれつきの性質。

ʔNmarizici① (名) 生まれつき。生まれつきの素質。

ʔNmarizima① (名) 生まれた部落。故郷の部落。

ʔNmarizimu① (名) 生まれながらの心。天性。

ʔNmasjuubu① (名) 競馬。馬術競技。

ʔNmazurii ともいう。

ʔNmatai① (名) 馬丁。

ʔNmaʔwii① (名) 馬場。

ʔNmazirimuN① (名) うまずめ。

ʔNmazurii① (名) 競馬。馬を揃えて勝負を争うこと。馬術競技。ʔNmasjuubu と同じ。

ʔNmee① (名) おばあさん。祖母、また、老婆。士族についていう語。

ʔNmi① (名) 膿(うみ)。

ʔNmi① (名) 梅。

ʔNmibusi① (名) 梅干。

ʔNmiʔiru① (名) 茶色。樺色。

ʔNmiʔiruu① (名) 茶色のもの。樺色のもの。

ʔNmii① (名) ねえさん。姉、また、未婚の女。士族についていう語。かりに三人姉がいれば、一番上を ʔuhuʔNmii (大ねえさん)、中を ʔNmii (ねえさん)、すぐ上を ʔNmiiigwaa (小ねえさん) のように呼び分ける。

ʔNmiiigwaa① (名) 前項を参照。

ʔNmiku=cuN① (自 =tan, =qci) ⊖(果実が) 熟し過ぎる。⊖(はれものが) 膿んでくずれる。

ʔNmizaki① (名) 泡盛に梅と砂糖とを入れたもの。

ʔNmizumi① (名) 梅染め。茶褐色の染物。

ʔNmookasii① (名) さつまいもを野菜と いっしょに煮た味噌汁。冬によくつくる。

ʔNmu① (名) 甘藷。さつまいも。単に ʔNmu (いも) といえば常に甘藷をさす。~ çukujun. 農業をする。

ʔNmuçukujaa① (名) 農民。百姓。さつまいもを作る者の意。

ʔNmugaa① (名) さつまいもの皮。豚の飼料とする。

ʔNmukasi① (名) さつまいもから澱粉を取った残りのかす。二、三日桶に入れて蒸らし、ねばり気が出てから小さく握り、乾燥

ʔNmukaşidaacii

させて貯蔵し、凶作に備える。

ʔNmukaşidaacii① (名) ʔNmukaşi を粉にしてから煮て固めたもの。食糧不足の時に用いる。

ʔNmukaşinaqtuu① (名) 菓子の名。ʔNmukasi を粉にして、砂糖を入れ、ごまなどを加えて練り固めたもの。ようかんのように、切って食べる。

ʔNmukuzi① (名) さつまいもからとった澱粉。洗濯物の糊にも使う。

ʔNmukuzihwirajacii① (名) 料理名。さつまいもの澱粉とさつまいもを練りまぜて油揚げにしたもの。

ʔNmukuziputuruu① (名) さつまいもの澱粉のくず湯。

ʔNmumaci① (名) さつまいもの市。首里では、近在からさつまいもが運ばれるので、午前10時ごろ始まり、正午ごろ終わるのが普通であった。

ʔNmunii① (名) 料理の名。いもねりの意。さつまいものくずいも・虫食いいもなどを練ったもの。下等な食物。しかし、kuu-ʔNmunii, taaʔNmunii などの上等なものもある。

ʔNmunukuci① (名) さつまいもの(ように黙りこんでいる)口の意。また、そのような者。無口の者を嘲笑するという語。

ʔNmunusiru① (名) さつまいもを煮る時出る汁。～ saajuN. さつまいもの煮汁をあける。

ʔNmuʔuhusjuu① (名) 1605年に中国からさつまいもを伝えた野国総管の俗称。

ʔNmuzaki① (名) さつまいもを原料にした酒。いも焼酎。

ʔNna① (名) うんこ。大便の小児語。

ʔNnabi① (名) 小米。碎け米。普通の米より安価なので、貧乏士族が食料とした。

ʔNnagee① (名) もみがら。また、稲穂の外殻の上端の、とがった針のような部分。芒(のぎ)。

ʔNnaguraaʔee① (名) ばった・いなごの類。

ʔNnamuzi①① (名) 小麦。

ʔNnaNmi① (名) 稲嶺。《地》参照。

ʔNnazi① (名) うなぎ。～ naicirijun. 子供が裸で逃げまわって、つかまらないことをいう。うなぎになりきる意。

ʔNnazi①① (名) 着物の背縫い。うなじから転じたもの。またさらに転じて、着物のつま(の不揃い)。～ noosi. 着物のつまの不揃いを直せ。

ʔNnazirakamazira① (名) 子供などが、ぐずぐずと物をねだること。はっきり口に出さず、そぶりでだだをこねること。～ sjuN.

ʔNni① (名) 稲。

ʔNnikai① (名) 稲刈り。

ʔNnimaziN① (名) いなむら。農家の庭先に稲を積み重ねたもの。単に maziN ともいう。

ʔN=nuN① (自 =man, =di) ⊖(果実が) 熟す。られる。⊖(はれものが) 臆む。

ʔNN① (感) うん。ああ。親しい者・目下に対して、同意・肯定の意を表わす語。単なる応答の場合は hNN。

ʔNndii① (名) かぶらな。蕪。野菜名。

ʔNnnaa① (名) きたないものの小児語。ばっちいもの。<ʔNna.

ʔNzanaa① (名) どもり。どもる者。

ʔNzani① (名) 遺言。ʔigun の俗語。

ʔNzani① (名) どもり。どもること。～ sjuN. どもる。

ʔNzaru① (連体) 去る。<ʔicuN. ～ san-gwaçi. 去る3月。

ʔNzasiʔiʔri① (名) 出し入れ。

ʔNza=sjuN① (他 =san, =ci) 出す。tigami ～. 手紙を出す。

ʔNzi① (感) そうか? ほんと? 話の真偽を確かめる時発する語。～ ʔan 'jami. そうか。～ sai. そうですか(男が目上に対して確かめる場合)。

ʔNzi① (名) 伊芸。(地) 参照。

ʔNziguci① (名) 出口。

ʔNzihana① (名) ⊖ 出はな。出たとたん。

⊖ 茶の出花。⊖ 市場の初物。はしり。

ʔNzihangwi① (名) 放蕩。家出。出奔。～
sjun.

ʔNzihuni① (名) 出船。出帆。

ʔNzihuniʔuiwee① (名) 船で旅をする人の
無事を祈って行なう祝い。首里では danzu
karijusija ʔiradi sasimişeru… と旅の
平安を祈る歌(「だんじゆかれよし節」)を
歌って祝う。

ʔNzihwa① (名) 支出。支出高。

ʔNziʔiri① (名) 出入り。出はいり。

ʔNzi=juN① (自 =raN, =ti) 出る。ʔNzитай
ʔiqcai. 出たりはいったり。

ʔNzikaʔiri'kaa① (名) 出たりはいったり。
頻繁に、また親しく出入りすること。また、
物事の動きが激しいこと。～nu ʔuhusaN.
出入りが多い。～sjun.

ʔNzikuhwa=ju'N① (自 =raN, =ti) (茶な
どが) 濃く出過ぎる。

ʔNziridaka① (名) 支出高。

ʔNzirihweerii① (名) ʔNzirimeerii と同じ。

ʔNzirimee① (名) 支出。支出すべき金。

ʔNzirumee ともいう。～ ʔirimee. 収支。

ʔNzirimeerii① (名) 外出着。ちょっとした
外出の時に着るもので、ʔiqsoocijaa (不
断着) よりよく、ʔwaazi (晴れ着) より
は悪い。ʔNzirihweerii, tunzihweezii
ともいう。

ʔNzirumee① (名) ʔNzirimee と同じ。

ʔNzisugai (名) 出発の準備。

ʔNzitaci① (名) いでたち。門出。出発。
tabinu ～. 旅の出発。

ʔNziti① -nu ʔNziti の項参照。

ʔNzitooti① -nu ʔNzitooti の項参照。

ʔNzu① (名) ʔizu [伊集] (植物名) の口語。

ʔNzu① (名) 伊集。ʔizu ともいう。(地) 参
照。

ʔNzucaaħaqtai① (名) (子供などが) ばた
ばた動いてじっとしていないこと。

ʔNzuciħa'i① (名) 身動き。体を動かして
じっとしていないこと。～nu ʔuhusan.
動いてばかりいる。～sjuna. 身動きす
るな。

ʔNzucimudu'ruçi① (名) 身動き。身じろ
ぎ。～N naraN. 身じろぎもできない。

ʔNzu=cuN① (自 =kaN, =ci) 動く。身動き
する。じっとしていない。

'N, -N

- 'N- (接頭) 御(み)。御(おん)。尊敬の接頭辞。mi- の項参照。'Nci (御手), 'Npana (御鼻), 'Npaa (御齒), 'Ncuubu (御腹) など。
- N (助) も。N に終わる語に付く時は、たとえば cin (着物) → cinun (着物も) のようになる。ただし 'wan (わたし) に付くと 'wannin (わたしも) となる。-ga (が), -nu (が) に付くこともある。それぞれの項参照。ʔarin kurin. あれもこれも。tuin san. 取りもしない。maama'in. どこまでも。
- 'Nba ④ (感・名) いや。拒絶・不承知の意を表わす語。また、いやがること。いやと言うこと。拒否すること。'NNba, 'Npa, 'NNpa ともいう。~ 'jaibiin. いやです。~ sjun. いやと言う。拒絶する。
- 'Nca ④ (名) 土。土壤。
- 'Nca ① (副) なるほど。全く。ほんとに。はたして。予想にたがわず。~ ʔan 'jasa. ほんとにそうだよ。
- 'Ncaagi ④ (名) kaagi (姿・容貌) の敬語。御姿。御容貌。
- 'Ncaagirii ④ (名) 綿入れ ('wataʔiri) の敬語。御綿入れ。
- 'Ncabi ④ (名) 紙銭。春秋の彼岸に焚く、銭型を打った紙。御紙の意。また、その行事。彼岸祭り。平民は多く kabiʔanzii という。大名以上は彼岸の入り (ʔirihwi) に行ない、士族は彼岸の中目 (cuunici) に行なう。平民はその後に行なう。
- 'Ncabuku ④ (名) 土塊。土くれ。
- 'Ncaca ④ (名) kaca (蚊帳) の敬語。御蚊帳。
- 'Ncama ④ (名) 御釜。鍋釜類の敬語。
- 'Ncamutaan ④ (名) 土遊び。泥遊び。
- 'Ncanasi ④ (名) tanasi (女の夏の礼服) の敬語。また、夏着全体の敬語にもなる。
- 'Ncanumii ④ (名) 土の中。土中。~kara midurinu ʔnzijun. 土の中から芽が出る。
- 'NcaN ① (名) [御神] 神。神様。祖神。祖先の神様をいう。自然の神・火の神などにはいわない。
- 'NcaNtiici ④ (名) 一族一門。同族。「御神一つ」の意。tunzitaru munuja murabarunu ʔajaatu ~nu cicaʔunpaian. [とんちたる者や 村原のあやと 御神一つ] 近おんばだん (大川敵討)] まかり出た者は、村原夫人と祖神を同じくする近い親類。
- 'NcaNʔutana ④ (名) 神棚。
- 'Ncatimun ④ (名) katimun (おかず) の敬語。
- 'Ncee ④ (名) kee (衣びつ・衣裳箱) の敬語。御衣裳箱。
- 'Nci ④ (名) 手 (tii) の敬語。御手。
- 'Ncitamagu ④ (名) 皮をむいたゆで卵。肌の美しいのにたとえる。ʔiroo hujuunu ʔiru, haiaa ~nu haia. 色は美容の色、肌はむき卵の肌。
- 'Neu ④ (名) 一昨年。おとし。また、三年前。<micu. ~ nati. 三年経って。~ natinu ʔikusa. 三年前の戦争。
- Neu (接尾) の人 (<-nu qcu). sjuiNeu (首里の人), 'jamatuNeu (日本人) など。
- 'Neuca ④ (名) kuca (若夫婦の寝室) の敬語。上流家庭で使う語。
- 'Neucaʔajaamee ④ (名) 夫が旅行中の奥様。
- 'Ncumi ④ (名) お米。
- 'N=cuN ④ (他) =kaN, =ci) 剥く。皮をむく。

- kunibu ~. オレンジをむく。?Nmu ~. さつまいもの皮をむく。
- N=euN (接尾 =kaN, =ci) 込む。nagiNcuN (投げこむ), ?usincun (押しこむ), sasinCun (さしこむ), hweeriNcuN (はいりこむ) など。
- 'Ncusi* (名) ⊖kusi (腰)の敬語。⊖おこし。女の腰巻の敬語。
- 'Ncuubu① (名) 腹の敬語。御腹。さらにその上の敬語は ?uNcuubu。 <kuubaa。
- 'Nda④ (感) ⊖どれ。どりゃ。 ~ misiree. どれ、見せろ。 ⊖こら。 ~ kunihjaa. こら、こいつ。
- 'Nda=sjuN① (他 =saN, =ci) 濡らす。
- N'dee (助) など。でも。軽く扱う意を表わす。kuri~. これでも。tabaku~ ?u-sjagamisjooree. たばこでも召し上がり下さい。nuu~ ?aga. 何などがあるか。
- N'di (助) ⊖と。引用句を受ける。nuu~ ?jutaga. 何と言ったか。Nに終わる語に付く時は短縮されて -di となることもある。?icuN~ ?jutAN. 「行く」と言った。短縮されて ?icuNdi ?jutAN. (行くと言った。)ともなる。kunnagee macundee ?umaantan. こんなに待つとは思わなかった。 ⊖ために。?iicigeei sjundi ?ucagatan. 息をするために水中から浮き上がった。
- Ndi'ci (助) と言って。 -Ndi ?ici (と言って)の略。
- 'Ndi=juN① (自 =raN, =ti) ⊖濡れる。 ⊖零落する。
- 'Ndikaa① (副) ⊖雨などに濡れたさま。びっしょり。 ~ sjoon. びっしょり濡れている。 ⊖みじめで見んかげもないさま。
- Ndi'ru (助) という。 -Ndi ?juru (という)の略。
- Ndi'sa (助) とさ。 ということだ。 -Ndi ?jusa (と言うよ)の略。 ?juuriinu ?NzitanDisa. 幽霊が出たとき。
- Nkai (助) に。 Nで終わる語に付く時はそのNをnuに変えて、 ?iN (犬)→?inuNkai (犬に)のようになる。ただし 'wan (わたし)に付くときは 'wanNinkai (わたしに)となる。kii~ nubujun. 木に登る。 ?uja~ ?jun. 親に言う。 sinsii~ ?usjagijabira. 先生にさしあげましょ。 sin-sii~ ?unaree sjun. 先生にお習いする。 ?jaqci~ nuraaqtan. 兄に叱られた。 sigutu~ hwiqkatancoon. 仕事に熱中している。
- 'Nka=juN① (自 =aN, =ti) ⊖向かう。 向く。 ⊖適する。 ⊖向かう。 敵対する。
- 'Nkasi④ (名) 昔。 ~kara namamadi. 昔から今まで。
- 'Nkasiba'nasi④ (名) 昔話。
- 'Nkasigu'tu④ (名) 昔の事。
- 'Nkasihu'uzi④ (名) 昔風。 昔流。
- 'Nkasimunuga'tai④ (名) 物語。 昔話。
- 'Nkasi'Ncu④ (名) 昔の人。 古人・老人・故人など。 ~nu ?ikutuba. 昔の人のことば。 格言。
- 'Nkasi'Yuta④ (名) 昔の歌。 古歌。
- 'Nkazi④ (名) むかで。
- 'Nkee④ (名) ⊖向かい。 向かい側。 ~jataa 'jaga. 向かい(の家)は誰か。 ⊖(接尾)向き。 hweenkee (南向き), ?agariNkee (東向き) など。
- 'Nkeehana④ (名) 迎えてすぐ。 迎えたたたん。 会りが早いか。 'Nkeeziraと同じ。 ~ ?aqku sjuru munoo ?aran. 会りが早いかなどなりつけるものではない。
- 'Nkee=juN① (他 =raN, =ti) 迎える。 'Nkeega ?icuN. 迎えに行く。
- 'Nkeekazi④ (名) 向かい風。 逆風。
- 'Nkeezira④ (名) 迎えてすぐ。 会りが早いか。 -zira < ?ira (顔)。 Nkeehanaともいう。
- 'Nki=juN① (自 =raN, =ti) 剥ける。 kaanu ~. 皮がむける。

'Nkijun

'Nki=juN① (他 =raN, =ti) 向ける。

'Nkuu① (名) 幼児の喃語。赤んぼろが、まだことばになっていない音声を発すること。生後二か月くらいからする。boozaaja ~ sjabiimi. ぼっちゃんは声を出しますか。

'Nmi① (名) 嶺井。《地》参照。

'Nmoo① (感) モー。牛の鳴き声。

'NmoogaQ'kui① (名) 子供の遊戯の名。ごつつこ。額と額とを突き合わせること。

'Nna① (名) から。むなしいこと。空虚。~ natooN. からになっている。

'Nna① (名) 皆。すべて。全員。全部。

'Nnaakari① (名) 一尋の半分。半尋。片手を伸ばして指先から胸の中央までの長さをいう。昔、布の長さなどを計った単位。

-**Nnaara** (接尾)「不適切に早い時期に」の意。ʔakaçiciNnaara (夜明けなのに), sjoogwaçinNaara (正月早早にもかかわらず) など。

'Nnabai① (名) むなしく目をあいていること。目はあけていても何も見ないこと。mii ~ sjoon. 呆然としている。

'Nnabata① (名) 何も植えてない畑。あいている畑。

'Nnadii① (副) 素手。手ぶら。手に何も持たないさま。また、みやげものを持たないさま。~ ʔicun. 手ぶらで行く。

'Nnadii'karadii① (副) 素手。手ぶら。徒手。~ qsi. 手ぶらで。~ ʔicun. 手ぶらで行く。

'Nnaduu① (副) 身に何も持たないさま。身一つ。また、みやげものを持たないさま。素手。手ぶら。~ ʔicun. 手ぶらで行く。

'Nnaduu'karaduu① (副) 身一つ。素手。手ぶら。

'Nnagara① (名) から。からっぽ。容器に何もはいてないこと。

'Nnaguruma① (名) からの車。空車。

'Nnaii① (名) 無為にすわっていること。-ii <'ijun.

'Nnajaa① (名) あき家。

'Nnajasici① (名) あき屋敷。家のない敷地。さら地。

'Nnakuci① (副) 何も食べさせないさま。~ simijun. 何も食べさせない。~ muduci cimu 'janun. 何も食べさせずに帰して後悔する。

'Nnakuzi① (名) からくじ。はずれたくじ。

'Nnamaci① (名) むなしく待つこと。待ちぼうけ。

'Nnamun① (名) からっぽ。中に何もないうこと。

'NnanaNzi① (名) 徒労。無駄骨折り。

'Nnangwee① (名) 徒食。働かないで食うこと。

'Nnasawazi① (名) から騒ぎ。

'Nnatarugaki① (名) 空頼み。

'Nnatu① (名) 港。tumai ともいう。

'Nnatugwaa① (名) 港小。鳥尻の旧具志川間切にある港。

'NnatujubinuQkwa① (名) さめの一種。ぼうざめ。

'Nnaʔuqsja① (名) ぬか喜び。

'Nnawata① (名) 空腹。すき腹。

'Nni① (名) 胸。~ dakumikasjun. 胸をときめかす。~ 'jacun. 焦心苦慮する。危険に会った時や他人の危険を見た時などにいう。

'Nni① (名) 着物のおくみ。

'Nni① (名) 建物の棟。

'Nnidakudaku① (副) 胸がどきどきするさま。~ sjun.

'Nnidondon① (副) 胸がどきどきするさま。~ sjun.

'Nnigii① (名) 胸毛。

'Nnigitugitu① (副) 胸がどきどきするさま。'Nnidakudaku, 'Nnidondon などともいう。~ sjun.

'Nniguci① (名) みずおち。ʔutusi ともしう。

'NnihwizurusaN① (形) はっとする。肝を冷やす。

'Nnitaara① 'warijun① (句) 心配で、胸がつぶれる。tadeemanu kutu 'jati 'Nnitaara 'waritooN. 突然のことなので、心配で胸がつぶれる思いだ。

'Nniziira① (名) 心労。精神的な苦勞。心を痛めること。-ziira < siira. ~nu ʔuhusaN. 心労が多い。qkwanu hurimun nati ~ ʔiqcoosaa. 子供がならず者になって苦勞させられているよ。

'Nnu① (名) みの。かや・わら・びろうなどで編んだ、農民の雨着。

'NNba①* (感・名) 'Nba と同じ。

'NNN'N① (感) ううん。いや。いいえ。目下またはきわめて親しい者に対して、軽く、否定または拒絶の意を表わす語。

'NNpa①* (感・名) 'Npa, 'NNba, 'Nba と同じ。

'NNzu① (名) 'Nzu と同じ。

'NNzuN① (他・不規則) ⊖見る。sibai ~. 芝居を見る。'Nndanhuunaa. 見ないふり。'Nndarijun. イ. 見られる(受身)。ロ. 見られる。見るに足る。'Nndan mun 'NNcaannee. 見ないものを見たようにの意。子供などが非常にかわいいさま。また、玩具などを非常に大事にするさま。'NNcai cicai. 見たり聞いたり。⊖…してみる。tuti 'Nndee. (取るなら) 取ってみろ。'judi 'Nnda. 読んでみよう。

'Npa① (感・名) 'Nba と同じ。

-Npaa (接尾) いやがる意を表わす接尾辞。…するのをいやがること。ʔicinpaa, ʔikanpaa (ともに、行くのをいやがること), kacinpaa, kakanpaa (ともに、書くのをいやがること), siinpaa, sannpaa (ともに、するのをいやがること) など。siinpaadu 'jaru. するのはいやだ。

'judašiga ciinpaa sjoobjabiin. 呼んだが、来るのはいやだと言っています。

'NpaaNpaa① (感・名) いやいや。いやがること。~nu ʔuhusaN. いやがることが多い。~ sjooti. いやいやながら。不承不承。

'Npana①* (名) お花。花の敬語。~ ʔusjagijun. (仏壇に) お花を上げる。

'Npana① (名) 御鼻。鼻の敬語。

'Npanagumi① (名) [御花米] ʔugwan (祈願) をする時に用いる、洗い清めた米。もし、あたりに水がなくて洗ってない場合には karanpana という。また、洗った時には、ʔusimasi という。

'Npanaʔuzaki① (名) 'Npanagumi (祭祀用の米) とお神酒。ʔugwan (祈願) をする時、米を洗い清めて盆に盛り、その上に酒をみたした杯をのせて拝む。その米と酒をいう。

-Nše'eN (接尾・不規則) …られる。お…になる。-mišeen と同じ。ただしふつう -mišeen の方がやや敬意の度が高い。しかし、接頭語 ʔu- が付くと、ふつう -Nše'eN の方がかえって敬意の度を増す。すなわち、たとえば、'juminšeen, 'jumi-mišeen, ʔujumimišeen, ʔujuminšeen (いずれも読まれる、お読みになる) の順にあとのものほど敬意の度が増す。

'NsjamuN① (名) [文] 頼もしい人間。申し分のない者。murabarutuzija miikuci 'jahwahawatu kuusjuuraasii kaagi, huNnu 'Nca ~ 'jašin čittee daa ʔazija cantu ʔucihuriti. [村原妻や目口やはやはと少しほろしいかあげ ほんのむちやむしやものやすんついてや だあ按司やちやんとうちほれて (大川徹討)] 村原の妻は顔立ちがやさしく美しく、ほんとうに申し分のない者なので、そこで按司はすっかり惚れこんで。

'Nsju①* (名) 火薬。'insju と同じ。

***Nsu**① (名) 味噌。misu ともいう。

***Nsu**① (名) [御衣] ⊖着物 (ciN) の敬語。御召し物。みそ(御衣)。⊖ciirukabi (その項参照) のことをいうことがある。

***Nsunabaa**① (名) 味噌菜の意。葉野菜の名。ふだん草に似て大きい。

***Nza**① (名) ⊖下人。下男下女。奴隷的な使用人。身代金 (dusiru) によって使われる者。⊖[文] やつ。ʔija ʔicisakasi ~nu ʔjuru kutunu nikusa. [いや 生きかしんざの 言ふことの憎さ(忠臣身替)] いや, なまいきなやつの言うことの憎さよ。

***Nzadaki**① (名) 'Nzataki と同じ。

***Nzadi**① (副) いやというほどたくさん。どっさり。うんと。ʔNmunu ~ ʔaŋ. さつまいもがうんとある。

***Nzaki**① (名) 植物名。にがき。樹液は健胃剤、害虫駆除などに用い、木材は、虫がつかないのでたんすなどを作る。

***Nzami**① (名) にがみ。

***NzamuN**① (名) ⊖にがみもの。⊖悪者。

***Nzana**① (名) 植物名。わだん。ほそばわだん。薬草の名。山野に自生し、その葉は大変にがく、健胃剤となる。「にが菜」の意。

***Nzanajuu**① (名) 'Nzana の葉をすりつぶして取った汁。解熱剤・健胃剤にする。

***NzaNzaatu**① (副) ずけずけ。無遠慮に面罵するさま。~ ʔici turaci ʔiragwaa nacaŋ. ずけずけと言って、顔も上げられなくしてやった。

***NzaQkwa**① (名) 'Nza と同じ。とくにその若い者をいう。

***Nzaraka=sjuN**① (他 =saŋ, =ci) (糸・髪などを) もつれさせる。乱れさせる。

***Nzari**① (名) 乱れ。もつれ。髪・糸・縄などについている。国・家などの乱れは mi-

dari という。

***Nzari=jun**① (自 =raŋ, =ti) ⊖(髪・糸などが) もつれる。乱れる。⊖(事が) もつれる。やっかいな事になる。kunu sigutoo 'Nzaritoosa. この仕事には手こずっている。(心・国などが乱れることには、midarijun を用いる。)

***NzarimuN**① (名) 乱暴者。手こずらせる者。

***NzasaN**① (形) にがい。

***Nza=sjuN**① (他 =saŋ, =ci) 磨く。磨いて光らせる。

***Nzataki**① (名) 竹の一種。ほうらいちく。「にがたけ」に対応する。'Nzadaki とともいう。垣根などに植え、高さ3~4メートル。ざるなどを作るのに用いる。

***Nzatu**① (名) 美里。《地》参照。

***Nzawaree**① (名) 苦笑い。~ sjuN.

***Nzi**① (名) とげ。草木・魚骨・木片などのとげ。

***Nziçicaa**① (名) あざみ。çibana とともいう。

***Nzo**① (名) [文] [無蔵] 男が恋する女を親しんでいう語。恋人(女)。sjura (その項参照) とともいう。~ga ʔumukazini hwi-kasariti 'waminu kasani kau kakuci sinudi ʔicuŋ. [無蔵が面影に ひかされてわ身の 傘に顔かくち 忍で行きゆん] 恋する女のおもかげにひかれて、わたしは傘に顔をかくして忍んで行く。

***NzoosaN**① (形) 愛らしい。かわいい。那覇その他で多く用いるが、首里ではあまり用いない。

***Nzu**① (名) 溝。下水。'NNzu とともいう。

***NzuNzuutu**① (副) うんと強く。~ su-gujun. うんと強くなぐる。

ʔooruubii

ʔooruubii① (名) 鬼火。きつね火。燐火。

ʔooruumuutii① (名) 緑色の muutii (元結い)。muutii の項参照。

ʔoosabi① (名) 緑色の錆。緑青。青錆。

ʔoosaN① (形) ㊦青い。緑色である。緑色を念頭に置いている。純粹の青は miziiru という。㊦(果実・人物などが)未熟である。

ʔoositoo① (名) お手玉。女の子の玩具の名。また、その遊戯の名。

ʔoosjukurusju① (名) 沖の海の色。また、沖の海。沖の海の水。青潮黒潮の意。

ʔootoo① (名) 柑橘類 (kunibu) の一種。青唐九年母の略。実は皮が薄く、汁多く、

すっぱい。

ʔootoo① (名) びり。

ʔootuuziN① (名) 燈心草。藺(い)。biigu-ii, tuuziNii の別名。

ʔoozeeniiseegwaa① (名) 青二才。青年 (niisee) をのしっている語。

ʔoozi① (名) 扇。扇子。また、うちわ。うちわは ʔuciwa ともいう。

ʔoozimee① (名) 扇舞い。扇を持って舞う舞い。芝居では若衆がするので 'waka-sjuudui ともいう。

ʔoozinuhuni① (名) 扇の骨。

ʔoo=zuN① (他 =gaN, =zi) 扇ぐ。

'oo① (名) 王。国王。ふつうは ʔusjuga-nasiimee [お主加那志前] と呼ぶ。

'oodan① (名) 病名。黄疸。

'oogai① (名) 横暴。～na ʔakara. 横暴なやから。

'oohoo① (感) ([ōōhōō] のように鼻音化して発音される。鼻音化しないとぞんざいに聞こえる) さあ。では。目下の年長に対して誘いかける時に発する語。diqkaa, diqkaa naa ともう。目上に対しては 'uuhuu, 目下一般に対しては 'iihii という。～ ʔikana. さあ行きましょう。

'oohuku① (名) 往復。

'oohwi① (名) 王妃。国王の正妻。

'ooki① (名) 和宇襲。《地》参照。

'ookwan① (名) 往還。大きな道。街道。

'ooo'o① (感) ([ōōō'ō] のように鼻音化して発音される。鼻音化しないとぞんざいに

聞こえる) いいえ。いや。目下の年長に対して、否定または拒絶の意を表わす語。目上には 'uuuu, 目下一般には 'iiii という。

'ooree① (名) 往来。人の行き来。sjuniN ~nu taima neN ʔamunu, kuma 'ututi gujooši tazinijaimjabira. [諸人往来の絶間ないぬあものこまをとて御様子 尋ねやりみやべら (花売の縁)] 諸人の往来の絶え間がないから、こっちにいて(父上の)御様子をたずねて見ましょう。

'oozi① (名) ⊖王子。王の男の子。また、先王の子、すなわち王の兄弟をもいう。⊖位階の名。王に次ぐ最高の位階。

'ooziʔudun① (名) 王子の御殿 (ʔudun)。また王子の家柄。按司 (ʔazi) の ʔudun より一段の尊敬が払われていた。明治の末期には zinoonʔudun [宜野湾御殿] と maçijamaʔudun [松山御殿] があつた。

- paakuu**Ⓞ (名) たばこの小兒語。煙の形容から来た語であろう。
- paapaa**Ⓞ (名) haamee (平民の祖母・老女)の敬称。おばあさん。士族・貴族の妾(平民)の老女になった者などをいう。那覇その他では単におばあさん(祖母・老女)の意で用いるようである。
- paaraNkuu**Ⓞ (名) 片側だけを張った、胴の短い太鼓。
- paasuNkoo**Ⓞ (名) kusicii'ukwaasi (祭祀用の菓子の名。その項参照)の一種。白色で、落花生入り。
- pacimika=sjuN**Ⓞ (自 =saN, =ci) ばちんという。pacimikaci 'waritan. ばちんと割れた。
- pacin**Ⓞ (副) ばちん。陶器などの割れる音・小さな爆発音など。
- pacipaci**Ⓞ (副) ばちばち。手をたたく音・たきぎなどの燃える音・炒った豆などのはぜる音・木の枝などを折る音など。
- pakupaku**Ⓞ (副) ぷかりぷかり。たばこを吸うさま。tabaku ~ hucun. たばこをぷかりぷかり吸う。
- pan**Ⓞ (副) ばん。ばんと音を立てるさま。また、ばんと打つ意の小兒語。~ sjuN. ばんと打つ。
- panmikasihii**Ⓞ (名) 銭をかけてする遊戯の名。相手の銭に銭を打ちつけ、それに重なるか、それを越すかすれば、自分のものとする。のち、正月以外にすることを禁じられた。
- panmika=sjuN**Ⓞ (自・他 =saN, =ci) ばんという音を立てる。ばんと打つ。
- paQsai**Ⓞ (名) 唐手の型の名。
- paQtarigeecjaa**Ⓞ (副) paQturugeecjaa と同じ。
- paQturugeecjaa**Ⓞ (副) ばたばた。じたばた。子供・魚などが、体・手足などをばたばたさせて暴れるさま。haQturugeecjaa ともいう。~ sjuN. じたばたするな。~ Qsi kaçimiraran. ばたばたしてつかまえられる。
- pee**Ⓞ (名) 物を捨てること・口に入れたものを吐き出すことの小兒語。ばい。ちゃい。~ sjuN.
- peecin**Ⓞ (名) [親雲上] 鹿藩前の位階の名。[大やくもい] (Yuhujakumui) の俗称。一村を領する。satunusipeecin [里之子親雲上] と cikudunpeecin [筑登之親雲上] の二種があり、王子から数えて前者は四番目、後者は六番目に位する。
- peepec**Ⓞ (名) きたない物の小兒語。ぼっち。ʔNnaa ともいう。
- piipii**Ⓞ (名) ねずみの小兒語。
- piipii**Ⓞ (副) 貧乏なさま。~ sjuon. 困窮している。びいびいしている。
- piiraruraa**Ⓞ (副) 管楽器 (gakubura など) の音のさま。~ sjuon. 管楽器の音がしている。
- pijapija**Ⓞ (副) ぴよぴよ。ひよこの鳴き声。~ sjuN. ぴよぴよと鳴く。
- pinʔan**Ⓞ (名) 唐手の型の名。
- pirin'paran**Ⓞ (副) ㊦べちゃくちゃ。おしゃべりするさま。~ munu 'junun. べらべらしゃべる。㊦外国語(ことに西洋語)をしゃべるさま。べらべら。ʔura-ndaguci ~ sjuN. 西洋語をべらべらしゃべる。
- pon**Ⓞ (副) ぼとん。物の落ちる時の音。また、落ちるさま。水中に小石を投げた場合の音など。
- ponmika=sjuN**Ⓞ (自 =saN, =ci) ぼとんと

音を立てる。ぽとんという。poNmikaci
ʔutijuN. ぽとんと落ちる。

poopoo① (名) 料理の名。焼きぎょうざの
ようなもの。小麦粉を水でこね、薄く伸べ
て、中に細かく刻んだ豚肉・みそなどを包
み、鍋で焼いたもの。料理法も名前も中国
伝来のものと思われる。

pucimika=sjuN① (自 =saN, =ci) ぶつと
いう。ぽきんと音を出す。pucimikaci
'uuritaN. ぽきんと言って折れた。

puQciri①① (副) ぷつり。ぽきり。物が折

れるさま。また、切れるさま。

puQturuu① (名) 料理名。のり状に作った
料理。soomiNpuQturuu (そうめんを煮
て油をかきまぜたもの), ʔNmukuzipu-
Qturuu (さつまいもの澱粉を練り、熱湯
をそそいで固まらせ、味噌で味を付けたも
の) などがある。

puu① (副) 屁の音。

puurupuuruu① (副) ぶくぶく。生きもの
などが水中に沈んでいくさま。～ sjuN.
ぶくぶく沈む。

Q

- Qcu**① (名) 人。また、他人。文語では hwi-tu ともいう。～ najun. 人となる。成長して人並みになる。～ ni 'iiraqtoon. 人に信頼されている。信望がある。～ nu 'wii-ndin 'yumaaran. 他人の身の上とも思われない。あまりにかわいそうで、我が身のよさな気持ちがする。～ nu kukuru. 人の心。人間の心。わかりにくいもの・移りやすいものという場合に多く使う。～ nu kuci. 世間の評判。人のうわさ。～ nu kucee 'yuturusii mun. 人のうわさは恐ろしいもの。～ nu kutu. 他人事。人の事。～ nu kutu sjundi duu mucitoosjun. 人のことを助けようとして、わが身をそこなう。～ nu kutuba. 他人の言。～ nu kutuba kunzun. 人のことばのあげ足をとる。～ nu tacikukudoon. 人が立ち囲んでいる。人垣を作っている。～ nu 'ciun. 大勢の人が寄ってくる。(医者などが) 人気がある。～ nu duu. 人の体。人身。～ nu tunci. 人様の御屋敷。他人の家の敬称。女が言う。～ nu nuci. 人の命。人命。～ nu ni-geeja 'yadaa naran. 人の願いはあだにはならぬ。祈ればかなえられる。～ nu neebi. 人真似。他人の真似事。～ nu hwii 'akagarasjun. 人の非をあばく。～ N 'yaran. 他人でもない。他人行儀にしなくてもよい。Qcoo 'yaran. イ。人でなしである。人非人である。ロ。他人ではない。他人行儀にするな。
- Qcu'zanamuN**① (名) 他人。親類でない者。tuusaru 'weekajaka cicasaru ～. 遠い親類より、近い他人。
- Qcu'zasi**① (名) 人の往来。～ nu cirijun. 往来がとだえる。
- Qcu'zatu**① (名) 人におくれること。人後。～ najun. 人におくれる。人後に落ちる。
- Qcubanari**① (名) 人里離れた所。
- QcubaQpee**① (名) 人違い。あらぬ人をその人かと思ひ違えること。
- Qcubiree**① (名) 人との交際。人とのつきあい。～ ja mu'ikasii mun. 人とのつきあいはむずかしいもの。
- Qcucimugurisja**① (名) 慈愛。人を憐れみ、いつくしむこと。～ sjun.
- Qcudaki**① (名) 人の背たけ。人の背たけほどの高さ。
- Qcudamasjaa**① (名) 人をだます者。詐欺師。
- Qcuduui**① (名) 人通り。人の往来。
- Qcugara**① (名) 人柄。
- QcugawaiimuN**① (名) ⊖変わり者。変人。
⊕*非凡な人。偉人。
- Qcugutu**① (名) ⊖人との交際。社交。～ N cuweemun 'jasa. 人との交際も大変なものだ(交際費がかかる)。⊖人の悪口。～ 'junun. 人の悪口をしゃべる。
- Qcuhada**① (名) 人の肌。また、そのぬくみ。
- Qcuhurubasjaa**① (名) 借金をふみ倒す者。-hurubasjaa<hurubun.
- Qcukasimasjaa**① (名) 人をうるさがること。また、その者。人間ざらい。～ 'jan. 人間ざらいである。
- Qcukazi**① (副) 人ごとに。どの人にも。～ tuutasiga 'wakarantaN. 会う人ごとに尋ねたが、わからなかった。
- Qcu'weebiira**① (名) 南京虫。-biira<hwiira.
- Qcumama**① (名) 人の言いなり。人のするまま。～ ni najun. 人の言いなりになる。人の言うままに従う。
- Qcumasai**① (名) 人にまさること。文語は

- hwitumasai.
- Qcumee**①(名) ⊖人前。～uti hazi kaka-saqtaN. 人前で恥をかかされた。⊖人に先んじること。人よりすぐれること。caa ~ nati ?aqcuN. いつも人に先んじている。
- Qcunami**①(名) 人並み。世間並み。
- Qcunari**①(名) (子供・動物などが) 人に馴れること。
- Qcunusudu**①(名) 人さらい。
- Qcunuzaa**①(名) 詐欺師。-nuzaa<nuzun.
- QcunuzimuN**①(名) 詐欺師。
- Qcusaci**①(名) 人に先んじること。Qcumee (人前)ともいう。Qcu?atu の対。
- Qcusasi?iibi**①(名) 人さし指。
- Qcu?ujamee**①(名) 人を敬うこと。また、謙譲で礼儀正しいこと。
- Qcu?uQsjagisaN**①(形) 愛想がいい。人がよさそうに見える。
- Qcu?u?eeciimu`nii**①(名) 人を馬鹿にした言い方。軽蔑したことは使い。
- Qcu?u?eeciimuN**①(名) 人をあなどる者。人を軽蔑する者。
- Qcu?utu**①(名) 人の来る足音。また、人のいる気配を感じさせる音。
- Qcu?uzi**①(名) 人怖じ。人見知り。
- Qcuwii**①(名) 人いきれに酔うこと。劇場など、大勢の人の中にいたために頭痛などを起こすこと。-wii<'wiijun.
- Qkwa**①(名) 子。子供。親に対する子。大人に対する子供は 'warabi. ~ nasjun. 子を生む。~nu cuuree ?ujaa ?izin. 子が大きくなれば親は仕合わせ。
- Qkwa?iicaa**①(名) わが子をひいきする者。親馬鹿。
- Qkwa?iici**①(名) 子びいき。わが子をひいきすること。
- Qkwagwaa**①(名) 小さい子。~ tiicee. 鳩(hootu)の鳴き声。子供を一人の意。ku-tuukwiikwii ~ tiicee ?oonu 'jama ?Nzi

nasawa kwira 'jaa. (童話) クトゥークィークィー(鳩の鳴き声)、子供を一人、奥武の山へ行って生んだらあげよう。

- Qkwamucaabusi**①(名) [子持節] 歌曲の名。子持節。その本歌は子を失った悲哀を歌った次の歌。 taruju ?uramituti nacuga hamaciduri ?awan ?irinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きよが浜千鳥 逢わぬつれなさや わみも共に] 誰を恨んで鳴くのか浜千鳥、子に会えないつれなさは、わたしも同じだ。
- Qkwamucaabusi**①(名) 子持ち屋。そばに小さな屋を従えた屋。
- Qkwamuci**①(名) 子持ち。子のあること。子を連れていること。女親をいう。
- Qkwamujaa**①(名) 子もり。小児のもりをする者。上流家庭では特にそのために少女が雇われる。
- Qkwamujaa?uta**①(名) 子もり歌。たとえば次のようなもの。?jooi ?jooi nakuna 'jo, ?uhumura?udunnu kadunakai mimiciriboozinu taqcojabin, ?iigun, hooan muqcojabin... (おどしつける歌の例) イョーイ イョーイ 泣くなよ、大村御殿の角に耳切り坊主が立ってます。ナイフもほうちょうも持ってます…。?Nmiiga ?Nmiiga munitatitii, zitagwan sabagwan kumasjun doo, toon 'jamatun ?aqkasa 'jaa, 'waqtaa?unbozugwaa ja nacabiran, ?weru ?weru ?weru. (愛情のこもった歌の例) ねえさんがねえさんがおもりして育て、下駄もぞりもはかせてあげるよ。唐も大和も旅させてあげるよ。うちのおぼっちゃまは泣きません。ウエルウエルウエル。
- Qkwanasaa**①(名) ⊖多産の女。⊖乳児のある女。Qkwamucaa と同じ。
- Qkwanasimici**①(名) 子供の生み方。Qkwanasimicee siqci sudatimicee siran. 子の生み方は知っていて、育て方は知らな

Qkwanasimijaa

い。子を生みっぱなしにして、ろくに養育しない者をいう。

Qkwanasimijaa① (名) 産婆。子を生ませる者の意。

QkwaʔNmaga① (名) 子と孫。子孫。

Qkwaʔumii① (名) 子を思ふこと。子煩悩。

Qkwaʔumujaa① (名) 子を思ふ者。子煩悩の者。

QkwaʔweekiNcu① (名) 子福者。子だくさ

んの人。

-Qʔsi (助) で。材料・道具などを表わす。<Qsi (して。<sjun)。「では」は -seeとなる。panoo muzi~ çukujun. パンは麦で作る。ʔisi~ ʔucun. 石で打つ。ʔucinaaguci~ hanasi sjun. 沖繩語で話をする。sugaişee qcunu 'jusiʔasee ʔjaraN. 服装では人のよしあしは言えない。

-**raasjan** (接尾) らしい。…の特徴・よすががみえる。samureeraasjan (士族らしい), 'wikigaraasjan (男らしい), 'weekin-curaasjan (金持ちらしい), naahwara-asii tukuru. (那覇らしい所) など。

raku (名) 楽。安楽。daku ともいう。～ni kuracoon. 安楽に暮らしている。～sjoon. 安楽にしている。何の苦勞もない。

rakubuçinu (名) **mi?uubi** (名) (句) [文] 金糸のはいった帯。'weekata [親方] 以上の位階の人がしめる帯。rakubuçi は織物の名か。rakubuçinu mi?ubi 'juhwara 'usimawaci sjunzanasimedei di 'wane sadara. [らくぶつの御帯 よわらおし廻ち 首里ぎやなしみやだい でわないさだら] 三司官の大帯を腰にきりりとしめて、首里王府への御奉公に、いざ、わたしは先がけしよう。

rakucaku (名) 落着。物事がかたがつくこと。dakucaku ともいう。～sjun.

raku?iNcu (名) [新] 楽隠居。

rakurakutu (名) 楽楽。安楽に。kumaja ~ hwisja takudi 'ututi, mura-barunu hjaaga hakarigutu tajuti... [こまや楽々と 足たくで居とて 村原のひやが 計事便て…(大川敵討)] こっちは楽楽とすわっていて、村原の比屋の計略を利用して…。

ramisja (名) [文] 恨めしい。残念だ。歌などの終わりに来る語。nasigwa 'wane çiriti 'icibusjadu 'aşıga 'winagu 'nmaritaru kutunu ~. [なし子わな い列れて いきほしやどあすが 女生まれたる 事の浦めしや (護佐丸敵討)] 子を連れてわたしも行きたいが、女に生まれたことが残念だ。

raNgasa (名) [蘭傘] dangasa と同じ。
raNkan (名) 欄干。手すり。dankan ともいう。

raNpaçi (名) danpaçi と同じ。

raNpaçijaa (名) [新] 理髪屋。床屋。

raNpu (名) danpu と同じ。

raNsan (名) [涼傘] 王のかご('ucuu) にさしかける傘。普通 'uransan という。

ren (名) 聯。細長い板または赤い紙 (sjugami) などに書いた漢詩の聯句をいう。結婚の時には、「佳偶從天定 大倫以礼成」などと、旅の人を祝う時には、「順風応節送 清吉自天申」などと書いて、左右の柱にはりつけた。

ri (接尾) 里。距離の単位。'iciri (一里), guri (五里) など。

ribiçi (名) 離別。離縁。～sjun. 離別する。～natoon. 離別している。

ribjoo (名) 痢病。赤痢など。kudasi ともいう。

rihwii (名) [利平] 利率。

rii (名) 例。文語的な語。namamadi 'unu 'joona ~ja neeran. 今までそのような例はない。

rii (名) ①礼。お辞儀。gurii ともいう。②礼。礼儀。～N siran mun. 礼も知らぬ者。

rii (名) 利。利息。利子。dii ともいう。～nu hoojun. 利子がふえる。hoojun は這う。

riici (名) 植物名。荔枝 (れいし)。ライチー。diici ともいう。常緑喬木。果実は卵形で、外皮には初生のまつかさのようなしわがあり、色は赤味を帯びている。肉・核ともに竜眼に似て大きく、美味。北谷 (catan) はその名産地。～ringan. 荔

枝と竜眼。

riizi① (名) ㊦礼儀。㊦感謝の意を表わすための贈り物。進物。礼金・結納などをもいう。～ sjuN. 進物をする。

riizigeesi① (名) 贈り物のお返し。返礼の品。

riiziN② (名) 霊前。また、位牌。diiziNともいう。普通は guriziN という。

riizisahuu② (名) 礼儀作法。

rijuku② (名) 利欲。欲。～na mun. 欲ばり。～nu cuusan. 欲が強い。

==**rijuN** (接尾 =riran, =qti) ㊦れる。られる。…される。受身を表わし、動詞の「未然形」に付く。humirarijuN (ほめられる), ?utarijuN (打たれる) など。㊦れる。られる。尊敬の意を表わす。まれにしかな言わない。-mišeen (…なさる) などと共に用いることもある。?ujumimisjoo-rarijuN (お読みになられる) など。

==**rijuN** (接尾 =raN, =qti) ㊦れる。られる。おもに、「…することが可能な状態にある」の意を表わし、動詞の「未然形」に付く。主体の能力に関してはふつう -juusjuN を用いる。kunu hudisaanee kakaran. この筆では書けない。'NndarijuN. 見られる。見るに値する。nakaran naci. 泣けない泣きの意。泣けない状態にあるのにむりに泣こうとすること。

rikucaa② (名) 狡猾な者。rikuçina mun, rikuçikweemun ともいう。

rikuçi② (名) ㊦ずるがしこいこと。狡猾。小利口。～ kwatoon. ずるがしこい。～na mun. 狡猾な者。㊦反抗。～siinee ?ukaasan doo. 反抗すると危いぞ。

rikuçikwe'emun② (名) 狡猾な者。rikucaa, rikuçina mun ともいう。

riN② (名) 蓮。はす。din ともいう。～nu hana. 蓮の花。

riNcaa② (名) 激しく恠気する者。やきもちやき。dincaa ともいう。

riNci② (名) 恠気。男女間のしつと。dinçともいう。

riNdee② (名) [連台] 盆の一種。長方形の盆。その大きいものは çiridee という。

riNgan② (名) 植物名。竜眼。むくろじ科の常緑樹。実は球形で、中に竜眼肉があり、さらにその中に球形の種がある。竜眼肉は美味で、盆祭りに霊前に供える。dingan ともいう。

riNgwaa② (名) [新] 煉瓦。もとは sicigaa-ra といった。

riNkwaa② (名) 着物の一種。冬に防寒用として羽織るもの。ちゃんちゃんこのようなもので、男女両用。中国伝来のものであろう。riNkwaa に似た hwiitaa というものもある。

riNsu② (名) 綸子(りんず)。織り模様の入った、ピロードのような、つやのある絹の織物。礼服などにする。

riNzi② (名) rinsu と同じ。

riNzi'wataziN② (名) 女の冬の礼服('wataziN)の一種。綸子(りんず)の礼服。riNzi など、絹のものは、?weekata [親方]以上の貴族の身分の者にしか着用を許されなかった。

riQkaa② (名) 立夏。二十四節の一つ。

riQpa② (名) 立派。diQpa ともいう。～na qcu. 立派な人。

riQpuku② (名) 立腹。diQpuku ともいう。～ sjuN.

riQsjun② (名) 立春。二十四節の一つ。

riQsjuu② (名) 立秋。二十四節の一つ。

riQtuu② (名) 立冬。二十四節の一つ。

ririQsaN② (形) 麗麗しい。仰仰しい。改まって立派である。形式張って大げさである。didiQsaN ともいう。必ずしも悪い意味ではない。duku ririQsanu 'jaa. あんまり大げさでねえ。ririsii kutu. 麗麗しいこと。

ritoopen② (名) [李桃餅] 菓子の名。桃型

の干菓子で、月餅のようなもの。中国渡来の製法で、油を入れて作る。

ritukuⓐ (名) 利得。

rooⓐ (名) ろうそく。doo ともいう。

rooⓐ (名) ラオ。羅宇。きせるに用いる竹の管。cisirizoo ともいう。

roohooⓐ (名) 両方。doohoo ともいう。
~kara. 両方から。~nu mura. 両方の村。

rookusuⓐ (名) ほくそ。ろうそくの燃えかす。dookusu ともいう。

roomaⓐ (名) 老もう。もうろく。dooma ともいう。

roomataN'meeⓐ (名) もうろくじいさん。

roosuuzituuⓐ (名) [両総地頭] 按司地頭 (ʔazizituu) と総地頭 (suuzituu)。按司地頭と総地頭とは、二重に一間切を領するので、両方を併称した語。

rootuNʔuiⓐ (名) 織物の名。王が中国からもらう衣裳の織り。王の着物、高官の冠 (hacimaci) や帯にする。

rugwaiⓐ (名) 植物名。竜舌蘭。葉はへら形で大きく、縁には鋸の歯のようなとげがあり、先端は鋭くがっている。中央から高い茎が出て、先に淡黄色の花を多数つける。葉から繊維を取り、綱などにする。dugwai ともいう。アフリカ原産の蘆薈 (ろかい) と形が似ているので、それと混同された名ではないかと思われる。

ruiⓐ (名) 類。文語的な語。

rukuⓐ (名) ㊦六。duku ともいう。普通は muuci という。㊦(接尾) rukuniN (六人), rukunici (六日。むいか。月の第六日をもいう), rukugwaçi (六月) など。

rukuⓐ (名) 祿。家祿。俸祿。~ ʔutabimisjooci. 祿を賜わって。

rukugwaçiⓐ (名) 六月。dukugwaçi ともいう。年の第六月。六か月は muçi という。

rukuniciⓐ (名) 六日。むいか。dukunici

ともいう。月の第六日の意にもなる。

rukusiNgwaaⓐ (名) 六寸四方の重箱。zuu-baku の項参照。

rukuzuuⓐ (名) 六条豆腐。豆腐を薄く切り、塩をつけて焼いたもの。二つ重ねて茶請けに出す。京都の六条豆腐とは製法・用途も異なるようである。rukuzu kasabiti hjakunizunu ʔunige. [六十重べて 百二十のお願い] 六条豆腐 (六十歳) を重ねて百二十歳のお願い。六十と音が共通するので、長寿を祈る際の、縁起のよいものとされた。

rukuzuuⓐ (名) 六十。また、六十歳。

rukuzuuʔiciⓐ (名) 六十一。また、六十一歳。~nu ʔujuwee. 還暦。

ruqkakuⓐ (名) 六角。

ruqpekuⓐ (名) ruqpjaku と同じ。

ruqpjakuⓐ (名) 銭 600 文。1 銭 2 厘のこと。ziN (銭) の項参照。

ruqpjakugunʔuuⓐ (名) 銭 650 文。1 銭 3 厘のこと。ziN (銭) の項参照。

rusuNⓐ (名) ルソン島。

rusuNtoozinⓐ (名) とうもろこし。gusuntoonucin と同じ。

ruuⓐ (名) 竜。duu ともいう。想像上の動物。また、たつまき。たつまきは竜と見なされていた。

ruuⓐ (名) 櫓(ろ)。櫓は首里の生活にはあまり縁がないので、duu という発音も首里には無いようである。

ruuⓐ (名) [文] 牢。

ruueuuⓐ (名) 琉球。duueuu ともいう。

外国に対して琉球全体 (先島を含む) の国名として用いた語。外国人に国籍を問われたときに ruueuu と答える習慣になっていた。沖縄人同志では用いなかった。なお、ʔucinaa は元来は沖縄本島 (zizi) をさす。maanu kunigandici tuuraqtakutu ~ndici hwintoo sjan. 「どこの国か」と聞かれたので、「琉球」と答えた。

ruugumi

ruugumi① (名) [文] 牢籠めの意。投獄。
～ sarijun. 牢に入れられる。口語では
hwirazuNkai kumirarijun. ([平等所]
に入れられる) といった。

ruuhwi① (名) [竜樋] 首里城内、瑞泉門
(hwiizaaʔuzoo) の下にある竜の形をし
た樋。その口から湧く清水は、水量が豊富
で味もよく、中山第一と称せられた。中山
伝信録の著者、徐葆光によって書かれた碑
がそのそばに立っていた。

ruuja① (名) 牢屋。監獄。

ruuka① (名) 琉歌。八八・八六の琉球式

の短歌。普通は単に ʔuta という。rjuu-
ka は日本式発音。

ruukazi① (名) 櫓と舵。

ruuooganasi① (名) 竜王様。ʔami tabori
～. 雨を給われ、竜王様。雨乞いの時の文
句。

ruusja① (名) 入獄。入牢。～ moosiwata-
saqtan. 入獄を申し渡された。

ruzigaku① (名) [路次楽] 国王の行列の先
頭で奏する音楽。その楽器には gakubura
(その項参照) を用いた。

-sa (接尾) よ。さ。述べることを相手に対して軽く強調する場合に用いる。「短縮形」(apocopated form) につく。'junusa. (読むよ), ?aN 'jasa. (そうだよ), tuu-sasa. (遠いよ) など。

saa① (名) 心神。人の靈的な活動力。神通力。「性(さが)」に対応するか。

saa- (接頭) 少しの意を表わす。saahuu-huu (ほろ酔い), saagusamici (少し怒ること) など。

saadaka?Nmari① (名) 靈力高く生まれること。予言をしたり、神がかりなことをしたりする、靈力をそなえた生まれ。

saadakasan① (形) 靈力 (saa) が高い。神通力がある。人についている。

saagusamici①① (名) 少し憤慨すること。～ sjuN.

saahagoosaN① (形) ㊦うすぎたない。㊦うす気味が悪い。何となく気持ちが悪い。

saahun① (名) ちょうず鉢。口の広い、大型の手水鉢。

saahungwaa① (名) saahunjuuci と同じ。

saahunjuuci① (名) 小さいまさかり。手斧。柄の長さ 30~40 センチ内外の、片手で用いるもの。'juuci は「よき」に対応する語。saahungwaa ともいう。

saahuuhuu① (副) ほろ酔いのさま。一杯機嫌のようす。～ sjuon. 一杯機嫌である。

saai① (名) つわり。～ sjuN. つわりになる。

-sa'ai (助) saani と同じ。その項参照。

saaimaki① (名) つわりで体が弱ること。

saa=juN① (自 =raN, =ti) おありになる。「ある」の敬語。tuncinee ciizinu saatoojabiimi. お宅には系図がおります

か。?ukutaNdiN saaibirani. お疲れではございませんか。?umawaee saatoomi?eeibiimi. おかずはおありでございますか (肉売りが来ていうことば)。

saa=juN① (他 =raN, =ti) さわる。触れる。saaree sangwan, turee tunaa. さわったら三貫(6 銭), 取ったら十繩(20 銭)の罰金(子供が大事なものを人にさわらせまいとする時に言う文句)。

saa=juN① (他 =raN, =ti) (汁を) あける。容器を傾けて中の汁をすっかり出す場合にいう。?Nmunusiru ~. さつまいもの煮汁をあける。

saajuu① (名) さゆ。白湯。

saakuu① (名) 土鍋。中国語「沙鍋」の借用語。小児用のかゆなどをたくもの。

saamaki① (名) おのれの saa (靈力) に体が負けること。天才が弱体な場合とか、神がかりをする人などについている。

saanaa① (副) さかさま。人体についている。saaraa ともいう。～ keerijun. さかさまにひっくり返る。～ najun. さかさまになる。

-sa'ani (助) で。使用する道具・材料を表わす。saai ともいうが、saaniの方が上品に感じられる。また、-qsi ともいう。hoocaa~ cijun. 包丁で切る。tiqpuu~ tui ?ijun. 鉄砲で鳥を撃つ。kabi~ çiçinun. 紙で包む。sakee nuu~ çukuteega, ?awadu 'jarui, kumidu 'jarui. 酒は何で作ってあるのか、粟なのか米なのか。sugaisaane qcunu 'jusi?asee ?jaraN. 服装では人のよしあしは言えない。

saara① (名) たわし。

saaraa① (副) saanaa と同じ。saaru (猿)

に由来する語か。

saaruⓐ (名) ㊦猿。昔は野生の猿はいなかったであろう。文語は saru。その項参照。㊦猿まねをする者。人まねをする者のあだな。

saaruuⓐ (名) 口のとがった者。猿に似た者の意。

saasiⓐ (名) 錠。錠前。かけ金。～ ?irijun. 錠をかける。～ ?akijun. 錠をあける。

saasiuqkwaⓐ (名) 錠。錠前に差し込むもの。

saataaⓐ (名) 砂糖。普通は黒砂糖 (kuruzaataa) をさす。

saataa?andaagiiⓐ (名) 菓子の名。麦粉を水でこね、砂糖を入れて油で揚げたもの。

saataada?ruⓐ (名) 砂糖樽。黒砂糖を入れる樽。

saataagiiⓐ (名) 植物名。灌木の名。てらつばき。葉をもむと砂糖の香りがする。

saataagurumaⓐ (名) 砂糖をしぼる車。砂糖きびをくだいて汁をとる車で、牛馬が引いて回し、中で歯車がかみあって砂糖きびをしぼる仕掛け。

saataanaqtuuⓐ (名) 菓子の名。?nmuka-si (甘藷から澱粉をとったかす) をこね、砂糖・ごまなどを入れて煮たもの。

saataasikuciⓐ (名) 製糖の仕事。砂糖仕事の名。

saataauuziⓐ (名) 砂糖きび。甘蔗。

saataazukuiⓐ (名) 砂糖作り。製糖。農民にとって一年中で最も多忙な仕事であった。

saatumeeⓐ (名) 紙製の男びな。女びなは ?umentuu という。

saazaaⓐ (名) saazi (鷺) と同じ。

saazaatuⓐ (副) さっぱりと。心についている。cimun ~ najun. 心がさっぱりする。せいせいする。

saaziⓐ (名) はちまき。手ぬぐいのように

細く長く切った布。ターバンのように頭に巻きつける。～ sjun. はちまきをする。

saaziⓐ (名) sazi と同じ。

saaziⓐ (名) 鷺(さぎ)。saazaa ともいう。

sabaⓐ (名) ぞりり。皮・わら・阿旦葉・藺(い)・竹の皮などで作り、種類が多い。敬語は ?uzaree または, nuuzaree。～ nu ?ura ?jacun. ぞりりの裏を焼く。(長居する人を追い払うまじない)

sabaⓐ (名) 鮫。

sabaciⓐ (名) 櫛。とき櫛。歯が密でない櫛。歯の密なもの、すなわちすき櫛は kusi と

いう。
sabacibakuⓐ (名) くしげ。櫛箱。黒漆塗りの箱で、前面に引き出し、上に蓋があり、その中に kakugu (落とし蓋) があり、その下はいくつにも仕切られている。結婚の時、新調して持参する。

saba=cunⓐ (他 =kan, =ci) ㊦くしげずる。乱れないように、とき分ける。さばく。karazi ~. 髪をくしげずる。nunu ~. かせ糸を乱れないようにさばく。tamun ~. まきを割る。㊦裁く。裁判する。

sabahagiⓐ (名) 鼻緒ずれ。鼻緒ですれた足の傷。

sabaki=junⓐ (他 =ran, =ti) (仕事などを) さばく。処理する。片付ける。cuunakai sabakijusjumi. きょう中にやっませえるか。

sabaki=junⓐ (自 =ran, =ti) さばける。処理が進む。商品が売れてしまう。

sabakuiⓐ (名) [古] [捌理] 間切の番所の村役人。

sabaniⓐ (名) 丸木舟。くり舟。?inai の別名。kuihuni ともいう。

sabatuiⓐ (名) [古] ぞりり取り。貴人の家の下足番。?uzareetui ともいう。

sabeeⓐ (名) ㊦害虫の名。作物の葉・茎などに密集して付く小さい虫。油虫。ありまき。㊦小児のかかる皮膚病の名。皮膚が赤

くただれる。あせも。
sabi① (名) わざわい。悪いできごと。
sabi② (名) 錆。
sabimunu① (名) 味気のない食べ物。おかずの少ない食事、だしはいっていない料理などをいう。
sabiqsan① (形) ㊦さびしい。聞くもの・見るものがないなど、物・場所について。精神的なさびしさは、多く sikaraa-sjan という。㊦口さびしい。食物がない、食物が貧弱であるなどの場合にいう。
sabiri=jun① (自 =ran, =ti) さびれる。
sabiziru① (名) 貧弱な吸い物。だしはいっていない汁・実のはいっていない汁などをいう。
saboori=jun① (自 =ran, =ti) 荒れはてる。朽ちはてる。腐朽し荒廃する。
saboorkaa① (副) 荒れはてたさま。朽ちはてたさま。～ sjoon. 荒れはてている。
saci① (名) 先。前。前方。～ naree. 先に行け。前になれ。㊦先端。hudinu ～. 筆の先。㊦先。将来。～ ?Nzi caaga 'jaa. 将来どうだろうかねえ。㊦先。以前。～ nati cootan. 先に来ていた。
saci② (名) 崎。岬。
saci③ (名) さつ。紙幣。
sacibai① (名) 先がけ。先駆。先駆者。'winagoo ?ikusanu ～. 女はいくさのさきがけ。いざという時、女は勇気が出る。
sacibarunusaci① (名) 先原崎。那覇港外にある岬。
sacici=jun① (自 =ran, =qci) すっかり咲く。満開になる。咲き切るの意。saciciri-jun ともいう。
saciciri=jun① (自 =ran, =ti) sacicijun と同じ。
sacidaci① (名) 先に立つこと。先導。先行。また、先に立つ人。先導者。～ sjun.
sacida=cun① (自 =tan, =qci) ㊦先立つ。先に行く。㊦先に死ぬ。先立つ。

sacidii①② (名) 先手。～ ?Nzasjun. 先手を打つ。～ ?irijun. ともいう。
sacidumi①② (名) 先妻。sacituzi ともいう。?atudumi (後妻) の対。
sacidusi① (名) 先年。すぎ去った年。
saciguci① (名) 先口。順番が先であること。
sacigudee① (名) 昔。toogudee (現代) に対する。
saci?iibi① (名) 人さし指。普通は qcusasi という。
saciii① (名) [裂蘭] 蘭(い)。七島蘭。琉球表を作る蘭。茎は三角形で、これを裂いて乾かし、畳表とする。その質が丈夫なので、台所用・道場用などに用いられる。
sacijama① (名) 崎山。《地》参照。
sacikan=zuN① (自 =dan, =ti) 咲きこぼれる。咲き乱れる。いっぱい咲く。
sacimaai① (名) 先回り。抜けがけ。他を出し抜いて事をする事。
sacimutubu① (名) 崎本部。《地》参照。
sacinaisigamunuu① (名) 早い者勝ち。先になった者の物の意。
sacinujuu① (名) 過去の時代。前の世。昔。また、前世。
saci?Nzi=jun① (自 =ran, =ti) 咲き出す。咲き始める。
sacisakee=jun① (自 =ran, =ti) 花ざかりとなる。満開になる。hananu sacisakee-toon. 花が満開である。
sacisidee① (名) 先着順。申し込み順。
sacisima① (名) [先島] 先島。宮古群島と八重山群島。
sacisiri=jun① (自 =ran, =ti) 満開の時期が過ぎる。花の盛りが過ぎる。
sacituzi① (名) 先妻。sacidumi ともいう。
sacitu① (名) 先夫。前夫。
sacizaci① (名) [文] 先先。将来。
sa=cun① (他 =kan, =ci) 裂く。
sa=cun① (自 =kan, =ci) 咲く。

sadaifansitaree① (名) 上流階級の結婚式の時、行列を先導し、新婦につき添って世話する女。二人が当たり、黒朝衣 (kuru-coo) を着る。sadaifansitari ともいう。sadaï<sadaïjun。一般の結婚式のそれは、niibicineu または nakadaci という。

sadaifansitari① (名) sadaifansitaree と同じ。

sadaïjun① (自 =ran, =ti) [文・古] 先に立つ。先行する。tootoo sadari sadari。[たうたう さだれさだれ (花売の縁)] さあさあ、先になれ先になれ。sadaree。お先にどうぞ。sadaïjabira。お先に失礼します。

sadami① (名) 定め。決まり。法規。

sadamiïjun① (他 =ran, =ti) 定める。決める。

sadi① (名) さで。叉手網。魚をすくう網。

sadi① (名) 佐手。《地》参照。

sagai① (名) 地面が低くなっているところ。低地。しも。ʔagai の対。ʔjamagaasagai といえば、山川という部落の中のしもの部分。

sagai① (名) 掛け。代金あと払いの売買。

sagaigooi① (名) 掛け買い。

sagaiʔiju① (名) 鮮度の落ちた魚。古い魚。

sagaitiida① (名) 落日。落ちる太陽。夕日。ʔagaitiidaɖu ʔuganuru, sagaitiidaa ʔugaman。上がる日は拝むが、落ちる日は拝まぬ。勢いのよいものにつく意の諺。

sagaiʔui① (名) 掛け売り。

sagaïjun① (自 =ran, =ti) ⊖下がる。位置が下に下がる。⊖下がる。ぶら下がる。⊖値が安くなる。⊕魚などの生きがなくなる。鮮度が落ちる。

sagaïjun① (自 =ran, =ti) 掛けで買う。sagarasjun。掛けで売る。

sagee=sjun① (他 =san, =ci) 捜す。

sagi① (名) 三味線の本調子。ʔagi (二上がり) に対する。三下がりとは sansagi とい

う。

sagidiiru① (名) 天井から下げるざる。

sagigusui① (名) のぼせを直す薬。薬として ʔika (いか), kubuʂimi (いかの一種) などを煮て、汁とともに食べる。

sagiïjun① (他 =ran, =ti) ⊖(位置を)下げる。⊖下げる。ぶらさげる。⊕値を安くする。⊕(膳などを)下げる。

sagizookii① (名) 天井から下げる、竹で編んだかご。食物を入れる。

saguïngwee① (名) さぐり食いの意。棚捜しして食うこと。

saguïjun① (他 =ran, =ti) 探る。手足でものを探る。また、よろすを探る。

sahudu① (副) [文] さほど。それほど。sahudoo ʔaran。さほどではない。

sahuu① (名) ほんの形だけ。軽少。人に物を贈る時にいう語。~du ʔjaibiʂiga。わずかではございますが。~na ʔusjagimun。ほんの形だけの進物。

sahuu① (名) 作法。~ni kanatoon。作法にかなっている。

sai① (感・助) 目上に話しかける時・呼びかける時などに男が発する敬語。さらに高い目上には sari という。女は tai という。もし。~。もし(他家で案内を乞う時など)。ʔuncuu ~。もし、おじさん。

saiɡunmee① (名) [新] 外米。toogumi ともいう。

saihwana① (名) [新] 裁判。明治の初めごろ一時使われた語。

saita① (連体) 変な。妙な。不思議な。~mun。不思議なもの。

saja①① (名) 鞘。刀のさや。ʂii ともいう。豆のさやは guru という。

sajaka① (名・副) さやか。~ tiru ʂici。[さやか照る月] さやかに照る月。~na ʂici。さやかな月。

sajumi① (名) 織り上げて、まだ水を通してない布。さよみ (狹説) の転意。

sajuu① (名) ⊖左右。⊖同等なこと。甲乙ないこと。ziⁿtu nucee ~. 金と命は同じぐらい大事なもの。金の値打を強調したことば。

saka① (名) 逆。さかさま。反対。ziⁿu ~ natoon. 字が逆になっている。~Nkai ŋicuN. 反対の方向に行く。~Nkai munu ŋijun. 理に合わないことを言う。

sakadaci① (名) 病後、食欲が旺盛になること。また、その食欲。~ sjuN. (病後) 食欲が起こる。

sakagaçimi① (名) 無実の罪。冤罪。

sakaiŋuturui① (名) [文] 盛衰。興亡。kunuju ninziⁿnu ~ja naçitu hujuguru ŋicikawaigawai. [この世人間の盛衰や 夏と冬ごころ いき替り替り(花売の縁)] この世の人間の盛衰は夏と冬のように変転きわまりない。

sakaja① (名) つくり酒屋。酒造家。酒を売る店は sakimacija という。

saka=juN① (自 =raN, =ti) 栄える。sakeejuN ともいう。

sakamaçigi① (名) さかまつげ。さかさまつげ。

sakamizi① (名) 水が逆流すること。また、逆流する水。大雨のために屋根で sakamizi が起これば、雨もりの原因となる。

sakamunii① (名) 不合理なことを言うこと。矛盾したことを言うこと。

sakana① (名) 酒のさかな。酒を飲む時の料理。

sakanai① (名) 急な傾斜。急斜面。~ natoonu hwira. 急な坂。

sakanajaa① (名) 料理屋。料亭。

sakanajaawinagu① (名) 料理屋の女給。酌婦。ほとんどが娼婦をかねていた。

sakaŋmari① (名) 逆産。逆子(さかご)で生まれること。

sakankee① (名) 旅から帰る人を迎えるこ

と。また、その行事。また、ŋagariŋumaai, nacizinugami (その項参照)などで神に詣でて帰る人を迎えること。「一族を代表する尸婦の一行が、三年おき或は七年おきに、祖先発祥の地に詣で、帰る日、一族中の老弱男女が、之を郊外の坂の辺で迎へて、慰勞会をやること(伊波普猷: 琉球語彙)」

sakankei① (名) さかむけ。ささくれ。皮膚のさかむけ。親不孝者にできるといわれている。

sakazici① (名) ⊖さかずき。⊖(接尾) さかずきに盛った数を数える時にいう。cusakazici(一杯), tasakazici(二杯)など。

sakazui① (名) さか剃り。

sakee① (名) 境。境界。

sakee=juN① (自 =raN, =ti) 栄える。繁栄する。繁昌する。sakajuN ともいう。sakeetooru 'jaa. 栄えている家。

sakeemi① (名) 境目。境界。事の分かれ目。

saki① (名) 酒。普通は泡盛をさす。

sakibiN①① (名) 酒瓶。酒を入れる陶製の器。儀式用・祭壇用として用いるもの。普通に飲む時には多く karakaraa を用いる。

sakiduqkui① (名) 酒どっくり。酒を入れる陶製の器。運搬用の大きなものもある。

sakigaami①① (名) 酒がめ。酒を貯えておくかめ。

sakigaci① (名) 酒を飲みすぎて病むこと。酒中毒。二日酔。

sakigaku① (名) 酒を飲み過ぎて起こる癪。

sakigusi① (名) 酒癖。酒を飲むと出る癖。

sakigweei①① (名) 酒太り。酒を飲んで太ること。

sakii① (名) 酒飲み。酒豪。

saki=juN① (自 =raN, =ti) 裂ける。

sakikwee① (名) のんだくれ。酒飲みをののしっている語。

sakimacija① (名) 酒屋。酒を売る店。

sakimui

sakimui① (名) (平民が用いる語) ⊖結納。
 ⊖いいなづけ。
 sakisakana① (名) 酒と肴。
 sakišici① (名) 酒好き。
 sakitari① (名) 酒の醸造。
 sakiwii① (名) 酒に酔うこと。～ sjuN.
 sakizoogu① (名) 酒好き。酒を好むこと。
 上戸。
 sakizoogu① (名) 酒好き。酒飲み。酒を好む者。上戸。
 saku① (名) 谷間。農村で用いる語。
 sakugumi① (名) うるち。粳米。sakumeeともいう。
 sakuhwira① (名) [文] 急な坂。けわしい坂。'wakasa hwitutucinu kajuizinu suraja 'jaminu ~N kurumatoobaru。[若さ一時の 通路の空や 闇のさくひらも 車たう原]若い時恋人のところへ通う心は、闇のけわしい坂も砂糖車を据える平原と同じようなものである。
 sakui① (名) ひっかき傷。浅い切り傷。
 saku=juN① (他 =raN, =ti) ひっかく。とがったもので浅く傷をつける。ʔijunu 'Nzisaani šiba ~. 魚のとげで舌を傷つける。
 sakumee① (名) うるち。粳米。sakugumiと同じ。
 sakura① (名) 桜。桜は少ないが、本部・名護・久米島などにみられる。nagarijuru mižini sakurabana ʔukiti ʔiruzurasa ʔatidu sukuti 'Ncaru。[流れよる水に 桜花浮けて 色清らさあてど すぐて見ちやる] 流れる水に桜の花が浮かんでいて色が美しいので、すぐて見た。
 sakuraʔiru① (名) 桜色。人の血色のいいのにいう。ʔakazakuraʔiru ともいう。
 sakurazima① (名) 桜島。鹿児島地名。
 sakusaN① (形) もろい。こわれやすい。折れやすい。sipusaN の対。
 sakutuku① (名) [作得] zituu (地頭),

ʔweekanCu (役人), nurukumui (のろ) などが役地から取得する穀物。生産の三分の二弱を取得した。
 sama① (名) [文] 女が恋する男をいう語。わが君。～wa ʔikanaru katakinu suika, ʔumuiwaširijuru hwimanu neraN。[様はいかなる 敵の末か 思ひ忘れゆる 暇のないらん] 愛する君はどんなかたきの子孫でもあるのか、片時も忘れることがない。(これは仲風、すなわち和歌と琉歌の混合体でよまれたもの)。
 sama① (名) しらふ。酒を飲まずにいる時。
 samaa① (名) 鮫肌の者。
 samacicasaN① (形) そそっかしい。粗忽である。
 sama=juN① (自 =raN, =ti) samijuN ともいう。⊖熱がさめる。湯などがさめる。⊖酔いがさめる。
 sama=sjuN① (他 =saN, =ci) 覚ます。目をさます。mii ~. 目をさます。
 sama=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖ひやす。熱をさます。冷たくする。⊖酔いをさます。
 samatagi① (名) 妨げ。妨害。邪魔。
 samatagi=juN① (他 =raN, =ti) 妨げる。妨害する。邪魔する。
 samazama① (名) さまざま。種種。～na kutu. さまざまなこと。
 sami① (名) 彼岸の最終日。彼岸のあけの日。
 sami① (名) ⊖鮫。普通は saba という。⊖鮫肌。
 -sa'mi (助) …なののだぞ。…なんだよ。文語で用いることが多い。ʔandu 'jaqsami. そうなんだよ。'wakarusamitumiba… [別るさめとめば…] 別れるのだと思うと…。cičija 'Nkasikara kawaru kutu nesami, kawati ʔiku munuja hwitunu kukuru。[月や昔から 変ることないさめ 変て行くものや 人の心] 月は昔から変わ

ることがないのだ。変わって行くものは人の心。

samigoosi① (名)疥癬の一種。疥癬のひとつのもの。

sami=juN① (自 =raN, =ti) 覚める。目がさめる。mii ~. 目がさめる。

sami=juN① (自 =raN, =ti) 色がさめる。あせる。

sami=juN① (自 =raN, =ti) samajuN ともいう。⊖熱がさめる。湯などがさめる。⊖酔いがさめる。

samuree① (名) 土族。'jukaQcu ともいう。土族であれば、女でも samuree である。

sanazi① (名) ふんどしの卑称。普通は hadoobi (肌帯の意) という。越中ふんどしが伝えられてからは、多くそれを用いるようになったが、それは meecaasanazi という。

sanazinuʔazimaa① (名) ふんどしのみつ。

sanazinutai① (名) ふんどしの前に垂れている部分。

sani① (名) 種。果実などの種子。核。さね。~ ʔurusjun. 種をまく。

saN① (名) 三。普通は miçi という。

saN① (名) 山(やま)。地形が山形に高くなっているところ。ʔanu muee ~ nato-on. あの丘は山になっている。

saN① (名) ⊖棧。板戸などに横に渡し、骨とする木。⊖戸締りのために渡す棒の類。

saN① (名) 神仏へのお供えの上に置いておくもの。お供えするまで、すなわち持って歩く間は、芭蕉の葉などを細長く切り、お祓いの時の結び方で結んで、お供えの上に置き、いざお供えをする時に取り除く。魔物がけがすのを防ぐために置いたもの。

saN① (名) 書物をくりかえし読む時、その回数を数えるために本にはさむ目印。また、多くのものを数える時の覚えとするし。~ tujuN. saN をとって数える。

また、数える。

saN① (名) お産。~nu ʔnbusan. お産が重い。~nu kaQsan. お産が軽い。

saNba① (名) [三馬] 楽器の名。いなかで俗楽に和するの用に用いる。三個の竹の板を紐で通し、左手の指の間にはさみ、右手で打ち鳴らしてはやしとする。

saNba① (名) [新] 産婆。qkwanasimijaa ともいう。

saNbagu¹ci① (名) おしゃべり。

saNbandui① (名) 三番鶏。夜の白白明けるところに鳴く鶏。

saNbasi① (名) [新] 棧橋。

saNbee① (名) 三倍。saNzoobee ともいう。

saNbeku① (名) saNbjaku と同じ。

saNbjaku① (名) saNbeku (女の発音) ともいう。⊖三百。⊖錢300文。6厘にあたる。ziN (錢) の項参照。

saNbjakugun¹zuu① (名) 錢350文。7厘にあたる。ziN (錢) の項参照。

saNceii① (名) 参詣。普通は 'ugami という。~ sjun. 参詣する。

saNceira① (名) 植物名。山帰来(さんきらい)。ゆり科の多年生蔓性灌木。浄血利尿剤となる。

saNdaNkwa① (名) 植物名。観賞用として庭に栽培する灌木。小さくて細長い赤い花が密集して咲く。

saNgamaci① (名) 材木の名。松の細い角材。

saNgu① (名) 珊瑚。

saNgun① (名) 三献。三たび杯を差すこと。~nu tuikee. 結婚式における三三九度の杯。

saNgwaçi① (名) 3月。一年の第三番目の月。

saNgwaçifışıbi① (名) 年中行事の名。三月遊びの意。旧暦3月3日、平民の娘たちが鼓を打ち、歌を歌って興ずること。上代の歌垣に似ている。那覇では、娘たちが遊

山船 (nagaribuunii) を仕立てて、船の中で鼓を打ち、歌を歌って遊び暮らす風があり、その時、村と村とが対抗して、歌で喧嘩する場面も見られた。

saNgwaçisaNnici① (名) 3月3日の節供。上巳。子供は、男女ともお重のごちそうをつくってもらう。青年はどんぶり料理を持ち寄って酒宴を開く。

saNgwanaa① (名) 辻君。街娼。3貫(6銭に当たる)で密淫売をしたので、この名がある。

saNja① (名) 山野。耕地・宅地でなく、草刈り・たきぎ取りなどをする土地。

saNjuku① (名) [文] 三欲。Yirujuku (色欲), mucijuku (財産欲), munnujuku (食欲) をいう。

saNkaku①① (名) 三角。

saNkee① (名) 三階。また、三階建て。

saNkwee① (名) [参会] 宴会。

saNmeenaabi① (名) 鍋の一種。鍋 (naabi) の項参照。

saNmi① (名) 金魚の一種。尾が三つに分かれているもの。三尾の意。

saNmi① (名) Yusanmi の項を見よ。

saNmiN① (名) 計算。勘定。kanzoo ともいう。～nu naraN. 計算ができない。多過ぎて数えきれない。

saNmiNbaqpee① (名) 計算間違い。

saNmujuusi① (名) 産気づくこと。

saNmuN① (名) 山門。三門。

saNnici① (名) 三日。みっか。月の第三日にもいう。

saNniN① (名) 三人。miqcai ともいう。～suriree sikiN. 三人揃えば世間となる。

saNniN① (名) 三年。mitu ともいう。

saNniN① (名) 植物名。月桃。サニン。sja-nniN ともいう。葉が広く、食物を包むのに使う。

saNniNci① (名) 三年忌。三回忌。

saNniNga¹asja① (名) 月桃の葉。餅などを

包む。kaasja は広い葉。

saNri① (名) 三里。灸点の名。

saNsagi① (名) 三下がり。三味線の調子の名。三の糸を下げるもの。

saNsanaa① (名) ①くませみ。せみ(せみ一般をさす語はない)のうち最も大きいもの。羽は透明。sirubanii ともいう。声が大きく、saNsanaa と鳴くので、こういう。②転じて、おてんば娘。

saNsanaa¹ʔaigwaamee① (名) おてんばお嬢さん。土族のおてんば娘。

saNsana① (副) 落ち着きのないさま。そわそわ。～sjun.

saNsici① (名) 棧敷。綱引きの時など、石垣の上に材木を組み合わせて作り、上流婦人の見物席とした。～Yucun. 棧敷を作る。

saNsii① (名) [新] ①賛成者。賛成派。ʔjaa-ja ~ 'jami. きみは賛成する側か。②明治の初め、廃藩置縣の時、明治政府に従うことを支持した派。開化党 (kaikwatoo) ともいい、髪を切った。husansii (不賛成派) に対する。

saNsii① (名) [新] 賛成。～sjun. 賛成する。

saNsikwan① (名) [古] [三司官] 大臣に相当する役名。國務卿。天曹司・地曹司・人曹司の三人よりなる。ʔasatabi ともいう。

saNsini① (名) 沖縄の三味線。沖縄の代表的な楽器で、日本本土の三味線のもととなったもの。すなわち蛇皮線。ただし沖縄でこれを「蛇皮線」とは言わない。蛇皮で張った上等の zahwibai (蛇皮張り) と、いなかの青年などが使う sibubai (渋張り) の二種がある。三本の糸は太い順にそれぞれ 'uuziru (雄弦), nakaziru (中弦), miiziru (雌弦) という。その胴は çiiɡaa, 棹は soo という。三つの糸巻きは karaku, ziihwa または mudi などという。また、kunkunsii の項参照。

saNsinihaja① (名) 三味線作り。三味線を

張る者の意。

saNsooba① (名) 不当に高い相場。しない相場の意。～ʔuqcakijun. 高値をふっかける。

saNtoo① (名) たたきつち。しっくいやセメントの代用となるもの。石垣の根・肥つぼ・水だめ・へっついなどを固めるのに用いるもの。色は土色。

saNtui① (名) 数えること。計算。san (数える時の目印)の項参照。

saNtunii① (名) 申西(さるとり)の方角。すなわち、西やや南寄りの方角。

saNzan① (名) 散散。ひどいこと。したたか。～ni 'jaçiri kunu naiju 'jariba. [散散にやつれ 此のなりよやれば(花売之縁)] ひどくやつれて、このありさまであるから。～na sikata. ひどいやりかた。

saNzanKu 'Nzan① (名) 散散。めちゃくちゃ。～najuN. めちゃくちゃになる。

saNzici① (名) 臨月。産み月。

saNzicoo① (名) 三字経。三字ずつで一句をなしている、幼少年の教科書。

saNzinsoo① (名) [三世相] 易者。売卜者。首里では ciitatijaa ともいう。

saNzoobec① (名) 三層倍の意。sanbee と同じ。

saNzuu① (名) 三十。また、三十歳。

saNzuugu 'nici① (名) 三十五日。五なのか。死後 35 日目に営む法事。ʔiçinanka ともいう。

saNzuusaNniNci① (名) 三十三年忌。33 年目の法事。これをすませると、死者の霊は神になるとされる。

saQcuu① (名) 臆測。あて推量。～sjun. 臆測する。～'jatin ʔatajuru kutunu ʔaN. 当て推量でも当たることがある。

saQcuumunuʔii① (名) いい加減に推測してものを言うこと。

saqkoo① (名) ⊖きちんとしないこと。整っていないこと。整然としないこと。狂いが

あること。～na munuʔikata. 整然としない話し方。ʔaree kunuguroo ~ doo. 彼はこのごろは異常だよ。⊖無風流。殺風景。また、みすぼらしいこと。～na sugai sjoon. みすぼらしいなりをしている。

saqkoobi① (名) シャッキリ。～sjun.

saqkwii① (名) 咳。～sjun. 咳をする。～çiçicuN. 咳きこむ。

saQpaci① (名) さっぱり。淡白で、こだわらない性質をいう。～na niisee. さっぱりした青年。

saQpuusi① (名) [冊封使] 冊封使。明治以前、琉球国王が王位につく時、中国から来て冠を授けた使者。一般人からは toonu ʔazi (唐の按司) と呼ばれた。正副の二使があり、清朝以来正使は満人、副使は漢人で、俗にこれを左の按司、右の按司といった。二、三百人から七、八百人の兵を従えて約半年間滞在し、非常に敬待された。その乗船を ʔukwansin [御冠船]、その歓迎のために演じた国劇を ʔukwansinudi [御冠船躍] といった。

saQsi-jun① (他 =ran, =ti) [文] 察する。

saQtimu① (感) さても。おやまあ。いやはや。珍しい場合・あきれた場合・深く感じた場合などにいう。

saQtimusaQ`timu① (感) さてもさても。おやまあ。あれまあ。いやはや。女がよく使う。

sara① (名) 皿。大を haaci, 中を suarii, または cuuzara, 小を keeʔuci, または kuzara という。

sara-(接頭) 新しい意を表わす。saramii-mun (真新しい物), saraʔutii (あらたに女郎に身を落とした者) など。

saraba① (感) [文] さらば。～taciwakara ʔusumi neN ʔucini, ʔagati ʔakaçicinu tuin nacura. [さらば立ち別れ 余所目ないぬうちに やがて暁の 鳥も鳴きゆら] さあ別れよう、人に見つからない

うちに。やがてあかつきの鶏も鳴くだろうから。

sarakaaci① (名) いばら。とげのある灌木。

saramakutu① (名) 馬鹿正直。お人よし。
～na qcu. お人よしの人。

-sa'rami (助) [文] 「であろう」の意を強調して表わす。…であろうぞ。Yumicakin şiran tusinu 'juti 'wataru, nakasi-manu kubasi Yinuci～. [思きやけもすらぬ 年の寄て渡る 中島の小橋 命さらめ] 思いもかけず年寄ってから渡る中島(遊郭)の小橋、命あつてのことであろう。「年たけてまた越ゆべしと思ひきや 命なりけり小夜の中山」の歌とよく似ている。

saramiimuN① (名) 真新しいもの。まだ一度も使ってないもの。新品。

saraNdi=juN① (自 =raN, =ti) sarundijunと同じ。

sararaNsii① (名) いやいやながらすること。仕方なく、無理にすること。

sarasi① (名) さらし木綿。

sara=sjuN① (他 =saN, =ci) ㊦さらす。漂白する。㊦さらす。雨風などの当たるままにしておく。gira～。人前で恥をかく。

saratatii① (名) 女児が三歳の時に行なう、頭を剃る儀式。また、その剃り方。頭の回りを剃り、前額からぼんのくぼまでを溝形に剃る。女子を象徴する剃り方で、男児のçinutatii (その項参照) に対する。

saraYutii① (名) あらたに女郎に身を落とした者。

saree=juN① (他 =raN, =ti) 浚う。浚える。たまったごみを除く。cisiri～。きせるを掃除する。'Nzu～。溝をさらえる。

sari① (感・助) もし。saiと同様にsaiよりもさらに目上に男が用いる敬語。女はtariという。

sari=juN① (自 =raN, =ti) さらされる。漂白される。

saru① (名) [文] 猿。口語はsaaru. ku-

nu～ja tooşee guzuuhaci, kiramakara 'watati kutusi zuuguniN. [この猿や当歳五十八 慶良間から渡って 今年十五年 (花売の縁)] この猿は当歳58歳で、慶良間島から渡って、ことして15年。(猿回しの口上)

saru① (名) 申(さる)。十二支の第九。時刻は午後4時。方角は西南西。

saruhwici① (名) 猿回し。

saruNdi=juN① (自 =raN, =ti) (ひつ・おけ・たるなどの) たががゆるむ。saraNdi=juNともいう。

sasa① (名) 魚をとるために、水中に投入する毒物。hukurugi (きりんそう) の茎・葉を切って乳状の液の出たところをそのまま水中に投入する。また miNna (るりはこべ) も用いられる。魚類はその毒分に酔って水面に浮かび上がる。こうして魚をとることを～Yirijun. (ささを入れる) という。

sasa=nun① (自 =man, =di) 雨が小やみとなる。雨がしばらくやむ。sasadi cuun. だんだん雨がやんで来る。sasadikara Yikee. 雨がやんでから行け。

sasiYai① (名) sasiYajaaと同じ。

sasiYajaa① (名) 蟻の一種。刺し蟻。黒く大きく、人を刺す。

sasici① (名) 佐敷。《地》参照。

sasiçikee① (名) さしつかえ。さしさわり。～nu Yati Yikaran. さしつかえがあつて行けない。

sasiçima=ju'N① (自 =raN, =ti) ㊦つまる。窮する。hwiNtooni～。返事に窮する。㊦おしつまる。その時期がさしせまる。

sasidasi① (名) [差出] 地券。土地の権利書。土地所有の証明書で、抵当に入れる時などに差し出すもの。

sasigusui① (名) 目薬。点眼薬。

sasihaNkaa① (名) 出しゃばる者。出しゃばり。sasihaNkimunともいう。

sasihaNkigu^{tu}Ⓣ (名) 出しゃばった事。
 出しゃばった行為。
sasihaNki=ju^NⓉ (自 =raN, =ti) 出しゃばる。
sasihaNkimu^NⓉ (名) sasihaNkaaと同じ。
sasi^{fisi}Ⓣ (名) 力石。力だめしに頭上にさし上げる石。村の広場に大小の丸い黒い石がそなえてあり、青年たちが力を競った。
sasikaⓉ (名) ひさし。家の軒に別に差し出した小屋根。
sasikasaⓉ (名) 日傘。
sasikiⓉ (名) 挿し木。
sasikuru=sju^NⓉ (他 =saN, =ci) 刺し殺す。
sasimiⓉ (名) 料理名。刺身。
sasimu^NⓉ (名) 指物。
sasimuNze^{eku}Ⓣ (名) 指物師。
sasimusubaⓉ (名) [古] [鎖の側] 廢藩前の役名。貿易・外交などを扱う長官。外務長官。zuuguniNsjuu [十五人衆] のひとり。
sasiN=cu^NⓉ (他 =kaN, =ci) 差し込む。
sasisiri=ju^NⓉ (自 =raN, =ti) [文] (人間の善悪などが) はっきりと天に知れる。「指し知れる」の意。
sasi^{fusai}Ⓣ (名) [新] 差し押え。元来はhwicimunという。
sa=sju^NⓉ (他 =saN, =ci) ①刺す。haai ~。針を刺す。hacaani sasarijuN。蜂に刺される。②差す。腰などに帯びる。はさみこむ。taci ~。太刀を差す。指差すには *Ƴi-ibinuci sjuN* という。③高くさし上げる。Ƴisi ~。石を高くさし上げる。④差す。つぐ。そそぐ。'juu ~。湯を差す。湯をつぐ。ƳizuNともいう。
sataⓉ (名) ①沙汰。うわさ。また、評判。Ƴangwaataaja simauti 'waasata sju-ra doo。娘たちは村でわたしのうわさをしているだろう。~N naraN。お話にならない。問題にならない。Ƴicaawa ~

Ƴsi kwiri 'joo。会ったらよろしく伝えてくれよ。~ sarijuN。うわさされる。~ nukujuN。死後も人の口にのぼる。③音信。~N neeraN。音信もない。
satanumisaciⓉ (名) 佐多岬。鹿児島県の地名。
satiⓉ (感) さて。~, kurikara caa sjuga。さて、これからどうしよう。
satisatiⓉ (感) さてさて。~ Ƴandu 'jatii。さてさて、そうであったか。
satoociNsaⓉ (名) [新] 砂糖検査。砂糖(sataa)の等級を決める検査。
satuⓉ (名) [文] [里] 女が、男の恋人をいう語。背の君。わが君。ƳiciN nagamitai dikajo tacimuƳura, ~ja 'waga 'jaduni macurademunu。[月も眺めたいでかやう立ち戻ら 里やわが宿に 待ちゆらだいもの] 月も眺めたし、さあ帰ろう。わが君がわたしの家で待っているだろうから。
satu=ju^NⓉ (自 =raN, =ti) 感づく。さとる。
satumeeⓉ (名) [文] [里前] satuの敬語。わが君。背の君。また、殿方。satume huni Ƴukuti muduru micisigara huran nacigurini 'wasudi nuraci。[里前 船送て 戻る道すがら 降らぬ夏ぐれに 我袖ぬらち] わが君の船を送って帰る道すがら、降りもしない夏の雨にわが袖をぬらした。
satunusiⓉ (名) [里之子・里主] ①位階の名。'wacizituu [脇地頭] (一村の領主) になりうる士族の位階。②一般士族の男子に対する敬称。平民からいう。だんな様。
satunusigwaaⓉ (名) satunusiの子。一般士族の15歳前後の男の子の敬称。
satunusigwaameeⓉ (名) satunusigwaaを敬って呼びかけていう語。平民からいう。
satunusinumeeⓉ (名) [里主之前] satunusiの敬称。呼びかけていう。

satunusipecciN

satunusipecciN① (名) [里之子親雲上] 位階の名。王子から数えて五番目の位階。

satunusişizimi① (名) [里之子筋目] satunusi [里之子] になる士族の家柄。cikudunşizimi とともに、譜代の士族の家柄である。

sawai① (名) モスリン。メリンス。また、メリンス友禪。

sawai① (名) 病氣。身体の異常。siNnu ~. 精神異常。tannu ~. 肺病。Yusawain saamisebirani. お変わりもございませんか。

sawa=juN① (自 =raN, =ti) ①さわる。心や体に支障を起こす。Yukiti Paqciinee bjooocinkai ~. 起きて歩くと、病気に悪い。karatankai ~. 体に悪い。cimunkai ~. 気にさわる。cimuni ~. ともいう。①さしつかえる。邪魔になる。sigutunkai ~. 仕事の邪魔になる。

sawazigutu① (名) うろたえ騒ぐ事件。騒ぎ。

sawa=zuN① (自 =gaN, =zi) あわてる。うろたえる。

sazaka=juN① (他 =raN, =ti) ①授かる。qkwa ~. (神から) 子を授かる。①(職務・子供の世話などを)引き受ける。(財産などを)管理する。預かる。qkwa ~. (他人の子を)預かる。ziN ~. 金を管理する。

sazaki=juN① (他 =raN, =ti) ①授ける。①管理させる。預けて世話させる。

sazaranami① (名) [文] さざ波。小波。

sazee① (名) さざえ。

sazi① (名) [佐事] 役場の小使をいう。sazi ともいう。kuzikee と同じ。

sazira=sjuN① (他 =saN, =ci) 細める。細くする。boonu saci hwizi ~. 棒の先をけずって細くする。

saziri=juN① (自 =raN, =ti) 細くなる。先が細る。細くそげる。また、やせこける。

zuunu saziritoon. 尾が細くなっている。

çiranu saziritoon. 顔がやせこけている。

şee① (名) 才。才知。知恵。~nu ?aN. 才がある。~ ciroo. 才知と才能。

şee① (名) ばった。いなご。

şeebee① (名) おせっかい。余計な世話。差出口。

şeebeegutu① (名) おせっかいとなるような事。

şeeeci① (名) 酒瓶。酒を入れる器。sijaci ともいう。

şeeeci① (名) 才知。

şeezana① (名) おろしがね。

şeegwaa① (名) 川えび。siraşee と同じ。şee は、ばった。

şeejanğasi① (名) かせ(紐)に巻いた木綿糸。工場製のものをいう。紡績糸。seejan は西洋の中国音。

şeejanpuu① (名) 木綿の布。綿布。

şeeeki① (名) [仕明] 開墾。~ ?akijun. 開墾する。

şeeeki=juN① (他 =raN, =ti) ①次々にかたづける。畑・食物・仕事などをだんだんと(耕して、食べて…)かたづける。やって行く。①賭けごとに勝つてもうける。せしめる。

şeeekizii① (名) 開墾地。私有地として、自由に売買できた。

şeeekoo① (名) [再科] 文官試験の本試験。その前に行なわれる koo [科] (その項参照) に合格した者が受ける。合格すれば、官吏に任用される資格ができる。

şeeeku① (名) 大工。また、職人。工人。大工の棟梁を deeku という。şeeekoo doogumasai. 職人は腕よりも道具が大切。

şeeekudoogu① (名) 工具。大工道具など。

şeeekugaqti① (名) 物を作るのが器用なこ。また、その人。

şeenukan① (名) 塞の神。道祖神。

şeerero① (名) [宰領] ①宰領。荷物の輸送

を監督する役。㊦結婚の時、花嫁およびその荷物などの一行を監督して行く役。一人または二人以上の男が当たる。

ʃeesiN① (名) 食べ物のおかわり。再饌の意か。ʔirijun. おかわりをつぐ。～ hwichwici ʔirirasjun. 遠慮なしにおかわりをもたらう。

ʃeesizirimuʼN① (名) 才走った者。狡猾な者。

ʃetubaa① (名) 小利口なやつ。悪がしこいやつ。

ʃetubimuN① (名) 小利口者。悪がしこい者。

ʃeewee① (名) さいわい。幸福。幸運。

ʃeezara① (名) 菜皿の意。底のやや深い、おかず用の皿。

ʃeezicaa① (名) さいづち。kiizicaa ともいう。

ʃeezuku① (名) 催促。ʔarinkai zinnu ~ siiga. 彼に金の催促をしに(行くところだ)。

ʃeNsuruu① (名) 昆虫の名。かげろう。とんぼとは別。

-ʃi (接尾) (…する, …した, …な) の, もの, こと。活用する語の「短縮形」(apocopated form) に付き, その語に名詞のような働きを与える。九州諸方言の助詞「と」「つ」, 山口県方言などの助詞「そ」と比較される。なお, -ʃiga (が, けれども), -ʃin ʃiitee (ので) は別項。ʼNNDanʃiga masi. 見ない方がよい。sicunu ʔaʃi koojun. 量のあるのを買う。nizideenu ʔaʃigadu ʔuhuʔijoo tujuru. 忍耐力のある者が大きな魚をとる(諺)。

siaN① (名) [文] 思案。ʼwatati kujamuna sianbasi. [渡てくやむな 思案橋] 渡ってくやむな思案橋(その先は遊郭)。

siaNgutu① (名) 思案事。思案するような事。

ʃiba① (名) ㊦舌。sica (舌) の項参照。～

neejun. 舌を出す。馬鹿にする意もある。～ neeree. 舌を出しなさい(医者がいり場合など)。～ neerarijun. 舌を出される。馬鹿にされる。～ ciqan. 舌をけがした。㊦ʔwaaʃiba (上くちびる), sicaʃiba (下くちびる), ʃibaʔiru (くちびるの色) などの複合語の時は, くちびるの意。

ʃibaʔiru① (名) くちびるの色。

sibai① (名) [新] 芝居。もとは ʼudui といった。

sibaisii① (名) [新] 役者。俳優。もとは ʼuduisjaa といった。

sibaja① (名) [新] 芝居小屋。劇場。

siba=juN① (他 =ran, =ti) [文] 縛る。たばねてくる。口語では ʼjuujun など。

sibaki① (名) 植物名。やぶにつけい。種子から油をしぼり, 食用・燈用にする。

sibasan① (形) 狭い。そこにある物や家, そこにいる人などについて, その場所が狭い場合には ʔibasan といい, 単に広狭を問題にする時は sibasan という。kukuru-nu ~. 心が狭い。心には ʔibasan とはいわない。

sibasi① (副) [文] しばし。しばらくの間。

ʃibec① (名) 三つ口。いぐち。兎唇。

ʃibee=juN① (自 =ran, =ti) ふざける。ざれる。「そばえる」と関係ある語。

sibi① (名) しべ。わらしべ。普通は ʼwarasinbuu という。

sibiri① (名) しぶりばら(の時の便)。

sibu① (名) 洗。

sibubai① (名) ㊦洗張り。㊦洗張りの三味線(sansin)。三味線の胴を芭蕉紙で張り, その上に芭蕉の洗を塗ったもの。いなかの青年たちが mooʔaʃibi で弾いて楽しむのはこれで, 蛇皮張り(zahwibai)の方がずっと上等だが, sibubai は夜露に対しても強いなどの特長がある。

sibuʔici① (名) 四分の一。

sibuʔita① (名) 4分板。厚さ4分の板。主

sibui

として壁板用。

sibui①(名) とうがん(冬瓜)。

sibuigara①(名) しほりがら。しほりかす。

sibuiwata①(名) しぶりばら。

sibu=juN①(他 =raN, =ti) しぼる。

sibufoosi①(名) 渋うちわ。ʔNmigwaši-gataja kamika hutukika, taiga tuzee 'jaciʔNmunu ʔiru ~nu ʔiru. (茶売節) 茶売りのねえさんは神か仏のように美しいのに、自分らふたりの妻は焼きいもの色、渋うちわの色。

sibusan①(形) 渋い。味が渋い。

sica①(名) 舌。慣用句、比喩的用法や複合語の成分としてのみ用いる。普通は šiba という。~ neejuN. 舌を出す(馬鹿にする意)。~ ʔincasan. 舌足らずである。ことばが足りない。~ nagasan. 発音がもつれる。

sica①(名) 志喜屋。《地》参照。

sica①(名) 下。ʔwii(上)の対。

sicaara①(名) [下原] しもの方。また、都の町はずれ。近郊。

sicaašee①(名) 押しあい。押しあうこと。押しあいへしあい。また、押しくらまんじゅう。~ sjuN.

sicaa=sjuN①(他 =saN, =ci) ⊖(子が親などに) しつこくまつわりつく。qkwanu ʔuja ~. 子が親にまつわりつく。⊖体を押しつける。押しつけてはいり込む。⊖たがいに押しあう。押しあいへしあいする。sicaašee sjuN. ともいう。zaanu ʔibasakutu 'warabiŋeaaga ~. 部屋がせまいので子供たちが押しあいへしあいしている。

sicabaa①(名) 下葉。枝の下の方にある葉。

sicabaa①(名) 下歯。

sicabai①(名) 土瓶・急須などの口から、湯などがまっすぐに出ないで、下方にだらだらとあとを引いて流れること。

sicabeesan①(形) 早口である。舌が早く回

る。

sicacirimunii①(名) 舌足らず。舌が短いようなしゃべり方。sicakweemunii と同じ。

sicacirimunuʔii①(名) sicacirimunii と同じ。

sicadakuma①(名) こっそりたくらむこと。内心では利口な考えをもっていること。悪い意味にいう。

sicadamasi①(名) 心の中で用心すること。心の中では慎重に注意していること。よい意味にいう。

sicadan①(名) [螺] 巻貝の一種。「しただみ」に対応する。丸く小さく、ふたがあって、岩・砂などに付着する。食用となる。その長いものは cinboora という。

sicadan①(名) 下段。段・棚・役職などの下の段。ʔwiidan の対。

sicadii①(名) [下手] 身分の低い者。しもじもの者。

sicadii①(名) [下手] 賄賂。袖の下。下からこっそり出す手。~ neejuN. 袖の下から手を出す。贈賄・収賄する。

sicagaci①(名) 下書き。草稿。下絵。sita-gaci ともいう。

sicagui①(名) [古] [下庫裡] 式部官の詰所。

sicagukuru①(名) 下心。底意。悪い意味にいう。

sicahwimu①(名) [文] 下紐。女の下ばかまのひも。普通は hakamanu 'uu という。satuga tini narisi hananu ~ja, ʔikuharuni natin tagasi tucuga. [里が手に馴れし 花の下紐や 幾春になっても誰がし解ちゆが] 恋しい君の手に馴れている下ばかまのひもは、幾春になっても誰も解く人がいない。

sicahwizi①(名) あごひげ。下ひげの意。ʔwaahwizi(口ひげ)に対する。

sicaida①(名) 下枝。

sicajaku① (名) 下役。
sicajakuniN① (名) 下役人。
sicajurukubi① (名) 内心喜ぶこと。ひそかに喜ぶこと。
sicakata① (名) しもじもの者。下階級の人。ʔwiikata の対。
sicakweemunii① (名) 舌足らず。舌をかみそうなもの言い方。うまく舌がまわらないものの言い方。早口ことばを言う場合など。
sicakweemunuʔii① (名) sicakweemunii と同じ。
sicanii① (名) 下荷。下積みの荷。ʔwaanii (上荷) の対。
sicanui① (名) 下塗り。下地を塗ること。ʔwaanui の対。
sicasiba① (名) 下くちびる。～ kuujun. 下くちびるをかむ。人をおどす時の表情をいう。
sicasjoonugaa① (名) うっかり者。そこつ者。sjoonugaa のはなはだしい者。
sicaʔuki① (名) 下請け。
sicawata① (名) 下腹。下腹部。
sicazi① (名) 下着。上着のすぐ下に着る着物をいう。冬なら、上にあわせを、下にじゅばん、中にひとえを着るが、そのひとえをいう。
sici① (名) 質。質屋に入れる担保。質草。～ ʔirijun. 質に入れる。～ tujun. 質草として取る。また、質屋を営業する。～ ʔukijun. 質から出す。
sici① (名) 七。普通は nanaçi という。
sici① (名) 四季。
sici① (名) 式。儀式。
sici① (名) 敷居。
ʔsici① (名) 好き。～ ʔjan. 好きだ。～ na qcu. 好きな人。
siçi① (名) 節。二十四節の節。
siçi① (名) 湿気。しめりけ。～ kakajun. 湿気をおびる。じめじめする。～ nu ʔan.

湿気がある。
siçibi① (名) 市などがにぎわり日。商売の書き入れ時となる日。正月・3月3日・5月5日・盆などの祝祭日とおよそ一致する。
siçibuqkwi=jun① (自 =ran, =ti) むくむ。病気で体がむくむ。
siçibuşici① (名) 好ききらい。好きなものときらいなもの。
sicica① (名) 布を織る時、腰を掛ける板。敷板の意。
sicigaara① (名) ㊦建物の周囲・塀などに敷く瓦。棟瓦に相当するもの。敷瓦の意。㊦sicigaara をかたどった、着物の模様の名。市松模様に似たもの。
siçigakai① (名) ㊦しめりけが多いこと。湿気のあるところ。㊦不健康に太ること。
siçigawai① (名) 季節の変わり目。
siçigwaçi① (名) 7月。
siçigwaçiisaa① (名) 盆踊り。旧暦7月15日の送り火がすむと、16日の夜は、各村の青年たちが各家を回り、酒や餅をもらって、歌い舞い、最後に村の広場で踊って遊ぶ。その時の歌に 'eisaa 'eisaa というはやしがつくのでいう。
siçigwiiniigwii① (名) 腹を立てた声。つっけんどんな声。強い不満の声。～ ʔnzaci. つっけんどんな声を出して。
siçihui① (名) (子が親などに)まつわりつくこと。siçi-<siçun (下にはいり込む・下から起こす)。
siçihukusiN① (名) 七福神。
siçiʔisi① (名) 敷石。
sicija① (名) 質屋。
siciju① (名) [新] 石油。sicitanjuu よりもさらに新しい語。
siçiki① (名) 作りつけ。戸棚・たんすなどの作りつけのもの。
siçiki① (名) しつけ。家でする礼儀作法などの教育。
siçikigata① (名) しつけかた。礼儀作法な

siçikigwii

どのしこみかた。

siçikigwii①(名) 作りつけの衣裳棚。kwii
の項参照。

siçiki=jun①(他 =raN, =ti) ⊖なぐる。い
じめる。やっつける。那覇などでは kuru-
sjun という。⊖叱る。⊖しつける。礼儀
作法を教える。'winaguwarabee 'juu
siçikiriwadu 'jaru. 女の子はよくしつけ
なければいけない。

siçiki=jun①(他 =raN, =ti) 作りつける。
作りつけにする。sjumuçidana siçiki-
teen. 本棚を作りつけてある。

siçiki2buçidan①(名) 作りつけの仏壇。

sicikuduci①(名) [四季口説] 口説 (ku-
duci) の一つ。

siciku=nun①(自 =maN, =di) しけ込む。
他人の家へはいり込んで、いすわる。

siçikusiree①(名) 髪をくしけずること。梳
きこしらの意。

sicimazimuN①(名) 魔物の名。魔物のな
かでもっとも恐ろしいとされる。天まで届
いたり、地面いっぱい伸びたり、いくら
でも広がる、得体の知れない魔物で、逃げ
ようがない。

sicimiN①(名) しきりにせがむこと。しき
りに催促すること。~ sjun.

sicimiNcoo①(名) 七面鳥。

sicimuçi①(名) 質草。抵当。担保。

siçimuci①(名) 体がむくむこと。腎臓病
などの場合に起こるもの。脚気。siçi(湿
気)をもつ意。

sicimuçisirabi①(名) muee(無尽講) な
どで金を貸借する時、その抵当が金高に相
当するかどうかを調べること。質物調べの
意。

sicimuN①(名) 敷物。たたみ・むしろ・毛
布など、坐ったり寝たりする時に敷くも
の。

sicimusiru①(名) 夜、寝床に敷くむしろ。
寝ござ。広幅の長い上等のむしろで、敷き

ぶとんの代わりに用いる。以前は、敷きぶ
とんはほとんど用いられなかった。

sicina①(名) 尻の下に敷くもの。~ sjun.
尻に敷く。'utu ~ sjun. 夫を尻に敷く。

sicina①(名) 識名。《地》参照。

sicinagari①(名) 質流れ。

siciniçi①(名) 七日。なのか。月の第七の
日にもいう。

siciniN①(名) 七人。nanatai ともいう。

siciniNci①(名) 七年忌。

sicinurii①(名) 質の利息。

sicirihweeri①(副) はなはだしく笑うさ
ま。首をちぢめて笑う意。~ 'warajun.
腹をかかえて笑う。

siciriN=cuN①(自 =kaN, =ci) ちぢこまる。
引っこんで短くなる。kaamiikuubinu ~.
亀の首がちぢこまる。

sicitaku①(名) 坐り込んで動かないこと。
いすわること。子供などが不平な場合にや
ることなどをいう。'usinu ~ natooN.
牛が坐り込んでしまった。

sicitaNgani①(名) ブリキ。

sicitaNjaqkwaN①(名) ブリキのやかん。

sicitaNjuu①(名) [新] 石油。さらに新し
くは siciju という。

sicitoo①(名) [七島] 土嚙喇(とから)列島。

sicitootu`naka①(名) [七島渡中] 七島の
沖。土嚙喇列島の沖合。

siçi2uku=sjun①(他 =saN, =ci) ⊖下から
起こす。下からかきほぐす。上のものをこ
わさぬように、下から起こす場合などにい
う。⊖(田畑を) 鋤き起こす。

sicizuu①(名) 七十。また、七十歳。

sicizuusaN①(名) 七十三。また、七十三歳。
~nu 'ujuwee. 七十三歳のお祝い。

sieu①(名) 量。~nu 'aşi koojun. 量
あるのを買う。

sicuma①(名) [しきよま] 祭りに神に供え
るための米麦の初穂。~ kamirasjun. 祭
りに神に供えた米を、おさがりとして与え

る。nanzaʔušinakai kuganiziku tati-ti, cibati širi 'joo 'unainucaa, ~ kamirasa 'jaa. (稲摺節) 銀の臼に黄金の軸を立てて、張り切って稲をすれよ、女たち。初穂のおさがりをいただいてやろう。

si=cuN① (他 =kan, =ci) 敷く。敷物などを敷く。

ši=cuN① (他 =kan, =ci) 好く。好む。šikan. きらいである。saki šicumī. 酒が好きか。

ši=cuN① (他 =kan, =ci) 下からはいり込む。下から持ち上げる。下から起こす。「鋤く」に対応する語か。ʔusini šikarijun. 牛に下から突き上げられる。

ši=cuN① (他 =kan, =ci) ①漉く。紙などを漉く。②梳く。くしけずる。梳き櫛で梳く。櫛 (sabaci) でとかすことは sabacuN という。

sicuraašan① (形) 小児の体重が重い。小児の体重は、お産が重いことを恐れて ʔNbusan (重い) といわない。おとなの体重は ʔNbusan という。

sicuʔuhusan① (形) 量が多い。

šidagisan① (形) 涼しそうである。

šidai① (名) すだれ。みす。

šidakaza① (名) 清らかな香り。すがすがしいにおい。

šidakazi① (名) 涼風。涼しい風。

šidaki① (名) 瀬高。《地》参照。

šida=nuN① (自 =man, =di) 涼む。šidamasjun. 涼しくする。

šidasan① (形) 涼しい。

šida=šjun① (他 =san, =ci) 卵をかえす。孵化する。高貴の人が子を生むことをもいふ。ʔušidasimišeen. お生み遊ばされる。

šida=šjun① (他 =san, =ci) ①磨く。②化粧をする。

sidee① (名) ①次第。由来。事情。caaru ~ga. どんなわけか。②(接尾) 順。次第。-sindee ともいふ。šiizasidee (年長順)

など。

sideejooi① (名) 次第に弱ること。だんだんに衰弱すること。~ šjun. 次第に弱る。

sideeni① (副) 次第に。だんだんと。~ masi najun. 次第によくなる。

sideesideeni① (副) 次第次第に。~ masi najun. だんだんとよくなる。

šidigahuu① (名) šiduughuu と同じ。

šidigajamamici① (名) [文] 死出の旅。

~ni humimajuti nakaba, ti tuti hwicitabori ʔamidabutuki. [死出が山道にふみ迷って泣かば ʔ手とて引き給ばうれ 阿弥陀仏] 死出の山道にふみ迷って泣いたならば、手を取って引いて下さい、阿弥陀仏様。子の死に際して親の歌った歌。

šidigara① (名) šidiguru と同じ。

šidiguru① (名) ぬげがら。蛇・蟬のぬげがら、ひなのかえったあとの卵のからなど。šidigara ともいふ。

šidi=jun① (自 =ran, =ti) ①卵がかえる。孵化する。tuigwaanu ~. ひながかえる。②高貴の人が生誕する。お生まれになる。ʔumingwanu ~. お子様がお生まれになる。šidirarijun. お生まれになる。③いただく。頂戴する。身分の低い者が使う。kuree 'ookara šiditaru mun. これは王からいただいたものだ。

šidupecin① (名) [勢頭親雲上] 廃藩前の位階役職の名。

šidugahuu① (名) šidigahuu ともいふ。①頂戴物をする。こと。ありがたいものをいただくこと。~ deebiru. ありがとございます。平民や女の使うことば。②お礼。ありがとございますと言うこと。~ ʔunnjukijun. お礼を申し上げる。ninzuunu ~. 一年中のお礼。また、一年中のお礼に、年末に神社仏閣を回る。③妊娠。首里の女のいう語。天から賜わった果報の意。

-ši^oga (接尾) が。けれども。活用する語の

「短縮形」(apocopated form)につく。
 'judaŝiga 'wakaranTan. (読んだがわからなかった。), 'jumaŋŝiga (読まないが), tuusataŝiga (遠かったが) など。
sigaci⑩ (名) 施餓鬼。盆祭りやその他の法事の折, miNnukuu (水の子)を施餓鬼用に供える。
ŝiga=jun⑩ (他 -raN, =ti) 縫る。つかまっ
 て, たよりとする。
ŝigari=jun⑩ (他 =raN, =ti) 工面する。金などを算段する。ziN ~. 金を工面する。kuŝa 'jatin ŝigaritidu sikooteŝiga. これだけでもやっと工面して準備したんだが。
ŝigarinami⑩ (名) 津波。また, 高潮。
ŝigata⑩ (名) 姿。みなり。風采。~nu 'jutasjan. みなりがいい。
ŝigaziru⑩ (名) 膿汁。膿の薄い液。
ŝigi=jun⑩ (他 =raN, =ti) すげる。はめこむ。とりつける。cisiri ~. きせるをすげる。ʔasizanu 'uu ~. げたの鼻緒をすげる。
ŝigu⑩ (副) すぐ。ただちに。~ kuu 'joo. すぐ来いよ。
ŝiguhwan⑩ (名) 祭祀用の米('npanagumi)を入れる器。ʔuuʔukuhwan ともうい
 う。
ŝiguku⑩ (副) 至極。ひどく。非常に。平民は多く zikoo という。~ ʔami huti ʔikantaN. 非常に雨が降って行かなかった。連体詞的にも用いる。~ ʔweekiNcu. 非常に金持ち。~ ʔuujaŝimun. 非常に容易なこと。
ŝigunzani⑩ (名) 針金。
ŝigunzani ⑩ (名) ŝigunzani と同じ。
ŝigu=sjun⑩ (他 =saN, =ci) (度を) 過ごす。saci ~. 酒を過ごす。
ŝigutu⑩ (名) 仕事。
ŝigwaçi⑩ (名) 四月。年の第四の月。多くは ŝingwaçi という。

ŝihjaaku⑩ (名) 四百。
ŝihoohaQ'poo⑩ (名) 四方八方。
ŝii⑩ (感) しい。はい。牛馬などを追い進める声。
ŝii⑩ (名) 四。普通は 'juuçi という。
ŝii⑩ (名) 椎。しいのき。実は炒って食用にする。'janbarusii (山原椎) というように, 山原に多い。
ŝii⑩ (名・感) おしっこ。しい。小便の小児語。また, 小児に小便をうながす語。
ŝii⑩ (名) 債。負債。債務。借金。ʔuqka ともうい
 う。
ŝii⑩ (名) [瀬] 岩。
ŝii⑩ (名・接尾) 姓。唐姓をいう。ʔuzi ともうい
 う。ŝjoosii (尚氏) など。
ŝii⑩ (名) 精力。元気。勢い。~ çiun. 勢いがつく。精がつく。回復期の病人・農作物などが元気よく, 勢いがつくのをいう。~ nugijun. 勢いが抜ける。精が抜ける。元気がなくなる。
ŝii⑩ (名) 背たけ・身の大きさの意か。勢, すなわち生きのよいことの意かもしれない。次の句でいう。tui kooraa kaži koori ʔiju kooraa ~ koori. 鶏を買うなら数を買え(若鶏を何匹も買った方がよい), 魚を買うなら大きいのを買え(小魚を何匹も買うよりいい)。
ŝii⑩ (名) [子] ⊖* cikuduŋŝizimi [筑登之筋目]の士族の男子。15歳以上の男子で, おそくとも25歳ころまでに cikudun [筑登之]になる。murikawanu ~. [森川之子]組踊りの名。「花売之縁」の別名。⊖ 士族男子(20歳以上)をいう。
ŝii⑩ (名) 単独での意味不明。~ ʔijun. 困る。siira ʔijun. と似た意味で用いる。~ ʔiçti turasiwadu 'jaru. 困らせてやろう。苦しませてやらねばならない。
ŝii⑩ (名) 巢。tuinu ~. 鳥の巢。
ŝii⑩ (名) 刀などのさや。saja ともうい
 う。
ŝii⑩ (名) 酢。hweei ともうい
 う。

šii① (名) 末。終わり。結末。～*ja caa na-taga*。終わりはどうなったか。
šibai① (名) 小便。～*sjun*。小便する。上流の婦人は *Yusi Yuujun*。(牛を追う) という。
šibaibukuru① (名) 膀胱。šibaiziçin ともいう。
šibaiguuru① (名) 小便壺。
šibaijandi① (名) 淋病。尿道炎。
šibaiziçin① (名) 膀胱。šibaibukuru ともいう。
šiban① (名) 末番。びり。また一番終わりの番組など。
šibaree① (名) 負債を返却すること。借金を返すこと。
šibi① (名) 衰微。家が衰えることをいう。
šibiisan① (形) うすら寒い。
šibjuu① (名) 聖廟。孔子の廟。
šiboožaa① (名) 植物名。つるそば。薬草の名。
šibuN① (名) おまけ。売買などで余分に添えてやるもの。添え分の意。
šibusjahuNdee① (名) したい放題。勝手気ままにすること。
šibuu① (名) しょげること。また、間の悪い思いをすること。～*nasarijun*。間の悪い思いをさせられる。
šibungeei① (名) しょげかえること。また、ひどく間の悪い思いをすること。
šicaakwaee① (名) 押し合いへし合い。～*nu miinkai Yijun*。押しあいへし合いの中にはいる。～*sjun*。
šicamee=juN① (他 =*raN*, =*ti*) 仕事を次々にして行く。仕事をどんどんかたづける。
šicee① (名) 押しくら。押し合い。押しくらまんじゅう。寒い時にする子供の遊び。たがいに押し合って、倒れるか、または列から押し出されたり、退いたりした方が負け。
šicikaka=juN① (自 =*raN*, =*ti*) つめ寄る。

murabarunu Yajaaža zaan neen, *kurusi kurusindi šiicikakatasa*, *daa kurusjuru Yizija suqtun neeran*, *'Nzawaree sici mudujuru sikataja hunnu 'ukasjadu Yuhusaru*。[村原のあやや ぢやあんないらぬ 殺す殺すむで すいきかかたさ だあ 殺しゆるいちや そつともないらぬ にか笑ひしち 戻ゆる仕方や ほんのをかしやど多さる (大川敵討)] 村原の夫人は少しも恐れず、殺せ殺せとつめ寄ったが、谷茶の按司は少しも殺す勇氣はなく、にか笑いして戻るようすは笑止千万であった。

šiicin① (名) 聖賢。教養ある人の用いる語。～*nu Yusii*。聖賢の教え。
šiciroo① (名) やりかねない者。やりかねないこと。いかにもやりそうなこと。賄賂など取りそうな者が、賄賂を取ったというような場合など、šiciroo '*jasa*。(やりそうなことだ) という。よいことの場合にはあまりいわない。
šiiciziYuzoo① (名) 首里城の門の名。Yuguşiku の頂参照。
šicoogin① (名) 切狂言。一番終わりの狂言。
šii=cuN① (自 =*kaN*, =*ci*) 体で押す。押し入る。*miqcaidu 'irariiru tukurunkai šiici naa cui 'ican*。三人しか坐れない所に押し入ってもうひとり坐った。
šii=cuN① (自 =*kaN*, =*ci*) 位置がずれて動く。
šiidakasan①* (形) ⊖靈力がある。神の靈を身につけている。気高い。神神しい。⊖神神しいようすである。寄りつけない感じをもつ。王・美人などについていう。
šiidoori① (名) 働き過ぎて倒れること。*sjuincoo ciidoori, naahwancoo kwee-doori, tumaincoo*～。首里人は着倒れ、那覇人は食い倒れ、泊人は働き倒れ。
siidu① (名) [勢頭] かしら。親分。頭目。

siigancee

下層階級の語。複合語に 'jureesiidu (無尽講の頭目), ninbucaasiidu (念仏宗乞食の頭目) など。

siigancee① (名) ⊕*いやがらせにすること。また、人に対して意地ですること。siiganeesii ともいう。tusjuinu simisjooNnandi ?unNjukitin ~ Qsi simiseekutu 'jaa. お年寄りがなさいますと申し上げても、いやがらせみたいにおやりになるからねえ。⊖老人などがしなくてもよいことをして失敗したり、怪我したり、病氣したりすること。

siiganeesii① (名) siigancee と同じ。~du 'jaru. いやがらせだ。~ sjun.

siigu① (名) 小刀。ナイフ。

siihana① (名) ⊖煮てすぐの熱い食物。できたて。⊕*仕事などの、はじめ。

siihaq'too① (名) 無理強い。人に、仕事・食物などを無理に強いること。?ansiinee ~ najun. そうすると無理強いになる。~ sjun.

siihoo① (名) 製法。作りかた。

siihudu① (名) 背丈。せい。背かっこう。~ ?ucajun. 背丈がちょうどよい。均衡のとれた体つきをしている。

siihui① (名) sinpui と同じ。

sii?imijaa① (名) 借金取り。債鬼。sii は債, ?imijaa < ?imijun (催促する)。

sii?iqpee① (名) 精一杯。力の限り。もうこれ以上できないという、否定的な意味で用いる。~ sjeon. 精いっぱいやっているのだ。もうこれ以上はできない。

siijaabuu① (名) 小児の遊戯の名。また、その時の歌の名。hwiizintoo ともいう。その項参照。

siijanzi① (名) しくじり。やりそこない。失敗。

siijanzigu'tu① (名) やりそこなった事。失敗事。

siijan=zuN① (他 =aan, =ti) しそこなり。

失敗する。しくじる。

siijaQsaN① (形) ⊖しやす。やりやすい。⊖暮らしやすい。また暮らしが楽である。namaa ~. 今は暮らしが楽だ。siijaQsa sjoon. 安楽な暮らしをしている。

siijoo① (名) しかた。やりかた。しより。~nu ?aN. やりかたがある。

sii=jun① (他 =raN, =ti) 強いる。?arinkai sigutu ~. 彼に仕事を強いる。

šii=jun① (自 =raN, =ti) 籠(す)える。いったん煮た食物が腐ってすっぱくなる。

šii=jun① (他 =raN, =ti) ⊖添える。増して加える。⊖売買の際、おまけとして加える。

siikaki① (名) 仕事のやりはじめ。また、やりかけ。~ 'jan. やりかけだ。

šiikaža① (名) 食物の籠えたにおい。

siikce=sjun① (他 =saN, =ci) し直す。やり直す。

šiiiki① (名) 食物の籠えた味。

šiiiki=jun① (他 =raN, =ti) ずらす。押しやる。?agatankai ?uri šiiikree. あっちにそれを押しやれ。

siikuimee'kui① (副) ⊖ふらふら。よろよろ。よろめくさま。⊖負債などを負って、生活にあえぐさま。~ sjun.

siikuinoo'ri① (名) 前後左右によろけること。

šiiiku=jun① (自 =raN, =ti) ⊖よろける。よろめく。ふらつく。⊖左前になる。衰運に傾く。

siiikumii① (名) 何度かに食べる飯を一度に炊いて置くこと。暇のない労働者などがする。~ sjun.

siikutaNdi① (名) 過労。働き過ぎて疲れ果てること。

šiikwaasjaa① (名) 植物名。橋。こがね色の実がなるので、kuganii とよぶ地方もある。実は、まだ青くて酸味が強い時、芭蕉布をさらすのに用い、芭蕉布の色つやを

よくする。酢食わしの意。
 šiikwaʔuʔi① (名) [新] 西瓜。-ʔui は瓜。
 普通には kwantuʔui という。
 šiimi① (名) 潜水。水中にもぐる。～
 sjuN.
 šiimii① (名) 清明。二十四節の一つ。沖縄
 で最も快適な季節である。清明祭 (ʔusii-
 mii) を行なう。
 šiimiigwaa① (名) にいにいぜみ。
 šiimnuN① (名) ⊖食物の髄えたもの。髄え
 もの。⊖酸いもの。すっぱいもの。
 šiimnuN① (名) 吸い物。普通は ʔušiimnuN
 という。おかずとして出すものでなく、単
 独で出す吸い物をいう。お椀物。すまし汁。
 soominnu ~。そうめんの吸い物。おかず
 として出す、すまし汁・みそ汁は ʔusiru
 という。
 šiimnuNwan① (名) 吸い物椀。
 šiinari=juN① (自 =ran, =ti) し慣れる。
 慣れて熟達する。やりつける。
 šiinasi① (名) 仕上げかた。やりかた。ま
 た、うまく仕上げること。じょうずにやる
 こと。sabimnuN 'jatIn ~du 'jaru。貧
 弱な材料でも、料理のやりかたでよくな
 る。材料よりも腕(諺)。~nu neeran。
 やりかたがまずい。
 šiina=sjuN① (他 =saN, =ci) よく仕上げ
 る。うまくする。家事・料理・着付けな
 ど、何でもうまくやることをいう。caa
 'juu šiinacoon。いつでもうまくやって
 いる。
 šiinoo① (名) 水囊。水ぶるい。底を銅線な
 どで張った、細目のふるい。粉をふるうの
 にも、また、うらごしにも用いる。
 šiinoosi① (名) し直し。やり直し。
 šiinoo=sjuN① (他 =saN, =ci) し直す。や
 り直す。
 šiinza=sjuʔN① (他 =saN, =ci) もうける。
 働いて富を生み出す。ʔacinee ~。商売を
 大きくやってもうけ出す。hwinsuumnuN

'jašiga siiʔNzaci ʔweeki sjaN。貧乏者
 だが、もうけて富をなした。sakanajaa
 siiʔNzasijaqsaru ʔacinee 'jakutu 'ja-
 miransa。料理屋はもうけやすい商売だ
 からやめないよ。
 šiipui① (名) sinpui と同じ。
 šiira① (名) 災難・苦しみ・病気などの意。
 ʔijun (入る) とともに用いる。災難がは
 いりこむという感じである。~ ʔijun。困
 る。苦しむ。病気になる。災難にあり。
 ʔamini 'ndiinee ~ ʔijun。雨にぬれる
 と病気になる。ʔuqkanu ʔuhusanu ~
 ʔiqcoon。借金が多くて苦しんでいる。
 tuzinu duujahwarasanu ~ ʔiqcoon。
 妻の体が弱くて、困っている。~ ʔijun
 doo。困った目に会わず。
 šiiraran① (動) ʔizinu ~。(腹にすえかね
 る) という句でのみ用いる。
 šiiri① (名) 肥だめ。
 šiisan① (名) 推参。差出がましいこと。生
 意気。文語的な語。~na kuzuu。推参な
 小僧。
 šiisan① (形) すっぱい。酸い。
 šiisi① (名) ⊖獅子。獅子舞いの獅子をい
 う。人と遊ぶ動物とされ、猛獣とされない。
 獅子舞いの獅子は芭蕉の糸で巧みに作られ
 ている。~ keerasjuN。獅子舞いをする。
 獅子がひっくり返る動作が多いので kee-
 rasjuN という。⊖獅子舞い。村芝居で行
 なわれた。首里でも旧暦8月15夜のころ
 各村で催された。
 šiisi① (名) しんし(綴)。洗い張りの時、布
 を引っ張る道具。
 šiisi① (名) 添石。《地》参照。
 šiisi① (名) 末吉。《地》参照。
 šiiši① (名) すす。~ kantoon。すすだら
 けになっている。~ kuujuN。すすける。
 šiišiçi① (名) 性質。~nu 'waqsan。性質
 が悪い。
 šiisiguci① (名) しんし (šiisi) の両端のと

がったものがついているところ。もとは牛豚などの骨を削って作ったが、後には金属製のものができた。

siisii④ (副) ふうふう。妊娠して、または太って苦しそりにあえぐさま。ʔuhuwata ~ sjoon. 大きなおなかをかかえて、ふうふういっている。

siisizama④ (名) 起居振舞。挙動。

siisu④ (名) 腎臓病。

siiti④ (副) 強いて。無理に。~ ʔicun.

無理に行く。~ simijun. 強いてさせる。

-siiti (接尾) …ごと。…ぐるみ。<siijun (添える)。hunišiiti hakajun. (骨ごと計る), kaashiiti kanun. (皮ごと食べる)。

siitu④ (名) [新] 生徒。明治の初め一時使われた語。生徒のことは、元来は gaku-sjoo といった。

siizuwa=jun④ (他 =ran, =ti) し終わる。なしとげる。

siitai④ (名) 過勞。

siizwii④ (名) 皮膚の一部が厚く堅くなること。また、その部分。たこ。nuunu ~ ga. 何でできたたこか。

siizwii=jun④ (自 =ran, =ti) たこができる。皮膚が厚くなる。唐手の訓練で maci-wara (巻藁) を突いて、にぎりこぶしにたこができることなどをいう。

šiiza④ (名) ʔuqtu (年下、弟妹) の対。⊖年上(の者)。年長(者)。⊖兄姉。年上の兄弟。兄または姉。性別を区別する時には 'wikigašiiza (兄), 'winagašiiza (姉) といい。'waashiiza. わたしの年上の兄弟。

siizaa④ (名) 植物名。椎。椎の木。主として、たきぎとして使う場合にいう。

siizaadamun④ (名) 椎のたきぎ。

šiizakata④ (名) ⊖年上の人たち。年長者たち。先輩たち。ʔuqtunucaa (年下の人たち) の対。⊖壮年の者たち。30~40 歳台の者。'wakamunnucaa の対。

šiizakatasidee④ (名) 年長順。大勢の間で

順序を決める場合は、たいてい šiizakatasidee となる。šiizasidee ともいう。

šiizasidee④ (名) 年長順。

šiizaunai④ (名) 姉。弟から見た場合の姉をいう。

siizi④ (名) [新?] 政治。

šiizima④ (名) すもうの結びの一番。

siizimuci④ (名) [新?] 政治の道。政治の行ないかた。政治むきの意。~nu 'juu natoon. 政治がよくなっている。

šiizukurii④ (名) ⊖巢を作ること。鳥類が産卵のため、巢を作ること。⊖転じて、女のお産の準備をいうことがある。

sijaci④ (名) šeeci と同じ。

sijawasi④ (名) [文] しあわせ。幸福。~na Qcu. しあわせな人。

sijawasigu'tu④ (名) しあわせな事。幸福な事件。

sijoomujoo④ (名) いろいろと手段を講ずること。いろいろの方法でやってみること。~ sjun.

sijoosizama④ (名) やりよう。やりかた。行ないぶり。

si=jun④ (他 =ran, =qci) 知る。siqcoon. 知っている。

ši=jun④ (他 =ran, =ti) 磨る。こする。kusi ~. ふろで、背中を流す。

sika④ (名) [新] 鹿。慶良間島に野生の鹿がいる。元来は koonusisi (鹿。また、鹿の肉) という。

sikaa④ (名) 臆病者。

sikaitu④ (副) しっかりと。ちゃんと。~ ʔubiran. はっきり覚えていない。~ ʔucinkai ʔiree. ちゃんと内にはいれ。どうぞ室内におはいらなさいの意。

sika=jun④ (他 =ran, =ti) ⊖くくる。束ねる。縄をかける。縛る。また、捕縛する。nii ~. 荷物を縛る。⊖(妊婦が大きい腹を) かかえる。ʔuhuwata sikatoon. 大きなおなかをかかえている。

sikaka=jun① (他 =raN, =ti) ①しかかる。
やり始める。とりかかる。①いどみかかる。

sikaki① (名) ①仕掛け。装置。からくり。
①始め。起こり始め。病気などのきざし。
兆候。

sikaki=jun① (他 =raN, =ti) ①しかかる。
やりかける。①しかける。動作をし向ける。

sikaku① (名) 四角。siqkaku ともいう。

sikama① (名) 借金の利息のために使役されること。

sikama① (名) [古] 酒を暖めて赤ん坊の体をふくこと。また、一説に産児を沐浴させること。

sikama① (名) [古] 四つ時分 (午前10時ごろ)の意か。また、早朝の意か。

sikamaa① (名) 負債のために使役される人。

sikamiiguruˊguru① (副) 臆病な目をきょろつかせること。恐怖の目付きをすること。びくびく。

sikamuduci① (名) 料理名。鹿もどきの意。肉・野菜・豆腐などをさいの目に切って作る。ʔutibici (お祝いに作る料理の名)の一種。

sikamuN① (名) 臆病者。

sika=nuN① (自 =maN, =di) 臆病になる。おじける。

sikaNkaa① (副) びくびく。おずおず。臆病なさま。~ sjoon. びくびくしている。

sikaqtu① (副) しっかりと。しっかりと。ちゃんと。sikaitu ともいう。sikaqtuの方が上品な語。

sikaraasan① (形) さびしい。寂寞としている。sikaraasii ciici ʔjaqsaa ʔjaa. さびしいけしきだねえ。

sikarasi① (名) 経験。平常やりつけて熟達していること。~nu ʔaN. 経験がある。

sikara=sjun① (他 =saN, =ci) 経験する。

熟達する。zii kacuʃi sikaracoon. 字を書くことに熟達している。ʔurandaguci sikaracoon. 西洋語に熟達している。

sikasan① (形) 臆病である。

ʃikasiimaaˊsii① (名) なためすかすこと。~ sjun.

sikasika① (副) いらいら。心の落ち着かないさま。また、気分の晴れ晴れとしないさま。~ sjun.

ʃika=sjun① (他 =saN, =ci) ①(泣く子を)あやしなだめる。すかす。①なだめる。慰める。①(女などを)だます。

sikata① (名) ①しかた。やりかた。sika-taa neen. しかたがない。~nu ʔuta-sjakutu. やりかたがよいので。①よやす。ありさま。ていたらく。悪い場合にいう。çirinasii ~. つれない、あわれなありさま。ʔaasikataa nuundi ʔjuru ~ga. おまえのざまは何というていたらくだ。

sikee① (名) 世界。

ʃiki=jun① (他 =raN, =ti) ①据える。据えつける。置いて安定させる。ʔisi ~. 石を据える。ʔuhuçibi ʃikiti. 大きなしりを据えて。gaNsina ʃikiti baaki kamijun. ガンシナ (荷を頭にかつぐ時、頭に敷くもの)を据えて、かごを頭にのせる。takamakura sikiti ʔuciju rakurakutu kurasu ʔurisja. [高枕すけて 浮世らくらくと 暮す嬉しや (忠臣身替)] うれしいことに高い枕を置いて(枕を高くして)らくらくとこの世を過ごせるよ。①食べ物を煮る用意をしておく。鍋をかけておくこと・米をといでかまに入れておくことなどをいう。ʃikiteekutu hwi ʃikiree naa. かけてあるから、火をつけさえすればよい。

sikima① (名) 志慶間。《地》参照。

sikiN① (名) 世間。世の中。miqca ʃuriree ~. 三人揃えば世間。~ sjun. 世間並みとなる。kunu cinnu ʔaree, ~ sju-sa. この着物があれば世間並みだ。siki-

·sikiNbanasi

nuN san. 世間並みにならない。~nu
ʔimasimi. 世間に対するいましめ。世の
人のみせしめ。罪人を罰する場合などに
いう。~nu hjooban. 世間のうらみ。

sikiNbanasi① (名) 世間話。

sikiNbaru① (名) 志堅原。(地) 参照。

sikiNbiree① (名) 世間とのつきあい。

sikiNnami① (名) 世間並み。人並み。

sikiNnari① (名) 世間に馴れること。世間
に通じること。

sikiNʔumaNcu① (名) 世間の人びと。天
下の人民。

sikooi① (名) 用意。準備。支度。sjooqwa-
çinu ~. 正月の準備。

sikooimukooi① (名) いろいろ準備するこ
と。sikooimukooee cuusaşiga, nuun
şee neeraN. いろいろ準備はしているが、
何もやってはない。~ sjun.

sikoo=juN① (他 =raN, =ti) 用意する。準
備する。支度する。ʔjuuban ~. 夕飯の
支度をする。

şikubuu① (名) 台所 (の土間)。

sikuci① (名) 仕事。労働。sigutu ともし
う。~ ʔwataʔiri. 仕事は綿入れと同じ。
働けば暖かくなる。

sikumi① (名) 仕組み。計画。

siku=nuN① (他 =maN, =di) 仕組む。計
画する。(会などの) 準備をする。

sikusiku① (副) 着物がよごれて見すばらし
いさま。~ sjooru cin. 見すばらしい着
物。

şikutaikaatai① (副) よごれた着物・よれよ
れの着物などを着たさま。尾羽うち枯ら
したさま。身なりのみすばらしいさま。

şikutajaa① (名) だらしない者。元気の
ないもの。

şikuta=juN① (自 =raN, =ti) よれよれの
着物を着る。みすばらしいなりをする。

sima① (名) ①村里。部落。kaçiriNnu ~-
ja kajubusja ʔaşiga. [勝連の島や 通

ひほしやあすが] 勝連の村里には通いたく
はあるが。②故郷。出身の部落。③領地。
知行所。領地としてもらう村落。~ ʔuga-
nun. 知行地をいただく。④島。海にか
こまれた島。

sima① (名) 織物の模様。縞は ʔaja と
いう。boozimaa (棒縞の模様の布)。

şima① (名) 相撲。たがいに敵の帯をにぎ
り合って身構えてから始める。相手を倒し
て、相手の背を地面に付ければ勝ち。二番
続けて行なり。連敗した方が、nuzumi
(望み) と言って、もう一番取り直しを望
んだら、勝った方はそれを拒否できない。

simaa① (名) 小さい島の者、または小さい
島出身の者 (卑称)。

simabuku① (名) 鳥袋。(地) 参照。

simacizoo① (名) 領地を持ち知行を得るこ
と。また、領地と扶持米。地頭に与えられ
た領地と、その領地から地頭が得る扶持
米。

simagumi① (名) 沖繩産米。ziimee (内地
米)、toogumi (外米) などに対する。

simaguni① (名) 島国。toojamatoo tee-
kuku, ʔucinaaja ~. 中国と日本は大国、
沖繩は島国。

simakuni① (名) ①村里。sima も kuni
もともに村里の意。②領地。~N ʔugadi.
知行地もいたでいて。

simakusarasi① (名) 村に悪疫のはいるの
を防ぐために行なり、まじないの行事。獸
血を塗ったしめ縄を張りめぐらし、獸骨な
どをつるし、はいて来る舟から悪疫がは
いり込むのを防いだもの。農村でする行
事で、首里では行なわない。

simamuci① (名) 名目だけの領地を与えら
れた脇地頭 (ʔwacizituu)。領地はなく、
米は政府の倉庫からもらう。いわゆる ʔi-
qpoomuci [一方持] の脇地頭。字義は、
領地 (sima) を持つ者の意。

simanagasi① (名) 島流し。流罪。

simariⓐ (名) 戸じまり。'juu ~ sii 'joo.
よく戸じまりをしろよ。

šimasibaiⓐ (名) くけ縫い。縫い目を表に出さない縫いかた。šimasi は šiimi (潜水) と関係ある語か。

šima=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ㊦済ます。終わらせる。㊦婚約する。許嫁となる。婚約の成立をすます。女の側からいう。Yun-zutaaçiruuja maatu 'jatin šimaceemišeeibiimi. お宅のつる子さんはどちらかと婚約をすましていらっしゃいますか。

šimasugaiⓐ (名) 故郷に帰る支度。

šimasu'ʔazanaⓐ (名) 首里城の石垣の上にある楼。ʔuğušiku の項参照。

šimatihjaa'tiiⓐ (副) あらん限りの声で叫ぶさま。声を限りに。

šimawaaⓐ (名) 村落(sima)の中。村落の大きさ。村落の範囲。

šimaziriⓐ (名) 島尻。《地》参照。また、次項と同じ。

šimazirihooⓐ (名) [島尻方] 沖縄の旧行政区画で、のちの島尻郡。

šimeeⓐ (名) 住まい。住居。

šimeeⓐ (名) 身構え。また、受入れの準備。~ sjuN. 身構えをする。また、身構えるふりをする。また、受入れの準備をする。

šimeeci=ju'Nⓐ (自 =raN, =qci) すっかり整える。無駄なくきりつめる。また、部屋を使い方などに無駄がない。ʔariga kurasee šimeeciçcookutu ʔuhooku tamitooru hazi doo. 彼の暮らしはきりつめてやっているから、たくさんためているだろうよ。'jaa ~. 家を無駄なく住む。

šimee=juNⓐ (自 =raN, =ti) 身構える。けんかなどの身構えをする。

šimeekame'eⓐ (名) 身構えばかりすること。やたらに身構えすること。~nu cuusan. 身構えばかりが大げさである。~ sjuN.

šimeežaⓐ (名) 居室。居間。住まっている

部屋。

šimeezuⓐ (名) 住所。居所。

šimiⓐ (名) 締め。合計。

šimiⓐ (名) ㊦墨。㊦学問。ʔagari ʔaka-gariba ~ narega ʔicun, kasira 'juti tabori 'waʔujaganasi. [東明がれば墨なれが行きゆん 髪結てたばうれ 我親がなし] 東の空が明るくなると学問を習いに行きます。髪を結ってくださいおかあさま。šimee siqci munoo siran. 学問はありながら、物の道理を知らない。論語読みの論語知らず。~N siran mun. 無学な者。文盲。㊦消し炭。caasizinのこと。木炭は普通 tan という。

šimiⓐ (名) 罨。

šimiceⓐ (名) 攻め合い。

šimihudika'biⓐ (名) 墨と筆と紙。学用品。文房具。

šimihukuⓐ (名) 読書。音読。朗読。昔はみな声を出して読んだ。

šimiidiⓐ (名) 済井出。《地》参照。

šimi=juNⓐ (自 =raN, =ti) しめる。湿気をおびる。simikeejuN ともいう。

šimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) 締める。帯を締めるは、普通 ʔuubi sjuN という。

šimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) ㊦攻める。攻撃する。㊦責める。

šimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) させる。sjuN (する)の使役形。soozi ~. 掃除させる。-šimi=juN (接尾 =raN, =ti) せる。…させる。「サ行」の動詞の「未然形」に付き、使役の意を表わす。他の動詞には -sjuN が付く。nasjuN (産む)→nasimijuN. (産ませる), tuusjuN (通す)→tuusimijuN. (通させる)など。

šimijusi=juNⓐ (自 =raN, =ti) 攻め寄せる。

šimikabiⓐ (名) ㊦墨と紙。㊦字を書いた紙。神聖なものであって、決して物を包んだりしない。あやまって踏みつけた場合に

は、おしいだいて丁寧石垣の穴に入れるか、焚字炉(hunzuruu)に入れて焼くかした。それを怠ると、Yuhubisjaa(象皮病)になるといわれた。

simikee=juⁿ①(自 =raN, =ti) しける。湿気をおびる。

simikuru=sjuⁿ①(他 =saN, =ci) 締め殺す。

simikuru=sjuⁿ①(他 =saN, =ci) 攻め殺す。

šimikwaasjaa①(名) 墨ばさみ。墨づか。
-kwaasjaa < kwaasjun(食わす。はさむ)。

simimun①(名) 料理名。煮しめ。肉類・野菜などを醤油で煮しめたもの。

šiminaa①(名) 墨繩。墨糸。

šiminarajaa①(名) 学問を習う人。学生。生徒。

šimincu①(名) 読み書きのできる人。学問のある人。

simisi①(名) 湿らせること。反物などに霧を吹くこと。霧吹き。~ sjun. 霧を吹く。

šimisiri①(名) 学問のある人。墨知りの意。

simizi①(名) しめじ。きのこの一種。食用にする。

simu①(名) 冷雨。冬の冷たい雨。「霜」に対応する。霜は降らないので、霜を表わす語はない。

simu①(名) ⊖しも(下)。⊖台所。勝手。

simubataraci①(名) 下働き。台所働き。

simuci①(名) 心だて。気だて。根性。性質。'janasimuçi. 意地悪。

simuçi①(名) 11月。霜月。zuu'icigwaçi とはめったに言わない。

simugusi①(名) 子宮病。

simukata①(名) ⊖しもの方。都から遠い地方。また、島尻方面をいう。⊖しもじも。下層階級。

simuku①(名) 撞木(しゅもく)。

simuku①(名) 下句。しもの句。琉歌は、上の句八・八、下の句八・六、全体で三十字からなる。

simukudaru①(名) 霜降。二十四節の一つ。

simunai①(名) うらなり。suuranai ともいう。niinai(もとなり)の対。

simunuri①(名) 首里城の門の名。ʔugusiku の項参照。

šimuru①(名) すもり。孵化しないで菓に残った卵。

simusica①(名) 下志喜屋。《地》参照。

simuwataziN①(名) 下女の冬の晴れ着。

simuziibu①(名) 下儀保。《地》参照。

simuzimu①(名) しもじも。下層階級。

sina①(名) ⊖品(しな)。物品。また、物品の種類。⊖(接尾) 物品の種類を数える接尾辞。品。ʔikusinan ʔan. 幾品もある。⊖人品。品性。~nu ʔan. 品性がある。

šina①(名) 砂。海岸にある砂・さんご礁片。また、砂利。'juni ともいう。その項参照。

šinabi①(名) 砂辺。《地》参照。

šinaga①(名) 瀬長島。沖縄本島南部の西海岸に接した小島。

šinahwa①(名) 瀬名波。《地》参照。

šina=jun①(自 =raN, =ti) 合う。調和する。適合する。似合う。ʔucajun ともいう。kunu karazee çiratu šinatoomi. この髪は顔と合っているか。'juu šinatoru miitunda. よく似合った夫婦。šinatooru nii. ちょうどよい荷物。

šinamici①(名) 砂を敷いた道。砂利道。

šinamun①(名) 品物。

šinasaki①(名) なさけ。思いやり。また、男女の愛情。情愛。satuja narihuzinu šigata tuimišera, 'wamija ~nu 'indutujuru. [里やなりふちの 姿取りみせら わみやしなさけの 縁ど取ゆる] 君は姿形

の美しいのお取りになるでしょうが、わたしは情愛の深い縁を取ります。

sinaʔurusi① (名) おはつ。新しいものを初めて用いること。多くは身につけるものについていう。

sinaziri① (名) 品切れ。

sinu① (名) すね。

-sini čitēe① (句) [文・古] **-sin čitēe**と同じ。

sinidukuru① (名) 死ぬべき場所。たとえば、女はいったん結婚したら夫の家を **sinidukuru** と思えと、さとされる。

sinigau① (名) 死に顔。

šinigii① (名) すね毛。すねに生えた毛。

sinijaNzaa① (名) 死にそこなった者。

sinijaN=zuN① (自 =**daN**, =**ti**) 死にそこなう。

sinimee① (名) 死ぬ前。死にぎわ。

sininuku=juN① (自 =**raN**, =**ti**) 生き残る。

sinin① (名) 死人。事故・けんかななどで死んだ人をいう。普通の場合の死んだ人には **maasjooru qeu** という。~**nu ʔNzitoon**。死人が出た。

siniqeu① (名) 死人。死んだ人。ʔiciqeu (生きてる人) に対する。

siniwakari① (名) 死に別れ。死別。ʔiciwakari (生き別れ) の対。

sinjuku=juN① (他 =**raN**, =**ti**) **sinukujuN**と同じ。

sinubi① (名) ⊖[文] 忍び。微行。⊖ひそかな恋。密通。また、あいびき。ʔNzotu ʔwaga nakanu ~ ʔarawariti, ʔacaja ʔNzo siminu ʔajura tumiba. [無蔵と我が仲の 忍びあらわれて 明日や無蔵責めの あゆらと思は(手水之縁)] 女とわたしの間のひそかな恋があらわれて、あすは女が責められることがあるかと思うと。⊕探偵。密偵。**taNtii** ともいう。

sinu=buN① (自 =**baN**, =**di**) ⊖忍ぶ。堪える。こらえる。**cimunu sinubaraN**。同情

にたえない。かわいそうで見過ごせない。⊖ひそむ。かくれる。ひそかに行く。(男女が) かくれて通う。あいびきする。**nujama kwiru micija ʔikuri hwiʔamitin, ʔjamini mazirijai sinudi ʔicun**. [野山越る道や 幾里へぢやめても 闇にまぎれやり しのでいきゆん(手水之縁)] 野山を越える道は何里へだたっている、闇にまぎれて忍んで行く。

sinugu① (名) 農村で祭りの時、男女で行なう舞踏。村の若い男女が神前の広場で入り乱れて踊る。儒教思想輸入により尚敬王時代に禁止されたことがある。ʔanibitaja ʔjukati ~ sici ʔasudi, ʔwasitajuni nariba ʔutumi sariti. [姉べたやよかてしのぐしち遊で わした世になれば お止めされて] 姉たちは幸福だった、シヌグ遊びをして遊んで、われわれの世になったら禁止されてしまった。恩納なべ(女流歌人の名)のよんだ歌。

šinui① (名) 海藻の名。もずく。沿海に産し、細くて糸状をなし、分枝が多い。蒼黒色で柔らかく、採集して三杯酢などにして食べる。

sinukuimata ʔkui① (副) 工夫して準備するさま。苦心して作るさま。お祝いのごちそう、または金銭などを苦心して用意する場合にいう。~ **sjun**。

sinuku=juN① (他 =**raN**, =**ti**) 工夫して用意する。苦心して準備する。支度する。**sinjukujuN** ともいう。ʔagari tacikumuja ʔjugahu sinukujui, ʔašibi sinukujuru hatacimijarabi. [東立雲や よがほしによくゆり 遊びしによくゆる 二十美童] 東の方の雲は豊年を支度するし、遊びの支度をしているのははたちのおとめ。

si=nuN① (自・不規則) 死ぬ。主として事故死の場合や卑しめていう場合、または動物の死についていう。普通、人間の死については **maasjuN** という。

şi=nuN① (自 =maN, =di) 済む。終わる。
sikucinu şidaraa ūca numee. 仕事が
済んだのだったら、お茶を飲みなさい。～
それでいい。ことわる時にいう。şinuNdi
ūmutoomi. それで済むと思っているの
か。

şi=nuN① (自 =maN, =di) 澄む。mizinu
şidoon. 水が澄んでいる。

sinu=zun① (他 =gaN, =zi) しのぐ。困難・
危険の中をくぐりぬける。nuci ～. 困難
から助かる。ŷami ～. 雨をしのぐ。雨や
どりをする。sinuzi sinugaraN. しのご
うとしても、しのげない。困難から逃れら
れない。

sin① (名) ⊖心(しん)。ものの中心部。
～nu niiran. (米・いもなどの) 芯が煮
えない。⊕燈心。⊕木の芽などの芯。また、
それが出た先端。草木の幹の最先端。梢。
maaşinu ～. 松の梢。～ja tin kamiti
'judaja kuni hwirugi, hwizija zinu
sukunu hatin siran. [しんや天かめて
枝や国ひろげ ひげや地の底の はても知ら
ぬ] 梢は天をいただき、枝は国中に広がり、
根は地の底のはても知らない。⊕心(ここ
ろ)。精神。また、本心。心の底。～kara
'jami. 本心からなのか。～kara ŷuzi-
toon. すっかり恐れている。～kurusjun.
心の底を痛める。～nu sawai. 精神異常。

sin① (名) ⊖さる。雨戸の戸じまりをする
装置。雨戸のさんに仕掛けて、敷居や鴨居
に差し込むもの。～ ŷirijun. さるで戸じ
まりをする。～sasjun ともいう。⊕栓。
たるなどの栓。～sjun. 栓をする。

sin① (名) ⊖詮。甲斐。効能。ききめ。
ŷnmaritaru ～nu ŷaŷ. 生まれた甲斐が
ある。ŷicicooru ～. 生き甲斐。'joozoo
sjaru ～nu neen. 治療した甲斐がない。
kusui nudin ～nu neen. 薬を飲んでも
ききめがない。⊕効験。～cirijun. 死
後、霊のあるしるしがなくなる。冥土から

の音沙汰がなくなる。夢にも見えず、願
(ŷugwaN) をしても御利益がない時など
にいう。

sin① (名) 千。

şin① (名) ⊖寸。～nu taran. 寸法が足り
ない。背が低い。⊕(接尾) 寸。ŷiqşin
(一寸), nişin (二寸) など。

sinbaa① (名) 草木の若芽。若葉。

sinbai① (名) 心張り棒。戸口のしまりに用
いる、戸を押える棒。

sinbiçi① (名) 餞別。はなむけ。

sinbii① (名) 煎餅。

sinbjuu① (名) 神妙。おとなしくして落ち
着いていること。～ni sjoon. 神妙にして
いる。～na qcu. 神妙な人。

şinci① (名) 疝気の転意。フィラリヤ。kusa
と同じ。

şinci① (名) [文] [心気] こことち。心持ち。
mimutu kuraguratu naruga ～. [目も
とくらぐらと なるが心気(銘苺子)] 目も
とが暗くなるようなこことち。

-şin şiitee① (句) [文・古] ので。ŷicuna-
saşin şiitee 'wannee ŷikaran. いそが
しいのでわたしは行けない。

şineimuci① (名) フィラリヤ患者。kusa-
hurijaa と同じ。

şineiri=juN① (自 =raN, =ti) 澄みきる。
すっかり澄む。

şineiru① maŷkami① (句) 鶴は千年、亀は
万年。

şinda① (名) 責め苦しめること。虐待。殘
酷に取り扱うこと。

şindaka=sjun① (他 =saN, =ci) 滑らす。
滑らせる。kuci ～. 口を滑らす。

-şindee (接尾) -sidee ともいう。…次第。
また、…の順。cuusindee (来た順、また、
来次第), ŷuwaisindee (終わった者順、
また、終わり次第) など。

şindi=juN① (自 =raN, =ti) ただれる。や
けどなどで皮膚がくずれる。

siNdi=jun④ (自 =raN, =ti) 滑る。
 siNdoo④ (名) siNroo と同じ。
 siNduu④ (名) 船長。船頭に対応する。
 'janbaraa, toosiN などの船長。
 siNgaçi④ (名) 4月。年の第四の月。si-
 gwaçi ともしう。
 siNgaN④ (名) 錢千貫。20円にあたる。
 ziN (錢) の項参照。
 siNgi=jun④ (自 =raN, =ti) 濁る。くも
 る。目・ガラス・鏡などがくもるのをいう。
 水の濁るのは miNgiwijuN という。
 siNhwicagi④ (名) 神経衰弱。心配のあま
 り精神に異常をきたすこと。
 siNjaku④ (名) 煎じ薬。siNzigusui, sizii-
 gusui, sizirigusui と同じ。主として
 'ucinaa'isja (沖繩医者, すなわち漢方
 医) の用いたもの。
 siNka④ (名) 臣下。手下。農村では転じて
 家族の意にも用いる。
 siNkee④ (名) [新] 気違い。狂気。
 siNkoogu④ (名) 猫背。
 siNkuçi④ (名) 洗骨。死後数年内に次の死
 者があった場合に行なった。次の死者がな
 い場合には十年ぐらいして行なった。棺
 を墓から墓地の広場へ運び出し、爪の先ま
 で拾い取ってきれいに洗い、拭き上げてか
 ら、下部の骨から順順にかめに入れて、墓
 の中へ納める。
 siNkuma' nku④ (名) 千苦万苦の意。非常
 に苦心すること。
 siNma④ (名) 神がかり。一種の神経病で、
 それにかかると霊媒となって予言などを行
 なりようになる。神魔の意か。
 siNmaju'ta④ (名) 神がかり病になった
 'juta (占いをする女)。'junnujuta と同
 じ。
 siNmeenaabi④ (名) 鍋の一種。非常に大
 型のもの。
 siNmi④ (名) 器具の肝心な箇所。嗣のかな
 め・器具のはめる所・ねじる所・差し込み・

ねじ, など。~nu 'joosaN. イ. ねじなど
 がゆるんで用をなさない。ロ. (人間が)
 無能である。

siNna④ (連体) siNnu と同じ。
 siNni④ (名) 丸木舟。くり舟。sabani,
 kuihuni ともしう。~ kuihuninu 'icu-
 ru tuke 'jariba, kijuja 'iNzi 'ugadi
 'acaja cuşiga. [すんねくり舟の 行き
 ゆる渡海やれば 今日や行ぢ拜で 明日や
 来ゆすが] くり舟の行くような海ならば、
 きょう行ってお目にかかって明日は帰っ
 てくるのだが。
 siNnigwaa④ (名) siNni (丸木舟) の小さ
 いもの。
 siNniN④ (名) 仙人。
 siNniNtaNmee④ (名) ⊖仙人様。⊖仙人の
 ようなおじいさん。まゆが真白になった老
 翁(士族)をいう。
 siNnu④ (連体) 真の。正式の。格式通りの。
 ~ baa. 表向きの正式の場。型通りに正
 式に行なうべき場合。~ basju ともしう。
 ~ 'uşiin. 正式の賓客。格式通りに一定
 の順序に従って応待しなければならない。
 すなわち、初めに煙草盆を出し、次にお
 茶, お茶うけ, 料理, 酒の順序に出し, 次
 に食後の菓子を出し, 改めてお茶を出し,
 それから次次に膳部を下げ, 最後には煙草
 盆まで下げる。そこで初めて客は座を立
 つ。その間, 世間話などは一切しない。正
 式の用向きは料理の膳部が出る前に型通り
 の法によって伝え, 法によって承諾の挨拶
 を述べる。客も主人もすべて式順を追っ
 て, あやまりのないように期する。
 siNpui④ (名) ころげ回ること。すねた場
 合, また痛みにたえかねた場合など, もだえ
 てころげ回ること。のたうつこと。siipui,
 siihui ともしう。~ sjun.
 siNpuikaapui④ (名) すねて, ころげ回ら
 こと。~ sjun.
 siNroo④ (名) 心労。心の苦勞。気苦勞。

- siNdoo ともいう。siNroo は上流の老人などの上品な発音。
- siNsitatiⓐ (名) 新しい仕立て。仕立てたばかりのもの。
- siNsjakuⓐ (名) 反省。反省して後悔する場合や、反省して改める場合の反省をいう。斟酌の転意。siNsjakoo neeN. 反省の色がない。～ sjun.
- siNtakuⓐ (名) ①洗濯。水につけて洗うことだけでなく、洗い、乾かし、伸ばし、たたみ上げるまでの全部をいう。～ sjun. 洗濯して仕上げる。ʔaratee ʔaʃiga siNtakoo maada. 洗ってはあがるが、まだ仕上げてない。洗う仕事のみは ʔaveesikuci である。②布に水を通すこと。
- siNtiiⓐ (名) 心底。心の底。心。～ nu 'waQsaN. 心がよくない。
- siNtikwaNnuNⓐ (名) 千手観音。首里から那覇への出口、観音堂にあり、旅の平安を守る菩薩として、旅立ちの時に必ず参詣した。
- siNʒaŋⓐ (名) 新参の士族。廃藩以前に、平民から士族となった者。hudee (譜代の士族) に対する。miijukaŋcu ともいう。
- siNʒasiⓐ (名) さる。雨戸のとじまりの装置。siN ともいう。
- siNʒatuⓐ (名) 新里。《地》参照。
- siNziⓐ (名) 煎じた汁。スープ。tuisinzi (鶏のスープ), ʔirabuusinzi (えらぶらなぎの煎じ汁), kaŋuusinzi (かつお節を煎じた汁), taaʔijusinzi (ふなを煎じた汁), guujaasinzi (豚の尻の骨を煎じた汁) などがある。
- siNʒiŋiⓐ (名) [真実] ①真実。②真心。親切。誠意。tanumusija mutunu makutu 'waʃiriraN, ʔinuci huriʃititi namanu ~ ja ʔikutubani ʔNzaci ʔicija ʃikusaraN. [たのむしや元の 誠忘れらぬ 命ふり捨てて 今の真実や い言葉に出ち 云ちや尽さらぬ (忠臣身替)] たのもしい

- かな、昔の誠を忘れずに命をふり捨てての今の真心はことばに出して言いつくせない。～ ni sjun. 親切にする。③世話。看病。親切に面倒を見ること。tusjuinu siNʒiŋee sjuru mun. 年寄りには親切に面倒を見るべきもの。
- siNzigusuiⓐ (名) 煎じ薬。siziigusui と同じ。
- siNzi=junⓐ (他 =raN, =ti) 信じる。信心する。信仰する。確信する意では元来は用いない。
- siNzi=junⓐ (他 =raN, =ti) 煎じる。煮出す。sizijun ともいう。
- siNzikasiⓐ (名) 煎じかす。煮出したかす。
- siNzimunⓐ (名) 煎じもの。煎じたもの。
- siNziNtuⓐ (副) しとやかにしているさま。静粛に控えているさま。しみじみとの転意か。～ sjoon. 神妙にしている。静かに控えている。
- siNziziruⓐ (名) 煎じ汁。煮出した汁。
- siNzuⓐ (名) ①先祖。②墓。ʃikazu ともいう。
- siNzuuku'niciⓐ (名) 四十九日。死後49日目の法事。sizuukunici と同じ。
- siNzi=junⓐ (他 =raN, =ti) (鼻を)かむ。(鼻汁を)ぬぐいとる。hanadai ~. 鼻をかむ。hana ~. ともいう。
- siNziri=junⓐ (自 =raN, =ti) ①べしゃんこになる。押しつぶされてひらたくなる。sipiriti neeraN. すっかりべしゃんこになってしまった。②卑下する。小さくなる。
- siNzirimuniiⓐ (名) 卑下したしゃべりかた。～ sjun.
- siNzitaigaNzuunⓐ (名) 体が弱そうに見える強い者
- siNzitaikaa'taiⓐ (副) しょんぼりしたさま。しょげているさま。元気のないさま。また、見すばらしいさま。ʔaree kunumeekara ~ sjootaru mun, 'nea sipitati nee-

ran. 彼はこの間から意気沮喪していたが、やっぱりすっかりしょげかえってしまった。

sipitainaci① (名) めそめそ泣くこと。

sipitajaa① (名) 弱虫。弱者を罵倒している語。

sipita=juN① (自 =ran, =ti) しょんぼりする。元気がなくなる。また、落ちぶれる。

sipizaa① (名) ①ペしゃんこのもの。押しつぶれたもの。②実のはいていない米・豆など。

sipizaamaami① (名) ペしゃんこの豆。実のはいていない豆。

sipjaaku① (名) 銭400文。8厘にあたる。ziN (銭) の項参照。

sipjaakugun⁷zuu① (名) 銭450文。9厘にあたる。ziN (銭) の項参照。

sipuigoojaku① (名) 吸い出し膏薬。

sipu=juN① (他 =ran, =ti) 口にくわえて吸う。(あめ・乳などを)しゃぶる。

sipukaramuN① (名) 塩からいもの。

sipukarasan① (形) 塩からい。しょっぱい。sjuuzuusan ともいう。

sipusan① (形) ねばり強い。弾力性が強い。sakusan の対。

sipusipu① (副) じめじめ。着物などが、ぬれて湿っているさま。~ sjuon. じめじめしている。

siputaikaa⁷tai① (副) じめじめ。ぬれて湿っているさま。

siputa=juN① (自 =ran =ti) 湿る。じめじめする。ぬれる。siqtajun の項参照。塩分をもって湿っている場合に多くいうようである。

siputara⁷acisan① (形) 蒸し暑い。

sipuu① (名) 弾力の強いもの。粘り強いもの。折れない枝、かみ切れない肉、ねばり強い人間など。

sipuutu① (副) びっしょり。ぐっしょり。ひどくぬれたさま。

siqcii① (名) ①費え。むだな出費。散財。②むだ。~ najun. むだになる。

siqciigutu① (名) ①金のかかること。出費のかさむこと。②むだなこと。徒勞なこと。

siqkaku①① (名) ①四角。sikaku ともいう。②長さの単位。布の約一尺の長さをいう。物差しを用いない時代の計り方。

siqkakuN① (名) 四角いもの。方形のもの。

siqkan① (名) 折檻。子女のしつけとして、体罰を加えること。

siqku① (名) [文] 節供。季節季節にある祭りや祝いの日。正月の miqcanusiku (3日の祝い)、nankanusiku (7日の祝い)、3月3日の Yuzuu、5月4日の 'ju-qqanuhwii、5月5日の Yamagasi、9月9日の cikuYuzaki、11月の tunzii (冬至の祝い)などをいう。

siqkuihaQkui① (副) 激しく泣くさま。慟哭のさま。おいおい。~ sjuN.

siqkwa① (名) 動かないように下に敷くもの、またははめこむもの。くさび。建築用のみでなく、車どめとして車輪の下に入れる石、その他、ぐらぐら動かないように下やまわりにはめこむものをいう。

siqkweehaQkwee① (副) siqkuihaQkui と同じ。

siqpa① (名) 強情なこと。しぶといこと。また、強情者。しぶとい者。

siqpaka⁷agi① (名) しぶとい顔つき。

siqpakaagii① (名) しぶとい顔つきをした者。

siqpa⁷muN① (名) 強情者。しぶとい者。

siqpii① (副) ペしゃんこ。ペしゃんこ。押しつぶされてひらたくなつたさま。また、やつつけられたさま。圧倒されたさま。< sipirijun. ~ nasjun. ペしゃんこにする。~ kwaasjun. ペしゃんこにやつつける。~ najun. ペしゃんこになる。

siqpuku

- やっつけられて小さくなる。
- siqpuku⑩ (名) [文] 切腹。
- siqsii⑩ (名) [摂政] sa³nsikwaN [三司官] の上に立って、政治を行なう最高の役人。王族の中から任命される宰相。総理大臣に当たる。
- siqsiq⑩ (感) 鳥獣を追いはらう時の声。しっしっ。
- siqta⑩ (名) [新?] 雪駄。kaasaba (皮草履) ともいう。
- siqta⑩ (名) 数久田。《地》参照。
- siqtai⑩ (副) ぬれたさま。～ najuN. ぬれる。
- siqtaidii⑩ (名) ぬれ手。水にぬれた手。～ saani ʔawa ɕikanuNnee. ぬれ手で粟をつかむように。
- siqtaikaatai⑩ (副) すっかりぬれたさま。びしょぬれ。ずぶぬれ。～ najuN. びしょぬれになる。～ sjoon. びしょびしょだ。
- siqtaimimi⑩ (名) 中が湿っている耳。そういう耳は遠くならないといわれている。
- siqtaizin⑩ (名) ぬれた着物。
- siqta=jun⑩ (自 =raN, =ti) ぬれる。布で言えば, siqtajun はしほれば水の出るほどのぬれ方, siputajun はしほったあとの程度のぬれ方を, simijun は湿気を感じる程度をいう。
- siraʔakagai⑩ (名) 夜が白むこと。明けがたの薄明。siraʔaki ともいう。
- siraʔaki⑩ (名) 夜が白むこと。薄明。siraʔakagai ともいう。ʔjuunu ~ sjoon. 夜が白んでいる。
- siraakusja³a⑩ (名) 前後左右。周囲。回り。～ nu qeu. 周囲の人。～ ʔjamabike-ei. 回りは山野ばかり。
- sirabee⑩ (名) 白なます。顔に白色の斑点ができる皮膚病。
- sirabi⑩ (名) 調べ。調査。検査。
- sirabi=jun⑩ (他 =raN, =ti) 調べる。調査

- する。検査する。
- sirabimuN⑩ (名) 調べ物。
- siracani⑩ (名) [文] [白種子] 稻。元来は稻の品種の名。hubana saciziriba cirihwizin ɕikan, ~ja nabici ʔabusimakura. [穂花咲き出れば 塵ひらちもつかぬ 白種子やなびき あぶしまくら] 稻の穂花が咲き出ると塵も泥もつかない。稲はあぜを枕にする豊作。
- siraciku⑩ (名) 白菊。siruciku ともいう。
- siraga⑩ (名) ⊖しらが糸。すが糸。よりをかけない細い生糸。またそれで織った絹の布。⊖siragawatazinの略。
- siragaa⑩ (名) 白髪頭の者。悪口としていう語。
- siragaga³si⑩ (名) siragaの経糸。細い、よってない生糸の経糸。
- siragawata³ziN⑩ (名) 絹のしらが糸で織った、女の、冬の礼服。
- siragi⑩ (名) しらが。白髪。
- siragiɕi³buru⑩ (名) 白髪頭。
- siragigumi⑩ (名) 白米。精米。
- siragi=jun⑩ (他 =raN, =ti) しらげる。玄米について白くする。精米する。
- sirahama⑩ (名) 白浜。白い砂浜。
- sirahu⑩ (名) [文] 白帆。ʔucinu ~. 沖の白帆。
- sirahwee⑩ (名) 石灰。いしばい。黒糖を固める時などにも用いる。
- sirai⑩ (名) 白蟻。
- sirakaci⑩ (名) 瀬良垣。《地》参照。
- sirakumu⑩ (名) 白雲。
- siranaa⑩ (名) 糸車にかけた白いより糸。
- siranami⑩ (名) 白波。
- sira=nuN⑩ (自 =maN, =di) (夜明けの空が) 白む。ʔagarinu ~. 東の空が白む。
- siraN⑩ (名) しらみ。
- siraNgaci⑩ (名) 失敗して頭を掻くこと。siraN は、しらみ。

siraNhuunaa① (名) 知らぬふり。
 siraNqcu① (名) ①知らない人。②(小児の)人見知り。～sjun. 人見知りする。
 siraqkwa① (名) 生後しばらくして、赤い色がぬけて白くなったところの赤んぼろ。生後半年ぐらいの赤んぼろをいう。
 sirasabe=juN① (自 =ran, =ti) 白っぽくなる。白ちゃける。湯水にながくはいつて、皮膚が白くふやけるのを多くいう。
 sirasee① (名) 川えび。小さいえびで、食用となる。ʒeegwaa ともいう。
 sirasi① (名) ①知らせ。報告。②前兆。
 sirasibi① (名) [文] 知らせる人。告げ知らせる人。似た語に, kataibi (語り部)がある。ともに文語。'unazarani 'waga takumi ~nu ʔatara, ʔazitu murutumuni tamanuju ciraci。[をなぢやらに我がたくみ しらしべのあたり 按司と諸共に 玉の緒よちらち (忠臣身替)] 按司夫人にわがたくらみを知らせる者があったのか、按司とともに死んでしまった。
 sirasibui① (名) 白絞め油。大豆油。上等な食用油である。
 sira=sjun① (他 =san, =ci) 知らせる。通知する。
 sirawaree① (名) 冷笑。しら笑い。
 širicaa=sju¹N① (他 =san, =ci) すり消す。もみ消す。
 širičiki=ju¹N① (他 =ran, =ti) すりつける。こすりつける。
 siricee① (名) ①知り合い。知人。②承知の上。知っていて。～nu ʔwii ともいう。～karasjun. 知っていて貸す。
 širihaci① (名) širuhaci と同じ。
 širihazun① (他 =gan, =zi) すりむく。
 sirihuka=sjun① (他 =san, =ci) 熟知する。十分知る。知りつくす。ʔucuu sirihukacoošiga ʒeesa. 内情をよく知っている者がしたのだよ。
 sirihwicimechwici① (副) つきまとうさ

ま。身辺をうろろろするさま。～Qsi ʔu-muinudu ʔaee sani. 身辺をうろろろして、気があるのかしら。

sirii① (名) 後ろ。後方。裏。'jaanu ~. 家の後ろ。

širi=juN① (自 =ran, =ti) おそくなる。時節が過ぎる。時間が過ぎる。

širikizi① (名) すり傷。かすり傷。

širikoo① (副) すり消すさま。あとかたもなくするさま。立ち消えのさま。次の句でいう。～najun. イ. あとかたもなくする。ロ. 立ち消えになる。御破算になる。～nasjun. もみ消す。立ち消えにする。御破算にする。sijanzigutoo muru ~naceen. 失敗はすべもみ消してしまつてある。

sirikuci① (名) sirukuci と同じ。

širinaši=juN① (他 =ran, =ti) なすりつける。

širinugaa=ju¹N (自 =ran, =ti) すりぬける。まぎらわしてのがれる。人になすりつけてのがれる。

siru① (名) ①汁。液体。～tubasjun. 水を切る。水気を切る。～hajun. 汁が出る。また、腐って汁が出る。～hwijun. 汁が干る。(飯が炊けてきて)水分がなくなる。～najun. イ. 溶ける。溶けて液体となる。ロ. 無くなる。無になる。無駄になる。miin ~naci 'warajun. 目がなくなるように目を細めて笑う。'jaajasicin ~natan. 家屋敷もなくなった。siroo naran. 無駄にはならない。②汁。おつゆ。おすましやみそ汁。首里では多くは ʔusiru という。

siru① (名) 白。

siru① (名) 代(しろ)。かわりとなるもの。代価。または金のかわりとして取る器物など。dusiru は身の代。

siru① (名) [文] 城。口語は gušiku。

siruʔaci① (名) めじまぐろ。ʔacinuʔiju

siruʔatu

(まぐろ)の項参照。

siruʔatu①(名)[文]城跡。口語は guʃi-kunu ʔatu という。

sirubi①(名)*印。標識。

sirubonbon①(名)吸い物などに実が少なく、汁ばかりが多いこと。汁気ばかり。~nu ʔusiru. 汁ばかり多いおつゆ。

sirubusi①(名)白星。勤務の良好な場合などに付ける印。kurubusi(黒星)の項参照。

siruciku①(名)siracikuと同じ。

sirucoo①(名)[白朝]coozin[朝衣]の一種。真白い麻の礼服。kurucoo[黒朝]の対。いずれも芭蕉布で作り、もとは朝廷用の衣の意であったが、明治以降、sirucooはもっぱら喪服として用いられるようになった。

sirugweei①(名)色白く太ること。脂肪ぶとり。kurujoogariの対。

ʃiruhaci①(名)すりばち。ʃirihaciともいう。那覇では reehwaa という。~nakai kugasi ʃijun. すりばちで米の粉をする。

siruhaimun①(名)汁の出るもの。また、腐って汁の出るもの。

siruhwiitazii①(名)㊦飯が飲けてきて水が引くこと。㊦転じて欲などが激しいこと。ʔjukunu ~ sjoon. 欲が煮えたぎっている。激しい欲に燃えている。

siruʔihwee①(名)[白位牌]死後四十九日までは、木牌を奉書紙で包み、表に法名を書いておくが、その位牌をいう。四十九日の法事ののちは、普通の位牌に、貴族は金文字で、一般の士族は黄または朱で法名を書きかえる。

siruʔiju①(名)魚名。鯛の一種。滋養分に富み、病人用によく用いる。

sirukabi①(名)白紙。白い紙。

sirukani①(名)㊦錫。ʃiziともいう。

㊦鉛。namariの誤用として用いる。

sirukaniʔuzoo①(名)首里城の門の名。

ʔuguʃikuの項参照。

sirukuci①(名)両方。前後または左右などの両方。~nu ʔuzoo. 両方の門。一軒に門が二つある時にいう。

sirukucimaʔakuci①(名)前後左右。四方。どこもかも。~ ticiu ʔjaru. どこもかも敵だ。

ʃirukuzi①(名)すりこぎ。那覇その他では riizi という。

sirumaami①(名)白豆。白隠元のことか。

sirumi①(名)㊦(卵の)白身。sirumiiともいう。㊦(豚の)脂身。

sirumii①(名)sirumiと同じ。

sirumii①(名)白目。~ hwiqceerasjun. まぶたをひっくりかえして白目を出す。

sirunuguri①(名)汁のかす。guriはかす・沈澱物。

sirununu①(名)白い布。

siruNna①(名)はまぐり。

siruQcuu①(名)白子。白人(しらびと)。

sirusan①(形)白い。

sirusi①(名)㊦しるし。標識となるもの。~bikeei. しるしばかり。ほんのわずか。㊦きざし。前兆。また、神の知らせ。ʔjutakanaru mijunu ~ ʔarawariti, ʔamiçijunu migumi tucin tagan. [豊なる御代の しるしあらはれて 雨露の恵時もたがぬ] 豊年の前兆があらわれて、雨露の恵みも時をたがえず順調である。㊦感応。祈った心が神仏に通ずること。㊦効験。ききめ。kusui nudaru ~nu ʔan. 薬を飲んだききめがある。㊦あとかた。

sirusita①(名)白下。白砂糖を製造する途中の製品。

sirutumiiuu①(名)薄いかゆ。かゆの汁と実とがわかれわかれになっているもの。

siruʔuci①(名)[文]城内。kuhwina ~nitumu cuin ʔuran. [こへな城内に 供一人もおらぬ(忠臣身替)] こんほどの城内にひとりの家来もいない。

siruʔugumaⓐ (名) 白胡麻。
siruuⓐ (名) ⊖白いもの。⊕与党。賛成派。
 kuruu (野党。反対派) に対する。とくに
 明治の中ごろの明治政府支持派をいう。
 saNsii ともいう。その項参照。
siruwanⓐ (名) 汁椀。吸い物椀。汁を入れ
 る椀。多くは ʔusiruwan という。
siruwataⓐ (名) 魚などの白い腹。~ ʔu-
 qceejun. 白い腹が裏返える。魚が白い腹
 を上にして死ぬ。
siruzatooⓐ (名) 白砂糖。新語ではない。
 tehwaku ともいう。
siruziⓐ (名) 白地。白地の織物。白地は夏
 に多く用いるが、葬式には夏冬を問わず
 白、お祝いには同じく紺が用いられる。
siruzikiiⓐ (名) 飯に汁をかけたもの。多く
 は ʔusiruzikii という。
sisiⓐ (名) 肉。多くは食肉をいう。niku
 の項参照。
sisiburiiⓐ (名) 身震い。寒さ・恐怖・嫌悪
 などによる身震い。
ʃiʃiciⓐ (名) [文] すすき。口語では、すす
 きは gusici, その花(尾花)は baran と
 いう。nasaki ʔati kakusi nubinu hana-
 ʃiʃici taiga tamanuunu ʔusisa ʔara-
 ba. [なさけあて隠せ 野辺の花すすき
 二人が玉の緒の 惜しさあらば(汀間節)]
 情をもって隠してくれ野辺の花すすきよ、
 ふたりの命を惜しく思うならば。(汀間と
 安部の境の海辺で神谷という役人が丸目カ
 ナという恋人と会った時よんだ歌)
ʃiʃidamaⓐ (名) ⊖ʃiʃidamagii と同じ。
 ⊕ʃiʃidamagii の実。じゅずだま。子供が
 糸に通し、または、竹の管で吹き上げて遊
 ぶ。また、夏まけの薬として煎じて飲む。
ʃiʃidamagiiⓐ (名) 植物名。じゅずだま。
sisiʔiriciⓐ (名) 料理名。豚肉に野菜を入
 れ、すきやきのように料理したもの。牛肉
 の場合には ʔusinu ~ という。

sisiikutubaⓐ (名) 丁寧なことば。敬語。
sisi=junⓐ (他 =ran, =ti) 念入りにする。
 丁寧にする。(ことば使い・道具の扱い・
 髪の手入れなどを) 丁寧にする。sisi
 ʔjuutoN. 丁寧に髪を結っている。sisi
 kacuN. 丁寧に書く。sisiree. 丁寧にし
 る。sisi ʃee. ともいう。
ʃiʃi=junⓐ (他 =ran, =ti) すする。
ʃiʃikaa=sjuʔNⓐ (他 =san, =ci) ⊖(子供を)
 あやす。ʔwarabi ~. 子供をあやす。⊕
 (人の気を) 他にそらす。
sisika=junⓐ (他 =an, =ti) ⊖邪魔する。干
 渉する。sisikati turasa. 邪魔してやろ
 う。sisikaaʃti tuuraran. 邪魔されて通
 れない。⊕(事件が)かち合う。
sisikeehanakeeⓐ (副) ⊖はたから何かと
 邪魔するさま。次々と干渉するさま。~
 sarijun. 次次に邪魔される。⊕事がかち
 合うさま。
sisikee=junⓐ (他 =ran, =ti) sisikajun
 と同じ。
sisikweebooziⓐ (名) なまぐさ坊主。
ʃiʃimi=junⓐ (他 =ran, =ti) ⊖励ます。奮
 起させる。⊕勧める。奨励する。qceuni
 ʃiʃimiraʃti ʔunu kusui nudaN. 人に
 すすめられてその薬を飲んだ。
sisimucinaiⓐ (名) 肉付き。~nu ʔjuta-
 sjan. 肉付きがよい。
ʃiʃi=nuNⓐ (自 =man, =ʃi) ⊖励む。進んで
 する。歩いて前進することは meen kai
 ʔaqcuN などという。⊕促進される。進
 む。sjukunu ~. 食欲が進む。
sisitiNpuraⓐ (名) 料理名。肉(主として豚
 肉) のてんぷら。
ʃiʃi=zuNⓐ (他 =gan, =zi) [文]すすぐ。ゆ
 すぐ。口語では ʔjuʃizuN という。kuci ~.
 口をすすぐ。
sisiʔuzuʃiiⓐ (名) 肉を入れて味をつけて炊
 いた飯。肉入り御飯。
sisjooⓐ (名) 師匠。先生。もっばら学問上

の先生をいう。

sisukuⓐ (名) 瀬底島。沖繩本島本部半島西方にある小島。またその部落名。瀬底。《地》参照。

sisuNⓐ (名) [文] 子孫。普通は Qkwa?N-maga という。

sitagaciⓐ (名) sicagaci と同じ。

sitaga=juNⓐ (自 =aN, =rAN, =ti) 従う。服従する。

sitahwakuⓐ (名) 志多伯。《地》参照。

sitaiⓐ (感) でかした。よくやった。したり。うまくやった者に対し、あるいは自分の気に入ったことについて発する語。sitari ともいう。その項参照。目上に対しては sitai sai という。

sitakuⓐ (名) ①支度。用意。②身支度。着物を着て装うこと。③綱引きの時、綱の上に乗る、扮装した人物。たいていは組踊りの人物に扮装する。

sitanasanⓐ (形) きたない。不潔である。citanasan また hagoosan ともいう。sitansasii muN. きたないもの。

sitaneeku¹tuⓐ (名) 困ったこと。もてあますようなこと。

sitaneemu¹Nⓐ (名) 困ったもの。もてあましたもの。扱いにくいもの。

sitarakuⓐ (名) ざま。悪いよりす。みじめな装い。ていたらく。'janasitaraku. みじめなよりす。kunu sitarakoo nuuga. このざまは何だ。

sitariⓐ (感) ①ざま見ろ。ほらやった。失敗した者などに対して、ののしる意を含んで発する語。②したり。でかした。よくやった。sitai と同じように使う。

sitari=juNⓐ (自 =rAN, =ti) すたれる。

sitarimuNⓐ (名) すたれもの。廃物。

sitatakaⓐ (名・副・連体) したたか。ひどく。はなはだ。非常に。~na 'janaa. ひどく悪い者。~ni 'wiitooN. したたか酔っている。~ suguraqtAN. ひどくな

ぐられた。~ 'nditaN. ひどくぬれた。~ 'janakaagii. はなはだ容貌の醜い人。

sitati=juNⓐ (他 =rAN, =ti) ①特別に作る。仕立てる。仕立て上げる。家・着物・位牌など金のかかるものを作る。'jaa ~. 家を作る。②飼育する。nui?Nma ~. 乗馬を飼う。③栽培する。hanagi ~. 花を栽培する。

sitazitaⓐ (名) しもじも。下層階級。

sitiⓐ (名) やりて。働き者。

sitigaraⓐ (名) 捨てたもの。捨てたかす。~ sjuN. 粗末にして捨てる。'aqtarumuN ~ qsi. そんな大事なものを捨ててしまつて。

sitihooriiⓐ (名) 捨て散らかすこと。捨ててかえりみないこと。ほつたらかすこと。~ saqtoon. ほつたらかされている。

siti=juNⓐ (他 =rAN, =ti) 捨てる。

sitimakuⓐⓐ (名) 腕白者。乱暴者。不良。多くは子供についていう。maku の項参照。

sitimuNⓐⓐ (名) ①捨ててあるもの。②投げ物。捨て値の品。③乱暴者。しよりのない腕白者。

siti?uiⓐ (名) 捨て売り。投げ売り。

situⓐ (名) 夫の親。しゅうと、しゅうとめの両方をいうが、多くの場合は姑をさす。特に区別しては舅は 'wikigasitu, 姑は 'winagusitu という。また小姑すなわち夫の姉妹は 'unaisitu という。

situbireeⓐ (名) 姑とのつきあい。姑への接しかた。

siwaⓐ (名) 心配。世話の転意。~ sjuN. 心配する。

siwaasiⓐ (名) 師走。(旧暦の) 十二月。

siwaasi?acineeⓐ (名) 師走の商売。

siwaasi?icunasaⓐ (名) 師走の忙しさ。

siwaasikooimuNⓐ (名) 師走の買物。正月用の買物。

siwaasimaciⓐ (名) 師走の市。師走に立つ

市。～nu gutoon. 師走の市のようだ。
 混雑するさまをいう。
siwaasizikkeⓄ (名) 師走の費用。師走に使う金。
siwagutuⓄ (名) 心配事。
siwasjaaⓄ (名) 心配性の者。苦勞性の者。心配の絶えない者。
siwazaⓄ (名) しわざ。所業。行為。
şizaⓄ (名) [文] 人。人間。天界の神に対して下界の人を、また冥土の人に対して現世の人をいう。kasiraginun ʔaşıga ~nu kami naran. [頭毛のあすが しぢやの髪ならぬ(銘苺子)] 髪の手があるが、常人の髪ではない。
şizakiⓄ (名) [古] 侍女。貴族の娘の侍女で、その娘が嫁に行く時は、婚家へ一緒について行く。普通は ʔusizaki という。
şizamaⓄ (名) さま。したありさま。さま。よす。態度。多くは悪い、あるいはみじめな場合にいう。～nu 'waqsan. する態度が悪い。makutu gusjo ʔaraba ʔicati katati kwiri, ʔasaju naciʔakasu ʔujanu ~. [まこと後生あらば 行逢て語て呉れ 朝夕なきあかす 親のしごま] 本当にあの世があるならば、会って話してくれ、朝夕泣き明かしている親のありさまを。
şizeeraka=şjunⓄ (他 =san, =ci) 散らかす。とり散らす。
şizeeri=şjunⓄ (自 =ran, =ti) 散らかる。散り乱れる。
şiziⓄ (名) ⊖筋。血筋。血統。～nu ʔieuku. 父親同志が兄弟であるところ。⊖筋。条理。～nu tuuran. 筋が通らない。⊕筋。繊維。線。～hwicun. すじを引く。線を引く。⊕(接尾) 繊維など、非常に細いものを数える時の接尾辞。筋。cuşizi (一筋), taşizi (二筋) など。
şiziⓄ (名) 神。また神の靈力。神靈。人についた靈力は sii という。

şiziⓄ (名) 杉。
şiziⓄ (名) 錫。sirukani ともいう。
şizibinⓄ (名) 酒を入れ、儀式などで用いるための、錫のびん。一対で用いるので、ʔiqqiibin ともいう。
şiziciⓄ (名) 油皿。燈油を入れ、燈心を用いて火を点ずるための小皿。
şizi=cunⓄ (自 =kan, =ci) 後へすさる。退く。のく。
şizidakasanⓄ (形) 神々しい。神の靈力が高い。聖地などについていう。人については siidakasan という。
şiziʔitaⓄ (名) 杉板。
şiziigusuiⓄ (名) 煎じ薬。sizirigusui, sinzigusui, sinjaku ともいう。
şizihwira=şjuˆnⓄ (他 =san, =ci) 煎じつめる。煎じて汁をなくする。煎じ減らす意。
şizi=şjunⓄ (名 =ran, =ti) 煎じる。sinzi-şjun ともいう。
şizi=şjunⓄ (自 =ran, =ti) ⊖過ぎる。度が過ぎる。şizitoosa. 度が過ぎていよう。時が過ぎることは口語では şirijun という。⊖(接尾) …し過ぎる。ʔiışizijun (言い過ぎる), kamişizijun (食べ過ぎる) など。
şizikaⓄ (名) 静か。～na tukuru. 静かな所。～narisumiri çinini miga kukuru, nami tatan mişidu kazija ʔuçiru. [静なりそめれ 常に身が心 波立たぬ水ど 影やうつる] いつも自分の心を静かに澄ませよ、波立たぬ水にこそ影は映るのだから。～'jan. 静かだ。
şizimutiⓄ (名) 同族。同じ血筋を引く家。
şizi=şnunⓄ (自 =man, =di) 沈む。水中に沈む。また、気分が沈む。めいる。cibunnu şizidi. 気分がめいって。
şiziNⓄ (副) 自然。おのずから。また、当然。şizinni ともいう。～ʔan najun. 自然にそうなる。
şiziNniⓄ (副) 自然に。おのずから。当然。

sizirakasjun

siziraka=sjun④ (他 =san, =ci) (人・物を)どける。退ける。のける。

siziraka=jun④ (他 =san, =ci) (皮膚を、または人を)やけどさせる。

şiziraraN④ (自)たえられない。我慢できない。<şizijun (過ぎる)。ʔizinu ~。腹が立って我慢できない。ʔjaa ʔjaa ʔamari mizi husjanu ~ ʔamunu, ʔNzoju ʔunasakini numaci tabori。[やあやあ 余り水欲しやの すぎらぬあもの 無葦よ御情に 呑まち賜れ(手水之縁)]もしもし、余り水が欲しくて我慢できないので、どうぞ飲ませて下さい。ʔjaa ciciʔujaju ʔugamibusja ʔuracirasja ʔamari ~, hwahwaʔujatu hutai ʔinuci ʔumihamati siran ʔjamagunini tazunijai ʔuriti cuu ʔugamu kutuja ʔjumiga ʔjajabiira。[やあ父親よ 拝みほしやうらきらしや あまり過ぎらぬ 母親と二人 命思はまて 知らぬ山国に 尋ねやりおいて 今日拝むことや 夢がややべいら(花売之縁)]ねえおとうさん、お目にかかりたいのと、悲しいのとにたえられず、母と二人で命をかけて知らぬ山国に尋ねて都から下って来て、きょうお目にかかれたのは夢でございましょうか。

şiziri④ (名) 硯。

şiziribaku④ (名) 硯箱。

şiziributa④ (名) 硯蓋。口取りの肴などを入れる、漆器の四角い器。また、その中に入れた料理。

sizirigusui④ (名) siziigusui と同じ。

siziri=jun④ (自 =ran, =ti) やけどする。やけどして、皮膚がただれる。

sizisaN④ (形) [文] しげし。頻繁である。ʔjusunu minu sizisa, ʔisuzi mudura。[与所の目の繁さ 急ぎ戻ら(手水之縁)]人の目が多いから、急いで帰ろう。

sizuci④ (名) しとき。米の粉で作った長卵形の餅。祭祀用。

şizuku④ (名) [新] 土族。普通は samuree または ʔjukaŋeu という。

şizumi=jun④ (他 =ran, =ti) 片付ける。整頓する。sizumirarijun doo。片付けられるぞ。やっつけてしまうぞ。けんかの相手にいうことは。

şizumiʔkaci④ (名) 整頓。整理。散らかった道具類などを片付けること。

şizuu④ (名) 四十。また、四十歳。

şizuukuʔnici④ (名) 四十九日。死後49日目にちなり法事。nanananka ともいう。

şizuumuduruci④ (名) 四十くらがり。四十歳になると、体力・眼力が衰えることをいう。

şjaakaganasi④ (名) [釈迦加那志] お釈迦様。

şjaakamundoo④ (名) 灌仏会(かんぶつえ)。4月8日の花祭り。

-şjaaku (接尾) şjaku (勺) の項参照。

şjadanmeci④ (名) 社壇参り。社壇は首里の郊外、末吉村の入り口にある社の名。

şjadannuʔutuuʔnmii④ (名) 鼻の低い女に対する悪口。おたふく。おかめ。社壇の宮の柱に丸顔で鼻の低いおたふくの女の顔だけの像があり、その女(ʔutuu はその名)よりさらに鼻が低いものの意である。

şjaku④ (名) 量。また、ほど。程度。…ほどの量。また、適度な量。適度な程度。canu ʔataae ʔiisjakuga。どのくらいがいい量か。ʔuqsa qsi ʔiisjaku。そのくらいがいい量だ。mizinu şjakoo caaga。水加減はどうだ。~N neen numikata qsi, ʔwiihuritoosa。限度のない飲み方をして酔いしれている。nuu ʔjatin ~nu ʔan。何でも程度がある。

şjaku④ (名) ⊖勺。一合の十分の一。⊖(接尾) -şjaaku ともなる。ʔiqsşjaku (一勺), nisşjaaku または nisşjaku (二勺), sanşjaku (三勺), sisşjaaku または sisşjaku (四勺), gusşjaaku または gusşjaku (五

勺), rukusjaku (六勺) など。
sjakuⓐ (名) 〇尺。一寸の十倍。〇(接尾)尺。ʔiqsjaku (一尺), nisjaku (二尺), gusjaku (五尺) など。-sjaaku とはならない。
sjakuⓑ (名) 酌。～ see. 酌をしろ。
sjakuⓒ (名) 癩癩。癩。～nu ʔugurijun. 癩癩がおきる。
sjakumuciⓓ (名) 癩癩もち。
sjanNiNⓔ (名) saNniN (月桃) と同じ。
sjanPiNⓕ (名) [香片] 支那茶の名。
sjasiNⓖ (名) 写真。
sjooⓗ (名) 性。性根。根性。思慮。知恵。～ ʔiqcooN. 賢い。しっかりしている。～nu neeN. 思慮がない。また小兒などが賢くない。物覚えが悪い。
sjoobaⓓ (名) 〇相伴。陪食。〇婚礼の mukuʔiri (婿が嫁の家を訪問する儀礼) に際して、嫁の家で婿を接待する役。婿は付添い役 (mukuziri) とふたりで来るので、嫁の家では sjooba がふたり出る。その若い方が婿の、相当の年輩の者が mukuziri の相手役となる。
sjoobeeⓔ (名) 粗製品。商売の転意。ʔjamatu ～ too ʔaʕiree. 日本品は粗末で、中国品はあつらえもののように上等。
sjoobuⓕ (名) 菖蒲。ʔamagasi (5月5日端午の節供に祖神にささげる飲物) には菖蒲の葉を切って箸のかわりにする。
sjoobunⓖ (名) 性分。性質。
sjooburimuNⓗ (名) 気狂い。狂人。
sjoociⓓ (名) 正気。たしかな心。～ ʔusinajun. 正気を失う。精神が錯乱する。
sjoodukuruⓔ (名) 急所。nucidukuru, gibudukuru ともいう。
sjoogaaⓕ (名) 植物名。しょうが。
sjoogaasiriiⓖ (名) しょうがをすりおろしたもの。
sjoogakuⓗ (名) 小学(書名)。三字経とともに、昔の初等教科書。

sjooguⓐ (名) 鉦。綱引きの時、また念仏宗の乞食が、たたく小さい鉦。鉦鼓の転意。
sjooguniⓑ (名) 綱引きの時、鉦太鼓をならす一団。15, 6歳から20歳ぐらいまでの青少年で組織され、白鉢巻をして、はかまのももだちを高くとり、掛け声とともに鉦・太鼓をたたく。
sjoogurusiⓓ (名) ほんとに殺すこと。kurusjun (殺す) はなぐる意にも用いられるので、この語がある。～ sjun.
sjooguʔuciⓔ (名) 鉦鼓打ち。綱引きの時、鉦鼓を打つ者。sjooguniNzu (その項参照) の中心人物として、他の太鼓打ちの拍子の中心となる。
sjoogwaçiⓕ (名) 正月。一月。
sjoogwaçimaciⓖ (名) 正月市。正月に立つ市。
sjoogwaçiNaaraⓗ (副) 正月早早。よくないことにいう。～ ʔoojun. 正月早早けんかする。
sjoogwaçiʔwaaⓓ (名) 正月用に屠る豚。
sjoogwaçiwarecⓔ (名) 正月笑い。正月の浮き浮きした気分。
sjoogwaçiziNⓕ (名) 正月の晴れ着。
sjoohuNnuⓖ (名・連体) 本当の。事実の。～ kutu. 本当のこと。～ ʔjami. 本当か。
sjooʔiraaⓗ (名) 利口者。性根のしっかりした者。賢い者。sjooʔirimun ともいう。
sjooʔirimunⓓ (名) sjooʔiraa と同じ。
sjoojunⓔ (名) 醬油。
sjoojuuduqkuiⓕ (名) 醬油を入れるとっくり。
sjoojuujaaⓖ (名) 醬油屋。醬油をつくる家。
sjookaniⓗ (名) 性根。本性。～nu handijun. もうろくする。また、性根をなくする。ぼける。kanihandijun ともいう。
sjookaNⓓ (名) 病名。傷寒の意。熱病のたぐいをいう。

sjookutuⓐ (名) 本当の事。
sjoomaaⓐ (名) 斜視の者。やぶにらみの者。
sjoomiⓐ (名) ⊖横目。流し目。～ sjUN.
 ⊖斜視。やぶにらみ。
sjoomuNⓐ (名) ⊖本物。⊖大事な物。重宝な物。
sjoonaaⓐ (名) 本名。実名。
sjooninⓐ (名) 十二支の上での生まれた年。生まれてから12年ごとにめぐってくる年。ʔNmaridusi ともいう。貴族のそれは敬って gusjoonin という。その項参照。
sjoonooⓐ (名) 樟脳。
sjoonugaaⓐ (名) あわて者。落ち着きのない者。性の抜けた者の意。
sjoonugi=juNⓐ (自 =raN, =ti) ろろたえさわぐ。あわてふためく。肝をつぶす。
sjoonGwaⓐ (名) 実子。実の子。生みの子。
sjoonⓐ **tataN**ⓐ (句) 効果がない。かいがない。しょうがない。nuu simitin ~. 何をさせてもやらせがいがいい。
sjooraasjanⓐ (形) 賢い。しっかりしている。聡明である。
sjoorooʔN¹maⓐ (名) かまきりの一種。細長く褐色。盆祭りに祖先の霊が乗って来ると言い伝えられている。敬って ʔusjooroo-ʔunma ともいう。
sjoosiçiⓐ (名) 性質。生まれつきの性質をいう。ʔNmaričiçi, ʔNmarisjoosiçi, siisçi ともいう。
sjoosiçigwaçiⓐ (名) 正月と七月。ともに一年中でもっとも行事の多い大事な月。
sjoosjootuⓐ (名) [新] 事実。本当。実際。～ ʔjami. 本当か。～nu kutu. 本当のこと。
sjootamasiⓐ (名) [性魂] 精魂。精神。
sjooʔujaⓐ (名) 実の親。本当の親。
sjooʔumiiniciⓐ (名) 月を同じくする、年一回の御命日。
sjooziciⓐ (名) 正直。～na mun. 正直な

者。～ni sjUN. 正直にする。
sjoози=juNⓐ (自 =raN, =ti) ⊖生じる。発生する。起こる。namanu ʔjununakaa caaru kutunu sjoozijura ʔwakaran. 今の世の中はどんな事が起きるかかわからない。⊖将来伸びる。将来性がある。kuree sjoozijuru ʔwarabi doo. これは将来性のある子供だよ。
sjoozimajaaⓐ (名) sjoozimujaa と同じ。
sjoozimujaaⓐ (名) いもり。池沼にすむ両棲動物。sjoozimajaa ともいう。
sjoozinaaⓐ (名) sjoozin (一厘銭) と同じ。
sjoozinⓐ (名) 精進料理。
sjoozinⓐ (名) 昔の鉄銭 (kurukanii) に対して、普通の一厘銭をいう。正銭の意。sjoozinaa ともいう。
sjoozooⓐ (名) 猩猩。酒好きとされている想像上の動物。
sjoozukuⓐ (名) 装束。一式の着物を着ること。～ simijun. 装束をさせる。sugarasjun ともいう。
 -sju (接尾) 升。一合の十倍。ʔiqsju (一升), nisju (二升), sanzu (三升) など。
sjubiⓐ (名) ⊖首尾。結末。顛末。caaru ~ nataga. どんなてんまつになったか。⊖首尾。完成。でき上がること。～ natan. すっかりでき上がった。
sjubiʔuiweeⓐ (名) [首尾御祝] 落成祝い。完工祝い。sjubijuuwee ともいう。
sjudeeⓐ (名) [酒代] お祝いや法要に招かれた場合、差し出す金一封。普通は ʔusjudee という。包み紙の表に「御酒代」と書く。お祝いの場合には sjugami をのしのように張りつけ、法要の場合 (香典にあたる) にはつけないでそのまま出す。
sjugamiⓐ (名) [朱紙] お祝いの時、聯 (reN) を書いたり、祝意の進物に張りつけたりする赤い紙。紙質は唐紙で、表を赤く染めてある。

- sjugu**Ⓞ (名) [守護] 大切にしまっておくこと。大事に保存すること。秘蔵。kakuguともいう。～ sjun.
- sjui**Ⓞ (名) 首里。sjuigatanu samuree. 首里の士族。
- sjuibaru**Ⓞ (名) 首里周辺の畑。よく手入れがゆきとどいた畑として知られていた。
- sjuiganasime'dei**Ⓞ (名) [文] [首里加那志美公事] 首里王府への御奉公。sjunzasime'deiともいう。
- sjuihuuzi**Ⓞ (名) 首里の風俗。
- sjuikutuba**Ⓞ (名) 首里方言。
- sjuimi'hwira**Ⓞ (名) [首里三平等] 首里の昔の行政区画。三つに分かれそれぞれをmaazinuhwira (真和志之平等), hweenuhwira (南風之平等), nisinuhwira (西之平等) という。
- sjuimituNci**Ⓞ (名) [首里三殿内] 首里三平等 (sjuimihwira) にそれぞれ一つずつあった神の宮。三人のʔamusirareのいる所。南風之平等 (hweenuhwira) にsjunāunci [首里殿内], 西之平等 (nisi-nuhwira) にziibuāunci [儀保殿内], 真和志之平等 (maazinuhwira) にmakānāunci [真壁殿内]があった。
- sjuiNeu**Ⓞ (名) 首里人。
- sjuitiNganasi**Ⓞ (名) [文] [首里天加那志] 国王の敬称。首里の国王様。
- sjuiʔwe'eguni**Ⓞ (名) [首里親国] 首里の敬称。首里以外のなか、山原などから、首里を敬っていった語。
- sjuja**Ⓞ (名) [文] 塩屋。製塩小屋。口語はsjuujaまたはsjuujaa. ʔjuin ʔakaci-cin narisi ʔumukazinu tatan. hwija nesami ~nu cimuri. [宵も暁も 馴れし 俵の 立たぬ日やないさめ 塩屋の煙 (花売之縁) 宵にも暁にも 夫の面影が塩屋の煙のように立たない日はない。
- sjuja**Ⓞ (名) 塩屋。《地》参照。
- sjukita**Ⓞ (名) 諸喜田。《地》参照。
- sjuku**Ⓞ (名) 魚名。琉球沿岸に産する小魚。塩辛にして食べる。
- sjuku**Ⓞ (名) 机。
- sjukubuN**Ⓞ (名) 職分。務めとしてすべきこと。
- sjukuduui**Ⓞ (名) 街道。国道。公道。sjukumiciともいう。首里を中心として、首里から、島尻方面へ三本、中頭・国頭方面へ二本あった。
- sjukugarasju**Ⓞ (名) sjuku (小魚の名) の塩辛。
- sjukujuku**Ⓞ (名) [文] 食欲。食物への欲。munnujukuともいう。病後などの食欲は, sakađaci という。
- sjukumici**Ⓞ (名) [宿道] sjukuduuiと同じ。
- sjukusjoo**Ⓞ (名) 食あたり。食傷。
- sjukwee=sjun**Ⓞ (自 =san, =ci) sjuqkwesjunと同じ。
- sjumi**Ⓞ (名) 諸見。《地》参照。
- sjumoo**Ⓞ (名) [文] 所望。～ sjun.
- sjumuçi**Ⓞ (名) 本。書物。～ ʔjunun. 本を読む。
- sjumuçibaku**Ⓞ (名) ⊖本箱。⊖本ばかり読んでいる者をあざけていう語。書物の虫。sjumuçiweemusiともいう。
- sjumuçidanŝi**Ⓞ (名) 本棚。
- sjumuçiweemusi**Ⓞ (名) ⊖書物を食う虫。sjumuçimusiと同じ。⊖書物ばかり読んでいる者。
- sjumuçimacija**Ⓞ (名) 本屋。書店。
- sjumuçimusi**Ⓞ (名) 書物を食い荒らす虫。
- sjumuçinukaa**Ⓞ (名) 本の表紙。
- sjuniN**Ⓞ (名) 諸人の意。もろもろの人。万人。～ ʔooreenu mici. 万人が通る道。
- sjuniNmooʔaŝibi**Ⓞ (名) [諸人毛遊] 他村の者が大勢集まって行なり mooʔaŝibi.
- sjunooza**Ⓞ (名) [古] [取納座] 租税に関する事務を取り扱う役所。首里にあった。
- sjunui**Ⓞ (名) 朱塗り。

sjunumee① (名) [主の前] だんな様。士族の成人男子に対して平民が用いる敬称。また、士族の妻は平民に対して自分の夫のことを **sjunumee** という。

sjun① (他・不規則) ⊖する。'jamatuguci ~。日本語を話す。bincooja siibusikoo neenKutu saN. 勉強はしたくないからしない。siijuusjun. できる。なしうる。⊖(強意の補助動詞として) 'jumiđu sjuru. 読むのだ。?aee sani. ありはしないか。
-=**sjun** (接尾 =saN, =ci) せる。させる。使役を表わし、動詞の「未然形」に付く。ただし、**sjun** (する)の使役形は **simijun** となり、また「サ行」の動詞の使役形は -**simijun** を付して作る、その項参照。kakasjun (書かせる), turasjun (取らせる) など。

sjunbuN① (名) 春分。二十四節の一つ。秋分とともに彼岸祭り ('Ncabi) を行なう。

sjunNciku① (名) 野菜の名。春菊。

sjunDoo① (名) [醜童] 踊りの名。醜女踊り。

sjunDunuci① (名) [首里殿内] 首里の赤田にあった神の宮。sjuimituNci [首里三殿内] の一つ。

sjunDunCi① (名) **sjunDunuci** と同じ。

sjunKaN① (名) [笋羹] 筍干。磁器の小さいどんぶり。中国風で上等な焼物である。

sjunSii① (名) [筍子] 干したけのこ。たけのこの干したのもの。中国産。

sjunsooroo① (名) できもしない事をやろうとすること。また、する意志のないのに、すると言うこと。また、できもしない事を、するふりをする。?aree ~du 'jaru. あれはできもしないのにやっているんだ。あれはやるふりだけだ。~ **sjun**.

sjunZa① (名) 潮平。《地》参照。

sjunZanasi① (名) [首里加那志] 国王の敬称。普通は ?usjuganasiimee という。

sjunZanasime`dei① (名) sjuiganasime-

dei と同じ。

sjuQkwee=sjun① (自 =saN, =ci) ⊖困る。duucimunoo miisicihanasicinu basju ~。ひとり者は病気の時困る。⊖ばつの悪い思いをする。引込みのつかない恥ずかしい思いをする。sjukweesjun ともいう。

sjuQsii① (名) [文] [出精] 精出すこと。努め励むこと。~ **sjun**.

sjura① (名) [文] 恋人。男から女をさしても、また女から男をさしても用いる。~**gakusjura**ndi 'janba saci ?ucan, sudi-ja tanigawanu sukuni hwitaci. [しほらが越しゆらんで 山葉さち置きやん 袖や谷川の 底にひたち] 恋しい人が越えて行くだろうと思って道しるべを差しておいた。袖は谷川の水底にぬらしながら。

sjurasjan① (形) [文] sjuuraasjan の文語。kuinu sjurasja. 声の愛らしさ。

sjuru① (名) 植物名。棕栢(しゅろ)。

sjuruciku① (名) 植物名。棕栢竹。

sjuručina① (名) 棕栢縄。

sjurugaa① (名) 棕栢の皮。その繊維で帚・縄・蓆などを作る。

sjusitaree① (名) [文] 他人の父の尊称か。または、役人の尊称か。sjuusitarimee の項参照。

sjuu① (名) ⊖うしお。海水。潮。~ **kunun**. 潮を汲む。⊖[文] 塩。口語では普通 **maasju** という。

sjuu① (名) 父。おとうさん。平民の父をいう。平民の父の名称および呼称。

sjuu① (名) 趣。おもむき。~**N neeN**. おもむきがない。面白味がない。

sjuubu① (名) 勝負。競争。

sjuubuN① (名) 秋分。二十四節の一つ。春分とともに彼岸祭り ('Ncabi) を行なう。

sjuubuQtee① (名) 皮膚病の一種。虫にさされるなどして、皮膚に小さな腫れができるもので、かゆい。

sjuubuta① (名) 豚肉の塩漬け。

sjuuciⓐ (名) ⊖塩気。⊖酒のつまみ。
sjuucikiⓐ (名) 塩漬け。肉の塩漬けをい
 る。
sjuuhuⓐ (名) 家屋などの修理。修補。
sjuujaⓐ (名) 塩屋。塩たき小屋。sjuujaa
 ともいう。文語は sjuja。
sjuujaaⓐ (名) sjuuja と同じ。
sjuukaawataiⓐ (名) 海を渡って他郷で死
 ぬこと。sjuukaa (潮川) は海のこと。
sjuukanⓐ (名) 小寒。二十四節の一つ。
sjuukarigwiiⓐ (名) 塩から声。しわがれ
 声。
sjuukooⓐ (名) [焼香] 法事。回忌ごと
 に行なう法事。十三年忌までを、普通、ʔu-
 sjuukoo といい、二十五年忌、三十三年
 忌は ʔubuɕizi, または ʔuhuʔusjuukoo
 という。また、一周忌 (ʔinui), 三年忌
 (saNniNci) は 'wakaʔusjuukoo と
 いう。ʔusjuukoo には、白地の喪服を着て
 祭りを行なうが、ʔubuɕizi には紺地の着
 物を用いる。
sjuukuⓐ (名) 証拠。
sjuukumiⓐ (名) [文] 潮汲み。製塩のため
 海水を汲むこと。
sjuumanⓐ (名) 小満。二十四節の一つ。
 芒種 (boosjuu) とともに、沖縄で雨の多
 い季節。
sjuumanboosjuuⓐ (名) 小満芒種。沖縄
 で梅雨期にあたる季節。~nu ʔaminu
 huicizicunnee. 小満芒種の雨が降り続
 くに。絶え間のないさま。
sjuumeeⓐ (名) [新] 旦那。日本本土から
 来た商人を呼んでいった。役人や巡査は
 danNa と呼ばれた。
sjuumeegwaaⓐ (名) [新] 日本本土の商人
 の若旦那。
sjuumiziⓐ (名) 塩水。塩を加えた水。
sjuumuNⓐ (名) 証文。
sjuuniiⓐ (名) 塩煮。魚などを塩味だけで
 煮ること。

sjuunuhanaⓐ (名) 塩花。不幸のあった
 家、または葬式から帰った場合などに、は
 らい清めるためにまく塩。
sjuuraasjanⓐ (形) しおらしい。かわい
 らしい。愛らしい。
sjuusiNⓐ (名) 惚れること。恋慕。「執心」
 に対応する。~ sjoon. 惚れている。
sjuusiʔarimeeⓐ (名) [文] 他人の父の尊
 称か。または、役人の尊称か。sjuu は父、
 sitari は ʔansitari などの -sitari と同
 じく敬意の接尾辞か。-mee は敬意の接尾
 辞。zitudee ~ ʔutuicizi sjabira, ʔa-
 manjunu sinugu ʔujurusimisjoori.
 [地頭代主したり前 お取次しやべら あ
 まん世のしのぐ 御許しめしやうれ (恩納
 なべの歌)] 地頭代様、恐れながら申し上
 げます。昔の時代の sinugu (男女でする
 踊り)をお許し下さいませ。
sjuutacaaⓐ (名) [文] 潮をたく人。口語で
 は maasjutacaa という。
sjuutaciⓐ (名) [文] 潮たき。製塩。また、
 潮をたく人。製塩する人。
sjuuteeⓐ (名) 所帯。世帯。
sjuuteeʔarasanⓐ (形) 所帯持ちが悪い。
 家計が荒れている。sjuuteekumasan の
 対。
sjuuteedooguⓐ (名) 所帯道具。
sjuuteekumasanⓐ (形) 所帯持ちがいい。
 つつましく暮らしている。
sjuuteemuciⓐ (名) 所帯持ち。一家を構え
 ている者。
sjuuteewakaiⓐ (名) 一軒の家に暮らしな
 がら、所帯を別にすること。別所帯。次三
 男が結婚しながら、同じ家の中で所帯を別
 にする場合などをいう。
sjuutukuⓐ (名) 得。利益。益。金銭の利
 益は mooki という。~N neen hanasi.
 益もない話。つまらない話。
sjuuwataiⓐ (名) 海中の歩いて渡る箇所。
 入江などで海中を歩いて通れる所。

sjuuziⓐ (名) 小路。露地。横丁。
sjuuzi① (名) 祝儀。祝宴。お祝いの宴。
sjuuuzisiⓐ (名) 塩漬けの肉。主として豚肉の塩漬け。単に sjuuɕiki ともいう。
sjuuuzizaaⓐ (名) 祝宴の座。祝賀の席。
sjuuuzuguciⓐ (名) 塩からい味。また、塩からい味を好む者。から口。
sjuuuzumuNⓐ (名) 塩からいもの。
sjuuuzusaNⓐ (形) 塩からい。しょっぱい。sipukarasan ともいう。
sjuzasju`kuraⓐ (名) [文] [諸座諸倉] すべての役所。諸官庁。すべての zaa (役人のいるところ) と kura (倉庫)。
sjuzin① (名) [文] 主人。主君。
sjuzoo① (名) 歓楽。享楽。娯楽。楽しみ。cuuja `iisjuzoo sjaN. きょうはいい楽しみをした。
sjuzooninⓐ (名) 粹人。通人。風流人。
sjuzuNⓐ (名) ⊖所存。考え。～daki ʔici `Nndi. 考えのほどを言ってみろ。⊖好意。親切。所存の転意。Qcunu ~ toosjuru munoo ʔaran. 人の好意を無にするものではない。
sjuzuNsidgeⓐ (名) 所存次第。考えのまま。ころざし。寄付を求める場合などにいう。～`jutasjasa. ころざしで結構だ。
soNgaciⓐ (名) 袖垣。cinibu (篠竹を密に編んだもの) で作られているので、単に cinibu ともいう。
sooⓐ (名) ⊖さお。⊖陰茎。
sooba① (名) 相場。市価。
soodaNⓐ (名) ⊖相談。⊖意見をすること。訓戒。～sjuN. 訓戒する。
soodo① (名) ⊖騒動。大勢の人が騒ぐこと。取り込みなどがあること。⊖けんか。
soohoo① (名) 双方。両方。～ gaqtin. 双方が合点すること。
sooiⓐ (名) 相違。違い。sooee neeraN. 相違はない。
sooiniNzuⓐ (名) 結婚に際し、婿の家に向

かり嫁につれそって行列に加わる、嫁の友達など。
soo=juNⓐ (他 =raN, =ti) 連れる。連れそ。同伴する。sooti ʔicuN. 連れて行く。tuzi sooti cuun. 妻を連れて来る。
sookiⓐ (名) ざる。竹を縦横に編み、回りを縮めた、丸いざるをいう。底が丸い。主として、野菜・穀物を入れるのに用い、目は比較的密なものが多い。baaki の項参照。
sookiⓐ (名) あばら。
sookibuniⓐ (名) あばら骨。肋骨。
soomaaⓐ (名) やぶにらみの者。
soominaaⓐ (名) めじろ。ciiju ciiju と鳴く。
soominaakuuⓐ (名) めじろ籠の意。鳥籠。小鳥用の籠の総称。
soominⓐ (名) そうめん。～nu šiimuN. そうめんの吸い物。
soominpuqturuuⓐ (名) 料理名。そうめんの油いため。
soori=juNⓐ (自 =raN, =ti) ⊖(たまったもの・積み上げられたものなどが)減る。(体積が)小さくなる。niinu ~. 荷が減る。takajamanu ~. 高い山が小さくなる。⊖(腹が)減る。ʔwatanu ~. 腹が減る。
soorusooruⓐ (副) するする。なめらかに出るさま。よどみなく流れるさま。ひっきりなしに続くさま。soorusooruu ともいう。ʔansi hanasinu ~ ʔnziti cuurumun `jaa. よく、そう話がするするとよどみなく出て来るものだねえ。
soorusooruuⓐ (副) するする。soorusooru と同じ。ʔjukusimunii ~. うそがするすると出ること。habunu ~ hoojuN. はぶがするするとはう。
soosiciⓐ (名) [文] 葬式。口語では、普通dabi という。
soosicigusaⓐ (名) 植物名。とうろう。せいろんべんけいそう。

soosigui① (名) [古] [双紙庫理] 麿藩前の役名。人事局長のような役。zuuguni-Nsjuu [十五人衆] を構成するひとり。

soosoo① (副) 水の流れるさま。ざあざあ。じゃあじゃあ。mizi ~ kakijun. 水をざあざあかける。?asi ~ hajun. 汗がだくだく流れる。

soosoo① (副) 早々。早く。急いで。さっさと。~ tuuri. さっさと通れ。

sootoo① (名) 相当。~na mun. 相当する者。その条件の備わった者。

soo?uburu① (名) 祭祀用の菓子の名。小麦粉で作った、まんじゅうの皮をむいたようなもの。

soouu① (名) 相応。ふさわしいこと。身のほどにふさわしいこと。~ sjoon. ふさわしい。相応している。kunuhjaa, ~ saN mun. こいつ、身のほどを知らぬ者。

soozi① (名) 掃除。~ sjun. 掃除する。hooci sjun. ともいう。

soozi① (名) 寒水。《地》参照。

soozi① (名) あじろ。竹で四つ目垣のように粗く編んだもの。農家などで、戸・天井・垣などに、また、中に茅を入れて壁などにする。

soozimaai① (名) 掃除の見回り。役人が掃除の検査で回ること。

soozootu① (副) ものさびしいさま。蕭条と。~ natoon. 蕭条としている。

soozukuni① (名) 相続人。あとつぎ。

suba① (名) ⊖そば。かたわら。また、わき。~ najun. イ。そばに寄る。そばに近づく。ロ。わきへのく。車馬などをよけてわきへのく。⊖妾(めかけ)。?juubeeともいう。貴人の妾は ?usuba という。

suba① (名) 蕎麦。そばきり。昔は身分の高い者のみが食べた。明治のころからは、そば屋が夜などに、?uduun (うどん) subaa. と声を長く引いて町を売り歩いた。

subahwira① (名) かたわら。横の方。「そばひら」に対応する。

subami① (名) 横目。横目を使うこと。

subanui① (名) 横乗り。馬の片側に両足をそろえて乗る乗り方。女がするもの。

subaNkee① (名) 横向き。わきへ向くこと。

subazikee① (名) ⊖そば仕え。貴人のそばに仕えること。また仕える者。小間使。近侍。⊖めかけとなること。また、めかけ。

subedu① (名) [文] 農家の家の裏戸。naka-Nkari ~ masidaiwa sagiti, ?anera-wantumaba sinudi ?imori. [仲村柄そばいど ますだれは下げて あにあらはんとまば 忍でいまれ (仲村柄節)] 仲村柄の美しい娘の住む家の裏の戸はいつもはずだれを上げてあるが、下げてあるときは大丈夫だから忍んでいらっしやい。

subi① (名) 楚辺。《地》参照。

subi=cuN① (他 =kaN, =ci) ひきずる。subikarijun. イ。ひきずられる。ロ。引っぱられる。拘引される。

sudaci① (名) 育つこと。育ち。~nu 'jutasjan. 育ちがよい。よい環境で育てている。

suda=cuN① (自 =taN, =ci) 育つ。(人・動植物が) 生育する。

sudati① (名) 育てること。養育。また、生活の保護。~ sjun. 養育する。また、生活のめんどろを見る。

sudati=juN① (他 =raN, =ti) 育てる。Qkwa ~. 子を育てる。hanagi ~. 花卉を育てる。

sudatimici① (名) 育て方。

sudati?uja① (名) 育て親。nacaru ?ujajaka ~. 産んだ親より育ての親(の恩が大きい)。

sudi① (名) 袖。

sudiciraa① (名) 芭蕉布で作った粗末な夏の着物。昔は下層の労働者が着るもので、

sudigaci

袖が無かった。そこで, sudiciraa (袖の切れたもの) といったもの。

sudigaci① (名) 子供が死んだ時に作る仮の墓。おとなの死の場合には墓を開いて, そこに棺を納めるが, 子供の死の場合には, すぐ墓を開かず, そばに小さい仮の墓を作っておき, おとなが死んだ場合に一緒に本葬をする。それまでの子供の遺体を納めておく小さい仮の墓をいう。

sugai① (名) ①装い。服装。身なり。～saanee qcunu 'jusiʔasee ʔjaraN. 服装では人のよしあしは言えない。curasugai. 美しい装い。②準備。したく。用意。munnu ～. 食事のしたく。

sugaimanu⁷gai① (名) 準備万端。sugai (準備) を意味を強めていう語。

suga=juN① (他 =raN, =ti) ①装う。容儀をととのえる。身じたくをする。着飾る。②したくする。準備をととのえる。munu ～. 食事のしたくをする (平民が使う。土族は, munu sjuN. という)。

sugari=juN① (自 =raN, =ti) 風に当たる。風に当たって涼む。

suga=sjuN① (他 =saN, =ci) 風を通す。風に当てる。また, 風に当てる冷やす。

sugi=juN① (自 =raN, =ti) そげる。そげて細くなる。また, やせ細る。

sugiwara① (名) [杉原] 紙の一種。杉原紙。一般の辞令などに用いる上質の紙。

sugikeera=sju⁷N① (他 =saN, =ci) なぐりつける。ひっぱたく。

suguita=cu⁷N① (自 =taN, =qci) suguita-qcooN (すらしりとしている。姿がすらしりと高く, 美しい) の形で多く用いる。

sugituba=sju⁷N① (他 =saN, =ci) なぐりとばす。

sugitu=juN① (他 =raN, =ti) しごくようにしてとる。また, ひったくる。

suguiʔuubi① (名) しごく帯。

sugu=juN① (他 =raN, =ti) ①しごく。②

なぐる。

suguraa① (名) すぐれた者。秀才。

suguridaqkwii① (名) 秀才の血統。

suguri=juN① (自 =raN, =ti) すぐれる。ひいでる。

sugurimuN① (名) すぐれた者。秀才。

suguriNcu① (名) すぐれた人。偉人。学徳・才能などのすぐれた人。

suguriNgwa① (名) すぐれた子。

su=juN① (他 =raN, =ti) 剃る。

su=juN① (自 =waN, =ti) [文] (女が男に) 添う。(女が) 結婚する。kunanu husunabiga 'waduʔa taka nacuti, 'wacitikuʔu ʔwebitu ca sui suwame. [古仁屋のほそなべが 我胴や應なちゆて 脇文字親部と ちや添ひそわまい] 古仁屋 (奄美大島の地名) のほそなべ (女の名) が, 自分の器量を高ぶって脇文字 (書記補) の親部といつまでも添おうとしている。*

suku① (名) ①底。kumuinu ～. 池の底。kukurunu ～. 心の底。②谷。沢。谷底。

sukubuu① (名) 台所(の土間)。sikubuu ともいう。

sukuçi① (名) ①粗忽。そそっかしいこと。②こっけいなこと。ひょうきんなこと。～na mun. ひょうきん者。おどけ者。

sukuhwi① (名) そこひ。眼病の一種。

sukui① (名) 救い。

suku=juN① (他 =raN, =ti) すくう。すくいとる。ʔusirunu mii ～. 吸い物の実をすくう。

suku=juN① (他 =raN, =ti) 救う。nuci ～. 命を救う。

sukukuzirija⁷N① (名) 腹の底がえぐられるように痛むこと。

sukuna=juN① (他 =raN, =aN, =ti) そこなう。損ずる。こわす。

suku=nuN① (他 =maN, =di) すくむ。ちぢこまる。縮み上がる。garaši 'jumudunu takanu mani sjundi, tubiutati

simanu ?urani sukudi. 鳥のやつめが、鷹のまねをしようとして、飛びくたびれて鳥のかけにちぢこまってしまった。(がらにもないことをやって失敗したことを風刺した歌)

suku=nuN④ (自 =man, =di) 巣ごもる。巣につく。

sukuNdui④ (名) 巣ごもった鳥。

sukuNkaa④ (副) 身をすくめたさま。また、恐れて、縮み上がったさま。～ sjooN. 縮み上がっている。

sumi④* (名) 痣。

sumiikata④ (名) 染め方。

sumiikee=sjuN④ (他 =san, =ci) sumikesjuN と同じ。

sumija④ (名) 染め物屋。sumimunjaa, kuja ともいう。

sumi=juN④ (他 =ran, =ti) 染める。

sumiikee=juN④ (他 =ran, =ti) 染め替える。

sumiikesii④ (名) 染め返し。染め返すこと。染め返したもの。

sumiikee=sjuN④ (他 =san, =ci) 染め返す。

sumimuN④ (名) 染め物。

sumimunjaa④ (名) 染め物屋。

sumu=cuN④ (自 =kan, =ci) ①そむく。後ろを向く。②そむく。反逆する。

sunan④ (名) 楚南。《地》参照。

sunata④ (名) 貴様。相手をとがめ、またののしっている語。～ nuundi ?juga. 貴様、何というか。?ija kunu ?azinu kutuba cikanaraba ～, cukatanani ?inuci ?ibuci turasa. [いや 此按司の言葉 聞かならばそなた 一刀に命 つぶち取らさ (大川敵討)] いや 按司であるこのおれのことばを聞かないのなら、貴様、一刀のもとに命をつぶしてやるぞ。

sunawai④ (名) 備わり。備え。設備。道具・人数などが充分そろふこと。

sunawa=juN④ (自 =ran, =ti) 備わる。充

分に整う。

sunee④ (名) 酔の物。

sunuban④ (名) そろばん。

su=nuN④ (自 =man, =di) ①染まる。②(他人の風に)染まる。

suN④ (名) 損。tuku (得) の対。～ sjun.

suN④ (名) しみ。汚点。着物のしみ、顔の痣やしみなど。～ ?icun. しみがつく。また、きず物になる。見苦しい痣になる。

suNcike'era=sjuN④ (他 =san, =ci) ひきずり倒す。

suN=cuN④ (他 =kan, =ci) subicun と同じ。

suNгаа④ (名) 寒水川。《地》参照。

suNgaci④ (名) songaci と同じ。

suNkabui④ (名) 商売で損をすること。

suNkwa=juN④ (自 =ran, =an, =ti) しみる。(傷口などに)しみて痛む。suunun ともいう。

suNtuku④ (名) 損得。

suNzi=juN④ (自・他 =ran, =ti) 損じる。破りこわす。また、破れいたむ。

suQkwii④ (名) そくい。飯粒を練って作った糊。

suQpuN④ (名) ふたのあるきせる入れ。ふたをぬくとボンと音がする。

suQtu④ (副) 少し。musingutunaqkwee ～N ?jan. [無心事なつくわい すつとも言やぬ(花売之縁)] 無心事などは少しも言わない。suqtoo kawatoon. 少しは変わっている。

sura④ (名) [文] ①空。天空。?arin nagamijura kijunu ～ja. [あれも眺めゆら 今日空や] 彼女も眺めているだろう、きょうの空は。②身空。'wakasa hwitutucinu kajuizinu ～ja 'jaminu sakuhwiran kurumatoobaru. [若さひと時の通路の空や 闇のさくひらも 車たり原] 若い時代の恋の通路は、闇の急坂も砂糖車を据える平坦な原と同じである。

suraa=sjunⓉ (他 =saN, =ci) ⊖集める。
 qcu ~. 人を集める。⊖揃える。doogu
 ~. 道具を揃える。
suriiⓉ (名) 集まり。集会。会合。
suriiman'dooⓉ (副) たびたび集会のある
 さま。~ sjun.
suriizaⓉ (名) 学問所。自習塾。学校以外
 の民家で、若者たちが勉強所とした場所。
 学生の集会所。
suriizuriiⓉ (名) 仲よく揃って事をなすこ
 と。sjuincoo ~, naahwancoo naahai-
 bai, kunindancoo kunkurubaasee,
 tumaincoo tumeeidumeei. 首里の人は
 うち揃って、那覇の人は散り散りばらばら
 で、久米村の人は互いに争って、泊の人は
 互いに捜し合いながら。
suri=juNⓉ (自 =raN, =ti) ⊖人が、集ま
 る。⊖揃う。
surikee=juNⓉ (自 =raN, =ti) そり返る。
suritiⓉ (副) 揃って。一緒に。こぞって。
 nunku Yuminabiga haranu guçimiki-
 ba ~ meru Yisjanu sazinu sizisa.
 [のんこ思鍋が 腹のぐつめけば そりてめ
 る医者 of 匙の繁さ(狂歌)] ヌンクー鍋
 (料理名)の腹がぐうぐういうと、そろっ
 ておいでの医者ほさじを忙しく動かす。
 Yuminabi は女の名でもある。
surubanⓉ (名) sunuban と同じ。
suruituⓉ (副) そっと。ひそかに。こっそ
 り。suruqtu ともいう。~ nareega can.
 こっそり教わりに来た。
suruqtuⓉ (副) suruitu と同じ。
sururugwaaⓉ (名) 小魚の名。きびなど。
 体長10センチたらずで、かつおの釣餌に
 用いられる。
surusuruⓉ (副) ざらざら。伸びはじめた
 ひげなどのさま。~ sjoon. ざらざらし
 ている。
surusuruuⓉ (名) ざらざらしたもの。ざら
 ざらしたひげなど。

surusuruuhwizigwaaⓉ (名) 若者の、生え
 はじめたひげの愛称。
susiⓉ (名) 楚洲。(地) 参照。
susi=juNⓉ (他 =raN, =ti) そしる。悪し
 ざまにいう。
susiriⓉ (名) そしること。誹謗。悪口。
 humirarin şikan susirarin şikan,
 Yuciju nadajaşiku 'wataibusjanu. ~
 humirarija 'jununakanu narai satan
 nen mununu nu 'jaku tacuga. [ほめ
 られも好かぬ そしられも好かぬ 浮世な
 だやすく 渡りぼしやの… そしりほめら
 れや 世の中の習 沙汰もないぬもの
 何役立ちゆが] ほめられるのもいやだ、そ
 しられるのもいやだ、浮世を安らかに渡り
 たいもの…。そしられたりほめられたりす
 るのは世の中の常、うわさもされない者が
 何の役に立つか。
susjuuⓉⓉ (名) 陰口。悪口。誹謗。
susoonⓉ (副) 人・物を粗末にするさま。
 虐待するさま。~ saqtaru qkwa 'jaku-
 tu, Yuja ~ sjusa. 粗末にされた子だか
 ら、親を粗末にするさ。
susoonkaro'onⓉ (副) 粗末にし軽んじるさ
 ま。karoon は軽んじるの意が含まれてい
 る。~ sjun.
susuⓉ (名) ⊖裾。ciNnu ~. 着物のすそ。
 ⊖山すそ。⊖びり。しり。~ najun. び
 りになる。
susuiⓉ (名) ぞうきん。
susuika'ciⓉ (名) ぞうきんがけ。ふき掃
 除。~ sjun.
susu=juNⓉ (他 =raN, =ti) ふく。ぬぐう。
sutiçiⓉ (名) sutitiçi と同じ。
sutimitiⓉ (名) sutumiti と同じ。
sutimitimuNⓉ (名) sutumitimun と同じ。
sutuⓉ (名) 外(ほか)。以外。
sutumitiⓉ (名) 朝。「つとめて」に対応す
 る。sutimiti ともいう。Yasa という語
 は単独ではあまり用いない。その項参照。

sutumitimuN① (名) 朝飯。ʔasaban の頂参照。
sutumitiʔubun① (名) 朝御飯。sutumitimuN (朝飯) の丁寧語。
sutumitiʔuki① (名) 朝早く起きること。
suu① (名) [数] ⊖運。運命。命数。~nu ʔiqcoon. 運が向いている。⊖[新] 数。かず。
suu-(接頭) 総。残らず、すべての意。suudaka (総高), suujoo (皆さん) など。
-suu① (接尾) 艘。船を数える時の接尾辞。ʔiqsuu (一艘), nisuu (二艘) など。
suuʒee① (名) [秀才] 那覇の久米村 (kuni-nda) の青年をいう。中国からの帰化人の子孫で、中国に留学する権利と中国語を学ぶ義務があり、扶持をもらっていた。
suucici① (名) [惣開] ʔuduN [御殿], tun-ci [殿内] の家の財産の管理人。この下に一、二名の zidee [下代] (会計係) と多数の使用人がいる。
suucuumaa① (名) 地方の農村や先島などで無学な人のために用いられた一種の文字。農作物・家畜などの種類・数量とか年月日などを表わす符号で、その多くは象形的なものであるが、簡単な漢字に似せたものもある。商取引や租税の付課・徴収の証書などに用いた。中国語「数罫碼」の借用語であろう。
suudaka① (名) 総高。総額。
suudee① (名) [総代] 村の世話係。私設のもので、各部落ごとにいた。
suudoori① (名) 総倒れ。~sjun.
suugamii① (名) 総務。全体の世話をする係。
suugasira① (名) [総頭] mura (部落) 全体の代表。muragasira の頂参照。
suugoosaku① (名) [古] suugoosakuʔatai と同じ。
suugoosakuʔa'tai① (名) [古] [総耕作当] 庶藩前の、農事に関する役人。間切番所に

いた。各村にいたものは koosakuʔatai あるいは単に koosaku という。
suugurii① (名) 一齐に御辞儀すること。
suujoo① (名) 皆。全員。一座の人 (目下) に呼びかける時に多く使う。諸君。皆さん。一座に少数でも目上がはいってれば gusuujoo (皆様) という。maada ~jakuun. まだ全員は来ない。~nu gaqtin 'jami. 皆の承知のことか。
suu=juN①* (自 =raN, =ti) [新?] 沿う。主として suutoon, suuti などの形で使う。'waqtaahatakee kaaranakai suutoon. うちの畑は川に沿っている。mici suuti ʔieuN. 道に沿って行く。
suu=juN① (他 =raN, =ti) 吸う。
sunkangee① (名) ⊖皆の考え。一般の考え。総意。世論。⊖基本的な考え。大体の考え。⊖皆の世話をする。また、皆の世話をする係。総務。~ja ʔariga kamii. 全体の世話は彼の役だ。
suuki① (名) 惣慶。《地》参照。
suukukui① (名) 総括。全体をくくりまとめること。~sjun.
suumabui① (名) 皆の魂。家族など全員の魂。魂が物に驚いて体から落ちたりしないように、年に一、二度、家族全員の mabui-gumi (魂をしっかりと体内にこめること) の行事を行なう。
suumi① (名) すき見。かいま見ること。のぞくこと。
suumi①* (名) 深い興味をもつこと。ʔutanakai ~nu ʔa. 歌に興味がある。
suumii① (名) 聡明。賢いこと。~na mun. 聡明な者。
suu=nuN① (自 =maN, =di) 深い興味をもつ。熱中する。gakumunnakai suudoon. 学問に熱中している。
suu=nuN① (自 =maN, =di) しみる。(傷などに) しみて痛む。sunkwajun ともいう。

- suura**① (名) こずえ。うら(末)。
suuranai① (名) うらなり。simunai と
 もいう。niinai (もとなり) の対。
suurii① (名) 中皿。cuuzara ともいう。
 haaci (大皿), keefuci (小皿) の中間。
suusuu① (副) ㊦少し。少少。～ja 'wii-
 toon. 少しは酔っている。㊦まだしも。さ
 ておき。'jaasaa ~ hwiisaa 'joo. ひも
 じさはまだしも、寒いことよ。
suutiici① (名) 蘇鉄(そてつ)。観賞用・備
 荒食用として栽培される。種子は食用に
 し、茎からは澱粉をとる。葉からは帽子・
 ほろきなどを作る。
suutiicibukui① (名) 蘇鉄の芯にある柔ら
 かい綿のようなところ。まり (maai) の
 芯にしたりする。
suu'wiici① (名) 総動員。-?wiici < ?wii-
 cuN(動く)。'jaaninzu ~. 一家総動員。
suuzimi① (名) 総締め。総合計。総決算。
 ~ sjuN.

- suuzituu**① (名) [総地頭] ?azizituu [按
 司地頭]の下, 'wacizituu [脇地頭]の上。
 一間切の采邑を持つ領主で、位階は ?wee-
 kata [親方]。その家は tuncu [殿内]と
 いわれる。?azizituu と suuzituu とは
 二重に一間切を領する。両者を併称して
 roosuuzituu [両総地頭]という。
suzibana① (名) 風当たりの強い所。風通
 しのよいところ。
suzoo① (名) ㊦素姓。本来の性質。生まれ
 つき。また、血統。㊦生育。育ち。育つ間
 にでき上がった性質。果実・竹などの品・
 形などについても、～nu 'jutasjan (素
 性がよい) のようにいう。
suzoosaN① (形) 風がやや強い。風が吹き
 抜ける。机上の紙が飛んだりする程度のこと
 をいう。
su=zuN① (自 =gan, =zi) 風が少し吹く。
 「そよぐ」よりやや強い吹き方をいう。

ta- (接頭) 二。ふた。takeen (二回), tai (二人), tahwani (二羽) など。

taa① (感) ふり。ふたつ。声を出して数える時にだけいう。

taa② (名) 田。

taa③ (名) ①誰。韻文や古語、また一部の方言では taru という。ʔaree ~ ʔjaga. あれは誰か。~ga. 誰か。~ga ʔjara. 誰かしら。~din cui kumankai kuuwa. 誰でもいいからひとりここに来い。~ʔjatin. 誰でも。②(接頭) 誰の。taamun (誰のもの) など。

-taa (接尾) ①たち。人について複数を表わす。waqtaa(わたしたち), ʔiqtaa(おまえたち), ʔaqtaa(彼等, 彼女等), niiseetaa (青年たち), ʔangwaataa (平民の娘たち) など。複数の接尾辞には -caa という形もある。その項参照。②転じて、その人の家を示す。ʔaqtaakai ʔicun. (彼の家へ行く), ziruintaa (次郎の家) など。

taaba② (名) 田場。《地》参照。

taabaazeeku② (名) へたな大工。しろうと大工など。[田場] という名の昔の名工に由来する語で、へたな大工を皮肉にいう語。

taabi② (名) 足袋。

taabuqkwa② (名) たんぼ。田のたくさんあるところをいう。地名としては, catan-taabuqkwa (北谷たんぼ), hanizitaabuqkwa (羽地たんぼ) など。

taaca② (名) 立つことの小児語。たっち。

taaci① (名) 二つ。二。~N narce. 二つのうちならば。二つのうち、一つを選ぶとすれば。~sjun. 二つする。兼ねる。

taacii② (名) ʔnmukaʃi (芋かす。甘藷から澱粉をとった残りかす)を粉にして煮た

料理。食糧不足の時に食べるもの。詳しくは ʔnmukaʃidaacii という。

taacimacaa② (名) つむじが二つある者。一癖ある者とされ、男の子なら喜ぶ。

taacimisi② (名) 二つ違いの子供を産むこと。tiigimisi はとしごを産むこと。としごはまれに tusingwa ともいう。miigimisi は三つ違いの子を産むこと。-misi < misijun (見せる)。弟妹が生まれることを ʔuqtu misijun (弟妹を見せる) という。

taaciwai② (名) 二つに割ること。二つ割り。二分。

taacuu② (名) ふたご。双生児。

taadoosi② (名) 田を畑として使うこと。田の水を干させて、畑とすること。稲の刈入れ後、さつまいもを作る場合などにする。田倒しの意。

taadoosiʔnmu② (名) 田を畑にして作ったさつまいも。甘味が多く、美味。

taagana② (名) 誰か。~ʔikani. 誰か行かないか。~tanumariisee ʔurani. 誰か頼める者はいないか。

taagu② (名) ①たご。桶の一種。もっぱら水を運ぶのに用いる。桶の両側の板がおのおの一枚ずつ伸び、それに横木を通して取っ手とした桶。②(接尾) taagu に一杯・二杯などと数える時いう。cutaagu, tataagu など。

taagusa② (名) 田の草。~kacun. 非常にあせる。

taagusiree② (名) 田ごしらえ。稲を植える前に田を耕して準備すること。

taahwaakuu② (名) [打花鼓] 楽劇の名。中国より渡来し、那覇の久米村で行なわれたもの。

taaʔiihwee

taaʔiihwee① (名) 水田にいる虫の名。げんごろうの類。丸く黒色。

taaʔiju① (名) ふな(鰯)。田にいる魚の意であろう。煎じて熱さましの特効薬として用いる。

taaʔijugaʔsira① (名) お山の大将。餓鬼大将。ふなの大将の意。

taaʔijustiʔnzi① (名) ふなを煎じた汁。

taakutu① (名) うわごと。熱に浮かされて言うことば。～ʔjunuN. うわごとを言う。

taakuu① (名) 茶器を入れる器。芝居見物・墓参などに携帯するもの。中国渡来の器であろう。朱塗りの箱で、中には錫製の土瓶を入れ、箱に入れたまま湯をつぐ仕掛けになっている。

taamaa① (名) とんぼの一種。やんま。青緑色で、形が大きい。ʔaakeezuu はこれより小さい。naakudaamaa (宮古の taamaa) ともいう。

taamuN① (名) 誰のもの。～ga. 誰のものか。

taamuʔi① (名) taaʔNmu (里芋の一種) のずいき。muzinuʔNsiru, muziʔusee, duruwakasii などにして食べる。

taaʔNmu① (名) 田芋の意。水田に作る芋で、形は里芋に似ており、一種の風味がある。

taaʔNmunii① (名) 料理の名。taaʔNmuとさつまいもを混ぜ、砂糖を加えて練ったもの。きんとんに似た上等の食物。

taaʔNna① (名) たにし。水田に生じ、食用となる。田にいる蜷(にな)の意。

taara① (名) ㊦俵。特に藁で作った米俵。㊦俵米。俵祿としてもらう米。ʔugusikukara ~ ʔutabimiʔeen. お城から俵米を下さる。

taaraguu① (名) あき俵。

taarasi① (名) 植物名。ほおのき。木蘭科。こぶしに似て、香気高い花が咲く。一名ほるとの木。樹皮・葉から褐色の染料をと

る。
taari① (名) 憑くこと。kamidaari は神がかり。

taarii① (名) ㊦父。おとうさん。士族についていう。名称でも呼称でもある。平民の父は sjuu。「昔は主(シュウ)といひたるなれども、久米村(閩人の子孫の部落)より始まりて、支那語の大令をもて、父を呼びたるにより、首里にも移り来るものと師の朝保翁いへり。(南島八重垣)」あるいは中国語「大人」の転訛か。㊦家族・親族以外から taarii といえば、士族の父・士族の戸主に対する卑称ともなる。士族のおやじ。taariigwaa ともいう。

taariigwaa① (名) taarii の卑称。士族のおやじ。

taari=juN① (自 =raN, =ti) <teejun.
㊦費える。hwiqcii ~. 一日むだにつぶれる。複合語に, ziNdaari (金銭が費えること), hwimadaari (時間がつぶれること)。㊦(病気が)長引く。

taataa① (名) 父の小児語。那覇では caa-caa という。

taawaN① (名) 碗の一種。碗の大きなもの。大碗の中国音。

tabai① (名) ㊦束。たばね。㊦(接尾) cuta-bai (一束) など。

tabaisikaʔi① (名) たばねること。荷作りなどをすること。-sikai < sikajun.

taba=juN① (他 =raN, =ti) たばねる。物をたばねて、なわ・ひもなどで縛る。また、人などを縛る。

tabakai① (名) 多忙。

tabaku① (名) たばこ。～ hucun. たばこを吹かす。～ndee ʔusjagamisjooree. たばこでも召し上がって下さい。

tabakubuN① (名) たばこ盆。普通、四角の箱の中に ʔuciritui (小さい火鉢) と hweehuci (灰吹き) と入れてある。擬ったものは引き出しがいくつもあり、さげて持つ

手があったりする。
tabakuŷiriiⓐ (名) たばこ入れ。
tabakunacijaⓐ (名) たばこ屋。
tabakunuhwiikusuⓐ (名) たばこの吸い
 ながら。
tabaruⓐ (名) 田原。〔地〕参照。
tabasaⓐ (名) 間。物体の間の狭いすき間
 をいう。tanaka より狭い。sjumuçinu
 ~nakai kwaacooke. 本の間にはさん
 でおけ。
tabiⓐ (名) 旅。tabee ŷiranaŷikan nii
 najun. 旅は鎌の柄のように軽いもの
 でも荷物になる。旅はできるだけ身軽にせよ
 の意。
tabidaciⓐ (名) 旅立ち。鹿島立ち。門出。
tabidumiⓐ (名) 旅先でできた妾。-dumi
 <tumeejun.
tabijaduⓐ (名) 旅宿。旅先の宿。~nu
 nareja makura subadatiti ŷubizasusa
 mukasi 'juwanu çirasa. [旅宿の習や
 枕そばだてて 覚出すさ昔 夜半のつら
 さ] 旅の宿に泊ると寝てから昔の会わぬ夜
 のつらさを思い出す。
tabi=junⓐ (他 =ran, =ti) [文] 賜わる。
tabikuduciⓐ (名) 旅口説。kuduci (口説)
 の一つ。首里から、那覇を経て、海を渡
 り、薩摩へ往復する状況を叙事的に歌った
 歌曲で、nubuikuduci [上り口説] と ku-
 daikuduci [下り口説] とある。
tabiniŷuⓐ (名) 旅の一団。
tabinuçeuⓐ (名) 旅の人。行人。他国の
 人。見知らぬ人。
tabinuçeuuⓐ (名) よそもの。他国者。軽
 蔑的な言い方。
tabisjuⓐ (名) 旅に出ている人のある家。
 その家では、5月1日、同5日、9月1日
 に、旅にいる人の無事息災を祈る行事をす
 る。一族一門の女が揃い、kweena (旅歌)
 を歌って踊り、夜を徹することがある。
tabisugaiⓐ (名) 旅装束。旅装。

taboo=junⓐ (他 =ran, =ci) 給り。下さ
 る。首里では、口語としては命令形 ta-
 boori (下さい) のみを用いる。韻文では
 tabori と短くなる。'juruci tabori. [許
 ちたばりれ] 許して下さい。taboori ta-
 boori sjaŷiga kwirantan. ちょうだい
 ちょうだいとせがんだが、くれなかった。
tabuigusaⓐ (名) kusa はフィラリヤ (熱
 病の一種)。tabui- <tabujun (ためる、
 たくわえる)。長い間起こらずにいて、そ
 のあとで起こった kusa. kusa は時時起
 こった方がしのぎよく、これが長いこと起
 こらないと、一時に重い病気になるので、
 この語がある。
tabu=junⓐ (他 =ran, =ti) ためる。たく
 わえる。保存する。とっておく。zin ~.
 金をためる。nuci ~. 命を大事にする。
 duu ~. なまける (体を節約する意)。ta-
 buraran. 長くおけない。とって置けな
 い。tabaaran ともいう。
tabunⓐ (副) 多分。大かた。
tacaaiⓐ (名) 二つ切り。二つ割り。~ na-
 sjun. 二つ切りにする。~Nkai sjun.
 ともいう。
tacaaiⓐ (名) のっぽ。背の高い者への悪
 口としていう。「二つ割りの者」の意。す
 なわちふたり分の背たけがあるという意。
tacagainuba'gaiⓐ (名) 親しい家などに、
 しばしば立ち寄ること。-nubagai は伸び
 あがる意から、ちょっと立ち寄ること。
taciⓐ (名) 太刀。刀の大きなもの。
taciⓐ (名) [文] 滝。滝は少ないが、名護間
 切敷久田に轟の滝という滝がある。ŷaca-
 karanu ŷasati satuga bannubui, ~
 narasu ŷaminu hurana 'jaŷiga. [あち
 やからのあさて 里が番上り 滝ならす雨
 の 降らなやすが] 明後日はわが背の君
 が首里へ勤番で上る日である。どうか滝の
 ような雨が降って出発が遅ければよい (恩
 納なべの歌)。~ narasu ŷaminu のとこ

- ろは *tanca kusju ʔaminu* [谷茶越す雨の] という歌詞もある。
- taci**① (名) 辰(たつ)。十二支の第五。時間 は午前8時 (*ʔicicɪ*)。方向は南寄りの東。
- tacibaa ʔasiza**① (名) 足駄。台に植えた二枚の歯を *tacibaa* (立歯) といったもの。*ʔasiza* は単に下駄をいう。
- taciei**① (名) 来月。 *naa* ~。再来月。
- taciei**① (名) ふた月。二か月。
- taciee**① (名) 立ち合い。監督、検証などのために立ち合うこと。
- tacigari**① (名) 立ち枯れ。
- tacigi**① (名) 立ち木。 *ʔeegi* (材木) に対する。
- tacigurisjan**① (形) 暮らしにくい。暮らしが立ちにくい。嫁がしゅうとに虐待された場合などにもいう。
- tacihaba ʔka=jun**① (自 =*raN*, =*ti*) 立ちばかり。
- tacihwa**① (名) 立場。~ *ʔusinajun*。立場を失う。⊖境遇。暮らしむき。 *ʔiitacihwa*。よい暮らしむき。
- tacii**① (名) 他系の意。他姓。血統の違う他姓。
- taciimazikui**① (名) 血統上関係のない者が相続人として家を継ぐこと。多くはきられる。-*mazikui* はまざること。
- taciisuri ʔi**① (名) 事件などで大勢が寄り集まること。急病人の家へ親類縁者が次々に集まる場合など。祝いごとなどの場合には言わない。
- tacijaqsan**① (形) 暮らしやすい。暮らしが楽である。 *kunu murankai cakutu* ~。この村に来たので暮らしが楽になった。 *tacijaqsa sjoon*。暮らしむきがよい。
- tacikaNtii**① (名) ⊖その場を立ちかねること。この意ではあまり用いない。⊖暮らしを立てかねること。生活難で日々苦しむこと。~ *sjoon*。生活難で苦しんでいる。
- tacikuei**① (名) 一番はじめの先祖。分家して一家を作れば、それが後世 *tacikuei* (立口) となる。多く *ʔutacikuei* という。
- tacikuNpai**① (名) 立ちどおし。立ちっぱなし。立ち往生。
- tacimaaima ʔai**① (副) しばしば立ち寄るさま。~ *sjun*。
- tacimaaituN ʔmaai**① (副) しばしば回って立ち寄ること。~ *sjun*。
- tacimasa ʔjuN**① (自 =*raN*, =*ti*) たちまざる。すぐれる。
- tacimee**① (名) 嫁入り前。
- tacimudui**① (名) 出もどり。嫁に行った者が離縁して生家へもどること。
- tacimui**① (名) 立っもりをする。子供を抱いて、立って、あやすこと。子供は坐って抱かれるよりこの方を好む。
- tacinaaka**① (名) つれあい。配偶者。
- tacinaci**① (名) 犬の長鳴き。遠ばえ。犬が夜中に声を長く引いて鳴くこと。魔物を見た時の鳴き方とされている。
- tacinama**① (副) 立ちどころに。すぐさま。たちまち。~ *miiran natan*。たちまち見えなくなった。
- tacinu=cun**① (自 =*kaN*, =*ci*) 立ちのく。
- tacinnugi=jun ʔ**① (自 =*raN*, =*ti*) 抜きん出る。衆にすぐれる。
- taciNka=jun ʔ**① (自 =*aN*, =*raN*, =*ti*) 立ち向かう。相手になる。
- tacisikuei**① (名) 立ち仕事。立ってする仕事。また、力仕事。 *taciwaza* ともいう。
- tacitoori**① (名) 立つか倒れるか。浮沈。興亡。生きるか死ぬか。
- taciui**① (名) 女の婚期。 *taci* < *tacun* (とつぐ)。 *ʔuui* は折。
- taciʔwi ʔici**① (名) 身動き。立って動くこと。~ *nu nanzi ʔjaqsaa*。身動きが大儀だよ。
- taciwaza**① (名) 立ち仕事。水汲み・炊事など。 *tacisikuei* ともいう。 *ʔiwwaza* (すわ

り仕事)の対。

tacizi① (名) たきぎ。tamUN ともいう。

tacizici① (名) 立ち聞き。

tacizisi① (名) 立岸。《地》参照。

tacizitui① (名) たきぎ取り。

tacizuku① (名) 暮らしむき。生活。

tacoo① (名) 他郷。kucoo (故郷) に対する。

ta=cuN① (自 =tan, =qci) ①立つ。建つ。また、成立する。taqcIN 'icin 'uraraN. (心配で) いても立ってもいられない。ta-qcoomi. 立っているかの意。立っている者への平民などがいうあいさつ。②起きる。生じる。ʔumukazinu ~. 面影が浮かぶ。③経つ。経過する。④立つ。出発する。ʔiqi tacuga. いつ出発するか。⑤とつぐ。嫁に行く。diqsiN sjUN. ともいう。taqcooN. とついでいる。⑥(刃物が)よく切れる。鋭利である。haanu ~. 刃が鋭い。haanu tatan. 刃がよく切れない。

ta=cuN① (他 =kan, =ci) 火を燃やしてものを煮る。炊く。単に火を焚く意では hwii meesjuN という。sjuu tacai hwi-binu kurasi sjuntijari. [塩たきやり日目の 暮らしゆんでやり(花売之縁)] 塩をたいて日目の暮らしをしているとか。

tada① (名) ただ。無代。ʔicanDa ともいう。②(副) イ。いたずらに。むなしく。~ ʔaqcuN. ただ歩く。ロ。わずか。たつた。~ gunzuu. たつた1厘。

tadari① (名) ただれ。

tadari=juN① (自 =ran, =ti) ただれる。

tada=sjUN① (他 =san, =ci) ①正す。kai-koo ~. 開合を正す。kaikoo の項参照。②糾す。吟味する。詮議する。

tadeema① (名) すぐ。即刻。即座。また、急ぎ。緊急。~ cuusa. 今すぐ行くよ。~nu sikuci. 急ぎの仕事。緊急の仕事。

tadi=juN① (他 =ran, =ti) 「たでる」に対

応する。湯の熱ではれものなどをむす。

taga=juN① (自・他 =an, =ran, =ti) 違う。たがえる。「たがう」に対応する。tagaan. たがわぬ。一致する。違約しない。ʔjaku-suku ~. 約束をたがえる。

tagaNmi① (名) 田頭。《地》参照。

tagee① (名) 互い。相互。相方。tageeni. 互いに。

tageecige① (名) 互いにくい違うこと。互い違い。

tageeniʔiihii① (名) 互いに敬語を使わずに、肯定の時は ʔii と言い、呼ばれた時は hii と答える話し方。親しい同年輩同志の話し方。きみ・ぼくの話し方。ʔinuʔiihii ともいう。ʔiihii の項参照。

tageeniʔuuuu① (名) 互いに敬語を使い、肯定の時は ʔuu と言い、呼ばれた時は huu と答える話し方。初対面や、まだ互いに親しくない間柄の礼儀正しい話し方。ʔinuʔuuuu ともいう。ʔuuuu の項参照。

tagee=juN① (他 =san, =ci) 耕す。田返すの意か。keesjuN ともいう。

taguikaka=juN① (自 =ran, =ti) 食ってかかる。つめ寄る。

tagu=juN① (他 =ran, =ti) (ひも・縄・たこの糸などを) たぐる。

taguN① (名) 他言。他人に語り告げること。

tai① (感・助) 目上に話しかける時・呼びかける時などに女が発する敬語。さらに高い目上には tari という。男は sai という。もし。taarii ~. もしおとうさま。cuuja ʔiitinci ʔaibiin ~. きょうはいい天気でございますねえ。ʔee ~. もしもし。

tai① (名) 垂れ。垂れたもの。sanazinu ~. ふんどしの前に垂らした部分。

tai① (名) ふたり。二人。両人。~nu ʔuja. ふたりの親。両親。

-tai (接尾) 人数を表わす接尾辞。ʔjuqtai (四人), ʔiqitai (五人), muqtai (六人),

nanatai (七人), 'jaqtai (八人), kuku-nutai (九人)。ただし, cui (一人), tai (二人), miqcai (三人), また, 五人以上は guniN (五人), rukuniN (六人) のようにいうことが多い。

-tai (接尾) 係。ʔatai (係) 参照。

taisaga=ju'n① (自 =raN, =ti) 垂れ下がる。下に垂れて下がる。

taiʔuti=jun① (自 =raN, =ti) 垂れて落ちる。

taiwan① (名) 台湾。伝説的な野蛮国の意でも用いられる。~nu ʔuni. 台湾の鬼。生蕃。

taiwanboo① (名) [新] 台湾はげ。頭の毛がところどころはげる病気。日清戦争後, 台湾から帰った兵隊が流行させたという。taiwanboozii ともいう。

taiwanboozii① (名) taiwanboo と同じ。

tajui① (名) ㊦便り。消息。㊦頼り。頼みとなるもの。また, よるべ。知人。縁故。

tajuihwi'ci① (名) 縁故。tajui と同じ。

ta=jun① (自 =raN, =ti) 足りる。tarijun と同じ。

taka① (名) 鷹。秋の初めごろ来て終わりごろ去る。cinmii (金色の目の鷹。高価で, 貴族の子弟に飼われた) と kasizeemii (灰色の目の鷹。安価で, 一般士族の子弟などが飼った) とがある。ʔandee ~ takusinu kusikara miijun doo. (童謡の文句) ほら, 鷹が沢岬村の後ろに見えるぞ。~nu mooree garasin moojun. 鷹が舞えばからすも舞う。人真似をあざ笑ったことわざ。hwiNSuumunnu ~ 'iitannee. 貧乏者が鷹をもらったように。鷹は高価なので, 非常な喜びを表わすことば。天に昇るようだ。

takaʔagai① (名) 高い所に上がること。高く上がること。'winagoo ~ ʃee naran. 女は(目より)高い所に上がってはいけない。

takaʔazana① (名) 首里城の石垣の上にある楼。ʔugusiku の項参照。

takabaru①* 高原。《地》参照。

takabasiru① (名) 高窓。壁の上方の高い所にある採光・通風用の窓。hasiru は遣戸。takabi=jun① (自 =raN, =ti) 高ぶる。偉そうにふるまう。

takadee①① (名) 高価。代金 (dee) が高いこと。

takadiimigui① (名) 高利貸し。高利で貸すこと。高利回りの意。takarihwiitujaa ともいう。koorigasi はその新語。

takagii① (名) 高い木。喬木。

takagooi① (名) 高く買うこと。相場以上の値段で買うこと。

takahana① (名) 高い所。高く突き出た所。風当たりの強い, 高い所をいう。

takahanari① (名) 高離島。沖縄本島の東側にある島。平安座島 (hjanʒa) の東北側, 伊計島 (ʔici) の南にある。

takahata① (名) [新] 高機。織機 (nunubata) のたけの高いもの。旧来の低い zibata (地機) に対する。

takahazii① (名) 細く背の高い人。のっぽ。takasoo, takasoonaa などと同じ。

takahuda① (名) 高札。昔, 禁制や法度などのむねを記して路傍に高く立てたもの。時には禁止ばかりでなく, 一般に告知する内容のものもあったであろう。cizinuhwee (禁止の牌) ともいう。

takahwiruma① (名) 昼過ぎ。昼下がり。午後2~3時ごろをいう。

takahwisʒajikee①① (名) 気づかい。客・隣人などに対していろいろと気をつかうこと。足を高くして歩く, すなわち足音を立てないようにする意からいったもの。~ sjun. 気をつかう。

takaʔicubi① (名) ほうろくいちご。野生のいちごで, 'jamaʔicubi ともいう。

takakaza① (名) 生臭いにおい。kaza は

- 香り, におい。生臭いは hwirugusasan という。
- takamaa**①* (名) takamaami と同じ。
- takamaami**① (名) めだか。淡水にすむ長さ3センチぐらいの小魚。takamaa, takamami ともいう。
- takamami**① (名) takamaami と同じ。
- takamjaaguşiku**①* (名) 高宮城。《地》参照。takanaaguşiku ともいう。
- takanukurumaci**①* (名) ⊖空高く, たくさんの鷹が輪を作って飛ぶこと。黒いらず巻きが壮観である。⊖その時節に出る小さいはぶ。
- takanusiibai**①① (名) 鷹の渡る9~10月ごろ, 青空から霧のように降る小雨。鷹の小便の意。
- takanmi**① (名) 高嶺。《地》参照。
- takara**① (名) 宝。貴重な品物。
- takara**① (名) 多賀良。《地》参照。
- takara**① (名) 高良。《地》参照。
- takaramun**① (名) 棺。kwan(棺)を忌んでいったものであろう。
- takaraNgwa**① (名) 大事な子。子宝。
- takarazima**① (名) ⊖宝島。土噶喇列島の島の名。⊖中国や西洋に対し'jamatu(薩摩)のことをいつわって言ったもの。沖縄が薩摩に間接支配されていることをかくすために, takarazima という島と通商しているように見せかけた。
- takarihii**① (名) 高利。利子が高いこと。
- takarihwiitujaa**① (名) 高利貸し。
- takari=juN**① (自 =raN, =ti) たかる。一箇所に集まる。かたまる。siraNnu ~。しらみがたかる。koosi ~。疥癬がたくさんできる。複合語に husitakaraa (節だらけのもの), zinbuntakaraa (才知のありあまるもの) など。
- takasaagaa**① (名) 高さ比べ。
- takasaN**① (形) ⊖(空間的な位置, 地位などが) 高い。⊖(値段が) 高い。⊖(声が)
- 高い。また, (声が) 大きい。④(におい, 主として悪臭が) 高い。複合語に, takakaza (生臭いにおい), niwidakasan (悪臭が強い) など。
- takasiQpu**① (名) 高志保。《地》参照。
- takasoo**① (名) のっぽ。背の高い者。高い竿の意か。takahazii, takasoonii, takasoonaa などともいう。
- takasoonaa**① (名) takasoo と同じ。
- takasoonii**① (名) takasoo と同じ。
- takaʔucagaa**① (名) 偉そうにしている者。超然とかまえている者。
- takaʔucagi**① (名) ⊖高く顔をあげていること。⊖高慢。超然としていること。~ sjun. 超然とする。偉そうにする。
- takaʔui**① (名) 高く売ること。'jaşiʔui(安売り)の対。
- takaʔucaki**①① (名) 高値を吹っかけること。高値を付けること。ʔansi ~ see kooişee 'uran. そう高い値では買う人はいない。
- takawaree**① (名) 声を立てて笑うこと。哄笑。高笑い。~ sjun.
- takazan**① (名) 高い山。ʔanu muee ~ natoon. あの丘は高くなっている。
- takazikuku**① (名) ふくろう。
- takeen**① (名) 二回。-keen は回数を表わす接尾辞。
- takeesi**① (名) 高安。《地》参照。
- takeeşi**① (名) 高江洲。《地》参照。
- taki**① (名) 岳。主として拝所 ('uganzu) のある山をいう。拝所のある山は敬って ʔutaki ともいう。binnuʔutaki [弁御岳], sunuhjanʔutaki [國比屋御岳], seehwaʔutaki [斎場御岳] など。拝所のない山は, ʔunnadaki [恩納岳], 'junahwadaki [与那覇岳] など。
- taki**① (名) たけ。背の高さ。身長。
- takibun**① (名) ⊖身分。分際。⊖天分。素質。~nu ʔan. 身分がある。また, 素質

takiikijun

がある。

takiiki=juN① (自 =raN, =ti) (苦痛・病
気などが) 最悪の状態になる。ʔawari ta-
kiikitoon. 極度に苦しんでいる。ʔan-
meenu takiikitoon. 病気が最悪の状態
になっている。危篤である。

takihudu② (名) 体格。身のたけと体格。
hudu はやはり体全体の体格。~ ʔuca-
toon. 体格の均衡がとれている。

-**takii** (接尾) ごと。ぐるみ。のまま。haku-
takii muqci kuuwa. 箱ごと持ってこい。
hunitakii hakajun. 骨ぐるみ計る。

takimui② (名) 山岳。

takinamuN② (名) 程度の知れたやつ。た
かの知れたやつ。

takitutuumi② (名) ありったけ。あるだけ
全部。せいぜい。~nu hataraci qsi 'NN-
di. ありったけの働きをしてみよ。kunu
ʔaaja ~ hjakumaNendu sjuru. この
家はせいぜい百万円しかしない。~ zuu-
rijaka ʔwiija neeraN. いくらあっても、
十里以上はない。

taku② (名) 蝟。~nu ʔeeku. 蝟のように
骨無しの人間。立って歩けない人をいう。
ʔeeku はその項参照。

taku=buN② (他 =baN, =di) たたむ。折り
返して重ねる。

takuku① (名) 他国。他郷。

takuma② (名) 利口さ。知恵のあること。
悪い意味はない。悪知恵は ʔjanadakuma。

takumaa② (名) 利口者。知恵のある者。
うまいことを考える者。悪い意味はない。

takumaciraa② (名) 切れ者。利口者。頭の
よく働く者。

takumaciri② (名) 頭がよく切れること。
頭が鋭いこと。

takumacirimuN② (名) takumaciraa と
同じ。

takumui① (名) 4厘。銭200文。ziN (銭)
の項参照。

takumuiguNzuu① (名) 5厘。銭250文。
ziN (銭)の項参照。

taku=nun② (他 =maN, =di) たくらむ。
企てる。muhun ~. 謀叛をたくらむ。

takusi② (名) 沢舐。《地》参照。

takutu① (名) 二言 (ふたこと)。次の慣用
句で用いる。takutoo neen. 異論なし
に。口答えせずに。言う通りに。二つ返事
で。

takuwee=juN② (他 =raN, =ti) 貯える。

tama② (名) ⊕玉。丸いもの。また、宝玉。
のろ(nuuru)の首飾りの玉など。tiqpuu-
nu ~. 鉄砲の玉。~ hacoon. イ。首飾
りの玉を首にかけている。ロ。小児の首・
手足などが丸丸と太り、輪をはめたように
めりこんでいる。~nu sakazici. [文] 玉
杯。ʔutuku ʔNmarituti kui siran mu-
nuja ~nu sakazicinu sukun miran.
[をとこ生れとて 恋知らぬものや 玉の
さかづきの 底も見らぬ (執心鐘入)] 男
に生まれて恋を知らぬ者は玉の杯の底を見
ないのと同じ。⊖ガラス。

tama① (名) たま。まれ。~nu hanasi.
たまの話。~ni ʔicataru mun. たまに
会ったんだもの。

tamabai② (名) ガラス張り。ガラス戸・ガ
ラス窓など。

tamagai② (名) 凶兆。人の死の前兆。魂が
火の玉となって、家の上に高く上がったり
すること。また、人の泣き声が生たり、
棺桶を作る音が聞こえたりする。タマアガ
リ(魂上がり)の意であろう(伊波普猷)。

tamaga=juN② (自 =raN, =ti) 死の前兆が
現われる。tamagai が起こる。

tamagu② (名) 卵。主として、鶏卵または鳥
の卵をいう。kuuga ともいうが、kuuga
(卵)には擧丸の意味があるので、上流で
は、避けて tamagu という。

tamaguhwin② (名) ガラスびん。kuhwin
は小びん。

tamagaşikuⓐ (名) 玉城。《地》参照。
tamaguzakiⓐ (名) 卵酒。
tamaiⓐ (名) たまり。水溜まりなど。
tamaimiziⓐ (名) 溜まり水。ひと所に溜まって、流れない水。
tamajanⓐ (名) 玉が痛むこと。すなわち、眼球が痛むこと。あるいは睾丸が痛むこと。
tama=juNⓐ (自 =raN, =ti) たわむ。しなやかに曲がる。しなる。
tama=juNⓐ (自 =raN, =ti) 溜まる。mi-zinu ~。水が溜まる。ziNnu ~。銭が溜まる。
tamakuganiⓐ (名) 玉や黄金 (のように大事なもの)。
tamakuganinasi'gwaⓐ (名) [文] 玉や黄金のような産みの子。
tamakugani'zoⓐ (名) [文] 玉や黄金のようなかわいい女。
tamakuganisatu'meⓐ (名) [文] 玉や黄金のような背の君。
tamamiziⓐ (名) [文] [玉水] 水・井戸などの美称。きれいな水辺。'wakanaçiga nariba kukuru 'ukasariti ~ni 'uriti kasira 'arawa. [若夏がなれば 心浮かされて 玉水において かしらあらは (銘苜蓿)] 初夏になったので、心浮き浮きと、美しい水べに降りて髪を洗おう。
tamanuuⓐ (名) [文] 玉の緒。命。nasaki 'ati kakusi nubinu hanaşici, taiga ~nu 'usisa 'araba. [情あてかくせ 野辺の花すすき 二人が玉の緒の 惜しさあらば] 情あって隠してくれ、野辺のすすきよ、二人の命を惜しく思うならば。
tamanuwariⓐ (名) ガラスの破片。
tamaNⓐ (名) 鯛の類。makubu とともに魚のうちでもっとも美味とされるもの。'iibuusaani ~ çijun. えびで鯛を釣る。'iibuu はとびはぜ。
tamaNcaabuiⓐ (名) [玉御冠・たまみきや

ぶり] 玉のかんむり。王冠。

tamasakaⓐ (名) [文] まれ。まれなこと。~nu kujui tuija 'utararutun, sibasi 'akigumuni nasaki 'arana. [たまさかの今宵 鳥や歌るとも しばし明雲に 情あらな] たまに会う今夜のこと、鶏は鳴いても、しばらくの間、夜明けの雲に情があってほしい。
tamasiⓐ (名) 魂。精神。注意し思慮する心。~ kanagijun. 心をひきしめて、注意する。~ 'iqcoon. 精神がしっかりしている。
tamaşiⓐ (名) 銘銘の分。持ち分。
tamasiiⓐ (名) 魂。靈魂。死者の魂をいう。tamasi とは別。生きている人の魂は mabui という。
tamasikwee'kaagiⓐ (名) 賢そりな顔つき。
tamasikwe'emunⓐ (名) 思慮深い者。
tamatagakiⓐ (名) 二股をかけること。二股がけ。niwanu kubagaşini 'Nmaja çinagutun ~ satuni 'uzimu kwiruna. [庭のそばが巢に 馬やつなぐとも たまたがけ里に 御肝呉ゆるな] 庭のくもの巢に馬をつないでも、二股がけの男に心をくれてはいけな。い。
tama'udunⓐ (名) [靈御殿] 琉球王の時代の墓地。首里にある。
tamee=juNⓐ (他 =raN, =ti) 溜めておく。いくつも溜める。tamijun を継続する。
tameesiⓐ (名) 玉代勢。《地》参照。
tamiⓐ (名) ため。tamee 'aran. ためにならない。結果が悪くなる。caçci suba nacee, tamee 'aran. 嫡子をさしおいては、ためにならない。
tamiⓐ (名) ふた目。~too 'Nndaran. ふた目とは見られない。
tami=juNⓐ (他 =raN, =ti) たわめる。ためる。曲げる。'juda ~。枝をたわめる。
tami=juNⓐ (他 =raN, =ti) 溜める。たくわえる。zin ~。銭を溜める。

tamisi

- tamisi**ⓐ (名) ⊖ためすこと。試み。canugutooga ~ qsi 'NNdee. どんなか試してみろよ。ⓐ前例。ためし。munu Yumiba Yiruni Yarawariru ~. [物思めば色にあらはれるためし(忠臣身替)]ものを思うと顔色に現われてしまうものだ。ⓐ限度。ほど。限り。caqsa maasatin ~nu YAN doo. いくらおいしくても、限度があるぞ。
- tami=sjuN**ⓐ (他 =saN, =ci) ためす。試みる。tamisi sjun ともいう。
- tamoosi**ⓐ* (名) 玉城。《地》参照。
- tamuci**ⓐ (名) 保つこと。長く続いてもつこと。
- tamu=cuN**ⓐ (自 =kaN, =ci) 保つ。長持ちする。もつ。tamukasan. 長持ちさせない。子供がおもちゃをすぐこわしてしまふ場合など。
- tamuN**ⓐ (名) たきもの。たきぎ。まき。
- tamuNtujaa**ⓐ (名) たきぎ取りを業とする者。
- tamuN'ujaa**ⓐ (名) たきぎ売りを業とする者。
- tamutu**ⓐ (名) たもと。明治以後、男が断髪してからの衣服はたもとがあったが、それまでは単なる広袖であった。
- tamutusudi**ⓐ (名) たもとのある袖。hukurusudi ともいう。
- tana**ⓐ (名) 棚。~ kacuN. 棚をつくる。
- tanabaraa**ⓐ (名) 棚原 (tanabaru) の者。卑称。
- tanabaru**ⓐ (名) 棚原。《地》参照。
- tanabata**ⓐ (名) たなばた。7月7日。行事の名。墓参・墓地の掃除などをして、盆祭りに備える祭りを行なう。星祭りは行なわなかった。
- tanabi=cuN**ⓐ (自 =kaN, =ci) (油などが) 水面に広がる。Yandanu mizinakai ~. 油が水に浮いて広がる。
- tanagaaimuN**ⓐ (名) 変わり種。また、親

- に似ない者。不肖の子。種変わり者の意。
- tanagaa=jun**ⓐ (自 =raN, =ti) 変種が生ずる。在来の種類とは違ったものとなる。また、親に似なくなる。
- tanagee**ⓐ (名) 川えび。淡水にすむ小えび。
- tanaka**ⓐ (名) 間。中間。Yanu 'jaatu kunu 'jaatunu ~. あの家とこの家の間。sanzitu 'juzitunu ~. 3時と4時との間。
- tanaNka**ⓐ (名) ふたなのか。死後14日目に行なう法事。
- tanari**ⓐ (名) ⊖ていさい。ありさま。身のこなし。風采。また、ぐあい。つごう。便利。'iitanari. (着こなしなどがいいこと。着物などがよくうつること。) ~nu 'jutasjan ('waqsan). つごうがいい(悪い)。便利がいい(悪い)。ⓐ(接尾) cinciidanari (着こなし), munu'iitanari (ものの言いぶり) など。
- tanasi**ⓐ (名) 女の夏の礼服。晴れ着。tunbjan (中国から輸入される布), または上等の芭蕉布で作る。多くは bingata あるいは Yakauu (いずれもその項参照) である。貴族の tanasi は 'ncanasi (御タナシの意) という。
- tanasiwata'ziN**ⓐ (名) tanasi と watazin. 夏冬の礼服。
- tani**ⓐ (名) [文] 谷。tani (陰茎) と同音語なのでほとんど使われない。
- tani**ⓐ (名) 陰茎。男根。soo, çuucuúu などともいう。「種」に対応する。
- tanihjaa**ⓐ (名) どいつ。どやつ。tani を忌んで tanuhjaa ともいう。
- tanin**ⓐ (名) 他人。coodeeja ~nu hazi-mai. 兄弟は他人のはじまり。
- taniZurusi**ⓐ (名) 種おろし。種まき。tani を忌んで saniZurusi ともいう。
- tanuhjaa**ⓐ (名) どいつ。どやつ。tanihjaa ともいう。

tanuka=sjuN① (他 =saN, =ci) 誘惑する。そそのかす。tanukasarijun. 誘惑される。そそのかされる。たぶらかされる。

tanumi① (名) 頼み。依頼。

tanu=nuN① (他 =maN, =di) 頼む。依頼する。tarunuN ともいう。

tanusimi① (名) 楽しみ。

tanusi=nuN① (自 =maN, =di) 楽しむ。

tan① (名) 痰。ことに肺病やみの出す痰。痰は多くは kasagui という。～nu sawai. 肺病。tanunkai ʔiqcoon. 肺病にかかっている。肺病は tanjanmee ともいう。

tan① (名) ㊦反。衣服一着分の布の長さ(鯨2丈8尺)。鯨尺の輸入される前は、両手を広げた尋(1尋4尺の計算)で計った。㊦(接尾) nitan (二反) など。

tan① (名) 炭。木炭。

tanbaku① (名) 炭箱。

tanbii① (名) 炭灰。

tanca① (名) 谷茶。《地》参照。

tancaa① (名) 短気者。

tancai① (名) 短気。～haradaciija kiganu mutu. 短気腹立ちはげがのもと(諺)。

tancaisi① (名) 痰切り。痰をなくする薬。痰切りしの意。こんぶ・飴などがよいとされる。

-tanda (接尾) たぶら。肉の太っている部分を意味する接尾辞。gibitanda (しりべた), kweetanda ʔucun. (まるまると太っている) など。

tandaara① (名) 炭俵。

tandi① (副・名) どうか。どうぞ。たって。懇願・哀願する時に用いる。多く女が言う語。～ʔunasakini ʔuruci taboori. どうかお情けで許して下さい。～tootu, ʔwaaqkwanu nuci taʔikiti kwimisjoori. どうかどうかわが子の命を助けて下さい。～nu nige. たっての願ひ。

tanditandii① (副) どうかどうか。どうぞ

どうぞ。哀願するさま。～qsin tunkeetiN ʔNdantaN. お願いだからと頼んでもふり向いても見なかった。

taNgana① (名) 誰か。taagana と同じ。～ʔikani. 誰が行かないか。

taNganamaNcu① (名) 誰だか。誰かさん。目の前にいる子供をあてこすって言う時などに使う。～ga gaNmari sjun. 誰かさんがいたずらする。

tanJacia① (名) 炭焼き。炭を焼く者。

tanJama① (名) 谷山。鹿児島島の地名。

tanjanmee① (名) 肺病。tanNu sawai. ともいう。肺病になっていることは tanunkai ʔiqcoon. という。

tanKaa① (名) 満一年の誕生日。その祝いの日は机の上にいろいろな物を置き、自由に取りたい物を取らせる。はじめに取る物、次に取る物をもつて、性格を予測し将来を祝福する。はじめに書物を取れば学者になるとか、金を取れば金持ちになるとか、仏飯(ʔubuku)を取れば食の果報があるとか言つて、皆喜ぶ。

tanKaa① (名) 真向かい。正面。

tanKaadaci① (名) 若夫婦の世帯。次男三男が分家して夫婦で一家を営む場合をいう。子供ができて小さい間は tanKaadaci だが、子供が一人前になればそうはいわない。また老夫婦の二人暮らしにもいわない。

tanKageeci① (名) 等価の物品の交換。双方の品物を等価と見て交換すること。もし品物に差違があれば、劣る方の品に何か足して等価にして交換する。その足すことを ʔwii ʔucun という。

tanKaii① (名) 相對して坐ること。さし向かい。-ii<'ijun.

tanKaamaNkaa① (副) 相對するさま。向かい合うさま。

tanKaamisi① (名) 一つ違ひの子を産むこと。年子を産むこと。tiicimisi と同じ。

taNkaanaa①(名)対等。相方が対等であること。一騎打ちとか、同人数のけんか、一對一の品物の交換など。

taNki=juN①(他 =raN, =ti) ⊖病気の体を大事にする。体に用心する。taNkiri 'joo. お大事に。(病人へ語り) ⊕加減を調節する。手加減する。手ごろにしておく。議論などをひかえ目にする。

taNmee①(名)士族の祖父。また、士族の老翁。おじいさん。平民の祖父は Yusju-mee という。

taNmii①(名)短命。coomii(長命)の対。

taNmjatu①(名)田港。taNnatu, taNnaともいう。(地)参照。

taNna①(名)手綱(たづな)。

taNnatu①(名)田港。taNmjatuともいう。(地)参照。

taNni=juN①(他 =raN, =ti) 尋ねる。tazi-nijunともいう。

taNnumuN①(名)どいつ。何者。taaの卑語。～ga. どいつだ。

taNši①(名)たんす。日本風のたんすは coodaŋši(京だんす)という。

taNtii①(名)[新?]探偵。sinubi[文]と同じ。

taNtui①(名)苗代に稲種をまくこと。また、その儀式。

taQcaNtaQcaN①(感)たっちたっち。立った立った。幼児が立ったことをほめはやす語。taQcaNは「立った」。

taQciYadaa=sju'N①(他 =saN, =ci) となりつける。taQciは強意。YadaasjuNはどなる。

taQqikaimuQ'cikai①(副) taqkwaimu-qkwaiと同じ。やや上品な語。

taQqika=ju'N①(自 =raN, =ti) くつつく。taqkwajunと同じで、少し品のいい語。

taQqikihwiQ'ciki①(副) 何度もくつつけるさま。

taQqikimuQ'ciki①(副) taqqikihwiQ'ciki

と同じ。

taQcuu①(名)とがって立っているもの。橋の欄干の柱など。人についてもいう。梵語の塔頭から来た語か。YiitaQcuu. 伊江島の丘にあるとがった岩。

taQkwaa=sjuN①(他 =saN, =ci) くつつける。ひつつける。密着させる。

taQkwaimuQ'kwai①(副) くつつき合うさま。餅などがくつつき合うさま。また、男女間・親子間についてもいう。

taQkwa=juN①(自 =aN, =raN, =ti) ⊖(餅などが)くつつく。ひつつく。密着する。粘着する。⊖(子供が母親に)くつつく。また、(男女が)いちゃつく。

taQkwii①(名)血統。血筋。～nu 'juta-sjaN. 血統がいい。suguridaQkwiiは秀才の血統。

taQkwi=juN①(自 =raN, =ti) ただれる。腫れもので皮膚がくずれる。

taQsi①(名)達し。官府から人民への、また上役から下役への通達。

taQsja①(名) ⊖達者。健康。⊖達者。上手。

taQta①(副) ⊖たびたび。～kuu 'joo. たびたび来い。⊖次に。～masi najun. だんだんよくなる。

taQtiin①(名)盛大。～na gusjuuzi. 盛大なお祝い。

taQtu=bun①(他 =baN, =di) 導ぶ。

taQtuihwiQtui①(副) 胸がどきどきして落ち着かないさま。そわそわ。～sjun.

taraa=juN①*(自 =N, =raN, =Qti) 満ち足りる。不足がない。

tarama①(名)多良間島。宮古群島の島の名。

tara=sjuN①(他 =saN, =ci) 垂らす。垂れ下がるようにさせる。また、したたり落とす。Yusiru～。女が礼装する時、髪をうしろへ垂らすように結り。'judai～。よだれを垂らす。

taratara① (副) たらたら。'judai ~. よだれたらたら。ʔandaguci ~ sjuN. 甘言をたらたら言う。

taree=juN① (他 =raN, =ti) 足す。補う。不足分を加える。

tari① (感・助) もし。tai と同様に tai よりさらに目上に女が用いる敬語。男は sari という。

tari=juN① (自 =raN, =ti) 垂れる。

tari=juN① (他 =raN, =ti) (酒・醤油などを) 醸造する。

tari=juN① (自 =raN, =ti) 足りる。

taru① (名) 樽。saataadaru (黒砂糖をつめる樽) など。

taru① (名) [文] 誰。~ju ʔuramituti nacuga hamaciduri ʔawaN ʔirinasaja ʔwamiN tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥 会わぬつれなさや 我身も共に] 誰を恨んで鳴くか浜千鳥よ、死んだ子に会えない悲しさは、わたしもいっしょだ。

tarugaa① (名) (砂糖用の) あき樽。-gaa <kaa (皮)。

tarugajoo① (名) 柑橘類 (kunibu) の一種。

tarugaki=juN① (他 =raN, =ti) 当てにする。頼みにする。'wakasa tarugakiti 'judandun ʔiruna, ʔnminu hwaja hananu niui siran. [若さたるがけて 油断どもするな 梅の葉や花の 匂ひ知らぬ] 若さを頼みにして油断などするな。梅の葉は花のにおいを知らない。tarugakiru 'jamani ʔami hurasjuN. たきぎを当てにしている山に雨を降らす。山のたきぎを当てにしていると雨で取れなくなる。しないうちから当てにするな。(諺)

taru=nuN① (他 =maN, =di) tanunun と同じ。

tasi① (名) 足し。補い。代理。補欠。~ ʔirijun. 代わりにものを入れる。

tasijaaʔubuN① (名) いため御飯。

tasi=juN① (他 =raN, =ti) (食物を油で) いためる。

tasika① (名) 確か。また、多分。きっと。~ni. 確かに。~na. 確かな。~ 'jami. 確かか。

tasikami=juN① (他 =raN, =ti) 確かめる。

tasikasii① (連体) 確かな。間違いない。~ Qcu. 確かな人物。

taʔiki① (名) 助け。援助。救助。

taʔiki=juN① (他 =raN, =ti) 助ける。

tasima① (名) 他村。よその部落。sima は部落の意。Qcunu sima ともいう。

tasimee① (名) 不足を補う分。足し前。また、不足の立て替え分。立て替え。また、賠償。弁償。~ sjuN. 不足分を補う。立て替える。弁償する。

tasimee=juN① (他 =raN, =ti) 不足分を補う。また、立て替える。人に代わって品物・金銭などを払っておく。また、弁償する。

tasinami① (名) たしなみ。心掛け。

ta=sjuN① (他 =saN, =ci) 裁つ。(布を) 裁断する。tacai nootai. 裁ったり終ったり。

tataasjan① (形) 分に過ぎる。身分不相応である。tataasii kutu. 分に過ぎたこと。

tataci=cuN① (他 =kaN, =ci) たたき込む。

tata=cuN① (他 =kaN, =ci) たたく。

tataka=juN① (自 =aN, =raN, =ti) 戦り。戦闘する。勝負を争う。

tatakee① (名) 戦い。合戦。ʔikusa は戦争。

tatama=juN① (自 =raN, =ti) 滞る。食物が消化せずにとどこおる、溝がつまるなどの場合にいう。

tataN① (名) 畳。biigudatan (備後表の畳) と 'iidatan (琉球表の畳) とがある。

tataNjaa① (名) 畳屋。

tataNzeeku① (名) 畳屋。

tatari

tatari⑩ (名) たたり。鬼神・もののけなどが災いをなすこと。
 tati⑩ (名) 縦。'juku (横) の対。
 tatiçibu⑩ (名) 建坪。
 tatihuda⑩ (名) 立札。禁止事項などを書いて道ばたに立てる札。takahuda (高札) ともいう。
 tatijuku⑩ (名) たてよこ。
 tati=juN⑩ (他 =raN, =ti) ⊖立てる。建てる。⊖起こす。生じさせる。⊖嫁入りさせる。とつがせる。⊕記入する。帳面に金銭や人名などを記入する。
 tatikeeYiri'kee⑩ (副) 何度も茶・湯などを入れかえるさま。また、何度も飯などのお代わりをするさま。~ sjun.
 tatiYukuri⑩ (名) 記入もれ。
 tatu① (名) ふたとせ。二年
 tatugusi① (名) 二年おき。
 tatui⑩ (名) 例。事例。Yunna tatee neraN. そんな例はない。
 tatui⑩ (副) たとえ。~ Yieirinu mici 'jatin. たとえ一里の道であっても。~ YAN 'jarawaN. たとえそうであっても。
 tatuibanasi⑩ (名) たとえ話。
 tatu=juN⑩ (他 =raN, =ti) たとえる。taturee. たとえば。
 tatumitu⑩ (名) 二, 三年。
 taturu=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖(心が) 迷う。落ち着かない。⊖(死者の霊が) 迷う。先祖の祭りを怠ったため、あるいは、先祖の霊が子孫を心配して、迷う。
 tatuui① (名) 二通り。
 taucii⑩ (名) 鬮鶏。tawacii と同じ。
 tawacii⑩ (名) 鬮鶏。鶏の一種。しゃも。またその鶏を、財物をかけて戦わせること。taucii ともいう。
 tawahuri⑩ (名) [文] たわむれ。口語では gaNmari という。mizi husjaja naziki, ~du 'jajuru. [水欲しややなづけ たはふれどやゆる (手水之縁)] 水が欲しいとい

うのは口実であって、たわむれであろう。
 tazi=juN① (自 =raN, =ti) たぎる。煮え立つ。
 tazini=juN⑩ (他 =raN, =ti) tazunijun と同じ。
 tazirasikeesaa⑩ (名) 何度も煮返すこと。また、何度も暖め返した料理。
 tazira=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖tazijun (たぎる) の使役。⊖(食物を) 煮返して暖める。暖め返す。
 tazuni=juN⑩ (他 =raN, =ti) 尋ねる。tazunijun, taNnijun ともいう。しかし、口語ではふつう tumeejuN (求める), cicun (聞く) などを用いる。
 tee⑩ (名) 力。たえる力。はねかえす力。堪えの意か。teezikara, teecikara ともいう。~nu YAN. (たえる) 力がある。~ Yiqti hwicun. 力をこめて引く。~ sjun. 根にもつ。恨みもち、対抗する。~tun miitun kanaan. どうにもこうにもしようがない。いくら苦心し努力しても、いたしかたがない。cimutun ~tun kanaan. も同じ。~N tataran. 力の入れどころがない。張り合いがない。Yanu gutooru 'warabitoo ~N tataran. あんな子供とでは張り合いがなく本気になれない。~N tatan. 煮えきらない。はっきりしない。~N tatan hwizi sjutan. 煮えきらない返事をしていた。
 tee⑩ (名) たいまつ。竹・かや・きびがらの類をたばねて火をともし、照明用としたもの。松のそれには tubusi という。
 tee⑩ (名) 胎。胎児。~ Yukijun. 胎を受ける。懐胎する。kweetee sjun と同じ。
 -te'e (助) と言い。繰り返して用いることが多い。Yicun~ Yikan~ qsi Yooetiee sjuna 'joo. 行くだけの行かないの言っけんかするなよ。'jan~ Yaran~. そうであると言い、そうでないと言い。甲論乙駁。

- teebii⑩ (名) tee (たいまつ) の火。
- teebjoo⑩ (名) 大病。重病。
- teebuku⑩ (名) 大木。大樹。ʔuhugii と
もいう。
- teebuN⑩ (名) 大分。たくさん。
- teeçi=cuN⑩ (自 =kaN, =ci) 燃え付く。つ
けた火がよく燃えはじめる。
- teeciʔkara⑩ (名) 堪える力。また、大力。
teezikara ともいう。tee の項参照。
- teeçiki=juN⑩ (他 =raN, =ti) 焚き付ける。
- teedaka⑩ (名) 多量。たくさん。多額。
~ mookitaN. たくさんもうけた。
- teeduku⑩ (名) 胎毒。胎児の時に胎中で受
けた毒。
- teegec⑩ (名) ⊕大概。大てい。おおよそ。
~ siqcooN, 大概知っている。⊖大概の
程度。相当。~du ʔjaru. 大したことはな
い。~ja ʔaŋ. 相当なものだ。まずまず
だ。
- teegecʔaŋmiN⑩ (名) 概算。目の子勘定。
- teehaikaziʔhai⑩ (副) 声を限りに。あらん
限りの声で叫ぶさま。simatiihjaatii と
もいう。~ ʔabijun. 声を限りに叫ぶ。
- teehati=juN⑩ (自 =raN, =ti) [新] 絶え
果てる。
- teehujaa⑩ (名) tee (たいまつ) を振る者。
綱引きの時には、火をつけた tee を大勢
がふりかざし、暗夜も白昼のように明るく
なる。
- teehuu⑩ (名) 台風。大風。おとなの使う
語。ʔuukazi ともいう。
- teehwa⑩ (名) 冗談。おどけ。こっけい。
- teehwaa⑩ (名) おどけ者。
- teehwaku⑩ (名) 太白。白砂糖。
- teejaku⑩ (名) 大役。重い役目。
- tee=juN⑩ (自 =raN, =ti) ⊖ 費える。欠乏
する。とぼしくなる。消費されて減って
いく。⊖ 絶える。なくなる。減びる。ʔatu
~. 子孫が絶える。
- teeku⑩ (名) 太鼓。
- teekuku⑩ (名) [大国] 中国を大國として
尊敬している語。
- teekwan⑩ (名) 大官。高位高官の人。
- teʔemaN (助) ても。とて。…したところ
で。ʔicaN ~ cikaN. 言たって聞かない。
- teen⑩ (名) 織機の篋(おさ)の種類の名。
経糸960本を通すもの。また、それで織っ
た布。huuci の項参照。
- teʔeN (助) ても。とて。…したところで。
-teemaN と同じ。ʔicaN ~ caa sjuŋa.
言ったところでどうなるか。
- teen (接尾) だけ。きり。cuiteen ʔuru
qkwa (ひとりきりでいる子。ひとりきり
の子) など。
- teenNaatu⑩* (名) 炬港。本部半島の北岸に
ある港の名。
- teera⑩⑩ (名) 平良。《地》参照。
- teera⑩ (名) 田井等。《地》参照。
- teeruu⑩ (名) 逗留。滞在。
- teesaga=juN⑩ (他 =raN, =ti) (けんか・
議論などで相手に) 食い下がる。
- teesici⑩ (名) 大切。大事。~ni muqci
ʔaQxi. 大切に持って歩け。mimuci ~ni
Qsi ʔjoo. 体を大切にしろよ。お大事に。
~na. 大切な。
- teesjoo⑩ (名) 大将。かしら。一群の長。
- teesjuku⑩ (名) 大食。健啖。
- tee=sjuN⑩ (他 =saN, =ci) ⊖ 費やす。消
費する。使って減らす。ziN ~. 金を費や
す。⊖ 絶やす。
- teesoo⑩ (名) 難儀。困難。tusi tuti, ʔa-
qcuŋin ~. 年をとって、歩くのも難儀。
- teeteemunii⑩ (名) teeteemunuʔii と同
じ。
- teeteemunuʔii⑩ (名) 舌がもつれるよう
な、ものの言い方。
- teetii⑩ (名) 大てい。大概。一とおり。あ
らかた。~nu kutoo ʔwakajun. 大てい
のことはわかる。~ ʔjutasjan. あらかた
いい。

- teetutuumi**① (副) せいぜい。たかだか。
～ ?uzoobaan 'jasa. せいぜい御門番に
しかなれないよ。
- tee?utugee**① (名) 二重あご (太った人な
どの)。tee はふたえの意か。
- teewa**① (他) おあがり。お食べ。老女が目
下に「食べよ」という意をやや丁寧という
語。命令形のこの形のみを用いる。普通の
人は kamee (食べろ) という。
- teewaka=sjuN**① (自 =san, =ci) (否定形は
あまり用いない) 聞き分けがない。もて余
す。子供などが、わがまま・乱暴をして困ら
せる。人の体を分かつ意。teewakacooru
'warabi. もて余すような子供。
- teezee**① (名) 滞在。逗留。旅をして、ひと
所に長くとどまること。
- teezikara**① (名) 大力。
- teezi'kara**① (名) teecikara と同じ。
- tenbusu**① (名) でべそ。?wenbusu と同
じ。
- teNteN**① (副) 三味線の音のさま。
- teNtuu**① (名) 三味線の小兒語。
- ti** (接尾) 手。グループ・隊などを数える
接尾辞。cuti (一手), tati (二手), ?iku-
tii (幾手) など。
- tibana=sjuN**① (他 =san, =ci) 手放す。持
ち物を売却することなどをいう。
- tibee=juN**① (自 =ran, =ti) あばれる。乱
暴狼籍を働く。ひどいいたずらをする。
- tibici**① (名) 料理名。普通 ?utibici とい
う。その項参照。
- tibiku**① (名) 農具の名。木製で、さつまい
もの苗を植えるために穴を掘る場合などに
用いる。手鉾の転か。
- tibusi**① (名) 腕力。腕っぶり。また、働き。
手節の意。qkwanu ~ kanun. 子の働
きに頼る。
- tici**① (名) 敵。戦う相手。また、かたき。
- tiçi**① (名) 鉄。
- tiçijaQkwan**① (名) 鉄びん。
- tidaN**① (名) 手段。てだて。方法。cimu-
nurusu sici 'uti, musika tancaga ~
hwicikawaci, ?umingwanu ?wiini
?arasigwinu ?araba, nigati 'uru ku-
tun ?umuti 'jaku tatan. [肝ぬるさし
ちをて 若か谷茶が 手段引替ち 思子の
上に あらし声のあらば 願てをる事も
思て役立たん (大川敵討)] のんびりして
いて、もしも谷茶が手段を変えて、若君の
上に万一のことがあったら、願っているこ
とも何の役にも立たない。～nu neeran.
手だてがない。
- tidaşiki**① (名) 手助け。加勢。他の仕事を
助けること。
- tidee**① (名) 饗応。人にごちそうすること。
- tidee=juN**① (自 =ran, =ti) 饗応する。ご
ちそうする。
- tidikuN**① (名) 手登根。《地》参照。
- tigakai**① (名) 手掛かり。捜し出す、また
は着手する端緒。
- tigami**① (名) 手紙。むかしは hagaci (端
書) といった。その項参照。
- tigancee**① (名) 手伝い。加勢。仕事の手助
けをすること。
- tigara**① (名) 手柄。功勞。
- ti'garoo** (助) とか。とかいう。maaga-
na～。どことか。
- tigukuru**① (名) 手心。手加減。
- tiguma**① (名) 手先が器用なこと。
- tigumi**① (名) 手組み。手配。手はず。準
備。?acaga hwini naraba, ?ikusa ?u-
sijusiti, ?ucitujuru ~ sjuru ?ucidu
'jataru. [あちやが日にならば いくさ押
寄せて 討ちとゆる手組 しゆるうちどや
たる (忠臣身替)] あすになったら軍勢が
押し寄せて打ち取る手配をしているところ
だった。tigumee seemi. 手配はしてある
か。
- tigusu**① (名) てぐす。てぐす糸。てぐす蚕
から取った糸。つり糸用。tigusui ともし

る。

tigusuiⓄ (名) tigusu と同じ。

tigutuⓄ (名) 手事。歌が中断している間の、琴・三味線の弾奏。

tihooⓄ (名) 次の句で用いる。～ ʔusinajun. 途方にくれる。なすところを失う。tadeemanu kutu 'jati, ~ ʔusinajun. 突然のことで、どうしてよいかわからなくなる。

tihuiⓄ (名) 手振り。踊りの手振り。ʔun-nadaki nubuti ʔusikudai miriba, ʔunnamaçiganiga tihuzirasa. [恩納岳登て 押し下り見れば 恩納松金が 手振りぎよらさ] 恩納岳に登って、はるか下を眺めると、松の枝振りの美しさはここで恩納松金が舞った時の手振りの美しさを思い出させる。

tihunⓄ (名) ⊖手本。模範。⊖見本。

tihwana`wazaⓄ (名) 危険なわざ。あぶないふるまい。

tiiⓄ (感) ひい。一つ。声を出して数える時ののみいう。

tiiⓄ (名) ⊖手。腕の付け根から指先までの全体。また、手首から先。その敬語は 'nci. ~ ʔusjaasjun. 手を合わせる。合掌する。~ kamijun. 手を頭にのせる。頭をかかえこむ。悲しい時、心配な時、寝て手を顔にのせて悩む時などのさまをいう。~ kusjaa maaci sibajun. 後ろ手に縛る。~ kara hanasjun. イ. 手から放す。ロ. (大事なものを) 手放す。売却する。(大事なものを) 失う。~ nu tudukan. 手が届かない。及ばない。また、行き届かない。~ nu 'warijun. ひび・あかぎれなどができる。~ neejun. 手を出す。手を差し出す。また。なぐる。~ miijun. 子供が成育して、働けるようになる。手が生える意。⊖取っ手。柄。⊖手腕。技。術。また、手段。方法。Ⓞ唐手。拳法の術。~ çikajun. イ. 唐手を使う。

また、唐手の技を演ずる。ロ. 転じて、人が働いている時に何もしないでいる。冗談にいう。

tiiⓄ (名) 樋。竹製が多い。

tiiʔabuiⓄ (名) 手あぶり用の小さい火鉢。hwiruu と同じ。

tiiʔandaⓄ (名) 料理を特に念を入れて作ること。手の油の意。~ ʔnzasjun. 念入りに料理する。手の油を出す意。

tiiʔarasaⓄ (形) 手荒い。しわざ、物の扱い方が荒っぽい。

tiiʔareeⓄ (名) 手洗い。手を洗うための器。また、その水。

tiibeesaⓄ (形) ⊖手早い。仕事が早い。
⊖短気で、すぐ手を出してなぐる。

tiibucukuruⓄ (名) ⊖ふところ手。⊖働かずに何もしないこと。

tiiburaariⓄ (名) 手不足。人手が足りないこと。buraari は不足。

tiibusukuⓄ (名) 手不足。人手が足りないこと。tiiburaari ともいう。

tiiciⓄ (名) ⊖一。一つ。一個。sjuutee ~ najun. 所帯が合併して一つになる。⊖似ていること。そっくり。同じ。çira ~. 顔がそっくりで同一人のようだ。

tiicibiriiⓄ (名) 一つ一つ拾うこと。また、一つ一つ数えあげること。

tiiciçaciⓄ (名) 一つ何何と書くこと。箇条書き。

tiiciʔirabiⓄ (名) 一つ一つ丁寧に選ぶこと。多くの中からいいものを選び出すこと。

tiiciçimaciaⓄ (名) 一つ一つが一つの者。taaçimacia の項参照。

tiiciçimisiⓄ (名) 年子を産むこと。tanakaçimisi ともいう。misi は見せることで、弟妹を兄姉に見せるの意。弟妹が生まれることを ʔuçtu misijun という。年子はまれに tusingwa ともいう。二つ違い(三つ違い)の子を産むことは、taaçimisi (miiçimisi) という。

tiijimunⓄ (名) 同じ物。同一物。また、すっかり同じもの。taacuu 'jakutu giraa ~ 'jasa. ふた子だから顔はすっかり同じだ。~nu gutoosa. 同一物のようだ。

tiiciribocennⓄ (名) 料理を作る材料が少なく、hoocuu (料理人) が苦心すること。また、客が大勢で家族の食う物がいないことなどをもいう。tiiciri は切るものがなくて手を切るの意。

tiicizaaⓄ (名) 一杯のお茶。次のことわざで用いる。~ja numan mun. お茶は一杯だけは飲まないもの。どんなに急ぎの時でも二杯以上飲むべきだ。ゆっくり落ち着いてせよという意味の教訓。

tiidaⓄ (名) 太陽。お日さま。日輪。~nu 'agatoon. 日が上っている。

tiida?amiⓄ (名) 日照り雨。きつねの嫁入り。tiidabui ともいう。

tiidabuiⓄ (名) tiida?ami と同じ。

tiidabuuiⓄ (名) ひなたぼっこ。

tiidarusanⓄ (形) 手がだるい。重い物を長く持っている時とか手を長く上に上げている時とかなど。

tiigooⓄ (名) 手でするいたずら。てご・てんごう(本土諸方言)。tiinuganmari ともいう。~ 'gicoon. いたずらばかりしている。

tiigurumaⓄ (名) 手かせ。罪人の手にかけるもの。またその刑罰。

tiigusiⓄ (名) 手癖。物を盗む癖。

tiigusuiⓄ (名) 栄養剤となる食物。たとえば 'irabuu (えらぶうなぎ), tuisinzi (鶏のスープ) など。

tiiguusjanⓄ (名) 坐って手を後ろについて、体を支えること。

tiihagoosaNⓄ (形) はがゆい。もどかしい。自分で手を出したくなる。

tiihwicibooziⓄ (名) ⊖ 葬式の引導値。⊖ 悪友。誘惑する者。

tiihwisjaⓄ (名) 手足。手と足。

tiihwisjadooriⓄ (名) てんてこまい。

tiihwisjamaçibuiⓄ (名) 手足まとい。

tiijiriⓄ (名) ⊖ 畑の手入れ。⊖ 物品の修繕。⊖ 外科手術。

tiijooⓄ (名) 手振り。手つき。おもしろく話す時などの手まね。

tiijoohisja'jooⓄ (名) 手つき足つき。手振り足振り。

tiijurusjaaⓄ (名) 手を放すこと。綱渡りなどで、何もつかまえないこと。'jurusjaa < 'jurusjun (放す)。

tiikarahana=sjunⓄ (他 =san, =ci) 手放す。tiikara hanasjun ともいう。

tiikwaahwisja'kwaaⓄ (副) いちいち食ってかかるさま。人のすることを片はしから非難攻撃するさま。手を食おう足を食おうの意。~ sjun.

tiimaⓄ (名) 汀間。《地》参照。

tiimaamaaⓄ (副) 準備なく、うろたえるさま。~ sjun.

tiimaamiⓄ (名) 手豆の意。なれない労働などで手にできるまめ。

tiimamiziⓄ (名) 手先でする仕事で手順を間違えること(機織りなど)。

tiimaniciⓄ (名) 手招き。tiimanuci, timanuci ともいう。~ sjun.

tiimanuciⓄ (名) tiimanici と同じ。

tiimaqkwaⓄ (名) 手枕。自分の手を枕に寝ること。これに対し、'udimakura は他人の腕を枕にすること、または他人に腕を枕に貸すこと。

tiimimiziⓄ (名) 老人や病人などの足腰を手でもむこと。あんま。~ sjun.

tiimooⓄ (名) 手の無い者。手無し。-mooはその項参照。

tiimookaaⓄ (名) 前項の卑称。

tiimookuuⓄ (名) 手の無い者。手無し。やや卑称。tiimuqkoo ともいう。

tiimucamucaⓄ (副) ⊖ 手にねばり気のあるものがついて、手がねばねばするさま。

- ◎仕事などののろいさま。もたもた。～
sjUN.
- tiinuqkoo**◎ (名) 手の無い者。手の切れて無くなった者。-muqkoo の項参照。
- tiimutaan**◎ (名) 手でいたずらをするこ
と。-mutaan はその項参照。
- tiinagasan**◎ (形) 盗み癖がある。手が長い
の意。盗み癖のある者は hwizaidiinagaa
(左手の長い者) という。
- tiinaree**◎ (名) tinaree と同じ。
- tiineehwisja'neei**◎ (副) けんかをいどむ
さま。手を出したり足を出したり。～
sjUN.
- tiinii**◎ (名) 丁寧。～na kutuba. 丁寧な
ことば。～ni gurii sjUN. 丁寧におじぎ
する。
- tiiniisan**◎ (形) 手がのろい。仕事がおそ
い。niisan は遅い。
- tiinuʔaja**◎ (名) 手のひらにあるすじ。掌
紋。
- tiinuganmari**◎ (名) 手でするいたずら。
tiigoo ともうい。ganmari はいたずら。
- tiinukubi**◎ (名) 手首。
- tiinuʔura**◎ (名) 手のひら。tiinuwata と
もうい。～hwaahwaa sjUN. (子供が病
気などで) 手のひらが熱っぽい。
- tiinuwata**◎ (名) 手のひら。
- tiinuzaa**◎ (名) ◎すもうの手の名。手を
相手のわきの下から抜いて背の上に回し帯
を取る。◎水泳の技。抜き手のこと。
- tiin**◎ (名) 手斧の一種。柄の長さ50センチ
ぐらい。刃が鉄のように、柄と交差する方
向についているもの。
- tiin**◎ (名) 織機の篋(おさ)の種類の名。
経糸800本を通すもの。また、それで織っ
た布。huduci の項参照。
- tiinkee**◎ (名) 手向かい。反抗。
- tiinna**◎ (名) 綱引きの時、大きな綱にたく
さんつける小さな綱。人が引きやすくした
もの。手綱の意。çinahwici の項参照。
- tiinNzari**◎ (名) ◎手をよごすこと。◎やっ
かいな事にかかわること。
- tiira**◎ (名) 照屋。《地》参照。
- tiirami**◎ (名) 十匁。指輪・ziihwaa (か
んざし)・糸・真綿のように軽い物を計る
時に用いる。めったに使わない語。普通の
物を計るには、zuumunmi という。
- tiiru**◎ (名) 手かご。手にさげて持つかご。
また、手のついたざる。sagidiiru は天井
にさげるざる。
- tiisaaʔan**◎ (名) 菓子の名。月餅に似た菓
子で、中国伝来のもの。餡に油や香料がは
いっていて、特別な風味がある。
- tiisaazi**◎ (名) 手ぬぐい。saazi は頭に巻
く布。
- tiisagui**◎ (名) 手探り。暗い所で物を捜す
時などの動作。
- tiisica**◎ (名) 手下の転。身分・官位・富
などの程度が自分より下の者。'jumee
～kara. 嫁は自分の家より低いところか
らもらえ。
- tiisigutu**◎ (名) 手仕事。手先でする簡単
な仕事。tiiwaza ともうい。
- tiisju**◎ (名) ◎亭主。家の主人。◎宴会な
どの主人役。
- tiisuʔan**◎ (名) tiisaaʔan と同じ。
- tiitoo**◎ (名) [新] 抵当。担保。sicimuçi
ともいう。
- tiitoodaicii**◎ (名) 手をこまねくこと。何
もしないで傍観すること。
- tiiturationa**◎ (副) 手に取れるほど近いさ
ま。
- tiiʔukuri**◎ (名) 手おくれ。手当がおくれ
ること。また、機会を失すること。
- tiiʔuqaki**◎ (名) 肩の後ろの、手を肩の
上からまわして届く部分。そこにできる腫
れものは特に悪性とされる。
- tiiʔuʂeei**◎ (名) 軽く見ること。相手を見
くびること。
- tiiʔwii**◎ (名) 手腕が上であること。

tiiwacaree① (名) 手をわずらわすこと。面倒な事に掛かりあうこと。
tiiwatasi① (名) 手渡すこと。手から手に直接渡すこと。
tiwaza① (名) 手仕事。手先の仕事。
tiiza① (名) 手首の痛むこと。
tiizikaan① (名) 手づかみ。また、手づかみで食うこと。
tiizikasan① (形) ①表通りに面して、通りから手が届くくらいである。表通りで、物を盗られやすい。②近所である。
tiizikee① (名) tizikee と同じ。
tiiziki=juN① (他 =raN, =ti) ①手なずける。懐柔する。②病人などを、よく世話する。
tiizikuN① (名) にぎりこぶし。げんこつ。tikubusi ともいう。
tiizooki① (名) 取っ手の付いたざる。sooki (ざる) はその項参照。
tijaga=juN① (自 =raN, =ti) 晴れあがる。照りあがるの意。
-ti'jai (助) とか。tigaroo ともいう。文語は tijari。
-ti'jari (助) [文] とか。口語は tijai. kakuci ʔaN~。隠してあるとか。
ti=juN① (自 =raN, =ti) 照る。tiidanu ~。日が照る。
tikaci① (名) 灌木の名。車輪梅。てかちぎ。樹皮、ことに根の皮から茶褐色の染料を取り、沖縄産の ʔakazumii の原料とする。
tikazi① (名) ①手数。~ kakijun. 手数をかける。②唐手を演ずる際の変化する手の数。
tiku①* (名) ①てこ。②かま・ほうちょうなどの柄につけて刃を固定させるための金具。
tikubai① (名) 手配り。手配。手分けして各自の部署につくこと。
tikubusi① (名) 手こぶしの意。げんこつ。tiizikuN ともいう。

tikugu① (名) [文] 廃藩前の役名。banzu [番所] の下役人。
tima① (名) ①手間。仕事に費やす時間。②手間賃。
timaciN① (名) 手間賃。
timadaari① (名) 手間ばかりかかること。手間つぶし。手間損。
timahwima① (名) 費やす時間。手間どる時間。
timakura① (名) [文] tiimaqkwa の文語。
timani① (名) 手まね。
timanuci① (名) tiimanuci, tiimanici と同じ。
timatujaa① (名) 日傭取り。日雇いの労働者。
timawasi① (名) ①手回し。準備。~nu 'jutasjaN. 手回しがいい。②暮らしが楽になること。生活に余裕ができること。tarututiN hwicui ~nu ʔikaba. [誰とても一人 手廻のいかば (花売之縁)] 誰でもひとり生活にゆとりができれば。
timigušiku① (名) 豊見城。《地》参照。
timizi① (名) [文] [手水] 恋人に水を手ですくって飲ませること。国頭の名護間切許田村に手水物語の井戸がある。むかし薩摩の武士がこの井戸で水を汲んでいる娘に手水を飲ませてもらい、その娘を自由にしたことから、後世「手水之縁」という組踊りも脚色されるに至ったという。
tinami① (名) 手並み。腕前。
tinaree① (名) 手習い。字のけいこ。tiinaree ともいう。
tinuʔuci① (名) [文] ①手の内にあるように、容易なこと。ʔumiŋwatu 'waNja tageni nihaciguru, mikatajui hukani taga sijura 'jariba, ticiju damasjušija ~du 'jajuru. [息子とわ身や 互に二入比 味方より外に 誰が知ゆらやれば 敵よだましゆすや 手の内どやゆる (忠臣身替)] 若君とわたしとは共に十六歳で、

味方よりほかには誰も知らないだろうから、敵をだますのはわけないことだ。㊦家来。

tiNuza④ (名) 手芸。手のわざ。ししゅうなどをいう。

tiN④ (名) 天。空。sura (空) は文語。～
çirugaaJun. 天につらなる。～tu zii.
天と地。天地。

tiNbaçi④ (名) 天罰。

tiNbee①* (名) 楯。

tiNcama④ (名) いたずら。手のいたずら。

tiNcamaa④ (名) いたずら小僧。

tiNci④ (名) 天気。空模様。ʔwaaçiçi (上
っ気)ともいう。

tiNci④ (名) [文] 天地。

tiNda④ (名) 手のひら。たなごころ。～nu
ʔuqpi. 手のひらの広さだけ。狭いものの
形容。猫のひたい。

tiNga④ (名) 天下。

tiNgaacuu④ (名) 天鵝絨(びろうど)。

tiNgaara④ (名) 天の川。銀河。ʔakijo tin-
garaja simajukuni natusa, dikajo ta-
cimudura ʔjubinu zibun. [あけやう天
川原や 島横になとさ でかやう立戻ら
よべの時分] あれ、天の川が島の横になっ
てしまったよ。さあ帰ろう。ゆうべと同じ
時間だ。

tiNganasi④ (名) [文] 国王の敬称。sjui-
tinganasi ともいう。

tiNgee④ (名) 天蓋。葬送の棺の上にさしか
けるもの。長いさおの先に龍の彫刻をした
ものが付けてある。

tiNgu④ (名) 天狗。山中にいる天狗の意で
なく、自慢する者に対するあだ名として使
う。

tiNgwan④ (名) 天願。《地》参照。

tiNgwanGaa④ (名) 天願川。川の名。中頭
郡にあり東海岸に注ぐ。

tiNnaa④ (名) 伝馬。はしけ。

tiNmii④ (名) 天命。身にそなわった運命。

tiNmuN④ (名) 天文。天体の現象。また、
天体の現象による占い。たとえば, hooci-
businu ʔagainnee kuninu ʔjaku. (ほう
き星があがれば国厄) のようにいう。

tiNna④ (名) 天仁屋。tinNja ともいう。
《地》参照。

tiNnasi①* (名) 一名代。《地》参照。

tiNnja④ (名) 天仁屋。tinNna ともいう。
《地》参照。

tiNnuQeu④ (名) 天人。天上に住み, tubi-
zin (飛びぎぬの意。羽衣) を着た想像上
の人。

tiNpura④ (名) てんぷら。sisitinpura (豚
肉のてんぷら), ʔijutinpura (魚のてん
ぷら) など。

tiNsama④ (名) 次の句で用いる ~ keeri-
jun. ひどく騒ぐ。わめき騒ぐ。疼痛の激
しい時、子供が泣き騒ぐ時などにいう。

tiNsi④ (名) [文] [天使] 中国からの使者。
冊封使のこと。

tiNsi④ (名) [文] 天子。

tiNšii④ (名) 天水。雨水。海岸地方で井戸
水に塩分のある所では、軒の雨水を溜めて
飲料水に使う。お茶の水には井戸水より天
水の方がよいとして、わざわざ天水を溜め
ておく好事家もある。

tiNšigaami④ (名) 天水甕。天水を入れる
かめ。口が狭く胴が広い。handuugaami
(普通の飲料水用のかめ) は反対に口が広
い。

tiNšikan①* (名) ところてん。てんぐさを
煮てそのかすを去り、冷やして固めたも
の。kuuribuutu ともいう。

tiNsjaguu④ (名) ほうせん花。つまくれな
い。女兒がこの葉をもんで爪を染める。
tiNsjagunu hanaja çimizacini sumiti,
ʔujanu ʔjusigtutuja cimuni sumiri.
[てんしやごの花や 爪先に染めて 親のよ
せ言や 肝に染めれ] つまくれなひの花は
爪に染めて、親の教訓は心に染めよ。

tiNsuu① (名) [天數] 天から与えられた運命。天命。～ kamiti ?NmaritooN. 天運をいただいて生まれている (王などについていう)。

tiNzanasi① (名) [文] tinganasi と同じ。

tiNziku①① (名) [文] 天竺。?ikana ～nu ?unitacinu ?uzoN, kuinu mici 'jariba ?akidu sjujuru. [いかな天竺の 鬼立の御門も 恋の道やれば 開きどしゆゆる (手水之縁)] たとえ天竺の鬼の立っている門でも恋のためなら開くものだ。

tiNzoo① (名) 天井。

tiNzoogita① (名) 桁。屋根の梁とうちちがいに渡す材木。

tioosao① (副) 右往左往。うろたえて騒ぐさま。～ sjun.

tiqkoo① (名) 手の卑語。～ magirariin doo. 手をひん曲げてやるぞ。

tiqpau① (名) 鉄砲。

tiqpunsudii① (名) 筒袖。

tira① (名) 寺。寺院。

tiracaga=juN① (自 =raN, =ti) 照り輝く。tiracagati mijusa ?umui ?aru simanu, 'jujuru tusi mudusu hananu kukazi. [てらちやがて見ゆさ 思ある島のよよる年もどす 花の木蔭] 照り輝いて見えるぞ、思いをかけている郭の、寄る年を押し返すような花の木かけ (愛人) が。

tiramunumee①* (名) 寺参り。宮参りをもいう。参詣。参拝。

-ti'ramuN (接尾) というもの。ともあろうもの。'winagutiramun banzuni tumajumi, ?isuzi suzisuzi 'jadu kakara. 女ともあろうものが番所に泊まることがあるものか。急いで家に着こうよ。

tiriwata=ju'N① (自 =raN, =ti) 照り渡る。**-ti'ru** (助) という。てふ。kubama～ simaja kwahuna sima 'jariba, ?uhudakija kusjati sirahama me naci. [小

浜てる島や 果報な島やれば 大嶽やこしやて 白浜前なち (八重山民謡)] 小浜という島は恵まれた島なので、大嶽を背にして、白浜を前にしている。

-ti'sa (助) とさ。伝聞にもとづくことを人に伝える時用いる。?ataN～. あったとさ。'utaN～. いたとさ。

-ti'si (助) ということ。というもの。guIN～ siran ?uciju～ siran 'wamija kunu sikenu hwituja ?aran. [御縁てす知らぬ 浮世てす知らぬ わ身やこの世界の 人やあらぬ (銘苅子)] 御縁というものを知らない、浮世というものを知らない わたしは、この世界の人ではありません。

tišimigakumuN① (名) 習字や読書。すなわち、学問。

tiširazi① (名) 汀志良次。《地》参照。

tisoo① (名) 手相。手のひらの相。また、それを占うこと。

titiNdii① (名) 身の毛のよだつようないやな事。ぞっとするような事。

tiwaki① (名) 手分け。何人かで仕事を分担すること。

tižikee① (名) 手づかえの意。仕事で手がふさがって都合が悪いこと。

tizima① (名) ㊦着物の柄の名。かすりと縞のまぜ織り。㊦tizimawatazin と同じ。

tizimawataziN① (名) tizima の 'watazin (冬の礼服)。女用。

tižukui① (名) 手製。手作り。

toNtoNmii① (名) ㊦水切り。石を水面に投げ、水面を切って飛ばせること。㊦魚名。とびはぜ。海辺の地上をトントン飛んでいくのでいう。

too① ㊦(感)さあ。それ。気合いを入れる声。また、あらたに思いを入れる時などに発する声。さあ。さて。～ ?utee. さあ打て。～ naa caa sjuga. さあ、どうしよう。～ 'joo caa sjaga. さて、どうしたんだろう。㊦(副)もういいという意。よ

し。～'jasa. よし。これでいい。naa 'jasa ともいう。tooi. もういいか。かくれんぼの鬼の呼び声にもなる。naai ともいう。「もういいよ」は tooru.

too① (名) [唐] ⊖中国。沖縄では中国をいつも唐と呼んだ。中国も、沖縄と交通する時には、宋・明・清の時代になっても唐と称したようである。～nu qcu. 中国人。～nu ʔazi. イ. 唐の按司。冊封使のこと。ロ. 馬鹿。間抜け。お人よし。⊕遠方の国の意から転じて、あの世。～Nkai ʔNzan. 死んだ。

too① (名) 平坦。平ら。また土地の平らな所。平地。

tooʔaʔiree① (名) 中国の製品は丈夫で、あつらえ物のように上等であるの意。'jamat-usjoobee ～. と対句にしている。'jamat-usjoobee は日本製品は粗製濫造の意。

toobaru① (名) 平原。平野。'wakasa hwi-tutucinu kajuizinu suraja 'jaminu sakuhwiraN kurumatoobaru. [若さ一時の 通路の空や 闇のさくひらも くるまたる原] 若い時恋人の所へ通う心は、闇の急坂も砂糖車を据えつけるような平原と同じである。

toobaru①① (名) 桃原。《地》参照。

toobiraa① (名) 鬮魚。亜熱帯産の小魚で、赤青の縞があり、鬮争を好む。

toobun① (名) 当分。相当の期間。しばらく。

toocoo① (名) [新] 東京。

toodii① (名) 唐手。単に tii ともいう。

toogudee① (名) 現代。当代。sacigudee (昔) に対する。

toogumii① (名) 南京米。外米。内地米は ziimee (地米) という。

toohjaa① (感) それっ。けんかの相手にいどみかかる時などに発する。

toohu① (名) 豆腐。製法は日本と異なり、かすは煮る前に絞って去って、その後煮て

苦汁を加えて固める。

toohucanpuruu① (名) 料理名。豆腐の油いため。

toohuʔirici① (名) 料理名。炒り豆腐。toohucanpuruu ともいう。正確には、toohuʔirici は油が少ないものをいい、toohucanpuruu の方が上等で正式の名。

toohujoo① (名) 豆腐を発酵させて作ったもの。風流人が茶請けにする。

toohumaami① (名) 豆腐豆の意。大豆。

toohunaabi① (名) 豆腐を作る鍋。特別に大きく作られる。

toohunabii① (名) 植物名。ほおずき。女の子が実を口に含んで鳴らす。

toohunuguu① (名) 大豆を水に浸し、ひいて布でこした液。型付けなどの染色の材料として用い、色をとめる作用をもつ。

toohunujuu① (名) 豆乳。

toohunukaʔi① (名) 豆腐のかす。おから。うのはな。

toohunukaʔiʔirici① (名) おからを油でいため、魚・肉・野菜などいろいろの材料を入れた料理。

toohuʔujaa① (名) 豆腐売り。多く女が頭にのせて売り歩いた。

toohwi① (名) 当日。

toojaamaa① (名) さなぎ。蚕のさなぎ。tooja maa 'jaga ～. 唐はどこなの、さなぎさん。(童謡)

toojama① (名) 当山。《地》参照。

tooja'matu① (名) too (中国) と 'jamatu (日本)。

tookaci① (名) ⊖とかき。ますかき。穀類を拵で計る時、拵の縁と平らに掻きならす道具。竹で作り、一端を斜に切ったもの。⊕tookaciʔuiwee と同じ。～sjun. 米寿の祝いをする。また八十八歳になる。

tookaciʔuiwee① (名) 八十八の祝い。米寿の祝い。hacizuuhaci, 'juninuʔuiwee などともいう。tookaci を客にみやげとして

tookaciʔujuwee

与え、大勢の客があやかりに行く。

tookaciʔujuweeⓈ (名) tookaciʔuiwee と同じ。

tookunibuⓈ (名) 柑橘類の一種。唐九年母。

toomaⓈ (名) 当間。《地》参照。

toomaamiⓈ (名) そら豆。

toomaqkwaⓈ (名) 枕の一種。中国製の枕。木製で漆塗り。

toomi① (名) 当銘。《地》参照。

toomi=juN① (他 =raN, =ti) ならず。平らにする。

toomuNⓈ (名) 唐物。中国産の物。上等なことを意味する。

tooniⓈ (名) 豚の餌を入れる器。大きな材木に溝を掘ったもの。

toonikacaaⓈ (名) tooni を極いてさらえる器具。

toonuciNⓈ (名) もろこし。高粱(こうりゃん)。唐きび。唐のきみ(黍)の意。とうもろこし(gusuntoonucin)とは別。

toonuciNmuciⓈ (名) とうきびの粉で作った餅。色は褐色。

toonukucaaⓈ* (名) わけのわからぬ発音をする者(幼児など)。喃語する幼児。

toonuku'ciⓈ (名) ⊖中国語。⊖転じて、子供などの、わけのわからぬ発音。喃語。

toonukura① (名) 当葺。《地》参照。

toonSuⓈ (名) 中国渡来の布で作った着物。'NsU は御衣(みそ)。

tooQsa① (感) それっ。toohjaa と同じ。

toorijaihwaawⓈ* (副) toorirajaihwaaw と同じ。

toori=juNⓈ (自 =raN, =ti) ⊖倒れる。⊖倒産する。滅亡する。

tooriku'rubiⓈ (副) 倒れたりころんだり。道の悪い所を行くさまなど。~'warajun. 笑いころげる。

toorirajaihwaawⓈ (副) まさに倒れようとするさま。toorijaihwaaw ともいう。

tooruⓈ (感) ⊖かくれんぼの時の隠れた者の呼び声。もういいよ。⊖幼児に「いないいない、ばあ」をする時の、「いないいない」に当たる語。ばあは 'waa。

tooruwa'aⓈ (名) 幼児とする遊戯の名。いないいない、ばあ。

tooseeⓈ (名) 遊戯の名。倒し合い。両軍に分かれ、互いに敵を倒し合う。組み敷いて上になっている者の多い方が勝ち。

toosiNⓈ (名) 唐船。中国から来る船。

toosiNbaiⓈ (名) おたふくかぜ。耳下腺炎。他家の火吹き竹を盗んで来て、それで粥を煮て食べると直るという迷信がある。盗まれた所で、怒って顔をふくらますので、病気がそこへ移転するというわけ。

toosjoogaaⓈ (名) 唐変木。間抜け。わけのわからぬやつ。

too=sjunⓈ (他 =saN, =ci) 倒す。

tootabiⓈ (名) 中国への旅。

tootooⓈ (感) 注意をうながす時・制止する時などに発する語。さあさあ。それぞれ。~ʔanee sjuna. よせよせ、そんなことはするな。

tootooⓈ ⊖(名)お月様。月の小児語。tootoomee ともいう。⊖(副)手を合わせ tootutoutu と祈るさま。

tootooganasiimeeⓈ (名) お月様。ʔaqtomee (按司の妻), tootoogwaa (按司の娘) などの too も tootoo(月)と関係ある形と思われる。

tootoogwaaⓈ (名) お姫様。お嬢様。ʔumee (ʔudun の主人。昔の按司) の娘の敬称。按司の子のうち、男の子については、長男だけを ʔumeegwaa というが、女の子はすべて tootoogwaa という。

tootoomeeⓈ (名) ⊖お月様。月の小児語。⊖祖先の位牌。尊いお方の意。

tootuⓈ (感・副) どうぞ。どうか。哀願する時にいう語。多く女がいう。また、神に祈る時にも発する。~ʔansi kwiri. ど

るかそうしてくれ。

-tu (助) と。taruu~ ziruu~. 太郎と次郎と。ʔin~ majaanu ʔuN. 犬と猫がいる。ʔjaqci~ mazun ʔicuN. 兄と一緒に行く。nuu~N kiran. 何ともかち合わない。tamitoo ʔNndaran. ふた目とは見られない。

tu- (接頭) 十。とお。tuhwani(十羽), tukeen (十回), tuka(十日)など。

-tu (接尾) 年。cutu (一年), tatu (二年), mitu (三年), ʔjutu (四年), mutu (六年), kukunutuguzuu (四十九歳), mumutu(百年, 百歳) など。

-tu (接尾) 斗。一石の十分の一。ʔiqtu (一斗), nitu (二斗) など。

tubeetubee① (副) とびとびに。あちこち。~ hananu mujoonu ʔan. (着物などの) あちこちに花の模様がある。

tubiʔicaa① (名) するめいか。

tubira① (名) とべらの木。海岸地方に自生し、黄白色の花をもつ。海桐花科の常緑喬木。

tubitui① (名) 飛ぶ鳥。鶏 (単にtuiということが多い) などと区別して飛ぶ鳥を呼んだもの。

tubiziN① (名) 天人の羽衣。「飛びぎぬ」に対応する。

tubu=juN① (自 =ʔan, =ti) ともる。とぼる。ʔukoону ~. 線香がともる。

tu=buN① (自 =ban, =di) 飛ぶ。つばさで飛ぶ。また、風に吹かれて飛ぶ。はねてとぶ意では tunuzun を多く用いる。tubasjun. 飛ばす。飛ばせる。taka tubasjun. 鷹にひもをつけて飛ばせて遊ぶ。

tubusi① (名) とぼし。脂の多いよく燃える松材を割って、たきつけ用または照明用としたもの。

tubuu① (名) 飛び魚 (とびうお)。

tuci① (名) ①時。時刻。また、時間。時期。時刻は本土と同じく十二支や kuku-

nuçi (九つ)… ʔjuçi (四つ) 式を用いた。~ tujun. イ。鶏が、ときを作る。ロ。占って日時をきめる。② tucitui と同じ。

tuciduci① (名) 時時。おりおり。

tucii① (名) 時計。なお、首里城には砂時計式のものど日時計式のものがあった。

tucinukwii① (名) [文] ときの声。ʔjaasaciidanu hja, tycinu sirumutuni ʔusijusiti ʔamunu, hasijujai ʔisuzi tucinukwiju ʔagiri. [やあ崎枝のひや 敵の城元に 押寄せてあもの 走寄やり急ぎ関の声よあげれ (忠臣身替)] これ崎枝の比屋、敵の城下に押し寄せているのだから、急いで走り寄ってときを声をあげよ。

tucinuzuhujakuu① (名) [古] [時の大屋子] 昔の役職名。日時の吉凶を占う役の者。無学な平民がこの職にあった。

tuciširi① (名) ①時間がおそいこと。時期を失していること。②夜ふけ。深夜。

tucitui① (名) 時の吉凶を占うこと。また、日時を占って決めること。

tucituihwiʔui① (名) tucituihwiitui と同じ。

tucituihwiitui① (名) 時刻や日どりを選ぶこと。

tuciʔura① (名) [文] 時についての占い。普通は tuci または tucitui などという。ʔuman naka ʔjašiga ~ju širiba, ʔiçin katawarinu çicija ʔaran. [思まぬ仲やすが 時ららよすれば いつも片われの 月やあらぬ] いまは思いのかなわぬ仲であるが、占って見るといつまでも片思いばかりではない。

tudana① (名) 戸棚。持ち運びのできるものをいう。作り付けのものは siçikigwii という。

tudee=cuN① (自 =kan, =ci) (人通り・風・音信などが) とだえる。Qkwakara tigaminu tudeecoon. 子から手紙がとだえている。

tudeejun

tudee=juN① (自 =raN, =ti) [新?]tudee-cuN と同じ。

tudi=juN② (他 =raN, =ti) ① 綴じる。coomiN ~。帳面をとじる。② 縛る。nusudu kaçimiti tuditeen. だろぼうを捕えて縛ってある。

tudu=cuN② (自 =kaN, =ci) (品物などが) 届く。「手がとどく」などは tiinu ʔicajun などという。'waaga ʔukutaşee tudu-coomi. わたしが送ったものは届いたか。

tuduki② (名) 届け。役所などへの届け。また、役所などへ届け出ること。

tuduki=juN② (他 =raN, =ti) ① (品物などを) 届ける。② (官庁などへ) 届ける。届け出る。③ (罪人などを引受人に) 引き渡す。

tudukui① (名) ① (荷物、仕事の進行などが) 滞ること。滞り。② (食物が) 消化せずに胃などにたまること。

tudukuu=juN① (自 =raN, =ti) ① (荷物、仕事の進行などが) 滞る。② (食物が) 消化せずに胃などにたまる。

tuduma=juN① (自 =raN, =ti) [文・新] とどまる。

tuecçika'mee② (名) とっくみあい。つかみあい。ふざけあい。

tuechwi'ree② (名) 交際。つきあい。tuee <tuiee (交際)。hwiree も交際。

tuga② (名) とが。とがむべき行ない。罪となる行為。また、罪。罰。~ kwaasjun. (とがを食らわせる) 勘当する。罰として放逐する。

tugai② (名) とがった先。尖端。

tugaihwi'gai② (名) でこぼこ。

tugaii② (名) やせて口のとがった者。tugajaa ともいう。

tugajaa② (名) tugaiiの卑称。

tuga=juN② (自 =raN, =ti) とがる。物の先端が鋭く細くなる。kuci ~。口がとがる。怒った時、不平がある時などのさま。tu-

garasjun. とがらせる。

tugami② (名) 非難。叱責。とがめの意。

tugami=juN② (他 =raN, =ti) とがめる。非難する。叱責する。

tuganiN② (名) 罪人。とがにん。

tuguci② (名) ① 港。② 川の下流にある渡し場。

tuguci② (名) 渡口。《地》参照。

tuguci① (名) 渡具知。《地》参照。

tuguci① (名) 渡久地。《地》参照。

tuguru② (名) 灰汁。灰を水に浸してとった黄色のうわすみ液。芭蕉布などの洗濯に用いる。ʔakuともいう。

tugurutiN② (名) 食品名。ところてん。

tuhwasina② (名) 渡橋名。《地》参照。

tuhwee① (副) べっ。唾をはく音。

tuhweemika=sjun① (自 =saN, =ci) 唾をべっとはく。

tui① (名) ① 鳥。② 鷄。~nu ʔutajun. 鷄がときを作って鳴く。~ kooraa kaçi koori, ʔiju kooraa sii koori. 鷄を買うなら数を(大きい鷄より、うまい若鷄を数多く)買え、魚を買うなら大きいのを買え。sii は背丈の意か。

tui ① (名) 西(とり)。十二支の第十位。時間は午後6時。方角は西。

tuiʔaçi'ka=juN② (他 =aN, =raN, =ti) 取り扱う。

tuiʔaçi'kee② (名) 取り扱い。

tuiʔaçikee② (名) やっかいな預かりもの。他人の子供など。また、うっかり受け取ると、迷惑でも以後長く預からなければならぬようなもの。また、いったん取ったら、ずっと預からなければならぬとする取りきめ。子供同志が、他にさわらせたくない物について、うっかり取るとあとで困るように、そう取り決めることがある。

tuibusjahundee② (名) 取り放題。取りたいだけ自由に取ること。

tuiacamee=ju'N② (他 =raN, =ti) 取り集

める。拾い集める。-cameejun < kamee-jun.

tuiciga=ju`N① (他 =aN, =ti) (物を)間違
って取る。また、取り違える。誤解する。

tuicikanajaa① (名) 養鶏業者。

tuiciki=ju`N① (他 =raN, =ti) 盛んに取
る。一生けんめいに取る。

tuiciraka=sju`N (他 =aN, =ci) 取り散ら
かす。乱雑にする。

tuicira=sju`N① (他 =saN, =ci) 取り散ら
す。乱雑にする。

tuiciwa`mi① (名) 取り決め。決定。

tuicizi① (名) 取り次ぎ。また、取り次ぐ役
の者。

tuici=zuN① (他 =gaN, =zi) 取り次ぐ。

tuidukuru① (名) とりえ。長所。nuu ~-
N neeN. 何のとりえもない。

tuiee① (名) 交際。つきあい。tueehwiree
ともいう。

tuigwaa① (名) 小鳥。小さい鳥。

tuihakara=ju`N① (他 =aN, =raN, =ti)
tuihwakarajun と同じ。

tuihan=sju`N① (他 =saN, =ci) ⊖取り落と
す。誤って手から落とす。⊖失禁する。

tuihukugida=cuN① (自 =taN, =Qci) 鳥
肌が立つ。総毛立つ。

tuihwakara=ju`N① (他 =aN, =raN, =ti)
取り計らう。計画し、処理する。

tuihwi`ree① (名) 交際。つきあい。tuiee,
hwiree と同じ。

tuihwi`ruu① (名) 訴訟。hwiruu と同じ。

tuijan=zu`N① (他 =dan, =ti) しくじる。
失敗する。病気の治療を誤るとか、人を評
価しそこなうなどの場合にいう。

tuijusi=ju`N① (他 =raN, =ti) 取り寄せる。

tuika=nuN① (他 =maN, =di) 食う。むさ
ぼり食う。

tuikee① (名) (敬語は ?utuikee) ⊖取りか
わし。贈答。物品・結納・杯などの取りか
わし。⊖交際。つきあい。?amatoo ?wee-

kanu ~ sjoon. あそこの家とは親戚のよ
うなつきあいをしている。

tuikee=sju`N① (他 =saN, =ci) 取り返す。
また、回復する。もちなおす。kuNci ~.
元気を取りもどす。

tuikugu`ni① (名) つつしみ深いこと。丁寧
な態度であること。kuguni < kugunijun
(うやうやしくする)。

tuiku=nuN① (他 =maN, =di) 取り入れ
る。取り込む。取って自分のものにする。
tuincun ともいう。

tuiku`ree① (名) 位。官職の地位。この接
頭辞 tui- には余り意味がない。

tuimaa=sjuN①* (他 =saN, =ci) 取っ置て
く。あとのために残して置く。

tuimaci① (名) 鶏の市。鶏を売買する市。

tuimee① (名) 取り分。分け前。

tuimu=cuN① (他 =taN, =Qci) 接待する。
もてなす。tuimutaqtoon. 優遇されてい
る。

tuimudu=sju`N① (他 =saN, =ci) 取りもど
す。取り返す。?arikara tuimuducan.
彼から取り返した。

tuinasi① (名) とりなし。とりなすこと。
よいように取り計らうこと。また、推挙。
仲裁。

tuinoo=sju`N① (他 =saN, =ci) ⊖改める。
(悪い所を)直す。⊖叱られている者のた
めに弁疏してやる。とりなす。

tuinukunga① (名) 鶏卵。

tuinuQcu① (名) 酉年生まれの人。

tuin① çimi① naraN① (句) 始末におえ
ない。手に余る。どうしようもない。~'wa-
rabi. (いたずらで) 始末におえない子供。

tuisakana① (名) 酒のさかな。tui- < tu-
jun.

tuisata① (名) 取り沙汰。うわさ。風説。

tuisiçi`bi① (名) 四季折折の祝祭日。季節
季節の大きな行事のある日。

tuisigaisi`gai① (副) じきりに取りすがる

さま。

tuišiga=ju¹N① (他 =raN, =ti) 取りすがる。

tuisikuci①① (名) 仕事。tui- は余り意味のない接頭辞。

tuisima① (名) ①鳥島。沖繩本島の西方、粟国島のさらに西にある島の名。②奄美群島徳之島西方にある火山島。中国に硫黄を輸出した関係で慶長以後もとくに琉球に帰属していた。

tuisima=juN① (他 =raN, =ti) 取り締まる。監守・管理する。

tuisimari①① (名) 取り締まり。管理。

tuisimikaa¹simi①① (副) 詰問するさま。はげしく問いつめるさま。～ sjun.

tuisiNzi① (名) 鶏のスープ。

tuisira¹bi① (名) 取り調べ。

tuišiti=ju¹N① (他 =raN, =ti) 取り捨てる。取って捨てる。

tuisju¹ukoo① (名) sjuukoo (法事) と同じ。tui- は余り意味のない接頭辞。

tuisuraa=sju¹N① (他 =saN, =ci) 取り揃える。もれなく集める。

tuitakatee① (名) 子供を甘やかして育てること。

tuitati① (名) とりたてること。拔擢。登用。その敬語は ʔutuitati。

tuitati=ju¹N① (他 =raN, =ti) とりたてる。拔擢する。登用する。

tuiʔubi① (名) 仕事・技術などを習い覚えること。習得。

tuiʔubi=juN① (他 =raN, =ti) (仕事・技術などを) 習い覚える。習得する。tuiʔuki-jun と同じ。

tuiʔuki① (名) 了解。会得。のみこみ。～ nu ʔjutasjan. のみこみが早い。

tuiʔuki=juN①① (他 =raN, =ti) (技術などを) 習い覚える。習得する。tuiʔubijun ともう。

tuiʔuki=ju¹N①① (他 =raN, =ti) 受け入れる。また、了解する。会得する。

tuiʔutu=sjuN① (他 =saN, =ci) 取り落とす。

tujaasimuN① (名) 取り合わせたもの。数種類のものを集めて一組にしたもの。

tujaa=sjuN① (他 =saN, =ci) ①取り合わせる。揃えてととのえる。また、揃えて一式とする。karazi ～。(髪を結ら暇のない時に) 髪のを直してととのえる。②(男女を取り合わせて) 夫婦とする。親同志がとりきめる場合などにいう。

tujuma=rjuN① (自 =riraN, =qti) [文] 世間に鳴り響く。評判になる。tujunUN の受身の形。sikin tujumariru curawinagu ʔjariba. [世間豊まれる 美女やれば(忠臣身替)] 世に評判の美女であるから。

tuju- un① (自 =maN, =di) [文] ①音に聞こえる。(評判が) 鳴り響く。名高くなる。tujumu tumigušiku. [とよむ豊見城] 名高い豊見城。②月が出る。また、月の出の時間に東の空が白む。çici tujumu ʔwedanu macinu kurisja. [月とよむ間の 待ちのくれしや] 月が出るまでの間の待ち遠しさよ。

tu=juN① (他 =raN, =ti) ①取る。手にとる、取得する、捕獲する、収獲する、採用する、選ぶ取る、奪う、盗む、没収する、とり除く、立場をとるなどの意。hwii ～。日どりを決める。nuci ～。命を落とす。②(船が港に) 着く。kagusima ～。(船が) 鹿児島に着く。

tuka① (名) とおか。10日。月の第十番目の日をもいう。

tukasici① (名) 渡嘉敷島。慶良間列島の島の名。また、渡嘉敷。《地》参照。

tuka=sjuN① (他 =saN, =ci) 溶かす。

tukee① (名) ①渡海。航海。海を渡ること。②海洋。渡る海。tukeya hwizamitin tiru çicija hwituçi, ʔamaN nagamijura kijunu suraja. [渡海や隔めても 照る月や一つ あまも眺めゆら 今宵の空

や] 海は隔てても照る月は一つ、あのかたもこよいの空を眺めているだろう。

tuki=jun (自 =ran, =ti) 溶ける。

tukisiⓐ (名) 渡慶次。《地》参照。

tukuⓐ (名) 徳。人徳。～nu ʔan. 徳がある。

tukuⓐ (名) 得。利益。

tukuⓐ (名) 床。座敷の床の間。

tukumuciⓐ (名) 徳のある人。

tukunusimaⓐ (名) 徳之島。奄美群島の島の名。

tukuqtuⓐ (副) ㊦とくと。じっくり。念入りに。よく。～kangeeti 'NNdee. とくと考えてごらん。㊦気分がよくなったさま。～najuN. 気分がすっきりする。気分が落ち着く。

tukuruⓐ (名) ㊦所。場所。㊦その土地。～nu qeu. その土地の人。㊦(接尾) 人を敬って数えるときに用いる接尾辞。cutukuru (おひと方), tatukuru (おふた方), ʔikutukuru (御幾方) など。

tukuruʔaçisaⓐ (名) 処暑。二十四節の一つ。

tukurubareeⓐ (名) 所払い。廃藩前の一種の私刑。裁判なしに、近隣の者が居所から追放すること。

tukurudukuruⓐ (名) ところどころ。あちこち。

tukuuⓐ (名) ㊦人の名。㊦猫の名。猫は一般に tukuu という名が付けられていた。

tumaⓐ (名) 苫(とま)。かやなどを編んだもの。

tumaiⓐ (名) 船着き場。港。

tumaiⓐ (名) 泊。《地》参照。

tumaiⓐ (名) 宿泊。泊り。

tumaikuruuⓐ (名) 甘藷の一種。甘味が多く、肉は薄紫色。ʔakaguu や ʔurandaa と共に上等なもの。

tumazituuⓐ (名) [古] [泊地頭] 廃藩前の役名。先島の税務をつかさどる長官。

zuuguninsjuu [十五人衆] を構成するひとり。

tumajaaⓐ (名) 泊 (tumai…地名) の者。卑称。

tuma=junⓐ (自 =ran, =ti) ㊦宿泊する。泊る。㊦止まる。動作がやむ。静まる。

tumeeidumeeiⓐ (副) あちこち捜し求めるさま。尋ね尋ね。捜し捜し。

tumeeimuNⓐ (名) 拾いもの。拾い上げたもの。

tumeeiʔuza'neecⓐ (副) 方方を捜し回るさま。

tumee=junⓐ (他 =ran, =ti) kameejun ともいう。kameejun はやや下品な語。㊦捨る。(落とす物を) 拾い上げる。㊦求める。捜し求める。尋ね求める。一つのを捜し求めることに多くいう。捜すは sageesjun. nanaçi kasabitaru tusigurunu satuni ʔumukutunu ʔatidu tumeti cicaru. [七つ重べたる 年比の里に 思事のあてど とまいてきちやる (執心鐘入)] 十四くらの若い男のかたを恋したって尋ねて来たのです。tuzi ~. 妻をめとる。妻をもらう。ʔjuubee ~. 妾をもつ。

tumiⓐ (名) 喪の時に女が用いる竹製のかんざし。止めの意。dakiziihwa ともいう。

-tu'miba(助) [文] と思えば。ʔujubaran~ ʔumui maşikagami kazijacon ʔuçuci 'ugamibusjanu. [及ばらぬとめば 思ひ増鏡 影やちやうも写ち 拝みほしやの] 及ばないと思えば思いは増鏡、せめて面影でもうつして拝みたいもの。

tumi=junⓐ (他 =ran, =ti) ㊦止める。進むのを止める。㊦禁じ制する。㊦宿らせる。泊める。

tumuⓐ (名) とも。船尾。

tumuⓐ (名) 供。従者。

tumuguuⓐ (名) 足の付け根の骨。

tumuguunugaaⓐ (名) 労働や徒歩旅行な

どして、足の付け根の骨のあたりがだるく、力がぬけた感じのすること。

tumui①(名) 富盛。《地》参照。

-tu'muri (助) [文] と思え。ʔumukazinu tataba sataju sjun~。[佛の立たば 沙汰よしゆんともれ] わたしのおもかげが浮かんだならば、おうわさをしていると思われる。

tumusi①(名) 友寄。《地》参照。

-tu'muti (助) [文] と思って。

tunaa①(名) 20銭。十繩の意。zin (銭)の項参照。

tunacaa①(名) 渡野喜屋。《地》参照。

tunaci①(名) 渡名喜島。那覇の西北方にある島の名。

tunai①(名) 隣。また、隣にあるもの。隣家。

tunai biree①(名) 隣づきあい。

tunaimaai①(名) 隣近所を回ること。

tunaimura①(名) 隣村。

tunaka①(名) 沖の海。沖合い。沖の海上。

tunami①(名) 平均。narasi ともいう。

tunami=jun①(他 =raN, =ti) ⊖ならず。

でこぼこをなくし平らにする。⊖平均する。また、中間をとる。

tunuci①(名) tunci (殿内) と同じ。

tunuumanuu①(名) うろたえること。ろらばいすること。まごまごすること。

tunu=zuN①(自 =gan, =zi) 跳ねる。跳ねて飛ぶ。また、ふっ飛ぶ。すっ飛ぶ。hwi-izaanu ~。やぎが跳ねる。tunugasjun。はね飛ばす。すっ飛ばす。

-tuN (助) [文] とも。tuija ʔutaru~。[鳥や歌るとも] 鶏は鳴いても。

tuNbjan①(名) [桐板] 夏用の反物の名。中国から輸入される薄物。

tuNbjancee①(名) tuNbjanの織り目の荒いもの。bingata [紅型], ʔeeʔuburuuなどに用いる。

tunCi①(名) [殿内] tunuci ともいう。⊖

脇地頭以上の家柄の称。島持 (simamuci), 親方(ʔweekata) 及び上土の家柄。また、それらの邸宅。御殿 (ʔudun) の下。明治17年ころには次の姓の tunCi があった。kamigaa [亀川], hjakuna [百名], ʔizina [伊是名], takusi [沢岬], ʔahwagun [阿波根], 'wakugaa [湧川], sacihama [崎浜], kuciNda [東風平], tamaguşiku [玉城], ʔuruku [小祿], ziwan [宜湾], nakada [仲田], 'junabaru [与那原], mabui [摩文仁], gusi-can [具志頭], teera [平良], timiguşiku [豊見城], nuuhwa [饒波], kunzan [国頭], cin [金武], şiisi [添石], gusicaa [具志川], 'junaguşiku [与那城], 'nzatu [美里], ʔoo [奥武], ʔuraşii [浦添], makabi [真壁], ʔii [伊江], can [喜屋武], kusi [久志], cinin [知念], ʔicuman [糸満], cinaa [喜納], bin [保栄茂], sicina [識名], kaQçin [勝連], hukujama [譜久山], tumigaa [富川], ʔacimi [座喜見], uakazatu [仲里], cibana [知花], sakuma [佐久間], kooCi [幸地], sadujama [佐渡山]。⊖大きな家・他人の家などの敬称。おやしき。お宅。

tunCiʔuuçii①(名) [殿内移り] 転宅の敬語。お引越し。殿内 (tunCi) の家柄でなくてもいう。平民の転宅は 'jaaʔuuçii (屋移り) という。

tundaabuN①(名) [東道盆] 盆の一種。丸い大きな盆で、宴会などで各種の酒のさかななどを盛り合わせるのに用いる。

tundoo①(名) [通堂] 埠頭。

tundoojaa①(名) 埠頭にある一時荷を入れる倉庫。⊖転じて、がらんどろ。つつぬけで何もいさま。

tungwa①(名) 台所のある小屋。母屋のわきにある。小さい家にあり、士族の大きい屋敷などにはない。

tuNhanari=juN① (自 =raN, =ti) 飛び離れる。急に離れる。
 tuNhwan① (名) [豚飯] 豚肉入りの飯。中国伝来の料理であろう。くわしくは tuNhwanzuüşii という。
 tuNhwanZuüşii ① (名) [豚飯雑炊] tuNhwan と同じ。
 tuNkee=juN① (自 =raN, =ti) 振り向く。後方を振り返る。
 tuNkwiihaq`kwii① (副) 飛び越え飛び越え。次次に飛び越えて。
 tuNkwii=juN① (他 =raN, =ti) 飛び越える。
 tuNmaaimaai① (副) しばしば立ち寄るさま。また、ちょっと見回るさま。tacimaaituNmaai などともいう。
 tuNmaa=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと寄る。ちょっと回って立ち寄る。
 tuNmiguikemigui① (副) しばしば、ちょっと立ち寄るさま。
 tuNmigu=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと寄る。ちょっと回って立ち寄る。
 tuNmooimooi① (副) 踊り上がって喜ぶさま。欣喜雀躍。
 tuNmoo=juN① (自 =raN, =ti) 飛び上がって驚く。飛び上がって喜ぶ。ʔuhudunmooi はびっくり仰天。
 tuNnuudujaa① (名) 行ったり帰ったりすること。しばしば往復すること。
 tuNnaa=juN① (自 =raN, =ti) とびのく。急に退く。
 tuNnubaga=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと立ち寄る。nubagajuN は立ち寄る。ちょっと顔を出す。
 tuNnukusuu① (名) 鶏のくそ。~niN cutindukurunu ʔaN. (諺) 鶏のくそにも一つの取りえがある。どんなものにも何か取りえがある。
 tuNşizi=cuN① (自 =kaN, =ci) とびのく。とびさす。

tuNtaciııı① (名) しゃがむこと。-ii < ʔijun。
 tuNtacikee`taci① (副) 立ったりすわったりするさま。また、ほとんど席の暖まるひまのないさま。
 tuNturumookaa① (副) 飛び上がって騒ぐさま。
 tuNzaagasa① (名) 小児の皮膚病。飛び火するように点点と蔓延するもの。
 tuNzaajaNzaa① (名) 付き合い。交際の卑語。
 tuNzaamoojaa① (名) 欣喜雀躍。
 tuNzaku① (名) ㊦扱い。(物・人の) 取り扱い。~nu ʔutasja. 取り扱いがよい。㊦看病。
 tuNzihweezii① (名) ちょっとした外出着。晴れ着と不断着の中間の着物。
 tuNzii① (名) 冬至 (tuuzi) に行なり祭り。tunziižuüşii を炊いて先祖に供える。
 tuNziibiisa① (名) 冬至のころ、急に寒くなる寒さ。
 tuNziižuüşii① (名) [冬至雑炊] 冬至 (tuuzi) に先祖に供える, taaʔNmu (里芋の一種)を入れて炊いた飯。
 tuNzi=juN① (自 =raN, =ti) 飛び出す。まかり出る。狂言・組踊りなどで用いる。tunzitaru munuja murabarunu ʔajatu ʔncantiiginu cicaʔunpadaN. 「とんちたる者や 村原のあやと御神一つの近おんぱだん (大川敵討) まかり出た者は、村原夫人と祖神を同じくする近い親類。類義の dijoocarun munuja [出様ちやる者や]よりもこっけい味がある。
 tuNzumui① (名) 鳥小堀。《地》参照。
 tuN=zuN① (自 =gaN, =zi) tunuzun と同じ。
 tuqci=juN① (他 =raN, =qci) ㊦つまみ洗する。また、(布の一部分だけを) つまんで、強くしぼる。また、(布の一部分を) つまんで染める。㊦(悪臭などがのどを)ふさぐ。むせる。nuudii ~. むせる。
 tuqçiki=ju`N① (他 =raN, =ti) 取り押え

る。つかまえて、とちめる。ʔusoozinu ninŋu najundun ʔjaree, taija tuŋci-kiraŋti ʔarihudunu miisjuuti ŋibi ʔuci-ŋikirariiru ŋimui, dii, ʔisugoo ʔjaa. [御払除のになくゆんでもやれい 二人やとつつけらつてあれほどの名所をてつび打付けられている積り でいいそがりやあ(姉妹敵討)] お掃除がおそくなりでもしたら、ふたりは取り押えられてあれほどの名所で尻を打ちのめされるはず、さあ急ごう。

tuŋcimi=juN① (他 =raN, =ti) とちめる。詰問する。

tuŋciraŋaʔŋcira① (副) 散り散り。ばらばら。物品が散りうせたさまなどをいう。

tuŋciri① (名) 緋(かすり)。muruduŋciri は緋がすり。

tuŋciritjuujaa① (名) かすりを作ることを業とするもの。-juujaa < ʔjuujun (結う)。

tuŋciritziʔN① (名) かすりの着物。

tuŋkaŋimi=juʔN① (他 =raN, =ti) とつつかまえる。だしぬけにつかまえる。

tuŋkaka=juʔN① (自 =raN, =ti) つつかかえる。くってかかる。

tuŋkui① (名) とっくり。とっくり型の陶製の器。酒用 (sakiduŋkui), 醬油用 (sjo-ojuuduŋkui), 油用 (ʔandaduŋkui) などがある。

tuŋkwa① (名) [文] 徳化。

tuŋkwa=juN① (自 =raN, =ti) 食ってかかる。食いつく。また、組みつく。

tuŋpana① (副) ほったらかし。捨てておいてかえりみないさま。ʔuja ~ nasjun. 親をほったらかしにする。

tuŋsoohaʔŋsoo① (副) そわそわ。心が落ち着かないさま。

tura① (名) 寅(とら)。十二支の第三。時間は午前4時 (nanaŋi)。方向は北寄りの東。

tura① (名) 虎。

turanuʔzuu① (名) 千歳菌。とらのおらん。葉から繊維を取り織物の材料にする。zuu は尾の意。

turaNkwaNniN① (名) kwanNiN (役人) であるかのように着飾っている者。給料を取らぬ官人の意。

tura=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖tujuN (取る) の使役。⊖やる。与える。tiŋinaa ~. 一つずつやる。⊖(…して) やる。ʔNzi ~. 行ってやる。kuruci ~. 殺してやる。⊖(命令形で) (…して) おくれ。kwiree よりも丁寧となる。kuneeti turaʔee. 我慢しておくれ。tigami kaci turaʔee. 手紙を書いておくれ。

turi① (名) 鳥居。また、楼門。ʔwiinturi (首里城の守礼門), simunturi (首里城の中山門) など。

turi① (名) 風。ʔasaŋuri (朝風), ʔjuudu-ri(夕風) など。

turihwizui① (名) 風がなくて底冷えのする寒さ。

turi=juN① (自 =raN, =ti) ⊖風ぐ。風がやむ。⊖心がなごむ。ʔjumangwitu ŋiriti tacuru ʔumukazini ʔasamasija ʔwazimu turiti ʔicusa. [夕間暮とつれて 立ちゆる佛に あさましや我肝 とれて行きゆさ]夕暮れとともに立つ面影に、情ないことにわたしの心はほんやりとなっていく。

turubaimun① (名) ほんやりしている者。ポカンとしている者。

turubaiʔoobai① (副) さびしげにほんやりしているさま。

turubajaa① (名) turubaimun と同じ。

turuba=juN① (他 =raN, =ti) ほんやりする。ポカンとする。

turumika=sjuN① (自 =saN, =ci) まどろむ。うとうと眠る。うたた寝する。

turuturu① (副) ⊖とろとろ。うつらうつら。うとうと。まどろむさま。⊖火勢が弱く燃えるさま。とろとろ。

turuturuubiiⓂ* (名)とろ火。炎の弱い火。
turuturuuniNziⓂ (名)うたた寝。
tusiⓂ (名)年。時間の単位。また、年齢。
 また、歳月。～nu tuzimiitu. 長年つれそ
 った夫婦。
tusiⓂ (名)砥石。
tusiʔanaⓂ (名)その年の方位の悪い所。
 その方向に対して物事をするのは不吉とさ
 れている。陰陽道でいう金神は方向を変え
 て行けばよいが、tusiʔana はどこから
 行っても悪い。
tusibeeⓂ (名)年のほど。年のころ。年配。
 ～nee 'uuziraN. 年に似合わない。年以上
 のことをする時にいう。
tusibiiⓂ (名)正月の、各人の生まれた年
 (十二支上の)と同じ日。また、その日を
 祝うこと。子の年の人は正月の子の日に、
 丑の年の人は正月の丑の日にそれぞれ祝
 う。元旦にその日が当たった人は、13日に
 祝う。また、その年が生まれた(十二支上
 の)年と一致する場合には、ʔNmaridusi
 (その項参照)といってその tusibii を盛
 大に祝う。
tusiguruⓂ (名)年ごろ。結婚してよい年ご
 ろ。
tusikaQ`kooⓂ (名)年かっこう。年齢のほ
 ど。年配。tusibee ともいう。
tusinamu`NⓂ (名)いい年をした者。年甲斐
 のない者。
tusinooiⓂ (名)方角の悪かった所が、年が
 改まって直ること。-nooi<noojuN. tu-
 siʔana の項参照。
tusinuʒuruⓂ (名)年の夜。大みそかの晩。
 ～nu ʔuhurumee. 年の夜のごちそう。
tusinukuuⓂ (名)年の功。kaamiikuuja-
 ka ～. 亀の甲より年の功。
tusisicaⓂ (名)年下。
tusiʒiʒaⓂ (名)年上(の者)。年長(者)。
tusiʒuciⓂ (名)年内。その年の内。
tusiʒwiiⓂ (名)年上。年長。

tusiwaʒiriⓂ (名)年忘れ。忘年会。
tusiziriⓂ (名)〔「年切れ」に対応する〕⊖
 年末の総決算。⊖年末になじみの女郎にや
 る金。
tusjuiⓂ (名)年寄り。老人。
tusjuigwiiⓂ (名)年寄りの声。しわがれ声。
tusjuijooiⓂ (名)老衰。
tusjuimiiⓂ (名)老眼。
tusjuinuQkwaⓂ (名)年寄りの子。年とっ
 てからできた子。
tusjuiʒujaⓂ (名)年とった親。
tusjuivarabiⓂ (名)童心に帰った年寄り。
tusjuiwa`rabiⓂ (名)年寄りと子供。
tutiNⓂ (副)むしろ。いっそ。いっそのこ
 と。～kunu kawani 'wamija ʒitira.
 [とても此の川に わ身や捨てら(手水之
 縁)]いっそのことこの川にわが身を捨て
 よう。
tutoogumiⓂ (名)徒党組みの意。悪人な
 どの集団。集団強盗の類。
tutuna=juNⓂ (自 =aN, =raN, =ti) 整う。
 全部そろう。調子が合う。準備などができ
 あがる。
tuturunⓂ (名)⊖わからずや。道理のわか
 らぬ者。⊖のろま。
-tutu^uumi (接尾)長く続く限り。ある限り。
 ʒicimitutuumi. 生きている限り。mici-
 tutuumi. 道のある限り。
tuuⓂ (名)籐。植物名。籐細工に用いる。
tiuⓂ (名)十。とお。また、10歳。～nu
 ʒiibi 'inneegee neeN. 十本の指は同じ長
 さではない。十人十色。
tuuⓂ (名)沖。遠い海上。tunakaともいう。
tuuʒasaⓂ (名)遠浅。
tuuiⓂ (名)(…する、…の)とおり。'jaru
 ～. そのとおり。ありのまま。
tuuimiciⓂ (名)通り道。通路。
tuujajumiⓂ (名)織機の筵(おさ)の種類
 の名。十八よみ。経糸1440本を通すもの。
 huduci の項参照。

tuuja① nukan① (句) 当たらずといえども遠からず。かねての見込みに遠くははずれない。まとはずれではない。遠くは退かないの意。

tuu=juN① (自 =raN, =ti) ①通る。通行する、通過する、貫通する、通用する、浸透するなどの意。②行き渡る。もれなく分配できる。?usakiinaa tuujumi. そんなにたくさんずつ行き渡るか。

tuu=juN① (他 =raN, =ti) 問う。聞く。尋ねる。

tuukaa① neeN① (句) 何の隔意もない。さっぱりしている。よい意味に用いる。~ muniikata. うちとけた話し方。

tuuki=juN① (自 =raN, =ti) すける。すっきりと通る。また、心がすっきりする。あまり使わない語。cimunu tuukiraN. 心がすっきりしない。不服である。tuukiraN munu?iikata. 不服の心のある言い方。?usiru ~. やせこける。(死ぬ前などに) やせて首すじが細くなる。

tuukukunujumi① (名) 織機の箴 (おさ) の種類の名。十九よみ。経糸 1520 本を通すもの。huduci の項参照。

tuumagara① (名) 遠い親戚。遠戚。

tuumici① (名) 遠路。遠い道のり。

tuumigui① (名) 遠回り。迂回。

tuumikagan① (名) 遠めがね。望遠鏡。

tuumusi?ru① (名) 籐むしろ。籐で編んだむしろ。冷たい感じで夏向き。

tuunanajumi① (名) 織機の箴 (おさ) の種類の名。十七よみ。経糸 1360 本を通すもの。huduci の項参照。

tuunu=cuN① (自 =kaN, =ci) 遠のく。遠ざかる。また、疎遠となる。

tuuru① (名) 燈籠。あんどん。普通は木や竹で作り、紙を張ったものをいう。石のものは ?isiduuru, 仏壇用は ?utuuru, 盆祭りの回り燈籠は miguiduuru という。

tuuru① (名) ①通り抜け。通り抜けの道

など。②つつ抜け。情報などのつつ抜け。

tuusaN① (形) 遠い。tuusaru ?weekajaka cicasaru qcu?anamun. 遠くの親戚より近所の他人。

tuusinumii① (名) 便所の穴。糞を落とす穴で、下に豚が飼ってある。禅宗でかわやを東司(とうす)というが、tuusi はそれと関係ある語か。mii は穴。

tuu=sjuN① (他 =saN, =ci) ①通す。通行させる、貫通させる、貫徹させる、続行する、浸透するなどの意。②告げ口をする。

tuuzi① (名) [通事] 通事。通訳 (をやる人)。~ sjun. 通訳する。

tuuzi① (名) 冬至。二十四節の一つ。冬至の祭り (tunzii) を行なう。

tuuziN① (名) 燈心。燈心には綿糸も使ったが、多くは燈心草 (蔘) を用いた。

tuuziNii① (名) 燈心草。biigui (備後蔘) の別名。?ootuuziN ともいう。

tuza① (名) もり。やす。魚を刺して捕える具。研矢の意か。またのないもの・あるもの、みつまたのものなどがある。miija ~ najun. 目が tuza のように鋭くなる。

tuzai① (感) [文] 興行のはじめに述べる「東西」に当たる語。~ ~ tunzitaru munuja... [東西東西 とんちたるものや...] 東西東西, まかり出た者は…。

tuzi① (名) 妻。刀自に対応する。~ tumeejun. 妻をめとる。tumeejun は捜す、捨るなどの意。

tuzi① (名) [文] 伽。相手となって慰めること。また、その者。

tuzibiici① (名) 妻びいき。わが妻のひいきをすること。

tuzi=juN① (他 =raN, =ti) 遂げる。目的を達する。?umui ~. 思いを遂げる。

tuzikata① (名) 妻の里のかた。里方。姻戚。

tuziki① (名) ①訓戒。また、言い付け。命令。②ことづけ。伝言。

tuziki=juNⓐ (他 =raN, =ti) ⊖訓戒する。言いつける。命令する。zasinu tuziki-taru kutuja 'waširituti nujudi tira Yuciju susoni Yiriru. [座主のとづけたる 事や忘れとて のよで寺内を 龜相に入れる (執心鐘入)] 和尚の言いつけたことを忘れてしまって、なぜ寺の内に軽々しく(女を)入れるか。⊖ことづける。伝言する。

tuzima=juNⓐ (自 =raN, =ti) (話が)まとまる。(婚約・契約が)成立する。(仕事)が完成する。成就する。また、無事につとめ終わる。Tiikwiinu ~. 縁談がまとまる。

tuzimiituⓐ (名) 夫婦。miitu は「めをと」すなわち、やはり夫婦の意。tusinu ~. 長年つれそった夫婦。çirinasaja 'utunu

murikawaga kutudu gurukuniN Yiru-Yirunu husijawasi çizici, ~ cutukuruni kurasigata naran. [面難や夫の森川が事ど 五六年色色の 不仕合つづき 妻めいと一所に 暮し方ならぬ (花売之縁)]つれないことに、夫の森川は五、六年色色の不仕合わせが続き、夫婦がいっしょに暮らすことができない。

tuzimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) (仕事を)なしとげる。仕上げる。また、(話を)まとめ上げる。成立させる。

tuzinukookooⓐ (名) 妻の尻に敷かれること。また、恐妻家。妻への孝行の意で、妻に従順な者を嘲笑していう語。

tuziqkwaⓐ (名) 妻子。

tu=zuNⓐ (他 =gaN, =zi) (刃物を)とぐ。

ʔu

ʔu-(接頭) [御] お。御。敬語の接頭辞。

ʔusiru (おつゆ), **ʔuguʂiku** (御城。首里城のこと), **ʔujumimiseen** (お読みになる) など。

ʔubi① (名) 覚え。記憶。~nu ʔan. 覚えがある。

ʔubi② (名) (おけ・たるなどの) たが。なお、帯は ʔubi という。

ʔubiçikanasan③ (形) はっきり覚えていない。よく思い出せない。ʔaree ʔiçinukutuga ʔatara ʔubiçikanasasaa. あれはいつの事だったかはっきり覚えてないねえ。

ʔubidaki④ (名) 桶などのたが (ʔubi) に用いる竹。

ʔubidee⑤ (名) 覚える力。記憶力。-dee <tee (力)。

ʔubii⑥ (名) 神仏に供えるための水。お供えのお水。

ʔubiigaci⑦ (名) 覚え書き。メモ。

ʔubiinadii⑧ (名) [水撫] 旧暦3月と8月に、水の霊地 (祖先の使った水のあるところ) を拝みに行く女の行事。一門の女子供が着飾って水辺で一日を遊び暮らすならわしであった。

ʔubi=juN⑨ (他 =ran, =ti) 覚える。記憶する。暗記する。意識に上せる。tuin ʔubiraran. 思案のほかである。どうしてよいかわからない。

ʔubiʔNza=sju`N⑩ (他 =san, =ci) 思い出す。

ʔubirazi⑪ (副) ʔubizini と同じ。

ʔubirazigutu⑫ (名) 不意のでき事。思いがけない事。

ʔubizini⑬ (副) 思わず。~ tunzitan. 思

わず飛び出した。

ʔubuçida`N⑭ (名) お仏壇。祖先の位牌を安置する壇。士族の家では、普通、幅1間のもので作り付けられていて、三段の供物台がある。仏像はない。

ʔubuçizi⑮ (名) ʔuhuʔusjuukoo (その項参照) と同じ。

ʔubuku⑯ (名) 神仏に供える飯。御仏供 (おぶく)。小さな茶わんに円錐形に盛って供える。~ ʔusjagijun. おぶくを供える。

ʔubukui⑰ (名) 御機嫌よろしいこと。あいさつに使う語。なお、那覇では結納のとりかわしのことをもいうようである。<hukujun. ~ mišeebiitii. お元気でいらっしゃいましたか。丁寧なあいさつのことば。

ʔubukuiganasii⑱ (名) 御機嫌よろしいこと。貴族に対するあいさつの敬語。ʔubukunzanasii, ʔubukunzansii ともいう。~ ʔwaamišeebiimi. 御機嫌よろしゅういらっしゃいますか。

ʔubukunzanasii⑲ (名) ʔubukuiganasii と同じ。

ʔubukunzansii⑳ (名) ʔubukuiganasii と同じ。

ʔubun㉑ (名) 御飯。munu (飯・食事) の丁寧語。

ʔubuŋçizi㉒ (名) 御飯粒。misiçizi (飯粒) の丁寧語。

ʔubunziziri㉓ (名) おむすび。お握り御飯。楕円形に握ったものが多い。

ʔubunʔuca`wan㉔ (名) 御飯茶わん。

ʔuburuçizi㉕ (名) おぼろ月。

ʔuburuçicuu㉖ (名) おぼろ月夜。

ʔuca㉗ (名) お茶。caa (茶) の丁寧語。

Yuca=sjunⓄ (他 =saN, =ci) ⊖打ち合わせる。(着物の前などを)合わせる。cin ~。着物の前を合わせる。⊖打ち合わせる。協議する。⊖協力する。kukuru Yucaaci hataracun. 心を合わせて働く。

YucagaaⓄ (名) Yucagee と同じ。

Yucaga=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖浮き上がる。⊖模様などが、鮮明になる。また、はなばなしくなる。派手になる。Yašidi Yucagajuru YucajaYudun. [遊で浮上ゆる御茶屋御殿] 管弦の遊びをして一段とはなやかになる御茶屋御殿。

YucagamuiⓄ (名) [文] Yuzagamui と同じ。

YucageeⓄ (名) 顔を上向けていること。また、上を向いている者。あごを突き出している者。足もとに気を付けない者。Yucagaa ともいう。

Yucagi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 上へ向ける。上へ上げる。çira ~。顔を上に向ける。あおむく。

YucahukašeeⓄ (名) caawakašee の丁寧語。ちょっとしたお祝いの会。ティーパーティー。

Yucaisi'naiⓄ (名) ぴったり合うこと。よく調和すること。よく似合うこと。~ sjoon. よく合っている。

Yucaja'YudunⓄ (名) [御茶屋御殿] 首里の崎山 (sacijama) にある王の別荘。

Yuca=juNⓄ (自 =aN, =ti) ⊖似合う。適合する。調和する。kunu cinoo 'wanninKai Yucatoomi. この着物はわたしに似合っているか。⊖兼ね備わる。兼ね備する。Yuceekanee sjun ともいう。

YucakuⓄ (名) お客。

YucanukuⓄ (名) 祖神や火の神に供える小さな餅。

Yucataikana'taiⓄ (副) 互いによく適合するさま。よく似合うさま。

YucatooⓄ (名) 釜前に供えるお茶。catoo

の丁寧語。

YucawakašeeⓄ (名) [新?] Yucahukašee と同じ。

YucawakiⓄ (名) お茶うけ。

Yuceeimiše'enⓄ (自・不規則) おいで遊ばす。いらっしゃられる。「居る」「行く」「来る」の貴族に対して用いる敬語。士族同志の普通の敬語は Ymenšeen である。

Yuceekane'eⓄ (名) 合わせもつこと。兼ね備えること。兼ね備。kaagin zinbunun ~ sjoon. 才色兼ね備である。

Yucecme'eⓄ (副) 不作法なさま。女が男の前でふざけて遠慮なくふるまったり、しゃべったりするさまなどをいう。

Yuceenše'enⓄ (自・不規則) Yuceeimiše'en と同じ。

YuciⓄ (名) ⊖内。内側。中。~nu sawai. 見えない体の内部の病気。⊖家の内。屋内。~Nkai Yiree. 家の中にはいれ。

Yuci'faki=ju'NⓄ (他 =raN, =ti) 打ち明ける。隠さずに語る。

Yuci'famiⓄ (名) 屋内に雨が降り込むこと。~ sjun. 雨が降り込む。

YucibaⓄ (名) ⊖内輪。控え目。~ni sjun. ひかえ目にする。~ni Yicin, zuuman-gwanoo muqcoon. 内輪に見ても10万貫の金は持っている。⊖内金。手つけ金。払うべき金額の一部。kuqsa guzuqkwan ~ Yiqtooka. これだけ50貫内金を入れておこう。

YucibanaⓄ (名) 打ち綿。Yuciwata ともいう。

YuciciⓄ (名) 打ち身。打撲傷。

YuçiciⓄ (名) [文] 月。お月様。

YucicuuⓄ (名) お月様。子供などが多く使う語。Yucicuume ともいう。

YucicuumeeⓄ (名) お月様。月の小児語。

YucidumaiⓄ (名) 宇地泊。《地》参照。

YucigumiiⓄ (名) 事業などの組合を作ること。~ sjun. 組合を作る。

Ƴucigusa

- Ƴucigusa① (名) 浮き草。水草。
Ƴucigutu① (名) ㊦家事。㊦内輪の事。
Ƴucihuka① (名) ㊦内外。内と外。㊦家の内外。㊦近親と他人。
Ƴucihuri=jun① (自 =ran, =ti) すっかり惚れる。惚れこむ。
Ƴuciijaqci① (名) とつおいつ。逡巡すること。どうしようかと迷うこと。Ƴikiwadu 'jašiga, Ƴaminu hujukutu ~ 'jašaa. 行かなければならないが、雨が降るのでどうしようかと迷っているのさ。
Ƴucijan① (名) 体の内部の痛み。
Ƴuciju① (名) [文] 浮き世。
Ƴuçi=jun① (自 =ran, =ti) ㊦写る。映る。(映像が) うつる。㊦うつる。(色・柄などが) よく合う。似合う。㊦移る。転宅する。㊦あく。中のものがあく。部屋などがあく。Ƴuçiidun saa karašee. もしあいたら貸してくれ。Ƴuçiraa 'wanni kwiri 'joo. あいたら(その容器を)わたしにくれよ。㊦(病気が) うつる。伝染する。
Ƴucikabi① (名) 春秋の彼岸祭り(kabiƳanzii, 'ncabi) に、神仏に供えて燃やす、銭型を打った紙。茶色の紙で Ƴanzikabi ともいう。
Ƴucikanagušiku① (名) 内金城。《地》参照。
Ƴucikawa=jun① (自 =ran, =ti) うって変わる。一変する。(姿などが) 変わりはてる。
Ƴuçikee① (名) お使い。使者。「お使いに行く」は çikaaqti Ƴicun. (使われて行く) という。
Ƴuçikeesarijaa① (名) 小間使い。走り使いをする者。
Ƴuciki=jun① (他 =ran, =ti) 置く。定置する。位置をきめてきちんと置いておく場合にいう。sjukunu Ƴwiinakai sjumuçi ~. 机の上に書物を(きちんと)置く。
Ƴuciku=nun① (自 =man, =di) (雨が屋内

- へ) 降り込む。ƳuciƳami sjun. ともいう。
Ƴucikurisja① (名) [文] 苦悩。憂苦。うれい苦しむこと。Ƴaa, 'warabi Ƴatina-sinu Ƴasaju munu Ƴumuti ~ sjušin taga sicaru kutuga. kahun nen Ƴujani nasaqtaru Ƴingwa. [ああ わらべあてなしの 朝夕物思て 憂きくれしやしゆすも 誰がしちやることが 果報も無いぬ親に 産つたる因果(花売之縁)] ああ、無邪気な子供が、朝晩物を思いりれい苦しむのも誰がしたことか。不運な親に生み落とされたためだ。
Ƴucikuta=sjun① (自 =san, =ci) 病気で長く床につく。病臥する。
Ƴucima①① (名) 内間。《地》参照。
Ƴucimaaima'ai① (副) 間をおいて。ときどき。~ miiga Ƴicun. ときどき見に行く。caa Ƴicum. 'N N N N ~du 'jaru. いつも行くか。いやときどきだ。
Ƴucimamaaru① (名) まどい(団居)。車座。~ sjun. 車座になる。
Ƴucimami=zun① (他 =gan, =zi) 間違えてしまう。うっかり間違う。
Ƴuciman=zun① (他 =dan, =ti) 見守る。cuingwa Ƴucimantooti kurasjun. ひとり子を見守って暮らす。
Ƴucimumu① (名) 内もも。~ mudirarijun. 内ももをつねられる。女の子が折檻される時にされる。
Ƴucimun① (名) わき立つこと。騒ぎ。「浮きもの」の意か。'eisaanu cikaziciidun šee, murazuunu 'wakamunnucaa ~ najun. エイサーの祭りが近づけば、村中の若者たちがわき立って来る。
Ƴucina① (名) [文] 浮き名。
Ƴucinaa① (名) 沖繩。本来は、沖繩本島をさす。
Ƴucinaaganasii① (名) 国王様。宮古・八重山などの人が王(sjuiganasii) のことを敬っている語。

ʔucinaaguciⓄ (名) 沖縄語。
ʔucinaagujumiⓄ (名) 旧暦。大陰暦。'jamatugujumi (新暦) に対する。
ʔucinaaʔisjaⓄ (名) 漢方医。'jamatuʔisja (蘭方医) に対する。
ʔucinaajuuⓄ (名) 廃藩前の時代。琉球王統治下の時代。明治12年以前。'jamatuujuu に対する。
ʔucinaganiiⓄ (名) 牛・豚の背にある上等な肉。背肉。ロース。
ʔucina=juNⓄ (自 =raN, =ti) すっかり終わる。済む。終わってしまう。
ʔucina=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) すっかり終える。済ます。終えてしまう。
ʔucineezaqkwiiⓄ (名) 重い咳。苦しそうな咳。-zaqkwii < saqkwii (咳)。
ʔucINⓄ (名) 植物名。うこん (鬱金)。中国から渡来し、観賞用に庭に栽培する。黄色の染料となり、また痔疾の薬になる。
ʔucINⓄ (名) 宇堅。《地》参照。
ʔucINbju'uʔuduNⓄ* (名) ʔusinbjuuʔuduN と同じ。
ʔucIN=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) (雨が家の中に) 降り込む。ʔucikunUN, ʔuciʔami sjUN ともいう。
ʔuciriⓄ (名) おき。薪が燃えて炭火のようになったもの。たきおとし。
ʔuçiriⓄ (名) ㊦あくこと。容器・部屋などがあくこと。㊦お返し。おうつり。もらい物をした時に、返す容器の中に入れる形式的なお返し。多くはちょっとした食べ物を入れる。
ʔuciribiiⓄ (名) おき火。赤く熱した炭火。
ʔuçirikeeiⓄ (名) ㊦中味をあけて容器を返すこと。㊦お返し。おうつり。進物の容器を返す時、中に入れるもの。単に ʔuçiri ともいう。~ ʔiriree. お返しを入れる。
ʔuçirikeeiⓄ (名) (家の住人などが) 移り変わること。
ʔucirituiⓄ (名) たばこ盆に入れてある小

さい火鉢。首里の上品な語。火入れ。hwii-tui ともいう。
ʔucisoodaNⓄ (名) 内内の相談。
ʔucita=cuNⓄ (自 =taN, =qi) 浮きたつ。目立つ。際立つ。色などが鮮明に浮き上がる。
ʔucitiⓄ (名) おきて。法律。
ʔuciʔuciituⓄⓄ (副) ㊦軽く。一杯でなく、8分目くらいに。~ ʔirijun. 軽く入れる。㊦軽く。軽んじて。ʔjaaja ~ 'Nndaqtoosa. お前は軽く見られているよ。
ʔuciʔuku=sju'NⓄ (他 =saN, =ci) 耕す。田畑の土を、打ち起こす。
ʔuciʔumiⓄ (名) 内海。
ʔuciwaⓄ (名) 団扇(うちわ)。ʔoozi (うちわ、扇) の形の丸いものをいう。ʔuciwa-ʔoozi ともいう。
ʔuciwaaⓄ (名) 内輪。また、内輪の者。家族。近親。~nu 'ugami. 内輪でする ʔugwaN (祈願)。
ʔuciwaʔo'ooziⓄ (名) ʔuciwa と同じ。
ʔuciwataⓄ (名) 打ち綿。ʔucibana ともいう。
ʔucizihwe'esiⓄ (名) 数箇所で ʔugwaN (祈願) をする場合に用意するお供物のとりかえる分。いちいち別のお供物を作るのは大変なので、お供物は一式しか作らず、お供物の一部のみについてあらかじめおはつ (ʔuhwaçi) を必要なだけとっておき、ʔugwaN をする先方でそれだけをとりにかえる。そのとっておくおはつをいう。また、そうしておはつをとりにかえること。~ sjUN.
ʔucoohooⓄ (名) 不調法。そこつ。~na muN. 不調法な者。
ʔuçoori=juNⓄ (自 =raN, =ti) (歯が) 浮く。(歯の根・杭などが) ゆるむ。haanu ~. 歯が浮く。
ʔucukwiiⓄ (名) ふろしき。
ʔucukwiizicINⓄ (名) ふろしき包み。

Ƴucun

Ƴu=cun④ (他 =tan, =qci) ⊖打つ。たたく。なぐる。ぶつ。また、打ち鳴らす。teeku ~. 太鼓を打つ。⊕討つ。tici ~. かたきを討つ。⊖(その他慣用句的に) Ƴami ~. 網を打つ。cina ~. 網を組む。ひもを打つ。sansici ~. 棧敷を構える。bakuci ~. ばくちを打つ。guu ~. 碁を打つ。hataki ~. 畑を耕す。

Ƴu=cun④ (他 =kan, =ci) ⊖置く。⊖(…して)おく。kacee Ƴukan. 書いておかない。この形の肯定は kacoocun (書いておく。書いとく)。Ƴucoocun. 置いておく。置いとく。

Ƴu=cun④ (他 =kan, =ci) 措く。やめる。cii ~. 乳を飲むのをやめる。cii Ƴukasjun. 乳を飲むのをやめさせる。

Ƴu=cun④ (自 =kan, =ci) 浮く。浮かぶ。

Ƴuçusi④ (名) ⊖写し。コピー。⊖模造品。

Ƴuçu=sjun④ (他 =san, =ci) ⊖写す。(映像を)映す。⊖写す。原物の通りに書き取る。模写する。また、模造する。⊖移す。場所を変える。⊕(病気を)うつす。伝染させる。⊕あける。(容器を)あけてからにする。Ƴirimun Ƴuçuci turasee. 入れものをあけてやれ。

Ƴucutukuru④ (名) おひとかた。御一人様。cui の敬語。

Ƴucuu④ (名) [御轎]王の乗り物。十六人であつぐかご。

Ƴucuu④ (名) 内情。~ sagujun. 内情をさぐる。

Ƴucubi④ (名) 味見。毒味。お調味の意。

Ƴucuhu④ (名) [御轎夫] Ƴucuu (王の乗り物)をかつぐ者。

Ƴudaa=sjun④ (他 =san, =ci) 大声で叱る。どなりつける。どやす。

Ƴudaki④ (名) その高さ。そんなに高く。~ Ƴagatoon. そんなに高く上がっている。

Ƴudi④ (名) 腕。上膊と下膊の全体、または

下膊をさす。上膊(二の腕)は keena という。~ kakijun. 腕ずもうをする。

ƳudiƳagisudi Ƴagi④ (名) 大いに腕まくりをすること。大いに働く時、あるいはけんかをする時に袖をまくり上げること。

Ƴudimakura④ (名) [文] Ƴudimaqkwa の文語。

Ƴudimaqkwa④ (名) 腕枕。他人の腕を枕に寝ること、また腕を枕に貸すことをいう。自分の手を枕にすることは tiimaqkwa という。

Ƴudimursi④ (名) 二の腕にできる力こぶ。

Ƴudizikara④ (名) 腕の力。腕力。

Ƴuduki=jun④ (他 =ran, =ti) 損する。商売で失敗する。古語「おどく」と関係ある語か。

Ƴudun④ (名) [御殿] 御殿。按司地頭 (Ƴazizituu) が首里にかまえた邸宅の敬称。もと地方に割拠していた按司 (Ƴazi) が中央集権制以後、首里に集められ、住まった邸宅。また、その家柄。王の世子、王子の家をもいう。tunci [殿内] の上位。Ƴudun の家柄は、間切 (maziri) を領したために、間切の名と同じ姓が多い。すなわち、明治の廃藩のころは次の通りであった。kunzan [国頭], *uzimi [大宜味], kusi [久志], hanizi [羽地], naciziN [今婦仁], mutubu [本部], nagu [名護], Ƴii [伊江], cin [金武], Ƴurašii [浦添], zinoon [宜野湾], *nžatu [美里], *juntanza [読谷山], gwiiku [護得久], *junagušiku [寺那城], gusicaa [具志川], Ƴuruku [小祿], timigušiku [豊見城], gusican [具志頭], tamagušiku [玉城], mabui [摩文仁], takanmi [高嶺], makabi [真壁], can [喜屋武], tamagaa [玉川] (兼城間切), Ƴuhumura [大村] (北谷間切), maçijama [松山] (領地なし), nakagušiku [中城]。

以上のうち、中城御殿は王の世子の邸宅、
宜野湾・松山両御殿は王子の邸宅である。
また、王の別荘も ʔudun といい、
hamanuʔudun [浜御殿]、sicinanuʔudun
[識名御殿]、ʔucajaʔudun [御茶屋御殿]
がある。また、王妃にも ʔudun の名が
つく。

ʔudungaaⓈ (名) 大鈍川。《地》参照。

ʔuduru=cunⓈ (自 =kan, =ci) 驚く。びっ
くりする。ʔuduruka:ʃun. 驚かす。びっ
くりさせる。

ʔugaⓈ (名) [文] おのれ。きさま。相手を見
くだして、または罵倒している語。
~ga ʔakujukuja ʔazisuini ʔinaci.
[おがが悪欲や 按司そひに言ひなち (忠
臣身替)] おのれの悪欲は按司様のせい
にして。

ʔugacikasaⓈ (名) その近さ。そんなに近
く。

ʔuganⓈ (名) 神を祭ってある所。木や石の
囲いがあり、前に広場がある。ʔutaki [御
岳] よりも小さく、一部落にいくつもあ
って、拜む人の範囲も限られている。

ʔugannumooⓈ (名) ʔugan の前の広場。
moo は野原の意。

ʔuganzu'uⓈ (名) ganzuu (頑丈、壮健)
の敬語。~ 'jamiʃeeibiitii. 御壮健でいら
っしゃいましたか。

ʔugatooⓈ (名) その遠さ。そんなに遠く。

ʔuguciⓈ (名) 積極性。また、進んです
る機知。~nu ʔan. 積極的である。機略が
ある。~nu neéran. 消極的である。引
込み思案である。

ʔugucimu'ciⓈ (名) 積極的な人。進んで
する者。やり手。ʔaree ~ 'jakutu caa
qcumee nati ʔaqcun. 彼は積極的だか
ら、いつでも人に先んじている。

ʔugucizi'nbunⓈ (名) 積極性と分別。機
略。

ʔuguiiⓈ (名) 御肖像画。王の肖像画をい

う。御御絵 (おんごえ)の意。

ʔuguimunⓈ (名) おごりたかぶる者。傲
慢者。

ʔuguisiⓈ (名) うぐいす。huuhwiqcoo ま
たは huuhuicoo と鳴く。

ʔugu=juNⓈ (自 =ran, =ti) おごる。た
かぶる。

ʔugumaⓈ (名) ごま。

ʔugumahacagumiⓈ (名) 菓子の名。ごま
おこし。ごまで作ったおこし (hacagu-
mi)。

ʔugumanuʔa'ndaⓈ (名) ごま油。

ʔuguci=juNⓈ (自 =ran, =ti) (病気が) 再
発する。ぶりかえす。初発は ʔukurijun
という。

ʔugušikuⓈ (名) [御城] 王の居城。首里城
のこと。gušiku は城。首里のほぼ中央に
あり、第二次大戦で焼失したが、その主
な建物には次のようなものがあった。
mundašii [もんだそへ・百浦添] (首里城正
殿。王が政務をとり、儀式などを行なった
所。俗に karahwaahu という。munda-
šii とは百の浦浦を統べる意)、kugani-
ʔudun [こがねおどん・常の御殿] (王お
よび、王の家族の居間)、'jubukui [よほこ
り・世誇]、munnamu [もんなみ・百次]、
ʔuniikeeʔudun、[二階御殿] (王の個人的
な座敷)、gusjuin [御書院] (王が政務の
取り次ぎを受けた所)、ʔukugusjuin [奥
御書院]、hweenuʔudun [南殿] (薩摩の使
節を接待した日本風の建物)、nisinuʔu-
dun [北殿] (中国使節を接待した中国風
の建物)、gubanzu [御番所]、cimihukui
[きみほこり・君誇]、cimihukuiʔuzoo [き
みほこりおぢやう・奉神門] (正殿の正面
の大きい門)、nagaʔuzoo [広福門] (門
の名)、kaguisiʔuzoo [かごあせおぢやう]
(ruqkukumun [漏刻門] ともいう。門の
名。ここまでかごで乗り入れることがで
きた)、hwiizaaʔuzoo [ひぎやおぢやう・瑞

泉門] (そばに ruuhwi [龍桶]がある。その項参照), ŶameeŶuzoo [あまゑおぢやう・飲会門] (首里城の正門), Ŷwiinuturi [うへあやぢやう・守礼門] (正門の西の大通りにある門で、守礼之邦の四字を書いた額がある), simunturi [しもあやぢやう・中山門] (Ŷwiinuturiと同じ大通りにあった門。その大通りを Ŷajazoo という), mimunuŶuzoo [みものおぢやう] (門の名。女しか通れなかった), ŶusuhwicinuŶuzoo [よそへちのおぢやう・右掖門], hukuiŶuzoo [ほこりおぢやう・久慶門], kawarumiŶuzoo [かわるめのおぢやう], ŶunakaŶuzoo [淑順門] (女官の通り所にある門であるが、男も通れた), ŶakataŶuzoo [あかたおぢやう・美福門] (女のみ通る裏門), ŶiiciziŶuzoo [そへつぎおぢやう・継世門] (一番外側の裏門。最も古く、昔の正門であったと伝えられている), sirukaniŶuzoo [しろかねおぢやう・白銀門] (王の死に際してのみ開く石の門), takaŶazana [たかあざな] (城の東側の石垣の上にある鐘楼。旗を立てて時を知らせた), simaŶiiŶazana [しまそへあざな] 同じく、西の石垣上にある鐘楼), kamee [かまい], ŶucinbjuuŶudun [御寝廟御殿] (王の死んだ時に、死体をしばらく安置しておいた所。ŶusinbjuuŶudun ともいう), Ŷungwa [御蔵] (zingura [錢蔵], kanigura [金蔵] などの倉), Ŷunaa (正殿前の広庭)など。

Ŷugwanⓐ (名)[お願] 祈願。願。祈禱。神仏に願をかけること。吉日を選び、酒や洗い清めた米を供えて、一家の女主人が行なう。願いごとの目的によって祈禱の文句が異なるが、そのおおよそは似たりよったりである。次に、一例として ŶasicinuŶugwan (屋敷と家族の無事息災を祈る祈禱)の文句をあげる。Ŷuutootu, cuunu Ŷukaruhwii cuunu masaruhwii, Ŷujasicinu

guruŶugwan Ŷunnjukijabiin. zuuni-hunnu Ŷumuçiri njuukoosizi, 'Npana Ŷuzaki Ŷusjagijabiti, turadiisjooowiki-ga ŶumuŶibi taçidiisjoowinagukaranu Ŷunigeesizi Ŷunnjukirawa, Ŷunnu-kaizurasa misjooçi Ŷutabimisjooçi. Ŷujasicinu Ŷukami, ŶjuŶimi ŶjaŶimi ŶunakaziN njuuŶsizi, ŶuzooŶumamui, huðuŶusizimee, Ŷuiçicizuraku Ŷutabimisjooçi, ŶjanakaziN sitanakaziN, Ŷizi naran munun, mici naran munun, Ŷinrihuka, Ŷusinukimisjooçi, Ŷjahwirugun tuhwiruŶuci nuukutusabin neeran gutu, Ŷukakuizurasa Ŷutabimisjooçi, turadiisjooonu Ŷujasici Ŷumamuizuraku misjooçi Ŷutabimisjooçi. ŶutukuŶujanu guun kamiŶagitoobjabiin. Ŷujasicigunnakai Ŷusudacigun tuti ŶujabiŶi Ŷutuku Ŷunna, Ŷumamuizuraku Ŷutabimisjooçi, kutusi Ŷukarudusi cutu ŶiciniN, nuukutusabin neejabiran gutu, Ŷiisakee Ŷuhwirugi simiraci Ŷutabimisjooçi, sinðee mandee Ŷuhwikari Ŷutacimisjooçi Ŷutabimisjooçi, guŶisjubusukoo ŶunagamiŶutunŶjooçi Ŷutabimisjooçi, Ŷumunziti guninzihudu tatiti Ŷujabiikutu. Ŷuutootu. あなとうと、きょうのよい日に、お屋敷のお願いごとを申しあげます。十二本を一束にした細いお線香と、洗い清めたお米と、お酒をとお供えいたしまして、寅年の男とそのつれあいの辰年の女とのお願いの筋を申しあげますので、お聞き入れになって下さいませ。お屋敷の神様、四隅八隅、中央の神様、御門の守り神様、便所の神様、やすらかにおわしましたしまして、悪い風も、けがれた風も、筋ならぬものも、道ならぬものも、千里の外にお押しのけになって下さいまして、八尋、十尋の家は何の異変も

ないように守護なすって下さいまして、寅年の者の屋敷をお守りになって下さいませ。天の御恩（2月には「男親」といい8月には「女親」という。男親は天、女親は地を意味する）をありがたくおし戴いております。お屋敷に住まわせていただいております男女をお守り下さいまして、ことしよい年、一年の間、何の異変もありませんように、末栄え、子孫繁盛させて下さいまして、千代万代、お光りをお立てになって下さいまして、言葉の不足はお見のがしになって下さいますよう、尊んで御信仰申し上げておりますから。あなとと。

Zugwanbi'i® (名) Zugwan (祈願) をする日。その祈願の性質・種類に応じて、陰陽道による吉日が選ばれる。

Zugwanbutuci® (名) 結願。また、結願のお礼参り。神仏に Zugwan (祈願) をしたあとのお礼参り。一年中の Zugwanbutuci は年末に行なう。

Zugwando'ogu® (名) Zugwan (祈願) をする時使う道具。酒を入れる瓶、洗った米と洗わない米を別々に入れる器、線香を入れる器、杯、それをのせる盆、それらすべてを納める箱の一式をいう。寺院・靈地を回って祈願をする時、持ち運ぶ。清浄であるべきものとされ、他の用にはいっさい用いない。

Zugwangu'tu® (名) Zugwan (祈禱) をすべき事から。病人・不幸などが続く時、何か Zugwangutu があるのではないかと迷う。

Zuhooku® (名) 多く。たくさん。～ ?an. たくさんある。～ nu qcu. たくさんの人。

Zuhu- (接頭) 大。大きい意を表わす。
Zuhuqcu (おとな), Zuhujaa (本家), Zuhumuci (大きい餅) など。

Zuhu?agarizima® (名) 大東島。むかし付近の海を通った舟が鶏の声を聞き、近くに島のあることが知られたが、島そのものは

発見できなかったと言われている。実際には北大東島、南大東島、沖大東島がある。

Zuhu?ahwii® (名) 一番上の兄。長兄。平民についていう語。

Zuhu?ajaa® (名) 大柄。着物の模様についていう。

Zuhu?ajaa® (名) 父母の一番上の姉。士族についていう。一番上の伯母。

Zuhu?ajamee® (名) 大奥様。士族の Zuhu?ajaa について平民などがいう敬称。?ajameegwaa (若奥様) に対する。

Zuhu?ajazin® (名) 大きな柄の着物。

Zuhu?ami® (名) 大雨。

Zuhu?anmaa® (名) 父母の一番上の姉。平民についていう。一番上の伯母。

Zuhubaa®* (名) 父母のすぐ下の叔母。大きい叔母さんの意。

Zuhubisjaa® (名) 象皮病 (の患者)。大脚の者の意。

Zuhubuni® (名) 大船。大きな船。

Zuhubusi® (名) 大節の意。hwa?uta (端歌) に対して、御前風節 (guzinhuu), 特牛節 (kutibusi) など、何々節と呼ばれる本格の歌をいう。

Zuhu?iburaa® (名) 頭でっかち。大頭の者。Zuhu?iburu の卑称。

Zuhu?iburu® (名) 頭でっかち。大頭の者。Zuhu?iburaa ともいう。

Zuhu?iburu?a'mi® (名) 大粒の雨。

Zuhuciku® (名) [古] [大筑] 鹿藩前の警察官の役名。'waciciku [脇佐], cikusazi [筑佐事] の上。

Zuhucikwi'ici®* (名) (病人が) 退屈がること。～ sjoon. (病人が) 退屈がっている。

Zuhucinee® (名) 富んだ家。また、大所帯。大家族。Zuhuzinee ともいう。

Zuhu?izaa® (名) 大豆。大粒のものの意。toohumaami ともいう。

Zuhucoodee® (名) 兄弟が多いこと。たく

Zuhucun

さんの兄弟姉妹。

Zuhucun⑩ (名) 大中。《地》参照。

ZuhuduNci⑩ (名) ㊦お宅。お屋敷。他人の家に対する敬称。大きなお屋敷の意。

㊦土族の本家。宗家。平民のそれは Zuhujaa という。

ZuhuduNmooi⑩ (名) びっくり仰天。飛び上がって驚くこと。

Zuhudusjui⑩ (名) 非常な年寄り。大年寄り。

Zuhugaci⑩ (名) 大の食いしんぼう。

Zuhugacima`jaa⑩ (名) 大変な泥棒猫。また、そのように盗み食いする者。

Zuhuganiku⑩ (名) 大兼久。《地》参照。

Zuhugee⑩ (名) 豚などの胃。食品としての名。

Zuhugii⑩ (名) 大木。また、喬木。teebuku ともいう。gumagii (灌木) に対する。

Zuhugucaa⑩ (名) 大きな口をした者。

Zuhuguci⑩ (名) 大口。大きな口。～ huracun。大口をあける。

Zuhugui⑩ (名) [大庫裡] 財産を保管する裏部屋。大きな kuui。とくに、Zudun [御殿]、tunci [殿内] などの家での財産を保管する部屋。そこで財産の管理人 (sucici) や会計係 (zidee) が事務をとる。

Zuhugusiku⑩① (名) 大城。《地》参照。

Zuhugusikugwe`ena⑩ (名) [大城ごゑにや] kweena (旅歌) の一つ。Zuhugusikugireena [大城ぎらいをゑな] という文句に始まる長い古歌。

Zuhugusjuuzi⑩ (名) 大きなお祝い。盛大な祝儀。ことに、還暦およびそれ以上の高齢の祝いをいう。

Zuhugwii⑩ (名) 大声。

Zuhuhaamee⑩ (名) 曾祖母。ひいおばあさん。また、祖父母の姉、祖父母の兄の妻をもいう。* 平民についていう語。

Zuhuhaba⑩ (名) 大幅。普通の布の二倍の

幅の布。

Zuhuhwinazi⑩ (名) 大辺名地。《地》参照。

ZuhuZiibi⑩ (名) おや指。

ZuhuZiici⑩ (名) ため息。嘆息。

ZuhuZiju⑩ (名) 大きな魚。大魚。nizi-deenu Zasiqadu ZuhuZijoo tujuru。しんぼう強い者が大魚を取る(諺)。

Zuhuja⑩ (名) [大親] Zudun [御殿] の家の家政を管理する人。家令。

Zuhujaa⑩ (名) 本家。平民のそれをいう語。

ZuhujaaniNzu⑩ (名) 大家族。大勢の家族。

Zuhujakaa⑩ (名) 貴族の男の子のおもり役。補導役として雇われた者をいう。'jaka-agwaa (遊び相手として雇われた者) に対する。専属の家庭教師。

Zuhujaku⑩ (名) [古] [大屋子] 位階の名。大役の意であろう。さらに古くは Zuhujakumui といったが、後には peecin というようになった。peecin の項参照。

Zuhujakuu⑩ (名) [古] Zuhujaku と同じ。

Zuhujamatu⑩ (名) 日本。日本本土全体。'jamatu が薩摩だけを意味することがあるので、それと区別していう。

ZuhujamatuNcu⑩ (名) 日本人。日本本土の人。'jamatuncu が薩摩の人だけを意味することがあるので特に薩摩以外の日本人をいう。

ZuhujaQcii⑩ (名) 一番上の兄。長兄。大きいにいさん。土族についていう語。

ZuhujaQkwanaa⑩ (名) Zuhukuugaa と同じ。'jaqkwan は、やかん、および、きんたま。

ZuhujaQsan⑩ (形) おとなしい。やさしい。ZuhujaQsaru qcu。やさしい人。おとなしい人。

Zuhujasii⑩ (名) ㊦(赤ん坊などの)おとなしい者。㊦お人よし。人の言うなりになる

- 者。
- Zuhujukusimunu²Zii** ① (名) 大うそ。～
sjun. 大うそをつく。
- Zuhujukuu** ① (名) 大欲張り。強欲な者。
goojukuu ともいう。
- Zuhukaa** ① (名) 大保川。国頭地方にある
川の名。
- Zuhukubi** ① (名) 大首の意。次の句でいう。
～toorijun. 大きゅうに頭を下げた頼む。
我を折って頼み入る。懇請する。
- Zuhukungaa** ① (名) 大ぎんたま。象皮病
で睾丸の大きくなった者。Zuhujaqkwa-
naa ともいう。
- Zuhumaaru** ① (名) 仕事を人にまかせて、
楽に暮らせること。左うちわ。
- Zhumacija** ① (名) 大きな店。macija は
家をかまえた店。
- Zhumeejatu²mee** ① (名) 大きな飯の意。
大盛りにした飯。'jatu- も大きな意。
mabuigumi (魂をこめる式。その項参照)
の時の文句にある。mabujaa mabujaa,
Zuuti kuu 'joo, ～kwira 'jaa. 魂よ、
魂よ、追って来いよ、大きな飯をやるぞ。
- Zhumici** ① (名) 大通り。大道。
- Zhumicinuqcu** ① (名) 道行く人。行きず
りの人。赤の他人。
- ZhumiNtamaa** ① (名) 眼玉の大きな者。
- ZhumunuZii** ① (名) 大言壮語。ほらを吹
くこと。
- ZhumunuZutusi** ① (名) 大きな落とし物
をすること。～sjooru gutoon. 大きな
落とし物をしたようだ。大きな穴があいた
ようだ。親しい家族がひとり欠けた場合な
どにいう。
- Zhumutamuta** ① (副) 大勢で笑いさざめ
くさま。がやがや。わいわい。～sjoon.
わいわいと笑いさざめいている。
- Zhumuutu** ① (名) 総本家。一族一門の元
祖の家柄。nakamuutu (分家の祖先) に
対する。
- Zhumuzi** ① (名) 大麦。
- Zhununi** ① (名) 大根。deekuni というのが
普通。
- Zhunibaa** ① (名) 大根の葉。
- Zhunitei** ① (名) 大きな寝息。
- ZhuninZu** ① (名) 大人数。多人数。大
勢。
- Zhunusi** ① (名) [古][大主] Zazi [按司]
の家来の中の頭役。
- Zhunusudu** ① (名) 大泥棒。
- ZhuZnbsi** ① (名) ⊖大きな重し。⊖大き
な負担。～Zuruci 'jaajaatu natan. 大
きな重荷を下ろしてほったした。
- ZhuZnmari** ① (名) こせこせしないたち。
ゆったりとした性質。鷹揚な性質。
- ZhuZnmee** ① (名) 曾祖母。ひいおばあ
さん。また、祖父母の姉、あるいは祖父母の
兄の妻*。士族についていう語。
- ZhuZnmii** ① (名) 長姉。一番上の姉。大
きいねえさん。士族についていう語。
- ZhuNcaki** ①* (名) 大見武。《地》参照。
- ZhuNkasi** ① (名) 大昔。先史時代の意で用
いる。nakamukasi に対する。kamigu-
dee ともいう。
- ZhuNmi** ① (名) 大嶺。《地》参照。
- Zhuqcu** ① (名) おとな。～nu kubai. お
となへの待遇。おとな並みの扱い。
- Zhuqcubui** ① (名) (子供が)おとなぶるこ
と。
- Zhuqcugwii** ① (名) おとなの声。
- Zhura** ① (名) 大浦。《地》参照。
- Zhurume²e** ① (名) お祝いのごちそう。祝
宴のおふるまい。'juçigunnu ～'juçigun
の項参照。
- ZhurumeNtaa** ① (名) ままごと。お客さ
まごっこ。
- Zhusaagaa** ① (名) 数の多さを争うこと。
遊戯などで数・点数の多い方を勝ちとする
こと。<taaga Zhusaga. (誰が多いか)。
- Zhusanikatazikiruu** ① (名) 数の多い方

Yuhusan

に決めること。また、多数決。

Yuhusan⑩ (形) (数・量が) 多い。

Yuhusi⑩ (名) [大瀬] 大岩。大きい岩(sii)。

Yuhusidubi⑩ (名) [古] [大勢頭部] gušikuncu (宮女) の中から選ばれて王の妾となったもの。

Yuhusjoo⑩ (名) Yuhusjoomun と同じ。

Yuhusjoomun⑩ (名) そそっかしい者。とんま。間抜け。抜け作。

Yuhusjnu⑩ (名) 父方の一番上の伯父。または Yuhuyanmaa の夫。平民についていう語。また農村の8月踊りに出て来る120歳の長者はとくに hjakuhataci najuru coozanu ~ という。

Yuhuta⑩ (名) 大田。《地》参照。

Yuhutaarii⑩ (名) 伯父。伯父さん。父母の兄。また Yuhujajaa の夫。士族についていう。叔父は 'uncuu という。

Yuhutanmee⑩ (名) 曾祖父。ひいおじいさん。また、祖父母の兄あるいは祖父母の姉の夫*。士族についていう語。

YuhuyuhuyNmee⑩* (名) 曾祖父母の姉。または、曾祖父母の兄の妻。士族についていう語。

Yuhuyuhuyusjume⑩* (名) 曾祖父母の兄。または、曾祖父母の姉の夫。平民についていう語。

Yuhuyuhuuu⑩ (副) たっぷりと。たくさん。~ Yirijun. たっぷりと入れる。

Yuhuyuhwaka⑩ (名) 本家のお墓。

Yuhuyumi⑩ (名) 大海。

Yuhuyuminaaku⑩ (副) すっかり安心したさま。次の句でいう。~ najun. すっかり安心する。大きな心配事が解消した場合にいう。

Yuhuyusjume⑩ (名) 曾祖父。ひいおじいさん。また、祖父母の兄、あるいは祖父母の姉の夫*。平民についていう語。

Yuhuyusjuukoo⑩ (名) 大法会。二十五年忌と三十三年忌の法事をいう。Yubuçizi

ともいう。十三年忌までは、白地の喪服を着るが、二十五年忌以上は紺地の晴れ着を着て盛大にいとむ。

Yuhuyutira⑩ (名) 首里の円覚寺をいう。大寺院の意。

Yuhuyuubi⑩ (名) 礼装用の大帯。男が礼装の時着用する幅の広い帯。中国の紳に相当するもの。

Yuhuyuzaa⑩ (名) 一番座敷。屋敷のなかで一番大きく立派な座敷。単に Yuzaa ともいう。

Yuhuyuzoo⑩ (名) 表門。正門。屋敷の表側にある大きな門。Yuzoogwaa に対する。

YuhuuNuu⑩ (名) 母方の伯父。また、母方に限らず自分と非常に年の違う叔父。大きいおじいさん。

Yuhuwaree⑩ (名) 大笑い。~ sjun. 大笑いする。

Yuhuwata⑩ (名) ⊕大きな腹。妊婦などの大きな腹。~ siisi sjoon. 大きな腹をかかえて苦しそうである。⊖大腸。

Yuhuwataa⑩ (名) 腹の大きい者。妊婦や大食いの卑称。

Yuhuwatamu^N⑩ (名) 妊婦。腹の大きい者の意。普通は kasagincu という。また、女同志では siduugahuu sjoon. (ありがたいものをいただいている) のように言いあらわす。

Yuhuwatayurumaa⑩ (名) くつわ虫の一種。腹が大きい。

Yuhuwikiga⑩ (名) 元来は大男の意。女が出生した時に、女の子をほしがる魔物に命をとられることを恐れて、わざと Yuhuwikiga (大男) が生まれたという。

Yuhuwinaagu⑩ (名) 元来は大女の意。男が出生した時に、男の子をほしがる魔物に命をとられることを恐れて、わざと Yuhuwinaagu (大女) が生まれたという。また、その父親が旅先にある時は、名前までも女の名前をつける。首里には、男で女の名の

- ついた者がよくあるが、みな、このため
で、たいがいな nabii (鍋) という女の
名前がつけられた。
- ʔuhuza**ⓐ (名) 年寄り。老人。謙称または
軽い卑称として用いる。'waqtaaʔuhuza.
うちの年寄り。
- ʔuhuzaa**ⓐ (名) 老いぼれ。ʔuhuza の卑
称。
- ʔuhuzana**ⓐ (名) 大謝名。《地》参照。
- ʔuhuzatu**ⓐ (名) 大里。《地》参照。
- ʔuhuzi**ⓐ (名) [大地] 沖縄本島をいう。
- ʔuhuzimuu**ⓐ (名) 気前がいい者。惜しげ
なく人に物を与える者。
- ʔuhuzinee**ⓐ (名) ʔuhucinee と同じ。
- ʔuhuziN**ⓐ (名) 大金。多額の金。
- ʔuhuzuNzaNsimee**ⓐ (名) おじいさま。
貴族の祖父・老翁に対する敬称。貴族の家
族がいう。
- ʔuhwa**ⓐ (名) おんぶ。人を背負うこと。
～ kwiizikijun. しっかりと背におんぶ
する。Qkwa ~ sjun. 子をおんぶする。
- ʔuhwaçi**ⓐ (名) おはつ。神仏に供えるため
に、人が手を付けぬうちにとっておく食
物。
- ʔuhwaka**ⓐ (名) お墓。
- ʔuhwakame**ⓐ (名) お墓参り。墓参。ha-
kamee ともいう。旧暦1月16日、7月7
日には、親戚一同が揃って ʔuhwakamee
を行なう。
- ʔuhwi**ⓐ (名) その大きさ。それだけ (の
量)。そんなに大きく (多く)。また、そん
なわずか。～na kutu. そんな (大きな・あ
ずかな) こと。～na ʔuzauti 'jun'taku
suna. そんな立派なお座敷でおしゃべり
するな。
- ʔuhwi**ⓐ (名) おきさき。王妃 (hwii) の敬
語。ʔuhwii ともいう。
- ʔuhwigamutu**ⓐ (名) お日のもとの意。首
里をさしている。
- ʔuhwigwaa**ⓐ (名) ʔuqpigwaa と同じ。
- ʔuhwii**ⓐ (名) ʔuhwi (おきさき) と同じ。
- ʔuhwiiku'tu**ⓐ (名) 大きな事。盛大な事。
盛典。'oonu ʔukuree ʔuçicinʔeeʔee ~
'jan. 王が即位されるのは盛典である。
- ʔuhwikari**ⓐ (名) お光。神仏の威光。
- ʔuhwiraku**ⓐ (副) お平らに。お楽に。か
しこまった客に対して言う語。hwiraku
の敬語。～ ʔunaimiʔeebiri. お楽になさ
いませ。
- ʔuhwisaN**ⓐ (形) 大きい。magisaN (大き
い) より格式ばった語感があり、多くは抽
象的な大きさをいう。すなわち、盛大であ
る・偉大である・大げさである、など。
ʔuhwii kutu. 大いなること。大儀式な
ど。ʔuhwii qcu. 偉人。ʔamari muri-
kujaja ziridatinu ʔuhwisa. [余り盛小
屋や 義理立ての大き (手水之縁)]あまり
盛小屋 (人名)は義理立てが大げさである。
macidu ʔurisigutu 'jurukubin ʔuhwi-
sa. [待ちど戀しごと 喜びもおへさ (大川
敵討)]待つのがうれしく、大きな喜びだ。
- ʔuʔiihwee**ⓐ (名) 御位牌。ʔiihwee (位牌)
の敬語。
- ʔui**ⓐ (名) 瓜。
- ʔuidaka**ⓐ (名) 売り高。売り上げ高。
- ʔuigwaaʔusee**ⓐ (名) 料理名。きゅうりま
たは白うりなどを薄く切り、塩・酢、また
は砂糖水などで味をつけ、もんだもの。
きゅうりもみ。
- ʔuimuN**ⓐ (名) 売りもの。売品。
- ʔuinukusi**ⓐ (名) 売れ残り。
- ʔuiroomuci**ⓐ (名) 菓子の名。ういろうも
ち。米の粉で作った餅菓子。那覇で作られ
た。
- ʔuisaba=cuN**ⓐ (他 =kan, =ci) 売りさばく。
- ʔuiwee**ⓐ (名) お祝い。お祝いの行事。
ʔujuwee ともいう。
- ʔuja**ⓐ (名) 親。tainu ~. ふた親。両親。
～karanu 'juziri. 親からゆずり受けた
もの。財産・性質・病気など、親ゆずりの

ʔujaʔanmaa

もの。

ʔujaʔanmaaⓄ (名) ʔeeban (その項参照) が任地でもつ妾。もとは、子供ができた場合にそう呼ばれた。ʔujaʔanmaa の家は免税、子はその土地の士族になるなどの特権があった。

ʔujaaduiⓄ (名) 貴族の別荘。

ʔujabuNnoo Ⓞ **qkwacikusjoo**Ⓞ (句) 親は子ぼんのうで、子は親に対して畜生のよう。親の心子知らず。

ʔujaçirasaⓄ **qkwaçirasa**Ⓞ (句) 親もつらく、子もつらいこと。親子別離の場合などにいう。

ʔujagakaiⓄ (名) 親がかり。親の庇護の下にあること。

ʔujaganasiⓄ (名) [文] 親御。親の敬語。
'waʔujaganasi. わたしの親御。

ʔujaganasiⓄ (名) 親御様。他人の親の敬称。

ʔujagawaiⓄ (名) 親がわり。親のかわりになって世話すること。

ʔujagiⓄ (名) 援助。補助。金銭・物資などを援助すること。

ʔujagi=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖ささえる。押し上げる。qkwa ~. 背負った子を上に押し上げる。⊕援助する。物質的に助ける。ʔujanujaa ~. 親の家を援助する。

ʔujahukooⓄ (名) 親不孝。

ʔujahuziⓄ (名) 父祖。祖先。

ʔujahwaahu'ziⓄ (名) 父祖。祖先。hwaahuzi は祖父母。

ʔujakuⓄ (名) [文] 親子。口語では ʔujaqkwa という。

ʔujakuⓄ (名) お役。'jaku (官職) の敬語。

ʔujamaⓄ (名) 大山。《地》参照。

ʔujamadiiⓄ (名) 親を失うこと。~ sjun. みなし子になる。

ʔujama=juNⓄ (他 =aN, =raN, =ti) 敬う。あがめる。

ʔujamasaiⓄ (名) 親まさり。親より傑出すること。

ʔujamasai'ngwaⓄ (名) 親まさりの子。

ʔujameekutubaⓄ (名) 敬語。

ʔujamuduigu'tu*Ⓞ (名) 親にそむくこと。親不孝なこと。ʔunu cimoo ʔarantašiga, ~ nati. そのつもりはなかったが、親にそむくことになった。

ʔujamudui'ngwa*Ⓞ (名) 親にそむく子。親不孝者。

ʔujamutuⓄ (名) 親もと。

ʔujanujaaⓄ (名) 親の家。また、とついだ女の里。里は nasimii ともいう。

ʔujanutamiⓄ (名) 親のため。~ kuninutami. 親のため国のため。

ʔujanmaaⓄ (名) ʔujaʔanmaa と同じ。

ʔujanše'enⓄ (連詞・不規則) 'jan (だ・である) の敬語。ʔwaanše'en と同じ。でいらっしやる。でおありになる。ʔamaama ʔujanšeebiiga. あのかたはどなたでいらっしやいますか。

ʔujaqkwa*Ⓞ (名) 親子。親と子。

ʔujaqkwamuru'qkwaⓄ (名) 親子全部。親子もろとも。

ʔujasi*Ⓞ (名) もやし。おとなの使う語。普通 maamina を多く用いる。

ʔujaʔumujaaⓄ (名) 親思い。孝行者。

ʔuju=buNⓄ (自 =baN, =di) およぶ。到達する。否定の形で多く用いる。ʔjuunin ʔujuban. 言うにおよばない。

ʔu=juNⓄ (他 =raN, =ti) 織る。nunu ~. 布を織る。

ʔu=juNⓄ (他 =raN, =ti) 売る。

ʔujuweeⓄ (名) ʔuiwee と同じ。

ʔukaⓄ (名) 宇嘉。《地》参照。

ʔukaasjanⓄ (形) あぶない。危険である。失敗の可能性が多い。また、病人の状態などがあぶない。

ʔukabi=juNⓄ (他 =raN, =ti) [新?] 浮かべる。huni ~. 舟を浮かべる。

Yuka=buN① (自 =baN, =di) [新?] 浮く。

浮かぶ。

Yukaçimi① (名) 特定の仏が特定の人の運命を加護し、左右していること。おつかまえの意。人の生年の十二支の別によってそれぞれ仏が異なる。たとえば寅年の人の **Yukaçimi** は円覚寺の仏、子の年の人のそれは観音堂の仏のようになっており、**Yugwan** (祈願) をする場合は、それぞれの **Yukaçimi** の寺院へ行く。<**kaçimijun**。

Yukaga=juN① (他 =aN, =raN, =ti) うかがう。ひそかにさぐる。ひそかにのぞく。訪問する・お聞きするなどの意はない。

Yukagi=juN① (他 =raN, =ti) 「(食べ物を)よそう」(**Yirijun**)の敬語。**Yubun Yukagijabira**。御飯をおつぎしましょう。

Yukaimun① (名) 開聞岳。薩摩半島にある山の名。

Yukaitu① (副) うっかり。**Yukaqtu** ともいう。

Yuka=juN① (自 =raN, =ti) 交接する。男の側からいう。上品な語ではない。普通の語は **Yicajun**。動物については **çirubun** という。

Yukakibuş'e① (名) 御統治。お治めになること。しろしめすこと。-buşee (<-huşee) は栄えさせる意か。**Yisinagunu Yisinu Yuhusi narumadin, Yukakibuş misjori 'waYusjuganasi**。[石などの石の大瀬なるまでも おかけぼさへ召しやうれ 我御主がなし] 石などの石が大岩になるまでも、お治め下さいわが君。沖繩の君が代に当たる歌で、宴席などで最初に歌われた。

Yukakizi'ma① (名) [古] [御掛島] 御領地。御采地。<**sima kakijun** (采地を領する)。sima の項参照。

Yukani① (名) (食物が) 暖かいこと。~nu **Yaru Yucini Yusjagamisjooree**。暖かいうちに召し上がって下さい。~ **sjabiimi**。

暖めましょうか。

Yukaqtu① (副) うっかり。**Yukaitu** ともいう。

Yukaqtuu① (名) うっかり者。そこつ者。

Yukasa=rjijun① (自 =riraN, =qti) ⊖高熱に浮かされる。⊖(心が) うきうきする。**kukuru** ~。心がうきうきする。

Yukazai① (名) 仏壇・床の間などに、飾りつけをしたり、ものを供えたりすること。また、その物。お供え。お飾り。

Yukazaika'bi① (名) 正月などに、祭壇と火の神の前に供える紙。白・黄・赤の三枚を重ね、その上に供物をのせる。

Yukazi① (名) ⊖おかげ。**Yujanu** ~。親のおかげ。**Yunzuga** ~。あなたのおかげ。⊖役得。余録。役得として得るもの。~ **Ynzasjun**。役得を生み出す。料理の場合なら、材料を全部使わずに、いくらかを自分のために残すことなど。

Yukee① (名) おかゆ。**Yukeenu Yusiru**。旧暦7月15日盆祭りの終わりの日に祭壇に供える、あずきのかゆと汁。汁は煮出汁に醤油を加えたもので、実に冬瓜・豆腐・肉その他色色のものを賽の目に切って入れる。~nu **Ywaajuu**。おかゆのうわ湯、すなわち重湯。

Yukeeihwike'ei① (名) 躊躇逡巡。大いにためらうこと。~ **sjun**。

Yukeeimunii① (名) ためらったものの言い方。自信のない言い方。

YukeeiYumii① (名) ためらうこと。引っこみ思案。また、気兼ねすること。遠慮。~ **sjun**。

Yukee=juN① (自 =raN, =ti) ためらう。しりごみする。不安がる。また、気兼ねして引っこむ。遠慮する。

Yuki① (名) 浮き。釣り糸につける浮標。

Yukidui① (名) 受け取り。領収証。

Yukihansi① (名) 受け答え。議論・談判などの時の応対。受けはずしの意。

Zukihwintoo

Zukihwi¹NtooⓄ (名) 受け答え。応答。

Zuki=juNⓄ (自 =raN, =ti) 起きる。起床する。Zuukimišeebitii. お早うございます。目上に対する、朝の室内でのあいさつ。お目ざめですか。Zukitin nintin. 起きてても寝ても。寝てもさめても。

Zuki=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖受ける。baçi ~. 罰を受ける。⊖請ける。引き受ける。請け負う。

Zuki=juNⓄ (他 =raN, =ti) 浮かべる。浮かせる。huni ~. 舟を浮かべる。

ZukimuciⓄ (名) 受け持ち。担当の仕事。

Zukimu=cuNⓄ (他 =taN, =qci) 受け持つ。担当する。

ZukiniNⓄ (名) 身元引受人。保証人。

ZukiniNziiⓄ (名) 床の中で眼をさましていること。

Zuki²Nzi=ju¹NⓄ (他 =raN, =ti) 起きて出る。(病人などが) 床を離れる。

ZukiNzuⓄ (名) 肥土 (Yiihu) の流失を防ぐため、畑のところどころに掘る溝。satuja ~nu tamaimizigukuru, kaniriwan 'jusuni 'jukuci Yicusu. [里やうけんずの溜り水ごころかねれわも手所によこち行きゆさ] 愛する君はうけ溝にたまる水のようなもの、せき止めてもよそに流れて行く。

ZukiNzuhaiNzuⓄ (名) [受水走水] 地名。玉城間切玉城にあり、沖繩ではじめて稲を植えたとされるところ。

ZukisikuciⓄ (名) 請け負い仕事。

Zukitu=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖受け取る。⊖(技術などを) 習得する。

Zukitumi=ju¹NⓄ (他 =raN, =ti) 受け止める。

Zukizamaniza¹maⓄ (名) 起きたとたん。起きぬけ。起きてまだ目のさめやらぬうち。~nu kutu 'jati, caa šee 'jutasjaga 'wakarantaN. 起きぬけのことで、どうしてよいかわからなかった。

ZukooⓄ (名) [お香] 御線香。仏壇にあげて先祖を祭る。~du kookoo. お線香をあげることこそ孝行。

ZukoornⓄ (名) 御香炉。仏壇で線香をあげる炉。大きいほど子孫繁昌を意味するとして、大きい香炉を尊んだ。

ZukuⓄ (名) 奥。(地) 参照。

ZukučiiⓄ (名) たこあげで、たこの調子をとるためのひも。たこがさかさ落ちたりしないために付けたもの。

ZukudaⓄ (名) 宇久田。(地) 参照。

ZukudiⓄ (名) 奥の手。秘訣。

ZukudiⓄ (名) 一門の中の、神に仕える人。kudi ともいう。三十三年忌をすませた祖先が男女おのおの二柱の神となり、それぞれを一門中の 'unaiZukudi と 'wikii-Zukudi の二人が受け持って祭る。部落の神官 nigami, さらに数部落の神官 nuuru の下部組織をなす。kudi からは kuñdi Zawaci, misudi Zawaci (手を合わせ、袖を合わせ) という祈りの文句の kuñdi (組み手?) が連想されるが関係あるまい。

ZukugusjuinⓄ (名) [奥御書院] 首里城の建物の名。

ZukuhwanⓄ (名) kuhwan の丁寧語。

ZukuZirizo¹oⓄ (名) 奥まった門。道路からはいりこんだところにある門。旧家の門に多い。

Zukuikce=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 送り返す。返送する。

ZukuimeeⓄ (名) 無尽で、中途で当たるか、人の当たったのを買いかして金を受け取ったのち、利子を付けて返還すべき掛け金。kakimee (掛け前) の対。

ZukuimuNⓄⓄ (名) 進物。おつかいもの。贈り物。恋人への贈り物は元来は nasaki という。~ sjun. 進物をする。贈り物をする。

ZukuiZuzinⓄ (名) 送り膳。宴会に来ない客にその人の膳部を送りとどけること。ま

- た, その膳部。
- ʔukuizooⓄ (名) 婚礼の際の, 嫁の荷物の送り状。婿の家へ持参する荷物の目録。
- ʔukujamaⓄ (名) 奥山。深い森林。
- ʔuku=junⓄ (自 =ran, =ti) (事件が) 起こる。起きる。病気についてはいわない。ʔikusanu (soodoonu) ~. 戦争(騒動)が起こる。
- ʔuku=junⓄ (他 =ran, =ti) ⊖(物品・書状などを) 送る。⊖葬送する。(死人を) 送る。
- ʔukukuⓄ (名) 小谷。(地) 参照。
- ʔukumaⓄ (名) 奥間。(地) 参照。
- ʔukumaamiⓄ (名) 植物名。いんげん豆。
- ʔukumuimiše'enⓄ (自・不規則) 崩御する。おかれ遊ばす。王が死ぬことの敬語。
- ʔukuna=junⓄ (他 =an, =ti) 行なう。
- ʔukuneeⓄ (名) 行ない。行為。品行。~nu 'waqsan. 品行が悪い。
- ʔukura=sjunⓄ (他 =san, =ci) (時刻) に遅れさせる。遅刻させる。また, (速度を) 遅らせる。
- ʔukurecooziⓄ (名) [古] [御位王子] 王の子でない者で, 功勞によって王子の位を与えられた者。ʔazi [按司] が siqsii [摂政] になった場合などになる。
- ʔukuri=junⓄ (自 =ran, =ti) ⊖盛り上がる。miigaanu ~. (元気が回復して) まぶたが盛り上がる。⊖(事件・病気などが) 起こる。起きる。ʔikusanu ~. 戦争が起こる。bjooocinu ~. 病気が起きる。⊖大きくなる。盛んになる。kurasinu ~. 暮らしが大きくなる。
- ʔukuri=junⓄ (自 =ran, =ti) (かさぶたが) はげて離れる。kasabutanu ~. かさぶたがとれる。
- ʔukuri=junⓄ (自 =ran, =ti) 遅れる。また, 遅刻する。niiku najun (遅くなる) ともいう。速度については多くは nibuku

- najun (のろくなる) という。
- ʔukusiⓄ (名) [古] 御輿。王の乗る輿。
- ʔuku=sjunⓄ (他 =san, =ci) ⊖(物・人を) 起こす。起こして立てる。⊖(人を) 起こす。目ざめさせる。⊖興こす。盛んにする。'jaa ~. 家を榮えさせる。mura ~. 村を盛んにする。
- ʔukuta=junⓄ (自 =ran, =ti) 怠る。なまける。
- ʔukwanʔi'NⓄ (名) [お冠船] 中国から沖縄に派遣される冊封使 (toonu ʔazi) の船。
- ʔukwanʔi'NuduiⓄ (名) [お冠船] 冊封使を接待するために催した国劇。演ぜられたのは主として組踊り (kumiudui) であり, 冊封は琉球王の一代一度の大儀典なので, 役者の選抜, 練習は厳重をきわめ, その華麗さや役者となる美男の評判は, 国中をどよめかせたという。
- ʔumaaciⓄ (名) 火 (hwii) の敬語。多く ʔumaçi という。~nu ʔugwan. 火の神に対する祈願。村の 'uganzu (祈願をする霊地) で祈願をし, 家に帰ってから, おのおのの家のかまどで祈願をする。
- ʔumaanʔasagasaⓄ (名) 思わなくてもよいような雑念。とりこし苦勞。~ ʔumu-jun. 考えなくてよいことを, かれこれと考える。とりこし苦勞をする。
- ʔumaaranmu'NⓄ (名) 心外なこと。とんでもないこと。また, 心外な者。心ない者。けしからぬ者。ʔariga 'waakutu ʔjuteegisaʔiga ~ 'jaqsaa. 彼がわたしのことを悪く言ったそうだが, 心外なやつだ。
- ʔumaasibuiⓄ (名) 思わせぶり。ʔansi ʔumaasibuec san gutu kamee. そんなに思わせぶりはしないで食べ。~nu ʔizii-nee duunudu sunoo sjun doo. 思わせぶりが過ぎると自分が損するぞ。
- ʔumaazihuraaziⓄ (副・名) ⊖思わず。~ dateen ʔabitan. 思わず大声を出した。⊖ 思いがけず。また, 思いがけない

ʔumaçi

こと。kumauti ʔicaišee ~nu kutu ʔjaqsaa ʔjaa. ここで会うとは思いがけないことだねえ。

ʔumaçiⓄ (名) [古] 火 (hwii) の敬語。老女などがよく言う。ʔumaçee saatooja-biimi. 火はございますか。

ʔumaçiⓄ (名) 稲麦などの農耕に関して行なわれるお祭り。2月, 3月に麦の祭りを, 5月, 6月に稲の祭りを行なう。4月には ʔabusibaree (その項参照) が行なわれる。もとは, 国王が久高 (2月), 玉城 (4月) に出かけて, その祭りを行なった。

ʔumaniiⓄ (名) [思姉] ⊖兄嫁さん。または, 嫁に行ったねえさん。兄嫁・既婚の姉の敬称。士族についていう。⊖奥さん。既婚の士族の婦人の敬称。

ʔumanimeeⓄ (名) 兄嫁様。または, 嫁に行ったおねえさま。結婚した貴族の女をその弟妹などがいう語。一般からは ʔaqtomee と呼ばれる。

ʔumaNeuⓄ (名) [御真人・御万人] 人民。一般の庶民。多くの人。万人。

ʔumaNuʔNⓄ (名) 王の礼服。

ʔunawaiⓄ (名) おかず。おまわり。

ʔumeeⓄ (名) [古] [御前] 御前 (ごぜん)。御前様。殿様。ʔuduN [御殿] の主人公に対する敬称。昔, ʔazi [按司] と称した者が, 首里に居宅 (ʔuduN) をかまえて住むようになってからは, ʔumee といわれるようになった。

ʔumeegwaaⓄ (名) 若殿様。若様。ʔumee の長男に対する敬称。ʔumee が ʔazi [按司] といわれた時代には, ʔwakaazi [若按司] といわれた。

ʔumeenumeʔeⓄ (名) お殿様。御前様。ʔumee の敬称。

ʔumeesiⓄ (名) お箸。meesi の丁寧語。首里の上品な家では, 普通 ʔumeesi といった。

ʔumeesibakuⓄ (名) お箸箱。

ʔumeNtuuⓄ (名) 紙びな。紙で作り, 紙の着物を着せた女びなにんぎょう。男びなは saatuumee という。ʔjuqkanuhwii (旧暦 5月4日) をにぎわす玩具のひとつ。

ʔumentuubakuⓄ (名) ʔumentuu を入れる箱。にんぎょう箱。木箱を色紙で美しく飾ったもの。

ʔumiⓄ (名) 海。~ ʔaqcun. 海に行く。航海する。また, 船乗りを業とする。また, 漁師をする。

ʔumi- (接頭) [思] 敬愛の意をあらわす接頭辞で, 人名, 人倫関係の語につける。さん。さま。ʔumiziruu (次郎さん), ʔumišiza (おにいさま), ʔumisatu (恋しいお方) など。

ʔumiʔaasaⓄ (名) 海あおさの意。ʔaasa (あおさ。青のりの一種) と同じ。moo-ʔaasa (きのこの一種) と区別してよんだ名。

ʔumiʔaqcaaⓄ (名) 船乗り。船員。また, 漁師。-ʔaqcaa < ʔaqcun (歩く)。

ʔumibataⓄ (名) 海ばた。海辺。海岸。

ʔumicakiNⓄ **neeN**Ⓞ (句) 思いがけない。~ kutu. 思いがけないこと。

ʔumiçi=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 思いつく。ʔumiçicaruu kutunu ʔwamini mata ʔajuN. [思付ちやることの 我身にまたあゆん (手水之縁)] 思いついたことがわたしにまたある。

ʔumici=juNⓄ (他 =raN, =qci) 思い切る。あきらめる。

ʔumicikuʔruⓄ (副) 御てずから。御自身で。ʔunzukuru よりいっそう丁寧。~ misjooçi. 御自身でなさって。

ʔumiçimi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 思いつめる。一途に思いこむ。

ʔumiçiʔmuNⓄ (名) かまどの神。かまど (kama) は石三つからできていたのでこの名がある。お三つ物の意。

ʔumiciqciⓄ (副) 思い切って。決心して。

- ʔumiciqtu④ (副) 思いきり。強く。うんと。しっかり。～kaçimitoon. しっかりつかんでいる。
- ʔumiciri④ (名) 思い切り。決断。また、あきらめ。断念。～nu neen. 思い切りが悪い。
- ʔumicuku¹ru④ (名) 御三人様。おさんかた。miqcaí の敬語。micukuru, ʔumitukuru ともいう。
- ʔumigaanii④ (名) 海亀。単に kaamii と いえば水陸両棲の亀を多くいう。
- ʔumiga¹ni④ (名) 海にいる蟹。
- ʔumigwa④ (名) [文] 主人の子、または、目上の人の子に対する敬称。お子さま。口語は ʔumingwa。
- ʔumihama=ju¹N④ (自 =raN, =ti) はげむ。熱心に努力する。
- ʔumii④ (名) ʔumui (思い) と同じ。
- ʔumiibukasan④ (形) 思慮深い。考えが深い。また、考え過ぎる。
- ʔumiiduuí④ (名) 思い通り。思った通り。～natan. 思い通りになった。
- ʔumiijamii④ (名) 思いなやむこと。思いためらうこと。～sjun.
- ʔumiinici④ (名) 御命日。miinici の敬語。
- ʔumiinuhuka④ (名) 思いのほか。意外。案外。
- ʔumii²Nbusan④ (形) 心が重い。重大なことを思って気が重い。
- ʔumiisizi④ (名) 思い過ごし。
- ʔumiisizi=ju¹N④ (他 =raN, =ti) 思い過ごす。
- ʔumijui④ (名) 思いつくこと。思いおよぶこと。心にかけること。気がつくこと。～nu¹jutasjan. よく気がつく。
- ʔumijuikcejui④ (名) 気がつくこと。あれこれ思いつくこと。～nu¹ʔan. よく気がつく。
- ʔumiju=jun④ (他 =raN, =ti) 思いおよぶ。気がつく。ʔumijuti qei kwiti ka-
- huusi. 思いだして来てくれてありがとう。
- ʔumikaki=jun④ (他 =raN, =ti) ①お目にかける。御覧にに入れる。misijun (見せる) の謙譲語。さらにその上の敬語は nunkakijun. ʔumikakijabira. お目にかけます。②御覧になる。'NNZUN (見る) の尊敬語。ʔamanakai ʔajabiikutu ʔumikakiti kwimişeebiri. あちらにございますから、御覧になって下さい。
- ʔumikakimişe¹eN④ (他・不規則) 御覧になる。'NNZUN (見る) の敬語。njunkakimişeen はさらにその上の敬語。
- ʔumikana④ (名) [文] [思加那] 恋人(女)を親しんでいう語。
- ʔumika¹zi④ (名) 海風。海の方から吹く風。
- ʔumikii④ (名) ①貴族・士族の女が男の兄弟('wikii)を敬愛している語。②女が、身分のある家柄の年下の男の子を呼ぶ語。ぼっちゃん。
- ʔumikiinuu¹e④ (名) 御兄弟様。おにいさま。弟さま。姉妹から見た男の兄弟の敬称。目下の第三者が貴族の女に、その兄弟を話題にしている場合などに用いる。
- ʔumima¹açi④ (名) 海松(うみまつ)。黒さんご。
- ʔumimaga④ (名) お孫さん。御令孫。
- ʔumima¹jaa④ (名) 海綿。
- ʔuminaaku④ (副) 安心したさま。心配がなくなつたさま。次の句でいう。～najun. 心配がなくなる。また、皮肉として、万事休した場合にもいう。
- ʔuminaga=sju¹N④ (他 =saN, =ci) 思い流す。思いあきらめる。つとめて忘れるようにする。
- ʔuminai④ (名) おねえさま。妹様。貴族・士族の、兄弟から見た姉妹の敬称。主として第三者がいう。
- ʔuminaibi④ (名) 王の娘に対する敬称。王女様。-bi は複敬または敬意の接尾辞。

ʔuminaitisazi

ʔuminaiti⁷sazi① (名) 'unaigami の頂参照。

ʔuminaiʔu⁷ʂizi① (名) 姉妹 (ʔuminai, 'unai) の霊。'unai [をなり] の霊は旅に出ている男の守護神となる。'unaigami の頂参照。ʔuninu takatumuni siratujaga 'icon, siratujaja ʔaran, ~. [御船の高ともに 白鳥が居ちよん 白鳥やあらぬ 思をなり御すじ] お船の高いともにしらとりがとまっている。しらとりではない。あれはわたしを守る「をなり」の霊だ。

ʔumi⁷ʔnmagvaa① (名) たつのおとしご。

ʔuminakiran① (連体) 思いがけぬ。意外な。~ kutu. 思いがけぬこと。

ʔuminəuu① (名) 漁師。漁夫。海の人の意。ʔijutujaa ともう。

ʔumingwa① (名) お子さん。他人の子の敬称。

ʔumin⁷ 'juran① (句) 思いもよらない。意外な。~ kutu. 思いもよらないこと。

ʔuminʔo① (名) [文] [思無蔽] 恋人 (女) を親しんでいる語。

ʔumiqtu① (名) [思弟] 弟さん。妹さん。士族の弟妹を第三者がいう語。

ʔumisatu① (名) [文] [思里] 恋人 (男) を親しんでいる語。恋しいお方。

ʔumiʂiiza① (名) おにいさま。貴族が兄・年上に対していう語。

ʔumisi=juN① (他 =ran, =qci) [文] 思い知る。namadu ʔumisijuru. 今こそ思い知った。

ʔumiʂimi=ju⁷N① (他 =ran, =ti) 強く思う。また、深く恋する。

ʔumita=cuN① (他 =tan, =qci) 思い立つ。思い企てる。

ʔumituku⁷ru① (名) ʔumicukuru と同じ。

ʔumiwarabi① (名) 子供さん。お子さん。子供 ('warabi) の敬語。また、かわいい子供。~ ʂikaci namadu ʔumisijuru,

'nkasi 'wan mutaru hwitunu nasaki. [思童すかち 今ど思ひ知ゆる 昔我身守たる 人の情] かわいい子供のもりをしてはじめて知った、むかしわたしのもりをした人の情を。

ʔumizituganawai① (名) 思うことがかなりこと。願いが成就すること。~ sjoon. 願いがなかった。

ʔumizituguhwasan① (形) 思うようにならない。思い通りにいかない。

ʔumuçiriʔukoo① (名) 束にした線香。一束となっている線香。ʔugwan (祈願) の時使う。hutuciʔukoo (一本一本ばらにした線香) に対する。ʔumuçiri <muçiri-jun.

ʔumuda=cuN① (自 =tan, =qci) おもだつ。ʔumudaqcooru qcu. おもだつた人。

ʔumui① (名) ⊖思い。考え。所存。願望。⊖思慕。恋愛。⊖おもろ。各地方の nuuru (のろ。巫女) によって伝えられ、歌われている「おもろ」(ʔumuru) をいう。

ʔumuiʔata⁷=juN① (他 =ran, =ti) 思い当たる。ʔumuiʔatataru kutunu ʔan. 思い当たったことがある。

ʔumuiiba① (名) [文] [思羽] おしどりの二つの翼。恋の象徴とされる。ʔamakawanu miçini ʔaʂibu ʔusiðuinu ~nu ciziri 'jusuja siran. [天川の水に あそぶおしどりの 思羽のちぎり よそや知らぬ] 天川 (架空の井戸の名) の水に遊ぶおしどりの二つの翼のようなわたしたちのちぎり人は知らない。

ʔumuiḡwe⁷ena① (名) kweena と同じ。

ʔumuikee=sju⁷N① (他 =san, =ci) 思い返す。思い直す。

ʔumuinuku=sju⁷N① (他 =san, =ci) 思い残す。みれんに思う。

ʔumujaa① (名) 思う相手。恋人。

ʔumujoo① (副) おぼろげ。ぼんやり。ほか。かすか。kurassaa ʔaʂiga qcunu

taqcoosi ~ja 'wakajuN. 暗くはあるが、人の立っているのがおぼろげにわかる。kunu hwimunoo nuundici kakaqtooga ~ 'jatin 'wakarani. この碑文は何と書いてあるかおぼろげにでもわからないか。

Yumu=junⓐ (他 =ran, Yumaan ともいう, =ti) 思う。考える。また、案ずる。また、恋する。Yumujuru mama. 思うまま。思う通り。Yumaaransaa. 考えられないことだなあ。とんでもない。心ないことをする者ととがめる時などにいう。Yumui Yumutooti. 思いに思って。よくよく思いつめて。また、深く恋して。Yumui Yumuti ともいう。Yariga Yagatookara kumaNkai caşee Yumui Yumutootinu kutuiu 'jaru. 彼があんな遠くからここに来たのは、よくよく思いつめてのことだ。

Yumukaziⓐ (名) おもかげ。心に浮かぶ姿。~nu tacuN. 心に姿が浮かぶ。'juin Yakaçicin narisi ~nu tatan hwija nesami sjujanu cimuri. [宵も暁も 馴れし佛の 立たぬ日や無いさめ 塩屋の煙 (花壳之縁)] 宵もあかつきも親しい夫のおもかげが、塩たく家の煙のように立たない日はない。

Yumukooⓐ (名) 寺の中央。本堂。本尊のある正面。mukoo は正面。

Yumukutuⓐ (名) 思うこと。ふだん思っていること。~du nigutu. 思っていることが寝ごとに出る。nuu ~N neeraN. 何の思うこともない。

Yumunuciⓐ (名) ⊖用向き。用。目的。nuugana ~nu Yati coon doo. 何か用があって来たんだよ。Yariga munuYijooja nuugana ~nu Yaqsaa 'jaa. 彼のしゃべり方は何か目的があるなあ。
ⓐ[新?] 趣。趣向。

Yumunuciⓐ (名) 面もち。顔つき。

Yumunubuzo'oⓐ (名) [御物奉行] munubuzoo (その項参照) の敬称。

Yumunugu'şikuⓐ (名) [御物城] 中国貿易のための倉庫。那覇港の入口にあった。

Yumuqsanⓐ (形) 面白い。あまり上品でない語。普通は Ywiirikisan という。

Yumuruⓐ (名) [文] [おもろ] おもろ。沖繩に古くから伝わる伝誦詩。日本の祝詞にあたるような歌謡で、そのほとんどが叙事詩である。Yumuru とは、首里王府に集められ、YumuruYusoosi [おもろ御さうし] に収められたおもろをいい、地方の nuuru (のろ。巫女) に伝わるおもろは Yumui という。Yomoro は日本式発音。

Yumurunusi'duiⓐ (名) [古] [おもろ主取] おもろをつかさどる役の男子。YumuruYusoosi [おもろ御さうし] を保管し、王の式典の時、おもろを歌った。

YumuruYuso'osiⓐ (名) [古] [おもろ御さうし] 沖繩最古の歌集。各地に伝わるおもろを集大成したもので、日本の万葉集に匹敵する。二十二巻からなり、尚清王即位5年(西暦1532)に第一巻、その80年後、島津の琉球入りの5年後、尚寧王即位25年(西暦1613)に第二巻、尚豊王即位3年(西暦1623)に第三巻から第二十二巻までができた。わずかに漢字を含むひらがな文の韻文で書かれている。

YumusirusaNⓐ (形) 面白い。楽しい。愉快である。興味がある。やや文語的な語。duqtu Yumusirii kutu. 非常に面白いこと。saki nudi Yumusirusa sjuN. 酒を飲んで楽しむ。

Yumusubiⓐ (名) [文] つれあい。配偶者。Yugwan (祈願) の文句で使う語。

Yumutiⓐ (名) 表。Yura (裏) の対。家の表は mee(前), huka (外) などという。~zuugunin. [表十五人] zuuguninsjuu の項を見よ。

Yumutigeeciⓐ (名) (疊の) 表がえ。

ʔumutimuci

ʔumutimuci① (名) 表向き。表立つこと。公然となること。～ najun. 公然となる。ʔumutimucee nuun sirantaru kutuni qsi. 表向きは何も知らなかったことにしる。

ʔumutu① (名) 植物名。おもと。

ʔumutudaki① (名) 於茂登岳。八重山群島石垣島にある山の名。

ʔunaa① (名) 首里城の正殿前の広庭。ʔuguşiku の項参照。

ʔunaaŋda① (名) おかご。貴族の乗るかご (ʔanda) の敬語。

ʔunagi① (名) その長さ。そんなに長く。～ ʔan. それだけの長さある。～ nu habu. その長さのはぶ。

ʔunahwa① (名) 小那覇。《地》参照。

ʔunakaa① (名) 共有すること (cuukuu) の敬語。御共有。おなかま。目上の人と共有する場合などにいう。

ʔunakaʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔuguşiku の項参照。

ʔune① (感) ㊦おや。珍しい物を見た時などに発する。～ hwirumasii mun. おや、珍しいものだ。㊦ほら。それ。指示する場合に発する。目上に対しては、男は～ sai. 女は～ tai. のようにいう。～ ʔNdee. それ見ろ。

ʔuneʔune① (感) おやおや。おやまあ。珍しい物を見た場合などにいう。

ʔuni① (名) ㊦鬼。taiwanŋu ～. 台湾の鬼。生蕃。～ du ʔjaru. 鬼のように残酷だ。㊦(接頭)「古」「偉大な」の意。ʔuniʔuhuguşiku. 偉大な大城 (大城は英雄の名)。

ʔuni① (名) 宇根。《地》参照。

ʔunibici① (名) 御婚礼。御結婚。niibici (婚礼、結婚) の敬語。ただし、貴族のそれは kunrii, 王子・王女のそれは gukunrii という。

ʔunihjaa① (名) そいつ。そやつ。その野郎。ʔunuhjaa ともいう。

ʔunihwee① (名) ʔunjuhwee と同じ。

ʔuniikeeʔuduŋ① (名) 首里城の建物の名。ʔuguşiku の項参照。

ʔunimuŋ① (名) 料理名。みそ煮。肉・野菜の類をみそで煮た料理。

ʔunjuhwee① (名) 【御美拜】神仏、祖先の靈などに対して、男子が行なり礼拝。まずひざまずいて拜し、立って合掌し、またひざまずいて拜し、これを四回くりかえすので、ʔjuçinuʔunjuhwee ともいう。しかし、coonuʔunjuhwee (その項参照) はこれを七回行なり。

ʔunooi① (名) ʔusjuukoo (法事) の際のお供物の菓子を下げて、おみやげとしたもの。

ʔunu① (連体) その。～ sjumuçi. その本。～ gutu. そんなに。そのように。

ʔunubaa① (名) その場。また、その場合。～ ʔaree ʔurantaŋ. その場に彼はいなかった。

ʔunuca① (名) ʔunujuca と同じ。

ʔunugutooru① (連体) そんな。そのような。～ kutoo maanin neeŋ. そんなことはどこにもない。

ʔunugutooruu① (名) そんなもの。そのようなもの。

ʔunuhjaa① (名) ʔunihjaa と同じ。

ʔunuhzancee① (名) それっばかり。それくらいのささいなこと。～ nu kutunin kusamicumi. それくらいのことにも怒るか。

ʔunuhwee① (名) ʔunjuhwee と同じ。

ʔunuhwiŋ① (名) その辺。そのあたり。

ʔunujoo① (名) そのよう。やや文語的な語。～ na. そのような。～ ni qsi. そのようにして。ʔunugutooru, ʔunu gutu などというのが普通。

ʔunujuca① (名) その年配。その年。ʔunuca ともいう。ʔjuca の項参照。

ʔunukuru① (名) そのころ。

ʔunumama① (名) そのまま。～ sjcoree, ʔNzuciinee deezi doo. そのままにしている。動くが大変だぞ。

ʔunuqcu① (名) その人。

ʔunusjaku①① (名) それくらい。そのくらい。その程度。～ nu kutunakai nacumi. それくらいのことで泣くか。～ Qsi ʔutasjasa. それくらいでいいよ。

ʔunusjakugwaa① (名) それしきのこと。それっばかり。

ʔunutuɕi① (名) その時。

ʔunuʔwii① (名) その上。かつ。それに加えて。

ʔuN① (名) ʔuN (恩) と同じ。

ʔuN① (名) 運。ʔuNci, ʔuNsuu ともいう。～ nu ʔwaqsan. 運が悪い。～ nu ʔijun. 運が開ける。

ʔunbin① (名) 穏便。文語的な語。～ nasikata. 穏便なやりかた。ʔaradatiran gutu ～ ni sjun. 荒立てないように穏便にやる。

ʔunbozugwaa① (名) [文] ぼっちゃん。子守り歌などで、下女などが boozuu をいう語。～ ʔjoo, ～. ぼっちゃんまよ, ぼっちゃんま。子守り歌のはじめの文句。このあとに即興的に色色の文句を並べる。

ʔunbuikooʔbui① (副) ⊖首を前後左右に曲げるさま。こっくり。居眠りなどのさま。～ sjun. こっくりこっくりする。⊖態度がはっきりしないさま。どっちつかず。～ sjoon. どっちつかずである。

ʔunbujaa① (名) 気取り屋。もったいをつけたがる者。

ʔunbu=juN① (自 =ran, =ti) 気取る。もったいぶる。

ʔuNcabi① (名) ʔNcabi (彼岸に焚いて祭る, 銭型を打った紙。また, その行事。彼岸祭り) の敬語。御紙銭。お彼岸。～ ʔusjagijun. 御紙銭を供える。

ʔuNceec① (名) [雲菜] ⊖野菜の名。ようさ

い。あさがおな。⊖miziʔuNceec と同じ。

ʔuNceec① (名) 拝借。借りることの敬語。～ sjabira. お借りしましょう。

ʔuNceemu^{ʔN}① (名) 拝借した物。お借りした物。～ nihwee deebiru. お借りしたものをありがとうございます。

ʔuNci① (名) お顔。顔 (çira) の敬語。～ kwankwan. 顔つきが立派で威厳のあるさま。顔が福福しいさま。～ kwankwan-tu, hwizija tada miçizi. 顔つきは堂堂としているが, ひげはたった三本。(ひげの少ないのを笑った歌の文句)

ʔuNci① (名) [運氣] 運。運勢。人に賦与された運。～ nu ʔjoosan. 運勢が弱い。

ʔuNcihwiʔnei① (名) ʔuNci (運) を強めた語。運の悪い場合にいう。

ʔuNçikee① (名) 御招待。お招き。また, 御案内。御同行。おつれすること。貴人に対しては, さらに上の敬語 nuNçikee を用いる。～ saqtoon. 御招待を受けている。～ Qsi ʔicuN. お連れして行く。

ʔuNciN① (名) [新] 運賃。元来は単に tima (手間), または, 人が運搬する場合 kata-midima (かつぎ賃), 舟の場合 çimidi-ma (積み賃), 馬の場合 ʔuusidima (負わせ賃) などという。

ʔuNcitaʔka① (名) 御傘。貴人の傘の敬語。女が多く使う。お顔をかばうもの (ʔuNci +kataka) の意か。

ʔuNcoobi① (名) [御美髪] 髪 (karazi) の敬語。御髪。おぐし。nuncoobi, mjuncoobi はさらにその上の敬語。

ʔuNcu① (名) うみ。はれ物から出る汁。

ʔuNcuu① (名) 御機嫌。nuNci, mjuNci はさらに上の敬語。～ ʔuganun. 御機嫌を伺う。ʔajaataarii ～ ʔugadi kwiri ʔjoo. おとうさんやおかあさんによろしく言ってくれよ。

ʔuNcuubu① (名) [御美腹] 腹の敬語。おなか。貴人の腹をいう。普通の敬語は

ʔuNcuuugan

ʔNeuubu.

ʔuNcuuugan[Ⓢ] (名) 御機嫌伺い。<ʔuNcuu + ʔuganuN. cuuja ~ siiga ʔusiritoo-jabiin. きょうは御機嫌伺いに参上いたしました。

ʔuNdee[Ⓢ] (感) ほら。見ろ。御覧。

ʔuNdee[Ⓢ] (名) お叱り。目上が叱ることの敬語。~ sarijun. お叱りを受ける。叱られることは、普通は、nuraarijun という。

ʔuNdeekaa[Ⓢ] (副) これ見よがし(に)。子供などが物を見せびらかすさま。

ʔuNgeesi[Ⓢ] (名) 恩返し。ʔungeesi ともいう。

ʔuNgutooru[Ⓢ] (連体) ʔunugutooru と同じ。

ʔuNgutuu[Ⓢ] (副) そんなに。そのように。~ qsin, caaN naran. そんなにしても、どうにもならない。

ʔuNkee[Ⓢ] (名) ㊦お迎え。人をお迎えすること。㊦ʔusjoooroʔuNkee の略。

ʔuNna[Ⓢ] (名) 恩納。《地》参照。

ʔuNna[Ⓢ] (連体) そんな。~ kutu. そんなこと。

ʔuNnabusi[Ⓢ] (名) [恩納節] guzinhuu [御前風] の一つ。

ʔuNnadaki[Ⓢ] (名) 恩納岳。围頭にある山の名。

ʔuNnagee[Ⓢ] (名) そんなに長い間。~ kangeetin ʔwakarani. そんなに長い間考えてもわからないか。

ʔuNneeru[Ⓢ] (連体) そのような。そんな。kumanakae ~ kutoo neerani. canneeru kutuga. ここにはそのようなことは無いか。どんなことか。

ʔuNnii[Ⓢ] (名) そのおり。その時。~ nu kutu. その時のこと。~ kara. その時から。その時以後。~ ni. そのおりに。その時に。

ʔuNujuka=juʔN[Ⓢ] (他 =ran, =ti) お聞きになる。cicuN (聞く) の敬語。ʔuNnjuka-

misjoooran. お聞き入れにならない。kan ʔjuru ʔuta ʔuNnjukataru kutunu ʔa-ibiimi. ʔNNNN, neeran. こういう歌をお聞きになったことがありますか。いや、ない。taagana ʔuNnjukati ʔumikakimiſeebiree. 誰かにお聞きになってごらん下さいませ。

ʔuNnjuki=juʔN[Ⓢ] (他 =ran, =ti) 申し上げる。目上に言うことの敬語。さらに上の敬語は mjunnjukijun (奏上する, 言上する)。ʔuNnjukijabiin. 申し上げます。

ʔuNnuka=juʔN[Ⓢ] (他 =ran, =ti) ʔuNnjukajun と同じ。

ʔuNnuki=juʔN[Ⓢ] (他 =ran, =ti) ʔuNnjukijun と同じ。

ʔuNpadaʔN[Ⓢ] (名) 御親類。御親戚。ʔweeka (親戚) の敬語。tunzitaru munuja murabarunu ʔajaatu ʔncantiicinu cicuʔuNpadan. [とんちたる者や 村原のあやと 御神一つの 近おんぼだん (大川敵討)] まかり出た者は村原夫人と祖神を同じくする近い親戚の者。

ʔuNsa[Ⓢ] (名) 宇茂佐。《地》参照。

ʔuNsadai[Ⓢ] (名) [古] お先払い。貴人の行列の先頭にあつて、通行人を追い払う者。

ʔuNsiraasjaʔN[Ⓢ] (形) おいしい。maasan (うまい) の上品な語。女がいう。

ʔuNsjaku[Ⓢ] (名) 甘酒。昔は若い娘がかみ砕いたなま米から作った。神に供える。

ʔuNsuu[Ⓢ] (名) [運数] 運命。運。suu, ʔunci ともいう。~ nu ʔiqcoon. 運が向いている。~ nu neeran. 運がない。

ʔuNtamamui[Ⓢ] (名) 運玉森。首里西方、東海岸寄りにある山の名。

ʔuNtasjaʔN[Ⓢ] (形) 愛される。慕われる。敬愛される。ʔumanꞀuni ʔuntasja saqtoon. 万人に慕われている。ʔuntasii qcu. 敬愛すべき立派な人。ʔuntasja sjun. 慕う。

ʔuNtin[Ⓢ] (名) 運天。《地》参照。

YuNzani① (名) ①うり類の種。おもにすいかの種をいう。うりざね。②*karasju(幼魚の塩辛)の上等なもの。季節的に数日続いて幼魚の大群が海岸へ押し寄せる。その最初の日に取れるものが最も小さく、上等の塩辛となる。それをいう。

YuNzu① (名) [御躬] ①あなた。目上および、親しくない同等に礼をもって対する時の、二人称。さらに目上の貴人に対してはnunzu, mjunzu という。②御自分。御自身。duu(自分)の敬語。③御自分の体。mikuci sansikwan, ~ biiru. 口は三司官のように達者だが、体はへなへな。

YuNzuku'ru① (副) あなた自身で。また、御自分で。御自身で。-kuru は英語の-self に似た接尾辞。

YuNzumi①① (名) Yuzumi と同じ。

YuNzumuci① (名) mimuci の敬語。~ teesicini misjoori. お体を大切になさいませ。

YuNzunaa① (名) ①あなたがた。-naa は複数意の接尾辞。②お宅。あなたの家。③YUNZU(あなた)よりもやや丁寧な二人称。

Yuqcaka=ju'N① (自 =ran, =ti) ①よりかかる。もたせかける。②たよる。③(神霊・もののけなどが、みこなどに)憑く。よる。

Yuqcaki①* (名) ちょっとひっかける着物。羽織に似てそでないもの。男女用。dinkwaa ともいう。

Yuqcakigwaa①* (名) Yuqcaki と同じ。

Yuqcaki=ju'N① (他 =ran, =ti) ①うち掛ける。ちょっと羽織る。②値をつける。'waaga kurinkai guhjaqkwan Yuqcakitoosiga, Yuran. わたしがこれに500貫の値を付けたが売らない。Yuqakiree. 値を付けてみる。sansooba ~. 高値をふっかける。

Yuqcanqiri① (名) おいてきぼり。置き去り。~ saqti nacun. おいてきぼりに

されて泣く。

Yuqcanqij=ju'N① (他 =ran, =ti) うっちゃる。投げ捨てる。

Yuqceehwi'qcee① (副) 盛んに裏返すさま。しきりにひっくり返すさま。Yuudu ~ husjun. ふとんを裏返し裏返し干す。

Yuqcee=ju'N① (他 =ran, =ti) ①裏返る。ひっくり返る。寝返りをうつ。kusjaa ~. 後ろへひっくり返る。びっくり仰天する。②逆になる。あべこべになる。Yuqceetoon. さかさまだ。弟が兄を教える場合などにいう。③裏切る。寝返る。④あと戻りする。逆転する。退歩する。病状、子の成長などについていう。

Yuqceraka=sju'N① (他 =san, =ci) うっちゃらかす。ほったらかす。捨ておく。

Yuqcee=sju'N① (他 =san, =ci) 裏返す。ひっくり返す。逆にする。

Yuqci① (名) [掟] 廃藩前の村長。土着の平民がなる。

Yuqcgasii① (名) [掟加勢] 廃藩前の村長(Yuqci)の補佐役。首里・那覇の士族で、学問があっても役職のないものが、都落ちしてこの役を務めた。

Yuqcgigu=nuN① (他 =man, =di) 急に口をつぐむ。黙り込む。

Yuqci=jun① (他 =ran, =qci) (布を) 織り終わる。織りあげる。

Yuqgikaqci① (名) おっつかっつ。優劣のないこと。~ 'jan. おっつかっつだ。ほとんど同じだ。

Yuqciki① (名) 点。しるしとして付ける小さい標識。~ sjuN. 点をうつ。

Yuqcin=cnN① (自 =kan, =ci) うつむく。下を向く。うなだれる。また、うつぶす。hazikasjaga Yataru, Yuqcinu munu Yijjuusantan. 恥ずかしかったのだろう、うつむいてものも言えなかった。

Yuqcinki=ju'N① (他 =ran, =ti) (人・物を) うつぶせにする。下を向ける。伏せ

ʔuqciNtuu

る。

ʔuqciNtuu① (名) うつぶせ。(人・物が) 下向きになること。また、うつむくこと。うなだれること。また、うつむいている者。～ najun. うつぶせになる。うなだれる。

ʔuqciri① (名) 見切り品。売れ残りの品。

ʔuqcirikbusi① (名) 起き上がり小法師。玩具の名。

ʔuqka① (名) 負債。借金。sii(償)ともいう。～ kanzun. 負債を負う。

ʔuqkaa① (名) うっかり者。そこつ者。

ʔuqkabarec① (名) 借金払い。弁済。siibarecともいう。

ʔuqkuru=buN① (自 =ban, =di) ころがる。ごろりと横になる。

ʔuqpeeru① (連体) その大きさの。それだけの(量の)。

ʔuqpeeru① (名) その大きさのもの。それぐらいのもの。

ʔuqpi① (名) その大きさ。それだけの大きさ。それだけの(量)。tindanu ~. 手のひらの大きさ。狭いものの形容。猫のひたいほど。

ʔuqpigwaa① (名) それっぽっち。それっぽかり(の量・大きさ)。

ʔuqpinaa① (名) その大きさ。それほどの大きさ。そんなに大きく。～ nu mun. そんなに大きなもの。

ʔuqsa① (名) それだけ。それだけの數量。…ほどの量。mutariiru ~ mucun. 持てるだけ持つ。too ~. よし、それまで。

ʔuqsjagisaN① (形) うれしそりである。

ʔuqsjahukuraksa① (名) うれしく喜ばしいこと。非常なうれしさ。

ʔuqsjanaçikasja① (名) うれしいこと悲しいこと。悲喜こもごも。

ʔuqsjan① (形) うれしい。ʔuqsja sjun. 喜ぶ。

ʔuqsjaʔuqsjaa① (副) 嬉嬉とするさま。

うれしそりなさま。～ sjoon. 嬉嬉としている。

ʔuqtaa① (名) 彼ら。それらの者。

ʔuqtaati① (副) ㊦わざと。故意に。～ kurudan. わざとこらんだ。㊦わざわざ。cuunuhwini ~ ʔami huti. きょうりに限って雨が降って。

ʔuqtaci① (名) 出発。また、発足。出だし。nibuʔuqtacinu hweeriqsin. おそく出発して早く立身(または結婚)すること。多くは女についていう。婚期は逸したが、その後よい縁談が早くまとまった場合、晩婚だが早く男の子を生んだ場合などをいう。ʔuqtacee nibusataşiga, dikitasa 'jaa. 出発は遅かったが、うまく行ったねえ。

ʔuqta=cuN① (自 =tan, =qi) ㊦勢いよく立つ。おっ立つ。㊦勢いよく出発する。威勢よく始める。おっばじめる。

ʔuqtai① (名) 訴え。訴訟。～ sjun. 告訴する。

ʔuqtaimo'otai① (副) ゆっくりと。のんびりと。～ sjun. のんびりやる。

ʔuqtee=juN① (他 =ran, =ti) 訴える。告訴する。「なやみを訴える」などの訴える意はない。

ʔuqteeraka=sju`N① (他 =san, =ci) ʔuqceerakasjun と同じ。

ʔuqteeraki=ju`N① (他 =ran, =ti) ʔuqceerakasjun と同じ。

ʔuqti① (名) 討手。また、追っ手。

ʔuqti① (副) おって。やがて。おっつけ。そのあと間もなく。～ cuukutu maqcooree. 間もなく来るから待ってろ。

ʔuqtoo① (名) 火のし。布のしわをのぼす道具。

ʔuqtoohwi'itoo① (副) 病状がはかばかしくないさま。病状が一進一退するさま。～ sjoon. 病状が一進一退している。はかばかしくない。

ʔuqtu① (名) ㊦弟。妹。年下の兄弟につい

て、男女の区別なくいう。特に区別する場合は 'wikigaʔuqtu(弟), 'winaguʔuqtu(妹)という。ʃiizaの対。～ misijun. 二番目以下の子を出産する。また、二番目以下の子を妊娠する。長子に弟(妹)を見せるという言い方をする。～ 'NNZUN. 弟(妹)が生まれる。㊦年下。

ʔuqtuba=sju¹N⁰ (他 =san, =ci) すっ飛ばす。勢いよく飛ばす。

ʔuqtu=buN⁰ (自 =ban, =di) すっ飛ばぶ。勢いよく飛ばぶ。

ʔuqtumaki⁰ (名) おとみづわり。母が次の子を妊娠してつわりにかかったために、乳児が弱ること。ʔuqtumiijoogariともいう。

ʔuqtumiijoogari⁰ (名) ʔuqtumakiと同じ。

ʔuqtumisi⁰ (名) 二番目以後の妊娠、または出産。次の子ができること。おとみ。

ʔuqtunuga=sju¹N⁰ (他 =san, =ci) すっ飛ばす。はね飛ばす。

ʔuqtuNgwa⁰ (名) おとご。末っ子。

ʔuqtuʃiiza⁰* (名) 兄弟。兄と弟。または、姉と妹。兄と妹。姉と弟。tusinu～。年上と年下。

ʔuqtuunai⁰ (名) 妹。兄から見た場合にいう。'unaiは男からみたその姉妹。

ʔuqtuwikii⁰ (名) 弟。姉から見た場合にいう。'wikiiは女から見たその兄弟。

ʔura⁰ (名) ㊦裏。ʔumuti(表)の対。～ ʔucun. イ。裏打ちする。ロ。炊いた飯を裏返してほぐす。㊦反対。逆。～du ʔicooru. 反対のことを言っている。㊦便所。また、大便。上品な語。～ tacun. 大便に行く。便所に立つ。～nu 'jahwasan. 便が柔らかい。

ʔura⁰ (名) 宇良。《地》参照。

ʔuraaki=juN⁰ (他 =ran, =ti) 水につける。水にひたす。食器・洗たく物などを洗う前に水につけることをいう。cimu～。

心を洗い清める。nuudii～。のどをうるおす。nuudii ʔuraakijuru ʔuqsaa neeran. のどをうるおすほどの量はない。

ʔuraçirasa⁰ (名) うら悲しいこと。心中が悲しいこと。文語的な語。ʔasama 'juma kajuti miru zijunu nariba, mibusja～ nujudi sjabiga. [朝ま夕ま通て 見る自由のなれば 見欲しやうらつらさ のよでしやべが] 朝夕かよって会う自由があるのなら、何で会いたがったり悲しがったりしましょうか。～ sjuN. うら悲しく思う。

ʔuragee=juN⁰ (自 =ran, =ti) 裏返る。

ʔuragee=sjuN⁰ (他 =san, =ci) 裏返す。

ʔuragoosa⁰ (名) ねたましく思うこと。ねたみ。そねみ。やくこと。男女間の場合には岡焼きの意でいう。男女間のしつとは rinai という。ʔariga dikiiikutu～ sjun. 彼ができるので、ねたむ。

ʔurahara⁰ (名) 反対。あべこべ。さかさま。うらはら。～ cigajuN. 全然違う。正反対である。

ʔurami⁰ (名) 恨み。

ʔuranee⁰ (名) 占い。易の吉凶の占い。

ʔuranucimunii⁰ (名) ʔuranucimunuʔiiと同じ。

ʔuranucimunuʔii⁰ (名) 裏から言うこと。あてこすり。皮肉。風刺。

ʔura=nuN⁰ (他 =man, =di) 恨む。ʔuramarijun. 恨まれる。

ʔuraNda⁰ (名) 西洋。「オランダ」を以て西洋全体をさす。

ʔuraNdaa⁰ (名) 西洋人。

ʔuraNdaaʔN¹mu⁰ (名) 甘藷の一種。実が黄色で美味。

ʔuraNdaguci⁰ (名) 西洋語。西洋諸国のことは。

ʔuraNdasugai⁰ (名) (女の) 洋装。男が洋服を着たのには言わない。

ʔuraNdatiisaazi⁰ (名) 西洋手ぬぐい。タ

YuraNsaN

オル。

YuraNsa¹N^① (名) [古] [御涼傘] raNsaN
の敬語。

Yurasaci^① (名) 浦崎。《地》参照。

Yurašii^① (名) 浦添。《地》参照。

YuraYuci^① (名) 裏打ち。表具などの裏打ち。

YuraYumuti^① (名) ①裏表。裏と表の両方。～nakai zii kacun. 裏表両面に字を書く。②裏表が逆になること。裏返し。～natoon. 裏表になっている。

Yuraža^① (名) 裏座敷。女部屋。婦人の居間。遊郭では、女郎が客をとる部屋。Yuražaa Yaacoomi. Yaacooibiisa, Yimišeebiree. 部屋はあいているか。あいています。おはいり下さいませ。(女郎を買う時の、客と女郎の間答のしかた)

Yurazi^① (名) (衣服の) 裏地。

YureemasaN^① (形) うらやましい。

Yuri^① ①(名) それ。そのこと。その物。その者。彼。～jaka kuree masi. それよりこれの方がよい。②(感) ほら。それ。人に指摘する場合、物を渡す場合、驚かす場合などにいう。目上には、男は～sai, 女は～tai, 目下などにさげすんでいう時には、YuriQsa, ～hjaa などと使いわけ

る。

Yuridaki^① (名) それほど。それだけ。

Yurii^① (名) うるおい。雨が降って土地がうるおうこと。おしめり。'iiYurii 'jai-biin. よいおしめりですね。

Yurii^① (名) 憂い。憂い悲しむべきこと。不幸。

Yuriiġutu^① (名) 不幸。不幸なできごと。

Yuriišju'uzi^① (名) 不幸なこととお祝いごと。不祝儀と祝儀。

Yurijookuri¹joo^① (名) あれこれと大騒ぎすること。上を下への大騒ぎ。

Yuri=juN^① (自 =raN, =ti) 降りる。huni-kara ～. 舟から降りる。tiNkara ～. 天

から降りる。

Yuri=juN^① (自 =raN, =ti) 売れる。

Yurikaa^① (名) その辺。

Yurikara^① (副・接続) それから。それ以後。

Yurikuru^① (副) 彼(彼女)自身で。～cii-du sjuru. (彼は) 自分で来るさ。

YuriQsa^① (感) 目下に対して、または怒って、指摘したり、物を渡したりする場合にいう語。それ。

Yurisja^① (名) [文] YuQsja (うれしさ) の文語。

YuriYuri^① (感) ほらほら。それぞれ。急いで人に指摘する時などにいう。

YuriziN^① (名) [文] 旧曆2～3月、麦の穂の出るころのこと。'wakaYuriziN ともいう。那覇では YuruziN という。

YuriziNbee^① (名) 2～3月ころ吹く南風。

YuriziNgweena^① (名) kweena (旅歌) の一つ。布を織ることをテーマとしたもの。はじめの文句は次の通り。YuriziNnu ha-çigauu 'wakanaçinu mahadauu, mataki kuda çukuti…[おれづみのはつが芋若夏の真肌芋 真竹くだ造て…] YuriziNのころの初芋を、初夏の柔らかい芋を竹で管をつくり…。

Yuroosan^① (形) ①(糸などが) 細い。②(粒などが) 細かい。siinoenu miinu ～. ふるいの目が細かい。

Yuru^① (名) 砂。細かな砂。また、砂利。šina ともいう。～katamiiga YiCUN. 砂をかつぎに行く。

Yurudusi^① (名) うるう年。

Yuruka^① (名) 愚か。考えが足りないといったほどの軽い意の語。～na mun. 愚かな者。

Yurukamunii^① (名) つまらぬ口のききかた。愚かなしゃべりかた。

Yuruku^① (名) 小祿。《地》参照。

Yurumaa^① (名) Yurumaazee と同じ。

Yurumaazee^① (名) くつわ虫。-zee<šee-

YusaNdec

恋のしるしの手ぬぐいをかけて。

YusaNde'e① (名) おさがり。神仏への供物のさげたもの。また、人の使用したあとを頂戴したもの。

YusaNmi① (名) sanmi の敬語。神仏に供えるためにつくる重箱料理。一つには餅をつめ、一つには肉類・豆腐・大根などの煮しめをつめる。

Yusaree① (名) 結婚の時、婿の家に向かう花嫁の一行を先導する役。平民の老婆が当たる。Yusareepaapaa, misareepaapaa などともいう。Yusaree- は御先立ち(<sadajun) の意か。

Yusareepa'apaa① (名) misareepaapaa と同じ。

Yusazi① (名) 兎。家畜として飼育していた。沖繩には野兎はいない。

Yusee① (名) 料理名。あえ物。

Yusee=jun① (他 =ran, =ti) あなどる。軽蔑する。見くびる。

Yuseesin① (名) おかわり。seesin の敬語。

Yusi① (名) 牛。~ Yuujun. 小用に立つ。上流の婦人の上品な言い方。なぜ「牛を追う」というかは不明。このことばのわからない農村の人とはまどろ。~ Yoorasjun. 牛を戦わせる。YusiPaasi の頂参照。

Yusi① (名) 丑(うし)。十二支の第二。方角は東寄りの北。時間は午前2時。

YusiPaasi① (名) 闘牛。牛合わせ。牛二頭を、角で突き合わせさせて戦わせる行事。逃げた方の牛が負けとなる。農村で、旧暦6月の稲の穂祭りのころ行なう行事。

Yusibakujoo① (名) 牛買い。牛の売買をする者。

Yusici=jun① (他 =ran, =qci) ⊖押しきる。すっかり押す。⊖勢いよく切る。ちょんぎる。

Yusiçiki=jun① (他 =ran, =ti) 押しつける。圧迫する。

Yusiçiku=nuN① (他 =man, =di) (着物・布などを)押し重ねて、小さく丸める。押しつかねる。押し丸める。

Yusiçiri=jun① (自 =ran, =ti) [文] 連れる。連れだつ。Yusiçiriti tageni nagamijai Yaşiba. [押し連れて互に 眺めやり遊ば] 連れだつて一緒に眺めて楽しむ。

Yusiçiriziri①① (名) 細かく切りきざむこと。ずたずたに切ること。~ sjun.

Yusiideeku① (名) [白太鼓] 神事の祭りに行なう踊りの名。農村で、太鼓をたたいて女のみが踊る。はじめはうすをたたいたのであろう。

Yusiduki=jun① (他 =ran, =ti) 押しつける。

Yusišana=sjun① (他 =san, =ci) 押し放す。つっぱなす。

Yusii① (名) 教え。教育。しつけ。

Yusii① (名) 雨水。二十四節の一つ。

Yusiidaki① (名) 経糸を押える竹。地機のカケ。

Yusiigaci① (名) 透き写し。敷き写し。手本の上から透き写しに書いてけいこすること。Yusii<YusujuN.

Yusiigata① (名) 教え方。教育法。教育。

Yusiimaaruu① (名) 順番を追って回ること。順ぐり。回り持ち。

Yusiimaasii① (名) 順番に回すこと。順ぐり。回り持ち。

Yusiimii① (名) 清明祭。清明 (siimii) の季節に行なう先祖の祭り。墓参をする。

YusiiN① (名) 賓客。お客様。上流家庭で使う語。

Yusiitace① (名) 補足。足りない分を補うこと。~ sjun.

Yusiizii① (名) (乳の不足を) もらい乳して補うこと。

Yusijusi=jun① (自 =ran, =ti) 押し寄せる。

Yusikaki=jun① (他 =ran, =ti) 押しかける。

Yusikeera=sjun① (他 =san, =ci) 突き飛ばす。押し倒す。押ししてひっくり返す。

Yusikee=sjun① (他 =san, =ci) 押し返す。

Yusuku① (名) [薄久] 植物名。あこう。気根を生じ、榕樹 (gazimaru) に似ているが、葉・実とも榕樹より大きい。材木は榕樹より劣る。実はいちじくに似て小さく、食用となる。

Yusikumi=jun① (他 =ran, =ti) 押し込める。

Yusiku=nuN① (他 =man, =di) 押し込む。

Yusimaa=sjun① (他 =san, =ci) しっかり回す。きりと回す。rakubuçinu mi?ubi 'juhvara Yusimawaci sjunzanasi-medei di 'wane sadara. [らくぶつの御帯 よわらおし廻ち 首里ぎやなしみやだい でわなないざだら] rakubuçi (織物の名) の御帯を横腹にしっかりしめ回して、首里王府の御奉公に、いざわれこそは先がけしよ。

Yusimaci① (名) うすべり。へりを付けたごぞ。

Yusimagi=jun① (他 =ran, =ti) ⊖押し曲げる。へし曲げる。⊕屈服させる。負かす。?ahwinaanu toonu 'jamatuni Yusimagiraqti taiwan turaqtan. あれほどの中国が日本に負かされて、台湾を取られた。

Yusimasi① (名) karanpana に対し、洗い清めた 'npanagumi を特にさす。おすましの意か。

Yusimasi① (名) 上流婦人の洗髪・もく浴。上流婦人は決して、着物を全部脱いで、湯にはいたりすることがなかった。~sjun. もく浴する。

Yusimudu=sjun① (他 =san, =ci) 押し戻す。

Yusimutuu① (名) 台所。農家でいう語。

Yusinaa① (名) 闘牛場。-naa は広場の意。

Yusi?aasi を行なう所。

Yusinaga=sjun① (他 =san, =ci) 押し流す。

Yusina=jun① (他 =an, =ti) 失う。無くす。人の死にもいう。?uja ~. 親を失う。

Yusinucii① (名) 牛乳。

Yusinujaa① (名) 牛小屋。

Yusinuki=jun① (他 =ran, =ti) 押しのける。排除する。?unnadaki ?agata satuga ?nmarizima, muin Yusinukiti kugata nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島森も押しのけて こがたなさな] 恩納岳のあちら側は恋しい君の生まれ故郷、その山も押しのけてこちら側にしたいもの。

Yusinukubun①* (名) Yusirukubuu と同じ。

Yusinusisi①① (名) 牛肉。

Yusi?Nza=sjun① (他 =san, =ci) 押し出す。

YusiNbu'u?udun① (名) 首里城の建物の名。?uguşiku の項参照。

Yusinçii① (名) 着物の前の端を下ばかまのひもに押し込むこと。沖縄の婦人は帯を用いないので、着物の前があかないようにするためにこする。

YusiN=çun① (他 =kan, =ci) 押し込む。差し込む。突っこむ。

YusiNtui① (名) おしどり。

Yusirasi① (名) 神仏、祖先の霊などのお知らせ。お告げ。夜、大きな石の落ちる音がして、易を立ててみると、それが祖先の祭りを怠っているお告げであったりする。

Yusirii① (名) 元服前の土族の少年の髪のかき方。丸く大きく結う。maajuuii の項参照。

Yusiru① (名) えりあし。首すじ。うなじの付近。主に女のそれをいう。~ tarasjun. 髪を耳の後ろにふくらませ、うなじにかかると結う。首里の上流婦人が礼装する時の髪のかき方。その結い方は cura?un-

ʔusiru

- coobi ともいう。～ tuukijun. やせこける。死ぬ前などに、首すじがやせ細のをいう。
- ʔusiru① (名) おつゆ。お汁。siru の丁寧語。すまし汁・みそ汁の両方についている。
- ʔusiruhuuzi① (名) 後ろ姿。主としてえりあしの美しさを中心にしていう語。
- ʔusirukubuu① (名) ほんのくぼ。ʔusinukubuu ともいう。
- ʔusiruwān① (名) 汁を入れるお椀。siruwān の丁寧語。
- ʔusiruzikii① (名) 飯に汁をかけること。また汁をかけた飯。
- ʔusisaṅ① (形) ⊖(厚さが) 薄い。hwiqsaṅ ともいう。⊖(色・味などが) 薄い。katasān の対。⊕知恵が足りない。愚かである。
- ʔusisaṅ①* (形) 遅い。時間が遅い意で用いる。
- ʔusisjoo① (名) お師匠。先生。sisjoo (師匠) の敬語。
- ʔusitoo=sjun① (他 =saṅ, =ci) 押し倒す。
- ʔusitunami=jun① (他 =raṅ, =ti) 押しならす。でこぼこを平らにする。
- ʔusitura① (名) 丑寅。東北の方角。
- ʔusiʔusi① (名) むりやり。強制。押し押し の意。～ni simijun. むりやりにさせる。siibusikoo neentašiga ~ simiraqtan. したくなかったがむりやりにさせられた。
- ʔusiʔwaasjaa① (名) 牛殺し。牛を屠殺する者。
- ʔusiwaki=jun① (他 =raṅ, =ti) 押し分ける。
- ʔusizaado'ohu① (名) 豆腐の一種。豆腐を固める時、箱に入れずに、布に包み上に重い物をのせて固めたもの。従って円形にでき上がる。押しつぶした豆腐の意か。
- ʔusizaki① (名) 侍女様。sizaki (貴族の娘

の侍女) の敬語。

- ʔusizasi① (名) かんざしの一種。男が kamisasi (その項参照) に添えて差すもので、金属製。形は耳かきに似ていて、それより長い。御副え差しの意か。装飾品で、耳かき、紙の穴あけなど色色なことにも用いる。kamisasi と同じく、身分によって材料が異なった。もとはこれのみがかんざしとして用いられたといわれる。
- ʔusizi① (名) [文] 神様。また、みたま (御霊)。神・神霊 (šizi) の敬称。
- ʔusizimee① (名) [文] 神様。神・神霊 (šizi) の敬称。
- ʔusizirimise'en① (自・不規則) おかくれになる。過ぎ去りたまう。崩御なさる。王の死についていう。ʔukumuimišeen ともいう。
- ʔusjaa=jun① (自 =raṅ, =ti) 一緒になる。合体する。合わさる。ʔaaninzunu ʔikiraku natakutu ʔujanujaankai ʔusjaatan. 家族が減ったので、本家に合同した。
- ʔusjaamaatuu① (名) ごた混ぜ。一緒くた。
- ʔusjaamii① (名) 機織りで、おさに4本の糸を通して織ってできる、厚い布。普通に2本ずつ通してできる布は hwiranuci ともいう。
- ʔusjaa=sjun① (他 =saṅ, =ci) 一緒にする。合併する。合わせる。足す。taaqitu miigitu ʔusjaaci caqsaga. 2と3を足すといくつか。
- ʔusjaga=jun① (自 =raṅ, =ti) 召しあがる。「食べる」(kanun) の敬語。ʔusjagamišeebiree. お召しあがりなさいませ。
- ʔusjagi=jun① (他 =raṅ, =ti) ⊖押し上げる。ささげる。上にさし上げる。⊕さし上げる。献上する。お供えする。⊕髪を結うひまがない時などに、髪を簡単にくして梳き上げる。

ʔusjagimuci① (名) お供えもの。
 ʔusjagimuN① (名) ①献上物。進物。②賄賂。賄賂として贈るもの。
 ʔusjagimuN① (名) お供えもの。
 ʔusjaku① (名) お酌。酒をついでやること。～ sʔabira. お酌しましょう。～ 'uganuN. さかずきをいただく。
 ʔusjooba① (名) sjooba (その項参照) の敬語。お相伴。また、結婚式の時、花嫁の家で花婿の接待をする役。
 ʔusjooroo① (名) ①お精霊。精霊(しよりょうりょう)。盆に祭る死者の霊。②お盆。盂蘭盆会。
 ʔusjoorooha'asi① (名) 草の名。みそはぎ。精霊花。
 ʔusjoorooʔuN'kec① (名) 精霊迎え。7月13日の晩、迎え火をたいて精霊をお迎えする行事。略して ʔuNkee ともいう。
 ʔusjoorooʔuN'ma① (名) sjoorooʔNma と同じ。その項参照。
 ʔusjoorooʔuu'kui① (名) 精霊送り。略して ʔuukui ともいう。7月15日夜半、送り火をたいて送る。日が暮れてすぐお送りすると、接待に飽いたと思われるであろうと、なるべく夜遅く送る習慣があり、農村では、夜明けあるいは16日になってからする所もあった。送りの翌日は朝寝したり、naganubitoori (長くのびて横になること) して休むのが普通である。
 ʔusju① (名) うしお。潮。海水。～ kunuN. 潮を汲む。ziŋkahaikawaja ~ka 'juka miʔika, ziŋkamijarabinu ʔusʔididukuru. [源河走川や 潮かゆか水か 源河めわらべの おすでどころ] 源河川の水は潮か湯か水か、源河の娘たちの水浴場である。
 ʔusjudec① (名) [御酒代] 祝事・法要に招かれて行く場合に差し出す金一封。お祝儀。香典。sjudec の敬語。
 ʔusjuganasiimec① (名) [古] [お主加那

志前] 国王様。琉球王に対する敬称。
 ʔusjukunaa① (名) 潮汲み。潮を汲むこと。製塩のための海水を汲むこと。また、潮を汲む者。<ʔusju+kunuN. ~ sjuN. 潮を汲む。
 ʔusjumec① (名) ①平民の祖父。おじいさん。②平民の老翁。おじいさん。③とも士族については taNmeec といい、首里周辺での農村では平民のそれを puupu といふ。
 ʔusjunuma① (名) [文] ちょっとの間。片時。潮の干満の流れがやむ間の意。ʔuman 'juikaradu ʔubizasiN sjujuru, 'wamiʔa ~N 'waʔiriguriʔja. [思まぬ故からど 覚出しもしゆゆる わみや潮の間も 忘れぐれしや] 恋していないゆえにこそ思い出しもするのです。わたしは片時も忘れられません。
 ʔu=sjuN① (他 =saN, =ci) 押す。mikusi ʔusijabira. (坂道で老人などに対して) 腰を押しましょう。
 ʔusjuu① (名) [お主] 王様。琉球王の敬称。ʔusjuganasiimec ともいう。～ doo haca. 蜂を追い払うためのまじないの文句。「おれは王様だぞ、蜂め」の意。
 ʔusjuukoo① (名) 御法事。御仏事。sjuukoo の丁寧語。
 ʔusoozi① (名) ①お考え。～N misjooran. お考えにもならない。②王のおぼし召し。御慮。
 ʔusooziʔiʔe'cN① (他・不規則) お考えになる。お思いになる。おぼし召す。nuNzoo caa ʔusoozimisjoorarijabiiga. あなた様はどうお考えになりますか。
 ʔusuʔakagai① (名) うすあかり。日出前・日没後の薄明。
 ʔusuba① (名) ①おそば。～N 'juraran. おそばにも寄れない。②貴人の妾。
 ʔusuba=sjuN① (他 =saN, =ci) (物を) 伏せる。下向きにする。

YusuburimUN

YusuburimUN^① (名) 薄ばか。単に Yusuu ともいう。

YusugurasaN^① (形) 薄暗い。

Yusugusamici^① (名) 少し怒ること。少し憤慨すること。saagusamici ともいう。<kusamicUN。

Yusu=jUN^① (他 =raN, =ti) ⊖おおう。かぶせる。上に掛ける。Yuudu ~. ふとんを掛ける。⊖押える。Yusuraqtoon. 押えられている。⊖(巢について卵を) 抱く。kuuga Yusutoon. 卵を抱いている。

Yusukazi^① (名) [文] そよ風。和風。~N kijuja kukuru Yati sarami, kumu hariti tirasu çicinu curasa. [おす風も今日や 心あてさらめ 雲晴れて照す月のきよらさ] そよ風もきよらは心があるのだらう、雲が晴れて照らす月の美しさよ。

Yusukoogu^① (名) 少し腰が曲がっている者。また、ねこ背(の者)。

Yusuku^① (名) Yusuku の頂(P.565)参照。

Yusumasjan^① (形) すごい。ものすごい。驚くべき。「おぞましい(悍)」と関係ある語か。Yusumasii qcu 'jatan. すごく人が集まっていた。

Yusumuimui^① (副) 少し盛り上がったさま。ciigwaa ~ sjoon. 少女の乳が少し盛り上がっている。

Yusunee^① (名) [新?] お供え。神仏にお供えすること。

Yusuneei^① (名) お行列。<suneejUN (行列する)。

YusuneeMUN^① (名) [新?] お供えもの。

Yusuri^① (名) 敬うこと。尊ぶ気持ち。大事に思ふ念。Yujanu Yasuree neen. 親を尊ぶ気持ちがない。zinnu ~N neeran. 金の力を認めない。~nu Yataran. もったいない。物を粗末にする者がいる場合などにいう。

Yusuri=jUN^① (他 =raN, =ti) 敬う。尊ぶ。あがめる。大事に思う。こわがる意では

Yuturusja sjUN という。

Yusurikaga¹N^① (名) 貴人の前で平身低頭すること。おそれかがみの意。

YusutikwaQkwasee^① (名) 遊戯の名。着物・羽織などの中に子供がはいり、誰がはいっているか、何人はいっているかを当てさせる遊戯。

YusuYusu^① (副) うすうす。もと YuſiYuſi と言ったかもしれない。Yunu kutoo ~ siqcootan. そのことはうすうす知っていた。

Yusuu^① (名) 薄のろ。薄ばか。Yusuugwaa ともいう。

Yusuugwaa^① (名) Yusuu と同じ。

Yusuwaree^① (名) 薄笑い。

Yuta^① (名) 歌。ruuka (琉歌) をさすことが多い。~ 'junUN. 歌(ふつうは琉歌)をよむ。~ çukujUN. ともいう。~ sjUN. 歌を歌う。

Yutaa=sjUN^① (他 =saN, =ci) ならう。準ずる。'nkasinçuni Yutaaci sjUN. 昔の人にならってする。nuu 'jatin 'wannii Yutaasee. 何でもわたしにならえ。

Yutabimise'emUN^① (名) いただき物。賜わり物。目上から頂戴した物。

Yutabimise'en^① (他・不規則) kwijUN (くれる) の敬語。kwimiseen (下さる) より丁寧。<tabijUN. ⊖賜わる。下さる。Yami ~. (天から) 雨を賜わる。⊖(…して) 下さる。Yansi Yutabimiseebiree. そうして下さいませ。kacimisjoooci ~. お書きになって下さる。

Yutaciku¹ci^① (名) 元祖。開祖。家の一番はじめの祖先。お立ち口の意。

Yutaga=jUN^① (他 =aN, =raN, =ti) 疑う。Yarinu kutu 'jakutu, Yutagaandi Yumuree YutagaarijUN. あいつのことだから、疑おうと思えば疑える。

Yutagaki^① (名) 歌で風刺すること。~ sjUN. 歌で風刺する。その場合の歌は kaki-

- Ƴuta という。
- ƳutageeⓈ (名) お互い。～ni hwiraku najabira. お互いに楽にすわりましょう。～du ʼjaru. お互いさまだ。
- ƳutageeⓈ (名) 疑い。～nu harijun. 疑いが晴れる。
- ƳutaguciⓈ (名) 歌うのが上手なこと。歌声がよいこと。また、その人。
- Ƴuta=junⓈ (=aN, =raN, =ti) ⊖(他) 歌う。声に節をつけて歌う。また、節なしで、歌を詠ずる。⊖(自) (鶏が) ときをつくって鳴く。tuinu ～. 鶏がときを作る。
- ƳutakabiⓈ (名) [おたかべ] 神を祭る式。また、その時に nuuru, kudi (それらの項参照) などがとなえる祈りの文句。のりと。～sjun. 神を祭る式を行なう。Ƴutakabee siqcoomi. のりとは知っているか。
- ƳutakiⓈ (名) [御岳] 山の森の中にある神を祭った場所。聖地とされ、婦人が Ƴugwandoogu をもって熱心に Ƴugan (祈願) をしに行った。首里には binnuƳutaki [弁の御岳], sunuhjanƳutaki [園比屋武御岳] などがある。
- ƳutamuciⓈ (名) 三味線による前奏。歌曲の歌う前に三味線だけを弾く部分。歌曲によってその Ƴutamuci が異なる。
- ƳutankaʼatuusiⓈ (名) 遙拝。遠くて行けない場所に遙かに礼拝して Ƴugwan (祈願) を行なうこと。単に Ƴutuusi ともいう。
- ƳutasansiⓈ (名) 歌や三味線 (sansin) (でうち興ずること)。
- ƳutaſikiⓈ (名) お助け。kaminu ～. 神のお助け。
- ƳutasjaaⓈ (名) 歌手。歌い手。歌を歌うことのうまい者。
- ƳutatukuruⓈ (名) お二人様。おふたかた。tai の敬語。
- ƳutiⓈ (名) ⊖落穂。また、作物の落ちこぼれ。～hwirujun. 落穂を捨てる。⊖見落とし。
- ƳutibiciⓈ (名) お祝いの時作る料理の名。肉・豆腐・大根・昆布などを醬油味で煮こんだもの。材料の切り方によって、Ƴuunii (大きく切ったもの), kuunii (小さく切ったもの), sikamuduci (さらに小さく、さいの目に切ったもの) の三種がある。
- ƳutibuciⓈ (名) 西風。
- ƳutiſiciⓈ (名) 落ち着き。沈着さ。
- Ƴutiſi=cunⓈ (自 =kaN, =ci) (心が) 落ち着く。(天気などが) 静かになる。
- ƳuticiʼriⓈ (名) 落ちて散らかること。また、落ちて散らかったもの。散りくず。kiinu hwaanu ～sjoon. 木の葉が落ちて散らかっている。
- ƳutidaⓈ (名) おてんとうさま。お日さま。太陽(tiida)の敬称。～nu ʼugamaqtoon. お日さまがさして来た。
- ƳutiʼiriⓈ (名) [古] [御手入] 処分。行政的処分をいう。maziri [間切] の財政が崩壊した時の行政処分など。
- Ƴuti=junⓈ (自 =raN, =ti) ⊖落ちる。⊖優劣の差がある。段がある。Ƴaritu kuritu kunabiinee, duqtu sinanu ～. あれとこれとを比べると、大分品が違ふ。
- Ƴuti=junⓈ (他 =raN, =ti) (料理したものを他の器に) あける。うつす。Ƴnmu ～. 煮たさつまいもを鍋からほかの器にあける。
- Ƴutikee=junⓈ (自 =raN, =ti) 初めの状態に戻る。もとへ戻る。人が幼時の状態へ返る場合などをいう。
- ƳutimaʼiⓈ (名) (子供・犬猫などが食べ物などを欲しがり) 飛び回って騒ぐこと。
- ƳutinaⓈ (名) [文] うてな。楼台。
- ƳutinⓈ (名) 雨天。普通は Ƴamihui といふ。
- ƳutinguʼtuⓈ (名) 天意。天命。神意。
- ƳutiraⓈ (名) ⊖お寺。寺(tira)の敬称。

Tutiraakwaasagaraakwa

◎首里の円覚寺の通称。

Tutiraakwa'asagaraakwa'a◎ (副) 犬猫がものを欲しがってねらうさま。落ちたら食おう、下がったら食おうの意。

Tutirazuunikasju◎ (名) [お寺十二箇所] 十二支のそれぞれをつかさどる仏が安置されている所。円覚寺・観音堂・赤平・鳥小堀の四寺が、それぞれ十二支のいくつかずつをつかさどっていた。

Tutisizimi◎ (名) 零落。おちぶれること。また、盛衰。落ち沈みの意。ninzinnu Tutisizimee 'wakaran mun. 人間の盛衰はわからないものだ。

Tutitaimo'otai◎ (副) こけつまろびつ。夜、悪路を行くさまなど。落ちたり舞ったりの意。

Tutu◎ (名) ◎音。音響。◎たより。音さた。～N cikaran. 音さたもない。◎うわさ。評判。～nu 'waqsan. 評判が悪い。Tutoo cici Tuqsja sjoosiga. うわさは聞いて、喜んでいるが。

Tutuciŋaga'ci◎ (名) 優劣。

Tutugaku◎ (名) Tutugee の卑称。

Tutugee◎ (名) おとが。下あご。

TutugeenaNduruu◎ (名) あごがすべすべしている者。hwizimoo (ひげなし) をいう。

Tutuiçi'zi◎ (名) お取りつぎ。tuiçiの敬語。

Tutuike'e◎ (名) tuikee の敬語。(貴人との) 御交際。また贈答品・結納などのおとりかわし。

Tutuimu'ei◎ (名) おもてなし。御接待。

Tutuitati◎ (名) 御登用。tuitatiの敬語。～ni najun. 御登用になる。

Tutu=jun◎ (自 =ran, =ti) [新?] 劣る。Tarijaka ～. あれより劣る。

Tutumun◎ (名) お供。従者。Tutumuzurasadu dan nazurasa. お供が立派なのだが、旦那の立派であるゆえん。

Tutuna◎ (名) おとな。文語的な語。普通

は Tuhuqcu という。Picinukezi nikezi 'judidu Paşibjutaru, Piçinu mani satuja ~ nataga. [一のかいち二のかいち] 読でど遊びゆたる 何時の間に里や 大人なたが] 一回、二回と教えて石投げをして遊んでいたのだが、いつの間にあなたはおとなになったのか。

Tutunasjan◎ (形) [新?] おとなしい。普通は Twendasjan という。

Tutunno'o◎ (名) お燈明。神前仏前にともす燈明。Tutumjoo ともいう。

Tuturi=jun◎ (自 =ran, =ti) 衰える。mi-jakunu ～. 都が衰える。

Tuturu=jun◎ (自 =ran, =ti) Tuturijun と同じ。

Tuturusjahwi'isja◎ (名) 恐れおののくこと。びくびくすること。

Tuturusjamun◎ (名) 恐ろしいもの。こわいもの。～nu miibusjamun. こわいもの見たさ。

Tuturusjan◎ (形) 恐ろしい。こわい。Tuturusja sjun. こわがる。恐ろしがる。恐れる。Tuturusjan siran. こわいことも知らない。あどけない者、また豪胆な者についていう。Tuturusii mazimun. こわいおぼけ。mazimun Tuturusja sjuru qcu. おぼけがこわい人 (mazimunnu Tuturusii qcu のようには言わない)。

TuturusjaZumii◎ (名) 恐ろしい思いをすること。こわがること。～sjun.

Tuturuu◎ (名) 恐ろしいもの。

Tutusata◎ (名) 音さた。音信。たより。

Tutusi◎ (名) みぞおち。'nninguci (むなもと) ともいう。

Tutusiŋana◎ (名) 落とし穴。

Tutusidani◎ (名) 落とし種。落胤。Tutusingwa (落とし子) ともいう。

Tutusiguu◎ (名) 小鳥を捕える仕掛けのかご (kuu)。中におとりの鳥を入れる。

Tutusiju'i◎ (名) お年寄り。御老人。tu-

- sjui の敬語。
- ʔutusimuN① (名) 落とし物。
- ʔutusingwa① (名) ʔutusidani と同じ。
- ʔutusizama① (名) 鏡餅。正月に供える ʔucanuku。仏壇と火の神の前に供える。大中小の三つを重ねる。下の大きなものを sicadee (下台), 中のものを nakadee (中台), 上の小さなものを ʔwaadee (上台) という。
- ʔutu=sjun① (他 =saN, =ci) ⊖ (高い所から) 落とす。⊖もらす。脱漏する。⊖無くする。紛失する。⊖陥落させる。また、女をわがものにする。ʔuruku sumijanu cuiwinagungwaja ʔutusigurisja。[小祿染屋の一人女子や 落しぐれしや (小祿染屋節)] 小祿村の染屋 (屋号) のひとり娘は陥落させにくい。
- ʔutuʔu=cuN① (自 =taN, =qci) 評判が高い。遠方まで知られる。音に聞こえる。多くは ʔutuʔuqcooN の形で用いる。cura-kaagiindici ʔutuʔuqcooN. 美人として音に聞こえている。
- ʔutuui① (名) 願いがかなうこと。ʔugwan (祈願) の筋が通り、神仏に聞き入れられること。
- ʔutuunjoo① (名) ʔutunnoo と同じ。
- ʔutuuru① (名) お燈籠。仏壇に供える燈籠 (tuuru)。木造・紙張りで、はすの花などをえがいてある。
- ʔutunsi① (名) 遙拜。ʔutaNkaatuusi と同じ。
- ʔutuzanda① (名) 兄弟。兄弟姉妹。以前は、弟(妹)を ʔutuza, 兄(姉)を sinuza, また兄弟をも ʔutuza といったらしい。主として平民や女子供が使う語。
- ʔutuzici① (名) ⊖遠くの人声・物音などの音だけを聞くこと。⊖評判に聞くこと。音に聞くこと。
- ʔutuziri① (名) たより。音さた。kwii-nu ~N cikaraN. 声のたよりも聞かれな
- い。何の音さたもない。
- ʔuu① (感) 目上に対して、承諾・肯定・同意をあらわす語。はい。ええ。はあ。(ʔii, ʔoo と異なり鼻音化しない。) 目下の年長には ʔoo, 目下には ʔii, ʔNN のように敵重に使いわける。また目上に呼ばれた時の返事は huu という。
- ʔuu① (名) 卯(う)。十二支の第四。方向は東、時刻は午前6時。
- ʔuuʔačisa① (名) 大暑。二十四節の一つ。
- ʔuubaNbaaraa① (副) がらんどう。家の中などに何もなしさま。tundoojaanu gutu ~ qsi. 倉庫のようにがらんどうで。
- ʔuubi① (名) 帯。ʔuhuʔuubi, husuʔuubi, suguiʔuubi (いずれもその項参照) など、すべて男用で、女は普通、帯をしない。しかしいなかの娘の労働用の帯に miNsaʔuubi というのがある。
- ʔuubisiquci① (名) 帯をしめる所。腰のもっともしまる部分。gamaku ともいう。
- ʔuubu① (名) 夏、子供の頭にできるはれもの。あとがはげになる。
- ʔuubuu① (名) とばく的一种。一銭銅貨または二銭銅貨を傾いた板の上にごろがし、相手の銅貨の上に倒れたら、相手の銅貨をとる。明治の中ごろまで行なわれていた。
- ʔuuci① (名) 沖。ただし、海岸からさして遠くない所をいう。全くの外洋は ʔuutu という。
- ʔuuciba'ra① (名) [御内原] ʔudun [御殿], tunci [殿内] の家の夫人の居間。
- ʔuucii① (名) 引っ越し。転宅。くわしくは ʔjaaʔuucii (家移り) という。
- ʔuuciribanta① (名) 断崖絶壁。大きく切り立ったがけ。-banta < hanta (がけ)。
- ʔuucirugaa=juN① (自 =raN, =ti) すっかり連なる。ちょうど達する。及んで同じになる。çirugajun (連なる, 達する, 及ぶ) を強めていう語。

ʔuuçizɪn

- ʔuuçizɪn**① (名) 大つづみ。
- ʔuudu**① (名) ふとん。昔は敷きぶとんはなく、むしろ (sicimusiru) を用いたので、もっぱら掛けぶとんをさした。
- ʔuudu**① (名) 小波。《地》参照。
- ʔuuduui**① (名) 大通り。
- ʔuueekunee**① (副) 追いつ追われつ。また、あとになり先になり。～ ʔsi euun. あとになり先になりして来る。
- ʔuugutu**① (名) ありがたいこと。うれしいこと。
- ʔuuhuu**① (名) 目上に対する、敬語を使うことは使い。肯定の時に ʔuu と言い、呼ばれた時に huu と答える話し方。初対面の場合などで、双方が敬語を使う話し方には、tageeniʔuuhuu (inuʔuuhuu ともいう) という。親しくなれば、身分が同じであっても、年長には ʔuuhuu、年下には ʔiihii となる。～ sjun. 目上に対することは使いをする。
- ʔuuhwa**① (名) おんぶ。人を背負うこと。qkwa ~ sjun. 子をおんぶする。
- ʔuuhwira**① (名) 大平椀。浅くて底の平たい大型の漆器の椀。煮しめ・蒸しもの・菓子などを入れるのに用いる。
- ʔuuhwiruzi**① (名) 大広場。大広間。
- ʔuujuci**① (名) 大雪。二十四節の一つ。
- ʔuu=juN**① (他 =ran, =ti) ⊖ (牛馬などが荷を) 負う。nii ʔuutooru ʔnma. 荷を付けた馬。⊖ (罪・責任などを) 負う。çimi ~. 罪を負う。çimi ʔuurasarijun. 罪を着せられる。
- ʔuu=juN**① (他 =ran, =ti) ⊖ 追う。あとを追いかける。また、あとに従う。kutuba ~. ことばどおりになる。言ったとおりのことが実際に起こる。⊖ 追う。追い払う。
- ʔuukata**① (副・名) 大方。大抵。多分。～ cuuru hazi ʔjan. 大方来るだろう。～ nu qcunu sjuru ʔajamari ʔjan ʔjaa. 大抵の人がするあやまちだなあ。

- ʔuukazi**① (名) 大風。あらし。暴風。台風。teehuu ともいう。
- ʔuuki**① (名) お受け。受けとること、承諾することの敬語。～ sjun. お受けする。
- ʔuuku**① (名) 奥。
- ʔuukuba'a**① (名) 奥歯。
- ʔuukui**① (名) ⊖ 葬送。⊖ 精霊送り (ʔu-sjoorooʔuukui)。またその日。～ nu naaca. 精霊送りの翌日。ʔusjoorooʔuukui (その項参照) はなるべく遅い時間に行なり習慣であったので、その翌日は、朝寝したり休息したりした。
- ʔuumaku**① (名) わんぱく。きかん坊。maku, ʔanmaku などともいう。
- ʔuumizi**① (名) 大水。洪水。
- ʔuumusageci**① (名) 大騒ぎ。にぎやかな騒ぎをいう。
- ʔuuni**① (名) 大根。「おおね」の意。
- ʔuuni**① (名) お船。船(huni)の敬語。
- ʔuunii**① (名) 料理名。ʔutibici (その項参照) の一種。肉・野菜・豆腐などをすべて大きく切った ʔutibici。
- ʔuunna**① (名) [大縄] 大綱引き。盛大な綱引き (çinahwici)。首里のそれは ʔa-jazooʔuunna. という。
- ʔuusariʔaa'sari**① (副) へいへい。ぺこぺこ。権力者に頭をさげて、恭順の意を表するさま。ʔuu および sari はおのおのその項参照。ʔjamatuncunkai ~bikeei sjutan. 日本本土の人に対してぺこぺこしてばかりいた。
- ʔuušekara'kee**① (名) 互いに譲り合うさま。互いに押しやり合うさま。遠慮の場合も、いやなことを押しつけ合う場合もある。～ sjun.
- ʔuušekurubaşee**① (名) 押し合い、ころばし合うこと。押し合いへしあい。混雑のさま。
- ʔuuşi**① (名) 白。つき白をもひき白をもいり。

TuusitarasjaaⓄ (名) 白の目立てを業とする者。

Tuusiba`aⓄ (名) 白歯。Tuu kubaa (奥歯) ともいう。

TuusidimaⓄ (名) 牛馬に荷を負わせて運ぶ運賃。

Tuusimoo`mooⓄ (名) 牛の小兒語。

TuusijunⓄ (他 =ran, =ti) ⊖(牛馬に荷を負わせる。人に負わせることはいわない。kunu nimuci ?Nmani Tuusiti ?ikee. この荷を馬に負わせて行け。⊖(罪・責任などを人に) 負わせる。転嫁する。…のせいにする。duunu nusudooti qcu ~. 自分で盗みながら、人のせいにする。

TuusikaNsi=ju`NⓄ (他 =ran, =ti) ⊖荷をたくさん負わせる。⊖(責任・罪などを他に) おっかぶせる。

TuusimaⓄ (名) [大島] 奄美大島本島。

TuusoozootuⓄ (副) ひっそり閑。大風のあと、大勢の客の帰ったあとなどの静けさなど。~ najun. ひっそり閑とする。

TuutigaraⓄ (名) 大手柄。

TuutikweeⓄ (名) とりまき。金持ちと遊郭などに一緒に行き、金持ちの金でもっぱら遊興する者。追って食いの意。その金持ちの方は ziNkwijaa (金をまきちらす者) である。

TuutootuⓄ (感) 婦人が神仏を拝む時、Tugwan (願) をする時となえる語。あなとうと。

TuutuⓄ (名) [大渡] 沖の海。外海。大海。~Nkai `juu taci?irijun. 大海に湯を沸かして入れる。焼け石に水。

TuutuuruuⓄ (名) つつぬけ。見通し。間に仕切りのないこと。Tamatu kumatu ~`jan. あっちとこっちとつつぬけだ。tunainu zasicinu ~natooru kutu, nuun kwiin marumii `jan. 隣の部屋とつつぬけになっているから何もかも丸見えだ。

TuutuurukaaⓄ (副) 間の仕切りがなく

すっかり見通しになったさま。つつぬけのさま。~ natoon. すっかりつつぬけである。

TuuwānⓄ (名) 大湾。(地) 参照。

TuuzakiⓄ (名) 大酒。大量に飲む酒。また、大酒飲み。

TuwaiⓄ (名) 終わり。

Tuwa=junⓄ (自 =ran, =ti) 終わる。Tucinajun (終わる、済む) の方を多く用いる。sjuukoo Tuwatan. 三十三年忌の法事が終わった。

TuzaⓄ (名) 宇座。(地) 参照。

TuzaⓄ (名) [御座] ⊖内閣。政府。kaminu ~. siqsii [摂政] と sansikwan [三司官] のいるところ。政府の最高首脳部。simunu ~. zuuguninsjuu [十五人衆] のいるところ。kaminu Tuza に次ぐ政府機関。~nu qcu. guhjuozoozu [御評定所] の役人。⊖お座敷。zaa (座敷、部屋) の敬語。ふつうもともとよい客間、あるいは仏壇のある座敷をいう。TuhuTuza ともいう。その他の座敷は nibanTuza (二番座敷), sanbanTuza (三番座敷) のようにいう。他の部屋は、その位置・用途により名があり、Turaza, nakamee, kuca (おのおのその項参照) などがある。

TuzagamuiⓄ (名) [文] [おぎやがもい] 尚真王の神号。

Tuzagamuiga`nasiⓄ (名) [文] Tuzagamui の敬称。

TuzakiⓄ (名) 御酒。酒の敬語。

TuzaNasiⓄ (名) [文] 温順なこと。やさしいこと。温厚なこと。nisinumaçiganiga ?izicamisu misjoci TuzaNnasiburija `ugamibusjanu. [西の松金が いぢきやみそ召しよろち 御ぢやんなしぶりや 拝みほしやの] 尚円王が短い御衣(みそ)を召しているその温厚な姿を拝みたい。

TuzareeⓄ (名) おぞり。ぞり(saba)

ʔuzareetui

の敬語。さらにその上の敬語は nuʔaree。
ʔuzareetui①(名) [文] ぞり取り。saba-
tui ともいう。

ʔuzi①(名) 蛆。蠅の幼虫。

ʔuzi①(名) 氏。中国姓をいう。士族は姓
のほかには氏をもっている。姓は 'jaanNa
などという。氏を同じくする者は、名乗り
頭の字を同じくする。たとえば、向氏は
朝、毛氏は盛、馬氏は良、翁氏は盛のよ
うにきまっている。1689年、尚定王の時、
士族に系図を作らせて氏を定めた。nuuʔu-
ziga. 何という氏か。

ʔuziici=juN①(自 =raN, =qci) すっかり怖
じける。おびえきる。すっかりこわがる。

ʔuzi=juN①(自 =raN, =ti) 怖じる。こわが
る。恐れをなす。haaesjuubu 'jašiga,
ʔariNkee ʔuzitooN. かけっこだが、彼に
恐れをなしている。

ʔuzimu①(名) お心。お慈悲ある心。～
ʔaru ʔusjunu ʔwiisigutu 'ugadi. [御
肝ある御主の おいすごと拜がで(孝行
之巻)] 慈悲深い王の仰せごとを拜して。

ʔuzimuzuraNcu①(名) 心のやさしいお
方。恵み深いお方。

ʔuzimuzurasan①(形) お恵み深い。お情
深い。kumanu ʔansimeeja ʔuzimuzu-
rasanu kanaganatu, saueN saueN sa-
nsaueN piiraruraa raararuraaraa ni-
ngoo niNgoo niNgoo ʔiqsjuningoo,
ʔicigooga ʔutabimišeera, ningooga
ʔutabimišeera sadamigurisja. (同じ
はやし) ʔicigoo 'jatin sjuizakikara doo.
こちらのおかみさんはお恵み深いからやさ
しく、(はやし) 一合下さるか二合下さる
かわからない。(はやし) 同じ一合でも (い
も酒でなく、上等な首里の) 米の酒の方
だぞ。(7月の 'eisaa の歌)

ʔuzina=juN①(他 =aN, =ti) 栄養をとる。
栄養をとって体力を補う。単に不足を補う
意はない。maasamun (ʔirabuundee)

kadi kuncu ~. りまいものを(えらぶ
うなぎでも) 食べて、体力を補う。

ʔuzinii①(名) 体力の補いになる食物。栄
養物。滋養のある食物。

ʔuziniigusui①(名) 栄養価の高いもの。
体力を補うくすりの役をする食物。う
なぎ・鶏・ʔirabuu (えらぶうなぎ) など
をいう。

ʔuziN①(名) お膳。ziN (膳) の丁寧語。

ʔuziN ʔubiran①(句) 思いもよらない。

ʔuzira①(名) 鶉(りずら)。

ʔuziraasigisan①(形) ʔuziraasjan ⊖と
同じ。

ʔuziraasjan①(形) ⊖美しい。かわいい。
女・子供の美しいこと、かわいいことをい
うが、みめよいだけでなく、賢いの意味をも
もつ。ʔuziraasigisan ともいう。⊖(接
尾) 利口である、上手であるの意をあらわ
す。kooiʔuziraasjan. (買物上手である)

ʔuzoo①(名) 御門。門(zoo)の敬語。

ʔuzooba`aN①(名) 御門番。zoobaan の
敬語。

ʔuzoogwaa①(名) 裏の御門。貴族の大き
な邸宅には、大小の門があり大きな表門を
ʔuhuʔuzoo, 小さい裏門を ʔuzoogwaa
といった。

ʔuzumi①(名) はずみ。機会。きっかけ。
次のような句で用いる。ʔatunu ~. とど
のつまり。あげくのはて。結局。ʔatunu
ʔuzumee nusududu najuru. あげくの
はては泥棒となりはてる。caaru ~ga
'jatara. 何のはずみだったか。どんなき
っかけだったか。

ʔuzumu=juN①(自 =raN, =ti) うずまる。

ʔuzumuri=juN①(自 =raN, =ti) ⊖うずも
れる。⊖世に知られなくなる。世間に忘れ
られる。

ʔuzu=nuN①(自 =maN, =di) 目がさめる。
睡眠から目さめる。ʔuzumasjun. 目をさ
まさせる。ʔuzumasiN saN. 何の警告も

与えない。不意打ちする場合にいう。目を
 さまさせもしない意。

Tuzu=nuN① (他 =maN, =di) りずめる。
 埋める。

TuzuNbi① (名) りずみ火。

TuzuNbiira① (名) [古] 木製の鋤。水田耕

作用の農具の名。

Tuzuu① (名) ⊖重箱料理。お重。⊖旧暦
 3月3日の節供に、子供たちのために作る
 重箱料理。⊖転じて、3月3日の節供。子
 供がいう。

- 'ubacaNsiime'e① (名) おばさま。伯母様。叔母様。伯叔母の敬語。貴族についていう。
- 'ubahaNzaNsiime'e① (名) 大おばさま。従祖母の敬語。貴族についていう。
- 'ubamaa① (名) おば(伯叔母)。関係を表わす語で、呼びかけには言わない。～natoon. おばに当たっている。
- 'uci① (感) 子供に危険を知らせる時に発する語。落ちそうな場所に子供が近づいた時などにいう。あぶない!
- 'uciuci① (感) 'uciと同じ。縁側などから落ちないように、'uciuci と言って落とすまねをして見せる。
- 'uciuci①① (副) 相手を見くびったさま。～sjun. 相手を見くびって勝手にふるまう。ないがしろにする。
- 'uđee① (名) 旅の祝いをする家(tabisju)で、親戚の女たちが集まって踊る踊り。手を打ち、旅歌(kweena)などを歌いながら輪になって回る。
- 'uđui① (名) ㊦踊り。舞踊。首里の正式の舞踊は、元来は男がするものであった。'wakaſjuuđui [若衆踊], 'winaguuđui [女踊], niſſeeuđui [二歳踊], ʒoouđui [雑踊] などいろいろな舞踊がある。㊦芝居。組踊り(kumiuciui)。
- 'uđuibuzoo① (名) [古] [羅奉行] kumi- uđui [組躍]をつかさどる役。その項参照。
- 'uđuihani① (名) 踊ったりはねたりすること。踊る時やうれしがれる時のさま。欣喜雀躍。
- 'uđuiniNʒu① (名) 踊りの一団。舞踊団。また、劇団。
- 'uđuisjaa① (名) 俳優。役者。踊りをする者の意。sibaisii ともいう。
- 'uđuiziN① (名) 踊りの時の着物。また、舞台衣裳。
- 'uđu=juN① (他 =raN, =ti) 踊る。舞踊をする。舞う。踊りの型によって踊る。即興的な踊りや、喜んで踊り上がる場合などは多く moojuN という。
- 'ugami① (名) 祈願。願。ʔugwan と同じ。nintuunu ~. 年頭の祈願。一年中の無事息災を神社仏閣霊地などに祈願して回ること。niNzuunu ~. 年末の祈願。年末に一年中のお礼を申し述べるために、神社仏閣霊地などを回ること。
- 'uga=nun① (他 =maN, =di) ㊦(神仏を) 拝む。㊦お会いする。お目にかかる。会う(ʔicajuN)の敬語。hwibinu ʔitunamini ʒinagariti 'waminu 'ugamibusja ʔatin zijuja naraN. [日日の営みにつながれてわみの 拝みほしやあても 自由やならぬ] 日日の営みにつながれてわたしは、お目にかかりたくても自由になりません。cuu 'uganabira. こんにちは。目上に対する屋外でのあいさつ。㊦見る('NN-zuN)の敬語。拝見する。'ugamaci ʔutabimisjoori. 拝見させて下さいませ。㊦「貴人と…する」という意の敬語。ʔwiicee ~. お会いする。拝顔する。ʔuhanasi ~. (貴人と) お話をする。'ugamaqtoon. おだて上げられている。また、甘く見られている。皮肉にいったもの。
- 'ugaNcumi=ju'N① (他 =raN, =ti) [文] 承る。かしこまる。承知する。'ugaNcumi-jabiti. [拝留めやべて] かしこまりました。ʔNN, 'ugaNcumitoosa. ああ、わかっているよ。口語で冗談に言う。
- 'ugaNduusa^(u)① (形) 久しくお会いしない。御無沙汰をしている。miiduusan の

敬語。'uganduusaibiisiga ʔwaacimişeebiitii. 久しくお目にかかりませんが、お元気でいらっしゃいましたか。

'uganguṭu④ (名) ㊦miimuN (見もの)の敬語。また、migutu (見事)の敬語。お見事な行事。ご立派な催し。貴人の催しものなどをいう。㊦皮肉に、嘲笑の対象にもいう。

'uganzu④ (名) [拜所] 神を拜むところ。ʔutaki [御岳], ʔugan, また、神を拜むために、屋敷の中にしつらえた場所など。

'ugari④ (名) 飢え。

'ugari=jun④ (他 =ran, =ti) ㊦飢える。かつえる。㊦(比喩的に) 飢える。ziN ~. 金に飢える。

'ugarimuN④ (名) 飢えた者。

'uimi④ (名) 'ujumi と同じ。

'uizu④ (名) 居所。居場所。

'ujumi④ (名) 神仏に關する四季折折の祝日。'uimi ともいう。4月の ʔabusibaree, 6月25日の新米の ʔumaçii, 8月10日 (kasicii を作る), 8月15日 (hucagi を作る), 11月の tunzii, 大みそかなど。

'ukasjan④ (形) おかしい。こっけいである。'ukasjadu ʔuhusaru. こっけい至極だ。大笑いだ。

'unaga④ (名) 翁長。《地》参照。

'unai④ (名) [をなり] 男の兄弟から見た姉妹。兄に対する妹。または、弟に対する姉。'wikii に対する。宗教的には、男の兄弟に対する守護神であり、また一家の中で、宗教的な任務をになう者である。上流家庭のそれは ʔuminai という。また、王の娘は ʔuminaiibi という。

'unaigami④ (名) 'wikii (姉または妹から見た、兄または弟) に対する守護神としての 'unai. 'unai は 'wikii の守護神としての靈力をそなえているとされた。'wikii が旅に出る時には、その 'unai の靈がその守護神となる。お守りとして手ぬぐいを

持たせるのが普通で、それを ʔuminaitisazi という。

'unaigeei④ (名) 姉妹を交換すること。すなわち、ふたりの男が互いに相手の姉または妹を妻とすること。

'unaisitu④ (名) 小じゅうと。すなわち、夫の 'unai. 'unaisitoo saasinuqkwa. 小じゅうとは鍵のようなもの。すなわち家庭を円満にするさしわたし役となる。

'unaiʔukudi④ (名) 女神をまつる ʔukudi (その項参照)。一門中の女の神をつかさどる女の神官。

'unaiwikii④ (名) 'unai と 'wikii. 兄と妹、または姉と弟。

'unaiwikii④ (名) 兄弟姉妹。'wikii と 'unai.

'unazara④ (名) [女按司] ㊦[古] ʔazi [按司] の妻。㊦王の妻妾。㊦奥様。上流の他人の妻に対する敬称。直接その本人に対しては言わない。

'unazaraʔusirabi④ (名) 王の妾選び。

'un④ (名) 恩。ʔuN ともいう。~nu ʔaru qcu. 恩のある人。恩人。

'un④ (自・不規則) ㊦いる。おる。(人間・動物などが)存在する。'Nkasi sjuinakai ...Ndi ʔjuru qeunu 'uibiitan. むかし首里に…という人がいました(こういう時にも ʔaN (ある) は用いない)。kumanakai 'utoori. ここにずっといろ。'uru ʔuqsa. いる者みんな。㊦(…して)いる。'judi ~. 読んでいぞ。'judoon (読んでいぞ)をぶっきらぼうに言ったもの。'juddee 'uraN. 読んでいない。'judoon の否定の形。hasirunu ʔacee 'uraN. 戸があいていない。

'uNcuunii④ (名) 下男。

'uNcuu④ (名) ㊦叔父。叔父さん。父母の弟、または父母の妹の夫。士族・平民についていう。伯父は ʔuhutaarii という。叔父が何人かいる場合には ʔuhuuNcuu (自分と年の大きく違う叔父), 'uNcuu,

'uNcuugwaa

'uNcuugwaa (自分と年の近い叔父) などと呼び分ける。◎おじさん。自分の父より年下の男をいう。

'uNcuugwaa⑩ (名) 小さい叔父さん。自分と年の近い叔父をいう。

'uNgeesi⑩ (名) 恩返し。?uNgeesi ともいう。

'uNna① (名) [文] 女。口語は 'winagu。 ~ ?nmaritin ziri siran munuja kuridu 'jununakanu ziguku demunu。 [女生れても 義理知らぬものや これど世の中の 地獄だいのもの(執心鐘入)] 女に生まれても義理を知らぬ者は、これこそ現世の地獄である。

'uNzi⑩ (名) 恩義。~ kanzun。 恩義をこうむる。~ 'wasiririba 'jaminu 'junu kumici。 'wadudu sukunajuru ?ajumi-gurisja。 [恩義忘れれば 闇の夜の小路 我侗どそこなゆる 歩みぐれしや] 恩義を忘れればやみ夜の小道と同じ、自分をこなうばかりであゆみにくい。~ boocaku nasakiciri 'jakara。 [恩義忘却 情切れ やから (大川敵討)] 恩義を忘却した情のなくなったやから。

'uNzoo⑩ (名) 萩堂。《地》参照。

'uqtii⑩ (名) ◎おととい。一昨日。◎前前日。?unu ~。 その前前日。

'usama=juN⑩ (自 =raN, =ti) 治まる。平静に復する。騒ぎや混乱が静まる。やむ。kwazinu ~。 火事が治まる。?ooeenu ~。 けんかが治まる。

'usamigata⑩ (名) 治め方。統御。統制。 ~nu tudukan。 統御がゆき届かない。 ~nu neen。 ともいう。

'usami=juN⑩ (他 =raN, =ti) 治める。統治する。また、騒ぎなどを治める。また、子弟などをよくしつけ、服させる。?anu 'jaaja qkwanucaa 'juu 'usamitooN。 あの家は子供たちをよくしつけている。

'utai① (名) 疲れ。疲労。

'uta=juN① (自 =raN, =ti) くたびれる。疲れる。主として、仕事のあとなどの一時的な肉体的疲労をいう。過労で体が弱るような疲労は kutandijun, 精神的な疲労は cikarijun という。

-u'ti (助) で。おもに動作の行なわれる場所を、ときにその時間を示す。 <'uti (いて。 <'uN)。 ?jaaja kuma ~ tabaku hucoori 'joo。 おまえはここでたばこを吸っていろよ。 meekaniti ~。 前もって。

-uto'oti (助) で。において。にあって。 kaagigwaaaja mura ~ hjoobanmunoo 'wan 'jasiiga。 容貌は村で評判者はわたしであるが。

'utu① (名) 夫。 ~ mucun。 夫を持つ。とつぐ。上流の女についてはこういわない。また、男からは tuzi mucun (妻を持つ) とはいわず、 tuzi tumeejun または tuzi kameejun という。

'utubiree① (名) 夫への接し方。夫への仕え方。

'utuku⑩ (名) ◎ [文] 男。口語は 'wiki-ga。 ~ ?nmaritin kui siranu munuja... [男生れても 恋知らぬ者や (執心鐘入)] 男と生まれながら恋を知らない者は... ◎男の中の男。 danzuga, ?jaa ~ 'jasa。 まったくおまえは男の中の男だよ。

'utusitu① (名) 夫と姑。 ~ hwirajun。 夫やしゅうとめに仕える。

'uu⑩ (名) 芭蕉。糸芭蕉。実芭蕉は naiuu という。葉柄から繊維をとり、芭蕉布を織る。

'uu① (名) 緒。結ぶためなどに物にとりつけたひも。

'uu- (接頭) 雄。牡。'uudui (雄鶏) など。

'uu?ata'i⑩ (名) 芭蕉畑。

'uu?ata'ku⑩ (名) 青がえる。芭蕉の葉などによくいるのでいう。

'uuba'ara⑩ (名) 芭蕉糸を績(う)んで入れる竹のかご。 haara は竹で編んだかご。

- 'uubari=jun① (自 =ran, =ti) 雨が小やみになる。少し晴れる意。'uubariraa ʔikee. 少しやんだら行け。
- 'uubee① (名) 植物名。からむし(芋麻)。
- 'uubuciki① (名) 芭蕉の糸くず。huciki は織維などのくず。
- 'uudui①① (名) 雄鶏(おんどり)。
- 'uugaara① (名) 雄がわら。本かわらぶきの丸がわら。竹筒を二つ割りにした形かわら。雌がわら(miigaara)と組み合わせで雌がわらの上にうつぶせにふき、しっくい固める。
- 'uugaʔasja① (名) 芭蕉の葉。kaasja は広い葉。'uunuhwaa ともいう。
- 'uuguci① (名) おごけ(麻小筒)。おけ(麻筒)。まんばち。績(う)んだ麻糸をためるおけ。薄い杉板を円形に曲げて作る。のちには女の身の回りの調度品を入れる器に、さらにのちには食べ物を入れる器にも用いられるようになった。
- 'uuhuu① (感) さあ。では。目上に対して誘いかける時発する語。鼻音化しない。diqkaa sai ともいう。目下の年長に対しては 'oohoo (鼻音化する), 目下一般に対しては 'ihii (鼻音化する) という。~ ʔi-cabira. さあ、まいりましょう。
- 'uui① (名) ㊦折。ころ。時期。caaru ~ni. どんな時に。㊦(接尾)折。ころ。時期。'juubanui (夕飯の時分, 晩飯時), taci-uui (婚期, とつぐ時期) など。
- 'uui① (名) 折。折箱。折づめ用の箱。
- 'uuiN=cuN① (他 =kaN, =ci) ゆり動かして入れる。ゆすぶって入れる。'wata ~. 腹ごなしをする。食べたものを腹にゆすぶり込む意。
- 'uuiwaQʔkwa=sjuN① (他 =saN, =ci) ゆり動かしてばらばらにする。ゆすぶってこわす。
- 'uu=jun① (他 =raN, =ti) 折る。kiinu 'judā ~. 木の枝を折る。tii ~. 手をくじく。
- 'uu=jun① (他 =raN, =ti) ゆする。ゆすぶる。ゆり動かす。
- 'uuki① (名) ㊦桶。㊦(接尾)桶に一杯・二杯などと数える時にいう。cuuuki, ta-uuki など。
- 'uukigwaa① (名) 小さい桶。
- 'uukijuujaa① (名) 桶作り。桶を作ることを業とする者。
- 'uumunaa① (名) 雌。動物の雌。'uumun ともいう。miimunaa の対。
- 'uumuN① (名) 雌。動物の雌。'uumunaa ともいう。miimun の対。
- 'uunuhwaʔa① (名) 芭蕉の葉。弁当など食物を包むのに用いた。少し火にあぶると柔らかく包みやすくなる。'ugaasja ともいう。
- 'uun① (名) おの。大きく、柄の長い両手で扱うものをいう。
- 'uunna① (名) 雌綱。綱引きの時の一方の綱。miinna (雌綱) に対する。qinahwici の項参照。
- 'uuri=jun① (自 =raN, =ti) ㊦折れる。㊦我を折る。折れて出る。
- 'uuritoʔori① (副) 平身低頭。ぺこぺこ。卑屈な態度で頼むさま。折れ倒れの意。'juca-numunnu ~ qsi, miitoon neeraN. 年配の者が平身低頭して、みっともない。
- 'uusa① (名) 機織りの器具の名。おさ(箒)を上下からはきんでそのわくとなるもの。おさかまち。おさの目の細かい部分のことは huduci という。
- 'uuʔusi①① (名) 雄牛。闘牛用として特に尊重される。
- 'uuuʔu① (感) いいえ。目上に対して、否定または拒絶の意をあらわす語。鼻音化しない。目下の年長に対しては 'oooo (鼻音化する), 目下一般に対しては 'iiii (鼻音化する) という。
- 'uuʔwaa① (名) 雌豚。種豚。

'uuʔwaakarajaa

'uuʔwaakarajaa① (名) 豚の種付けを業とする者。雄豚を飼う者の意。能無し of the 代表とされる。

'uuwinagu① (名) 男のような女。雄女の意でさげすんでいう語。

'uuzi① (名) 甘蔗。砂糖きび。「をぎ(荻)」に対応する語か。saataauuzi (製糖用の砂糖きび) と kwasiuuzi (靈前に供える菓子となる砂糖きび) とがある。

'uuzigara① (名) 砂糖きびのから。砂糖きびのしぼりかす。

'uuzijukumi① (名) 甘蔗栽培の監視官。

'uuzi=juN① (自 =paN, =ti) 応じる。mi-bunni 'uuziti see. 身分に応じてしろ。

'uuziru① (名) 雄弦。三味線 (saNsɪN) の一の糸。一番太く、一番低い音を出すもの。nakaziru (二の糸), miiziru (三の

糸) に対する。

'uu=zuN① (他 =gaN, =zi) あなどる。軽んじる。Qcu ~. 人をあなどる。'uugaqto-on. 軽んじられている。

'uu=zuN① (他 =gaN, =zi) ゆすぐ。すすぐ。ゆり動かして洗う。

'uzasaa① (名) おじ(伯叔父)。関係をあらわす語で、呼びかけには言わない。~ na-toon. おじに当たっている。

'uzihuzi① (名) 従祖父母。祖父母の兄弟姉妹。関係をあらわす語で、呼びかけには言わない。

'uzihuziʔN⁷mee① (名) 従祖母(おおおば)。士族についていう語。

'uzihuzitaN⁷mee① (名) 従祖父(おおおじ)。士族についていう語。

'uzimi① (名) 大宜味。《地》参照。

ʔwaa① (名) 豚。

ʔwaba① (名) 余分。必要のない余計なもの。

ʔwaabagutu① (名) 余計な事。しなくてもよい事。～sjun. 余計な事をする。～'junun. 余計な事をしゃべる。

ʔwaabaku'joo① (名) 豚の売買・周旋をする者。

ʔwaabamuN①① (名) 余計者。

ʔwaabasiwa① (名) 余計な心配。とりこし苦勞。～bikeei sjun. とりこし苦勞ばかりする。

ʔwaabàʔumii① (名) 余計な心配。とりこし苦勞。

ʔwaabazikce① (名) ①むだづかい。余計な出費。②予算外に使う金。小遣い。

ʔwaabi① (名) うわべ。表面。外見。

ʔwaabibirce① (名) うわべだけの交際。

ʔwaabieuraa① (名) 表面がきれいなもの。うわべを美しく飾る者。外見をつくらうもの。～ga ʔucikunZoo. 表面は美しくて、内心は根性の悪い者。

ʔwaabigaa① (名) 表面の皮。外皮。表皮。

ʔwaabinaNduruu① (名) 表面がつるつるしてなめらかなこと。

ʔwaabišindī① (名) 表皮がただれること。

ʔwaabooii① (名) 着物の上から、さらに一枚を羽織って着ること。冬の女の服装。

ʔwaacaa① (名) しゃれ者。おしゃれ。また、気取りや。主として男についている。

ʔwaaci① (名) おしゃれ。容貌や服装をかざること。主として男のおしゃれをいう。また、気取ること。なま意気。浮気の転意。～sjun. おしゃれをする。～na mun. 気取り屋。なま意気な者。

ʔwaaçici① (名) 天気。上っ気の意。tiŋci

ともいう。'iiʔwaaçici deebiru. よい天気でございます。'janaʔwaaçici 'jaibii-N 'jaa. お天気が悪いですねえ。ともに、あいさつにいう。

ʔwaaçikijaa① (名) 種豚業者。

ʔwaaçimiše'eN① (自・不規則) ʔaqcun の敬語。①お歩きになる。②お元気でいらっしゃる。達者でいらっしゃる。ʔwaaçimišeebiitii. お元気でいらっしゃいましたか。目上に対するあいさつのことば(歩いている人に限って言うのではない)。同様に、目下には ʔaqcutii. (達者だったか) という。ʔaqcun (歩く)の項参照。

ʔwaaçire'e① (名) おあつらえ。あつらえ(ʔaçiree)の敬語。

ʔwaagaci① (名) 上書き。書状などの表書き。

ʔwaagami① (名) おあがめ。神仏をあがめ尊ぶこと。<ʔagamiŋun (あがめる)。

ʔwaagi=juN① (他 =ran, =ti) 追い散らす。追っばらう。平民の多く使う語。普通は ʔuujuN (追う)という。

ʔwaagwaa① (名) 小豚。子豚。

ʔwaagwaaŋaci① (名) 子豚市。子豚を取り引きする市。～nu gutoon. 子豚の市のようだ。子供が大勢騒いでやかましいさまをいう。

ʔwaagwaaŋiNzi① (名) ざこ寝。子豚が入り乱れて寝ているのに似ているのでいう。

ʔwaaŋugujaa① (名) 豚の去勢を業とする者。hugui はふぐり。ʔwaaŋu hugui tuibira. (豚のふぐりをとりましよう)と呼はわって歩いた。

ʔwaaŋhwa① (名) 数量・金額などの余分。端数。

ʔwaaŋwizi① (名) 口ひげ。口の上に生えた

ʔwaajun

ひげ。sica hwizi (あごひげ) に対する。
ʔwaa=juN①* (自 =raN, =ti) 陰茎が勃起する。
ʔwaa rijun ともいう。

ʔwaa juu① (名) 重湯。おかゆの上湯。正確には ʔukeenu ~ という。

ʔwaa karajaa① (名) 養豚業者。豚飼い。

ʔwaa nai① (名) 「うはなり」に対応する。
○後妻。あと入り。○転じて、しっと。やきもち。ねたみ。そねみ。男女間のしっともいうが多くは子供同志・兄弟間などのそれをいう。母が兄を抱くと、弟が ~ sjun (ねたむ) のようにいう。男女関係に関するしっとにはおもに rinci という。

ʔwaa naikwa'anai① (名) ねたみそねむこと。さかんにねたみ、争うこと。~ sjun.

ʔwaa nee① (名) ʔwaa nai と同じ。

ʔwaa nii① (名) 上荷。上積み。の荷。sicanii (下荷) の対。

ʔwaa nui① (名) 上塗り。sicanui (下塗り) をした上にさらに塗ること。~ sjun.

ʔwaa nuka'mui① (名) きたならしい者。また、きたない者にふれる子供を叱る時などにいう語。ʔwaa (豚) はきたないものの代表。-kami は kamii (係り) の意か。maçid adun ~。松田道之(琉球処分官)への陰口。明治の中ごろ、豚を飼っていた松田という鹿児島人がいたので、松田道之の陰口として誤用されたもの。

ʔwaa nbee① (名) 御按配。御加減。

ʔwaa nde'e① (名) <'wandajun. ○お仕えること。御奉仕。ʔuja ~ simisjooçi. 親を大事になさって。○祖先を大事に祭ること。

ʔwaa nşe'eN① (連詞・不規則) でおありになる。でいらっしやる。'jan (である) の敬語。ʔujanşe'en, ʔwenşe'en ともいう。

ʔwaa ra① (名) 上の方。かみの方。部落などの低い方に対して、上の方。

ʔwaa rijun① (他 =ri raN, =qti) ○ʔuura rijun (ʔuu jun の受身) と同じ。追わ

れる。追いかけられる。sigutuni ʔwaaq-toon. 仕事に追われている。○ʔwaa jun と同じ。

ʔwaa şiba① (名) 上くちびる。

ʔwaa şjaa① (名) 屠殺業者。主として豚を屠殺する者をいう。牛を屠殺する者を特にさす場合は、ʔusi ʔwaa şjaa という。

ʔwaa şjaa ja① (名) 肉屋の小屋。

ʔwaa şjaamaci① (名) 肉市。豚肉が主である。

ʔwaa =sjun① (他 =saN, =ci) ○成長させる。育て上げる。大きくする。ʔacinee-mun ~。商品をふやして、店を大きくする。hudu ~。たけをのぼす。(○の意があるため、hudu ~ のほかは余り用いない。○陰茎を勃起させる。

ʔwaa =sjun① (他 =saN, =ci) 追加する。次次に加える。natooru ʔuqsa 'watacooti, nukuee ʔwaa şjusa. できているだけ渡しておいて、残りは次次に加えるよ。

ʔwaa ta'masi① (名) お引越。御転宅。貴人の引越しの敬語。'watamasi のさらに上の敬語。tuNcinu ~ nu basjoo 'waNnin 'juşirijabitan. お宅のお引越しの際は、わたしも参上いたしました。

ʔwaa tu'oojaa① (名) かなへび。とかげに似た爬虫類の動物。豚と戦う者の意。kooreegusjukwee ともいう。

ʔwaa ūci① (名) ○汁に入れる葉野菜。汁に浮く野菜。上に浮く意か。○上置き。形式的な、または大して役に立たない添え物。

ʔwaa ʔwaa① (名) 豚の小児語。

ʔwaa zee① (名) 悪知恵。悪がしこい才。

ʔwaa zee tubaa① (名) 悪知恵の働く者。悪がしこい者。

ʔwaa zi① (名) 晴れ着。よそ行きの着物。もとは上着の意で sicazi (下着) の対であったろう。ʔisooçijaa (不断着) の対。

ʔweeda①① (名) ○間。sjuikara naahwa-

(maɕi)nu ~nakai ʔikuɕi muranu ʔaga. 首里から那覇までの間に幾つ村があるか。㊦間。期間。…までの間。…までの期間。ʔacanu ~. あしたまでの間。'waa-ga tuti cuuru ~ maqcoori 'joo. わたしが取って来るまで待ってろよ。ʔunu ~ caa sjootaga. その期間どうしていたか。 sanzikara 'juzimadinu ~nakai kuu 'joo. 3時から4時までの間に来いよ。

ʔweeda[Ⓢ]* (名) 親田。《地》参照。

ʔweedai[Ⓢ] (名) [公事] 御内裏奉公。王城の勤務。宮仕え。転じて、官職。公職。

ʔweedaibansi[Ⓢ] (名) お役所仕事のような仕事ぶり。うわべだけを整えておくこと。-hansi は一時しのぎの意。

ʔweedaini[Ⓢ] (名) 宮仕えの人。役人。

ʔweedaiگان[Ⓢ] (名) 官職を拜命すること。仕官。任官。'ugan は拜み。

ʔweedaʔwe'eda[Ⓢ] (名) 間間に。合間合間に。hanasinu ~nakai ʔuta ʔiriɕun. 話の合間合間に歌を入れる。

ʔweedunai[Ⓢ] (名) 親泊。《地》参照。

ʔweegaa[Ⓢ] (名) 親川。《地》参照。

ʔweegasa[Ⓢ] (名) 悪性の腫れ物の名。背の上、肩の後ろの辺にできる癪(よう)。劇痛を伴い、非常に恐れられている。

ʔweeguni[Ⓢ] (名) [親国] 御国。位の高い国を敬っている語。首里以外のいなか、山原('janbaru) などからは、首里を敬って sjuiʔweeguni [首里親国] といった。

ʔweejumi[Ⓢ] (名) お嫁さん。他家の嫁の敬称。

ʔweeka[Ⓢ] (名) 親戚。親類。姻戚をもいう。~ sjun. 親戚づきあいをする。

ʔweekaharo'uzi[Ⓢ] (名) 一族一門。親類縁者。親戚全部。-haroozi という形は首里では単独には用いられない。

ʔweekaŋcu[Ⓢ] (名) 役人。領地を持つ人。ʔweekazi (その領地) から穀物を取得する。

ʔweekata[Ⓢ] (名) [古] [親方] 位階の名。按司 (ʔazi) に次ぐ位階で総地頭の家柄。

ʔweekaʔweeka[Ⓢ] (感) よその犬にあった時、かみつかれぬように唱えるまじないの文句。この家の親戚だといってなだめる意。

ʔweekazi[Ⓢ] (名) [古] [おえか地] 地頭 (zituu) その他の役人に賜わった地。領地。知行。采地。その土地からの収入は sakutuku という。

ʔweeki[Ⓢ] (名) 富。たくさんの財産。~nu ʔukami. 福の神。~ sjun. 富をなす。富を作る。

ʔweekii[Ⓢ] (名) 金持ち。財産家。

ʔweeki'ŋcu[Ⓢ] (名) 金持ち。財産家。ʔweekii もいう。

ʔweekiŋcu[Ⓢ] (名) 金持ち。ʔweekiŋcu を軽蔑的にいう語。

ʔweeku[Ⓢ] (名) ʔeeku (榎) と同じ。

ʔweema[Ⓢ] (名) ㊦間。…までの距離全体。gaqkoonu ~. 学校までの距離。ʔama-madinu ʔweemaa ʔaqciɕuusan. あそこまでは歩けない。㊦間。期間。…までの間全体。sanzikara 'juzimadinu ~ maqcoori 'joo. 3時から4時までの間 (計1時間) 待ってろよ。ʔunu ~nakai ʔi-kukeen 'jukuiga. その間に何回休むか。ʔunu ʔweedanakai…ともいえる。

ʔweemuŋ[Ⓢ] (名) お持ちもの。持ちものの敬語。taariiʔweemuŋ. おとうさまのお持ちもの。

ʔweeŋsu[Ⓢ] (名) お召し物。cin (着物) の敬語 'ŋsu(みそ)のさらに上の敬語。

ʔweesimiɕe'ɛn[Ⓢ] (自・不規則) おやすみになる。寝る (niŋzun), やすむ ('juku-jun) の敬語。ʔweesimiɕebiri. おやすみなさいませ。目上に対する、寝る時のあいさつ。目下に対しては 'jukuree (やすめ) とか, niŋdee (眠れ) とかいう。

ʔweesitu[Ⓢ] (名) 御しゅうと。situ (しゅう

ʔweezikijun

と、しゅうとめ)の敬語。

ʔweeziki=jun① (他 =ran, =ti) (仕事などを他に) 押しつける。

ʔwegunSjori① (名) [古] お嬢さま。口語は ʔaigwaamee. tinsjagunu hanaja ~ ʔwemunu, muikubana kubana satuga ʔwemunu. [てんしやごの花や うえぐんしよりおや物 むいく花小花里がおや物] ほうせんかの赤い花はお嬢様のもの、まつりの白い花は御主人のもの。奉公人が主家の庭をたたえた歌。男女の陰部を庭園の花にたとえたものか*。

ʔwenbusaa① (名) 出べその者。

ʔwenbusu① (名) 出べそ。tenbusu ともいう。

ʔweneu① (名) ねずみ。忌んで上の人(天井にいる人)の意で言ったものか。

ʔweneujaama① (名) ねずみおとし。ねずみ取り。'jaama は機械の意。

ʔwendaa① (名) おとなしい人。やさしい人。

ʔwendaʔnma① おとなしい馬。kuujaa-ʔnma (荒馬)の対。

ʔwendasan① (形) やさしい。おとなしい。柔和である。

ʔwenni① (名) 負けたという意を表示する語。降参。toosee (倒し合い)の時などにいう。~i. 降参か。~ simijun. 降参させる。

ʔwenʂe'en① (連詞・不規則)でおありになる。でいらっしやる。'jan (である)の敬語。ʔujanʂeen, ʔwaanʂeen と同じ。ʔuganzuu qsi ʔwenʂeebiimi. お元気でいらっしやいますか。

ʔwii① (名) ⊖上。場所・地位・優劣などの高いところ。⊕上。表面。⊕上。以上。kan nataru ~ja sikataa neen. こうなった以上は、しかたがない。

ʔwiibaa① (名) 上歯。上あごの歯。sicabaa (下歯)の対。

ʔwiibaru① (名) 上原。《地》参照。

ʔwiibaru① (名) 宇栄原。《地》参照。

ʔwiicee① (名) 御面会。お会いすること。

会ら(ʔicajun)ことの敬語。~ sjun. お会いする。お目にかかる。拝顔する。~ 'uganun ともいう。

ʔwiici①① (名) 上地。《地》参照。

ʔwiici=eu① (自 =kan, =ci) 追い付く。

ʔwiicikce① (名) 身近に置いて使う者。小間使い。追い使う者の意。

ʔwiiciki=jun① (他 =ran, =ti) ⊖追い付く。namakara 'jatun ʔwiicikirariiga 'jaa. 今からでも追い付けるかねえ。⊕追いかける。

ʔwiicikima'açiki① (副) どこまでも追いつく。付け回すさま。kasimasjaru ʔatai ~ qsi. りるさいぐらい付け回して。

ʔwiiciraka=sjun① (他 =san, =ci) 追い散らす。追い払う。'warabincaa ~. 子供たちを追い散らす。

ʔwiicoo① (名) 植物名。ういきょう。葉は食用に、実は薬用になる。

ʔwii=eu① (自 =kan, =ci) 動く。ゆれ動く。ゆらぐ。また、動いて位置を変える。ずれる。ranpunu ʔwiicagiisiga needu 'jaga 'jaa. ランプが動いているが地震かなあ。qcunu ʔeezi qsin ʔwiicin santonan. 人が呼んでも身動きもしなかった。neenu 'juti zoonu haajanu ʔwiicoon. 地震があって、門柱がずれている。

ʔwiida① (名) 宇栄田。《地》参照。

ʔwiidan① (名) (たななどの) 上の段。上段。また、(役柄などの) 上位。sicadan (下の段)の対。

ʔwiigusiciraka=sjun① (他 =san, =ci) 追い散らす。散散に追い立てる。ʔwiicirakasjun ともいう。

ʔwiigusiku① (名) 宇江城。《地》参照。

ʔwiihoo=jun① (他 =ran, =ti) 追い払う。追っばらう。

ʔwiijaandi① (名) 成長するに従って悪くな

ること。大きくなって顔などが醜くなること。

ʔwiijandi=jun① (自 =ran, =ti) 成長するに従って悪くなる。大きくなって顔などが醜くなる。ʔwiiʔnzijun の対。

ʔwiijunabaru① (名) 上与那原。《地》参照。

ʔwii=jun① (自 =ran, =ti) 老いる。老年になる。

ʔwii=jun① (自 =ran, =ti) 成長する。発育する。大きくなる。「生ふ」に対応する。huɬu ~. 背たけが伸びる。成長する。

ʔwii=jun① (他 =ran, =ti) 植える。

ʔwiikata① (名) ⊖中頭 (nakugami) 地方。simukata (鳥尻地方) に対していう。⊖上層階級。ʔwiiʔwii ともいう。simukata, sicakata の対。

ʔwiikuNnu=zun① (他 =gan, =zi) 追い越す。追い抜く。kunnuzun も追い越す意。

ʔwiikuN=sjun① (他 =san, =ci) ぶちこわす。だいなしにする。だめにする。'warabincaaga ʔaɕimati ʔaɕibuɕi ʔujanu qci ʔwiikuncan. 子供たちが集まって遊ぶのを親が来てぶちこわした。siqkaku qsanɔi sjuru kwai ʔwiikuNSaqtan. せっかくやろうとしていた会をぶちこわされた。

ʔwiima① (名) 上間。《地》参照。

ʔwiimasai① (名) 「おいまさり」に対応する。成長するに従って美しくなること。ʔwiijandi の対。~ sjoon. 成長するに従ってよくなっている。

ʔwiimuti① (名) 上の方。かみの方。上の側。kaaranu ~. 川上。

ʔwiinaʔwiina① (名) おいおい年をとってのち。老後。~nu kutu namakara kangeetookandaree, ʔwiinaʔwiinaa ʔawari sjun doo. 老後のことを今から考えておかなくては、老後はみじめになるぞ。

ʔwiinuturi① (名) 首里城の門の名。ʔugusiku の項参照。

ʔwiinu=zun① (他 =gan, =zi) 追い抜く。追い越す。

ʔwiiʔnza=sjun① (他 =san, =ci) 追い出す。

ʔwiiʔnzi=jun① (他 =ran, =ti) 成長するに従って (容貌などが) よくなる。おいまさる。ʔwiijandijun の対。

ʔwiingwa① (名) ろい子。初子。

ʔwiingwahwaɕi'ngwa① (名) ろい子。初子。ʔwiingwa を強めて言った語。

ʔwiiraasjan① (形) 年よりふけてみえる。年とって見える。

ʔwiirikidukuru① (名) 面白い所。また、観光地。景色のよい所。

ʔwiirikigisan① (形) 面白そうである。

ʔwiirikii① (名) 面白い人。いつも人を面白がらせる人。愉快な人。

ʔwiirikisan① (形) 面白い。楽しい。愉快である。興味を感じる。ʔwiirukisan ともいう。ʔwiirikisa sjun. 面白がる。楽しむ。

ʔwiirukisan① (形) ʔwiirikisan と同じ。

ʔwiisi① (名) 仰せ。貴人のおことば。御命令。

ʔwiisica① (名) うえした。上下。

ʔwiisigutu① (名) 仰せごと。貴人の御命令。~ 'ugadi. 仰せごとを拜して。

ʔwiisimise'en① (他・不規則) 仰せられる。おっしゃる。また、お命じになる。ʔjun (言う)の敬語。

ʔwiisjoo① (名) 御衣裳。ʔisjoo (衣裳)の敬語。

ʔwiitaci① (名) 成長。発育。おい立ち。ʔwiqtaci ともいう。

ʔwiitaciwa'rabi① (名) 発育する子供。

ʔwiita=cun① (自 =tan, =qci) 成長する。発育する。おい立つ。

ʔwiitati=jun① (他 =ran, =ti) 追い立てる。

ʔwiiʔucun

ʔwiiʔu=cun① (他 =kan, =ci) (品物を交換する場合などに、劣る物の方に、補いとして他の品または金銭を)添える。ʔjaaja caqsa ʔwiiʔucuga. おまえはいくら添えるか。sinanu 'waqsakutu singwan ʔwiiʔuceesa. 品が悪いから千貫添えたのだよ。

ʔwiiʔuntin① (名) 上運天。《地》参照。

ʔwiiʔutu=sjun① (他 =san, =ci) ⊖追い落とす。追い抜いて勝つ。⊕ひったくる。強引に奪い取る。

ʔwiiʔweeʔumuuku① (名) 王の婿の敬称。王女をめとったかた。廃藩後は、旧国王尚侯爵の婿をもいった。

ʔwiiʔwii① (名) 高貴のかたがた。家柄のよ

い人たち。上層階級。ʔwiikata ともいう。simuzimu の対。

ʔwiiʔatu① (名) 上里。《地》参照。

ʔwiizi① (名) 泳ぎ。水泳。

ʔwiizi① (名) 上江洲。《地》参照。

ʔwiiziibu① (名) 上儀保。《地》参照。

ʔwii=zuN① (自 =gan, =zi) 泳ぐ。

ʔwiqeu① (名) 年寄り。老人。'Nkasinu ʔwiqcoo hurimun doo. ʔnmagaa ʃikasan, 'jumi ʃikaci. 昔の年寄りはばかだよ。孫はあやさず、嫁をあやして(子も)り歌の文句。

ʔwiqcuwa'rabi① (名) 年寄りと子供。

ʔwiqtaci① (名) ʔwiitaciと同じ。

- 'waa① (感) ⊖わあ。驚いた時・うれしい時などに発する。子供がよく使う。⊖ばあ。顔や姿を現わす時に言う小兒語。
- 'waa② (名) ⊖広さ。幅。～nu ʔaŋ. 広い。～nu neeŋ. 狭い。～nu neerankutu magijaanu ɕukuraraŋ. 狭いので大きな家が建たない。～nu neerankutu tuuraraŋ. 狭いので通れない。⊖度胸。人前で憶しない度胸。～nu ʔaŋ. 度胸がある。
- 'waa- (接頭) わたしの。'waamuŋ (わたしの物), 'waasjumuçi (わたしの本) など。
- 'waaʔaa② (感) へええ。あれまあ。珍しい時・不思議に思う時などに子供などが発する語。cuuja 'jašimi 'jaŋtisa… へ。きょうは休みだとさ…。へええ。
- 'waamuci② (名) 度胸のある者。
- 'wabi① (名) 降参。負けて敵にくだること。また、その意を相手に伝える語。～sjun. 降参する。～i. 降参か。
- 'wabiihai① (副) ぐちをこぼすさま。
- 'wabiinooi① (副) ぐちをこぼすさま。ぐちっばいさま。～sjun. ぐちばかり言う。
- 'wabijaa① (名) ぐちっばい者。ぐちばかりこぼす者。
- 'wabi=juŋ① (自 =iŋ, =ti) ぐちをこぼす。弱音をはく。
- 'wabuku① (名) 和睦。仲直り。文語的な語。miitunɕaa namaa ~ sjoŋ. 夫婦は今は仲直りしている。
- 'wabuwabu① (副) だぶだぶ。大き過ぎる着物、またはたくさんの着物を着た時のさま。転じて、hwinsuunu ~ sjoŋ. (一生貧乏から抜けきれない) のようにも用いる。
- 'wacaga=juŋ① (自 =raŋ, =ti) 湧き上が

- る。湧き出る。
- 'wacakooge'ezi② (副) あてつけがましく。つらあてに。わざわざいたずらする場合などをいう。～nudi misira. (禁酒した人の前などで) わざと酒を飲んでみせよう。～ʔami huti. あてつけがましく雨が降って。
- 'wacaku② (自) からかうこと。他人にいたずらすること。
- 'wacaku=juŋ② (他 =raŋ, =ti) からかう。人にいたずらする。'wacakuraqtaŋ. からかわれた。
- 'wacara=juŋ① (他 =aŋ, =raŋ, =ti) わずらう。苦難・面倒を受ける。'wiqcuŋi 'wacaraarijuŋ. 酔っぱらいにわずらわされる。caa hwinsuuni 'wacaraaqti ʔiqtakaankaŋ ʔicijuusaŋ. いつも貧乏にわずらわされて、きみの家にも行けない。
- 'wacaree① (名) わずらい。面倒。わずらわしいこと。
- 'wacareegaŋdoo① (副) 面倒にわずらわされるさま。わずらわしいさま。面倒なさま。～saqti. 面倒にわずらわされて。
- 'waciciku② (名) [古] [脇筑] 廃藩前の警官の役名。ʔuhuciku [大筑] の下、cikusazi [筑佐事] [警吏、巡查] の上。
- 'wacicee② (名) わけ。意味あい。
- 'wacijaku② (名) 副官。補佐役。
- 'wacikusaa② (名) わきが。わきがの者。
- 'wacikuŋgi② (名) わき毛。わきの下の毛。kuugi は陰毛。
- 'wacinici② (名) わき道。支道。間道。
- 'wacinagui② (名) 湧稲国。《地》参照。
- 'wacišibi② (名) 着物のわきに当てる四角の布。まち。わき当て。そでの上げおろし

'wacigasi

にゆとりをつけるためのもの。

'wacigasi① (名) 脇差し。

'wacizituu① (名) [脇地頭] 一村 (現在の字) を領する者。suuzituu [総地頭] (一周切を領する者) に対する。

'wa=cuN① (他 =kaN, =ci) 切って割る。木など堅いものをのこぎり・おのなどで次第に裂いて二つにすることにいう。kii ~. 木を切りさく。

'wa=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖ 湧く。ʔizu-nnu ~. 泉がわく。⊖ [新?] 沸く。沸騰する。ʔuunu ~. 湯が沸く。

'wadaN① (名) 和気あいあいとすること。仲よくすること。平和。

'wadaNwago'o① (名) 仲よくすること。和気あいあいとすること。'wagoowadaNともいう。

'wadu① (名) [文] わが身。~jacoN ~nu ziju naraN siken, ʔariju ʔuramijuru ʔusinu ʔarui. 「我胴やちやうもわどの自由ならぬ世界に あれよ恨めゆる 由のあるゑ」 わが身でさえわが身を自由にできない世の中で、彼女を恨むゆえがあるらうか。kaneru mumukwahuja ʔumi-jacoN 'ndaN, ~ ʔariba ~i ʔididu mja-biru. [かにやる百果報や 夢やちやうも見だぬ わどやればわどゑ つでど見やべる (孝行之巻)] このような大きな幸福は夢にも見ない。わが身がわが身かとなつて見るばかりでございます。

'wagakaimuN① (名) ちん入者。押し入った者。

'wagaka=jun① (自 =raN, =ti) 強引に出る。押し強く出る。押し入る。ちん入する。ʔnzitee naraN tukurunkain ~. 出てはいけな所へも強引に出る。

'wagamama① (名) わがまま。文語的な語。zimama の方を普通に用いる。~na. わがままな。

'wagami① (名) [文] わが身。~ ʔidi 'N-

cidu ʔusunu ʔwija sijuru, muri ʃiruna ʔuciju nasakibakari. [我が身摘で見ちど 与所の上や知ゆる 無理するな浮世 なさけばかり] わが身をつねって他人の身の上を知る。無理をするな、浮世は情が大事なのだ。最後の -bakari は、俗には、-bikei ともいう。

'wagoo① (名) 和合。仲よくすること。むつまじくすること。'wadaNともいう。cuunu suriija ~ sjooti munusooda-nun sjan ʔjaa. きょうの集まりは和気あいあいとして相談したなあ。

'wagoowada'N① (名) 仲よくすること。和気あいあいとすること。'wadaNwagooともいう。

'waibaN① (名) 割り印。証書のとじ目などに押し割り印。

'waihū① (名) わっふ。割り符。板などの中央に証印を押して、二つに割ったもの。割り札。また、系図などに押し割り印。

'waiʔin① (名) 割り印。'waiban の方を多く使う。

'waikwii① (名) 分け前。配当。割り当ててくれるもの。

'waimee①① (名) 割り前。割り当てて出す費用。~ sjun. 割り前を出す。

'wain=cuN① (自 =kaN, =ci) 割り込む。無理に入り込む。

'waisoozi① (名) 竹を割って編んだ soozi (あじろ)。

'waitui① (名) 切り通し。切り開いて通した道。

'waizakaa① (名) 割ったたきぎ。割り木。割り裂いたものの意。

'wa=jun① (他 =raN, =ti) ⊖ 割る。cawaN ~. 茶わんを割る。⊖ 割る。分割する。hjaqkwaN zuuninukai ~. 100貫(2円)を十人に分ける。⊖ 切開する。kasa ~. 瘡(かさ)を切開する。

'wakaazi① (名) [文] [若按司] ʔazi [按

- 司]の世つぎ。幼君。若君。'wakazara
ともいう。
- 'wakaazinume'e① (名) 若按司様。若君
様。
- 'wakabaa① (名) 若葉。
- 'wakagee=juN① (自 =raN, =ti) 若返る。
- 'wakagi① (名) 若木。若い木。
- 'waka=juN① (自 =raN, =ti) わかる。理解
する。納得する。kutun 'wakaran mun.
わからず屋。
- 'waka=juN① (自 =raN, =ti) 分かれる。別
別になる。'jaa ~. 分家する。
- 'wakaki① (名) 'wakamaaci と同じ。
- 'wakakusa① (名) 若草。
- 'wakamaaci① (名) 若松。若木。年始の飾
りに用いる小松の枝。門に飾り、また仏壇
にも供える。'wakaki ともいう。
- 'wakamizi① (名) 若水。元旦未明に井戸か
ら汲む水。その敬語は 'waka?ubii。汲む
者は男の子に限られ、男の子のいない家には、
近所の男の子が汲んで行ってやり、お
年玉をもらう。飲めば、その年の邪気が払
われるという。
- 'wakamuN① (名) 若者。若い衆。
- 'wakanaci① (名) [文] 初夏。旧暦 4~5
月の、稲穂の出始めるころをいう。~ga
nariba kukuru ?ukasariti tamamizini
?uriti kasira ?arawa。[若夏がなれば
ころ浮かされて 玉水におりて かしら
あらは(銘苺子)] 初夏になったので心浮き
浮きと、きれいな水辺に降りて髪を洗お
う。
- 'wakaqteen① (副) 若若しく。tusi tutin
~ sjoon。年をとっても若若しくしてい
る。
- 'wakari① (名) ①別れ。別離。②分かれた
もの。分岐したもの。傍系。分家筋。
- 'wakari?aciisa① (名) 残暑。別れ暑さの意。
- 'wakaribiisa① (名) 余寒。冬の終わるころ
の寒さ。別れ寒さの意。
- 'wakari=juN① (自 =raN, =ti) ①別れる。
離別する。②分かれる。分岐する。micee
maauti 'wakarijuga。道はどこで分かれ
ているか。
- 'wakasaini① (名) 若い時。~nu nanzee
kootin Qsi。若い時の苦勞は買ってでも
した方がよい。
- 'wakasamaci① (名) 若狭町。《地》参照。
- 'wakasan① (形) ①若い。'wakasa taru-
gakijun。若さを頼みにする。②経験が未
熟である。?oosan ともいう。nama 'wa-
kasanu 'jaa。まだ未熟なんだ。
- wakasi (接尾) [済・沸] 升。酒の量を計る
時の接尾辞。cuwakasi(酒一升), tawa-
kasi(酒二升), tuwakasi(酒一斗)など。
- 'wakasiraga① (名) 'wakasiragi と同じ。
- 'wakasiragi① (名) 若しらが。'wakasira-
ga ともいう。
- 'wakasiwakasi① (副) 別別に。?uqtu?ii-
zankai ~ 'iirimun kwijun。兄弟に別
別に玩具を与える。
- 'wakasju① (名) [若衆] ①元服前の貴族の
男子で、王城に出仕して小姓をつとめる
者。ちご小姓。?uduN [御殿], tunci
[殿内]の次男・三男から選ばれた男子が
当たる。髪も着物も女のように美しく派
手に装い、お給仕をつとめた。?uduN,
tunciの長男は勞せずして、地頭などの地
位につくが、'wakasjuの身分の者は學問
に励み、文官試験を受けて苦勞したのち、
文官に仕官した。②男色(の相手の少年)
の隠語。若衆。ちご。
- 'waka=sjuN① (他 =saN, =ci) ①分ける。分
かつ。別別にする。区別する。magiitu
gumaatu ~。大きいのと小さいのと分け
る。'jaa ~。家を分ける。分家させる。
ziqpi ~。是非を分かつ。真偽を判断する。
②仲裁する。仲に立つ。仲直りさせ、引き
離す。?ooee ~。けんかを仲裁する。
- 'waka=sjuN① (他 =saN, =ci) [新?] 沸か

'wakasjuudui

す。沸騰させる。首里では hukasjuN の方を多く用いる。

'wakasjuudui① (名) [若衆踊] 踊りの名。昔の 'wakasju の姿で踊る。緋縮緬の着物で、長い袖をひるがえして、guzinhuubusi [御前風節] に合わせて踊る。

'waka?ubii① (名) 'wakamizi の敬語。

'waka?uriziN① (名) 旧暦 2～3 月ごろの季節。略して ?uriziN ともいう。混効験集には「わかおれづみ」とある。

'waka?usjuukoo① (名) → 間忌 ('inui) と三年忌 (sanninci) とをいう。?uhu-?usjuukoo に対する。

'wakawikiga① (名) 若い男。

'wakawinagu① (名) 若い女。

'wakazara① (名) 'wakaazi と同じ。-zara は 'unazara (按司の妻) の -zara と同じく、按司の意。

'wakaziira① (名) 産後、日の浅い体。産後、まだ回復しない体。

'wakaziiranu'N① (名) 産婦。産後、まだ体が回復しない者。

'waki① (名) ⊖わけ。意味。理由。'wacicee, cimuee ともいう。caaru ~ga. どういう理由か。⊖謝罪。弁解。~ sjun. 謝罪する。あやまる。~N cikan. 弁解も聞かない。

'wakibuN① (名) 配分した分け前。分けてくれるもの。?ujanu ~. 親が子供たちに分けてくれるもの。

'wakiee① (名) [新?] 'wacicee と同じ。

'waki=juN① (他 =raN, =ti) ⊖分ける。区分する。⊖分ける。分配する。

'wakimee① (名) 分け前。分けて取る分。

'waku① (名) 髪(わく)。手で回しながら、糸を巻きつける織具。

'waku① (名) 泉。とくにその水の湧き出て来るところ。水底にあって見えないようなものを多くいう。湧き口。?izun は湧き口が見えるものをいう。

'wakubici① (名) ひきがえる。がまがえる。

'wakugaa① (名) 湧川。《地》参照。

'wakuidii① (名) おびき出す手。だまして誘い出す手段。

'waku=juN① (他 =raN, =ti) ⊖おびき出す。⊖からかう。いたづらする。挑発して怒らす。'wacakujuN ともいう。

'wami① (名) [文] [我身] 私。われ。tubitacuru haberu ma?iju mati ?irira, ~ja hananu mutu siran ?amunu. [飛び立ちゆるはべる まずよ待て連れら 我身や花のもと 知らぬあもの] 飛び立つ蝶よ。しばらく待って私を連れて行ってくれ。私は花のありかを知らないのだから。

'wana① (名) 和仁屋。'wanja ともいう。《地》参照。

'wanja① (名) 和仁屋。'wana ともいう。《地》参照。

'wanu① (名) [文] 私。われ。'wami よりも古い文語。~ mutaci tabori 'wan?o mja-gana. [わぬ持たち給れ わ無蔵見やがな] わたしに (手紙を) 持たせて下さい。恋人に会うついでに。~ja kunu muranu sisitui. [わぬや此村の猪取り] わたしはこの村の獵師。この場合の 'wanu は山原ことば(国頭方言)として使われている。~N ?izu 'jatuti masira sakana. [わぬも伊集やとて 真白咲かな] わたしも伊集の木のように真白に咲きたい。

'wan① (名) わたし。私。うしろに付く助詞によって形が不規則に変わる。'waaga (わたしが), 'wannee (わたしは), 'wannin (わたしも), 'waa-(わたしの) など。また、一人称単数の人称代名詞には、性別・敬語などによる区別はない。複数は 'waqtaa. ~du 'jaru. わたしである。'waga ?icun. わたしが行く。'wannee ?ikan. わたしは行かない。'wannin. わたしも。'wanninkain. わたしにも。

- 'wan① (名) [文?・新?] 湾。'wantuguci, kuwan, Yuuwan などの海岸の地名はある。
- 'wan① (名) 椀。
- 'wanbaa① (名) 'wanbuu (顔の大きい者)の卑称。
- 'wanbuu① (名) 食器の名。深い鉢。どんぶりの大きな物。料理の際、麦粉をとかしてこねたり、あえものを作ったりするなど、用途が多い。ボールの用をする焼き物。
- 'wanbuu① (名) 'wanbuu (料理用の鉢)のように顔の大きい者。'wanbaa ともいう。
- 'wanamee=juN① (他 =raN, =ti) 弁償する。与えた損害を償う。古語「わきまふ」(つぐなり)と関係ある語か。
- 'wanda=juN① (他 =aN, =raN, =ti) ⊖世話をする。面倒を見る。尽くす。多く、年長者の面倒を見るのにいう。'wandaarijun. 世話になる。厄介になる。⊖祖先の祭祀を受け持つ。
- 'wankuru① (副) わたし自身で。わたしが自分で。-kuru は英語の -self に似た接尾辞。qcoo tanumaN gutu ~ sjun. 人を頼まないようにわたし自身です。~ çukuteeši. わたしが自分で作ったもの。
- 'wankuruhuu① (名) 自己流。
- 'wanwan① (名) [新?] 犬の小児語。わんわん。ciicaa ともいう。
- 'waqkwa=sjun① (他 =saN, =ci) ときほぐす。分解する。ばらばらにする。
- 'waqkwi=juN① (自 =raN, =ti) 分解する。ほぐれる。ばらばらにこわれる。karazinu ~. 髪がとけて乱れる。
- 'waqpu① (名) 'waihu と同じ。
- 'waqpu① (名) 費用などの割り当て。
- 'waqsa① (名) わび。謝罪。あやまること。~ sjun. あやまる。~ ?unnjukiree. おわびを申しあげろ。~ sjuraa 'jurusjusa. あやまるなら、許してやるよ。
- 'waqsaN① (形) 悪い。性質・品質などが悪い。また、正しくない。'janasan および 'jana- の項参照。deenu 'jaqsaree sinan ~. 値が安ければ品も悪い。'waaga ~. わたしが悪い(あやまるときのことば)。
- 'waqtaa① (名) ⊖わたしたち。われら。われわれ。話し相手を含めた意も、含めない意もある一人称複数。⊖わが家。わたしの家。~ Nkai ?ikani. わたしの家へ行かないか。⊖(接頭)わたしたちの。われわれの。'waqtaahara. (わたしたちの親類)
- 'waqtaakuru① (副) われわれで。自分たちで。~ sjaabiisa. 自分たちでやりますよ。
- 'waqtuka=sjun① (自 =saN, =ci) わっと言う。わっと人を驚かす。また、わっと泣き出す。
- 'wara① (名) わら(葉)。
- 'waraaraNwaree① (名) 笑えないのを無理に笑った笑い。しいて笑うこと。
- 'warabaa① (名) 子供('warabi)の卑称。
- 'warabaakurusjaa① (名) 子供をいじめる者。那覇の人や平民が使う。上品には 'warabisiçikijaa という。
- 'warabee① (名) わら灰。
- 'warabi① (名) 子供。おとな (?uhuqcu) に対する子供。親に対する子は qkwa. ~ şikasjunnee. 子供をあやしすかすように。~ naikeejun. 子供になりかえる。老いてふたたび子供のようになることにいう。
- 'warabi① (名) 植物名。わらび。
- 'warabi?açikee① (名) 子供扱い。子供のように軽く遇すること。
- 'warabidusi① (名) 幼友だち。幼なじみ。
- 'warabigami① (名) 神のように天心らんまん子供。子供をほめたたえたことば。
- 'warabigwii① (名) 子供の声。
- 'warabii① (名) わらを燃やした火。わら火。
- 'warabinaa① (名) nanui (貴族・士族の元服の時につける名) に対して、子供の時か

warabinaci

らの名。わらべ名。幼名。

warabinaci①(名) 子供の泣き方。子供のよりに大声で泣くこと。

warabiNcaa①(名) 子供たち。

warabiNcaafooe①(名) 子供のけんか。
~kara ʔuhuquʔooee najuN. 子供同志のけんかから、おとなのけんかになる。

warabisiçikijaa①(名) 子供をいじめる者。上品な語で、乱暴には 'warabaakurusjaa という。

warabizimu①(名) 子供ごころ。幼ごころ。童心。

waraçina①(名) わら繩。

waradoosi①*(名) 紙の一種。わら製の薄い紙で、もっぱら 'ncabi (その項参照) に用いるもの。ʔucikabi ともいう。

waraguçi①*(名) [新] わらじ。'warazi よりも古い借用語。

wara=juN①(他 =aN, =ti) ㊦笑う。㊦嘲笑する。qcu ~. 人を嘲笑する。

warasaba①(名) わらの芯で作った草履。稲の穂の実らぬ前の芯で作ったもので、きわめて高価。王のみが用いる。

warasibi①(名) わらしべ。わらの芯。

warasiNbuu①(名) わらしべのひも。ひもに使うわら。~saani kunzuN. わらで縛る。

warasiNbuuʔuubi①(名) わらで作った帯。

waraçaa①(名) わらのたわし。

warazi①(名) [新] わらじ。もと、わらじは無かった。'waraguçi ともいう。

waraziçiN①(名) わら包み。わらづと。農民が肉などを包んでよそへ行く時などに使う。

wareebanasi①(名) 笑い話。こっけいな話。冗談。teehwa ともいう。ʔuree ~du 'jaee sani. 冗談ではないか。まじめな話か。

wareegau①(名) 笑い顔。えがお。

wareejoo①(名) 笑いよう。笑い様子。

wareekan=zuN①(自 =daN, =ti) にこにこ笑う。えみくずれる。'wan 'Nncakutu kamakara 'wareekanti ʔeeʔee sjutan. わたしを見たら遠くからにこにこして呼びかけたものだ。

wareekuzi=juN①(他 =raN, =ti) 嘲笑する。笑って人を傷つける。

wareemunuu①(名) 笑いもの。嘲笑の対象。~ nasjuN. 笑いものにする。

wareemuunuu①(名) 'wareemunuu と同じ。

warecsiizii①(副) 無理にえがおを作るさま。~ sjun. 無理に笑う。

wari①(名) 割れた物。割れたかけら。

-wari (接尾) 分(ぶ)。100分の1の単位をあらわし、金利についていう。なお、金利は月計算であらわすのが普通。ʔiciwari (1分), niwari (2分) など。

warigaami①(名) ㊦割れがめ。㊦転じて、大酒飲み。

warigani①(名) 割れ鐘。~nu naiNnee. 割れ鐘の鳴るように。蛮声をたとえていう。

wari=juN①(自 =raN, =ti) 割れる。割れてこわれる。割れて分かれる。(団体などが) 割れる。

warimi①(名) 割れ目。割れた所。

warimuN①(名) 割れ物。割れた物。また、割れやすい物。~ 'jakutu 'juu qsi 'joo. 割れ物だから気をつけろよ。

warinaabi①(名) 割れなべ。割れ目のできたなべ。'warigani と同じく、蛮声のたとえに使う。

warumuN①(名) 悪者。悪人。

wasami=cuN①(自 =kaN, =ci) ざわめく。ざわざわ騒ぐ。'Nninu ~. 胸騒ぎする。

wasawasa①(副) がやがや。騒がしいさま。大勢いて騒がしいさま。'warabiNcaaga ~ sjuoN. 子供たちががやがや騒い

- でいる。
- 'waši=jun① (他 =ran, =ti) 忘れる。'waširaran. 忘れられない。
- 'wasinutui① (名) わし。鳥の名。
- 'wasita① (名) [文] われら。われわれ。力んで言う時などに使う。～nišetaga. われら青年が。
- 'wata① (名) ㊦腹。～nu 'janun. 腹が痛い。～sagujun. 腹をさぐる。～kuzijun. 故意に、人を怒らせるようなことを言う。腹をくじる意。～nu kamirarijun. 腹が突き上げられるようにはげしく痛む。～hwinarasjun. 腹を減らす。運動などをして腹ごなしをする。～mugeejun. 腹がにえくりかえる。非常に立腹する。～'uuiNcun. 腹ごなしをする。大食したあとなど、立って歩いて腹を減らす。'uujun はゆり動かす。㊦はらわた。腸。動物などのそれをいう。'watamiimuN ともいう。
- 'wata① (名) 綿。
- 'watabinai① (名) 腹が減ること。-binai<hwinajun (減る)。naada ~N san. まだ腹も減らない。
- 'watabonbon① (副) 腹がだぶだぶ。水分で腹がだぶだぶしているさま。caa ?uhooku nudi ~ sjoon. 茶をたくさん飲んで、腹がだぶだぶだ。
- 'watabutaa① (名) 腹が大きい者 (単称)。
- 'watabutu① (名) 腹の単称。また、腹の小児語。qecunu meeuti ~ hati. 人の前で腹を出して。
- 'watadee① (名) 腹持ち。食べたあとで腹が減りにくい食物の質。～nu ?an. 腹持ちがよい。もちなどについていう。
- 'watagukuci① (名) 腹ぐあい。haragukuci ともいう。
- 'watagurisjan① (形) 惜しくて思い切れない。非常に残念である。後悔してほぞをかむ。あきらめきれない。
- 'watagwaa① (名) 小腸。?uhuwata (大腸) に対する。
- 'watahuqkwii① (名) 腹が張ること。食い過ぎなどで、腹がふくれること。
- 'wata?iri① (名) 綿入れ。冬に着る、綿を入れた着物。
- 'watai① (名) 渡り。渡る所。ちょっとした渡し場。
- 'wata=jun① (自 =ran, =ti) ㊦渡る。一方から他方へ渡って移る。㊦(物が人に) 渡る。ziqcuunu ~. 月給が渡る。
- 'watakusi① (名) ㊦私事。'watakusigutu と同じ。㊦へそくり。婦人などがわたくしに貯えた金。
- 'watakusigutu① (名) 私事。
- 'watamasi① (名) お引越し。御転宅。引越しの敬語。さらに上の敬語は ?waatamasi。
- 'watamiimu'N① (名) 内臓。はらわた。臓物。
- 'watanakara① (名) 腹半分。腹半分食うこと。nakarawata ともいう。nizirii tiicee ~du 'jaru. おむすび一つでは腹半分しかない。
- 'watanumii① (名) 腹一杯。～kanun. 腹一杯食べる。
- 'wataNsu① (名) 'wataziN (冬の礼服) の敬語。貴族の冬の礼服をいう。'Nsu (みそ) は cin (きぬ) の敬語。
- 'wataNzi① (名) ㊦渡し場。渡船場。㊦[渡地] 那覇にあった遊郭の名。いなか相手の下等な遊郭であった。'watanzizurigwanu çirinasá 'ja, susuciribakamani kata?utiziN cici 'janbarubuni kajujusa 'jaa. 渡地女郎のあわれさまよ。すその切れたはかまに、肩のおちた着物を着て、山原舟に(船乗りめあてに)通うよ。
- 'watasibuni① (名) 渡し舟。
- 'wata=sjun① (他 =san, =ci) ㊦渡す。一方から他方へ渡らせる。㊦渡す。かけ渡す。㊦(人に物を) 渡す。tima ~. 手間賃を

'wataʔuci

渡す。

'wataʔuci① (名) 綿打ち。綿を打つこと。

また、綿を打つ人。また、その道具。

'wataʔuci② (名) 腹の中。腹の中の考え。

'wataʔucee 'wakaran. 腹の中はわからない。

'wataʔuhusan① (形) 腹いっぱいである。

食べ過ぎて腹が張っている。'wataʔuhwisan ともいう。

'wataʔuhwisan② (形) 'wataʔuhusan と同じ。

'watawataatu① (副) 親しく。腹の底をうちあけて。

'watazin① (名) 冬の礼服。男女用。bin-gatawatazin, tizimawatazin, manwatazin, siragawatazin, rinziwatazin, dunsiwatazin など、柄や布地によって多くの種類があり、身分・性別・年齢によって着用の制限があった。

'wauwau① (副) わんわん。犬の鳴き声。

'wauwau② (名) 犬の小児語。わんわん。

'waza① (名) 仕事。職業。nuunu ~ sjuga. 何の職業か。~ ʔusinajun. 失業する。

'wazami① (名) ①しわ。cinnu ~ nooʃee. 着物のしわを直せ。②顔などのしわ。また、しかめっつら。泣いた時の顔のしわなど。qcunu ʔmensjooooru mun ~ N nooʃee. 人が見えているのに、しかめっつらはよしなさい。

'wazami=jun② (他 =ran, =ti) ①しわを寄せる。②顔をしかめる。

'waza=nuN① (自 =man, =di) ①しわが寄る。しわになる。cinnu 'wazadon. 着物がしわになっている。②顔などにしわがよる。しかめっつらになる。miinu gibinu ~. 目じりにしわが寄る。

'wazankaa① (副) 顔をしかめるさま。~ sjoon. しかめっつらをしている。

'wazaqtu① (副) わざと。故意に。'wazaqtu ともいう。

'wazatu① (副) わざと。故意に。'wazaqtu ともいう。

'wazawaza① (副) わざわざ。ʔicunasaru mun ~ qci kwiti. 忙しいのにわざわざ来てくれて。ʔjantin ʃinuru mun ~ ʔiiʔnzaci. 言わなくてもすむのに、わざわざ言い出して。

'wazawee① (名) わざわい。災難。~nu mutu. わざわいのもと。

'wazi=jun① (自 =ran, =ti) ①沸く。沸騰する。②腹を立てる。憤慨する。'waziwazii sjoon. まさに怒りが発せんとしている。

'wazimu① (名) [文] わが心。口語では単に cimú ということが多い。

'wazirigaara① (名) ①後世に入ってはじめに渡る、熱湯のわき立つ川。三途の川にあたるもの。②首里の円覚寺にある hoo-sjooʔici [放生池]の俗称。

'weewee① (副) おいおい。わあわあ。声をあげて泣くさま。~ nacun. おいおい泣く。

'wigeenee① kanaan① (句) 'jugeenee kanaan と同じ。

'wii① (名) 酔い。~nu samatikara ʔikee. 酔いがさめてから行け。

'wii② (名) [文] 甥。

'wii③ (名) 柄(え)。おの・ほうちょうなどの柄。

'wiibacino'ori① (副) むかむかするさま。吐き気を催すこと。~ sjun.

'wiiba=cun① (自 =kan, =ci) むかつく。吐き気を催す。

'wiigoomuN① (名) ①えぐいもの。えがらっぽいもの。② [古] 毒のあるもの。毒物。

'wiigoosaN① (形) ①えぐい。えがらっぽい。食べるとのどを強く刺激する味をいう。②(皮膚が)かゆい。

'wiigu=jun② (他 =ran, =ti) えぐる。

'wiigukuci④ (名) 酔いごころ。酔った気分。
 'wiigusi④ (名) 酒癖。酒に酔った時に出る癖。
 'wiihuri=jun④ (自 =raN, =ti) 酔いしれる。酔って正体を失う。
 'wii=jun④ (自 =raN, =ti) 酒・船などに酔う。saki nudi ~. 酒を飲んで酔う。「酒に (sakini, sakin kai) 酔う」とは言わない。
 'wiikurubi④ (名) 酔いつぶれて寝ること。酔い倒れ。
 'wiimuN④ (名) 毒のあるもの。毒物。
 'wiimuNhuri'mun④ (名) 酔っぱらいの気違い。酔っぱらいを気違い (hurimuN) と同じと見なしていった語。
 'wiinaci④ (名) 酔い泣き。酒に酔って泣くこと。
 'wiiniNzi④ (名) 酔いつぶれて寝ること。
 'wiikurubi ともいう。
 'wiiQkwa④ (名) 甥。
 'wiiri④ (名) ⊖(着物の) えり。⊖えりかたあき。着物にえりを付けるために、肩の部分を切りひらいたところ。
 'wiiru④ (名) ひも。よって作ったひも。~ hwinijun. ひもをよる。
 'wiiruunaci④ (名) めそめそ泣くこと。だらだらといつまでも泣くこと。
 'wiisamasi④ (名) 酔いざまし。酔をさまざま飲み物など。namakugasi (米をすりつぶして水にといたもの) が有効だとされる。
 'wikiga④ (名) 男。'wikigaa tin, 'winagoo zii. 男は天, 女は地。男尊女卑の思想をあらわしたことば。~nu kutubaa sjuumuNgaa. 男のことばは証文がわり。男子の一言金鉄より堅し。
 'wikigagwii④ (名) 男の声。男声。
 'wikigahuuzi④ (名) 男のなり。男としての姿。
 'wikigahuuzii④ (名) 男のような女。'uu-

winagu ともいう。

'wikigahwa'ahuzi④ (名) 祖父。
 'wikigajagusami④ (名) 男やもめ。
 'wikigamasai④ (名) 男まさり。女丈夫。
 'wikiganuɔuja④ (名) 男の親。父親。
 'wikigangwa④ (名) 男の子。
 'wikigaraasjan④ (形) 男らしい。
 'wikigašiz̄a④ (名) 兄。
 'wikigasitu④ (名) しゅうと。夫の父親。
 'wikigasugai④ (名) 男装。女のする男装。
 'wikigaɔuja④ (名) 男親。父親。
 'wikigaɔuqtu④ (名) 弟。
 'wikigawarabi④ (名) 男の子。男の子供。
 'wikii④ (名) [あけり] 姉妹から見た兄弟。姉または妹から見た, 兄または弟。'unai の対。
 'wikiiɔukudi④ (名) 男神をまつる ɔukudi (その項参照)。一門中の男の神をつかさどる女の神官。
 'winagu④ (名) 女。~nu hatiree zaa najun. 女は果ては蛇になる。女の執念深さをいったもの。'winagoo ɔikusanu sacibai. 女はいくさのさきがけ。いざという時の女の勇気をいったもの。
 'winaguda'ci④ (名) 女世帯。女立ちの意。
 'winagugwii④ (名) 女の声。女声。
 'winaguha'qtu④ (名) [女法度] 女人禁制。
 'winaguhuzi④ (名) 女のなり。女としての姿。
 'winaguhuzii④ (名) 女のような男。
 'winaguhwa'ahuzi④ (名) 祖母。
 'winagukaçimijaa④ (名) 女たらし。色魔。女をつかまえる者の意。
 'winagumi④ (名) [文] 女の身。
 'winagumuçiri④ (名) 女とむつまじくすること。女色におぼれること。女狂い。
 'winagunuka'ta④ (名) 里方。姻戚。外戚。tuzikata, hwahwakata ともいう。
 'winagunuɔuja④ (名) 女の親。母親。

'winagunnuusi

'winagunuusi① (名) 女主人。多くは、男主人がいない場合の女主人をいう。

'winaguNgwa① (名) ⊖女の子。娘。ことに未婚の若い女。⊖娘。親に対する娘。Paree maanu ~ga. あれほどこの家の娘か。

'winaguraasjan① (名) 女らしい。しとやかである。女についていう。

'winaguſiiza① (名) 姉。

'winaguſikasjaa① (名) 女たらし。女をだます者。

'winagusitu① (名) しゅうとめ。夫の母親。

'winagusugai① (名) 女装。男のする女装。

'winaguſuja① (名) 女親。母親。

'winaguſuqtu① (名) 妹。

'winaguſutusjaa① (名) 女たらし。女を落とす者の意。

'winaguudui① (名) [女踊] 踊りの一種。踊り手が士族の女の服装をして踊る。

'winaguugari① (名) 女に飢えること。女ひでり。

'winaguwarabi① (名) 女の子。女の子供。

'winaguwa'rabi① (名) 女子供。婦女子。

'wiNca=jun① (自 =raN, =ti) うすぎたなくなる。うすよごれる。着物・水・洗い物などについていう。

'wiNgwii① (名) 酒に酔って暴れまわること。

'wiNturukaasjan① (形) 食べるとむかつく。食べたあと味が悪い。脂の濃いものがいたみかけた時の味をいう。

'wiQcaa① (名) 酔っぱらい。酔漢。のんだくれ。'wiQcuu ('wiQcu の卑語) をさらに悪く言った語。

'wiQcu① (名) 酒に酔った人。

'wiQcuu① (名) 酒に酔った者。酔っぱらい。酒に入りびたっている者。のんだくれ。'wiQcu の卑語。

zaa① (名) 蛇(じゃ)。次のような場合にいう。'winagunu hatiree ~ najun. 女は果ては蛇となる。女の執念深さをいったもの。hatiree は命がけになればの意。
zaa② (名) ㊦座。人のすわる席。~ tujun. 席をとる。㊦地位。役職。ポスト。㊦(廃藩前の)役所。ʔuza の項参照。㊦座敷。部屋。
zaa③ (名) 座安。《地》参照。
zaagamee④ (名) 部屋の構え。部屋の中の道具などの配置など。
zaagaru⑤ (名) 粘土質の黒土。畑などにある黒土。赤土は maazi という。
zahaneekijaa⑥ (名) 座をにぎやかにする者。
zahwa⑦ (名) 座波。《地》参照。
zahwee⑧ (名) しまつにおえないこと。めっちゃめっちゃ。また、乱暴なこと。荒荒しいこと。~na mun. もて余し者。~ natooN. (物事が)しまつにおえなくなっている。
zahweegutu⑨ (名) しまつにおえない事。困った事。やっかいな事。
zahweemuN⑩ (名) 乱暴者。ならず者。しまつにおえない者。
zahweetii'hwee⑪ (名) 乱暴狼籍。~ sjuN.
zaana⑫ (名) 迷うこと。途方に暮れること。また、道に迷うこと。まい子になること。mici ~ najun. 道に迷う。まい子になる。
zaamatiima⑬ (名) 散散迷うこと。途方に暮れること。また、散散道に迷うこと。~nu ʔuhusan. 途方に暮れることが多い。~ sjuN.
zaamca⑭ (名) 座をもたせる者。一座を

にぎやかにする陽気な人。
zaaN⑮ **neeN**⑯ (句) 人の言を気にしない。他人のおもわくをかえりみない。座をわきまえない。平気である。よい意にも悪い意にも使う。zaa は座の意か。~ qcu. 人を気にしない人。~ sikata. 人をかえりみないやり方。~, taameeutin ʔuciʔucinu kutu hanasi qsi. 座をわきまえない、誰の前でもうちうちの事を話して。
zaasi⑰ (名) 「座主」の意。和尚。住職。一山の長である僧。
zaasinumee⑱ (名) 和尚様。住職様。
zacimi⑲ (名) 座喜味。《地》参照。
zahwana⑳ (名) 謝花。《地》参照。
zahwibai㉑ (名) 蛇皮張りの三味線(sansin)。沖縄の三味線中、上等のものである。蛇皮線とはいわない。
zakoo㉒ (名) 麝香(じゃこう)。~nu kaza. 麝香の香り。
zakura㉓ (名) 植物名。ざくろ。
zama㉔ (名) 邪魔。さまたげ。
zama㉕ (名) ざま。見たようす。zamaa neen. 見苦しい。
zamaui㉖ (名) うろたえること。狼狽。とまどうこと。~ sjuN.
zamauikaa㉗ (名) zamauikaaui と同じ。
zamauikaa'dui㉘ (名) 大いにうろたえること。大狼狽。大にとまどうこと。~nu ʔuhusan. 大いにうろたえることが多い。~ sjuN.
zamu=jun㉙ (自 =ran, =ti) うろたえる。狼狽する。とまどう。
zamami㉚ (名) 座間味島。慶良間列島(kirama)の島の名。また、座間味。《地》参照。

zamazamaa① neen① (句) 数限りない。
無数である。zamazamaa neeran ŷiini.
無数の夢。

zana① (名) 謝名。《地》参照。

zanadoo① (名) 謝名堂。《地》参照。

zan① (名) zannuŷiju と同じ。

zan① (名) 諷。諷言。

zanmee① (名) 作法。礼儀。～nu neeran.
作法を知らない。

zanNiin① (名) 残念。kucuusija ～。[口借
しや残念] 口借しや残念。～na kutu.
残念なこと。

zanNuŷiju① (名) 海獣の名。儒長(じゅご
ん)。人魚。ŷakangwaaŷijuともいう。

zanpamiŷaci① (名) 残波岬。沖縄本島西
海岸にある岬。

zaqkuku① (名) [文] 雑穀。

zaqpi① (名) [新] 雑費。以前は zoociku-
ri といった。

zaqtu① (副) ざっと。簡略に。大ざっぱに。
～'juŷi 'NNcee. ざっと読んで見ろ。

zaqtuu① (名) 飾り気のない人。動作が気
軽でとりつくろわぬ人。あっさりした人。
さっぱりした人。

zari=juN① (自 =ran, =ti) ざれる。下品に
なまめかしく飾る。また卑猥なたわむれか
たをする。

zarikutuba① (名) 卑猥なことは。ざれ
言。

zasici① (名) ⊖座敷。部屋。⊖寝間。寝室。
⊖寝床。～sjun. 床をとる。

zasicidoogu① (名) 寝具。夜具

zasicisjuu① (名) 本官にならない役人。補。
やとい。

zazici① (名) 謝敷。《地》参照。

zee① (名) 采。采配。大将がさしず用い
たもの。

zeebaN① (名) [在番] 宮古、八重山などの
先島の kuramutu [蔵元] に勤務し、土
地の行政を監督した役人。その土地の人は

zeebaNnumee と敬って呼んだ。首里から
単身で出かけ、任期が数年にわたるので、
めかけ (ŷujaŷanmaa) を持つようにな
り、任期を終えて首里に帰る際に、離別の
悲劇となるが多かった。

zeegi① (名) [材木] 銘木。床柱などに使
う材木。

zeemuku① (名) 材木。

zeerikweeri① (副) 無益なおしゃべりのさ
ま。ぺちゃくちゃ。～munu 'junun. ペ
ちゃくちゃしゃべる。

zibaN① (名) 襦袢(じゅばん)。

zibaqtu① (副) ぎっしり。容器などにすき
まなくはいったさま。～ŷiqoon. ぎっ
しりはいつている。

zibita① (連体) 下卑た。下品な。卑しい。
わいせつな。また、けちな。

zibuku① (名) 地固め。家の基礎の地盤を
胴突きなどで固めること。～niijun. 地
固めをする。

zibun① (名) [文] 自分。口語は áuu。

zibun① (名) ⊖時。時刻。時間。～na-
toon. 時間になった。naa zibunoo ŷa-
rani. もう時間ではないか。⊖(接尾) 時
分。頃。'juçizibun (四つ時分。午前午後
の10時ごろ) など。

zicasi① (名) しらみの卵。

ziçi① (名) 実(じつ)。まこと。本当。文語
的な語。ziçee. 実は。～nu kutu ŷii. 本
当のことを言え。

ziçiŷin① (名) 実印。登録した印。また ŷii-
biban (搦印) にもいう。

zidee① (名) [下代] ŷuáun [御殿], tunci
[殿内] の家で、会計その他の雑務をする
使用人。suucici [惣聞] の下に属する。

ziganee① (名) 地代。借地料。主として耕
地のそれをいう。

ziguku① (名) 地獄。

zihwi① ⊖(副) ぜひ。必ず。きつと。～
qci kwiri 'joo. ぜひ来てくれよ。⊖(名)

[文]是非。正邪。善悪。～'wakasjun.
善悪を判断する。

zihwineemun①(名)是非ないもの。しかたのないこと。

zii①(名)地。土地。地面。陸地。地所。領地。～nu ?ukami. 地の神。地面・地所をつかさどる神様。屋敷には四隅と中央と不動(便所)の地の神があり、墓地には左右両側に地の神が祭られている。

zii①(名)㊦字。文字。㊦筆跡。kuree taaziiga. これは誰の書いた字か。

zii①(名)㊦髓。骨の髓。また、骨の中の中空の部分。㊦植物の茎、幹の中空の部分。dakinu ~. 竹の幹の中空の部分。

zii①(名)義。正義。正しいこと。

zii①(名)痔。

zii?anda①(名)骨の髓にある油。

ziibira①(名)ねぎ。zii は中空の意。単に bira ともいう。ciribira (にら)と区別している語。

ziibu①(名)㊦わらで作った網の袋。㊦馬の口にかける袋。農作物を食うことを防ぐためのもの。

ziibu①(名)宜保。《地》参照。

ziibudunci①(名)[儀保殿内] sjuimitunci [首里三殿内] の一つ。西之平等(nisinhwira) の ?amu:sirare [あもしられ] のいる神の宮。

ziibuneei①(名)(船酔いした者が)陸に上がってからも地が揺れる心地がしてふらつくこと。～sjun.

ziibun①(副)[随分]大いに。あくまで。存分。?jaakutu 'jaraa ~ sjusa. 君のためならあくまでやるよ。

ziigasira①(名)[地頭]首里の muragasira (その項参照)。

ziiguhwaa①(名)気むずかしや。無愛想者。強情者。木強(きごわ)と似た語。

ziigui①(名)不平。munnu ~ sjun. 食べ物の不平を言う。

ziiguihjaagui①(名)不平ばかり言うこと。不平たらたら。～nu ?uhusan. 不平が多い。

ziiguimuN①(名)不平ばかり言う者。

ziigujaa①(名)ziiguimuNと同じ。

ziigusi①(名)ziiguusiと同じ。

ziiguusi①(名)地串の意。畑泥棒を防ぐためにすいか畑などに立てておく、先のがった竹のくし。gusi ともいう。

ziihuzi①(名)事よしあし。是非。して良いこと悪いこと。～N 'wakaran. よしあしもわからない。

ziihwaa①(名)㊦かんざし。女が用いる。kuganzizihwaa (金製。王妃・王女用)、nanzazihwaa (銀製。士族女子用)、cizakuzihwaa (真鍮製。平民女子用)、dakizihwaa (竹製。喪中用)その他がある。㊦三味線のねじ。形がかんざしに似ているのでいう。mudi, karakui ともいう。

ziihwici①(名)字引。辞書。

ziikaci①(名)書家。書のとくみな人。

ziikašitira①(名)菓子の名。カステラ的一种。黒砂糖を入れて作るので色が黒い。

ziikazi①(名)聞き分け。ものわかり。～N cikan. 聞き分けがない。親のいうことを聞かない。～N neen ともいう。

ziikwaakwa①(副)顔が地面すれすれになるさま。腰のひどく曲がった老人の歩き方などにいう。地食おう食おうの意。

ziima①(名)つつじ科の植物の名。実を子供が取って食べる。

ziima①(名)儀間。《地》参照。

ziimaami①(名)落花生。南京豆。地豆の意。

ziimee①(名)地米。本土産の米をいう。もと'jamatuncu の語。toogumi (外米)、simagumi (沖繩産米)に対する。

ziinaa①(名)ほたる。

ziinaabii①(名)ほたる火。文語では hutarubi という。

ziinunnuusi

- ziinunnuusi⑩ (名) 地主。
 ziinuu⑩ (名) zin (錢)の小兒語。
 ziinuu⑩ (名) ㊦芸能。音楽・舞踊その他の芸。㊦転じて、子供の芸。
 ziinumuci⑩ (名) 芸達者の人。多芸の人。
 ziineu⑩ (名) 地の人の意。その土地に住み、土地の配分を受けて耕作する人。百姓。
 ziinziin⑩ (名) ほたる (ziinaa)の小兒語。
 ziiru⑩ (名) [地炉] ㊦炉。㊦出産後一週間昼夜の別なく火をたき、産婦に暖をとらせた炉。保温のほか、けがれを清める信仰もあって、夏でも盛んに火をたいた。～ nukunun. 地炉をたいて産婦に暖をとらせる。
 ziisasi⑩ (名) 字指(じさし)。子供などが三字経・小学など漢籍を習って読む時、字をさすのに用いる細い竹製の道具。
 ziisiga'ami⑩ (名) [厨子甕] 遺骨を納めるかめ。骨つぼ。骨がめ。
 ziiʔutec⑩ (名) 地謡。沖縄の組踊りや舞踊では地謡は舞台には出ない。
 ziiwaziiwa⑩ (名) せみの一種。夏の終わりから秋にかけて鳴く小さいせみ。鳴き声によってつけた名。
 ziizaa⑩ (名) ziiwaziiwa (せみの一種)の小兒語。
 ziizii⑩ (副) よだれを流すさま。だらだら。'judai ~ sjun. よだれをだらだら流す。
 ziizira⑩ (名) ㊦模様。形。字づらの転意か。hurukoo natoosiga, nama ziiziraa 'wakaisee. 古くはなっているが、まだ何の模様かはわかるのさ。㊦道理。～N 'wakaran munuʔiikata. 道理のわからぬ口のききかた。
 zijuu⑩ (名) 自由。意のまま。思いどおり。'wadujacōN 'wadunu ziju naraN si-keni, ʔariju ʔuramijuru 'jusinu ʔaru. [わどやちやりもわどの 自由ならぬ世界に あれよ恨めゆる 由のあるゑ] 自分自身でさえ自分の自由にならない世の

- 中で、彼女を恨むわけがあるか。～ni najun. 思いどおりになる。～ naraN. 思いどおりにならない。～nu neeraN. 自由がない。
 zikaN① (名) [新] 時間。普通は tuci という。～nu ʔa. 時間が決まっている。決められた時間がある。
 zikiraN① (名) 瑞慶覧。(地) 参照。
 zikoo① (副) ひどく。非常に。えらく。ばかに。ʔiqpee (たいそう)の意で平民が多くいう語。～ curasan. ひどくきれいだ。～ hweeku ʔaqcun. とても早く歩く。連体詞のようにしても用いる。～ munuju-naa. ひどいおしゃべりな者。
 zikuzikuu⑩ (名) 植物名。さふらんもどき。ひがんばな科の多年生草木。鑑賞用。
 zimama① (名) 自まま。わがまま。
 zimanaa① (名) よく自慢する者。自慢ばかりする者。
 zimaN① (名) 自慢。
 zinaN① (名) 次男。
 ziniN① (名) 下男。下人。
 zinoon① (名) 宜野湾。(地) 参照。
 zinu① (連体) どの。～ 'jaaga, どの家か。
 zinuQcu① (名) どの人。
 zinuza① (名) 宜野座。(地) 参照。
 ziN① (名) 錢。かね。金銭。貨幣。庭藩前の鳩の目錢50文(50枚)が寛永錢1枚(1厘)に相当した。そこで錢の数え方は次のようであった。
 gunzuu 50文(1厘)
 hjaaku (cukumui) 100文(2厘)
 hjaakugunzuu (cukumuigunzuu) 150文(3厘)
 nihjaaku (takumui) 200文(4厘)
 nihjaakugunzuu (takumuigunzuu) 250文(5厘)
 sanbjaku (mikumui) 300文(6厘)
 sanbjakugunzuu (mikumuigunzuu) 350文(7厘)

sipjaaku ('jukumui) 400文(8厘)
 sipjaakugunZuu ('jukumuigunZuu)
 450文(9厘)
 guhjaaku (ʔicikumui) 500文(1銭)
 guhjaakugunZuu (ʔicikumuigun-
 zuu) 550文(1銭1厘)
 ruqpjaku (mukumui) 600文(1銭2厘)
 ruqpjakugunZuu (mukumuigun-
 zuu) 650文(1銭3厘)
 sichjaku(nanakumui) 700文(1銭4厘)
 sichjakugunZuu (nanakumuigun-
 zuu) 750文(1銭5厘)
 haqpjaku ('jakumui) 800文(1銭6厘)
 haqpjakugunZuu ('jakumuigunZuu)
 850文(1銭7厘)
 kuhjaaku (kukunukumui)
 900文(1銭8厘)
 kuhjaakugunZuu (kukunukumui-
 gunZuu) 950文(1銭9厘)
 ʔiqkwan 1貫(2銭)
 gukwan 5貫(10銭)
 tunaa 10貫(十繩)(20銭)
 hjaqkwan 100貫(2円)
 singwan 1,000貫(20円)
 ʔicimangwan 10,000貫(200円)
 zuumangwan 100,000貫(2,000円)
 hjakumangwan 1,000,000貫(20,000円)
 100文(2厘)単位を -kumui という。-ku-
 mui は集まったものの意かと思われる。
 また、1貫ずつ一繩にまとめ、10貫を tu-
 naa (十繩) という。当時、一日の労賃は
 1貫(2銭)、女郎の玉代は5貫(10銭)ほ
 どで、100万貫(2万円)の金ができると百
 万長者の祝いをした。ʔicinicini gunzu
 hjakunicini gukwan, tamiti ʔaru ~-
 nu ʔadani natasa. [一日に五十 百日
 に五貫 貯めてある銭の あだになたさ]
 一日に1厘、百日で10銭、貯めてあった金
 が、一夜の女郎買いでなくなったよ。zi-
 noo takara. 銭は宝。zinoo nanduru-

muN. 銭はすべっこいもの。銭はつかまえ
 にくく、失いやすいもの。~nu sanmin.
 金の計算。~tu nucee sajuu. 銭と命は
 左右。銭と命の価値は同等。

zin①(名)膳。普通は ʔuzin という。普
 通のものは四角い足の高いものであるが、
 そのほかに 'jasikuzin (夜食膳。足が短
 い), maruʔuzin (丸い膳) などがある。

zinʔami②(名)銭の雨。大散財。~hura-
 sjun. 大散財をする。

zinbai①(名)一杯。満ちあふれているこ
 と。平民が多く用いる語。zinbai, zunbai
 ともいう。kaaminakai sakinu ~ sjoon.
 かめに酒が一杯ある。ʔanu 'jaaja
 qcunu ~ sjoon. あの家は人が一杯いる。
 ʔanu ʔnmanu niija ~ doo. あの馬の荷
 はあれで一杯だ。zinbakunakai ~nu
 zin. 銭箱に一杯の銭。

zinbai②(名) zinbai, zunbai と同じ。

zinbainii③(名) いっぱいの荷物。かつげ
 だけの荷物。

zinbaku④(名) ⊖銭箱。金を入れておく
 箱。商家には大きい銭箱があった。⊖転じ
 て、顔のよい女郎のこともいう。ドル箱。

zinbuku⑤(名)元服。貴族についていう。
 貴族は15歳までは若衆 ('wakasju) で、
 髪型は ʔusirii (後結いの意) であるが、
 16歳で katakasira [敬警] (その項参照)
 を結って、元服の儀式をあげる。鹿藩後
 も貴族の子弟には明治の中ごろまでこの風
 が見られた。一般の子弟は zinbuku と
 いわず、katakasirajuui といい、貴族より
 早く、8~9歳ごろ行なった。

zinbukuru⑥(名)銭袋。財布。巾着。

zinbuN⑦(名) [存分] 知恵。分別。才能。

zinbuNkusaraa⑧(名)愚物。知恵なし。

知恵(zinbuN)がくさっている者の意。

zinbuNmuci⑨(名)知恵のある者。才能の
 ある者。

zinbuNtakaraa⑩(名)知恵がありすぎる

- 者。多く子供についていう。-takaraa <takarijun (たかる, 集まる)。
- ziNdaari① (名) むだづかい。金をむだに使うこと。cuuja Paritu Yasidi ~ sjan. きょうは彼と遊んでむだづかいした。
- ziNdaka① (名) 金額。銭高の意。
- ziNgi① (名) 植物名。しまたご。もくせい科。その材は用途多く、帆船の滑車などにも使う。
- ziNgunzuu① (名) けちんぼ。守銭奴。銭50文 (1厘) でも借しむ意。
- ziNzirii① (名) 銭入れ。財布。
- ziNzirimi① (名) 金がかかること。出費の多いこと。銭いりめの意。
- ziNka① (名) 源河。《地》参照。
- ziNkani① (名) 金銭。
- ziNkarasjaa① (名) 金貸し。高利貸し。
- ziNkoo① (名) 沈香。香料の名。
- ziNkoo① (名) [新] 銀行。
- ziNkwan① (名) 玄関。土族以上の家にある。
- ziNkwijaa① (名) 金をまき散らす者。やたらに銭をくれる者。それにたかって遊興する者は Yuutikwee (追って食えの意) という。
- ziNmi① (名) ①協議。~ sjuN. 協議する。②吟味。調べただすこと。また、裁判で善悪を調べただすこと。
- ziNmiijaqsa`N① (形) 金回りがよい。暮らしが楽である。金を見やすい意。
- ziNmijaku① (名) [古] [吟味役] 麿藩前の役名。各役所の次官に当たる。
- ziNmookizuku① (名) 金もうけ一点張り。金もうけだけを目的ですること。
- ziNmuci① (名) 金持ち。
- ziNnaa① (名) 銭縄。銭差し。1厘銭の穴に縄を通し、1貫 (2銭) ごとに一縄にまとめたもの。またその細い縄。
- ziNnu① (連体) どの。zinu と同じ。~ 'jaaga. どの家か。
- ziNsitigutu① (名) 銭を捨てるようなこと。浪費。むだづかい。また、むだな出費。
- ziNteesjaa① (名) 浪費する者。やたらに金を使う者。
- ziNtii① (名) ①人柄。'iizintii. (よい人柄) ②本人。当人。hunNin ともいう。~ ja 'jutasami. 本人はよい人間か。
- ziNtoo① (名) 本当。真実。~ 'jami. 本当か。~ na kutu. 本当の事。
- ziNugari① (名) 金に飢えること。
- ziNzaku① (名) 銭気違い。金銭のことに凝り固まった者。
- ziNziira① (名) 金で苦しむこと。Yijun とともに用いる。siira の項参照。~ Yijun. 金銭のことで苦しむ。
- ziNzikee① (名) 金づかい。金の使い方。~ Yarasan. 金づかいが荒い。
- ziNzimai① (名) 金づまり。
- ziNzin① (名) ほたるの小児語。ziinziin と同じ。
- ziNzuu① (名) 嚴重。また、確か。信用できること。~ na qcu. 信用のおける堅い人。
- ziNzuusan① (形) 信用がおける。人間が堅い。確かである。
- ziNqaku① (名) 勢理客。《地》参照。
- ziNqcin① (名) 頭巾。子供がかぶるもの。
- ziNqcuu① (名) [新] 月給。
- ziNqpakuzii① (名) 織物の名。濃い青に黒の縞のあるもの。首縞に近い感じの模様。
- ziNqpi① (名) 真偽。実否。是非。zihwi ともいう。~ 'wakasjun. 真偽を判断する。
- ziNqsi① (名) 宜寿次。《地》参照。
- ziNqtai① (名) ぬかるみ。gweqtai ともいう。~ najun. ぬかるみになる。~ sjoon. ぬかるみである。
- ziNqtaigweqtai① (名) ぬかるみ。~ nu naka tuujun. ぬかるみの中を通る。
- zira① (名) ずうずうしい顔。あつかましい顔。~ najun. ずうずうしくなる。
- ziramii① (名) かまきりの別名。Yiibuuzi-

raaと同じ。ʔisjatuu ʔisjatuu ziramii-gaa, 'juubinu nukuee nuu kwatagaa, ʔakamaamiidu kwataru, danzuga danzuga kusu hwiqcaru. かまきり, かまきり, 昨夜の残りものは何を食ったか。あずきを食った。なるほどそれで下痢したのだ。(童謡)

ziriⓄ (名) 義理。

-**ziri** (接尾) きり。限り。cuuziri (きょう限り), kuriziri (これっきり) など。

ziridatiⓄ (名) 義理立て。義理を立て通すこと。ʔamari murikujaja ~nu ʔuhwi-sa. [余り盛小屋や 義理立ての大きさ(手水之縁)] あまり盛小屋(人名)は義理立てがやかましますぎる。

zirizaNmeeⓄ (名) 義理や作法。

ziruⓄ (名) どれ。~ga ~'jara. どれがどれやら。~din. どれでも。~'jatin. どれであっても。ʔunu ʔucinu ~'jarawan tuti kwiri. そのうちのどれか取ってくれ。~Nkai sjuga 'jaandi ʔumutoon. どれにしようかと思っている。

zisaqtuⓄ (副) ぎっしり。びっしり満ちてつかえたさま。zisiqtu ともいう。~ sjoon. ぎっしりつまっている。~ sacoon. びっしり咲いている。

zisiciⓄ (名) 儀式。おもに、結婚式における杯の取りかわしなどをいう。

zisiqiⓄ (名) ㊦時節。時候。'iizisiqi nattoon. いい時候になった。㊦時機。~ maciʔukijun. 時機を待ち受ける。

zisiiⓄ (名) 時勢。世のなりゆき。

zisiqtuⓄ (副) zisaqtu と同じ。

zitaⓄ (名) 表付きの下駄。普通の下駄は ʔasiza という。

zitzataⓄ (副) じめじめ。しっとり。雨後の道などがしめったさま。~ nattoon. じめじめしている。

ziteeⓄ (名) 辞退。~ sjuN.

zitegwaaⓄ (名) 思わせぶりに辞退すること。

と。内心ほしいが、辞退するふりをするようなことをいう。~ sjoon. 内心に反して辞退のそぶりをしている。

zitooⓄ (名) 種痘。植痘瘡。~ ʔwiijun. 種痘を植える。

zitudeeⓄ (名) [地頭代] 地頭 (zituu) のかわりに、その地頭の采邑すなわち間切 (maziri) を統治する者。中央集権後、地頭は首里に住み、地方の平民の有力者がかわってその間切を統治することになり、zitudee と呼ばれた。のち、明治になって、maziricoo [間切長] という名称に変わった。

zituuⓄ (名) [地頭] 地頭。廃藩前、地方に知行を与えられていた貴族。ʔazizituu [按司地頭], suuzituu [総地頭], 'wacizituu [脇地頭] の三種がある。それらの項参照。

zizakuⓄ (名) 磁石。

ziziⓄ (名) [地下] 沖繩本島。hanari (離島) に対する。

zizikiⓄ (名) 漬け物の一種。大根・瓜類などを酒と砂糖に漬けて作ったもの。奈良漬けに似ている。

ziziriⓄ (名) 茶壺。おもに金属製のものをいうようである。

ziziʔuciⓄ (名) 沖繩本島内。これに対し離島を hanari という。

zizooⓄ (名) 事情。~nu ʔaN. 事情がある。

zizooⓄ (名) 地蔵。地蔵は那覇にあったのでそこの地名となり、zizoomec (地蔵前), zizoodoohu (地蔵豆腐) などができた。

zooⓄ (名) 門。'jaazoo (屋根のある門), kiizoo (木造の門), ʔisizoo (石造りの門) などがある。㊦複合語の固有名詞の中には、広い道路、馬場などの意で用いられている。ʔajazoo (首里の守礼門と中山門の間の大通り), kuhwangwazoo (古波蔵の

- 馬場), 'wanamazoo (和那真の馬場) など。
- zoo① (名) 手紙。書状。普通は guzoo という。
- zoo② (名) 栓。とっくり・びんなどの栓。
- zoo③ (名) 情。感情。愛情。
- zoo- (接頭) 上。上等。zoo?waaçici (上天気), zoohwi (吉日), zooci (上等の畑地) など。
- zooba'an④ (名) 門番。以前は首里城はもちろん ?uiuN [御殿], tuNei [殿内] にもいた。
- zoobuN⑤ (名) ⊖じょうぶ。堅固。がんばじょう。～ni çukuraqtoon. じょうぶに作られている。⊖[文] [上分] 立派。申し分のないこと。hataracigataN siguku ~na 'wikiga 'jajabiitaşiga. [働き方も至極上分な男ややべいたすが (花売之縁)] 働き方もいたって申し分のない男でありましたが。
- zooci⑥ (名) 上等の畑地。
- zoocibai⑦ (名) [上気張] 立派な働き。すぐれた働き。
- zooçi'kuri⑧ (名) 雑費。こまごました支出。
- zoeeç⑨ (名) 情愛。
- zoocemuci⑩ (名) 情愛の豊かな人。
- zoogu⑪ (名) じょうご。漏斗。
- zoogu (接尾) 上戸。特定の食べ物を好むこと。…好き。酒に限らずいう。sakizoo-gu (酒好き。上戸), ?aNmucizoogu (あんもち好き) など。
- zooguci⑫ (名) 門口。
- zooguu⑬ (名・接尾) 上戸。特定の食べ物を好む者。…好き。酒に限らずいう。sakinu ~'jan. 酒好きだ。sakizoo-gu (酒好き。上戸), ?aNmucizooguu (あんもち好き) など。
- zoohu⑭ (名) 上布。上等の麻布。宮古島で紺上布, 八重山島で白上布を産する。
- zoohu⑮ (名) 臍腑。臍物。
- zoohwi⑯ (名) [上日] 吉日。顛 (?ugwan)-転居・結婚など, すべて zoohwi を選んでする。
- zoohwita⑰ (名) 不断。始終。いつも。しょっちゅう。～nu kutu. 不断のこと。～kukuritooki. 始終気をつけておけ。
- zooi⑱ (副) (否定的な表現が続く) ととても。とうてい。zooja ともいう。～?u-juban. ととてもおよばない。nama ~'warabidu 'jaru. まだとても子供である。
- zooja⑲ (副) zooi と同じ。
- zoojaci⑳ (名) ろわぐすりをかけて焼いた焼き物。?arajaci (素焼き) の対。陶器。瀬戸物。
- zooama㉑ (名) ⊖規格。規準。標準。また, 規格品。標準となるもの。規準量。⊖(接頭) 規格の。標準の。規準となる。zooama-taagu (標準の桶), zoomawikiga (一人前の男), zoomawinaga (一人前の女) など。
- zoomata'agu㉒ (名) 標準の桶。一人前の男が運ぶのに適当に作った水汲み桶。
- zoonoo㉓ (名) 上納。官府へ物を納めること。また, 転じて租税の意。
- zooruzooru㉔ (副) [新?] ぞろぞろ。あとからあとから続くさま。
- zoosa㉕ (名) 費用。
- zoosaku㉖ (名) 造作。家の中の, 天井・床・建具などを作ること。
- zoosicaa㉗ (名) 下女。台所女中。
- zoosici㉘ (名) [雑色] 炊事。台所仕事。
- zoetaNkaa㉙ (名) 向こう隣。門が向かい合っている家。tankaa は真向かいの意。
- zootuNmjoo㉚ (名) 常燈明。神仏の前に常に点じておく燈明。死後 49 日間つけておく。
- zootuu㉛ (名) 上等。すぐれてよいもの。～na mun. 上等のもの。
- zoo?waaçici㉜ (名) 上天気。快晴。
- zoozi㉝ (名) ⊖上手 (じょうず)。hwita

(下手)の対。～'jan. 上手だ。～namun. 上手な者。◎お利口。幼児をはめる時いう語。

zoozihwi'ta④(名)上手下手。kurinee zozihwitaa neeran. これには上手下手はない。

zuku④(名)遊女でない普通の女。しろうと。

zuku④(名)俗。風俗。時代・土地のならわし。zukoo ~ni nariri. 俗は俗に馴れよ。郷に入れば郷に従え。

-zuku(接尾)…ずく。…にかかりきり。…一点張り。tuizuku(取るにかかりきり), hwitani zinmookizukubikeei(ひたすら金もうけにかかりきり)など。

zukugu④(名)[俗語]俚諺。ことわざ。

-zukun(接尾)…にかかりきりの者。…一点張りの者。tuizukuu「(金を)取ることにかかっている者」など。

zun①(名)◎正常であること。あたりまえ。～natoon. 正常である。zunoo ?aran. あたりまえでない。◎本当であること。正真。?aree ~ni ?urandaa 'jami. 彼は本当に西洋人か。

zunbai④(名)zinbaiと同じ。

zunpuu④(名)順風。

zunŋigata④(名)ありのままの姿。本当の姿。

zun'taku④(名)潤沢。豊かなこと。munoo ~ni kadoon. 飯は存分に食べている。

-zuraku(接尾)-zurasaと同様に用いられる敬語。

-zurasa(接尾)かしこくも(…なさる), 尊くも(…なさる)といった意の最上級の敬語。神に対し?ugwan(祈願)の文句などで使われることが多い。<curasan(美しい)。?wiizikizurasa ?utabimisjooci. 尊くもお言いつけ下さって。?waa-ganŋeezurasa ?utabimisjooci. 尊くもお召し上がり下さって。

zuri④(名)[尾類]女郎。遊女。娼妓。歌も歌い、三味線も弾くので、芸者をも兼ねている。～?agijun. 娼妓を落籍させる。～'jubun. 女郎を買う。女郎遊びをする。女郎屋の入口(nakamee)をたたいて女郎を呼び出すので'jubun(呼ぶ)という。

zuri?agai④(名)もと娼妓であった者。女郎あがり。hun'zuriともいう。

zuri?anmaa④(名)女郎の抱え親。抱え主はすべて女で、娼妓はこれと母子まがいの関係をむすび、それぞれ?anmaa(おかあさん), zuringwa(娼妓としての子)と呼ばれる。satume ?uturusjaja haçii?icenu cujuru, ?anma ?uturusjaja ?asasan 'jusan. 男の恐ろしいのは初夜の一夜だけ、抱え親の恐ろしいのは朝も晩も。

zuri?asibi④(名)女郎遊び。女郎買い。

zuribakujoo④(名)女郎を人身売買する者。

zurigane④(名)◎女郎の身代金。◎女郎買いをして娼家に払うべき金。

zuriguNboo④(名)妓楼を渡り歩いて、方々のzuriを買い歩くこと。略してgunbooともいう。

zurigwaamuqknu④(名)caandakanasii(ひま)の実。美しいのでいう。

zurihana④(名)娼妓。遊女。女郎。zuriを花に見立てて言ったもの。

zurijubaa④(名)女郎買いをする者。

zurijubi④(名)女郎買い。女郎を買うこと。～sakinumi. 女郎を買い、酒を飲むこと。すなわち放蕩。zurin 'jubuŋigadu ?ujanukoN sijuru. sakin numuŋigadu gwansu çizuru. 女郎買いをするぐらいの者こそ親に孝をつくすし、酒も飲むぐらいの者こそ先祖のあとも継ぐのだ(琉歌)。

zurimuçiri④(名)女郎に夢中になること。

zurinujaa④(名)女郎屋。遊郭。妓楼。

zurinujaagumai④(名)女郎屋に入りびたりに家に帰らないこと。居続け。流連。

zurinuQkwa

zurinuQkwa④ (名) 女郎の子。nasingwa (女郎が遊郭で産んだ子) と kooingwa (買った子) とあるが、zuringwa とは異なり、子供として大事に育てる。普通、女郎にせずに、多くは他の女郎の子と夫婦にさせる。

zurinuQkwa④ (名) 女郎の子。zurinuQkwa の卑称。

zuri?Nma④ (名) [尾類馬] haçikasjoo-gwaçi (二十日正月…旧曆正月二十日) に遊郭中総出で行なう祭りの名。各楼から選ばれた zuri が ?Nmagwaa [馬小] (板に馬の形を彫ったもの) を前帯にはさみ行列の先頭となり、続いて、装いをこらした zuri が長蛇の列を作って踊り歩いた。meendakari [前村渠] (前郭) と kusindakari [後村渠] と合して、kubaçikasa (聖地の名) に参拝し、終わってふたたび分かれ、郭の中を踊り歩いた。

zuringwa④ (名) 女郎のかかえ主 (zuri?anmaa) に対して、女郎をいう。また、一人前になる前の女郎。半玉。なじみの客などが、12~13歳の娘をなじみの zuri に買って与えるなどして、zuri はその娘をかかえ子にする。娘が小さいうちは給仕などをさせ、大きくなれば客を取らせてその利益を受ける。次第に人数をふやして、その zuri は zuri?anmaa となり、何人も zuringwa をかかえることになる。zurinuQkwa とは異なる。

zuri?ui④ (名) 娘を女郎として売ること。?uramu hwizabasija 'wan 'watasatmuti nasaki neN hwitunu kakiti ?ucara. [恨む比謝橋や 我身渡さともて情無いぬ人の 架けておきやら] 恨めしい比謝橋はわたしを渡そうと思って、情の無い人がかけておいたのか (ユシヤという遊女が、売られる時の悲しさをよんだ歌)。

zuşee④ neeN④ (句) ありそうである。多分。きつと。~ kutu. ありそうな事。~、

Yariga sjaru kutoo Yaranga 'jaa. きつと彼がやった事ではないかね。

zun④ (名) 十。普通は tuu を多く用いる。

zuu④ (名) 尾。しっぽ。

zuubaku④ (名) 重箱。haçinzuubaku, sicişinzuubaku, rukuşinzuubaku(それぞれ、8寸四方・7寸四方・6寸四方の重箱) の三種があり、身分によりその使用に区別があった。

zuubui④ (名) zuuhui と同じ。

zuubun④ (名) 充分。十分。~na hataraci. 充分な働き。

zuubunbuu④ (名) ひとり前の賃金。gububuu (半人前の賃金) の対。

zuugu④ (名) 十五。

zuuguja④ (名) ⊖十五夜。⊖とくに入月の十五夜の月をさすこともある。

zuugunici④ (名) ⊖15日。⊖月経の隠語。普通は çicinumun という。

zuugunijaku④ (名) [古] [十五人役] zuuguninsjuu と同じ。

zuuguninsjuu④ (名) [古] [十五人衆] ?umuti zuuguniN, zuugunijaku とともにいう。guhjoozoozu [御評定所] の十五人の役人。sansikwan [三司官] に次ぐ役人で、各省長官および次官に相当し、simunu ?uza [下の御座] を構成する。すなわち、munubuzoo [物奉行] 三人、その zinmijaku [吟味役] (次官) 三人、saşinusuba [鎖の側] 一人、その下に hwi-coonusidui [日帳主取] 二人、soosikui [双紙庫理] 一人、その zinmijaku 一人、tumaizituu [泊地頭] 一人、その zinmijaku 一人、hwiranusuba 一人、その zinmijaku 一人、計十五人。

zuugwaçi④ (名) 10月。年の第十番目の月。

zuuhaci④ (名) 十八。

zuuhui④ (名) 尾を振ること。犬が喜んで尾を振ることなど。また転じて、おべっか

- を使うこと。zuubuiともいう。～ sjuN.
尾を振る。また、おべっかを使う。
- zuuʔici① (名) 十一。
- zuuku① (名) 十九。
- zuumaŋgwa^ˈN① (名) 銭10万貫。2,000円にあたる。ziN (銭) の項参照。
- zuumitamiitaa① (名) せきれい。尾を上下に動かすのでいう。mitamitaはその動かすさま。
- zuumookuu① (名) zuumuqkooと同じ。
- zuumuqkaa① (名) zuumuqkooと同じ。
- zuumuqkoo① (名) 鳥獣の、尾の無いもの。尾の切れたもの。尻切れ。
- zuuni① (名) 十二。
- zuunikasi① (名) [十二箇所] ʔutirazuu-nikasiを見よ。
- zuuniN① (名) 十人。
- zuuniNbicee① (名) 十人力。十人に匹敵すること。
- zuuniŋgai① (名) 十人に匹敵すること。
- 'warabee ～. 子供がひとりいればおとなが十人いるぐらいにぎやかになる。
- zuunisi① (名) 十二支。
- zuuruku① (名) 十六。
- zuurukunici① (名) 1月16日に行なり墓参り。その前年に死んだ者に対しては、その日に特に供え物をして祭るが、それは miizuurukunici という。
- zuusaN① (名) 十三。
- zuusi① (名) 十四。
- zuusici① (名) 十七。
- zuusiciha^ˈci① (名) 十七八。年ごろ。文語では nihaciguru ともいう。
- zuuʂii① (名) ㊦炊きこみ飯。釜飯。野菜などを味付けして炊きこんだ飯。kuhwazu-uʂiiともいう。㊦雑炊。おじや。'jahwara-zuʂiiともいう。
- zuuzuu① (副) 重重。重ね重ね。～ 'waa-ga 'waqsataN. かえすがえすわたしが悪かった。

索引篇

使用上の注意.....611~614

索引.....615~816

配 列 順

あ	615	い	624	う	633	え	638	お	639
か	652	き	664	く	671	け	676	こ	679
さ	688	し	694	す	710	せ	713	そ	717
た	720	ち	728	つ	731	て	735	と	739
な	746	に	750	ぬ	753	ね	754	の	756
は	758	ひ	766	ふ	773	へ	779	ほ	781
ま	785	み	789	む	793	め	796	も	798
や	801			ゆ	804			よ	806
ら	809	り	810	る	811	れ	812	ろ	812
わ	813							を	816

使用上の注意

(1) 使用法について

この索引は本文編の利用を便利にするために作成したものであって、標準語引き首里方言辞典ではない。すなわち、この索引編の見出し語の標準語は、そこにあがっている首里方言と、意味や用法の上で完全に同じというわけではない。たとえば、この索引編のあね[姉]という見出し語には、ʔaŋgwaɑ, ʔNmii, ʃiizaunai, 'unai, 'winaguʃiiza などの首里方言があがっているが、これらの単語は互いに意味や用法が異なるし、またどれも標準語の「姉」と意味が少しずつ違っている。したがって、この索引編は、本文編にでている首里方言を標準語から見いだすために使用して欲しい。本文編に採録されていない首里方言はこの索引にはもちろんない。

(2) 見出し語の表記と配列

見出し語(標準語)は現代かなづかいに従って平仮名で書き、それを五十音順に配列してある。見出し語の平仮名(ゴシック)の次に[]に入れて示してあるのは、標準語のふつりの表記である。ただし便宜上、当用漢字表以外の漢字を使用したところもある。また、見出し語の次に()に入れて、たとえば(植物名)(感動詞)のように示したものは、その見出し語に関する注記である。

(3) 見出し語の形

見出し語としてあげた標準語には、接頭辞、接尾辞、慣用句なども少数あるが、大部分は単語である。複合語も原則として独立して見出し語となっている。たとえば、たび[旅]とたびびと[旅人]とたびしょうぞく[旅装束]とは、別々の見出し語となっている。

二単語以上の標準語は原則として独立の見出し語とせず、見出し語の下位項目として扱った。その場合、～の記号を用いて、見出し語をくりかえさないですました。たとえば、あたらしい[新しい]の下位項目に/~家/とあるのは/あたらしい家/の意味である。

(4) 首里方言の表記と配列

首里方言は本文編の見出し語にある形(音韻表記)のままである。同じ見出し語のところに二つ以上の首里方言が出ている場合には、原則として本文編の配列順、すなわちアルファベット順に並んでいる。

(5) 参照項目について

矢印(→)をうけてそのあとに首里方言を出してあるのは、本文編のその見出し語をも参照して欲しいという意味である。たとえば、あいする〔愛する〕の項に→ kanasjaN とあるが、本文編の見出し語 kanasjaN①(かわいい)の項を見ると、kanasja sjUN.(かわいがる, 愛する)という例文が出ている。また、あいさつ〔挨拶〕の下位項目/〜の表現/の項に矢印(→)があって、いくつかの首里方言があがっているのは、本文編のそれらの見出し語の項のそれぞれに、挨拶に関する記載が見られるという意味である。

矢印(→)のあとに標準語があがっているのは、索引編のその標準語の項も参照して欲しいという意味である。たとえば、あだ〔仇〕の項に/→かたき/とあるのは索引編のかたき〔敵〕の項を参照して欲しいという意味である。

(6) 類義語などの扱い

この索引は、本文編の見出し語に付けた標準語訳をもとにして作っており、小項目主義である。また、意味による分類をしていないので、同義語、類義語、反義語や、上位概念と下位概念を表わす語などを、一箇所にまとめることは原則としてしなかった。したがってこれらの単語は別々の箇所に別の見出し語として出ている。たとえば、「雨」の類義語「おおあめ」「きりさめ」「こさめ」「しぐれ」「つゆ」「ながあめ」「にわかあめ」「ひでりあめ」「ゆらだち」「れいう」などのそれぞれに当たる首里方言は、あめ〔雨〕の項目にまとめず、それぞれの項目に別個に出ている。また、「皆」の類義語「あったけ」「ことごとく」「ぜんぶ」「すっかり」「すべて」「のこらず」などのそれぞれに当たる首里方言も、本文編見出し語に付けた標準語訳に従って、それぞれの項目に個別に出ている。そこでこの索引を利用する場合、一つの見出し語に当たることでとまらずに、その標準語と同義または類義の見出し語にもなるべく当たるようにして欲しい。ただし、このような不便をできるだけ少なくするために、→(矢印)を用いて参照すべき見出し語(標準語)を示すように努めた。

(7) 標準語から捜しにくい首里方言の扱い

標準語からでは検索しにくいような首里方言については次のように扱った。すなわち、沖縄固有の事物を表わす首里方言の単語で、それに当たる標準語がないもの、あるいはあっても、あまり知られていないようなものは、適当な見出し語のところにまとめてある。その主なものは次のようなものである。

種々の位階・役職の名……………	→ いかい [位階]
種々の料理の名……………	→ りょうり [料理]
種々の菓子の名……………	→ かし [菓子]
種々のおもちゃの名……………	→ おもちゃ [玩具]
詩歌・音曲の種類や名……………	→ うた [歌]
踊りの種類や名……………	→ おどり [踊り]
織物の種類・織物の柄の名……………	→ おりもの [織物]
着物の名……………	→ きもの [着物]
織機の部品・付属品などの名……………	→ はた [機]
神の種類や名……………	→ かみ [神]
神事に従事する者の名……………	→ しんかん [神官]
行事の名……………	→ ぎょうじ [行事]
植物の名……………	→ しょくぶつめい [植物名]
魚の名……………	→ さかな [魚]
病気の名……………	→ びょうき [病気]
皮膚病の名……………	→ ひふびょう [皮膚病]

しかし、これらに属する首里方言であっても、それに当たる標準語がはっきりしているものは、その標準語によっても捜すことができる。たとえば「松」に当たる首里方言 *maaci*⑩ はしょくぶつめい〔植物名〕によっても、まつ〔松〕によっても検出できる。

また、上記のほかにも、標準語がはっきりしているものでも、それぞれを独立の見出し語とすると同時にさらに品種ごとにまとめて重ねて出したものもある。たとえば、蛇の種類、せみの種類、竹の種類、紙の種類、傘の種類などの首里方言は、それぞれ、へび〔蛇〕、せみ〔蟬〕、たけ〔竹〕、かみ〔紙〕、かさ〔傘〕の項にも見いだされる。

(8) 地名について

琉球列島の地名は、付録の「地名一覧」によって捜すことができるので、この索引には入れなかった。ただし、*sjui*⑩(首里)のように、地名を含む複合語 *sjuiŋcu*⑩(首里人)、*sjuikutuba*⑩(首里方言)などが本文編に収録されている場合はこの限りではない。

(9) 対応語について

この索引は標準語と意味的に対応する首里方言の索引であるから、音韻的に対応関係にある語でも意味が相違していれば、この索引からは探すことができない。そのような場合の音韻的な対応語を探す場合には、解説編の音韻の項を参照しながら本文編から捜さなければならない。

あ

ああ(感動) ʔaa, ʔakijo, ʔaʔkijoo, haa
ああ(返事) hii, hNN, ʔii, ʔNN
ああ(副) ʔan/ ~言いこり言い ʔanʔiika-
 Nʔii/ ~思いこり思い ʔanʔumiikanʔu-
 mii/ ~かこりか ʔansawankansawa-
 N/ ~したりこりしたり ʔansiikansii/ ~
 なったりこりなったり ʔannaikannai/ ~
 持ったりこり持ったり, ~やったりこり
 やったり mucikeekamikee
ああああ ʔaaʔaa
ああん hau/ ~と口をあける haumika-
 sjun
あい(藍) ʔee/ ~を入れるかご ʔeediiru/ ~
 を入れるつぼ ʔeeçibu
あいく(愛育) nadisudati
あいいろ(藍色) ʔeeʔiru/ ~の型付け染め
 ʔeegata, ʔeeʔuburuu/ ~のしぼり染め
 ʔeesibui/ ~のもの ʔeeʔiruu
あいこ(相子) ʔiinu
あいさつ(挨拶) ʔeesaçi/ ~上手 kanami-
 zoozi/ ~の表現 →ʔaʔcun, cibajun,
 cuu, guburii, hazimiti, kanami, ʔubu-
 kui, ʔubukuiganasii, ʔbukunzanasii,
 ʔbukunzansii, ʔwaaçici/ ~もなく
 ʔanneenasiku, ʔanneenasini/ ~を返さ
 ないこと buʔeesaçi
あいじ(愛児) kanasingwa, nasigwa
あいしょう(相性) ʔeesjoo
あいじょう(愛情) sinasaki, zooee, →な
 さけ/ ~のある人 zooemuci
あいしる(藍汁) / ~の泡 ʔeenuhana
あいじん(愛人) ʔʔzo, sama, satu, satu-
 mee, sjura, →こいびと, じょうふ
あいする(愛する) →kanasjan/ 愛される
 →ʔuntasjan
あいぜんごして(相前後して) ʔatunaisa-
 cinai

あいそ(愛想) ʔeesoo/ ~がいい qcuʔu-
 Qsjagisan/ ~のいい者 ʔeesoomuci/ ~
 よく kanaganaatu 「者 ʔeesumijaa
あいぞめ(藍染め) ʔeezumii/ ~を染とする
あいた(感動) ʔaʔkaa, ʔaʔçaa
あいだ(間) ʔeeza, mii, tanaka. ʔweeda,
 ʔweema, →maadu, madu/ ~あいだに
 ʔweedaʔweeda
あいたいする(相対する) →さしむかい/ ~
 さま tankaamankaa
あいつ ʔainijaa, ʔanuhjaa
あいて(相手) ʔeeti
あいにく(合槽) buhjoosi, ʔirusigamaa-
 si, katagata, mubaa
あいのり(相乗り) ʔainuii/ ~の人力車
 ʔainuiguruma, ʔainuii
あいびき(逢引き) sinubi/ ~する sinubun
あいぼう(相棒) guu, →なかま
あいぼれ(相惚れ) ʔeenuzumi
あいま(合間) madu, →あいだ/ ~あいま
 に ʔweedaʔweeda
あいらしい(愛らしい) ʔeeraasjan, kana-
 sjan, ʔʔzoosan, sjurasjan, sjuuraa-
 sjan, →かわいい
あいろう(藍織) ʔeeroo
あう(合う) ʔaajun, ʔatajun, ʔicaajun,
 ʔicajun, ʔjucaajun, ʔinajun
あう(会う) ʔicaajun, ʔicajun, (敬語)
 ʔuganun/ 会いそこなう ʔiceehansjun/
 会いにくい人 ʔiceegurii/ ~が早いか
 ʔʔkeehana, ʔʔkeezira/ ~こと ʔicee, (敬
 語) ʔwiicee/ 会えないこと ʔiceekantii
あえぐ(喘ぐ) / ~さま hweehwee, siisii
あえもの(和え物) ʔuʔee
あえる(和える) ʔeejun
あお(青) miziiʔiru, miziiiru, ʔooruu
あおあおと(青青と) ʔooqteen

あお

あおい〔青い〕 ʔoosan/ 青くなった者 ʔi-runugaa/ 青くなる →ʔirusjumoosju/ 青くなるさま ʔirusoomoosoo
 あおがえる〔青蛙〕 ʔataku, ʔuʔataku
 あおぐ〔扇ぐ〕 ʔoozun
 あおくさ〔青草〕 ʔookusa
 あおさ〔植物名〕 ʔaasa, ʔumiʔaasa
 あおさび〔青錆〕 ʔoosabi
 あおすじ〔青筋〕 ʔookazi
 あおだいしょう〔青大将〕 ʔooʔNnazaa
 あおだいず〔青大豆〕 ʔoomaamii
 あおだけ〔青竹〕 ʔoodaki
 あおな〔青菜〕 ʔoohwa
 あおにさい〔青二才〕 ʔooʔeeniiseegwaa
 あおのり〔青のり〕 ʔoonuuri/ ~の一種 ʔa-asa, ʔumiʔaasa
 あおば〔青菜〕 ʔoobaa
 あおばえ〔青蠅〕 ʔoobee
 あおびかり〔青光り〕 ʔoobicai, ʔoobicee
 あおむく〔仰向く〕 →ʔucagijun
 あおむけ〔仰向け〕 maahwanacaa
 あか〔赤〕 ʔaka, ʔakaʔiru, →まっか/ ~の他人 ʔuhumicinuqcu, →ʔaka
 あか〔垢〕 hwingu, →gahwara/ ~がたまっている者 hwingaa, hwingaama-jaa/ ~だらけ hwingujoogaci
 あかあかと〔赤赤と〕 ʔakaʔakaatu/ ~つける ʔikiʔakagarasjun
 あかい〔赤い〕 ʔakasan/ ~色 ʔakaʔiru/ ~おべべ binbinjaajaa/ ~紙 ʔakakabi, →sjugami/ ~麴 ʔakakoozi/ ~元結い ʔakamuutii/ ~もの ʔakaa/ ~夕日 ʔakatiidaa/ 赤くなったさま ʔakamigeei/ 赤くなる ʔakanun/ 赤ちゃけた髪の子供 ʔakabusjaawarabaa/ 赤ちゃけた髪をしている者 ʔakabusjaa, →ʔakagantaa
 あかうし〔赤牛〕 ʔakaʔusi
 あかがね〔銅〕 ʔakugani, →どう
 あかがわら〔赤瓦〕 ʔakagaara
 あかぎ〔赤木〕〔植物名〕 ʔakagi/ ~の実 ʔa-

kaginumuqkuu
 あかぎれ〔輝〕 hwibari, ʔasiziri, ʔjunziri, ʔasizirijunziri
 あかげ〔赤毛〕 ʔakagii/ ~のおかっぱ ʔakagantaa
 あかさび〔赤錆〕 ʔakasabi
 あかじ〔赤字〕 →ʔicaasikantii
 あかす〔明かす〕 ʔakasjun
 あかぞめ〔赤染め〕 ʔakazumii
 あかつき〔暁〕 →あけがた/ ~に起きること ʔakaʔiciʔuki, →あさ
 あかつきやみ〔暁闇〕 ʔakaʔicigurasin
 あかつち〔赤土〕 ʔakanca, maazi
 あかにく〔赤肉〕 maʔsisi, masisi
 あかはじ〔赤恥〕 ʔakahazi, →はし
 あかはだか〔赤裸〕 →まるはだか
 あかはな〔赤鼻〕 ʔakabanaa
 あかばむ〔赤ばむ〕 ʔakanun
 あかひげ〔赤ひげ〕 ʔakahwizaa, ʔakahwizi
 あかみ〔赤身〕 maʔsisi, →あかにく
 あかめがしわ〔植物名〕 ʔjamajuuna
 あかめばる〔魚名〕 ʔakamiibaju
 あがめる〔崇める〕 ʔagamijun, →とうとぶ/ ~こと ʔwaagami
 あからがお〔赤ら顔〕 ʔakaziraa
 あかり〔明かり〕 ʔakagai
 あがる〔上がる〕 ʔagajun, →nucagajun, nusikajun/ (食べるの敬語) miʔseen, ʔusjagajun
 あかるい〔明るい〕 →ʔakaʔakaatu/ ~ことと暗いこと ʔakasakurasa/ ~所 ʔakagai/ 明るくなる ʔakeejun/ すっかり明るくなる ʔakagaiʔikijun
 あかるみ〔明るみ〕 ʔakagai
 あかんべえ cinbeeru ʔakakoozi
 あかんぼう〔赤ん坊〕 ʔakangwa, ʔakangwaa, ʔjooii, ʔjooiiigwaa, →siraqkwa/ ~の泣き声 ʔngaaʔngaa/ ~の出す声 ʔnkuu

あき〔秋〕 ʔaci
あきたる〔空き樽〕 tarugaa
あきたわら〔空き俵〕 hwiihwaa, taaraguu
あきつば〔秋津羽〕 →ʔakeʔubaniNsu
あきつばい〔飽きつばい〕 ʔacihatibeesan
あきない〔商い〕 ʔacinee, →しょうばい/
～上手 ʔacineezoozi
あきま〔空き間〕 →すきま/～ができる ma-
doocun/～を作る madookijun
あきめくら〔あき盲〕 ʔakimiQkwa
あきや〔空き家〕 'Nnajaa
あきやしき〔空き屋敷〕 'Nnajasici
あきらか〔明らか〕 ʔaciraka/～になる
ʔarawarijun
あきらめ〔諦め〕 'jasunzi, ʔumiciri
あきらめる〔諦める〕 'jasunzijuN, ʔumici-
juN, ʔuminagasjun/ あきらめきれない
→'watagurisjan, ころのこり
あきる〔飽きる〕 ʔacagajuN, nirijuN,
ʔacihatijuN/ 飽き飽き cuhwaara/ 飽き
が早い ʔacihatibeesan/ 飽きたらぬ ʔaci-
zaraN/ 飽きてしまふ仕事 ʔacihaisigutu
あきれた →misinaaku, misinataaku,
misinataaraaku 「coodaa, ʔacoodu
あきんど ʔacineeNcu, ʔacineesjaa, →ʔa-
あく〔空く〕 ʔacun, ʔuʔijuN/ 空いている
畑 'Nnabataki/ ～こと ʔuʔiri
あく〔開く〕 ʔacun, hugijuN, huracun,
→goorijuN, ひらく
あく〔灰汁〕 ʔaku, tuguru
あくえん〔悪縁〕 ʔakuin, →くされえん
あくじ〔悪事〕 ʔaku, hwii, 'janagutu
あくしゅう〔悪臭〕 'janakaza, →くさい
あくしゅう〔悪習〕 'janahuuzi
あくしん〔悪心〕 'janagukuru, 'janazimu
あくた〔芥〕 →ごみ
あくたび〔芥火〕 ʔakutabii
あぐに〔粟国〕〔地名〕 / ～の者 ʔagunaa
あくにん〔悪人〕 ʔakuniN, 'janaa, →わる
もの

あくび〔欠伸〕 ʔakubi
あくまで ziibun/ ～も maamadin
あくむ〔悪夢〕 'janaʔimi
あくむ -ʔagunun
あぐら ʔangweedui, ʔangweei, →hwi-
あくりょう〔悪霊〕 'janamun [ʔasan
あくろ〔悪路〕 'janamici
あげ〔上げ〕 ʔagi/ 着物の～ neeciiri
あげがし〔揚げ菓子〕 ʔandaagii
あげがた〔明け方〕 ʔakaʔici, ʔakigata, →
あかつき, よあけ/ ～の雲 ʔakigumu/
～の月 ʔakaʔicizicuu/ ～の星 ʔakaʔici-
busi
あげくのはて →ʔuzumi
あげくれ〔明け暮れ〕 ʔakikuri, ʔasaju,
ʔasajusa
あげさげ〔上げ下げ〕 ʔagisagi
あけたて〔開け立て〕 ʔakikwii
あげどうふ〔揚げ豆腐〕 ʔagidoohu
あけのみょうじょう〔明けの明星〕 'jookaa-
busi 「かいほりする
あけはなす〔開け放す〕 ʔakihanasjun, →
あけひろげる〔開け広げる〕 ʔakihwirugi-
juN
あげまど〔あげ窓〕 hwicidu
あげもの〔揚げ物〕 ʔagimun
あける〔開ける・明ける〕 ʔakijuN, huga-
sjuN, ʔirihugasjuN, hurakijuN, hwi-
rakijuN, →ʔiciʔakijuN, ひらく
あける〔空ける〕 ʔiihoojuN, ʔiikeerasju-
N, ʔucusjuN, ʔutijuN/ 汁を～saajuN
/ あけて返すこと ʔuʔirikeei
あげる〔上げる〕 ʔagijuN, nubusijuN,
→ʔusjagijuN, さしあげる
あげる〔揚げる〕 ʔagijuN
あご〔顎〕 kakuzi, ʔutugee, ʔutugaku/
～がすべすべした者 ʔutugeenaNduruu/
～の骨の張った者 habukakuzaa
あこう (植物名) ʔusuku
あごひげ sicahwizi

あさ〔朝〕 ʔasa, sutumiti/ ~早く起きること sutumitiʔuki/ ~の日陰 ʔasakaagi
 あさ〔麻〕 ʔasa/ ~の着物 ʔasazin
 あさ〔瘧〕 sumi, suN
 あさ〔字〕 →mura
 あさい〔浅い〕 ʔaqsan, ʔasasan
 あさがり〔朝帰り〕 →ʔakaçicimudui
 あさがおな〔植物名〕 ʔuncee
 あさぐもり〔朝曇り〕 ʔasagumui
 あさける〔嘲る〕 ʔazamucun
 あさごはん〔朝御飯〕 sutumitiʔubun, →あ
 あさだち〔朝立ち〕 ʔasadaci じさめし
 あさづけ〔浅漬け〕 →ʔasaziki
 あさって〔明後日〕 ʔasati
 あさっぱり〔朝っぱり〕 / ~から ʔasannaara
 あさつゆ〔朝露〕 ʔasaçiju
 あさな〔字〕 ʔazana
 あさなぎ〔朝風〕 ʔasaduri
 あさぬの〔麻布〕 ʔasanunu/ ~の一種 ʔaaraNcee, zoothu
 あさね〔朝寝〕 ʔasani, →あさねぼう/ ~昼寝 ʔasanihwinni
 あさねぼう〔朝寝坊〕 ʔasanaa, →ねぼう
 あさばん〔朝晩〕 ʔasaban, →あさゆう
 あさひ〔朝日〕 ʔagaitiida
 あさましい〔浅間しい〕 ʔasamasjan
 あさまゆうま〔朝間夕間〕 ʔasamajuma
 あさみ〔植物名〕 çibana, 'nzicicaa
 あさめし〔朝飯〕 sutimitimun, sutumiti-
 あさやけ〔朝焼け〕 ʔasaʔakeei ʔmun
 あさゆう〔朝夕〕 ʔasaju, ʔasajusa, ʔasamajuma, →あさばん
 あさる〔漁る〕 ʔasagujun, ʔasajun
 あざわらい〔あざ笑い〕 ʔazamuciwaree, ʔazawaree
 あし〔足〕 ʔasi, hwisja, (敬語) mihwisja →ʔasihwisja, / ~がだるい hwisjadarusan/ ~が強くなる kuncuujun/ ~の裏が切れること ʔasiziri, ʔasizirijunziri, ʔjunziri / ~の甲 hwisjanaa/ ~の力

ʔasidooni, hwisjazikara/ ~の付け根の骨 tumuguu/ ~の無い者 hwisjamoo, hwisjamookaa, hwisjamookuu/ ~の細い者 cincinbisjagwaa/ ~の骨 hwisjabuni/ ~の曲がった者 gooi/ ~の向くまま →hwisja/ ~の弱い者 ʔasijoo, ʔasijoobaa
 あじ〔按司〕 ʔanzi, ʔazi, →ʔazibi, -cara, ʔuðun, (敬語) ʔaziganasii, ʔaziganasiimee, ʔaziimee, ʔazimee, ʔazisui/ ~の妻 'unazara, (敬語) ʔaqtoomee, ʔaqtooganasiimee
 あじ〔味〕 ʔazi/ ~が薄い ʔahwasan/ ~が薄くなる ʔahwageejun, ʔahwageerijun/ ~のよいもの ʔazikuutaa/ ~が足りない →kucisabiqsan, sabiqsan/ ~の足りないもの sabimun/ ~の足りない吸いもの
 あじ〔鱈〕 gaçun ʔsabiziru
 あしあと〔足あと〕 hwisjakata
 あしおと〔足音〕 ʔasitu, ʔasiʔutu
 あしかせ〔足枷〕 ʔasiguruma
 あしくび〔足首〕 hwisjakubi
 あしこし〔足腰〕 ʔasikusi
 あしずり〔足ずり〕 ʔaduşirişiri, hwisjaşirişiri
 あした〔明日〕 ʔaca/ ~の朝 ʔacaʔasa, ʔacasutumiti/ ~の晩 ʔacajusan di/ ~の夜 ʔacajuru
 あしだ〔足駄〕 tacibaaʔasiza
 あしなし〔足無し〕 hwisjamoo, hwisjamookaa, hwisjamookuu
 あしならし〔足ならし〕 ʔaqcinaree
 あしのうら〔足の裏〕 hwisjanuwata
 あじみ〔味見〕 ʔazi, ʔucuubi
 あしもと〔足もと〕 →ʔaçizii
 あしよわ〔足弱〕 ʔasijoo, ʔasijoobaa
 あしらう ʔasireejun
 あじろ〔綱代〕 ʔannumii, cinibu, soozii/ ~の一種 'waisoozi/ ~の垣根 cinibugaci

あじわい〔味わい〕 ʔaziwee, →ふうみ/ ~
 がある →kuubeesan/ ~のあるもの ʔa-
 あす〔明日〕 →あした [zikuutaa
 あずかりもの〔預かりもの〕 →tuiʔazikee
 あずかる〔預かる〕 ʔazikajun, sazakajun
 あずき〔小豆〕 ʔakamaamii, mamami/
 ~を入れた御飯 ʔakamaamiiʔubun
 あずきがゆ →ʔukee
 あずける〔預ける〕 ʔazikijun
 あせ〔汗〕 ʔasi, →hwizuruʔasi/ ~水流し
 て ʔasihaimizihai/ 鼻にかく ~ hanaʔasi
 あぜ〔畦〕 ʔabusi
 あせかき〔汗かき〕 ʔasihajaa
 あせばむ〔汗ばむ〕 ʔasigunun
 あぜみち〔畦道〕 ʔabusimici
 あせも〔汗疹〕 ʔasibu, sabee
 あせり〔焦り〕 ʔasigaci, →ʔasigacinoori
 あせる〔褰せる〕 samijun
 あせる〔焦る〕 ʔasigacun, →taagusa/
 ~さま →hatahata
 あぜんとする〔啞然とする〕 →miiNnabai/
 あそこ ʔama [~こと miilhaigutu
 あそばす〔遊ぶす〕〔敬語〕 miʃeen
 あそび〔遊び〕 ʔaʃibi, →mutaan/ ~の盛
 んな村 →ʔaʃibiguni
 あそびごと〔遊び仕事〕 ʔaʃibisigutu, ʔa-
 ʃibisikuci
 あそびともだち〔遊び友達〕 ʔaʃibidusi
 あそびにん〔遊び人〕 ʔaʃibaa, ʔaʃibjaa,
 ʔurarijaa, ʔjuutee, kwatii
 あそぶ〔遊ぶ〕 ʔaʃibun/ ~ために忙しいこ
 と ʔaʃibiʔicunasa/ 遊びほらけること
 ʔaʃibiburi
 あだ〔徒〕 ʔada
 あだ〔仇〕 ʔada, →かたき
 あたえる〔与える〕 →やる
 あたたかい〔暖かい〕 nukusan/ ~地方
 nukuguni/ ~所 nukudukuru/ ~年 nu-
 kudusi/ 暖かくなる nukubaajun
 あたたくみ〔暖かみ〕 →ʔukani
 あたたまる〔暖まる〕 ʔaʔirijun, nukunu-

N, nukutamajun
 あたためかえし〔暖め返し〕 ʔaʔirasikeesaa,
 ʔNburasikeesaa, tazirasikeesaa
 あたためかえす〔暖め返す〕 →tazirasjun
 あたためる〔暖める〕 ʔaʔirasjun, nuku-
 mijun, nukutamijun, →kamirasjun
 あだな〔あだ名〕 ʔazanaa, gucinaa
 あたま〔頭〕 ʔiburu, →ʔatama, ʔiburu-
 guu, kamaci/ ~が重いこと ʔiburu-
 ʔNbuu/ ~で突き上げる ʔicikamijun/
 ~にのせて運ぶ荷物 kamini/ ~にのせ
 る kamijun/ ~のてっぺん hjuuruci/
 ~をかかえこむ →tii/ ~を掻くこと sira-
 ngaci/ ~をさげる →ʔuhukubi/ ~をな
 やます →ʔanmasjan
 あたまでっかち〔頭でっかち〕 ʔuhuʔibura-
 a, ʔuhuʔiburu
 あたまわり〔頭割り〕 ʔatamawai, ʔiburu-
 wai, ʔiziwai
 あたら ʔaqtara, ʔatara
 あたらしい〔新しい〕 miisan, mii-, sara/
 ~家 miijaa/ ~着物 miizin/ ~仕立て
 sinsitati/ ~もの miimun, saramii-
 mun/ 新しく miikuni, miikun
 あたり〔辺り〕 hwin, -kaa, mangura,
 →cinpoo, -nagii
 あたりまえ〔当たり前〕 ʔataimee, zun,
 →とうぜん
 あたる〔当たる〕 ʔatajun, →そらとうする/
 当たらずといえども遠からず tuuja nu-
 kan
 あだん〔阿旦〕〔植物名〕 ʔadani, ʔadan/
 ~の気根 ʔadanasi/ ~の葉 ʔadanbaa/
 ~の葉の草履 ʔadanbaasaba/ ~の葉
 のむしろ ʔadanbaamusiru
 あちこち ʔamakuma, ʔarikaakurikaa,
 ʔNmakuma, →ほろほろ/ ~でちょこちょ
 こ仕事をするさま ʔNmagasagasakuma-
 gasagasa
 あちら →あっち
 あちらが布〔あちら側〕 ʔagata, ʔamamuti

あちらこちら →あちこち
 あつい〔暑い〕 ʔaʕisaN, →humicuN/ ~地方 ʔaʕiguni/ ~真昼 mahuqkwa/ 暑くてふりふりいうさま ʔaʕijaahuujaa
 あつい〔熱い〕 ʔaʕisaN/ ~うちに ʔaʕikoo-koo/ ~もの(小児語) ʔacuu, ʔaʕcuu/ 熱くする ʔaʕirasjun/ 熱くなる ʔaʕiri-jun
 あつい〔厚い〕 ʔaʕisaN/ 厚く →butaaku
 あつかい〔扱い〕 tunzaku, →とりあつかい
 あつかう〔扱う〕 ʔaʕikajun, →とりあつかう/ 扱いにくい ʔaʕikeegurisjan
 あつかましい →ころがん, ずうずうしい/ ~者 ʕiranukaaʔaʕii/ ~顔 zira
 あつがり〔暑がり〕 ʔaʕisaʔumii 「jaa
 あつがる〔暑がる〕 / ~さま ʔaʕijaahuu-
 あつさ〔暑さ〕 →humici/ ~嫌い ʔaʕisa-kamarasaa/ ~で腐りかかったにおい humicikaza/ ~に負けること humici-maki/ 残暑 ʔwakariʔaʕisa
 あっさり / ~した人 zaqtuu
 あっち ʔama/ ~でもこっちでも ʔiqpee-kuqpee/ ~の方 ʔagata, ʔamamuti/ ~を読んだりこっちを読んだり ʔamajumikumajumi
 あっとうされる〔圧倒される〕 ʔusaarijun,
 あっばい〔熱灰〕 ʔaʕibee ↳くっぶくする
 あっばくする〔圧迫する〕 ʔusiʕikijun
 あっはっは ʔahahaa
 あつまり〔集まり〕 surii, →taciisurii/ ~のあるさま suriimandoo
 あつまる〔集まる〕 ʔaʕimajun, ʔujun, ʔjureejun, surijun, →takarijun, いしゅうする
 あつめる〔集める〕 ʔaʕimijun, ʔjuraa-sjun, suraasjun, →とりあつめる
 あつらえ ʔaʕiree, (敬語) ʔwaaʕiree, →ちゅうもん
 あつらえもの〔誂え物〕 ʔaʕireemun
 あつらえる〔誂える〕 ʔaʕireejun, →ちゅうもん
 あて〔当て〕 ʔati, mizimui, →みこみ/ ~

がはずれる ʔatikawajun/ ~がはずれること mihaandaa, mihaannuu, mizimuisooi/ ~にする ʕimujun, tarugakijun
 あてこすり ʔuranucimunii, ʔuranucimunuʔii
 あてずいりょう〔あて推量〕 saʕcuu, cimupatigee, ʔatigeehuu/ ~でもを言うこと saʕcuumunuʔii
 あてずっぽう ʔatigeehuu, ʔatitinpuu, ʔatitiqpuu
 あてつけがましく ʔwacakoogeezi
 あてる〔当てる〕 ʔatijun
 あと〔後〕 ʔatu, →うしろ/ ~になり先になり ʔatunaisacina, ʔuueekuuee/ ~の方がかえてよくなること ʔatumasai-gahuu/ ~をつけること ʔatuʔwii
 あと〔跡〕 →ʔatu/ ~を引いて流れること sicabai
 あとあし〔あと足〕 ʔatubisja
 あとあじ〔後味〕 / ~が悪い →ʔwinturukaasjan
 あとあと ʔatuʔatu
 あとおし〔あと押し〕 ʔatuʔusii
 あとかた〔跡かた〕 ʔatukata, kata
 あとかたづけ〔あと片付け〕 ʔatukataʕiki
 あどけない / ~さま ʔatiqteen/ ~もの ʔatinasi
 あとさき〔後先〕 ʔatusaci
 あとざん〔後産〕 ʔija
 あとしまつ〔あと始末〕 ʔatukataʕiki, ʕikituʕuki, →しりぬぐい
 あとずさり ʔatusiʕizi, →あともどり, しりごみ
 あとつぎ〔跡継ぎ〕 ʔatuʕizi, ʔatumi, →あとり, そうぞくにな
 あとり〔跡取り〕 caqci, →ちゃくし
 あとばらい〔あと払い〕 sagai
 あとめ〔跡目〕 ʔatumi, →あとつぎ
 あともどり〔あと戻り〕 ʔatumuʕui, →あともどり/ ~する ʔuqceejun
 あな〔穴〕 ʔana, hugi, mii/ ~があいたもの hugimun/ ~があく hugijun.

→goorijun/ ~だらけ miimiihuugaa/
 ~をあける hugasjun
 あなあきせん〔穴あき銭〕 miihugaa
 あなた naa, ʔunzu, ʔunzunaa, →おま
 え, きさま, (敬語) kuma, mjunzu,
 njunzu, nunzu/ ~自身で ʔunzukuru
 あなたがた ʔunzunaa, →おまえたち
 あなとうと ʔaatootu, ʔuutootu
 あなどる〔侮る〕 ʔuʃeejun, 'uuzun, →み
 くびる/ことを~こと kutuʔuʃeei
 あに〔兄〕 ʔahwii, 'jaqcii, 'jakumii, ʃii-
 za, 'wikigaʃiiza, (敬語) ʔumikiinumee,
 ʔumiʃiiza, →ʔaqpii, 'wikii/ 上の~
 ʔuhuʔahwii, ʔuhujaqcii/ 下の~ ʔa-
 hwiigwaa/ ~と妹 →'unaiwikii
 あによめ〔兄嫁〕 (敬語) ʔumanii, ʔumanii-
 mee
 あね〔姉〕 ʔangwaa, ʔnmii, ʃiizaunai,
 'unai, 'winaguʃiiza, (敬語) ʔuminai, →
 ʔabaa, ʃiiza/上の~ ʔuhuʔnmii/ 下の~
 ʔnmiigwaa/~と弟 →'unaiwikii/ 既婚
 の~ (敬語) ʔumanii, ʔumanimee
 あの ʔanu/ ~大きさの ʔaqpeeru/ ~く
 らい →あれくらい/ ~ころ ʔanukuru/
 ~高さ ʔadaki/ ~遠さ ʔagatoo/ ~時
 ʔanutuci/ ~とし →ʔanuca, ʔanujuca/
 ~長さ ʔanagi/ ~人 ʔanuqcu, (敬語)
 ʔama/ ~人たち ʔaqtaa/ ~辺 ʔanu-
 hwin, ʔamarikaa, ʔarikaa/ ~まま
 ʔanumama/ ~野郎 ʔanijjaa, ʔanu-
 hjaa/~よるな ʔanceeru, ʔanugutooru,
 ʔangutooru, →ʔanujoo/ ~よるなもの
 ʔanugutooruu, ʔangutooruu/ ~より
 に ʔanugutu, ʔangutu, →ʔanujoo
 あのを〔あの世〕 ʔanujuu, giraikanai,
 gireekanee, gusjoo, niraikanai, niree-
 kanee, →しご
 あばく〔発く〕 ʔarawasjun
 あばずれ baacira, hoorimun
 あばた〔痘痕〕 kumuzaa, kumuzi, maa-

zaa/ ~のある者 kumuzaa, maazaa
 あばばばば ʔawaawaa
 あばらばね〔あばら骨〕 sookibun
 あばらや ʔabaraja 「あらうま
 あばれうま〔暴れ馬〕 →hwincaaʔnma,
 あばれもの〔暴れる者〕 ʔamaimun, ʔamajaa,
 あばれる〔暴れる〕 ʔamajun L→らんぼう者
 あびせる〔浴びせる〕 kuncakijun
 あひる〔家鴨〕 ʔahwiraa, ʔahwiru
 あびる〔浴びる〕 kuncakajun
 あぶく →あわ
 あぶない〔危い〕 ʔabunasjan, ʔajaqsan,
 ʔukaasjan, →hantasjan, kuuwee,
 'uci, 'uciuci / ~ふるまい, tihwanawaza
 あぶみ〔鏝〕 ʔabui
 あぶら〔油・脂〕 ʔanda, →しほり/ ~で揚
 げる時の音 caaracaara/ ~でいためる
 →いためる/ ~を煮たせた鍋 ʔandana-
 abi/ ~を入れるとつくり, ʔandaduqkui,
 →あぶらつぼ
 あぶらあげ〔油揚げ〕 ʔagidoohu
 あぶらあせ〔脂汗〕 namasibai
 あぶらいため〔油いため〕 caaraa, ʔiricii,
 →canpuruu
 あぶらかす〔脂かす〕 ʔandakaʃi
 あぶらがめ〔油がめ〕 →あぶらつぼ
 あぶらぎる〔脂ぎる〕 ʔandamaajun
 あぶらぐち〔油口〕 →おせじ, かんげん
 あぶらざら〔油皿〕 sizici
 あぶらぜみ naabikacikacii
 あぶらっこい〔脂っこい〕 ʔandazuusan/
 ~さま ʔandabutubutu
 あぶらつぼ〔油壺〕 ʔandaçibu, ʔandaduq-
 kui
 あぶらみ〔脂身〕 ʔandabutubutu, sirumi
 あぶらむし〔油虫〕 hwiiraa
 あぶらや〔油屋〕 ʔandajaa
 あぶる〔炙る〕 ʔabujun, ʔanzun
 あふれる〔溢れる〕 ʔandijun/ 溢れさせる
 ʔandaaʃun

あへこべ ʔurahara, →さかさま
 あま〔阿魔〕 ʔjumuwinagu, →おんな
 あまい〔甘い〕 ʔamasan, →kwangwaa-raasjan, あまみ/ ~もの ʔamamun/
 甘くなり過ぎる ʔamabirijun
 あまがさ〔雨傘〕 ʔamagasa
 あまくだり〔天降り〕 ʔamari, ʔamaʔuri,
 ʔamooi, ʔamoori, ʔamori
 あまぐも〔雨雲〕 ʔamigumu, →くろくも
 あまごい〔雨乞い〕 ʔamagui 「あまやどり
 あまごもり〔雨ごもり〕 ʔamihuigumai, →
 あまざけ〔甘酒〕 ʔunsjaku/ ~の一種 ʔa-
 あまじお〔甘塩〕 ʔamazuu [magasi
 あまじたく〔雨支度〕 ʔamihuizitaku
 あます〔余す〕 ʔamasjun
 あまだれ〔雨だれ〕 ʔamidaimizi
 あまど〔雨戸〕 hasiru
 あまのがわ〔天の川〕 tɪŋgaara
 あまのじゃく ʔamagaku, ʔamagakaa
 あまみ〔甘味〕 ʔamami, →あまい
 あまみおおしま〔奄美大島〕 ʔuusima
 あまみぐんとう〔奄美群島〕 →micinusima
 あまもよう〔雨模様〕 ʔamimujuusi
 あまやかす〔甘やかす〕 →kwangwaa-raa-
 sjan/ 甘やかして育てること →tuitaka-
 tee
 あまやどり〔雨宿り〕 / ~する →kwaqkwijun
 あまり〔余り〕 ʔamai, →よぶん
 あまりもの〔余りもの〕 ʔamaimun, ʔjuu-
 ʔamai, →よぶん
 あまる〔余る〕 ʔamajun
 あみ〔網〕 ʔami, →ʔabuikuu
 あみがさ〔編笠〕 ʔamigasa, ʔanzasa, →ふ
 あむ〔編む〕 kuuun [かあみがさ
 あめ〔雨〕 ʔami, →simu/ ~が上がる ha-
 rijun, hjaagajun, →sasanun/ ~が
 降りこむこと ʔuciʔami/ ~が降りそうで
 ある ʔamihuigisan/ ~と露 ʔamiçiju/
 ~の原因となるもの ʔaminunii/ ~の降

りそりな気配 ʔamimujuusi/ 冬の冷たい
 ~ simu
 あめ〔飴〕 ʔami
 あめかぜ〔雨風〕 ʔamikazi
 あめふり〔雨降り〕 ʔamihui, ʔutin/ ~続
 き ʔamihuicizici/ ~のあと ʔamihuinu-
 ʔatu
 アメリカ ʔamirika
 アメリカ人 →ʔamirikaa
 あやうく〔危うく〕 huda, hudagasi, huda-
 ganasi ʔagati
 あやかる ʔajakaajun
 あやしい〔怪しい〕 hwirumasjan/ ~音
 →cigutu/ ~こと →ʔusan
 あやす ʔikasjun, ʔiçikaasjun
 あやふやである hantasjan
 あやまち〔誤ち〕 ʔajamaci, ʔajamai, ʔa-
 jamaigutu, ʔajamari, baqpee, husuku
 あやまり〔誤り〕 →まちがい
 あやまる〔謝る〕 ʔiiwakijun, →ʔiiwaki,
 ʔwaqsa, ʔwaki
 あやまる〔誤る〕 ʔajamajun, →まちがう
 あゆむ〔歩む〕 →あるく
 あら〔感動〕 ʔai, ʔaki, ʔakijoo, ʔane,
 ʔiqcaa, →あれ/ ~まあ ʔeeʔiqcaa, ʔa-
 kitoonaa
 あら〔粗〕 ʔara, ʔara-
 あら〔荒〕 ʔara-
 あら〔新〕 ʔara-
 あらあらしい〔荒荒しい〕 →ʔaraci, ʔaa-
 hwee, あらっばい/ ~返事 kuhwahwizi/
 荒荒しく拒絶すること kuhwabanii
 あらい〔荒い〕 ʔarasan
 あらい〔粗い〕 ʔarasan/ ~もの ʔaraa
 あらいがみ〔洗い髪〕 ʔareegami, ʔaree-
 karazi
 あらいこ〔洗い粉〕 cuuzinakuu
 あらいもの〔洗い物〕 ʔareemun
 あらう〔洗う〕 ʔarajun 「ま
 あらうま〔荒馬〕 kuujaaʔnma, →あばれう

あらがう →あらしり
 あらかじめ〔予め〕 meekaniti, →かねて
 あらかせぎ〔荒かせぎ〕 →Paramooki
 あらさがし〔あら探し〕 miimiikuuzii/ ~するさま miinucihananuci
 あらし〔嵐〕 ʔarasi, kazihuci, ʔuukazi
 あらしごと〔荒仕事〕 ʔarasigutu, ʔarasi-kuci
 あらす〔荒らす〕 ʔarasjun
 あらそう〔争う〕 ʔaragaajuN, ʔarasuujuN, →きょうそう, たたかう
 あらだてる〔荒立てる〕 ʔaradatijun
 あらたに〔新たに〕 miikuni, miikun
 あらたまる〔改まる〕 ʔaratamajun
 あらためる〔改める〕 ʔaratamijun, hwicinoosjun, →tuinoosjun
 あらっぼい〔荒っぼい〕 tiiʔarasan, →そばう, あらあらしい
 あらなみ〔荒波〕 ʔaranami
 あられ〔霰〕 'juci/ ~と冷雨 'jucesimu
 あらわ〔露わ〕 / ~にする ʔarawasjun, hajun/ ~になる ʔarawarijun
 あらわす〔現わす〕 ʔarawasjun
 あらわれる〔現われる〕 ʔarawarijun
 あり〔蟻〕 ʔai, (小児語) ʔaikoo/ ~の一種 sasiʔai, sasiʔajaa
 ありあけのつき〔有明けの月〕 ʔakaçicizicuu
 ありあわせ〔有り合わせ〕 ʔaee, ʔaiee
 ありか〔在処〕 →ありばしょ
 ありがたい →nihwee, ʔidigahuu, ʔiduugahuu/ ~こと ʔarigateekutu, ʔuugutu
 ありがためいわく〔ありがた迷惑〕 cimu-ʔiri
 ありがとう kahuusi, →nihwee, ʔidigahuu, ʔiduugahuu
 ありさま〔有様〕 ʔarisama, sikata, siza-ma, tanari, →ていたらく, ようす
 ありったけ →ある, のこらず
 ありのまま / ~の姿 zunʔigata/ ~の人 ʔaarankaa
 ありばしょ〔あり場所〕 ʔaizu

ありもしないこと ʔarazaranKutu
 ある〔有る・在る〕 ʔaN, (敬語) saajun/ ~だけ ʔaruʔuqpi, ʔaruʔuqsa/ ~だけですます人 ʔaruʔuqpii/ ~もの全部 (~もの無いもの, ありったけ) ʔarukasiruka, ʔarumunneenmun, takitutuumi, →のこらず/ ありそうである zuʔee neen/ ありもしないこと ʔarazaranKutu/ で →である
 ある〔或る〕 ʔaru
 あるいは ʔeenee
 あるきはじめ〔歩きはじめ〕 ʔaqçihazini
 あるく〔歩く〕 ʔaqcun, ʔajunun, (敬語) ʔwaacimiʔeen/ ~こと ʔaqci, (小児語) ʔaaqca, ʔaqca/ ~さま →gongon/ ~人 →ʔaqcaa/ ~練習 ʔaqcinaree/ 歩けるようになる →kuNcuujun
 あるじ〔主〕 nuusi
 あれ〔感動〕 ʔane, ʔandee, →あら/ ~ま あ ʔaneʔane, ʔaNmajoo, ʔiçcaakuqcaa, saqtimusaqtimu, 'waaʔaa/ ~よあれよ ʔariʔarii/ あれえっ ʔakisamijoo, ʔaNmajoo
 あれ ʔari/ ~がいいこれがいい ʔarimasaraakurimasaraa/ ~くらい (~ほど, ~だけ) ʔahwi, ʔanusjaku, ʔaqpi, ʔaqs/ ~くらいの ʔahwina, ʔaqpeeru/ ~これ ʔarijaakurijaa, karikuri/ ~これ思いなやむさま ʔariʔumiikuriʔumii/ ~これとさわるさま ʔarisaakurisaai/ ~だけの長さ ʔanagi/ ~っばかり ʔahwi-gwaa, ʔaqpigwaa
 あれち〔荒れ地〕 ʔarici, hagimoo, →moo
 あれの〔荒れ野〕 →あれち
 あれはてる〔荒れ果てる〕 ʔarihatijun, saboorijun/ 荒れはてたさま saboorikaa
 あれる〔荒れる〕 ʔarijun
 あわ〔粟〕 ʔawa
 あわ〔泡〕 ʔaa, ʔaabuku
 あわい〔淡い〕 →うすい
 あわさる〔合わさる〕 ʔusaajun, ʔusjaa-

あわ

jun

あわせ〔裕〕 ʔaasimUN, ʔaasizIN「かがみ
あわせかがみ〔合わせ鏡〕 ʔaasikagan, →
あわせる〔合わせる〕 ʔaasjun, ʔicaasjun,
ʔucaasjun, ʔusaasjun, ʔusjaasjun/
合わせもつこと ʔuceekanee
あわせる〔会わせる〕 ʔicaasjun
あわつぶ〔粟粒〕 ʔawaɕizi
あわてもの〔あわて者〕 →そこつ
あわてる ʔawatijUN, dumaNgwijUN, sa-
wazUN, sjoonugijUN, zamadujUN, →
うろたえる / ~さま ʔawatinoori, ʔawe-
esjukwee, zamaduikaa, zamaduikaa-
dui/ あわてさせる dumaNgwasjun/ あ
わてふためいて走ること ʔasimarubi,
ʔasimarubitiimarubi
あわもり〔泡盛〕 ʔaamui/ ~を水で割って
かんをしたもの 'juucuu/ ~を水で割っ
てかんをしたものを入れる器 'juucuuzu-
あわれ〔哀れ〕 muzoo, →ʔawari [ukaa
あわれ〔感動〕 ʔakijo, ʔawari
あん〔餡〕 ʔan
あんがい〔案外〕 ʔangwee, ʔumiinuhuka
あんこう〔鮫鱈〕 (魚名) kamanta
あんじ〔按司〕 →あじ
あんじがお〔案じ顔〕 munumigau
あんしょう〔暗唱〕 hanasibuku

あんしょう〔暗礁〕 →hwisi
あんしん〔安心〕 →ところづよい/ ~する
→kukuru, ʔuhuʔuminaaku, ʔuminaa-
ku, やすんずる/ ~である kukurujaqsa-
N, cimuzuusan
あんずる〔案ずる〕 →しんばい
あんた →あなた, おまえ
あんちゃん ʔaqp̄ii, →あに
あんどん〔行燈〕 tuuru, →kaguduuru
あんな ʔaneeru, ʔanugutooru, ʔangu-
tooru, ʔanna/ ~に ʔanugutu, ʔan,
ʔangutu/ ~に多く ʔasakii/ ~に高く
ʔadaki/ ~に遠く ʔagatoo/ ~に長い間
ʔannagee/ ~に長く ʔanagi/ ~もの
ʔanugutooruu
あんない〔案内〕 ʔannee, (敬語) →mju-
Nɕikee, nuNɕikee, ʔuNɕikee/ ~を乞う
こと munusirari
あんのじょう〔案の定〕 masagagutu
あんばい〔按配〕 ʔanbee, kagin, (敬語)
ʔwaanbee
あんま〔按摩〕 ʔanma, kusitataci, →tii-
mimizi, (敬語) mikusiugan, misiugan
あんまとり〔按摩とり〕 ʔanmatui
あんまり ʔanmadi, ʔanmari, duku
あんもち〔餡餅〕 ʔanmuci
あんよ ʔaaqca, ʔaqca
あんらく〔安楽〕 ʔanraku, →らく/ ~に
rakurakutu

い

い〔胃〕 ʔii, ʔuhugee
い〔藺〕 'ii, →biiguii, ʔootuuziN, saciii,
tuuziNii/ ~で作ったざりり 'iisaba
い〔亥〕 'ii
いあん〔慰安〕 nagusami
いい 'ii-, 'jutasjan, masi/ ~相手 ʔee-
tu/ ~按配 'iiʔanbee/ ~縁組 'iitacinaa-
ka/ ~加減なやり方 hantagaki/ ~考え

'iikaNgee/ ~気 'iicii/ ~機会 'iibaa, 'i-
basju, 'iihjoosi/ ~気持ち 'iicii, 'iikuku-
ci/ ~景色 'iicici/ ~子 'iiqkwa, 'iqkwa,
→'jukaaqcu/ ~こと 'iikutu/ ~仕事 'ii-
waza/ ~正月 'iisjoogwaɕi/ ~商売 'ii-
ʔacinee/ ~勝負 'iisjuubu/ ~職業 'iiwa-
za/ ~知らせ 'iisirasi/ ~天気 'iiʔwaa-
ɕici, →zooʔwaaɕici/ ~年をしながら

→'jucanumUN, tusinamUN/ ~友達 'iidi-
 dusi/ ~仲 'iinaaka/ ~習わし 'iihuuzi/
 ~におい kabakaza/ ~日 'iihwii/ ~人
 'iiQcu, 'iqkwa/ ~風采 'iihuuzi/ ~物
 'iimUN/ ~夢 'ii'imi
 いいあてる[言い当てる] ?ii?atijUN/ 言い
 当て遊び ?akaſee
 いいあらい[言い争い] ?eekwee, ?igaa-
 i, ?igaahai, ?iikwaace, →いざかい, ろ
 んそう/ 言い争うさま ?iriwaikaawai
 いいえ 'i'iii, 'N'NNN, 'o'ooo, 'u'uuu
 いいおき[言い置き] ?ii?uci
 いいおく[言い置く] ?ii?ucUN
 いいかけ[言いかけ] ?iikaki
 いいかける[言いかける] ?iikakijUN
 いいかた[言い方] munu?iikata
 いいすぎ[言い過ぎ] ?ii?gwaasa, ?ii?kwa,
 ?iiſizi, kwagUN
 いいすぎる[言い過ぎる] ?iiſizijUN
 いいそこなう[言いそこなう] ?ii?janZUN
 いたいほうだい[言いたい放題] ?iibusja-
 hun'dee, ?iibusjakaqtii, →たいげんそう
 いただきます[言い出す] ?ii?NzasjUN 上ご
 いたてる[言い立てる] ?iitatijUN
 いいつけ[言い付け] ?ii?iki, →めいれい
 いいつける[言い付ける] →koo, ざんげん,
 つげぐち, めいれい
 いったえ[言い伝え] ?itee, ?ikutuba
 いいなおす[言い直す] ?iinoosjUN
 いいなづけ[許嫁] sakimui/ ~となる ſi-
 masjUN
 いいぬける[言い抜ける] ?iimaarasjUN
 いいのがれ[言いのがれ] kucimaai, kuci-
 migui, →いいひらき, いいわけ
 いいのこす[言い残す] ?iinukusjUN
 いいはる[言い張る] ?iihajUN/ ~こと
 ?iihai
 いいひらき[言い開き] ?iihwiraci, →いい
 のがれ, いいわけ
 いいふらす[言いふらす] ?iihwirugijUN
 いいぶり[言い振り] munu?iitanari

いいぶん[言い分] ?iibun
 いいまかす[言い負かす] ?iieikunaasjUN/
 言い負かし合い ?iimakassee
 いいまぎらす[言いまぎらす] ?iimaara-
 sjUN, ?iimangwasjUN
 いいまくる[言いまくる] ?iieikunaasjUN
 いいまける[言い負ける] ?iimakijUN
 いいまちがい[言い間違い] ?iimacigee
 いいよう[言いよう] ?iijoo
 いいわけ[言いわけ] ?iiwaki, →いいひら
 き, こうじつ, しゃくめい, べんかい/
 ~を言う ?iiwakijUN
 いいわたし[言い渡し] ?iiwatasi
 いう[言う] ?jUN, (敬語) miſeen, mju-
 nnjukijUN, nunnukijUN, ?UNnjuki-
 jUN, ?UNnukijUN, ?wiisimiſeen, →つ
 げる/ ~なり →mama/ ~までもない →
 ?juuniN ?ujubaN/ 言いながら泣くこと
 munu?iinaci
 いえ[家] 'jaa/ ~ごと cineekazi, 'jaaka-
 zi/ ~と家財 'jaakazai/ ~にこもること
 'jaagumai/ ~にこもる者 'jaagumajaa/
 ~の建築 'jaacukui, 'jaazukui/ ~の前
 面 meeguci/ ~の中 'jaanu?uci/ ~の
 普請 'jaabusin/ 一つの~に暮らすこと
 'jaatiiçi
 いえで[家出] ?Nzihangwi, →しゅっぱん
 いえやしき[家屋敷] 'jaajasici
 いか[烏賊] ?ica, ?ika/ ~の一種 kubuſi-
 mi/ ~の塩辛 ?icagarasju/ ~の墨 ?i-
 canukuri, kuri
 いかい[位階] kuree/ ~名・役職名など
 ?akugami, ?anzi, ?asatabi, ?aſitabi,
 ?atai, ?ataipeecin, ?azi, ?azimee, ?a-
 zizituu, bunnin, ?igucijukumi, ciku-
 dun, cikudunpeecin, cikusazi, cinsja,
 girce?akugan, gujuuhwiçi, hana?atai,
 hanatai, -hjaa, hwicoonusidui, hwi-
 qsja, hwirajakunin, hwiranusuba,
 ?iqpoomuci, 'jama?atai, 'jamabuzoo,
 'jamatai, 'jamatujukumi, 'jukumi,
 'jununusi, 'juNcu, kasirajaku, koosa-

ku, koosakuʔatai, kukuruʒikijaku, kumigasira, kurajaku, kuratai, mazi-ricoo, munubuzoo, muragasira, nihoo-muci, -nija, -njaa, nusidui, 'oozi, pee-ciN, roosuuzituu, saazi, sabakui, sansikwan, saʒinusuba, satunusi, sa-tunusinumee, satunusipee-ciN, sazi, sii, sidupeeciN, siqsii, simamuci, soo-sigui, suucici, suudee, suugasira, suu-goosaku, suugoosakuʔatai, suuzituu, tikugu, tucinuʔuhujakuu, tumaizituu, tuNci, ʔudun, ʔuhuciku, ʔuhuʒa, ʔuhujaku, ʔuhujakuu, ʔuhunusi, ʔukureeoozi, ʔuhusidubi, ʔumunubuzoo, ʔumurunusidui, ʔuʒei, ʔuʒeigasii, 'u-duibuzoo, 'uuzijukumi, ʔweekaŋcu, ʔweekata, 'wacikiku, 'wacizituu, zascisjuu, ʒeebaN, zidee, ziigasira, zinmi-jaku, zitudee, zituu, zuuguniNjaku, zuuguniNsjuu

いがい〔以外〕 kuutu

いがい〔意外〕 ʔumiinuhuka, →おもいがけない, きたいはずれ

いかが →caa

いかけ kuu, naabinakuu, naabinukuu

いかけや〔いかけ屋〕 kanʒeekeu, kanʒee-kuu, naabinakuu, naabinukuu

िकास〔生かす〕 ʔicikijun, ʔikasjun

いがた〔鋳型〕 ʔikata

いかなる ʔicaru, ʔikana, →どんな

いかに〔如何に〕 ʔica/～しても ʔikanasin, →どろ

いかにも daNzu

いばかり ʔikira, camisi, camisika, canusjaku, →どれ

いかり〔怒り〕 →りっぶく

いかり〔錨〕 ʔikai

いき〔息〕 ʔiici/～が切れる ʔicizirijun/～とあくび ʔiiciʔakubi/～をつぐこと ʔiicigeei/～をとめること ʔiicigun

いき〔意気〕 ʔiziri

いき〔行き〕 ʔici

いきあう〔行き会〕 →あう

いきうつし〔生き写し〕 ʒiratiʒi

いきおい〔勢い〕 ʔicui, sii

いきかえり〔行き帰り〕 →おろふく

いきかえる〔生き返〕 ʔicigeejun

いきぎも〔生き肝〕 namazimu

いきぐるしい〔息苦しい〕 ʔicizirasan

いきごみ〔意気込み〕 /～がよいこと ci-hwee

いきすぎ〔行き過ぎ〕 ʔicizizi

いきすぎる〔行き過ぎる〕 ʔicizizijun

いきずり〔行きずり〕 ʔiciziri/～の ʔicizijuru

いきちがい〔行き違い〕 ʔiceecizee

いきづまる〔行きづまる〕 ʒiciʔatajun

いきとどく〔行きとどく〕 ʔicitajun

いきどまり〔行きどまり〕 ʒiciʔatai

いきなり →きゆうに

いきぬき〔息ぬき〕 ʔiicigeei

いきのこる〔生き残〕 ʔicinukujun, sininukujun

いきむ ʔicanun, →ʔicanpai

いきもの〔生きもの〕 ʔicimun

いぎょう〔遺業〕 'ʒuziri

イギリス ʔincirii, ʔinzirii

いきりょう〔生霊〕 ʔicimabui, ʔicizama

いきる〔生きる〕 ʔicicun/生きてる人 ʔicicun

いきわかれ〔生き別れ〕 ʔiciwakari

いきわたる〔行き渡る〕 tuujun

いく〔行く〕 ʔicun, →ʔaʒcun, cuun,

(敬語) ʔimeŋʒeen, meen, moojun, meŋseen, ʔimeŋʒeen, ʔucecimiseen/～先 ʔikusaci, →ʔaʒkukata/～末 'ju-kuʒii/行きにくい ʔicigatanasan/行き着く所 ʒicikuci/行ったり帰ったり →tuNmudujaa/行ってしまう ciiʔicun,

いく〔幾〕 ʔiku-

[keeʔicun

いくかい〔幾回〕 →なんど
 いくさ〔戦〕 ʔikusa, →たたかい
 いくさぶね〔いくさ船〕 ʔikusabuni
 いくじ〔意気地〕 ʔiziri/ ~がない bitaraa-sjan, →いくじなし
 いくじなし〔意気地無し〕 bitataimun, daruu, →いくじ, だじゃく/ ~の子→ʔajaaʔuujaa, ʔaninaaʔuujaa
 いぐち〔兎唇〕 ʃibee
 いくつ〔幾つ〕 ʔikuʃi
 いくにち〔幾日〕 →なんにち
 いくにん〔幾人〕 →なんにん
 いくばん〔幾晩〕 ʔikujuru
 いくひろ〔幾尋〕 ʔikuhwiru
 いくまわり〔幾回り〕 ʔikumaai, ʔikumigui
 いくら cahwi, caQsa/ ~でも caQsan, caQsankaQsan
 いけ〔池〕 ʔici, kumui/ ~の端 kumuibata
 いけいれん〔胃けいれん〕 kamici, →kamirarijun/ ~の持病のある者 kamirarijaa
 いけがき〔生け垣〕 →kaci
 いけどり〔生けどり〕 ʔicidui
 いけばな〔生け花〕 ʔicibana
 いける〔生ける〕 ʔicijun
 いげん〔威厳〕 kwahwii/ ~のあるさま kwankwan, →おもおもし
 いけんする〔意見する〕 →ʔicini, soodan
 いご〔以後〕 ʔigu
 いこい〔憩い〕 →きゅうそく
 いこう〔威光〕 hwikari, ʔuhwikari
 いこう〔衣桁〕 ʔiikaa
 いこう〔憩り〕 →やすむ
 いごち〔居ごち〕 ʔigukuci
 いこつ〔遺骨〕 kuʃi
 いざ dikajo, dii, →さあ/ ~いざ dikadika
 いさい〔委細〕 ʔisee, →しょうさい
 いさかい mundoo, nanzuu →いいあらし
 いざござ mundoochwindo, →もんちゃく
 いさみたつ〔勇み立つ〕 ʔisamitacun
 いさめる →ʔicini, ちゅうこく

いさり〔漁〕 ʔizai
 いざり〔膝行〕 ʃibinizirii, ʃibisuncaa
 いざりび〔漁火〕 ʔizaibii
 いさん〔遺産〕 ʔuziri
 いし〔石〕 ʔisi/ ~のある小坂 ʔisikubiri/ ~の一種 maaʔisjaa/ ~の舗道 ʔisimici/ ~の門 ʔisikabuizoo, ʔisizoo
 いじ〔意地〕 ʔizi, →かたいじ/ ~がわるい →いじわる/ ~ですること →siiganee, siiganeesii/ ~のある者 ʔizaa, ʔizizuu, ʔizizuumun/ ~を張る者 gaazuu
 いしうす〔石臼〕 ʔisifuusi
 いしがき〔石垣〕 ʔisigaci
 いしがこい〔石囲い〕 ʔisigakui
 いしがっせん〔石合戦〕 miimaaraakuu
 いしきりば〔石切場〕 / ~の穴 ʔisifana
 いしく〔石工〕 ʔisizeeku, ʔisizeekuu
 いしころみち〔石ころ道〕 ʔisikakaraamicu
 いしだん〔石段〕 ʔisikizai
 いしどうろう〔石燈籠〕 ʔisiduuruu
 いしなご ʔisinaguu
 いしばい〔石灰〕 ʔisibee, sirahwee
 いしばし〔石橋〕 ʔisibasi
 いしほとけ〔石仏〕 ʔisibutuki
 いじめる mimizun, siʃikijun/ いじめて追い出す ʔibiriʔnzaszun
 いしゃ〔石屋〕 ʔisizeeku, ʔisizeekuu,
 いしゃ〔医者〕 ʔisja
 いしゅ〔意趣〕 ʔisju
 いしゅうする〔朝集する〕 guzumujun, →あつまる, たかる
 いしょう〔衣裳〕 cincihwada, ʔisjoo, (敬語) ʔwiisjoo, →きもの
 いじょう〔異状〕 (体の~) sawai
 いじょう〔以上〕 ʔwii
 いしょうぼこ〔衣裳箱〕 kee, (敬語) ʔncee
 いじる mutabun, →さわる/ いじりまわすさま mutaaNhwitaaN
 いじわる〔意地悪〕 ʔjanasimuci, →ku Nzoo/ 意地悪く邪魔する者 ʔakumahu-kurugi/ ~なことを言うさま miinucihaa

nanuci/ ~な女 gizaa/ ~者 ?akuma,
kunzoomun
いじん[偉人] qeugawaiimun, suguriNcu
いす[椅子] 'ii
いずみ[泉] ?izun, 'waku
いすわり[居すわり] sicitaku, →いつく
いせい[威勢] ?isii/ ~をつける gaajun
いぜん[以前] hweeku, kuNnagee, →ま
え/ ~から →hweeku, まえまえ
いそいそ ?iQsuikaQsui
いそがしい[忙しい] ?icunasan, →たぼり,
いそぎ[急ぎ] ?isuzi, tadeema [せわしい
いそぐ[急ぐ] ?awatijun, ?isuzun/ 急い
で →soosoo/ いそがせる→せきたてる
いた[板] ?ica, ?ita/ ~のふすま(引戸)
nakabasiru
いたい[痛い] 'janun, →?aQqaa, ?aQkaa
いたいたしい[痛痛しい] ?icasan
いたきれ[板切れ] ?icaziri
いたじき[板敷き] ?icadatan, karajuka
いたずら biQsee, ganmari, ?itazira,
-mutaan, 'wacaku, →tiigoo, tiimu-
taan, tiinuganmari, tin cama/ ~した
りからかったりすること biQseekarakee/
~する tibeejun, 'wacakujun/ ~っ子
'janawarabi, tin camaa
ただきもの[ただき物] ?utabimi?ee-
mun, →もらいもの
ただく kamijun, ?idijun, →はいりよ
う, もらう
いたのみ[板の間] karajuka, →いたじき
いたべい[板塀] hwiigaci
いたまえ[板前] hoocuu
いたみ[痛み] →?ucijan
いたむ[痛む] ?itanun, 'janun, →kami-
rarijun/ ひりひり~ hwiiracun/ ~さ
ま hwisihwisi
いためる[痛める] 'jamasjun
いためる[妙める] ?iricun, tasijun/ い
ため御飯 tasijaa?ubun
いち[1・一] ?ici, tiici, cu-/ ~の糸 'uu-

ziru

いち[市] maci/ ~で一番立派な品 maci-
gasira/ ~のある所(市場) macinumee/
~からの帰り macimudui/ ~の使用料
macigane/ ~の掃除 macisoozi/ ~の掃
除人 macisoozii/ ~のそば macibata
いちいち ?icifici
いちがつ[1月] ?icigwaçi, sjoogwaçi
いちげき[一撃] cubaci
いちこ[市子] 'juta
いちご[一期] ?icigu, →いっしょうがい
いちご[苺] ?icubi/ ~の一種 'jama?icu-
bi, taka?icubi
いちごう[1合] ?icigoo [nakamui
いちごうます[1合枈] ?icigoonakamui,
いちざ[一座] cuzaa
いちじ[一字] cuzii
いちじ[一事] cukutu
いちじ[一時] →しばらく/ ~しのぎ ?icu-
tanuhanSi, →hanSi/ ~のよろこび ?i-
cutabukurasja
いちじゅん[一巡] cumigui, →ひとまわり
いちぜん[一膳] hunpan
いちぞく[一族] →いちもん
いちだい[一代] ?icidee
いちだいじ[一大事] ?icidannakutu, ?ici-
deezi, ?icideannakutu, ?icikuuweekutu
いちだん[一団] →ningu
いちだん[一段] / ~と ?icidantu, →いっ
そう/ ~とよいこと ?icidannakutu
いちだんらく[一段落] katamadooçi
いちど[1度] ?icidu, →どうじ
いちにち[1日] hwiqei, ?icinici/ ~お
き hwiqeiigusii/ ~がかりの畑仕事
hwiqeiibaru/ ~がかりの仕事 hwiqei-
sikuci
いちにちじゅう[一日中] hwizuu, →hwi-
qeiijuqei, しゅうじつ
いちにねん[1, 2年] cututatu

いちにんまえ〔一人前〕 ʔiciniNmee
 いちねん〔1年〕 cutu, ʔiciniN/ ~おき cutugusi/ ~ 目の誕生日 taNkaa
 いちねんじゅう〔1年中〕 ninzuu
 いちば〔市場〕 →いち
 いちばん〔一番〕 ʔiciban, ʔiqcin, muqtuN
 いちばんざしき〔一番座敷〕 ʔuhuʔuza
 いちばんどり〔一番鶏〕 ʔicibanɗui
 いちぶん〔一分〕 ʔicibun
 いちまい〔一枚〕 ʔicimee, →cuciri/ ~着たきりであること ʔicimeemaaminukaa/ ~ しかない着物をきちんと着ること ʔicimeehwiɓpai
 いちまん〔1万〕 ʔiciman
 いちまんがん〔1万貫〕 (銭) ʔicimaŋgwan
 いちもくさん〔一目散〕 ʔiqsan, ʔiqsa-Nbaaee, kusuciribai
 いちもん〔一門〕 cutaruka, cutaruki, ʔicimuN, muNeuu, →muti, 'NcaNtiici, ʔweekaharoozi/ ~で行なう清明祭 ʔicimuNʔusiimii/ ~の集会 →しんぞくかいぎ/ ~の墓 muNeuubaka
 いちもんめ〔1匁〕 ʔicimuNmi
 いちや〔一夜〕 kujuru
 いちやつくさま taqkwaimuqkwai, taqci-kaimuqɓikai
 いちょう〔胃腸〕 →hwii/ ~が弱い hwii-
 いちょう〔銀杏〕 haberubaa ʔjoosaN
 いちり〔1里〕 ʔiciri
 いちりづか〔1里塚〕 ʔicirizika, →çinmaa-
 いちりん〔1厘〕 guNzuu ʔsaa
 いちりんせん〔1厘銭〕 miihugaa, →ʔakazinaa, kurukanii, sjoozinaa, sjoozin
 いちれい〔一礼〕 ʔicirii
 いちわ〔1羽〕 cuhwani
 いつ〔何時〕 ʔiçi, canutuci/ ~か ʔiçika/ ~ごろ ʔiçiguru/ ~も caa, →しじゅう, にちや, ふだん/ ~も…する →ʔaqcuN
 いつ〔五〕 ʔiçi-
 いつか〔五日〕 gunici

いっか〔一家〕 cinee, cucinee, cujaa/ ~中 cineezuu, cujaaniNzu
 いっか〔一荷〕 cukatami
 いっかい〔1回〕 cukeeN, ʔicinuekezi
 いっかしょ〔1箇所〕 cutukuma, cutukuru
 いっかぞく〔一家族〕 →いっか
 いっかん〔1貫〕 (銭) ʔiqkwan
 いっきょく〔1曲〕 cuhusi
 いっきん〔1斤〕 ʔiqcin 「すわり
 いく〔居付く〕 'içiçiuN, 'jaaziçiuN, →い
 いっけん〔1軒〕 cujaa, →mucicirijaa
 いっこく〔一国〕 cukuni
 いっさい〔一切〕 ʔiqsai, maziri, →のこ
 らず/ ~合切 ʔarukasiruka, ʔarumuN-
 neeNmUN
 いっさくさくねん〔一昨昨年〕 'jutu
 いっさくじつ〔一昨日〕 →おととい
 いっさくねん〔一昨年〕 'Ncu
 いっさくばん〔一昨晚〕 cinuunujuru
 いっしき〔一式〕 cukusai
 いっしゃく〔1尺〕 ʔiqsjaku, →siqkaku
 いっしゃく〔1勺〕 ʔiqsjaku
 いっしゅう〔一周〕 cumigui, →ひとまわり
 いっしゅうき〔一周忌〕 'inui/ ~と3年忌:
 'wakaʔusjuukoo
 いっしょ〔一緒〕 cukusai, ʔiqtiN, mama,
 mazUN, mazuUN, →ぐるみ, もろとも/
 ~くた ʔusjaamaatuu/ ~に mazUN,
 mazuUN, suriti/ ~にする ʔusaasjuN,
 ʔusjaasjuN/ ~になる ʔusaajuN, ʔu-
 sjaajuN
 いっしょう〔1升〕 ʔiqsju, →cuwakasi/
 ~だきの鍋 ʔiqsjudaci/ ~はいるとっく
 り cuwakasjaa 「→いちご
 いっしょうがい〔一生涯〕 ʔicimitutuumi,
 いっしょうけんめい〔一生懸命〕 →いのちが
 け
 いっしょうびん〔1升瓶〕 cuwakasjaa
 いっしょうます〔1升拵〕 cooban
 いっしょく〔1食〕 coosii, huNpan/ ~の

いっ

まかない hunpanzikanee
いっす[逸す] -hazakijun, -hazikijun, →
いっすん[1寸] ʔiqsin 上のがす
いっすんぼうし[一寸法師] danccuu
いっせん[1銭] guhjaaku/ ~1厘 gu-
hjaakugunzuu/ ~2厘 mukumui, duq-
peku, ruqpeku, ruqjaku/ ~3厘 duq-
pekugunzuu, ruqjakugunzuu/ ~4厘
nanakumui/ ~5厘 nanakumuigun-
zuu/ ~6厘 'jakumui/ ~7厘 'jakumu-
igunzuu/ ~8厘 kukunukumui/ ~9厘
kukunukumuigunzuu
いっそ tutin, →むしろ
いっそう[1艘] ʔiqsuu
いっそう[一層] 'juku, 'jukun, →いちだ
んと, さらに
いっそん[1村] cumura
いったん[1反] ʔiqtan, →nanahwiru,
nanahwirunnaakari
いっちょうら[一張羅] →ʔicimeehwiqpai,
いっつ[五つ] ʔiqiçi [きたきりすずめ]
いっつい[1対] ʔiqçii
いっつけ[居続け] zurinujaagumai
いっつける[居続ける] →kumajun, いり
いって[一手] cuti じびたる, りゅうれん
いってき[一滴] cutai
いってつもの[一徹者] →がんこもの
いってんばり[一点張り] →zuku, いっぺ
んとう/ ~の者 →zukuu
いっと[1斗] ʔiqtu
いっとう[一刀] cukatana
いっば[1羽] cuhwani
いっばい[一杯] mii, miqcakaan, zinbai,
zinbai, zisaqtu, zunbai, →eucawan,
cumakai, cusakazici, cutaagu, たくさ
ん, みたす, みちる/ ~ないこと 'joonci/
~のお茶 →tiicizaa/ ~の荷物 zinbainii
いっばいきげん[一杯機嫌] saahuuuu
いっばんに[一般に] namiti, →ふつう
いっびき[1匹] ʔiqpici/ 布~ nitançiru-
gi

いっびつ[一筆] cuhudi
いっびょう[1俵] ʔiqppjuu
いっびん[一品] cusina
いっぺんとう[一辺倒] →いってんばり/ ~
となる hwiqkatanancun
いっほ[1歩] cuhwisja
いっほう[一方] cukata, →かたほう/ ~
に偏すること ʔiqpoonkee
いっほん[1本] cumutu, ʔiqpun
いっほんまつ[一本松] ʔiqpunmaaçi
いづらい[居づらい] duumucigurisan
いつわり[偽り] ʔiqiwai, →うそ
いでたち ʔnzitaci
いでん[遺伝] 'juçiri
いと[糸] ʔiicuu/ ~の一種 →hutagu
いど[井戸] kaa, kawa, →tamamizi/
~さらえ kaasaree/ ~の一種 çiiigaa,
hwiizaagaa, kurumagaa, niibugaa
いとう[厭う] ʔitujun, →いやがる, きら
いときりば[糸切齒] ciiba しう
いとぐるま[糸車] 'jaama
いところ[従兄弟・従姉妹] ʔicuku
いところじ[従兄弟小父] ʔicukuuzasaa
いところおば[従姉妹小母] ʔicukuubamaa
いとしご[愛し子] →あいじ
いとなみ[営み] ʔitunami
いとまごい[暇乞い] ʔitumagwii
いとまん[糸満(地名)]/ ~の者 →manku-
usjuu
いどみかか[挑みかか] sikakajun
いとやなぎ[糸柳] ʔitujanazi
いないないばあ tooruwaa, →tooru
いなおる[居直る] ʔiinoojun
いなか[田舎] ʔinaka/ 都に近い~ cika-
ʔinaka/ ~ことば ʔinakakutuba/ ~育
ち ʔinakasudaci/ ~の人 ʔinakanccu/
~風 ʔinakahuuzi/ ~回り ʔinakamaai
いなかもの[田舎者] ʔinakaa
いなご[蝗] ʔnaguraazee, see
いなずま[稲妻] hudii

いなびかり〔稲光り〕 hudii
 いなむら〔稲叢〕 mazin, ʔNnimazin
 いぬ〔犬〕 ʔin, (小児語) ciicaa, 'wan-wan, 'wauwau/ ~と猫 ʔinmajaa, ʔinmaju/ ~の長鳴き tacinaci/ ~の鳴き声 'wauwau/ ~をなだめる声 →ʔweekaʔweeka/ ~を呼ぶ声 ciicaaciicaa
 いぬ〔戌〕 ʔin
 いぬびえ〔植物名〕 minbutukii
 いぬまき〔植物名〕 caagi/ ~の柱 caagibaaja
 いね〔稲〕 ʔNni, →siracani/ ~の種まき taŋtui/ ~の品種の名 koozaa, kurucaani, →siracani
 いねかり〔稲刈り〕 ʔNnikai
 いねむり〔居眠り〕 'iiniibui, →うたたね
 いねん〔遺念〕 ʔinin
 いのあし〔織機具名〕 ʔijanuqkwa
 いのしし〔猪〕 'jamasisi, →ʔaqpajamasisi/ ~の肉 'jamaʔaqtami, 'jamasisi
 いのししもどき〔料理名〕 ʔinamuduci
 いのち〔命〕 ʔinuci, nuci, →mumuci/ ~が縮まる →nuciziru/ ~の緒 nuciziru/ ~の恩 nucinuun/ ~の恩人 nucinuʔuja/ ~の薬 nucigusui/ ~の洗濯 nucinusintaku/ ~を救うこと nucidaʃiki
 いのちがけ〔命がけ〕 nucikaziri, nucitukakugaa/ ~でかかる hatijuN/ ~の働き nuciciribataraci/ ~の仕事 nucisitiwaza 「nucisita, nucisitimun
 いのちしらず〔命知らず〕 hatii, hatimun,
 いのちびろい〔命拾い〕 →nucigahuu, nucinuhuu/ ~の祝い nucinugusjuuzi
 いのつめ〔織機具名〕 ʔijanuqkwa
 いのまま〔意のまま〕 →おもいどおり/ ~にする →marumijun
 いのり〔祈る〕 ʔinujun, →おいのり, おがむ/ ~時の声 ʔaatootu, tootu, ʔuu-tootu

いはい〔位牌〕 ʔihwee, ʔiihwee, diizin, riizin, (敬語) ʔuʔiihwee, guriizin, →tootoomee/ ~の一種 siruʔiihwee
 いばしょ〔居場所〕 'uizu
 いばら〔茨〕 sarakaci 「gaaimun, ʔibajaa
 いばる〔威張る〕 ʔibajuN/ いばっている者
 いびき / ~をかく →hucun
 いふきょうだい〔異父兄弟〕 ʔiceecoodee
 いぶすき〔指宿〕 (地名) ʔibusuci
 いぼ kuçubi, buqtuu, →うおのめ/ ~いぼ buqtuuhwiqtuu
 いま〔今〕 nama/ ~ごろ kunija, nama-guru, namazibuN/ ~に nama
 いま〔居間〕 nakamee, ʃimeeʒa
 いまいましそう / ~にすること biqsuu/ ~な口つき biqsuuguci
 いましがた namagata, namasaci, →さつき
 いましめ〔戒め〕 ʔimasimi, →くんかい
 いまだに〔未だに〕 namadii, →まだ
 いみ〔意味〕 cimuee, ʔimi, 'wacieve, 'waki, 'wakiee
 いみ〔忌〕 ʔimi
 いみあけ〔忌み明け〕 ʔimiʔaki
 いも〔芋〕 →各品種の名を見よ
 いもうと〔妹〕 'winaguʔuqtu, →ʔumi-nai, ʔumiqtu, ʔumiqtuu, ʔuqtu, ʔuqtuunai, 'unai
 いもじょうちゅう〔いも焼酎〕 ʔNmuzaki
 いもの〔辨物〕 ʔimun
 いもり sjoozimajaa, sjoozimujaa
 いや〔否・嫌〕 'Nba, 'NNba, 'NNpa, Npa, -Npaa, →bee, beeru, いいえ/ ~というほど 'Nzadi/ ~な ʔjumu- ʔjun-, →'jana-/ ~な声 'janagwii/ ~な叫び声 'janaʔabii/ ~なにおいがする ʔjunğusa-san/ ~な人間 'janagataa/ ~な目 'janamii/ ~なやつ 'janamuN/ ~に強情なこと (~に強情なもの) 'janasiqpa/ ~になる nirijun

いやいやながら →'Npaanpaa/ ~すること
 と ʔacihatisii, sararaNsii/ ~の仕事
 ʔacihatisigutu
 いやがらせ →siiganee siiganeesii
 いやがる〔嫌がる〕 nisabujun, →いとろ,
 きらろ! ~こと 'Nba, 'NNba, 'Nnpa,
 'Npa, -Npaa, 'Npaanpaa
 いやがる〔居やがる〕 'isikajun
 いやしい〔卑しい〕 kaziraasjan, zibita,
 →げひん, ひわい / ~職業 'janawaza
 いやはや saqtimu, saqtimusaqtimu
 いやらしい hagoosan/ ~者 hagoonun
 いらいら ʔasigacinoori, sikasika, →い
 らだつ, じれったい
 いらか〔薔〕 ʔirica, →かわら
 いらだち cimʔasigaci
 いらだつ ʔasigacun, →いらいら
 いらっしゃる ʔimeen, ʔimeNʂeen, me-
 nʂeen, ʔimeNʂeen, ʔuceei-miʂeen, ʔu-
 ceenʂeen/ ~こと ʔimee, mee
 いらあい〔入相〕 ʔiricee/ ~の鐘 kuzimi
 いらこむ〔入り込む〕 hweerincun, sici-
 kunun
 いろどうふ〔炒り豆腐〕 toohuʔirici
 いろびたる〔入りびたる〕 hwirikumajun,
 hwirikunun, 'jaati sjun, →いつづける
 いろふね〔入船〕 ʔirihuni
 いろふねほっけ〔入船祝〕 ʔirihuniʔuiwee
 いろむこ〔入婿〕 ʔirimuuku, ʔirimuukuu,
 →よろし
 いろめ〔入目〕 cikuri, ʔirimi, munuʔiri-
 mi, →ししゆつ, しゆっぴ, ひよう
 いろよう〔入用〕 ʔirijuu, →ひつよう
 いる〔居る〕 'un, (敬語)ʔimeNʂeen,
 meeN, meNʂeen, ʔimeNʂeen, ʔuceei-
 miʂeen/ 居合わせること 'iiee
 いる〔入る〕 ʔijun
 いる〔要る〕 ʔijun
 いる〔炒る〕 ʔiricun
 いる〔射る〕 ʔijun

いるい〔衣類〕 cincihwada, cincirukaa,
 cirumun, ʔisjoocihwada, →きもの
 いるか〔海豚〕 hwiitu
 入れかえる〔入れかえる〕 ʔirikeejun/ ~
 さま tatikeeʔirikee
 入れがみ〔入れ髪〕 ʔirigan, →かもじ
 入れかわる〔入れ代わる〕 ʔiricigaa-jun
 入れこ〔入れ子〕 ʔiriku
 入れずみ〔入れ墨〕 hazici
 入れめ〔入れ目〕 →ぎがん
 入れもの〔入れもの〕 ʔirimun
 入れる〔入れる〕 ʔirijun/ 入れたまま ʔi-
 ritakii
 いろ〔色〕 ʔiru/ ~が美しい ʔiruzurasan/
 ~つやが出る haneecun/ ~の黒い人
 →ʔaciʔusi/ ~を失う →ʔirusjumoosju,
 ʔirusoomoosoo
 いろ〔情婦〕 →じょうふ
 いろあげ〔色あげ〕 ʔirunoosi/ ~をする
 hweesjun
 いろいろ ʔiruʔiru, ʔirukazi, →さまざま
 / ~な ʔirunna/ ~やってみることに sijo-
 mujoo
 いろろ〔慰勞〕 kutandinoosi
 いろか〔色香〕 ʔiruka
 いろきちがい〔色気違い〕 buraii
 いろごのみ〔色好み〕 ʔiruzici
 いろどり〔色どり〕 ʔirudui, →はいしょく
 いろわけ〔色分け〕 ʔiruwaki, →くべつ
 いわ〔岩〕 ʔiwa, sii, →おおいわ
 いわい〔祝い〕 →おいわい
 いわし〔鯛〕 mizun
 いわれ ʔiwari, →わけ
 いん〔印〕 han, ʔin, →ʔiibiban, 'jama-
 ʔin, ziciʔin
 いんが〔因果〕 ʔingwa
 いんきょ〔隠居〕 ʔincu
 いんけい〔陰茎〕 mara, soo, tani, (小児語)
 euucuu 「kumaami
 いんげんまめ〔隠元豆〕 ʔinzinmaami, ʔu-
 いんせき〔姻戚〕 gweesici, tuzikata, 'wi-

nagunukata, →'inbici, さとかた, は
はかた
インド[印度] →tinziku
いんどうそう[引導僧] tiihwieiboozi
いんとく[陰徳] ?intuku

いんのう[陰囊] hugui
いんぶ[陰部] hazi, mee, hoo
いんもう[陰毛] kuugi 「nuNmizi
いんりょうすい[飲料水] numimizi,
いんれき[陰曆] ?ucinaagujumi

う

う[卵] ?uu
ういきょう(植物名) ?wiicoo 「çingwa
ういご[初子] ?wiingwa, ?wiingwahwa-
ういろもち[外郎餅] ?uiroomuci
ううん 'N>NNN
うえ[上] ?wii, →かみ/ ~の段 ?wiidan/
~の方 ?waara, ?wiimuti, →?wiikata/
~を下への大騒ぎ →?urijookurijoo/
~を向いている者 ?ucagaa, ?ucagee
うえ[飢え] 'ugari, →'jaasan/ ~の苦し
さ 'jaasakurisja
うえきはち[植木鉢] hanabaaci
うえした[上下] ?wiisica, →じょうげ
うえじに[飢え死に] 'jaasazini
うえぼうそう[植痘瘡] zitoo
うえる[植える] ?wiijun
うえる[飢える] 'ugarijun, →'jaasan, は
ら/ 飢えた者 'ugarimuN
うお[魚] →さかな
うおいちば[魚市場] ?ijumaci
うおうさおう[右往左往] tiioosao
うおのめ[魚の目] ?ijunumii
うかがう[伺う] 'jusirijun, ?ukagajun
うかされる[浮かされる] ?ukasarijun
うかぶ[浮かぶ] →りく
うかべる[浮かべる] ?ukabijun, ?ukijun
うき[浮き] ?uki
うきあがる[浮き上る] ?ucagajun
うきうきする[浮き浮きする] ?ukasarijun
うきぐさ[浮草] ?ucigusa

うきたつ[浮きたつ] ?ucitacun
うきな[浮名] ?ucina
うきよ[浮世] ?uciju, →げんだい, このよ
うく[浮く] ?ucun, ?uçoorijun, ?ukabu-
N/ 浮いて広がる tanabicun
うぐいす[鶯] ?uguiši, →coqcongwa/
~の鳴き声 huuhucioo, huuhwiqcoo
うけいれる[受け入れる] tui?ukijun
うけおいしごと[請け負い仕事] ?ukisikuci
うけおう[請け負う] ?ukijun
うけこたえ[受け答え] ?ukihwintoo, ?i-
caihancai, ?ukihanai
うけたまわる[承る] 'ugancumijun
うけとめる[受け止める] ?ukitumijun
うけとり[受け取り] ?ukidui
うけとりにんばらい[受取人払い] mukoo-
baree
うけとる[受け取る] ?ukitujun
うけもち[受け持ち] ?ukimuci
うけもつ[受け持つ] ?ukimucun
うける[受ける] ?ukijun, →koomujun,
(敬語)→ ?uuki
うご[雨後] ?amihuinu?atu
うごく[動く] ?nzucun, ?wiicun, → ?a-
qcuN, kugeejun/ ~こと → kugee, ku-
gee/ 動き回ること ?nzucaahaqtai,
?nzucihai 「dui
うこつけい[烏骨鶏] hukugaa, hukugaa-
うこん(植物名) ?ucin
うさぎ[兎] ?usazi

うさん[胡散] ?usaN, →ふしん(不審)
 うし[牛] ?usi, (小児語) moomoo, ?uu-
 siimoomoo/ ~の鳴き声 'Nmoo/ ~を
 屠殺する者 ?usi?waasjaa/ 突くくせの
 ある~ kamijaa?usi
 うし[丑] ?usi
 うじ[氏] ?uzi
 うじ[蛆] ?uzi
 うしあわせ[牛合わせ] ?usi?aasi/ ~する場
 所, →とうぎゅうじょう
 うしお[潮] sjuu, sjuutaci, ?usju.
 うしかい[牛買い] ?usibakujoo
 うしごや[牛小屋] ?usinuujaa
 うしごろし[牛殺し] ?usi?waasjaa
 うしとら[丑寅, 良] ?usitura 「dii
 うしなう[失う] ?usinajuN/ ~こと→ma-
 うじゃうじゃ gwasagwasa, muzarakwa-
 zara, muzurumuzuru
 うしろ[後] kusi, kusjaa, sirii, →あと/
 ~へさがるさま ?atunainai
 うしろあし[後足] ?atubisja
 うしろすがた[後姿] ?usiruhuuzi
 うしろだて[後楯] (敬語) mikusidaci
 うしろで[後手] /~にしばる →tii
 うす[白] ?uusii, →きらす, つきらす, ひき
 らす/ ~の目立てををする者 ?uusii?arasjaa
 うすあかり[薄明り] →はくめい
 うすあじ[薄味] ?ahwaguci
 うすい[薄い] ?ahwasaN, ?aqsan, ?asa-
 san, hwiqsan, hwişisan, ?uşisan/
 ~布地 →hwişibataa/ ~もの hwişii/
 薄物を通して見える物のかげ hwişikaa-
 gaa/ 薄くなる hwişijun, →?ahwa-
 geejun, ?ahwageerijun
 うすい[雨水] ?uşii
 うすうす[薄薄] ?usu?usu, →かすか
 うずうず muzumuzu
 うすぎたない[薄ぎたない] miizitanasan,
 saahagoosan/ 薄ぎたなくなる 'winca-
 jun

うすきみがわるい[うす気味が悪い] 'joo?u-
 sumasjan, saahagoosan, →きみがわる
 い
 うすぐらい[薄暗い] ?usugurasan, →ci-
 mugurasan/ 薄暗くなる kurazoorijun
 うすのろ[薄のろ] ?usuu, ?usuugwaa
 うすばか[薄ばか] ?usuburimun
 うすべり ?usimaci
 うずまきはなび[うず巻き花火] gansina-
 gwaahjoocaku
 うずまる[埋まる] ?uzumujun, →うずも
 れる
 うずみび[うずみ火] ?uzunbii
 うずめる[埋める] ?Nbeejun, ?uzunun
 うずもれる[埋もれる] ?uzumurijun, →う
 ずまる
 うすよごれする[薄よごれする] 'winca-
 うずら[鶉] ?uzira Ljun
 うすらさむい[うすら寒い] şiiibiisan
 うすわらい[薄笑い] namawaree, ?usuwa-
 ree 「り, おおうそ
 うす[嘘] 'jukusi, 'jukusimunii, →いつわ
 うそつき 'jukusimuniisjaa, →hjaku?icii
 うた[歌] ?uta/ ~で諷刺すること ?uta-
 gaki/ ~のうまい者 ?utaguci/ ~や三
 味線 ?utasansin/ 詩歌・音曲の名な
 ど ?ajagu, çirani, guziNhuu, hama-
 ciduribusu, ha?uta, hwa?uta, hweei-
 ?uta, ?icinkuduci, ?imahuu, kazadi-
 huubusi, kuduci, kunzansabakui, ku-
 rusimakuduci, kutibusu, kweena, mi-
 ci?uta, mucicicaa?uta, naga?ihjabusi,
 nakagusikuhantameebusi, nakahuu,
 nubuikuduci, qkwamucaabusu, qkwa-
 mujaa?uta, mici?uta, ruuka, siciku-
 duci, tabikuduci, ?uhubusi, ?uhuguşu-
 kugweena, ?umui, ?umuigweena, ?u-
 muru, ?unabusu, ?urizingweena
 うたいて[歌い手] ?utasjaa
 うたう[歌う] ?utajuN, →?uta

うたがい〔疑い〕 ʔutagee 「んぎ
うたがう〔疑う〕 ʔutagajun, →はんしんは
うたたね〔うたた寝〕 turuturuuninzi, →い
ねむり/ ~する turumikasjun
うち〔内〕 ʔee, maadu, ʔuci/ ~と外 ʔuci-
huka
うちあける〔打ち明ける〕 ʔuciʔakijun
うちあわせ〔打ち合わせ〕 ciirree, →そらだん
うちあわせる〔打ち合わせる〕 ʔucaasjun
うちうち〔内内〕 neenee/ ~の相談 ʔuciso-
うちうみ〔内海〕 ʔuciʔumi ʔodan
うちかける〔打ち掛ける〕 ʔuqcakijun
うちき〔内気〕 / ~である cimuguusan/ ~
な者 cimuguumun
うちきん〔内金〕 ʔuciba
うちぬく〔撃ち抜く〕 ʔirihugasjun
うちべんけい〔内弁慶〕 ʔjaaʔizaa
うちまくる〔撃ちまくる〕 ʔiritubasjun
うちまたごうやく〔内股膏薬〕 ʔirataacaa
うちみ〔打ち身〕 ʔucici
うちもも〔内もも〕 ʔucimumu
うちわ〔団扇〕 ʔoozi, ʔuciwa, ʔuciwaʔoozi
うちわ〔内輪〕 ʔuciba, ʔuciwaa, →ないじ
ょう/ ~の事 ʔucigutu
うちわた〔打ち綿〕 ʔucibana, ʔuciwata
うつ〔打つ〕 ʔatijun, ʔucun, →たたく,
なぐる
うつ〔討つ〕 ʔucun
うつ〔撃つ〕 ʔijun
うっかり ʔukaitu, ʔukaqtu/ ~できない
ʔjooʔusumasjan/ ~者 sicasjoonugaa,
ʔukaqtuu, ʔuqkaa, →そこつ
うつくしい〔美しい〕 curasan, ʔuziraasi-
gisana, ʔuziraasjan, →cura-, きれい/
~おぐし curaʔuncoobi/ ~着物 cura-
zin/ ~もの curaa/ ~装い curasugai,
(敬語) curaʔwiisugai
うっけつ〔鬱血〕 ciilai, ciihainiihai
うつし〔写し〕 hwikee, ʔucusi
うつす〔移す〕 ʔucusjun, →ʔutijun

うつす〔写す・映す〕 ʔucusjun
うったえ〔訴え〕 ʔuqtai, →そしょう
うったえる〔訴える〕 ʔuqteejun
うっちゃらかす ʔuqceerakasjun, ʔuqtee-
rakasjun, ʔuqteerakijun/ ~こと →
ʔitihoorii
うっちゃる cannagijun, ʔuqcangijun,
→すてる
うって〔討手〕 ʔuqti
うってかわる〔うって変る〕 ʔucikawajun
うつぶす ʔuqcinun ʔjun 「jun
うつぶせ ʔuqcinuu/ ~にする ʔuqcin-
kii
うつむく ʔuqcinun/ ~こと ʔuqcinuu/
うつむいている者 ʔuqcinuu
うつりかわり〔移り変り〕 ʔucirikee
うつる〔移る〕 ʔucijun
うつる〔写る・映る〕 ʔucijun
うで〔腕〕 ʔudi, →tii, かいな/ ~の力 ʔu-
dizikara/ ~の太い者 hwizigeemagii
うでじる〔茹で汁〕 →ゆでる
うでずもる〔腕ずもる〕 →ʔudi
うでつぶし〔腕つぶし〕 hwizigee, hwizi-
kee, tibusi, →わんりょく
うてな〔台〕 ʔutina
うでまえ〔腕前〕 tinami, →さいのり/ ~が
上であること tiiʔwii 「kwa
うでまくら〔腕枕〕 ʔudimakura, ʔudimaq-
うでまくり〔腕まくり〕 →ʔudiʔagisudiʔagi
うでる〔茹でる〕 →ゆでる
うてん〔雨天〕 ʔutin, →あめふり
うとうと turuturu
うどのたいぼく〔うどの大木〕 buragee,
garagwaamagii
うどん cirimuzi
うなぎ〔鰻〕 ʔNnazi
うなされる ʔNbiijun, ʔusaarijun
うなじ〔項〕 kazi, kazigaa, kubigaa, →
ʔNnazi, ʔusiru
うなだれる〔項垂れる〕 ʔuqcinun/ ~こ
と ʔuqcinuu

うなる →duunii 「rasju
 うに〔雲丹〕 gacicaa/ ~の塩辛 ciiruka-
 うぬぼれ duu?agami, duu?ujamee
 うぬぼれる najagajun/ うぬぼれた者 na-
 うねめ〔采女〕 guşikuncu [?jagamun
 うのはな〔卵の花〕 toohunukaši
 うば〔乳母〕 ?anmee, cii?an, cii?anmee,
 cii?uja, →?anaa 「karakee
 うばいあい〔奪いあい〕 baakee, →baakee-
 うばいとる〔奪い取る〕 kunsugujun, kun-
 tujun, ?nbaitujun, ?wii?utusjun, →
 とる
 うぼう〔奪う〕 boojun, ?nbajun, →とる
 うぶぎ〔産着〕 ?nbuzin
 うぶげ〔産毛〕 →hukugii
 うぶぞり〔産剃り〕 boozinadii
 うぶたちのいわい〔産立の祝〕 mansan
 うぶゆ〔産湯〕 ?nbujuu
 うま〔馬〕 ?Nma, (小児語) ?Nma?Nmaa,
 →hai?Nma, nii?uusaa, nui?Nma/ ~の
 口にかける袋 ziibu/ ~の鳴き声 miilha-
 haa, mihaahaa/ ~の腹帯 harabi, ha-
 rubi
 うま〔午〕 ?Nma/ ~の方角 ?Nmanuhwa
 うまい maasan, →baci, zoozi, おいし
 い/ ~ものmaasamun/ うまく行く dika-
 sjun, dikijun/ うまく行かない ?jandi-
 jun/ うまく行くこと dikasi/ うまくやる
 siinasjun/ うまそうに maakumaaku
 うまうまと ?amakutaraku
 うまかた〔馬方〕 ?Nmahwicaa, ?Nmamu-
 うまごや〔馬小屋〕 ?Nmanujaa [ca
 うまずめ〔石女〕 ?Nmazirimun
 うまのり〔馬乗り〕 matanui, ?Nmanui,
 ?Nmanujaa
 うまや〔厩〕 ?Nmanujaa
 うまる〔埋まる〕 ?uzumujun, →うずもれる
 うまれ〔生まれ〕 ?Nmarī, →すじょり/ ~が
 高い ?Nmaridakasan, →saadaka?Nma-
 ri

うまれかわる〔生まれ変わる〕 ?Nmarikaa-
 jun
 うまれこきょう〔生まれ故郷〕 ?Nmariku-
 coo, →?Nmarizima, こきょう
 うまれつき〔生まれつき〕 ?Nmarizici, →そ
 しつ, てんぶん/ ~の心 ?Nmarizimu/
 ~の性質 ?Nmarisjoosiçi
 うまれる〔生まれる〕 ?Nmarijun, (敬語)
 ?idijun, →?uqtu/ 生まれた年 ?Nma-
 ridusi, sjoonin, (敬語) gušjoonin/ 生
 まれた部落 ?Nmarizima/ 生まれた日
 ?Nmaribii, →tankaa
 うみ〔海〕 ?umi, →tukee, tunaka, ?uutu/
 ~の歩いて渡れるところ sjuuwatai
 うみ〔臍〕 ?Nmi, ?Ncu, sigaziru
 うみおとす〔産み落す〕 nasi?utusjun, →
 うむ, しゅっさん, ぶんべん
 うみかぜ〔海風〕 ?umikazi
 うみがめ〔海亀〕 ?umigaamii
 うみづき〔産み月〕 nasizici, sanzici
 うみのおや〔産みの親〕 nasi?uja
 うみのこ〔産みの子〕 nasigwa, nasimun-
 nuqkwa, sjoongwa
 うみべ〔海辺〕 ?umibata
 うみまつ〔海松〕 ?umimaaçi
 うむ〔産む〕 nasjun, (敬語) →?idasjun,
 ?uqtu, しゅっさん, ぶんべん/ 産み終わ
 る nasi?agajun/ 産み育てること nasi-
 sudati/ 産みふやすこと nasihwirugi
 うむ〔臍む〕 ?Nbeejun, ?Nnuun/ 臍んでく
 うめ〔梅〕 ?Nmi [ずれる ?Nmikucun
 うめきごえ〔うめき声〕 / ~を発するさま
 うめく →duunii [→duunii?kamanii
 うめしゅ〔梅酒〕 ?Nmizaki
 うめぞめ〔梅染〕 ?Nmizumi
 うめたてち〔埋立地〕 gata
 うめほし〔梅干〕 ?Nmibusu
 うめる〔埋める〕 ?Nbeejun, ?uzunun
 うやまう〔敬う〕 ?ujamajun, ?usurijun,
 →とらとぶ/ ~こと ?usuri

うようよ gwasagwasa, mujamuja
 うら〔裏〕 sirii, Yura/ ~から言うこと Yurancimunii, Yuranucimunu?ii
 うら〔末〕 →こずえ
 うらうち〔裏打ち〕 YuraYuci/ ~する →
 うらおもて〔裏表〕 YuraYumuti 〔Yura
 うらがえし〔裏返し〕、keesimaa, YuraYumuti
 うらがえす〔裏返す〕 Yuqceesjun, Yurageesjun, →ひっくりかえす/ ~さま Yuqeechwiqcee
 うらがえる〔裏返る〕 Yuqceejun, Yurageejun, →ひっくりかえる
 うらがなしい〔うら悲しい〕 cimucaaganasan/ ~こと Yuraçirasa
 うらぎる〔裏切る〕 Yuqceejun
 うらざしき〔裏座敷〕 Yuraža
 うらさびしい〔うら寂しい〕 cimusikarasaan, kukutirusan, →ものさびしい
 うらじ〔裏地〕 Yurazi
 うらど〔裏戸〕 subedu
 うらない〔占い〕 Yuranee, →tuci, tucitui, tuciYura, えき
 うらなり〔未成り〕 simunai, suuranai
 うらはら Yurahara, →さかさま
 うらべや〔裏部屋〕 →kuui
 うらぼんえ〔盃盆会〕 →ぼん
 うらみ〔恨み〕 Yurami
 うらむ〔恨む〕 Yuranun, →niitasan
 うらめしい〔恨めしい〕 niitasan, →ramisja
 うらもん〔裏門〕〔敬語〕 Yuzoogwaa
 うらやましい Yureemasana/ うらやましそ
 うりに見る manZun
 うり〔瓜〕 ?ui
 うりあげだか〔売り上げ高〕 ?uidaka
 うりざね〔瓜実〕 ?unZani
 うりさばく〔売りさばく〕 ?uisabacun
 うりふたつ〔瓜二つ〕 çiratiiçi, →そっくり
 うりもの〔売りもの〕 ?uimun

うる〔売る〕 ?ujun
 うるうづき〔閏月〕 ?junZici, ?uruzici
 うるうどし〔閏年〕 Yurudusi
 うるおい〔潤い〕 Yurii
 うるごめ〔粳米〕 →うるち
 うるさい ?janagamasjan, ?jungasimasjan, kasimasjan, mincasan, mimi-gasimasjan, →さわがしい, やかましい
 うるし〔漆〕 Yurusi
 うるしぬり〔漆塗り〕 Yurusinui, →しっき
 うるしまけ〔漆負け〕 Yurusimaki
 うるち〔粳〕 sakugumi, sakumee
 うれい〔憂い〕 Yurii
 うれいくるしむ〔憂い苦しむ〕 →?ucikurisja
 うれしい〔嬉しい〕 hukurasjan, ?uqsjan, →?uugutu, たのしい, よろこび/ ~こと
 悲しいこと ?uqsjanaçikasja/ られしそ
 りである ?uqsjagisan/ られしそりな
 さま ?uqsja?uqsjaa, →きんきじゃくやく
 うれしさ〔嬉しさ〕 ?isjoosja, ?urisja, →
 ?uqsjahukurasja, よろこび
 うれのこり〔売れ残り〕 ?uinukusi, →?uq-
 ciri
 うれる〔売れる〕 Yurijun
 うれる〔熟れる〕 ?Nnun, →じゅくす
 うろうろ →?amazicikaa/ 身辺を~するさ
 ま sirihwicimeehwici
 うろおぼえ〔うろ覚え〕 Yuru?ubii
 うろこ〔鱗〕 Yirici
 うろたえる dumaNgwijun, maNgwijun,
 sawazun, sjoonugijun, zamadujun,
 →あわてる/ ~こと(~さま) dumaNgwi-
 cimangwi, maNgwi, tiimaamaa, tioo-
 saoo, tunuumanuu, zamadui, zama-
 duikaa, zamaduikaadui/ うろたえさせ
 る dumaNgwasjun
 うわおき〔上置き〕 ?waaYuci
 うわがき〔上書き〕 ?waagaci
 うわき〔浮気〕 /~である cimufasasan

うわ

うわくちびる〔上唇〕 ?waaʃiba
うわごと taakutu
うわさ sata, tuisata, ?utu, →kuciʃiba,
qeu, →ひょうばん
うわて〔上手〕 tii?wii
うわに〔上荷〕 ?waanii
うわぬり〔上塗り〕 ?waanui/ ~をする da-
mijun
うわば〔上歯〕 ?wiibaa
うわべ〔上辺〕 ?waabi, →ひょうめん/ ~
だけの交際 ?waabibiree/ ~を飾る者
?waabicuraa
うん(返事) →はい

うん〔運〕 suu, ?un, ?unci, ?unsuu, →
husi, ?uncihwinci, うんめい, てんうん/
~がよい →huu/ ~のよい人 huuniN/
~よく命が助かること nucigahuu, nuci-
nuhun, →こううん
うんこ ?Nna
うんせい〔運勢〕 →うん
うんちん〔運賃〕 ?uncin, →çimidima, ka-
tamidima, ?uusidima
うんと ?umiciqtu, maakuqsa, maakusa,
'Nzadi, →たくさん
うんめい〔運命〕 çizisuu, mii, tinsuu,
?unsuu, →うん, てんめい

え

え〔柄〕 'wii
え〔絵〕 'ii, →kata
えい(感動) hija
えいが〔映画〕 →かつどうしやしん
えいきゅうし〔永久歯〕 miikaabaa
えいこく〔英国〕 →イギリス
えいずる〔詠ずる〕 ?utajuN, →よむ
えいよう〔栄養〕 / ~不良 kamiburaari/
~物 kunci?uzinii, ?uzinii, →tiigusui,
?uziniigusui/ ~をとる ?uzinajun
えいり〔鋭利〕 →するどい
ええ(返事) →はい
えがお〔笑顔〕 'wareegau
えかき〔絵かき〕 'iikaci
えがらっばい kuciwiigoosaN, 'wiigoosa-
N/ ~もの 'wiigoomuN
えき〔易〕 'ici, →うらない
えき〔益〕 'ici, sjuutuku, →とく, りえき/
~のない →'juucira
えきしゃ〔易者〕 ciitatijaa, munusiri, sa-
nzinsoo/ ~の判断 hanzi
えきたい〔液体〕 siru
えぐい kuciwiigoosaN, 'wiigoosaN/ ~も

の 'wiigoomuN
えくぼ huukubuugwaa
えぐる〔剝る〕 'wiigujun
えこひいき katabiici, →ひいき
えざ〔餌〕 mundani, →しりょう
えだ〔枝〕 'ida, 'juda
えだは〔枝葉〕 'idahwaa, 'judahwaa
えだぶり〔枝ぶり〕 'idamuci, 'judamuci
えっちゅうふんどし〔越中ふんどし〕 mee-
caasanazi
えて〔得手〕 →とくい
えど〔江戸〕 'idu
えとく〔会得〕 tui?uki, →しゅうとく/ ~す
る tui?ukijun
えのき〔榎〕 biNgi
えのぐ〔絵の具〕 'inugu
えび〔蝦〕 ?ibi/ ~の一種 seegwaa, sira-
see, tanagee
えふで〔絵筆〕 'iihudi
えもんざお〔衣紋竿〕 narasi
えら〔鰐〕 ?azi
えらい〔偉い〕 muçikasjan, →すぐれる/
~事 ciweekutu, cuweekutu/ ~ものci-

weemuN, cuweemuN/ 偉く zikoo/ 偉
 そうにしている者 takaʔucagaa/ 偉そう
 にする takabijun
 えらび出す〔選び出す〕 ʔirabiʔNzasjun
 えらぶ〔選ぶ〕 ʔirabun/ 選ばれた人々 ʔi-
 rabininʔu/ 選びすぎる ʔirabiʂizijun
 えらぶうなぎ ʔirabuu/ ~を煎じた汁 ʔi-
 rabuusiNzi
 えり〔襟〕 ciNnukubi, husumuN, kubi,
 'wiiri/ ~が首の内側に曲がること kaa-
 miNkuubi
 えりあし〔襟足〕 ʔusiru
 えりかたあげ〔襟肩明け〕 'wiiri
 えりごのみ〔選り好み〕/ ~しすぎる ʔira-
 biʂizijun
 えりした〔襟下〕 ʔasagi
 えりのこし〔選り残し〕 ʔirabinukusi
 えん〔縁〕 'in, (敬語) guin, →buçiin, く
 されえん
 えん〔円〕 maru
 えんえんと〔延延と〕 →çirinagaanagaa
 えんかい〔宴会〕 sankwee, →しゅくえん
 えんがわ〔縁側〕 'iin 「bijun
 えんき〔延期〕 hwinubi, nubi/ ~する nu-
 えんぎ〔演技〕 nuza

えんぎ〔縁起〕→ごへいかつぎ/ ~のよいこ
 と 'iikutu, kari, karijusi/ ~の悪いこと
 を言うこと 'janamunii, 'janamunuʔii
 えんぐみ〔縁組〕 'ingumi
 えんげい〔演芸〕 →ʔaʂibi, nuhwa/ ~が
 らまい ʔaʂibizurasaN/ ~をする広場
 ʔaʂibinaa
 えんこ〔縁故〕 hwici, 'inbici, tajui, taju-
 ihwici
 えんざい〔冤罪〕 sakagaçimi
 えんじゃ〔縁者〕→えんこ
 えんじょ〔援助〕 hwici, kasii, ʔujagi, →
 かせい, たすけ/ ~する ʔujagijun
 えんだん〔縁談〕 ʔiikwii/ ~の申し込みを
 する者 'iijaa
 えんちょう〔延長〕 nubi, →えんぎ
 えんどうまめ〔えんどう豆〕 ʔinduu, ʔin-
 duumaami
 えんとつ〔煙突〕 hwiitatii
 えんぼう〔遠方〕 'inpuo, kaama
 えんまおう〔閻魔王〕 'inmaoo
 えんりょ〔遠慮〕 'inru, ʔukeeiʔumii, →き
 がね, じたい/ ~する ʔukeejun
 えんろ〔遠路〕 tuumici

お

お〔尾〕 zuu/ ~の無いもの zuumuqkaa,
 zuumuqkoo/ ~を振ること zuubui, zuu-
 hui
 お〔御〕 ʔu-, →ʔi-, み
 お〔雌〕 →おす
 おあいする〔お会いする〕 →あう
 おあがめ〔御あがめ〕 →あがめる
 おあつらえ〔お誂え〕 →あつらえ
 おありになる →ある
 おあるきになる〔お歩きになる〕 ʔwaacimi-

seen, →あるく
 おい〔呼掛け〕 daa, ʔee, hei, 'jai/ ~おい
 ʔeeʔee
 おい〔甥〕 'wii, 'wiiqkwa/ ~と姪 miiwii-
 qkwa
 おいおい〔泣くさま〕 siqkweehaqqwee, si-
 qkuihaqqui, 'weewee, →なく
 おいおとす〔追い落とす〕 ʔwiiʔutusjun
 おいかける〔追いかける〕 ʔwiiçikijun, →
 おう/ 追いかけられる ʔwaarijun

おい

おいこす〔追い越す〕 kuNnuzUN, ʔwiiku-
NnuzUN, ʔwiinuzUN

おいしい maasan, ʔUNsiraasjan, →ku-
cimaasan/おいしそうに maakumaaku/
～おいしい kwaqciikwaqci/ ～もの
maasamUN

おいしげる〔生い茂る〕 →しげる, はえる

おいだす〔追い出す〕 ʔwiiʔNzasjUN, →つ

おいたち〔生い立ち〕 →せいちょう しいほう

おいたつ〔生い立つ〕 →せいちょう

おいたてる〔追い立てる〕 ʔwiitatijUN

おいちらす〔追い散らす〕 ʔwaagijUN,
ʔwiicirakasjUN, ʔwiigusicirakasjUN

おいつおわれつ〔追いつ追われつ〕 ʔuuee-
kuuee 「eUN

おいつく〔追い付く〕 ʔwiiçikijUN, ʔwiiçi-

おいてきぼり ʔuqçangiirii

おいでになる ʔimeen, ʔimeNşeen, me-
en, menşeen, ʔmenşeen, ʔuceemi-
şeen, ʔuceenşeen/ ～こと ʔimee, mee

おいぬく〔追い抜く〕→おいこす

おいのり〔お祈り〕 kaminige, ʔunihwee,
ʔunjuhwee, ʔunuhwee, →ʔjuçinuʔu-
njuhwee, きがん, きとろ

おいはい〔御位牌〕 →いはい

おいはぎ〔追いはぎ〕 hweeree, →さんぞく

おいはらう〔追い払う〕 ʔwiihoojUN, ʔwaa-
gijUN, →tukurubaree, おいたてる, お
いちらす, けちらす / ～声 siqsiq

おいほれ〔老いほれ〕 ʔuhuzaa, →kiihagi-
mootui, →もうろく, ろろすい

おいまさる ʔwiiʔNzijiUN, →せいちょう /
～こと ʔwiimasai

おいまわす〔追い回す〕 /～さま ʔwiiçiki-

おいめい〔甥姪〕 miiwiiqkwa 〔maaçiki

おいる〔老いる〕 ʔwiiijUN

おいわい〔お祝い〕 gusjuuzi, gusuuzi, ʔi-
wee, ʔjuuwee, ʔuiwee, ʔujuwee/ ～
の宴 sjuuzi/ ～のごちそう ʔuhurumee

おう〔王〕 'oo, (敬語) nuumeeganasi,

sjuitinganasi, sjunzanasi, tingana-
si, tinzanasi ʔucinaaganasii, ʔusju-
ganasiimee, ʔusjuu/ ～の行列に演じる
音楽 ruzigaku/ ～の乗物 ʔucuu/ ～の
乗物をかつぐ者 ʔucuuhu/ ～の墓 tama-
ʔudUN/ ～の別荘の名 ʔucajaʔudUN/
～の婿 (敬語) ʔwiiʔweeʔumuuku/～の
妾 çuma, huzin, →ʔajaaʔansirari,
ʔajaamee/ ～の妾選び 'unazaraʔusira-
bi/ ～の礼服 ʔumantUN/ ～への奉公→
sjuiganasimedei, sjunzanasimedei

おう〔追う〕 ʔuujUN, →おいかける/ 追わ
れる ʔwaarijUN

おう〔負う〕 kanzUN, ʔuujUN, →せおう/
負わせる ʔuusijUN, →ʔuusikansijUN

おうえん〔応援〕 →かせい

おうかん〔往還〕 →かいどう

おうかん〔王冠〕 →かんむり

おうぎ〔扇〕 ʔoozi, →うちわ/ ～の骨 ʔoozi-
nuhuni/ ～を持って舞う舞い ʔoozimee

おうし〔牡牛〕 kutiiʔusi, 'uuʔusi

おうじ〔王子〕 'oozi/ ～の家柄(～の御殿)
'ooziʔudUN

おうしゅう〔応酬〕 ʔicaihancai

おうじょ〔王女〕 →ʔuminaibi/ ～の夫 (敬
語) ʔwiiʔweeʔumuuku

おうじる〔応じる〕 'uuzijUN

おうたい〔応対〕 ʔukihaNsi, →うけこたえ
/ ～を乞うこと munusirari

おうだん〔黄疸〕 'oodan

おうとう〔応答〕 ʔireehwizi, ʔireekutee,
ʔukihwintoo, →うけこたえ, へんとう

おうひ〔王妃〕 hwii, 'oohwi, (敬語) ʔuhwi,
ʔuhwii

おうふ〔王府〕 →kuuzi

おうふく〔往復〕 ʔicimudui, ʔjuqçai, 'oo-
huku, →mudusi, tunmudujaa

おうへい〔横柄〕 meeʔagai, meegai, →そ
んだい/ ～な者 cigweeimUN, ciigwee-
mun/ ～になる cigweejUN, meegajUN

おうぼう〔横暴〕 'oogai
 おうまれになる〔お生まれになる〕→うまれる
 おうらい〔往来〕 'ooree, →Qeuʔasi
 おえる〔終える〕 siiʔuwajuN, ſimasjuN,
 ʔucinasjuN
 おお〔感動〕 →ああ, おや
 おお〔けんかの時などの返事〕 ʔiihjaa
 おお〔大〕 ʔuhu-, →'jatu-
 おおあたま〔大頭〕 ʔuhuɕiburu, ʔuhuɕi-
 buraa
 おおあめ〔大雨〕 deeʔu, ʔuhuʔami
 おおあて〔大あて〕 →ʔawatiihjaatii,
 ʔaweesjukwee, あわてる
 おおい〔多い〕 ʔuhusaN/ ~が勝ち ʔuhu-
 saagaa/ ~少ない ʔikirasaʔuhusa
 おおい〔覆い〕 →kabui
 おおいおおい〔呼び声〕 ʔeeʔee
 おおいそぎ〔大急ぎ〕 →ʔawatiihjaatii,
 ʔawatinoori
 おおいなる〔大いなる〕 →ʔuhwisaN
 おおいに〔大いに〕 dateen, ziiBUN, zikoo,
 →たいへん
 おおいのしし〔大いのしし〕 →ʔaQpajama-
 おおいわ〔大岩〕 ʔuhusi [sisi
 おおう〔覆う〕 ʔusujuN, →かぶせる, しや
 へい/ おおわせる ʔusaasjuN
 おおうそ〔大うそ〕 ʔuhujukusimunuʔii
 おおうなばら〔大海原〕 →kurusjuʔoosju,
 おおうみ〔大海〕 →たいかい [たいかい
 おおおくさま〔大奥様〕 ʔuhuʔajaamee
 おおおじ〔従祖父〕 'uzihuzitanmee
 おおおとこ〔大男〕 'jatumuN, 'jatuu, →
 ʔuhuwikiga
 おおおば〔従祖母〕 'ubahanzansiimee,
 'uzihuziʔNmee
 おおおび〔大帯〕 ʔuhuʔuubi
 おおおんな〔大女〕 →ʔuhuwinaɡu
 おおかせ〔大風〕 teehu, ʔuukazi
 おおかた〔大かた〕 'iikuru, tabuN, ʔuu-
 kata, →たぶん

おおがら〔大柄〕 ʔuhuʔaja/ ~の着物 ʔu-
 huʔajaziN
 おおきい〔大きい〕 magisaN, ʔuhwisaN,
 →きょだい/ 大きく dateen, magimagii-
 tu/ 大きくする ʔwaasjuN/ 大きくなり
 過ぎる ʔarageejuN, ʔarijuN
 おおきな〔大きな〕 ʔuhu-, →きょだい/ ~
 家→ʔuhucinee, ʔuhuzinee/ ~お祝い
 ʔuhugusjuuuzi/ ~落しもの ʔuhumunu
 ʔutusi/ ~重荷ʔuhuʔNbusi/ ~顔 ɕira-
 waa/ ~口 ʔuhuguci/ ~口をしたもの
 ʔuhugucaa/ ~事 ʔuhwiikutu/ ~魚
 ʔuhuʔiju/ ~寝息ʔuhuniici/ ~腹 ʔuhu-
 wata/ ~船 ʔuhubuni/ ~店 ʔuhuma-
 cija/ ~飯→ʔuhumeejatumee/ ~餅→
 'jatumuci/ ~もの dateemaa, magii
 おおぎんたま〔大擧丸〕 'jaQkwanaa, ʔu-
 hujaQkwanaa, ʔuhukuugaa
 おおく〔多く〕 →たくさん
 おおぐい〔大食い〕 ʔabaraa, teesjuku,
 ʔuhuwataa [ɕucaa
 おおぐち〔大口〕 ʔuhuguci/ ~の者 ʔuhu-
 おおげさ〔大げさ〕 →ぎょうさん/ ~である
 ririQsaN, →ʔiidataasjan/ ~な hagoo-
 rii/ ~な言い方 ʔiidati, →たいげんそ
 うご/ ~に言う ʔiitatijun
 おおごえ〔大声〕 magigwii, ʔuhugwii
 おおごと〔大ごと〕 deezi
 おおざけ〔大酒〕 ʔuuzaki/ ~をのむ →ka-
 ſijun [gaami
 おおざけのみ〔大酒飲み〕 ʔuuzaki, 'wari-
 おおざら〔大皿〕 →haaci
 おおさわぎ〔大騒ぎ〕 ʔuumusageei, →ʔu-
 rijookurijoo, さわぎ
 おおじょたい〔大所帯〕 ʔuhucinee, ʔuhu-
 zinee, ʔuhujaaniŋzu
 おおすぎ〔多過ぎ〕 →kwaa, ちょうかする
 おおせ〔仰せ〕 mjuŋcigutu, nuncigutu,
 ʔwiisi, ʔwiisigutu, →おおせられる
 おおぜい〔大勢〕 ʔuhuniŋzu, →buriniN-

おお

zu/ ~の家族 ?uhujaaniNzu
 からおせられる〔仰せられる〕 mişeen, ?wii-
 simişeen, →いり, おおせ
 からおたにわたり〔植物名〕 hwiramusiru,
 hwiramusiruu
 からおつづみ〔大つづみ〕 ?uuçiziN
 からおづなひき〔大綱引き〕 ?uunna, →?ai-
 zoo?uunna
 からおつづ〔大粒〕 /~の雨 ?uhuçiburu?ami
 からおてがら〔大手柄〕 ?uutigara
 からおどおり〔大通り〕 ?uuduui, ?uhumici
 からおどしより〔大年寄り〕 ?uhudusjui
 からおどろぼう〔大泥棒〕 ?uhunusudu
 からおなべ〔大鍋〕 →sannaameenaabi
 からおにんずう〔大人数〕 →おおぜい
 からおばかも〔大馬鹿者〕 ?icigudun
 からおばこ〔車前草〕 hwirahwagusa, hwi-
 ruhwagusa
 からおはじ〔大恥〕 ?icihazı
 からおはば〔大幅〕 ?uhuhaba
 からおはまぼう〔植物名〕 ?juuna/ ~の葉
 ?juunaagaasja
 からおひらわん〔大平碗〕 ?uuhwira
 からおひろば〔大広場〕 ?uuhwiruzı
 からおひろま〔大広間〕 ?uuhwiruzı
 からおぶた〔大豚〕 ?jatu?waa
 からおぶね〔大船〕 ?uhubuni
 からおみず〔大水〕 ?uumizi
 からおみそかのぼん〔大みそかの晩〕 tusinu-
 juru 「si
 からおむかし〔大昔〕 kamigudee, ?uhunka-
 からおむぎ〔大麦〕 ?uhumuzı
 からおもいになる〔お思いになる〕 ?usoozi-
 mişeen, →おかんがえ, おもう
 からおもうけ〔大もうけ〕 ?aramookı
 からおもん〔大門〕 ?uhu?uzoo
 からおよくばり〔大欲張り〕 ?uhujukuu
 からおよそ〔大よそ〕 →だいたい
 からおわらい〔大笑い〕 ?uhuwarec/ ~する
 さま sicirihweeri

おか〔丘〕 muı
 おか〔陸〕 ?agi 「おや
 おかあさん ?ajaa, ?anmaa, →はは, はは
 おかえし〔お返し〕 çikitudukı, keesi, rii-
 zigeesi, ?uçiri, ?uçirikeei, →へんさい,
 へんれい
 おかお〔お顔〕 →かお
 おがくず kiikaşı
 おかくれになる ?ukumuimişeen, ?uşızi-
 rimişeen, →しぬ
 おかげ〔お蔭〕 ?ukazi, →huki, めぐみ
 おかご〔御駕籠〕 →かご
 おかさ〔お傘〕 ?uncitaka
 おかざり〔お飾り〕 ?ukazai, →おそなえ,
 かざり/ ~の紙 ?ukazaikabi
 おかしい 'ukasjan, →こつけい
 おかじょうき〔陸蒸気〕 ?agihwiigurumaa
 おかず katımun, ?umawai, (敬語) 'nea-
 timun/ ~にする katijun/ ~の少ない
 食べ物 →sabımun/ ~のない飯 kara-
 mun
 おかっぱ kantaa, kantuu, →kantuu-
 mee
 おかね〔お金〕 zin, (小児語) ziınuu, →か
 ね, ぜに
 おかま〔お釜〕 →かま
 おかみさん ?ansii, ?ansimee, ?ansira-
 ri, ?ansitaree, →おくさま, ごないぎ
 おがむ〔拜む〕 'uganun, →いのる/ ~こと
 ?unihwee, ?unjuhwee, ?unuhwee, →
 ?juçinu?unjuhwee/ ~時の声 ?aatootu,
 tootu, ?uutootu
 おかめ〔阿亀〕 sjadaNnu?utuu?nmii, →
 çiratamajaa 「しっと
 おかやき〔岡焼き〕 biqsuu, →?uragoosa,
 おかゆ →かゆ
 おから toohunukaşı
 おからだ〔お体〕 →からだ
 おがわら〔牡瓦〕 'uugaara
 おかわり〔お代わり〕 şeesin, (敬語) ?uşe-

esiN/ ~をする ʔirikeejun/ ~をするさま
 ま→tatikeeʔirikee
 おかん〔悪寒〕 hwiisanuu
 おかんがえ〔お考え〕 →おおもいになる、かんがえ
 おき〔沖〕 tunaka, tuu, →ʔoosjukurusju, ʔuuci, ʔuutu
 おき〔燠〕 ʔuciri, →おきび
 おき〔置き〕 -gusi
 おきあい〔沖合〕 tunaka, →おき
 おきあがりこぼし〔起き上り小法師〕 ʔuqei-rikubusi
 おきえらぶじま〔沖永良部島〕 ʔirabu
 おききになる〔お聞きになる〕 ʔunnjukajun, ʔunnukajun, →きく
 おきさき〔御后〕 →おろひ
 おきざり〔置き去り〕 ʔuqcaŋgiirii
 おきて〔掟〕 ʔuciti, →きそく, きまり
 おぎない〔補い〕 tasi, →たしまえ
 おぎなう〔補う〕 tareejun, →ʔuzinajun, ついかする/ ~こと ʔuʂiitaree/ 補い合うさま cuitareedaree
 おきなわ〔沖繩〕 ʔucinaa/ ~産の米 simagumi/ ~本島 ʔuhuzi, zizi/ ~本島内 ziziʔuci
 おきなわご〔沖繩語〕 ʔucinaaguci
 おきにいり〔お気に入りに〕 eiiʔiri
 おきぬけ〔起きぬけ〕 ʔukizamanizama
 おきび〔焔火〕 ʔuciribii, →おき
 おぎゃあおぎゃあ ʔngaaʔngaa
 おきやく〔御客〕 →きやく
 おきやくさまごっこ〔御客さまごっこ〕 ʔuhurumentaa
 おきょう〔御経〕 coomun/ ~の声 noonin-kwaanin
 おきる〔起きる〕 ʔukijun, ʔukujun, ʔukurijun, →ʔukiʔnzijun/ 起きたとたん ʔukizamanizama 「zoo
 おく〔奥〕 ʔuuku/ ~にある門 →ʔukuʔiri-
 おく〔置く〕 'isiyun, ʔucun, →ʔucikijun

おく〔措く〕 ʔucun
 おくがた〔奥方〕 ʔaqtoomee, 'unazara, →おくさま/ ~様 ʔaqtoganasiimee
 おくさま〔奥様〕 ʔajaamee, guneezi, ʔumanii, 'unazara, →おかみさん, おくがた
 おぐし〔御髪〕 mjuncoobi, nuNcoobi, ʔuncoobi, →かみ
 おくする〔臆する〕 duuzijun
 おくそく〔臆測〕 cimufatigee, saqcuu/ ~
 でのを言うこと saqcuumunuʔii
 おくち〔お口〕 mikuci, →くち
 おくない〔屋内〕 'jaanuʔuci
 おくのて〔奥の手〕 ʔukudi
 おくば〔奥歯〕 ʔuukubaa, →きゅうし
 おくびょう〔臆病〕 →しょうしん/ ~である sikasan/ ~なさま sikankaa/ ~そりに目をきよろつかせること sikamiiguru-guru/ ~になる sikanun
 おくびょうもの〔臆病者〕 sikaa, sikamun
 おくみ〔衿〕 'Nni
 おくやま〔奥山〕 ʔukujama
 おくやみ〔お悔み〕 kujami
 おくらせる〔遅らせる〕 ʔukurajun
 おくりかえす〔送り返す〕 ʔukuikesjun
 おくりじょう〔送り状〕 →ʔukuizoo
 おくりぜん〔送り膳〕 ʔukuiʔuzin
 おくりもの〔贈り物〕 nasaki, ʔukuimun,
 おくる〔送る〕 ʔukujun ↳→しんもつ
 おくれる〔遅れる〕 ʔukurijun
 おけ〔桶〕 taagu, 'uuki, →'uuguci/ ~の一種 cuuzidaree, haziuuki/ 標準型の ~zoomataagu/ 小さい ~'uukigwaa
 おけつくり〔桶作り〕 'uukijuuja
 おこうろ〔御香炉〕 ʔukooro
 おごけ〔麻小筍〕 'uuguci
 おこころ〔お心〕 ʔuzimu, →こころ 「し
 おこころざし →gusjuʔunsidee, こころざ
 おこさま〔お子さま〕 ʔumigwa, ʔumin-gwa, ʔuniwarabi, →こども
 おこし〔御腰〕 mikusi, 'Ncusi, →こし

おこ

おこし(菓子の名) hacagumi
おこす[起こす・興す] ?ukusjuN/ 下から
～ ?icuN
おこぜ(魚名) →?abasi
おこたる[怠る] →なまける
おことは[お言葉] →おおせ, ことば
おこない[行ない] ?ukunee
おこなう[行なう] ?ukunajuN, →する
おこめ[お米] →こめ
おこる[起こる] sjoozijuN, ?ukurijuN,
?ukujuN
おこる[怒る] kusamicuN, →はら, りっぶ
く/ 少し～こと saagusamici, ?usugu-
samici
おごる[驕る] gaajuN, ?ugujuN, →ぞう
ちょう/ おごりたかぶる者 ?uguimuN
おこわ[お強] kasicii, →せきはん
おさ[箴] huduci/ ～の種類 →はたおり
おさえる[押さえる] ?usujuN, →あっぱく
する/ 押さえつけられる ?usaarijuN
おさかまち 'uusa
おさがり[お下がり] ?unooi, ?usandee
おさきに[お先に] →sadajuN
おさきばらい[お先払い] ?unsadai, →せん
おさけ[御酒] →さけ じどう
おざしき[御座敷] →ざしき
おさなご[幼子] →あかんぼう
おさなごころ[幼心] 'warabizimu
おさなともだち[幼友だち] 'warabidusi
おさまる[治まる] 'usamajuN
おさめ[納め] haree
おさめる[治める] 'usamijuN, marucuN/
～こと(敬語) ?ukakibu?ee, →しはい/
治めかた 'usamigata
おさめる[納める] →harajuN/ 納めないこ
おさん[お産] →しゅっさん じと hunoo
おし[啞] ?iigaa, ?iiguu
おじ(伯叔父) 'uzasaa/ 伯父 ?uhusjuu,
?uhutaarii/ 叔父 'uncuu/ 上の～ ?u-
huuncuu/ 下の～ 'uncuugwaa
おしあい[押しあい] sicaa?ee, ?iicee/ ～

へし合い kunKuruba?ee, ?iicaakwaa-
ee, ?uuseekuruba?ee
おしあう[押しあう] sicaasjuN
おしあげる[押し上げる] ?icagijuN, ?uja-
gijuN, ?usagijuN
おしい[惜しい] ?atarasjan, ?icasan, →
?aqtaru, おしむ/ 惜しくも →?aqtara
おじさん tanmee, ?uhuzunZanssiimee,
?usjumee, →そふ
おしいる[押し入る] ?iicuN, 'wagaka-
juN/ 押し入った者 'wagakaimuN
おしえ[教え] ?usii, →きょうくん
おしえかた[教え方] ?usiigata
おしえる[教える] naraasjuN/ ～こと na-
raasi 「しもどす
おしかえす[押し返す] ?usikeesjuN, →お
おしかける[押しかける] ?usikakijuN
おしかり[お叱り] nundee, ?undee, →しつ
せき
おじぎ[御辞儀] gurii, rii/ いっせいにす
る～ suugurii
おじぎそう(植物名) ninningusa
おしきる[押しきる] ?usicijuN
おしくら[押しくら] →おしあい
おしこむ[押しこむ] hwisincuN, ?usiku-
nuN, ?usincuN, →おしこめる
おしこめる[押しこめる] ?usikumijuN, →
kumijuN, おしこむ
おしたおす[押し倒す] ?usikeerasjuN,
?usitoosjuN, →あつとうされる
おしたす[押し出す] ?usi?nzasjuN
おしたばねる[押し束ねる] ?usiçikunuN
おしつける[押しつける] hani?weeziki-
juN, sicaasjuN, ?usiçikijuN, ?weeziki-
juN/ 押し付け合うさま cui?uusi?uusi,
?uuseekarakee
おしつぶす[押しつぶす] hwiizuN, hwira-
kasjuN/ 押しつぶされる →sipirijuN
おしつまる[押しつまる] sasiçimajuN
おしどり[鴛鴦] ?usintui/ ～の翼 →?u-
muiba

おしながす〔押し流す〕 ʔusinagasjun
 おしならす〔押しならす〕 ʔusitunamijun
 おしのける〔押しのをける〕 ʔusidukijun,
 ʔusinukijun, →おしやる, どける
 おしはなす〔押し放す〕 ʔusihanasjun
 おしまい →おわり
 おしまげる〔押し曲げる〕 ʔusimagijun
 おしまるめる〔押し丸める〕 ʔusiçikunun
 おしむ〔惜しむ〕 →ʔicasan, ʔibirijun,
 おしい/ 惜しがること munuʔatarsja
 おしむぎ〔押麦〕 hwirakaamuzi
 おしめ〔お湿〕 kakoo
 おしめり〔お湿り〕 ʔurii 「おしかえす
 おしもどす〔押し戻す〕 ʔusimudusjun, →
 おじや〔雑炊〕 ʔjahwarazuʔii, zuʔii
 おしゃかさま〔お釈迦様〕 sjaakaganasi
 おしゃく〔御酌〕 →しゃく
 おしゃべり ʔjuntaa, ʔjuntaku, ʔjunta-
 kuu, munujumaa, munujunaa, san-
 baguci, →kuuzoo/ ~するさま ʔaaba-
 asaabaa, ʔaacirahjaacira, hwiqtaku-
 maqtaku, ʔjudaikuuzoo, ʔjuntaahwin-
 taa, ʔjuntakuhanaku, ʔjuntakuhwi-
 ntaku/ ~な女 ʔabasi, ʔabasjaa
 おしやる〔押しやる〕 ʔiikijun
 おしゃれ çukujaa, kwaaninaa, kwaa-
 nin, ʔwaacaa, ʔwaaci
 おじゅう〔お重〕 ʔuzuu, →じゅうばこ
 おしょう〔和尚〕 ʔaaʔi, (敬語) ʔaaʔinu-
 mee, →おぼりさま, じゅうじ, そりりよ,
 ぼりず
 おじょうさま〔お嬢様〕 ʔaigwaamee, too-
 toogwaa, ʔwegunʔsiori, →むすめ
 おしょうばん〔お相伴〕 →しょうばん
 おしょうりょう〔お精霊〕 →しょうりょう
 おしよせる〔押寄せる〕 ʔjutikeerasjun,
 ʔusijusijun
 おしらせ〔お知らせ〕 →しらせ
 おじる〔桶じる〕 sikanun, ʔuzijun, →お
 びえる, こわがる/ すっかり~ ʔuziicijun
 おしろ〔お城〕 →しろ

おしろいばな(植物名) ʔjusaNdibana
 おしわける〔押し分ける〕 ʔusiwakijun
 おす〔雄〕 ʔuumunaa, ʔuumun, →ʔuu-
 おす〔押す〕 ʔusjun, →ʔiicun
 おずおず sikaNkaa, →びくびく
 おすがた〔御姿〕 →すがた 「んげん
 おせじ〔御世辞〕 ʔandaguci, meeʔi, →か
 おせっかい ʔeebee, →でしゃばり/ ~とな
 る事 ʔeebeegutu
 おぜん〔御膳〕 →ぜん/ 丸い~ maruʔuzin
 おせんこう〔御線香〕 ʔukoo, mjuukoo,
 njuukoo, →せんこう
 おそい〔遅い〕 niisan, ʔuʔisaN, →のろい/
 ~出発 nibuʔuqtaci/ 遅く niiku, niq-
 ka/ 遅くなる →ʔirijun
 おそう〔襲う〕 /襲われる ʔusaarijun
 おそうまれ〔遅生まれ〕 nibuʔnmari
 おぞうり〔御草履〕 mjuuzaree, nuuzaree,
 ʔuzaree, →ぞうり
 おそなえ〔お供え〕 ʔukazai, ʔusjagimuci,
 ʔusjagimun, ʔusunee, ʔusuneemun/
 ~する ʔusjagijun/ ~の上まじないと
 して置くもの san/ ~のお下がり ʔusa-
 ndee, ʔunooi/ ~のお茶 catoo, ʔucaroo
 / ~の水 ʔubii/ ~の紙 ʔukazaikabi/ ~
 の米 hanagumi, ʔpanagumi, →kara-
 ʔpana, ʔusimasi/ ~の米と酒 ʔpana-
 ʔuzaki/ ~の台 kudee/ ~のとりかえる
 分 →ʔucizihweesi/ ~の飯 ʔubuku
 おそば〔お側〕 ʔusuba, →そば
 おそらく〔恐らく〕 →たぶん
 おそれる〔恐れる〕 →おじる, こわがる/ 恐
 れおののくこと ʔuturusjahwiisja/ 恐れ
 はばかること ʔjagumisa
 おそろしい〔恐ろしい〕 ʔakutooraasjan,
 ʔuturusjan, →こわい/ ~思い ʔuturu-
 sjaʔumii/ ~人 ʔakutoo/ ~もの ʔutu-
 rusjamun, ʔuturuu/ 恐ろしがる →ʔu-
 turusjan
 おだいに〔お大事に〕 →mimuci, ʔunzu-
 mucu

おた

おたいらに〔お平らに〕 ʔuhwiraku, →hwi-rasan
 おたがい〔お互い〕 ʔutagee, →たがい
 おたく〔御宅〕 tunci, ʔuhudunci, ʔunzuna, →tunuci
 おたすけ〔お助け〕 →たすけ
 おたふく〔お多福〕 sjadaNnuʔutuuʔnmii
 おたふくかぜ toosinbai
 おたま(食器の名) nabigee
 おだま〔芋環〕 kuuda/ ~を作る竹ぐし kuudaguusi
 おたまじゃくし〔蝌蚪〕 ʔaminaa
 おだやか/ ~である nadajaQsan, →なごむ, やすらかに
 おちこぼれ〔落ちこぼれ〕 ʔuti
 おちつき〔落ち着き〕 ʔutiqici
 おちつく〔落ち着く〕 'iiqicun, 'ijun, ʔuti-qicun/ 落ち着かない →'iiqibin cikan, taturuncun/ 落ち着かないさま →cimu-wasamici, cimuwasa, sansan, sikasika/ ~こと →らくちゃく
 おちど〔落度〕 husuku, →あやまち
 おちぶれる〔落ちぶれる〕 sipitajun, →ʔu-
 おちぼ〔落穂〕 ʔuti [tisizimi
 おちゃ〔御茶〕 caa, ʔuca, →ʔucato, ちゃ / ~の会 ʔucahukaʃee, ʔucawaka-ʃee
 おちゃうけ〔お茶うけ〕 ʔucawaki, →ちゃうけ/ ~なしのお茶 karazaa
 おちる〔落ちる〕 ʔutijun/ 落ちて散らかること ʔuticiri
 おつかい〔御使い〕 ʔuqikee, →つかい
 おつかえ〔お仕え〕 ʔwaandee
 おっかぶせる ʔuusikansijun, →qicika-nsijun
 おつきさま〔お月さま〕 tootoo, tootooga-nasiimee, tootoomee, ʔuqici, ʔucicuu, ʔucicuumee, →つき
 おつげ〔お告げ〕 ʔusirasi
 おっしゃる →おおせられる

おったつ〔おっ立つ〕 ʔuqtacun
 おっかつ ʔuqçikaqçi
 おっつけ →やがて
 おって〔追手〕 ʔuqti
 おって〔追って〕 ʔuqti
 おっと(感動) ʔai
 おっと〔夫〕 'utu/ ~と姑 'utusitu/ ~の方/ kusjatikata/ ~への接し方 'utubi-
 おっばい →ちち [ree
 おつゆ〔御汁〕 siru, ʔusiru, →しる
 おつり keei, keesimudusi
 おて〔御手〕 →て
 おてがみ〔御手紙〕 →guzoo
 おでこ gaqapjaa, gaqpai, →ひたい/ ~の頭 gaqpaiçiburu
 おてずから〔御てずから〕 ʔumicikuru, →
 おてだま〔お手玉〕 ʔoosiitoo [じぶん
 おてら〔お寺〕 ʔutira
 おてん〔汚点〕 sun
 おてんばむすめ〔おてんば娘〕 ʔabasi, ʔabasjaa, sansanaa, →sansanaaʔaigwa-amee
 おと〔音〕 ʔutu, →ね, ねいろ/ ~に聞くこと ʔutuzici/ ~に聞こえる ʔutuʔucun/ ~を聞くこと ʔutuzici/ 稲穂の出るころの~をさける期間 ʔindumijamadumi/ 予言となる~ munuʔutu
 おとうさん sjuu, taarii, (小児語) taa-taa, →ちち/ ~おかあさん ʔajaataarii
 おとうと〔弟〕 'wikigaʔuqtu, →ʔuqtu, ʔuqtuwikii, 'wikii, (敬語) →ʔumikii-numee, ʔumiqtu
 おとうみょう〔御燈明〕 ʔutunnoo, ʔutuumjoo
 おとうろう〔御燈籠〕 →とうろう
 おとがい →あご
 おどけもの〔おどけ者〕 ʔahwageerimun, cooginaa, marumun, namaraa, namarimun, namatee, namaziraa, namazirimun, teehwaa
 おどける ʔahwageejun, ʔahwageeri-

juN, namarijuN/ ~こと teehwa/ おどけた顔 namazira
 おとこ[男] 'utuku, 'wikiga, →とのがた/ ~が生まれること →Yuhuwinaгу/ ~の子 'wikigawarabi/ ~の声 'wikigagwii/ ~のなり 'wikigahuuzi/ ~のような女 'uuwinagu, 'wikigahuuzii/ 女のような ~ 'winaguhuuzii
 おとご[乙子] Yuqtungwa
 おとこおや[男親] 'wikiganu?uja, 'wikiga?uja, →おや, ちち, ちちおや
 おとこまさり[男まさり] 'wikigamasai
 おとこやもめ[男やもめ] 'wikigajagusami
 おとこらしい[男らしい] 'wikigaraasjan
 おとさた[音沙汰] ?utu, ?utusata, ?utu?ziri, →?ati
 おとしあな[落とし穴] ?utusi?ana
 おとしだね[落とし種] ?utusidani, ?utusiNgwa
 おとしだま[御年玉] 'iizini, 'iirizini
 おとしぶた[落としぶた] kakugu 「mun
 おとしもの[落とし物] munu?utusi, ?utusi-
 おとしより[お年寄り] →としより
 おとす[落す] ?utusjuN
 おととい 'uqtii/ ~の晩 einuunujuru
 おととし 'Ncu/ ~の前の年 'jutu
 おとな ?uhuqcu, ?utuna/ ~の声 ?uhu-
 qeugwii/ ~びた話し方 kusamunii, ku-
 samunu?ii/ ~ぶること ?uhuqebui/
 ~ぶる者 kusabuqkwaa
 おとなしい ?uhujaqsan, ?utunasjan,
 ?wen?asan/ ~馬 ?wen?anma/ ~者
 ?uhujasii, ?wen?aa/ おとなしく 'jagu-
 おとみ[乙見] ?uqtumisi l?aguutu
 おとみづわり[乙見づわり] ?uqtumaki,
 ?uqtumiijoogari
 おとめ[乙女] →むすめ
 おとも[お供] →とも
 おどり[踊り] mooii, 'udui/ ~の着物
 'uuiizini/ ~の種類, 名など ?ajaamee-

udui, ?amakaaudui, ?angwaamooi,
 ?aqamee, ?aqameegwaa, coozanu,
 ?uhusjuu, hwaudui, hweenusimaa,
 'jarasii, kuniri, niiseudui, man?ai,
 sinugu, sjundoo, ?usideeku, 'uuee,
 'wakasjuudui, 'winaguudui
 おとりかわし[お取りかわし] →とりかわし
 おとりつき[お取りつき] →とりつき
 おとる[劣る] ?utujuN/ ~こと →cizi
 おどる[踊る] moojuN, 'udujuN/ 踊りあ
 がって喜ぶさま tuNmooimooi/ 踊ったり
 はねたりすること mooihani, 'uduihani
 おとろえる[衰える] ?uturijuN, ?uturu-
 juN, →すいび, よわる
 おどろく[驚く] ?udurucuN, →kusjaa,
 ?uqceejun/ man?amasi, ?uhuduN-
 mooii/ ~べき ?usumasjan/ ~べきこ
 と→miihaigutu/ 驚かす →?udurucuN/
 驚いて目覚めること →niizami?uduruci
 おながれ[お流れ] /~にする kundasjuN/
 ~になる kundijun
 おなし[尾無し] zuumookuu
 おなじ[同じ] cu-, 'inu-, 'in-, tiigi, →?u-
 qeikaqei, どうよう/ ~大きさ 'inpi/ ~家
 cujaa/ ~顔 'inuqira/ ~考え 'inukan/
 ~心 'inucimu/ ~時節 'inui/ ~高さ 'inu-
 taki, 'intaki/ ~時 'inutuci/ ~歳 cutu-
 si, 'inutusi/ ~年(十二支の) 'inusaa/ ~
 歳の人 cutusiNcu/ ~長さ 'inunagi, 'in-
 nagi/ ~日 'inuhwii/ ~人 'inuqcu /~
 道 cumici, 'inumici/ ~もの 'inumun,
 'inuu, tiigimun/ ~ようす 'inkirahwa-
 a/ ~ようである 'inugutoon/ ~ような
 もの 'inugtooru/ ~ように 'inugutu
 おに[鬼] ?uni
 おにいさま →あに
 おにぎりごはん[おにぎり御飯] ?ubunni-
 zirii, →にぎりめし
 おにごっこ[鬼ごっこ] kaqimiNsooree, →
 miqkwaatooruu

おに

おにび〔鬼火〕 ʔooruubii
 おねえさま →あね
 おの〔斧〕 ʔuun, →ʔjuuci, tiin, saahun-gwaa, saahunjuuci,
 おのおの naa-, →かくじ, それぞれ
 おのずから naNkuru, siziN, siziNni
 おのれ ʔuga, →じぶん
 おば〔伯叔母〕 ʔubamaa, (敬語) ʔubacaN siimee/ 伯母 ʔuhuʔajaa, ʔuhuʔaNmaa/ 叔母 baa, baacii/ 上の~ ʔuhubaa/ 下の~baagwaa
 おばあさん haamee, haNsii, ʔNmee, →paapaa, (敬語) hanZaNsiiimee, そば
 おはか〔御墓〕 →はか
 おはかまいり〔御墓参り〕 →はかまいり
 おばさん〔小母さん〕 →baacii
 おはし〔御箸〕 →はし
 おはじき ʔiqtagajoo
 おはしほこ〔お箸箱〕 →はしほこ
 おはつ〔お初〕 sinaʔurusi, ʔuhwaçi
 おはな〔御鼻〕 →はな
 おはな〔御花〕 →はな
 おばな〔尾花〕 baran
 おび〔帯〕 ʔuubi, (敬語) miʔuubi/ ~の一種 husuʔuubi, miNsaa, miNsaaʔuubi, suguiʔuubi, ʔuhuʔuubi, ʔwarasiNbuu-ʔuubi, →rakubuçinu miʔuubi/ ~用の布の名 miNsaa/ ~をしめる所 ʔuubisii-guci
 おびえる ʔNbiijun, →おじる, こわがる/ すっかり~ ʔuziicijun
 おひかり〔お光〕 →ひかり
 おひがん〔御彼岸〕 →ひがん
 おひきあわせ〔お引き合わせ〕 hwicaasi, hwicawasi, →ひきあわせる
 おびきだす〔おびき出す〕 ʔwakujun/ ~手 ʔwakuidii, →ひきあわせる
 おひげ〔御ひげ〕 →ひげ
 おひさま〔お日さま〕 →ひ
 おひっこし〔お引っ越し〕 →ひっこし

おひとよし〔お人よし〕 hurimakutu, saramakutu, ʔuhujasii, →hutuki, too
 おひとり〔御1人〕 cutukuru, →ひとり/ ~様 ʔucutukuru
 おひめさま〔お姫様〕 →tootoogwaa
 おひるごはん〔お昼御飯〕 mihwiruma, mihwirumaʔubun, →ひるめし
 おぶ〔小児語〕 buu, buubuu
 おぶく〔御仏供〕 ʔubuku 「ふたり
 おふたりさま〔御2人様〕 ʔutatukuru, →おぶつだん〔お仏壇〕 →ぶつだん
 おふね〔お船〕 →ふね
 おふれ hurii, →ふこくする
 おふれがき〔おふれ書き〕 huriigaci
 おべっか meesi, →zuubui, zuuhui/ ~を言う者 meesaa
 おべべ ʔjaaaja 「よう
 おぼろさま〔お坊さま〕 cooroomee, →おし
 おぼえ〔覚え〕 →きおく, ものおぼえ
 おぼえがき〔覚え書き〕 ʔubiigaci
 おぼえる〔覚える〕 ʔubijun, tuiʔubijun, →tuiʔukijun, きおく, ものおぼえ/ ~力 ʔubidee/ 覚えていない →ʔubiçikanasan
 おほしさま〔お星さま〕 mihusi, →ほし
 おほしめし〔おほし召し〕 ʔusoozi, →かんがえ
 おほしめす〔おほし召す〕 →かんがえる
 おぼれる〔溺れる〕 ʔNbuqkwijun
 おぼろげ ʔumujoo, →ぼんやり
 おぼろづき〔おぼろ月〕 ʔuburuzici
 おぼろづきよ〔おぼろ月夜〕 ʔuburuzieuu
 おぼろ豆腐〔おぼろ豆腐〕 ʔjusidoohu
 おぼん〔お盆〕 ʔusjooroo, →ぼん
 おまえ〔お前〕 ʔjaa, →ʔiqtaa, naa, あなた, きさま/ ~自身で ʔjaakuru, ʔjan-kuru/ ~の →ʔjaa/ ~の家 ʔiqtaa/ ~のがわ ʔiqtaahara/ ~のような ʔjaa-gutooru/ ~のような者 ʔjaagutooruu/ ~ひとり ʔjaNcui
 おまえたち〔お前たち〕 ʔiqtaa, →あなたがた/ ~の →ʔiqtaa/ ~の方 ʔiqtaahara

おまき〔緒巻〕 macica
 おまけ šiibun/ ～を付ける šiijun
 おまごさん〔お孫さん〕 →まご
 おまつり〔御祭り〕 →まつり
 おまねき〔お招き〕 ?unçiikee, →しょうたい
 おまもり〔御守り〕 munnukimun, →ごぶ/
 ～の手ぬぐい →?uminaitisazi
 おまわり →おかず
 おみあし〔おみ足〕 →あし
 おみごと〔御見事〕 →みごと
 おみや〔お宮〕 →?ugan, 'uganzu, やしろ/
 ～の前の広場 →?ugannumoo
 おむかえ〔お迎え〕 ?unkee
 おむすび →にぎりめし
 おめぐみぶかい〔お恵み深い〕 ?uzimuzura-
 san, →めぐみぶかい
 おめざ miikuhwajaa
 おめしもの〔御召し物〕 →きもの
 おめでとう〔新年のあいさつ〕 'iisjoogwaçi
 おめにかかる〔お目にかかる〕 'uganun, →
 おめん〔お面〕 haaçiburaa [?wiicee, あら
 おもい〔重い〕 ?nbusan/ (赤んぼりの体重
 が～) sicuraasjan/ ～物 ?nbumun
 おもい〔思い〕 ?umii, ?umui, →しあん/～
 がかなりこと →?umizituganawai/ ～の
 ほか ?umiinuhuka, →おもいがけない/
 ～もよらない →おもいがけない/ ～を強
 くする ?umišimijun
 おもいあがる〔思い上る〕 najagajun, →ぞ
 うちょう/ 思い上っている者 najagaimun
 おもいあたる〔思い当たる〕 ?umui?ata-
 jun, →?atajun, おもいつく
 おもいおもい〔思い思い〕 naakangeekan-
 gee, →それぞれ
 おもいおよぶ〔思い及ぶ〕 ?umijujun
 おもいかえす〔思い返す〕 ?umuikesjun
 おもいがけない〔思いがけない〕 →おもい,
 ?uminçakiran, ?umin'juran, ?umin
 ?ubiran, →?ubijun/ ～こと kawaqta-
 kutu, ?ubirazigutu/ ～幸福 ?atagahu/

思いがけず ?umaazihuraazi/ 思いがけ
 もない ?umicakin neen
 おもいきり〔思い切り〕 ?umiciri
 おもいきる〔思い切る〕 →あきらめる/思いき
 り(思い切って) ?umiciqei, →?umiciqtu/
 思い切れない 'watagurisjan, →こころ
 おもいしる〔思い知る〕 ?umisijun [のこり
 おもいすごし〔思い過ぎ〕 ?umišizi
 おもいすごす〔思い過ぎす〕 ?umišizijun,
 →かながえる
 おもいだす〔思い出す〕 ?ubi?nzasjun/ 思
 い出せない ?ubiçikanasan [tacun
 おもいたつ〔思い立つ〕 citudacun, ?umi-
 おもいつく〔思いつく〕 ?umiçicun →おも
 いあたる/～こと ?umijui, ?umijuikeejui
 おもいつめる〔思いつめる〕 ?umiçimijun
 おもいどおり〔思い通り〕 cimuduui, ?umi-
 iduui, zijuu, →marumijun/ ～にいか
 ない ?umizituguhwasan
 おもいとどまる〔思いとどまる〕 'jusunun/
 思いとどませる 'jusimijun
 おもいなおす〔思い直す〕 ?umuikesjun
 おもいながす〔思い流す〕 ?uminagasjun
 おもいなやむ〔思い悩む〕 /～こと ?umii-
 jamii, →くのう
 おもいのこす〔思い残す〕 ?umuinukusjun
 おもいやり〔思いやり〕 sinasaki
 おもう〔思う〕 ?umujun, (敬語) ?usoozi-
 mişeen, →ねんずる/～こと ?umukutu/
 ～ことがなくなる →?uminaaku, ?uhu-
 ?uminaaku / ～よりにならない ?umi-
 zituguhwasan
 おもおもしい〔重々しい〕 ?nburaasjan,
 おもがい〔面紫〕 mugee [→いげん
 おもかけ〔面影〕 ?umukazi
 おもがわり〔面変わり〕 kaagigawai
 おもし〔重石〕 ?nbusi
 おもしろい〔面白い〕 ?umuqsan, ?umusi-
 rusan, ?wiirikisan, ?wiirukisan/ ～
 所 ?wiirikidukuru/ ～人 ?wiirikii/ 面

白がる →?wiirikisan/ 面白そうである ?wiirikigisan 「だつおもだつ〔重立つ〕 ?umudacuN, →かしらおもちもの〔御持ちもの〕 ?weemuN
おもちゃ〔玩具〕 'iirimuN/ ~の名 →baN-bataa, caNcaN?Nmagwaa, ciNciN?Nmagwaa, garagaraa, karamaa, hwaahwaa
おもて〔表〕 meeguci, ?umuti
おもてがえ〔表がえ〕 ?umutigeeci
おもてぐち〔表口〕 meeguci
おもてだつ〔表立つ〕 →?umutimuci
おもてなし ?utuimuci, →もてなす
おもてむき〔表向き〕 ?umutimuci, →がおもてもん〔表門〕 ?uhu?uzoo しいけん
おもと〔植物名〕 ?umutu
おもとだけ〔於茂登岳〕〔山の名〕 ?umutu-daki 「かい, ふたん
おもに〔重荷〕 ?nbunii, →?nbusi, にやっ
おもはゆい〔面映ゆい〕 ?ira?ahwasan, ?irahazikasjan, →はずかしい
おもむき〔趣〕 sjuu, ?umumuci
おももち〔面持ち〕 ?umumuci, →かおつき
おもゆ〔重湯〕 ?waajuu, →?ukee
おもり〔鏝〕 ?nbusi
おもろ ?umui, ?umuru/ ~をつかさどる役 ?umurunusidui
おもろそうし〔おもろ草紙〕 ?umuru?usoo-si
おもわず〔思わず〕 ?ubirazi, ?ubizini, ?umaazihuraazi, →ふい
おもわせぶり〔思わせぶり〕 ?umaasibui/ ~に辞退すること ziteegwaa
おや〔感動〕 ?ane, ?andee, cee, haa, ?une/ ~おや(～まあ) ?akitoonaa, ?ane-?ane, ?iqcaakuqcaa, saqtimu, saqti-musaqtimu, ?une?une
おや〔親〕 ?uja, →?ahjaa, (敬語) ?ujaganasi, ?ujaganasii, おとこおや, おんなおや/ ~にそむく子 ?ujamuduiingwa/

～にそむくこと ?ujamuduiigutu/ ~に似ない者 tanagaaimuN/ ~の家 ?ujanujaa/ ~のため ?ujanutami/ ~の心子知らず →?ujabuNnoo Qkwaaikusjoo/ ~もつらく子もつらいこと ?ujaqirasa Qkwaqirasa/ ~を失うこと ?ujamadui
おやおもい〔親思い〕 ?uja?umujaa, →ころ
おやがかり〔親がかり〕 ?ujagakai ころ
おやがわり〔親がわり〕 ?ujagawai
おやく〔お役〕 →やく
おやくしょしごと〔お役所仕事〕 →?weeda-ibansi, やくしょ
おやこ〔親子〕 ?ujaku, ?ujaqkwa/ ~全部 ?ujaqkwamuruqkwa
おやご〔親御〕 →おや 「おやおやじ →taarii, taariigwaa, ちち, ちち
おやしき〔お屋敷〕 tuNci, ?uhudunCi, →おやすみになる →やすむ しゃしき
おやばか〔親馬鹿〕 →Qkwabiicaa
おやふこう〔親不孝〕 ?ujahukoo, →ふこう/ ~なこと ?ujamuduiigutu/ ~な者 ?ujamuduiingwa
おやぶた〔親豚〕 ?ahjaa, ?ahjaa?waa
おやぶん〔親分〕 siidu, →かしら
おやまさり〔親まさり〕 ?ujamasai/ ~の子 ?ujamasaiingwa
おやまのたいしょう〔お山の大將〕 taa?ijugasira
おやもと〔親もと〕 ?ujamutu
おやゆび〔親指〕 ?uhu?iibi
おゆ〔お湯〕 →ゆ, おぶ
およぎ〔泳ぎ〕 ?wiizi
およぐ〔泳ぐ〕 ?wiizun
およぶ〔及ぶ〕 ?ujubun, →?irugajun, ?u-ucirugajun.
およめさん〔お嫁さん〕 →よめ 「saN
おらくに〔お楽に〕 ?uhwiraku, →hwira-
おり〔折〕 baa, basju, 'uui, →とき/ ~が悪いこと buhjoosi
おり〔折(折箱)〕 'uui

おり〔澁〕 guri
 おりあげる〔織りあげる〕 ʔuqcijun
 おりおり〔折折〕 cuqpuziqpu, →ときどき
 おりつけ〔織り付け〕 kasiei, nuuguei
 おりもの〔織物〕 →nunu/ ~の種類の名,
 柄の名など →ʔajamun, ʔajannaakaa,
 ʔakasimaa, ʔakauu, ʔasanunu, ba-
 sjaa, biŋgata, binsibui, ʔeegata, ʔee-
 ʔuburuu, hanaʔui, husu, hutagu,
 hwiranuci, ʔiicu, ʔiiciiri, ʔjaʔirami,
 kasigaa, kasinucitunbjan, kataçiki,
 man, marubiima, minsaa, mookahuu,
 mudifaja, munpa, muruduqiri, na-
 mauu, niuu, rinzi, rootunʔui, sawai,
 sicigaara, ʔeejanpuu, siraga, tingaa-
 cuu, tizima, tunbjan, tunbjancee,
 tuqciri, ʔusjaamii, ziçpakuzii, →はた
 おり, かすり
 おりる〔降る〕 ʔurijun
 おる〔織る〕 ʔujun/ 織りかけの布 nuNna-
 ka
 おる〔折る〕 ʔuujun
 おる〔居る〕 →いる
 おれい〔御礼〕 ʔidigahuu, ʔiduugahuu/
 ~をいう →nihwee
 おれいまいり〔御礼参り〕 →ʔugwanbutuci
 おれる〔折れる〕 ʔuurijun
 オレンジ →kunibu
 おろおろ moodoo
 おろか〔愚か〕 ʔuruka, →ばか, ぐどん,
 ぐぶつ/ ~しく見える hwizarugisan/
 ~である ʔuʔisan
 おろしがね〔下し金〕 deekuniʔirii, ʔeega-
 na
 おろす〔降ろす・下ろす〕 ʔurusjun/ (魚を
 ~) kusireejun

おわり〔終わり〕 hati, naa, ʔii, ʔuwai/~
 の番 ʔiiban
 おわる〔終わる〕 ʔinun, ʔucinajun, ʔu-
 wajun, →おえる, はてる
 おわん〔お椀〕 →わん
 おん〔恩〕 ʔun, ʔun, (敬語)guun, →いの
 ち, おんぎ
 おん〔御〕 mi-, ʔn- [(敬語)guungeesi
 おんがえし〔恩返し〕 ʔungeesi, ʔungeesi,
 おんぎ〔恩義〕 ʔunzi, →おん
 おんこう〔温厚〕 →ʔuzannasi
 おんしん〔音信〕 sata, →おとさた, たより
 おんち〔音痴〕 hwizainuudii
 おんどく〔音読〕 ʔimihuku
 おんどり〔雄雞〕 ʔuudui
 おんな〔女〕 ʔunna, ʔwinagu, (敬語) me-
 ewinagu, (卑語) ʔjumuwinagu/ ~が
 生まれること →ʔuhuwikiga/ ~に夢中
 になること →ʔwinagumuçiri/ ~の親
 ʔwinagunuʔuja/ ~の子 ʔwinagunġwa,
 ʔwinaguwarabi/ ~の声 ʔwinagugwii/
 ~のなり ʔwinaguhuuzi/ ~の身 ʔwina-
 gumi/ ~のような男 ʔwinaguhuuzii/ 男
 のような~ ʔuwinagu, ʔwikigahuuzii
 おんなおや〔女親〕 ʔwinaguʔuja, →はは
 おんなこども〔女子供〕 ʔwinaguwarabi
 おんなしゅじん〔女主人〕 ʔwinagunuusi
 おんなしょうたい〔女所帯〕 ʔwinagudaci
 おんなたらし〔女たらし〕 ʔwinagukaçimi-
 jaa, ʔwinaguʔikasjaa, ʔwinaguʔutusjaa
 おんなひでり〔女ひでり〕 ʔwinaguğarij
 おんなべや〔女部屋〕 ʔuraça
 おんならしい〔女らしい〕 ʔwinaguraasjan
 おんびん〔穩便〕 ʔunbin
 おんぶ ʔuhwa, ʔuuhwa

か(助詞) -ga, -gana, -i, →naa
 か[蚊] gazaN, gazaN
 か[荷] -katami
 が[我] gaa/ ~が強い gaazuusaN/ ~の
 強い者 gaazuu/ ~を折る →'uurijun
 が(助詞) -ga, -nu, (逆接) -šiga
 があがあ gaagaa
 かい[貝] kee, →ʔahwakee, ʔahwakuu
 かい[權] ʔeekuu, kee, ʔweeku
 かい[匙] kee
 かい[甲斐] sin/ ~がない →sjoon tatan
 かい[回] -keen, →-du
 かい[階] -kee
 かい(助詞) naa
 がい[害] gee, →わざわい
 がいがいしい ganaraasjan, ganaragisaN
 いかとう[開化党] kaikwattoo
 かがら[貝がら] →ʔahwakee, ʔahwa-
 kuu
 かがん[海岸] ʔumibata, →はま
 かいき[快気] kweeci, →ぜんかい/ ~祝い
 kweeciʔuiwee, kweeciʔujuwee
 かいぐい[買ひ食い] kooiŋwee
 かいけつ[解決] haŋsi/ ~する haŋsjun
 かいけん[会見] ʔicee, →めんかい
 がいけん[外見] bazoo, miiba, miikwa,
 miijoo, ʔwaabi, →おもてむき/ ~をつく
 ろうもの ʔwaabicuraa
 かいこ[蚕] kaigu, ʔitumusi
 かいごう[会合] surii, →あつまり
 かいごう[開合] kaikoo
 がいこつ[骸骨] karahuni, →こつ, ほね
 かいこん[開墾] kaikuN, seeki
 かいこんち[開墾地] seekizii
 がいさん[概算] teegeezaNmin

がいして[概して] namiti, →だいたい
 がいしゅつ[外出] →ʔaacihiwici
 がいしゅつぎ[外出着] ʔNzirihweerii, ʔN-
 zirimeerii, tuNzihweezii
 がいしょう[街娼] hweezuraa, hweezuri,
 sangwanaa, →じょろう
 かいすい[海水] sjuu, ʔusju
 かいせい[快晴] zooʔwaaçici
 がいせき[外戚] gweesici, hwahwakata,
 'winagunukata, →いんせき, さとかた
 かいせん[疥癬] koosi/ ~にかかつた者
 koosaa/ ~の一種 samigoosi
 かいぞう[改造] çukuikee
 かいぞく[海賊] haicee
 かいたい[懐胎] →にんしん, みごもる
 かいたい[解体] →ぶんかい/ ~して売ること
 kuusiʔui/ ~修理 hwiracisjuuhu
 かいだん[階段] kizai, →はしごだん
 かいだん[怪談] ʔjuuriibanasi
 かいてん[回転] migui/ ~の失敗 migui-
 janzi
 かいどう[街道] 'ookwaN, sjukuduui, sju-
 kumici
 かいな[腕] keena, →て, りで
 かいにんそう[海人草] nacoora
 かいふく[回復] cuui, →ぜんかい, へいゆ/
 ~が遅い cuuiniisaN/ ~が早い cuibeesaN/
 ~する cuujun, kunnoosjun, mucinoosjun,
 mucinoosjun
 かいへい[開閉] ʔakikwii「→あけひろげる
 かいほうする[開放する] ʔakihwirugijun,
 がいまい[外米] saiguNmee, toogumii
 かいまみる[かいま見る] →suumi, のぞく
 かいみよう[戒名] ʔihweezii
 かいめん[海綿] ʔumimajaa

かいもの〔買物〕 kooimUN/ ~上手である
kooiʔuziraasjan/ ~をする人 kooimu-
nsjaa

かいもんだけ〔開聞岳〕(地名) ʔukaimUN

かいよう〔海洋〕 tukee, →たいかい

かいらいし〔傀儡師〕 condaraa, ʔanʒai,
ʔanʒajaa, manʒai 「koojUN

かう〔買う〕 koojUN/ 買ってしまふ kee-
かう〔飼う〕 ʔikanajUN, karajUN, sita-
tijUN

かえし〔返し〕 keesi, →おかえし, へんさい

かえず〔返す〕 keesjUN, mudusjUN/ ~こ
と →hwinbin, へんさい 「dusjUN

かえず〔帰す〕 keesjUN, →keerasjUN, mu-

かえず〔解す〕 ʔidasjUN, →ふかする

かえって keetee, keeti, keetinkai/ ~悪

かえり〔帰り〕 keei, mudui 〔い ʔagajUN

かえりみち〔帰りみち〕 keeimici

かえる〔帰る〕 keejUN, mudujUN

かえる〔返る〕 keejUN, →ʔutikeejUN

かえる〔変える・替える〕 keejUN/ かえて
しまふ ciikeejUN

かえる〔解る〕 ʔidijUN, →ふかする

かえる〔蛙〕 ʔatabicaa, ʔatabici/ ~の子
ʔaminaa/ ~の一種 ʔataku, ʔwakubici,
ʔuuʔataku

かお〔顔〕 ʔira, kau, (敬語) mjuNci, nu-
Nci, ʔunci, →つら, めんそう/ ~がつぶ
れること →ʔirawaidoogu/ ~が憎らしい
ʔiramiqwasan, ʔiranikusan/ ~がふ
くれること ʔitabuqkwi/ ~がほてること
ʔirahwaahwaa/ ~で借りること →ʔira-
sicimuci/ ~の大きい者 →ʔwanbuu,
ʔwanbaa/ ~の広さ ʔirawaa/ ~をし
かめる ʔwazamijUN/ ~をしかめること →
miiwazanukuciwazan, nanawazan,
ʔwazankaa/ ~をそむけること ʔirabui/
~を出す nubagajUN, →tUNnubagajUN/
~を出すこと meenubagai/ ~をつつ込
むこと ʔiraʔiikUN

かおいろ〔顔色〕 ʔiramiikuci, ʔiru, ʔiru-
kisa, minzici/ ~が急変すること ʔiru-
migaai/ ~にあらわれやすい ʔirumijaa-
qsaN/ ~の悪い者 ʔirunugaa 「kumi

かおかたち〔顔かたち〕 ʔiragaku, ʔiramu-

かおだち〔顔だち〕 ʔirakaagi, miimaju,
→きりょう/ ~が変わること kaagigawai

かおつき〔顔つき〕 ʔiramiikuci, ʔiraʔuci-
ki, miikuci, minzici, minzoo, ʔumu-
muci, →つらがまえ/ ~の変わる
こと kaagigawai 「い kabasjan

かおり〔香り〕 →におい, ほうこう/ ~がよ

かかし〔案山子〕 naasirumabui

かかと〔踵〕 ʔadu/ ~の裏(~の裏にできる
はれもの) ʔaduzisi

かがみ〔鏡〕 kagan/ あわせ~ʔaasikagan

かがみみがき〔鏡磨き〕 kaganhweesaa

かがみもち〔鏡餅〕 →ʔutusizama 「む

かがむ kagamajUN, magajUN, →しゃが

かかり〔係り〕 kamii, ʔatai, -tai

かかりあい〔掛かりあい〕 kakawai, →かん
けい

かかりきり〔掛かりきり〕 →zuku/ ~の者

かかろ〔掛かる〕 kakajUN 〔→zukuu

かかろり〔係わり〕 kakawai, →かんけい/
~の多いさま kakeehwicee

かかろる〔係わる〕 kakawajUN, →かんけい

かき〔垣〕 kaci, →たけがき

かき〔花卉〕 →hanagi, はな

かぎ〔鍵〕 saasinuqkwa, →じょう

かぎ〔鈎〕 gakizaa, gakizuu

かき〔餓鬼〕 gaci/ ~のようである gacigi-
san, gaciraasjan/ ~のような猫 gaci-
majaa

かきあがる〔掻き上げる〕 kacagijUN

かきあさる〔掻きあさる〕 ʔasagujUN

かきいれどき〔書き入れ時〕 →siʔibi

かきいれる〔書き入れる〕 kaciʔirijUN, →
きにゅう 「nuN

かきこむ〔掻き込む〕 hoociNcUN, kaciku-

かぎざき〔鈎裂き〕 'jukuja
 かきそえる〔書き添える〕 kacišiijun
 がきだいしょう〔餓鬼大将〕 taaʔijugasira
 かきちらす〔掻き散らす〕 kacihoojun
 かきつけ〔書き付け〕 kaciçiki
 かきね〔垣根〕 kaci, →たけがき
 かきまわす〔掻き回す〕 kizaasjun, →ひっ
 かきまわす/ 掻き回して濁らす kacimiN-
 gwasjun
 かきみだす〔掻き乱す〕 kacimiNgwasjun
 かきむしる〔掻きむしる〕 kacanun, kaca-
 nkwasjun
 かきもの〔書きもの〕 kacimun
 かきよ〔科挙〕 →koo
 かぎり〔限り〕 kaziri, tamisi, →-tutuumi,
 -ziri/ できる～ →-gana, -ganaasi
 かく〔角〕 kaku, →かど
 かく〔書く〕 kacun
 かく〔掻く〕 kacun, →ひっかく
 かぐ〔嗅ぐ〕 →kaza
 かくおび〔角帯〕 husuʔuubi
 かくかく〔斯く斯く〕 kaNkan
 がくげき〔楽劇〕 →kumiũci/ ～の名 taa-
 かくげん〔格言〕 →ʔikutuba [hwaakuu
 かくご〔覚悟〕 kakugu 「ぞう
 かくご〔格護〕 kakugu, →ほぞんする, ひ
 かくじ〔各自〕 naameemec, →おのおの, そ
 れぞれ
 かくしき〔格式〕 →ない/ ～どおりの siN-
 na, siNnu 「qkwigutu
 かくしごと〔隠しごと〕 kakusigutu, kwa-
 かくしだて〔隠しだて〕 kakusi/ ～のない
 人 →ʔaruʔuqp̄ii
 かくしもつ〔隠し持つ〕 dacun
 がくしゃ〔学者〕 gaksuja
 かくしゃくと〔嬰鑠と〕 gahwagahwa
 かくじんかくよう〔各人各様〕 →naakamee-
 gamee, →それぞれ/ ～に言うこと →naa-
 ʔiiʔii 「N, ひたかくし
 かくす〔隠す〕 kwaqkwasjun, →kaksuju-

がくせい〔学生〕 gaksujo, šiminarajaa,
 →せいと 「する ʔoojun
 かくとう〔格闘〕 ʔooee, tueeçikamee/ ～
 がくふ〔楽譜〕 →kunkunsii, kururunšii
 かくべつ〔格別〕 →とくに, べつだん/ ～の
 かくまう →kwaqkwijun [間柄 kakubiçi
 がくもん〔学問〕 gakumun, šimi, →hwi-
 QsaN, tišimigakumun/ ～に夢中な者
 gakuburi/ ～のある人 šimiNcu, šimisi-
 ri, →hwiQsaNniN/ ～を習う人 šimina-
 rajaa
 がくもんじょ〔学問所〕 suriiza, →がっこう
 がくようひん〔学用品〕 simihudkabi
 がくりょく〔学力〕 gakurici
 かくれる〔隠れる〕 kwaqkwijun, sinu-
 buN/ 急いで～ haikwaqkwijun/ 隠れ
 て通う →sinubun/ 隠れ回ること kwa-
 Qkwimaai
 かくれんぼ〔隠れんぼ〕 kwaqkwindooree,
 kwaqkwintooruu/ ～で鬼が降参するこ
 と ʔaaguuru
 かけ〔賭け〕 kaakii, →ばくち/ ～の一種
 caNkuruu, ceNkuruu, paNmikasio,
 ʔuubuu
 かけ〔欠け〕 kagi, →けっせん 「かけうり
 かけ〔掛け〕 sagai/ ～で売る sagajun, →
 かけ〔影・陰〕 kaagaa, kaagi, kazi, (敬語)
 'Ncaagi 「hucibanta
 がけ〔崖〕 han̄ta, luci, →ʔuuciribanta,
 かけあい〔掛け合い〕 kakiee
 かけあし〔かけ足〕 haae
 かけうり〔掛け売り〕 sagaiʔui, →かけ
 かけがい〔掛け買い〕 ʔirikeesii, sagaigooi
 かけがね〔掛け金〕 kakugani, saasi
 かけきん〔掛け金〕 →kakimee, kakisin
 かけぐち〔陰口〕 çicagimoosjagi, moosja-
 gi, nureegutu, susjuu, →わるくち/ ～
 を言う nasagasjun
 かけごえ〔掛け声〕 ʔiitu, ʔagwii/ 花婿に
 対する～ →doodoo/ 船を漕ぐ時の～ →
 ʔimeenukaazi

かけことば〔掛けことば〕 kakikutuba
 かけじく〔掛け軸〕 kakimun
 かけずりまわる〔かけずり回る〕/ ~さま
 ʔamaahaikumahai
 かけつく〔掛け継ぐ〕 kakiçizun
 かけっこ haaeesjuubu
 かけね〔掛け値〕 kaki
 かけひ〔寛〕 hwiizaa, (小児語) beebēe/ ~
 で水を引いた水汲み場 hwiizaagaa
 かげぼうし〔影法師〕 kaagaa, →かけ
 かげぼし〔陰干し〕 kaagibusi, kazibusi
 かけもち〔掛け持ち〕 kakimuci, →katakakimaakaki, かけもつ 「もち,かねる
 かけもつ〔掛け持つ〕 katakakijun, →かけ
 かけら kaki, kumakii, 'wari
 かける〔掛ける〕 kakijun, →ʔusujun, ʔi-
 kijun, →ひっかける
 かける〔賭ける〕 kakijun
 かける〔欠ける〕 kagijun, kakijun/ 欠けた
 ところだらけ kakikaa/ 欠けたもの
 kagi, kakimun
 かげろう(虫の名) ʔensururu
 かけるまじま〔加計呂麻島〕 kakiruma
 かげん〔加減〕 ʔanbee, kagin, (敬語)
 ʔwaanbee
 かご〔駕籠〕 kagu, (敬語) ʔanda, ʔunaa-
 nda/ ~かき kagukaci/ ~の一種 'jamakagu/
 ~の音 giçeiriçeiri
 かご〔籠〕 baaki, kuu, sjooki/ ~の一種
 ʔutusiguu, haara, miibaaraa, sagiçoo-
 かこい〔囲い〕 kakui, →かきね [kii, tiiru
 かこう〔囲う〕 kakujun/ 囲いたい心 çimigukuru/
 囲われた女郎 çimizuri
 かこうひん〔加工品〕 çukuumun
 かごかき〔駕籠かき〕 kagukaci
 かごしま〔鹿児島〕 kagusima
 かごする〔加護する〕 kagusamijun
 かごつくり〔駕籠作り〕 kaguçukujaa
 かこつけ kutujusi
 かこつける kutujusijun, →ことよせる

かこむ〔囲む〕 kakunun, →かこう, ほうい
 かごん〔過言〕 kwagun, →いいすぎしする
 かざ〔笠・傘〕 kasa, (敬語) ʔuncitaka,
 →ひがさ/ ~の一種 ʔamigasa, ʔanzasa,
 daNgasa, ʔeegamigasa, ʔeegasa, hana-
 gasa, kaabujaagasa, kara kasa, kuba-
 gasa, miNtariʔanzasa, miNtarii, ʔoo-
 gasaa, rangasa, raNsaa, ʔuransaa,
 →ʔuncitaka/ ~に着ること →kusigaki
 かざ〔瘡〕 kasa/ ~のできかかり kasaki
 がさがさ gasagasa, gwasagwasa
 かざかみ〔風上〕 kaziwaara, kaziʔwaara
 かざぐるま〔風車〕 kazimajaa
 がざつなもの〔がざつな者〕 gasaa
 かざなる〔重なる〕 kasabajun
 かざね〔重ね〕 -kasabi [zuuzuu, →たびたび
 かざねがざね〔重ね重ね〕 kasanigasani,
 かざねぎ〔重ね着〕 →ʔwaabooii
 かざねる〔重ねる〕 kasabijun, →つむ
 かざはり〔傘張り〕 kasahajaa
 かざばる kasabajun, kasanun
 かざぶた kasabuta, kasanta/ ~がとれる
 かざむ〔嵩む〕 kasanun [→ʔukurijun
 かざや〔傘屋〕 kasazeeku 「うしよく
 かざり〔飾り〕 kazai, (敬語) ʔukazai, →そ
 かざりけ〔飾り気〕/ ~のない人 ʔaaran-
 kaa, ʔaqtuu
 かざりしよく〔飾り職〕 kuganiçeeeku, ku-
 ganiçeeeku 「→そうしよく
 かざりつけ〔飾り付け〕 çukuikazai, kazai,
 かざる〔飾る〕 kazajun
 かし〔菓子〕 kwaasi, kwasi/ ~の名など
 ʔamasjoogaa, ʔami, ʔandaagii,
 ʔandamuci, ʔandamucihjaagaa, bu-
 kubukuzaa, bukubukuu, butankoo,
 ciirunkoo, ciisunkoo, cinbin, cin-
 sukoo, çiqpen, hacagumi, hanabooru,
 hjaagaa, hjaakumuci, hucagi, huzi-
 sarasa, ʔiruçikimucigoo, kaçitira,
 koogwaasi, kooreemuci, kubaʔaagii,

kubanʔagii, kubanʔagi, kumigan, kunnepn, kusiciiʔukwaasi, maamigan, maçikazi, manzuu, mumuʔukwaasi, nisicimucigoo, ʔnmukašinaqtuu, paasunkoo, ritoopen, saataaʔandaagii, saataanaqtuu, sooʔuburu, tiisaaʔan, tiisuʔan, ʔugumahacagumi, ʔuiroo-muci, ziikaşitira, →もち

かじ〔舵〕 kazi

かじ〔火事〕 kwazi, →hwii/ ~の災難 kwanan/ ~の時のまじない →hohai, hwi-damageesi, hwiigeesi/ ~場での働き hwiibataraci

かじ〔家事〕 ʔucigutu, →かせい

がし〔餓死〕 ʔjaasazini

かしこい〔賢い〕 sjooraasjan, →ʔuziraa-sjan/ ~顔つき çiradamasi, tamasi-kweekaagi/ ~こと mimigani, suumii/ ~者 haganaa, haganimun, sjooʔiraa, sjooʔirimun, →りころもの

かしこまる〔畏まる〕 →ʔugancumijun, きょうしゆく

かじごや〔鍛冶小屋〕 kanzaajaa

かしつ〔過失〕 ʔajamai, ʔajamaigutu, ʔajamari, →あやまち

かじつ〔果実〕 →kiinunai, み

かじとり〔舵取り〕 kazitui

かしましい kasimasjan, →やかましい
ガジマル〔植物名〕 gazimaru/ ~の這って
長く延びたもの hooigazimaru

かじみまい〔火事見舞〕 kwazimiimee, kwazimimee

かしや〔菓子屋〕 kwaasijaa, kwasija, kwa-

かしや〔貸家〕 karasijaa [sijaa

かじや〔鍛冶屋〕 kanzaa, kanʔeeeku, kan-

かしゅ〔歌手〕 ʔutasjaa [ʔeeuku

かじょうがき〔簡条書き〕 tiicigaci

かしら〔頭〕 ʔatama, kasira, kasirajaku, siidu, →たいしょう 「だつ

かしらだつ〔頭立つ〕 kasiradacuN, →おも

かじりつく kwiiçikijun

かじる kakazijun

かす〔糶〕 guri, kaşı

かす〔貸す〕 ʔiraasjun, karasjun

かす〔教〕 kazi, →すう

がすいと〔瓦斯糸〕 gasuʔitu

かすか ʔumujoo, →ぼんやり/ ~に見え
るさま miiranKa miiranKa

かすかぎりない〔教限りない〕 çamazamaa
neen, →たくさん

カスタネット →juçidaki

カステラ kaşitira/ ~の一種 ziikaşitira

かすめとる keetujun

かすら〔葛〕 çita, kanDa

かすり〔緋〕 ʔiiciri, tuçqiri/ ~の着物 tu-
çqirizini/ ~模様 biima/ ~の模様の名
ʔijabiima, marubiima/ ~の染め付けを
業とする者 tuçqirijuujaa

かすりみず〔かすり傷〕 şirikizi

かせ〔栲・紵〕 kasi

かせ〔風〕 kazi, →ʔusukazi/ ~当たりの
強い所 suzibana/ ~が強い kaçoosan,
→suzoosan/ ~が吹く →suzuN/ ~が回
ること kazimaai/ ~が南に回ること
hweemaai/ ~で折れた木の枝 kaçoori-
mun/ ~で折れた木の枝のたきぎ kaço-
ridamun/ ~に当たる sugarijun/ ~に
当てる (~を通す) sugasjun

かせ〔風邪〕 geeci, hanasici, →huuci, mi-
isicihanasici/ ~気味 hanasicikagin

かせい〔家政〕 ʔjaamuciçuku, →かじ

かせい〔加勢〕 kasii, tidaşiki, tigane, →
えんじょ, かせい

かせいと〔栲糸〕 kasi/ ~とぬき糸 kasinu-

かせよけ〔風よけ〕 kazigataka [ci

かせん〔科銭〕 kwasin, →ばっきん

かそう〔家相〕 hunşı

かそう〔火葬〕 kwasoo

かそうかいきゅう〔下層階級〕 sicakata, si-
mukata, simuzimu, sitazita, →しもじも

かそうば〔火葬場〕 kwasooba
 かぞえる〔数える〕 'junuN, kazuujun, →
 san/ ～こと santui/ ～時のしるし →
 san/ ～に足りない者 kazinaranmun
 かぞく〔家族〕 cineeniNzu, 'jaaniNzu/ ～
 全体の転居 cineegusi/ ～中 cineezuu,
 cujaaniNzu
 かた〔肩〕 kata, →katabai/ ～の後の部分
 tiiŋuqcaqi/ ～と腕 katageena/ ～先か
 らもう一方の手の先までの長さ katasaci
 かた〔型〕 ŋikata, kata, →かたち
 かた〔方〕 muti, -kata
 かた〔瀉〕 katabaru, →gata
 かた〔片〕 kata-
 かたあげ〔肩上げ〕 kataneciri
 かたあし〔片足〕 katahwisja 「munDoo
 かたあしとび〔片足とび〕 giitaa, →giitaa-
 かたい〔固い・堅い〕 katasaN, kuhwasan,
 →ziNzuusan, けんご/ ～頭 kuhwaçibu-
 ru/ ～餅 kuhwamuci/ ～もの kuhwaa/
 固くなる kuhwajun
 がたい〔難い〕 -gurisjan, →むずかしい
 かたいじ〔片意地〕 →いじ, がんご/ ～であ
 る cimuspusan/ ～な者 cimuspuiu
 かたいっぽう〔片一方〕 →かたほう
 かたうで〔片腕〕 kataŋudi
 かたおもい〔片思い〕 kataŋumui
 かたおや〔片親〕 kataŋuja
 がたがた gatagata, hutuhutuu
 かたき〔敵〕 ŋada, kataci, tici
 かたぐるま〔肩車〕 maatagaataa
 かたこと〔片言〕 cukutuba
 かたしぐれ〔片時雨〕 katabui
 かたすみ〔片隅〕 katašimi
 かたずきのむ〔かたずを呑む〕 →çinun
 かたそで〔片袖〕 katasudi/ ～をぬぐこと
 katakusinuzi, katasudinuzi
 かたち〔形〕 kataci, →かた, かっこう
 かたちんば〔片ちんば〕 katagumaNcaa
 かたつけ〔型つけ〕 kataçiki/ ～を業とする

者 kataçikijaa
 かたづける〔片付ける〕 kataçikijun, sa-
 bakijun, seekijun, siicameejun, sizu-
 mijun, →しまり/ ～こと →sizumikaci
 かたつむり〔蝸牛〕 çinnaN
 かたて〔片手〕 katadii
 かたておち〔片手落ち〕 katakaki
 かたてま〔片手間〕 katatima
 かたとき〔片時〕 katatuci, ŋusjunuma
 かたな〔刀〕 katana, →たち
 かたは〔片刃〕 katahwa/ ～の小刀 kata-
 hwašigu
 かたはし〔片はし〕 cukata/ ～から ŋiqsoo-
 naadi, ŋiqsooziicii
 かたはば〔肩幅〕 katahaba
 かたひざ〔片ひざ〕 kataçinsi
 がたびし gaarahwiçii
 かたほう〔片方〕 cukata, kataguu, →いっ
 ぽう/ ～の帆 katahu
 かたまり〔塊〕 katamai, murusi, →buq-
 kwa/ ～があるさま murusaageejaa/ ～
 ができる murusigeejun
 かたまる〔固まる〕 kuhwajun, kuhwazi-
 かたみ〔形見〕 katami 「rijun
 かたみち〔片道〕 katamici
 かたむき〔傾き〕 katançi
 かたむく〔傾く〕 katançun, →šii kujun
 かたむける〔傾ける〕 katançijun, nanbee-
 jun
 かたむすび〔片結び〕 hutucimusun
 かため〔片目〕 katamii
 かたよる〔片寄る〕 / ～こと ŋiqpoonkee/
 片寄った分け方 katawaki
 かたらい〔語らい〕 ŋikataree, kataree
 かたらう〔語らう〕 katarajun 「kataibi
 かたる〔語る〕 katajun, →はなす/ ～人
 かたわ〔片輪〕 katahwa, katahwa, kata-
 hwamuN, →katahwicimuN, mookaa,
 mookuu, きけい 「ra, →そば, ほとり
 かたわら〔側〕 katahara, suba, subahwi-

かた

かたわれ〔片割れ〕 katawari
かだん〔下段〕 sidaan
かち〔勝ち〕 kaci
かち〔徒歩〕 kaci
かちあう〔かち合う〕 hanakaasjun, kijun,
sisikajun, sisikeejun/ ~さま sisikee-
hanakee
かちいくさ〔勝ちいくさ〕 kaci?ikusa
かちく〔家畜〕 cikaneemun/ ~の売買者
→bakujuo
かちまけ〔勝ち負け〕 kacimaki, →しょうぶ
がちょう〔鴛鳥〕 gaanaa
かつ〔勝つ〕 kacun
かつお〔鰹〕 kaçuu
かつおのえほし〔くらげの一種〕 ?iiraa
かつおぶし〔鰹節〕 kaçuubusi/ ~のだし汁
かっかっ hwaahwaa [kaçuusinzi
ががつつする gacikeejun
がっかりする gañdujun, →きおち, らく
たん/ ~こと çirudai,
がっき〔楽器〕 naimun/ ~の一種 gaku,
gakubura, 'juçidaki, kuucoo, sanba/
ガクブラ (gakubura) の奏者 buraa
かつぎ〔荷〕 -katami
かつぎちん〔かつぎ賃〕 katamidima
かつぐ katamijun
かっけ〔脚気〕 siçimuci
かっこう〔格好〕 kaqkoo, →かたち, すがた
がっこう〔学校〕 gaqkoo, gaqkoozi, →hwi-
ragaqkoo, kukugaku, muragaqkoo, su-
がっしょうする〔合掌する〕 →tii [riiza
かっせん〔合戦〕 tatakee, →せんそう
がったいする〔合体する〕 kusajun, ?usaa-
jun, ?usjaaun, →がっぺいする
かって〔勝手〕 cimakasi, kaqti, wagama-
ma, zimama, →きまま, わがまま/ ~気ま
かって〔勝手〕 simu [ま siibusjahundee
かつどうしゃしん〔活動写真〕 kaagaaudui
かっぱ〔河童〕 kaagarimoo

かっぱ〔合羽〕 kaqpa
かっぱらう keetujun, →うばいとる
がっぺいする〔合併する〕 ?usaasjun, ?u-
sjaasjun, →がったいする
かてい〔家庭〕 cinee
かていきょうし〔家庭教師〕 →?uhujakaa
がてん〔合点〕 gaqtiin/ ~が行く →cikwii-
jun
かど〔角〕 kadu/ ~がある haçikoosaa,
→haçikoogisaN, haçikooraaajan/ ~が
立つ kadudacun
かとう〔下等〕 / ~なもの kazii
かどぐち〔門口〕 zooguci, →きどくち
かどで〔門出〕 ?nzitaci, tabidaci, →しゅ
かどわかす 'jukusjun しっぽつ
かなあみ〔金網〕 →?abuikuu
かなう kanajun
かながき〔金掻き〕 kusakaci
かなぐ〔金具〕 kanagu
かなくそ〔金くそ〕 kanakusu, kanikusu
かなげ〔金気〕 / ~のある汁 kanasiru
かなしい〔悲しい〕 naçikasjan/ 悲しそり
な顔 çirajoo/ 悲しみがこみ上げる →ha-
cikunun
かなだらひ〔金だらひ〕 biñdaree
かなづち〔金づち〕 kanazicaa, kanizicaa
かなてこ〔金てこ〕 kanigara
かなひばし〔金火箸〕 kanihwiibasi
かなぶんぶん kanibuubuu
かなへび kooreegusjukwee, ?waatu?oo-
jaa
かなほとけ〔金仏〕 kanibutuki
かなめ〔要〕 siñmi
かなもの〔金物〕 kanamun
かなものや〔金物屋〕 kanamunjaa
かならず〔必ず〕 kanarazi, kañnaazi, ka-
ñnazi, kaziti, zihwi, →きつと
かなり 'jukai, →そうとう, だいぶ, よほ
ど/ ~の 'jukai/ ~の量 'jukai?uqsa
かなん〔火難〕 kwanañ

かに〔蟹〕 gani/ 〓の一種 gazami, kataçimiganigwaa, ʔumigani
 がにまた/ 〓の歩き方 →ʔaatabai
 かね〔金〕(金属) kani/ 〓のたが kaniʔubi
 かね〔金〕(金銭) ziN, ziNkani, →ぎに/ 多額の〓→たいきん/ まとまった〓 maruci-ziN/ 〓が掛かる çikurijun/ 〓で苦しむこと ziNziira/ 〓に飢えること ziNugari/ 〓のかかること siçciigutu, ziNʔirimi/ 〓の教え方 →ziN/ 〓を入れておく箱 ziNba-ku/ 〓を借り歩く者 hwiçqatiruu/ 〓を無駄に使うこと ziNdaari/ 〓をやたらに人にやる者 ziNkwijaa
 かね〔鐘〕 kani/ 寺院であけ方に鳴らす〜 keezoo
 かね〔鉦〕 kani, sjoogu/ 〓太鼓 →eiNku/ 〓太鼓をたたく一団 eiNkuniNzu/ 〓たたき niNbuçi, niNbucaa/ 鉦たたきの〜 niNbuçigani/ 〓の音 →kenken
 かね〔矩〕 kani, →かねじゃく
 かねかし〔金貸し〕 ziNkarasjaa, →こうりかし
 かねじゃく〔曲尺〕 banzoogani, kani
 かねしょう〔金性〕 kanisjoo
 かねづかい〔金使い〕 zinziikee/ 〓が荒い者 ziNteesjaa
 かねづまり〔金づまり〕 zinziimai
 かねて kaniti/ 〓から →hweeku まえもって 「QsaN
 かねまわり〔金回り〕/ 〓がよい zinmiija-
 かねもち〔金持ち〕 ʔjuzeemuci, ʔweekii, ʔweekiNcu, ʔweekiNcuu, ziNmuci
 かねる〔兼ねる〕 kanijun, →かけもつ/ 兼ね備えること ʔuceekanee/ 兼ね備わる ʔucajun
 かのうする〔化膿する〕 →うむ
 かのえ〔庚〕 kanii
 かのじょ〔彼女〕 →ʔari
 かのと〔辛〕 kanutu 「miʔiruu
 かばいる〔髹色〕 ʔNmiʔiru/ 〓のもの ʔN-

かばう〔庇り〕 kanimaasjun
 かび〔華美〕 hanKwa, →はなやか/ 〓にする kwabiijun
 かび〔黴〕 koozi, →kaabui
 かびん〔花瓶〕 hanaʔici
 かぶ〔蕪〕 ʔNNDii
 かぶ〔株〕 -mutu
 かふう〔家風〕 ʔjaazina, ʔahuu
 かぶせる〔被せる〕 kansijun, ʔusujun, →おっ被せる/ 被せさせる ʔusaasjun
 かふそく〔過不足〕 kwaahusuku
 かぶと〔兜〕 kabutu
 かぶらな〔蕪菜〕 ʔNNDii
 かぶり kaabui
 かぶりかぶり kaabuikaabui
 かぶりもの kabuimun, kanzimun
 かぶる kabujun, kanzun/ かぶらせる kansijun
 かぶれ munzaai
 かべ〔壁〕 kubi/ 〓をへだてた隣り kubi-hwiçami
 かへい〔貨幣〕 ziN, →かね
 かほう〔果報〕 huu, kwahuu, →mumugahuu, こうふく
 かほうもの〔果報者〕 huunin
 かぼちゃ〔南瓜〕 eiNkwaa, nankwaa
 かほど kansjuka, →これ
 かま〔鎌〕 ʔirana, kama/ 〓の柄 ʔirana-zika
 かま〔釜〕 hagama, (敬語) ʔncama
 かまう〔構う〕 kamajun, kamujun/ かまわずにおく ʔjoosjoojun
 かまえ〔構え〕 kamee
 かまえる〔構える〕 hwicimaasjun
 がまがえる ʔwakubici
 かまきり ʔiibuuziraa, ʔisjatuu, sjooroo-ʔNma, ʔusjooorooʔunma, ziramii
 かます〔魚名〕 kamasaa
 かます〔吠〕 kamazii
 かまち〔框〕 kamaci

かま

かまど〔竈〕 kama/ ~作り kamanui/ ~作りの日 kamanuibii/ ~の神 hwinukan, ŷumiçimun
 かまぼこ〔蒲鉾〕 kamabuku
 がまんする〔我慢する〕 çitumijun, kuneejun, niçijun, →niçiikunee, こらえる/我慢できない şiziraran/我慢できないこと niçiikantii/我慢できる →'jaşimajun
 かみ〔神〕 kami, manun, →ŷibi, sizi, (敬語) nuuşizi, 'ncan, ŷuşizimee/ ~に祈ること kaminiNzi/ ~に供える米 hanagumi/ ~に仕える人 kaminu, →しんかん, みこ/ ~のいる場所 ŷibi/ ~の国 →ŷamamijasinirija/ ~の託宣 ciziŷuri, mişiziri/ ~の種類, 名など →ŷamamiçuusiniricuu, ŷamamikusiniriku, cinmamun, çicisiru, huiunukami, hwinukan, şeenukan/ ~のような子供 →'warabigami/ ~の靈力 sizi, (敬語) ŷuşizi/ の靈力が高い sisidakasan/ ~と仏 kamihutuki/ ~を祭ってある所 ŷugan, ŷutaki, 'uganzu/ ~を祭る式 ŷutakabi
 かみ〔髪〕 karazi, karazigii, kasira, kasiragii, (卑語) kantu, (敬語) mjuncoobi, nuncoobi, ŷuncoobi, →もうはつ/ ~の剃り方の名 hataçui, saratatii/ ~のつかみ合い kantukuumee/ ~の結い方の名 curaŷuncoobi, haajuu, haajuui, hwi-ragan, ŷiriganhaajuu, kamuroo, kanpuu, katakasira, maajuui, ŷusirii/ ~を剃る儀式の名 saratatii/ ~を結う儀式 katakasirajuui/ ~を結っていない幼児 mooii
 かみ〔紙〕 kabi/ ~の種類の名 basjuukabi, basjuusi, caakabi, hjakudasi, husjugami, minugami, mumudakabi, sugiwara, 'waradoosi/ ~漉きを業とする者 kabişicaa/ 彼岸に燃やす ~ ŷanzikabi
 かみ〔上〕 →ŷagai, うえ/ ~の句 kamiku/ ~の方 ŷwaara, ŷwiimuti

かみあう〔噛み合う〕 kwiicaajun/ かみ合わせる kwiicaasjun, →kwaasjun
 かみあぶら〔髪油〕 biNçiki, katasijuu, →kabaŷanda
 かみいれ〔紙入れ〕 biçcin
 かみがかり〔神がかり〕 kamiburi, kamidaari, sinma, →taari/ ~の「ゆた」 sinmajuta
 かみかくし〔神隠し〕 munumaii
 がみがみ kirookunoo
 かみきりむし (虫の名) karazikwee
 かみきる〔噛み切る〕 kwiicijun
 かみしも〔上下〕 kamisimu
 かみげに〔紙銭〕 ŷanzikabi, (敬語) 'ncabi, ŷuncabi 「kansuiçikee
 かみそり〔剃刀〕 kansui/ ~を使うこと
 かみだな〔神棚〕 'ncanŷutana
 かみつく〔噛み付く〕 kuujun, kwiiçicun, kwiiçikijun, →くいつく/ ~馬 kuujaa-ŷnma
 かみなり〔雷〕 kannai, →hjaigaannai
 かみのけ〔髪の毛〕 →かみ
 かみばり〔紙張り〕 kabibai
 かみびな〔紙びな〕 ŷumentuu, →saatuumee
 かみゆいどこ〔髪結い床〕 katakasirajuujaa, karazijuujaa, →とこや/ ~の料金の名 ŷiqkwanmagi, nikwanmagi
 かみわる〔噛み割る〕 kwiiwajun
 かむ〔噛む〕 kanaasjun/ ~さま kanaahwicaa
 かめ〔亀〕 kaamii/ ~の一種 'jamagaamii, 'janbarugaamii, ŷumigaamii/ ~の甲 kaamiikuu
 かめ〔甕〕 kaami, →つぼ, みずがめ/ ~などのかけら kaaminzari/ ~の一種 han-duugaami, nanban, nanbangaami, ti-
 かも〔鴨〕 gaatui, kamu 「nşiigaami
 かもじ〔髻〕 ŷirigan, (敬語) miirigan,
 かや〔茅〕 kaja 「mişiiin

かや〔蚊帳〕 kaca, (敬語) 'Ncaca
 がやがや buusagwaasa, gwasagwasa,
 muqcirugeei, ?uhumutamuta, 'wasa-
 wasa, →わいわい
 かやく〔火薬〕 'insju, 'Nsju
 かやぶき〔茅葺き〕 kajabuci/ ~の家 kaja-
 bucijaa, kajajaa
 かゆ〔粥〕 kee, (敬語) ?ukee, →çizinumun
 / ~の薄いもの sirutumituu
 かゆい〔痒い〕 'wiigoosan
 かよいじ〔通い路〕 kajuizi, →つうろ
 かよう〔通う〕 kajujun/ ~こと kajui
 かような →こんな
 かように →このように
 から〔殻〕 gara, guru, kara
 から〔空〕 kara, 'Nna, 'Nnagara, 'Nna-
 mun, →がらんどろ, ちゅうくろ/ ~の車
 'Nnaguruma 「dii, →Nnaara
 から〔助詞〕 -demunu -kara, -kutu, -naa-
 がら〔殻〕 karahuni, →がいこつ
 がら〔柄〕 -gara, →もよう/ こまかい~
 ?ajagwaa/ ~のこまかい着物 ?ajagwaa-
 zin/ ~の名 →おりもの
 からい〔辛い〕 karasan, sipukarasan,
 sjuuzuusan, →しおからい/ ~味 sjuuzu-
 uguci/ ~もの karamun, (小児語) kaa-
 からいばり kara?ibai [kaa, →しおからい
 からえずき〔空嘔〕 karawiibaci
 からかう nabakujun, 'wacakujun, 'wa-
 kujun/ ~こと 'wacaku/ からかわれる
 者 nabakuimun
 からかさ〔唐傘〕 karakasa
 からかね〔唐金〕 karakani
 がらがら garagaraa 「zi, 'Nnakuzi
 からくじ〔空籤〕 hwiihwirikuzi, karaku-
 からくち〔辛口〕 sjuuzuuguci
 からげる kanagijun, →たばねる
 からさお kurumaboo
 からさわぎ〔空騒ぎ〕 'Nnasawazi
 からし〔辛子〕 karasi

からしな〔辛子菜〕 naa
 からす〔烏〕 garaşi/ 夕方の~ 'juugaraşi
 からす〔枯らす〕 karasjun
 からす〔噎らす〕 karasjun
 ガラス tama/ ~の破片 tamanuwari
 からすのきゅう〔烏の灸〕 'jumuduiguci
 ガラスばり〔ガラス張り〕 tamabai
 ガラスびん tamaguhwin
 からすへび〔蛇の名) garaşihwiibaa
 からすまがり →garaşimagai
 からだ〔体〕 duu, karata, →(敬語) ?unzu-
 mucu, み/ ~が大きい huumagisan/ ~
 が大きい者 huumagii/ ~が重たい duu-
 ?nbusan/ ~がかなり →duugana, duu-
 gara/ ~が小さい huuguisan/ ~が強い
 karazuusan/ ~が弱い duujahwara-
 san, karajoosan, →びょうじゃく/ ~の
 骨 duubuni/ ~ひとつ mişigara/ ~を
 いためること duuziira, →duu/ ~を振り
 動かすこと duubui
 からちゃ〔空茶〕 karazaa
 からて〔唐手〕 toodii, →tii/ ~の型の名
 kuusankuu, naihanci, paqsai, pin?an,
 kumiti
 からの〔唐名〕 karana, →sii, ?uzi
 からはふ〔唐破風〕 karahwaahu
 からぶき〔空拭き〕 karazusui
 からみつく karakujun, maçibujun/ ~
 さま karakuimaçibui
 からむし〔植物名〕 maauu, 'uubee
 からめとる karamitujun
 からめる karamijun, →まきつける
 がらんどろ banbaaraa, ?uubanbaaraa,
 →tuundojaa, から, ちゅうくろ
 かり〔仮〕 kai
 かりいれどき〔刈入れ時〕 ?aci
 かりごや〔仮小屋〕 kaija
 かりに〔仮に〕 →もし
 かりもの〔借りもの〕 kaimun/ お借りした
 物 ?unceemun

かり

かりや〔仮屋〕 kaija
 かりょう〔料〕 →ばっきん
 かりる〔借りる〕 ʔirajuN, kaʔjuN, →hwi-
 Qcatijun/ ～こと →hwiQcatiruu, ʔi-
 reekai, はいしゃく
 かりわけ〔刈り分け〕 ʔukuiwaakii
 かる〔刈る〕 kaʔjuN
 かるい〔軽い〕 gaQsaN, →kaQsaN/ ～荷
 garunii/ ～物 garumuN/ 軽く karuga-
 ruutu, 'joon, 'joonɡwaa, ʔuciʔuciitu/
 軽く見る →かろんじる
 かるいし〔軽石〕 karasi
 かるがると〔軽軽と〕 karugaruutu
 かるこ ʔoodaa
 かるわざ〔軽業〕 hooka, karuwaza
 かれ〔彼〕 ʔari, ʔuri, (敬語) ʔama, ʔNma/
 ～自身で ʔarikuru, ʔurikuru
 かれい〔魚名〕 kaasjanuhwaaʔiju
 かれい〔嘉例〕 kari
 かれえだ〔枯れ枝〕 guziri, kariida, kari-
 juda
 かれき〔枯れ木〕 karigii, kariki
 かれくさ〔枯れ草〕 karikusa
 かれは〔枯れ葉〕 karibaa
 かれはてる〔枯れ果てる〕 karihatijun
 かれら〔彼等〕 ʔaQtaa, ʔuQtaa
 かれる〔枯れる〕 karijuN, →かれはてる/
 枯れていること →husikari
 かれる〔嘆れる〕 karijuN, →しわがれごえ
 かれる〔涸れる〕 kaakijun 「れ
 かるう〔過労〕 siikutaNdi, siutai, →つか
 かるく〔家祿〕 karuku, ruku, →ちぎょう
 かるくもち〔家祿持ち〕 karukumuci
 かるんじる〔軽んじる〕 karunzijuN, 'uu-
 zuN, →けいべつする, けいし/ 軽ろんじ
 て ʔuciʔuciitu'uciuci/ ～こと tiiʔuʂeei,
 →susoonkarooN
 かわ〔川〕 kaara
 かわ〔皮〕 kaa/ ～が張る kaahajuN/ ～
 の薄い者 kaabiʂii, kaabisuu/ ～の鼻緒

kaauu/～のように張り付いたものkaahai
 かわ〔側〕 hara, muti, →bara, -hara
 かわいい huQcagisaN, kanasjaN, 'Nzoo-
 saN, ʔuziraasigisaN, ʔuziraasjaN, →
 cimuganasjaN, →あいらしい, かわいら
 しい/ かわいくてたまらない顔 ʔirami-
 Qkwee, 'jumuziramiQkwee
 かわいがる →kanasjaN, あいされる
 かわいそう/ ～である cimugurisjaN/ ～
 に cimugurigiinaa, cimugurugiinaa/
 かわいそうに思う →cimuficasaN
 かわいらしい ʔeeraasjaN, huQcagisaN,
 kuusjuuraasjaN, sjurasjaN, sjuuraa-
 sjaN, →cimuganasjaN, →あいらしい,
 かわいい 「nagee
 かわえび〔川えび〕 ʂeegwaa, sirasee, ta-
 かわかず〔乾かず〕 kaakasjuN, →ほす
 かわかみ〔川上〕 →ʔwiimuti
 かわぎし〔川岸〕 kaarabanta
 かわく〔乾く〕 kaakijun, kaaracuN, →ひ
 る/ 乾いたさま →horohoro/ 乾いている
 →kaarakisaN
 かわく〔渴く〕 kaakijun, kawacuN
 かわざいく〔革細工〕 kaazeeku/ ～を業と
 する者 kaazeekuu
 かわせみ〔鳥の名〕 kaarakanzujaa, kaar-
 amaQtaara, kaNzujaa
 かわぞうり〔革草履〕 kaasaba
 かわばた〔川端〕 kaarabanta
 かわぼり〔編蝠〕 →こうもり
 かわら〔瓦〕 kaara, →miigaara, 'uugaa-
 ra, いらか/ ～と石の垣根 kaaraʔisigaci
 かわらぶき〔瓦葺き〕 kaarabuci/ ～の家
 kaarajaa
 かわらもん〔瓦門〕 'jaazoo
 かわらや〔瓦屋〕 kaarajacaa
 かわり〔代り〕 kawai, →しろ, だいら
 がわり〔代わり〕 →gaa
 かわりだね〔変わり種〕 tanagaaimun, →
 tanagaajuN

かわりばえ〔変わりばえ〕/ ~のしないこと
 →?iQiqigahuu, ?iQiqigahwii, ?iQiqiNhuu,
 ?iQiqiNhwii
 かわりはてる〔変わりはてる〕 ?ucikawa-
 jun
 かわる〔変わる〕 kawajun/ 変わったもの
 kawaiimun/ 変わった事 kawaiikutu,
 kawaqtakutu
 かわる〔代わる〕 kawajun, →こうたい
 かん〔官〕 kwan
 かん〔寒〕 kan
 かん〔棺〕 kwanbaku, takaramun, →gan
 かん〔蒟〕 kanmusi, →かんしゃく
 かん〔勘〕 kan/ ~がにぶいこと kan'duu
 かん〔糞〕 kan
 かん〔善〕 kwan-, -kwan
 かん〔貫〕 -kwan
 がん〔願〕 →きがん, ねがい/ ~がかなうこ
 と ?utuui, →cura?utuui
 がん〔鑑〕 kaku, →sakigaku
 がん〔籠〕 →gan/ ~を納めておく小屋 ga-
 njaa
 かんがえ〔考え〕 kaNgee, sjuzun, (敬語)
 ?usoozi, →しあん, しさく, しりょ/ ~が
 深い ?umiibukasan/ ~のまま sjuzun-
 sidee, (敬語) gusjuzunsidee
 かんがえごと〔考えごと〕 kangeemun, →
 nu?akasee [しあんごと, ものおもい
 かんがえもの〔考えもの〕 ?akasimun, mu-
 かんがえる〔考える〕 kaNgeejun, →?umu-
 jun, (敬語) ?usoozimiseen/ 考えもし
 ない ?umiin 'juran/ 考え過ぎる ?umii-
 bukan
 かんかん kwarakwara
 がんがん →gwaan'gwaan
 かんき〔歡喜〕 →よろこび
 かんぎく〔寒菊〕 kaNciku
 かんきつゝい〔柑橘類〕 →kunibu/ ~の一種
 kaabucii, kuganiikunibu, mikan, ?oo-
 too, tarugajoo, tookunibu

がんきん〔元金〕 mutu, muutu/ ~を食い
 つぶすこと muutukweeciri
 かんけい〔關係〕 kakawai/ ~する kamu-
 jun, kaganajun, kaganasjun, kaka-
 かんけい〔奸計〕 →わるだくみ [wajun
 かんげん〔甘言〕 ?amaguci, ?amakuci,
 ?andaguci, →おせじ/ ~で人をつるさ
 ま?amakutaraku 「こもの
 がんこ〔頑固〕 gahwasi, gwan'ku, →がん
 かんこういわい〔完工祝い〕 sjubi?uiwee,
 →かんせい
 かんこうち〔観光地〕 ?wiirikidukuru
 かんごく〔監獄〕 →ろうや
 がんこうたう〔頑固党〕 gwankutoo, gwan-
 kuu, →?isimakurattoo
 がんこもの〔頑固者〕 deekunigansaa, ga-
 hwasaa, gansaa, ?iQpuuhuu, →かた
 いじ, ごうじょう, わからずや
 かんざし ziihwaa, →kamisasi, mikami-
 sasi, tumi, ?usizasi/ ~の端のしゃくし
 かんざつ〔鑑札〕 kansa?i [型の部分 kabu
 かんざんちく〔寒山竹〕 deemjoo
 かんしかん〔監視官〕 'jukumi
 がんじつ〔元日〕 gwan'tan, gwan'zici
 かんしゃ〔感謝〕 →nihwee 「→かん
 かんしゃく〔癩癩〕 sjaku, →hjaaigannai,
 かんしゃくもち〔癩癩もち〕 sjakumuci
 かんしょ〔甘藷〕 →さつまいも
 かんしょ〔甘蔗〕 →さとうきび
 かんじょう〔勘定〕 kan'zoo, san'min, →け
 いさん
 かんじょう〔頑丈〕 →じょうぶ
 かんしょうする〔干渉する〕 kamujun, si-
 sikajun, sisikeejun/ ~さま sisikeeha-
 nakee 「じょうぶ
 かんじょうもの〔頑丈者〕 gan'zuumun, →
 かんしよく〔官職〕 ?weedai, →zaa/ ~名
 →いかい
 かんしよく〔間食〕 ma'funumun/ ~に食
 う物 'juruzinamun

かん

かんせい〔完成〕 sjudi, →かんこういわい/
 ~する tuzimajuN, tuzimijun, →しあ
 げる, できあがる
 かんせつ〔関節〕 çigee, darumi, husi/ ~
 がはずれた人 çigeehandaa
 かんぜん〔完全〕 →もうしぶんのない/ ~
 である matasan/ ~な mata-/ ~なも
 の matamun
 がんそ〔元祖〕 →せんぞ
 かんぞう〔肝臓〕 cimu
 かんぞう〔甘草〕 kanzoo
 かんぞう〔萱草〕 kwansoo
 かんそん〔寒村〕 kariguni
 かんだい〔寛大〕 →かんよう
 がんたん〔元旦〕 →がんじつ
 かんち〔奸智〕 'janadakuma
 かんちがい〔勘違い〕 kancigee
 かんちょう〔干潮〕 hwirisju/ ~に現われ
 る岩や洲 hwisi
 かんづく〔感づく〕 satujuN, →sumijujuN
 かんづめ〔讒詰〕 kwanzimi
 かんてい〔鑑定〕 miçiki
 かんどう〔間道〕 →わきみち 「とりしまる
 かんとくする〔監督する〕 kagusamijun, →
 カントン〔広東〕 kwantun
 かな〔鉤〕 kana
 カンナ〔植物名〕 hanabasjuu, kanNa
 かななくず〔鉤くず〕 kanakudii
 かにん〔堪忍〕 kannaN/ ~する →がま
 んする, こらえる/ ~する力 nubidee, →
 にんたいりょく

かにん〔官人〕 →やくにん/ ~のように着
 飾っている者 turankwaninN
 かんのん〔観音〕 kwanNun
 かんのんちく〔観音竹〕 kwanNunciku
 かんのんどう〔観音堂〕 kwanNundo
 かんぼつ〔早魃〕 hjaai, hwidiri/ ~の年
 hjaaidusi, →ひでり 「kunpajuN
 がんばる〔頑張る〕 cihajuN, 'jaqpajuN,
 かんび〔官費〕 kuuzimuci, kwanmuci
 かんびょう〔看病〕 'jamiwande, kanbjo-
 o, sinziçi, tunzaku
 がんびょう〔眼病〕 mijiami, →tamajan
 かんぶつえ〔灌仏会〕 sjaakamundo
 かんべん〔勘弁〕 kanbin, →かにん/ ~
 する nasireejuN, →ゆるす
 かんぼうい〔漢方医〕 'ucinaa'isja
 かんぼく〔灌木〕 gumagii
 かんむり〔冠〕 hacimaci, kanmui, →ʔa-
 kahacimaci/ 王の~ tamaancaabui
 がんやく〔丸薬〕 gwanjaku
 かんよう〔寛容〕 cimununubi, nubi, →ci-
 mubirusan/ ~性 nagami, nubidee
 かんよう〔肝要〕 kannuu, →たいせつ
 かんらく〔歓楽〕 sjuzoo, →たのしみ
 かんらくさせる〔陥落させる〕 'utusujuN
 かんりする〔管理する〕 sazakajuN, →とり
 しまる/ 管理させる sazakijuN
 かんれいち〔寒冷地〕 hwiidukuru
 かんれき〔還曆〕 →rukuzuu'ici
 かんろ〔寒露〕 kanru, kanruu
 かんわ〔官話〕 kwanhwaa

き

き〔木〕 kii, →かんぼく, きょうぼく, ざいも
 く/ ~のかけら kikaraa/ ~の皮 kiinu-
 kaa/ ~のかんざし kiiziihwaa/ ~の精
 →kizimun/ ~の根 kiinunii/ ~の葉
 →きのは/ ~のまた kiinumata/ ~の実

kiinumuqkuu, kiinunai/ ~の門 kiizoo
 き〔気〕 cii, →cimu/ ~が合う →ʔatajuN,
 'jucaajuN/ ~が荒いこと namaci/ ~
 が荒い者 namacaa/ ~が重い 'umii?N-
 busan/ ~が変わること →hwiNci/ ~が

変わるさま →?arimasaraakurimasaraa/ ~が利く →cinucici/~が進む citudacun, nurijun/ ~が小さい cimuguusan/ ~が付く ?umijujun/ ~が付くこと ?umijui, ?umijukeejui/ ~が転倒する →mangwi/ ~が長い ciiniisan, cimunagasan, 'juujuuturaasjan/ ~がぬける ?ahweejun/ ~が早い ciibeesan/ ~がふれる hurijun/ ~が弱い cimujoo-san/ ~に入ったもの ciifiri/ ~に入られる 'irarijun/ ~にしない →cimu, zan neen/ ~のせい cimunu?umii/ ~のやまい cibjoo, cijami/ ~を失う →きぜつ/ ~をそらす sisikaasjun/ ~をつかり →takahwisjazikee/ ~を付ける kukurijun, →こころがける/ ~をもむこと →?asigaci, ?asigacinoori

ぎ〔義〕 zii, →ざり

ぎいぎい gwiirigwiirii, kwiirikwiiri

きいと〔生糸〕 →siraga

きいろ〔黄色〕 ciiru, →まっきいろ/ ~いもの ciiruu/ ~の紙 →ciirukabi/ ~の冠 ciiruhacimaci

きうす〔木白〕 kii?uuši

きえぎえと〔消え消えと〕 →ciiziitu

きえる〔消える〕 caajun, kundijun

きおく〔記憶〕 munu?ubi, ?ubi, →ものおぼえ/ 不確かな ~ ?uru?ubii/ ~する ?ubijun 「ぼえ

きおくりよく〔記憶力〕 ?ubidee, →ものお

きおち〔気落ち〕 cidai, →がっかり

きかい〔機械〕 'jaama, karakui, →しかけ

きかい〔機会〕 basju, hjoosi, →じき

きがえ〔着替え〕 keezin/ ~のないこと cicarukakita, →?icimeemaaminukaa

きがえる〔着替える〕 ciikeejun

きがかり〔気掛かり〕 cigakai, cimugakai,

cimuhwicagi, ninzikee, →しんばい

きかく〔規格〕 zooma, →きじゅん

きかざる〔着飾る〕 sugajun, →よそおう

きがね〔気兼ね〕 ?ukeei?umii, →えんりょ, しんろう/ ~する ?ukeejun

きがん〔祈願〕 cigwan, gwan, kamini-gee, ?ugwan, 'ugami, →おいのり, がん, きとう, ねがい/ ~する日 ?ugwan-bii/ ~することがら ?ugwangutu/ ~に使う道具 ?ugwandoogu/ ~の文句の例 →?ugwan

ぎがん〔義眼〕 ?irimii

きがんじょ〔祈願所〕 cigwanzu 「ku

きかんぼう〔きかん坊〕 ?anmaku, ?uuma-
ききおとす〔聞き落とす〕 cici?utusjun

ききおぼえ〔聞き覚え〕 cici?ubi

ききかえす〔聞き返す〕 cicikeesjun/ 聞き返して cicikeesigeesi

ききじょうず〔聞き上手〕 cicizoozi

ききだす〔聞き出す〕 cicimaajun

ききと〔嬉嬉と〕 →うれしい, はしゃく/ ~するさま ?uqsja?uqsjaa

ききながす〔聞き流す〕 cicinagasjun

ききほれる〔聞き惚れる〕 cicihurijun/ ~こと ciceburi

ききまちがい〔聞き間違い〕 cicimacigee, 'joogaazici

ききまわる〔聞き回る〕 cicimaajun

ききめ〔効目〕 siN, sirusi/ →こうか

ききもの〔聞きもの〕 cicigutu

ききょう〔帰郷〕 kucoo, →きこく

ききょうだい〔義兄弟〕 'eecoodee, muuku-

きぎれ〔木切れ〕 kiiziri 「coodee

ききわけ〔聞き分け〕 ciciwaki, ziikazi/ ~がない →teewakasjun

ききわける〔聞き分ける〕 ciciwakijun

ききん〔飢饉〕 gasi/ ~の年 →きょうねん

きく〔菊〕 ciku

きく〔聞く〕 cicun, →とう, たずねる, (敬語) ?un?jukajun, ?un?nukajun/ 聞いただけでも値い cicinikusan/ 聞いて味がある cisisjuuraasjan/ 聞きたくもない ciciakun neen/ 聞きにくい cicigu-

risjan/ 聞くだけで黙っていること cici-gun
 まく[利く・効く] cicun, kazicicun
 まくぎ[木釘] kiikuzi
 まくらげ[植物名] mimigui
 まくり hwiqsui, →どきん/ ~とする → hwiqsuimikasjun
 まぐろう[気苦労] →しんろう
 まけい[畸形] katahwici, →?eeku, かたわ/ ~の者 katahwicimun
 まけん[危険] / ~である ?ukaasjan, →あぶない/ ~なこと →hantigutu/ ~な業 hantiwaza, tihwanawaza
 まげん[機嫌] ciziN, →ごきげん/ ~がよくなる →?jucaajun/ ~をとる (~を直す) →cimu
 まげん[期限] kaziri, →きじつ, にちげん / ~付きのもの kaki?aasimun
 まこう[氣候] →hadamuci, じこう, てんき
 まこえ[聞こえ] →ひょうばん
 まこえおおぞみ[聞得大君] cihwiziN, (敬語) cihwizNnganasii/ ~の御殿 cihwizizN?udun
 まこえる[聞こえる] cikwiijun, →cicun
 まこく[帰国] cihwan, →ききょう
 まごこち[着心地] ciigukuci
 まごちない hwizarugisan
 まこり[礁] ?jamaku
 まごわ[木強] ziiguhwaa
 まこん[気根] kiinuhwizi
 まさき[后] →おほひ
 まざし[兆] mujuusi, sikaki, sirusi, →きちちょう, きょうちょう, ぜんちょう
 まさま[貴様] sunata, ?uga, →あなた
 まざみこんぶ[刻み昆布] cizamikuubu
 まざみたばこ[刻みたばこ] cizamitabaku
 まざむ[刻む] cizanjun, →hweesjun, ?urusjun
 まざわり [気障り] cimuzawai
 まし[岸] cisi, →かいがん, かわざし
 ましき[儀式] zisici, →しき, さほう
 ましきし kwiirikwiiri

まじしし gicigici
 きじつ[期日] niciziN, →きげん
 きしゃ[汽車] →?agihwiigurumaa
 きじゅん[規準] zooma, →kata
 きじょうもの[気丈者] ?izizuu, ?izizuumun
 きず[傷] kizi, →きりきず, けが, すりきず, ひっかききず/ ~の口がふさがる mi-
 きずつける[傷つける] sakujun [caajun
 きずもの[傷物] →sun
 きずる[擬する] ?atigajun 「gawai
 きせつ[季節] →しき/ ~の変わり目 sici-
 きぜつ[気絶] bucikun, →そつとう/ ~する →?anmasjan
 きせる[煙管] cisiri/ ~の管 cisirizoo, roo/ ~入れの一種 suqpun
 きせる[着せる] kusijun
 きそう[鏡] →きょうそうする
 きそく[規則] cisuku, →kata, おきて, き
 きぞく[貴族] deemjoo しまり
 きた[北] manisi, niinuhwa, nisi
 きたいはずれ[期待はずれ] miihandaa, miihanuu
 きたおれ[着倒れ] ciidoori 「miinisi
 きたかぜ[北風] nisibuci/ ~の吹きはじめ
 きたきりすずめ[着たきり雀] cicarukakita, ?icimeemaaminukaa, →いっちょうら
 きたけ[着丈] ciidaki
 きたて[気立て] cidati, simuci
 きたない[汚ない] citanasan, hagoosan, ?junhagoosan, ?itanasan, →bucirii,
 きたならしい, よごす/ ~もの hagoonun, (小児語) ?Nnaa, peepee
 きたならしい hagoogisan, ?junhagoosan, →きたない/ ~者 ?waanukami
 きたむき[北向き] nisiNkee
 きち[機智] →?uguci, きりやく
 きちがい[気違い] huraa, hurimun, si-
 Nkee, sjooburimun/ ~になる huri-
 jun/ ~の働かず知恵 huridaakuma/ ~め

いたことば hurimunii, hurimunu?ii/
 ひどい~ 'janaburi
 きちゅう〔忌中〕 hwii?uci
 きちょう〔記帳〕 coodumi, →きにゅう
 きちんと cantu, →ちゃんと
 きつい ciwasjan, →きつく
 きづかい〔気遣い〕 takahwisjazikee
 きっかけ ?uzumi
 きつく ciqtu, cuuzuuku, →きつい
 きつじつ〔吉日〕 'iihwii, zohwi
 ぎっしり zibaqtu, zisaqtu, zisiqtu
 きづち〔木づち〕 kiizicaa, →さいづち
 きっこう〔吉兆〕 ciqcuu
 きっちり cintu 「neen, →かならず
 きっと ciqtu, ?ijadin, kaziti, ?u?ee
 きつね〔狐〕 ci?ini/ ~の嫁入り tiida?ami,
 きつねび〔狐火〕 ?ooruubii [tiidabui
 きっほう〔吉報〕 'iisirasi
 きてい〔規定〕 →kata, きそく, きまり
 きとう〔亀頭〕 hanki
 きとう〔祈禱〕 citoo, ?ugwan, →おいのり,
 きがん/ ~の代わりとなるもの citoogaai
 きどぐち〔木戸口〕 munguci, →かどぐち
 きどせん〔木戸銭〕 muncin
 きどりや〔気取り屋〕 bunmucaa, ?unbu-
 jaa 「aci
 きどる〔気取る〕 ?unbujun/ ~こと ?wa-
 きなが〔気長〕 →のんびり/ ~である ciin-
 iisan, cimunagasan, 'juujuuturaasjan
 きなくさい〔きな臭い〕 / ~におい kako-
 obikaza
 きなこ〔黄な粉〕 maaminakuu
 きにいり〔気に入る〕→おきにいり
 きにゅう〔記入〕 coodumi/ ~する tati-
 jun, →かきいれる/ ~もれ tati?ukuri
 きぬ〔絹〕 ?iicu, ?itu/ ~の着物 ?iicuzin/
 ~のもの ?itumun, man, →siraga, ka-
 sinucisiraga
 きぬいと〔絹糸〕 ?iicu?iicuu, →siraga
 きぬずれ〔衣ずれ〕 / ~のさま →bitabita,

きぬた〔砧〕 ?icabu [horohoro
 きね〔杵〕 ?azin, kakiziei
 きのうち〔昨日〕 cinuu/ ~きよう cinuucuu
 きのえ〔甲〕 cinii
 きのご〔茸〕 cinuku, naaba / ~の一種
 ?aasa, hataki?aasa, mimigui, simizi,
 moo?aasa
 きのと〔乙〕 cinutu
 きのだく〔気の毒〕 cinudukn/ ~である
 cimugurisjan, cimuficasan/ ~な(~
 に) cimugurugiinaa
 きのは〔木の葉〕 kiinuhwaa/ ~の広いも
 の kaasja, kaasjanuhwaa/ ~で包んだ
 もの kaasjanuhwaa?icin
 きのぼり〔木登り〕 kiinubui
 きば〔牙〕 ciiba
 きばらし〔気晴らし〕 nucinusintaku
 きばる〔気張る〕 →cibajun, がんばる
 きはん〔帰帆〕 cihwan
 きはん〔規範〕 →kani, てほん
 きみ〔忌避〕 kusi
 きび〔黍〕 maazin 「gurasan
 きびきびしている cibiraasjan, →haziri,
 きびしい〔厳しい〕 cibiqsan, ciwasjan,
 →げんじゅう
 きびなご〔魚名〕 sururugwaa
 きぶくれ〔着ぶくれ〕 / ~したさま 'wabu-
 wabu
 きふるす〔着古す〕 ciiburumasjan
 きぶん〔気分〕 cigee, kukuci, →きもち,
 こころもち / ~が悪い ?anmasjan / ~
 が悪いこと ?anmasjabucigee, bucigee,
 bucikun, bukukuci
 きぼし〔擬宝珠〕 →boonta, boontuu
 きぼとけ〔木仏〕 kiibutuki
 きまえ〔気前〕 / ~がいい者 ?uhuzimuu
 きまくら〔木枕〕 kiimaqkwa
 きまま〔気まま〕 cimama, →かって
 きまり〔決まり〕 sadami, →きそく, けっ
 てい, さほう

きま

きまる〔決まる〕 → けってい
 きみ〔君〕 cimi, → cin
 きみ(代名詞) → おまえ, きさま / ~ぼく
 の話し方 'inu?iihii, tageeni?iihii
 きみ〔黄身〕 ?akamii
 きみがわるい〔気味が悪い〕 hagoosan,
 'joo?usumasjan, → りすきみがわるい
 きみじか〔気短か〕 → たんき
 きみじかもの〔気短か者〕 taNcaa
 きみたち〔君たち〕 → おまえたち
 きみょう〔奇妙〕 cimjuu, → ふしぎ / ~で
 ある hwirumasjan
 きむ〔義務〕 ?ataimee
 きむずかしい〔気むずかしい〕 kamarasja-
 N, mu?ikasjan / ~者 kamarasjaa,
 hwireegurii, ziiguhwaa 「→ けってい
 きめる〔決める〕 ciwamijun, sadamijun,
 きも〔肝〕 cimu / ~を冷やす → Nnihwi-
 zurusan 「ころもち
 きもち〔気持〕 kukuci, siNci, → きぶん, こ
 きもの〔着物〕 cin, → いしょう, いるい, (小
 児語) 'jaajaa, (敬語) 'nsu, ?weensu,
 → cincihwada, cirukaa / ~の襟 cinnu-
 kubi / ~の着こなし cinciidanari / ~の
 種類・名など ?aasimun, ?aasizin, ?a-
 kauuzin, basjaazin, basjazin, ci-
 mun, ciizin, coozin, diNkwaa, dusudii,
 duubuku, duusibui, duzin, hadasibui,
 ha?ui, hwiitaa, ?irunucin, 'judaci,
 kurucoo, maakwaa, riNkwaa, sirucoo,
 sudiciraa, tanasi, ?uqcaki, ?uqcaki-
 gwaa, 'wata?iri, 'watazin, ?waazi, →
 がいしゆつぎ, しょうぞく, はれぎ, ふだ
 んぎ, れいふく / ~の背につける飾り →
 mabujaaau / ~のたけ ciidaki / ~の
 つくろい cinnukuu / ~のつけひも
 cinnuuu / ~の前すそ cinnsubaa / ~
 をゆがめて着ること kata?nnazi
 きやく〔客〕 caku, (敬語) ?ucaku, ?u?iin
 きやく〔逆〕 → さかさま

きやくたい〔虐待〕 siNda, → susoon
 きやくてんする〔逆転する〕 ?uqceejun, →
 ひっくりかえす
 きやくふう〔逆風〕 'Nkeekazi
 きやくりゅう〔逆流〕 sakami?i
 きやくりよく〔脚力〕 ?asidooni, hwisja-
 zikara 「joogisan
 きゃしゃである munu?oocigisan, munu-
 きやすい〔気安い〕 hwireejaqsan, → こ
 ろやすい
 きゃはん〔脚絆〕 cahan, cahwan
 きやみ〔気病〕 cibjoo, cijami
 きやり〔木遣り〕 cijai / ~歌 cijai
 きゅう〔灸〕 'jaacuu 「nu
 きゅう〔九〕 kukunu?i, kuu, → ku-, kuku-
 きゅう〔急〕 → ?aQta, たちまち, とつぜん /
 ~な思い立ち ?aQta?umitaci / ~な傾斜
 sakanai / ~な坂 sakuhwira / ~に cuu-
 can / ~に驚くこと ?aQta?uduruci
 きゅうあく〔旧悪〕 hurukizi
 きゅうか〔休暇〕 'jurii, → やすみ
 きゅうくつ〔窮屈〕 / ~である ?ibasan,
 ?icizirasan / ~なさま ?ibajaasiicee /
 ~な所 ?ibadukuru, ?ibai, ?ibaiduku-
 ru, → ?ibainumii
 きゅうけい〔休憩〕 → きゅうそく
 きゅうけいしょ〔休憩所〕 'jukuidukuru
 きゅうけつりょうほう〔吸血療法〕 buubuu-
 nuzi
 きゅうし〔臼齒〕 ?uu?ibaa, → おくば
 きゅうじ〔給仕〕 euuzi
 きゅうしゃめん〔急斜面〕 sakanai
 きゅうじゅう〔90〕 kuzuu
 きゅうしょ〔急所〕 ?ibudukuru, nucidu-
 kuru, sjoodukuru
 きゅうじょ〔宮女〕 gu?ikuncu
 きゅうす〔急須〕 cuukaa
 きゅうする〔窮する〕 ?imajun, sasi?ima-
 jun, → こまる
 きゅうそく〔休息〕 'jukui, → なかやすみ,

ほねやすめ/ ~する→やすむ
 きゅうてん〔灸点〕 çibu, çibudukuru
 きゅうどう〔旧道〕 hurumici
 きゅうにく〔牛肉〕 çinu?aqtami, ?usinu-
 きゅうにゅう〔牛乳〕 ?usinuçii [sisi
 きゅうはんじだい〔旧藩時代〕 ?ucinaajuu
 きゅうびょう〔急病〕 cuubjoo
 きゅうめい〔救命〕 nucidaşiki
 きゅうり〔胡瓜〕 kii?ui
 きゅうりもみ ?uigwaa?usee
 きゅうりゅう〔急流〕 haikawa
 きゅうりん〔9厘〕 sipjaakugunZuu
 きゅうれき〔旧曆〕 ?ucinaagujumi
 きゅっと →kUN-, つよい
 きょう〔経〕 →おきょう, きょうもん
 きょう〔今日〕 cuu, kiju/ ~といりきょう
 cuuqsicuu/ ~の日 cuunuhwii
 きょう〔器用〕 şeekugaçti
 きょういく〔教育〕 naraasi, ?usii, ?usii-
 gata, →しつけ 「る tideejUN
 きょうおう〔養応〕 tidee, →せったい/ ~す
 きょうかい〔境界〕 sakeemi, →さかい
 きょうぎ〔協議〕 cuugoo, zinmi, →そら
 だん/ ~する ?ucaasjUN
 きょうぐう〔境遇〕 minu?wii, tacihwa
 きょうくん〔教訓〕 ?jusigutu, →おしえ
 きょうげん〔狂言〕 coogin, →marumUN,
 →きりきょうげん 「く
 きょうこう〔僥倖〕 kuurizeewee, →ころふ
 きょうざ〔餃子〕 poopoo
 きょうさいか〔恐妻家〕 tuzinukookoo
 きょうさん〔仰山〕 daNdan, →たくさん/
 ~な hagoorii
 きょうじ〔行事〕 / ~の名など ?abusiba-
 ree, ?agari?umaai, booçinadii, buN,
 çinahwici, çinutatii, cuizin, duuguma-
 çii, 'eisaa, haarii, haçigoosaa, hama-
 ?uri, huuciee, ?izaihoo, 'jookabii, 'juN-
 nujuta, 'juçkanuhwii, 'juçkaziiru, ka-
 a?urii, kabi?anzii, kukunukan, ma-

buiwakasi, maNSan, miizuurukunici,
 miçcanusiku, miçcanu?uiwee, miçca-
 nu?ujuwee, miruku?unkee, muucii,
 nacizinuçami, nankanusiku, 'ncabi,
 ?Nzihuni?uiwee, sakankee, saNgwa-
 çii?aşibi, sigiwaçieisaa, simakusarasi,
 sinugu, tanabata, ?ubiinadii, ?unca-
 bi, ?usjooroo, çuri?Nma, zuurukunici
 きょうしゆく〔恐縮〕 'jagumisa, →かしこ
 まる/ ~する→duugurisjan
 きょうしょう〔行商〕 kami?acinee, kata-
 mi?acinee 「?amijUN
 きょうずい〔行水〕 →?uşimasi / ~する
 きょうそう〔競争〕 ?aragaa, ?aragaee,
 ?aragaai, ?araşii, sjuubu/ ~する ?a-
 ragaajUN ?arasuujuN/ 近道をする~
 maalbeekuu
 きょうそう〔饒漕〕 →haarii
 きょうだい〔兄弟〕 coodee, ?utuzaNda, →
 ?umikii, ?umikiinumee, ?uçtuşiiiza,
 'wikii, はらから/ ~が多いこと ?uhuco-
 odee/ ~の仲が悪い coodeeguhwasan
 きょうだんす〔京箒箒〕 coodaNşi
 きょうちくとう〔夾竹桃〕 coocikutoo
 きょうちょう〔凶兆〕 tamagai
 きょうづか〔経塚〕 cooçika
 きょうと〔京都〕 cootu
 きょうどう〔共同〕 →きょうゆう, きょう
 りよく/ ~井戸 →muragaa/ ~飼育
 →kareewaakii
 きょうねん〔凶年〕 gasidusi, nigajuu
 きょうぼう〔共謀〕 ciiku, →たくらむ/ ~
 している者 haratiçi
 きょうぼく〔喬木〕 takagii, ?uhugii, →
 きょうみ〔興味〕 suumi 「たいぼく
 きょうもん〔経文〕 coomuN
 きょうゆう〔共有〕 cuukuu, (敬語) ?unakaa
 きょうらく〔享楽〕 sjuzoo, →たのみみ
 きょうりよく〔協力〕 cimuzurii, →きょう
 どり/ ~する ?ucaasjUN

ぎよ

ぎょうれつ〔行列〕 (敬語) ʔusuneei
きよか〔許可〕 'jurii, →ゆるす
きよくげい〔曲芸〕 hooka, →かるわざ
きよくげんする〔極言する〕 ʔiicijun
きよくち〔極致〕 cikuri, →きわ
きよしつ〔居室〕 ſimeeʒa, →いま
きよしょ〔居所〕 'uizu 「おとこ, おおおんな
きよじん〔巨人〕 'jatumuN, 'jatuu, →おお
きよせいする〔去勢する〕 →hugui
きよぜつ〔拒絶〕 kuhwabanii, 'Nba, 'Npa,
'NNba, 'NNpa, →ことわる
きよだい〔巨大〕 →おおきい, おおきな/ ~
である 'jatumagisaN/ ~な 'jatu-/ ~な
もの 'jatumagii
きよどう〔拳動〕 siisizama, →たちいふる
きよねん〔去年〕 kuzu 〔まい
きよひ〔拒否〕 →きよぜつ
ぎよふ〔漁夫〕 ʔijutuʒaa, ʔumiNeuu
きよめる〔清める〕 cijumijun
きよろきよろ ʔamamiikumamii, guru-
guru, miiguruguru, miigurumaai/ ~
する者 miiguruguruu
ぎよろり ciNcaan
きらい〔嫌い〕 buſici 「とう, いやがる
きらう〔嫌う〕 cirajuN, →hujun, kusi, い
きらきら ciracira, hwicarahwicara
きらく〔気楽〕 →ʔizin, こころやすい
きらす〔切らす〕 cirasjun, hwiqcijun,
hwiqcirasjun/ 切らしがちなさま ciri-
naataranaa, hwiqcirakaacira/ 切らし
がちな所帯 hwiqcirizuutee 「sjun
きり〔錐〕 ʔiri/ ~で穴をあける ʔirihuga-
きり〔霧〕 ciri/ ~が降りること ciriʔuri/
~を吹くこと simisi
きり〔桐〕 ciri
きり〔切り〕 cirihwa/ ~がない →hati き
り -teen, -ziri
ぎり〔義理〕 ziri, →kaʒu, ぎ/ ~や作法
zirizaNmee/ ~を欠く →hazi/ ~をわ
きまえない magurijun/ ~をわきまえな

い者 maguraa, magurimun
きりきざむ〔切り刻む〕 →きざむ / ~こと
cirikuzaN, ʔusiciriziri
きりきざす〔切り傷〕 cirikizi, sakui
きりきょうげん〔切狂言〕 ſiicoogin
きりくち〔切り口〕 cirikuci, cirimi
きりころす〔切り殺す〕 cirikurusjun
きりさめ〔霧雨〕 gumaʔamigwaa, →こさ
め
きりすてる〔切り捨てる〕 cirisitijun
きりたおす〔切り倒す〕 ciritoosjun
ぎりだて〔義理立て〕 ziridati
きりつめる〔切り詰める〕 →ſimeecijun /
~こと cirigimi, →けんやく
きりどおし〔切り通し〕 'waitui
きりばん〔切りばん〕 →ciriban, まないた
きりふき〔霧吹き〕 simisi
きりほしだいこん〔切干大根〕 cizamide-
ekuni
きりやく〔機略〕 ʔugucizinbun, →きち
きりゆう〔寄留〕 cirjuu, cizuu
きりゆうにん〔寄留人〕 cizuunin
きりよう〔器量〕 kaagi, →kiroo, かおだち,
ようぼう/ ~の悪い者 'janakaagii
きりようじん〔器量人〕 ciroonin
きりん〔麒麟〕 cirin
きりんそう〔植物名〕 hukurugi
きる〔着る〕 cijun, cirumun/ 着始めのも
の ciikaki
きる〔切る〕 cijun, →ʔusicijun, 'wacun/
さっと~ gusumikasjun, →ちよんぎる
きれ〔切れ〕 →ぬの
きれ〔切れ〕 -caai, -ciri
きれい〔奇麗〕 cirii, ciriin/ ~である→うつ
くしい/ ~な女 →びじん/ ~に curaaku
きれぎれ〔切れ切れ〕 hwiqciribiqciri, →ず
きれくず〔切れ屑〕 hucigi 〔たずた
きれつ〔亀裂〕 hwibari, hwibici, hwibiki,
きれはし〔切れ端〕 cirihasi 〔→さけめ
きれめ〔切れ目〕 cirimi, →きりくち

きれもの〔切れ者〕 haganaa, haganimu-
N, takumaciraa, takumacirimun, →
さいばしる
きれる〔切れる〕 cirijun, hwiqcirijun,
tacun/ 切れたり破れたり cirimusiri/
切れてなくなった者 -muqkoo
ぎろう〔妓楼〕 zurinujaa
きわ〔極〕 ciwa, →きょくち
きわまる〔極まる〕 →takiqikijun
きん〔金〕 cin, kugani/ ~のかんざし ku-
ganiziihwaa, kuganikamisasi/ ~の指
輪 kugani?iibiganii, kugani?iibinagii,
/ ~歯, ~屏風, ~欄→それぞれの項目を
見よ
きん〔斤〕 -cin, →cinmi 「ziihwaa
ぎん〔銀〕 nanza/ ~のかんざし nanza-
ぎんが〔銀河〕 tingaara
きんがく〔金額〕 zindaka
きんかん〔金柑〕 cinkan
きんがん〔近眼〕 cikami
きんきじゃくやく〔欣喜雀躍〕 moohani,
tunmooimooi, tunzaamoojaa, 'uui-
hani, →うれしい, こおどり, よろこぶ
きんぎょ〔金魚〕 Yaka?ijuu/ ~の一種 da-
きんこう〔近郊〕 sicaara 「Neuu, sanmi
ぎんこう〔銀行〕 zinkoo
きんさつ〔禁札〕 cizinuhwee
きんし〔禁止〕 cinzi, haqtu/ ~されてい

ること cireemun/ ~すべきこと ciree/
~する cizijun
きんじょ〔近所〕 cinpin, cinpoo, →とな
り, となりきんじょ/ ~払い cinzubaree/
~づきあい cinzubiree/ ~の集まり ci-
Nzuzurii
きんしん〔近親〕 cika?weeka, ?uciwaa,
(敬語) cica?unpadaan, →しんせき
きんせい〔禁制〕 haqtu, →きんし
きんせい〔金星〕 'juubanmanzaa, 'jooka-
abusi, manzaabusi
きんせん〔金銭〕 →かね
きんぞく〔金属〕 →かね
きんたま〔畢丸〕 'jaqkwan, kuuga/ ~が
痛むこと tamajan
きんたろう〔金太郎〕 →はらかけ
きんちゃく〔巾着〕 zinbukuru
きんとん /~の一種 kuu?nmunii, taa?N-
きんば〔金歯〕 cinbaa 「munii
きんびょうぶ〔金屏風〕 cinbjoobu, cinno-
きんべん〔近辺〕 →ちかく 「obu
きんぼう〔近傍〕 →ちかく
ぎんみ〔吟味〕 →しらべ
きんむ〔勤務〕 cimi, citumi, →つとめる
きんむひょうてい〔勤務評定〕 husikoo
きんめ〔斤目〕 cinmi, →りょうもく
きんもつ〔禁物〕 →だいきんもつ
きんらん〔金欄〕 cindan, cinran

く

く〔九〕 →きゅう
ぐあい〔工合〕 ?anbee, tanari, →かげん,
くい〔杭〕 kwii 「つごろう
くいあらず〔食い荒らす〕 /~こと kizihoo-
rii, kizihui, kweehoorii
くいあわせ〔食いあわせ〕 kuku
くいいじ〔食い意地〕 →くいしんぼう/ ~が
張る gacikeejun/ ~がはっている gaci-

gisán, gaciraasjan
くいきる〔食い切る〕 kwiicijun
くいさがる〔食い下がる〕 teesagajun
くいしばる〔食いしばる〕 kwiicaasjun
くいしんぼう〔食いしん坊〕 gaci, 'jaasao,
→?uhugaci, くいいじ
くいたおす〔食い倒す〕 kweetoosjun
くいだおれ〔食い倒れ〕 kweedoori

くいちがう〔食い違う〕 ʔaakijun, →ちぐはぐ
 くいちらす〔食い散らす〕 →くいあらす
 くいつく〔食いつく〕 kwiiçicuN, kwiiçiki-jun, tuqkwajun, →かみつく
 くいつぶす〔食いつぶす〕 kweetoosjun
 くいな〔水鶏〕 kumiraa, kumiru 「sjun
 くいはぐれる〔食いはぐれる〕 kamihan-
 くいぶち〔食いつぶす〕 kweekuci
 くいもの〔食いもの〕 →たべもの
 かう〔食う〕 kanun, kwajun, tuikanun, (敬語) ʔusjagajun, →たべる/ ~ことの果報 kweebuu/ 食わせる kwaasjun/ ~にやっとの働き kucinumee
 ぐうぐう gutaguta
 ぐうしゃ〔空車〕 'Nnaguruma
 ぐうぜん〔偶然〕 hjoosi, →たまたま/ ~の機会 ʔaqtatʔuzumi
 ぐうたら guuda, nubacirimun, →なまけもの/ ~にした仕事 nubacirisigutu
 ぐうふく〔空腹〕 'jaasawata, (敬語) minisija 'Nnawata/ ~である 'jaasan/ ~で元気がなくなる hwicisagajun
 ぐがつ〔9月〕 kugwaçi, kungwaçi
 ぐき〔莖〕 guci, huni
 ぐき〔釘〕 kuzi
 ぐきぬき〔釘抜き〕 ganzimi, kuzinuzaa
 ぐりぬける〔潜り抜ける〕 çinpuçijun, hukijun
 ぐる〔括る〕 kunzun, →kukujun
 ぐる〔潜る〕 hukijun
 ぐけぬい〔縮け縫い〕 kukui, şimasibaai
 ぐけぱり〔縮け針〕 kukuibaai
 ぐける〔縮ける〕 kukujun
 ぐさ〔草〕 kusa/ ~の中 kusanumii/ ~の根 kusanunii/ ~の葉 kusanuhwaa
 ぐさい〔臭い〕 'jungusasan, kusasan, niwidakasan, →あくしゅう, きなくさい, けむり, こげくさい
 ぐさかり〔草刈り〕 kusakai/ ~をする子

供 kusakajaawarabaa/ ~をするもの kusakajaa
 くさき〔草木〕 kiikusa, kusaki
 くさぎ〔植物名〕 kusazina
 くさくさ kusakusa, →くしゃくしゃ
 くさとり〔草取り〕 kusatui
 くさばな〔草花〕 kusabana
 くさび〔楔〕 kusabi, siqkwa
 くさもち〔草餅〕 huugimuci
 くさり〔鎖〕 kusai
 くさる〔腐る〕 kusarijun, →humieun, nitamajun, şiijun, くちはてる, くちる/ 腐らせる →kutasjun/ 腐ったもの kusaraa, kusarimun/ 腐って汁の出るもの siruhaimun/ ~こと →mizikaçaa
 くされいも〔腐れいも〕 mizikaçaaʔNmu
 くされえん〔くされ縁〕 ʔakuin/ ~の友達 kizimunaadusi
 くさわた〔草蓆〕 (植物名) hana
 くし〔櫛〕 sabaci, →kusi, くしけずる
 くし〔串〕 guusi
 くじ〔籤〕 kuzi/ ~運が強い kuzijahwarasan/ ~運がない kuziguhwasan
 くしけずる〔梳る〕 sabacun, şicun/ ~こと şicikusiree
 くしばこ〔櫛箱〕 sabacibaku
 くじびき〔籤引き〕 kuzibici
 くしゃくしゃ çikunaamukunaa, munna-ku, munnakukwannaku, munnakwannaa, →くさくさ
 くじゅうくのいわい〔九十九の祝い〕→kazimajaa
 くじょう〔苦情〕 googuci, kunuu, →ぐち/ ~を言うこと googucihjaaguci/ ~をいう者 googuca
 くじら〔鯨〕 guzira
 くじる kuzijun/ 突いて~ çicikuzijun
 ぐず〔愚図〕 nuruqkwimun, →のろま
 ぐずぐず danzamunza, →もたもた
 ぐすぐすたい hagoosan

くすぐったがりや hagoofumii
 くすぐる kucugujun
 くずこ〔葛粉〕 kuzi/ ～で固めること kuzigatami
 くずす〔崩す〕 kuzisjun, →つきくずす
 くすのき〔楠〕〔植物名〕 kusunuci
 くすのはかえで〔植物名〕 mamiku
 くすぶる〔燻る〕 kibujun/ ～こと→kibujaaturuu
 くすり〔薬〕 kusui
 くすりだい〔薬代〕 kusuidee
 くすりや〔薬屋〕 kusuijaa, kusuimaciaja
 くすりゆび〔薬指〕 narasi, narasi?iibi
 くずれる〔崩れる〕 kuurijun, kuzirijun/
 崩れた模様 →miikun?jaa
 くせ〔癖〕 kusi/ …の～に -nu ?nziti, -nu ?nzitooti
 くそ〔糞〕 kusu, →nagui, だいべん/ ～を
 する majun
 くたく〔砕く〕 ku?iacun
 くたくた / ～になる →?aata, つかれる
 くだけごめ〔砕け米〕 ?nnabi
 くだける〔砕ける〕 kudakijun
 くださる〔下さる〕 taboojun, ?utabimi-
 ?een, →くれる/ 下さい →taboojun
 くだす〔下す〕 kudasjun, →げり
 くだばる →のびる
 くだびれ →つかれ
 くだびれる →つかれる
 くだもの〔果物〕 naimun, →kiinunai
 くだり〔下り〕 kudai
 くち〔口〕 kuci, (敬語) mikuci/ ～がえぐ
 い kuciwiigoosan/ ～が重い kuci?n-
 busan/ ～が軽い kuci?aqsan, kuciga-
 qsan / ～が早い kucibeesan/ ～が悪
 い kuciguhwasan/ ～が悪い者 'jana-
 gucaa, kuciguhwaa/ ～のことがった顔
 'juumuuzira/ ～のことがった者 'juumu,
 saaruu, tugaii, tugajaa, →hajuuguci
 / ～を大きく開くこと gaaburaci

くち →くじょう/ ～をこぼすさま 'wabii-
 hai, 'wa-biinooi/ ～っぽい者 'wabijaa/
 ～をこぼす 'wabijun
 くちあけ〔口明け〕 miiguci, niinuhana
 くちうつし〔口移し〕 / ～に酒を飲ませること
 kukun?zaki
 くちおしい〔口惜しい〕 →ざんねん/ 口惜し
 や残念 kucuusija zan?ni
 くちかず〔口数〕 kucikazi, kutubakazi
 くちがね〔口金〕 kucigani
 くちき〔朽木〕 kuciki
 くちぎたない〔口汚ない〕 kucihagoosan
 くちぐせ〔口癖〕 kucigusi, kucinuui
 くちぐち〔口口〕 kueguci
 くちぐるま〔口車〕 kuciguruma
 くちげんか〔口喧嘩〕 ?iikwaaee, kucigutu,
 →こうろん
 くちごたえ〔口答え〕 guci, hwinkee, ku-
 cihwinkee, kucihwintoo, →はんこう/
 ～する →kuci
 くちさき〔口先〕 kucinu?waabi, kucisa-
 ci/ ～ばかり ?iinagasinagasi, →sjun-
 sooro
 くちさびしい〔口さびしい〕 kucisabiqsan,
 sabi?sa
 くちじゃみせん〔口三味線〕 kuciza?nsin
 くちだっしゃ〔口達者〕 bi?kkuu, kucigan-
 sui/ ～な者 bi?nkuumun
 くちどめ〔口止め〕 kucidumi
 くちなおし〔口直し〕 kucinoosi
 くちなし〔植物名〕 kazimajaa, kucinasi
 くちはてる〔朽ちはてる〕 saboorijun, →
 くさる/ 朽ちはてたさま saboorikaa
 くちひげ〔口ひげ〕 ?waa?wizi
 くちびる〔唇〕 →?iba/ ～の色 ?iba?iru
 くちぶえ〔口笛〕 / ～の音 huuihuui
 くちべた〔口下手〕 kucibita
 くちやかましい〔口やかましい〕 kucijaga-
 masjan
 くちよせ〔口寄せ〕 'junnujuta, si?nmaju-

くち

ta/ ~をする「ゆた」'juNnujuta
 くちる〔朽ちる〕 kucun, →くさる
 くつ〔靴〕 huja
 くつがえる〔履る〕 →ひっくりかえる
 ぐつぐつ gwatagwata, kwatakwata
 くつじゅうする〔屈従する〕 →くっぶくする
 ぐっしょり →びっしょり
 ぐったり guqtai, gutaqtu, →げんなり/
 ~する ciisiqtajun, muNcun
 くつつく taqçikajun, taqkwajun/ くっ
 つき合うさま taqçikaimuqçikai, ta-
 qkwaimuqkwai
 くつつける hwiqçikijun, taqkwaasjun/
 ~さま taqçikihwiqçiki, taqçikimuqçiki
 くてかかると〔食って掛かる〕 taguikaka-
 jun, tuqkajakun, tuqkwajun/ ~さま
 →tiikwaahwisjakwaa
 くつぬぎ〔沓脱〕 kudami, →?isizi
 くっぶくする〔屈服する〕 magajun/ 屈服
 させる ?usimagijun, →あつとうされる
 くつろぎ〔寛ぎ〕 kuçiruzi, →ゆったり
 くつろぐ〔寛ぐ〕 kuçiruzun
 くつ布〔轡〕 kuciba
 くつ布むし〔轡虫〕 ?urumaa, ?urumaa-
 zee/ ~の一種 ?uhuwata?urumaa
 くだくど ?iikeesigeesi
 ぐどん〔愚鈍〕 gudun, →おろか, のろま/
 ~である dunnasan
 くに〔国〕 kuni, (敬語) →?weeguni/ ~
 の広さ kuniwaa/ ~の風俗 kuninuzuku
 くにがみ〔国頭〕 →やんばる
 くにじゅう〔國中〕 cukuni, kunizuu
 ぐにゃぐにゃ biirakwaara/ ~になる
 ?aatanajun
 くにん〔9人〕 kukunutai
 くねくね 'joogaahwiigaa, 'joogeehwii-
 gee, magaihwigui, magajaahwigu-
 jaa
 くねんぼ〔九年母〕 (植物名) →kunibu

くおう〔苦惱〕 →?ucikurisja, おもいなやむ
 くばりもの〔配りもの〕 kubaimun
 くばる〔配る〕 hazun, kubajun
 くび〔首〕 kubi, (卑語) 'jumukubi/ ~が
 だるい kubidarusan/ ~に掛ける ha-
 cun, hakijun/ ~の根っこ →kazigaa/
 ~までの高さ kubidaki/ ~をくくる ku-
 birijun
 くびすじ〔首すじ〕 kubigaa, ?usiru
 くびったけ〔首ったけ〕 manburi
 くびつり〔首吊り〕 kubirizini
 くびなげ〔首投げ〕 maci
 くびまがり〔首まがり〕 'joogaa
 くびる〔繰る〕 kunzun, →しぼる
 くふう〔工夫〕 kuhuu, →こうあん
 ぐぶつ〔愚物〕 ?inbunkusaraa, →おろか
 くべつ〔区別〕 miiwaki, miwaki, →いろわ
 け/ ~する miiwakijun, 'wakasjun
 くほみ〔窪み〕 kubun
 くま〔熊〕 kuma
 くませみ〔鯉の名〕 sansanaa
 くまどり〔隈取り〕 / ~をする damijun
 くまなく〔隈無く〕 miimiiteede
 くみ〔組〕 kumi, kuna/ ~の代表 kumi-
 gasira/ ~を作ること ?ucigumii
 ぐみ〔植物名〕 kuubi
 くみうちする〔組み打ちする〕 muşibaajun,
 muşubaajun, →とっくみあう
 くみおどり〔組踊り〕 kumiudui
 くみこむ〔汲み込む〕 kumiNcun
 くみたてる〔組み立てる〕 kumitatijun, →
 kacun/ 組み立て式のもの nuzisasi
 くみとる〔汲み取る〕 kumitujun
 くみひも〔組紐〕 →hwiragun
 くむ〔汲む〕 kunun
 くむ〔組む〕 kunun
 くめむら〔久米村〕 (地名) kuninda/ ~の
 青年 →suuqee
 くめんする〔工面する〕 sigarijun
 くも〔雲〕 kumu/ ~の切れ目 kumuziri

くも〔蜘蛛〕 kubu, kuubaa/ ~の巣 kubu-
 bagasi 「dinai
 くもり〔曇り〕 kumui/ ~の天気 kumui-
 くもる〔曇る〕 kumujun, singwijun
 くやしい〔口惜しい〕 →くちおしい
 くやみ〔悔み〕 kujami
 くやむ〔悔む〕 kujanun, →こうかい
 くよう〔供養〕 kujoo
 くら〔倉〕 kura, →そうこ
 くら〔鞍〕 kura
 くらい〔位〕 ?atai, kuree, tuikuree, →い
 くらい〔暗い〕 kurasan, →まっくら 〔かい
 ぐらぐら ?amazikaa, guragura, guu-
 raahaqtai
 くらぐらと〔暗暗と〕 kuraguratu
 くらげ〔水母〕 / ~の一種 ?iiraa
 くらし〔暮らし〕 →せいかつ
 くらしかた〔暮らし方〕 duumucizuku,
 kurasigata
 くらしむき〔暮らし向き〕 tacihwa, tacizu-
 ku
 くらす〔暮らす〕 kurasjun/ 暮らしかねる
 こと tacikantii/ 暮らしにくい kurasi-
 gurisjan, tacigurisjan/ 暮らしやすい
 kurasijaqsan, siijaqsan, tacijaqsan,
 zinmijaqsan
 くらべる〔比べる〕 kunabijun, kurabi-
 jun, →みくらべる/ ~こと hwiqcoo/ 比
 べものにならない danun naran
 くらやみ〔暗闇〕 kurajami, kurasin, →や
 くらわす〔食らわす〕 kwaasjun しみ
 くりあわせる〔繰り合わせる〕 katakakijun
 くりかえ〔繰り替え〕 kuikceruu
 くりかえす〔繰り返す〕 kuikcesjun/ 繰り
 返し kuikcesigeesi, →keesaa, たびた
 び/ 繰り返して見る miikesjun/ 繰り返
 し見るさま miikesigeesi
 くりかえる〔繰り替える〕 kuikcejun
 くりぐり gurui, →hudu?wiigurui
 くりだす〔繰り出す〕 kwaasjun

くりど〔繰り戸〕 hasiru
 くりのべばらい〔繰り延べ払い〕 ?irikeesii
 くりぶね〔削り舟〕 kuihuni, sabani, ?i-
 nni, sinngiwaa
 くりもどす〔繰り戻す〕 kuimudusjun
 くる〔来る〕 cuun, (敬語) ?imen?seen,
 meeN, men?seen, moojun, ?imen?seen,
 ?uceemi?seen/ 来てしまう ciihaciuun,
 haciuun, keehaciuun
 くる〔繰る〕 kujun, →たぐる
 ぐる ciiku, guu
 くるう〔狂う〕 hurijun 「つらい
 くるしい〔苦しい〕 ku?isan, kurisjan, →
 くるしみ〔苦しみ〕 kurusimi, →?icasan,
 siira, くろう, くろろ
 くるしむ〔苦しむ〕 kurusinun, →siira, わ
 ずらう
 くるぶし〔踝〕 →guhusi
 くるま〔車〕 kuruma, →hjaagaa
 くるまいど〔車井戸〕 kurumagaa
 くるまざ〔車座〕 goomaaii, ?ucimamaa-
 くるまどめ〔車止〕 →siqkwa 〔ruu
 くるまひき〔車曳き〕 kurumahwicaa
 くるまや〔車屋〕 kurumaa, →じんりきしゃ
 ぐるみ -?iiti, -takii, →いっしょ しふ
 くれ〔樽〕 kuri
 くれる〔呉れる〕 kwijun, →くださる/ 呉
 れ →turasjun
 くれる〔暮れる〕 ?juqkwijun
 くろ〔黒〕 kuruu, →まっくろ
 くろい〔黒い〕 kurasan/ 色の~人 →?jaci-
 ?usi/ 黒く太ること kurugweei/ 黒くて
 渋味のあるさま →kurusjuuzuutu/ 黒
 くなる kurunun
 くろう〔苦勞〕 kujoo, kuroo, nanzi, na-
 nzikunzi, ?nziira, sindoo, sinroo,
 →sin?kuma?nku, しんぱい/ ~を知らせ
 るところ →munusirasidukuru
 くろうしょう〔苦勞性〕 →siwasjaa
 くろがね〔鉄〕 →てつ

くろ

くろかび〔黒かび〕 kurubee
くろき〔黒木〕 kuruci
くろくも〔黒雲〕 kurukumu, →あまぐも
くろごま〔黒胡麻〕 kuruguma, kuruŷuguma
くろざとう〔黒砂糖〕 kuruzataa, saataa
くろさんご〔黒珊瑚〕 ŷumimaaçi
くろしお〔黒潮〕 kurusju
くろずむ〔黒ずむ〕 kurunun, kurusibii-
jun/ 黒ずんでやせること kurujoogari
くろつぐ〔植物名〕 'jujuzura, maani
くろつち〔黒土〕 zaagaru
クロトン〔植物名〕 kurutun
くろまめ〔黒豆〕 kurumaami
くろむ〔黒む〕 →くろずむ
くろめばる〔魚名〕 kurumiibaju
くろんぼ〔黒んぼ〕 →'jaciŷusi
くわ〔桑〕 kwaa/ ~の木 kwaagi/ ~の実
nanDeesii/ ~の弓 →kwaanujumi
くわ〔鋏〕 kwee 「→たす
くわえる〔加える〕 kuweejun, ŷwaasjun,
くわえる〔銜える〕 →kukunun/ くわえさ

せる →kwaasjun

くわしい〔詳しい〕 / ~こと ŷiŷee, kumee-
ki/ くわしくする kumeekijun
くわずいも〔食わず芋〕〔植物名〕 ŷnbasi
くわずぎらい〔食わず嫌い〕/ ~で食べて見
れば大いに食べること kwaankwaanNu
nanamakai/ ~で食べてみれば大いに食
う者 kwaankwaanNu nanamakajaa
くわだて〔企て〕 ŷigumasi, kunumi, mu-
kurumi
くわだてる〔企てる〕 ŷigumasjun, kunu-
nun, mukurunun, takunun
くわばらくわばら〔桑原桑原〕 kwaaginu-
mata, kwaaginusica
ぐん〔群〕 buri-
ぐんかい〔訓戒〕 soodaN, tuziki, →いま
しめ/ ~する tuzikijun
ぐんかん〔軍艦〕 ŷikusabuni
ぐんこう〔勲功〕 kunKoo/ ~のある人 ku-
nKoomuci
ぐんし〔君子〕 kunSi
ぐんせい〔群星〕 buribusi

け

け〔毛〕 kii, →かみ, ひげ, まつげ, まゆげ,
むなげ, わきげ, いんもう/ ~のぐあい
kiisiru/ ~のない者 kiimoo/ ~のぬけた
つぐみ kiihagimootui/ ~のはえぎわ
kiimiikuci
け〔卦〕 cii
げい〔芸〕 nuza, ziinuu, →げいのう, わざ/
~の達者な人 ziinumuci 「janzi
けいえい〔経営〕 migui/ ~の失敗 migui-
けいかく〔計画〕 ŷigumasi, kunumi, si-
kumi/ ~する →くわだてる
けいき〔景気〕 ciici
けいけん〔経験〕 sikarasi/ ~する sikara-

sjun

けいこ〔稽古〕 ciiku, →naree/ ~して習う
もの ciikumun/ ~する →ciiku
けいご〔敬語〕 sisiikutuba, ŷujameekutu-
ba/ ~を使う話しかた →curaŷuuhuu,
hooŷoo, huuŷjuu, huuŷuu, tageeniŷu-
uhuu, ŷoohoo, ŷuuhuu
けいこく〔警告〕 meegaki, →ちゅういする
けいざい〔経済〕 ŷagane
けいさつ〔警察〕 ciisaçi, →hwirazu
けいさん〔計算〕 saNmiN, saNtui, →かん
じょう/ ~間違い saNmiNbaQpee/ 大ざつ
ばな~ kurubazaa, teegeezanmiN/ こ

まぎれの～ hwiqcirizaNmIn
 けいし〔軽視〕 →kutuʔuʂeei, かろんじる,
 けいし〔罝紙〕 ciihwicikabi けいべつする
 けいしゃ〔傾斜〕 kataNci
 げいしゃ〔芸者〕 →zuri 「ある kaqsAN
 けいしょう〔軽少〕 sahuu, →すこし/ ～で
 けいず〔系図〕 ciizi/ ～のない者 mucii
 けいちつ〔啓蝨〕 musiʔuduruku
 けいていしまい〔兄弟姉妹〕 →ʔunaiwikii,
 きょうだい
 けいと〔毛糸〕 kiitu
 けいとうする〔傾倒する〕 hwiqkatakNeUN,
 kataNeUN, mucikwaarijuN, mucikwa-
 juN, →しんぷくさせる
 げいのう〔芸能〕 nuhwa, ziinuu, →げい
 けいば〔競馬〕 ʔNmasjuubu, ʔNmazurii
 けいはく〔輕薄〕 →ciihwaku
 けいべつする〔輕蔑する〕 miisagijun, ʔu-
 ʂeejun, ʔuuzun, →かろんじる, けいし/
 輕蔑し合うさま cuiʔuʂeeʔuʂee/ 輕蔑し
 たことば使い qcuʔuʂeeimunii
 けいぼう〔閨房〕 kuca, ʔnucua
 けいむしょ〔刑務所〕 →hwirazu, ろうや
 けいやく〔契約〕 ʔjakuzoo, musubii, →と
 りきめ, やくそく
 けいゆ〔経由〕 →へる/ …～で -naadii
 けいらん〔鷄卵〕 tuinukuuga, →たまご
 けいりやく〔計略〕 hakarigutu, kunumi,
 けいろ〔毛色〕 kiiʔiru けいりやく
 けが〔怪我〕 kiga, →きず/ ～する ʔjama-
 けがにん〔怪我人〕 kiganiN けがにん
 けがらわしい hagoosAN, →きたない
 けがれる〔汚れる〕 cigarijuN, →よごれる
 げきじょう〔劇場〕 sibaja
 げきだん〔劇団〕 ʔuduiniNzu
 げざい〔下剤〕 kudasigusui
 げし〔夏至〕 kaacii/ ～のころ吹く南風 kaa-
 ciibee
 けしあざみ〔植物名〕 maaʔoohwaa
 けしからぬもの〔怪しからぬ者〕 ʔumaara-

Nmun
 けしき〔景色〕 ciici, cisici/ ～のよいとこ
 ろ →ʔwiirikidukuru
 けしずみ〔消し炭〕 caasizIN, ſimi
 けしとぶ〔消し飛ぶ〕 hwiqtunugasjun, →
 けじめ cirihwa けじめ
 げじょ〔下女〕 zoosicAA/ ～の冬の晴着 si-
 muwataziN
 けしょうする〔化粧する〕 ʂukujun, ʂuku-
 riijun, ʂukurijun, ſidasjun, →よそおう
 けじらみ〔毛虱〕 hjaan
 けす〔消す〕 caasjun, kunsjun
 げすい〔下水〕 ʔNNzu, ʔNzu
 けた〔桁〕 kita, tinzoogita
 げた〔下駄〕 ʔasiza/ 表付きの～ zita, (敬
 語) mizita/ ～の音 kaqkuikaqkui
 けだかい〔気高い〕 →こうごうしい
 けたちがい〔桁違い〕 →だんちがい
 けだもの〔獣〕 ʔicimusi
 げたや〔下駄屋〕 ʔasizamaciA
 けち ʔibiraa, ʔijasjaa, nizijaa, ziNgu-
 nzuu/ ～けちする ʔibirijun/ ～な →zi-
 けちがん〔結願〕 ʔugwanbutuci けちがん
 けちらす〔駈散らす〕 kirihoojun
 けつ〔尻〕 →しり
 げっきつ〔月橋〕 (植物名) gikizi/ ～のいけ
 垣 gikizigaci
 げっきゅう〔月給〕 ziqcuu
 げっきょく〔結局〕 →ʔuzumi
 げっけい〔月経〕 ʂicinumUN, zuugunici
 けっこう〔結構〕 ciqkuu
 けっこん〔結婚〕 niibici, →diqsIN, (敬語)
 ʔunibici, →けっこんしき/ 強制的な～→
 hwiqcaturuuniibici/ ～する musubUN,
 →kameejun, tumeejun/ ～の申し込み
 をする人 kuujaa/ ～の持参品の目録
 ʔukuizoo
 けっこんしき〔結婚式〕 niibici, (敬語) gu-
 kuNrii, kunrii, ʔunibici, →けっこん/
 ～に際しての行事の名 mukuʔiri/ ～に際

けっ

して嫁の家で婿を接待する役 sjooba, ʔu-sjooba/ ~の宴会場 niibicizaa/ ~の際の婿の付添役 mukuziri, mukuzooi/ ~の酌をする役 bintui/ ~の世話役 niibicineu/ ~の際の嫁の行列先導役 misaree, misareepaapaa, sadaiʔansitaree, sadaiʔansitari, ʔusaaree, ʔusaree, ʔusareepaapaa/ ~の際の嫁の行列に加わるつきそい sooiniNzu/ ~の時に花嫁とその荷の一行を監督する役 šeeroo/ ~の時の行列の提灯を持つ役 coocinmuci

けっしょく〔血色〕 ciiʔiru, ʔirukisa/ ~よく太っていること ʔakaragweei

けっしょく〔月蝕〕 gwaqsjuku

けっそん〔欠損〕 hugi, →かけ, そんがい

けったん〔血痰〕 ciikasagui

けってい〔決定〕 tuiciwami, →とりきめ/ ~する ciwamajun, ciwamijun, →きめる 「kusi, mii

けってん〔欠点〕 hwiihwinan, hwiikusi, ケット kiqtu, musin

けっとう〔血統〕 ciisizi, sizi, taqkwii, →ちすじ/ ~がさせる業 ciinuwaʒa

けっとう〔月桃〕 (植物名) sannin, sjannin/ ~の葉 sanningaasja

けっぱく〔潔白〕 ciqpaku

けっぺい〔月餅〕 →ritoopen

けつまつ〔結末〕 ʒibikukui, ʒii, sʒubi, →けつまつ〔月末〕 ʒicisii しまつ

けづめ〔蹴爪〕 ʒiruzi

けとばす〔蹴飛ばす〕 kiritubasjun 「gisan

けなげ/ ~である ganaraasjan, ganarakenas ʔiijanzun, ʔiikuzijun, ʔiisiqtarakijun, ʔiisitarasjun, →こきおろす, そしる, ひなん

けなん〔下男〕 'uncumii, zinin

げに daniju, →なるほど, ほんとう, まこと

げにん〔下人〕 'Nza, 'Nzaqkwa, zinin

げねん〔懸念〕 →しんばい

げびょう〔仮病〕 cibjoo, ʒukuijanmee

げひん〔下品〕 →いやしい/ ~である ha-goosan/ ~な →zibita/ ~な女 baacira/ ~な者 hagoomun, kazii

げぶかい〔毛深い〕 / ~者 kiimaa

けぶる〔煙る〕 kibujun

けむい〔煙い〕 kibusan

けむし〔毛虫〕 kiimusi

けむたい〔煙たい〕 kibusan 「kibusikaza

けむり〔煙〕 cimuri, kibusi/ ~臭いにおい

けもの〔獸〕 →けだもの

けら〔虫の名〕 →ʔamagakaa, ʔamagaku

げり〔下痢〕 hukadaci, kudasi, kusuhwirri, →sibiri/ ~する kudasjun/ ~するさま hwirihwirii

ける〔蹴る〕 kijun, →けとばす/ 蹴ってひっくりかえす kirikeerasjun

けれども ʔantun, ʔaʒiga, -ʒiga, →ʔan

けん〔間〕 -cin

けん〔軒〕 →ʔjaa

けんか〔喧嘩〕 mundoo, ʔooee, soodoo/ ~口論 mundoohwindoo/ ~する ʔoojun, →あらそう/ ~する者 ʔoojaa/ ~の虫 ʔoomusi/ ~をいどむさま tiineehwisjaneei/ ~をけしかける者 ʒicicidujaa

げんかん〔玄関〕 zinkwan

げんき〔元気〕 cikun, ʔizi, 'inuci, sii, taqsja, →そうけん/ ~がなくなる ciisiqtajun, sipitajun/ ~である →ʔaqcun, ʔwaacimiʒeen/ ~になる cuujun/ ~のある時とない時 cikunbucikun/ ~のないさま sipitaikaatai/ ~のない者 daimun, dajaa, ʒikutajaa

げんきん〔現金〕 / ~である ʔirumiijaqsan/ ~な人 ʔirumiijasii/ ~引き替え hwicigee 「→かたい, じょうぶ

げんご〔堅固〕 ciqkuu, katoo, zoobun,

げんご〔言語〕 →ことば

げんこつ〔拳骨〕 tiizikun, tikubusi, →koosaa/ ~で打つ gahwamikasjun

げんごろう〔虫の名〕 →taaʔiihwee

けんさ〔検査〕 ʔaratami, ciNsa, sirabi, →
しらべ/～する ʔaratamijun, sirabijun
けんし〔犬齒〕 ciiba
げんじゅう〔嚴重〕 zinZuu
けんじょうする〔献上する〕 →さしあげる
けんじょうぶつ〔献上物〕 ʔusjagimun
げんせ〔現世〕 ʔicimi, →げんだい, このよ
けんせい〔権勢〕 →いきおい
げんぞく〔選俗〕 geei/ ～する →geejun
げんそん〔玄孫〕 hwicimaga, hwiciʔNma-
げんだい〔見台〕 cindee [ga
げんだい〔現代〕 toogudee, →げんせ
けんちょう〔県庁〕 cinCoo
げんど〔限度〕 tamisi, →かぎり
げんなり biqteen, →ぐったり
けんび〔兼備〕 ʔuceekanee/ ～する ʔuca-

jun
げんぶく〔元服〕 katakasirajuui, zinbu-
ku/ ～前の名 doona
けんぶつ〔見物〕 cinbuçi
けんぶつにん〔見物人〕 cinbuçiniN
けんぶん〔検分〕 cinbun 「miinaricicinai
けんぶん〔見聞〕 cinbun, miinaicicinari,
げんまい〔玄米〕 nuumee
けんむする〔兼務する〕 katakakijun
けんやく〔儉約〕 ʔagane, cinjaku, ku-
meeki, (敬語)gucinjaku/ ～する ʔaga-
neejun, hwicisimijun, kubameesjun,
kumeekijun, →きりつめる
けんやくか〔儉約家〕 kumeekijaa
けんようすい〔懸壘垂〕 nuuɬiʔwaagwaa
けんりしょ〔権利書〕 →sasidasi

こ

こ〔子〕 qkwa, (敬語) ʔumigwa, ʔumini-
gwa, →こども/ ～と孫 qkwaʔNmaga
こ〔綱〕 kuu
こ〔小〕 (接尾) →gwaa
こ〔子〕 (接尾) →gwaa
こ〔五〕 guu, ʔiçiçi, gu-, ʔiçi-
こ〔碁〕 guu
こ〔御〕 gu-
こ〔語〕 →kuci
ごあんない〔御案内〕 mjuNçikee, nuNçi-
kee, ʔuNçikee, →あんない
ごあんばい〔御按配〕 ʔwaanbee
こい〔恋〕 kui, ʔumii, ʔumui, →sjuusiN/
～に狂った者 kuiburi/ ～をする →こい
する/ ～をする者 →kuizinaa, kuiziN
こい〔鯉〕 kuuʔiju
こい〔濃い〕 katasan/ ～茶 katazaa/ 濃
くする katamijun

こいか〔恋歌〕 kuika
こいがたき〔恋敵〕 migataci
こいこがれる〔恋い焦がれる〕 kugarijun
こいじ〔恋路〕 kuizi
こいし〔碁石〕 gudama
こいしょう〔御衣裳〕 →いしょう
こいする〔恋する〕 ʔumujuN
こいそぎ〔小急ぎ〕 gumaʔisuzi, →こぼしり
こいつ kunihjaa, kunuhjaa
こいに〔故意に〕 ʔuqtaati, 'wazaqtu, 'wa-
zatu, →わざわざ
こいぬ〔小犬〕 ʔingwaa
こいねこ〔恋猫〕 kuriimajaa
こいはい〔御位牌〕 →いはい
こいびと〔恋人〕 ʔumujaa, →'Nzo, sama,
satu, satumee, sjura, ʔumikana, ʔu-
miNzo, ʔumisatu, あいじん
こいむこ〔乞婿〕 kwiimuuku, →むこ

こう

こう〔甲〕 kuu
 こう〔講〕 koojuree
 こう〔劫〕 kuu
 こう kan/ ~する kaNsjuN
 ごう〔合〕 -goo
 こうあん〔考案〕 kunumi, →かんがえ, く
 ふう/ ~する kununUN
 こうい〔行為〕 Yukunee, →わざ
 こうい〔好意〕 cimufiri, kukuru?iri, sju-
 zuN, →しんせつ
 こううん〔幸運〕 →huu, ?eewee, かほう
 こうおつなし〔甲乙なし〕 ?eeti, ?eetu, nee-
 tukeetu, sajuu
 こうか〔効果〕 →siN, sirusi/ ~がある →
 cicun, kazicicun/ ~がない →sjoon
 tatan
 こうか〔高価〕 takadee/ ~な物 deedakaa
 ごうか〔豪華〕 / ~なさま ?akarakwaara
 こうかい〔航海〕 tukee/ ~する →?aqcun
 / ~中 keesjoo
 こうかい〔後悔〕 kuihwici, kuukwee, →
 'watagurisaN/ ~する kujanUN, →ci
 mu
 こうかつ〔狻猊〕 'jamagu, rikuçi/ ~な者
 rikucaa, rikuçikweemUN, seesizirimun
 こうかん〔交換〕 keei, keeru, taNkaa-
 geei, →bakujoo
 こうがん〔罌丸〕 →きんたま
 こうがん〔厚顔〕 nama?ira, →あつかまし
 い/ ~な者 nama?iraa, nama?irimun
 こうぎ〔公儀〕 →kuuzi, kuuzigutu
 こうぐ〔工具〕 ?eekudoogu 「く
 ごうけい〔合計〕 simi, suuzimi, →そりが
 こうけん〔効験〕 siN, sirusi, →こうか
 こうこう kankan
 こうこう〔孝行〕 kookoo/ ~な者 ?uja?u-
 ごうごう googoo [mujaa
 こうごうしい〔神神しい〕 ?iidakasan, sisi-
 dakasan
 こうさい〔交際〕 hwiree, maziwai, qcubi-

ree, tueehwiree, tuiee, tuihwiree, tui-
 kee, →biree, kugee, tunzaajanzaa,
 (敬語) ?utuikee, しゃこう, まじわり/
 ~している人びと hwireeniNzu/ ~しに
 くい hwireegurisaN/ ~上手 kanami-
 zoozi/ ~上のかなめ →kanami/ ~する
 →つきあら
 こうさいひ〔交際費〕 kugeezin
 こうさく〔耕作〕 keesibaru, keesibataraci/
 ~する kunasjun, →たがやす
 こうさする〔交叉する〕 ?azijun/ 交叉した
 ところ (交叉したもの) ?azimaa
 こうさつ〔高札〕 takahuda
 こうさん〔降参〕 ?wenmi, 'wabi/ かくれ
 んぼで鬼が~すること ?aaguuru
 こうざん〔鋳山〕 kanigaa
 こうし〔格子〕 koosi/ ~のすきま koosinu-
 こうし〔孔子〕 kuusi [mii
 こうじ〔麴〕 koozi
 こうじ〔小路〕 sjuuzi, →こみち
 こうしじま〔格子縞〕 guban?aja
 こうじつ〔口実〕 kucimaa, kucimigui,
 kutujusi, →いいわけ
 こうしど〔格子戸〕 koosinumii
 こうじょう〔強情〕 gahwasi, siqpa, →か
 たいじ, がんこ/ ~である gaazuusan/
 ~なもの boociraa, boocirimun, gaa-
 zuu, gahwasaa, 'janasiqpa, siqpa, siq-
 pamun, ziiguhwaa
 こうしよく〔公職〕 ?weedai, →こうむ/ ~
 の名 →いかい
 こうずい〔洪水〕 ?uumizi
 こうせつする〔交接する〕 ?icaajun, ?ica-
 jun, ?ukajun, →hoo, çirubun
 こうぞ〔植物名〕 kabigi
 こうたい〔交替〕 çigaa, çigaaru, kawa-
 iee/ ~する çigaajun, ?iricigaajun, →
 こうたい〔後退〕 ?atusizici [かわる
 こうたいしさま〔皇太子様〕 →kuganiga-
 nasiimee

こうたく〔光沢〕 hwicai, →つや
 こうだて〔甲立〕 koodati
 ごうち〔碁打ち〕 guuʔucaā
 こうてい〔皇帝〕 kootii
 こうてつ〔鋼鉄〕 hagani
 こうでん〔香典〕 →sjudee, ʔusjudee
 こうどう〔公道〕 →かいどう
 こうのもの〔香の物〕 cikimUN, kooru-
 mun, kooruu, →つけもの
 こうはいする〔荒廃する〕 →あれはてる
 こうびする〔交尾する〕 ɕirubUN, →こうせ
 つする 「う, ぎょうこう, しあわせ
 こうふく〔幸福〕 ʂeewee, sijawasi, →かほ
 こうぶし〔香付子〕 koobusi
 こうへい〔公平〕 kuutoo, →びょうどう
 こうぼ〔酵母〕 →ʔahjaa
 こうほう〔後方〕 →うしろ
 こうぼう〔興亡〕 sakaiʔuturui, tacitoori
 こうま〔子馬〕 ʔNmagwaa
 こうまん〔高慢〕 takaʔucagi
 ごうまん〔傲慢〕 ciihwaku, gooman
 ごうまんもの〔傲慢者〕 goomanāa, ʔugu-
 imUN, →たかぶる「こうしょく, こうよう
 こうむ〔公務〕 kuuzigutu, medeigutu, →
 こうむる〔蒙る〕 koomujUN
 こうめい〔公明〕 ʔaciraka
 こうもり〔蝙蝠〕 kaabujaa/ ~の一種 'ee-
 makaabujaa 「jaagasa, rangasa
 こうもりがさ〔蝙蝠傘〕 dangasa, kaabu-
 こうもん〔肛門〕 ɕibinumii
 ごうもん〔拷問〕 ʔicizimi 「ものや
 こうや〔紺屋〕 kuja, ʔeesumijaa, →そめ
 こうやく〔膏藥〕 koojaku, →つけぐすり
 こうゆ〔香油〕 kabaʔanda
 こうゆう〔交友〕 dusibiree, dusikugee, →
 こうゆうぶつ〔公有物〕 gumuɕi 〔つきあい
 こうよう〔公用〕 gujuu, kuuzigutu, →こ
 うむ
 ごうよく〔強欲〕 goojuku/ ~な者 gooju-
 kuu, ʔuhujukuu
 こうり〔高利〕 takarihwi

こうりがし〔高利貸し〕 koorigasi, takadi-
 imigui, takarihwiitujaa, →かねかし
 こうりょう〔香料〕 / ~の一種 ziNkoo
 こうろ〔香炉〕 ʔukooru
 こうろ〔航路〕 hunamici
 こうろん〔口論〕 ʔaragaa, ʔaragaai, ʔi-
 gaahai, ʔigaai, ʔiriwai, kucigutu,
 muNDoo, →くちげんか/ ~する →ʔara-
 gaajUN
 こえ〔声〕 kwii/ ~がかれること kwiika-
 raa/ ~の質 guin/ ~を限りに simatii-
 hjaatii, teehaikazihai
 こえ〔肥〕 kwee
 こえおけ〔肥桶〕 kweeuukii
 こえがわり〔声変わり〕 kwiigaa
 こえたご〔肥たご〕 kweeuukii
 こえだめ〔肥だめ〕 siiri
 こえびしゃく〔肥え柄杓〕 kweeniibuu
 こえる〔越える〕 kusjUN, kwiijun
 こえる〔肥える〕 buteejun, kweejUN, mu-
 teejun, →ふとる
 ごえん〔御縁〕 →えん
 こおけ〔小桶〕 'uukigwaa
 コーチン kooicin 「じゃくやく
 こおどり〔小踊り〕 kuumooi, →きんき
 こおり〔氷〕 kuuri 「taa
 こおりざとう〔氷砂糖〕 kuuri, kuurizaa-
 コーリヤン〔高粱〕 toonucin
 こおろぎ kamazee
 ごおん〔御恩〕 →おん
 ごおんがえし〔御恩返し〕 →おんがえし
 こか〔古歌〕 'nkasiʔuta
 ごかい〔誤解〕 'jukugan/ ~する →cimu
 こかげ〔木陰〕 kiinukaagi, →kaagi
 こがす〔焦がす〕 kugarasjUN
 こがたな〔小刀〕 ʂiigu
 ごがつ〔5月〕 gugwaɕi, gungwaɕi
 こがね〔黄金〕 →きん
 こがね〔小金〕 gumazin
 こがねむし〔黄金虫〕 kanibuubuu

こが

こがれじに〔焦がれ死に〕 kugarizini
 こきおろす ʔiisagijun, →けなす
 ごきげん〔御機嫌〕 ʔunəuu, →きげん/ ~
 伺い ʔunəuuəgan/ ~よろしいこと ʔu-
 bukui, ʔubukuiganasii, ʔubukunzana-
 sii, ʔubukunzansii
 こきざみ〔小刻み〕 hwiqiribiqiri
 こきつかう〔扱き使う〕 ʔaɕikajun, kuŋci-
 kajun
 こきぶり〔虫の名〕 hwiiraa
 こきゅう〔胡弓〕 kuucoo
 こきょう〔故郷〕 kucoo, ʔnmarizima, →
 kuni, sima/ ~に帰る支度 simasugai
 ごきんしん〔御近親〕 cicaʔunpadaN, →き
 こく〔石〕 -kuku 〔んしん
 こぐ〔漕ぐ〕 kuuzun
 こくう〔穀雨〕 kukuʔu
 ごくうふく〔御空腹〕 miniisja, →くうふく
 こくおう〔国王〕kukuoo, →おう
 こくかん〔酷寒〕 guqka, guqkan
 こくしする〔酷使する〕 ʔaɕikajun, kuŋci-
 kajun
 こくそする〔告訴する〕 ʔuqteejun
 こくたん〔黒檀〕 →kuruci
 ごくつぶし〔穀潰し〕 kweeziraa, kweezi-
 rimun
 こくどう〔国道〕 →かいどう
 こくない〔国内〕 kuniwaa
 こくひ〔国費〕 →kuuzimuci
 こくぶ〔国分〕(地名) kukubu
 こくふくする〔克服する〕 kunceesjun, ku-
 nkeesjun
 こくもつ〔穀物〕 kuku, →ごこく
 ごくらく〔極楽〕 gukuraku
 ごくろうさま〔御苦労さま〕 ʔjukaaqcu
 こけ〔苔〕 nuuri
 ごけ〔後家〕 ʔjagusami
 ごけ〔碁碁〕 guzara
 こげくさい〔焦げ臭い〕/ ~におい nanɕici-
 kaza

こけこっこう kuqkuruuʔuu
 こげつき〔焦げ付き〕 nanɕici
 ごけっこん〔御結婚〕 ʔunibici, →けっこん
 こけつまるびつ →ʔutitaimootai
 こげる〔焦げる〕 kugarijun
 ごけんやく〔御儉約〕 →けんやく
 ここ kuma
 ごご〔午後〕 →hwiruma, ひるすぎ/ ~の
 食事 hwirumamun, hwirumaʔubun
 ごごう〔5合〕 / ~だきの鍋 gugoodaci/
 ~柁 gungoonakamui
 ごごうさい〔御交際〕 →ごうさい
 ごごえ〔小声〕 gumagwii
 ごごえる〔凍える〕 kuhwajun
 ごこく〔五穀〕 gukuku
 ここち〔心地〕 kukuci, siŋci, →こころもち
 こごと〔戸毎〕 cineekazi
 こごと〔小言〕 →ʔaoku, くじょう/ ~ばかり
 いう人 ʔaku/ ~を言うさま kirookunoo
 ここの〔九〕 kukunu
 ここのか〔九日〕 kunici
 ここのつ〔九つ〕 kukunuɕi
 こごめ〔小米〕 ʔnabi
 こころ〔心〕 cimu, kukuru, (敬語) ʔuzi-
 mu, →cimukukuru, ʔicizimu, siŋ, せ
 いしん/ ~が合う →cimu/ ~が痛むcimu-
 ʔicasan/ ~が重い →ʔumiiʔnbusan/ ~
 が通ずる →ʔatajun/ ~が広い cimubi-
 rusan/ ~から →siŋ/ ~のいとま cimu-
 nuhwima/ ~の援助 cimugasii, cimu-
 nukasii/ ~の底 siŋ, sintii/ ~の動揺
 cimuʔamazii/ ~の迷い cimumajui, ci-
 mutaturuci/ ~の余裕 cimunuʔamai,
 cimunuhwima, cimununubi/ ~を合わ
 せること cimuzurii/ ~を取り直す →ci-
 mu/ ~を一つにすること cimitiiɕi/ 付
 いてくる~ ɕicizimu
 こころあたり〔心当たり〕 ʔati 「あて
 こころあて〔心当て〕 ʔati, kukuruʔati, →
 こころえ〔心得〕 kukurii

ころおほえ〔心覚え〕 ʔati, cimufubi,
 kukuruʔubi
 ころがかり〔心掛かり〕 →きがかり
 ころがけ〔心掛け〕 cigaki, cimugaki, ci-
 mumuci, →たしなみ, ようい/ ~が違
 者 cimugawaimun, cimugawaimun
 ころがける〔心掛ける〕 cimugakijun,
 kukurugakijun, niŋgakijun, →き
 ころがわり〔心変わり〕 kukurugawai
 ころぐるしい〔心苦しい〕 duugurisjan
 ころごし〔志〕 ʔiqsii, kukuruʔasi, nin-
 gaki, →gusjuʔunsidee, sjuzunsidee
 ころごす〔志す〕 niŋgakijun
 ころさびしい〔心淋しい〕 cimusikaraa-
 san, →さびしい
 ころだて〔心だて〕 →きだて 「ぎ
 ころづげ〔心付け〕 kukuruziki, →しゅう
 ころづもり〔心積もり〕 ʔimui/ ~にする
 ʔimujun 「と cimufwii, →あんしん
 ころづよい〔心強い〕 cimuzuusan/ ~こ
 ころない〔心ない〕 →cimu
 ころのこり〔心残り〕 naguri, →ざんねん
 ころほそい〔心細い〕 kusijoosan, →たよ
 りない, ふあん
 ころみ〔試み〕 kukurumi, tamisi
 ころみる〔試みる〕 tamisjun 「→こち
 ころもち〔心持ち〕 kukurumuci, siŋci,
 ころもとない〔心もとない〕 kukurumutu-
 nasan, →ころほそい, しんぱい, ふあん
 ころやすい〔心安い〕 hwireejaqsan, ku-
 kurujaqsan, nadajaqsan, →したい
 ごこんれい〔御婚礼〕 →けっこん, けっこん
 ごご→むしろ 〔しき
 ごさい〔後妻〕 ʔatudumeei, ʔatudumi,
 ʔwaanai, ʔwaanec/ ~の子 ʔatubara
 ごさいます →ある/ で~ →です
 こさく〔小作〕 →kaneegakai, kancegaki
 こさくにん〔小作人〕 naagu
 こさくりょう〔小作料〕 kaneec/ ~を集める
 こと kaneejusi

こさめ〔小雨〕 ʔamigwaa, cijacijaabui,
 gumaʔami, →きりさめ
 こざら〔小皿〕 keeʔuci, kuzara
 ごさんけい〔御参詣〕 →さんけい
 こし〔腰〕 kusi, →gamaku, ʔuubisiiguci,
 (敬語) mikusi, 'Ncusi/ ~が曲がる →
 koogu/ ~の力 kusidee/ ~の曲がった者
 koogu/ ~の曲がったさま →ziikwaa-
 kwaa/ 少し~が曲がっている者 ʔusu-
 koogu/ ~をたたくこと kusitataci, (敬
 語) mikusiugan, misiugan
 こじ〔故事〕 kuzi
 こしき〔飴〕 kusicii
 こじき〔乞食〕 kuncaa, munukuujaa, →
 ninbucaa, ninbuʔi/ ~の頭目 →ninbu-
 caasiidu
 ごしちにち〔五七日〕 →さんじゅうごにち
 ごじぶん〔御自分〕 ʔunzu/ ~で ʔumicu-
 kuru, ʔunzukuru/ ~の体 ʔunzu
 こしほね〔腰骨〕 gamakubuni
 こしまき〔腰巻〕 →kakan, (敬語) 'Ncusi
 ごしゃくます〔5勺拵〕 gusjaakunakamui,
 こしゅ〔古酒〕 kuusju 〔nakamuigwaa
 ごじゅう〔50〕 guzuu
 ごしゅうぎ〔御祝儀〕 →しゅうぎ
 こじゅうと〔小姑〕 'unaisitu
 ごじゅうもん〔50文〕 gunzuu
 ごしゅじんさま〔御主人様〕 sjunumee, →だ
 こしょう〔小姓〕 'wakasju 〔んな, しゅじん
 ごしょう〔後世〕 gusjoo
 ごじょう〔御状〕 →てがみ
 ごしょうたい〔御招待〕 mjunʔikee, nunʔi-
 kee, ʔunʔikee, →しょうたい
 こしらえる →つくる
 ごしん〔誤診〕 miʔikicigee
 ごしんせき〔御親戚〕 →しんせき
 こす〔越す〕 kusjun, →ʔamajun
 こすう〔戸教〕 'jaakazi
 こずえ〔梢〕 kiinusin, siŋ, suura
 こすりつける →なすりつける

こす

こする şijun, →なする/ こすって消す
 kunşjun, şiricaaşjun/ こすりけずる
 kusazun
 ごせいそう〔御盛装〕 →せいそう
 ごせいねん〔御生年〕 →せいねん
 こせき〔戸籍〕 kusici
 ごせたい〔御接待〕 →せたい
 こぜに〔小銭〕 gumazin
 ごぜんさま〔御前様〕 →ʔumee, ʔumeenu-
 こそ〔助詞〕 →du, duN [mee
 こぞう〔小僧〕 kuзуu
 ごそうけん〔御壮健〕 →そうけん
 こそげる kusazun, →そぐ
 こぞって suriti, →すべて, ぜんぶ, のこ
 ずら, みな
 こそどろ〔こそ泥〕 gumanusudu
 こたえ〔答え〕 ʔiree, →へんとう, へんじ
 こたえる〔答える〕 ʔireejun, kuteejun, →
 こたえる〔応える〕 kuteejun [へんじする
 こだから〔子室〕 takarangwa
 こだくさん〔子沢山〕/ ~の人 qkwaʔwee-
 kinu
 ごたごた 'jama, 'jamacirigutu, 'jusaju-
 sa, nanzuuhwinzuu/ ~を起す者 'ja-
 macirimun
 こだち〔木立〕 kikaci
 ごたまぜ caahwiihwi, caahwiitoo, ma-
 ncaahwincaa, ʔusjaamaatuu
 こち〔東風〕 →kucibuci
 ごちそう〔御馳走〕 kwaqcii, →tidee/ ~す
 する tideejun
 ごちゃごちゃ gwasagwasa
 こちょうする〔誇張する〕 huukasjun, ʔii-
 datijun/ 誇張した言い方 huukasi
 こちょこちょ kucukucu
 こちら kuma, →こっち/ ~がわ kugata,
 こちんまりと ʔibaʔibaatu [kumamuti
 こつ〔骨〕 kuçi, kuu, →ほね/ ~を移すこ
 と kuçiʔuucii/ ~をお迎えすること ku-
 çiʔunkee

こづかい〔小遣い〕 gumazikee, gumazi-
 keezin, ʔwaabazikee
 こづかい〔小使〕 kuzikee
 こっかく〔骨格〕 hunigumi, →ほねぐみ
 こつがめ〔骨髄〕 ziisigaami
 こづく〔小突く〕 çiçicun
 こっくり ʔunbuikoobui
 こっけい〔滑稽〕 sukuçi, teehwa/ ~であ
 る 'ukasjan
 ごっこ -gwaaşee
 こっそり →ひそか
 ごったがえし〔ごった返し〕 çiburuwaaee
 こっち kugata, →こちら/ ~の方 kuma-
 こつつぼ〔骨壺〕 ziisigaami [muti
 ごつつこ ʔnmoogaqkui
 こっぴどく ʔicaʔicaatu
 こつまくえん〔骨膜炎〕 huniʔoobu, ʔoobu
 ごてん〔御殿〕 →ʔuduN
 ごてんじょちゅう〔御殿女中〕 guşikuncu
 ごてんたく〔御転宅〕 ʔwaatamasi
 こと〔事〕 kutu, →şi
 こと〔琴〕 kutuu [tu
 ごと〔毎〕 (~に) kaazi, -kazi, kuutuguu-
 ごと -şiiti, -takii, →いっしょ, もろとも
 こというし〔特牛〕 →おうし
 ごとうち〔御統治〕 ʔukakibuşee
 ごとうよう〔御登用〕 ʔutuitati
 ことかく〔事欠く〕 / ~こと kutukazi
 ごとく〔五徳〕 gutuku
 ごとごと gasagasa [らず
 ことごとく〔悉く〕 ʔarukasiruka, →のこ
 ことごとに〔事毎に〕 kutukazi, kuutuguu-
 ことし〔今年〕 kuNdu, kutusi [tu
 ことじ〔琴柱〕 kutuunuʔnma, ʔnma
 ごとし →gutoon, gutu
 ことづかりもの〔言付かりもの〕 ʔijaimun
 ことづけ〔言付け〕 →でんごん
 ことづける〔言付ける〕 tuçikijun
 ことづて〔言伝て〕 →でんごん
 ことに〔殊に〕 kawati

ことば〔言葉〕 kutuba, →ʔikutuba, kuci
 , →おおせ/ ~が荒い kuciguhwasaN/
 ~が荒い者 kuciguhwaa/ ~が遅い
 munuʔiniisaN/ ~の使い始め munuʔii-
 hazimi/ ~のはし kutubanuū 「zi
 ことばかず〔言葉数〕 kucikazi, kutubaka-
 ことばづかい〔言葉遣い〕 kutubazikee,
 munii, munuʔii, munuʔiikata
 ことばつき〔言葉付き〕 munuʔiitanari
 こども〔子供〕 qkwa, 'warabaa, 'warabi,
 (敬語) →おこさま/ ~ができる →mu-
 cuN/ ~たち 'warabiNcaa/ ~と孫 q-
 kwaʔNmaga/ ~に返った年寄り tusjui-
 warabi/ ~の生み方 qkwanasimici/ ~
 の多い人 →qkwaʔweekiNcu/ ~のけん
 か 'warabiNcaaʔooee/ ~の声 'warabi-
 gwii/ ~の泣き方 'warabinaci/ ~をい
 じめる者 'warabaakurusjaa, 'warabi-
 sicikijaa
 こどもあつかい〔子供扱い〕 'warabiʔaciikee
 こどもごころ〔子供心〕 'warabizimu
 ことよせる〔事寄せる〕 kutujusijun/ ~こ
 と kutujusi
 ことり〔小鳥〕 tuigwaa
 ことわざ〔諺〕 zukugu, →ʔikutuba
 ことわりもなく〔断りもなく〕 →ʔaNnee-
 nasiku, ʔaNneenasini
 ことわる〔断る〕 kutuwajun, →きよぜつ,
 こな〔粉〕 kuu 〔じたい
 こないぎ〔御内儀〕 guneeki, →おかみさん,
 こなぐすり〔粉薬〕 kuugusui 〔おくさま
 こなごな〔粉粉〕 kuza
 こなす kunasjun 「nici
 ごなのか〔五七日〕 ʔiçinaNka, saNzuugu-
 ごにん〔5人〕 ʔiçitai
 こにんずう〔小人数〕 ʔikiraniNzu
 こねる〔捏ねる〕 ʔaasjun
 この kunu/ ~大きさの kuhwina/ ~大き
 さのもの kuqpeeruu/ ~かた kuma/ ~
 くらい kunusjaku/ ~時分 kunija/ ~

高さ kudaki/ ~遠さ kugatoo/ ~時 ku-
 nutuci/ ~ところずっと kunuzuu/ ~歳
 kunuca/ ~長さ kunagi/ ~人 kunuqcu/
 ~辺 kumarikaa, kunuhwiN, kuri-
 kaa/ ~野郎 kunihjaa, kunuhjaa/ ~よ
 うな →こんな/ ~ように kaNsi, kunu-
 gutu, kuNgutu, →kunujuo, こう
 このあいだ〔この間〕 kuneeda, kuneedaN-
 ši/ ~中 kunuzuu
 このごろ〔この頃〕 kunuguru, kunugu-
 runši, →さいきん
 このむ〔好む〕 šiçun, →すき/ 好まない
 →nisabujun
 このよ〔この世〕 ʔicimi, kunujuu
 ごはいりょう〔御拝領〕 →はいりょう
 ごはさん〔御破算〕 →sirikoo/ ~にする ha-
 こばし〔小橋〕 kubasi 〔nijun
 こばしり〔小走り〕 gumahaaee, →こいそぎ
 ごばん〔小判〕 kuban
 ごばん〔碁盤〕 guban
 ごはん〔御飯〕 ʔubun, →めし
 ごばんごうし〔碁盤格子〕 gubangoosi
 ごはんぢゃわん〔御飯茶碗〕 misiwan, ʔu-
 bunʔucawan
 ごはんつぶ〔御飯粒〕 ʔubunçizi, →めしつ
 ぶ
 ごびいき〔子びいき〕 qkwabiici, →おやば
 か
 ごびと〔小人〕 danuu, muncaN, mun-
 gwaa
 ごひゃくもん〔500文〕〔銭〕 guhjaaku, ʔiçi-
 kumui/ 550文 ʔiçikumuiGUNZUU
 ごびん〔小瓶〕 kuhwiN
 ごふ〔護符〕 huuhuda, →おまもり/ ~が
 わり huuhudagaai, munNukimun
 ごぶ〔瘤〕 buqtuu, gaanaa, guuhu/ ~の
 ある者 guuhwaa
 ごぶ〔五分〕 gubu
 ごぶくしゃ〔子供者〕 qkwaʔweekiNcu
 ごぶさた〔御無沙汰〕 gubusata/ ~をして

こぶ

いる →ugandıusan
 こぶじ〔御無事〕 →ぶじ
 こぶしめ〔魚名〕 kubuşimi
 こぶじん〔御婦人〕 →おんな
 こぶた〔子豚〕 ?waagwaa/ への市 ?waa-gwaamacı
 こぶり〔小降り〕 gumabui, →こやみになる
 こぶれい〔御無礼〕 guburii
 こへいかつき〔御幣かつぎ〕 'jutamunii,
 'jutamunu?ii, →えんぎ
 ごぼう〔牛蒡〕 gunboo
 ごほうこう〔御奉公〕 guhuukuu, medei,
 medeigutu, ?weedai, →ほうこう
 ごほうし〔御奉仕〕 ?waanđee, →ほうしする
 ごほうじ〔御法事〕 →ほうじ
 こぼす〔零す〕 hoojun, 'jutijun
 こぼれさいわい〔零れ幸〕 kuuriżeeewee
 こぼれる〔零れる〕 hoorijun, ?iikeerijun,
 'jutirijun
 ごほんごほん gusugusu, ?oho?oho
 ごほんのう〔子煩悩〕 qkwa?umii/ への者
 qkwa?umujaa
 こま〔独楽〕 kuuruu
 こま〔胡麻〕 ?uguma
 こまあぶら〔胡麻油〕 ?ugumanu?anja
 こまおこし〔胡麻おこし〕〔菓子の名〕 ?ugu-
 mahacagumi
 こまかい〔細かい〕 gumasan, ?uroosan,
 →ちいさい/ へかけら kumakii/ へ者
 kumeekijaa
 こまかす babaqkwaasjun, mamaqkwaas-
 sjun, mamiqkwaasjun, →だます, まぎ
 こまごま kumaguma くらわす
 こましゃくれる →ませる
 こまづかい〔小間使〕 subazikee, ?u?ikee-
 sarijaa, ?wii?ikee
 こまむすび〔こま結び〕 maamusubii
 こまもの〔小間物〕 gumamun 「cinee
 こまものしょう〔小間物商〕 gumamun?a-
 こまる〔困る〕 sjukweesjun, sjuqkwee-

sjun, →sii, siira, きゅうする, わずら
 う/ 困ったこと şitaneekutu, kateemun,
 zaahweegutu, →なんぎ/ 困ったもの
 şitaneemun
 ごみ〔塵芥〕 ?akuta, gumi, hukucici, ?u-
 ticiri, →ちり, ほこり/ 燃料にした~
 ?akutadamun/ ~を燃やす火 ?akutabii
 ごみすてば〔塵芥捨て場〕 cirişiti
 こみせ〔小店〕 macijagwaa
 こみち〔小道〕 micigwaa, →ろじ
 こむ〔込む〕 -ncun
 ゴム gumu
 こむぎ〔小麦〕 ?nnamuzi
 こむぎこ〔小麦粉〕 muzinakuu
 ゴムマリ gumumaaı
 こむら〔腓〕 kunda
 こむらがえり〔腓返えり〕 kunda?agajaa
 こめ〔米〕 'juni, kumi, (敬語)'ncumi, →
 simagumi, toogumi, ziimee/ への →
 'juna-/ への粉 kuminukuu/ へのときし
 る kumi?areemizi, kuminusiru/ への
 飯 mee/ ~を入れるざる 'junabaakii/
 なま米をすりつぶして水にといたもの
 namakugasi
 こめいにち〔御命日〕 →めいにち
 こめかみ kumikan/ ~に貼るこうやく
 kumikangoojaku
 こめぐら〔米倉〕 kumigura
 こめだわら〔米俵〕 kumidaara
 こめつぶ〔米粒〕 kumiçizi, →çizinumun
 こめや〔米屋〕 kumimaciya
 こめる〔込める〕 kumijun, →いれる, つめる
 ごめん〔御免〕 →macigee/ ~下さい →'ju-
 şirijabira
 ごめんかい〔御面会〕 →めんかい
 ごもくならべ〔五目並べ〕 gumukunara-
 biee, gumukunarabii
 こもち〔子持ち〕 qkwamuci, qkwanasaa
 こもちほし〔子持ち星〕 qkwamucaabusi
 ごもっとも gumuqtun

こもり〔子守〕 mujaa, Qkwamujaa/ ~を
 する mujun
 こもりうた〔子守歌〕 Qkwamujaa?uta
 こもる〔籠る〕 kumajun
 ごもん〔御門〕 →もん
 ごもん〔御紋〕 →もん
 こもんじょ〔古文書〕 hurucoo, →しよるい
 ごもんばん〔御門番〕 →もんばん
 こや〔小屋〕 'jaagwaa
 こやし〔肥やし〕 kwee
 こやすがい〔子安貝〕 moomoogwaa
 こやま〔小山〕 muigwaa
 こやみになる〔小やみになる〕 sasanun,
 'ubarijun, →こぶり
 こゆび〔小指〕 ?iibingwaa
 こよい〔今宵〕 →こんや
 こよう〔御用〕 gujuu, →よう
 こようぼう〔御容貌〕 →ようぼう
 こよみ〔匿〕 kujumi
 こより〔紙縫〕 koowiiruu
 こらえる kuneejun, nizijun, nubijun,
 sinubun. →がまんする, たえる/ こらえ
 かねること niziikantii
 ごらく〔娯楽〕 sjuzoo, ?asibi, →たのしみ
 こらっ dukasiree, 'nda
 ごらん〔御覧〕 / ~に入れる →みせる/ ~
 になる →みる
 こり〔癩り〕 ciihai, ciihainiihai
 こりこう〔小利口〕 rikuci, →さいぼしる/
 ~な者 hai?iziraa, hai?izirimun, miq-
 ci?amajaa, ?eetubaa, ?eetubimun
 こりごり cuhwaara
 こりしょう〔癩り性〕 cukataa
 ごりん〔5厘〕 takumuigunzuu
 これ kuri/ ~から kurikara/ ~だけ (~
 ほど) kaNsjuka, kunusjaku, kunuta-
 ki, kuqpi, kuqsa/ ~しき kunuhuza-
 nee/ ~だけのもの kuqpeeruu/ ~ほど
 の kuqpeeru, kaNsjuka/ ~ほどまで ka-
 nsjukawaaki/ ~見よがし ?undeekaa

ころ〔頃〕 kuru, manguru, ?urumi, zi-
 bun, -guru, -nagii, →じぶんどき
 ころあい〔頃合い〕→じぶんどき/ ~である→
 つりあう
 ころがす〔転がす〕 →kurubun
 ころがる〔転がる〕 kurubun, ?uqkurubun
 ころげまわる〔転げ回る〕 / ~こと keerin-
 kurubin, kurubinkeerin, siihui, sii-
 pui, sinpui, sinpuikaapui
 ころころ kurukuru
 ごろごろ guruguru, kwaarakwaara,
 murusaageejaa/ ~しているさま kee-
 rin?urubin
 ころす〔殺す〕 kurusjun, →sjoogurusi
 ころばす〔転ばす〕 →kurubun
 ころぶ〔転ぶ〕 dugeejun, kurubun/ ~こ
 と →?asimarubi/ 盛んに~さま dugeei-
 kurubi, →?utitaimootai
 ころも〔僧衣〕 kurun
 ころもがえ〔衣替え〕 kuruNgeei
 ごろり ごろごろ/ ~と横になる ?uqkuru-
 こわ〔強〕 kuhwa- [bun
 こわい〔恐い〕 ?akutooraasjan, ?uturus-
 jan, →おそろしい/ ~思い ?uturusja-
 ?umii/ ~人 ?akutoo/ ~もの ?uturus-
 jamun, ?uturuu
 こわがる〔恐がる〕 sikanun, ?uzijun, →
 ?uturusjan, ?uziicijun, おそれる, お
 びえる/ ~こと munu?uzi, ?uturusja-
 ?umii
 ごわごわしている ha?ikoosan 「najun
 こわす〔壊す〕 'janzun, kuusjun, suku-
 こわづくり〔声作り〕 kwii?ukui
 こわれ〔壊れ〕 'jaburi, 'jandi
 こわれる〔壊れる〕 'jandijun, kuurijun,
 'waqkwijun/ こわれやすい sakusan
 こんき〔根気〕 →じきゅうりょく/ ~がたり
 ないこと kun?iburaari
 こんき〔婚期〕 taciuii/ ~を逸しているこ
 と nakatagee
 こんきくらべ〔根気比べ〕 kun?cisjuubu
 こんきゅう〔困窮〕 ?imai, kun?uu, →びん

こん

ぼろ

こんきゆうしゃ〔困窮者〕 →びんぼろにん
 こんきよ〔根拠〕 kusjati
 こんくらべ〔根比べ〕 kunceisjuubu
 こんげつ〔今月〕 kunçici
 こんげん〔権現〕 gunzin
 こんこん konkon
 こんざつ〔混雑〕 →çiburuwaaee, ?uuşee-
 こんじ〔耕地〕 kunzi [kurubaşee
 こんじする〔根治する〕 niicirijun
 こんじょう〔根性〕 simuci, sjoo, →kun-
 zoo, しょうね/ ~が悪いこと 'janasimu-
 ci, kunzoo/ ~の悪い者 ?akuma, kun-
 zoomun
 こんじょう〔言上〕 gunzoo, →もうしあげる
 こんじん〔金神〕 kunzin, →tusi?ana
 こんな kanneeru, kunugutooru, kungu-

tooru, kunna, →kunujuo/ ~遠方 ku-
 gatoo/ ~時間 kunija/ ~に kansi, ku-
 nugutu, kungutu/ ~大きい kuhwina/
 ~多く kusakii/ ~遅く kunija/ ~高く
 kudaki/ ~長い間 kunnagee/ ~長く
 kunagi/ ~もの kunugutooru
 こんなん〔困難〕 teesoo, →なんぎ, むずか
 こんにちは →cuu [しい
 こんにやく kunjaku
 こんばん〔今晚〕 cuujuru, kujui, neeka
 こんぶ〔昆布〕 kuubu/ ~の細く切り刻んだ
 もの eizamikuubu
 こんぶまき〔昆布巻〕 kuubumaci
 こんや〔今夜〕 cuujuru, kujui, neeka
 こんやくする〔婚約する〕 şimasjun
 こんらん〔混乱〕 'jama, 'jamacirigutu
 こんれい〔婚礼〕 →けっこん, けっこんしき

さ

さ〔差〕 →ちがひ/ ~がある ?utijun
 さ〔挨拶辞〕 saa-
 さ〔助詞〕 mun, -sa
 さ〔座〕 zaa/ ~をにぎやかにする者 zaa-
 haneekijaa/ ~をもたせる者 zaamucaa/
 ~をわきまえない zaan neen
 さあ dii, dikajo, diqkaa, 'ihii, 'oohoo,
 too, 'uuhuu/ ~さあ diidii, dikadika,
 さあざあ soosoo [tootoo
 さい〔才〕 →さいのり
 さい〔債〕 →しゃっきん
 さい〔際〕 ciwa, →とき
 さい〔采〕 →さいはい
 さい〔差異〕 eigeemi, →そりい, ちがひ
 さいあく〔最悪〕 /~になる →takiçikijun
 さいき〔才器〕 ciroo
 さいきん〔最近〕 kuneedaŋsi, kunugurun-
 si, →このあいだ, このごろ

さいこん〔再婚〕 matadumeei, matamuci,
 mataniibici
 さいざら〔菜皿〕 seezara
 さいざん〔財産〕 'juzee, muçi, ?weeki/
 ~への欲 mucijuku
 さいざんか〔財産家〕 'juzeemuci, ?weekii,
 ?weekincu, →かねもち
 さいし〔妻子〕 tuziqkwa
 さいじつ〔祭日〕 →'uimi, 'ujumi
 さいしょう〔宰相〕 siqsii
 さいそく〔催促〕 seezuku/ ~する ?imi-
 jun/ ~すること sicimin/ ~するさま
 ?imizigoozi
 さいだん〔祭壇〕 guriizun
 さいち〔才智〕 see, seeçi, →さいのり
 さいち〔采地〕 →りょうち
 さいづち〔才髓〕 seezicaa, →きづち
 さいづちあたま〔才髓頭〕 gaqpaçiçiburu.

さいなん〔災難〕 →わざわい
 ざいにん〔罪人〕 tuganiN
 さいのう〔才能〕 ciroo, zinbun, see, →う
 でまえ, さいち, ちえ/ ~のある人 ciroo-
 nin, zinbunmuci, →きれもの
 さいのかみ〔塞の神〕 →さえのかみ
 さいはい〔采配〕 zee
 さいばいする〔栽培する〕 sitatijun
 さいばしる〔才走る〕 haişizijun/ 才走った
 者 haişiziraa, haişizirimun, miqciʔa-
 majaa, seeşizirimun, →きれもの, こ
 りこう
 さいはつする〔再発する〕 ʔugurijun, →ぶ
 りかえす
 さいばん〔裁判〕 kuuzi, saiwan, →さばく
 ざいばん〔在番〕 →zeeban/ ~が任地でも
 つ姜 ʔujaʔanmaa, ʔujanmaa
 さいばんしょ〔裁判所〕 →hwirazu
 さいふ〔財布〕 biqcin, zinbukuru, zinʔi-
 rii, (敬語) mibiqcin
 さいほう〔裁縫〕 nooimun
 さいほうし〔裁縫師〕 →kuşeeuku
 さいほうばこ〔裁縫箱〕 haai baku 「jai
 ざいもく〔材木〕 zeeemuku/ ~の運搬 →ci-
 ざいりょう〔宰領〕 ſeeroo, →かんとくする,
 ざいりょう〔材料〕 ʔirigu じとりしまり
 ざいわい〔率〕 →こうふく
 さえ(助詞) -coon, -denſi
 さえぎる〔遮る〕 cizijun, kanijun, →じゃ
 ま/ ~もの kataka
 さえずる〔囀る〕 hukijun
 さえのかみ〔さえの神〕 ſeenukan
 さお〔竿〕 soo
 さか〔坂〕 hwira, →sakanai, sakuhwira
 さかい〔境〕 sakee
 さかいめ〔境目〕 sakeemi
 さかえおとろえ〔盛え衰え〕 →せいすい
 さかえる〔栄える〕 buteejun, muteejun,
 sakajun, sakeejun, →はんじょう/ ~
 さま muteeisakeei

さかき〔櫛〕 huçima
 さかご〔逆子〕 sakaʔnmari
 さかさま〔逆様〕 saanaa, saaraa, saka,
 ʔura, ʔurahara/ ~になる ʔuqceejun
 さがす〔探す〕 ʔalatijun, ʔanamijun,
 kameejun, sageejun, tumeejun/ 探し
 探し tumeeidumeei/ 探し回るさま maa-
 gamaaga, tumeeiʔuzance/ ひっかき回
 して~ ʔasageerasjun
 さかずき〔杯〕 çibu, haimaa sakazici/ ~
 を回すこと →haimaa
 さかずきだい〔杯台〕 ʔjuhoobun
 さかぞり〔逆剃り〕 sakazui
 さかて〔酒手〕 →ʔnmadima
 さかな〔魚〕 ʔiju/ ~と肉 ʔijusisi/ ~の卵
 harami/ ~のてんぷら ʔijutinʔura/ 魚
 の名など ʔabasi, ʔacinuʔiju, ʔaibiçaa,
 ʔakaʔaci, ʔakamiibaju, ʔakangwaaʔi-
 ju, basikaa, basikaaʔiju, çikura, ʔee-
 bicaa, ʔeeʔiju, gaçun, gurukun, ha-
 juu, ʔiibuu, ʔiqkwandarumii, ʔjuna-
 barumazikun, ʔjuubinuqkwa, kama-
 saa, katakasaa, kaçuu, katakasi, ku-
 buşimi, kurumiibaju, makubu, mazi-
 kun, miibai, miibaju, mizun, ʔnnatu-
 juubinuqkwa, ʔoobacaa, saba, sami,
 siruʔaci, siruʔiju, taaʔiju, taman,
 tontonmii, tubuu, zan, zannuʔiju, →
 sjuku, sururugwaa/ ~を取るための毒
 sasa/ ふるい~ sagaiʔiju
 さかな〔肴〕 sakana, tuisakana
 さかなうり〔魚売り〕 ʔijuʔujaa
 さかびん〔酒瓶〕 sakibin
 さかまつげ〔逆睫〕 sakamaçigi
 さかむけ〔逆剥け〕 sakanki
 さかや〔酒屋〕 sakimacija, →sakaja
 さからう〔逆らう〕 →はんこう
 さかりば〔盛り場〕 →çiguci
 さがりめ〔下がり目〕 miidaii, miidajaa
 さがる〔下がる〕 sagajun

さかん〔左官〕 mucinuizeeku, mucinujaa, mucizeeku

さき〔先〕 saci, →せんたん/ ～に死ぬ saci-dacun/ ～に立つ sacidacun, sadajun/ ～に立つこと(～に立つ人) sacidaci

さき〔崎〕 →みさき

さぎ〔鷺〕 saazaa, saazi

さきがけ〔先駆け〕 sacibai→さきばらい

さきこぼれる〔咲きこぼれる〕 sacikanzun

さきざき〔先先〕 →しょうらい

さぎし〔詐欺師〕 qcudamasjaa, qcunuzaa, qcunuzimun

さきしま〔先島〕 sacisima

さきだす〔咲き出す〕 saciʔnzijun

さきだつ〔先立つ〕 sacidacun 「さきがけ

さきばらい〔先払い〕 ʔunsadai, →せんどろ,

さきまわり〔先回り〕 sacimaai

さきみだれる〔咲き乱れる〕 sacikanzun

さく〔咲く〕 sacun/ すっかり～ sacicijun, sacicirijun

さく〔裂く〕 ʔaakasjun, sacun, →ひきさ

さくざく gusugusu しく, やぶる

さくしゃ〔作者〕 cukujaa

さくとく〔作得〕 →sakutuku

さくぼん〔昨晚〕 ʔjuubi

さくぶん〔作文〕 →mungun

さくほうし〔冊封使〕 saqpuusi, tinsi, →too/ ～を接待するための国劇 ʔukwan-sinudui/ ～の船 kwansin, ʔukwansin

さくもつ〔作物〕 cukuimun, cukuimuзу-

さくら〔桜〕 sakura [kui

さくらいろ〔桜色〕 sakuraʔiru, →ʔakaza-kuraʔiru, ももいろ

さくらじま〔桜島〕(地名) sakurazima

さくららん〔植物名〕 kamasasibana

さぐる〔探る〕 sagujun/ ～こと →cibisa-

ざくろ〔植物名〕 zakura [gui

さけ〔酒〕 saki, (敬語) ʔuzaki/ ～一升 cuwakasi/ ～と肴 sakisakana/ ～に酔うこと sakiwii/ ～に酔った者 ʔwiqcu,

ʔwiqcu/ ～の一種 ʔaamui, ʔjuucu, ʔNmizaki, ʔNmuzaki, muruhaku, muruhwaku/ ～の肴 sakana, tuisakana, →sjuuci/ ～の醸造 sakitari/ ～を入れる器の名 binʔii, ʔiqqiibin, ʔjuʔibin, karakaraa, sakibin, sakiduqkui, ʔeeci, sijaci, ʔizibin/ ～を飲み過ぎて起こる癪 sakigaku/ ～を飲み過ぎて病むこと sakigaci/ ～を飲んで太ること sakigweei

さけかす〔酒粕〕 kaʔizee/ ～であえたもの kaʔizeeʔeei

さけがめ〔酒壺〕 sakigaami

さけぐせ〔酒癖〕 sakigusi, ʔwiigusi

さけずき〔酒好き〕 sakiʔici, sakizoogu, sakizooguu

さけちゅうどく〔酒中毒〕 sakigaci

さけどっくり〔酒徳利〕 sakiduqkui

さけのみ〔酒飲み〕 sakii, sakikwee, saki-zooguu, ʔuuzaki, ʔwarigaami, ʔwiqcaa, ʔwiqcu, ʔwiqcuu

さけのみなま〔酒飲み仲間〕 numidusi

さけびごえ〔叫び声〕 ʔabiigwii

さけびん〔酒瓶〕 sakabin, →さけ

さけぶ〔叫ぶ〕 ʔabijun, →どなる/ ～さま simatiihjaatii, teehaikazihai/ ～者 ʔa-bijaa

さけぶとり〔酒太り〕 sakigweei 「われめ

さけめ〔裂け目〕 ʔaaki, →きれつ, やぶれめ,

さける〔裂ける〕 ʔaakijun, sakijun, →や

さける〔避ける〕 dukinajun しぶれる

さげる〔下げる〕 hwisagijun, sagijun

ざこう〔座高〕 ʔiidaki

ざこね〔雑魚寝〕 ʔwaagwaaninzi

ささえ〔支え〕 cikasi 「jaa

ささえ〔栄螺〕 saʔee/ ～の殻 meemeeguu-

ささえる〔支える〕 ʔujagijun, →nucagi-

ささくれ sakanki [ljun

ささげ〔豆の名〕 →huuroo

ささげる〔擽げる〕 ʔusjagijun

さざなみ〔さざ波〕 saʔaranami

さざんか〔山茶花〕 →ʔizu, ʔNZU
 さじ〔匙〕 kee
 さしあげる〔差し上げる〕 ʔagijun, nuca-
 gijun, sasjun, ʔusjagijun, →あげる,
 やる
 さしあり〔蟻の一種〕 sasiʔai, sasiʔajaa
 さしおさえ〔差し押さえ〕 hwicimun, sasi-
 ʔusai/ 差し押さえられた物 hwicimun
 さしき〔挿し木〕 sasiki
 さじき〔棧敷〕 sansici
 さしき〔座敷〕 zaa, zasici, (敬語) ʔuza,
 →ʔuhuʔuza, へや
 さしこみ〔差し込み〕 siNmi
 さしこむ〔差し込む〕 sasiNcun, ʔusin-
 cun/ 手荒く～ hwisiNcun〔sikurusjun
 さしころす〔刺し殺す〕 nucikurusjun, sa-
 さしさわり〔差し障り〕 kakaisaaraci, sa-
 siçikee, →さしつかえ
 さしさわる〔差し障る〕 kijun, sawajun
 さしせまる〔差し迫る〕 sasiçimajun, →ひ
 っぱく
 さしだす〔差し出す〕 neejun, nusikijun
 さしつかえ〔差し支え〕 çikee, sasiçikee,
 →さしさわり/ ～ない nuusabin neen
 さして ʔansjuka, →それ(それほど)
 さしでがましい〔差出がましい〕 →すいさん,
 でしゃばる/ ～者 →でしゃばり
 さしでぐち〔差出口〕 seebee, →でしゃばる
 さしみ〔刺身〕 sasimi
 さしむかい〔差し向かい〕 tankaaii, →むか
 さしもの〔指物〕 sasimun しり
 さしものし〔指物師〕 sasimunzeeku「さす
 さす〔差す・刺す〕 nucun, sasjun, →つき
 さす〔座主〕 zaasi, (敬語) zaasinumee
 さずかる〔授かる〕 sazakajun
 さずける〔授ける〕 sazakijun
 させる simijun, -simijun, -sjun
 さそう〔誘う〕 →ゆうわくする
 さそり 'jamaNkazi
 さた〔沙汰〕 sata
 さだまる〔定まる〕 →けってい

さたまさき〔佐多岬(地名) satanumisaci
 さだめ〔定め〕 sadami, →けってい
 さだめる〔定める〕 →けってい
 さつ〔札〕 saçi
 さつき kiQsa, →いましがた
 さっこく〔雑穀〕 zaqkuku
 さっこん〔昨今〕 →このごろ 「している
 さっさと kasiikasii, soosoo, →てきぱき
 さっする〔察する〕 saqsijun
 さっそう〔雑草〕 →kusa
 さっと ʔaraʔara, zaqtu, →だいたい
 さっぱり saqpaci, →せいせいする/ ～し
 たら zaqtuu/～ している tuukaa neen/
 ～と saazaatu
 さっび〔雑費〕 zaqpi, zooçikuri
 さっふうけい〔殺風景〕 saqkoo 「cu
 さつま〔薩摩〕 'jamatu/ ～の人 'jamatun-
 さつまいも〔薩摩薯〕 ʔNmu, →hanSu, kan-
 da, karaʔNmu/ 湿度でくさった ～ →
 mizikazaaʔNmu/ ～と野菜の味噌汁 ʔN-
 mookasii/ ～につく虫 hwiimusi/ ～の
 市 ʔNnumaci/ ～の一種 ʔakaguu, ʔisi-
 guuʔNmu, kuragaa, tumaikuruu,
 ʔurandaaʔNmu/ ～の皮 ʔNmugaa/
 ～の茎 kaNdabuni/ ～の酒 ʔNmuzaki/
 ～の自然に生えたもの miiʔNmu/ 自然に
 生えた～を掘りあさる者 miiʔNmukuzi-
 jaa/ ～の澱粉 ʔNmukuzi/ ～の澱粉で作
 ったくず湯 ʔNmukuzipuqturuu/ ～の煮
 汁 ʔNmunusiru/ ～の澱粉を取ったかす
 ʔNmukaçi/ ～の澱粉を取ったかすで作
 った菓子 ʔNmukašinaqtuu/ ～の澱粉を
 取ったかすを煮固めたもの ʔNmukaçi-
 daaii/ ～の葉 kaNdabaa/ ～を練ったも
 の ʔNmunii
 さて sati, too/ ～さて satisati
 さであみ〔叉手網〕 saçi
 さておき suusuu, →ともあれ
 さても saqtimu/ ～さても saqtimusa-
 qtimu

さと

さと〔里〕 ʔujanujaa, →さとかた
さといも〔里芋〕 →taaʔNmu, たいも/〜の
一種 ʔiNnuku
さとう〔砂糖〕 saataa, →sirusita, tee-
hwaku/できそこないの ~ʔandizaataa/
〜の検査 satoocinsa/ ~をしぼる車 ku-
ruma, saataaguruma
さとうきび〔砂糖黍〕 saataauuzi, 'uuzi/
〜の一種 kwasiuuzi/ ~のから 'uuzigara
さとうしごと〔砂糖仕事〕 saataasikuci
さとうだる〔砂糖樽〕 saataadaru
さとうつくり〔砂糖作り〕 saataazukui
さとかた〔里方〕 nasimii, tuzikata, 'wina-
gunukata, →がいせき, さと
さとの〔悟る〕 satujun
さなぎ〔蛹〕 toojaamaa
サニン〔植物名〕 sannin, sjannin/ ~の葉
sanningaasja
さね〔核〕 sani 「→さいぼん
さぼく〔捌く・裁く〕 sabacun, sabakijun,
さぼける〔捌ける〕 habacun, sabakijun
さび〔錆〕 kanakusu, sabi
さびしい〔寂しい〕 sabiqsan, sikaraasan,
→cimucaaganasan, ʔuraçirasa, ところ
さびれる〔寂れる〕 →あれはてる [さびしい
さふらんもどき〔植物名〕 zikuzikuu
さほう〔作法〕 sahuu, zanmee, →れいぎ
さほど ʔansjuka, sahudu, →それ(ほど)
さま〔狭間〕 hjaamii 「なり, ようす
さま〔様〕 sizama, →すがた, ていたらく,
さま〔様〕 →bi, -ganasi, -ganasii, -gana-
siimee, mee, -mee, -mui, ʔumi-
さま〔様〕 sitaraku, sizama, zama, →て
いたらく/ ~見ろ ʔuusita, sitari
さまさま〔様様〕 samazama, →いろいろ
さます〔覚ます〕 samasjun
さます〔冷ます〕 samasjun, nuruqkwi-
jun, →ひやす
さまたげ〔妨げ〕 →じゃま
さまたげる〔妨げる〕 →じゃまする

さむい〔寒い〕 hwiisan/ ~所 hwiiduku-
ru/ ~地方 hwiiguni
さむがり〔寒がり〕 hwiisaʔumii
さむさ〔寒さ〕 →guqka, guqkan, hwii-
san, kan, muuciibiisa, 'wakaribiisa/
〜でがたがたするさま hwiisagatagata/
〜に苦しむこと hwiisakurisja/ ~にこ
ごえる kuhwajun/ ~にこごえること
hwiisaguhwai, hwiisamagai/ ~に負け
ること hwiisamaki
さむさむとする〔寒寒とする〕 hwizurukan-
zun/ ~こと hwizurukanzi, ʔoohwi-
zurukanzi/ 寒寒としたさま hwizuru-
kanzaa
さむさよけ〔寒さ避け〕 hwiisahusizi
さめ〔鮫〕 saba, sami, →ふか/ ~の一種
'Nnatujuubinuqkwa
さめはだ〔鮫肌〕 sami/ ~の者 samaa
さめる〔覚める〕 samijun, ʔuzunun/覚め
やすい kukurubeesan, →めざめる
さめる〔冷める・極める・醒める〕 hwizu-
jun, nuruqkwijun, samajun, samijun
さもしい →いやしい
さや〔鞆〕 kara, saja, ʃii
さやか sajaka
さゆ〔白湯〕 saajuu
さゆう〔左右〕 sajuu, →sirikuci, sirukuci
さら〔皿〕 sara/ ~の一種 cuuzara, ʃee-
zara, suurii, →ござら
さらいねん〔再来年〕 naajaan, naancu
さらう〔浚う〕 sareejun
さらえる〔浚える〕 sareejun
さらさら soorusooru, soorusooruu
さらさら surusuru/ ~したひげ →suru-
suruuhwizigwaa/~したもの surusuruu
さらしくじら〔晒し鯨〕〔食品の名〕 ʔnba
さらしもめん〔晒し木綿〕 sarasi
さらす〔晒す〕 sarasjun/ 晒される sari-
さらち〔更地〕 'Nnajasici ljun
さら〔に〕 ʔjuku, ʔjukun, naahwin,
njahwin, ʔunuwii

さらば saraba, →それ
 さる〔猿〕 'juumu, saaru, saru/ ~のよ
 うな口 'juumuuguci/ ~のようになつら
 さる〔申〕 saru ɿ'juumuuzira
 さる〔戸締まりの道具〕 sin, sinzasi
 さる〔去る〕 ʔnzaru, →たちさる
 さる〔箆〕 baaki, sooki/ 目の荒い~ ʔara-
 baakii/ ~の一種 miizookii, sagidiiru,
 tiiru, tiizooki
 さるご〔箆碁〕 ʔisigaciguu
 さるすべり〔百日紅〕(植物名) hagoogi
 さるとり〔申酉〕 /~の方角 santunii
 さるなし(植物名) kuugaa
 さるまね〔猿真似〕 →saaru, まね
 さるまわし〔猿回し〕 saruhwici
 されごと〔戯言〕 ʔarikutuba, →じょうだん
 される〔戯れる〕 ʔarijun, →たわむれ
 さわ〔沢〕 →saku, suku
 さわがしい〔騒がしい〕 'jagamasjan, →や
 かましい/ ~さま 'wasawasa
 さわぎ〔騒ぎ〕 sawazigutu, ʔucimun, →
 そうどう 「~さま muqcirugeei
 さわぐ〔騒ぐ〕 musageejun, 'wasamicun/
 さわめく musageejun, 'wasamicun
 さわる〔障る・触る〕 saajuN, sawajuN,
 →いじる, ふれる
 さん〔3〕 miiçi, saN, mi-
 さん〔棧〕 saN
 さん〔産〕 saN, →しゅっさん
 さん〔讒〕 →ざんげん
 さんがい〔3階〕 sankee
 さんかいき〔三回忌〕 →さんねんぎ
 さんかく〔三角〕 sankaku
 さんがく〔山岳〕 →やま
 さんがつ〔3月〕 sangwaçi/ ~3日の節句
 sangwaçisannici, →ʔuzuu
 さんきらい〔山帰来〕(植物名) sancira
 ざんぎりあたま〔ざんぎり頭〕 kuncaaboo-
 zaa, kuncaaboozi
 さんけい〔参詣〕 sancii, tiramunumee,
 (敬語) gusanccii

さんけづく〔産気づく〕 /~こと sanmujuu-
 si
 ざんげん〔讒言〕 kooziN, ʔan/ ~する 'ju-
 kusjun
 さんご〔珊瑚〕 sangu
 ざんこくなも〔残酷な者〕 cikusjoomun
 さんこん〔三献〕 sangun
 さんざい〔散財〕 siqci, →ziNʔami
 さんさがり〔三下がり〕 sansagi
 さんざろ〔三叉路〕 micigujaa
 さんざん〔散散〕 cirizirini, sanʔan, saN-
 ʔankunʔan
 さんざんくどのさかずき〔三三九度の盃〕 sa-
 ngun
 さんじきょう〔三字経〕 sanzicoo 「nsici
 さんしちそう〔三七草〕(植物名) niNziinsa-
 さんしちにち〔三七日〕 minanka
 さんじゅう〔30〕 sanzuu
 さんじゅうごにち〔三十五日〕 ʔiçinaNka,
 sanZuugunici 「zuusanNiNci
 さんじゅうさんかいき〔三十三回忌〕 saN-
 ざんしょ〔残暑〕 'wakariʔaçisa
 さんじょうする〔参上する〕 'jusirijun
 さんずのかわ〔三途の川〕 →'wazirigaara
 さんせい〔賛成〕 sansii/ ~者 sansii/ ~す
 る duujun/ ~派 sansii, siruu
 さんぜん〔産前〕 nasimee
 さんそうばい〔3層倍〕 →さんばい
 さんぞく〔山賊〕 'jamanusudu, →おいはぎ
 さんだか〔残高〕 nukuidaka 「りくりする
 さんだんする〔算段する〕 sigarijun, →や
 さんちょう〔山頂〕 'jamanuçizi, →ちょう
 じょう
 さんにん〔3人〕 miqcai, saNniN, (敬語)
 micukuru, ʔumicukuru, ʔumitukuru
 さんねん〔三年〕 micu, mitu, saNniN/ ~
 前→'Ncu/ 3,4年 mitujutu
 さんねん〔残念〕 cinuduku, ʔanNiN, →こ
 ころのこり, くちおしい/ ~である 'wata-
 gurisjan, →ramisja, しんがい

さん

さんねんき〔三年忌〕 sanninci
 さんのいと〔三の糸〕 miiziru
 さんば〔産婆〕 qkwanasimijaa, sanba
 さんばい〔3倍〕 sanbee, sanzoobee
 さんばし〔棧橋〕 sanbasi
 さんばんどり〔三番鶏〕 sanbandui
 さんびゃく〔300〕 sanbeku, sanbjaku
 さんびゃくもん〔300文〕 mikumui, sanbe-
 ku, sanbjaku/ 350文 sanbjakugunzuu
 さんぶ〔産婦〕 'wakaziiramun/ ~の初め

ての外出 haci?aqeii
 さんぶんのいち〔3分の1〕 miicitiiçi, →
 みつわり
 さんぼ〔散歩〕 hujoo
 さんもん〔山門〕 sanmun
 さんや〔山野〕 'jama, sanja, →のやま
 さんよく〔三欲〕 sanjuku
 さんり〔三里〕 sanri
 さんりん〔山林〕 'jama
 さんりん〔3厘〕 hjaakugunzuu

し

し〔4〕 'juuçi, sii, 'ju-
 し〔字〕 zii, →もじ/ ~を書いた紙 şimika-
 bi/ 字体の分からない~ miikundaazii
 し〔痔〕 zii 「あい, めぐみ
 じあい〔慈愛〕 →qcucimugurisja, じょう
 しあげる〔仕上げる〕 siinasjun, →かんせ
 い/ 仕上げ方 siinasi
 しあさって〔明明後日〕 ?asatinnaaca
 しあわせ〔仕合わせ〕 şeewee, sijawasi,
 →?iziN, こうりん/ ~な事 sijawasigutu
 しあん〔思案〕 munukangee, sian, →おも
 い, かんがえ 「えごと
 しあんごと〔思案事〕 siangutu, →かんが
 しい〔牛馬を追い声〕 sii 「damun
 しい〔椎〕 sii, siizaa/ ~のたきぎ siizaa-
 しいくする〔飼育する〕 sitatijun, →かう
 しいて〔強いて〕 siiti, →たって
 しいる〔強いる〕 siijun, →むりやり/ ~こ
 じうたい〔地謡〕 zii?utee しと siihaqtoo
 しお〔塩〕 maasju, sjuu/ ~味だけで煮る
 こと sjuunii
 しお〔潮〕 sjuu, ?usju, sjuutaci
 しおうり〔塩売り〕 maasju?ujaa
 しおから〔塩辛〕 karasju/ ~の一種 sju-
 kugarasju, ?unzani

しおからい〔塩辛い〕 sipukarasan, sjuu-
 zuusan/ ~味 sjuuzuuguci/ ~もの si-
 pukaramun, sjuuzuumun
 しおからごえ〔塩から声〕 →しわがれごえ
 しおくみ〔潮波み〕 sjuukumi, ?usjuku-
 naa
 しおけ〔塩気〕 sjuuci
 しおたき〔潮たき〕 maasjutacaa, sjuuta-
 caa, sjuutaci/ ~の小屋 sjuja, sjuuja,
 sjuujaa
 しおづけ〔塩漬け〕 sjuuçiki/ ~の肉 sjuu-
 zisi
 しおに〔塩煮〕 sjuunii
 しおばな〔塩花〕 sjuunuhana
 しおみず〔塩水〕 maasjumizi, sjuumizi
 しおや〔塩屋〕 sjuja, sjuuja, sjuujaa
 しおらしい sjuuraasjan, sjurasjan
 しおり〔枝折り〕 'janba
 しおれる〔萎れる〕 neejun, →しなびる/
 しおれたさま biqteen
 しおわる〔し終る〕 sii?uwajun
 しか〔鹿〕 koonusisi, sika/ ~の肉 koonu-
 しかえし〔し返し〕 keesi [sisi
 しかかる〔し掛かる〕 sikakajun
 しかく〔四角〕 kaku, sikaku, siqkaku/ 四

角いもの siqkakuu
 しかけ〔仕掛け〕 sikaki, →きかい, しくみ
 しかける〔仕掛ける〕 sikakijun
 しかし →けれども
 じかせんえん〔耳下腺炎〕 toosinbai
 しかた〔仕方〕 →やりかた/ ~のないこと
 zihwineemun 「N
 しがつい〔し難い〕 →gatanasan,-gurisja-
 じがため〔地固め〕 zibuku
 しがつ〔4月〕 sigwaçi, siNgwaçi
 じかつ〔自活〕 duu?agaci, →どくりつ
 しかねる〔し兼ねる〕 →gatanasan, しがつ
 たい/ ~こと -kantii
 しかめつら →'wazami, 'wazankaa
 しかめる 'wazamijun
 しかり〔然り〕 →?an
 しかる〔叱る〕 nurajun, siçikijun, →?a-
 daasjun, ?aoku, ?uiaasjun, (小児語)
 mii, →どなりつける/ ~こと →?aoku,
 ?aokumuoku, tugami, (敬語) nundee,
 ?undee/ ~人 ?akuu/ 叱られる nura-
 rijun/ 叱り疲れる→kucikarazi
 しかるべき〔然るべき〕 nootaru, →とうぜん
 しかん〔仕官〕 ?weedaiugan/ ~の道 çi-
 keemici
 じかん〔時間〕 zikan, →zibun, とき
 しき〔指揮〕 ?iiçikigata, →めいれい
 しき〔四季〕 sici, →きせつ
 しき〔式〕 sici, →ぎしき, さほう
 じき caaki, →やがて
 じき〔時機・時期〕 zisiçi, →きかい, じせ
 つ, とき/ ~が終ること ?acagai/ ~が去
 る ?acagajun 「san
 しきい〔敷居〕 sici/ ~が高い ?icigatana-
 しきいし〔敷石〕 sici?isi
 しきうつし〔敷き写し〕 ?usiigaci
 しきがわら〔敷き瓦〕 sicigaara
 しきじょうきょう〔色情狂〕 buraii
 しきたり huuzi, →しゅうかん, ならわし
 しきべつ〔色別〕 ?iruwiki

しきもの〔敷物〕 sicimun
 しきゅうびょう〔子宮病〕 simugusi
 じきゅうりょく〔持久力〕 mucidee, →こん
 しきよく〔色欲〕 ?iruwiki じき
 しきりど〔仕切り戸〕 nakabasiru
 しく〔敷く〕 sicun
 しくじり →しっぱい
 しくじる →しっぱいする
 しくみ〔仕組み〕 sikumi, →しかけ
 しくむ〔仕組む〕 sikunun
 しぐれ〔時雨〕 →simu
 しけこむ〔しけ込む〕 sicikunun
 しげし〔繁し〕 sizisan, →ひんぱんである
 しげみ〔茂み〕 hucikumi, hucikun, →やぶ
 しける〔湿気る〕 simikeejun, →しめる
 しげる〔茂る〕 buteejun, hucaajun, hu-
 cikunun, husakeejun, ?jukajun, mu-
 じけん〔事件〕 →?için teejun
 しご〔死後〕 neeka, →あのよ
 じこう〔時候〕 zisiçi, →きこう, てんき
 しごきおび〔しごき帯〕 sugui?uubi
 しごく〔至極〕 siguku, →ひじょうに
 しごく〔扱く〕 sugujun
 じこく〔時刻〕 zibun, →とき
 じごく〔地獄〕 ziguku
 じこさんだん〔自己算段〕 →?uuşigari
 じこすうはい〔自己崇拜〕 duu?agami
 しごと〔仕事〕 sigutu, sikuei, tuisikuei,
 'waça, →ろうどう/ ~がおそい tiiniisa-
 n/ ~が早い tiibeesan
 しごとはじめ〔仕事始め〕 haçi?ukusi
 じこぼくろ〔自己暴露〕 duu?akagai 「て
 じこりゅう〔自己流〕 'wanKuruhuu, →かつ
 しさく〔思索〕 munukangee, →しあん
 じさし〔字指し〕 zisasi
 じさん〔自讃〕 →じまん
 しし〔獅子〕 siisi
 しじ〔私事〕 'watakusi
 ししまい〔獅子舞い〕 siisi
 ししゃ〔使者〕 →つかい

じし

じしゃく〔磁石〕 zizaku
 じしゅう〔刺繍〕 nucimUN
 じじゅう〔40〕 sizuu
 じじゅう〔始終〕 katakuzira, zoohwita, →
 いつ, たえまなく, ねん, ねんじゅう
 じじゅうくさい〔49歳〕 kukunutuguzuu
 じじゅうくにち〔四十九日〕 nanananka,
 sinZuukunici, sizuukunici 「duruci
 じじゅうくらがり〔四十暗がり〕 sizuumu-
 じしゅうじゆく〔自習塾〕 suriiza
 じしゅつ〔支出〕 ?Nzihwa, ?Nzirimee,
 ?Nzirumee, →しはらい, しゅび
 じしゅつだか〔支出高〕 ?Nziridaka
 じしょ〔辞書〕 ziihwici
 じしょ〔地所〕 zii, cikata, →とち
 じじょ〔侍女〕 →sizaki, (敬語) ?usizaki
 じしょう〔師匠〕 sisjoo, (敬語) ?usisjoo
 じじょう〔事情〕 zizoo, →しゅび, ないじょ
 う, わけ
 じじょうじばく〔自縄自縛〕 →duukweegu-
 じしょうぞく〔死装束〕 gusjoosugai [tu
 じしん〔地震〕 nee
 じしん〔自身〕 duu, (敬語) ?UNZU, →じぶ
 ん/ ~で-kuru, (敬語) ?UNZUKURU
 じしん〔自信〕 →じそん/ ~のない言い方
 ?ukeeimunii
 じすい〔自炊〕 duuzoosici
 じずか〔静か〕 sizika/ ~に 'jaajaatu, si-
 nzintu
 じずむ〔沈む〕 sizinUN
 じせい〔時勢〕 zisii, →じせつ, よ
 じせい〔自生〕 nankurumii, →やせい/ ~
 の瓜 moo?ui/ ~のさつまいも mii?NMU
 じせい〔自製〕 quukuruzukui
 しせいじ〔私生児〕 guunaingwa, 'jama-
 danaa, 'jamadanii, 'jamadaningwa,
 'jamanasingwa
 じせつ〔時節〕 zisiqi, →じき, じせい
 じぜん〔自然〕 sizin/ ~に nankuru, si-
 zinni

しそ〔紫蘇〕 ?akana
 しそう -gata, -gataa
 じぞう〔地蔵〕 zizoo
 しぞく〔土族〕 'jukaqcu, samuree, sizu-
 ku/ ~で位のない者 bunniN/ ~の男の
 子 'jukaqcuNGwa, →satunusigwaa, (敬
 語) satunusigwaamee/ ~の成人男子
 →satumusi, (敬語) satunusinumee/ ~
 の身分を金で買った者 kooijukaqcu/ 新
 参の ~miijukaqcu, sinZan
 しぞくぶらく〔土族部落〕 →'jaadui
 しそこなう siijanZUN, →hansjUN, 'jan-
 zUN, -hazakijUN, -hazikijUN, しっぱい
 しそん〔子孫〕 'jaçimaga, 'jaçi?Nmaga,
 qkwa?Nmaga, sisUN/ ~に苦勞が続ぐ
 こと çizi?uri
 じそん〔自尊〕 duu?ujamee
 した〔下〕 sica, →tiisica, しも/ ~の段 sic-
 adan/ ~を向く ?uqçincUN/ ~を向くこ
 と ?uqçintuu/ ~を向ける ?uqçinkijUN
 した〔舌〕 şiba, sica/ ~がもつれること
 teeteemunii, teeteemunu?ii/ ~をかみ
 そうな言い方 sicacirimunii, sicaciri-
 munu?ii, sicakweemunii, sicakwee-
 munu?ii/ ~を出す →sica, şiba
 したあご〔下あご〕 kakuzi, ?utugaku, ?u-
 tugee, →あご 「dee
 したい →busjan/ ~放題 siibusjahUN-
 したい〔次第〕 sidee, -sindee, →なりゆき/
 ~次第に sideesideeni/ ~に sideeni,
 taqta/ ~に弱ること sideejooi
 じたい〔辞退〕 zitee, →ことわる/ ~するふ
 りをすること ziteegwaa
 じだい〔地代〕 ziganee, →kanee
 したう〔慕う〕 →?untasjan, けいとらす
 る, こいする, しほ/慕われる →?untasjan
 したうけ〔下請け〕 sica?uki
 したえだ〔下枝〕 sicaida
 したがう〔従う〕 sitagajUN
 したがき〔下書き〕 sicagaci, sitagaci

したぎ〔下着〕 sicazi, →hakama, はだぎ
 したく〔支度〕 sikooi, sitaku, sugai, →sikooimukooi, じゅんび/ ~する sikoojun, sugajun, →sinukujun, sinjukujun/ ~するさま →sinukuimatakui
 したくちびる〔下唇〕 sicasiba
 したごころ〔下心〕 sicagukuru, →ないしん
 したごしらえ〔下拵え〕 Tarazukui, →じゅんび
 したしい〔親しい〕 →ところやすい, むつまじい/ ~間の話し方 'inu?iihii/ 親しく 'watawataatu/ 親しくなる narijun
 したじき〔下敷き〕 →gansina
 したそうだん〔下相談〕 ciriee
 したたか →ひじょうに
 したたらず〔舌足らず〕 sicacirimunii, sicacirimunu?ii, sicakweemunii, sica-kweemunu?ii
 したてる〔仕立てる〕 sitatijun/ 仕立てたばかりのもの sinsitai
 したに〔下荷〕 sicanii
 したぬり〔下塗り〕 sicanui
 したば〔下歯〕 sicabaa
 したば〔下葉〕 sicabaa 「cahwimu
 したばかま〔下袴〕 hakama/ ~のひも sibataba haqturugeejaa, paqtarigeejaa, paqturugeejaa
 したばたらき〔下働き〕 hwiimeesaa, sim-
 したはら〔下腹〕 sicawata lubataraci
 したひも〔下紐〕 sicahwimu
 したやく〔下役〕 sicajaku
 したやくにん〔下役人〕 sicajakunin
 したり sitai, sitari
 しだれやなぎ〔枝垂柳〕 Titujanazi
 しち〔7〕 nana, nanaçi, sici
 しち〔質〕 sici/ ~の利息 sicinurii
 しちがつ〔7月〕 sicigwaçi
 しちぐさ〔質草〕 sicimuçi/ ~となるものを調べること sicimuçisirabi
 しちじゅう〔70〕 sicizuu/ 73歳のお祝い→

sicizuusan

しちとうい〔七島藺〕 (植物名) saciii
 しちながれ〔質流れ〕 sicinagari
 しちにち〔7日〕 →なのか
 しちにん〔7人〕 nanatai, sicinin
 しちねんき〔七年忌〕 sicininci
 しちふくじん〔七福神〕 sicihukusin
 しちめんちょう〔七面鳥〕 sicimincoo
 しちや〔質屋〕 sicija
 しちりん〔7厘〕 sanbjakugunzuo
 じつ〔実〕 zici, →ほんとう, まこと/ ~の親 sjoo?uja/ ~の子 sjooNgwa
 じついん〔実印〕 zici?in
 しつうする〔私通する〕 →みつつう
 しっかり〔しっかりと〕 ciqtu, hasiqtu, sikaitu, sikaqtu, ?umiciqtu, →ちゃんと/ ~している sjooraasjan/ ~者 ?izicirimun, ?izirimun, 'jakara, 'jakaramun 「の箱の名 siziributa
 しっき〔漆器〕 nuimun, →うるしぬり/ ~
 しっきしょう〔漆器商〕 nuimunjaa
 しつぎょう〔失業〕 musikuci
 しっきんする〔失禁する〕 tuihansjun
 しっくい〔漆喰〕 mucu/ ~作り mucuçiçi/ ~作りの歌 mucuçiçicaa?uta/ ~作りをする者 mucuçiçicaa
 しつけ〔仕付け〕 ?iinaraasi, 'jaanaree, munNaraasi, naraasi, siçiçi, →きよりいく, しつける/ ~を受けること munNaree
 しっけ〔湿気〕 siçi, →しめりけ/ ~のあるところ siçigakai/ ~をおびる simijun, simikeejun
 しつける〔仕付ける〕 ?iinaraasjun, siçikijun, →しつけ/ しつかけた siçikigata
 しつげん〔失言〕 ?iiqkwa
 しつこい 'janagamasjan
 じっさい〔実際〕 →ほんとう
 じっし〔実子〕 →りみのこ
 しっし siçsiç
 しっしん〔湿疹〕 →hweegasa

しっ

しっせき〔叱責〕 ʔaʔku, tugami, →おしかり, しかる
しっそ〔質素〕 kumeeki, →つつましい/ ~にする kumeekijun
しつづけ〔し続け〕 →caa
しつと〔嫉妬〕 diŋci, riŋci, ʔwaanai, ʔwaanee, →おかやき, ねたみ/ ~する者
しつとり zitazita [diŋcaa, riŋcaa
しっぱい〔失敗〕 ʔajamai, ʔajamari, siijanzi, →つくりそこない, やりそこない/ ~する ʔandijun, siijanzun, tuijanzun, →gukuijanzun, ʔudukijun, しそこなう/ ~事 siijanzigutu
しっほ〔尻尾〕 →お
しつぼう〔失望〕 ʔirudai, →あて, がっかりする, きおち, しょげる
じつめい〔実名〕 sjoonaa 「gee, ぶさほう
しつれい〔失礼〕 burii, →guburii, maci-
しでのたび〔死出の旅〕 →sidigajamaici
しと〔仕途〕 ʔikeemici
しどう〔支道〕 →わきみち 「cizituu, zituu
じとう〔地頭〕 →ʔazituu, suuzituu, 'wa-
じとうだい〔地頭代〕 zitudee
しとぎ〔袷〕 sizuci
しとめる〔仕留める〕 ʔiricijun
しとやかに〔淑やかに〕 sinzintu
しどろもどろ ʔamaʔiikumaʔii, ʔanuu-
しな〔品〕 sina [kunuu
しなう〔撓う〕 tamajun
しなおし〔し直し〕 siinoosi
しなおす〔し直す〕 siikeesjun, siinoosjun
しなぎれ〔品切れ〕 sinaziri/ ~になる →hwiqcirijun 「sjanpin
しなちゃ〔支那茶〕 / ~の一種 hansan,
しなびる〔萎びる〕 bitatajun, neejun, →しおれる/ しなびたさま bitataikaatai
しなもの〔品物〕 sinamun
しなやか / ~でない haqikoosan
しなれる〔し慣れる〕 siinarijun
じなん〔次男〕 zinan

しにがお〔死顔〕 sinigau
しにぎわ〔死際〕 sinimee
しにくい →gatanasan, -gurisjan
しにしょうぞく〔死装束〕 gusjoosugai
しにそこない〔死にそこない〕 gusjoomu-
dui, sinijanZaa
しにそこなう〔死に損う〕 sinijanZun
しにものぐるい〔死物狂い〕 →いっしょうけ
んめい/ ~の働き nuciciribataraci
しにわかれ〔死に別れ〕 siniwakari
しにん〔死人〕 sinin, siniqcu
しめ〔死ぬ〕 maasjun, sinun, (敬語) ʔu-
kumuimiseen, ʔusizirimiseen/ ~こと
miiʔutui, (小児語) miikuutii/ ~べき所
sinidukuru/ ~前 sinimee/ 死なす hwi-
ngasjun/ 死にかけ hanbunzini/ 死に
そう maasigataa/ 死の前兆 tamagai/
死の前兆が現れる tamagajun/ 死んだあ
と neeka/ 死んだ人 siniqcu
じぬし〔地主〕 ziinunuusi
しのぐ〔凌ぐ〕 sinuzun
しのだけ〔篠竹〕 / ~の一種 'janbaraa, 'ja-
nbaraadaki, 'janbarudaki
しのび〔忍び〕 sinubi
しのぶ〔忍ぶ〕 sinubun, →かくれる, たえる
しば〔芝〕 ʔasiziri, ʔasizirijunziri
しはい〔支配〕 kusai, →とりしまり/ ~園
kagee/ ~園内 kageeʔuci/ ~する kage-
ejun, kakijun, kusajun, marucun,
→おさめる, とりしまる/ ~力 kusai
しばい〔芝居〕 coogin, siba, →kumiudui,
'udui/ ~の小屋 sibaja/ ~の入口 mu-
しばし〔暫し〕 sibasi, →しばらく [ŋguci
しばしば〔屢屢〕 'juu, →たびたび
しはじめ〔し始め〕 siihana, →やりはじめ
じばた〔地機〕 nunubata
しばふ〔芝生〕 ʔasiziraamoo
しはらい〔支払い〕 haree, →ししゆつ
しはらう〔支払う〕 harajun
しばらく〔暫く〕 ʔicuta, ʔicutaa, ʔiqtuci,

mazi, →しばし, とうぶん
 しぼる〔縛る〕 'juujun, kunzun, siba-
 jun, tabajun, tudijun, →むすぶ
 じひ〔自費〕 →じべん
 じびき〔字引〕 ziihwici
 じびょう〔持病〕 muciee
 しびれる〔痺れる〕 hwirakunun
 しぶ〔渋〕 sibu
 しぶい〔渋い〕 sibusan
 しぶいた〔4分板〕 sibuřita
 しぶうちわ〔渋うちわ〕 sibuřoozi
 しぶとい →ごうじょう/ ~顔つき siqpa-
 kaagi/ ~顔つきの者 siqpakaagii/ ~こ
 と siqpa/ ~者 siqpa, siqpamun 「bubai
 しぶばり〔渋張り〕 sibubai/ ~の三味線 si-
 しぶりばら〔渋り腹〕 sibiri, sibuiwata
 じぶん〔自分〕 duu, zibun, (敬語) řunzu/
 かえて ~が怪我をすること duubee-
 ree/ ~勝手 duugaqti/ ~自分で duu-
 naakuru/ ~たち duunaa/ ~たちで 'wa-
 qtaakuru/ ~で duukuru, →kuru,
 'wankuru, おてずから, ごじぶんで/ ~
 で髪を結うこと duukurujuui/ ~で転ぶ
 こと duukurubi/ ~で暴露すること duu-
 řakagai/ ~で働くこと duuřagaci/ ~
 で面倒なことをすること duuwacaree/
 ~に頼ること duuřigari/ ~のことに感
 じること duuřatai/ ~の体(敬語) řun-
 zu/ ~の身一つ duumiřigara/ ~のやり
 そこない duujanzi/ ~ひとり duucui/
 ~持ち duumuci/ ~の持前 duumee/ ~
 ゆえのこと duujui/ ~を崇めること
 duuřagami, duuřujamee
 じぶん〔時分〕 →ころ, じき
 じぶんどき〔時分時〕 munnuzibun, →ころ
 しぶんのいち〔4分の1〕 sibuřici, →よつ
 しべ〔蕊〕 sibi しわり
 しへい〔紙幣〕 saçi
 しべつ〔死別〕 siniwakari
 じべん〔自弁〕 duumakane, duumuci

しほ〔思慕〕 řumii, řumui, →おもい, し
 たら
 しほう〔四方〕 sirukucimaakuci, →よも/
 ~八方 sihoohaqqoo
 しほう〔脂肪〕 →řanda, butubutuu, siru-
 mi, あぶら/ ~ぶとり sirugweei/ ~の
 不足 →řandagaaki
 じほうじき〔自暴自棄〕 řaqpangaree
 しほむ〔潤む〕 bitatajun, →しなびる
 しぼる〔絞る〕 sibujun/ しぼったかす si-
 しほん〔資本〕 mutu, muutu [buigara
 しま〔島〕 sima/ ~の者 simaa
 しま〔縞〕 řaja, →たてじま, ほうじま, よ
 こじま/ ~とかすりのまじった布地 řaja-
 nnaakaa
 しまい〔姉妹〕 →'unai, (敬語) →řuminai
 / 守り神となる ~'unaigami/ 守り神とな
 る ~の霊 řuminaiřuřizi/ ~を交換する
 こと 'unaigeei
 じまい〔地米〕 →ziimee
 しまう〔仕舞う〕 →する, かたづける/ …し
 て ~→kee-, neen/ しまって置く kazimi-
 jun/ しまって置いたもの kazimimun/
 しまい込んで分からなくなる kazimihu-
 しまぐに〔島国〕 simaguni [kasjun
 しまそだち〔島育ち〕 →simaa
 しまたご(植物名) zingi
 しまつ〔始末〕 çibi, çikituduki, →けつま
 つ, しめくくり/ ~におえない haçikoo-
 rii, tuin çimin naran/ ~におえないこ
 と zaahwee, zaahweegutu/ ~におえな
 い者 zaahweemun
 しまった →daa, daanaa 「る →huni
 しまながし〔島流し〕 simanagasi/ ~にす
 しまはまぼう(植物名) 'juuna/ ~の葉
 'juunaagaasja
 じまま〔自儘〕 →かって
 しまもの〔縞物〕 řajamun
 しまり〔締まり〕 kukui/ ~のない者 çibi-
 hugibaaki

しま

しまりや〔締めまり屋〕 kumeekijaa
 じまん〔自慢〕 duubumii, ziman/ ～する者 zimanaa
 しみ〔染み〕 sun しみ
 しみる〔染みる〕 sunkwajun, suunun/ しみて痛む suunun
 しむける〔し向ける〕 sikakijun
 しめ〔締め〕 simi 締め
 しめい〔指名〕 nazasi
 しめきる〔閉め切る〕 kwiimicijun
 しめくくり〔締め括り〕 çibikukui, kukui, →しまつ ～の役 kukuijaku/ ～をしないこと çibikusuu, çibisuncaa
 しめくくる〔締め括る〕 kukujun
 しめころす〔締め殺す〕 simikurusjun
 しめじ〔茸の名〕 simizi 「ciiku, cuugoo
 しめしあわせる〔示し合わせる〕 / ～こと
 じめじめ sipusipu, siputaikaatai, zita-zita/ ～する siputajun
 じめつ〔自滅〕 →duukweegutu
 しめりけ〔湿り気〕 siçi, →しっけ/ ～が多いこと siçigakai
 しめる〔湿る〕 simijun, siputajun, →しける simikeejun/ 湿ったさま →じめじめ/ 湿っている耳 siçtaimimi
 しめる〔閉める〕 micijun, →とじる
 しめる〔締める〕 simijun
 じめん〔地面〕 zii
 しも〔下〕 sagai, simu, →した/ ～座 →まつぎ/ ～の方 sicaara, simukata
 しも〔霜〕 →simu
 しもごえ〔下肥え〕 coogwee, kusugwee
 しもじも〔下下〕 simukata, simuzimu, sitazita, sicadii, sicakata, →かそうかい
 しもつき〔霜月〕 simuçici しきゅう
 しものく〔下の句〕 simuku
 しもふり〔霜降り〕 koozaa
 じゃ〔蛇〕 zaa
 じゃあじゃあ soosoo
 しゃか〔釈迦〕 (敬語) sjaukaganasi

しゃがむ kagamajun, →かがむ/ ～こと
 しゃく〔尺〕 sjaku 〔tuntaciii
 しゃく〔勺〕 sjaku
 しゃく〔酌〕 sjaku, (敬語) ?usjaku
 しゃく〔瀬〕 →かんしゃく/ ～にさわる →しゃくし〔杓子〕 nabigee 〔cimuzawai
 しゃくとりむし〔尺取り虫〕 hakajaamusi
 しゃくふ〔酌婦〕 bintui, sakanajaawinagu, →じょろう 「いいわけ, べんかい
 しゃくめいする〔釈明する〕 harumijun, →しゃくやにん〔借家人〕 'jaakajaa
 しゃくりあげる〔しゃくり上げる〕 / ～さま nacigeegee 「あい, こうさい
 しゃこう〔社交〕 kugee, qcugutu, →つき
 じゃこう〔麝香〕 zakoo
 しゃこがい〔しゃこ貝〕 ?azakee, ?azikee
 しゃざい〔謝罪〕 'waki, 'waqsa, →あやまる
 しゃし〔斜視〕 sjoomi/ ～の者 sjoomaa
 しゃしん〔写真〕 sjasin
 じゃすい〔邪推〕 'jukugan
 しゃっきん〔借金〕 sii, ?uqka, →ふさい/ ～取り sii?imijaa/ ～払い ?uqkabaree/ ～を返すこと hwin?see, siibaree/ ～をふみ倒す者 qcuhurubasjaa
 しゃっくり saqkoobi
 じゃどう〔邪道〕 'janamici, 'jukumici
 じゃびせん〔蛇皮線〕 →sansin
 しゃぶる kukunun, şipujun 「ぎる
 しゃへい〔遮蔽〕 kataka, →おおう, さえ
 しゃべる〔喋る〕 'junun, →おしゃべり, はなす/ しゃべりまくる 'junkansijun
 じゃま〔邪魔〕 samatagi, ?ajameekusamee, zama, →しょうがい/ ～する samatagijun, sisikajun, sisikeejun, →さえぎる/ ～するさま sisikeehanakee/ ～する者 →?akumahukurugi/ ～になる sawajun
 しゃみせん〔三味線〕 sansin, (小児語) teNtuu/ 蛇皮張りの～ zahwibai/ ～作り sansinhajaa/ ～の楽譜 →kunkunsii,

kururunsi/ ~のこま ?Nma/ ~の胴
 giiga/ ~の音cintunTen, tEnten/ ~の
 曲の一種 kacaasii/ ~のねじ mudi, zii-
 hwaaw 「rookoo
 シャも〔軍雞〕 tawacii/ ~の鳴き声 kooko-
 シャもじ〔飯匙〕 ?iizee, misigege
 ジャリ〔砂利〕 ?isiguu, ?uru
 ジャリジャリ gasagasa
 ジャリみち〔砂利道〕 ?isiguumici, ?ina-
 シャりん〔車輪〕 hjaagaa 1mici
 シャりんばい〔車輪梅〕 (植物名) tikaci
 シャれもの〔洒落者〕 kwaaninaa, ?waa-
 caa, →おしゃれ
 ジャんけん →buusaa
 シャんと hasiqtu, →ちゃんど
 シュ〔趣〕 →おもむき
 シュウ〔周〕 -maai, →まわり
 ジゆう〔自由〕 →おもいどおり
 ジゆう〔10〕 tuu, zuu, →tu-
 シゅうい〔周囲〕 maai, maaru, migui, →
 siraakusjaa, しほう, ぜんご, まわり,
 ジゅういち〔11〕 zuu?ici 1めぐり
 ジゅういちがつ〔11月〕 simu?ici
 シゅうかい〔集会〕 surii, →あつまり/ ~す
 る →あつまる/ ~のあるさま suriimaan-
 シゅうかいじょ〔集会所〕 →suriiza 1doo
 シゅうかく〔収獲〕 →?aci
 ジゅうがつ〔10月〕 zuugwaçi
 シゅうかん〔習慣〕 naraasi, naree, nari,
 zuku, →しきたり, なれる, ふりしゅう
 シゅうぎ〔祝儀〕 sjuuzi, →sjudee, (敬語)
 gusjuuzi, gusuuzi, ところづけ, めでた
 ジゅうく〔19〕 zuuku 1い
 ジゅうご〔15〕 zuugu
 ジゅうごにち〔15日〕 zuugunici
 ジゅうごや〔十五夜〕 zuuguja
 シゅうさい〔秀才〕 dikijaa, suguraa, su-
 gurimun, →suu?ee/ ~の血統 suguri-
 daqkwii
 ジゅうさん〔13〕 zuusan

ジゅうシ〔14〕 zuusi
 ジゅうじ〔住持〕 cooroo, (敬語) cooroo-
 mee, →おしより
 ジゅうしち〔17〕 zuusici 「としごろ
 ジゅうしちはち〔十七八〕 zuusicihaci, →
 しゅうじつ〔終日〕 hwiruzuu, →いちにち
 ジゅうしゃ〔従者〕 →とも 1じゅう
 ジゅうじゅう〔重重〕 zuuzuu, kasanigasa-
 ジゅうしょ〔住所〕 ?imeezu, →すまい 1ni
 ジゅうしょく〔住職〕 →じゅうじ
 ジゅうじろ〔十字路〕 ?uçi?azimaa, kazi-
 majaa, →?azimaa 「なし
 シゅうせん〔周旋〕 naka?iri, →せわ, とり
 シゅうぜん〔修繕〕 tii?iri, →kuu, sjuuhu/
 ~するさま 'joozoohwizoo, →つくろう
 シゅうせんや〔周旋屋〕 bakujoo
 ジゅうそう〔重曹〕 ?aNcoo
 ジゅうそふ〔従祖父〕 'uzihuzitaNmee
 ジゅうそふぼ〔従祖母〕 'uzihuzi
 ジゅうそぼ〔従祖母〕 'uzihuzi?Nmee
 シゅうたんば〔愁嘆場〕 ?aakii
 シゅうてん〔終点〕 çiçikuci
 シゅうと〔舅〕 situ, 'wikigasitu, (敬語)
 ?weesitu
 シゅうとく〔習得〕 tui?ubi/ ~する tui?u-
 bijun, tui?ukijun, ?ukitujun
 シゅうとめ〔姑〕 situ, 'winagusitu, (敬語)
 ?weesitu, →?aimee, ?ajamee/ ~への
 接しかた situbiree
 ジゅうに〔12〕 zuuni
 ジゅうにがつ〔12月〕 →しわす
 ジゅうにし〔十二支〕 zuunisi/ ~の1回り
 cumaarasi
 シゅうにゅう〔収入〕 ?irimee/ ~額 ?iri-
 daka
 ジゅうにん〔10人〕 zuunin/ ~に匹敵する
 こと zuuninbicee, zuuningaai
 ジゅうのう〔十能〕 hwiisicaa
 ジゅうぼこ〔重箱〕 zuubaku, (敬語)?uzuu,
 →haqsinzubaku, kuhwan, ruku?in-

gwaa, şiziributa, Yukuhwan/ ~料理
 じゆうはち[18] zuuhaci →ʔuzuu
 じゆうびょう[重病] cuubjoo, teebjoo
 しゆうぶん[秋分] sjuubun 「→まんぞく
 じゆうぶん[十分] cuhwaara, zuubun,
 しゅうほ[修補] sjuuhu, →しゅうぜん
 じゅうまんがん[10万貫](銭) zuuman-
 gwan
 じゅうもんめ[10匁] tiirami
 しゅうようする[修養する] →kunasjun
 しゅうり[修理] sjuuhu, →しゅうぜん
 じゅうりん[騾驢] kunpici, →ふみにじる
 じゅうろうどうしゃ[自由労働者] boosici-
 naa, →たちんぼり, ひやとい
 じゅうろく[16] zuuruku
 じゅうろくささげ[十六ささげ] huuroo
 じゅうろくむさし[十六武蔵] micimaa
 しゅき[酒器] →さけ
 しゅくえん[祝宴] sjuuzi, →おいわい/ ~
 の座 sjuuzizaa 「çibi
 しゅくじつ[祝日] →'uimi, 'ujumi, tuisi-
 しゅくじょ[淑女] meewinagu
 じゅくす[熟す] ʔNnuN/熟し過ぎる ʔNmi-
 kucun/ 熟してないもの ʔoomun
 じゅくたつする[熟達する] sikarasjun, →
 じょうたつする, たつじん 「しる
 じゅくちする[熟知する] sirihukasjun, →
 しゅくちょく[宿直] 'jużimi
 しゅくはく[宿泊] tumai, →とまる
 しゅくめい[宿命] çizisuu, →うんめい
 しゅくん[主君] sjuzin, →しゅじん
 しゅげい[手芸] tinuza
 しゅご[守護] kakugu, →まもり
 じゅごん[儒艮](海獣の名) ʔakangwaaʔi-
 ju, zan, zanNuʔiju
 しゅし[主旨] ʔisju
 しゅし[種子] munecani, →たね
 しゅじゅ[種々] →いろいろ
 しゅじゅつ[手術] tiiʔiri 「kawaiiimun
 しゅしょうな[殊勝な] →しんみょう/ ~者

しゅじん[主人] danna, nuusi, sjuzin,
 →ごしゅじんさま/ ~役 tiisju
 じゅずだま[数珠玉] şişidama, (植物名)
 şişidamagii
 しゅせんど[守銭奴] zinGunzuu, →zinza-
 しゅだん[手段] →ほうほう [ku
 しゅっさん[出産] hanzoo, nasihanzoo,
 san, →ʔuqtumisi, うむ, さんげづく,
 そうざん, なんざん, ぶんべん, / ~祝い
 kaaʔurii/ ~祝いの飯 ʔNbagii, ʔNba-
 giimee/ ~後産婦が暖をとる炉 ziiru/ ~
 後まだ回復しない体 'wakaziira/ ~する
 →うむ/ ~の準備 →şiiżukurii/ ~の時
 産児につける水 ʔNbumiżi/ ~の前 nasi-
 mee
 しゅっぱつ[出発] ʔNzitaci, ʔuqtaci, →
 かどで/ ~の準備 ʔNzisugai/ ~する
 しゅっぱん[出帆] →でふね [ʔuqtacun
 しゅっぴ[出費] çikuri, ʔirimi, munuʔi-
 rimi, zinʔirimi, siçcii, →ししゅつ/~
 のかさむこと siçciigutu, zinʔirimi
 しゅっぱん[出奔] ʔNzihangwi, →いえて
 しゅとう[種痘] zitoo
 しゅぬり[朱塗り] sjunui
 じゅばん[褌袴] ziban, →duzin
 しゅび[首尾] sjubi
 じゅひ[樹皮] kiinukaa
 しゅもく[撞木] simuku
 しゅり[首里] sjui, →sjuiʔweeguni, ʔu-
 hwigamutu/ ~王府への御奉公 sjui-
 ganasimedei, sjunzanasimedei/ ~周
 辺の畑 sjuibaru/ ~の大通りの名 ʔai-
 zoo, ʔaizooʔuhumici, ʔajazoo/ ~の
 旧3行政区 sjuimihwira/ ~の国王 sju-
 itinganasi, sjuNzanasasi/ ~の風俗 sju-
 ihuuzi/ ~の部落代表 ziigasira/ ~にあ
 る神の宮 sjuimitunci
 しゅりじょう[首里城] ʔuguşiku/ ~にあ
 る泉の名 duuhwi, ruuhwi/ ~の建物の
 名 ʔazana, cimihukui, gubanzu, gu-
 sjuin, hweenuʔużun, 'jubukui, 'juñci,

kamee, karahwaahu, kugani?udun, muNdašii, muNnami, nisinu?udun, simasui?azana, taka?azana, ?ucinbjuu?udun, ?ukugusjuin, ?uniikee?udun, ?usinbjuu?udun/ ~の庭 ?unaa/ ~の門の名 ?akata?uzoo, ?amee?uzoo, cimihukui?uzoo, hukui?uzoo, hwiizaa?uzoo, ?jusuhwici?uzoo, kaguisi?uzoo, kawarumi?uzoo, mimunu?uzoo, naga?uzoo, šiicizi?uzoo, simunturi, sirukani?uzoo, ?unaka?uzoo, ?wiinuturi
 しゅりじん〔首里人〕 sjuincu
 しゅりほうげん〔首里方言〕 sjuikutuba
 しゅろ〔棕櫚〕 çigu, sjuru/ ~の皮 sju-
 しゅろちく〔棕櫚竹〕 sjuruciku [?ungaa
 しゅろなわ〔棕櫚繩〕 sjuruçina
 じゅん〔順〕 sidee, -siNdee, →じゅんばん
 しゅんかん〔筍干〕〔料理名〕 sjunkan
 しゅんぎく〔春菊〕 sjuNciku
 じゅんけん〔純絹〕 →kasinucisiraga
 じゅんさい〔植物名〕 miži?uncee
 じゅんずる〔準ずる〕 ?utaasjun
 じゅんたく〔潤沢〕 zuntaku, →ゆたか
 じゅんばん〔順番〕 ban, maaru, →?usii-
 maaru, ?usiimaasii, じゅん, ばん/ ~
 が先であること meeban, saciguci/ ~制
 maaruu
 じゅんび〔準備〕 sikooi, sitaku, sugai,
 →sikooimukooi, šimee, timawasi, し
 たごしらえ, そなえ, ようい/ ~する si-
 koojun, sugajun, →sinjukujun, si-
 nukujun/ ~するさま →sinukuimata-
 kui/ ~万端 →sugaimanugai
 じゅんぷう〔順風〕 matumu, zuNpuu
 しゅんぶん〔春分〕 sjuNbnun
 しゅんめ〔駿馬〕 hai?Nma
 しょうこむ kwiizikijun 「→sjoon tatan
 しょう〔仕様〕 siijoo, →しかた/ ~がない
 しょう〔性〕 sjoo, →せいしつ/ ~が合わない
 しょう [eesjoo]guhwasan

しょう〔升〕 -sju, →wakasi
 じょう〔滋養〕 →えいよう
 じょう〔情〕 zoo, →cimu, なさけ
 じょう〔鏡〕 saasi, →かぎ
 じょう〔状〕 zoo, →てがみ
 じょう〔上〕 zoo-, →じょうとり
 じょうあい〔情愛〕 sinasaki, zooee, →じ
 あい, じょう, なさけ / ~のゆたかな人
 じょうい〔上位〕 ?wiidan [zooemuci
 しょうが〔植物名〕 sjoogaa/ ~をすりおろ
 したものを sjoogaasirii
 しょうがい〔障害〕 →さしざわり, -じゃま
 しょうがく〔小学〕〔書名〕 sjoogaku
 しょうかする〔消化する〕 kunasjun
 しょうがつ〔正月〕 sjoogwaçi, →しんねん/
 ~早早 sjoogwaçinnaara/ ~と7月 sjo-
 osiçigwaçi/ ~の市 sjoogwaçimaci/
 ~の晴着 sjoogwaçizin/ ~用に屠る豚
 sjoogwaçi?waa/ ~用の買物 siwaasiko-
 oimun/ ~笑い sjoogwaçiwaree
 しょうがない sjoon tatan, →しかた
 しょうかん〔小寒〕 sjuukan
 しょうき〔正气〕 sjooci
 しょうぎ〔将棋〕 →cunzii
 しょうぎ〔娼妓〕 →じょうろ
 しょうき〔蒸気〕 →ゆげ
 しょうきせん〔蒸気船〕 hwiigurumaa
 しょうげ〔上下〕 ?wiisica, →kamisimu
 しょうこ〔証拠〕 sjuuku
 しょうご〔上戸〕 sakizoogu, sakizooguu,
 しょうご〔漏斗〕 zoogu [zooguu, →zoogu
 しょうごう〔照合〕 hwici?ati
 しょうさい〔詳細〕 kumeeki, →いさい, く
 わしい/ ~にする kumeekijun
 しょうじ〔障子〕 ?akai, ?akaisanbasiri,
 ?akaisanbasiru
 しょうし〔上巳〕 sangwaçisannci
 しょうじき〔正直〕 makutu, sjoozici, →
 maazimu, mazimu/ ~な者 maazimu,
 maçšiiguu

じょ

じょうしき〔常識〕 →kani
 しょうしょ〔小暑〕 kuuʔaciisa
 しょうしょう〔少少〕 →すとし
 しょうじょう〔猩猩〕 sjoozoo
 しょうじょうと〔蕭条と〕 soozootu
 しょうじる〔生じる〕 sjoozijuN
 しょうしん〔小心〕 →おくびょう/ ~である
 cimuguusaN/ ~者 cimuguuMUN
 しょうしんのう〔尚真王〕 →ʔucagamui,
 ʔuzagamui, ʔuzagamuiganasi
 しょうじんりょうり〔精進料理〕 sjooziN
 じょうず〔上手〕 zoozi, →taqsja/ ~下手
 しょうせつ〔小雪〕 kuujuci [zoozihwita
 しょうぞうが〔肖像画〕 (敬語) ʔuguii
 じょうそうかいきゅう〔上層階級〕 ʔwiika-
 ta, ʔwiiʔwii
 じょうぞうする〔醸造する〕 tarijuN
 しょうそく〔消息〕 →kwii, じじょう
 しょうぞく〔装束〕 sjoozuku, →しにしよ
 りぞく, たびしりぞく, きもの
 しょうたい〔招待〕 ciikee, (敬語) mjuŋci-
 kee, nuŋcikee, ʔuŋcikee [ひきりける
 しょうだく〔承諾〕 gaqtin, →しょうち,
 じょうたつする〔上達する〕 ʔagajuN,
 →じゅくたつする
 じょうだん〔上段〕 ʔwiidan 「→ざれごと
 じょうだん〔冗談〕 teehwa, 'wareehanasi,
 しょうち〔承知〕 gaqtin, →'ugancumi-
 juN, しる/ ~の上 siriee
 しょうちょう〔小腸〕 nakami, 'watagwaa
 じょうてんき〔上天気〕 zooʔwaaqici
 じょうとう〔上等〕 zootuu, →zoo-/ ~の畑
 地 zooci
 じょうとうみょう〔常灯明〕 zootuNmjoo
 しょうとつする〔衝突する〕 ciciʔatajuN,
 じょうない〔城内〕 siruʔuci [→ぶつかる
 しょうにゅうどう〔鐘乳洞〕 →gama
 しょうにん〔使用人〕 ciikeemUN, →'uNcu-
 mii, ziniN
 しょうにん〔商人〕 ʔacineeNcu, ʔacinee-

sjaa, →ʔacoodaa, ʔacoodu
 しょうね〔性根〕 sjoo, sjookani, →こん
 しょうのう〔樟脳〕 sjoonoo [じじょう
 しょうのう〔上納〕 zoonoo [ʔNma
 じょうば〔乗馬〕 ʔNmanui/ ~用の馬 nui-
 しょうはい〔勝敗〕 kacimaki, →しょうぶ
 しょうばい〔商売〕 ʔacinee/ ~がうまく行
 かない ʔacineeguhwasan/ ~上手 ʔa-
 cineezoozi/ ~の口あけ ʔasamiiguci
 しょうばん〔相伴〕 sjooba, (敬語) ʔusjoo-
 じょうび〔常備〕 →ようい [ba
 しょうひする〔消費する〕 teesjuN, →つい
 える/ 消費される teejuN
 しょうひん〔商品〕 ʔacineemUN
 しょうぶ〔勝負〕 sjuubu, →しょうはい/
 ~事で人数を左右に分けること katawa-
 kitii/ ~なし hwiihwiituu
 しょうぶ〔菖蒲〕 sjoobu
 じょうふ〔上布〕 zoohu [guu
 じょうふ〔情夫〕 kamaNta, niŋguru, →
 じょうふ〔情婦〕 niŋguru, →guu
 じょうぶ〔丈夫〕 ganZuu, kato, zoobUN
 (敬語) ʔuganZuu, →けんご, たっしや/
 ~そうである ganZuuŋisaN/ ~な者 cu-
 ubaa, ganZuumUN/ ~な者が倒れるこ
 と kuhwadoori/ ~になる euujuN
 しょうぶん〔性分〕 →せいしつ
 しょうべん〔小便〕 siibai, (小児語) sii/
 ~する →ʔusi/ ~壺 siibaiguuru
 しょうぼう〔消防〕 hwiibataraci
 しょうぼうふ〔消防夫〕 hwiicaasjaa
 じょうまえ〔錠前〕 saasi
 しょうまん〔小満〕 sjuuman/ ~芒種 sju-
 umanboosjuu
 じょうみゃく〔静脈〕 ʔookazi
 しょうめん〔正面〕 mamukoo, taŋkaa, →
 ʔumukoo, ましりめん
 しょうもん〔証文〕 sjuumUN
 しょうゆ〔醬油〕 sjoojuu/ ~を入れるとっ
 くり sjoojuuuquki

しょうゆや〔醬油屋〕 sjooujuujaa
 しょうよく〔情欲〕 →hadahusja
 しょうらい〔将来〕 ?atu?atu, 'juunusaci,
 sacizaci, →kurikara/ ~性がある →sj-
 oozijun
 しょうりょう〔精霊〕 (敬語) ?usjoooro,
 →たましい/ ~送り ?usjoooro?uukui,
 ?uukui/ ~迎え ?usjoooro?unkee
 しょうりょうばな〔精霊花〕 (植物名) ?u-
 sjooroohaasi
 しょうわる〔性悪〕 'jaçi
 しょか〔書家〕 ziikaci
 しょか〔初夏〕 haçinaçi, naçiguci, 'waka-
 じょかん〔女官〕 guşikuncu [naçi
 しょかんちょう〔諸官庁〕 sjuzasjukura
 しょき〔暑気〕 humici, →humicimaki
 しょきかん〔書記官〕 hwiqsja
 じょきゆう〔女給〕 sakanajaawinagu
 しょくあたり〔食あたり〕 sjukusjoo
 しょくえん〔食塩〕 maasju
 しょくぎょう〔職業〕 'waça, →しごと
 しょくご〔食後〕 mununu?atu, munnu-
 ?atu
 しょくじ〔食事〕 cuusici, 'jaşimi, munu,
 mun, ?ubun/ ~のかわり →kucizukui/
 ~の支度 munusugai/ 昼下りの~ hwi-
 rumamun
 しょくじどき〔食事時〕 munnuzibun
 しょくぜん〔食前〕 munnumee
 しょくどう〔食堂〕 makaneejaa
 しょくにく〔食肉〕 sisi
 しょくにん〔職人〕 şeeku
 しょくひ〔食費〕 kweekuci
 しょくぶつめい〔植物名〕 →?aasa, ?adani,
 ?adan, ?akabanaa, ?akagi, ?akaguu,
 ?akamaamii, ?akana, ?asa, ?asiziri,
 ?asizirijunziri, ?awa, hanşiruu, ba-
 ran, basjuu, biiguii, biiru, biŋgi, bi-
 nroo, bira, biwa, butan, caagi, canda-
 kasii, çibaci, çibana, çiburu, cidee-

kuni, çigu, çihwahwa, ciidumigusa,
 ciku, cinuku, cinumata, cinKan,
 cinKwaa, çinnuku, çiri, çiribira, çiri-
 Nto, cisana, çita, coocikutoo, coosju-
 N, coozi, daki, dakinuçkwa, daçcoo,
 dasica, deede, deedeekunibu, deeku,
 deekuni, deemjoo, diigu, din, dingan,
 dugwai, ?ee, garasi, gazimaru, gikizi,
 gooja, gumuru, gunboo, gusici, gu-
 suntoonuciN, gusuntoozin, haberu-
 baa, hadakaanuuzi, hagoogi, hana,
 hanabasjuu, hanagaci, handama,
 hansu, hataki?aasa, hazi, hazigi,
 hjootançibururu, huçima, hujuu, huku-
 rugi, hukuzi, hunui, huuçi, huuçibaa,
 huurinna, huuroo, huutoo, huzi, hwi-
 gu, hwhiwaçi, hwinuci, hwirahwagu-
 sa, hwirakaamuzi, hwiramaaçaa, hwi-
 ramaaçi, hwiramusiru, hwiramusi-
 ruu, hwiru, hwiruhwagusa, ?icubi, ?ii-
 ku, ?indu, ?induumaami, ?inkunibu,
 ?inziŋmaami, ?isiguu?Nmu, ?ituja-
 nazi, ?izu, 'ii, 'jaasi, 'jahwatagusa,
 'jamaguruci, 'jama?icubi, 'jamajuu-
 na, 'jamakannda, 'jamakanndaa, 'ja-
 mamumu, 'jama?Nmu, 'janabu, 'ja-
 nazi, 'janbaraa, 'janbaraadaki, 'ja-
 nbarudaki, 'janabu, 'jarabu, 'jui, 'ju-
 juzura, 'junziraa, junziri, 'jusan-
 diba, 'juuna, kaabucii, kabigi, kami-
 sasibana, kançiku, kanda, kanna,
 kançoo, kara?Nmu, karataki, kazi-
 majaa, kiimumu, kii?ui, koobusi,
 kooregusju, koozaa, kuba, kucinasi,
 kuganii, kuganiikunibu, kuhwadiisi,
 kuhwadisa, kunibu, kuragaa, kuru-
 boo, kurucani, kuruci, kuruguma,
 kurumaami, kurutuN, kuru?ugu-
 ma, kusandaki, kusazina, kusunuci,
 kuubi, kuugaa, kuuruu, kwaa, kwa-
 nnuNçiku, kwansoo, kwantu?ui,

kwasiuuzi, maaci, maami, maani, maaʔoohwaa, maataku, maauu, maa-zin, maçibaran, maçidan, maçiran, mamami, mamiku, manzuuii, maqkoo, miçiba, miigaa, mikan, mimigui, minbutukii, minna, minzaigusa, miziʔun-nee, mooʔaasa, mooʔicubi, mooʔui, muikuhana, muikwa, mumu, muzi, naa, naaba, naabeeraa, naašibi, na-coora, naguran, naiuu, nankwaa, niibiru, ninbutukii, ninningusa, ninzinsansici, niqçii, nuuri, ʔnamuzi, ʔnmi, ʔnmu, ʔnni, ʔnndii, ʔnzu, ʔnsunabaa, ʔnzadaki, ʔnzaki, ʔnzana, ʔnzataki, ʔnziccaa, ʔoomaamii, ʔoonuuri, ʔootoo, ʔootuuzin, riici, rin, ringan, rugwai, rusuntoozin, saataagii, saataauuzi, saciii, sakura, sancira, sandankwa, sannin, sarakaci, sibaki, sibui, sii, siiboozaa, šiikwaasjaa, šiikwaʔui, siizaa, simizi, šinui, siracani, siraciku, siruciku, sirumaami, siruʔuguma, šišici, šišidamagii, šizi, sjannin, sjoobu, sjoogaa, sjunciku, sjuru, sjuruciku, soosicigusa, sutiçi, suutiçi, taaʔnmu, taarasi, takaʔicubi, tarugajoo, tikaci, tinsjaa-guu, toohumaami, toohunabii, tookunibu, toonucin, tubira, tumaikuruu, turanuzuu, tuu, tuuzinii, ʔucin, ʔuguma, ʔuhuçizaa, ʔuhumuzi, ʔuhuni, ʔui, ʔukumaami, ʔumiʔaasa, ʔumimaaci, ʔumutu, ʔuncee, ʔurandaaʔnmu, ʔusuku, ʔusjooroohaasi, ʔuuni, ʔuu, ʔuube, ʔuuzi, ʔwiicoo, ʔwarabi, zakura, zii-bira, ziima, zii-maami, zikuzikuu, zingii

しょくぶん〔職分〕 sjukubun

しょくめい〔職名〕 →いかい 〔ʔukani

しょくもつ〔食物〕 →たべもの/ ~の暖かみ

しょくよく〔食欲〕 muNnujuku, sjukujuku, →たべもの/ 病後の~ sakadaci/ ~がある kucimaasan/ ~が無い kucinii-san/ ~をそらすために少し食うこと kucizukui

しょくりょう〔食糧〕 hanmee, →たべもの/ ~持参 duubanmee/ ~を計って炊くこと hakaibanmee 〔joo

しょくくん〔諸君〕 suujoo, (敬語) gusuu-しょげる gandujun, sipitajun, →sipirijun/ ~こと siibuu, →しつぽう/ しょげかえること siibuugeei/ しょげているさま biqteen, sipitaikaatai

しょこう〔諸侯〕 →ʔazibi

しょこん〔初婚〕 ʔaradumeei, ʔaramuci, ʔaraniibici

しょさいない〔如才ない〕 kuusee neen

しょし〔麻子〕 ʔjuubeengwa

しょしき〔書式〕 →hwinagata

しょしよ〔処暑〕 tukuruʔaçisa

しょそう〔女装〕 ʔwinagusugai

しょぞん〔所存〕 sjuʔun, →かながえ/ ~次第 sjuʔunsidee, (敬語) gusjuʔunsidee

しょたい〔所帯〕 sjuutee, →daci/ ~道具 ʔjaamucidoogu, sjuuteedoogu/ ~もち ʔjaamuci, ʔjaamucizuku, sjuuteemuci/ ~持ちが荒い sjuuteeʔarasan/ ~持ちが荒いこと ʔarazuutee/ ~持ちがいい sjuuteekumasan/ ~持ちの上手な者 ʔjaamucaa/ ~を別にすること sjuutee-

しょつき〔織機〕 →はた 〔wakai

しょっちゅう →しじゅう

しょっぱい →しおからい

しょてん〔書店〕 sjumuçimacija

しょなのか〔初七日〕 haçinaNka

しょにん〔諸人〕 →ぼんにん

しょぶん〔処分〕 ʔutiʔiri, →しより

しょほう〔処方〕 hweezee

しょほうせん〔処方箋〕 hweezeegaci

しょみん〔庶民〕 →ぼんにん

じょめい〔助命〕 nucidaşiki
 しょうう〔所望〕 nuzumi, sjumoo, →ねが
 しょもつ〔書物〕 sjumuçi, →ほん
 しゃや〔初夜〕 ʔaraʔicenu, ʔjuru
 しゃり〔処理〕 hansı, →しよち/ ~する
 hansjun, sabakijun, →とりはからう
 じょうろう〔女郎〕 zuri, zurihana, →が
 しょう, しゃくふ/ 囲われた ~çimizuri/
 ~だった女 hunzuri/ ~として売ること
 zuriʔui/ ~に夢中になること zurimuçi-
 ri/ ~の営業禁止 ʔakahuda/ ~の抱え親
 zuriʔanmaa/ ~の子 zurinuqkwa, zu-
 rinuqkwa/ ~の身代金 zurigane/ ~
 ~を買いあさること gunboo, zuri-
 gunboo/ ~をかうこと zurijubi/ ~を
 かう代金 zurigane/ ~をかう者 zuriju-
 baa/ ~を売買する者 zuribakujoo/ あ
 らたに~に身を落した者 saraʔutii/ 営
 業禁止された~ ʔakahuda/ 初めて買
 った~ haçizuri/ 昔なじみの~ huruzuri
 じょうろうあがり〔女郎あがり〕 hunzuri, zu-
 riʔagai
 じょうろうあそび〔女郎遊び〕 zuriʔaşibi
 じょうろうや〔女郎屋〕 zurinujaa
 しょんぼり →しよげり
 しらあり〔白蟻〕 sirai 「~頭の者 siragaa
 しらが〔白髪〕 siragi/ ~頭 siragiçiburu/
 しらいと〔白髪糸〕 siraga, →siraga-
 gasi/ ~で織った礼服 siragawatazin
 しらぎく〔白菊〕 siraciku, siruciku
 しらくちづる〔植物名〕 kuugaa
 しらくも〔白雲〕 sirakumu
 しらげる〔精げる〕 →せいはいく
 しらこ〔白子〕 siruqcuu
 しらしめゆ〔白絞め油〕 sirasibui
 しらせ〔知らせ〕 sirasi, (敬語) ʔusiyasi,
 →きっぽう, つうたつ
 しらせる〔知らせる〕 sirasjun, →çigiju-
 N, huriituusjun/ ~人 sirasibi
 しらちゃける〔白ちゃける〕 sirasabeejun

しらつゆ〔白露〕 hwakuru
 しらなみ〔白波〕 siranami
 しらはま〔白浜〕 sirahama
 しらびと〔白人〕 →しらこ,
 しらふ〔素面〕 sama 「けんさ, とりしらべ
 しらべ〔調べ〕 ʔaratami, sirabi zinmi, →
 しらべもの〔調べ物〕 sirabimun
 しらべる〔調べる〕 ʔaratamijun, sirabi-
 しらほ〔白帆〕 sirahu ljun
 しらみ〔虱〕 siran/ ~の卵 zicasi
 しらむ〔白む〕 siranun
 しらわらい〔しら笑い〕 sirawaree
 しり〔尻〕 çibi, ʔisici, →çibitai, çibitan-
 da/ ~がやせてとがった者 çibisaziraa/
 ~にさがった帯 çibitaiʔuubi/ ~に敷く
 →sicina/ ~に敷くもの sicina/ ~の突
 き出た者 çibitaqcuu/ ~を立てること
 çibitaqtuu
 しりあい〔知り合い〕 miicaasiricaa, siri-
 ee
 しりからげ〔尻からげ〕 çibui
 しりきれ〔尻切れ〕 zuumuqkaa, zuumu-
 qkoo, zuumookuu
 しりごみ〔尻込み〕 ʔatuşizici, ʔatuşizi-
 caa, →ひっこみじあん/ ~する ʔukee-
 jun/ ~するさま ʔatunainai 「のく
 しりぞく〔退く〕 şizicun, →あとずさり,
 しりぞける〔退ける〕 dukinasjun, sizira-
 kasjun, →のける, はいじよする
 しりぬぐい〔尻拭い〕 çibinugujaa, →あと
 しまつ/ ~をしらないこと çibikusuu
 しりべた〔尻べた〕 çibitai, çibitanda
 しりよ〔思慮〕 ʔati, ʔatisjoo, hunbiçi,
 munnuʔati, sjoo, →かながえ, ふんべつ/
 ~深い ʔumiibukasan/ ~深い者 tama-
 sikweemun/ ~分別のない者 ʔatinasi
 しりょう〔飼料〕 hami, munugarii, →えさ
 しる〔知る〕 sijun/ 知らない人 siranqcu/
 知らぬふり siranhuunaa/ 知りつくす
 sirihukasjun/ 知っていて siriee

しる

しる〔汁〕 siru, ʔusiru, →siimuN/ ～が引いて煮えたつこと siruhwiitazii/ ～に入れる野菜 →ʔwaaʔuci/ ～のかす sirunuguri/ ～の出るもの siruhaimuN/ ～ばかりが多いこと sirubonbon/ ～をかけた飯 siruzikii, ʔusiruzikii/ 貧弱な～ sabiziru 「ki

しるし〔印〕 siN, sirusi, →sirubi, ʔuqei-
しるわん〔汁椀〕 siruwaN, ʔusiruwawN

じれったい tiihagoosan, →hagoosan,
いらいら/ ～さま hutuhutu

しれわたる〔知れわたる〕 sasisirijun

しろ〔白〕 siru, →まっしろ

しろ〔城〕 siru, guʃiku/ ～の中 siruʔuci

しろ〔代〕 siru, →かわり, だいか

しろあと〔城跡〕 siruʔatu

しろあり〔白蟻〕 →しろあり

しろい〔白い〕 sirusan/ 白っぽくなる si-
rasabeejun/ ～紙 sirukabi/ ～布 siru-
nunu/ ～もの siruu/ 魚などの～腹 si-
ruwata

しろいげん〔白隠元〕 →sirumaami

しろうと ʔuku/ ～大工 taabaazeeku

しろうり〔白瓜〕 (植物名) mooʔui

しろごま〔白胡麻〕 siruʔuguma

しろざとう〔白砂糖〕 siruzatoo, teehwaku

しろじ〔白地〕 siruzi

しろした〔白下〕 sirusita

しろなまず〔白なまず〕 sirabee

しろぼし〔白星〕 sirubusi

しろまめ〔白豆〕 sirumaami

しろみ〔白身〕 sirumi, sirumii

しろめ〔白目〕 sirumii

しわ〔皺〕 magui, ʔwazami, →ひだ/ ～が寄る cizinuN, magujun, wazanun/ ～だらけ→しわくちゃ/ ～だらけの顔 maaguuzira, maguizira/ ～になる magurijun/ ～の寄ったもの maagu/ ～をよせる cizimijun, ʔwazamijun

しわがれごえ〔しわがれ声〕 kwiikaraa,

sjuukarigwii, tusjuigwii, →かれる

しわくちゃ〔皺くちゃ〕 maaguuhwiiguu,
maguihwigui, maguikaa, magujaahwi-
gujaa, muNnaku, muNnakukwaNna-
ku, muNnakwaNna/ ～にする cikuna-
asjun/ ～の顔 maaguuzira, maguizira

しわざ〔仕業〕 siwaza

しわす〔師走〕 siwaasi/ ～に使う金 siwaa-
sizikee/ ～の忙しさ siwaasiʔicunasa/
～の市 siwaasimaci/ ～の買物 siwaa-
sikooimuN/ ～の商売 siwaasiʔacinee

しん〔芯〕 nakaguu, nakaziN, siN, →ずい

じん〔人〕 -Ncu

じんあい〔塵埃〕 cirihukui, →ちり

しんい〔神意〕 ʔutingutu

しんいり〔新入り〕 →しんざん

じんいんちょうさ〔人員調査〕 niNzuʔara-
tami

しんか〔臣下〕 siNka

しんがい〔心外〕 →ざんねん/ ～なこと (～なもの) ʔumaaranmuN

しんかん〔神官〕 kamiNcu/ ～の家 →nii-
dukuru, niija/ ～の家の主人 →niiNcu/
～の一種 ʔamusirare, ʔansirari, ʔa-
nsitari, cihwizin, cihwizinganasii,
cimi, ciN, kuʔi, nigami, nuru, nuruku-
mii, nuuru, ʔukuʔi, ʔwikiiʔukuʔi,
ʔunaiʔukuʔi/ ～の御殿 →cihwizinʔu-
duN/ ～の屋敷 →sjuimituNci, sjundu-
nuci, sjunduNci, makandunci, ziibu-
dunci

しんがん〔心願〕 cimungee, →がん

しんきゅうし〔鍼灸師〕 ʔjabuu

しんけいすいじゃく〔神経衰弱〕 cijami, si-
nhwicagi

しんけいつう〔神経痛〕 hwizuicii

じんご〔人後〕 qcuʔatu

しんこう〔信仰〕 guniNzi, niNzi/ ～する
niNzijuN, siNzijuN

じんこう〔沈香〕 ziNkoo

しんこうせん〔進貢船〕 ʔajabuni, ʔajahunu, cinʔkunsin/ ~で中国へ行く使者 ʔajabuniʔikee/ ~を迎えに中国へ行く船 →ceʔkunsin

しんざん〔新参〕 ʔimamee, miiʔiri/ ~の士族 miiʔukaʔcu, sinʔan

しんし〔綫〕 (織機具) siisi/ ~の両端のところがったところ siisiguci ʔʔnkuca

しんしつ〔寢室〕 niʔasici, ʔasici, →kuca,

しんじつ〔真実〕 sinʔiʔi, ziʔntoo, →ほん

しんしゅく〔伸縮〕 nubicizimi しゅ

しんじょうする〔進上する〕 →あげる

しんじる〔信じる〕 →しんこう

しんしん〔心神〕 saa, →せいしん

しんじん〔信心〕 guninʔi, ninʔi/ ~する ninʔijun, sinʔijun

しんせき〔親戚〕 hwici, kaʔpici, ʔweeka, →hwiciharoozi, magara, ʔweekaharoozi, (敬語) ʔunpaʔan, cicaʔunpaʔan, cicaʔweeka, cikamagara, cikaʔweeka, →えんこ, しんぞく, しんるい/ 速い~ tuumagara

しんせつ〔親切〕 cimʔiri, kukuruʔiri, sinʔiʔi, sjuzun

しんぞう〔新造〕 ʔarazukui

しんぞう〔心臓〕 hukumaami

じんぞう〔腎臓〕 maami

じんぞうびょう〔腎臓病〕 siisu

しんぞく〔親族〕 →しんせき/ ~会議 ʔicimunʔurii, munʔuuzurii

しんそこ〔心底〕 sinʔtii

しんだん〔診断〕 miʔiki, →みため

しんちゅう〔真鍮〕 cizaku/ ~のかんざし cizakuziihwa

しんちょう〔身長〕 →たけ, せい

しんちょうに〔慎重に〕 miʔiku

じんつうりき〔神通力〕 →れい

しんどう〔新道〕 miimici ʔししょうがつ

しんねん〔新年〕 ʔakimadusi, miidusi, →

しんの〔真の〕 sinna, sinnu, →ほんとう

しんぱい〔心配〕 cimuhwicagi, ninʔikee, siwa, →hwicagiʔurusi, きがかり, くらう, こころがかり/ ~がありそうである munuʔumiigisaʔn/ ~がなくなる ʔuhuminaaku najun, ʔuminaaku najun, →あんしん/ ~する hwicagijun, →siwa/ ~するさま ʔamazaahjaazaa, ʔamazarahjaazara/ ~する者 siwasjaa

しんぱいがお〔心配顔〕 munumigau

しんぱいごと〔心配事〕 siwagutu

しんぱりぼう〔心張り棒〕 sinbai

しんびん〔新品〕 miimun, saramiimun

じんびん〔人品〕 sina

しんぶ〔新編〕 miijumi ʔ→けいとるする

しんぶくさせる〔心服させる〕 marumijun,

じんぶん〔人糞(豚の飼料としての)〕 nagui, →だいべん

しんぼうする〔辛抱する〕 →がまんする

しんまい〔新米〕 →しんざん/ ~でたく飯 miimee

じんましん〔蕁麻疹〕 kazooremun, munzaai

しんみょう〔神妙〕 sinʔjuu, →しゅしょう

じんみん〔人民〕 →ばんにん

しんもつ〔進物〕 riizi, ʔukuimun, ʔusjagimun, →おくりもの

しんや〔深夜〕 tuciʔiri, →まよなか

しんゆう〔親友〕 ʔiidusi

しんよう〔信用〕 / ~がおける zinʔuusaʔn, →zinʔuu/ ~される→しんらい ʔarijuʔn

しんらい〔信頼〕 →しんよう/ ~される ʔii-

じんりきしゃ〔人力車〕 →kuruma

じんりきしゃふ〔人力車夫〕 kurumaa, kurumahwicaa

しんるい〔親類〕 →しんせき/ ~縁者 hwiciharoozi, ʔweekaharoozi

しんれい〔神霊〕 sizi, →かみ, れい

しんれき〔新曆〕 ʔjamatugujumi

しんろう〔心労〕 →くらう, しんぱい

しんろう〔新郎〕 miimuuku

す[酢] Yamazaki, hweei, sii
 す[巢] sii/ ~につく sukunUN/ ~を作る
 こと šiizukurii
 すい[酸い] šiisan/ ~もの šiimun
 ずい[髓] zii, →しん
 すいえい[水泳] ?wiizi, →およぐ
 すいか[西瓜] kwanTu?ui, šiikwa?ui/ ~
 の種 ?unZani
 ずいき[芋茎] muzi, taamuzi/ ~を入れた
 汁 muzinu?usiru
 すいぎん[水銀] mi?igani
 すいくち[吸い口] kwiikuci
 すいさん[推参] šiisan, →でしゃぼる, な
 すいじ[炊事] ?oosici [まいき
 すいしゃ[水車] mi?iguruma
 すいじゃくする[衰弱する] 'jabirijun,
 'jahwaracUN, joojun, →よわる/ ~し
 たる者 'jabiraa, 'jabirimun
 すいじん[粹人] sjuzoonin
 すいせい[慧星] hoocibusi, ?iriganbusi
 すいぜんじな[水前寺菜] handama
 すいだす[吸出す] kwiinuzun/ 吸出しご
 うやく ?ipuigoojaku/ 吸出し療法 buu-
 buunuzi/ 吸出し療法に使う竹筒 buubuu
 すいちゅう[水中] mizinumii
 すいとう[水筒] →dacibin
 すいとう[水痘] mi?igasa, mi?igasaa
 すいのう[水囊] (篩の一種) šiinoo
 すいび[衰微] šiibi, →おとろえる
 すいふ[水夫] hunaku, kaku, →せんいん
 すいみつとう[水蜜桃] →kiimumu
 すいみんぶそく[睡眠不足] ninzibusuku
 すいもの[吸物] šiimun, →しる
 すいものわん[吸物椀] šiimunwan, siru-
 wan

すいよくする[水浴する] ?amijun, →みず
 すう[数] suu, →かず [あび
 すう[吸う] ?ipujun, suujun
 ずうずうしい[図々しい] namasan, →あ
 つかましい/ ~顔 nama?ira, zira/ ~者
 namaraa. namarimUN. nama?iraa.
 nama?irimun/ ずうずうしくなる nama-
 スーブ niinuzi, sinzi [rijun
 すえ[末] ši
 すえっこ[末っ子] ?uqtungwa
 すえる[据える] 'isijun, ?ikijun
 すえる[籠える] nitamajun, šiijun/ 籠
 えた味 šiiki/ 籠えたにおい humieika-
 za, šiika?a/ 籠えたもの šiimun
 すがいと[紐糸] siraga/ ~で織った礼服
 siragawatazin
 すかす[驟す] ?ikasjun, →あやす, だます,
 なためる
 すがすがしい / ~におい ?idakaza
 すがた[姿] kaagi, narihuzi, ?igata, →
 kataci, (敬語) mikazi, 'ncaagi, かっこ
 り, ざま, ふりさい [kaci?iga?igai
 すがる[繕る] ?igajun/ すがりつくさま
 すき[好き] ?ici, →zoogu, zooguu/ ~で
 すき[鋤] →?uzunbiira [ないこと bu?ici
 すき[隙] →すきま
 すぎ[杉] ?izi
 すぎいた[杉板] ?izifita
 すきうつし[透き写し] ?usiigaci
 すきおこす[鋤き起こす] ?ici?ukusjun
 すききらい[好ききらい] ?icibu?ici, →mu-
 nugusi, muNnu?irihui
 すきぐし[梳櫛] kusi
 ずきずき hwisihwisi, →ずきん
 すきばら[空腹] →くうふく

すきま〔隙き間〕 ʔaaki, maɖu, tabasa, → ʔeeza, あきま
 すきみ〔透き見〕 suumi, →のぞく
 すぎる〔過ぎる〕 ʃirijun, ʃizijun, →ちよ
 うかする, とおりすぎる/ ~こと kwaa
 すぎわらがみ〔杉原紙〕 sugiwara
 ずきん hwiqsui, →ずきずき/ ~ずきん
 hwiqsuihwiqsui/ ~と痛む hwiqsuimi-
 ずきん〔頭巾〕 moocan, ʔiqcin [kasjun
 すぐ〔鋤く〕 ʃicun
 すぐ〔梳く〕 →くしけずる
 すぐ〔漉く〕 ʃicun
 すぐ〔好く〕 →このむ 「→たちまち
 すぐ caaki, ʃigu, tacinama, tadeema,
 ずく -zuku
 すくい〔救い〕 sukui, →たすけ
 すくう〔救う〕 sukujun, →たすける
 すくう〔搦う〕 sukujun 「san
 すくない〔少ない〕 ʔikirasan, →hagana-
 すくむ〔練む〕 sukunun
 すぐれる〔勝れる〕 kacun, sugurijun, ta-
 cimasajun, →えらい, ぬきんでる, ま
 さる/ すぐれた子 suguringwa/ すぐれ
 た人 sugurincu/ すぐれた者 suguraa,
 sugurimun
 ずけずけ 'nzanzaatu
 すけべい〔助平〕 ʔiraa
 すける〔透ける〕 tuukijun 「ごい
 すげる ʃigijun 「た, ひじょうに, ものす
 すごい hagoorii, ʔusumasjan, →たいし
 すこし〔少し〕 ʔihwi, ʔikira, ʔinteen,
 kuuteen, suqtu, suusuu, →saa けい
 しょう, ちよっと/ ~ずつ kuuteenna/
 ~のもの ʔikiramun/ ~も musaqtu,
 /もう~の所で→すんでのことで muqtu
 すごす〔過ごす〕 ʃigusjun, →ちよるかする
 すごもる〔菓籠もる〕 sukunun/ 菓ごもっ
 すきる ʃizicun→のく [た鳥 sukundui
 すじ〔筋〕 ʃiru, kazi, ʃizi/ ~がつかること
 garaʃimagai

すじょう〔素姓〕 suzoo, →うまれ
 ずじょう〔頭上〕 ʃizi
 すす〔煤〕 ʃiisi [bin
 すず〔錫〕 sirukani, ʃizi/ ~のびん ʃizi-
 すすき〔薄〕 gusici, ʃiʃici/ ~の花 baran
 すすぐ〔濯ぐ・漱ぐ〕 ʃiʃizun, 'uuzun
 すずし〔生絹〕 namasiraga
 すずしい〔涼しい〕 ʃidasan, →hwizuru-
 san/ ~風 ʃidakazi/ ~こと duhwizui/
 涼しそうである ʃidagisan
 すすむ〔進む〕 ʃiʃinun, →ʔaʃcun/ 進ん
 である ʃiʃinun/ 進んでする者 ʔuguci-
 mucu
 すずむ〔涼む〕 ʃidanun, sugarijun
 すずめ〔雀〕 'jumudui, kuraa
 すすめる〔勤める〕 ʃiʃimijun
 すずり〔硯〕 ʃiziri
 すずりばこ〔硯箱〕 ʃiziribaku
 すずりぶた〔硯蓋〕 ʃiziributa
 すする〔吸る〕 ʃiʃijun
 すそ〔裾〕 meesuba, susu
 ずたずた ciritaikaatai, 'jarikwan'kwan,
 →きれぎれ/ ~に切ること ʔusiciriziri
 すだれ〔簾〕 ʃidai
 すたれもの〔廃れ物〕 →はいぶつ
 すたれる〔廃れる〕 ʃitarijun
 ずつ -naa
 ずつつ〔頭痛〕 ʃiburuja, →へんずつう/
 ~の軽いもの namaʃiburuja/ ~の種
 ʔanmasimun 「→のこらず
 すっかり marumaruu, nuun'kwiin,
 すっきり →tukuqtu/ ~する →tuukijun
 ずっと duqtu, duutu, katakuzira, na-
 gaduusi, nagiduusi
 すっとばす〔すつ飛ばす〕 ʔuqtunugasjun,
 ʔuqtubasjun
 すつとぶ〔すつ飛ばす〕 tunuzun, tunzun,
 ʔuqtubun, →hwintubi
 すっぱい ʃiisan/ ~もの ʃiimun
 すで〔素手〕 'nnadii, 'nnadiikaraii,

'Nnaduu, 'Nnaduukaraduu
 すてうり〔捨て売り〕 šitiʔui
 すておく〔捨ておく〕 ʔuqceerakasjun, ʔu-
 qteerakasjun, ʔuqteerakijun
 すてね〔捨て値〕 / ~の品 šitimun
 すてばち〔捨てばち〕 ʔaqpangaree
 すてる〔捨てる〕 šitijun, →tuisitijun,
 ʔuqcangijun, (小児語)buqtii, pee, な
 げすてる/ 捨てた滓 šitigara/ 捨てたも
 の šitimun/ 捨て散らかすこと šitihoo-
 rii/ 捨ててしまふ cannagijun
 すな〔砂〕 'juni, šina, ʔuru/ ~の 'juna-/
 ~を敷いた道 šinamici
 すなじ〔砂地〕 kaniku
 ずにあたる〔図に当る〕 →baci
 すね〔脛〕 šini, →むこうずね
 すねげ〔脛毛〕 šinigi
 すねもの〔すね者〕 hwinaa, hwinsjaa,
 →hwin
 すねる mudijun, →hwin
 すのもの〔酢の物〕 sunee, ʔusaci
 すばしこい gurusun, →みがるである/ ~
 者 gurumun, guruu
 すばやい gurusun, →すばしこい
 ずぶぬれ siqtaikaatai
 すべっこい nandurusan, →なめらか/ ~
 もの nandurumun, nanduruu/ 表面が
 ~こと ʔwaabišindii
 すべて maziri, →のこらず
 すべらす〔滑らす〕 šinākasjun
 すべりひゆ〔植物名〕 ninbutukii
 すべる〔滑る〕 šināijun/ 滑りやすい道
 nančurumici
 すまい〔住まい〕 šimee, →じゅうしよ
 すまう〔住まり〕 →すみつく/ むだなく ~
 šimeecijun
 すます〔済ます〕 šimasjun, ʔucinasjun,
 →しおわる 「と紙 simihudikabi
 すみ〔墨〕 šimi/ ~と紙 šimikabi/ ~と筆
 すみ〔罫〕 šimi, →かたすみ, すみずみ/ ~

をほじくるようなこと miimiikuuzii
 すみ〔炭〕 tan
 すみいと〔墨糸〕 šiminaa
 すみこみ〔住み込み〕 ʔiricirii
 すみずみ / ~まで miimiiteedee
 すみだから〔炭俵〕 tандаара
 すみづか〔墨柄〕 šimikwaasjaa
 すみつく〔住みつく〕 'jaazicun
 すみなわ〔墨繩〕 šiminaa
 すみばこ〔炭箱〕 tanbaku
 すみばさみ〔墨ばさみ〕 šimikwaasjaa
 すみび〔炭火〕 tanbii
 すみやき〔炭焼き〕 tanjaciaa 「る, おわる
 すむ〔済む〕 šinun, ʔucinajun, →しおわ
 すむ〔澄む〕 šinun/ 澄みきる šincirijun
 すむ〔住む〕 →すまう
 すもう〔相撲〕 šima/ ~の手の名 'jakusja,
 maci, magii, meegaki, nusi, tiinuzaa
 すもり〔巢守〕 šimuru
 すやき〔素焼き〕 ʔarajaci, →やきもの/ ~
 のどんぶり ʔarajacimakai/ ~のやかん
 ʔarajacijaqkwan
 すら〔助詞〕 -coon, -denši
 ずらす šiiikijun 「guitaqcoon
 すらり →すんなり/ ~としている →su-
 ずりうごく〔ずり動く〕 šiicun, →ずれる
 すりきず〔すり傷〕 širikizi
 すりけす〔すり消す〕 kunsjun, širicaa-
 すりこぎ širukuzi [sjuN, →もみけす
 すりつける →なすりつける
 すりぬける〔すり抜ける〕 širinugaaajun,
 hwinnugijun/ すり抜けさせる hwinnu-
 すりばち širihaci, širuhaci [gasjun
 すりむく širihazun
 する〔為る〕 nasjun, sjun, (敬語) mi-
 šeen, →おこなう, やる/ …してしまふ
 →cii, kee-/ …してしまつた →neen/ …し
 てばかりいる(…して暮らす) →ʔaqcun,
 caa/ しなideおく 'joosjoocon/ しやが
 れ -mi-sirei/ しやすい šiijaqsan/ …~機

会を失う -hazakijun, -hazikijun, →し
 そのなり/ ~ふりだけ →sjunsooroo
 する〔磨る〕 šijun, →こする
 ずるい →こうかつ
 するする soorusooru, soorusooruu
 するどい〔鋭い〕 →tacun/ ~刃物 hwizurumun
 するめ kariŋica
 するめいか tubiŋicaa
 ずれる ?wiicuN, →ずりうごく

すわりしごと〔座り仕事〕 'iisikuci, 'iiwaza
 すわる〔座る〕 'ijun, →hwisjamaNci, せ
 いざ/ すわりこむこと sicitaku/ 無為に
 すわっていること 'Nnaii/ ~場所→せき
 すん〔寸〕 šin
 ずんぐり / ~した者 niimaaraa
 すんでのことで huda, hudagasi, huda-
 ganasi, →もう
 すんなり →すなり/ ~している 'jujuzurasaN

せ

せ〔背〕 →せなか/ ~を向ける →kusi
 せ(せい)〔背〕 huúu, šiihuúu, →sii/ ~
 の高い者 tacaai, takahazii, takasoo,
 takasoonaa, takasoonii/ ~の高さ ta-
 ki/ ~の低い者 ?incoo
 せい〔姓〕 'jaanna, mjoozi, noozi, sii
 せい〔精〕 →まもの 「すること kusjati
 せい〔所為〕 'jui/ ~にする ?uusijun/~に
 ぜい〔税〕 →kanee, zoonoo
 せいいく〔成育〕 →せいちょう
 せいいっぱい〔精一杯〕 siiŋiŋopee, →いっし
 せいえん〔製塩〕 →しおたき しょうけんめい
 せいかつ〔生活〕 kurasi, tacizuku, →く
 らす, せいかつ/ ~難→ tacikantii/~に
 余裕ができること →timawasi/~の方法
 →くらしかた
 せいき〔生氣〕 →げんき/ ~のない顔 nita-
 maizira
 せいぎ〔正義〕 zii
 せいけい〔生計〕 kurasigata, →くらしむき
 せいけつ〔清潔〕 cirii, ciriiN, →きれい
 せいけん〔聖賢〕 šiicin
 せいけん〔生絹〕 namasiraga
 せいこう〔成功〕 dikasi/ ~する áikasjun
 せいこん〔精魂〕 sjootamasi

せいざ〔正座〕 hwisjamaNci
 せいし〔生死〕 ?icisini
 せいじ〔政治〕 siizi/ ~の行ない方 siizi-
 mucu
 せいしきの〔正式の〕 siNna, siNnu
 せいしつ〔性質〕 šiisiŋi, simuci, sjooibun,
 sjoosiŋi, suzoo, →しょう
 せいじゃ〔正邪〕 ziŋpi, →ぜひ, よしあし
 せいしゅん〔青春〕 hanazakai
 せいしょ〔清書〕 ?agizi
 せいじょう〔正常〕 zun, →あたりまえ
 せいしん〔精神〕 sin, sjootamasi, tama-
 si, →しんしん, たましい/ ~異常 →sin/
 ~的な援助 cimunukasii
 せいしんりょく〔精神力〕 niNrici
 せいすい〔盛衰〕 sakai?uturui, →?utisi-
 zimi
 せいぜい takitutuumi, teetutuumi
 ぜいぜい gusugusu
 せいせいする →cimu, さっぱり
 せいそう〔正装〕 →coohacimaci, coo?i-
 sjoo
 せいそう〔盛装〕 curasugai, (敬語) cura-
 ?wiisugai
 せいたい〔声帯〕 nuuáiziru

せいだい〔盛大〕 taqtiin/ ～なこと ?u-
 hwiikutu
 せいたく hankwa/ ～にする kwabiijun
 せいだす〔精出す〕 ?agacun, cibajun, ci-
 gakijun/ ～こと ?agacihataraci, sju-
 qsii
 せいちょう〔成長・生長〕 cuui, ?wiitaci,
 ?wiqtaci/ ～させる ?waasjun/ ～する
 ?agacun, ?wiijun, ?wiitacun, →そだ
 つ/ ～する子供 ?wiitaciwarabi, →'juu-
 ?akiwarabi/ ～するに従ってよくなる
 ?wii?nzijun/ ～するに従ってよくなる
 こと ?wiimasai/ ～するに従って悪くな
 る ?wiijan dijun/ ～するに従って悪くな
 ること ?wiijandi
 せてん〔盛典〕 ?uhwiikutu, →taqtiin
 せいと〔生徒〕 gaksujoo, siitu, ?imina-
 rajaa
 せいとう〔製糖〕 saataazukui/ ～の仕事
 saataasikuci
 せいどう〔青銅〕 karakani
 せいとん〔整頓〕 sizumikaci/ ～する si-
 zumijun, →かたづける
 せいなん〔西南〕 santunii
 せいにく〔精肉〕 ?aqtami
 せいねん〔生年〕 ?Nmaridusi, sjoonin,
 (敬語) gusjooonin
 せいねん〔青年〕 niisee, →'wakawikiga,
 わかもの
 せいびょう〔聖廟〕 siibjuu, eiisinbjuu
 せいふ〔政府〕 →hjoozoozu, ?uza, (敬語)
 guhjoozoozu
 せいほう〔製法〕 →つくりかた
 せいまい〔精米〕 siragigumi/ ～する sira-
 せいめい〔清明〕 siimii [gijun
 せいめいさい〔清明祭〕 ?usiimii
 せいもん〔正門〕 ?uhu?uzoo
 せいやう〔西洋〕 ?uranda
 せいやうご〔西洋語〕 ?urandaguci
 せいやうじん〔西洋人〕 ?urandaa

せいやうてぬぐい〔西洋手ぬぐい〕 ?uran-
 datiisaazi
 せいり〔整理〕 sizumikaci, →かたづける
 せいりつする〔成立する〕 tuzimajun/ 成
 立させる tuzimijun
 せいりよく〔精力〕 sii
 せいりよくけん〔勢力圏〕 kagee
 せいろう〔蒸籠〕 kusicii [sa
 せいろんべんけいそう(植物名) soosicigu-
 せおう〔背負う〕 kwiizikijun, →おう/ ～
 こと ?uhwa, ?uuhwa
 せおよぎ〔背泳ぎ〕 maahwanacaa?wiizi,
 せかい〔世界〕 sikee [ninzaa?wiizi
 せがき〔施餓鬼〕 sigaci
 せがむ →たのむ, ほしがる/ ～こと nee-
 mai, sicimin「の声 konkon, ?oho?oho
 せき〔咳〕 saqkwii, →?ucineezaqkwii/～
 せき〔席〕 zaa, →せき
 せきこむ〔咳き込む〕 ?icicincun, ?icicun
 せきたてる ?agimaasjun
 せきはん〔赤飯〕 ?akakoozi?ubun, ?aka-
 maamii?ubun, ?aka?ubun, →おこわ
 せきめん〔赤面〕 ?akaziraa
 せきゆ〔石油〕 siciju, sicitanjuu
 せきり〔赤痢〕 ribjoo
 せきれい〔鶴鶴〕 zuumiitamiitaa
 せけん〔世間〕 sikin, →よのなか/ ～との
 つきあい sikinbiree/ ～なみ sikinna-
 mi, →sikin/ ～に通じること sikin'nari/
 ～の人びと sikin?umaneu
 せけんばなし〔世間話〕 sikinbanasi
 せしめる seekijun [rusan
 せすじ〔背筋〕 / ～が寒くなる kusihwizu-
 せたい〔世帯〕 →しょたい
 せだい〔世代〕 →だい
 せたけ〔背丈〕 →せ(せい)
 せつ〔節〕 sigi
 せっかい〔石灰〕 ?isibee, sirahwee
 せっかいする〔切開する〕 'wajun
 せっかち ?asigacaa, kwacuu, →たんき

せっかん〔折檻〕 siqkaN
 せっきょう〔絶叫〕 kaziciriʔabii
 せっきょく〔積極〕 / ～性 ʔuguci/ ～性と
 分別 ʔuguciziNbuN/ ～的な人 ʔuguci-
 せっく〔節供〕 siqku [muci
 せっこうせん〔接貢船〕 ceqkuNsIn
 せった〔雪駄〕 kaasaba, siqta, →ぞうり
 せったい〔接待〕〔敬語〕 ʔutuimuci/ ～す
 る tuimucun
 せっとくする〔説得する〕 ʔiiʔirijun
 せっぱん〔折半〕 haNbuNwaakii
 せつび〔設備〕 sunawai, →もうける
 せっぷく〔切腹〕 siqpuku
 せっぺき〔絶壁〕 hucibanta, →がけ
 せつやく〔節約〕 ʔagane, →けんやく/ ～
 する ʔaganeejun, kubameesjun
 せつわ〔説話〕 ʔihwanasi, →むかしばなし
 せともの〔瀬戸物〕 narimun, zoojaci, →
 やきもの/ ～市 ʔibujamaci/ ～類 nari-
 muNdoogu
 せなか〔背中〕 kusi, kusinagani, nagani,
 →せ/ ～の肉 →ʔucinaganii
 ぜに〔銭〕 zin, (小児語) ziinuu, →かね/
 ～の雨 zinʔami/ ～を捨てるようなこと
 zinʔitigutu 「にぶくろ
 ぜにいれ〔銭入れ〕 zinʔiri, →ぜにばこ, ぜ
 ぜにきちがい〔銭気違い〕 zinZaku, →しゅ
 ぜにさし〔銭差し〕 zinnaa [せんど
 ぜにたむし〔銭田虫〕 gucahwa
 ぜになわ〔銭縄〕 zinnaa
 ぜにばこ〔銭箱〕 zinbaku
 ぜにぶくろ〔銭袋〕 zinbukuru, →ぜにいれ
 せぬい〔背縫い〕 ʔNnazi
 せのび〔背伸び〕 hwisjadakaa
 ぜひ〔是非〕 ziihuzi, zihwi, ziQpi, →かな
 らず, しいて, ぜんあく, たって/ ～ない
 もの zihwineemun
 せぼね〔背骨〕 kusibuni, naganibuni
 せまい〔狭い〕 ʔibasan, sibasan, →'waa/
 ～所 ʔibadukuru, ʔibai, ʔibaidukuru

せまくるしい〔狭苦しい〕 ʔibasan, →せま
 い/ ～さま ʔibajaasicee
 せみ〔蟬〕 / 鳴かない ～ʔiigaa/ 鳴く～ ʔa-
 bijaa/ ～の一種 ʔasasaa, naabikacika-
 cii, sansanaa, siimiigwaa, ziiwaziiwa,
 せむし〔僵僕〕 kooguu [ziizaa
 せめあい〔攻め合い〕 simiee
 せめころす〔攻め殺す〕 simikurusjun
 せめよせる〔攻め寄せる〕 simijusjun
 せめる〔攻める〕 simijun/ せめおとす→か
 んらくさせる
 せめる〔責める〕 simijun, →sinda, とが
 める/ せめとがめること nucihwici
 せる →させる
 せわ〔世話〕 miikaNgee, mucinasi, sinzi-
 gi, →しゅうせん/ ～がやけない →hwiq-
 tin neen/ ～する kaNgeejun, miikaN-
 geejun, 'wanadajun/ ～になる →'wan-
 dajun
 せわしい cimuʔicunasan, →忙しい
 せん〔千〕 sin
 せん〔線〕 ʔizi, →すじ
 せん〔栓〕 hwiʔi, zoo
 せん〔詮〕 sin, →かい
 ぜん〔膳〕 ʔuzin, zin/ ～に飯と汁とを逆
 に置くこと hwizaigun/ ～の一種 'jasi-
 kuzin, 'jasjukuzin/ 丸い～maruʔuzin
 ぜんあく〔善悪〕 zihwi, ziQpi, →ぜひ, よ
 せんい〔繊維〕 kazi [しあし
 せんいん〔船員〕 hunanui, ʔumiʔaqcaa,
 →hunatoo, すいふ
 ぜんいん〔全員〕 suujoo, →みんな
 ぜんかい〔全快〕 hwijuu, kweeci, muru-
 nooi, →かいふく/ ～祝い kweeciʔu-
 wee, kweeciʔujuwee/ ～する niicirijun,
 せんがん〔千貫〕〔銭〕 singwan [→なおる
 せんぎょう〔賤業〕 'janawaza
 ぜんきん〔前金〕 meezin, →まえばらい
 せんく〔先駆〕 sacibai, →せんどろ
 せんくち〔先口〕 saciguci

せん

せんげつ〔先月〕 kutaçici
 ぜんげつ〔前月〕 meenuçici
 せんご〔前後〕 ?atusaci, →sirikuci, sirukuci/ ~左右 siraakusjaa, sirukuci-maakuci
 せんこう〔線香〕 koo, ?ukoo, (敬語) mjuukoo, njuukoo, →njuukuşizi, nuukoo-şizi/ ~の一種 hutuci?ukoo, ?umuçiri-?ukoo/ ~をあげる炉 ?ukooru
 せんこう〔先行〕 saciđaci, →さきがけ/ ~する sadajuN
 せんこつ〔洗骨〕 siNkuçi
 せんさい〔先妻〕 hurutuzi, sacidumi, sa-
 ぜんさい〔前妻〕 →せんさい [cituzi
 せんさくする〔詮索する〕 ?anagujun/ 詮
 索し過ぎる ?anaguizuusan
 せんじかす〔煎じ滓〕 siNzikaşi
 せんじぐすり〔煎じ薬〕 siNjaku, siNzigu-
 sui, siziigusui, sizirigusui
 せんしじだい〔先史時代〕 kamigudee, ?u-
 hunkasi
 せんじじる〔煎じ汁〕 siNziziru, siNzi
 せんじつ〔先日〕 →このあいだ
 ぜんじつ〔前日〕 meehwi
 せんしゅ〔選手〕 ?irabiniNzu
 せんじゅかんのん〔千手観音〕 siNtikwan-
 nun
 せんじる〔煎じる〕 siNzijun, sizijun/ 煎
 じたもの siNzimuN/ 煎じつめる sizii-
 hwirasjun
 せんしん〔専心〕 →cukata, ぼつとうする
 せんす〔扇子〕 →おうぎ
 せんすい〔潜水〕 šiimi
 ぜんせ〔前世〕 sacinujuu
 せんせい〔先生〕 sisjoo, (敬語) ?usisjoo
 ぜんぜん〔全然〕 →まったく
 ぜんぜんじつ〔前前日〕 'uqtii, →おととい
 せんぞ〔先祖〕 gwan'su, muutu, siNzu,
 ?ujahuzi, ?ujahwaahuzi, →tacikuci,
 ?utacikuci/ ~の霊 →hutuki

せんそう〔戦争〕 ?ikusa, →かっせん, せん
 らん, たたかい/ ~ごっこ ?ikusagwaasee
 ぜんそう〔前奏〕 →?utamuci
 ぜんそく〔喘息〕 hwimici/ ~やみ hwimi-
 caa
 ぜんたい〔全体〕 maziri, →ぜんぶ
 せんたく〔洗濯〕 ?areesikuci, sintaku/ ~
 した着物 ?areezin/ ~する ?arajuN/
 ~する時の替えの着物 ?araigee, ?aree-
 geei/ ~物 ?areemun
 せんたん〔先端〕 hana, →さき
 せんたん〔尖端〕 tugai, →さき
 ぜんち〔全治〕 →ぜんかい
 せんちやくじゅん〔先着順〕 sacisiđee
 せんちょう〔船長〕 siNđuu
 ぜんちょう〔前兆〕 ?arabi, sirasi, sirusi,
 →きざし/ ~となる音 munu?utu
 せんて〔先手〕 sacidii/ ~を打つ →sacidii
 せんどう〔船頭〕 →siNduu
 せんどう〔先導〕 saciđaci, →さきばらい
 せんにん〔仙人〕 siNnin, →siNniNtanm-
 ee
 ぜんにん〔善人〕 'iiqcu
 せんねん〔先年〕 sacidusi
 せんねん〔専念〕 →cukata
 せんばいたち〔先輩たち〕 šiizakata
 せんばつ〔洗髪〕 →?uşimasi
 せんぶ〔先夫〕 saciutu
 ぜんぶ〔全部〕 mantakii, maqtakii, mu-
 ru, →いっさい, ぜんたい, のこらず
 せんぶう〔旋風〕 kazimaci, →たつまき
 せんべい〔煎餅〕 siNbi
 せんべつ〔餞別〕 siNbiçi
 せんぼうばらい〔先方払い〕 mukoobaree
 せんめん〔洗面〕 / ~用のたらい cuuzida-
 ree
 ぜんめん〔前面〕 meezira
 せんらん〔戦乱〕 / ~の世 ?ikusajuu
 ぜんれい〔前例〕 tamisi

そ

ぞ(助詞) doo, -du, →-duN, -sami, sarami
 そいつ ?unihjaa, ?unuhjaa
 そう[総] suu-
 そう[艘] -suu
 そう ?aN/ ~いうこと ?antikutu/ ~か
 →?Nzi/ ~さ→?asi, ?asihjaa, ?asiQsa/
 ~したら→?ansjun/ ~して ?ansi/ ~
 ~する ?ansjun/ ~であっても ?anara-
 wan, ?anerawan
 -そう -gata, -gataa/ ~だ -gisan
 そう[沿う] suujun
 そう[添う] sujun
 そうあい[相愛] ?eenuzumi
 そうい[相違] sooi, →さい
 そうい[総意] suukaNgee
 そうおう[相応] soouu, →ふさわしい/ ~
 ぞうか[造花] ?ukuibana [の nootaru
 そうがく[総額] suudaka, →ごうけい
 そうかつ[総括] suukukui
 ぞうきん[雑巾] susui/ ~がけ susuikaci
 そうけ[宗家] →ほんけ 「てん
 そうけい[早計] hajamaigutu, →はやがっ
 そうけだつ[総毛立つ] tuihukugidaen,
 →ぞっとする 「い
 そうけっさん[総決算] suuzimi, →ごうけ
 そうけん[壮健] ganzuu, (敬語) ?ugan-
 zuu, →げんき, たっしや
 そうこ[倉庫] →tundoojaa, くら/ ~の名
 ?umunuguşiku
 そうこう[霜降] simuku?aru
 そうこう[綜絢] hjaa, hjaa?aki
 そうこん[早婚] hweeniibici, hweeriQsin
 ぞうさく[造作] zoosaku
 そうざん[早産] ?icibusuku
 そうじ[掃除] hoocikaci, soozii/ ~する→
 hooci/ ~の見回り soozimaai

そうしき[葬式] dabi, soosici, →ほうじ/
 ~に用いる幕の名 micimaku/ ~の時の
 世話役 kanzin/ 盛大なお~ cura?udabi
 そうじめ[総締め] suuzimi 「もうしあげる
 そうじょうする[奏上する] →ごんじょう,
 そうしょく[装飾] ?ukuikazai, →かざり
 ぞうすい[雑炊] ?ahwarazuşii, zuuşii,
 →おじや 「-Nnaara
 そうそう[早早] katakuzira, soosoo, →
 そうそう[葬送] ?uukui 「とつぎ
 そうぞくにん[相続人] soozukunin, →あ
 そうそふ[曾祖父] ?uhutanmee, ?uhu?u-
 sjumee/ ~の兄(~の姉の夫) ?uhu?uhu-
 ?usjumee
 そうそほ[曾祖母] ?uhubaamee, ?uhu?N-
 mee/ ~の兄の妻(~の姉) ?uhu?uhu?N-
 そうそん[曾孫] →ひまご [mee
 そうだおれ[総倒れ] suudoori
 そうだか[総高] suudaka, →ごうけい
 そうだん[相談] dangoo, munusoodan,
 soodan, zinmi, →きょうぎ, したそらだ
 ん/ ~する ?ii?aaşjun
 そうち[装置] sikaki 「jun
 ぞうちくする[増築する] ?ukuilhvirumi-
 ぞうちょう[増長] boo?agai, mee?agai,
 meegai/ ~する ?ameeşjun, ?icagajun,
 mee?agajun, meegajun, →おごる, た
 かぶる, つけあがる
 そうとう[相当] ?jukai, sootoo, -bicee, →
 -gaai/ ~する hwicajun, →あたる/ ~
 の ?jukai/ ~の量 ?jukai?uqsa
 そうどう[騒動] sooioo, →おおさわぎ, さ
 ぞうとう[贈答] tuikee [わぎ
 そうどういん[総動員] suu?wiici
 そうねん[壮年] ?jakumii/ ~の者たち

'jakumiitaa, šiizakata
 そうば〔相場〕 sooba
 ぞうひびょう〔象皮病〕 ʔuhubisjaa, →フィ
 ぞうふ〔賤腑〕 →ぞうもつ 〔ラリヤ
 そうほう〔双方〕 soohoo, →りょうほう
 そうほんけ〔繪本家〕 ʔuhumuutu
 そうむ〔総務〕 suugamii, suukangee
 そうめい〔聡明〕 mimigani, suumii/ ~で
 ある sjooraasjan, →かしこい
 そうめん soomin/ ~の油いため soomi-
 npuqturuu/ ~の一種 musubizoomin
 ぞうもつ〔賤物〕 'watamiimun, zoohu,
 →ないぞう, はらわた
 ぞうり〔草履〕 saba, (敬語) mjuuzaree,
 nuuzaree, ʔuzaree, →せった/ ~のはき
 ぐずして伸びたもの nazinatasaba
 ぞうりとり〔草履取り〕 sabatui, ʔuzaree-
 そうりょ〔僧侶〕 →cooroo, おしょう 〔tui
 そえもの〔添え物〕 ʔwaaʔuci
 そえる〔添える〕 šiijun, ʔwiiʔucun
 そえん〔疎遠〕 →ぶさた/ ~にする hwiida
 tijun/ ~になる hwiidatajun, →kidu
 そぐ〔削ぐ〕 hwizun, →こそげる
 ぞく〔俗〕 zuku
 そくい〔続飯〕 suqkwii
 そくざ〔即座〕 →すぐ
 ぞくよう〔俗語〕 haʔuta, hwaʔuta
 そげる〔削げる〕 'jubicun, sugijun
 そこ〔其処〕 ʔNma/ ~ここ ʔNmakuma
 そこ〔底〕 suku
 そこい〔底意〕 sicagukuru, →ないしん
 そこつ〔粗忽〕 sukuçi, ʔucoohoo/ ~であ
 る samacicasan/ ~者 cakucakuu, ca-
 qkujaa, sicasjoonugaa, sjoonugaa,
 ʔuhusjoo, ʔuhusjoomun, ʔukaqtuu,
 ʔuqkaa
 そこなう〔損う〕 →そんじる
 そこぬけ〔底抜け〕 / ~のざる çibihugi-
 baaki
 そこひ〔底翳〕 sukuhwi

そこびえ〔底冷え〕 →turihwizui
 そしつ〔素質〕 takibun, →うまれつき, ほ
 そして →ʔansjun 〔んしょう
 そしゃくする〔咀嚼する〕 →かむ
 そしょう〔訴訟〕 hwiruu, kuuzi, tuihwi-
 ruu, ʔuqtai
 そしる susijun, →けなす/ ~こと susiri,
 そせい〔租税〕 →ぜい 〔susjuu
 そせいひん〔粗製品〕 sjoobee
 そせき〔礎石〕 ʔisizi
 そせん〔祖先〕 →せんぞ
 そそぐ〔注ぐ〕 →つぐ
 そそかしい →そこつ
 そそのかす〔唆かす〕 tanukasjun
 そだち〔育ち〕 sudaci, suzoo, →せいちょ
 う, はついく/ ~の早い子供 'juuʔakiwa-
 rabi 〔ちょう
 そだつ〔育つ〕 cuujun, sudacun, →せい
 そだておや〔育て親〕 sudatiʔuja →やしな
 いおや
 そだてかた〔育てかた〕 suiatimici
 そだてる〔育てる〕 sudatijun, →あいいく,
 さいばい/ 育て上げる ʔwaasjun
 そちゃ〔粗茶〕 →ʔarabaacaa
 そっくり maŋtakii, maqtaci, maqtakii,
 →šiigi, うりふたつ, その, まるで
 そっち ʔNma/ ~の方 ʔNmamuti
 そっと suruitu, suruqtu
 そっとう〔卒倒〕 buciun/ ~する →ʔan-
 masjan, buciun
 そっとする burigiidaun, ʔnbiijun, →
 kusihwizurusan, そうけだつ/ ~こと
 burigiidaçi, titindii
 そっぱ〔反齒〕 haaʔucagee
 そっぽ〔そっぽ〕 →よそ/ ~を向くこと çii-
 そで〔袖〕 sudi 〔rabui
 そでがき〔袖垣〕 songaci, sungaci
 そてつ〔蘇鉄〕 sutiçi, suutiçi/ ~の芯
 suutiçiçibukui
 そでのした〔袖の下〕 sicadii
 そと〔外〕 huka/ ~を遊び回ること huka-

maaruu
 そとうみ〔外海〕 ?uutu, →たいかい
 そなえ〔備え〕 sunawai, →じゅんび
 そなわる〔備わる〕 sunawajun
 そねみ〔嫉み〕 →ねたみ
 その ?unu/ ~足で ?inuhwisja/ ~上 →
 さらに/ ~うちに →?ansjuN/ ~大きさ
 ?uhwi, ?uqpi, ?uqpinaa/ ~大きさの
 ?uqpeeru/ ~大きさのもの ?uqpeeruu/
 ~かた ?Nma/ ~くらい ?anceen, ?anteen,
 ?unusjaku, →それ/ ~ところ ?unukuru/
 ~高さ ?udaki/ ~近さ ?ugacikasa/
 ~遠さ ?ugatoo/ ~時 ?unutuci, ?unni/
 ~歳 ?unuca, ?unujuca/ ~長さ ?unagi/
 ~場(~場合) ?unubaa/ ~人 ?unuqcu/
 ~辺 ?nmarikaa, ?unuhwin, ?urikaa/
 ~まま ?unumama/ ~野郎 ?unihjaa,
 ?unuhjaa/ ~ような ?aneeru, ?aneru,
 ?anneeru, ?anneetaru, ?unugutooru,
 ?ungutooru, ?unna, ?unneeru, →?unujoo,
 そんな/ ~ようなもの ?unugutooruu/
 ~ように ?ungutu, →?unujoo
 そのひぐらし〔その日暮らし〕 / ~の者 mo-
 okitikanaa 「?usuba, →かたわら
 そば〔傍〕 hata, mutu, nii, suba, (敬語)
 そば〔蕎麦〕 suba
 そばえる →ふざける
 そばかす〔雀斑〕 hweenukusuu
 そばづかえ〔側仕え〕 →こまづかい
 そふ〔祖父〕 taNmee, ?usjume, 'wikiga-
 hwaahuzi, →?uhuzunZaNsii mee/ ~の
 兄(~の姉の夫) ?uhutaNmee, ?uhu?u-
 そふぼ〔祖父母〕 hwaahuzi [sjume
 そぶり〔素振り〕 naziki, -nazikii
 そぼ〔祖母〕 haamee, ?Nmee, 'winagu-
 hwaahuzi, →paapaa, おばあさん/ ~の
 兄の妻(~の姉) ?uhuhaamee, ?uhu?N-
 mee
 そぼう〔粗暴〕 ?araci, →あらっばい

そまつ〔粗末〕 / ~にするさま susoon, su-
 soonkaroon, →keerasikurubasi
 そまる〔染まる〕 sunun 「mucun
 そむく〔背く〕 muducun, mudujun, su-
 そめかえし〔染め返し〕 sumikeesii
 そめかえす〔染め返す〕 sumiikeesjuN, su-
 miikeesjuN 「め替え ?riunoosi
 そめかえる〔染め替える〕 sumiikeejun/ 染
 そめかた〔染め方〕 sumiikata
 そめなおし〔染め直し〕 ?irunoosi
 そめもの〔染め物〕 sumimun
 そめものや〔染め物屋〕 sumija, sumimun-
 jaa, →こうや, あいぞめ
 そめる〔染める〕 sumijun, →hweesjuN,
 tuqcijun
 そやつ →そいつ
 そよかせ〔そよ風〕 ?usukazi
 そよぐ →suzun
 そら〔空〕 sura, tin, →なかぞら
 そらす〔逸らす〕 'jukusjuN, sisikaasjuN
 そらだのみ〔空頼み〕 'nnatarugaki
 そらまめ〔蚕豆〕 toomaami
 そりかえる〔そり返る〕 suriikeejun
 そる〔剃る〕 sujun
 それ〔感動〕 too, toohjaa, tooqsa, ?une,
 ?uri, ?uriqsa/ ~それ tootoo, ?uri?uri/
 ~見ろ sitari
 それ ?uri/ ~から ?ansi, ?urikara, →
 ?ansjuN/ ~くらい(~だけ) ?uhwi, ?u-
 nusjaku, ?uqpi, ?uqsa, ?uridaki/ ~
 くらいの(~だけの) ?uqpeeru/ ~くらい
 のもの ?uqpeeruu/ ~だから →?ansju-
 N/ ~っぽかり(~っぽっち) ?anceen,
 ?anceengwaa, ?anteen, ?uhwigwaa,
 ?unuhuzanee, ?unusjakugwaa, ?uqpi-
 gwaa/ ~でも(~なのに, ~なら) →?an,
 ?ansjuN, saraba/ ~ほど ?ansi, ?ans-
 juka, nanzu, sahudu, ?uridaki/ ~ほ
 どまで ?ansjukawaaki
 それぞれ →おもいおもい, おのおの, かく

それ

じんかくより、ひとり、べつべつ、めいめい
 それら /~の者 ʔuqtaa
 それる[逸れる]/ ~こと 'jukubai
 そろい[揃い]/ ~の物 guutumiiitu
 そろう[揃う] nanuN, surijun/ 揃って
 suriti/ 揃っていること suriizurii
 そろえる[揃える] suraasjun
 そろぞろ ʔooruzooru
 そろばん[算盤] sunuban, suruban
 そろそろ saNsan, taqtuihwiqtui, tuq-
 soohaqsoo
 そんな[損] sun/ ~をする ʔujukijun, →
 kabujun, kanzun/ ~をすること sun-
 さんがい[損害] kiga, →けっせん [kabui
 そんなじる[損じる] sunzijun, sukunajun
 なんだい[尊大] →おうへい、もったいぶ

る/ ~にかまえること duutakabi
 そんなちよう[村長] →maziricoo
 そんなとく[損得] suntuku
 そんな ʔaneru, ʔanceru, ʔanneeru,
 ʔanneetaru, ʔunugutooru, ʔungutoo-
 ru, ʔunna, ʔunneeru/ ~こと →ʔan-
 sitakutu/ ~に ʔansi, ʔungutu/ ~に
 大きく ʔuqpinaa/ ~に高く ʔudaki/ ~
 にたくさん ʔusakii, ʔusakiinaa/ ~に
 近く ʔugacikasa/ ~に遠く ʔugatoo/
 ~に長い間 ʔunnagee/ ~に長く ʔuna-
 gi/ ~もの ʔunugutooruu
 そんなぶん[存分] ziibun, →おもいどおり
 そんなみんないかい[村民大会] murazurii
 そんなゆうぶつ[村有物] muragumuçi

た

た[田] taa, →taabuqkwa/ ~の草 taagusa/
 ~の準備 taagusiree/ ~を数える
 時の接尾辞 -masi/ ~を畑として使うこと
 taadoosi/ ~を畑にして作ったさつまいも
 だ 'jaN, →である, です [taadoosiʔNmu
 たい[鯛]/ ~の一種 'junabarumazikun,
 mazikun, siruʔiju, taman
 たい[胎] tee
 たい -busjan, →-na
 たい[代] dee/ ~を経た猫 deehwirima-
 jaa/ ~を経た者 deehwirimun
 たい[台] dee
 たい[題] dee
 だいいち[第一] deeʔici, →まず
 だいか[代価] dee, deeni, deeka, siru, →
 ねだん/ ~の高い物 deedakaa, deedaka-
 mun
 たいかい[大海] ʔuutu, ʔuhuʔumi, →ku-
 rusjuʔoosju, かいよう

たいがい[大概] →たいてい
 たいかく[体格] kara, karata, takihudu,
 →からだ 「ninʔu, ʔuhuzinee
 だいかぞく[大家族] ʔuhucinee, ʔuhujaa-
 たいかん[大官] teekwan
 だいかん[大寒] deekan
 たいきん[大金] marucizin, ʔuhuzin
 だいきんもつ[大禁物] deeciree
 だいく[大工] ʔeeeku, 'jaaʔeeeku, kiiʔee-
 ku/ ~道具 ʔeekudoogu/ ~の頭梁 de-
 eku/ へたな~ taabaʔeeeku 「ci
 たいくつ[退屈]/ ~がること ʔuhucikwii
 たいけつ[対決] →hwiiceegutu/ ~させる
 hwiicaasjun, hwiqcaasjun
 たいげんそうご[大言壮語] ʔuhumunuʔii
 →いいたいほうだい, おおげさ
 たいこ[太鼓] teeku, →paarankeu
 たいこく[大圃] teekuku
 だいこん[大根] deekuni, ʔuhuni, ʔuuni/
 ~おろし deekuniʔiriʔirii/ ~の根元 →

deekuniganSaa, gaNSaa/ ~の葉 ?u-
hunibaa 「see
だいこんざつ〔大澁雑〕 →?uuseekuruba-
たいざい〔滞在〕 ?juudu, teegee, →とうり
ゆり/ ~させる?judumijun
だいさんざい〔大散財〕 zin?ami
だいさんちく〔植物名〕 maataku
たいじ〔胎児〕 →たい
だいじ〔大事〕 →おおごと, たいせつ/ ~で
ある ?atarasjan/ ~がる →?atarasjan/
~なもの ?atarasimun, sjoomun/
~に思う →?usurijun/ ~に思う心 ?u-
uri/ ~にする →tan?kijun/ ~にすること
munu?atarasja
たいした〔大した〕 deenna, →すぐれる,
すごい, たいへん, たくさん, ひどい, も
のすごい/ ~ことはない →teegee
たいして〔大して〕 nanzu, →それ (それほ
たいしょ〔大暑〕 ?uu?agisa Lど)
たいしょう〔大將〕 teesjoo, →かしら
たいしょく〔大食〕 →おおぐい
だいず〔大豆〕 maami, toohumaami, ?u-
hugizaa/ ~を水にひたしひいて布でこし
た液 toohunuguu
だいずあぶら〔大豆油〕 sirasibui
たいせつ〔大切〕 teesici, →だいじ/ ~な →
たいせつ〔大雪〕 ?uujuuci Lkan?nuu
たいそう〔大層〕 dandan, ?iqpee, →たい
へん
だいたい〔大体〕 ?ara?ara, ?iikuru, tee-
gee, →おおかた, たいてい/ ~の考え su-
kangee 「Nkunibu/ ~いろ →かばいろ
だいだい〔橙〕 deeiee, deedeekunibu, ?i-
だいだい〔代代〕 deeiee
だいたんな〔大胆な〕/ ~者 ?izaa
だいちょう〔大腸〕 ?uhuwata
たいてい〔大抵〕 ?iikuru, teegee, teetii,
?uukata, →だいたい
たいど〔態度〕 sizama
たいとう〔対等〕 tan?kaanaa
だいてうじま〔大東島〕 ?uhu?agarizima

たいどく〔胎毒〕 teeduku
だいどころ〔台所〕 deezu, ?ikubuu, simu,
sukubuu, ?usimutuu/ ~仕事 ?oosici/
~女中 ?oosicaa/ ~の小屋 tungwa/ ~
の土間 ?ikubuu/ ~働き simubataraci
だいなし〔台無し〕/ ~にする ?wiikun?su-
たいはく〔太白〕 (白砂糖) teehwaku LN
たいばん〔胎盤〕 ?ija
たいひ〔堆肥〕 kazigwee
たいびょう〔大病〕 →じゅうびょう
だいぶ〔大分〕 ?juhuu, teebun, →かなり,
そうとう
たいふう〔台風〕 teehuu, ?uukazi
たいへいよう〔太平洋〕 →?agarinu?umi
たいへん〔大變〕 deezi, →おおいに, すぐれ
る, たいした, たくさん, ひどい/ ~な
deenna, kuuwee/ ~なこと ciweekutu,
cuweekutu, ?icikuuweekutu/ ~なもの
ciweemun, cuweemun
だいべん〔大便〕 kusu, ?ura, (小兒語) ?N-
na, →じんぷん/ ~をする →majun
たいほ〔退歩〕 ?atumudui
たいほう〔大砲〕 hja, ?isibjaa
だいほうえ〔大法会〕 ?ubu?izi, ?uhu?u-
sjuukoo, →ほうじ 「うぼく
たいぼく〔大木〕 teebuku, ?uhugii, →きょ
たいまつ〔松明〕 tee, tubusi/ ~の火 tee-
bii/ ~を振る者 →teehujaa
たいまん〔怠慢〕 →なまける
だいまょう〔大名〕 →?anzi, ?azi, deemjoo,
タイム mai L?udun
たいも〔田芋〕 →taa?Nmu, さとも/ ~の
ずいき muzi, taamuzi
たいやく〔大役〕 teejaku
たいよう〔太陽〕 →ひ
たいようれき〔太陽暦〕 ?jamatugujumi
たいら〔平〕 too, →ひらたい, べしゃん
ご/ ~である hwirasan/ ~なもの hwi-
raa/ ~に hwiraqteen/ ~にする hwi-
rakasjun, hwiramijun, toomijun/ ~
になる hwirakijun

だい

だいら〔代理〕 deeri, →かわり
たいりき〔大力〕 teecika, teezikara, →ち
たいわん〔台湾〕 taiwan 〔からもち
たいわんはげ〔台湾禿げ〕 taiwanboo, tai-
wanboozi
たえはてる〔絶え果てる〕 teehatijun
たえまなく〔絶え間なく〕 miisagee nee-
ran, →いつ, しじゅう
たえる〔絶える〕 teejun, →たえはてる
たえる〔耐える〕 nizijun, sinubun, →こ
らえる, こんき, しのぶ/ ~力 nizidee,
teecikara, teezikara/ 耐えかねること
niziiikantii/ 耐えられない sizeraran
たおしい〔倒し合い〕 kurubaşee, tooşee
たおす〔倒す〕 toosjun
タオル ?uranđatiisaazi
たおれる〔倒れる〕 toorijun/ 倒れたり転
んだり →toorikurubi/ 倒れようとするさ
ま toorirajaihwaa
たか〔高〕/ ~の知れたやつ takinamun
たか〔鷹〕 taka/ 金色の目の~ cinmii, ci-
nmiidaka/ ~が輪を作って飛ぶこと ta-
kanukurumaci/ ~の一種 ?azitaka, ka-
şizeemii
たが〔籬〕 ?ubi, →daki?ubi/ ~がゆるむ
sarandijun, sarundijun/ ~に用いる
だが →けれども 〔竹 ?ubidaki
たかい〔高い〕 takasan/ 値が~ niidaka-
san/ 値が~もの deedakaa, deedaka-
mun/ ~木 takagii/ ~ところ takaha-
na, →?agai/ ~山 takazan/ 高く上がる
こと taka?agai/ 高く売ること taka?ui/
高く買うこと takagooi/ 高く顔をあげて
いること taka?ucagi
たがい〔互〕 tagee, (敬語) ?utagee/ ~に
→tagee/ ~ににくい違うこと tageecigee/
~に敬語を語り話し方 ?inu?uuhuu, ta-
geeni?uuhuu/ ~に敬語を使わない話し方
tageeni?iihii
たがう〔違う〕 tagajun, →ちがう
たがえる〔違える〕 tagajun

たかさくらべ〔高さ比べ〕 takasaagaa
たかしお〔高潮〕 sigarinami
たかだか〔高高〕 →せいぜい
たかね〔高値〕 →sansooba, taka?uqcaki
たかばた〔高機〕 takahata
たかぶる〔高ぶる〕 takabijun, ?ugujun,
→おごる, ぞうちょう/ ~こと duutaka-
bi/ 高ぶっている ciidakasan/ 高ぶった
者 ciidakamun, →ごうまんもの
たかまど〔高窓〕 takabasiru
たかまる〔高まる〕 mucagajun
たがやす〔耕す〕 keesjun, kunasjun, ta-
geesjun, ?uci?ukusjun, ?ucun, →こ
たから〔宝〕 takara 〔うさく
だから →?an, ?ansjun
たからじま〔宝島〕(島の名) takarazima
たからがい〔寶貝〕 moomoogwaa
たかる macaasjun, takarijun, →あつま
たかわらい〔高笑い〕 takawaree 〔る
たき〔滝〕 taci
たきおとし〔焚落し〕 ?uciri
たきぎ〔薪〕 tacizi, tamun/ 割った~
'waizakaa/ ~の灰 karahwee/ まだ枯
れていない~ ?oodamun
たきぎうり〔薪ぎ売り〕 tamun?ujaa
たきぎとり〔薪ぎ取り〕 tacizitui, tamun-
tujaa 〔uşii, zuuşii
たきこみごはん〔炊き込み御飯〕 kuhwazu-
だきこむ〔抱き込む〕 dacikunun 〔ci
だきしめる〔抱きしめる〕/ ~こと manda-
たきつけ〔焚き付け〕 hwiiteeciikijaa, →?a
kasi, tubusi
たきつける〔焚き付ける〕 teeçikijun
たきょう〔他郷〕 tacoo, takuku/ ~で死ぬ
こと sjuukaawatai
たぎる〔滾る〕 tazijun, →わく
たく〔炊く〕 tacun
たく〔抱く〕 dacun/ 卵を~ ?usujun
たくさん〔沢山〕 maakuqsa, maakusa,
'nzadi, teebun, teedaka, ?uhooku,

ʔuhuʔuhuutu, ʔinbai, ʔunbai, →いっ
ぱい, うんと, かずかぎりない, ぎょうさ
ん/ ~ある mandoon/ ~の馬 buriʔN-
ma/ ~の兄弟姉妹 ʔuhucoodee/ ~の星
buribusi

たくせん〔託宣〕 eiziʔuri, miʔiziri

たくだく →soosoo

たくましい〔逞しい〕 / たくましくなる ʔa-
rijun/ たくましく太ること kurugweei

たくらむ takunun, →きょうぼう, わるだ
たぐる〔手探る〕 tagujun, →くる しくみ
たくわえる〔貯える〕 tabujun, takuwee-
jun, tamijun

たけ〔竹〕 daki/ ~の一種 deeku, deemjo-
o, ʔanbaraa, ʔanbaraadaki, ʔanba-
rudaki, karataki, kusanadaki, kwa-
nnunciku, maataku, ʔnzadaki, ʔnzata-
ki, →daki/ ~の囲い dakigakui/ ~の皮
dakinukaa/ ~の皮のぞりり dakinukaa-
saba/ ~のかんざし dakiziihwa/ ~の
釘 dakikuzi/ ~のたが dakiʔubi/ ~の
つぼ dakinçiiibu/ ~の幹の中空の部分
dakinuzii/ ~の床 dakijuka

たけ〔文〕 taki, →しんちょう, せい

たけ〔岳〕 taki, →やま

だけ →gana, -teen, ʔuqsa

たけい〔他系〕 tacii/ ~の者が相続するこ
と taciimazikui

たげい〔多芸〕 / ~の人 ziinumuci

たけうま〔竹馬〕 kiibisjaa

たけがき〔竹垣〕 dakigaci, dakigakui

たけづつ〔竹筒〕 dakinçiiibu

たけとんぼ〔竹とんぼ〕 hwaahwaa

たけな布 banzi

たけのこ〔苟〕 dakinuqkwa/ ~の干した
もの sjunsii

たけぶき〔竹葺き〕 dakibuei

たけぼうき〔竹箒〕 dakibooci

たこ〔蛸〕 taku 「jun

たこ〔肝臓〕 ʔiiʔwii/ ~ができる siiʔwii-

たこ〔爪〕 / ~の一種 buubuudaku, maq-
takuu, maqtaraa/ ~の調子をとるため

たご (桶の名)→おけ 上のひも ʔukuçii

たこく〔他国〕 takuku, →たきょう

たごん〔他言〕 tagun

たし〔足し〕 tasi, →たしまえ

だし dasi/ ~の入っていない汁 →sabi-
ziru/ ~の入っていない料理 →sabimun

だしいれ〔出し入れ〕 ʔnzasiʔiri

たしか〔確か〕 zinzuu/ ~な tasikasii, →
zinzuusan/ ~なこと →ʔiʔee

たしかめる〔確かめる〕 tasikamijun, →み
とどける

たしなみ tasinami, →こころがけ

だしぬけに →とつぜん

たしまえ〔足し前〕 tasimee, →たし

だじゃく〔惰弱〕 dazaku, →いくじなし

たしょう〔多少〕 ʔikirasaʔuhusa 「わえる

たす〔足す〕 tareejun, ʔusjaasjun, →く

だす〔出す〕 ʔnzasjun, neejun, →ʔee-
sjun 「ruu

たすうけつ〔多数決〕 ʔuhusanikataziki-

たすけ〔助け〕 taʔiki, (敬語) ʔutaʔiki, →
hwicaasi, hwicawasi, hwici, kasi, え
んじょ, かせい, すくい

たすけあげる〔助け上げる〕 hwicagijun

たすける〔助ける〕 taʔikijun, ʔujagijun
→すくう/ 助け合ひさま cuisiiizii/ 助け
てくれ →ʔakisamijoo

たずねる〔尋ねる〕 tannijun, tazinijun,
tazunijun, →kameejun, tumeejun,
とら, ほりもんする/ 尋ね求める ʔadati-
jun/ 尋ね尋ね tumeeidumeei

たせい〔他姓〕 →たけい

たそがれどき〔たそがれ時〕 ʔakookuroo

たそん〔他村〕 tasima 「ʔicandamun

ただ ʔicanda, mucin, tada/ ~のもの

たたかい〔戦い〕 →せんそう

たたかう〔戦う〕 ʔoojun, tatakajun, →
あらそう/ 戦わせる ʔaasjun

たた

たたきこむ〔叩き込む〕 tataciNeuN
 たたきつち〔叩き土〕 santoo
 たたく〔叩く〕 tatacuN, →うつ, ながる,
 ひっぱたく
 ただしい〔正しい〕 →ʔaciraka, maqtooba
 ただす〔正す・糾す〕 tadasjuN
 ただちに →すぐ
 ただばたらき〔ただ働き〕 ʔicandabuukuu
 たたみ〔畳〕 tatan
 たたみや〔畳屋〕 tatanjaa, tatanʒeeuku
 たたむ〔畳む〕 takubuN
 たたり〔崇り〕 ʔarabi, tatari 「ʒindi
 ただれ〔爛れ〕 tadari/ 表皮の ~ʔwaabi-
 ただれめ〔爛れ目〕 miihagi/ ~にかかった
 者 miihagaa, miihagii
 ただれる〔爛れる〕 sindijuN, tadarijuN,
 taqkwijuN, →hagijuN/ 表皮の ~こと
 ʔwaabiʒiNdi 「rakamazira
 だだをこねる →わがまま/ ~こと ʔnnazi-
 たち〔太刀〕 taci, →かたな
 たち〔達〕 -caa, -taa
 だち〔立ち〕 →daci
 たちあい〔立合い〕 taciee
 たちいふるまい〔起居振舞〕 duumucinaï,
 siisizama
 たちうお〔太刀魚〕 basikaa, basikaaʔiju
 たちがれ〔立枯れ〕 tacigari
 たちき〔立木〕 tacigi
 たちぎえ〔立消え〕 →hwiihwituu, ʒirikoo
 たちぎき〔立ち聞き〕 tacizici 「く
 たちさる〔立去る〕 nucuN, →さる, たちの
 たちしごと〔立ち仕事〕 tacisikuci, taci-
 waza
 たちどおし〔立ち通し〕 tacikunpai
 たちどころに〔立ちどころに〕→たちまち
 たちどまる〔立ち止まる〕 ʔjudunuN, ʔjusi-
 nuN/ 立ち止まらせる ʔjusimijuN
 たちなおる〔立ち直る〕 kunceejuN,
 kunkeekuN, kunnoojuN, →kuncees-
 juN, kunkeekuN, もちろんおす 「る

たちのく〔立ち退く〕 tacinucuN, →たちさ
 たちば〔立場〕 tacihwa 「→たちはばかる
 たちはだかる〔立ちほだかる〕 hatakajuN,
 たちばな〔橋〕 kuganii, kuganiikunibu,
 ʒiikwaasjaa 「juN, →たちはばかる
 たちはばかる〔立ちほだかる〕 tacihabaka-
 たちまさる〔立ち勝る〕 tacimasajuN, →ま
 さる 「に, すぐ
 たちまち cuucaN, tacinama, →きゅう
 たちむかう〔立ち向かう〕 taciNkajuN
 たちよる〔立ち寄る〕 nubagajuN, nusika-
 juN, →tuNmaajuN, tunmigujuN,
 tunnubagajuN/ ~こと (～さま) taca-
 gainubagai, →tacimaaimai, tunma-
 aimai, tunmiguikeemigui/ 立ち寄り
 ない →nubagaikaagi
 たちんぼう〔立ちん坊〕 ʔatuʔusii, boosi-
 たつ〔辰〕 taçi 「cinaa
 たつ〔立つ・建つ〕 tacuN, →ʔuqtacuN/
 ~こと (小児語) →たっち/ ~か倒れるか
 tacitoori/ 立ちかねること tacikantii/
 立ったりすわったり tuntacikeetaci/
 立って守りをする事 tacimui
 たつ〔裁つ〕 tasjuN
 たつ〔経つ〕 tacuN, →へる
 だっきゅう〔脱臼〕 ciicigeei/ ~する ciici-
 geejuN
 たっし〔達し〕 taqsi, →しらせ
 たっしゃ〔達者〕 taqsja, →じょうぶ, そら
 けん/ ~である ʔaqcuN/ ~でいらっしゃ
 る ʔwaacimiʒeen
 たつじん〔達人〕 busi
 たつする〔達する〕 ʒirugajuN, →ʔuuciru-
 gaajuN, →とどく/ 奥儀に~ ʔitarijuN
 たった →ただ
 たっち (小児語) taaca/ ~たっち
 taqcaNtaqcaN
 たって tandi, →ぜび
 たづな〔手綱〕 taNna
 たつのおとしご ʔumiʔNmagwaa

たっぶり →よゆう/ ~している 'jucisan/
 ~と ?uhu?uhuuutu
 たつまき〔龍巻〕 ruu, →せんぷう
 たて〔織〕 tati
 たて〔楯〕 tinbee
 たていと〔経糸〕 →kasi/ ~1本 →katazi-
 zi/ ~2本 →cuhwaa/ ~と緯糸 kasi-
 nuci/ ~の残り çinazuu, handi
 たてかえ〔立て替え〕 tasimee 「jun
 たてかえがりする〔立替え借りする〕 ?ira-
 たてかえる〔立て替える〕 tasimeejun/ 立
 替えて貸す ?iraasjun
 たてがみ〔簞〕 kanzi
 たてじま〔縦縞〕 kasi?aja
 たてつぼ〔建坪〕 tatiçibu
 たてづま〔立棲〕 ?asagi
 たてふだ〔立札〕 tatihuda
 たてよこ〔縦横〕 tatijuku
 たてる〔立てる・建てる〕 tatijun
 たでる tadijun
 たとえ tatui, →もし
 たとえば →tatujuN
 たとえばなし〔譬え話〕 tatuibanasi
 たとえる〔譬える〕 tatujuN
 たな〔棚〕 tana/ ~探しして食うこと sa-
 guingwee
 たなばた〔七夕〕 tanabata 「tanabaraa
 たなばる〔棚原〕(地名) tanabaru/ ~の者
 たなびく〔棚引く〕 tanabicun, →なびく
 たに〔谷〕 suku, tani, →saku
 たにし〔田螺〕 taanNa
 たにやま〔谷山〕(地名) tanjama
 たにん〔他人〕 qeu?anamun, taniN,
 →ひと/ ~の空似 kunicoodee 「ぜい
 たにんずう〔多人数〕 ?uhuninzu, →おお
 たぬきねいり〔狸寝入り〕 nintahuunaa
 たね〔種〕 muncani, sani
 たねあぶら〔種油〕 maa?anda
 たねおろし〔種下ろし〕 tani?urusi
 たねつけ〔種付け〕 / ~をする çikijun

たねぶた〔種豚〕 'uu?waa
 たねぶたぎょうしゃ〔種豚業者〕 'uu?waa-
 karajaa, ?waaçikijaa
 たねまき〔種蒔〕 tani?urusi
 たのしい〔楽しい〕 →うれしい, おもしろい/
 楽しさ ?isjoosja 「ごらく
 たのしみ〔楽しみ〕 sjuzoo, tanusimi, →
 たのしむ〔楽しむ〕 tanusinun, →?isjoo-
 sja, ?umusirusan, ?wiirikisan
 たのまれもの〔頼まれもの〕 ?ijaimun
 たのみ〔頼み〕 tanumi/ ~となるもの ku-
 sidee, kusjati/ ~にする tarugakijun/
 ~にすること kusigaki
 たのむ〔頼む〕 tanunun, tarunun
 たのもしい〔頼もしい〕 →cimu?wii/ ~者
 'Nsjamun
 たのもしこう〔頼母子講〕 muee
 たば〔束〕 çika, tabai, -karagi, -mazin
 だば〔駄馬〕 nii?uusaa
 たばこ〔煙草〕 tabaku, (小兒語) paakuu/
 ~の吸いがら tabakunuhwiikusu/ ~を
 切る庖丁 ciribaNboocaa/ ~を吸うさま
 pakupaku 「tabaku?irii
 たばこいれ〔煙草入れ〕 ciritami, huzoo,-
 たばこぼん〔煙草盆〕 tabakubun
 たばこや〔煙草屋〕 tabakumaciija
 たばね〔束ね〕 →たば
 たばねる〔束ねる〕 tabajun, →からげる/
 ~こと →tabaisikai
 たび〔旅〕 tabi, →りょこう/ ~から帰る人
 を迎えること sakankee/ ~先でできた妾
 tabidumi/ ~に出ている人のある 家ta-
 bisju/ ~の一団 tabiniNzu/ ~の人 ta-
 binuqeu/ ~の宿 tabijadu
 たび〔足袋〕 taabi
 たび〔度〕 kaazi, -kazi, →つど 「na
 たびうた〔旅歌〕 →kweena, ?umuigwee-
 たびしょうぞく〔旅装束〕 tabisugai
 たびだち〔旅立ち〕 tabidaci
 たびたび〔度度〕 kazikazi, taqta, →かさ

たび

ねがさね, くりかえし, しぼしば, など,
ひんぱんである
たびびと〔旅人〕 → ʔaɕcaa
タブー cireemUN
たぶたぶ bonbon
だぶだぶ ʔwabuwabu
たぶら -tanda
たぶん〔多分〕 ʔiikuru, tabUN, ʔuukata,
→ だいたい
たべのこし〔食べ残し〕 kaminukusi
たべもの〔食べ物〕 kweemUN, munu,
mun, → しょくりょう, りょうり/ ~の好
ききらい munugusi/ ~の不平 muNnu-
googuci, muNnuʔirihui, → niisanumaa-
sanu/ ~への欲 → しょくよく/ ~を欲し
がること munuhusja, munuʔimi/ 貧弱
な ~sabimUN
たべる〔食べる〕 kanUN, (敬語) miʂeen,
ʔusjagajUN, → くら, しょくじ/ お食べ
teewa/ 食べさせないで ʔNnakuci/ 食べ
そこなる kamihansjun/ 食べてはいけ
ないこと muNziree/ 食べにくい kami-
gurisjan
たぼう〔多忙〕 hanta, tabakai, → いそがし
だぼくしょう〔打撲傷〕 ʔucici しい
たま〔玉・球〕 tama, → boontaa, boo-
ntuu/ ~のかんむり tamancaabui/ ~や
こがね tamakugani/ ~やこがねのよう
な愛児 tamakuganinasigwa/ ~やこが
ねのような恋人 tamakuganiNzo, tama-
たま → まれ 〔kuganisatume
たまう〔賜う〕 taboojun, → たまわる
たまご〔卵〕 kuuga, tamagu, → けいらん/
~のから kuugaguru/ ~を抱かせるʔus-
aasjun/ ~を抱く ʔusujUN/ 産卵をさそ
うための ~ misikuuga
たまござげ〔卵酒〕 tamaguzaki
たまごやき〔卵焼き〕 kuugahuwahuwaa
たましい〔魂〕 ʔiniN, mabui, mabujaa,
tamasi, tamasii, → せいしん, れい/ ~

がぬける → mabui, きぜつ/ ~がぬける
病気 mabuiʔuti/ ~をこめるのに用い
る串 geen/ ~をこめること mabuigu-
mi/ ~を分ける行事 mabuiwakasi
だましようち〔騙し討ち〕 damasiʔuci, nuzi-
ʔuci
だます〔騙す〕 damasjun, nuzUN, ʂikas-
jun, → ごまかす, まどわす/ ~こと boo
たまたま katagata, → ぐらぜん
たまのお〔玉の緒〕 tamanuuu
たまり〔溜り〕 tamai
だまりこむ〔黙り込む〕 danzamajUN, ʔu-
qigunUN/ 黙りこんでいる口 ʔNmunu-
たまりみず〔溜り水〕 tamaimizi 〔kuci
たまる〔溜る〕 tamajUN
だまる〔黙る〕 damajUN, danzamajUN,
qigunUN, → だまりこむ/ 黙っておく ʔjo-
osjoocUN, ʔjoosjoojUN
たまわりもの〔賜わり物〕 ʔutabimiʂeemUN
たまわる〔賜わる〕 tabijUN, ʔutabimiʂe-
たむし〔田虫〕 → ぜにたむし leN, → たまう
ため〔為〕 tami/ ~にならぬこと hudami/
…する ~に → Ndi
ためいき〔溜め息〕 ʔuhuʔiici
ためし〔試す〕 → ところろみ
ためす tamisjun/ ~こと → ところろみ
ためらう ʔukeejUN, → もどろく/ ~こと
ʔumiijamii, ʔukeeiʔumii, ʔukeeihwi-
keei, → しりごみ/ ためらったものの言い
方 ʔukeeimunii
ためる〔溜める〕 → たくわえる/ 溜めておく
ためる〔矯める〕 tamijUN 〔tameejUN
だめをおす〔だめを押し〕 kazikakijUN
たもつ〔保つ〕 tamucUN/ ~こと tamuci
たもと〔袂〕 tamutu/ ~のある所で huku-
rusudi, tamutusudi
たやすい duujaqsan, → やさしい/ ~こ
と → tinuʔuci, ようい 「の duujaʂii
たやすく → やすやすと/ たやすくできるも
たより〔便り〕 ʔati, biN, sata, tajui, ʔutu,

Putusata, Putuziri, →おんしん, てがみ
 たより〔頼り〕 tajui, →たのみ
 たよりない〔頼りない〕 burasan, →ところ
 ぼそい
 たよる〔頼る〕 Yuqcakajun
 たらい〔盥〕 hanziri
 だらけ →kaa, -maa
 だらしない / ～者 daraa, daruu, nuba-
 cirimun, şikutajaa, →ぐうたら
 たらす〔垂らす〕 tarasjun
 たらたら taratara
 だらだら daraakwaraa, daradara, daru-
 ukwaruu, ziizii
 たりる〔足りる〕 tajun, tarijun, →taraa-
 jun, ふそく/ 足りない haganasan,
 Yurusan/ 足りなくなる buraarijun/ 足
 りないこと -buraari
 たる〔樽〕 taru
 だるい darusan/ だるそうにしている者
 daimun/ ～さま daimui
 たるき〔垂木〕 kici
 たるむ / たるんでいるさま 'jooruu
 だれ〔誰〕 taa, taru, →どなた/ ～か taa-
 gana, tangana/ ～かさん tangananama-
 ncuu/ ～の →taa/ ～のもの taamun
 たれさがる〔垂れ下がる〕 taisagajun
 たれる〔垂れる〕 tarijun/ 垂れた頬 huu-
 tai/ 垂れたもの tai/ 垂れて落ちる tai?u-
 tijun/ 糞を垂れ散らす maicirakasjun
 だれる dajun, darijun
 だらう hazi
 たわごと hurimunii, hurimunu?ii
 たわし〔束子〕 saara/ ～の一種 çinazaara,
 'wa-razaara
 たわむ〔撓む〕 tamajun
 たわむれ〔戯れる〕 tawahuri, →ざれる
 たわめる〔撓める〕 tamijun
 たわら〔俵〕 taara
 たん〔痰〕 kasagui, taN/ ～をなくする薬
 taNcirasii

たん〔反〕 taN
 だん〔段〕 dan/ ～がある ?utijun
 だん〔団〕 niNzu
 だんがい〔断崖〕 hucibanta, →がけ/ ～絶
 壁 Yuuciribanta
 たんき〔短気〕 kwacuu, taNci, →せっかち
 / ～な者 taNcaa
 たんきり〔痰切り〕 tancirasi
 だんご〔団子〕 daagu
 だんごう〔談合〕 →そうだん
 だんこく〔暖国〕 nukuguni
 たんざ〔端坐〕 hwisjamaNci
 たんじゅう〔胆汁〕 ?ii
 たんじゅん〔單純〕 / ～な人 maqşiiiguu
 だんじょ〔男女〕 / ～の離れられない仲 ma-
 çibui, muçiri
 だんしょう〔談笑〕 munu?iiwaree
 たんじょうび〔誕生日〕 ?Nmaribii, →tan-
 kaa, うまれる
 たんしん〔單身〕 mişigara
 たんす〔箏筒〕 taNşi
 たんすい〔淡水〕 ?amamiçi
 だんそう〔男装〕 'wikigasugai
 たんそく〔嘆息〕 ?uhu?iici
 だんだんと →しだい
 だんちがい〔段違い〕 dangawai, →とびは
 なれる/ ～である danun naran 「gaci
 だんちく〔暖竹〕 deeku/ ～の垣根 deeku-
 たんちょ〔端緒〕 hakaguci, →kuci, てが
 かり, でだし, はじめ
 たんてい〔探偵〕 tantii
 だんとう〔暖冬〕 / ～の年 nukudusi
 だんどく〔植物名〕 kannna
 だんな〔旦那〕 daNna, sjuumee, →しゅじ
 ん/ ～様 satunusi, sjunumee
 だんねん〔断念〕 →あきらめ
 だんばつ〔断髪〕 danpaçi, ranpaçi,
 →kunaaboosaa, kunaaboosii
 だんばん〔談判〕 kakiee
 たんぼ〔担保〕 kata, sicimuçi, tiitoo

たん

たんぼ〔田圃〕 taabuqkwa, →た
たんめい〔短命〕 tanmii
だんりょく〔弾力〕 / ～が強い sipusan/

～の強いもの sipuu
だん布〔談話〕 munugatai, →はなし

ち

ち〔血〕 cii/ ～がさせる業 ciinuwaʒa/ ～
だらけ ciidarakaa, ciidarukaa
ち〔地〕 zii 「ぶん
ちい〔地位〕 tuikuree, ʒaa, →くらい, み
ちいさい〔小さい〕 gumasan, kuusan, →
-gwaa, こまかい/ ～家 gumajaa, 'jaag-
waa/ ～桶 'uukigwaa/ ～木 gumagii/
～子 qkwagwaa/ ～字 gumazii/ ～乳
ciigwaa/ ～時 kuusaini/ ～ほくろ ʔa-
ʒagwaa/ ～店 macijagwaa/ ～目 miig-
waa/ ～もの gumaa, gumamuN, kuu-
tee, kuuteemaa, kuuteenuu, mung-
waa/ 小さくなる →sipirijun, soorijun
ちえ〔知恵〕 ʒee, sʒoo, ʒinbun, →さいのり
/ ～がありすぎる者 ʒinbuntakaraa/ ～
が鋭いこと takumaciri/ ～なし muzin-
bun, ʒinbunkusaraa/ ～のあること ta-
kuma/ ～のある者 takumaa, takuma-
cira, takumacirimun, ʒinbunmuci
ちかい〔近い〕 cicasan, cikasan, →tiizi-
kasan/ ～うち kunuʔuci/ ～御親戚
cicaʔunpadaN/ ～親戚 cikamagara,
cikaʔweeka
ちがい〔違い〕 sooi, →さ, さい 「う
ちがう〔違い〕 →kawajun, たがう, まちが
ちかく〔近く〕 cinpin, hata, nii, →ぎん
ちかごろ〔近ごろ〕 →さいきん 「じょ
ちかづく〔近づく〕 cikazicun, →ちかよる
ちかづける〔近付ける〕 cikazikijun
ちかみち〔近道〕 cikamici, kuncirimici/
～すること kuncirimici/ ～する競争
→maai-beeku

ちかよる〔近寄る〕 cikajujun, →ちかづく
ちから〔力〕 cikara, tee/ ～がない(～がな
いくせに) 'jugeenee kanaan, 'wigeenee
kanaan
ちからいし〔力石〕 sasiʔisi
ちからこぶ〔力こぶ〕 ʔudimurusi
ちからだめし〔力だめし〕 cिकaradamisi/
～の石 sasiʔisi
ちからもち〔力持〕 cikaraa, cikaramuci,
'jakara, 'jakaramun, →たいりき
ちからもち〔力餅〕 →cिकaramuuci, cika-
ramuucii
ちぎょう〔知行〕 cizoo, ʔweekazi, →sima,
ほうろく, りょうち
ちきょうだい〔乳兄弟〕 ciicoodee
ちきり〔織機具〕 macica
ちぎり〔契り〕 ciziri, ʔikataree, katami
ちぎる〔契る〕 musubun
ちくしょう〔畜生〕 cikusjoo, ʔicimusi,
ʔinmajaa, ʔinmaju, →ʔaahjangaree/
～のよなさま cikusjoogiinaa/ ～のよ
らな者 cikusjoo
ちくはく kataguumaNcaa
ちくび〔乳首〕 ciinukubi
ちけん〔地券〕 sasidasi
ちごこしょう〔稚児小姓〕 'wakasju
ちしゃ〔植物名〕 cisana, cisanabaa
ちじん〔知人〕 siriee, →しりあい
ちすじ〔血筋〕 ciiʒizi, ʒizi, taqkwii, →け
つり/ ～を引く家 ʒizimuti
ちそく〔遅速〕 niisahweesa
ちち〔乳〕 cii, ciibuqkwa, (小児語) ciicii,

→ちぶさ/ 少女の～ ciigwaa
 ちち〔父〕 sjuu, taarii, (小児語) taataa,
 →おとうさん, おやじ, ちちおや
 ちちおや〔父親〕 cici?uaja, 'wikiganu?uaja,
 'wikiga?uaja, →おとこおや, おとうさん,
 ちち 「と ciNmagaruu
 ちちこまる siciriNcuN, sukunun/ ～こ
 ちちばなれ〔乳離れ〕 cii?akari/ ～させる
 ?akasjuN/ ～した子豚 ?akari?waa-
 gwaa/ ～した豚 ?akaraa?waa, ?akari-
 ?waa/ ～する ?akarijun
 ちちぶそく〔乳不足〕 ciigaziri/ ～の者 ci-
 gaziraa
 ちちまる〔縮まる〕 magujun, →ちぢむ
 ちちみあがる〔縮みあがる〕 cizimagajun,
 sukunun/ 縮みあがったさま cizinkaa,
 sukunkaa
 ちぢみおり〔縮み織り〕 cizimi
 ちぢむ〔縮む〕 →cizinun, ちぢまる
 ちぢめる〔縮める〕 →cizimijun
 ちぢれげ〔縮れ毛〕 cizuu/ ～の者 cizujaa
 ちつじょ〔秩序〕 /～を乱すもの 'jamaciri-
 ちっそく〔窒息〕 ?iicimadii [mun
 ちとせらん〔千歳蘭〕 turanuzuu
 ちどめぐさ〔血止草〕 ciidumigusa
 ちどり〔千鳥〕 cizui, cizujaa, hamaciduri
 ちどりあし〔千鳥足〕 'joogaahwiigaa?a?ci
 ちのみご〔乳呑み子〕 ciinumingwaa
 ちばなやき〔知花焼き〕 cibanaajaci
 ちび ciimaruu, huduguu, ?iNcoo, kuu-
 tee, kuuteemaa, kuuteenuu, muncaN,
 mungwaa
 ちぶさ〔乳房〕 ciibuqkwa, →ちち/ ～にで
 きる腫物 ciigasa
 ちゃ〔茶〕 caa, →cattoo, ?uca, ?ucattoo,
 ?arabaacaa, おちゃ/ ～の一種 hansan,
 hwansan, sjanpin/ ～のおり caanu-
 ちゃい〔小児語〕 buqtii, pee [guri
 ちゃいろ〔茶色〕 ?Nmi?iru/ ～のもの ?N-
 mi?iruu

チャウ →cii-, kee-
 チャウけ〔茶請け〕 cawaki, →おちゃうけ
 チャがし〔茶菓子〕 cagwasi
 チャかす/ ちゃかしてばかりいる者 ?ah-
 wageerimun
 ちゃがら〔茶殻〕 caakaši
 ちゃき〔茶器〕 cadoogu, cawaNdoogu,
 doogu/ ～をいれる器 taakuu
 ちゃくし〔嫡子〕 caqci, cakusi, →あとつぎ
 ちゃくそん〔嫡孫〕 cakumaga, cakusi?N-
 maga
 ちゃたく〔茶托〕 cadee
 ちゃつぼ〔茶壺〕 ziziri
 ちゃどうぐ〔茶道具〕 cadoogu, cawaNdoog-
 u, doogu
 ちゃのま〔茶の間〕 nakamee
 ちゃばしら〔茶柱〕 caanusin
 ちゃぶちゃぶ kwenkwen
 ちゃぼ〔矮鶏〕 caaN/ ～の鳴き声 kiqkirii-
 ちゃぼん〔茶盆〕 cabun [kii
 ちゃわん〔茶碗〕 cawaN, →ごはんちゃわん
 チャンス →きかい 「っかり, しゃんと
 ちゃんと cantu, sikaitu, sikaqtu, →し
 ちゆういする〔注意する〕 kukurijun, →け
 いこく, ようじん/ ～心 kukuri
 ちゆうおう〔中央〕 →まんなか
 ちゆうかい〔仲介〕 nakadaci, naka?iri
 ちゆうかん〔中間〕 nakaba, tanaka, →あ
 ちゆうき〔注記〕 →?eezagaci [いだ
 ちゆうくう〔中空〕 naakaahuukaa, naka-
 bi, →から, がらんどう/ ～の部分 zii
 ちゆうこく〔忠告〕 'jusigutu/ ～する 'ju-
 sijuN
 ちゆうごく〔中国〕 too, →teekuku/ ～から
 の使者 tiNsi/ ～生地に着物 toonsu/ ～
 と日本 toojamatu/ ～産の物 toomun/
 ～の船 toosin/ ～への旅 tootabi
 ちゆうごくご〔中国語〕 toonukuci, →kwa-
 Nhwa
 ちゆうさいする〔仲裁する〕 →'wakasjun/

ちゆ

～さま naakatuihatatui
 ちゆうざら〔中皿〕 cuuzara, suurii
 ちゆうし〔中止〕 mai, →とりやめる/ ～になる kundijun
 ちゆうしょうする〔中傷する〕 ?iikuzijun, 'jukusjun, kizun
 ちゆうしん〔注進〕 euusiN
 ちゆうしん〔忠臣〕 euusiN
 ちゆうしん〔中心〕 →まんなか
 ちゆうせつ〔忠節〕 euusiçi 「ためらう
 ちゆうちょ〔躊躇〕 →しりごみ/ ～する →
 ちゆうてん〔中天〕 nakabi, →そら
 ちゆうと〔中途〕 micinakara, nakarami-
 ci, →とちゅう/ ～半端 nakatagee
 ちゆうぶう〔中風〕 cuuhuu
 ちゆうもん〔注文〕 cuumun, →あつらえる
 ちゆうもん〔中門〕 cuumun
 ちよう〔腸〕 ?iiwata, wata, →はらわた
 ちよう〔疔〕 coo
 ちよう〔蝶〕 haberu, habiru, →?ajahabe-
 ru/ ～の羽のように美しい御衣 ?ajaha-
 ちよう〔長〕 ?atama, →かしら [berunsu
 ちようか〔長歌〕 çirani
 ちようが〔朝賀〕 →coonu?unjuhwee
 ちようかする〔超過する〕 hajagajun, →お
 おすぎ, すぎる
 ちようけし〔帳消し〕 caahwiihwi, caa-
 ちようこう〔兆候〕 →きざし [hwiitoo
 ちようごうする〔調合する〕 ?aasjun
 ちようこく〔彫刻〕 huimun
 ちようさ〔調査〕 ?aratami, →しらべ
 ちようじ〔丁子〕 coozi
 ちようじぶくろ〔丁子袋〕 coozibukuru
 ちようじぶろ〔丁子風炉〕 cooziburu
 ちようじゅ〔長寿〕 →ながいき/ ～の薬 nu-
 cigusui
 ちようしゅんか〔長春花〕 coosjun
 ちようしょ〔長所〕 tuidukuru, →とりえ
 ちようしょう〔嘲笑〕 ?azamuciwaree, ?a-
 zawaree, →れいしょう/ ～する 'waree-

kuzijun, →'warajun
 ちようじょう〔頂上〕 çizi, 'jamanuçizi,
 maççizi
 ちようじょう〔重疊〕 coozoo
 ちようず〔手水〕 euuzi
 ちようずばち〔手水鉢〕 cuuzibaaci, →saa-
 ちようせん〔朝鮮〕 kooree [hun
 ちようぜん〔超然〕 /～とかまえている者 ta-
 ka?ucagaa/ ～とする →taka?ucagi
 ちようだい〔頂戴〕 →いただく/ ～物をする
 こと ?idigahuu, ?iduugahuu
 ちようちん〔提灯〕 coocin
 ちようちんもち〔提灯持ち〕 →coocinmuci
 ちようと〔長途〕 nagamici
 ちようど〔丁度〕 çintu, coodu/ ～よい na-
 wajun
 ちようなん〔長男〕 cakusi, coonaN
 ちようはつする〔挑発する〕 'wakujun
 ちようほう〔重宝〕 →べんり/ ～な物 sjoo-
 mun
 ちようむすび〔蝶結び〕 'jamatumusun
 ちようめい〔長命〕 →ながいき
 ちようめん〔帳面〕 coomin
 ちようようのせつ〔重陽の節句〕 /～の酒
 ciku?uzaki
 ちようろう〔長老〕 →cooroo
 ちようわする〔調和する〕 ?inajun, ?uca-
 jun/ ～すること ?ucaisinai
 ちよくちよう〔直腸〕 çibinumaai, ?iiwa-
 tagwaa 「gasa
 ちよこちよこ /～とすること gumagasa-
 ちよっと biqceen, biqceengwaa, ?icuta-
 a, kuuteen, →すこし, ちよっぴり/ ～
 の間 ?icuta, ?usjunuma/ ～前 nama-
 gata
 ちよっとみ〔ちよっと見〕 ?aqtabazoo
 ちよっぴり biqceen, biqceengwaa, ?iki-
 ragwaa, kuuteengwaa, →ちよっと
 ちよろまかす keetujun, →ごまかす
 ちよんぎる ?usicijun, →きる

ちらかす〔散らかす〕 cirakasjuN, sizeera-
kasjuN, →とりちらす
ちらかる〔散らかる〕 hoorijun, sizeeri-
jun, →ちる/ 散らかっていること kaci-
hoorii, →らんざつ
ちらしぐすり〔散らし薬〕 cirasigusui
ちらす〔散らす〕 cirasjuN, hoojuN, →ち
らかす
ちり〔塵〕 ciri, →ごみ, じんあい, ほこり/
～と泥 cirihwizi
ちりあくた〔塵芥〕 ciriʔakuta
ちりぢり〔散り散り〕 ciriziri, naaciriziri,
tuqcirahaqcira, →ばらばら
ちりとり〔塵取り〕 ciritui

ちりょう〔治療〕 'joozoo/ ～するさま 'joo-
zoozwiizoo/ ～の手おくれ 'joozooʔuku-
ちる〔散る〕 cirijun, →ちらかる [ri
ちんがり〔賃借り〕 cinsingai
ちんせん〔賃銭〕 cinsin
ちんちゃくさ〔沈着さ〕 ʔutiçici
ちんちん(小児語) euucuu
ちんでんする〔沈殿する〕 'ijuN, →よどむ
ちんでんぶつ〔沈澱物〕 guri
ちんにゅうしゃ〔闖入者〕 'wagakaimun
ちんにゅうする〔闖入する〕 'wagakajun
ちんば〔跛〕 gooi, goojaa, guunaa, guu-
ni, neegaa, neeguu, neezaa, →かたち
んば, びっこ

つ

つい〔対〕 çii/ ～の物 guutumiitu
ついえ〔費え〕 →ひより
ついえる〔費える〕 çikurijun, taarijun,
teejun, →しょうひする
ついかする〔追加する〕 ʔirisiijun, ʔwaa-
sjun, →おぎなり
ついたち〔溯〕 çiiaci
ついで〔序で〕 çiiidi
ついに〔遂に〕 →ʔuzumi, やっと 「う
ついほう〔追放〕 →tukurubaree, おいはら
ついやす〔費す〕 →しょうひする
つういんする〔痛飲する〕 kaşijun
つうじ〔通じ〕 çuuzi
つうじん〔通人〕 sjuzoonin
つうたつ〔通達〕 taqsi, →しらせ
つうやく〔通訳〕 tuuzi
つうろ〔通路〕 tuuimici, →かよいじ
つえ〔杖〕 guusjan/ ～の一種 dasicaa-
つか〔塚〕 çika, →çinmaasaa [guusjan
つかい〔使い〕 çikee, (敬語) ʔuçikee/ ～
にやる çikajun
つかいかた〔使い方〕 çikeekata

つかいこなす〔使いこなす〕 ʔaçikajun
つかいこむ〔使い込む〕 →hugasjun
つかいべり〔使い減り〕 çikeebinai
つかいみち〔使い道〕 çikeemici
つかう〔使う〕 çikajun, →こきつかり/ 使
いにくい ʔaçikeegurisan
つかえる〔仕える〕 hwirajun, 'wanda-
jun, →ほりしする/ ～こと hwiree, →
biree, -ʔwaandee
つかえる〔支える〕 çikeejun, →とどこお
り/ つっかえ つっかえ çikeehwiikee/ 食
物がのどに ～さま çiiçikaakaa
つかまえる〔摺まえる〕 kaçimijun, →とっ
つかまえる, とらえる/ つかまらないさま
muqçurugeei
つかみ〔摺み〕 -çikan
つかみあい tueeçikamee 「nuN, →にぎる
つかむ çikanun, kaçimijun, kaççika-
つかる〔潰かる〕 çikajun, →çirugajun
つかれ〔疲れ〕 kutandı, siikutandı, 'utai,
→かるう/ ～を直すこと kutandınoosi
つかれる〔疲れる〕 çikarijun, kutandı-

jun, 'utajun/ 疲れた目付き miikeeraa/
 疲れ果てること siikutandi
 つかわす〔遣わす〕 çikajun
 つき〔月〕 çici, Ŧuçici, Ŧucicuu, (小児語)
 tootoo, tootooganasiimee, tootoomee,
 Ŧucicuumee/ ~が出る →tujunun/ ~
 の中にいる者 →Ŧakanaa
 つき〔月〕 çici/ ~ごと çicinukaazi/ ~単
 位の無尽講 çicimuee
 つぎ〔継ぎ〕(衣服の) kuu
 つぎ〔次〕 Ŧatu
 つきあい〔付き合い〕 hwiree, maziwai,
 qeubiree, tueehwiree, tuiee, tuihwiree,
 tuikee, →biree, kugee, tunzaa-
 janzaa, こうゆう, こうさい, しゃこう
 つきあう〔付き合う〕 hwirajun, maziwa-
 jun, →こうさい/ 付き合いにくい hwiree-
 gurisan/ 付き合いにくい者 hwiree-
 gurii/ 付き合いやすい hwireejaqsan/
 付き合っている人びと hwireeninzu
 つきあける〔突き開ける〕 çiciŦakijun, çic-
 ihugasjun
 つきあたり〔突き当たり〕 çiciŦatai「つかる
 つきあたる〔突き当たる〕 çiciŦatajun, →ぶ
 つぎあわせる〔継ぎ合わせる〕 çizaasjun
 つきうす〔搗き臼〕 çiciŦuusi
 つきかけ〔月影〕 çicikazi 「gasa
 つきがさ〔月暈〕 Ŧamagasa, çicinuŦama-
 つぎき〔接ぎ木〕 çiziki 「くずす
 つきくずす〔突きくずす〕 kacikunsjun, →
 つきさす〔突き刺す〕 çicikuzijun, →さす
 つきずえ〔月末〕 çiciŦii
 つきだす〔突き出す〕 neejun
 つきとばす〔突き飛ばす〕 Ŧusikeerasjun
 つきぬける〔突き抜ける〕 çinpuçijun, →つ
 つきのもの〔月のもの〕 →げっけい くらぬく
 つぎはぎ çizaahazaa, çizaasihazaasi/
 ~だらけ kuusiikaasii
 つきはなす〔突き放す〕 çicihanasjun
 つきひ〔月日〕 çicihwi

つきまとう maçibujun, →まつわりつく/
 ~さま kakaiŦigai, sirihwicimeehwici
 つきみ〔月見〕 çicimi, çicinagami
 つぎめ〔継ぎ目〕 çiziguci
 つきもの〔憑きもの〕 kakaimun
 つきよ〔月夜〕 çicinujuu, çicuu
 つきわり〔月割り〕 çiciwai
 つく〔付く〕 çicun, →くつつく
 つく〔着く〕 çicun, →tujun
 つく〔点く〕 çikajun
 つく〔突く〕 çicun, nucun, →つつく
 つく〔撞く〕 çicun
 つく〔憑く〕 Ŧuqcakajun/ ~こと taari
 つぐ〔継ぐ〕 çizun/ 継いだりはいだり
 kuusiikaasii, →つぎはぎ
 つぐ〔注ぐ〕 çizun, Ŧirijun, sasjun, (敬
 つくえ〔机〕 sjuku 語) Ŧukagijun
 つくす〔尽くす〕 çikusjun, 'wandajun
 つくづく çikuziku, 'jukuujukuu
 つぐなう〔償う〕 'wancameejun, →べん
 しょうする/ 償わせる hakijun
 つぐみ〔鶉〕 mootui/ 毛の抜けた~ kiiha-
 gi mootui
 つぐむ çigunun, Ŧuqcigunun
 つくり〔作り〕 →ぞうさく
 つくりかえ〔作りかえ〕 çukuikkee
 つくりかた〔作り方〕 çukuikata, mutina-
 si, siihoo
 つくりごえ〔作り声〕 çukuigwii
 つくりごと〔作りごと〕 çukuigutu, çukui-
 munii, çukuimunuŦii
 つくりざかや〔造り酒屋〕 sakaja
 つくりそこない〔作り損ない〕 çukuijan-
 zi, →しっぱい
 つくりつけ〔作り付け〕 siçiki/ ~にする
 siçikijun/ ~の衣裳戸棚 siçikigwii/
 ~の仏壇 siçikiŦubuçidan
 つくりばなし〔作り話〕 çukuibanasi
 つくりわらい〔作り笑い〕 çukuwaree
 つくる〔作る〕 çukujun, sitatijun/ 作り

そこなる çukuijanZUN, →しっぱい/ 作
 ってひろげる çukuihwirumijUN/ 船を
 ~ →hazUN/ 新しく~ →しんぞう
 つくろう〔繕う〕 çizUN, çukurijUN, çu-
 kurijUN, →しゅうぜん, つぐ/ つくろ
 い整えること çukurii-kuntii
 つけ〔告げ〕 çigi
 つけあがる ?ameejUN, çicagajUN/ ~こ
 と boo?agai, →ぞうちょう
 つけぎ〔付け木〕 çikidaki
 つけぐすり〔付け薬〕 çikigusui, →こうやく
 つけぐち〔告げ口〕 çicagimoosjagi, koo-
 zin, moosjagi/ ~する koo sjUN, tuu-
 つけとどけ〔付け届け〕 çikituduki [sjUN
 つけな〔漬菜〕 çikina
 つけね〔付け根〕 çicikuci, niisisi
 つけび〔付け火〕 çikibi, →ほうか
 つけひも〔付け紐〕 çinnuu
 つけもの〔漬物〕 çikimUN, (小児語) koo-
 ruu, →こりのもの/ ~の一種 ?asaziki,
 ziziki
 つける〔付ける〕 çikijUN, →?wii?ucUN,
 くっつける, とりつける/ 付け回すさま
 ?wiiçikimaaçiki/ つけて明るくする ç-
 ki?akagarasjun
 つける〔漬ける〕 çikijUN, ?uraakijUN
 つける〔着ける〕 çikijUN
 つける〔告げる〕 çigijUN, →いり
 つごう〔都合〕 çigoo, tanari, →ぐあい
 つじぎみ〔辻君〕 hweezuraa, hweezuri,
 sangwanaa, →じょろう
 つじつま〔辻褄〕 çibikuci
 った〔薦〕 çita
 ったえばなし〔伝え話〕 çiteebanasi
 ったえる〔伝える〕 çitajUN, çiteejUN
 ったわる〔伝わる〕 çitawajUN
 つち〔土〕 'Nca/ ~のかたまり 'Ncabuku/
 ~の一種 zaagaru/ ~の中 'Ncanunii
 つち〔槌〕 / ~の一種 kakizici
 つちあそび〔土遊び〕 'Ncamutaan
 つちくれ〔土くれ〕 'Ncabuku

つちのえ〔戊〕 çicinii
 つちのと〔己〕 çicinutu
 つちふまず〔土踏まず〕 hwisjanuwata
 つつ(……しながら) -agiinaa, -gacii,
 -ganaa/ ~ある -agijUN
 つっかいぼう〔つっかい棒〕 çikasi
 つっかかる〔突掛かる〕 tuçkakajUN
 つづき〔続き〕 →çirugi
 つつく çicicUN, →つく
 つづく〔続く〕 çirugajUN, çizicUN,
 →?aQCUN/ 続いて(~かぎり) nagadu-
 si, nagiduusi [jUN, mutuusjun
 つづける〔続ける〕 / 続けてする mutuu-
 つっけんどん ciikwaaniikwaa, →ぶあい
 そり/ ~な声 sicigwiiniigwii/ ~な返事
 kuhwahwizi
 つっこむ〔突っ込む〕 ?usiNcUN [kuguni
 つつしみ〔慎み〕 çicisimi/ ~深いこと tui-
 つつしむ〔慎む〕 çicisinUN, kugunijUN
 つつそで〔筒袖〕 tiçpuusudii
 つつぬけ〔筒抜け〕 tuuruu, ?uutuuruu,
 ?uutuuruukaa
 つっぱなす〔突っ放す〕 ?usihanasjun
 つっぱり çikasi
 つつましい kumasaN, sjuuteekumasaN,
 →しっそ/ つつましくする kumeekijUN
 つつみ〔包み〕 çicimi, çicIN
 つつみ〔堤〕 ?amooçi, ?amuci, ?amutu
 つづみ〔鼓〕 çiziN, →paarankuu/ 大きな
 ~ ?uuçiziN/ ~の音 boronboron
 つつむ〔包む〕 çicINUN
 つづれ〔綴れ〕 hukutaa
 つて〔伝手〕 çiti, hwici
 つと〔苞〕 hwintu, →çitu
 つど〔都度〕 kaazi, →たび
 つとに →hweeku
 つとめ〔勤め〕 →きんむ
 つとめる〔勤める〕 garamicUN, çitumijUN
 つとめる〔努める〕 çitumijUN, →どりよく
 する, はげむ/ 努め励むこと sjuçsii

つな

つな〔綱〕 →なわ
 つながる〔繋がる〕 çirugajuN, →つらなる
 / つながっているもの çirugi
 つなぐ〔繋ぐ〕 çinazuN, çiruzun çizun,
 →むすぶ/ つなぎ合わせる çizaasjun,
 kusajuN
 つなひき〔綱引き〕 çinahwici, →ʔaizoo-
 ʔuuNna, ʔuuNna/ ~で鉦太鼓を打つ者
 sjooguniNzu, sjoogufuci/ ~でたいま
 つを振る者 teehujaa/ ~で綱の上に乗る,
 扮装した人物 sitaku/ ~の綱 →miNna,
 tiNna, 'uuNna/ ~の綱に通す棒 kani-
 ci, kaniciboo/ ~の綱に棒を通す者 ka-
 niciçizaa/ ~の綱のつなぎ口 →kanici-
 guci/ ~の時の掛け声 haaija/ ~の時の
 鉦の音 gwaanɡwaan/ ~の時の鉦鼓の音
 kiçtaakiririN/ ~の時の旗 →hatagasi-
 ra/ ~の時の旗持ち hatagasiramuci/ ~
 の時のもみ合い gaaee
 つなみ〔津波〕 sigarinami
 つね〔常〕 çini/ ~に caa, →しじゅう
 つねる çinuN, çinçikijun, çinçikijun, hw-
 inmudijun, niçijun, →ねじる, ひねる
 つの〔角〕 çinu/ ~で突き上げる kamijun/
 ~の生えたもの çinumiijaa
 つのざいく〔角細工〕 çinuzeeku
 つのまた〔植物名〕 çinumata
 つのる〔募る〕 nucun
 つば〔唾〕 çinpee, kucisiru/ ~をはく →
 つばき〔椿〕 çibaci [tuhweemikasjun
 つばさ〔翼〕 hanigee
 つばめ〔燕〕 maçtaraa
 つぶ〔粒〕 çizi/ ~のあるもの →çizinu-
 mun/ ~の大きいもの ʔaraa
 つぶて〔礫〕 ʔisibuku
 つぶれる〔潰れる〕 sipirijun, →ぺしゃんこ
 つぼ〔坪〕 çibu [/ つぶれたもの sipizaa
 つぼ〔壺〕 çibu, →かめ
 つぼ〔灸点〕 çibu
 つぼおり〔壺折り〕 →çibui

つぼみ〔蕾〕 çibumi, kukumui, muçkuu
 つぼむ〔蕾む〕 çibunun, kukumujuN
 つぼややき〔壺屋焼〕 çibujajaci
 つま〔妻〕 tuzi, →さいし/ ~のしりにしか
 れること tuzinukookoo/ ~びいき tuzi-
 biici/ ~をめとる →kameejun, tumee-
 jun
 つま〔棧〕 meesuba, →ʔNnazi/ ~が合わ
 ないこと kataʔNnazi
 つまきれない〔植物名〕 tiNsaaguu
 つまさき〔爪先〕 →kootu
 つましらべ〔爪調べ〕 çindami
 つまずき〔躓き〕 kiççaki 「makurubi
 つまずく〔躓く〕 / つまずいて転ぶこと çi-
 つまはじき〔爪弾き〕 →haziçeehaziçee
 つまびき〔爪弾き〕 ʔiibibançi, →hwicida-
 つまみ sjuuci [miçi
 つまみあらいする〔つまみ洗いする〕 tuçci-
 jun 「naabisagui
 つまみぐい〔つまみ食い〕 hwiriNngami,
 つまむ / つまんで染める tuçcijun
 つまる〔詰まる〕 çimajuN, katamajuN,
 sasiçimajuN/ ~こと çimai
 つみあげる〔積み上げる〕 →つむ
 つみかさなる〔積み重なる〕 çimujun
 つみちん〔積み賃〕 çimidima
 つみとが〔罪科〕 çimituga, →とが
 つみに〔積荷〕 çimini
 つむ〔積む〕 çinuN, maçzinun, →かさねる
 つむ〔摘む〕 çinuN
 つむぎ〔紬〕 çimuzi, maN/ ~織りのはち
 まき maNsaazi/ ~の礼服 maNwatan-
 つむぐ〔紡ぐ〕 çinzun 「su, maNwataziN
 つむじ〔旋毛〕 maci/ ~が一つの者 tiçi-
 macaa/ ~が二つある者 taaçimacaa
 つむじかぜ〔つむじ風〕 kazimaci, →たつ
 まき
 つめ〔爪〕 çimi, →kootu/ ~にできる腫れ
 もの çimimaaçjaa/ ~の垢 çimikusu
 つめ〔詰め〕 çimi

つめあと〔爪跡〕 çimikata
 つめたい〔冷たい〕 hwizurusAN/ ～水
 hwizurumizi/ ～もの ʔoohwizuruu/
 冷たくなつたさま hwizuikaa/ 冷たくな
 る hwizujun
 つめよる〔詰める〕 šiicikakajun, tagu-
 ikakajun
 つめる〔詰める〕 çimijun, çinun/ 詰めき
 りの奉公 çimibuukuu
 つもり →gukuru 「çimui
 つもる〔積もる〕 çimujun, çinun/ ～こと
 つや〔艶〕 hwicai/ ～が出る haneecun,
 hwicajun
 つゆ〔梅雨〕 →sjuumanboosjuu
 つゆ〔露〕 çiju
 つよい〔強い〕 cuusan/ ～者 cuubaaa/
 強く ciqtu, cuuku, 'Nzuzuu, ʔumi-
 ciqtu, cuuzuuku, kun-/ 強くしぼる
 kuntabajun/ 強くする cuumijun/ 強
 くなる cuujun, cuumajun
 つよまる〔強まる〕 cuumajun
 つよめる〔強める〕 cuumijun
 つら〔面〕 çiragamaci, →かお/ ～の皮が
 厚い者 çiranukaaʔaçii
 つらあてに〔面当てに〕 'wacakoogeezi
 つらい〔辛い〕 kuçisan, →くるしい/ ～こ
 と ʔawari
 つらがまえ çiramukumi, →かおつき
 つらなる〔連らなる〕 çirugajun, →ʔuuçi-
 rugaajun, →ならぶ/ ～もの çirugi
 つらぬく〔貫く〕 nucun, →つきぬける「る
 つらねる〔連らねる〕 çirugijun, →ならべ

つらよごし çirajugusi, kusihwici/ ～者
 kusihwicimun
 つりあう〔釣合う〕 nawajun, nioojun,
 つりがね〔釣鐘〕 çicigani L→にあり
 つりざお〔釣竿〕 çinbuku
 つりせん〔釣り銭〕 keei, keesimudusi
 つりばり〔釣針〕 ʔijuzii
 つる〔弦〕 çiru
 つる〔鶴〕 çiru, çiruntui/ ～は千年亀は万
 年 sinçiru mankami
 つる〔釣る〕 çijun
 つるくさ〔蔓草〕 kanda
 つるしかぎ〔つるし鈎〕 gakizuu, gakizaa
 つるそば〔植物名〕 siibooçaa
 つるつる →なめらか
 つるべ〔釣瓶〕 çii/ ～井戸 çiiçaa/ ～繩
 çiinuuu
 つるむ çirubun, →こうせつする
 つるれいし〔植物名〕 goojaa 「çirininçuu
 つれ〔連れ〕 →とも, なかま/ ～の人たち
 つれあい〔配偶〕 tacinaaka, ʔumusubi
 つれそう〔連れそう〕 →つれる
 つれだつ〔連れだつ〕 →つれる
 つれない çirinasan, →はくじょう, ぶあ
 いそう, むじょう
 つれる〔連れる〕 çirijun, soojun, ʔusi-
 çirijun
 つわぶき〔植物名〕 çihwahwa 「aimaki
 つわり〔悪阻〕 saai/ ～で体が弱ること sa-
 つんのめる / ～こと meeçinta
 つんぼ〔聾〕 mimikuziraa, minkaa, min-
 kuu, minkuziraa, minkuzirimun

て

て〔手〕 tii, →ti, (敬語) 'Nci, (卑語) tiq-
 koo, →うで, かいな/ ～がだるい tiida-
 rusan/ ～がとどかない →tii/ ～がねば

ねばするさま tiimucamuca/ ～がのろい
 tiiniisan/ ～が早い tiibeesan/ ～で水を
 飲ませること →timizi/ ～でもむこと tii-

mimizi/ ~に余る仕事 ʔabacisigutu/ ~
におえない haçikoorii, tuN çimi na-
ran/ ~に取れるほど近いさま tiituratu-
ra/ ~に持てる荷物 mucinii/ ~のいたず
ら tiigoo, tiimutaan, tiinuganmari,
tiNcama/ ~の内 tinuʔuci/ ~の数 tika-
zi/ ~の無い者 tiimoo, tiimookaa, ti-
mookuu, tiimuqkoo/ ~八丁口八丁 ʔi-
haciroohaci/ ~を合わせる →tii/ ~を後
についてすわること tiiguusjan/ ~を下
す kaganasjun/ ~を出す →nusikijun,
tii/ ~を加える kaganasjun/ ~をこま
ねくこと tiitoodaacii/ ~を放すこと →
tiijurusjaa/ ~をよごすこと tiinzari/
~をわずらわすこと tiiwacaree

で(助詞) -kara, -qsi, -saai, -saani, -uti,
-utooti

であう[出会う] haiʔicajun, hajaasjun,
ʔicaajun, ʔicajun, →あう, でくわす/
出会え dijoori

てあし[手足] gutee, tiihwisja/ ~まとい
tiihwisjamaçibui

てあて[手当] ʔoozoo

てあぶり[手焙り] hwiiruu, tiiʔabui

てあらい[手洗い] miçikubusi, tiiʔaree

てあらい[手荒い] tiiʔarasan

である ʔjan, (敬語) dajabiru, deebiru,
ʔujanʂeen, ʔwaanʂeen, ʔwenʂeen, →

であるく[出歩く] →ʔaqcihwici ㄌです

ていご[梯梧] (植物名) diigu

ていさい[体裁] miijoo, tanari

ていしゅ[亭主] tiisju

ていたらく sikata, sitaraku, →ありさま,

ていち[低地] sagai ㄌようす

ていちずる[定置する] ʔucikijun

ていちょう[丁重] tuikuguni, →ていねい

ていど[程度] sjaku, →ど, ほど

ていとう[抵当] kata, sicimuçi tiitoo

ていねい[丁寧] tiinii, →ていちょう/ ~
なことは sisiikutuba/ ~にする sisijun

ティーパーティー ʔucahukaʂee, ʔucawa-
ていはく[碇泊] hunagakai ㄌkaʂee
でいり[出入り] ʔNziʔiri, ʔNzikaaʔirikaa
ていれ[手入れ] mucinasi, tiiʔiri ㄌri
ておくれ[手遅れ] ʔjoozooʔukuri, tiiʔuku-
ておの[手弁] ʔjuuci, tiin, saahungwaa,
saahunjuuci, →uun

てがかり[手掛かり] tigakai, →たんちよ
てかげん[手加減] tigukuru/ ~する →
tankijun

てかご[手籠] tiiru, →かご

でかす dikasjun/ でかした sitai, sitari

てかせ[手かせ] tiiguruma

てかちぎ(植物名) tikaci

てがみ[手紙] bin, hagaci, tigami, zoo,
(敬語) →guzoo, たより

てがら[手柄] tigara/ おお~ ʔuutigara

てき[敵] tici

できあがる[出来上がる] diçiʔagajun, →
かんせい/上できに~ ʔNmarijun/ ~こと

できごころ[出来心] mirujuku ㄌsjubi

できする[適する] husaajun, ʂinajun,
husajun, ʔucajun/ ~さま ʔucataika-
natai ㄌ→しっぱい

できそこない çukuijanzi, naikuzirimun

できそこなう ʔjandijun, naihansjun,
naikuzirijun, →しっぱい

できたて/ ~の食べ物 siihana

てぎね[手杵] ʔazin, →きね

てきばきしている cibiraasjan, →さっさと

できぶつ dikijaa

できもの / ~の名 →ひふびょう

できる dikijun, najun/ できかかる mu-
zukujun/ できかねること →kantii/ ...
することが~ -juusjun, -rijun/ ~だけ
→なるべく

てぐす[天蚕糸] tigusu, tigusui

てくせ[手躰] tiigusi

てぐち[出口] ʔnziguci

てくばり[手配り] →てはい

てくび〔手首〕 tiinukubi/ ~の痛むこと
tiiza
てぐみ〔手組み〕 tigumi
てくわす〔出くわす〕 hajaasjun, haqca-
kajun, →あう, であり
てこ〔梃子〕 tiku
てごころ〔手心〕 tigukuru, →てかげん
てこずる〔手こずる〕 mutiwakasjun
てごと〔手事〕 tigutu
てこぼこ guuhwaahwiihwa, tugaihwii-
gai
てさき〔手先〕 / ~が器用なこと tiguma/
~の仕事 tiisigutu, tiwaza/ ~の間違
い tiimamizi
てさぐり〔手探り〕 tiisagui
てしごと〔手仕事〕 tiisigutu, tiwaza
てした〔手下〕 sinka, →はいか
てしゃぱり〔出しゃぱり〕 nusikaimun, sa-
sihankimun, sasihankaa
てしゃばる〔出しゃばる〕 sasihankijun/
~こと meejuijui, meenainai meenu-
bagai, sasihankigutu
です〔敬語〕 deebiru, →abijun, dajabiru,
てすう〔手数〕 tikazi, →やっかい である
てすり〔手摺り〕 dankan, rankan
てせい〔手製〕 duukuruzukui, tizukui
てそう〔手相〕 tisoo
でだし〔出だし〕 ?uqtaci, →たんちよ
てだすけ〔手助け〕 →かせい
てだて →ほうほう
てちか〔手近〕 →tiizikasan
てつ〔鉄〕 kurukani, tigi
てづかえ〔手支え〕 tiizikee, tizikee
てづかみ〔手掴み〕 tiizikaan
てつき〔手付き〕 →てぶり/ ~足つき tiijoo-
hwisajoo
てづくり〔手作り〕 →てせい
てっせん〔鉄銭〕 kurukanii
てつだい〔手伝い〕 kasii, tiganee
てつなべ〔鉄鍋〕 ?imunnaabi

てっぱ〔出っ歯〕 haa?ucagee
てつびん〔鉄瓶〕 ?imunjaqkwan, tciija-
qkwan
てぶり butibutiitu/ ~太っているさま
kweegweetu
てっぺん →ちようじよう
てっぽう〔鉄砲〕 tiqpuu
てつや〔徹夜〕 'juu?akiduusi/ ~で 'juu-
?akiduusii
てづる〔手蔓〕 →つて
ててなしご〔父無し子〕 'jamadanaa, 'ja-
madanii, 'jamadaningwa, 'jamana-
singwa, →しせいじ
てなし〔手無し〕 tiimoo, tiimookaa, tii-
mookuu, tiimuqkoo
てなずける〔手なずける〕 tiizikijun
てなみ〔手並〕 →うでまえ
てならい〔手習い〕 tiinaree, tinaree
てにもつ〔手荷物〕 mucinii
てぬぐい〔手拭〕 tiisaazi, (敬語) nagan-
saazi/ 花もよりの~ hanazumitiisaazi
てぬるい〔手ぬるい〕 'jurusun, →なまぬ
るい
てのひら〔掌〕 tiinu?ura, tiinuwata, tin-
da/ ~のすじ tiinu?aja
では diqkaa, 'ihii, 'oohoo, 'uuhuu
てはい〔手配〕 tigumi, tikubai
てはいり〔出入り〕 ?Nzi?iri, ?Nzikaa?iri-
kaa
てはず〔手筈〕 tigumi
てばな〔出端〕 ?Nzihana
てばな〔出花〕 ?irihana, ?Nzihana
てばなす〔手放す〕 tiikarahanasjun, ti-
banasjun, →tii/ 手放せない ?aqtaru,
?atarasjan/ 手放せないもの ?atarasi-
mun
てばやい〔手早い〕 tiibeesan/ 手早く ka-
siikasii
でぶ bukutoo, buqtarakoo, buqtara-
kuu, buqtee, butaa, butuu, kweebu-

taa, kweetaa, kweetuu
 てぶそく〔手不足〕 tiiburaari, tiibusuku
 てふね〔出船〕 ?Nzihuni/ ~の祝い ?Nzi-
 huni?uiwee
 てぶら〔手ぶら〕 'Nnadii, 'Nnadiikaradii,
 'Nnadauu, Nnadaukaraduu
 てぶり〔手振り〕 tihui, tiijoo, →てまね/
 ~足ぶり tiijoochwisajoo
 てべそ〔出臍〕 tenbusu, ?wenbusu/ ~の
 者 ?wenbusaa
 てべんとう〔手弁当〕 mucibanmee
 てほん〔手本〕 hwinagata, maqkwa, ti-
 hun, →きはん
 てま〔手間〕 tima/ ~賃 tima, timacin/
 ~つぶし timadaari
 てまくら〔手枕〕 tiimaqkwa, timakura,
 →?udimaqkwa
 てまどる〔手間取る〕 karakajun, muqco-
 orijun/ ~さま muqcaihwiqcai, muq-
 coohwiqcoo/ ~時間 timahwima
 てまね〔手真似〕 timani, →てぶり
 てまねき〔手招き〕 tiimanici, tiimanuci,
 timanuci
 てまわし〔手回し〕 timawasi
 てむかい〔手向かい〕 tiinkee
 てむかえ〔出迎え〕 →hunankee
 ても〔助詞〕 -teeman, -teen, -tun
 でも〔助詞〕 -ndee
 てもどり〔出戻り〕 tacimudui
 てら〔寺〕 tira, (敬語) ?utira/ ~の中央
 ?umukoo
 てらつばき →saataagii
 てらまいり〔寺参り〕 tiramunumee
 てりかがやく〔照り輝く〕 tiracagajun
 てりはぼく〔植物名〕 'janabu, 'jarabu
 てりわたる〔照り渡る〕 tiriwatajun
 てる〔照る〕 tijun
 てる〔出る〕 ?Nzijun, →?eejun, nucaga-
 jun, nusikajun/ 出たり入ったり ?Nzi-
 kaa?irikaa/ 出かかる muzukujun, nu-

sikajun/ 茶が出過ぎる ?Nzikuhwajun
 てわけ〔手分け〕 tiwaki
 てわたす〔手渡す〕 / ~こと tiiwatasi
 てん〔天〕 →そら/ ~に昇るよう →taka
 てん〔点〕 ?uqeiki
 てん〔店〕 →macija
 てんい〔天意〕 ?utingutu
 てんうん〔天運〕 tinsuu, →うん
 てんか〔天下〕 tinga
 てんがい〔天蓋〕 tingee
 てんかする〔転嫁する〕 / 転嫁させる相手
 →?ii?nmanukura
 てんかん〔癩癩〕 kukuçi
 てんき〔天気〕 tinçi, ?waaçiçi
 てんきあめ〔天降雨〕 tiida?ami, tiidabui,
 →takanusiibai
 てんぐ〔天狗〕 tingu
 てんこ〔点呼〕 ninzu?aratami
 でんごん〔伝言〕 dingun, ?ijai, tuziki/
 ~する tuzikijun
 てんし〔天子〕 tinsi
 てんじく〔天竺〕 tinziku
 てんじょう〔天井〕 tinzoo
 でんしんばしら〔電信柱〕 diisinbaaja
 てんすい〔天水〕 tinşii
 てんすいがめ〔天水龜〕 tinşiiigaami
 てんせい〔天性〕 ?Nmarizimu, →うまれつ
 でんせつ〔伝説〕 çitee, çiteebanasi しき
 でんせんする〔伝染する〕 ?uçijun
 でんせんびょう〔伝染病〕 →huuci
 てんたく〔転宅〕 →ひっこし
 てんち〔天地〕 tinçi
 てんてこまい tiihwisjadoori
 てんにん〔天人〕 tinnuqcu/ ~の井戸 ?a-
 moorigaa/ ~の子 ?amooriingwa
 てんねんとう〔天然痘〕 curagasa
 てんばつ〔天罰〕 tinbaçi
 てんぶら hukumiN, tinpura
 てんぶん〔天分〕 takibun, →うまれつき
 てんぶん〔濃粉〕 kuzi, →くずこ

てんま〔伝馬〕 tinma
 てんまつ〔顛末〕 sjubi
 てんめい〔天命〕 tinmii, Tusadami, ?u-

tingutu, →らんめい
 てんもん〔天文〕 tinmun
 てんやわんや →あわてる

と

と〔戸〕 →hasiru, meezu
 と〔斗〕 -tu
 と〔助詞〕 -Ndi, -tu/ ～言い→ -tee/ ～言
 って Ndic/ ～言う -tiru, -Ndiru/ ～い
 りもの→ -tiramun, -tiši/ ～いうこと
 -tiši/ ～思えば -tumiba/ ～思え -tu-
 muri/ ～思つて -tumuti
 ど〔度〕 →du/ ～がすぎる şizijun/ ～を
 過ごす şigusjun
 とい〔繩〕 tii
 といし〔砥石〕 tusi 「→どの
 どいつ tanihjaa, tanuhjaa, taNnumun,
 といつめる〔問い詰める〕 →tuisimikaasi-
 mi, tuqimijun
 とう〔籐〕 tuu
 とう〔唐〕 →too
 とう〔頭〕 -kara
 とう〔問う〕 tuujun, →たずねる
 どう caa, ?ica/ ～あろうとも ?anarawa-
 N, ?anerawan, nuujatiNkwiijatin/
 ～か doodin, tootu, taNdi/～かどうか
 tanditandii/ ～したところで ?ansinka-
 nsin/ ～して caasi, nugasi, →caa/ ～
 しても caasin, ?ikanasin, nuusawan/
 ～しよるもない caankaan, naran,
 tuin çimin naran/ ～でもこうでも
 caasinkaasin/ ～ともなれ ?ahjanga-
 ree, ?aqaNgaree/ ～にか caagana,
 ?icasigana
 どう〔馬を制止する声〕 doo/ ～どう doo-
 doo
 どう〔胴〕 →duu, どうたい

どう〔銅〕 ?akugani/ ～のやかん ?akuga-
 nijaqkwan
 どうあげ〔胴上げ〕 bui, buidoo
 どういする〔同意する〕 →さんせい
 どういつ〔同一〕 'inutiiçi, →tiiçi, おなじ
 どういつにん〔同一人〕 'inuçu
 どういつぶつ〔同一物〕 tiiçimun
 とうか〔灯火〕 ?akagai, →とほし
 とうか〔銅貨〕 ?akazinaa
 どうがく〔同額〕 'inu?uqsa, 'insa
 とうがらし〔唐辛子〕 kooreegusju
 とうがん〔冬瓜〕 sibui
 どうかん〔同感〕 'inukan
 とうき〔陶器〕 zoojaci, →やきもの/ ～の一
 種 cibanaajaci, çibuajaci 「nucinmuci
 とうきび〔唐黍〕 toonucin/ ～の餅 too-
 とうぎゅう〔闘牛〕 ?usi?aasi
 とうぎゅうじょう〔闘牛場〕 ?usinaa
 とうぎょ〔統御〕 'usamigata
 とうぎょ〔闘魚〕 toobiraa
 とうきょう〔東京〕 toocco
 どうぐ〔道具〕 doogu/ ～一切 dooguhjoo-
 gu/ ～がよいこと doogumasai
 どうくつ〔洞窟〕 gama
 とうくねんぼ〔唐九年母〕 tookunibu
 とうけい〔闘鷄〕 çiciçidujaa, taucii, ta-
 wacii/ ～で, けんかをけしかけること
 とうごく〔投獄〕 ruugumi [çiciçidui
 とうごま〔唐胡麻〕 →ひま
 とうざい〔東西〕 →tužai
 とうじ〔冬至〕 tuuzi, →tunzii/ ～のころ
 の寒さ tunziibiisa/ ～に作るませ飯

tunziiguusii
 どうし〔同志〕 -duusjaa, →なかま
 どうじ〔同時〕 'inutuci, →いちど/ ~に
 どうじつ〔当日〕 toohwi ↳→?aaci
 どうじつ〔同日〕 'inuhwii
 どうしん〔灯心〕 siN, tuuziN
 どうしん〔童心〕 'warabizimu
 どうしんぐさ〔燈心草〕 ?ootuuziN, 'ii,
 tuuziNii
 どうずる〔動ずる〕 duuzijun
 どうせい〔統制〕 'usamigata
 どうせん〔唐船〕 toosiN
 どうぜん〔当然〕 siziN, siziNni, zUN, →あ
 たりまえ, ごもつとも
 どうぞ doodiN, taNdi, tootu, →せひ/
 ~どうぞ tandidandii 「→にげる
 どうそうする〔逃走する〕 nugihwasijun,
 どうぞく〔同族〕 'ncantiici, ſizimuti
 どうそじん〔道祖神〕 ſeenukan
 どうたい〔胴体〕 duutee, →どう
 どうちゅう〔道中〕 doocuu, micinaka, →
 みちすがら/ ~に歌う歌 mici?uta
 どうづき〔胴突き〕 →zibuku
 どうとう →?uzumi, やつと
 どうとう〔同等〕 →sajuu
 どうとぶ〔尊ぶ〕 ?agamijun, taqtubun,
 ?usurijun, →うやまう/ ~気持 ?usuri/
 ~こと ?waagami
 どうにゅう〔豆乳〕 toohunujuu
 どうにん〔当人〕 hunniN, zintii
 どうねん〔同年〕 'inutusi 「'inuca
 どうねんばい〔同年配〕 ſirimi, 'inujuca,
 どうはつ〔頭髮〕 →かみ
 どうはんする〔同伴する〕 ſirijun, soojun
 どうひょう〔投票〕 huda?iri
 どうふ〔豆腐〕 toohu, →やきどうふ, ろく
 じょうどうふ/ ~の油いため toohucan-
 puruu/ ~の一種 ?usizaadoohu/ ~の
 かず toohunukaſi/ ~料理の一種 nita-
 mairukuzuu/ ~をしぼる前の汁 kun-

sju/ ~を作る鍋 toohunaabi/ ~を発酵
 させて作ったもの toohujoo
 どうふうり〔豆腐売り〕 toohu?ujaa
 どうぶつ〔動物〕 ?icimun, ?icimusi
 どうぶん〔当分〕 toohun, →しばらく
 どうへんぼく〔唐変木〕 toosjoogaa
 どうほく〔東北〕 ?usitura mahai
 どうほんせいそう〔東奔西走〕 ?amahaiku-
 どうみょう〔灯明〕 ?utunnoo, ?utumjoo
 どうむしろ〔藤蓆〕 tuumusiru
 どうめい〔同名〕 'inunaa
 どうもく〔頭目〕 siidu, →かしら
 どうもの〔唐物〕 toomun
 どうもろこし〔玉蜀黍〕 gusuntoonucin,
 gusuntoozin, rusuntoozin
 どうよう〔登用〕 tuitati, (敬語) ?utuitati/
 ~する tuitatijun
 どうよう〔動揺〕 →cimu?amazi/ ~する
 ?amazicun, ?amazun, ?utamacun
 どうよう〔同様〕 duujoo, →おなじ/ ~であ
 る 'inugutoon/ ~なもの 'inugutooruu/
 ~に 'inugutu
 どうらくもの〔道楽者〕 kwatii, →あそびに
 ん
 どうり〔道理〕 doori, ziizira, →わけ
 とうりゅう〔逗留〕 teeruu, →たいざい
 とうりょう〔棟領〕 ?atama, →deeku
 とうりょう〔同僚〕 ?eezuu, guu, →なかま
 とうりょう〔同量〕 'inu?uqsa, 'insa
 どうるい〔同類〕 'inuſira
 どうろ〔道路〕 →みち/ ~工事 micizukui
 とうろう〔灯笼〕 tuuru, →?utuuru/ ~の
 一種 ſiziſduuru, kaguduuru
 とうろう〔植物名〕 soosicigusa
 とお〔十〕 tuu, →tu-
 とおあさ〔遠浅〕 tuu?asa
 とおい〔遠い〕 tuusan/ ~親戚 tuumaga-
 ra/ ~道のり tuumici
 とおか〔十日〕 tuka
 とおく〔遠く〕 kaama

とおざかる〔遠ざかる〕 tuunucun
 とおす〔通す〕 nucun, tuusjun
 トートー〔鶏を呼ぶ声〕 'juuijuui
 とおのく〔遠のく〕 tuunucun
 とおのり〔遠乗り〕 micifuci
 とおまわり〔遠回り〕 tuumigui
 とおめがね〔遠眼鏡〕 tuumikagan
 とおり〔通り〕 mama, tuui/ (…の)～にする
 ʔutaasjun
 とおりすぎる〔通り過ぎる〕 haikwaasjun,
 haikwiijun
 とおりぬけ〔通り抜け〕 tuuruu
 とおりみち〔通り道〕 tuuimici
 とおる〔通る〕 tuujun
 とか〔助詞〕 -tigaroo, -tijai, -tijari
 とが〔科〕 tuga, →つみとが
 とかい〔渡海〕 tukee
 とかき〔斗掻〕 tookaci
 とかけ〔蜥蜴〕 ʔandaɕaa, →kooreegusju-
 kwee, ʔwaatuʔoojaa
 とかす〔溶かす〕 tukasjun
 とがにん〔答人〕 tuganin
 とがめ〔答め〕 tugami
 とがめる〔答める〕 tugamijun
 とかられっとう〔土噶喇列島〕 sicitoo, →
 micinusima/ ~の沖 sicitootonaka
 とがる〔尖る〕 tugajun/ とがった口 ha-
 juuguci/ とがった先 tugai/ とがって
 立ったもの taqcuu
 とき〔時〕 tuci, →baa, basju, ciwa, zibu-
 n, おり, じかん, じき/ ~には manee/ ~
 の声 tucinukwii/ ~を占うこと tucitui/
 ~を占う役 →tucinuʔuhujakuu/ ~を失
 していること tuciʕiri/ ~を作る →tuci
 とぎ〔伽〕 tuzi
 ときぐし〔解き簪〕 sabaci
 ときどき〔時々〕 cuʔpuziqpu, tuciduci,
 ʔucimaaimaai, →まれ
 ときどき dakudaku, dusadusa, 'Nnida-
 kudaku, 'Nnidonɔn, 'Nnigitugitu,

taqtuihwiqtui, →どきん
 ときふせる〔説き伏せる〕 →せつとくする
 ときほぐす 'waqkwasjun
 どきまぎ moodoo 「る者'waamuci
 どきょう〔度胸〕 'waa, →ʕirawaa/ ~のあ
 ときょうそう〔徒競走〕 haaeesjuubu
 どきん hwiqsui/ ~どきん hwiqsuihwiq-
 sui, →どきどき/ ~とさせる dusamika-
 sjun/ ~とする dakumicun, hwiqsui-
 mikasjun
 ときんする〔鍍金する〕 hwaasjun
 とく〔得〕 sjuutuku, tuku, →えき, りえき
 とく〔徳〕 tuku/ ~のある人 tukumuci
 とく〔解く〕 hutucun, →kusireejun/ 髪
 を~ sabacun
 とぐ〔研ぐ〕 hweesjun, tuzun/ とぎ賃
 どく〔毒〕 duku [hweesidima
 どく〔退く〕 ducun, dukinajun, →のく
 とくい〔得意〕 →kooimunsjaa/ ~とする
 'iijun/ ~とするもの 'iiti, 'iirimun
 どくけし〔毒消し〕 dukugeesi
 どくしょ〔読書〕 ʕimihuku, →huku
 どくしんせいかつ〔独身生活〕 cuigurasi,
 duucigurasi, →ひとりもの
 どくぜつ〔毒舌〕 →kuciguhwasan/ ~家
 kuciguhwaa 「mucicirisigutu
 どくせん〔独占〕 muciciri/ ~してする仕事
 どくだん〔独断〕 duukangee 「きどぐち
 とぐち〔戸口〕 hasiruguci, 'jaaduguci, →
 とくと〔篤と〕 tukuqtu, →じゅうぶん
 とくに〔特に〕 kawati, ʕiruwakiti
 とくのしま〔徳之島〕 tukunusima
 どくぶつ〔毒物〕 'wiigoomun, 'wiimun
 とくべつあつかい〔特別扱い〕 →とくに/ ~
 にする →mutiwakasjun
 どくみ〔毒味〕 ʔucuubi
 どくやく〔毒薬〕 dukugusui
 どくりつ〔独立〕 cuidaci, →じかつ/ ~家屋
 とげ〔刺〕 'Nzi [mucicirijaa
 とけい〔時計〕 tucii

とけ

とける〔溶ける〕 tukijun
とける〔解ける〕 hangwijun
とげる〔遂げる〕 tuzijun
どける〔退ける〕 dukijun, dukinasjun,
nukijun, sizirakasjun, →おしのける
とこ〔床〕 tuku, →ねどこ
どこ maa/ ~か maagana/ ~だどこだ
maagamaagaa/ ~の maanu/ ~までも
maamaadin/ ~もかも maankwiin, si-
rukucimaakuci
とこずれ〔床擦れ〕 ninzihagi
とこや〔床屋〕 ranpaçijaa, →かみゆいどこ
とこよ〔常世〕 →giraikanai, gireekanee,
niraikanai, nireekanee
ところ〔所〕 tukuru, →ばしょ
ところで〔助詞〕 -teeman, -teen
ところてん〔心太〕 kuuribuutu, tinşii-
kan, tugurutin
ところどころ tukurudukuru, →あちこち
ところばらい〔所払い〕 tukurubaree
とさ〔助詞〕 -nda, -tisa
とさか〔雞冠〕 kanzi
とさず〔閉ざす〕 micijun, →とじる
とさつぎょうしゃ〔屠殺業者〕 ?waasjaa,
どさどさ ãusadusa ↳→うしころし
とし〔年〕 tusi, -tu, →?jaca/ ~が改まっ
て方向の悪いのが直ること tusinooi/ ~
がいもなく →?juca/ ~とった親 tusjui-
?uja/ いい ~をした者 ?jucanumun,
tusinamun/ ~とって見える ?wiiraas-
jan/ ~の功 tusinukuu/ ~のほど tu-
sibee/ ~をとる ?wiijun/ ~を経ている
こと ninhwiri
としようえ〔年上〕 şiiiza, tusişiiiza, tusi-
?wii, →ねんちょう/ ~と年下 →?uqtu-
şiiiza/ ~の人たち şiizakata 「ごろ
としかっこう〔年格好〕 tusikaqkoo, →とし
としご〔年子〕 / ~を産むこと tankaami-
si, tiçimisi
とじこめる〔閉じ込める〕 micikumijun

としごろ〔年ごろ〕 tusiguru, →çirimi,
huđuhudu, nihaciguru, zuusicihaci,
としかっこう, ねんばい
ととした〔年下〕 tusingica, ?uqtu
としのよ〔年の夜〕 tusinujuru
としび〔年日〕 →tusibii
とじまり〔戸締まり〕 simari/ ~の装置sin,
sinzasi, →hasirunusan
としょく〔徒食〕 →むだぐい NnaNgwee
としより〔年寄り〕 tusjui, →tusinamun,
?uhuza, ?wiqcu, (敬語) ?utusijui, お
おとしより/ ~と子供 tusjuiwarabi,
?wiqcuwarabi/ ~の子 tusjuinuqkwa/
~の声 tusjuigwii
とじる〔閉じる〕 kuujun, →しめる
とじる〔綴じる〕 tudijun
としわすれ〔年忘れ〕 tusiwaşiri
どしん / ~と音を立てる ãusamikasjun
どせい〔怒声〕 kunzoo?abii
とせんば〔渡船場〕 ?watanzi
どだいいし〔土台石〕 nii?isi
とだえる〔途絶える〕 tudeecun, tudeejun
とだな〔戸棚〕 kwii, tudana
トタン duutan 「ziincu
とち〔土地〕 zii, →tukuru, じしょ/ ~の人
とちゅう〔途中〕 micinaka, →ちゅうと
とつおいつ ?uciijaqçii
とつか〔徳化〕 tuqkwa
とつぐ〔嫁ぐ〕 →diqsin, mucun, tacun,
?utu/ とつがせる →tatijun →かくとら
とつみあい〔取っ組み合い〕 tueeçikamee,
とつみあう〔取っ組み合〕 muşibaajun,
とつくり〔徳利〕 tuqkui [musubaajun
とつぜん〔突然〕 ?aqtani, →?aqt-, きゅ
り, にわか, ふい/ ~の幸運 ?atagahuu/
~のできごと ?aqtagutu
どつちつかず ?unbuikoobui
どつちめる tuqçikijun, tuqcimijun
どつつかまえる tuqqaçimijun, →つかま
える

とっておき〔取って置き〕 kazimimUN
 とつべん〔納弁〕 kucibita/ ～である kuci-
 ?NbusAN
 どて〔土手〕 ?amooci, ?amuci, ?amutu,
 →?inmaasaa 「もない
 とてつもない kakiniN ?oorAN, →とんで
 とても duutu, ?ooi, ?ooja
 どてら〔縋枹〕 ?juuzi
 ととう〔徒党〕 →tutoogumi
 とどく〔届く〕 ?icaajUN, ?icajUN, tuducu-
 N, →およぶ, たつする/ 届かないこと ?ic-
 とどけ〔届け〕 tuduki [leekantii
 とどける〔届ける〕 tudukijUN
 とどこおる〔滞る〕 tatamajUN, tuduku-
 jun, つかえる→/ ～こと tudukuui
 とどのう〔整う〕 tutunajUN/ とどのって
 いないこと saQkoo
 とどのつまり →?uzumi
 とどまる〔止まる〕 ?judunUN, ?jusiNUN,
 tudumajUN, →とまる/ とどまらせる
 ?judumijUN
 とどろかす〔轟かす〕 dusamikasjun
 どなた maa, →だれ
 どなべ〔土鍋〕 saakuu
 となり〔隣〕 narabi, tunai, →ka?unuca-
 si, むこうとなり/ ～近所 cukeetunai,
 keetunai/ ～付き合い tunaibiree/ ～の
 家 cinzu/ ～近所を回ること tunaimaai
 となりちらす〔どなり散らす〕 ?abiihoojun
 となりつける ?adaasjun, taQci?adaasju-
 N, ?udaasjun, →しかる
 となりむら〔隣村〕 tunaimura
 どなる ?abijUN, →さけぶ/ どなって驚か
 す ?abii?udurukasjun/ ～声 kunzoo-
 ?abii
 どの canu, zinu, ziNnu/ ～くらい ca-
 hwi, canusjaku, caQpi, caQsa/ ～くら
 いの caQpeeru/ ～くらいの時間 canna-
 gee/ ～くらいの丈 cadaki/ ～くらいの
 遠さ cagatoo/ ～くらいの長さ canagi/

～場合 canubaa/ ～人 canuQcu, zinuQ-
 cu, →どいつ/ ～辺 maahwin, maari-
 kaa/ ～方向 maamutii/ ～ような canu-
 gutooru, canneeru, →canujoo/ ～よ
 うに canugutu, →canujoo
 どの〔殿〕 -mui
 とのがた〔殿方〕 meewikiga, satumee
 とのさま〔殿様〕 ?umee, →?umeenumee
 とばく〔賭博〕 -かけ, ばくち
 とばす〔飛ばす〕 →tubUN, ?uQtubasjun,
 ?uQtunugasjun
 とびあがる〔飛び上がる〕→はねる/ 飛び上っ
 て驚く〔飛び上って喜ぶ〕 tunmoojun/ 飛
 び上ってさわぐさま tUNturumookaa,
 とびうお〔飛魚〕 tubuu [→?utimai
 とびこえる〔飛び越える〕 tunkwiijun/ 飛
 び越え飛び越え tunkwiihaQkwii
 とびずさる tun?izicUN, →とびのく
 とびでる〔飛び出る〕 tunzijUN
 とびとびに〔飛び飛びに〕 tubeetubee
 とびのく〔飛び退く〕 tunNajUN, tun?izi-
 cUN, →のく
 とびはぜ〔魚名〕 ?iibuu, tontonmii
 とびはなれる〔飛び離れる〕 tunbanarijun
 とぶ〔飛ぶ〕 tubUN, →?uQtubUN, はねる/
 ～鳥 tu-bitui/ とんだりはねたり→?udui-
 とべら〔植物名〕 tubira [hani
 とほ〔徒歩〕 kaci
 とほう〔途方〕 / ～にくれる →tihoo/ ～に
 暮れること zaama, zaamatiima
 とほし〔灯〕 tubusi, →とるか
 とほしくなる〔乏しくなる〕 →teejun
 とほる〔点る〕 tubujUN
 とま〔苫〕 tuma
 どま〔土間〕 →?sikubuu
 とまどう〔戸惑う〕 zamadujUN/ ～こと
 zamadui, zamaduikaa, zamaduikaadui
 とまり〔泊まり〕 tumai 「jaa
 とまり〔泊〕 (地名) tumai/ ～の者 tuma-
 とまる〔止まる〕 ?jusiNUN, tumajUN, →
 とどまる, やむ/ 止まらせる ?jusimijUN

とまる〔泊まる〕 'jađujun, tumajun
 とみ〔富〕 'tweeki
 とめる〔止める〕 cizijun, tumijun, →
 とめる〔泊める〕 tumijun 〔やめる〕
 とも〔友〕 →ともだち
 とも〔供〕 tumu, (敬語) ?utumu
 とも〔共〕 mama/ ～に →いっしょ
 とも〔鱈〕 tumu/ ～の方 matumu
 とも〔助詞〕 →tuN
 ともあれ nuujatinkwiijatIn, →さておき
 ともだち〔友だち〕 dusi, →しんゆう/ ～付
 き合い đusibiree, dusikugee/ ～と親し
 み過ぎること đusimuçiri
 どもり ?Nzanaa, ?Nzani
 ともる〔点る〕 tubujun
 どもる〔吃る〕 →?Nzani
 どやつ →どいつ
 どよう〔土用〕 đuujuu
 とら〔虎〕 tura
 とら〔寅〕 tura
 どら〔感動〕 'nda
 どら〔銅鑼〕 muragani
 とらえる〔捕える〕 kaçimijun, →つかまえ
 る/ 捕えてしぼる karamijun
 どらごえ〔どら声〕 đuragwii
 とらのおらん〔植物名〕 turanuzuu
 とり〔鳥〕 tui, (卑語) →'jumuđui, 'jumu-
 đujaa, →にわとり/ ～の一種 kukaru/
 ～を捕えるかご ?utusiguu
 とり〔酉〕 tui/ ～年の人 tuinuqcu
 とりあつかい〔取り扱ひ〕 mutinasi, tui-
 ?açikee, tuNzaku, →あつかい
 とりあつかう〔取り扱ひ〕 tui?açikajun, →
 あつかう 〔→あつめる〕
 とりあつめる〔取り集める〕 tuicameejun,
 とりあわせ〔取り合わせ〕 tujaasimun
 とりあわせる〔取り合わせる〕 tujaasjun
 とりい〔鳥居〕 turi 〔cutinđukuru〕
 とりえ〔取り柄〕 tuiđukuru/ ひとつの～
 とりおさえる〔取り押さえる〕 tuqçikijun

とりおとす〔取り落す〕 tuihansjun, tui-
 ?utusjun 〔mudusjun〕
 とりかえず〔取り返す〕 tuikesjun, tui-
 とりかえっこ〔取り替えっこ〕 →こうかん
 とりかかろ〔取り掛かる〕 sikakajun
 とりかご〔鳥籠〕 soominaakuu
 とりかこむ〔とり囲む〕 kanimaasjun
 とりかわし〔取り交わし〕 tuikee, (敬語)
 ?utuikée 〔そく, けいやく〕
 とりきめ〔取り決め〕 tuiciwami, → やく
 とりけす〔取り消す〕 ?iikesjun
 とりこしくろ〔取り越し苦勞〕 ?umaan-
 gasagasa, ?waabasiwa, ?waaba?umii
 とりこむ〔取り込む〕 tuikunun
 とりざた〔取沙汰〕 →らわさ 〔はい〕
 とりしまり〔取り締まり〕 tuisimari, →し
 とりしまる〔取り締まる〕 tuisimajun, →
 かんとく, かんりする, しい
 とりしらべ〔取り調べ〕 tuisirabi, →しらべ
 とりすがる〔取り繕る〕 tuişigajun, →つき
 まとろ/ ～さま tuişigaişigai 〔てる〕
 とりすてる〔取り捨てる〕 tuişitijun, →す
 とりそろえる〔取り揃える〕 tuisuraasjun
 とりちがえる〔取り違える〕 mamizun, tu-
 icigajun, →まちがう
 とりちらす〔取り散らす〕 sizeerakasjun,
 tuicirakasjun, tuicirasjun 〔içizi〕
 とりつぎ〔取り次ぎ〕 tuigizi, (敬語) ?utu-
 とりつぐ〔取り次ぐ〕 tuigizun 〔kurijun〕
 とりつくろ〔取り繕り〕 çukurijun, çu-
 とりつける〔取り付ける〕 şigijun, →つけ
 とりで〔岩〕 guşiku 〔る〕
 とりなし tuinasi, →しゅうせん
 とりなす tuinoosjun
 とりはからう〔取り計らう〕 tuihakarajun,
 tuihwakarajun, →はからう
 とりはだ〔鳥肌〕 hukugii/ ～が立つ huku-
 cirugeejun, hukugidacun, tuihukugi-
 dacun, →hukugaa/ ～が立つこと kii-
 hukugidaci

とりぶん〔取り分〕 tuimee, →わけまえ
 とりまき〔取り巻き〕 ʔuutikwee
 とりまく〔取り巻く〕 macaasjun
 とりめ〔鳥目〕 ʔurumiqkwaaw
 とりもち〔鳥鱗〕 ʔjanmuci, mucu
 とりもどす〔取り戻す〕 →とりかえす
 とりやめる kundasjun, →ちゅうし
 どりょうがある〔度量がある〕 cimubirusa-
 N, →かんよう 「→つとめる
 どりよくする〔努力する〕 ʔumihamaJun,
 とりよせる〔取り寄せる〕 tuijusijun
 とりわけ kawati, ʔiruwakiti
 とる〔取る〕 tuJun, →らばり, うばいとる,
 かすめとる/ 取ったりごまかしたりするさま
 keetuihwicitui/ 取って集める tui-
 cameeJun/ 取って置く hwicinasJun,
 tabuJun, tuimaasJun/ 取って自分のもの
 にする tuikunun/ 取ってしまひる hwi-
 qtujun/ 取り放題 tuiBUSjahundee/ 盛
 んに〜 tuiqikijun
 ドルばこ〔ドル箱〕 zinbaku
 どれ ziru/ ～くらい(～だけ, ～ほど)caa-
 sjuka, cahwi, camisi, camisika, canu-
 sjaku, canusjuka, caqpi, caqsa, casa-
 kii/ ～ほどでも caqsaN/ ～ほどの caq-
 どれ〔感動〕 ʔnda [peeru
 どれい〔奴隷〕 →naagu, ʔNza, ʔNzaqkwa
 どろ〔泥〕 duru, →つち/ ～だらけ duru-
 どろあし〔泥足〕 ʔurubisja [buqtaa
 どろあそび〔泥遊び〕 durumutaan, ʔnea-
 mutaAN
 とろう〔徒勞〕 ʔada, ʔNnananzi
 どろた〔泥田〕 ʔubi, ʔubita
 とろとろ nurunturun, turuturu
 どろどろ duruduru, gwengwen

とろび〔とろ火〕 turuturuubii
 どろぼう〔泥棒〕 nusudu, →hwizaidiina-
 gaa/ ～する nusunun/ 目の前で～する
 こと miihainusudu/ ～猫 gacimajaa,
 →ʔuhugacimajaa/ ～よけに畑にさす串
 ziiguusi, ziigusi
 どろみず〔泥水〕 durumizi
 どろみち〔泥道〕 durumici
 どん don/ ～という音を立てる donmika-
 sjun/ ～どん dondon
 どん〔鈍〕→にぶい / ～な者 dunnamun
 どんかん〔鈍感〕 kanduu, →にぶい
 どんす〔緞子〕 dunsi
 とんちんかん / ～な話 minKuzirimumu-
 gatai
 とんでもない kuuwee, →maanu, ʔumu-
 Jun, とてつもない, めっそうな/ ～事
 kawaqtakutu, ʔumaaranmun
 どんてん〔曇天〕 kumuidinci, →くもり
 どんな caaru, canugutooru, canna,
 canneeru, →いかなる/ ～に caasjuka,
 canugutu, canusjuka, ʔikira/ ～に沢
 山 casakii/ ～に長い間 cannagee/ ～遠
 方 cagatoo/ ～もの canugutooruu
 どんぶり〔丼〕 dunburi, makai/ ～の一種
 →sjunkan, ʔwanbuu/ ～の大きいもの
 ʔaramakai, ʔaramakajaa/ ～料理を持
 ち寄ってする宴会 dunburiinucaasii
 とんぼ ʔaakeezuu/ ～の一種 kazihuciʔa-
 akeezuu, naakudaamaa, taamaa/ ～の
 羽のように美しい着物 ʔakezubaninsu
 とんぼがえり ginburugeei
 とんま →まぬけ
 どんよく〔貪欲〕 goojuku, →よくばり/ ～
 な者 goojukuu, ʔuhujukuu

な[名] naa, →なまえ/ ～があがる najaa-
 な[菜] ŋoohwa, →naa lgajun
 な(禁止) -na
 なお(助詞) 'jaa, 'joo
 ない[無い] neen, neeran/ ～こととして
 おく物 neeranmun/ …の～者 mook-
 aa, mookuu, -moo, -muqkoo
 ないがい[内外] ŋucihuka
 ないかく[内閣] →hjoozoozu, (敬語) gu-
 hjoozoozu, ŋuza
 ないしょ[内証] miŋikaqteen, neesjuu
 ないじょう[内情] ŋucuu, →じじょう
 ないしょばなし[内証話] neesjuubanasi,
 gumamunugatai
 ないしん[内心] cimuyuci, したごころ/～
 喜ぶこと sicajurukubi
 ないぞう[内臓] hwii, 'watamiimun, →
 ぞうもつ, ほらわた
 ないちまい[内地米] →ほんどさん
 ないつう[内通] neequu, →うらぎる
 ないない[内内] →うちうち
 ナイフ ŋiigu
 ないふくやく[内服薬] numigusui
 ないぶん[内分] neebuN
 なう[綱う] noojuN
 なえ[苗] nee
 なえぐ[蹙ぐ] neezun
 なえる[萎える] neejuN, →しなびる
 なお[猶] 'juku, 'jukun, →さらに
 なおす[直す] hwicinoosjuN, noosjuN,
 →tuinoosjuN, しゅうぜん, しゅうり
 なおる[直る] noojuN, →こんじする
 なおれ[名折れ] kusihwici, nauri, →ふめ
 いよ 「kaguru/ ～の物 nakatii
 なか[中] mii, naaka, naka/ ～ごろ na-

なか[仲] naaka, naka, →むつまじい, ふ
 なか/ ～が悪い kuhwasan/ ～が悪いこと
 hunaka, kuku/ ～が悪くなる kuhwaj-
 un/ ～をとりもつさま naakatuihatatui
 ながあめ[長雨] nagaŋami, nagabui
 ながあるき[長歩き] nagaŋaqci
 ながい[長い] nagasan, nageesan/ ～間
 nagee, nagadee/ ～間ずっと nagadu-
 si, nagiduusi/ ～命 mumuci/ ～旅路
 nagamici/ ～病気 nagajami/ ～もの
 naga/ 長くかかる karakajuN/ 長くか
 かること nagagakai, nagagarakee/ 長
 くつらなるさま ŋirinaganaga
 ながい[長居] nagaŋibi, nagaii, →ながざ/
 ～する人 nagaŋibaa 「ちょうじゅ
 ながいき[長生き] coonii, nagaŋici, →
 ながおい[長追い] nagaŋuui
 なががい[仲買人] ŋacoodu, bakujoo/
 ～のことは ŋacooduguci
 ながさ[長さ] nagi/ 一定の～ cunaagi/
 ～が足りないこと ŋiceehandii
 ながざ[長座] nagaŋa, →ながじり
 ながし[流し] mintana
 ながしめ[流し目] hwicimi, sjoomi
 ながじり[長尻] nagaŋibi, →ながい, なが
 ざ/ ～の者 nagaŋibaa
 ながす[流す] nagasjuN
 ながそで[長袖] /～の上着 →maakwaa
 なかぞら[中空] nakabi, →そら
 なかぞり[中剃り] nakazui
 なかたがい[仲違い] naakaguhwai, naa-
 katagee, →なか
 なかだち[仲立ち] nakadaci, nakaŋiri
 ながたび[長旅] nagaŋaqci
 ながつづき[長続き] nagaŋizici/ ～させる

mutuusjun/ ~する mutuujun
 ながとうりゅう[長逗留] 'juudu
 なかなおり[仲直り] naakanooi, nakano-oi, 'wabuku/ ~する →kuneejun/ ~させる, →わかいさせる
 ながながと[長長と] / ~寝ること naga-booī, nagahoojaa/ ~ねそべること naganubitoori/ ~延びたもの nagahwee-
 ながなき[長鳴き] tacinaci [raa
 なかにわ[中庭] nakaniwa
 ながねん[長年] naganin
 なかば[半ば] micinakara, nakaba, naka-
 ra, nakaramici, →とちゅう, はんぶん
 ながびく[長引く] hwicurujuun, hwicu-
 ruujuun, nagabicun/ 病気が~ namata-
 rijun/ ~こと nagagakai, nagagarakee,
 nagahwicurui, nagahwicuruu, naga-
 hwicuruui/ ~さま hwicuruumucuruu
 なかま[仲間] çiri, dusi, 'eezuu, guu,
 →kata, どうりょう/ ~となること ka-
 taree/ ~に入れる katarajuun/ ~はずれ
 guuhandaa, guuhaziraa
 なかみ[中身] mii
 なかむかし[中昔] nakamukasi
 ながめ[眺め] nagami
 ながめる[眺める] nagamijun, →みる
 ながもち[長持ち] nagamuci/ ~する ta-
 mucun
 ながもの[蛇の忌み詞] nagamun
 なかやすみ[中休み] nakajaşimi, nakaju-
 kui, →きゅうそく
 ながやすみ[長休み] nagajaşimi
 なかゆび[中指] naka?iibi
 なかよく[仲よく] kanaganaatu, →kama-
 sikajun, むつまじい/ ~すること 'wa-
 dan, 'wagoo, 'wagoowadan, 'wadan-
 なかよし[仲良し] 'iinaaka [wagoo
 ながら -agiinaa, -gacii, -ganaa, -naga-
 ra, -nagiinaa
 ながらえる[長らえる] nagrajuun

ながらく[永らく] →ながい
 ながれ[流れ] nagari
 ながれぼし[流れ星] husinujaa?uucii
 ながれる[流れる] hajun, nagarijun/ よ
 どもなく~さま soorusooru, soorusoo-
 ながわづらい[長煩い] nagajami [ruu
 なぎ[凧] turi
 なきあかす[泣き明かす] naci?akasjun
 なきいる[泣き入る] naci?ijun
 なきがお[泣き顔] nacigau
 なきくらす[泣き暮らす] nacikurasjun
 なきごえ[泣き声] nacigwii, →なく
 なきさけぶ[泣き叫ぶ] ?abijun, →tinsa-
 ma, なきわめく
 なきじん[今帰仁](地名) nacizin/ ~の者
 nacizinaa
 なきつかれる[泣き疲れる] nacikwaarijun
 なきつく[泣き付く] nacikakajun
 なきなた[長刀] nazinata
 なきまね[泣きまね] nacineebi
 なきむし[泣き虫] nacibusi, nacibusjaa
 なきわめく[泣きわめく] ?abijun, →なき
 さけぶ/ ~者 ?abijaa
 なきわらい[泣き笑い] naciwaree
 なく[泣く] ?abijun, hwiizijun, nacun/
 ~さま nacigeegee, →?aqqijoo, 'Ngaa-
 Ngaa, siqkuihaqkui, siqkweehaqqwee,
 'weewee/ ~よ様な話し方 nacimunii,
 nacimunu?ii/ めそめそ~こと sipitain-
 ci, 'wiiruunaci/ 泣きそらな顔 çirajoo/
 泣きそらなさま nadagurumaai, nada-
 gurumaajaa/ 泣きながら言うこと mu-
 nu?iinaci
 なく[鳴く] ?abijun, hukijun, nacun,
 ?utajuun/ ~せみ ?abijaa/ ~もの ?abi-
 jaa
 なく[凧] turijun
 なくさむ[慰む] nagusanun
 なくさめ[慰め] nagusami
 なくさめる[慰める] nagusamijun, nagu..

なく

sanuN, →cimu
なくす〔無くす〕 ?usinajun
なくなく〔泣く泣く〕 nakunaku
なくなる〔無くなる〕 →siru
なぐりつける suguikeerasjun
なぐりとばす suguitubasjun
なぐる ?atijun, niijun, siçikijun, sugujun, →kurusjun, tii, うつ, たたく
なげあい〔投げ合い〕 nagiee
なげうり〔投げ売り〕 şiti?ui
なげく〔嘆く〕 /嘆いて kuriigurii
なげこむ〔投げこむ〕 nagincun
なげすてる〔投げ捨てる〕 cannagijun, hannagijun, ?uqçangijun, →すてる
なげちらす〔投げ散らす〕 /~こと nagibakaree/ 投げ散らしておくこと nagihoorii
なげもの〔投げ物〕 şitimun
なげやり〔投げやり〕 nagihoorii
なげる〔投げる〕 nagijun
なご〔名子〕 naagu/ ~の住む宅地 'isici/ ~の住む宅地の地代 'isicigane
なこうど〔仲人〕 nakadaci/ ~口 →?acooduguci
なごむ〔和む〕 turijun, →おだやか
なごらん〔名護蘭〕(植物名) naguran
なごり〔名残り〕 naguri/ ~惜しい ?acizaran, nagurisjan
なさけ〔情〕 nasaki, sinasaki, →あいじょう, じょう, にんじょう, めぐみ/ ~をかける →cimu/ ~深い →やさしい
なさけない〔情ない〕 çirinasan
なざし〔名指し〕 nazasi
なし〔無し〕 -moo, -muqoo
なしとげる〔成し遂げる〕 tuzimijun
なす〔茄子〕 naaşibi
なす〔為す〕 →する
なすりつける şirinaşijun, şiriçikijun/
なすりつけてのがれる şirinugaajun
なする〔擦る〕 naşijun, →こする

なぜ〔何故〕 →caa
なぜ〔謎〕 ?akasimun, munu?akaşee
なぞる damijun
なた〔鉋〕 'jamanazi, →おの
なだ〔灘〕 naça
なだかい〔名高い〕 naa?juru, →cikwii-jun, naa, tujunun, ?utu?ucun/ ~もの cikwiitamun, nadakeemun,
なたねあぶら〔菜種油〕 maa?anda
なだめる〔宥める〕 şikasjun/ なだめすかすこと şikasiimaasii
なつ〔夏〕 naçi/ ~の初め naçiguci, 'wakanacı
なつかしい〔懐しい〕 ?anagacisan
なつき〔夏着〕 naçimun
なづけ〔名付け〕 naaşikii
なっとくする〔納得する〕 ciciwakijun
なっぱ〔菜っ葉〕 ?oohwa, →naa
なつまけ〔夏負け〕 humicimaki, naçimaki
なつもの〔夏物〕 naçimun
なでる〔撫でる〕 nadijun/ 撫で回すさま ?amasaaikumasaai
など〔助詞〕 -ndee/ ~と -naqkwee
なな〔七〕 →しち
ななくさ〔七草〕 nankanusiku
ななつ〔七つ〕 →しち
ななつぼし〔七つ星〕 nanaçibusi
ななひろ〔七尋〕 nanahwiru/ ~半 nana-hwirunnaakari 「beejun
ななめ〔斜め〕 nanbee/ ~にする nan-
なに〔何〕 nuu, →なん/ ~か nuugana/
~する nuusjaru/ ~とぞ doodin/ ~何
nuunu/ ~ほどの nuusjaru/ ~もかも
nuunkwiin/ ~やかや nuujaakwiijaa,
nuukwii
なにがし〔何某〕 nanigasi, nugunaa
なにごと〔何事〕 nuugutu
なにぶん〔何分〕 nanibun, nanbun
なにもの〔何者〕 taannumun
なのか〔七日〕 sicinici/ ~ごとの法事 na-

Nka/ ~正月 nanKanusiku
 なのり[名乗り] nanui/ ~の頭に用いる字
 nanuigasira/ ~を付ける nanujun
 なのる[名乗る] nanujun
 なは[那覇] naahwa, nahwa/ ~の人 naa-
 hwanču, →naahwaa
 なびく[靡く] nabicun, →たなびく
 なふだ[名札] nahuča
 なぶりもの[なぶり者] nabakuimun
 なぶる nabakujun
 なべ[鍋] naabi/ ~釜の修理 naabinakuu,
 naabinukuu/ ~の一種 niNmeenaabi,
 sanmeenaabi, siNmeenaabi, →naabi/
 ~のふた naabinuhuta, kamanta/ ~を
 さぐって食うこと naabisagui
 なべずみ[鍋墨] naabinuhwingu
 なま[生] nama/ ~である namasan/ ~の
 いも nama?Nmu/ ~のもの namamun
 なまいき[生意気] šiisan, ?waaci/ ~で
 ある ciidakasan/ ~な者 ciidakamun,
 cigweemun, ciigweemun, →?icisaka-
 sinza/ ~になる cigweejun
 なまえ[名前] naa, namee, →からな, せ
 い, な, なのり, わらべな
 なまぐさい[生臭い] hwirugusasan/ ~に
 おい takakaza/ ~もの hwirugusari-
 mun/ なまぐさ坊主 sisikweeboozi
 なまくら maguraa
 なまけもの[怠け者] dazaku, guuda, 'ju-
 rarijaa, 'jurasimun, 'jurasjaa, mii
 ?Nmasimun, namatarimun, →ぐうたら
 なまける[怠ける] 'jurarijun, namatar-
 jun, ?ukutajun/ ~こと 'jučaŋ, 'juda-
 ntaari/なまけがち 'jurasihai
 なまごろし[生殺し] namagurusi
 なます[膾] namaši
 なまにえ[生煮え] →はんにえ
 なまにく[生肉] namazisi
 なまぬるい →てぬるい, ぬるい/ ~さま
 nuruqkwikaa/ ~者 nuruqkwimun/

なまぬるくなる nuruqkwijun
 なまみず[生水] namamizi
 なまもの[生物] namamun
 なまり[鉛] mizikani, namari, sirukani
 なまり[訛り] kutuba, →ほうげん
 なまる[鈍る] magurijun, namarijun
 なみ[波] nami
 なみ[並み] ċini, nami, →ふつう
 なみかぜ[波風] namikazi
 なみだ[涙] miinada, minada, nada, na-
 mida/ ~ぐんださま nadagurumaai, na-
 dagurumaajaa
 なみだもろい[涙もろい] nadajoosan
 なめくじ[蛞蝓] namimusi, namimusjaa
 なめらか →naduqtNee, すべっこい/ ~で
 ある nandurusan/ ~に出るさま sooru-
 sooru, soorusooruu
 なよなよと →'jujuzurasan
 ならい[習い] →-naree
 ならう[習う] narajun/ ~こと -naree/
 習いおぼえる ?ukitujun/ 習わせる na-
 raasjun
 ならう[俵う] ?utaasjun, →まね
 ならず[鳴らす] narasjun
 ならず[均らす] narasjun, toomijun, tu-
 namijun, ?usitunamijun, →へいきん
 ならずもの[ならず者] hurimun, zaa-
 hweemun, →ふりよう
 ならび[並び] narabi
 ならぶ[並ぶ] kunabajun, nanun, nara-
 bun, →つらなる/ 並んで →ċirinagaa-
 nagaa 「→つらねる
 ならべる[並べる] kunabijun, narabijun,
 ならわし[習わし] naree, ?uku, →しゅう
 かん
 なり nai, →さま, なりふり, ふくそう, み
 なりきん[成金] ?aqta?weekinču しなり
 なりふり huuzi, →なり
 なりもの[鳴り物] naimun
 なりもの[生りもの] naimun, →み

なり

なりゆき〔成り行き〕 ?icinai, narijuci, →
 しいだい
 なる〔成る・為る〕 najun/ なりかけ -nai-
 gataa/ なりきる naicirijun/ なりそこ
 なる naihansjun/ お…に～ -mišecn,
 -Nšeen 「najun
 なる〔生る〕 najun/ ならせる narasjun
 なる〔鳴る〕 najun
 なるべく naraba, nareja, narubici, →
 なるほど naruhudu, 'Nca, →いかにも,
 まことに
 なれ〔慣れ〕 nari, →しゅうかん
 なれそめ〔馴れ初め〕 narisumi
 なれる〔馴れる・慣れる〕 narijun, siina-
 なわ〔繩〕 čina, činanaa, naa 「rijun
 なわしろ〔苗代〕 naasiru/ ～を張ること
 hainna 「cubi
 なわしろいちご〔苗代苺〕 (植物名) moo?i-
 なん〔何〕 nuu, →nan-, なに/ ～だかだ
 nuudookwii.loo/ ～といること nuuti-
 kutu/ ～とか ?ansawankansawan,
 caagana, nugunaa/ ～としても caa-
 sinkaasin/ ～とても nuutunkwiitun/
 ～とも caadin, caaundin/ ～ともない
 →caa/ ～の maanu, nuusjaru/ ～のか
 の nannuukannuu, nuukwii, nuunu-
 kwiinu, nuusjankwiisjan, →nuu?ici-
 nkwiificin/ ～のさしさわりもない nu-

usabiNneen/ ～の拍子に nuutungan
 なん〔難〕 nan 「aasi
 なんぎ〔難儀〕 nanzi, nanzikunzi, teesoo,
 →こまる
 なんきんぶくろ〔南京袋〕 kasigaabukuru/
 ～の布 kasigaa
 なんきんまい〔南京米〕 toogumii
 なんきんまめ〔南京豆〕 ziimaami 「biira
 なんきんむし〔南京虫〕 hwiiraa, qcukwee-
 なんご〔喃語〕 'Nkuu, →toonukuci/ ～す
 る幼児 →toonukucaa
 なんこつ〔軟骨〕 gusumici
 なんこん〔男根〕 →いんけい
 なんざん〔難産〕 nansan
 なんじ〔何時〕 nanduci
 なんしょく〔男色〕 →'wakasju
 なんせん〔難船〕 nansin
 なんて〔助詞〕 -naqkwee
 なんと〔何度〕 ?ikukeen, nandu, →たび
 なんとどき〔何時〕 →いつ 「たび
 なんにち〔何日〕 ?iqka, nannici
 なんにん〔何人〕 ?ikutai, nannin/ ～様
 ?ikutukuru
 なんねん〔何年〕 nannin
 なんばん〔南蛮〕 nanban
 なんばんやき〔南蛮焼き〕 nanban, nan-
 bangaami
 なんびき〔何匹〕 nanbici

に

に〔2〕 nii, taači, →ta-, ふう
 に〔荷〕 →にもつ
 に (助詞) -ga, -kai, -nai, -nakai, -ni
 -nkai
 にあい〔似合い〕 'iinee, nawai, nee, nec-
 tukeetu, niee, niiee, nootakeeta
 にあう〔似合う〕 nawajun, nioojun, noo-

jun, šinajun, ?ucajun, →nootaru,
 につかわしい/ ～こと(～さま) ?ucaisin-
 ai, ?ucataikanatai
 にあがり〔二上がり〕 ?agi, nii?agi/ ～の
 曲 ?agibusu
 にあわしい〔似合わしい〕 →につかわしい
 にい〔新〕 mii-

にいさん〔兄さん〕 ʔahwii, 'jakumii, 'ja-qcii, →ʔaqqii, あに
 にいづま〔新妻〕 miituzi
 にいにいぜみ (蟬の名) siimiigwaa
 にうま〔荷馬〕 niiʔuusaa
 にえきらない〔煮えきらない〕 →tee
 にえゆ〔煮え湯〕 hucijuu
 にえる〔煮える〕 niijun/ 煮え過ぎる niisizijun/ 煮え立つ mugeejun, tazijun/ 煮えたばかりのさま ʔaḡikookoo/ 煮えてくたくたになるさま niikuta
 にえん〔2円〕 hjaḡkwan 「sjaN
 におい kaza, niui, niwi →あくしゆり, あつさ, くさい, ほりころ/ ~がいい kaba-
 におう〔仁王〕 niyoobutuki, niobutuki
 におう →niwidakasan
 にかい〔2回〕 takeen, →にど 「basi
 にかい〔2階〕 niikee/ ~への階段 niikee-
 にかい〔苦い〕 'nzasan/ ~もの 'nzamun
 にかいや〔二階屋〕 niikeejaa
 にかうり〔苦瓜〕 (植物名) goojaa
 にかえし〔煮返し〕 tazirasikeesaa
 にかき〔苦木〕 (植物名) 'nzaki
 にかげつ〔2か月〕 taḡici
 にかす〔逃がす〕 hwinnugasjun, →のがす
 にかつ〔2月〕 nigwaḡ, niNgwaḡi
 にかみ〔苦み〕 'nzami
 にかわ〔膠〕 nikaa
 にかわらい〔苦笑い〕 'nzawaree
 にぎにぎ ciNtuNten
 にきび nikun
 にぎやか / ~なさま gwanḡwan/ ~にする haneekasjun, haneekijun/ ~になる →にぎわり/ 座を~にする者 zaahaneekasjaa, zaamucaa
 にぎりこぶし →げんこつ
 にぎりめし〔握り飯〕 ʔubunnizirii, →ʔan-misi
 にぎりや〔握り屋〕 nizijaa 「かむ
 にぎる〔握る〕 kaḡimijun, nizijun, →つ

にぎわう〔賑わり〕 haneecun, humicun, →にぎやか
 にく〔肉〕 niku, sisi, →ʔaqtami/ ~入り 御飯 sisižuusii/ ~からとったスープ niinuzi/ ~を久しく食べないこと →ʔandagaaki/ ~の市 ʔwaasjaamaci/ ~の塩漬け sjuuḡiki, sjuuzisi/ ~のてんぷら sisitNpura
 にくい〔憎い〕 miḡkwasan, nikusan, →ḡiranikusan, 'janamiḡkwasan/ ~者 miḡkwasamun
 にくい -gurisjan, →むずかしい
 にくじる〔肉汁〕 niinuzi
 にくづき〔肉付き〕 sisimucinai
 にくにくしい〔憎憎しい〕 'janamiḡkwasan
 にくまれっこ〔憎まれっ子〕 'janawarabi
 にくまれもの〔憎まれ者〕 miḡkwasamun
 にくむ〔憎む〕 nikunun
 にくや〔肉屋〕 →ʔwaasjaajaa
 にくらしい〔憎らしい〕 →にくい
 にぐるま〔荷車〕 niguruma, niiguruma
 にげだす〔逃げ出す〕 →hwinnugijun/ 逃げ出した馬 hwingiʔNma
 にげる〔逃げる〕 hwingijun, hwinzijun, nugijun, →とらそうする, のがれる/ 逃げ支度 nugizikooi/ 逃げ回ること hwin-gimaai
 にごう〔2合〕 nigoo, niNgoo
 にごにこ / ~笑う 'wareekanzun
 にごる〔濁る〕 miNgwijun, singwijun/ ~こと miNgwi/ 濁らせる miNgwa-
 にさんねん〔2, 3年〕 tatumitu [sjun
 にし〔西〕 ʔiri
 にし〔螺〕 ḡinbooraa
 にじ〔虹〕 nuuzi
 にしかぜ〔西風〕 ʔutibuci
 にしき〔錦〕 nisici
 にしみなみ〔西南〕 santunii
 にじむ〔渗む〕 cirijun
 にしむき〔西向き〕 ʔirinkee

にし

にしめ〔煮染〕 simimUN
にじゅう〔20〕 nizuu
にじゅう〔二重〕 nizuu
にじゅうあご〔二重あご〕 teeʔutugee
にじゅうえん〔20円〕 siŋgwan
にじゅうごねんき〔二十五年忌〕 nizuuguni-
Nci/ ~と三十三年忌 →ʔubuɕizi, ʔuhu-
ʔusjuukoo
にじゅうしこう〔二十四孝〕(書名) nizuusi-
koo
にじゅうしせつ〔二十四節〕 →siɕi
にじゅっさい〔20歳〕 hataci
にじゅっせん〔20銭〕 tunaa
にしょうだき〔2升炊き〕 nisjuiaei
にせもの〔偽物〕 nisii, nisimUN, →もぞう
にせる〔似せる〕 nisijun
にせんえん〔2000円〕 zuumangwan
にだし〔煮出し〕 dasi
にだす〔煮出す〕 sinzijuN/ 煮出したかす
sinzikaʃi/ 煮出した汁 sinziziru
にたんつづき〔2反続き〕 nitanɕirugi
にち〔日〕 -nici
にちげん〔日限〕 nicizin, →きげん
にちや〔日夜〕 ʔuruhwiru, →いつ
につかわしい〔似つかわしい〕 nawaasjan,
→nootaru, にあう
につき〔日記〕 niqci
にづくり〔荷造り〕 niizukui, nizukui,
につけい〔肉桂〕 garasi, niqci
ニッケル ʔanzin
にっしゃびょう〔日射病〕 hwiimaki
にっしょく〔日蝕〕 niqsjuku
にっちゅう〔日中〕 hwizuu, →ひるじゅう
にっぽん〔日本〕 ʔjamatu, ʔuhujamatu/
~への旅 ʔamatutabi/ ~流のしりから
げ ʔamatuɕihui/ ~政府の統治する時代
ʔamatujuu
にっぽんご〔日本語〕 ʔamatuguci
にっぽんじん〔日本人〕 ʔjamatUNcu, ʔuhu-
jamatUNcu/ ~の気の早さ ʔamatuzih-

wee/ ~の機敏さ ʔamatuguruku
にっぽんひん〔日本品〕 ʔjamatumUN/ ~
の粗末さ ʔjamatusjoohee, ʔjamatusoo-
bee
にど〔二度〕 nidu, →にかい/ ~目 nidumii
にねん〔2年〕 tatu/ ~おき tatugusi
にのいと〔二の糸〕 nakaziru
にのうで〔二の腕〕 keena
にばい〔2倍〕 →ばい 「としごろ
にはちのころ〔二八のころ〕 nihaciguru, →
にばんどり〔二番鶏〕 nibandui
にひゃくもん〔200文〕 nihjaaku, taku-
mui/250文 takumuigunzuu
にぶい〔鈍い〕 duNnasan
にふだ〔荷札〕 niihuda
にぶる〔鈍る〕 namarijun
にぶん〔二分〕 →ふたつわり
にほん〔日本〕 →にっぽん
にまい〔2枚〕 ninmee
にまいがい〔二枚貝〕 ʔahwakee, ʔahwa-
kuu
にまいじた〔二枚舌〕 ɕirataacaa
にまんえん〔2万円〕 hjakumangwan
にもつ〔荷物〕 nii, nimuɕi/ ~にわずらわ
されること niwacaree, niwanɕee
にゃあにゃあ maaumaau
にやっかい〔荷厄介〕 niijaqkee, niwaca-
ree, →おもに, ふたん
にゅうごく〔入獄〕 ruusja
にゅうさつ〔入札〕 ʔirihuda
にゅうし〔乳齒〕 ciikweebaa
にゅうじ〔乳児〕 ciinumingwa
にゅうじょうりょう〔入場料〕 muncin
にゅうせんえん〔乳腺炎〕 ciigasa
にゅうろう〔入牢〕 ruusja
によいほうじゅ〔如意宝珠〕 nubusidama
にようどうえん〔尿道炎〕 siibaijandi
によにんきんせい〔女人禁制〕 ʔwinaguha-
qtu
にら〔葎〕 ciribira

ぬき

imici, nančurumici
 ぬき〔貫〕 nuci /～のある家 nucizijaa
 ぬき〔緯〕 nuci
 ぬきいと〔緯糸〕 nuci
 ぬきがき〔抜き書き〕 nuzigaci
 ぬきて〔抜手〕 tiinuzaa
 ぬきんでる〔抜きんでる〕 nugijun, nugi-
 ?nzijun, tacinugijun, →すぐれる
 ぬく〔貫く〕 nucuN
 ぬく〔抜く〕 nuzun, →ひきぬく
 ぬぐ〔脱ぐ〕 hažijun, nuzun
 ぬぐう〔拭う〕 nugujun, susujun
 ぬけがけ〔抜け駆け〕 sacimaai
 ぬけがら〔抜け殻〕 šidigara, šidiguru
 ぬけげ〔脱げ毛〕 karazibuciki
 ぬける〔抜ける〕 hwicinajun, nugijun/
 抜けてあがる núcagajun
 ぬげる〔脱げる〕 nugijun
 ぬし〔主〕 nuusi
 ぬすっと →どろぼう
 ぬすみぐい〔盗み食い〕 nusudungwee
 ぬすむ〔盗む〕 nusunun/ ～くせ tiigusi/
 ～くせがある tiinagasan

ぬた(料理の名) nuta

ぬの〔布〕 ciri, nunu, →おりもの/ ～に水
 を通すこと →sintaku/ ～の織り始め ka-
 sici, nuuguci/ ～の長さ nunudaki/ ま
 だ水を通してない～ sajumi
 ぬま〔沼〕 kumui
 ぬらす〔濡らす〕 'ndasjun
 ぬらぬら nuurakwaara 「なすりつける
 ぬりつける〔塗り付ける〕 našijun, →
 ぬりもの〔塗り物〕 →しっき
 ぬりものや〔塗りもの屋〕 nuimunjaa
 ぬる〔塗る〕 nujun
 ぬるい nurusan, →なまぬるい/ ～さま
 nuruqkwikaa/ ぬるくなる nuruqkwi-
 jun.
 ぬるまゆ〔微温湯〕 nuruqkwijuu
 ぬるむ〔温む〕 nurunun
 ぬるめる〔温める〕 nurumijun
 ぬれて〔濡れ手〕 siqtaidii
 ぬれる〔濡れる〕 'ndijun, siputajun,
 siqtajun, →siqtai/ 濡れた着物 siqtai-
 zin/ 濡れたさま 'nôikaa, siqtai, siqta-
 ikaatai, sipusipu, siputaikaatai

ね

ね〔根〕 nii, →hwizi, niigui/ ～が付く
 niizicun/ ～が張ること niibai/ ～とこず
 え niisuura/ ～も葉もないこと ?araza-
 rankutu 「kijun
 ね〔値〕 nii, →ねだん/ ～をつける ?uqca-
 ね〔音〕 nii, →おと
 ね〔子〕 nii/ ～の方角 niinuhwa
 ねあせ〔寝汗〕 →hwizuru?asi
 ねいき〔寝息〕 niici
 ねいりばな〔寝入り端〕 niNzihana
 ねいろ〔音色〕 →guin, おと
 ねえ daa, -ii 'jaa 'joo, -kee, sai, sari,

tai, tari

ねえさん〔姉さん〕 →あね
 ねがい〔願い〕 nigeē, →きがん, のぞみ, ね
 んがん/ ～ごと nigeegutu, nigcekanee/
 ～がかなること ?umizituganawai
 ねがう〔願う〕 nigajun, →のぞむ, もとめる
 ねがえり〔寝返り〕 kugee, kugeei, kuma-
 geei, niNzikugee/ ～をうつ →kugee-
 jun, ?uqceejun
 ねがえる〔寝返る〕 ?uqceejun
 ねがお〔寝顔〕 nigau, niNzigau
 ねかせる〔寝かせる〕 niNsijun, →よこたえ

る/寝かせつける muiniNsijun
 ねぎ〔葱〕 bira, zibira
 ねぎる〔値切る〕 ?ibujun/ ~さま ?ibui-
 kabui, ?ibuisiizii/ ~者 ?ibujaa
 ねこ〔猫〕 majaa, majuu, (小児語) maa-
 uu/ さかりのついた~ kuriimajaa/ す
 ごい~ →?ankoomajaa/ ~の名 →tu-
 kuu/ ~の鳴き声 maaumaau/ ~のひたい
 ほど →tiNda/ ~を呼ぶ声 kutukaakutu-
 kaa, kutukutuu
 ねごこち〔寝心地〕 ninzigukuci
 ねござ〔寝ござ〕 sicimusiru
 ねこじた〔猫舌〕 majaaguci
 ねこせ〔猫背〕 siNkoogu, ?usukoogu
 ねごと〔寝言〕 nigutu
 ねこむ〔寝込む〕 →?ucikutasjun
 ねころがる〔寝転がる〕 →niniNgwii
 ねじ〔螺子〕 karakui, niziri, siNmi
 ねじふせる〔挟む伏せる〕 muditoosjun
 ねじめ〔音締め〕 ciNdami, →hwicidamisi
 ねしょうべん〔寝小便〕 ?juusibai
 ねじる〔振る〕 hwinijun, mudijun, →hwi-
 Nmudijun, ひねる/ ねじり倒す →ひね
 ねじれる〔振れる〕 mudijun しりたおす
 ねずみ〔鼠〕 ?weNcu, (小児語) piipii/ ~
 の一種 biicaa/ ~とり ?weNcujaama/
 ~とりの一種 hancuujaama/ ~花火 ga-
 nsinagwaahjooaku
 ねせる〔寝せる〕 →ねかせる
 ねそう〔寝相〕 ninzizama, nizama/ ~の
 悪いこと niniNgwii, niNningwii
 ねそべる〔寝そべる〕 →niniNgwii/ ~こと
 nagabooi, nagaboojaa, naganubitoori
 ねだ〔根太〕 ?jukamuci
 ねたみ〔妬み〕 ?uragoosa, ?waanai, ?wa-
 anee, →?waanaiwaanai, しっと
 ねだること →せがむ
 ねだん〔値段〕 deeni, nii, →こうか, だいか
 ねちがえ〔寝違え〕 ninzicigee, ninzicizee
 ねつ〔熱〕 niçi/ ~が高いさま hwanai/

~が引くこと haqsan/ ~をもって痛む
 こと ?açibiiraci
 ねっから〔根っから〕 niikara
 ねっき〔熱気〕 humici
 ねづく〔根付く〕 niizicun
 ねっこ〔根っこ〕 niigui, →ね
 ねつさまし〔熱さまし〕 haqsangusui, ni-
 çisamasi
 ねっしん〔熱心〕 nin, →nin?iri/ ~でない
 cimunurusun/ ~な人 niNsja
 ねったいちほう〔熱帯地方〕 ?açiguni
 ねっちゅうする〔熱中する〕 hwiçkatakata-
 Ncun, katanCun, mucikwaarijun,
 suunun, →mucikwajun
 ねつっぽい〔熱っぽい〕 hada?açisan
 ねつびょう〔熱病〕 →sjookan
 ねどこ〔寝床〕 zasici, →とこ
 ねばっこい〔粘っこい〕 mucisan
 ねばならぬ →najun
 ねばねば buçtakwaçta, mucamuca,
 muçcaikwaçtai/ ~している mucisan
 ねばりつく〔粘りつく〕 muçcakajun
 ねばりづよい〔粘り強い〕 sipusan/ ~力
 kakaidee/ ~者 kazii, sipuu
 ねびる〔植物名〕 niibiru
 ねぶそく〔寝不足〕 ninzibusuku
 ねぶと〔根太〕 niibutaa, niibutu「さねぼう
 ねぼう〔寝坊〕 niibuimusi, niibujaa, →あ
 ねぼける〔寝ぼける〕 / ~こと nizamasa
 ねほりはほり〔根堀り葉堀り〕 niimicicimi
 ねま〔寝間〕 →しんしつ
 ねまる nitamajun
 ねむい〔眠い〕 ninzibusjan/ 眠くない
 miiguhwasan, →ねむる/ 眠くなること
 niibui/ 眠くなるさま niibuikaabui/ 眠
 そうな眼 niibuimii/ 眠たがって泣くこと
 niibuigaman/ 眠たがる者 niibujaa
 ねむりぐさ〔植物名〕 ninningusa
 ねむる〔眠る〕 ninzun, →ねる/ うとうと
 ~ turumikasjun/ ~さま →gutaguta/

ねも

眠れない miiguhwasan, →kuhwajun/
眠れないこと miiguhwai, miikuhwai/
眠れないさま miikahwakahwa/ 眠れない人 miikuhwajaa

ねもと〔根元〕 niimutu, niisisi

ねものがたり〔寝物語〕 ninzimunugatai

ねる〔寝る〕 ninzun, →'jukujun, (卑語)

ʔahwanacun, (敬語) ʔweesimiʃeen,
ねむる/ ~こと (小児語) niinii/ 寝そこ
なり ninzijanzun/ 寝たい ninzibu-
sjan/ 寝たふり nintahuunaa/ 寝て目を
さましていること ʔukininzii

ねる〔練る〕 nijun

ねわすれる〔寝忘れる〕 ninzihurijun

ねん〔念〕 nin, →ねんいり, ねんのため/
~の入れすぎ ninnukwaa/ ~のために
すること 'juusin/ ~を入れないこと hu-
nin/ ~を入れる人 ninjsja/ ~を押す
kazikakijun

ねん〔年〕 →nin, -tu/ ~がら年中 ninga-
ninzuu, →しじゅう

ねんいり〔念入り〕 ninʔiri, →ねん, よく
よく/ ~に tukuqtu/ ~にする sisijun

ねんがん〔念願〕 ningwan, →ねがい

ねんき〔年季〕 ninziri

ねんき〔年忌〕 ninci

ねんぎめ〔年決め〕 ninziri

ねんきり〔年切り〕 ninziri

ねんし〔年始〕 nintuu/ ~回り nintuu-
maai

ねんじゅう〔年中〕 ninzuu, →しじゅう,
ねん

ねんすう〔年数〕 ninsuu

ねんずる〔念ずる〕 ninzijun, →おもう

ねんだい〔年代〕 nindee

ねんちょう〔年長〕 šiiza, tusiʃiiza, tusi-
ʔwii →としうえ/ ~の者たち šiizakata/
~順 šiizakatasidee, šiizasidee

ねんとう〔年頭〕 nintuu

ねんない〔年内〕 tusiʔuci

ねんね niinii

ねんねん〔年年〕 ninnin

ねんばい〔年配〕 tusibee, tusikaqkoo,
→'juca, としごころ/ ~の人 'jucanumun

ねんぶ〔年賦〕 ninpu, ninziri

ねんぶつしゅう〔念仏宗〕 / ~のときき ni-
nbucaa, ninbuçi/ ~のとききのたたく
鉦 ninbuçigani

ねんまつ〔年末〕 ninʃii/ ~に女郎にくれる
金 tusiziri/ ~の総決算 tusiziri

ねんりき〔念力〕 ninrici

の

の〔野〕 moo

の〔助詞〕 -nu, -ʃi

のあそび〔野遊び〕 mooʔasibii

のうぎょう〔農業〕 harusikuci, muzukui/
~の成績を争う競争 harusjuubu/ ~をす
る →çukujun, haru

のうぐ〔農具〕 / ~の一種 kurumaboo, ku-
sakaci, tibiku, ʔuzunbiira

のうこうぎらい〔農耕儀礼〕 →ʔumaçii, ぎょ
うじ

のうさくぶつ〔農作物〕 çukuimun, çuku-
imuzukui

のうてん〔脳天〕 hjuuruci

のうひんけつ〔脳貧血〕 kukutimingwaa,
kukutimingwi/ ~を起す kukuti-
mingwijun

のうふ〔農夫〕 →のうみん

のうべん〔能弁〕 binkuu/ ~な者 binkuu-
mun, binsja

のうまくえん〔脳膜炎〕 çiburusjookan

のうみん〔農民〕 çukujaa, haruʔaqcaa,
 harusjaa, ʔNmuçukujaa, ziñcu
 のがす〔逃がす〕 hwiŋgasjuN, nugasjuN,
 →にがす
 のがれる〔逃がれる〕 nugaajuN, →にげる
 のき〔軒〕 ʔamidai
 のぎ〔芒〕 ʔNnagee
 のきした〔軒下〕 ʔamidai, →kaziramaai
 のく〔退く〕 ducun, nucun, şizicun, →
 のげし〔植物名〕 maaʔoohwaa ㇿどく
 のける〔退ける, 除ける〕 dukijun, dukina-
 sjun, nukijun, sizirakasjun, →おし
 のこぎり〔鋸〕 nukuziri ㇿのける
 のこす〔残す〕 nukusjuN/ 残したもの nu-
 kusi/ 残して置く hwicinasjun, tui-
 maasjuN
 のこらず〔残らず〕 ʔiqsoonaaii, ʔiqsoo-
 ziicii, →いっさい, ぜんぶ, すっかり, すべ
 のこり〔残り〕 nukui ㇿて, みな
 のこりもの〔残り物〕 nukuimun
 のこる〔残る〕 nukujuN
 のし〔鬩斗〕 nusi
 のせる〔乗せる・載せる〕 nusijuN
 のぞく〔覗く〕 nubagajuN, →かいまみる/
 ~こと suumi/ のぞき込むこと meenu-
 bagai
 のぞみ〔望み〕 nuzumi, sjumoo, →ねが
 い/ ~どおり nuzumiduui
 のぞむ〔望む〕 nuzunun, →ねがう
 のたうつ →siNpui
 のち〔後〕 ʔatu, →あと
 のちのち〔後後〕 ʔatuʔatu
 のっぼ tacaaii, takahazii, takasoo, ta-
 kasoonaa, takasoonii
 ので〔助詞〕 -demunu, -kutu, -munu -nu,
 -şini çittee, -şin çittee
 のど〔喉〕 nuudii/ 食物が~につかえるさ
 ま eiiciikaakaa
 のどか nuduka, →のんびり
 のどびこ〔喉彦〕 nuudiiʔwaagwaa

のどぼとけ〔喉仏〕 nuudiiguuhu
 のに〔助詞〕 →munu, -nagiinaa
 ののしる〔罵る〕 ʔiicijun
 のばす〔伸ばす・延ばす〕 nubasjuN, nubi-
 のはら〔野原〕 moo ㇿjuN, →ひきのばす
 のび〔伸び〕 nubi, nuubi
 のびちぢみ〔伸び縮み〕 nubicizimi
 のびのび〔延び延び〕 ʔinin, nubinubi/ ~
 になる hwicurujuN, hwicuruujuN
 のびる〔伸びる・延びる〕 nubun/ くたくた
 に~ →ʔaata najun, nubacirijun,
 sjoozijuN
 のびる〔植物名〕 niibiru ㇿす
 のべる〔伸べる・延べる〕 nubijuN, →のば
 のぼせ〔逆上〕 nubusi/ ~を直す薬 sagi-
 のぼせる nubusijuN ㇿgusui
 のぼらせる〔都へ〕 nubusijuN
 のほり〔上り・登り〕 nubui/ ~はじめ ʔa-
 gaihana
 のほりくだり〔上り下り〕 nubuikudai
 のぼる〔上る・登る〕 nubujuN
 のぼる〔昇る〕 ʔagajuN/ ~日 ʔagaitiida
 のみ〔蚤〕 numi
 のみ〔盃〕 numi
 のみぐすり〔飲み薬〕 numigusui
 のみこむ〔飲み込む〕 numikunun
 のみともだち〔飲み友達〕 numidusi
 のみみず〔飲み水〕 numimizi, nunmizi
 のむ〔飲む〕 nunun, →kaşijuN
 のやし〔植物名〕 biNroo
 のやま〔野山〕 nujama, →さんや
 のらいぬ〔野良犬〕 ʔjamaʔin
 のらくら daraakwaraa
 のらねこ〔野良猫〕 ʔjamamajaa
 のり〔糊〕 nui/ ~の付いてない着物 →bi-
 tataiziuN/ ~を付けて着る →hwiçpajuN
 のりきになる〔乗気になる〕 citudacun,
 のりと〔祝詞〕 ʔutakabi ㇿnurijuN
 のりもの〔乗り物〕 nuimun
 のる〔乗る・載る〕 nujun

のろ

のろ〔祝女〕 nuru, nurukumii, nuuru, →
みこ
のろい〔鈍い〕 duNnasAN, niisan, nuru-
sAN, →おそい/ のろく niNku
のろい〔呪い〕 ?icizama, nureegutu
のろう〔呪う〕 maNnajuN, →?icizama
のろし〔狼煙〕 hwiitatii/ ~をあげる場所
hwiitatiimco, hwiitatimoo

のろのろ niQcirikeeciri, →もたもた
のろま duNnamuN, tuturuu, →ぐず
のんだくれ →さけのみ
のんびり(〜と) 'jagujagutu, 'juruitu,
'juruqtu, 'juujuutu, ?uqtaimootai, →
のどか, ゆうちょう/ ~しすぎる 'juuju-
uturaaajan

は

は〔葉〕 hwaa, →kaasja, kaasjanuhwaa
は〔歯〕 haa →おくば, きば, ぎゅうし,
けんし, にゅうし, まえば/ ~の痛み
haajami/ ~の無い者 haamoo
は〔刃〕 haa, →かたは, やいば
は〔羽〕 -hwani
は〔助詞〕 -ja
ばあ 'waa
ばあい〔場合〕 baa, basju
ばあさん →おばあさん/ ~づら haamee-
zira
はあはあ hweehwee
はい〔応答〕 hii, hNN, hoo, huu, (肯定)
?ii, ?juu, ?NN, ?oo, ?uu, →?asi
はい〔牛馬を追う声〕 sii
はい〔灰〕 hwee, →karahwee
はい〔肺〕 huku, hwee
はい〔杯〕 (接尾) →cawan
はい〔倍〕 bee/ ~の仕事 beesikuci/ ~の
難儀 beeanzi
はいいろ〔灰色〕 hwee?iru/ ~のもの
hwee?iruu
ばいう〔梅雨〕 →sjuumaNboosjuu
はいえい〔背泳〕 maahwanacaa?wiizi,
ninzaa?wiizi
はいか〔配下〕 kagee, →てした
はいざい〔配剤〕 hweezee
はいしゃく〔拝借〕 ?uNcee, →かりる/ ~
した物 ?uNceemuN

はいしゅんふ〔売春婦〕 →hweezuraa,
hweezuri, sangwanaa, zuri, →じょろ
はいしょ〔配所〕 munusirasidukuru しう
はいしょく〔配色〕 ?irudujaasi, →いろどり
はいしょく〔膳食〕 sjooba, (敬語) ?usjoo-
ba 「しりぞける, のける
はいじょする〔排除する〕 ?usinukijun, →
はいすいこう〔排水口〕 'juubaimii
はいぞう〔肺臓〕 →はい
はいた〔歯痛〕 haajami
はいちゃく〔廃嫡〕 →caqci?usikumi
はいでる〔這い出る〕 hooi?nzijun
はいとう〔配当〕 'waikwii, →わけまえ
ばいどく〔梅毒〕 naabaru, nabangasa/ ~
にかかったことのある人 huruqcu/ ~に
かかったことのない人 miiqcu/ ~にか
かった人の血 huruci
はいはん〔廃藩〕 haiban 「→tan
はいびょう〔肺病〕 hwiiroo, tanjanmee,
はいふき〔灰吹き〕 hweehuci
はいぶつ〔廃物〕 ?itarimun
はいぶん〔配分〕 hweebun, →わりあて
はいゆう〔俳優〕 sibaisii, 'uduisjaa
はいりこむ〔這入り込む〕 hweerin?uN, si-
cikunun
はいりょう〔拝領〕 hweeroo, (敬語) gu-
hweeroo, →いただく, もらう
はいる〔這入る〕 ?ijun/ はいってすぐ ?i-
rihana

はう[這う] hoojun/ 這い回ること hwee-ciri
 はうた[端歌] ha?uta, hwa?uta
 はえ[蠅] hwee
 はえ[南風] hwee, →みなみかぜ
 はえかゝる[生え代わる] miikaajun/ はえ代わった齒 miikaaibaa
 はえぎわ[生え際] kiimiikuci
 はえる[生える] miijun, →しげる/ 生え出る mii?NzijuN
 はおと[羽音] hanifutu
 はおり[羽織] duubuku, ha?ui
 はおる[羽織る] ?uqcakijun/ 羽織って着ること ?waabooii
 はか[墓] cikazu, haka, haru, sinzu, ?uhwaka, →hun?i/ 王の~ tama?udun/ ~の一種 huinci, huineibaka, hwaahuu, kaaminakuu?uhwaka, niibibaka, sudigaci/ ~の出入口 hakanuzoo/ ~の番小屋 cikaja/ ~の番人 hakabaan/ ~の普請 hakabusin/ ~の見回り harumigui
 ばか[馬鹿] huraa, hurimun, →おろか, ぐどん, ぐぶつ, まぬけ/ ~げたことば hurimunii, hurimunu?ii/ ~にする → hurimun, かるんじる, けいべつする
 はが[羽交い] hanigee
 ばかしょうじき[馬鹿正直] hurimakutu, saramakutu
 はがす[剥がす] ?akasjun, hagasjun, →はがた[齒形] haakata [はぐ, へぐ]
 ばかちから[馬鹿力] hurizikara
 ばかづら[馬鹿面] girahuraa
 はかどる[撈る] ?agacun, hakadujun, →habacun, hakaraasjan/ はかどらない muqcoorijun/ はかどらないさま muqcaihwiqcai, muqcoohwiqcoo
 はかない[果無い] →?adasi
 はがね[鋼] hagani 「→はかどる
 はかばかしい[撈撈しい] hakaraasjan,

はかま[袴] hakama, ?Nmanuibakama
 はかまいり[墓参り] hakamee, ?uhwakamee
 はがゆい[齒痒い] tiihagoosan
 はからい[計らい] hakaree 「らう
 はからう[計らう] hakarajun, →とりはかばからしい[馬鹿らしい] →?ahwageejun, ?ahwageerijun
 はかり[秤] hakai
 ばかり -bikaan, -bikeeci, -bikeen/ …~している →?aqcun
 はかりごと[謀] boo, hakarigutu, →けいはかりめ[秤目] hakainumii しりやく
 はかる[計る] hakajun, →hwiruzun
 はがれる[剥がれる] ?akarijun, →はげる, むける
 はきけ[吐き気] / ~がする munuhacibusjan/ ~を催す 'wiibacun/ ~を催すこと 'wiibacinoori
 はぎしり[齒ぎり] haagisii
 はきだす[吐き出す] haci?Nzasjun
 はぎれ[齒切れ] haziri
 はく[吐く] ?agijun, hacun, mudusjun/ 吐いたり下したりすること hacaihiwqcai
 はく[掃く] hoocon, →hooci/ ~こと hoo-cikaci/ 掃き落す hoocefutusjun/ 掃き込む hooceincun
 はく[履く] kunun/ はきくずした草履 →nazinatasaba
 はく[佩く] hacun, hakijun
 はぐ[剥ぐ] hazun, →はがす, へぐ
 ばぐ[馬具] bagu, bagudoogu/ ~の一つ
 はぐき[齒莖] hasisi [mugee
 はくじょう[白状] hakuzoo
 はくじょう[薄情] hakuzoo, →つれない,
 はくそ[齒くそ] haakusu [ふにんじょう
 ばくち[搏打] bakuca, bakuci, →かけ
 ばくちく[爆竹] hjaa, hjaagwaa/ ~の一種 hjoocaku
 はくちゅう[白昼] ?akarahwiru
 ばくばく hauhau

はくまい〔白米〕 siragigumi
 はくめい〔薄明〕 siraʔakagai, siraʔaki,
 ʔusuʔakagai
 はぐらかす →ごまかす/ ~こと 'jukumu-
 nii, 'jukumunuʔii
 はくろ〔白露〕 hakuruu
 ばくろう〔搏勞〕 bakujoo
 はけ〔刷毛〕 haki
 はげ〔禿〕 hagua, hagai, hudii/ ~の一種
 kanpaci, taiwanboo, taiwanboozii
 はげあたま〔禿げ頭〕 hagiçiburui, ʔimun-
 çiburui
 ばけねこ〔化猫〕 →deehwirimajaa
 はげます〔励ます〕 ʔisamijun, šišimijun
 はげむ〔励む〕 cigakijun, hamajun, hu-
 mikunun, šišinun, ʔumihamajun, →
 ばけもの〔化物〕 mazimun しつとめる
 はげる〔禿・剃げる〕 hagiçijun, →はがれる
 ばける〔化ける〕 bukijun
 はこ〔箱〕 haku
 はごろも〔羽衣〕 tubizin
 はさみ〔鋏〕 hasan
 はさみこむ〔挟み込む〕 →kwaasjun
 はさむ〔挟む〕 hasanun
 はし〔橋〕 hasi
 はし〔箸〕 haasi, hasi, meesi, →ʔumeesi/
 ~を取って食べるまねだけすること haa-
 sidui
 はし〔端〕 hana, hanta, hazisi, hanaga-
 kii/ ~に掛けること hanʔagaki
 はじ〔恥〕 hazi, →あかはじ/ 顔にあらわれ
 る~ çiranuhazi
 はしか〔麻疹〕 ʔirigasa
 はじく〔弾く〕 hançun
 はしけ〔躰〕 tinma
 はしご〔梯子〕 hasi
 はしごだん〔梯子段〕 niikeebasi
 はじさらし〔恥曝し〕 miwaku
 はじしらず〔恥知らず〕 haziciraa, hazici-
 rimun

はしたかね〔端た金〕 hamunzin
 はしばこ〔箸箱〕 →ʔumecsbaku
 はしばし〔端端〕 hanabana, hasibasi
 はじまり〔始まり〕 hazimai, →はじめ
 はじまる〔始まる〕 hazimajun
 はじめ〔始め〕 hazimi, sikaki, →ʔatama,
 kuci, はじまり
 はじめて〔初めて〕 hazimiti
 はじめまして〔初めまして〕 →hazimiti
 はじめる〔始める〕 hazimijun, →ʔuqta-
 cun/ …を始め katakuzira
 はしゃぐ ʔisjaakaajun, ʔisjakajun
 ばじゅつきょうぎ〔馬術競技〕 ʔnmasjuu-
 bu, ʔnmaçurii
 ばしょ〔場所〕 basju, →ところ, ちい
 ばしょう〔芭蕉〕 basjuu, 'uu/ ~の一種
 hanabasjuu, naiuu/ ~の糸を入れる竹
 のかご 'uubaara/ ~の糸くず 'uubuciki/
 ~の葉 'uugaasja, 'uunuhwaa/ ~の葉
 に包んだ弁当 kaasjabintoo/ ~の実 ba-
 sjanai/ ~の葉柄の裏皮 basikaa, basi-
 kee/ ~の畑 'uuʔatai 「si
 ばしょうし〔芭蕉紙〕 basjuukabi, basjuu-
 ばしょうふ〔芭蕉布〕 basjaa, basjaanunu/
 ~の一種 ʔakauu, namaau, niuu/ ~
 の着物 basjaazin, sudiciraa/ ~の裏服
 basjazin
 はしょうふう〔破傷風〕 hasjoohuu
 ばしょふさぎ〔場所塞ぎ〕 baahabakai
 はしら〔柱〕 haaja/ 家の中にある~ muu-
 jabaaja/ 端にある~ hazibaaja
 はしりづかい〔走り使い〕 ʔuçikeesarijaa
 はしる〔走る〕 hajun, →haae, かけずり
 まわる, かけっこ/ こそこそと~こと ka-
 tañcibai
 はじる〔恥じる〕 →はずかしい
 はす〔蓮〕 diñ, riñ
 はず〔筈〕 hazi
 はすう〔端数〕 ʔwaahwa
 はずかしい〔恥ずかしい〕 hazikasjan, çii-

raʔahwasan, ɕirahazikasjan/ ~思い
 をする sjukweesjun, sjuqkweesjun/
 ~顔 → ɕiragwaa/ ~目 → niirihwiiri
 はずかしがり [恥ずかしがり] cimuguu-
 mun, hazikasjaʔumii
 はずす [外す] hanɕjun
 はずみ [弾み] hjoosi, ʔuzumi, ʔunzumi
 はずれ [外れ] hazisi
 はずれる [外れる] handijun
 はぜ [櫛] → hazi, hazigi/ ~の木にかぶれ
 ること hazimaki
 はそん [破損] hasun, 'jandi, 'jaburi, →
 はた [旗] hata じこわれる
 はた [端] hata
 はた [機] nunubata/ ~の部品・付属品な
 どの名 ʔazi, ciisii, hjaa, huɕuci, hwi-
 zici, ʔijanuqkwa, 'jaama, 'jaamanu-
 ɕimi, kudaguu, kuimee, kusizaa, kuu-
 daguusi, macica, manuci, meegusa,
 nakazici, sicica, ʔusiidaki, 'uusa,
 'waku, → はたおり
 はだ [肌] hada, → ひふ/ ~がはてる hadaʔa-
 ɕisan/ ~を欲しいと思うこと hadahusja
 はたおり [機織り] / ~で縞糸の数を間違え
 ること ʔajamamizi/ ~でかせを抜いた
 り巻いたりすること nucimaci/ ~で糸に
 のりを付けること meenui/ ~でおさの粗
 密, また従って織った布の粗密をあらわす
 単位 cujumi, 'jumi/ ~で, おさの種類
 の名, また従って織り方の種類・織られた
 布の種類の名 ciin, 'een, hatajumi,
 hateen, hjaadaki, ʔiɕiiin, 'iin, kukuni-
 in, miin, nanajumi, naneen, nuun,
 teen, tiin, tuujajumi, tuukununuju-
 mi, tuunanajumi/ ~ををする者 nunu-
 はだか [裸] hadaka, → まるはだか ʔuɕjaa
 はだかうま [裸馬] hadakaʔnma
 はだかむぎ [裸麦] hadakaamuzi
 はだかる habakajun, hatakajun
 はだかんぼう [裸んぼう] hadakaamuca,

hadakaamuucii, → はだか
 はたき [叩き] gumiʔuci 「たぎ
 はだぎ [肌着] duusibui, hadasibui, → し
 はたけ [畑] haru, hataki, → ʔatai/ ~が
 隣合っている間柄 harudunai/ ~の中の
 道 harumici/ ~の見回り harumigui
 はたけしごと [畑仕事] harusikuci/ ~の端
 緒 hakaguci
 はだける ʔakihatakijun
 はだごこち [肌心地] hadamuci
 はだし [裸足] karahwisja, (敬語) milka-
 rahwisja
 はたして [果して] masagagutu, 'nea
 はたち [二十歳] hataci
 ばたばた haqturugeejaa, paqtarigeejaa,
 paqturugeejaa
 はだみ [肌身] hadami
 はたらき [働き] hataraci, tibusi,
 はたらきもの [働きの者] ganaramun, ga-
 narimun, kaneemun, miguimun, siti
 はたらく [働く] ʔagacun, hataracun, →
 cibajun/ 気軽に ~ ɕibigaqsan/ 働いて賃
 金を得る mookijun/ 働き過ぎて倒れる
 こと siidoori/ 忙しそうに ~ さま ʔaga-
 cihai
 はだん [破談] / ~にする ʔiimudusjun
 はち [8] haci, 'jaaɕi, → 'ja-, やっつ
 はち [蜂] hacao/ ~の一種 nukabacaa /
 ~の巣 hacaanusii
 はち [鉢] / ~の一種 hacinuku, hanaba-
 aci, 'wanbuu
 ばち [撥] baci
 ばち [罰] baci, → ばつ/ ~が当たった者 ba-
 ɕikanzaa/ ~が当たる → baci
 ばちあたり [罰当たり] baɕikanzaa
 はちあわせ [鉢合わせ] ciburugaɕpai
 はちかい [8回] 'jakeen
 はちがつ [8月] hacigwaɕi
 はちきれぬ [はち切れる] haɕcirijun/ は
 ち切れそうなきさま haɕciriracirira/ はち

切れそりにする haqcijun
 はちじゅう[80] hacizuu
 はちじゅうはち[88] hacizuuhati/ ~の祝
 'juninu'fuiwee, 'juninu'fujuwee, too-
 kaci'fuiwee
 はちにち[8日] hacinici
 はちにん[8人] hacinin, 'jaqtai
 ばちばち pacipaci
 はちぶんめ[8分目] →'fuci'fuciitu
 はちまき saazi/ ~の一種 maNSaazi
 はちりん[8厘] 'jukumui, sipjaaku
 ばちん paciN/ ~という pacimikasjun
 はつ[初] 'para-, haçi-
 ばつ[罰] baçi, →せっかん, ばち
 ばつ / ~が悪いこと hwizaruu, siibuu/
 ~の悪い思いをする sjukweesjun, sju-
 qkweesjun
 はつあるき[初歩き] →haci'faqci
 はついく[発育] cuui, 'wiitaci, 'wiqtaci,
 →そだち/ ~が遅い cuuniisan/ ~が
 早い cuuibeesan/ ~が早いこと hweczu-
 ui/ ~が悪いこと bucuui/ ~する cuu-
 jun, 'wiijun, 'wiitacun/ ~する子供
 'wiitaciwarabi
 はつおん[発音] →kaikoo
 はっか[薄荷] haqka, hwaqka
 はつか[20日] haçika/ ~の夜 haçikaju
 はっかく[8角] haqkaku 「sjoogwaçi
 はつかしょうがつ[二十日正月] haçika-
 はつがみなり[初雷] haçigannai
 はっきり →あきらか, さやか
 ばっきん[罰金] baqcin, kwamuci, kwa-
 sin, →かせん
 はつくだり[初下り] 'parakudai
 はっけ[八卦] haqci
 はつご[初子] 'wiingwa, →'wiingwa-
 hwaçingwa
 はっこうする[醱酵する] →'famikoojun
 はっさん[発散] haqsan
 ばっし[末子] 'uqtungwa

ばっすい[拔萃] nuzigaci
 ばった(虫の名) 'Nnaguraaæee, see
 はつたび[初旅] 'aratabi
 ばっちい(~もの)(小兒語) 'Nnnaa, pee-
 pee, →きたない
 ばっちり miiguruguru
 ばってき[拔擢] tuitati, →とうよう/ ~す
 る tuitatijun
 はっと[法度] haqtu
 はっとする →'NnihwizurusaN
 はつなり[初生り] haçinai
 はつのぼり[初上り] 'aranubui
 はつはる[初春] haçiharu
 はつほ[初穂] sicuma
 はつまご[初孫] haçi'Nmaga
 はつもの[初物] haçimun, →おはつ
 はて[果て] hati, 'icibati
 はで[派手] han'kwa/ ~なさま 'akara-
 kwaara/ ~にする →hwi'qapjun, kwa-
 biijun
 ばてい[馬丁] 'Nmatai
 はてる[果てる] hatijun, →おわる
 はと[鳩] hootu/ ~の子 hootungwa
 はとむね[鳩胸] hootunni
 はな[鼻] hana, →hanabuqkwa, (敬語)
 'npana, / ~にかく汗 hana'fasi/ ~の赤
 い者 'akabanaa/ ~のかけた者 hana-
 moo/ ~の先 hananusaci/ ~のひしゃげ
 た者 hanabiraa, hanasipiraa/ ~の低
 い女 sjadannu'utuu'Nmii/ ~をかむ
 sipijun
 はな[花] hana, (敬語) 'npana, (小兒語)
 noonoo, →hanagi/ ~の盛りが過ぎる
 saciçirijun/ ~を植える鉢 hanabaaci
 はな[端] hana, -hana
 はないけ[花生け] hana'ici
 はなうり[花売り] hana'ui
 はなお[鼻緒] →hanauu/ ~の一種 niri-
 uu/ ~ずれ sabahagi
 はながさ[花笠] hanagasa

はなかぜ〔鼻風邪〕 hanasici, →かぜ/～気味 hanasicikagin
 はながつお〔花籃〕 hanabira
 はながみ〔鼻紙〕 hanagami, hanagan
 はなくそ〔鼻糞〕 hanakusu
 はなげ〔鼻毛〕 hanagii 「?ii
 はなごえ〔鼻声〕 hanamunii, hanamunu-
 はなござ〔花ござ〕 hanamusiru
 はなざかり〔花盛り〕 hanazakai/～となる sacisakeejun
 はなし〔話〕 hanasi, ?ihwanasi, munugatai, →むかしばなし, ものがたり/～する →hanasi, 'junuN/～にならない→kakinin ?ooran
 はなししかた〔話し方〕 munu?iikata
 はなしごえ〔話し声〕 munu?iigwii
 はなしじょうず〔話し上手〕 munu?iizoozi
 はなしずき〔話し好き〕 munugataizici
 はなしぶり〔話しぶり〕 munu?iitanari
 はなす〔離す・放す〕 ?aakasjun, hanasjun, →ひきはなす
 はなす〔話す〕hanasjun, →かたる, しゃべる, はなし/話したり笑ったりすること munu?iiwaree
 はなその〔花園〕 hana?atai
 はなたらし〔鼻垂らし〕 hanadajaa
 はなぢ〔鼻血〕 hanazii
 はなづまり〔鼻づまり〕 hanakatamajaa/～のさま hanapiipii
 バナナ basjanai, →naiuu
 はなばしょう〔花芭蕉〕 hanabasjuu/～の実 huuhuudaamaa
 はなはだ〔甚だ〕 →ひじょうに
 はなび〔火花〕 hanabi, hwiwhwanazi, →gansinagwaahjoocaku, hjoocaku
 はなまつり〔花祭り〕 sjaakamundoo
 はなみ〔花見〕 hanami
 はなみず〔鼻水〕 hanadai, mizihanadai
 はなむけ sinbiçi
 はなむしろ〔花蓆〕 hanamusiru

はなむすび〔花結び〕 'jamatumusun
 はなやか〔華か〕 →かび/～な村 hanaguni/～にする haneekasjun, haneekijun/～になる haneecun, →?ucagajun
 はなよめ〔花嫁〕 miijumi
 はなれうま〔放れ馬〕 hwingi?nma 「ri
 はなれじま〔離れ島〕 hanarizima, →hana-
 はなれや〔離れ家〕 →?asjagi, meenujaa
 はなれる〔離れる〕 ?aakijun, ?akarijun, hanarijun, hwizamajun, hwizamijun
 はにかみや〔はにかみ〕 hazikasja?umii, →はずかし
 はね〔羽〕 hani, hwanii, →つばさ しがりばね〔発条〕 bani
 はねっかえる〔跳ね返る〕 hancigeejun
 はねとばす〔跳ね飛ばす〕 ?uqtunugasjun, →tunuzun
 はねる〔跳ねる〕 hanijun, tunuzun, tunzun, →とびあがる/～こと hani/はねて入れる hani?cun
 はは〔母〕 ?ajaa, ?anmaa, hwahwa, →ははば〔幅〕 haba, 'waa 〔はおやばば〕〔馬場〕 kaniku, ?nma?wii, →maazi, zoo
 ババイア manzuuii
 ははおや〔母親〕 hwahwa?uja, 'winagunu?uja, 'winagu?uja, →はは/～のあとを追いかける子 ?ajaa?uuja, ?anmaa-
 ははかた〔母方〕 hwahwakata 〔?uujaa
 ははかる〔憚る〕 habakajun
 はばたき〔羽撃き〕 hani?uci/～の音 hani?utu
 はふ〔破風〕 hwaahuu
 はぶ〔蛇の名〕 habu, nagamun/～の一種 çinhabu, takanukurumaci/～のように張ったあと habukakuzi
 はぶりがよくする〔羽振りよくする〕 hwiqpa-jun
 はま〔浜〕 hama, →かいがん
 はまぐり〔蛤〕 sirunna
 はますげ〔浜菅〕 koobusi

はませんだん〔浜柗〕 'jamaguruci
 はまぢどり〔浜千鳥〕 hamaciduri
 はまぼう〔植物名〕 'juuna/ ~の葉 'juu-
 はまる〔嵌まる〕 hamajun [naagaasja
 はめこむ〔嵌め込む〕 ſigijun
 はもの〔刃物〕 hamun, hwizurumun
 はもの〔端物〕 →はんば
 はやい〔早い・速い〕 hweesaN/ ~遅い nii-
 sahwesa/~馬 hai?Nma/ ~船 haihu-
 ni/ ~もの hweemun/ ~者勝ち sacina-
 isigamunuu/ 早く hweeku, soosoo, →
 つとに/早く支度ができること hweezimee
 はやうまれ〔早生まれ〕 hwee?Nmari
 はやおき〔早起き〕 ?asa?uki, hwee?uki
 はやがってん〔早合点〕 hweegaQtin, →そ
 うけい, はやまる
 はやくち〔早口〕 / ~である sicabeesaN
 はやさい〔葉野菜〕 ?oohwa
 はやし〔林〕 'jama
 はやし〔囃子〕 hweesi, →kuducibeesi
 はやしたてる〔囃し立てる〕 hweesitatijun
 はやじに〔早死に〕 hweemaasi
 はやす〔囃す〕 hweesjun
 はやす〔栄やす〕 hweesjun
 はやす〔切り刻む〕 hweesjun
 はやね〔早寝〕 hweeninzi
 はやばやと〔早々と〕 hweebeetu, →はやい
 はやばん〔早番〕 hweeban
 はやぶさ〔隼〕 hwensa
 はやまる〔早まる〕 →そうけい/ 早まったこ
 と hajamaigutu
 はやめる〔早める〕 hajamijun
 はやり〔流行り〕 →りゅうこう
 はやりうた〔流行歌〕 →りゅうこうか
 はやりことば〔流行語〕 hweeikutuba
 はやる〔流行る〕 hweejun
 はやわざ〔早業〕 hweewaza
 はら〔腹〕 'wata, →hara, kuubaa, 'wata-
 butu, (敬語) 'Ncuubu, ?uNcuubu/ ~一
 杯 cuhwaara, 'watanumii/ ~一杯であ

る 'wata?uhusan, 'wata?uhwisan/ ~
 が立つ →'wata/ ~が立つこと diqpuku,
 haradaci, →'jungusamici/ ~がだぶだ
 ぶ 'watabonbon/ ~が張ること 'wata-
 huqkwii/ ~が減ること 'watabinai/ ~
 が減って元気がなくなる →hwicisaga-
 jun/ ~の大きい者 ?uhuwataa, ?uhu-
 watamun, 'watabutaa/ ~の底をうちあ
 けて 'watawataatu/ ~の中 'wata?uci/
 ~半分 haragubu, nakarawata, 'wata-
 nakara/ ~をかかえて →sicirihweeri/
 ~をさぐる →'wata/ ~を立てる 'wazi-
 jun/ ~を立てた声 sicigwiiniigwii/ ~
 を減らす →'wata 'uuiNcun
 ばら〔薔薇〕 coosjun
 はらい〔払い〕 haree, →ししゆつ
 はらいおとす〔払い落す〕 harai?utusjun
 はらう〔払う〕 harajun/ ~もの haree-
 はらおび〔腹帯〕 hara?uubi [mun
 はらがけ〔腹掛け〕 →kubusii 「→きょうだい
 はらから〔同胞〕haratiiçi, ?iqpuku?iqsjoo,
 はらぐあい〔腹工合〕 'watagukuci
 はらごなし〔腹ごなし〕 / ~をする →
 'uuiNcun, 'wata
 はらす〔晴らす〕 harasjun
 はらちがい〔腹違い〕 harawakai
 ばらばら naahaibai, naakameegamee,
 tuqcirahaqcira, →ちりぢり/ ~にする
 'waqkwasjun
 はらむ〔孕む〕 kasagijun, →かいたい, に
 はらもち〔腹持ち〕 'watadee [んしん
 はらわた〔腸〕 'wata, 'watamiimun, →ぞ
 うもつ, ないぞう
 はり〔針〕 haai, →ぬいばり/ ~の頭 haai-
 numimi/ ~の目 haainumii 「きはり
 はり〔鍼〕 cinbaai, haai, →はりいしゃ, や
 はりあい〔張合い〕 / ~がない →tee
 はりいしゃ〔鍼医者〕 'jabuu
 はりがね〔針金〕 ſigunzani, ſigunzani
 はりがみ〔張り紙〕 haidasi, haigami

はりこ〔張子〕 hainuzi
 はりさし〔針刺し〕 haaisasii
 はりだし〔張り出し〕 haidasi
 はりつく〔張り付く〕 →kaahai
 はりつるまさき〔植物名〕 maqkoo
 はりぬき〔張抜き〕 hainuzi
 はりばこ〔針箱〕 haabaku
 はりやま〔針山〕 haaisasii
 はりゅうせん〔爬竜船〕 →ペーロン
 はりわたす〔張り渡す〕 hweejun
 はる〔春〕 haru, hwaru, →ʔurizin, 'wakaʔurizin/ ~に吹く南風 ʔurizinbee
 はる〔張る〕 hajun, harijun, hweejun/
 張った繩 hainna
 はるたま〔植物名〕 handama
 はれぎ〔晴着〕 curazin, kugeezin, ʔwaa-
 zi, →れいふく/ 下女の冬の～ →simuwa-
 tazin
 はれま〔晴れ間〕 harima, →cuhari
 はれもの〔腫れ物〕 huqkwi/ ~の名 →ひふ
 びょう
 はれる〔晴れる〕 harijun/ 晴れあがる ti-
 jagajun/ 晴れて星が輝く husibarijun
 はれる〔腫れる〕 hučinun, huqkwijun, →
 harijun, mucun/ 腫れたり引いたりする
 こと huqkwisoori
 ばれる ʔarawarijun
 はん〔判〕 han, →いん, じついん
 はん〔半〕 →han-, -han
 ばん ban/ ~とくらわす banmikasjun
 ばん〔番〕 baan, ban, maaru, →じゅん,
 ばん〔晩〕 'jukunee, 'juru 〔ばんにん
 ばん pan/ ~と音を立てる (~と打つ)
 panmikasjun
 はんえいする〔繁榮する〕 →さかえる/ ~さ
 ま muteeisakeei
 はんかつう〔半可通〕 namamunusiri
 はんぎゃくしゃ〔反逆者〕 hwinzimun
 はんきゅう〔半休〕 hanccuu
 はんぎょく〔半玉〕 →ʔuringwa

はんこう〔反抗〕 gee, hwin, muhun, ri-
 kuçi, tiiNkee, →くちごたえ/ ~する
 muducun, mudujun/ ~する者 gee-
 sjaa/ ~的な者 muhunniin
 ばんごはん〔晩御飯〕 →ゆらはん
 ばんごや〔番小屋〕 baanjaa, banti
 はんごろし〔半殺し〕 namagurusi
 はんしはんしょう〔半死半生〕 hanbunʔici-
 ci, hanbunzini
 はんじょう〔繁盛〕 hanzoo, →hwirugai
 はんしょく〔繁殖〕 nasihwirugi/ ~させる
 hwirugijun/ ~する →hwirugajun
 ばんじろう〔植物名〕 bansiruu
 はんしん〔半身〕 kataduu
 はんしんはんぎ〔半信半疑〕 hanbunʔuta-
 gee, hanʔutagee, →うたがう
 はんせい〔反省〕 sinsjaku
 はんせん〔帆船〕 huusin, →ほまえせん
 はんた〔繁多〕 hanata
 はんたい〔反対〕 →さかさま
 はんたいとう〔反対党〕 →kuruu
 はんにえ〔半煮え〕 kataʔagai, katanii,
 ʔuruniinamanii
 はんにち〔半日〕 hannici, hwinaka/ ~仕
 事 hwinakasigutu
 ばんにん〔番人〕 bannin, banti, →ばん
 ばんにん〔万人〕 sjunin, ʔumanccu
 はんにんまえ〔半人前〕 / ~の賃金 gubu-
 huu
 はんば〔半端〕 guuhandaa, guuhaziraa,
 hamun
 はんひろ〔半尋〕 'nnaakari
 はんぶん〔半分〕 hanbun, nakaba, →なか
 ば/ ~の荷 katanii/ ~わけ hanbun-
 はんべん〔食品の名〕 hanbin 〔waakii
 はんみち〔半道〕 hanbunmici, hanmici
 ばんめし〔晩飯〕 →ゆらはん
 はんもする〔繁茂する〕 →しげる
 はんり〔半里〕 hanmici

ひ[火] hwii, (敬語) ?umaaci, ?umaçi/
 とろび turuturuubii/ ~にのせる kami-
 rasjun/ ~の神 ?akagucaamee, hwinu-
 kan/ ~の熱 hwiinuniçi/ ~の燃えるさ
 ま baabaa/ ~の元 hwiinumutu
 ひ[日] hwii, tiida, (敬語) ?utida/ ~が
 暮れる ?juqkwijun, →?juqkwasjun,
 ?juu/ ~に日に hwiibii/ ~を選ぶこと tu-
 cituihwiidui, tucituihwiitui/ ~を暮れ
 ひ[非] hwii 〔させる ?juqkwasjun
 ひ[緋] hwii, →ひいろ
 ひ[梓] hwizici
 ひ[美] cura-, →うつくしい
 ひあがる[干上がる] hjaagajun, kaaki-
 jun/ ~こと karagaaki/ 干上がったと
 ころ hjaagai
 ひあそび[火遊び] hwiimutaan
 ひい[一] tii
 ひいおじいさん[曾祖父] ?uhutanmee,
 ?uhu?usjumee, →そうそふ
 ひいおばあさん[曾祖母] ?uhuhaamee,
 ?uhu?nmee, →そうそほ
 ひいき[鼠耳] hwiici, →えこひいき
 ビーチク ciŋciŋ
 ひいでる[秀る] →すぐれる, ぬきんでる
 ひいびい piipii
 ひいれ[火入れ] hwiitui, ?uciritui
 ひいろ[緋色] hwii, hwii?iru
 ひえ[冷え] hwizui
 ひえしょう[冷え性] duuhwizujaa
 ひえびえと[冷え冷えと] hwizuqteen,
 →さむざむとする/ ~したさま hwizuru-
 kanzaa/ ~する hwizurukanzun/ ~
 すること hwizurukanzi, ?oohwizuru-
 kanzi

ひえる[冷える] hwizujun/ 冷えきったも
 の ?oohwizuruu/ 冷えこむさま hwizu-
 i?ooi/ 冷えたさま hwizuikaa
 ひおおい[日覆い] hwigataka, hwiigata-
 ひがい[被害] kiga 〔ka
 ひがいしゃ[被害者] kiganin
 ひかえ[控え] hwiikee
 ひかえじょ[控所] hwiikeezu
 ひかえめ[控え目] ?uciba/ ~にする→tan-
 kijun
 ひがえり[日帰り] hwimudui
 ひかえる[控える] hwiikeejun
 ひかく[比較] hwiqcoo, →くらべる
 ひかげ[日陰] →kaagi
 ひがざ[日傘] hwigasa, sasikasa
 ひかされる[引かされる] hwikasarijun
 ひがし[東] ?agari/ ~の方 ?agarikata/
 ~向き ?agariŋkee, hwizahoo
 ひがし[乾菓子] hwigwasi
 ひがしかぜ[東風] kuci/ ~が吹くこと→
 kucibuci
 ひがししなかい[東支那海] nisinu?umi
 ひかず[日数] hwikazi
 ひがた[干潟] katabaru
 ひかびか hwicarahwicara
 ひがら[日柄] hwigara
 ひかり[光] hwicai, hwikari, (敬語) ?u-
 hwikari
 ひかる[光る] hwicajun, →てる
 ひがん[彼岸] hwigan, hwingan, (敬語)
 ?uncabi, →kabi?anzii, 'ncabi/ ~な
 どに燃やす錢型を打った紙 ?anzikabi,
 'ncabi, ?ucikabi/ ~に燃やす紙を打つ道
 具 kabi?uci/ ~のあけ sami/ ~の入り
 ?irihwi/ ~の中日 cuunici
 ひき[匹] -hwici, -kara

ひきあう〔引き合う〕 hwicajun;
 ひきあげる〔引き揚げる〕 hwicagijun,
 hwiciʔagijun
 ひきあて〔引き当て〕 hwiciʔati
 ひきあわせる〔引き合わせる〕 hwicaa-
 sjun, hwiqcaasjun, →おひきあわせ
 ひき入れる〔引き入れる〕 hwicikunun,
 hwicincun
 ひきうける〔引き受ける〕 hwiciʔukijun,
 sazakajun, ʔukijun, →しょうだく
 ひきうす〔碾き臼〕 hwiciʔuusʔi, →うす
 ひきおとす〔引き落とす〕 hwiciʔutusjun
 ひきかえす〔引き返す〕 hwicikeesjun
 ひきかえひきかえ〔引き替え引き替え〕 hwi-
 ひきがえる〔墓蛙〕 'wakubici [cihwici
 ひききる〔引き切る〕 hwiqcijun
 ひきこむ〔引き込む〕 hwicikunun, hwici-
 ncun
 ひきこもごも〔悲喜こもごも〕 ʔuqsjanaçi-
 kasja
 ひきこもる〔引き籠もる〕 hwiqkumujun
 ひきさがる〔引き下がる〕 hwicinajun
 ひきさく〔引き裂く〕 hwicisacun, hwiqsa-
 cun, →さく
 ひきしお〔引き潮〕 →かんちょう
 ひきしめる〔引き締める〕 hwicisimijun
 ひきずりたおす〔引き摺り倒す〕 sunceikee-
 rasjun, →ひきたおす
 ひきずる〔引き摺る〕 subicun, suncun
 ひきたおす〔引き倒す〕 hwicitoosjun, →ひ
 きずりたおす
 ひきだし〔抽斗〕 hwiciʔnzasii
 ひきだす〔引き出す〕 hwiciʔnzasjun
 ひきたつ〔引き立つ〕 hwicitacun
 ひきたてる〔引き立てる〕 hwicitatijun
 ひきだめし〔弾き試し〕 hwicidamisi
 ひきちぎる〔引きちぎる〕 hwicitunugasju-
 n, hwiqcijun
 ひきつぎ〔引き継ぎ〕 hwiciçizi
 ひきつぐ〔引き継ぐ〕 hwiciçizun

ひきつける〔引き付ける〕 çijun
 ひきつる〔引き纏る〕 / ひきつった着かた
 hwiciciikaaciizii/ ひきつったさま hwi-
 ciciikaacii, hwicicuukaacuu, hwiqpai-
 kaapai [zimun
 ひきでもの〔引出物〕 hwicizibun, hwici-
 ひきとめる〔引き止める〕 'judumijun, 'ju-
 simijun
 ひきとる〔引き取る〕 hwicitujun
 ひきなおす〔引き直す〕 hwicinoosjun
 ひきぬく〔引き抜く〕 hwicinuzun
 ひきのばす〔引き伸ばす〕 hwicinubasjun,
 →çimanuncun
 ひきはなす〔引き離す〕 ʔakasjun, hwici-
 hanasjun
 ひきまわす〔引き回す〕 mucikwajun/ 引
 き回される mucikwaarijun
 ひきもの〔挽物〕 hwicimun
 ひきものし〔挽物師〕 hwicimunʔeeku
 ひきやぶる〔引き破る〕 hwicijajun
 ひきよせる〔引き寄せる〕 hwicijusijun
 ひぎり〔緋桐〕 cirintoo
 ひきわけ〔引き分け〕 'iinuu
 ひきわたし〔引き渡し〕 hwiciwatasi
 ひく〔引く〕 hwicun
 ひく〔弾く〕 hwicun
 ひく〔碾く〕 narasjun
 ひくい〔低い〕 hwikusan
 ひくびく sikamiiguruguru, sikankaa/
 ~すること ʔuturusjahwiisja
 ひくん hwiqsui/ ~とする hwiqsuimika-
 sjun/ ~ひくん hwiqsuihwiqsui
 ひげ〔髭〕 hwizi, (敬語) mihwizi/ ~の伸
 びはじめ surusuruuhwizigwaa
 ひげする〔卑下する〕 sipirijun/ 卑下した
 シャベリかた sipirimunii
 ひげつ〔秘訣〕 ʔukudi
 ひげつする〔秘結する〕 cisijun
 ひげなし〔髭無し〕 hwizimoo, ʔutugeena-
 nduruu, →haameezira

ひげね〔鬚根〕 hwizi
 ひげもじゃ 'jamahwizaa
 ひげんする〔比肩する〕 →kata, ひってき
 ひご〔卑語〕 'janakutuba
 びこう〔微行〕 sinubi
 びこう〔尾行〕 ?atu?wii
 ひさし〔廂〕 sasika
 ひさしい〔久しい〕 nageesan/ 久しく nagee, nagee/ 久しく会わない miiduusan/ 久しくお会いしない 'uganduusan
 ひさしぶり〔久し振り〕 →miiduusan, nageesan, 'uganduusan
 ひざまくら〔膝枕〕 mumumaqkwa
 ひじ〔肘〕 hwizigee, hwizikee
 ひしぐ〔拉ぐ〕 hwiizun
 ひしひし hwisihwisi
 びしびし hwisihwisi
 ひしゃく〔柄杓〕 niibu
 ひしょ〔美女〕 →びじん
 ひしょう〔微笑〕 katakuciwaree, miiwarree
 ひじょうに〔非常に〕 duku, duqtu, duutu, ?iqpee, siguku, sitataka, zikoo, →しごく, めっぽう, ひどい
 ひしょぬれ siqtaikaatai, →びっしょり
 びじん〔美人〕 curaa, curakaagii, curawinagu, (敬語) curaNcaagi
 ひぜめ〔火攻め〕 hwiizimi
 ひぜん〔皮癬〕 koosi
 ひそ〔砒素〕 hwisu
 ひぞう〔秘蔵〕 kakugu, sjugu, →かかご/ ~する kazimijun/ ~品 kazimimun
 ひそか〔窃か〕 mişikaqteen/ ~な語らい mişika munugatai/ ~な恋 sinubi/ ~に suruitu, suruqtu/ ~に行く sinubun/ ~にたくらむこと sicadakuma/ ~に喜ぶこと hucukuru?oozimee, sicajurukubi
 ひそひそばなし〔ひそひそ話〕 gumamunugatai, →ないしょばなし

ひそむ〔潜む〕 →かくれる
 ひだ〔襞〕 hwiiza, →しわ
 ひたい〔額〕 hwicee, mukoo, →おでこ/ ~の傷 mukookizi/ ~の白い者 mukoosiruu
 びたいちもん〔鏢一文〕 kakigunzuu
 ひたかくし〔ひた隠し〕 →kakusiimaasii, mumukakusikakusi
 ひたす〔浸す〕 ?uraakijun
 ひたすら hwitani
 ひだね〔火種〕 →kakoo
 びたびた bitabita
 ひだり〔左〕 hwizai
 ひだりきき〔左利き〕 hwizaigaqti, hwizajaa
 ひだりまえ〔左前〕 hwizaimigui, hwizai?ucaasi
 ひだりまき〔左巻き〕 hwizaimacaa
 ひだりもじ〔左文字〕 hwizaizii
 ひたる〔浸る〕 çikajun
 ひつ〔櫃〕 kee
 ひっかかる〔引っ掛かる〕 kuncakajun
 ひっかきまきず〔引っ掻き傷〕 sakui
 ひっかきまわす kacikuzijun 「→かく
 ひっかく〔引っ掻く〕 kakanun, sakujun,
 ひっかける〔引っ掛ける〕 hwiqkacijun, kuncacijun
 ひっきりなしに →たえまなく
 ひっくりかえす keerasjun, ?uqceesjun/
 ~さま ?uqceehwiqcee/ ひっくり返した
 りころがしたり kecrasikurubasi
 ひっくりかえる〔引っくり返る〕 hwiqceesjun, keerijun, ?uqceesjun, →çintaa/
 ~こと çintaakeei/ ひっくり返りそう keerirakeerira
 びっくりする →おどろく
 ひつけ〔火付け〕 hwiizikee, →ほうか
 びっこ〔跛〕 →ちんば/ ~を引くさま kwe-nkwen
 ひっこし〔引越し〕 'jaa?uuçii, ?uuçii, (敬

語) tuŋciʔuuçii, ʔwaatamasi, ʔwatamasi
 ひっこす〔引越す〕 hwiçikusjuŋ
 ひっこみじあん〔引込み思案〕 ʔukeeiʔumii
 ひっこむ〔引込む〕 hwiçikunun
 ひっさげる〔引上げる〕 hwiçisagijun, hwisagijun, →hwiçeatijun
 ひつじ〔未〕 hwiçizi
 ひつじ〔羊〕 meenaa, meenaahwiizaa
 ひっしょり ʔnôikaa, sipuutu, zisaqtu, zisiqtu, →びしょぬれ
 ひっそりかん〔ひっそり閑〕 ʔuusoozootu
 ひったくる hwiçtakujun, kunsugujun, kuntujun, suguitujun, ʔwiiʔutusjun
 ひったり çintu/ ~合うこと ʔucaisinai
 ひっつかむ〔引摺む〕 kaççikanun
 ひつつく〔引付く〕 taçkwajun, →くつつく
 ひつつける〔引付ける〕 →くつつける
 ひつてき〔匹敵〕 →bicee, -gaai, ひけん/ ~する hwiçajun
 ひっぱがす〔引剝がす〕 ʔakasjun
 ひっぱく〔逼迫〕 hwiçpaku, →さしせまる
 ひっぱたく suguikeerasjun, sugujun
 ひっぱりあい〔引張り合い〕 hwiicee
 ひっぱりだこ〔引張り尻〕 hwiicaabaaee
 ひっぱる〔引張る〕 hwiçpajun/ 引張られる →subicun
 ひづめ〔蹄〕 çimagu 「mun
 ひつよう〔必要〕 ʔirijuu/ ~な物 ʔiçta-
 びていこつ〔尾骶骨〕 çibinuguqsui
 ひでり〔日照り〕 hjaai, hwidiri/ ~の折の雷 hjaaignnai/ ~の年 hjaaidusi
 ひでりあめ〔日照り雨〕 tiidaʔami, tiida-
 bui, →takanusiibai
 ひと〔人〕 hwitu, çu, →şiza, たにん, にんげん/ ~ごとに çukazi/ ~との交際 çugutu, çubiree/ ~に先んじること çumee, çusaci/ ~に馴れること

çunari/ ~にまさること hwitumasai, çumasai/ ~のいいなり çumama/ ~の往来 çuʔasi/ ~の気配 →çuʔutu/ ~の背たけ çudaki/ ~の肌 çuhada/ ~の悪口 çegutu/ ~をあなどる者 çu-
 ʔuşeeimun/ ~を憐れむこと çucimu-
 gurisja/ ~を敬うこと çuʔujamee
 ひとあし〔一足〕 çuhwisja
 ひどい →たいして/ ~こと →sanʔan/ ひどく, →こっぴどく, たいした, ひじょ
 ひといき〔一息〕 çuʔiici じうに
 ひといきれ〔人いきれ〕 / ~に酔うこと çeuwii
 ひとえ〔単衣〕 çimun, çiizun
 ひとかかえ〔一抱え〕 çudaci, cumaai
 ひとかけら〔一欠けら〕 çukaki
 ひとかさね〔一重ね〕 çukasabi
 ひとがら〔人柄〕 çugara, zintii
 ひときれ〔一切れ〕 çucaai, çukaki
 ひとくち〔一口〕 çukuci
 ひとこえ〔一声〕 çukwii
 ひとこと〔一言〕 çukutuba
 ひとさしゆび〔人差し指〕 çusasiʔiibi, saciʔiibi
 ひとざとはなれたところ〔人里離れた所〕 çeubanari
 ひとさらい〔人攫い〕 hwitunusudu, çunusudu
 ひとしずく〔一雫〕 çutai
 ひとそろい〔一揃い〕 çukusai
 ひとたち〔一太刀〕 çukatana
 ひとたば〔一束〕 çuçika, çutabai, cuma-
 zin
 ひとだま〔人魂〕 ʔininbii
 ひとちがい〔人違い〕 hwitumagee, çubaa-
 çpee
 ひとつ〔一つ〕 tiici, →hwituçi, tii, çu/ ~になる kusajun/ ~一つ選り出すこと tiiciʔirabi/ ~一つ捨ること tiici-
 rii

ひと

ひとつか〔一束〕 →ひとたば
 ひとつかみ〔一掴み〕 cuçikan
 ひとつき〔一月〕 cuçici/ ~おき cuçicigusi
 ひとつぼ〔一坪〕 cuçibu
 ひとつて〔一手〕 cuti
 ひとつで〔人手〕 /~が足りないこと →てぶそく/
 ~に渡す→てばなす
 ひとつでなし〔人で無し〕 →Qcu
 ひとつとおり〔一通り〕 cutuui
 ひとつどおり〔人通り〕 Qcuuui
 ひとつところ〔一所〕 cutukuma, cutukuru
 ひとつとせ〔一年〕 →いちねん
 ひとつながさ〔一長さ〕 cunaagi
 ひとつなみ〔人並み〕 Qcunami, →いちにん
 まえ
 ひとつはこ〔一箱〕 .cuhaku
 ひとつばん〔一晚〕 cujuru/ ~中 cujuru,
 'junagata, 'junagatasaganagata, 'juşiga
 ひとつひろ〔一尋〕 cuhwiru/ ~の半分 'Nna-
 akari
 ひとつふし〔一節〕 cuhusi
 ひとつふで〔一筆〕 cuhudi
 ひとつまえ〔人前〕 Qcumee
 ひとつまき〔一卷き〕 cumaai
 ひとつまね〔人真似〕 →Qcu, まね/ ~をする
 者 saaru
 ひとつまわり〔一回り〕 cumaai, →ひとめぐり
 ひとつみ〔瞳〕 miinusin
 ひとつみしり〔人見知り〕 'jamakaagaa, Qcu-
 ?uzi, siranQcu
 ひとつめ〔一目〕 cumi
 ひとつめ〔人目〕 'jusumi/ ~につかない道
 katakamici
 ひとつめぐり〔一巡り〕 cumigui, →ひとまわ
 ひとつもと〔一本〕 cumutu 上り
 ひとつよ〔一夜〕 cujuru, →ひとばん
 ひとり〔一人〕 cui, hwicui, ?icinin, (敬語)
 cutukuru, ?ucutukuru/ ~ずつ cui-
 naa/ ~ずつ交替すること cuiçigaruu,
 cuinaakaaru/ ~でする仕事 mucici-

risigutu/ ~ひとり cuinaa, →それぞれ
 ひとり〔日取り〕 hwidui, tucituihwiidui,
 tucituihwiitui
 ひとりあそび〔一人遊び〕 →duumui
 ひとりあるき〔一人歩き〕 duucui?aQci
 ひとりぐらし〔一人暮らし〕 cuigurasi, duu-
 cuigurasi
 ひとりご〔独り子〕 cuiŋgwa
 ひとりごと〔独り言〕 duuciumunii
 ひとりだち〔一人立ち〕 cuidaci
 ひとりでに nanKuru, →しぜん
 ひとりね〔一人寝〕 duucukurubi
 ひとりまえ〔一人前〕 →いちにんまえ, ひと
 なみ/ ~の賃金 zuubunbuu
 ひとりむすこ〔一人息子〕 cuiwikigangwa
 ひとりむすめ〔一人娘〕 cuiwinagungwa
 ひとりもの〔独り者〕 duuciumun
 ひとりわらい〔独り笑い〕 duucuiwaree
 ひとりわん〔一腕〕 hunpan
 ひながた〔雛型〕 hwinagata, →みぼん
 ひなたぼっこ〔日向ぼっこ〕 tiidabuui
 ひなにんぎょう〔雛人形〕 →saatuumee,
 ?umentuu/ ~を入れる箱 ?umentuu-
 ひなわ〔火縄〕 hwiinaa 上baku
 ひなん〔非難〕 →nucihwici, そしる/ ~さ
 れる点 hwiihwinaa, hwiikusi
 ひにく〔皮肉〕 ?uranucimunii, ?uranuci-
 munu?ii/ ~をいう kizun
 ひねくれもの〔ひねくれ者〕 hwinaa, hwin-
 sjaa, hwizaimacaa, magariuhwiga-
 ruu, magariuhwiguruu, →hwin
 ひねくれる mudijun, →hwin
 ひねりたおす〔捻り倒す〕 mudikeerasjun,
 muditoosjun
 ひねる〔捻る〕 hwinijun, →つねる, ねじ
 る/ ひねったりつねったりする mudicin-
 kijun
 ひのえ〔丙〕 hwinii
 ひのき〔檜〕 hwinuci
 ひのこ〔火の粉〕 hwibana

ひのし〔火熨斗〕 ʔuqtoo
 ひのたま〔火の玉〕 hwiidama, hwidama
 ひのと〔丁〕 hwinutu
 ひのべ〔日延べ〕 →えんき
 ひばし〔火箸〕 hwiibaasi
 ひばち〔火鉢〕 hwiibaci, →hwiiruu, tifa-
 bui
 ひはつ〔華菱〕〔植物名〕 hwiwhaçi
 ひばな〔火花〕 hwiwana
 ひばり〔雲雀〕 ciNcinaa/ ~の鳴き声 ciN-
 ひび〔日日〕 hwibi [ciN
 ひび〔躰・躰〕 ʔaaki, hwiibari, hwiibici,
 hwiibiki/ ~が入る ʔaakijun, hwiibari-
 jun, hwiibikijun
 ひびき〔響〕 hwiibici
 ひびく〔響く〕 hwiibicun
 ひひらぐ〔掻ぐ〕 hwiiracun
 ひふ〔皮膚〕 kaa, →はだ/ ~がただれてい
 ひぶ〔日歩〕 hwibu [る者 kaasinda
 ひふきだけ〔火吹竹〕 hwiihuci
 ひぶくれ〔火脹れ〕 hwiitaqtaa
 ひふびょう〔皮膚病〕 /~の名 ʔasibu, bin-
 duku, gucahwa, harajukuni, hweega-
 sa, 'janbarugoora, 'joo, kasa, kazoo-
 rimun, kizimunaajaacuu, koosi, mi-
 zigasa, mizigasaa, muNzaai, naban-
 gasa, niibutaa, niibutu, sirabee, sjuu-
 buqtee, tunzaagasa, ʔuubu, ʔweegasa
 ひぶん〔碑文〕 →ひもん
 ひぼう〔誹謗〕 →そしる
 ひぼう〔美貌〕 curakaagi, →びじん
 ひぼし〔日干し〕 hwiibusi
 ひほんなひと〔非凡な人〕 qeugawaiimun
 ひま〔暇〕 hwima, madu/ ~になる ma-
 doocun/ ~暇 madumadu/ ~を作る
 madookijun 「gwaamuqkuu
 ひま〔蓖麻〕 caNdakasio/ ~の実 zuri-
 ひまご〔曾孫〕 mataʔNmaga
 ひましに〔日増しに〕 hwiimasini
 ひまじん〔暇人〕 hwiimasimun

ひまつぶし〔暇つぶし〕 →hwimadaari
 ひめい〔悲鳴〕 →ʔakisamijoo
 ひめばしょう〔姫芭蕉〕 hanabasjuu
 ひも〔紐〕 'uu, 'wiiruu
 ひもじい 'jaasaN/ ひもじさ →くうふく
 ひもん〔碑文〕 hwimun
 ひやかす〔冷かす〕 nabakujun
 ひゃく〔百〕 hjaaku, hjaku, →mumu,
 mumu-
 ひゃくさい〔百歳〕 hjakuşee, mumutu
 ひゃくしょう〔百姓〕 çukujaa, haruʔaq-
 caa, harusjaa, ʔNmucukujaa, ziNcu,
 →hjokusjoo/ ~をする →ʔaqcun
 ひゃくにじゅっさい〔120歳〕 hjakuhataci
 ひゃくにちぜき〔百日咳〕 hjakunicizaq-
 ひゃくにん〔百人〕 hjakunin [kwii
 ひゃくねん〔百年〕 hjakunin, mumutu
 ひゃくまんがん〔百万貫〕〔銭〕 hjakumaN-
 ひゃくもん〔百文〕 cukumui [gwan
 ひやごはん〔冷御飯〕 hwizuruʔubun
 ひやす〔冷やす〕 samasjun, →hwizujun
 ひやぞうめん〔冷素麺〕 hweezoomin
 ひゃっかにち〔百か日〕 hjaqkanici
 ひやとい〔日傭い〕 hwiijuu, timatujaa, →
 じゅうろろどろしゃ
 ひやみず〔冷水〕 hwizurumizi
 ひやりと〔冷りと〕 hwizuqteen
 ひゅうひゅう huuihuui
 ひゅうびゅう buubuu
 ひよう〔費用〕 çikuri, zoosa, →いりめ/
 ~が掛かる çikurijun
 ひょう〔倭〕 -hjuu
 ひょう〔廟〕 bjuu
 ひょうき〔病氣〕 bjooçi, 'jami, 'janmee,
 sawai, →duuziira, 'jamiwacaree, mii-
 sicihanasici, siira, きゅうびょう, じ
 びょう, じゅうびょう, やむ, わずらい/
 ~がちな者 'janmeemun/ ~させる 'ja-
 masjun/ ~する 'janun/ ~で寝込む
 ʔucikutasjun/ ~でわずらうこと 'jami

ひよ

wacaree/ ~の一種 →jakii, kusa, musici, sinci, sjookan, sukukuzirijan/ ~よけ →huucigeesi
 ひょうきん〔剽軽〕 sukuçi, →こっけい
 ひょうぐ〔表具〕 hjuugu
 ひょうし〔拍子〕 hjoosi
 ひょうし〔表紙〕 sjumuçinukaa
 ひょうしぎ〔拍子木〕 hjoosizi
 ひょうじゃく〔病弱〕 /~である binasan, 'jahwarasan/ ~そりである miijahwaragisan/ ~そりで健康な者 'jahwaraganzumun/ ~なさま 'jahwarageera, 'jahwatakeetai/ ~な者 'jahwaraa, 'jahwarageeraa, 'jahwaramun, 'jahwataimun, 'jahwatajaa, 'janmeemun
 ひょうじゅん〔標準〕 zooma
 ひょうじょう〔表情〕 →miikuci
 ひょうじょう〔病状〕 →ようだい/ ~がはかばかしくないさま ?uqtoohwiitoo
 ひょうたん〔瓢箪〕 çiburu, hjootançiburu
 ひょうちゃくぶつ〔漂着物〕 'juimun
 ひょうどう〔平等〕 caahwiihwii, caahwiitoo, hwiwhiituu, →こうへい
 ひょうとり〔日傭取り〕 hwijuu, timatujaa
 ひょうにん〔病人〕 bjoonin
 ひょうはくする〔漂白する〕 sarasjun/ 漂白される sarijun
 ひょうばん〔評判〕 cikwii, hjooban, sata, ?utu, →kuciçiba, Qcu, うわさ/ ~になる tujumarijun, ?utu?ucun/ ~に聞くこと ?utuzici
 ひょうばんもの〔評判者〕 hjoobanmun
 ひょうぶ〔屏風〕 bjoobu, noobu, →きんぴょうぶ
 ひょうめん〔表面〕 ?waabi, →うわべ/ ~がきれいなもの ?waabicuraa/ ~がすべっこいこと ?waabişindi, ?waabinañiuuruu/ ~の皮 ?waabigaa
 ひょうろう〔兵糧〕 hjooroo
 ひよけ〔日除け〕 hwiigataka, hwigataka

ひよこひよこ buraisarai
 ひよっとしたら →juu
 ひよどり〔鳥の名〕 hjuusi
 ビヨビヨ pijapija
 ひよめき〔顎門〕 hjuuruci, →のうてん
 ひよわ →びょうじゃく
 ひらきど〔開き戸〕 meezu
 ひらく〔開く〕 hurakijun, hwiracun, →haqqajun, あく
 ひらくみ〔平組〕 hwiragun
 ひらざむらい〔平侍〕 gişi
 ひらたい〔平たい〕 hwirasan, →たいら/ ~もの hwiraa/ ひらたく hwiraqteen/ 平たくする hwirakasjun, hwiramijun/ 平たくなる hwirakijun
 ひらまつ〔平松〕 hwiramaaçaa, hwiramaaçi
 ひらめ〔平目〕〔魚の名〕 kaasjanuhwaa?i
 ひらやくにん〔平役人〕 gişi [ju
 ヒラリヤ →フィラリヤ
 ぶり çibi, çibikusu, çibikusuu, ?ooban, ?oogusu, ?ootoo, šiiban, susu
 ぶりぶり 'jarikwankwan
 ひりょう〔肥料〕 kwee
 ひる〔昼〕 hwiru, →まひる
 ひる〔干る〕 hwijun [hoojun
 ひる〔放る〕 hwijun/ ひり散らす hwiri
 ひるがお /~の一種 'jamakanda, 'jama
 ひるごはん〔昼御飯〕 →ひるめし [kandaa
 ひるじゅう〔昼中〕 hwiruzuu, →にちゅうりゅう [ma
 ひるすぎ〔昼過ぎ〕 hwiruma, takahwiru
 ひるね〔昼寝〕 hwinni/ ~ばかりする者 hwinnaa
 ひるひなか〔昼日中〕 ?akarahwiru
 ひるめし〔昼飯〕 ?asaban, ?aşii, →?asa-?ubun, hwirumamun, mihwiruma, mihwiruma?ubun/ ~持参 mucu?asaban/ ~時分 ?asabanuui/ ~のさつまいもをその日に掘ること hui?asaban/ ~

の支度 ?asabaNsugai
 ひろ[尋] hwiru/ ~で計る hwiruzun
 ひろい[広い] hwirusan, →'waa/ ~場所
 hwiruzi 「mun
 ひろいもの[拾い物] kameeimun, tumeei-
 ひろう[疲労] kutandi, 'utai, →つかれ/
 ~する →つかれる
 ひろう[拾う] hwirajun, hwirijun, ka-
 meejun, tumeejun/ 拾い集める tuica-
 meejun
 ひろう[蒲葵](植物名) kuba/ ~の葉 kuba-
 gaasja/ ~の葉のうちわ kuba?oozi/ ~の
 葉の笠 kubagasa
 ピロード tiNgaaacu
 ひろがり[広がり] hwirugai
 ひろがる[広がる] hwirugajun, →tana-
 bicun, ひろまる
 ひろげる[広げる] hwirugijun, →ひろめる
 ひろさ[広さ] nuu, 'waa
 ひろば[広場] naa
 ひろびろと[広広と] hwiruubiruu/ ~して
 いること →nuu 「がる
 ひろまる[広まる] hwirumajun, →ひろ
 ひろめる[広める] hwirumijun, →ひろげ
 びわ[枇杷] biwa する
 ひわいな[卑猥な] zibita, →いやしい, わ
 いせつ/ ~ことば zarikutuba/ ~たわむ
 れかたをする zarijun 「biki
 ひわれ[干割れ] hwibari, hwibici, hwi-
 ひわれる[干割れる] hwibarijun, hwibi-

kijun
 ひん[品] sina, →じんびん, ひんい
 ひん(接頭) →hwin-
 びん[瓶] bin
 びん[便] bin
 びん[鬚] binta
 ひんい[品位] bun/ ~を保ちたがる者
 bunmucaa
 ひんきゃく[賓客] →きゃく
 ひんけつ[貧血] /~を起こす →bucigeec,
 のうひんけつ
 びんごい[備後蘭] biiguii, tuuzinii
 ひんこう[品行] ?ukunee, →みもち
 びんごおもて[備後表] biigumusiru/ ~の
 量 biigudatan
 ひんし[瀕死] maasigataa
 びんずる[賓頭慮] binzuru, bizuru
 びんた binta 「びたび
 ひんばんである[頻繁である] sizisan, →た
 びんぼう[貧乏] hwinsuu, →hwiqaku/
 ~なさま piipii/ ~をこぼす者 binboo
 びんぼうぐらし[貧乏暮らし] hwiNsuumgura-
 si
 びんぼうもの[貧乏者] hwiNsuumun,
 kuusiimun, kuncuumun
 ひんまがる[ひん曲がる] çinmagajun,
 hwiNmagajun/ ~こと çinmagaruu
 ひんみん[貧民] →びんぼうもの
 ひんみんくつ[貧民窟] burijasici
 びんろう[横擲] binroo

ふ

ぶ[分] -bu, -wari
 ぶあいそう[無愛想] bu?eesaci, bu?eesoo,
 kamazisi, →つつけんどん, つれない,
 ぶっちゃょうづら/ ~な者 kamazisaa,
 niihwuqkwaa, ziiguhwaa
 ぶあん[不安] cimuhwicagi, →ところぼ

そい, しんばい/ ~がる ?ukeejun
 ぶい[不意] →とつぜん/ ~なこと ?aqt-
 gutu, ?ubirazigutu/ ~に ?aqtani,
 おもわず/ ~の思いつき ?aqtakaNgee
 ぶいご[鞆] huuci/ ~の音 huucoopaNcoo
 ぶいごまつり[鞆祭] huuciee

ふいちょうする〔吹聴する〕 ?iihwirugijun
 フィラリヤ kusa, siŋci, →ぞろひびょう/
 ~患者 kusahurijaa, siŋcimuci/ ~の
 一種 huvii, tabuigusa/ ~の病根 kusa-
 ふう〔封〕 huu [nunii]
 ふう〔風〕 huu
 ふう〔二〕 taa, →に
 ふういん〔封印〕 huu?in
 ふうがわり〔風変り〕 huugawai
 ふうき〔風気〕〔伝染病〕 huuci
 ふうぎ〔風儀〕 huuzi
 ふうさい〔風采〕 huuzi, →すがた
 ふうし〔諷刺〕 ?uranucimunii, ?uranuci-
 munu?ii
 ふうしか〔諷刺歌〕 kaki?uta
 ふうしゅう〔風習〕 huu, huuzi, →しゅう
 ふうすい〔風水〕 huŋši [かん
 ふうぞく〔風俗〕 huu, huuzi, zuku, →しゅう
 うかん, くへのふうぞく
 ふうっ huui/ ~と息を吹きかけること →
 huuhuu
 ふうふ〔夫婦〕 guutumiitu, miitu, miit-
 unda, tuziimiitu/ ~が死後一つの甕の
 中に入ること kaaminu?ibitiici/ ~が
 しっくり行く kama sikajuN/ ~関係
 miitundaPicee/ ~げんか miitunda?oo-
 ee/ ~だけの話 miitundamunugatai/
 ~連れ miitundaziri
 ふうふう siisii
 ふうふう〔豚の鳴き声〕 gaweegawee, guu-
 guu
 ふうみ〔風味〕 huumi, →あじわい
 ふうらん〔風蘭〕〔植物名〕 maçibaran, ma-
 çidan, maçiran
 ふうりゅうじん〔風流人〕 sjuzoonin
 ふうりん〔風鈴〕 huurin
 ふえ〔笛〕 haŋsjuu, huueoo, →biibii/ ~
 の音 →piiraruraa
 ふえて〔不得手〕 huiiti, huiti
 ふえる〔増える〕 kazuujuN/ ~こと →?imi

ふか〔籬〕 huka, 'juubinuqkwa, →さめ
 ふかあみがさ〔深編笠〕 mintarifaŋzasa.
 mintarii
 ふかい〔深い〕 hukasan
 ふかす〔蒸す〕 ?NbusjuN, →hucun
 ふかする〔孵化する〕 şidasjuN, şidijun/
 孵化しない卵 şimuru
 ぶかっこう〔不恰好〕 bukaqkoo, hwiza-
 ruu/ ~である hwizarugisaN
 ぶかりぶかり pakupaku
 ぶぎ〔不義〕 huzi
 ふきかえし〔吹き返し〕 keesi
 ふきけす〔吹き消す〕 hucicaasjuN
 ふきげん〔不機嫌〕 →hwiŋci [cuN
 ふきこむ〔吹き込む〕 hucikunun, hucin-
 ふきそうじ〔拭き掃除〕 susuikaci
 ふきつ〔不吉〕 bukarii, →きょうちょう, ふ
 しょう
 ふきとばす〔吹き飛ばす〕 hucitubasjuN
 ふきとる〔拭き取る〕 →ぬぐう
 ぶきよう〔不器用〕 bukuu, hwizaruu/ ~
 らしい hwizarugisaN
 ぶきりょう〔不器量〕 'janakaagi
 ふきん〔布巾〕 hwiicin
 ふく〔福〕 huku
 ふく〔吹く〕 hucun, suzun, →?abucun/
 ~音 →huui
 ふく〔拭く〕 →ぬぐう
 ふく〔葺く〕 hucun
 ふぐ〔不具〕 katahwa, →かたわ
 ふくいくと〔馥郁と〕 hukuhuku
 ふくかん〔副官〕 'wacijaku
 ふくぎ〔福木〕〔植物名〕 hukuzi/ ~のいけ垣
 hukuzigaci [hukugaadui
 ふくげ hukugii/ ~の立った鶏 hukugaa,
 ふくけん〔福建〕 hucan
 ふくさ〔袱紗〕 miçizi
 ふくしゅう〔復習〕 →huku
 ふくそう〔服装〕 sugai, →なり
 ふくどく〔復読〕 huku

ぶくぶく puurupuuruu
 ぶくぶくしい [福福しい] / ~さま kwa-
 nkwan
 ぶくべ [瓢] →ひょうたん
 ぶくみごえ [含み声] munukukunʔabii
 ぶくむ [含む] kukunUN
 ぶくらはぎ [脹ら脛] kunda
 ぶくらむ [脹らむ] →ふくれる
 ぶぐり [陰囊] →きんたま
 ぶくれ [脹れ] →buqkwa [niihwuqkwa
 ぶくれつつら [脹れっ面] girahuqkwa,
 ぶくれる [脹れる] harijUN, huqkwijUN,
 → hacikunUN, huukeejUN, huukeeri-
 jun, ʔitabuqkwijUN, ʔitabuqkwi
 ぶくろ [袋] hukuru/ わらの~ ziibu
 ぶくろう [巢] cikuku, takazikuku
 ぶくろそで [袋袖] hukurusudi
 ぶくろだたき [袋叩き] maaruugurusi
 ぶけ [雲脂] ʔirici, →gahwara
 ぶけつ [不潔] bucirii/ ~である→きたない
 ぶける [更ける] hukijUN/ ふけてみえる
 ʔwiiraasjan
 ぶこう [不幸] buʂeeewe, ʔurii, ʔuriigu-
 tu/ ~なこととお祝いごと ʔuriisjuuzi/
 ~な知らせ →ʔarasigwii/ ~の折 →ba-
 sju
 ぶこう [不孝] hukoo, →おやふこう
 ぶこうへい [不公平] katakaki/ ~な配分
 katawaki
 ぶこくする [布告する] hurijUN, →おふれ/
 布告して
 行き渡らせる huriituusjun
 ぶこころえ [不心得] hukukuri
 ぶさ [房] husa
 ぶさい [負債] →しゃっきん/ ~のために使
 役されること ʂikama/ ~のために使役さ
 れる人 ʂikamaa
 ぶさがる [塞がる] katamajUN/ 傷口が~
 miijaajUN
 ぶさく [不作] husaku

ぶさぐ [塞ぐ] husazUN
 ぶざける ʂibeejUN, →biqʂee/ ~こと ga-
 Nmari
 ぶさた [無沙汰] busata, →そえん
 ぶさほう [無作法] busahuu, →ʔuceemee,
 しつれい, ぶれい
 ぶさわしい nawaasjan, nootaru, →nio-
 ojun, noojUN, souuu/ ~こと niee/ ふ
 さわしくなる husaajUN, husajUN
 ぶさん [不参] husan
 ぶさんせい [不賛成] huiuii, husansii/
 ~の者 husansii
 ふし [節] husi/ ~だらけ husitakaraa/
 ~と節との間 ʔjui, ʔuju/ ~と節との間
 が長い ʔjuinagasan, ʔjuunagasan
 ぶじ [藤] huzi
 ぶじ [不時] hutu, huzi, →とつぜん
 ぶじ [無事] buzi, (敬語)gubuzi
 ふしあな [節穴] husiʔana, husihugi
 ふしあわせ [不幸] →ふこう
 ふしぎ [不思議] husizi, →きみょう/ ~で
 ある hwirumasjan/ ~な →saita
 ふしぶし [節節] husibusi
 ぶじゆう [不自由] huzijuu
 ぶじゆうぶん [不充分] huzuubUN, →ふそ
 く/ ~である ʔurusan
 ふしょう [不祥] husjoo, →ふきつ
 ふしょう [不肖] →kazinaranmun
 ふしょう [負傷] →けが/ ~する ʔjamasjun
 ぶしょう [無精] hujuu, →ものぐさ/ ~で
 ある ʂibiʔnbusan
 ふしょうしゃ [負傷者] kiganin
 ふしょうち [不承知] huduui, hugaqtin
 ふしょうぶしょう [不承不承] →ʔnpaan-
 paa
 ぶじょうまけ [不浄負け] huzoomaki
 ぶしょうもの [無精者] ʂibitugajaa, guu-
 da, →ものぐさ
 ふしん [普請] husin/ ~する →gireejUN
 ふしん [不振] humigui

ふし

ふしん〔不審〕 husin
ふしんがみ〔不審紙〕 husingami
ぶすい〔不粋〕 busizoo
ふすま〔襖〕 hucima
ふせいこう〔不成功〕 →しっぱい/ ～に終わる naihansjun
ふせぐ〔防ぐ〕 husizun/ ～こと husizi
ふせる〔伏せる〕 ?uqginkijun, ?usubasjun
ふせん〔付箋〕 husingami
ふそ〔父祖〕 ?ujahuzi, ?ujahwahuzi
ふそうおう〔不相応〕 husoouu
ふそく〔不足〕 husuku, →buraari, たりる/ ～がちなさま hwiqcirakaacira/ ～する buraarijun/ ～を補う tasimeejun
ふぞろい〔不揃い〕 guumancaa, →guuhanadaa, guuhaziraa
ふた〔蓋〕 huta/ ～付きのどんぶり hutamakai
ふた〔二〕 ta-, →に, ふり
ふだ〔札〕 huda
ふた〔豚〕 ?waa, (小児語) ?waa?waa, →buta-, -buta/ おすの～ 'uu?waa/ さかりのついた～ kurii?waa/ ～の脂 buta?anda, butaju, butubutuu/ ～の餌入れ tooni/ ～の餌入れをかきさらえる器具 toonikacaa/ ～の去勢を業とする者 ?wahugujaa/ ～の尻の骨と肉 guujaa/ ～の尻の骨を煎じたスープ guujaasinzi/ ～の脊中の肉 boozisi/ ～の種付けを業とする者 'uu?waakarajaa, ?waaqikijaa/ ～の鳴き声 gaweegawee, guuguu/ ～の売買をする者 ?waabakujoo/ ～を飼う者 ?waakarajaa/ ～を屠る者 ?waasjaa
ふだい〔譜代〕 →hudee
ふたい〔舞台〕 butee/ ～衣裳 →'uduizin/ ～の一種 banku
ふたいとこ〔再従兄弟姉妹〕 →またいとこ
ふたおや〔双親〕 →りょうしん
ふたきれ〔二切れ〕 tacaai

ふたご〔双生児〕 taacuu
ふたこいと〔二子糸〕 hutagu
ふたこおり〔二子織〕 hutagu
ふたごころ〔二心〕 hutagukuru
ふたこと〔二言〕 takutu
ふたしか〔不確か〕 hutasika
ふたつ〔二つ〕 taagi, →taa, ta-, →に/ ～のうちならば →taagi
ふたつき〔二月〕 taqici
ふたつちがい〔二つ違い〕 →taaqimisi
ふたつわり〔二つ割り〕 tacaai, taaqiwai
ふたとおり〔二通り〕 tatuui
ふたとせ〔二年〕 tatu, →にねん
ふたなのか〔二七日〕 tananka
ぶたにく〔豚肉〕 buta?aqtami, →boozisi, guujaa, ?ucinaganii/ ～の市 ?waasjamaci/ ～の塩漬け sjuubuta
ふたまたがけ〔二股がけ〕 tamatagaki
ふたまたごうやく〔二股膏薬〕 matabasigoojaku, →ふたまたがけ
ふため〔二目〕 tami
ふたり〔二人〕 tai, (敬語) ?utatukuru
ふたん〔負担〕 →おもに, にやっかい/ ～過重 muciqkwa/ ～する分 mucimee
ふだん〔不断〕 hwiizii, madu, zoohwita, →caa, いつ, へいそ
ふだんぎ〔不断着〕 ?iqsoocijaa, 'jaakaracijaa/ ～ですますこと →dusudiimee
ふち〔淵〕 hukatu
ぶちこわす〔打ち毀す〕 ?wiikunsjun
ぶちょうほう〔不調法〕 binasawaqsa, ?ucoohoo, →ふゆきとどき/ ～である bin
ふちん〔浮沈〕 tacitoori [asan
ふつう〔普通〕 ?ataimee, çini, nami, →あたりまえ
ふつか〔二日〕 hucika
ふっかける / 高値を～ →sansooba
ふつかよい〔二日酔い〕 'jamii, sakigaci
ぶつかる haqcakajun, →しょうとつする
ぶづくり〔分作り〕 çukuiwaakii

ふっけん〔福建〕 hucan
 ふつごう〔不都合〕 huçigoo
 ぶっそうげ (植物名) ?akabanaa
 ぶつだん〔仏壇〕 →buçidan, gusiñdan,
 ?ubuçidan/ ~の台 kudee 「→ぶあいそう
 ぶっちょうづら〔仏頂面〕 çirahuqkwaaw,
 ぶつっ / ~という pucimikasjun
 ぶつつかである binasan, →ぶちょうほう
 ぶっとう〔沸騰〕 / ~させる hukasjun/
 ~する hucun, mugeejun, →?abucun,
 わく
 ふっとぶ〔吹っ飛ぶ〕 tunuzun, →hwintu-
 bi, けしとぶ, すつとばす
 ぶつぶつ danzamuñza, kuihai, kujaa-
 hajaa, ziiguihjaagui, miiziguuzi
 ぶっほう〔仏法〕 buqpoo
 ぶつよく〔物欲〕 mucijuku
 ぶつり puççiri/ ~という pucimikasjun
 ふで〔筆〕 hudi
 ふていさい〔不体裁〕 hutanari
 ふでき〔不出来〕 hudiki
 ふてきせつ〔不適切〕 hutanari
 ふてね〔不貞寝〕 ninzigunasi
 ふとい〔太い〕 ?arasan, magisan
 ふとう〔埠頭〕 tundoo
 ふどうい〔不同意〕 →ふさんせい
 ふとくい〔不得意〕 huiiti, huiti
 ふところ〔懐〕 hucukuru
 ふところで〔懐手〕 tiibucukuru
 ふとしたはずみに nuutunçanaasi
 ふとどき〔不届き〕 huçigoo, hutuðuci
 ふともも〔蒲桃〕 (植物名) huutoo
 ふとる〔太る〕 buteejun, kweejun, mu-
 teejun, →cintejun/ 太ったさま kwee-
 gweetu/ 太った者 buqtarakoo, buqta-
 rakuu, buqtee, butuu, kweebutaa,
 kweetaa, kweetuu/ 太っている buta-
 san, →kweetanda ?ucun/ ~こと
 →sirugweei, kurugweei 「icidoogu
 ふとん〔蒲団〕 kanzimun, ?uudu, →zas-

ふな〔鰯〕 taa?iju/ ~の燻製 kaakasjaa/
 ~を煎じた汁 taa?ijusinzi 「buunii
 ふなあそび〔舟遊び〕 huna?ašibi, nagari-
 ふなか〔不仲〕 hunaka, →なか, ふわ
 ふながかり〔船乗り〕 hunagakai
 ふなこ〔舟子〕 →すいふ, せんいん
 ふなだいく〔船大工〕 hunadeeku
 ふなたび〔船旅〕 hunatabi
 ふなちん〔船賃〕 hunacin
 ふなつきば〔船着き場〕 tumai
 ふなのり〔船乗り〕 →せんいん
 ふなばし〔船橋〕 hunabasi
 ふなびん〔船便〕 hunabin
 ふなみち〔船路〕 hunamici
 ふなよい〔船酔い〕 hunawii, huneei, →
 ziibuneei
 ふにあい〔不似合〕 hutanari
 ふにんじょう〔不人情〕 huninçoo, →はく
 じょう/ ~な者 →cikusjoomun
 ふね〔船〕 huni, (敬語) ?uuni, →?aja-
 buni, ?ajahuni, haarii, ?anbaraabu-
 ni/ ~の検査 huna?aratami/ ~出迎の
 え hunankee/ ~の見送り huna?ukui/
 ~を作る→hazun
 ふねっしん〔不熱心〕 hunin/ ~である ci-
 munurusan
 ふのう〔不納〕 hunoo
 ふのり〔布海苔〕 hunui
 ふびじん〔不美人〕 ?janakaagii
 ふびん〔不憫〕 / ~である cimugurisjan
 →かわいそう
 ぶふうりゅう〔無風流〕 saqkoo
 ふふく〔不服〕 →ふまん, ふへい/ ~そうに
 hukuqtu/ ~である →tuukijun
 ふへい〔不平〕 googuci, guñdan, ?irihui,
 kuihai, kujaaajaa, kunuu, kunuu-
 manuu, ziigui/ ~の多いこと (~の多い
 さま) googucihjaaguci, kunuumanuu,
 ziiguihjaagui/ ~を言う者 googucaa,
 ziiguimun, ziigujaa

ふべん〔不便〕 hukaqti, →hubin/ ~や不足 binasahaganasa
 ふぼ〔父母〕 ʔajaataarii, →おや
 ふまじめ〔不真面目〕 / ~な者 ʔahwageerimun / ~になる ʔahwageejun, ʔahwageerijun
 ふまん〔不満〕 ʔirihui, →ふへい/ ~げに hukuqtu/ ~である →ʔacizaran
 ふみあらず〔踏み荒らす〕 kuntoosjun
 ふみいし〔踏石〕 kudami
 ふみこむ〔踏み込む〕 humikunun, kumin-cun
 ふみだい〔踏台〕 kudami
 ふみたおす〔踏み倒す〕 kuntoosjun/ 踏み倒される →hurubun
 ふみつける〔踏み付ける〕 kudamijun, kunaasjun, kunasjun, kunçikijun
 ふみつぶす〔踏み潰す〕 kunpiizun, kunpirakasjun, →ふみつける
 ふみにじる kunpiizun, →じゅうりん
 ふみはずす〔踏み外す〕 kunhansjun
 ふみんしょう〔不眠症〕 miiguhwai, miikuhwai/ ~の人 miikuhwajaa
 ふむ〔踏む〕 kudamijun/ 踏まないようにさけて通る kunmaasjun
 ふむき〔不向き〕 hukaqti, →ふにあい
 ふめいよ〔不名誉〕 miiwaku, →kusiwhici, なおれ/ ~な者 kusiwhicimun
 ふめんぼく〔不面目〕 miiwaku, →なおれ
 ふゆ〔冬〕 huju/ ~の雨 →simu/ ~のひとえ ciimun
 ふゆう〔富裕〕 →ゆうふく/ ~なさま huufu
 ふゆかい〔不愉快〕 bukukuci [huu
 ふゆきとどき〔不行き届き〕 binasawaqsa, hutuduci, →ぶちょうほう
 ふゆもの〔冬物〕 hujumun
 ふよう〔芙蓉〕 hujuu
 ぶよう〔舞踊〕 →おどり/ ~団 ʔuduiniŋzu
 ぶらく〔部落〕 →むら/ ~の大きさ simawaa/ ~の総代 suugasira, muragasi-

ra/ ~の中 simawaa
 ぶらつく ʔiikujun
 ぶらぶら burabura, siikuimeekui
 ぶらんこ ʔindaagii
 フランス huraŋʃi [kii
 ぶり〔振り〕 huunaa, -bui, naziki, nazii
 ぶりあげる〔振り上げる〕 hujagijun
 ぶりかえす〔ぶり返す〕 huikesjun, huqceesjun, hwiqceesjun, →さいはつする
 ぶりかえる〔振り返る〕 tunkeejun
 ぶりかえる〔振り替える〕 kuikeejun
 ブリキ buriki, sicitangani/ ~のやかん sicitanjaqkwan
 ブリキヤ〔ブリキ屋〕 burikizeeku
 ぶりこむ〔降り込む〕 ʔucikunun, ʔucin-cun
 ぶりこめられる〔降り込められる〕 huikumirarijun
 ぶりすてる〔振り捨てる〕 huiʃitijun
 ぶりそで〔振り袖〕 huisudi
 ぶりまわす〔振り回す〕 huimaasjun
 ぶりむく〔振り向く〕 tunkeejun
 ぶりょう〔不良〕 hurimun, hwinzimun,
 ふる〔降る〕 hujun ↳→ならずもの
 ふる〔振る〕 hujun
 ふるい〔篩〕 ʔui/ ~の一種 ʃiinoo
 ふるい〔古い〕 hurusan/ ~家 hurujaa/ ~魚 sagaiʔiju/ ~反故 huruhugu/ 古くする hurumasjun, hurumijun/ 古くなる hurunun, →ふるぼける
 ふるえ〔震え〕 hurii
 ふるえごえ〔震え声〕 hutuhutuugwii
 ふるえる〔震える〕 hurijun, →ぶるぶる
 ふるぎ〔古着〕 huruzi, huruzin
 ふるぎいち〔古着市〕 huruzimaci
 ふるぎしょう〔古着商〕 huruziʔacinee, huruziʔacoodu
 ふるまぎ〔古傷〕 hurukigi
 ふるす〔古巣〕 huruʃii
 ふるち〔古血〕 huruei

ふるどうぐ〔古道具〕 hurudoogu, →ふるも
 ふるどうぐや〔古道具屋〕 hurudooguu ㄷ
 ふるびる〔古びる〕 hurunUN, →ふるほける
 ぶるぶる hutuhutuu 「→ふるびる
 ふるほける〔古ほける〕 hurubuQkwijUN,
 ふるもの〔古物〕 hurumUN, →ふるどうぐ
 ふるわた〔古綿〕 huruwata 「つれい
 ぶれい〔無礼〕 burii, (敬語) guburii, →し
 ふれる〔触れる〕 hurijUN, saajUN, →hu-
 ふれる(気が〜) hurijUN ㄹrituusjUN
 ふろ〔風呂〕 'juuhuru
 ブローカー bakujo ㄹcukwiizi
 ふろしき〔風呂敷〕 ?ucukwii/ ~包み ?u-
 ふろせん〔風呂銭〕 'juuhurucIN ㄹcin
 ふろや〔風呂屋〕 'juuhurujaa
 ふわ〔不和〕 huwa, →ふなか/ ~である
 ふん〔返事〕 hNN ㄹkuhwasAN
 ぶん〔分〕 bun, →みぶん/ ~に過ぎる tat
 ぶん〔分〕 -mee ㄹaasjan
 ぶんがい〔憤慨〕 'jungusamici/ ~する
 kusamicUN, 'wazijUN/ 少し~すること
 saagusamici, ?usugusamici/ ~するさ
 ま kusamicinoori
 ぶんかいする〔分解する〕 'waQkwasjUN,
 'waQkwijUN, →かいたい
 ぶんかんしけん〔文官試験〕 koo/ ~の初め
 ての受験 ha?ikoo/ ~の本試験 ?eekoo

ぶんけ〔分家〕 'jaatacaa, 'jaawakajaa, →
 naagu/ ~筋 'judaci, 'wakari/ ~する→
 'jaa, 'wakajUN/ ~の先祖 nakamuutu
 ぶんこ〔文庫〕 bunkuu
 ぶんさい〔文才〕 bun?ee
 ぶんざい〔分際〕 bun?ee, takibun, →みぶ
 ん
 ぶんしょ〔文書〕 kaci?iki, →こもんじょ
 ぶんしょう〔文章〕 mungUN
 ぶんたんきん〔分担金〕 →?usakati
 ぶんちん〔文鎮〕 buncin
 ぶんどう〔分銅〕 ?Nbusi
 ぶんどし〔禪〕 hadoobi, mawasi, meecaa,
 meecaasanazi, sanazi/ ~の前に垂れて
 いる部分 sanazinutai/ ~のみつ sana-
 zinu?azimaa
 ぶんばい〔分売〕 →kuusi?ui
 ぶんばいする〔分配する〕→わける
 ぶんばる〔踏ん張る〕 jaQpajUN, kunpaju-
 N/ ~さま kunpaikaapai, kunpainiipai
 ぶんぶん buubuu, →buubuutuubee
 ぶんぶん kwacikwaci 「→しりよ
 ぶんべつ〔分別〕 ?ati, hunbi?i, ?inbUN,
 ぶんべんする〔分娩する〕 →karunUN,
 うむ, しゅっさん
 ぶんぼうぐ〔文房具〕 simihudikabi
 ぶんわりと / ~させる hanagijUN

へ〔屁〕 hwii/ ~の音 →puu/ ~の臭がし
 てくさい hwiikusasan/ ~のようなもの
 hwiikusunaqtai/ ~をひる者 hwiihwi-
 raa
 へ〔助詞〕 -kai, -nai, →に
 べ〔部〕(階層の名) -bi
 へい〔塀〕 →hwinpUN, かこい
 へいかまりさげ〔平価切下げ〕 →munnga-

wai
 へいき〔平気〕 ?ini
 へいきん〔平均〕 hwiicin, narasi, tuna-
 mi/ ~して namiti/ ~する→ならず
 へいげん〔平原〕 toobaru
 べいこく〔米国〕 ?amirika
 べいじゅ〔米寿〕 hacizuuhaci/ ~の祝 'ju-
 ninu?uiwee, 'juninu?ujuwee, tookaci,

tookaci?uiwee, tookaci?ujuwee
 へいじょう〔平常〕 →ふだん
 へいしんていとう〔平身低頭〕 ?usurika-
 gan, 'uuritoori, →?uusari?aasari
 へいそ〔平素〕 ?ini, madu, →ふだん
 へいたん〔平坦〕 too, →たいら
 へいち〔平地〕 too, →へいや
 へいみん〔平民〕 hjakusjoo, hwiimin
 へいや〔平野〕 toobaru, →へいち
 へいゆ〔平癒〕 hwijuu, →かいふく
 へえ 'ee, haa
 へええ 'waa?aa
 へえへえ ?uusari?aasari
 へーロン〔爬竜船〕 haarii/ ~の時の歌 haa
 rii?uta/ ~の時のけんか haariimundoo
 へき -bicii
 へキン〔北京〕 hwikin
 へぐ〔剃ぐ〕 hwizun, →はがす, はぐ, むく
 へご〔植物名〕 hwigu
 へこべこ ?uusari?aasari, 'uuritoori
 へしまげる〔へし曲げる〕 ?usimagijun
 べしゃんこ siqpii, →たいら, つぶれる/
 ~である hwirasan/ ~のもの sipizaa/
 ~に hwiraqteen/ ~にする hwiraka-
 sjun/ ~になる hwirakijun, sipirijun
 へそ〔臍〕 husu, →ほぞ/ ~の緒と髪の毛
 husukarazi
 へそ girajoo
 へそくり〔臍繰る〕 'watakusi
 へた〔下手〕 hutaqsja, hwita
 へだたる〔隔たる〕 hwidatajun, hwizam-
 へだて〔隔て〕 hwidati, hwizami [ajun
 へだてる〔隔てる〕 hwidatijun, hwizami-
 べたべた buqtakwaqta [jun
 べたんと hwiraqteen
 へちま〔糸瓜〕 naabeeraa
 へちゃくちゃ ?aabaasaabaa, ?aacira-
 hjaacira, hwiqtakumaqtaku, pirinpa-
 ran, ?eerikweeri 「に
 べつ〔別〕 bici/ ~に→べつだん, へつべつ

べつ tuhwee/ ~とはく tuhweemika-
 sjun
 べっかんこ cinbeeru ?akakoozi
 べっこう〔鼈甲〕 kaaminakuu/ ~のかん
 ざし kaaminakuuziihwaa
 べつじょたい〔別所帯〕 sjuuteewakai
 べっそう〔別荘〕 harujaadui, 'jaadui, →
 ?ujaadui
 べつだん〔別段〕 bigidan
 べっぴん〔別嬪〕 curawinagu, →びじん
 べつべつに〔別別に〕 'wakasiwakasi, →そ
 れぞれ/ ~する 'wakasjun
 へつらい〔諂い〕 →おべっか
 へつらう〔諂う〕 →zuubui, zuuhui/ ~者
 meesaa
 べとべと muqcaikwaqta, nuurakwaa-
 へなへな biirakwaaara [ra
 べに〔紅〕 bin/ ~のしほりぞめ binsibui
 へび〔蛇〕 hwiibu, nagamun, →zaa/ ~
 の一種 ?akamataa, cinhabu, garaši-
 hwiibaa, hwiibaa, kuhwaa, ?oo?nna-
 zaa, →はぶ
 へや〔部屋〕 →ざしき/ ~の構え ?aaga-
 mee/ ~の名 kuca, kuui, kuuigwaa,
 meemuci, 'ncuca, ?uhugui, ?ura?a,
 ?uucibara
 へら〔篋〕 hwiira
 べらべら〔べらべら〕 ?aacirahjaacira,
 gakugaku, 'juntaahwintaa, 'juntaku-
 hantaku, 'juntakuhwintaku, pirinpa-
 ran, →ぺちゃくちゃ
 へり〔減り〕 hwiri
 へり〔縁〕 hwiri
 へる〔減る〕 hwinajun, hwijun, soorijun
 へる〔経る〕 hwijun, →たつ/ ...を経て
 -naadii
 へん〔變〕 hwin, →みょう/ ~な ?ihuuna,
 ?irunna, saita, →hwin
 へん〔辺〕 hwin, mangura, -kaa, →
 cinpoo, -nagii

べん〔便〕 ?ura, →だいべん
 べんかい〔弁解〕 ?iiwaki, 'waki, →いいわけ/
 ～する ?iiwakijun, →べんめいする
 へんくつ〔偏屈〕 / ～である cimuspusan/
 ～な者 cimuspuu
 へんさい〔返済・返債〕 hwinbin, hwin?ee,
 siibaræ, ?uqkabaree
 べんざいてん〔弁才天〕 bideetin
 へんじ〔返事〕 hwizi, ?iree, →へんとう/
 ～する ?ireejun
 へんしゅ〔変種〕 →かわりだね/ ～が生ずる
 tanagaajun
 べんじょ〔便所〕 huru, 'jaaburu, nisi, ?u-
 ra, →cuuzi/ ～に行く →?usi/ ～の穴
 tuusunumii/ ～の神 huduunukami/ ～
 の手洗い mizikubusi
 べんしょう〔弁償〕 tasimee/ ～する ha-
 cun, tasimeejun 'wancameejun/ ～
 させる hakijun
 へんしん〔変心〕 kukurugawai 「rujan
 へんずつう〔偏頭痛〕 hanzi?uu, kata?ibu-

へんせつ〔変節〕 ?irumigaa
 へんそうする〔変装する〕 'ja?irijun
 べんつう〔便通〕 cuuzi
 べんてんいけ〔弁天池〕 bideetingumui
 へんてんする〔変転する〕 / ～さま ?icika-
 waigawai
 へんとう〔返答〕 hwin?oo, ?ireehwizi, ?i-
 reekutee, ?ukihwin?oo, →うけこたえ,
 へんじ
 べんとう〔弁当〕 bin?oo, mucibanmee, →
 hwin?u/ ～持参 cuubanmee, muciyā-
 sabaN, mucibanmee
 べんどく〔便毒〕 bin?uku
 べんびする〔便秘する〕 cisijun
 へんべん〔返弁〕 →へんさい
 へんぼう〔返報〕 keesi
 べんめいする〔弁明する〕 harumijun, →べ
 んかい
 べんり〔便利〕 binri, tanari, →ちょうほう
 へんれい〔返礼〕 hwinrii, keesi, →おかけ
 し/ ～の品riizigeesi

ほ

ほ〔帆〕 huu, →muruhu, mahu
 ほ〔穂〕 huu
 ほいん〔摺印〕 ?iibiban
 ほう 'ee, haa
 ほう〔方〕 hara, hoo, muti/ …の～ -ba-
 ra, -kata
 ほう〔法〕 hoo, →ほうほう, ほうりつ
 ほう〔棒〕 boo 「かこむ
 ほういする〔包囲する〕 kanimaasjun, →
 ほうえんきょう〔望遠鏡〕 tuumikagan
 ほうおう〔鳳凰〕 huuo
 ほうか〔放火〕 ?ikibi, hwiizikee
 ほうか〔放下〕〔曲芸のこと〕 hooka
 ほうがく〔方角〕 hoogaku, →むき/ ～の悪

い所 →tusi?ana
 ほうかん〔防寒〕 hwiisahusizi
 ほうき〔箒〕 hoo*ci*
 ほうきする〔放棄する〕 han*n*gijun
 ほうきほし〔箒星〕 hoo*ci*busi, ?iriganbu-
 ほうきやく〔忘却〕 boocaku [si
 ほうぎょ〔防禦〕 husizi, →ふせぐ
 ほうぎょする〔崩御する〕 ?ukumuimiseen
 ほうきれ〔棒切れ〕 booziri, bui, bunziri
 ほうけい〔傍系〕 'judaci, 'wakari
 ほうげん〔方言〕 ?inakakutuba, kutuba
 ほうけん〔冒険〕 hantigutu 「ごほうこう
 ほうこう〔奉公〕 huukuu, →みやづかえ,
 ほうこう〔方向〕 →むき, ほう, ほうりがく

ほう

ほうこう〔芳香〕 kabakaza, →におい
ほうこう〔膀胱〕 siibaibukuru, siibaizi-
cin
ほうこうにん〔奉公人〕 huukuunin 「く
ほうさく〔豊作〕 →ʔabusimakura, まんさ
ほうざめ〔鯨の一種〕 'Nnatujuubinuqkwa
ほうじ〔法事〕 sjuukoo, tuisjuukoo, (敬
語) ʔusjuukoo, →madunaNka, そろし
き, だいほうえ/ ~の年忌 ninci
ほうし〔帽子〕 boosi, kanmui
ほうし〔奉仕〕 ʔwannee/ ~する garami-
cun, つかえる
ほうじま〔栲綱〕 / ~の着物 boozimaa
ほうしゅ〔宝珠〕 / ~の玉 nubusidama
ほうしゅ〔芒種〕 boosjuu
ほうしょがみ〔奉書紙〕 huusjugami, huu-
sjukabi 「ʔankaNbooz;
ほうず〔坊主〕 boozī, →おしょう/ ~頭
ほうすい〔紡錘〕 cimi
ほうせきいと〔紡績糸〕 seejangasi
ほうぜん〔呆然〕 →'Nnabai/ ~と huribu-
riitu
ほうせんか〔鳳仙花〕 tinsjaaguu
ほうそう〔痲瘡〕 curagasa
ほうだい〔放題〕 hundee, →わがまま
ほうちょう〔包丁〕 hoocaa
ほうちょうする〔膨脹する〕 huukeerijun
ほうど〔封土〕 →りょうち
ほうとう〔放蕩〕 hootoo, ʔnzihangwi/
~人 hootoonin/ ~者 hangwimun,
hootoomun, kwatii
ほうとう〔蓬頭〕 mooī
ほうねん〔豊年〕 ʔamajuu, 'jugahuu, 'ju-
gahaudusi, mirukujugahuu, miruku-
ほうねんかい〔忘年会〕 tusiwaširi [juu
ほうび〔褒美〕 huubi 「kazi, →たいふう
ほうふう〔暴風〕 ʔarasi, kazihuci, ʔuu-
ほうふら〔蚊の幼虫〕 boohujaa
ほうほう〔方法〕 hoo, mici, tidan, →やり
かた

ほうほう〔方方〕 ʔiqpeekuqpee, →あちこ
ぼうほう baabaa, buntuku [ち
ほうほけきょ huuhuicoo, huuhwiqcoo
ほうまい〔俸米〕 taara, →ほうろく
ほうみょう〔法名〕 ʔiihweezii
ほうむる〔葬る〕 hoomujun
ほうもんぎ〔訪問着〕 kugeezin 「ずねる
ほうもんする〔訪問する〕 'jusirijun, →た
ぼうや〔坊や〕 booboo, boozaa, →ぼっち
ゃん
ほうらいちく〔蓬萊竹〕 'Nzadaki, 'Nzata-
ほうりつ〔法律〕 ʔuciti, →きそく [ki
ほうる〔放る〕 →なげる, なげこむ/ ほうっ
ておく 'joosjoocun, →ほったらかす
ほうれんそう〔ほうれん草〕 huurinna
ぼうろう〔望楼〕 →'jaqkwa
ほうろく〔俸祿〕 karuku, ruku, →ちぎょう
ほうろくいちご 'jamaʔicubi, takaʔicubi
ほえる〔咲える〕 ʔabijun
ほお〔頬〕 huu, huuzira/ ~のくぼみ hu-
ukubuu, →huukubugwaa/ ~のこけた
人 huukubuu/ ~のたれ下がった子供
huutajaagwaa/ ~のたれ下がった者
huutajaa
ほおかむり〔頬かむり〕 koogaakii
ほおずき〔酸漿〕 toohunabii
ほおのき〔朴の木〕 taarasi
ほおばる〔頬張る〕 / ~さま haqkukunk-
ukun
ほか〔外〕 huka, sutu, →kuutu
ほかんと huriburiitu/ ~する →miinna-
bai
ぼきり puqciri
ぼきん〔募金〕 nucisin
ぼきん →ぼきり/ ~という pucimikasjun
ほくそ〔火蒺藜〕 dookusu, rookusu
ほくとしちせい〔北斗七星〕 nanaqibusi
ほぐれる 'waqkwijun
ほくろ〔黒子〕 ʔaza
ほける〔惚ける〕 kanihandijun

ほご〔反故〕 hugu, hugukabi/ ～を燃す炉
 hunziruu, hunzuruu
 ほごする〔保護する〕 kageejun
 ほごり〔埃〕 hukucici, hukui, →ごみ, ち
 り/ ～臭いにおい hukucicika/ ～だら
 け hukucicikaa
 ほころび〔綻び〕 hutungwi 「どける
 ほころびる〔綻びる〕 hutungwijun, →ほ
 ぼさつ〔菩薩〕 (敬語) buusaaganasii
 ほし〔星〕 husi, (敬語) mihusi
 ほしい〔欲しい〕 husjan/ 欲しく思ふ hu-
 sinun/ 欲しそりに見る manzun
 ほしがる〔欲しがる〕 →husjan, ほっする,
 もとめる/ ～こと munuhusja/ 欲しがり
 かわいがること husjakanasja/ 欲しがっ
 てねらうさま ?utiraakwaasagaraakwa-
 a
 ほじくる →?anagujun/ ほじくり出す
 ?anagui?nzasjun/ ほじくり回す kaci-
 kuzijun 「rijun
 ほしぞら〔星空〕 / ～が晴れわたる husiba-
 ほしたけのこ〔干し筍〕 sjunsii
 ほしもの〔干し物〕 husimun
 ほじょ〔補助〕 ?ujagi, →えんじょ
 ほしょう〔保証〕 kunuu
 ほしょうにん〔保証人〕 husjoonin, ?uki-
 nin
 ほす〔干す〕 husjun, →かわかす 「hara
 ほぞ〔臍〕 husu, →へそ/ ～をかむ →duu-
 ほそい〔細い〕 ?uroosan/ ～目 miigwaa/
 細くする sazirasjun/ 細くなる saziri-
 ほそく〔補足〕 ?u?itaree 「ljun
 ほそじょうふ〔細上布〕 husu
 ほそばわたん〔植物名〕 'nzana
 ほそめる〔細める〕 sazirasjun
 ほそる〔細る〕 sazirijun
 ほぞんする〔保存する〕 tabujun
 ぼたぼた concon 「Nzin
 ぼたる〔螢〕 ziinaa, (小児語) ziinziin, zi-
 ぼたるび〔螢火〕 hutarubi, ziinaabii

ぼたん〔牡丹〕 butan
 ぼち〔墓地〕 cikazu, →はか
 ぼつき〔勃起〕 / ～させる ?waasjun/ ～す
 る ?waaajun
 ほつきょくせい〔北極星〕 →niinuhwa
 ほっする〔欲する〕 husinun, →ほしがる
 ほっそく〔発足〕 ?uqtaci
 ほっそりしている 'juinagasan, 'jujuna-
 gasan
 ほったてごや〔掘立小屋〕 ?anaja
 ほったらかし tuqpana, duukurubi, →
 ほったらかす
 ほったらかす ?uqceerakasjun, ?uqtee-
 rakasjun, ?uqteerakijun, →ほらる/
 ～こと ?itihoorii, →ほったらかし
 ほっちゃん〔坊ちゃん〕 boozuu, 'jacimee,
 'jaqciimee, ?umikii, ?unbozugwaa, →
 ほっと 'jaajaatu 「ほらや, わかぎみ
 ほっとうする〔没頭する〕 hamajun, hwi-
 qkatanun, →せんしん
 ほったた huuqzira, →ほお
 ほていちく〔布袋竹〕 kusandaki
 ほてる〔火照る〕 / ～さま hwaahwaa
 ほと〔陰〕 hoo, →いんぶ
 ほど〔程〕 ?atai, sjaku, tamisi, →?uqsa,
 -ka, ていど
 ほどう〔舗道〕 ?isimici
 ほどく〔解く〕 hutucun
 ほとけ〔仏〕 buçi, hutuki
 ほどけ〔解け〕 →ほころび 「wijun
 ほどける〔解ける〕 hangwijun, hutung-
 ほとり〔辺り〕 hata, →かたわら
 ぼとん pon/ ～という ponmikasjun
 ほね〔骨〕 huni, →duubuni, gara, kara-
 huni, こつ/ ～の痛み hunijan/ ～の髄
 zii/ ～の髄にある油 zii?anda/ ～を借し
 む→huni/ ～を買い集める者 garagwa-
 akoojaa
 ほねぐみ〔骨組み〕 hunigumi/ ～を作る
 'janijun/ ～を作ること 'jani

ほねやすめ〔骨休め〕 duubuninoosi, kusi-juqkwii, kusjuqkwii, →きゅうそく
 ほのお〔炎〕 hwii 「り
 ほのか〔仄か〕 ʔumujoo, →かすか, ほんや
 ほのぐらい〔仄暗い〕 →cimugurasan, う
 ほばしら〔帆柱〕 hubasira 「すぐらい
 ほぶね〔帆船〕 huusin, →ほまえせん
 ほほ →ほお
 ほほえみ〔微笑み〕 katakuciwaree, miiwa-
 ポマード →binʔiki 「ree
 ほまえせん〔帆船前〕 huumaasin, →はんせん/
 ~の一種 'janbaraa, 'janbaraabuni
 ほまれ〔誉れ〕 hwikari, mjooga, nooga
 ほめく humieun
 ほめる〔褒める〕 humijun/ ほめ立てる
 humiitatijun, humitatijun/ ほめはや
 す humiitaqkwasjun
 ほや〔火屋〕 huja
 ほやほや ʔaçikookoo
 ほよう〔保養〕 →cijoo
 ほら ʔane, ʔandee, ʔari, ʔune, ʔundee,
 ʔuri/ ~ほら ʔaneʔane, ʔuriʔuri
 ほら〔法螺〕 bura, buragee, →huukasi,
 kucibuuci, ʔuhumunuʔii/ ~を吹く huu-
 kasjun/ ~を吹く者 huukasjaa
 ほら〔魚の名〕 çikura
 ほらあな〔洞穴〕 gama
 ほらがい〔法螺貝〕 buragee
 ほりだす〔掘り出す〕 huiʔnzasjun
 ほりもの〔彫り物〕 huimun
 ほる〔掘る・彫る〕 hujun
 ほれこむ〔惚れ込む〕 ʔucihurijun
 ほれる〔惚れる〕 hurijun, nuzunun, →
 あいぼれ/ ~こと sjuusin
 ほろ〔襤褸〕 hukutaa, kakoo
 ほろせ →じんましん
 ほろびる〔滅びる〕 hurubun 「jun
 ほろほろ ciritaikaatai/ ~になる musiri-
 ほろもうけ〔ほろ儲け〕 ʔaramooki
 ほろよい〔ほろ酔い〕 saahuuhuu

ほん〔本〕 sjumuçi/ ~ばかり読んでいる者
 sjumuçibaku, sjumuçikweemusi/ ~を
 食う虫 sjumuçikweemusi, sjumuçimusi
 ほん〔本〕 -hun, -mutu
 ほん〔盆〕 bun, →ʔusjooroo/ ~に使うも
 の bunʔikee/ ~の市 bunmaci/ ~のこ
 ろに行なり半年の決算 bunziri/ ~の費
 用 bunʔirimi/ ~の前 bunmee
 ほん〔盆〕 bun/ ~の一種 çiridee, dindee,
 rindee, tundaabun
 ほんおどり〔盆踊り〕 sicigwaçieisaa
 ほんけ〔本家〕 muutudukuru, muutujaa,
 ʔuhudunci, ʔuhujaa, →ʔuhumuutu/
 ~のお墓 ʔuhuʔuhwaka
 ほんけんちく〔本建築〕 / ~の家 nucizijaa
 ほんしょう〔本性〕 sjookani, →そしつ
 ほんしん〔本心〕 sin
 ほんだな〔本棚〕 sjumuçidanʂi
 ほんちょうし〔本調子〕 huncoosi, sagi
 ほんて〔本手〕 hunti
 ほんとう〔本当〕 hunnu, huntoo, sjoosjo-
 otu, ziçi, zintoo, zun, →しんじつ/ ~か
 →ʔnzi/ ~に hunnu, →'nea, zun, まこ
 とに! ~の sjoohunnu, →しんの/ ~の
 親 sjooʔuja/ ~のこと sjookutu/ ~の姿
 ほんどう〔本堂〕 →ʔumukoo 「zunʂigata
 ほんとうない〔本島内〕 ziziʔuci
 ほんどさん〔本土産〕 / ~の米 ziimee
 ほんにん〔本人〕 hunnin, zintii
 ほんの →たった! ~形だけ sahuu/ ~少
 し biqceen, biqceengwaa, ʔikiragwaa,
 ʔinteengwaa, kuuteengwaa
 ほんのう〔煩惱〕 bunnoo
 ほんのくぼ〔盆の窪〕 ʔusinukubuu, ʔusir-
 ukubuu/ ~の髪 ʔahwiraazuu
 ほんぼこ〔本箱〕 sjumuçibaku, →bunkuu
 ほんぶん〔本分〕 hunbun
 ほんみょう〔本名〕 sjoonaa
 ほんもの〔本物〕 sjoomun
 ほんや〔本屋〕 sjumuçimacija

ぼんやり turubai?oobai, →おぼろげ, ほのか/ ~している者 turubajaa, turuba-

imun/ ~する turubajun, →miinna-bai/ ~と huriburiitu

ま

ま〔間〕 ?ee, mii, tabasa/ ~が悪いこと hwizaruu/ ~の悪い思いをする sjukweesjun, sjuqkweesjun/ ~の悪い思いをすること siibuu, siibuugeei

ま〔魔〕 →まもの/ ~がさして起した事 majaasarigutu

ま〔真〕 ma-

まあ cee, 'ee, haa, ?iqcaa

まあたらしい〔真新しい〕 →あたらしい/ ~もの saramiimun

まい〔舞い〕 mooii, →おどり

まい〔毎〕 mee-

まい〔枚〕 -ciri, -mee

まいあさ〔毎朝〕 mee?asa

まいご〔迷子〕 →zaama

まいそうする〔埋葬する〕 hoomujun

まいつき〔毎月〕 ?icinukaazi, meeziici

まいど〔舞戸〕 meezu

まいにち〔毎日〕 hwibi, meenici

まいねん〔毎年〕 meeniin

まいばん〔毎晩〕 meejuru

まいる〔参る〕 →?jusirijun

まう〔舞う〕 moojun, →おどる

まえ〔前〕 maadu, mee, →いぜん/ ~に maadu/ ~になろうとすること meenainai/ ~に伸び上ること meenubagai/ ~にのめること meegiinta/ ~に寄ろうとすること meejuijui/ ~の日 meehwi/ ~のもの mee/ ~の世 sacinujuu/ はしゃいで~を行くこと meehanazi, meemooi

まえ〔前〕 -mee

まえあし〔前足〕 meebisja

まえおび〔前帯〕 mee?uubii

まえがし〔前貸し〕 meegasi

まえがね〔前金〕 meezin, →まえばらい

まえがみ〔前髪〕 meegantu/ ~の長い者 (~の乱れた者) meeganta

まえがり〔前借り〕 meegai

まえがわ〔前がわ〕 meezira

まえきん〔前金〕 →まえがね

まえば〔前歯〕 meeba, meebaa

まえはば〔前幅〕 meehaba

まえばらい〔前払い〕 meebaree, →まえがね/ ~の賃金 meedima

まえび〔前日〕 meehwi

まえまえ〔前前〕 meemee, →いぜん

まえもって〔前以て〕 meekaniti, →かねて

まお〔真芋〕 maauu

まかす〔負かす〕 ?usimagijun

まかぜ〔魔風〕 ?iceekazi, ?janakazi

まがたま〔勾玉〕 gaaradama

まかない〔賄い〕 makanee, misi?uki

まかりいでる〔罷り出る〕 /まかりいでたる者は dijoocarununuja, →tunzijun

まがりかど〔曲り角〕 magaiguci

まがりくち〔曲り口〕 magaiguci

まがりみち〔曲り道〕 magajaa

まがる〔曲る〕 magajun/ 曲がりくねったさま ?anmagaikanmagai, ?joogaahwiigaa, ?joogeehwiigee, magaihwigui, magajaagujaa/ 曲がりくねったもの magaruuhwigaruu, magaruuhwiguruu

まき〔薪〕 tacizi, tamun, →たきぎ

まき〔楳〕 / ~の一種 caagi

まきえ〔蔭絵〕 →cin 「sicadan

まきがゐ〔巻貝〕 / ~の一種 cinbooraa,

まき

まきた〔真北〕 manisi
 まきちらす〔撒き散らす〕 macihoojun
 まきつける〔巻きつける〕 karamacun, →
 からめる 「ごまかす」
 まぎりわす〔紛らわす〕 mangwasjun, →
 まぎり〔間切〕 maziri/ ～と同じ名の村
 duumura
 まぎりちょう〔間切長〕 maziricoo
 まぎれる〔紛れる〕 mazirijun, →まじる
 まきわら〔巻藁〕 maciwara
 まく〔巻く〕 macun
 まく〔蒔く〕 macun, Yurusjun
 まく〔幕〕 maaku, maku/ ～の一種 mici-
 maku
 まくら〔枕〕 maqkwa/ ～の一種 maqkwa-
 baku, toomaqkwa
 まくらばこ〔枕箱〕 maqkwabaku
 まくらもと〔枕許〕 makugan, maqkwag-
 wan
 まくり〔植物名〕 nacoora 「→めくれる」
 まくりあげる〔捲り上げる〕 kanagijun,
 まぐる〔鯖〕 ?acinu?iju, ?aka?aci
 まけ〔負け〕 maki, →?wenmi, 'wabi
 まげ〔鬻〕 magi/ ～を前に結うこと mee-
 katakasira/ ～を前に結った者 meeka-
 takasiraa
 まけいくさ〔負け戦〕 maki?ikusa
 まげもの〔曲物〕 magi
 まける〔負ける〕 'jašimijun, makijun
 まげる〔曲げる〕 magijun, ?usimagijun/
 曲げている ?iimagijun
 まご〔孫〕 ?Nmaga, (敬語) ?umimaga
 まごころ〔真心〕 magukuru, sinziçi
 まこと〔誠〕 makutu, ziçi, →なるほど,
 ほんとう/ ～に dani, daniju
 まごまご tunuumanuu
 まさる〔勝る〕 masajun, →すぐれる, たち
 まさる/ まさっていること masai
 まざる〔混ざる〕 →まじる
 まし masi

まじない〔呪い〕 / ～の一種 ?ijawaree/
 ～の文句 →?azimuku 「かい」
 ましょうめん〔真正面〕 matanka, →まむ
 まじる〔混じる〕 manacun, mazirijun
 まじわり〔交わり〕 maziwai, →こうさい
 まじわる〔交わる〕 ?azijun, maziwajun,
 →こうさいする, つきあり
 ます〔枅〕 çiiga/ ～の一種 cooban, gusja-
 akunakamui, gungoonakamui, ?icigo-
 onakamui, nakamui, nakamuigwaa
 ます〔増す〕 kazuujun/ ～こと →?imi
 ます〔敬語〕 -abijun 「は mazee」
 ます〔先ず〕 mazee, mazi, →だいいち/ ～
 ますい niisan/ ～のうまいの niisanu-
 maasanu/ ～物 niizamun/ ますそうに
 食べること nigangami/ ますそうに食
 べるさま niganhwigan, niiguhwiigu
 ますかがみ〔増鏡〕 masukagami
 ますかき〔枅掻〕 tookaci
 ますめ〔枅目〕 çiiga, maši
 ませがき〔籩垣〕 masi, masigaci
 まぜこぜ caahwiihwii, caahwiitoo, ma-
 ncaahwincaa, →?usjaamaatuu
 まぜもの〔混ぜ物〕 mazirimun
 ませる kusabuqkwijun/ ませた者 kusa-
 buqkwaa/ ませたものの言い方 kusamu-
 nii, kusamunu?ii
 まざる〔混ぜる〕 kizun, mankijun, ma-
 zijun/ ～もの mazirimun
 また〔股〕 mata, matabasi/ ～の骨 tumu-
 guu/ ～の骨がだるいこと tumuguunu-
 gaa/ ～を広げた歩き方 ?aatabai
 また mata
 まだ maada, naada, namadii
 またいとこ〔再従兄弟姉妹〕 mata?icuku/
 ～の子同志 nuucuku
 またがし〔又貸し〕 matagarasi
 またぐら〔股ぐら〕 matabasi, →また
 まだけ〔真竹〕 karataki
 まだしも〔未だしも〕 suusuu
 まだら〔斑〕 / ～によごれたさま ?ajagaci.

koogaci
 まち〔襦〕 hasa, 'wacişibi
 まち〔町〕 -masi, →maci
 まちあいしつ〔待合室〕 hwikeezu
 まちあかす〔待ち明かす〕 maciʔakasjuN
 まちうける〔待ち受ける〕 maciʔukijun
 まちがい〔間違い〕 baQpee, cigeemi, ma-
 cige, →あやまち
 まちがう〔間違う〕 baQpeejuN, macigaju-
 N, macigeejuN, mamizuN, →あやまる,
 とりちがえる/ 間違えてしまう ʔucima-
 mizuN/ 間違ったこと macigeegutu/ 間
 違って取る tuicigajuN
 まちがえる〔間違える〕 →まちがう
 まちどおしい / ~こと macinageesa
 まちぼうけ〔待ちぼうけ〕 'Nnamaci
 まちまわり〔町回り〕 macimaai
 まつ〔松〕 maaçi/ ~のたきつけ ʔakasi,
 tubusi/ ~の細い角材 sangamaci
 まつ〔待つ〕 macuN, →まちうける/ 待ちに
 待って çicijunhwiijuN/ むなしく~こと
 'Nnamaci
 まっか〔真赤〕 maQkaara/ ~なるそ ʔaka-
 jukusi/ ~なもの maQkaaraa
 まつかさ〔松笠〕 maaçikasaa
 まつかぜ〔松風〕 (菓子の名) maçikazi
 まっきいろ〔真黄色〕 maQciiru/ ~のもの
 maQciiruu
 まっくら〔真暗〕 / ~なところ kurasin
 まっくらやみ〔真暗闇〕 ʔoogurasin
 まっくろ〔真黒〕 maQkuuru/ ~なもの ma-
 Qkuuruu
 まつけ〔睫〕 maçigi, →さかまつけ
 まつざ〔末座〕 hazisi
 まっさいちゅう〔真最中〕 banzi
 まっさおに〔真青に〕 ʔooqteen
 まっさかり〔真盛り〕 banzi, masakai
 まっさき〔真先〕 maQsaci
 まっしろ〔真白〕 maQsiira/ ~なもの ma-
 まっすぐ maQsiigu, maQtooba ʔQsiiraa

まったく〔全く〕 muqtu, muru, miikara,
 →もうとう ʔta-, →かんぜん
 まったし〔全し〕 matasan/ まったき ma-
 マッチ çikidakigwaa
 まつなみき〔松並木〕 nanmaçi
 まつば〔松葉〕 maaçibaa, maçinuhwa
 まつばやし〔松林〕 maaçuu
 まつび〔末尾〕 çibi
 まつやに〔松脂〕 maaçinuʔanda, maçija-
 ni ʔcii
 まつり〔祭り〕 maçiri, ʔutakabi, →ʔuma-
 まつり〔植物名〕 muikwa/ ~の花 mui-
 まつる〔祀る〕 maçijuN ʔkubana
 まつわりつく karakujuN, maçibujuN,
 sicaasjuN, →つきまとう/ ~こと ma-
 çibui, şicihui/ ~さま kakaişigai, ka-
 rakuimaçibui
 まで -madi, →ʔweeda, ʔweema
 まと〔的〕 matu
 まどい〔円居〕 →くるまざ
 まどう〔惑う〕 miNgwijuN, →まよう
 まとまる〔纏る〕 marunuN, matumajuN
 まとめやく〔纏め役〕 kukuijaku
 まとめる〔纏める〕 matumijuN/ まとめ上
 げる tuzimijuN
 まどろむ〔仮睡む〕 turumikasjuN/ ~さま
 nurunturuN
 まどわす〔惑わす〕 majaanjuN, maNgwa-
 sjuN, miNgwasjuN, →だます/ まどわさ
 れる maNgwijuN
 まないた〔組板〕 maruca, →きりばん
 まなじり〔皆〕 miinuçibi, →miinuuu, →
 minuu
 まにあう〔間に合う〕 kakiʔaajuN
 まにあわせ〔間に合わせ〕 hansı
 まにあわせる〔間に合わせる〕 kakiʔaa-
 sjuN, miikwaasjuN
 まぬがれる〔免がれる〕 nugaaajuN
 まぬげ〔間抜け〕 ʔuhusjuu, ʔuhusjuumu-
 N, toosjuogaa, →meekatakasiraa,

まね

too, →ばか
 まね〔真似〕 huunaa, mani, neebi, →saaru
 まねき〔招き〕 çikee, →しょうたい
 まねく〔招く〕 mansucun, manucun
 まばたき〔瞬〕 mii?uci
 まばゆい〔眩い〕 hwicarasAN, hwicarusAN, miihwicarasjan
 まびきする〔間引きする〕 hukijun
 まひる〔真昼〕 ?akarahwiru, mahwiru
 まぶしい〔眩しい〕 hwicarasAN, hwicarusAN, miihwicarasjan
 まぶた〔瞼〕 miigaa/ ~が切れている者 miiciraa, miicirii/ ~がはれること mii-bukuruu, miibusihuqkwaa
 まぶち〔眼縁〕 miinuhuci
 まほ〔真帆〕 mahu
 まほう〔魔法〕 mahuu
 まま〔儘〕 mama, →takii
 まま〔緒〕 mama-
 ままごと miitundagwaasee, ?uhurumeNtaa
 まみく〔植物名〕 mamiku
 まみず〔真水〕 ?amamizi
 まみなみ〔真南〕 mahwee
 まむかい〔真向かい〕 mamukoo, matan-kaa, tankaa, →あいたいする, さしむか
 まむすび〔真結び〕 maamusubii しい
 まめ〔豆〕 maami, →tiimaami/ ~のから maamigaraa/ ~の皮 maamigaa/ ~の一種 sipizaamaami/ ~のもやし maamina
 まもなく〔間もなく〕 →やがて
 まもの〔魔物〕 ?janamun, mazimun/ ~の一種 kizimun, sicimazimun
 まもり〔守り〕 mamui, →しゅご
 まもりぼとけ〔守り仏〕 →?ukaçimi
 まもる〔守る〕 mamujun, →ほどする
 まゆ〔眉〕 maju, majugii/ ~をひそめる→ manuku

まゆね〔眉根〕 manuku
 まよう〔迷う〕 mudurucun, →taturucun, まどう/ ~こと ?uciijaçcii, zaama, za-amatiima
 まよげ〔魔除け〕 munNukimun, →huuhudagaai/ ~の一種 ?isigantoo
 まよなか〔真夜中〕 ?jurujunaka, majunaka, →しんや
 まよわす〔迷わす〕 →まどわす
 まり〔糞〕 maai
 まりつき〔糞つき〕 maai?uucee
 まりなげ〔まり投げ〕 maainagiee
 まる〔丸〕 maru, →まんまる
 まるい〔丸い〕 marusan, →まんまる/ ~物 maruu/ 丸くする marumijun/ 丸くなる marunun
 まるきぶね〔丸木舟〕 kuihuni, sabani, şinNi, şinNigwaa
 まるぜん〔丸膳〕 maru?uzin 「zasi
 まるだし〔まる出し〕 marubai, maru?N-
 まるで〔丸で〕 muru, →そっくり
 まるのみ〔まる飲み〕 maNnun
 まるはだか〔丸裸〕 ?akahadaka, maruhadaka, →はだか, はだかんぼり
 まるぼん〔丸盆〕 marubun
 まるまげ〔丸まげ〕 maajuuii
 まるまる(〜と) mantakii, maqtakii, maqteen, marumaruutu
 まるめる〔丸める〕 çikunaasjun, marumijun
 まるわすれ〔丸忘れ〕 muruwaşii
 まれ〔希〕 mari, marimari, marukeeti, tama, tamasaka, →ときどき/ ~な marinee/ ~にはmanee
 まわす〔回す〕 maasjun, migurasjun, mingwasjun, →?usimaasjun
 まわた〔真綿〕 minsi
 まわり〔回り〕 maai, maaru, migui, sira-akusjaa, →maai, ぜんご
 まわりどろうろ〔回り燈籠〕 miguiduuruu

まわりもち〔回り持ち〕 ?usiimaaruu, ?u-
siimaasii, → maaruu
まわる〔回る〕 maajun, migujun, min-
gwijun
まん〔万〕 man
まんいち〔万一〕 man?ici, → もし
まんかい〔満開〕 / ~になる saciejun,
sacieirijun, sacisakeejun/ ~の時期が
過ぎる sacisirijun
まんざい〔万歳〕 condaraa, 'jan'zai, 'ja-
Nzajaa, man'zai
まんさく〔満作〕 mansaku, → ほろさく

まんじゅう〔饅頭〕 manZuu
まんぞく〔満足〕 coozoo, → じゅうぶん/~
する → cim, みちたりる
まんだい〔万代〕 mandee
まんなか〔真中〕 mannaka, nakazin
まんにん〔万人〕 mannin
まんねん〔万年〕 mannin
まんばち〔曲鉢〕 'uuguci
まんま〔飯の小児語〕 manman
まんまる〔まん丸〕 manmaru/ まん丸いも
の maqteemaa/ まんまるく maqteen
まんりき〔万力〕 manriici

み

み〔実〕 kiinunai, mii, muqkuu, nai, → く
だもの/ ~のできかかった粒 naiçizi
み〔身〕 duu, → からだ/ ~の毛がよだつ
burigiidacun/ ~の毛がよだつこと buri-
giidaci/ ~のこなし duumucina/ ~の
ふりかた duumucizuku/ ~のほど bu-
Nzee/ ~一つ duumişigara, 'Nnaduu,
'Nnaijukaraduu/ ~を入れる humiku-
nun/ ~をすくめたさま sukunkaa/ ~
をすくめる sukunun/ ~を引く hwici-
najun/ ~をもちくずす → juu
み〔目〕 mii
み〔箕〕 miizookii
み〔御〕 mi-, 'N-
みあやまり〔見誤り〕 → みまちがい
みあやまる〔見誤る〕 mijanzun, → みそこ
みい〔三〕 mii, → さん, みつつ [なり
みいだす〔見出だす〕 miicikijun, mi-
?Nzasjun, → みつける
みうけする〔身請けする〕 'juhwijun, →
duu
みうごき〔身動き〕 taci?wiici, ?Nzueihai,
?Nzueimuduruci/ ~する ?Nzucun

みうしなう〔見失う〕 miifusinajun
みうり〔身売り〕 duu?ui
みえ〔見え〕 misihwa
みえる〔見える〕 miijun
みおくり〔見送り〕 mii?ukui, → huna?u-
kui
みおとし〔見落し〕 mii?utusi, ?uti
みおとす〔見落す〕 mii?utusjun
みおぼえ〔見覚え〕 mii?ubi
みおぼえる〔見覚える〕 mii?ubijun
みおろす〔見下ろす〕 mii?urusjun
みおわる〔見終わる〕 miihatijun
みかえす〔見返す〕 miikeesjun
みかぎる〔見限る〕 miicijun, → みすてる
みがきちん〔磨き賃〕 hweesidima
みがく〔磨く〕 hweesjun, 'Nzasjun, şida-
sjun
みかけ〔見掛け〕 bazoo, miiba, miihwa,
mikaki/ ~がよいこと (~がよいもの)
bazoo
みかた〔見方〕 miijoo
みかた〔味方〕 mikata, → kata/ ~に引き
入れる katarajun

みか

みかづき〔三日月〕 mikaꝑieci
 みがって〔身勝手〕 duugaꝓti, →かって
 みがまえ〔身構え〕 ſimee/ ~ばかりすること
 と ſimeekamee
 みがまえる〔身構える〕 ſimeejun
 みがらである〔身軽である〕 duugaqsan, →
 みがわり〔身替り〕 migawai 〔すばしこい
 みかん〔蜜柑〕 mikan, →かんきつるい
 みかんすい〔蜜柑水〕 mikanſii
 みぎ〔右〕 niziri 〔cicinari
 みきき〔見聞き〕 miinaicicinai, miinari-
 みきりひん〔見切り品〕 ꝑuqiri
 みきる〔見切る〕 miicijun
 みきれ〔三切れ〕 micaai
 みきわめる〔見極める〕 miiciwamijun
 みくびる〔見繕る〕 ꝑuſeejun, →あなど
 る, みさげる/ ~こと tiꝑuſeei/ 見く
 びったさま 'uciuci
 みくらべる〔見比べる〕 miꝑaasjun
 みぐるしい〔見苦しい〕 migurusjan, mi-
 cakun neen, miitoon, →みっともない
 みけねこ〔三毛猫〕 mikiimajaa
 みけん〔眉間〕 manuku
 みこ〔巫女〕 →'juta, nuuru/ ~の一種 ci-
 hwiziiN, cihwiziiNasii, cimi, cin,
 ꝑamusirare, ꝑansirari, ꝑansitari, ni-
 gami, nuru, nurukumii, ꝑukuđi/ ~の言
 りような迷信的な言葉 'jutamunii, 'juta-
 munuꝑii/ ~の家 niidukuru, niija/ ~
 の家の主人 niincu
 みこころ〔御心〕 ꝑuzimu, →こころ
 みこし〔御輿〕 ꝑukusi
 みごと〔見事〕 migutu, (敬語) 'ugangu-
 tu, →りっぱ/ ~に curaaku
 みこみ〔見込み〕 miꝑiki, mikumi, mitati
 →みとおし, もくさん
 みこみちがい〔見込み違い〕 micikicigee, →
 みこむ〔見込む〕 mikunun 〔もくさん
 みごもる〔身籠る〕 kasagijun, →かいたい,
 にんしん
 みさき〔岬〕 misaci, saci 〔びる
 みさげる〔見下げる〕 miisagijun, →みく

みさだめる〔見定める〕 / ~こと mitui
 みじかい〔短い〕 ꝑincasan/ ~棒 bui,
 ꝑincaboo/ ~もの ꝑincaa, ꝑincamun/
 ~ものや長いもの ꝑincaanagaa
 みじたく〔身支度〕 sitaku/ ~をする suga-
 jun
 みじめな〔惨めな〕 / ~こと →ꝑawari/ ~
 さま 'ndikaa
 みしる〔見知る〕 miisijun/ 見知らぬ →mii-
 sijun
 みじろぎ〔身じろぎ〕 →みろごぎ
 みす〔御簾〕 ſidai
 みず〔水〕 mizi, (小児語) buu, buubuu, →
 tamamizi, ꝑubii, ꝑamamizi/ ~につけ
 る ꝑuraakijun/ ~に負けること mizi-
 maki/ ~にもぐること ſiimi/ ~のかけ
 合い mizihanee/ ~の高さ mizidaki/
 ~の中 mizinumii/ ~の流れるさま soo-
 みずあそび〔水遊び〕 mizimutaan 〔soo
 みずあび〔水浴び〕 ꝑuſimasi/ ~をする
 ꝑamijun
 みずあらい〔水洗い〕 miziꝑaree
 みずいれ〔水入れ〕 miziꝑiri, みずさし
 みずいろ〔水色〕 miziꝑiru, miziiru
 みずおち〔鳩尾〕 →みぞおち
 みずおと〔水音〕 miziꝑutu
 みずかがみ〔水鏡〕 mizikaagaa
 みずかけるん〔水掛け論〕 mizihanee
 みずかさ〔水嵩さ〕 mizidaki
 みすかす〔見透かす〕 miikunun, →みぬく
 みずがめ〔水壺〕 handuu, handuugaa-
 mi, handuugami, mizigaami
 みすがら〔身すがら〕 miſigara
 みずきり〔水切り〕 tontonmii
 みずくさ〔水草〕 ꝑucigusa
 みずぐすり〔水薬〕 mizigusui
 みずぐるま〔水車〕 miziguruma
 みずさし〔水差し〕 ꝑanbin, →みずいれ
 みずしょう〔水性〕 mizisjoo
 みずしらず〔見ず知らず〕 mizisirazi

みずたまり〔水溜まり〕 miʒitamai, →ta-
 みずだめ〔水溜め〕 miNtanasiiri 〔mai
 みずっぽくなる〔水っぽくなる〕 ʔahwee-
 jun
 みずでっぼう〔水鉄砲〕 miʒihanii
 みすてる〔見捨てる〕 miʒitiʒun, →みかぎ
 みずのえ〔壬〕 miNnii 〔る
 みずのこ〔水の子〕 miNnukuu
 みずのと〔癸〕 miNnutu
 みずのみ〔水の実〕 miNnukuu
 みずばな〔水漬〕 miʒihanadai
 みずひき〔水引〕 miʒihwici
 みずぶくれ〔水脹れ〕 miʒibukuruu
 みずぶるい〔水篩〕 ʒiinoo 〔saa
 みずぼうそう〔水疱瘡〕 miʒigasa, miʒiga-
 みすぼらしい〔見すぼらしい〕 →みぐるしい/
 ～こと (～さま) saʒkoo, sikusiku, ʒiku-
 taikaatai, sipitaikaatai/ ～なりをする
 ʒikutajun 〔miʒi
 みすみす〔見す見す〕 mirumiru, miʒiga-
 みずみずしい miʒiqteen, miʒitaratara
 みせ〔店〕 macija
 みせかけ〔見せ掛け〕 misihwa
 みせたまご〔見せ卵〕 →misikuuga
 みせびらかす〔見せびらかす〕 / ～さま
 ʔundeekaa
 みせもの〔見世物〕 misimun
 みせる〔見せる〕 misijun, (敬語) ʔumika-
 kijun, →みせびらかす
 みそ〔味噌〕 'Nsu/ ～の油いため →
 ʔandaNsu/ ～煮 ʔunimun/ ～の麴を加
 える前のもの nuci
 みぞ〔溝〕 'NNʒu, 'Nʒu/ ～の一種 haiNʒu,
 ʔukinʒu 〔ʔutusi
 みぞおち〔鳩尾〕 cimuguci, 'Nniguci,
 みそこなう〔見損う〕 miihanʒun, miija-
 Nʒun, →みあやまる
 みそな〔味噌菜〕〔野菜の名〕 'Nsunabaa
 みそはぎ〔植物名〕 ʔusjooroohaasi
 みたす〔満たす〕 micijun, mitasjun

みだす〔乱す〕 →'Nzarakasjun
 みたて〔見立て〕 miʒiki, mitati, →miinai/
 ～の誤り miʒikicigee
 みたてる〔見立てる〕 miinajun
 みたま〔御霊〕 ʔusizi
 みだれ〔乱れ〕 midari, 'Nzari
 みだれる〔乱れる〕 midarijun, 'Nzarijun
 みち〔道〕 mici →あぜみち, おおどおり,
 かいどう, かよいじ, こうどう, こくどう,
 しどう, じゃりみち, しんどう, やまみち,
 よこちょう, よこみち, ろじ, わきみち/
 ～に迷う→zaama/ ～に迷うこと mii-
 baqpee/～のついで micisigara/～行く人
 ʔuhumicinucu/ ～をへだてること mic-
 ihwiʒami/ ～を間違えること miciba-
 qpee/一つの～ cumici
 みちくさ〔道草〕 micijurari
 みちしお〔満潮〕 micisju 〔ちゅう
 みちすがら〔道すがら〕 micisigara, →どう
 みちたりる〔満ち足りる〕 taraajun, →ゆ
 みちづれ〔道連れ〕 miciziri 〔たか
 みちばた〔道端〕, micibata/ ～の草 →
 みちびく〔導く〕 micibicun 〔micisiba
 みちぶしん〔道普請〕 micizukui
 みちる〔満ちる〕 micun, miqcakajun →
 いっぱい/ 満ちているさま miqakaan/
 満たないこと →'joonci
 みつ〔蜜〕 miʒi
 みっか〔3日〕 mica, miqca, miqka,
 みつかど〔三つ角〕 micigujaa 〔sannici
 みつくち〔三つ口〕 ʒibee, →ʔeeku
 みつける〔見つける〕 miiʔatijun, miiʒiki-
 jun, miiʔnzasjun
 みつご〔三つ子〕 miʒingwa, miiʒuu
 みっこく〔密告〕 moosjagi
 みっしゅうする〔密集する〕 guzumujun/
 密集している家 burijasici
 みっつ〔三つ〕 miiʒi, →mii, さん
 みっつう〔密通〕 sinubi/ ～している者
 guunaimun/ ～する guunajun

みっ

みっともない miicakuN neen, miitooN
neen, →huuzi, みにくい
みつば〔三つ葉〕(植物名) miçiba
みっふうする〔密封する〕 kwiicijun 「る
みつぼし〔三つ星〕 miçibusi
みつめる〔見つめる〕 miicikijun, →みまも
みつもり〔見積もり〕 çimui, mizimui
みつもる〔見積もる〕 çimujun
みつわり〔三つ割り〕 micaai, miçiwai,
miiçiwai, →さんぶんのいち
みてとる〔見て取る〕 mitui
みとおし〔見通し〕 mituusi, →?uutu-
ruu, ?uutuuruukaa, みこみ
みどころ〔見どころ〕 miçukuru, miiduku-
ru
みとせ〔三年〕 →さんねん
みとどける〔見届ける〕 miitudukijun, →
たしかめる/ ~こと mituduki, miituduki
みどりいろ〔緑色〕 ?ooruu/ ~である ?oo-
san/ ~の元ゆい ?ooruumuutii
みとれること〔見とれること〕 miiburi
みな〔皆〕 muru, 'Nna, suujoo, →のこら
ず/ ~の考え(~の世話) suukangee/ ~
のたましい suumabui
みなさま〔皆様〕 gusuujoo
みなさん〔皆さん〕 suujoo
みなしご〔孤子〕 →?ujamadii
みなす〔見なす〕 miinasjun
みなと〔港〕 tumai, tuguci, 'Nnatu
みなみ〔南〕 hwee, ?Nmanuhwa, →まみなみ
みなみかぜ〔南風〕 hweenukazi, →hwee,
hweebuci, hweekazi, ?urizinbee, げし
/ ~の吹く季節 hweebucaa
みなむき〔南向き〕 hweenkee
みならい〔見習い〕 minaree
みならう〔見習う〕 miinarajun
みなり〔身なり〕 nai, narihuzi, şigata,
sugai, →さま, すがた, なりふり
みなれる〔見馴れる〕 miinarijun
みにくい〔醜い・見にくい〕 'janasaN, mii-

gurisjan, →みっともない/ ~女 'jana-
kaagii/ ~顔 'janakaagi/ ~者 muka-
みぬく〔見抜く〕 miişimasjun [taa
みの〔蓑〕 'Nnu
みのうえ〔身の土〕 minu?wii
みのがす〔見逃す〕 miinugaarasjun/ 見の
がしておく 'joosjoocun
みのがみ〔美濃紙〕 minugami
みのけ〔身の毛〕 →み
みのしろきん〔身代金〕 dusiru, duuganee
みのむし〔蓑虫〕 hukutaamusu
みばしょう〔実芭蕉〕 naiuu 「る
みはなす〔見放す〕 miihanasjun, →みすて
みぶるい〔身震い〕 sisiburii
みぶん〔身分〕 bun, mibun, takibun, →
いかい, ぶんざい/ ~の名 deemjoo,
hjakusjoo, samuree/ ~が上であること
bun?agai/ ~と家柄 bunkaku/ ~の低
い者 sicadii/ ~不相応である tataasjan
みほん〔見本〕 mihun, tihun, →ひながた
みまい〔見舞〕 miimee, mimee
みまちがい〔見間違い〕 miibaqpee, mii-
macigee, →みあやまる
みまもる〔見守る〕 manzun, miimanzun,
?ucimanzun, →みつめる
みまわす〔見回す〕 / ~さま ?amamiiku-
mamii
みまわり〔見回り〕 miimaai
みまわる〔見回る〕 miimaajun
みみ〔耳〕 mimi, (卑語) mincabaa/ ~の
皮 mimigaa
みみかき〔耳掻き〕 mimikuzijaa
みみくそ〔耳糞〕 mimikusu
みみず〔蚯蚓〕 mimizi, →?amizi
みみずく〔木菟〕 majaazikuku
みみたぶ〔耳たぶ〕 mimigaa, miminu-
hwaa, miminuhuutai, →huutai
みみだれ〔耳朵〕 minzai
みもち〔身持ち〕 mimuci, →ひんこう
みもの〔見物〕 miimun, (敬語)

'ugangutu
 みや[宮] kamiʔasjagi, mija, →おみや
 みやく[脈] mjaku, naaku
 みやげ[土産] gitu, mjaagi, naagi
 みやこ[都] mijaku
 みやこ[宮古] mjaaku, naaku/ ~の者
 naaku/ ~と八重山 sacisima
 みやすい[見易い] miijaqsan
 みやづかえ[宮仕え] sjuiganasimedei,
 sjuNzanasimedei, ʔweeɪai/ ~の人→や
 くにん
 みやぶる[見破る] miišimasjun
 みやま[深山] mijama, →やまおく
 みよ[御世] miju
 みょう[妙] mjuu, →へん/ ~な ʔihuuna,
 ʔiruNna, saita, →mjuu
 みよう[見様] miijoo
 みようが[植物名] miigaa
 みょうじ[苗字] 'jaan'naa, mjoozi, noozi,
 みょうにち[明日] →あした [sii]

みょうばん[明礬] doosa, doosaa
 みょうばんせき[明礬石] doosi
 みる[海松] biiru
 みる[見る] nuun, 'NNZUN, (敬語) mju-
 Nkakijun, nuNkakijun, ʔumikakijun,
 ʔumikakimišeen, 'uganun/ 見たくな
 いような miigamerasjan, miigasima-
 sjan/ 見ただけでおじけづくこと miiʔu-
 zi/ 見ようとしめない →miinuɕibi/ ~に
 たえない miigasimasjan, →みっともな
 い/ 見るにたえる(見られる) miijaqsan-
 N/ 見ろ →ʔundeɪ,
 みるく[弥勒] miruku
 みるくえ[弥勒会] mirukuʔunkee/ ~の行
 列に加わる子供 mirukungwa
 みわけ[見分け] miiwaki, miwaki
 みわける[見分ける] miiwakasjun, mi-
 iwakijun
 みんな[皆] →みな
 みんよう[民謡] →うた, ぞくよう

む

む[六] mu-, muu, →ろく
 むいか[6日] dukunici, rukunici
 むかい[向かい] 'Nkee, taNkaa, zootaN-
 kaa, →さしむかい, まむかい, むかう,
 むこうどなり
 むかいかぜ[向かい風] 'Nkeekazi
 むかう[向かう] 'Nkajun, / 向かい合ひさ
 ま taNkaamaNkaa
 むかえる[迎える] 'Nkeejun/ 迎かえてす
 ぐ 'Nkeehana, 'Nkeezira
 むがく[無学] mugaku, musan
 むかし[昔] hweeku, 'Nkasi, →sacigu-
 dee/ ~の歌 'Nkasiʔuta/ ~の事 'Nkasi-
 gutu/ ~の人 'NkasiNcu/ ~の代 ʔa-
 manju

むかしなじみ[昔馴染み] mutubiree
 むかしばなし[昔話] 'Nkasibanasi, 'Nka-
 simunugatai, →せつわ
 むかしふう[昔風] 'Nkasihuuzi
 むかつく 'wiibacun, →munuhacihu-
 sjan, 'wiNturukaasjan/ ~さま 'wii-
 むかで[百足] 'Nkazi [bacinoori
 むき[向き] 'Nkee, ほうこう/ ~向き naa-
 むぎ[麦] muzi [Nkeenkee
 むぎこ[麦粉] muzinakuu
 むぎこがし[麦焦がし] 'juunuku
 むきず[無傷] mukizi/ ~のもの mata-
 mun
 むぎめし[麦飯] hwiran, →hwiranmee
 むぎわら[麦藁] munzuru/ ~の笠 mu-

Nzuruu, muNzurugasa/ ~帽子 mu-
 むく〔向く〕 'NkajuN [Nzuruu
 むく〔剃く〕 'NcuN, →へぐ
 むくい〔報い〕 mukui
 むくいぬ〔龍犬〕 muku?iN
 むくげ〔植物名〕 hanagaci
 むくち〔無口〕 ?Nmunukuci
 むくむ〔浮腫む〕 hacikunun, mucuN,
 mukunun, siçibuqkwijun/ ~こと si-
 むける〔向ける〕 'Nkijun [çimuci
 むける〔剃ける〕 hagijun, haNkijun,
 'Nkijun, →はがれる
 むこ〔婿〕 muuku, →munukweemuuku/
 ~にしたり嫁にやったりするさま muku-
 duijumidui/ ~の付添役 mukuziri, mu-
 kuçooi/ ~養子 ?irimuuku, ?irimuu-
 kuu, mukujoosi/ 王の~(敬語) ?wii-
 ?wee?umuuku
 むこいりしき〔婿入式〕 muku?iri
 むこうきず〔向こう傷〕 mukookizi
 むこうずね〔向こう脛〕 karaşini
 むこうどなり〔向こう隣〕 zootankaa
 むこうみず〔向こう見ず〕 namacaa, na-
 maci, →むてっぽう
 むごん〔無言〕 mugun
 むし〔虫〕 musu/ ~の一種 →?amagakaa,
 ?amagaku, ?jakumusi, nukagu/ ~を
 こわがる者 musu?uturuu
 むしあつい〔蒸し暑い〕 siputara?açisan,
 →?abucun, humicun
 むしおさえ〔虫押え〕 ?jaasanoosi
 むしかえし〔蒸し返し〕 ?Nburasikeesaa
 むしがし〔蒸し菓子〕 kusicii?ukwaasi
 むしくい〔虫食い〕 ?irimusi, musikwee
 むしくいも〔虫食い芋〕 hwiimusjaa,
 ?irimusjaa
 むしくだし〔虫下し〕 musigusui
 むしけ〔虫気〕 kanmusi, musici, musu-
 むしけん〔虫拳〕 buusaa [joogari
 むじつをつみ〔無実の罪〕 sakagaçimi

むしば〔虫歯〕 musiba, musikweebaa
 むしめがね〔虫眼鏡〕 musimikagan
 むじゃき〔無邪気〕 / ~なさま ?atiqteen/
 ~な者 ?atinasi
 むじゅんする〔矛盾する〕 ?aakijun/ 矛盾
 したことを言うこと sakamunii
 むじょう〔無情〕 muzoo, →つれない
 むしょうに〔無性に〕 musjookusjoo, mu-
 sjooni, musjootusjoo, →miqta, やたら
 に 「になる musirijun
 むしる〔巻る〕 musijuN/ むしられたよう
 むしろ〔蓆〕 musiru, →ねござ/ ~ごと引
 張ること musirubiici/ ~の一種 nikubu
 ku, ?usimaci 「tutin
 むしろ〔寧ろ〕 keete, keeti, keetinkai,
 むしんけい〔無神経〕 / ~である namasan/
 ~な者 namazisi, namazisjaa
 むじんこう〔無尽講〕 ?juree, muae, niN-
 muae/ ~の親 ?juresiidu/ ~の掛け金
 kakimee/ ~のくじ ?jureenukuzi/ ~の
 返金 ?ukuimee
 むす〔蒸す〕 ?Nbusjun, →?abucun
 むすう〔無教〕 / ~である zamazamaa
 neen 「-gurişjan, こんなん
 むずかしい muçikasjan, →duugurişjan,
 むすこ〔息子〕 →'wikigaNgwa, ひとりむ
 すこ
 むすびこんぶ〔結び昆布〕 musubikuubu
 むすびのいちばん〔結びの一番〕 şiizima
 むすぶ〔結ぶ〕 muşibun, musubun, →ku-
 kujun, しばる, つなぐ/ 結び方の一種
 ?azimaamusubi, hutucimusun, maa-
 musubii
 むずむず muzumuzu, muzumuçu, muzu-
 rumuzuru/ ~する hagoosan
 むすめ〔娘〕 ?angwaa, mijarabi, naa-
 rabi, 'wakawinagu, 'winagungwa, (敬
 語) →おじょうさま, ひとりむすめ
 むせる〔嘘せる〕 →tuqcijun
 むだ〔無駄〕 ?itazira, siqçii/ ~な →'juu-

cira/ ~なこと ?itaziragutu, siqeiigutu/ ~になる →siru
 むだぐい〔無駄食い〕 gaadagami, gaadagwee, →?ašibiŋgwee
 むだづかい〔無駄使い〕 ?icaŋdazikee, ?waabazikee, zindaari, zinšitigutu, →ろうひ
 むだばねおり〔無駄骨折〕 →とろう
 むち〔鞭〕 buci
 むちゃ〔無茶〕 gaama, →むぼろ
 むちん〔無賃〕 →ただ
 むつき〔襦袢〕 kakoo 「çi, ろく
 むつつ〔六つ〕 muuçi, →muu, (時刻) mu-
 むつまじい〔睦まじい〕 →したい, なかよ
 く/ 男女が睦まじくなりすぎる muçiri-
 jun/ 男女の睦まじくなりすぎるこ
 と muçiri
 むてっぼう〔無鉄砲〕 namaaci, むこりみず/
 むとせ〔六年〕 mutu し~な者 namacaa
 むなげ〔胸毛〕 'Nnigii
 むなさわぎ〔胸騒ぎ〕 cimudakumici, ci-
 musawazi, cimuwasamici, →cimuda-
 kudaku, cimuwasa
 むなしい〔空しい〕 →'Nna
 むなのか〔六七日〕 munanka
 むなもと〔胸元〕 cimuguci
 むなもん〔棟門〕 'jaazoo
 むね〔胸〕 'Nni/ ~がつぶれる 'Nnitaara
 warijun/ ~をときめかすこと cimubu-
 tumici, cimudakumici/ ~がどきどきす
 るさま cimudakudaku, 'Nnidondon,
 'Nnidakudaku, 'Nnigitugitu/ ~がやけ
 ること kukuraki/ ~につかえるさま ci-
 ciikaakaa
 むね〔棟〕 ?irica, 'Nni
 むねかけ〔胸掛け〕 'judaci
 むほう〔無法〕 muhoo, →むちゃ
 むほん〔謀叛〕 'jasingutu, muhun
 むほんにん〔謀叛人〕 muhunni
 むやみに〔無暗に〕 →miqta, むしょうに

むよう〔無用〕 mujuu, →むだ/ ~な事
 mujuugutu/ ~の長物 maahandaa/ ~
 の物 juuzucirimun
 むよく〔無欲〕 mujuku
 むら〔村〕 mura, sima, →kuni, maziri,
 ぶらく/ ~からの追放 murabaree/ ~で
 負担すること muramuci/ ~の大きさ
 simawaa/ ~の共同井戸 muragaa/ ~
 の共有物 muragumuçi/ ~のこと mura-
 gutu/ ~の指定の宿 murajaadu/ ~の
 中 simawaa
 むらがる〔群がる〕 →buri-, むれあつまる
 むらざかい〔村境〕 murazakee
 むらさき〔紫〕 murasaci/ ~のかんむり
 murasacihacimaci
 むらさきかたばみ〔植物名〕 'jahwatagusa
 むらざと〔村里〕 sima, simakuni
 むらしばい〔村芝居〕 mura?ašibi/ ~をす
 る所 →?ašibinaa
 むらじゅう〔村中〕 cumura, murazuu/ ~
 の集まり murazurii
 むらす〔蒸らす〕 ?Nburasjun
 むらはずれ〔村はずれ〕 murahazisi
 むらはちぶ〔村八分〕 →cinzubaree
 むらばらい〔村払い〕 murabaree, →むらは
 むらふたん〔村負担〕 muramuci しちぶ
 むらやくにん〔村役人〕 sabakui
 むらやくば〔村役場〕 murajaa
 むり〔無理〕 muri/ ~に siiti, →むりじい,
 むりやり/ ~に食わせる kunkwaasjun/
 ~にすること sararansii/ ~に泣こうと
 すること nakarannaci/ ~に笑うこと
 'waraaraNwaree, →wareesiizii
 むりじい〔無理強い〕 siihaqtoo
 むりやり〔無理遣り〕 ?usi?usi, →むり
 むりよく〔無力〕 / ~である 'jugeenee ka-
 naan, 'wigeenee kanaan
 むれ〔群〕 buri-
 むれあつまる〔群れ集まる〕 macaasjun
 むれる〔蒸れる〕 ?Nburijun,

め[目] mii, →めだま/ ～がかすんでいる者
 kaakanZaa/ ～がくぼむこと miikeeraa,
 miikoogaa/ ～がくぼんだ者 miikubuu/
 ～がくらむ kukutimingwjun/ ～がさ
 える(～がさめる) kuhwajun, →mii/ ～
 がだるい miidarusan/ ～がはれぼった
 いこと miibukuruu, miibusihuqkwaa/
 ～がひきつっていること miihaqpai/ ～
 がひきつった者 miihaqajaa/ ～がほて
 ること miihwaahwaa/ ～から火が出る
 こと miiziiNziin/ ～と口 miikuci/ ～と
 鼻の間 →mii/ ～と眉 miimaju/ ～に余
 る →mii/ ～に入ったごみ miNcamun/
 視力のない →daami, dinganmii/ ～
 の大きい者 ?uhumintamaa/ ～の玉 mi-
 ntama/ ～の病気 →かんばん/ ～のふ
 ち miinuhuci/ ～の前 miinumee, mi-
 numee/ ～もくれない →mii/ むなしく
 ～をあけていること ?nabai/ ～を動かす
 こと miikugee/ ～をこすりこすり mii-
 širiširi/ ～を離すこと miikugee/ ～を
 回す →mii/ ～を見張る →mii/ ～を見
 張るようなこと miihaigutu

め[芽] miduri

め[牝] mii-

め[目](接尾) -mi, →mii

めあて[目当て] ?ati, mijati

めい[姪] mii, miiqwa

めい[銘] migaci

めいあん[明暗] ?akasakurasa 「gee

めいぎ[名義] miNzici/ ～変更 miNzici-

めいしょ[名所] miisju

めいすう[命数] suu

めいど[冥土] gusjoo, →あのを

めいにち[命日] miinici, (敬語) ?umii-

nici, →sjoo?umiinici

めいぶん[名分] bun

めいぼく[銘木] zeegi

めいめい[銘銘] duunaa, naaduudu,
 naameemee, →naa-, →それぞれ/ ～が
 背を向けて一致しないこと naakusjaagu-
 sjaa/ ～が違った考えをもつこと naaka-
 ngeekangee/ ～勝手 naaduudu/ ～勝
 手な話 duunaamunugatai/ ～が別なこ
 とを言うこと naa?ii?ii/ ～捜し合うさま
 naakameeigameei, naatumeeidumeei/
 ～自活すること naakweegwee/ ～違った
 構え方をすること naakameegamee/ ～
 散り散りになること naahaibai/ ～で
 duunaakuru/ ～の家 naajaajaa/ ～の
 受持ち naamutimuti/ ～の縁故 naa-
 hwicibici/ ～の得意 naamutimuti/ ～
 の分 naatamasidamasi, tamaši/ ～の向
 き向き naankeenkee/ ～別かれ別かれ
 naawakaiwakai

めいめい[命名] naazikii

めいよ[名誉] hwikari, mjooga, nooga

めいる[滅入る] sizinun

めいれい[命令] ?iičiki, ?iiwatasi, tuziki,
 →?wiisi, ?wiisigutu, しき/ ～する?iič-
 kijun, tuzikijun

めうし[牝牛] mii?usi

めおと[夫婦] miitu, →ふうふ

めかけ[妾] ?juubee, niNguru, suba,
 subazikee, ?usuba, →?ansitanmee,
 musirusicaa/ ～の子 ?juubeeNgwa/ 王

めかご[目籠] miibaaraa 〔の～ →おろ

めがしら[目頭] miinukuci

めかす -mikasjuun, →けしょうする

めかた[目方] ciNmi

めがたき〔女敵〕 migataci
 めがね〔眼鏡〕 gaNcoo, miikagan
 めがわら〔雌瓦〕 miigaara
 めく -micun
 めぐすり〔目薬〕 miigusui, sasigusui
 めくばせ〔目配せ〕 miijoo, mii?uci/ ~や
 口つきで合図すること miijookucijoo
 めぐみ〔恵み〕 migumi, →おかげ, じあい
 めぐみぶかい〔恵み深い〕 cimuzurasan, →
 ?uzimuzurasan, やさしい/ ~人 cimuzurancu, →?uzimuzurancu
 めくら〔盲〕 miqkuu, miqkwa, miqkwa
 めぐらす〔巡らす〕 migurasjun, miNgwasjun
 「gui
 めぐり〔巡り〕 migui/ ~が悪いかこと humi
 めぐりあう〔巡り会う〕 hujawasjun
 めぐりあわせ〔巡り会わせ〕 hujawasi
 めぐる〔巡る〕 migujun, miNgwijun, →か
 いてん
 めくれる magurijun, →まくりあげる
 めさき〔目先〕 miinume, minume
 めざまし〔目覚し〕 miikuhwajaa
 めざめ〔目覚め〕 miikuhwai
 めざめる〔目覚める〕 →さめる/ 目覚めやす
 い cimubeesan
 めし〔飯〕 mee, munu, muN, →?ubun,
 (小児語) manman, meeme/ ~に汁を
 かけたもの siruzikii/ ~を一度に炊いて
 置くこと siikumii/ やわらかい~ ?aciibii
 めしあがる〔召しあがる〕 →たべる
 めした〔目下〕 misita, tiisica/ ~に対する
 ことば使い →hii?ii, ?iihii/ ~の年上
 に対することば使い →hoo?oo
 めしつぶ〔飯粒〕 ?ubun?izi/ ~で作ったの
 めじまぐろ〔魚の名〕 siru?aci じり.suqkwii
 めじり〔目尻〕 miinu?ibi
 めじろ〔鳥の名〕 soominaa
 めじろかご〔めじろ籠〕 soominaakuu
 めしわん〔飯椀〕 →ごはんぢゃわん
 めす〔雌〕 miimunaa, miimuN/ ~の mii-

めずらしい〔珍しい〕 hwirumasjan, mi-
 ndasjan, mi?irasjan/ ~物 mindasi-
 mun
 めそめそ / ~泣くこと sipitainaci, 'wii-
 ruunaci
 めだか〔目高〕 takamaa, takamaami, ta-
 kamami
 めだつ〔目立つ〕 miidacun
 めだま〔眼玉〕 miNtama, →め/ ~が痛む
 こと tamajan/ ~の大きい者 ?uhumi-
 Ntamaa
 めちゃくちゃ sanzanKunzan, zaahwee
 めっきます〔鍍金をする〕 hwaasjun
 めつけやく〔目付役〕 ?jukumi
 めっそうな →misinaaku, misinataaku,
 misinataraaku, とんでもない, ひじょう
 めった〔滅多〕 miqta/ ~に ?iini じに
 めづな〔雌綱〕 miinna 「うに
 めっほう〔滅法〕 →musjootusjoo, ひじょ
 めでたい / ~こと karii, karijusi, ?ju-
 rukubi / ~日 →しゆくじつ
 めとる〔娶る〕 →kameejun, tumeejun
 めのこかんじょう〔目の子勘定〕 kuruba-
 zaa, teegeezanmin
 めばる〔目張〕 (魚名) miibai, miibaju/ ~
 の一種 ?akamiibaju, kurumiibaju
 めぼし〔目星〕 →めあて/ ~をつける ?ati-
 gajun
 めまい〔眩暈〕 miikuragan, kukutimin-
 gwaa, kukutimingwi/ ~がする kuku
 timingwijun
 めめしい bitaraasjan
 めもと〔目許〕 mimutu
 めやに〔目脂〕 miikusu/ ~を出す者 mii-
 メリンス sawai じkusaa
 めわらべ〔女童〕 →むすめ
 めん〔面〕 haa?iburaa
 めんかい〔面会〕 (敬語) ?wiicee, →かいけん
 めんきょ〔免許〕 ?jurii
 めんずる〔免ずる〕 nagamijun

めん

めんそう〔面相〕 çiramukumi, minzoo
 めんどう〔面倒〕 mindoo, 'wacaree → やっ
 かい/ ~である ?anmasjan/ ~なこ
 と ?anmasimun/ ~なさま 'wacareega-
 ndoo/ ~に掛かり合ふこと tiinzari, tii-
 wacaree/ ~をみる kangeejun, 'wa-
 ndajun/ ~を見ること sinziçi
 めんとむかって〔面と向かって〕 çiraziraa-

tu

めんどり〔牝鶏〕 miidui
 めんぷ〔綿布〕 seejanpuu, → もりか
 めんぼく〔面目〕 ?icibun, minbuku, mi-
 Nmuku/ ~を失ふこと → çirawaidoogu,
 geejun
 めんよう〔緬羊〕 meenaa, meenaahwii-
 zaa

も

も〔藻〕 muu
 も〔喪〕 → きちゅうり/ ~に服すること ?imi/
 ~に服すべき続柄 ?imigakai/ ~を終る
 こと ?imi?aki
 も〔助詞〕 -N
 もう ?iina, ?iinanuhwee, naa, naaja,
 nama, njaa, njajja/ ~いいか → too/
 ~いいよ → tooru/ ~すぐ nama/ ~少
 して ?agati, → すんでのことで
 もう〔牛の鳴声〕 'Nmoo
 もうか〔真岡〕〔織物の名〕 mookahuu
 もうけ〔儲け〕 mooki
 もうける〔儲ける〕 mookijun, sii?Nza-
 sjun/ ~こと一点張り mookizuku, zin-
 mookizuku
 もうける〔設ける〕 'isijun
 もうし〔孟子〕 moozi
 もうしあげる〔申し上げる〕 mjunnjuki-
 jun, nunnukijun, ?unnjukijun, ?un-
 nukijun, → いう, ごんじょう
 もうしご〔申し子〕 ?eeku
 もうしこみじゅん〔申込み願〕 sacisidee
 もうしでる〔申し出る〕 moosi?Nzijun
 もうしひらき〔申し開き〕 → いいひらき
 もうしぶんのない〔申し分のない〕 → zoo-
 bun, かんぜん/ ~者 'Nsjamun 「たく
 もうとう〔毛頭〕 musaqtu, → すこし, まっ

もうはつ〔毛髪〕 kikarazi, → かみ
 もうふ〔毛布〕 kiqtu, musin
 もうもう〔牛の小児語〕 moomoo
 もうりんか〔植物名〕 muikwa/ ~の花
 muikubana
 もうろく dooma, rooma, → おいぼれ/ ~
 じいさん roomatanmee/ ~する kani-
 haniijun
 もえさし〔燃えさし〕 hwiiziri, 'jakiziri
 もえつく〔燃え付く〕 teecicun
 もえる〔燃える〕 meejun, → やける 「あ
 もぐ〔挽ぐ〕 mujun, → muineun/ もいだ
 もくげ〔植物名〕 hanagaci じと muikuci
 もぐさ〔艾〕 nuuçi
 もくさん〔目算〕 mizimui, → あて, みこみ,
 もくろみ/ ~がはずれること mizimui-
 もくたん〔木炭〕 tan [sooi
 もくてき〔目的〕 ?umumuci
 もくひょう〔目標〕 ?ati, → めあて
 もくめ〔木目〕 mukumi
 もくよく〔沐浴〕 ?ușimasi, → みずあび
 もくろく〔目録〕 mukuruku
 もくろみ mukurumi, → くわだて, もくさん
 もくろむ mukurunun, → くわだてる
 もし〔若し〕 mani, musu → たとえ, ひょっ
 としたら, まんいち/ ~か (~も) musi-
 ka/ ~かすると → ?juu
 もし ?ee, 'jaa, sai, sari, tai, tari, →

hei/ ~もし ?ee?ee
 もじ[文字] muzi, zii, →suucuumaa
 もしゅ[喪主] ?iihweedacaa
 もずく[水雲] ?inui
 モスリン sawai
 もぞう[模造] / ~する nisijun/ ~品 nisii, nisimun, ?uçusi
 もたげる[拾げる] mucagijun
 もたまた muqcaihwiqcai, muqcoohwiqcoo, tiimucamuca, →ぐずぐず, のろのろ
 もち[餅] mucii/ ~の一種 cicaramuucii, cikaramuucii, hohaimuucii, hucagi, huuçimuci, kaganhweesaa, mudimuci, muucii, sizuci, ?ucanuku, ?utusizama
 もち[糰] 'janmuci, →とりもち
 もちあがる[持ち上がる] mucagajun
 もちあげる[持ち上げる] hwiqcatijun, mucagijun
 もちかた[持ち方] mucinasi
 もちくずす[持ち崩す] mucihandijun
 もちこたえる[持ち堪える] →たえる/ ~力 mucidee
 もちこむ[持ち込む] mucincun
 もちごめ[餅米] mucigumi
 もちすぎ[持ち過ぎ] muciqkwa
 もちどおし[持ち通し] muciciri
 もちなおす[持ち直す] kunnoosjun, mucinoosjun, tuikeesjun, →かいふく, たちなおる
 もちはこぶ[持ち運ぶ] →kajaasjun
 もちぶん[持ち分] mucimee, tamaşi
 もちまえ[持ち前] →もちぶん
 もちもの[持ち物] (敬語) ?weemun
 もちよる[持ち寄り] nucaasjun/ 持ち寄りの宴会 nucaasii
 もちろん[勿論] daniju, →いり
 もつ[持つ] mucun/ 持ったきり muciciri/ 持てないものを無理に持つこと mutaranmuci
 もつ[保つ] tamucun/ ~こと tamuci

もっこ ?oodaa
 もっこく(植物名) ?iiku/ ~の柱 ?iikubaaja 「みする
 もったいない →?usuri, おいしい, ものおし
 もったいぶる ?unbujun, →そんだい/ ~者 ?unbujaa 「?unu?wii
 もっと 'juku, 'jukun, naahwin, njahwin,
 もっとも muqtun, →とうぜん, いちばん
 もっぱら[専ら] muqpara
 もつれ[縫れ] 'nzari
 もつれる[縫れる] muçirijun, mudikujun, 'nzarijun/ もつれさせる 'nzarakasjun
 もてあそぶ 'iijun, mutabun/ ~こと -mutaan/ ~さま mutaanhwitaaN
 もてあましもの[持て余し者] ?amasitamun, ?itaneemun, zaahweemun
 もてあます[持て余す] ?abacun, muti?amasjun, mutiwakasjun, →teewakasjun/ ~さま ?abacinoori/ ~仕事 ?abacisigutu/ ~ようなこと ?itanceekutu
 もてなし →せったい
 もてなす tuimucun
 もと[本・元] mutu, muutu, →?ahjaa/ ~の隣 mutudunai / ~から →hweeku,
 もと[許] mutu 1つと
 もと(接尾) -mutu
 もどかしい →じれったい 「す
 もどす[戻す] mudusjun, →?agijun, かえ
 もとで[元手] mutu, muutu/ ~を失うこと muutukweeciri
 もとなり[本成り] niinai
 もとめる[求める] kameejun, mutumijun, tumeejun, →さがす, たずねる,
 もとゆい[元結い] muutii 1ほしがる
 もどり[戻り] mudui, →かえり
 もとる[得る] →そむく 「かえる
 もどる[戻る] mudujun, →?utikeejun,
 もどろく mudurucun, →ためらう
 もの[物・者] munu, mun, -şi, →しなもの, しんびん/ ~にする→せしめる

もの

もの〔助詞〕 -munu, mun

ものいみ〔物忌み〕 çicisimi/ ~をする çicisinun

ものいり〔物入り〕 ʔirimi, munuʔiri, munuʔirimi, siçcii, →いりめ

ものおじ〔物怖じ〕 munuʔuzi

ものおしりする〔物惜しりする〕 ʔibirijun

ものおと〔物音〕 munuʔutu/ ~をさけること munuʔutu

ものおぼえ〔物覚え〕 munuʔubi, →きおく/ ~が悪いこと busjoo

ものおもい〔物思い〕 munuʔumii, →かんがえごと/ ~に沈む munuʔumiigisan

ものがたり〔物語〕 ʔihwanasi, 'Nkasimunugatai, →はなし 「ぶしょうもの

ものぐさ çibitugajaa, hujuu, →ぶしょう,

ものごい〔物乞い〕 munukuui, →こじき

ものさびしい →うらさびしい/ ~さま soo-

ものしり〔物知り〕 munusiri ʔzootu

ものしりがお〔物知り顔〕 / ~な口のきき方 kusamunii, kusamunuʔii/ ~にふるまう kusabuqkwijun

ものずき〔物好き〕 munuzici, munzici

ものすごい ʔjooʔusumasjan, ʔusumasjan, →たいした

ものほしそう〔物欲しそう〕 / ~である munuhusjagisan/ ~にすること munuhu-

ものみ〔物見〕 munumi ʔsja

ものもらい〔麦粒腫〕 miiʔindee

ものわすれ〔物忘れ〕 munuwaši, munwaši, →わすれる

ものわらい〔物笑い〕 munuwaree

もはや naaja, njaa, njajaja, →もう

もふく〔喪服〕 →basjazin

もみ〔糲〕 mumi

もみがら〔糲殻〕 ʔnnaagee

もみくちや çikunaamukunaa, munna-ku, munnakukwannaku, munna-kwanna

もみけす〔揉み消す〕 širicaasjun, →širi-

koo, すりけす

もみじ〔紅葉〕 mumizi

もむ〔揉む〕 mimizun, munun

もめごと〔揉め事〕 mumigutu, nanzuu, nanzuuhwinzuu, →あらしい, もんちゃ

もめる〔揉める〕 munun ʔく

もめん〔木綿〕 mumin/ ~糸の一種 šeeja-Ngasi/ ~の布 →mookahuu, šeejanpuu

もも〔桃〕 →kiimumu

もも〔股〕 mumu/ ~が痛むこと mumu-

もも〔百〕 mumu- ʔsuqkwa

もみいろ〔桃色〕 buki, bukiʔiru, →さくら

ももひき〔股引〕 mumunuci ʔいろ

もやし maamina, ʔujasi, →kazihuci-maamina/ ~のいためたもの maamina-canpuruu

もやす〔燃やす〕 meesjun, →やく

もよう〔模様〕 mujoo, sima, →がら / ~の

もよおし〔催し〕 mujuusi ʔ形 →ziizira

もよおしもの〔催し物〕 mujuusimun

もよおす〔催す〕 mujuusjun

もより〔最寄り〕 mujui

もらいご〔貰い子〕 'iingwa, 'iiringwa, →やしないご, ようし

もらいぢち〔貰い乳〕 kuuzii, ʔušiizii

もらいもの〔貰い物〕 'iimun, →いただき

もらう〔貰う〕 'iijun, →いただく ʔもの

もり〔鉢〕 tuza

もり〔守り〕 mui, →tacimui, もりやく, ことり / ~を育て育てる munitatijun/ ~をして寝させる muiniNsijun/ ~をする →mui, もる

もりあがる〔盛り上がる〕 haqcatijun, mujagajun, ʔukurijun/ 盛りあがったさま →ʔusumuimui/ 盛り上がったところ mui

もりか〔植物名〕 muikwa/ ~の花 muikubana

もりがし〔盛菓子〕 muiʔukwaasi

もりたてる〔盛り立てる〕 munitatijun

もりやく〔守役〕 ʔjaka, ʔjakaagwaa,

mui, muijaku, ?uhujakaa, →こもり
 もる〔漏る〕 mujun, →もれる
 もる〔盛る〕 mujun
 もる〔守る〕 mujun, →もり
 もれる〔漏れる〕 murijun, →もる
 もろい〔脆い〕 sakusan
 もろこし〔蜀黍〕 toonucin
 もろとも〔諸共〕 murutumu, →いっしょ
 もろはく〔諸白〕 muruhaku, muruhwaku
 もろはだぬぎ〔双肌ぬぎ〕 kusihazii

もろみ murun/ ~のかめ murungaami
 もん〔門〕 mun, zoo, (敬語) ?uzoo
 もん〔紋〕 mun, (敬語) gumun
 もんちゃく〔悶着〕 muncaaku, →あらしい,
 もんつき〔紋付〕 munçiki しいざござ
 もんぱ〔紋羽〕 munpa
 もんばん〔門番〕 munban, zoobaan, (敬
 語) ?uzoobaan
 もんめ〔刃〕 munmi
 もんもう〔文盲〕 →?akimiçkwa, むがく

や

や〔入〕 'jaa, 'ja-, →はち, やっつ
 や〔矢〕 ?ija
 や〔夜〕〔接尾〕 'juru
 や〔屋〕〔接尾〕 →macija
 やあ ?ija, 'jaa/ ~やあ 'jaajaa
 やあい ?ahaai
 やい 'jai
 やいば〔焼刃〕 'jaiba, →は
 やえなり〔植物名〕 ?oomaamii
 やえやま〔八重山〕 / ~の者 'eemaa
 やえやまこうもり〔八重山蝙蝠〕 'eemakaa-
 bujaa
 やおや〔八百屋〕 'jašee?ujaa
 やがすり〔矢筈〕 ?ijabiima, →かすり
 やがて 'jagati, naagati, ?uqti, →じき
 やかましい 'jagamasjan, 'juŋgasima-
 sjan, kasimasjan, mimigasimasjan,
 mincasan, →うるさい, さわがしい
 やから〔葦〕 'jakara, 'jakari-
 やがる(…しやがる) kwajun, →やる
 やかん〔薬罐〕 'jaçkwan
 やぎ〔山羊〕 hwiizaa, →beebee/ ~を呼ぶ
 声 menunenu
 やきいん〔焼き印〕 'jaci?in
 やきうち〔焼き打ち〕 hwiizimi

やきどうふ〔焼き豆腐〕 'jacidoohu, kan-
 toohu
 やきばり〔焼き鉞〕 'jacibaa
 やきもき ?asigacinoori, →いらいら/ ~
 する →?asigaci
 やきもち →おかやき, しっと
 やきもの〔焼物〕 'jacimun, すやき, せと
 やきん〔夜勤〕 'juzimi 1もの, とらき
 やく〔役〕 'jaku, (敬語) ?ujaku / ~に立つ
 'jakutacun/ ~に立たないもの daimun,
 maahanjaa
 やく〔厄〕 'jaku, →やくどし, わざわい/
 ~が晴れること harijaku
 やく〔焼く〕 ?abujun, 'jacun, →もやす
 やぐ〔夜具〕 kanzimun, ?asicidoogu
 やくがい〔屋久貝〕 'jakugee/ ~の蓋 cici-
 ntaa, ciicintaa, ciicintoo
 やくざ hurimun
 やくざいし〔薬剤師〕 'jaçcuku
 やくしゃ〔役者〕 sibaisii, 'uduisjaa
 やくしょ〔役所〕 →?aa/ ~の名 →bandu-
 kuru, banzu, çigucižeeban, gusjuin,
 hwirazu, kuramutu, sicagui, sjunoo-
 za, sjuzasjukura/ ~仕事 ?weeçaiiban-
 si

やく

やくじょう〔約定〕 'jakuzoo, →とりきめ
 やくしょく〔役職〕 →zaa/ ~名 →いかい
 やくそく〔約束〕 'jakusuku, →けいやく,
 とりきめ, やくじょう/ ~する kazikaki-
 やくだつ〔役立つ〕 →やく ljun
 やくとく〔役得〕 ?ukazi
 やくどし〔厄年〕 'jakudusi
 やくにん〔役人〕 kwannin, ?weedainin,
 ?weekancu, →かんにん, たいかん
 やくば〔役場〕 bandukuru, banzu
 やくめい〔役名〕 →いかい
 やぐら〔檜〕 /人だまを見るための~ 'jaq-
 やけ〔自棄〕 ?aqaŋgaree l kwa
 やけい〔夜警〕 'juumaai
 やけど〔火傷〕 /~させる sizirakasjun/
 ~する 'juugeesjun, sizirijun/ ~など
 で皮膚がむけている者 kaasinđaa
 やけのこり〔焼け残り〕 /~の木切れ huru-
 hwiiziri
 やける〔焼ける〕 'jakijun, →もえる
 やごう〔家号〕 'jagoo, 'jaannaa
 やさい〔野菜〕 'jašee
 やさいり〔野菜売り〕 'jašee?ujaa
 やさしい cimuzurasan, duujaqsan, ?u-
 hujaqsan, ?wendasan, →?uzannasi,
 ?uzimu, (敬語) ?uzimuzurasan, たや
 すい/ ~人 ?wendaa, cimuzurancu, (敬
 語) ?uzimuzurancu/ ~もの duujašii,
 duujašimun/ やさしく 'jahwaqteen,
 'jahwaqteengwaa
 やし〔椰子〕 'jaasi/ ~の実 'jaasigwaa
 やしき〔屋敷〕 'jasici, →おやしき/ ~の祈
 願 'jasicinū?ugwan, →?ugwan/ ~の
 地代 'jasicigane 「だておや
 やしないおや〔養い親〕 'jasinee?uja, →そ
 やしないご〔養い子〕 cikaneengwa, 'ja-
 sineengwa, →よろし
 やしなう〔養う〕 cikanajun, 'jasinajun
 やしゃご〔玄孫〕 hwicimaga, hwici?nma-
 ga
 やしろ〔社〕 kami?asjagi, →?ugan, 'uga-

Nzu, →おみや, みや
 やしん〔野心〕 'jasin
 やすい〔安い〕 'jaqsan/ 安く買うこと 'ja-
 šigooi/ 安くする 'jašimijun/ 安くなる
 やすうり〔安売り〕 'jašifui l'jašinun
 やすまる〔休まる〕 'jašimajun
 やすみ〔休み〕 'jašimi, →きゅうそく
 やすみどころ〔休み所〕 'jukuidukuru
 やすむ〔休む〕 'jukujun, 'jašinun, (敬語)
 ?weesimišeen, →きゅうそく/ 休ませる
 'jukwaasjun/ ~番 'jukuimaaruu
 やすめる〔休める〕 'jašimijun
 やすもの〔安物〕 deejasii, 'jašimun
 やすやすと〔易易と〕 duujašiqteen, 'jaši-
 jašitu, 'jašiqteen
 やすらかに〔安らかに〕 'jaajaatu, →おだ
 やすり 'jašii l'やか
 やすんずる〔安んずる〕 'jasunzijun, →あ
 んしん/~こと 'jasunzi
 やせい〔野生〕 nanukurumii, →じせい/ ~
 やせち〔痩せ地〕 hagi l'の 'jama-
 やせる gazirijun, 'jašijun, 'joogarijun,
 'jubicun, sazirijun, sugijun/ やせた者
 'eesazii, 'eesugii, gazirimun, 'jasiga-
 ruu/ やせたさま 'joogarihwiigari
 やたて〔矢立て〕 'jatati
 やたらに caqsanakaqsan, musjookusjoo,
 →miqta, むしように
 やちん〔家賃〕 'jacin
 やつ〔奴〕 hja, 'jakara, →'jakari-
 やっかい〔厄介〕 'jaqkee, →めんどろ/ ~
 である ?anmasjan/ ~な預かりもの tui-
 ?azikee/ ~なこと ?anmasimun, ka-
 teemun, zaahweegutu/ ~になる →
 'wandajun
 やっかいもの〔厄介者〕 'jaqkeemun
 やつがしら〔芋の名〕 cinnuku
 やっきょく〔薬局〕 'jaqcuku
 やつす〔糞す〕 'jačirijun 「や
 やっつ〔八つ〕 'jaači, (時刻) 'jači, →haci

やっつける baNmikasjuN, hwirakasju-
 N, siqikijun
 やっと 'jaqtukaqtu, 'joojaku, →とりと
 やつれる〔寝れる〕 'jaqirijun しう
 やど〔宿〕 'jaadu, 'jadu, →やどや
 やとう〔雇う〕 'jatujun
 やどかり〔節足動物の名〕 ?aman, →?an-
 やどちん〔宿賃〕 'jaducin [maku
 やどなし〔宿無し〕 'jaamadii
 やどや〔宿屋〕 'jaadu, 'jadu, 'jaduja
 やどる〔宿る〕 'jadujun, →とまる
 やなぎ〔柳〕 'janazi
 やなぎごうり〔柳行李〕 'janaziguui
 やに〔脂〕 'jani
 やぬし〔家主〕 'jaanunuusi
 やね〔屋根〕 'jaanu?wii, →hwaahuu/ ~
 をふく →?irica, 'jaabuci
 やはん〔夜半〕 'jahwan, 'juhwan, →よな
 か/ ~参り 'jahwanmee
 やばん〔野蛮〕 'jaban
 やぶ〔藪〕 'jamagwaa, →しげみ
 やぶか〔藪蚊〕 'jamagazan
 やぶにつけい〔植物名〕 sibaki
 やぶにらみ sjoomi/ ~の者 sjoomaa
 やぶりすてる〔破り捨てる〕 'jai?itijun
 やぶりちらす〔破り散らす〕 'jaihoojun
 やぶる〔破る〕 'jajuN, →さく, ひきやぶる
 やぶれ〔破れ〕 'jari/ ~や裂け 'jarisaki
 やぶれめ〔破れ目〕 'jarimii, →さけめ
 やぶれる〔破れる〕 'jarijun, →さける/ 破
 れたかさ 'jarigasa/ 破れた着物 'jarizun
 / 破れた障子 'jari?akai/ 破れたり切れ
 たりしていること 'jariciri
 やほ〔野暮〕 busizoo
 やま〔山〕 'jama, mui, san, →takazan,
 taki, takimui/ ~の中 'jamanunaaka
 やまい〔病〕 →びょうき
 やまいも〔山芋〕 'jama?Nmu
 やまおく〔山奥〕 'jama?uku, →みやま
 やまかがし〔蛇の名〕 hwiibaa

やまがたな〔山刀〕 'jamanazi
 やまがわ〔山川〕(地名) 'jamagoo
 やまくろき〔植物名〕 'jamaguruci
 やましごと〔山仕事〕 / ~の競争 'jamasjuu-
 bu/ ~をする者 'jama?aqcaa
 やまのは〔山の端〕 'jamanuhwa
 やまびこ〔山彦〕 'jamabiku, 'jamahibiku
 やまみち〔山道〕 'jamamici
 やまもも〔山桃〕 'jamamumu, mumu/ ~
 売りの娘 mumu?ui?angwaa
 やみ〔闇〕 'jami, →あかつきやみ, くらや
 み, よいやみ
 やむ〔病む〕 'janun, →びょうき/ 病み衰
 える 'jabirijun
 やむ〔止む〕 'janun, →とまる
 やめる〔止める〕 'jamijun, ?ucun, →と
 める, よす/ やめておく 'joosjoocun
 やもめ〔寡婦〕 'jagusami
 やもり〔動物名〕 'jaaduu
 やり〔槍〕 'jai
 やりかけ siikaki, →しはじめ
 やりかける sikakijun
 やりかた siijoo, siinasi, sijoosizama,
 sikata, →しかた, ほろほろ
 やりかねない / ~こと (~者) siiciroo
 やりくり〔遣り繰り〕 kuimaasii/ ~する
 kuimaasjun, →さんだんする/ ~するこ
 と (~するさま) ?icaasikwaasii, 'jara-
 caikwaacai, 'jarasiikwaasii
 やりすごす〔遣り過ごす〕 haikwaasjun
 やりそこない siijan?i, siijan?igutu, →
 しっぱい, ふせいこう
 やりて siti/ ~ばば ?anmaa, zuri?an-
 やりなおし〔やり直し〕 siinoosi [maa
 やりなおす〔やり直す〕 siikeesjun, siinoo-
 sjuN
 やりはじめ siikaki, →しはじめ
 やりはじめる〔やり始める〕 sikakajun
 やる〔遣る〕 'jarasjun, kwijun, tura-
 sjuN, →さしあげる

やる

やる(する) →する/ やりやすい siijaqsan/
やりそななこと(やりそなもの) siiciroo/
やりつける siinarijun

やるせない kukutirusan

やわらかい[柔かい] 'jahwarasan/ ~御飯
ʔaçibii/ 柔かくなる 'jahwaracun/ 柔か
くする 'jahwarakijun/ 柔かに 'jahwa-
jahwatu, 'jahwaqteen, 'jahwaqteen-
gwaa, 'joon

やわらぐ[柔ぐ] 'jahwaracun

やわらげる[柔げる] 'jahwarakijun

やんばる[山原](地名) 'janbaru/ ~地方
への旅 'janbarutabi, 'janbatabi/ ~方
言 'janbarukutuba/ ~者 'janbaraa

やんばるたけ[山原竹] 'janbaraa, 'jan-
baraadaki, 'janbarudaki

やんばるぶね[山原船] 'janbaraa, 'jan-
baraabuni 「maa

やんま(とんぼの名) naakudaamaa, taa-
やんわり →やわらかい(やわらかに)

ゆ

ゆ[湯] 'juu, (小児語) buu, buubuu, →

ゆあみ[湯浴み] ʔuʃimasi ㇿさゆ

ゆい 'ii, →ろりりょくこうかん

ゆいごん[遺言] ʔigun, ʔnzani

ゆいのう[結納] sakimui

ゆう[結う] 'juujun, →しぼる, むすぶ

ゆうかく[遊郭] zurinujaa, →hananusi-
ma/ ~の名 çiiizi, nakasima, 'watanzi

ゆうかげ[夕蔭] 'juukaagi, →ゆらぐれ

ゆうがた[夕方] →ゆらぐれ

ゆうぎ[遊戯] / ~の名 ʔakaʃee, caNku-
ruu, cenkuruu, çiburusaee, çicihana-
ʃee, giitaa, giitaamundoo, giqcoo,
hwiizintoo, ʔiijunumii, ʔiqcikutaqci-
ku, ʔiqpaa, ʔiqsinguu, ʔiqtagajoo, ʔi-
sinaguu, kaçimiNsoree, kurubaʃee,
kuugatuuee, kwaqkwinoooree, nan-
ku, micimaa, miguruntooruu, mi-
qkwaatooruu, 'nmoogaqkui, ʔoosii-
too, paNmikasii, siijaabuu, tooʃee,
ʔusutikwaqkwaʃee

ゆうぐれ[夕暮れ] ʔakookuroo, ʔiricee,
'jusandi, 'juuʔiricee, 'juuʔirigata, →
ゆうかげ, ゆうまぐれ/ ~に 'jugakiti/
~に立つ市 'jusandimac

ゆうじょ[遊女] hana, çuri, zurihana,

→じょろろ

ゆうずう[融通] kuimaasii/ ~する kui-
maasjun

ゆうだち[夕立] naçiguri, nagasi

ゆうちょう[悠長] →きなが, のんびり/ ~
である ciiniisan

ゆうづきよ[夕月夜] 'jukuneeçicuu

ゆうとうにん [遊蕩人] →あそびにん

ゆうなぎ[夕凧] 'juuduri

ゆうはん[夕飯] 'juuban, 'juuʔubun/ ~
代わり 'juubanbicee/ ~時 'juubanuui/
~の支度 'juubansugai

ゆうひ[夕日] ʔirihwi, sagaitiida, →ʔa-
katiida

ゆうふく[裕福] 'juhuku, 'juuhuku/ ~な

ゆうべ[昨夜] 'juubi ㇿさま huuhuu

ゆうべん[雄弁] / ~な者 binsja

ゆうまぐれ[夕間暮れ] 'jumangwi, →ゆら

ゆうめい[有名] →なだかい ㇿぐれ

ゆうやけ[夕焼け] 'jusandiʔakagai, 'ju-
sandiʔakee, 'jusandiʔakeei, 'juuʔa-
keei

ゆうゆうと[悠々と] 'juçijuçiiitu, 'juç-
qteen, 'juujuutu, →ゆっくり

ゆうれい[幽霊] 'juurii/ ~の話 'juurii-
banasi

ゆうれつ〔優劣〕 ?utuci?agaci/ ~のない
 こと ?uqçikaqçi, →こうおつなし
 ゆうわくする〔誘惑する〕 hwicijanZUN,
 tanukasJUN, 'wakujUN/ 誘惑される
 hwikasarijun/ ~手段 'wakuidii
 ゆえ〔故〕 'jui, →わけ
 ゆおう〔硫黄〕 'juuwaa/ ~の燃える火
 'juuwaabii
 ゆおうじま〔硫黄島〕 'juoogasima
 ゆか〔床〕 'juka
 ゆかい〔愉快〕 →おもしろい
 ゆかした〔床下〕 'jukasja
 ゆがみ〔歪み〕 'jugami, 'jugan
 ゆがむ〔歪む〕 'juganun/ ゆがんだ書体 'j-
 oogaaahwiigaagaci/ ゆがんだもの 'joo-
 gaa, 'joogee 「よくする
 ゆがめる〔歪める〕 'jugamijun, →わいき
 ゆき〔雪〕 →'juci
 ゆきのした〔雪の下〕(植物名) minzaigusa
 ゆくえ〔行方〕 'jukui/ ~不明 ?asjura
 ゆげ〔湯気〕 ?açiki, huki
 ゆこぼし〔湯こぼし〕 caajutijaa
 ゆすぐ 'juşizUN, 'uuzUN
 ゆすぶる 'uujUN, →?amazon/ ゆすぶっ
 てこわす 'uuiwaqkwasJUN ゆすぶって
 入れる 'uuinCUN
 ゆずり〔譲り〕 'juzirii
 ゆずる〔譲る〕 'juzijUN/ 譲り合うさま
 cuijuziijuzii, ?uuşeekarakee/ 譲り受
 けたもの 'juzirii
 ゆたか〔豊か〕 'juciku, 'jutaka, →ゆらふ
 く/ ~なこと zUNtaku, →みちたりの
 ゆだん〔油断〕 'judan
 ゆちゃくする〔癒着する〕 micaajUN, mii-
 jaajUN/ ~させるための膏薬 miijaigoo-
 jaku
 ゆっくり 'joonNaa, 'juujuutu, ?uqtai-
 mootai, →のろい, のろのろ, ゆったり,
 ゆづけ〔湯漬け〕 'juuzikii ↳ゆるゆる
 ゆったり niguuniguu/ ~と →ゆらゆらと

/ ~とした性質 ?uhu?Nmari
 ゆでじる〔茹で汁〕 'judiziru
 ゆでだこ〔茹で蛸〕 'judidaku
 ゆでたまご〔茹で玉子〕 'juditamagu/ 皮
 をむいた~ 'ncitamagu
 ゆでる〔茹でる〕 'judijun
 ゆとり →よゆう/ ~がある 'jucisan
 ゆば〔食品名〕 ?Nba
 ゆび〔指〕 ?iibi/ ~折り数えて çicijun-
 Nhwijun/ ~折り数えられる人 ?ikuta-
 ininZUN/ ~折り数えること ?iibiuii/ ~
 のまた ?iibinumata
 ゆびきり〔指切り〕 kaakii
 ゆびさき〔指先〕 ?iibizaci/ ~ではじくこと
 ?iibibanci
 ゆびさす〔指差す〕 →?iibinuci
 ゆびわ〔指輪〕 ?iibiganii
 ゆみ〔弓〕 'jumi/ ~の矢 'juminu?ija
 ゆみず〔湯水〕 'juumizi
 ゆみはりちようちん〔弓張り提燈〕 'jumi-
 hai
 ゆみや〔弓矢〕 'jumija
 ゆめ〔夢〕 ?imi
 ゆらいき〔由来記〕 'jureeci
 ゆらぐ〔揺らぐ〕 ?amazicUN, ?amazon,
 ゆらめく 'jutamicUN ↳→ゆれる
 ゆらゆら ?amazicikaa, 'jutajuta, kwe-
 Nkwen, mitamita
 ゆり〔百合〕 'jui
 ゆりうごかす〔揺り動かす〕 →ゆすぶる
 ゆりかえし〔揺り返し〕 keesi
 ゆるい 'jurusAN, →ゆるゆる
 ゆるす〔許す〕 'jurusJUN, →naşireeJUN,
 kanbin, →かんべん, きょか
 ゆるむ〔緩む〕 ?uçoorijun
 ゆるめる〔緩める〕 'jorumijun
 ゆるゆる gooruu, 'jooraakwaaraa, 'jo-
 oruu, 'jooruukwaaruu, →ゆっくり
 ゆるりと 'juruitu, 'juruJuru, 'juruqtu,
 ゆれ〔揺れ〕 →kugee, kugeei ↳→ゆっくり

ゆれ

ゆれる〔揺れる〕 → kugeejun, ゆらぐ, ゆらめく/ ゆれ動く ʔwiicun/ 液体がゆれ

動くさま ʔjuqtaikwaqtai

よ

よ〔夜〕 ʔjuru, ʔjuu, →よい, よる/ ～が白むこと siraʔakagai, siraʔaki

よ〔世〕 ʔjuu, →じせい, よのなか/ ～の移り変わり ʔjugawai, ʔjuugawai

よ〔代〕 ʔjuu

よ〔助詞〕 ii, ʔjoo, mun, -sa, →-kee, -sami

よ〔四〕 ʔ-ju, ʔ-juu

よあけ〔夜明け〕 ʔakaçici, ʔjuʔaki, →あけがた/ ～に起きること ʔakaçiciʔuki/ ～を待ちかねること ʔjuuʔakasikantii

よあそび〔夜遊び〕 → mooʔašibii

よい〔宵〕 ʔju, ʔjukunee/ ～の口から眠たがること ʔjukuneeinibui/ ～の口から眠たがる者 ʔjukuneeinibujaa/ ～の明星 ʔjuubanmanzaa, manzaabusi

よい〔酔い〕 ʔwii

よい〔良い〕 → いい, ʔjuku, よろしい/ よく ʔjuu/ よく仕上げる siinasjun/ よくできる dikijun, ʔnmarijun, ʔjukajun/ よくできた稲 ʔjukaiʔnni/ よくできたさつまいも ʔjukaiʔnmu/ よくできた砂糖 dikizaataa/ よくやった sitai, si-

よいいち〔宵市〕 ʔjusandimaci [tari

よいごこち〔酔い心地〕 ʔwiigukuci

よいざまし〔酔い醒まし〕 ʔwiisamasi

よいしょ ʔeekicamee 「ふかし

よいっぱり〔宵っ張り〕 miiguhwaa, →よ

よいなき〔酔い泣き〕 ʔwiinaci

よいやみ〔宵闇〕 ʔjukuneeurasin

よう〔用〕 ʔumumuci, (敬語) gujuu, →ようじ/ ～のなくなった物 juuzucirimun

よう〔糴〕 ʔjoo 「ある

よう〔様〕 gutu, →gukuru, guutuu/ ～で

gutoon/ ～に gutu, -nee, →guutuu

よう〔酔う〕 ʔwiijun/ 酔いしれる ʔwiihurijun/ 酔いつぶれて寝ること ʔwiikurubi, ʔwiinzi/ 酔って暴れまわること ʔwingwii

ようお願い ʔjuui, sikooi, sitaku, sugai, →ところがけ, じゅんび/ ～する sikoojun, sugajun, →juui, sinjukujun, sinukujun/ ～するさま (～すること) sikoomukooi, →sinukuimataku

ようお願い ʔjooi, →たやすい/ ～である duujaqsan/ ～なこと duujašimun/ ～に duujašiqteen, →jooi

ようか〔8日〕 hacinici

ようがさ〔洋傘〕 kaabujaagasa

ようかん〔羊羹〕 maamigan

ようき〔容器〕 ʔirimun

ようぎん〔洋銀〕 ʔjanzin

ようくん〔幼君〕 →わかぎみ 「jaa

ようけいぎょうしゃ〔養鶏業者〕 tuiçikana-

ようさい〔雲菜〕 (植物名) ʔuncee

ようし〔養子〕 çikaneengwa, ʔjoosi, →いりむこ, やしないご

ようじ〔用事〕 ʔjuuzu, ʔjuuzukaci, →より

ようじ〔楊子〕 ʔjoozi [むき

ようじ〔幼時〕 kuusaini, →よりしょう

ようしき〔様式〕 →hwinagata

ようじゅ〔榕樹〕 gazimaru

ようしょう〔幼少〕 ʔjuusjuu, →よりじ

ようじん〔用心〕 ʔjuusin, kukuri, munnuʔati/ ～する kukurijun, →tan kijun/ 心の中では～すること →sidadama-si

ようす[様子] 'joosi, →huuzi, mujoo, sitakata, sitaraku, sizama, zama, ありさま, すがた, なり, ふりさい/ ~を見る miinajun

ようすい[用水] cikeemizi

ようそう[洋装] ?urandasugai 「じょう

ようだい[容態] 'jooši, 'jootee, →びょう

ようとんぎょうしゃ[養豚業者] ?waakarajaa

ようはい[遙拜] ?utankaatuusi, ?utuusi/ ~式 →coonu?unjuhwee

ようばい[楊梅] 'jamamumu, mumu/ 初めての~ haçimumu/ ~を売る娘 mumu?ui?angwaa

ようぼう[容貌] çirakaagi, kaagi, (敬語) 'Ncaagi, →かおだち, きりょう

ようむき[用向き] ?umumuci, →よう

ようめい[幼名] →わらべな

ようやく[漸く] →とらとら, やっと

よかん[余寒] 'wakaribiisa

よき[斧] 'juuci, →おの, ておの/ ~の小型のもの saahungwaa, saahunjuuci

よく[欲] 'juku, dijuku, rijuku

よくあさ[翌朝] naaca?asa

よくげつ[翌月] naazici

よくじつ[翌日] naaca

よくねん[翌年] 'jukudusi

よくぼり[欲張り] 'jukuu, 'juukuu, →hatijukuu, rijuku, どんよく

よくばる[欲張る] →'juku

よくよく 'jukujuku, 'jukuujukuu 'juukuujukuu, mişik, →ねんいり

よくよくじつ[翌翌日] naasati

よくよくねん[翌翌年] naaNcu, naajaan

よけい[余計] →よぶん/ ~なこと ?waabagutu/ ~な出費 ?waabazikee/ ~な心配 ?waabasiwa, ?waaba?umii/ ~なもの ?waaba, ?waabamun

よこ[横] 'juku/ ~にそれさせる 'jukusjun/ ~になる →kakijun/ ~になって

話をすること kakibanasi/ ~に引いた よこいと[横糸] nuci 水 'jukumigi

よこがお[横顔] 'jukugau

よこぎる[横切る] kuncijun

よこじま[横縞] nuci?aja

よごす[汚す] 'jugusjun

よこたえる[横たえる] 'jukuteejun

よこちょう[横丁] sjuuzi

よこっぱら[横っ腹] →わきばら

よこどり[横取り] 'jukudui/ ~する 'ju-

よこね[横根] biñduku 〔kusjun

よこのり[横乗り] subanui

よこばしり[横走り] 'jukubai

よこぶえ[横笛] hansjoo

よこみち[横道] 'jukumici, →わきみち

よこむき[横向き] subankee

よこめ[横目] hwicimi, sjoomi, subami

よごれ ?aka, 'juguri/ ~がたまる ?akananun/ ~がひどいこと →miñkwaauu

よごれる[汚れる] ?akahanun, 'jugurijun, 'winceajun, →けがれる/ ところどころよごれたさま ?ajagacikoogaci

よざい[余財] 'juzee

よし →too

よしあし[善し悪し] 'jusi?asi, ziihuzi

よしたけ(植物名) deeku

よじのぼる[攀じ登る] ?agujun

よじる[捩る] →ねじる

よじれる[捩れる] mudijun

よす[止す] →やめる/ よしておく 'joos-oocun, 'joosjoojun

よすみ[四隅] 'jušimi

よせあつめる[寄せ集める] nucaasjun

よせる[寄せる] 'jusijun 〔tasima

よそ[余所] 'jusu, →たきょう/ ~の部落

よそう(食べ物) ?irijun, (敬語) ?ukagijun

よそおい[装い] sugai

よそおう[装う] sugajun, →けじょうする

よそみ[余所見] 'jukumi

よそ

よそめ〔余所目〕 'jusumi
よそもの〔余所者〕 tabinuqcuu
よだつ →み
よたよた çiruçiru, →よちよち
よだれ〔涎〕 'judai, kucisiru/ ~をたらしてしゃべること 'judaikuuzoo/ ~を流すさま ziizii
よちよち burabura, çiruçiru, →よろよろ/ ~歩き buraburaa?aqci
よつあし〔四つ足〕 'juçi?asi
よっか〔4日〕 'juqka
よつかど〔四つ角〕 'juçi?azimaa, kazimajaa, →?azimaa
よつだけ〔四つ竹〕 'juçidaki
よったり〔4人〕 'juqtai 「→し
よっつ〔四つ〕 'juuçi, 'juu, (時刻) 'juçi,
よっぱらい〔酔っぱらい〕 'wiqcaa, 'wiqcu, 'wiqcuu, →'wiimunhurimun, さけのみ
よづめ〔夜詰〕 'juçimi
よつゆ〔夜露〕 'juçiju
よつわり〔四つ割り〕 'juçiwai, 'juuçiwai
よつんばい〔四つん道い〕 ?ingwaabooi
よとう〔与党〕 →siruu
よどおし〔夜通し〕 'junagata, 'junagata sanagata, 'juşiga, 'juu?akiduusi, 'juu?akiduusii, 'juuzu
よとぎ〔夜伽〕 'juutuuzi
よとせ〔4年〕 'jutu
よどむ〔淀む〕 'judunun, →ちんでんする/ 淀ます 'judumijun/ ~こと 'juudu
よなか〔夜中〕 'jahwan, 'juhwan 'junaka, →よる/ ~中 'juuzu/ ~に帰ること 'junakamuçui
よなかの〔四七日〕 'junanka
よなべ〔夜業〕 'juunaabi/ ~する場所 'ju-
よにん〔4人〕 'juqtai [unaabii
よねん〔4年〕 'jutu
よのなか〔世の中〕 'jununaka, sikin, →せ
よは〔余波〕 naguri [けん, よ
よびあつめる〔呼び集める〕 'jubisuraa-
sjun

よびだす〔呼び出す〕 'jubi?nzasjun
よびもどす〔呼び戻す〕 'jubimudusjun
よびよせる〔呼び寄せる〕 'jubijusijun
よぶ〔呼ぶ〕 'jubun, →?eezi
よふかし〔夜更かし〕 'juuki, →よいっぱり
よふけ〔夜更け〕 tuçişiri, →まよなか
よぶん〔余分〕 ?amai, 'juçii, ?waaba, ?waahwa, →よけい
よぼう〔予防〕 meekanijoozoo
よほど〔余程〕 'juhuðu, →かなり
よまわり〔夜回り〕 'juumaai
よみかき〔読み書き〕 / ~そろばん →hwi-
qsan/ ~のできる人 şiminçu
よみち〔夜道〕 'jumici, 'juumici
よむ〔読む・詠む〕 'junun, →えいずる
よめ〔嫁〕 'jumi, (敬語) ?weejumi/ ~い
びりする者 'jumi?ibiraa/ ~入り先 ku-
sjatikata/ ~入り前 tacimee/ ~に行く
tacun/ ~に行くこと diqsin/ ~にやっ
たり婿をもらったりすること 'jumidui-
mukudui, mukuduijumiçui
よも〔四方〕 'jumu, →しほう
よもぎ〔蓑〕 huuçibaa/ ~を入れた餅 hu-
uçimuci
よもすがら →よどおし
よゆう〔余裕〕 'juçiihwa, 'juçimi/ ~があ
る 'juçisan/ ~緯々と 'juçijuçiiitu, 'ju-
ciqteen/ ~を出す 'juçiijun
より〔助詞〕 -jaka, -juka
よりあいしごと〔寄り合い仕事〕 'jureesi-
gutu
よりあつまる〔寄り集まる〕 →あつまる
よりいと〔繕り糸〕 →siranaa
よりかかる〔寄り掛かる〕 ?uqcakajun
よる〔夜〕 'juru, 'juu, →よ, よなか/ ~の
寒さ 'juuhwizui/ ~のしじま 'jusizimi/
~昼 'juruhwiru
よる〔寄る〕 'jujun, tunmigujun/ 寄り道
よる〔繕る〕 hwinijun [→わき
よるべ〔寄辺〕 tajui, →たのみ

よれよれ →しわくちや/ ~の着物 bitata-
 よろい[鑑] 'jurui [liziN
 よろける siikujun/ ~こと siikuinoori
 よろこばしい[喜ばしい] hukurasjan, →
 られしい 「うれしさ
 よろこび[喜び] cimuhukui, 'jurukubi,
 よろこぶ[喜ぶ] hukujun, 'jurukubun,
 →hukurasjan, ?uqsjan/ 喜び騒ぐ 'i-
 sjakajun, ?isjaakaajun, →きんきじゃ
 くやく/ 人知れず~こと →hucukuru?o-
 よろしい 'jutasjan, →いい [ozimee
 よろめく →よろける
 よろよろ burabura, siikuimeekui, →よ
 よろん[世論] →suukangee [たよた
 よろんじま[与論島] 'junnu/ ~と沖永良
 部島 'junnu?irabu
 よわい[弱い] 'joosan, (体が) 'jahwara-
 san, →びょうじゃく, →よわよわしい/
 ~所 'joomi/ 弱く 'joon, 'joongwaa/
 弱くなる 'joojun/ 弱そうである miija-

hwaragisan/ 弱そうに見えて強い者 si-
 pitaiganzuumun.
 よわね[弱音] / ~をばく 'wabijun
 よままる[弱まる] 'joojun, →たよりない,
 よわる 「jaa
 よわむし[弱虫] biiraa, 'joobaa, sipita-
 よわよわしい[弱弱しい] munujoocigi-
 san, munujoogisan, →たよりない
 よわりめ[弱り目] 'joomi
 よわる[弱る] 'jabirijun, 'jahwaracun,
 'joojun, →すいじゃくする, よままる/
 弱ったもの 'joomun, 'joorimun
 よん[4] →し
 よんかい[4回] 'jukeen
 よんとうぶん[四等分] →しぶんのいち, よ
 よんなん[四男] 'junan [つわり
 よんひゃく[400] sihjaaku/ 400文 'juku-
 mui, sipjaaku/ 450文 sipjaakugun-
 zuu
 よんりん[4厘] nihjaaku, takumui

ら

ら[等] (接尾) -caa, -taa
 ラード buta?anda, butaju
 らいげつ[来月] taçici
 ライチー(植物名) riici
 らいねん[来年] 'jaan
 らいはい[礼拝] →'juçi?unjuhwee, ?uni-
 hwee, ?unjuhwee, ?unuhwee
 らいびょう[癩病] kunçi/ ~患者 kuncaa
 ラオ[羅字] cisirizoo, roo
 らく[楽] raku, →あんらく, きらく, ようい,
 らくらくと/ ~である duujaqsan, siija-
 qsan/ ~に暮らせること ?uhumaaru
 らくいん[落胤] ?utusidani, →おとしだね
 らくいんきょ[楽隠居] raku?incu
 らくがん[落雁] koogwaasi

らくじつ[落日] →ゆうひ 「→かんせい
 らくせいわい[落成祝い] sjuçi?uiwee,
 らくたん[落胆] cidai, çirudai, →がっかり
 らくちゃく[落着] dakucaku, rakucaku,
 →おちつく
 らくらくと[楽楽と] rakurakutu
 らしい -gisan, -raasjan
 らしんばん[羅針盤] karahaai
 らち[埒] daci/ ~があかない →daci
 らっかせい[落花生] ziimaami
 らっきょう daqcoo
 られる (受身) -rijun, (可能) -juusjun,
 -rijun, (尊敬) -mişeen, -nşeen, -rijun
 らん[蘭] / ~の一種 naguran
 らんかん[欄干] dankan, rankan 「かる
 らんざつ[乱雑] kacihoorii, 'jama, →ちら

らん

らんせい〔乱世〕 midarijuu, →?ikusajuu
 ランプ danpu, ranpu
 らんぼう〔乱暴〕 ?araci, →booduisiidui,
 boogai, zaahwee/ ~である ?arasan/
 ~狼籍 zaahweetihwee/ ~を働く ti-
 beejuN

らんぼうい〔蘭方医〕 'jamatu?isja
 らんぼうもの〔乱暴者〕 ?amaimun, ?ama-
 jaa, ?amasitamun, ?anmaku, maku,
 'Nzarimun, ?itimaku, ?itimun, zaa-
 hweemun

り

リ〔利〕 dii, rii, →えき, とく, りえき, り
 リ〔里〕 -ri じとく
 リえき〔利益〕 'ici, sjuutuku, →えき, り,
 リえんする〔離縁する〕 →nucun じりとく
 リかいする〔理解する〕 numikunun, 'wa-
 kajun, →りょうかい
 リく〔陸〕 ?agi
 リげん〔俚諺〕 ?ukugu, →?ikutuba
 リこう〔利口〕 / ~さ takuma, →こりこ
 う/ ~である →?uziraasjan, かしこい
 リこうもの〔利口者〕 karabasi, sjoo?iraa,
 sjoo?irimun, takumaa, takumaciraa,
 takumacirimun, →かしこい
 リし〔利子〕 →りそく
 リせい〔理性〕 →kani 「takarihwi
 リそく〔利息〕 dii, rii, →りりつ/ 高い~
 リちぎもの〔律義者〕 →meekatakasiraa
 リっか〔立夏〕 riqkaa
 リっしゅう〔立秋〕 riqsjuu
 リっしゅん〔立春〕 riqsjuN
 リっしん〔立身〕 diqsin
 リっとう〔立冬〕 riqtuu
 リっば〔立派〕 diqpa, riqpa, zoobun, →み
 ごと / ~な →cura- / ~なことは使い cu-
 ra?uuhuu / ~な動き zoocibai
 リっぶく〔立腹〕 ?izi, diqpuku, haradaci,
 riqpuku, →おこる
 リとう〔離島〕 hanarizima, →hanari
 リとく〔利得〕 rituku, →とく, り, りえき

リにゅう〔離乳〕 →ちちばなれ
 リびょう〔痢病〕 ribjoo
 リべつ〔離別〕 ribiçi, →わかれ/ ~する
 →nucun
 リゆう〔理由〕 →basju, cimuee, 'wacïee,
 'waki, わけ
 リゅう〔龍〕 duu, ruu
 リゅうおうさま〔龍王様〕 duuooganasi,
 ruuooganasi
 リゅうか〔琉歌〕 ruuka, →?uta/ ~と和歌
 の混合体 ?imahuu, nakahuu
 リゅうがん〔龍眼〕 (植物名) dingan, ri-
 ngan
 リゅうぎ〔流儀〕 huuzi/ 常識はずれの~
 hweeraNhuuzi
 リゅうきゅう〔琉球〕 duucuu, ruucuu/ ~
 王統治下の時代 ?ucinaajuu
 リゅうきゅうおもて〔琉球表〕 'iimusiru/
 ~の畳 'iidatan
 リゅうきゅうがき〔琉球柿〕 kuruboo
 リゅうきゅうだけ〔琉球竹〕 'janbaraa,
 'janbaraadaki, 'janbarudaki
 リゅうきゅうはぜのき〔植物名〕 hazi, ha-
 zigi
 リゅうこう〔流行〕 hweei/ ~する hwee-
 jun
 リゅうこうか〔流行歌〕 hweei?uta, →ha-
 ?uta, hwa?uta/ ~の名 →hweei?uta
 リゅうこうご〔流行語〕 hweeikutuba

リゅうこうびょう〔流行病〕 huuci/ ～が大
 いにはやる huucigamarasjan/ ～よけ
 huucigeesi 「れること ?iihumaki
 リゅうしゅつど〔流出土〕 ?iihu/ ～にかぶ
 リゅうぜつらん〔龍舌蘭〕 dugwai, rugwai
 リゅうれん〔流連〕 zurinujaagumai/ ～す
 る hwirikumajun, →いりびたる
 リょう〔漁〕 →いさり
 リょう〔量〕 sicu, sjaku/ ～が多い sicu-
 ?uhusan
 リょうあし〔兩足〕 murubisja
 リょうかい〔了解〕 tui?uki/ ～する tui?u-
 kijun, →りかいする
 リょうきん〔料金〕 cinsin
 リょうし〔漁師〕 ?ijutujaa, ?umi?aqcaa,
 ?uminecu/ ～ををする →?aqcun
 リょうし〔獵師〕 ?jamasisitujaa
 リょうしゅうしょう〔領收証〕 ?ukidui
 リょうしん〔兩親〕 huta?uja, →?uja, ふぼ
 リょうする〔領する〕 kakijun
 リょうち〔領地〕 kagee, ?weekazi, (敬語)
 ?ukakizima, →kuni, sima, simakuni/
 ～と扶持米 simacizoo/ ～内 kagee?uci
 リょうてい〔料亭〕 →りょうりや
 リょうば〔兩刃〕 muruhwa
 リょうほう〔兩方〕 roohoo, sirikuci, siru-
 kuci, →そうほう
 リょうもく〔量目〕 cinmi, munmi
 リょうり〔料理〕 hoocuu/ ～の材料が少い
 こと tiiciriboocuu/ ～の名など ?aasa-
 ?irici, ?asitibici, biragaramaci, buku-
 bukuu, bukubukuzaa, ciricirii, caN-
 puruu, çiki?agi, diNgaku, duruwaka-
 sii, gunbookumii, hana?ika, hwira-
 jaciai, ?inamuduci, kabacideekuni, ka-

baguboo, kabajaci, kaşitira, koobee-
 tamagu, kuubu?irici, kuubumaci,
 kuunii, kuu?Nmunii, kuurizisi, maa-
 minacaNpuruu, mimigaasasimi, mi-
 nudaru, musubikuubu, muzinu?usiru,
 muzi?uşee, naQtuu, nitamairukuzuu,
 nunkuu, ?Nbusii, ?Nmookasii, ?Nmu-
 kuzihwirajaciai, ?Nmunii, ?oohanBIN,
 poopoo, puQturuu, saNmi, sikamuđu-
 ci, simimUN, sisi?irici, sisitiNpura,
 taacii, taa?Nmunii, tasijaa?ubun, ti-
 bici, toohunukaşirici, tuNhwAN, tu-
 NhwANzuuşii, tunzii?uusii, ?uigwaa-
 ?usee, ?unimUN, ?usanmi, ?utibici,
 ?uunii, zuusii/ 念入りに～する →tii?a-
 Nda/ 貧弱な～ sabimUN

リょうりにん〔料理人〕 hoocuu
 リょうりや〔料理屋〕 sakanajaa/ ～の女給
 sakanajaawinagu
 リよく〔利欲〕 dijuku, rijuku, →よく
 リよくず〔緑豆〕 ?oomaamii
 リよくちく〔植物名〕 maataku
 リよくもん〔緑門〕 kiinuhwaa?uzoo
 リょこう〔旅行〕 ?aqci, tabi, →たび
 リよそう〔旅装〕 tabisugai
 リリつ〔利率〕 rihwii
 リんき〔格氣〕 →しっと / ～するもの di-
 ncaa, rincaa
 リんぎょう〔林業〕 / ～に従事する者 ?ja-
 ma?aqcaa
 リんげつ〔臨月〕 nasizici, sançici
 リんじ〔臨時〕 hutu
 リんじゅう〔臨終〕 mii?utui
 リんず〔輪子〕 rinsu, rinzi/ ～の礼服
 rinziwatazin
 リんびょう〔淋病〕 siibaijandi

る

るい〔類〕 rui
 るいれき〔瘰癧〕 gurui, →huđu?wiigurui

るざい〔流罪〕 simanagasi/ ～にする →
 huni

るす

るす〔留守〕 / ～番 'jaanubaaN/ ～を守
る奥様 'Neuca?ajaamee

ルソンとう〔ルソン島〕 rusuN
るりはこべ〔植物名〕 miNna

れ

れい〔例〕 rii, tatui

れい〔礼〕 rii, →おれい, おれいまいり, ら
いはい, れいぎ, れいきん

れい〔霊〕 →たましい/ ～の力 saa, sizi/
～の力のある masasjaN, saadakasaN,
siidakasaN, sisidakasaN/ ～の力に負け
ること →saamaki/ ～の力をそなえた生
まれ saadaka?Nmari

れいう〔冷雨〕 simu

れいき〔冷氣〕 hwizui

れいぎ〔礼儀〕 riizi, zaNmee, →?usjudee,
さほう / ～作法 riizisahuu/ ～作法を教
えること muNnaraasi/ ～作法を学ぶこ
と muNnaree

れいきん〔礼金〕 riizi

れいけん〔靈験〕 →れい

れいこん〔靈魂〕 →たましい, れい

れいし〔荔枝〕 riici 「い

れいしょう〔冷笑〕 sirawaree, →あざわら

れいぜん〔霊前〕 diizin, riizin 「ci

れいそう〔礼装〕 coo?isjoo, →coohacima-

れいふく〔礼服〕 / ～の名 ciizin, coozin
(coozin の種類 kurucoo, sirucoo),
?irunucin, tanasi (敬語 'ncanasi),
'watazin (敬語 'wataNsu) ('watazin
の種類 bingatawatazin, manwata-
zin, rinziwatazin, simuwatazin, si-
ragawatazin, tanasiwatazin, tizima-
watazin)/ 王の～ ?umantun

れいらく〔零落〕 ?utisizimi/ ～する 'ndi-
jun, →おちぶれる

れいれいしい〔麗麗しい〕 ririqsan

れきしじだい〔歴史時代〕 →nakagudee,

れる →られる 「nakamukasi

れん〔聯〕 ren/ ～を書く赤い紙 sjugami

れんあい〔恋愛〕 →こい

れんが〔煉瓦〕 ringwa, sicigaara

れんが〔連歌〕 girani

れんじゅ〔連珠〕 gumukunarabee, gu-
mukunarabii

れんしゅう〔練習〕 →けいこ

れんにゅう〔練乳〕 booduru

ろ

ろ〔櫓〕 ruu/ ～と舵 ruukazi

ろ〔炉〕 →ziiru/ 反故を燃やす～ hunzi-
ruu, hunzuruu

ろう〔竿〕 ruu, →ろうや / ～に入れること
→ruugumi, ruusja

ろうか〔廊下〕 'iin

ろうがん〔老眼〕 tusjuimii

ろうご〔老後〕 ?wiina?wiina

ろうじん〔老人〕 →としより

ろうすい〔老衰〕 tusjuijooi, →おいぼれ

ろうそく〔蠟燭〕 doo, roo/ ～の燃えかす
dookusu, rookusu

ろうと〔漏斗〕 zoogu
 ろうどう〔労働〕 sikuci, → buuwaža, しごと
 ろうどうしゃ〔労働者〕 ʔagacaa
 ろうどく〔朗読〕 šiimihuku
 ろうばい〔狼狽〕 →あわてる, うろたえる
 ろうひ〔浪費〕 kweehoorii, zindaari, zin-
 šitigutu, →むだづかい/ ~する者 zin-
 ろうもう〔老耄〕 →もうろく [teesjaa
 ろうもん〔楼門〕 turi
 ろうや〔牢屋〕 ruuja, →けいむしょ, ろう
 ろうりょくこうかん〔労力交換〕 'ii/ ~を順
 に行きこと 'iimaaru 「mu-
 ろく〔6〕 ʔuku, muuci, ruku, muu, →
 ろく〔祿〕 →ほろろく
 ろくがつ〔6月〕 dukugwaçi, rukugwaçi
 ろくじゅう〔60〕 rukuzuu

ろくしょう〔緑青〕 ʔoosabi
 ろくじょうどうふ〔六条豆腐〕 rukuzuu
 ろくにん〔6人〕 muqtai
 ろくねん〔6年〕 mutu
 ろくりん〔6厘〕 sanbeku, sanbjaku, mi-
 kumui
 ろけんする〔露見する〕 ʔarawarijun
 ろじ〔露地〕 sjuuzi, →こみち, みち
 ろっかく〔6角〕 ruqkaku
 ろっぴゃく〔600〕 /600文 duqpeku, mu-
 kumui, ruqpeku, ruqjaku /650文
 duqpekugunzuu, ruqjagugunzuu
 ろてん〔露店〕 ʔisigee, nisigee
 ろんそう〔論争〕 ʔiimakaſee, →いいあら
 ろんぶん〔論文〕 munġun [そい

わ

わ〔輪〕 goo
 わあ 'waa
 わあわあ 'weewee 「→ゆがめる
 わいきよくする〔歪曲する〕 ʔiimagijun,
 わいせつ〔猥褻〕 / ~である hagoosan, →
 ひわいな
 わいる〔賄賂〕 sicadii, ʔusjagimun
 わいわい ʔabijaatiijaa, →がやがや
 わが〔我が〕 →'waa/ ~心 'wazimu
 わかい〔若い〕 'wakasan/ ~男 'wakawiki-
 ga/ ~女 'wakawinagu/ ~衆 'waka-
 mun/ ~時 'wakasaini 「→なかなおり
 わかいさせる〔和解させる〕 'jahwarakijun,
 わかおくさま〔若奥様〕 ʔajaameegwaa
 わかかえる〔若返る〕 'wakageejun 「kagi
 わかぎ〔若木〕 'wakaki, 'wakamaaçi, 'wa-
 わかぎみ〔若君〕 'wakaazi, 'wakazara (敬
 語) 'wakaazinumee, →ぼっちゃん, わか
 さま

わかくさ〔若草〕 'wakakusa
 わかさま〔若様〕 ʔumeegwaa, →わかぎみ
 わかしゅう〔若衆〕 →'wakasju, わかもの
 わかしらが〔若白髪〕 'wakasiraga, 'waka-
 siragi
 わかす〔沸かす〕 hukasjun, 'wakasjun
 わかだんな〔若旦那〕 sjuumeegwaa
 わかつ〔分かつ〕 →わける
 わかとのさま〔若殿様〕 ʔumeegwaa
 わかば〔若葉〕 sinbaa, 'wakabaa 「daci
 わかふうふ〔若夫婦〕 / ~の世帯 tankaa-
 わかまつ〔若松〕 'wakaki, 'wakamaaçi
 わがまま〔我儘〕 cimakasi, hundee, 'wa-
 gamama, zimama, →かって, だだをこ
 ねる/ ~者 boociraa, boocirimun
 わがみ〔我が身〕 'wadu, 'wagami
 わかみず〔若水〕 'wakamizi, (敬語) 'waka-
 ʔubii
 わかめ〔若芽〕 sinbaa

わか

わかもの〔若者〕 'wakamUN, →せいねん,
 わがや〔我が家〕 →'waQtaa 「わかしゅう
 わからずや maguraa, magurimUN, na-
 muzaa, tuturuu, →がんこもの
 わかる〔分かる〕 'wakajUN, →りょうかい,
 りかいする 「kari, りべつ
 わかれ〔分かれ・別れ〕 'wakari, →huja-
 わかれめ〔分かれ目〕 sakeemi
 わかれる〔別れる〕 hujakarijun, nucUN,
 'wakarijun, 「jun
 わかれる〔分かれる〕 'wakajUN, 'wakari-
 わかわかしく〔若若しく〕 'wakaqteen
 わき〔脇〕 hata, katahara, suba/ ~へ向
 くこと subankee
 わきあいあい〔和気藹藹〕 'wadan, 'wadan-
 wago, 'wagoowadan
 わきあがる〔湧き上がる〕 'wacagajUN
 わきあて〔脇当て〕 'wacišibi
 わきが〔腋臭〕 'wacikusaa
 わきげ〔腋き毛〕 'wacikuugi
 わきざし〔脇差し〕 'wacizasi
 わきでる〔湧き出る〕 'wacagajUN
 わきばら 'joora, 'juhvara
 わきみ〔脇見〕 'jukumi
 わきみち〔脇道〕 'jukumici, 'wacimici/ ~
 をすること 'jukubai
 わぎり〔輪切り〕 koorumaaziri
 わく〔杵〕 →kani
 わく〔篋〕〔織機名〕 'waku
 わく〔沸く〕 hucUN, mugeejUN, 'wacUN,
 'wazijUN, →たぎる, ふっとう
 わく〔湧く〕 'wacUN
 わけ〔訳〕 cimuee, 'waciee, 'waki, 'wakiee,
 →いわれ, じじょう, どりり, ゆえ, りゅう
 わけまえ〔分け前〕 buN, tuimee, 'wai-
 kwii, 'wakibun, 'wakimee, →わりあて
 わける〔分ける〕 hazUN, 'wakasjun, 'wa-
 kijUN/ 分け合って食う 'juraajUN, 'ju-
 rajUN/ 分け合って食うこと 'juritii
 わごう〔和合〕 'wago, →なか

わざ〔業〕 'waza, →おこない, げい
 わざと 'uQtaati, 'wazaqtu, 'wazatu,
 →わざわざ
 わざわい〔禍〕 'jaku, kutusabi, sabi, 'wa-
 zawee, →siira, がい, やく
 わざわざ 'uQtaati, 'wacakoogeezi, 'wa-
 zawaza, →わざと
 わし〔鷺〕 'wasinutui
 わずか →すこし
 わずらい 'wacaree, →びょうき
 わずらう〔煩う〕 'wacarajUN/ 煩わされる
 →'wacarajUN/ わずらわしいさま 'waca-
 reegandoo
 わすれぐさ〔植物名〕 kwansoo
 わすれる〔忘れる〕 'wasijUN, →ぼりきや
 く, まるわすれ, ものわすれ
 わた〔綿〕 hana, 'wata 「caagirii
 わたいれ〔綿入れ〕 'wataʔiri, (敬語) 'N-
 わたうち〔綿打ち〕 hanaʔuci, 'wataʔuci
 わたくし →わたし
 わたくしごと〔私事〕 'watakusi
 わたし〔私〕 'wan, →'wami, 'wanu, わが,
 わがみ/ ~自身で 'wankuru/ ~の 'wa-
 a-/ ~の家 →'waQtaa
 わたしたち〔私たち〕 'waQtaa, →われわ
 れ/ ~の →'waQtaa
 わたしば〔渡し場〕 tuguci, 'watai, 'wata-
 わたしぶね〔渡し舟〕 'watasibuni 「Nzi
 わたす〔渡す〕 'watasjun, →'jukuteejUN
 わたりろうか〔渡り廊下〕 kajui
 わたる〔渡る〕 'watajun/ ~所 'watai
 わだん〔植物名〕 'Nzana/ ~の葉をすりつ
 ぶしてとった汁 'Nzanaju
 わっ / ~と云う 'waqtukasjun 「ん
 わっぷ〔割符〕 'waihu, 'waqpu, →わりい
 わび〔詫び〕 →しゃざい
 わぼく〔和睦〕 'wabuku, →なかなかおり
 わまわし〔輪回し〕 koorumaa
 わめく〔喚く〕 ʔabijUN, →どなる/ ~者
 ʔabijaa/ わめき散らす ʔabiihoojun/ わ

めき散らすさま ?abijaatiijaa
 わら〔藁〕 'wara, →'warasiNbuu/ ~の帯
 'warasiNbuu?uubi/ ~のかご(～の袋)
 maagu, ziibu/ ~の芯で作った草履 'wa-
 rasaba/ ~のたわし 'warazaara
 わらいがお〔笑い顔〕 'wareegau
 わらいばなし〔笑い話〕 'wareehanasi
 わらいもの〔笑い者〕 'wareemunuu, 'wa-
 reemunuu
 わらう〔笑う〕 'warajuN, →'wareekan-
 zuN, 'wareekuzijun/ ~さま ?ihii?aa-
 haa, sicirihweeri/ 笑い転げるさま →
 keerikurubi, toorikurubi/ くすっと～
 こと kuuwaree/ しいて～こと 'waraa-
 ranwaree, 'wareesiizii/ にやにや～こと
 namawaree/ 笑いよう 'wareejoo
 わらじ〔草鞋〕 'waraguçi, 'warazi
 わらしべ sibi, 'warasibi, 'warasiNbuu
 わらづと〔藁苞〕 hwintu, 'waraçiçin
 わらなわ〔藁縄〕 'waraçina
 わらばい〔藁灰〕 'warabee
 わらび〔藁火〕 'warabii
 わらび〔植物名〕 'warabi 「まえ
 わらべな〔童名〕 doona, 'warabinaa, →な
 わりあて〔割り当て〕 'waikwii, 'waimee,
 waqpu, →はいぶん, わけまえ
 わりあてる〔割り当てる〕 kubai?atijun
 わりいん〔割印〕 'waiban, 'waihu, 'wai-
 ?in, 'waqpu
 わりき〔割り木〕 'waizakaa
 わりこむ〔割り込む〕 'waincun
 わりふ〔割り符〕 →わっぷ
 わりまえ〔割り前〕 →わりあて
 わる〔割る〕 'wajuN, → ?aakasjuN, 'wa-
 cun/ 噛んで～ kwiiwajuN
 わるい〔悪い〕 'janasan, 'waqsan, 'ja-
 na-/ ~着物 'janazin/ ~教育 'janana-
 raasi/ ~癖 'janagusi/ ~狂い方 'janabu-
 ri/ ~声 'janagwii/ ~心 'janagukuru,
 'janazimu/ ~こと cizi, 'janakutu/ ~こ

とば janaguci, 'janamunii, 'janamunu
 ?ii/ ~子供 'janawarabi/ ~性質 'jana-
 simuci/ ~血 'janaci/ ~天気 'janatin-
 ci, 'jana?waaçici/ ~におい 'janaka-
 za/ ~人 'janaqcu/ ~風儀 'janahuuzi/
 ~道 'janamici/ ~もの 'janaa, 'jana-
 gataa, 'janamun/ ~やりかた 'janasii/
 ~夢 'jana?imi/ ~靈気 'janakazi
 わるがしこい〔悪賢い〕 →わるぢえ
 わるくち〔悪口〕 guci, 'janaguci, 'jana-
 ?ii, susiri, susjuu, →qcugutu, かげぐ
 ち/ ~を言う者 'janagucaa
 わるだくみ〔悪巧み〕 'jaçi, 'janadakumi,
 'janamundakun, mundakun, →たく
 らむ
 わるぢえ〔悪知恵〕 gançi, 'janadakuma,
 'janarikuçi, 'janaçee, ?waaçee/ ~のあ
 る者 gancaa, gançikweemun, şeetu-
 baa, şeetubimun, ?waaçeeetubaa
 わるふざけ 'janawacaku/ ~をするさま
 miinucihananuci
 わるもの〔悪者〕 'janamun, nzamun,
 'warumun, →?jaçi, あくにん
 われ〔我〕 'wami, 'wanu, →わたし
 われがね〔割れ鐘〕 'warigani
 われがめ〔割れ甕〕 'warigaami
 われなべ〔割れ鍋〕 'warinaabi
 われめ〔割れ目〕 ?aaki, 'warimi, →きれつ
 われもの〔割れ物〕 narimun, 'warimun
 われる〔割れる〕 ?aakijun, 'warijun/ 割
 れたもの 'wari
 われわれ〔我我〕 'waqtaa, 'wasita, →duu-
 naa/ ~で 'waqtaakuru/ ~の →'waq-
 taa
 わん〔椀〕 makai, 'wan, →siruwan, ?u-
 siruwan, taawan, ?uuhwira
 わん〔灣〕 magari, 'wan
 わんぱく〔腕白〕 ?anmaku, 'janasiqpa,
 maku, şitimaku, şitimun, ?uumaku

わん

わんりょく〔腕力〕 tibusi, Yudzizikara, → | わんわん ciicaa, 'wanwan, 'wauwau,
りでっぶし | 'wauwauu

を

を(助詞) →-ju, -kara

付 録

首里方言読みによる

地 名 一 覧

- | | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | 沖縄旧行政区画名・島名一覧 | 819 |
| a | 発音・文字別一覧 | 819 |
| b | 行政区域別一覧 | 843 |
| 2 | 琉球列島主要島名一覧 | 847 |
| 3 | 日本本土および外国の地名 | 848 |
| 4 | 地 図 | 850 |
| a | 旧首里 | |
| b | 沖縄本島とその周辺の山岳・河川・港湾・岬など | |
| c | 沖縄の旧行政区画 | |
| d | 琉球列島 | |

前 置 き

1の「沖繩旧行政区画名・島名一覧」のうち、行政区画名は主として「沖繩旧慣地方制度」(明治26年5月沖繩県内務部第一課)を基として、地名一覧の他の部分は比嘉春潮氏の記憶を基として作成した。地名の発音はすべて首里方言(比嘉氏の発音による)によるもので、それぞれの土地の現地音ではない。

1のa「発音・文字別一覧」は発音(音韻記号)または文字(漢字)によって個々の行政区画名(間切名、村名など)を検索するための一覧であり、これによって、たとえば特定の村名が首里方言によってどう読まれるかということ、およびその村がどの間切に属するかということを知ることができる。1のb「行政区域別一覧」は行政組織に基づく一覧で、これによってたとえばなにになに方には何という間切があるか、また、なにになに間切に属する村は何と何かということを一覧できる。なお、1のaには漢字と音韻記号の両方があげてあるが、bには漢字しかあげてない。また、島名は1のaにははいているが、1のbにははいていない。島名は別に、2「琉球列島主要島名一覧」によっても通覧できる。3「日本本土および外国の地名」は従来からの首里方言によるそれであるが、その数は至って少ない。

1 沖繩旧行政区画名・島名一覧

a 発音・文字別一覧

使用上の注意

- (1) 地名は、まず語頭音の音韻記号ごとに、すなわち本文編と同じアルファベットごとにまとめ、つぎにその中で一字目の漢字ごとにまとめてかかげた。
- (2) 地名を音韻記号によって探す場合には、その語頭音の音韻記号を手掛かりにして、その音韻記号の項を通覧してほしい。
- (3) 地名を漢字によって探す場合には、まず以下の目次もしくは漢字索引(画引き)によって一字目の漢字がどの音韻記号の項にのっているかを調べ、それに基づい

てその音韻記号の項に当たり、その漢字の箇所を通覧してほしい。

(4) 島尻方, 中頭方, 国頭方は「方」の字を略してそれぞれ島尻, 中頭, 国頭のよう
に記した。また, 村名はすべて「村」の字を略した。たとえば, 天久村は単に天久と
記した。そこで

天久 ?amiku① 島尻一真和志間切

とあれば, 天久という地名は首里方言では ?amiku① と発音され (①はアクセソ
トの記号), 島尻方の真和志間切に属する村の名であるという意味である。また,

安里 ?asatu①① 島尻一真和志間切, 島尻一具志頭間切, 島尻一真壁間切, 中
頭一中城間切

とあれば, 安里 ?asatu①① という村は上記の四つの間切にあるという意味である。

目 次

ʔa	天* 有 安 赤 阿 東* 泡 粟 新* 熱	823
b	辺* 保* 馬 備	824
e, ɛ	北 仲* 束 金* 岸 知 津 許 喜 壺 慶*	824
d	大* 田* 竹 伝 武	825
ʔe	八	825
g	我 呉 具 卒 胡 城 越 慶*	825
h	比 平* 古* 辺* 外 羽 百 舟 波 東* 玻 保* 南 浜 振 桴 堀 富* 普 鉢 鳩 福	826
ʔi	石 伊* 池 糸 西* 板 泉 栄 稻*	828
i	江	829
j	山 与 世 屋 読	829
k	川 久 小* 古* 米 来 金* 国 東* 幸 垣 神 狩 健 後 兼 桑 掛 黒 賀 勝 湖 漢 嘉 慶* …	830
m	水 目 本 町 見 牧 松 前 真 宮* 桃* 盛 満	

	新* 摩 諸*	832
n	今 中 伊* 名 仲* 西* 那 長 並 荷 根 宮* 野 登* 饒	833
ʔN	伊* 稻*	835
'N	美 港 嶺	835
ʔo	奥*	835
'o	和*	836
s,ʃ	下 白 末 佐 志 首 洲 砂* 島 崎 濟 添 寒 惣 塩 新* 数 楚 潮 諸* 瀬 識	836
t	一 手 天* 友 田* 平* 立 玉 汀 多 当 沢 谷 泊 炬 桃* 高 鳥 棚 渡 登* 富* 照 豊	837
ʔu	小* 大* 内 宇* 冲 砂* 浦 恩 運 奥*	839
'u	大* 翁 荻	840
ʔw	上 宇* 親	841
'w	和* 若 湧	841
z,z	地 宜 坐(座) 源 瑞 勢 儀 謝	841

(*印は二箇所にも重出しているもの。 **印は三箇所にも重出しているもの。)

漢字索引 (画引き)

- 1画 一 t
- 2画 八 'e
- 3画 上 ʔw 大 d, ʔu, 'u 小 k, ʔu 川 k 久 k 下 s 山 'j 与 'j
- 4画 天 ʔa, t 今 n 内 ʔu 手 t 友 t 中 n 比 h 水 m
- 5画 石 ʔi 北 c 古 h, k 白 s 末 ʃ 田 d, t 平 h, t 立 t 玉
t 汀 t 辺 b, h 外 h 目 m 本 m 世 'j

6画 安 ?a 有 ?a 伊 ?i, n, ?N 池 ?i 糸 ?i 字 ?u, ?w 江 'i
米 k 多 t 竹 d 地 z 仲 c, n 伝 d 当 t 名 n 西 ?i, n
羽 h 百 h 舟 h

7画 赤 ?a 冲 ?u 我 g 来 k 吳 g 坐 z 佐 s 志 s 沢 t
谷 t 束 ç 那 n 町 m 見 m

8画 阿 ?a 泡 ?a 板 ?i 金 c, k 宜 z 岸 c 具 g 国 k
幸 k 東 ?a, h, k 武 d 知 c 泊 t 長 n 並 n 波 h 牧 m
松 m 和 'o, 'w 若 'w 琴 g 具 g

9画 泉 ?i 荣 ?i 垣 k 神 k 狩 k 建 k 胡 g 後 k 首 s
城 g 洲 s 砂 s, ?u 炬 t 津 ç 玻 h 南 h 保 b, h 前 m
美 'N 屋 'j

10画 浦 ?u 翁 'u 荻 'u 恩 ?u 兼 k 桑 k 座 z 島 s 高 t
桃 m, t 荷 n 根 n 馬 b 浜 h 振 h 真 m 宮 m, n

11画 掛 k 黑 k 健 k 許 c 崎 s 濟 s 添 s 鳥 t 野 n 桴 h
堀 h 盛 m

12画 粟 ?a 運 ?u 輿 ?o, ?u 賀 k 勝 k 喜 c 湖 k 越 g
寒 s 惣 s 棚 t 渡 t 富 h, t 登 n, t 備 b 普 h 満 m
港 'N 湧 'w

13画 新 ?a, m, s 漢 k 源 z 塩 s 数 s 瑞 z 勢 z 壺 ç 楚 s
照 t 豐 t 鉢 h 鳩 h 福 h

14画 稻 ?i, ?N 嘉 k 詭 'j

15画 熱 ?a 儀 z 慶 c, g, k 潮 s 摩 m 諸 m, s

16画 親 ?w

17画 謝 z 嶺 'N

19画 識 s 瀨 s, s

21画 饒 n

Pa

天

天久 ?amikuⓐ 鳥尻一真和志間切
 天底 ?amisukuⓐ 国頭一今歸仁間切

有

有銘 ?arumiⓐ 国頭一久志間切

安

安仁屋 ?aŋnaⓐ 中頭一宜野灣間切
 安田 ?adaⓐ 国頭一國頭間切
 安次嶺 ?asinmiⓐ 鳥尻一小祿間切
 安里 ?asatuⓐ① 鳥尻一真和志間切,
 鳥尻一具志頭間切, 鳥尻一真壁間切,
 中頭一中城間切

安谷屋 ?adannaⓐ 中頭一中城間切

安坐間 ?azamaⓐ 鳥尻一知念間切

安和 ?aaⓐ 国頭一名護間切

安波 ?ahwaⓐ 国頭一國頭間切

安波茶 ?ahwacaⓐ 中頭一浦添間切

安室 ?amuruⓐ 中頭一西原間切

安部 ?abuⓐ 国頭一久志間切

安富祖 ?ahusuⓐ 国頭一恩納間切

安勢理 ?ašiiⓐ 中頭一手那城間切

安慶田 ?agidaⓐ 中頭一越來間切

安慶名 ?aginaⓐ 中頭一具志川間切

安謝 ?azaⓐ 鳥尻一真和志間切

赤

赤田 ?akataⓐ 首里一南風之平等

赤平 ?akahwiraⓐ 首里一西之平等

赤嶺 ?akanmiⓐ 鳥尻一小祿間切

阿

阿佐 ?asaⓐ 鳥尻一坐間味間切

阿波根 ?ahwagunⓐ 鳥尻一兼城間切

阿波連 ?ahwariⓐ 鳥尻一渡嘉敷間切

阿真 ?amaⓐ 鳥尻一坐間味間切

阿嘉 ?akaⓐ 鳥尻一坐間味間切, 鳥尻
 一仲里間切

阿嘉(島の名) ?akaⓐ 鳥尻一坐間味間
 切

東

東江 ?agariiⓐ 国頭一名護間切

東江上 ?agari?wi'iⓐ 国頭一伊江島

東江前 ?agarime'eⓐ 国頭一伊江島

東仲宗根 ?agarinakazuniⓐ 宮古一平
 良間切

泡

泡瀬(港の名) ?aasiⓐ 中頭一美里間切

粟

粟國(島の名) ?aguniⓐ 鳥尻

新

新垣 ?arakaciⓐ① 鳥尻一真壁間切,
 中頭一中城間切

新城 ?aragušikuⓐ 鳥尻一具志頭間切,
 中頭一宜野灣間切, 宮古一砂川間切,
 八重山一石垣間切

新城(島の名) ?araguşiku① 八重山—
石垣間切

熱

熱田 ?aQta① 中頭—中城間切

b

辺

辺野喜 binuci① 国頭—国頭間切

保

保米茂 bin① 島尻—豊見城間切

馬

馬天(港の名) batin① 島尻—佐敷間切

備

備瀬 biişi① 国頭—本部間切

c, ç

北

北谷 catan① 中頭—北谷間切

北谷間切 catan① 中頭

仲

仲順 cunzun① 中頭—中城間切

束

束辺名 çikahwina① 島尻—喜屋部間
切

金

金武 cin① 国頭—金武間切

金武間切 cin① 国頭

岸

岸本 cisimutu① 国頭—今帰仁間切

知

知名 cina① 島尻—知念間切

知花 cibana① 中頭—美里間切

知念 cinin① 島尻—知念間切

知念間切 cinin① 島尻

津

津花波 çihwanahwa① 中頭—西原間
切

津波 çihwa① 国頭—大宜味間切

津波古 çihwanuku① 島尻—佐敷間切

津堅 çikin① 中頭—勝連間切

津堅(島の名) çikin① 中頭—勝連間切

津嘉山 çikazan① 島尻—南風原間切

津覇 çihwa① 中頭—中城間切

許

許田 cuda① 国頭—名護間切

喜

喜友名 cunnaa① 中頭—宜野湾間切

喜名 cinaa① 中頭—読谷山間切

喜如何 *cizuka*ⓐ 国頭一大直味間切
喜舎場 *cisjaba*ⓐ 中頭一中城間切
喜屋武 *can*ⓐ 島尻—南風原間切, 中
頭—具志川間切
喜屋部 *can*ⓐ 島尻—喜屋部間切
喜屋部間切 *can*ⓐ 島尻

喜瀬 *cisi*ⓐ 国頭一名護間切
壺
壺屋 *çibuja*ⓐ 那覇
慶
慶伊瀬(島の名) *cii*ⓐ 那覇港の沖合に
ある。

d

大
大工廻 *dakuzaku*ⓐ 中頭—越來間切
(迫=さを誤って廻と書く習慣と
なっていた)
田
田名 *dana*ⓐ 島尻—伊平屋島
竹
竹富 *dakidun*ⓐ 八重山—石垣間切

竹富(島の名) *dakidun*ⓐ 八重山—石
垣間切
伝
伝道 *dindoo*ⓐ 中頭—北谷間切
武
武富 *dakidun*ⓐ 島尻—兼城間切

'e

八
八重山 *'eema*ⓐ (群島の名)

g

我
我如古 *ganiku*ⓐ 中頭—宜野湾間切

我那覇 *ganahwa*ⓐ 島尻—豊見城間切
我部 *gabu*ⓐ 国頭—羽地間切

我部祖河 gabusuka① 国頭一羽地間切

我喜屋 gaaza① 島尻一伊平屋島

我謝 gaaza① 中頭一西原間切

呉

呉我 guga① 国頭一羽地間切

呉屋 guja① 中頭一西原間切

具

具志 guusi① 島尻一小祿間切

具志川 gusicaa① 島尻一具志川間切,
中頭一具志川間切

具志川(島の名) gusicaa① 島尻一伊
是名島

具志川間切 gusicaa① 島尻, 中頭

具志堅 gusiciN① 国頭一本部間切

具志頭 gusicaN① 島尻一具志頭間切

具志頭間切 gusicaN① 島尻

萃

萃宮城 gusimjaaguşiku① 島尻一小
祿間切

胡

胡屋 guja① 中頭一越來間切

城

城 guşiku① 国頭一名護間切, 国頭一
大宜味間切

城間 guşikuma① 中頭一浦添間切

越

越來 gwiiku① 中頭一越來間切

越來間切 gwiiku① 中頭

慶

慶留間 giruma① 島尻一坐間味間切

慶留間(島の名) giruma① 島尻一坐間
味間切

h

比

比地 hwizi① 国頭一國頭間切

比屋定 hjaazoo① 島尻一仲里間切

比屋根 hjaagun① 中頭一美里間切

比嘉 hwiza① 島尻一中里間切, 中頭一
中城間切, 中頭一勝連間切, 宮古一平
良間切

比謝 hwiza① 中頭一読谷山間切

平

平川 hwirakaa① 島尻一大里間切

平久保 hwirakubu① 八重山一宮良間
切

平田 hwirata① 島尻一佐敷間切

平安山 hjanzaN① 中頭一北谷間切

平安名 hjanNa① 中頭一勝連間切

平安坐 hjanza① 中頭一与那城間切

平安坐(島の名) hjanza①① 中頭一与
那城間切

平良間切 hwirara① 宮古

平得 hwirai① 八重山一大浜間切

平敷 hwisici① 国頭一今帰仁間切

平敷屋 hwisica① 中頭一勝連間切
古
古堅 hurugin① 島尻一大里間切, 中頭一読谷山間切
辺
辺土名 hwiintuna① 国頭一國頭間切
辺戸 hwidu① 国頭一國頭間切
辺地名 hwinazi① 国頭一本部間切
辺野古 hwinuku① 国頭一久志間切
外
外間 hukama① 島尻一東風平間切, 島尻一知念間切, 島尻一佐敷間切
羽
羽地間切 hanizi① 国頭
百
百名 hjakuna① 島尻一玉城間切
舟
舟越(富名腰とも書く) hunakusi① 島尻一玉城間切
波
波平 hanza① 島尻一兼城間切, 島尻一摩文仁間切, 中頭一読谷山間切
波照間 hatiruma① 八重山一大浜間切
波照間(島の名) hatiruma① 八重山一大浜間切
東
東 hwigasi① 那覇, 島尻一粟国島
東恩納 hwiza?unna① 中頭一美里間切
坡
坡名城 hanaguşiku① 島尻一具志頭間切

保

保良 hura① 宮古一砂川間切

南

南風之平等 hweenuhwira① 首里

南風見 hweemi① 八重山一石垣間切

南風原 hweebaru① 島尻一大里間切, 中頭一勝連間切

南風原間切 hweebaru① 島尻

浜

浜 hama① 島尻一粟国島, 中頭一勝連間切, 国頭一國頭間切

浜川 hamagaa① 中頭一北谷間切

浜元 hamamutu① 国頭一本部間切

浜比嘉(島の名) hamahwiza① 中頭一勝連間切

振

振慶名 huikina① 国頭一羽地間切

桴

桴海 hukai① 八重山一石垣間切

堀

堀川 huqcaa① 島尻一小祿間切

富

富名腰(舟越とも書く) hunakusi① 島尻一玉城間切

富里 husatu① 島尻一玉城間切

富着 huqca① 国頭一恩納間切

普

普天間 hutima① 中頭一宜野湾間切

鉢

鉢嶺 hacinmi① 島尻一知念間切

鳩

鳩間 hatuma① 八重山—宮良間切
 鳩間(島の名) hatuma① 八重山—宮良
 間切

福

福地 hukuzi① 島尻—喜屋部間切
 福里 hukuzatu① 宮古—砂川間切

?i

石

石川 ?isicaa①① 中頭—美里間切
 石垣 ?isigaci① 八重山—石垣間切
 石垣(島の名) ?isigaci① 八重山
 石垣間切 ?isigaci① 八重山
 石原 ?isjaara① 島尻—摩文仁間切
 石嘉波 ?isikahwa① 国頭—本部間切
 石嶺 ?isinmi① 中頭—西原間切

伊

伊礼 ?irii① 島尻—摩文仁間切, 中頭
 一北谷間切
 伊平屋(島の名) ?ihja① 島尻(後地
 kusizii① ともいう)
 伊地 ?ici① 国頭—国頭間切
 伊江島(島の名) ?iizima① 国頭
 伊佐 ?isa① 中頭—宜野湾間切
 伊豆味 ?izumi① 国頭—本部間切
 伊良波 ?irahwa ①島尻—豊見城間切
 伊良皆 ?iranmja① (?iranna①とも
 いう) 中頭—読谷山間切
 伊良部 ?irabu① 宮古—下地間切
 伊良部(島の名) ?irabu① 宮古
 伊波 ?ihwa① 中頭—美里間切

伊舍堂 ?isjadoo① 中頭—中城間切
 伊祖 ?iizu① 中頭—浦添間切
 伊計 ?ici① 中頭—与那城間切
 伊計(島の名) ?ici① 中頭—与那城間
 切
 伊是名 ?izina① 島尻—伊是名島
 伊是名(島の名) ?izina① 島尻(前地
 meezii① ともいう)
 伊差川 ?izasica① 国頭—羽地間切
 伊原間 ?ibaruma① 八重山—宮良間切
 伊集 ?izu①(?nzū①ともいう) 中頭—
 中城間切
 伊敷 ?isici① 島尻—真壁間切
 伊覇 ?ihwa① 島尻—東風平間切

池

池原 ?icibaru① 中頭—美里間切
 池間 ?icima① 宮古—平良間切
 池間(島の名) ?icima① 宮古

糸

糸洲 ?icuzi① 島尻—真壁間切
 糸満 ?icumana① 島尻—兼城間切
 糸敷 ?icukazi① 島尻—玉城間切

西

西江上 'iri?wi'i① 国頭—伊江島
 西江前 'irime'e① 国頭—伊江島
 西仲宗根 'irinakazuni① 宮古—平良
 間切
 西表 'iri?umuti① 入重山—大浜間切
 西表(島の名) 'iri?umuti① 入重山
 板
 板良敷 'icarazici① 島尻—大里間切

泉

泉崎 'izuNzaci① 那覇
 栄
 栄野比 'inuhwi① 中頭—具志川間切
 稲
 稲福 'inahuku① 島尻—大里間切

'i

江

江洲 'iisi① 中頭—具志川間切

'j

山

山入端 'jamanuhwa① 国頭—名護間切
 山川 'jamagaa① 首里—真和志之平等,
 島尻—南風原間切
 山口 'jamaguci① 島尻—知念間切
 山内 'jamaci① 中頭—越來間切
 山田 'jamada① 国頭—恩納間切
 山里 'jama?atu① 島尻—具志川間切
 山城 'jamagūshiku① 島尻—喜屋部間
 切, 島尻—仲里間切, 中頭—美里間切
 山原 'janbaru① 国頭方をいう。

与

与那 'juna① 国頭—国頭間切
 与那国(島の名) 'junaguni① 入重山
 与那城 'junagūshiku① 中頭—西原間
 切, 中頭—与那城間切
 与那城間切 'junagūshiku① 中頭
 与那原 'junabaru① 島尻—大里間切
 与那嶺 'junaNmi① 国頭—今帰仁間切
 与那覇 'junahwa① 島尻—南風原間切,
 島尻—佐敷間切, 宮古—下地間切

与那覇堂 'junahwadoo① 首里一真和志之平等

屋坐 'juza① 島尻一高嶺間切, 島尻一具志頭間切

与儀 'juuzi① 島尻一真和志間切, 中頭一美里間切

世

世名城 'junaguşiku① 島尻一東風平間切

世富慶 'juqkwi① 国頭一名護間切

屋

屋久前田 'jakumeeda① 国頭一大宜味間切

屋比久 'jabiku① 島尻一佐敷間切

屋良 'jara① 中頭一北谷間切

屋我 'jaga① 国頭一羽地間切

屋我地(島の名) 'jagaci① 国頭一羽地間切

屋那覇(島の名) 'janahwa① 島尻一伊平屋島

屋宜 'jaazi① 中頭一中城間切

屋部 'jabu① 国頭一名護間切

屋富祖 'jahusu① 中頭一浦添間切

屋嘉 'jaka① 国頭一金武間切

屋嘉比 'jakabi① 国頭一大宜味間切

屋嘉部 'jakabu① 島尻一玉城間切

屋慶名 'jakina① 中頭一与那城間切

読

読谷山間切 'juntanza① 中頭

k

川

川上 kaakan① 国頭一羽地間切

川内(幸地とも書く) kooci① 中頭一西原間切

川田 kaata① 国頭一久志間切

川平 kabira① 国頭一伊江島, 八重山一石垣間切

川崎 kaasaci① 中頭一具志川間切

川潢 kaamiçu① 宮古一下地間切

久

久手堅 kuđikin① 島尻一知念間切

久米村 kuninda① 那覇

久米島(島の名) kumizima① 島尻

久貝 kugee① 宮古一下地間切

久志 kusi① 国頭一久志間切

久志間切 kusi① 国頭

久茂地 那覇

久高 kudaka① 島尻一知念間切

久高(島の名) kudaka① 島尻一知念間切

久場 kuda① 中頭一中城間切

久場川 kubagaa① 首里一西之平等

小

小波津 kuhwaçi① 中頭一西原間切

小波蔵 kuhwangwa① 島尻一眞壁間切

小城 kuguşiku① 島尻一東風平間切

小浜 kubama① 国頭一本部間切, 八重山一宮良間切

小浜(島の名) kubama① 八重山一宮良間切

小湾 kuwan① 中頭一浦添間切

小橋川 kuhwasica① 中頭一西原間切

小嶺 kunmi① 島尻一渡嘉敷間切

古

古宇利 kui① 国頭一今帰仁間切

古宇利(島の名) kui① 国頭一今帰仁間切

古見 kumi① 八重山一宮良間切

古我知 kugaci① 国頭一羽地間切

古知屋 kuca① 国頭一金武間切

古波蔵 kuhwangwa① 島尻一真和志間切

古謝 kuzaa① 中頭一美里間切

米

米須 kumişi① 島尻一摩文仁間切

来

来間 kurima① 宮古一下地間切

来間(島の名) kurima① 宮古一下地間切

金

金良 karara① 島尻一豊見城間切

金城 kanaguşiku① 首里一真和志之平等, 島尻一小祿間切

国

国仲 kuninaka① 宮古一下地間切

国吉 kunisi① 島尻一高嶺間切

国場 kukuba① 島尻一真和志間切

国頭方 kunzanhoo① (山原ともいう)

国頭間切 kunzan① 国頭

東

東風平 kuciŋda① 島尻一東風平間切

東風平間切 kuciŋda① 島尻

幸

幸地(古くは川内とも書いた) kooci①
中頭一西原間切

幸喜 kooci① 国頭一名護間切

垣

垣花 kacinuhana① 島尻一玉城間切

神

神山 kamijama① 中頭一宜野湾間切

神里 kanzatu① 島尻一南風原間切

神谷 kamja①(kama①ともいう) 中頭一勝連間切

狩

狩俣 karimata① 宮古一平良間切

健

健堅 kinkin① 国頭一本部間切

後

後地 kusizii① 島尻一伊平屋島をいう。

後慶良間 kusigirama① 島尻一坐間味間切をいう。

兼

兼次 kanisi① 国頭一今帰仁間切

兼城 kaniguşiku① 島尻一兼城間切, 島尻一南風原間切, 島尻一具志川間切

兼城間切 kaniguşiku① 島尻

兼箇段 kanikadan① 中頭一具志川間切

桑

桑江 kwee① 中頭一北谷間切

掛

掛保久 kakibuku① 中頭一西原間切

黒

黒島 kurusima① 八重山一石垣間切

黒島(島の名) kurusima① 八重山一石垣間切

賀

賀敷 kakazi① 島尻一兼城間切

勝

勝連間切 kaQciN① 中頭

湖

湖城 kuguşiku① 島尻一小祿間切

漢

漢那 kaNnaa① 国頭一金武間切

嘉

嘉手刈 kadikaru① 島尻一具志川間切, 中頭一西原間切, 中頭一美里間切, 宮古一下地間切

嘉手納 kadinaa① 中頭一北谷間切

嘉津宇 kaçuu① 国頭一本部間切

嘉陽 kajoo① 国頭一久志間切

嘉敷 kakazi① 島尻一豊見城間切, 中頭一宜野湾間切

慶

慶佐次 kisazi① 国頭一久志間切

慶良間(群島の名) kirama① 島尻

m

水

水納 miNna① 宮古一多良間島

水納(島の名) miNna① 国頭一本部間切

水納(島の名) miNna① 宮古

目

目取真 miduruma① 島尻一大里間切

本

本部 mutubu① 島尻一南風原間切

本部間切 mutubu① 国頭

町

町端 macibata① 首里一真和志之平等

見

見里 misatu① 国頭一大宜味間切

牧

牧志 macisi① 島尻一真和志間切

牧港 macinatu① 中頭一浦添間切

松

松川 maçigaa① 島尻一真和志間切, 島尻一小祿間切

松本 maçimutu① 中頭一美里間切

松原 maçibaru① 宮古一砂川間切

前

前 mee① 島尻一渡嘉敷間切

前川 meegaa① 島尻一玉城間切

前田 meeda① 中頭一浦添間切

前地 meezii① 伊是名島をいう。

前里 meezatu① 宮古一平良間切

前兼久 meeganiku⑩ 国頭一恩納間切
前慶良間 meegirama⑩ 島尻一渡嘉敷
間切をいう。

真

真玉橋 madanbasi⑩ 島尻一豊見城間切

真志喜 masici⑩ 中頭一宜野湾間切

真和志 maazi⑩ 首里一真和志之平等

真和志之平等 maazinuhwi'ra⑩ 首
里

真和志間切 maazi⑩ 島尻

真栄田 meeda⑩ 国頭一恩納間切

真栄平 meedeera⑩ 島尻一真壁間切

真栄里 meezatu⑩ 島尻一高嶺間切,
入重山一大浜間切

真喜屋 maza⑩ (maaza⑩ともいう)
国頭一羽地間切

真嘉比 makabi⑩ 島尻一真和志間切

真境名 mazikina⑩ 島尻一大里間切

真壁 makabi⑩ 島尻一真壁間切

真壁間切 makabi⑩ 島尻

真謝 maza⑩ 島尻一仲里間切

宮

宮 (mjaa) はしばしば naaとも発音
される。

宮平 mjaadeera⑩ 島尻一南風原間切

宮古(群島の名, 島の名) mjaaku⑩ 宮
古

宮里 mjaazatu⑩ 中頭一美里間切, 中
頭一具志川間切, 国頭一名護間切

宮良 mjaara⑩ 入重山一宮良間切

宮良間切 mjaara⑩ 入重山

宮国 mjaagun⑩ 宮古一砂川間切

宮城 mjaagusiku⑩ 島尻一南風原間
切, 中頭一浦添間切, 中頭一与那城間
切, 国頭一久志間切

桃

桃里 mumusatu⑩ 入重山一宮良間切

盛

盛山 murijama⑩ 入重山一宮良間切

満

満名 maNna⑩ 国頭一本部間切

新

新川 miigaa⑩ 入重山一石垣間切

摩

摩文仁 mabui⑩ 島尻一摩文仁間切

摩文仁間切 mabui⑩ 島尻

諸

諸見里 murunzatu⑩ 中頭一越来間
切

n

今

今歸仁 naciziN⑩ 国頭一今歸仁間切

今歸仁間切 naciziN⑩ 国頭

中

中城 nakagusiku⑩ 島尻一仲里間切
の古称

中城間切 nakaguşiku① 中頭

中頭方 nakugamihoo①

伊

伊野波 nuhwa① 國頭一本部間切

名

名里 nazatu① 島尻一真壁間切

名蔵 nagura① 八重山一石垣間切

名嘉間 nakama① 國頭一恩納間切

名護間切 nagu① 國頭

仲

仲井間 nakeema① 島尻一真和志間切

仲田 nakada① 島尻一伊是名島

仲地 nakazi① 島尻一豊見城間切, 島
尻一具志川間切, 宮古一下地間切

仲西 nakanisi① 中頭一浦添間切

仲尾 nakoo① 國頭一羽地間切

仲尾次 nakoosi① 國頭一今歸仁間切,
國頭一羽地間切

仲坐 nakaza① 島尻一具志頭間切

仲里 nakazatu① 島尻一知念間切

仲里間切 nakazatu① 島尻(古くは中
城 nakaguşiku① といった)

仲村渠 nakandakari① 島尻一玉城間
切, 島尻一具志川間切

仲泊 nakadumai① 國頭一恩納間切

仲宗根 nakazuni① 中頭一越來間切,
國頭一今歸仁間切

仲栄間 nakeema① 島尻一玉城間切

仲程 nakahudu① 島尻一大里間切

仲間 nakama① 中頭一浦添間切, 八重
山一石垣間切

仲筋 nakaşizi① 宮古一多良間切

仲嶺 nakanmi① 中頭一具志川間切

西

西 nisi① 那覇, 島尻一粟國島

西之平等 nisinuhwira① 首里

西里 nisizatu① 宮古一砂川間切

西原 nisibaru① 島尻一大里間切, 中
頭一浦添間切, 中頭一美里間切, 中頭
一与那城間切, 宮古一平良間切

西原間切 nisibaru① 中頭

西銘 nisimi① 島尻一具志川間切

那

那覇 naahwa① (港の名としては na-
hwa① という)

長

長浜 nagahama① 中頭一読谷山間切,
宮古一下地間切

長堂 nagadoo① 島尻一豊見城間切

長間 nagama① 宮古一平良間切

並

並里 nanzatu① 國頭一本部間切

荷

荷川取 nikaduri① 宮古一平良間切

根

根差部 nisasibu① 島尻一豊見城間切

根路銘 nirumi① 國頭一大宜味間切

根謝銘 nizami① 國頭一大宜味間切

宮

(m の項参照)

野

野里 nuzatu① 中頭一北谷間切
野甫 nubu① 島尻一伊平屋島
野甫(島の名) nubu① 島尻一伊平屋島
野国 nuguN① 中頭一北谷間切
野底 nuzuku① 八重山一宮良間切
野原 nubaru① 宮古一砂川間切
野嵩 nudaki① 中頭一宜野湾間切
登

登川 nubunZaa① 中頭一美里間切
饒
饒辺 nuhwi① 中頭一与那城間切
饒平名 nuhwina① (juhwina① とも
いう。もとは nuhwina①) 国頭一
羽地間切
饒波 nuhwa① (nuuhwa①, nihwa①
ともいう) 島尻一豊見城間切, 国頭
一大宜味間切

ʔN

伊
伊芸 ʔNzi① 国頭一金武間切
伊集 ʔNzu① (ʔizu① ともいう) 中頭
一中城間切

稲
稻嶺 ʔNnaNmi① 島尻一大里間切, 国
頭一羽地間切

'N

美
美里間切 'Nzatu① 中頭
港
港小(港の名) 'Nnatugwaa① 島尻一

具志頭間切
嶺
嶺井 'Nmi① 島尻一大里間切

ʔo

奥
奥武 ʔoo① 島尻一玉城間切

奥武(島の名) ʔoo① 島尻一玉城間切

和

和字慶 'ooki① 中頭一中城間切

s, ㄝ

下

下地間切 simuzi① 宮古

下里 simuzatu① 宮古一砂川間切

下志喜屋 simusica① 島尻一知念間切

下儀保 simuziibu① 首里一西之平等

白

白保 sirahu① 八重山一宮良間切

末

末吉 šiisi① 中頭一西原間切

佐

佐手 sadi① 國頭一國頭間切

佐和田 saata① 宮古一下地間切

佐敷 sasici① 島尻一佐敷間切

佐敷間切 sasici① 島尻

志

志多伯 sitahwaku① 島尻一東風平間切

志堅原 sikiNbaru① 島尻一玉城間切

志喜屋 sica① 島尻一知念間切

志慶間 sikima① 國頭一今歸仁間切

首

首里 sjui①

洲

洲鎌 sugama① 宮古一下地間切

砂

砂辺 şinabi① 中頭一北谷間切

島

島尻 simaziri① 島尻一仲里間切, 島尻一伊平屋島, 宮古一平良間切

島尻方 simazirihoo①

島袋 simabuku① 島尻一大里間切, 中頭一中城間切

崎

崎山 sacijama① 首里一南風之平等, 國頭一今歸仁間切, 八重山一大浜間切

崎本部 sacimutubu① 國頭一本部間切

崎枝 saciida① 八重山一石垣間切

濟

濟井出 şimiidi① 國頭一羽地間切

添

添石 siisi① 中頭—中城間切

寒

寒水 soozi① 国頭—今帰仁間切

寒水川 suNгаа① 首里—真和志之平等

窓

窓慶 suuki① 国頭—金武間切

塩

塩川 sjugaa① 宮古—多良間島

塩屋 sjuja① 国頭—大宜味間切

新

新里 sinzatu① 島尻—佐敷間切, 宮古—砂川間切

数

数久田 šiqta① 国頭—名護間切

楚

楚辺 subi① 中頭—読谷山間切

楚洲 susi① 国頭—国頭間切

楚南 sunan① 中頭—美里間切

潮

潮平 sjuNza① 島尻—兼城間切

諸

諸見 sjumi① 島尻—伊是名島

諸喜田 sjukita① 国頭—今帰仁間切

瀬

瀬名波 şinahwa① 中頭—読谷山間切

瀬良垣 sirakaci① 国頭—恩納間切

瀬底 sisuku① 国頭—本部間切

瀬底(島の名) sisuku① 国頭—本部間切

瀬長(島の名) sinaga① 島尻

瀬高 şidaki① 国頭—久志間切

識

識名 sicina① 島尻—真和志間切

i

一

一名代 tinnasi① 国頭—大宜味間切

手

手登根 tidikun① 島尻—佐敷間切

天

天仁屋 tinnja①(tinna①ともいふ) 国頭—久志間切

天願 tingwan① 中頭—具志川間切

友

友利 tumui① 宮古—砂川間切

友寄 tumusi① 島尻—東風平間切

田

田井等 teera① 国頭—羽地間切

田原 tabaru① 島尻—小祿間切

田場 taaba① 中頭—具志川間切

田港 taNmjatu① (taNnatu, taNnaともいふ) 国頭—大宜味間切

田頭 tagaNmi① 島尻一豊見城間切
平
平良 teera①① 島尻一豊見城間切, 島
尻一大里間切, 中頭一西原間切, 国頭
一久志間切
平良間切 hwirara① 宮古
立
立岸 tacizisi① 首里一真和志之平等
玉
玉代勢 tameesi① 中頭一北谷間切
玉城 tamaguşiku① 島尻一玉城間切
玉城 tamoosi① 国頭一今帰仁間切
玉城間切 tamaguşiku① 島尻
汀
汀志良次 tişirazi① 首里一西之平等
汀間 tiima① 国頭一久志間切
多
多良間(島の名) tarama① 宮古
多賀良 takara① 島尻一小祿間切
当
当山 toojama① 島尻一玉城間切
当間 tooma① 島尻一小祿間切, 島尻一
大里間切, 中頭一中城間切
当葦 toonukura① 首里一南風之平等
当銘 toomi① 島尻一東風平間切
沢
沢岬 takusi① 中頭一浦添間切
谷
谷茶 taNca① 国頭一恩納間切
泊
泊 tumai① 那覇, 中頭一中城間切

炬

炬港(港の名) teennatu① 国頭一今帰
仁間切

桃

桃原 toobaru① 首里一南風之平等, 島
尻一渡名喜島, 中頭一西原間切, 中頭一
美里間切

高

高安 takeesi① 島尻一豊見城間切

高江洲 takeeşi① 中頭一具志川間切

高那 takana① 八重山一宮良間切

高良 takara① 島尻一東風平間切

高志保 takasiQpu① 中頭一読谷山間切

高原 takabaru① 中頭一美里間切

高宮城 takamjaaguşiku① (takanaagu-
şiku①ともいう)島尻一大里間切

高嶺 takaNmi① 島尻一豊見城間切

高嶺間切 takaNmi① 島尻

高離(島の名) takahanari① 中頭一与那
城間切

鳥

鳥小堀 tunzumui① 首里一南風之平等

鳥島(島の名) tuisima① 沖繩群島の島
の名。

鳥島(島の名) tuisima① 徳之島西方に
ある島の名。

棚

棚原 tanabaru① 中頭一西原間切

渡

渡口 tuguci① 中頭一中城間切

渡久地 tuguci① 国頭一本部間切

渡名喜(島の名) tunaci① 島尻

渡具知 tuguci① 中頭一読谷山間切
渡野喜屋 tunacaa① 国頭一大宜味間切
渡嘉敷 tukasici① 島尻一豊見城間切、
島尻一渡嘉敷間切
渡嘉敷(島の名) tukasici① 島尻一渡
嘉敷間切
渡嘉敷間切 tukasici① (前慶良間 mee-
girama① ともいう) 島尻
渡慶次 tukisi① 中頭一読谷山間切
渡橋名 tuhwasina① 島尻一豊見城間切
登

登野城 tunugusiku① 入重山一大浜
間切

富

富盛 tumui① 島尻一東風平間切
照

照屋 tiira① 島尻一兼城間切、島尻一
南風原間切、中頭一越來間切

豊

豊見城 timigusiku① 島尻一豊見城間
切

豊見城間切 timigusiku① 島尻

ㇿ

小

小谷 ?ukuku① 島尻一佐敷間切
小那覇 ?unahwa① 中頭一西原間切
小渡 ?uudu① 島尻一摩文仁間切
小祿 ?uruku① 島尻一小祿間切
小祿間切 ?uruku① 島尻

大

大川 ?uukaa① 入重山一大浜間切
大山 ?ujama① 中頭一宜野湾間切
大中 ?uhucun① 首里一南風之平等
大田 ?uhuta① 島尻一具志川間切、中
頭一具志川間切
大辺名地 ?uhuhwinazi① 国頭一本部
間切
大地 ?uhuzi① 沖繩本島(?ucinaa①)
をいう

大里 ?uhuzatu① 島尻一高嶺間切、中
頭一美里間切

大里間切 ?uhuzatu① 島尻

大見武 ?uhuncaki① 島尻一大里間切

大東島(島の名) ?uhu?agarizima①
琉球列島はるか東方の島の名。

大城 ?uhugusiku① 島尻一大里間切、
中頭一中城間切

大神 ?ugan① 宮古一平良間切

大浦 ?uhura① 国頭一久志間切、宮
古一平良間切

大浜 ?uhwama① 入重山一大浜間切

大浜間切 ?uhwama① 入重山

大兼久 ?uhuganiku① 国頭一名護間
切、国頭一大宜味間切

大湾 ?uuwan① 中頭一読谷山間切

大鈍川 ?udungaaⓐ 首里—真和志之平等

大謝名 ?uhuzanaⓐ 中頭—宜野湾間切
大嶺 ?uhunmiⓐ 島尻—小祿間切

内

内金城 ?ucikanagusikuⓐ 首里—真和志之平等

内間 ?ucimaⓐ① 中頭—西原間切, 中頭—浦添間切, 中頭—勝連間切

宇

宇久田 ?ukudaⓐ 中頭—越來間切

宇地泊 ?ucidumaiⓐ 中頭—宜野湾間切

宇坐 ?uzaⓐ 中頭—読谷山間切

宇良 ?uraⓐ 国頭—国頭間切

宇茂佐 ?unsaⓐ① 国頭—名護間切

宇根 ?uniⓐ 島尻—仲里間切

宇堅 ?uciNⓐ 中頭—具志川間切

宇嘉 ?ukaⓐ 国頭—国頭間切

沖

沖繩(島の名) ?ucinaaⓐ 大地(?uhuziⓐ), 地下(ziziⓐ) などともいう。それに対し, 沖繩群島の他の島々を, 離(hanariⓐ) という。

砂

砂川 ?urukaaⓐ 宮古—砂川間切

砂川間切 ?urukaaⓐ 宮古

浦

浦崎 ?urasaciⓐ 国頭—本部間切

浦添間切 ?urasiiⓐ 中頭

恩

恩納 ?unnaⓐ① 国頭—恩納間切

恩納間切 ?unnaⓐ 国頭

運

運天 ?untinⓐ 国頭—今帰仁間切

奥

奥 ?ukuⓐ 国頭—国頭間切

奥間 ?ukumaⓐ 中頭—中城間切, 国頭—国頭間切

'u

大

大宜味 'uzimiⓐ 国頭—大宜味間切

大宜味間切 'uzimiⓐ 国頭

翁

翁長 'unagaⓐ 島尻—豊見城間切, 中

頭—西原間切

荻

荻堂 'unzooⓐ 中頭—中城間切

ʔw

上

上与那原 ʔwiijunabaru① 島尻一大里
間切

上地 ʔwiici①① 中頭一説谷山間切, 中
頭一越来間切, 宮古一下地間切

上江洲 ʔwiizi① 島尻一具志川間切,
中頭一具志川間切

上里 ʔwiizatu① 島尻一喜屋部間切

上原 ʔwiibaru① 中頭一与那城間切,
八重山一大浜間切

上間 ʔwiima① 島尻一真和志間切

上運天 ʔwiiʔuntin① 国頭一今歸仁間
切

上儀保 ʔwiiziibu① 首里一西之平等

宇

宇江城 ʔwiiguşiku① 島尻一真壁間切,
島尻一仲里間切

宇栄田 ʔwiida① 島尻一豊見城間切

宇栄原 ʔwiibaru① 島尻一小祿間切

親

親川 ʔweegaa① 国頭一羽地間切

親田 ʔweedaa① 国頭一大宜味間切

親泊 ʔweedumai① 国頭一今歸仁間切

'w

和

和仁屋 'wanja① ('wana①ともいり)
中頭一中城間切

若

若狭町 'wakasamaci① 那覇

湧

湧川 'wakugaa① 国頭一今歸仁間切

湧稻国 'wacinagui① 島尻一大里間切

Z, ʔ

地

地下 zizi① 沖繩本島 (ʔucinaa①) を
いり。

宜

宜寿次 ziʔsi① 島尻一東風平間切

宜保 ziibu① 島尻一豊見城間切

宜野坐 zinuza① 国頭一金武間切
宜野湾 zinoon① 中頭一宜野湾間切
宜野湾間切 zinoon① 中頭

坐(座)

坐安 zaa① 島尻一豊見城間切
坐波 zaahwa① 島尻一兼城間切
坐喜味 zacimi① 中頭一読谷山間切
坐間味 zamami① 島尻一坐間味間切
坐間味(鳥の名) zamami① 島尻一坐
間見間切
坐間味間切 zamami① (後慶良間 ku-
sigirama① ともしう) 島尻

源

源河 zinka① 国頭一羽地間切

瑞

瑞慶覧 zikiraN① 中頭一中城間切

勢

勢理客 ziqcaku① 島尻一伊是名島, 中
頭一浦添間切, 国頭一今帰仁間切

儀

儀保 ziibu① 首里一西之平等

儀間 ziima① 島尻一小祿間切, 島尻一
仲里間切, 中頭一読谷山間切

謝

謝名 zana① 国頭一今帰仁間切

謝名堂 zanadoo① 島尻一仲里間切

謝花 zahwana① 国頭一本部間切

謝敷 zazici① 国頭一国頭間切

b 行政区域別一覧

(1) 首里

(首里三平等)

真和志之平等

真和志, 町端, 山川, 大鈍川, 与那覇堂, 立岸, 寒水川, 金城, 内金城

明治12年に与那覇堂村は山川村に, 立岸村は寒水川村に, 内金城村は金城村にそれぞれ合併された。

南風之平等

桃原, 大中, 当蔵, 鳥小堀, 赤田, 崎山

西之平等

上儀保, 下儀保, 赤平, 汀志良次, 久場川

明治12年に上儀保村と下儀保村は合併されて儀保村となった。

(2) 那覇

(那覇四町)

西, 東, 泉崎, 若狭町

久米村(古名, 朱明府)

久米村の久茂地は一村落をなしていたので明治12年独立に役場が置かれた。

泊村

久米村と泊村とはもと那覇から独立していたが, 明治13年合併された。また, 鳥島はもと泊村の管轄であったが, 明治12年泊村の所属を離れ独立となった。

(3) 島尻方

真和志間切

識名, 古波蔵, 与儀, 国場, 真嘉比, 天久, 安里, 上間, 松川, 牧志, 仲井間, 安謝

牧志村中の壺屋は所属がなかったので, 明治13年那覇の泉崎村に編入された。

豊見城間切

豊見城, 宜保, 宇栄田, 渡嘉敷, 保栄茂, 翁長, 坐安, 伊良波, 我那覇, 仲地, 平良, 高嶺, 饒波, 高安, 金良, 長堂, 嘉数, 真玉橋, 根差部, 渡橋名, 田頭

小祿間切

小祿, 田原, 堀川, 当間, 安次嶺, 赤嶺, 宇栄原, 卒宮城, 具志, 多賀良, 松川, 金城, 大嶺, 儀間, 湖城

兼城間切

兼城，潮平，糸満，照屋，坐波，賀数，
阿波根，波平，武富

南風原間切

宮平，兼城，与那覇，宮城，津嘉山，
山川，神里，喜屋武，本部，照屋

大里間切

西原，南風原，嶺井，与那原，上与那
原，古堅，高宮城，湧稻国，稲福，真
境名，目取真，平川，当間，大見武，
大城，稲嶺，仲程，島袋，板良敷，平
良

高嶺間切

与坐，大里，国吉，真栄里

東風平間切

東風平，富盛，世名城，宜寿次，外間，
友寄，高良，志多伯，当銘，小城，伊
覇

具志頭間切

具志頭，新城，玻名城，安里，仲坐，
与坐

玉城間切

玉城，垣花，仲村渠，百名，仲栄間，
奥武，志堅原，当山，富里，屋嘉部，
糸数，富名腰(舟越)，前川

真壁間切

真壁，宇江城，真栄平，新垣，伊敷，
名里，小波蔵，安里，糸洲

摩文仁間切

摩文仁，小渡，米須，石原，伊礼，波平

喜屋部間切

喜屋部，福地，山城，上里，東辺名

知念間切

知念，久手堅，安坐間，知名，山口，
仲里，鉢嶺，志喜屋，下志喜屋，久高，
外間

佐敷間切

佐敷，平田，手登根，屋比久，外間，
津波古，小谷，新里，与那覇
(慶良間二間切)

渡嘉敷間切(前慶良間ともいう)

渡嘉敷，前，小嶺，阿波連

坐間味間切(後慶良間ともいう)

坐間味，阿嘉，慶留間，阿真，阿佐
(久米二間切)

具志川間切

具志川，仲村渠，仲地，山里，上江洲，
西銘，大田，兼城，嘉手苅

仲里間切(古くは中城といった)

宇江城，比屋定，阿嘉，真謝，宇根，
謝名堂，比嘉，島尻，山城，儀間

(以下四島は島尻方に属する)

伊是名島

伊是名，諸見，勢理客，仲田

伊平屋島

我喜屋，田名，島尻，野甫

粟園島

西，東，浜

渡名喜島

桃原

(4) 中頭方

西原間切

末吉, 平良, 石嶺, 幸地(古くは川内),
棚原, 翁長, 吳屋, 津花波, 小橋川,
内間, 掛保久, 嘉手苜, 小那覇, 与那
城, 我謝, 安室, 桃原, 小波津

浦添間切

仲間, 安波茶, 伊祖, 牧港, 城間, 屋
富祖, 宮城, 仲西, 小湾, 勢理客, 内
間, 沢岬, 前田, 西原

宜野湾間切

宜野湾, 神山, 新城, 野嵩, 普天間,
安仁屋, 喜友名, 伊佐, 大山, 真志喜,
大謝名, 宇地泊, 嘉数, 我如古

中城間切

伊集, 和宇慶, 津覇, 奥間, 安里, 当
間, 新垣, 屋宜, 添石, 伊舎堂, 泊,
久場, 熱田, 和仁屋, 渡口, 烏袋, 比
嘉, 仲順, 喜舎場, 瑞慶覽, 安谷屋,
萩堂, 大城

北谷間切

北谷, 玉代勢, 伝道, 桑江, 伊礼, 平
安山, 浜川, 砂辺, 野里, 野国, 屋良,
嘉手納

読谷山間切

坐喜味, 上地, 波平, 高志保, 渡慶次,
儀間, 宇坐, 瀬名波, 長浜, 喜名, 伊
良皆, 比謝, 大湾, 古堅, 渡具知, 楚辺

越来間切

越来, 照屋, 安慶田, 仲宗根, 胡屋,
上地, 諸見里, 山内, 宇久田, 大工廻
(迫くさこ>を誤って廻と書く習慣と
なっていた)

美里間切

西原, 宮里, 古謝, 桃原, 大里, 高原,
比屋根, 与儀, 松本, 知花, 登川, 池
原, 東恩納, 石川, 伊波, 嘉手苜, 山
城, 楚南

勝連間切

南風原, 内間, 平安名, 平敷屋, 浜,
比嘉, 津堅, 神谷

与那城間切

与那城, 西原, 安勢理, 饒辺, 屋慶名,
平安坐, 上原, 宮城, 伊計

具志川間切

具志川, 田場, 宇堅, 天願, 安慶名,
川崎, 柴野比, 兼箇段, 江洲, 宮里,
高江洲, 仲嶺, 喜屋武, 上江洲, 大田

(5) 国頭方(山原)

恩納間切

恩納, 谷茶, 富着, 前兼久, 仲泊, 山
田, 真栄田, 瀬良垣, 安富祖, 名嘉間

名護間切

安和, 山入端, 屋部, 宇茂佐, 宮里,
大兼久, 城, 東江, 世富慶, 敷久田,
許田, 幸喜, 喜瀬

金 武 間 切

金武，屋嘉，伊芸，漢那，惣慶，宜野坐，古知屋

久 志 間 切

久志，辺野古，大浦，瀬高，汀間，安部，嘉陽，天仁屋，有銘，慶佐次，平良，川田，宮城

本 部 間 切

瀬底，石嘉波，崎本部，健堅，辺名地，大辺名地，渡久地，伊野波，並里，満名，伊豆味，浜元，浦崎，謝花，嘉津宇，具志堅，備瀬，小浜

今 歸 仁 間 切

今歸仁，親泊，兼次，志慶間，諸喜田，与那嶺，仲尾次，崎山，平敷，謝名，仲宗根，岸本，玉城，寒水，湧川，天底，勢理客，上運天，運天，古宇利

羽 地 間 切

源河，稻嶺，真喜屋，仲尾次，川上，田井等，親川，仲尾，振慶名，伊差川，我部祖河，古我知，與我，我部，饒平名，濟井出，屋我

大 宜 味 間 切

大宜味，津波，渡野喜屋，田港，屋久前田，塩屋，根路銘，大兼久，饒波，喜如何，一名代，根謝銘，城，見里，親田，屋嘉比

国 頭 間 切

浜，比地，奥間，辺土名，宇良，伊地，与那，謝敷，佐手，辺野喜，宇嘉，辺

戸，奥，楚洲，安田，安波

(伊江島は国頭方に属した)

伊 江 島

東江上，東江前，西江上，西江前，川平

(6) 宮古

平 良 間 切

東仲宗根，西原，大浦，島尻，狩俣，大神，池間，前里，西仲宗根，荷川取，比嘉，長間

砂 川 間 切

下里，西里，松原，宮園，新里，砂川，友利，福里，保良，新城，野原

下 地 間 切

嘉手苜，佐和田，長浜，国仲，仲地，伊良部，久貝，川満，洲鎌，上地，与那覇，来間

(多良間島は宮古に属する)

多 良 間 島

塩川，仲筋，水納

(7) 八重山

大 浜 間 切

大川，登野城，真栄里，平得，大浜，上原，西表，崎山，波照間

石 垣 間 切

石垣，新川，名蔵，崎枝，川平，桴海

竹富, 黒島, 新城, 南風見, 仲間
宮良 間 切
宮良, 白保, 盛山, 桃里, 伊原間, 平

久保, 野底, 小浜, 古見, 高那, 鳩間
(与那国島は八重山に属する)
与那国島

2 琉球列島主要島名一覽

(1) 道の島 (micinusima① 十島と奄美)

硫黄島 'juogasima①

七島 sicitoo①

宝島 takarazima①

奄美大島本島 ?uusima①

加計呂麻島 kakiruma①

徳之島 tukunusima①

沖永良部島 ?irabu①

与論島 'juNnu①

(2) 沖 繩 群 島

沖縄本島 ?ucinaa①, 大地(?uhuzi①),
地下(zizi①) などともいう。
それに対し, その他の島々を
離(hanari①) という。

伊平屋島 ?ihja①

伊是名島 ?izina① 前地 (meezii①)
ともいう。

伊平屋島 ?ihja① 後地 (kusizii①)
ともいう。

屋那覇島 'janahwa①

具志川島 gusicaa①

野甫島 nubu①

伊江島 ?iizima①

水納島 miNna①

瀬底島 sisuku①

古宇利島 kui①

屋我地島 'jagaci①

粟国島 ?aguni①

渡名喜島 tunaci①

鳥島 tuisima①

久米島 kumizima①

慶良間列島 kirama①

坐間味島 zamami①

阿嘉島 ?aka①

慶留間島 giruma①

渡嘉敷島 tukasici①

慶伊瀬島 cii①

瀬長島 sinaga①
奥武島 ?oo①
久高島 kudaka①
津堅島 çikin①

浜比嘉島 hamahwiza①
平安坐島 hjanza①
高離島 takahanari①
伊計島 ?ici①

(3) 先 島 (sacisima①)

宮古群島 mjaaku①
宮古島 mjaaku①
池間島 ?icima①
来間島 kurima①
伊良部島 ?irabu①
多良間島 tarama①
水納島 miNna①
八重山群島 'eema①
石垣島 ?isigaci①

西表島 ?iri?umuti①
竹富島 dakidun①
小浜島 kubama①
鳩間島 hatuma①
黒島 kurusima①
新城島 ?araguşiku①
波照間島 hatiruma①
与那国島 'junaguni①

(4) そ の 他

鳥島(徳之島西方) tuisima①

大東島 ?uhu?agarizima①

3 日本本土および外国の地名

(1) 日本本土 (?uhujamatu①, 'jamatu①)

江戸 'idu① (東京 toocoo①)
京都 cootu①
薩摩 'jamatu①

鹿児島 kagusima①
桜島 sakurazima①
指宿 ?ibusuci①

山川 'jamagoo①

国分 kukubu①

谷山 tanjama①

開闢岳 ?ukaimun①

佐多岬 satanumisaci①

(2) 外 国

朝鮮 kooree①

中国 too①

北京 hwikiN① (hwiciN① ともい
る)

広東 kwantun①

福建 hucan①

台湾 taiwan①

ルソン島 rusun①

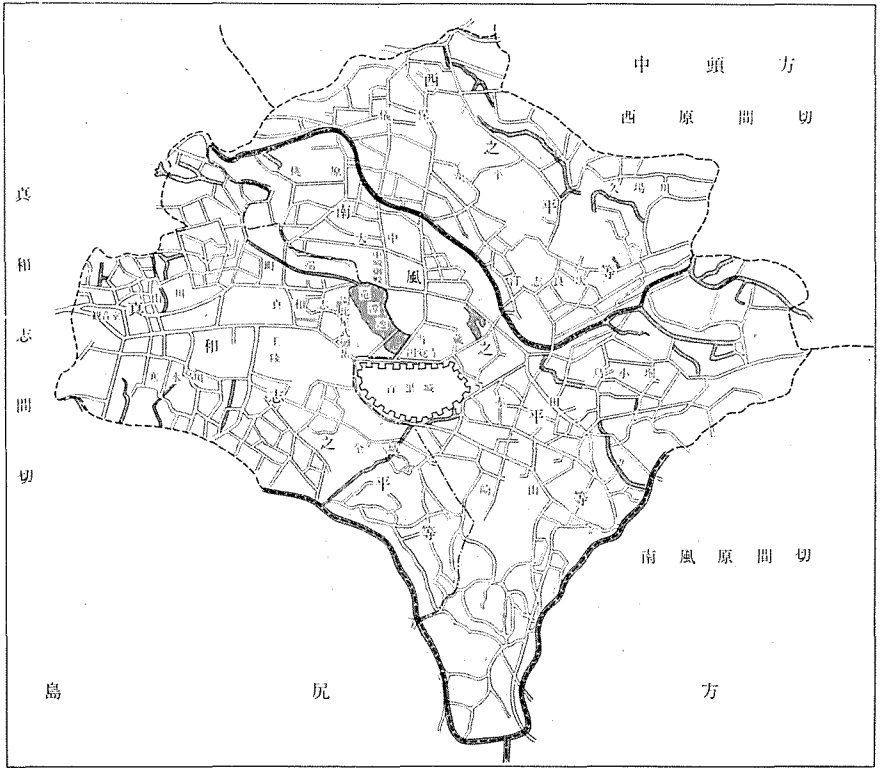
西洋 ?uranda①

フランス huransi①

イギリス ?inziri①

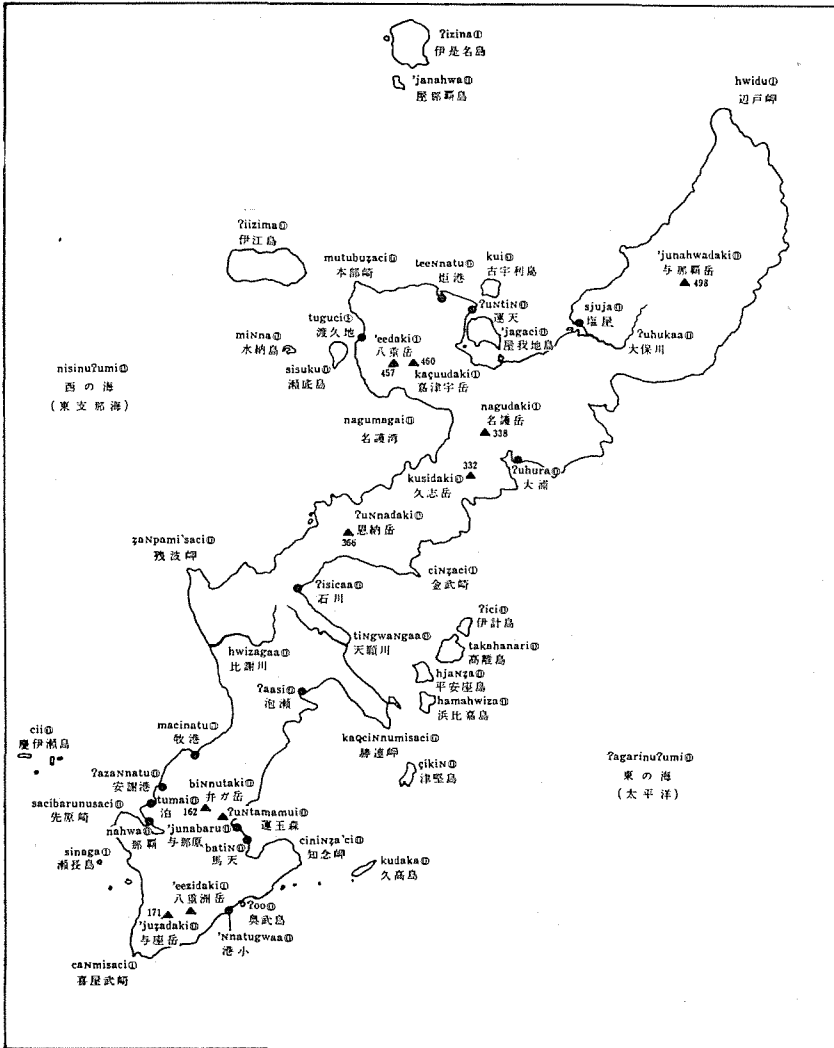
米国 ?amirika①

a 旧 首 里



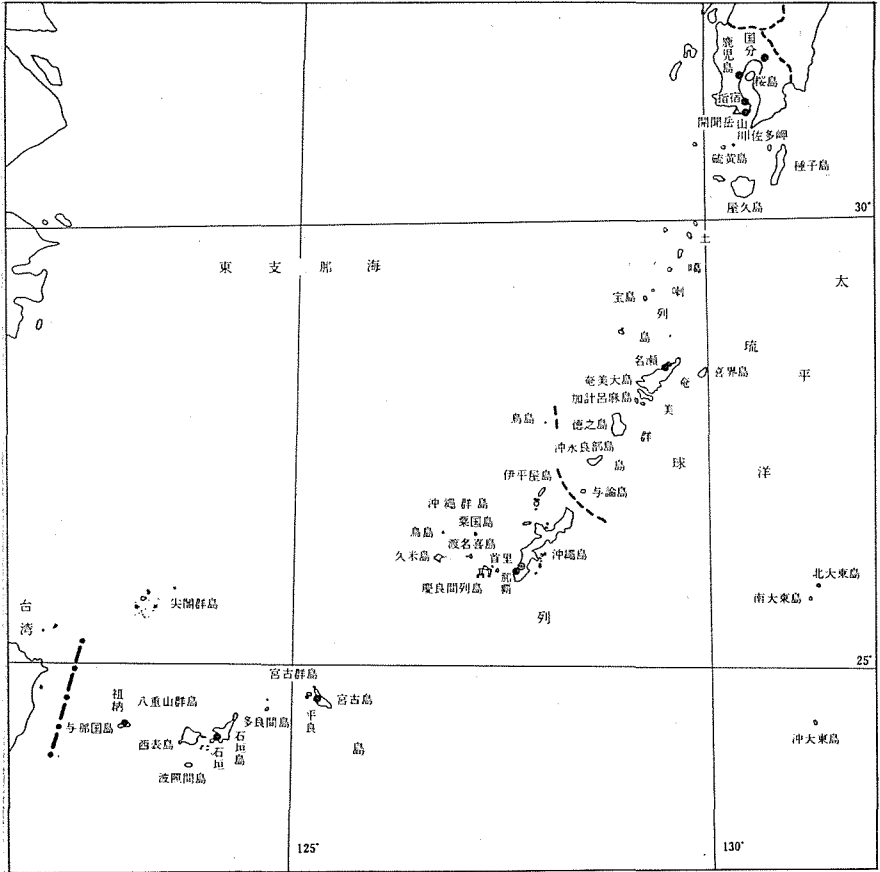
b 沖繩本島とその周辺の山岳・河川・港湾・岬など

(地名の上段は首里方言)





d 琉球列島



国立国語研究所資料集5

沖 繩 語 辞 典

昭和38年4月25日

定価 2,500 円

編 集

国立国語研究所

東京都北区稲付西山町

(901) 8154

発 行

大蔵省印刷局

東京都港区赤坂葵町2番地

(581) 9401・9411・9421・9431

(販売所裏面)

落丁、乱丁はおとりかえします。

販 売 所 一 覧

政府刊行物サービス・センター

所在都市	所 在 地	電 話
東 京 都	千代田区霞関 2 の 1	(591) 1924・1925
大 阪 市	東区大手前 大阪合同庁舎内	(941) 3091

政府刊行物サービス・ステーション

所在都市	所 在 地	電 話
青 森 市	大字米町 119 今 泉 書 店	青 森 (2) 3611
盛 岡 市	新馬町 88 の 9	盛 岡 (2) 2984
秋 田 市	大町 2 の 17 石 川 書 店	秋 田 (2) 2129
山 形 市	七日町 516 八 文 字 屋 書 店	山 形 市 (2) 2150
福 島 市	大 町 56 西 沢 書 店	福 島 (2) 0161~2
水 戸 市	泉 町 1033 川 又 書 店	水 戸 (2) 2047
前 橋 市	曲輪町 2 煥 乎 堂	前 橋 (2) 6216
横 浜 市	中区北仲通 1 の 7 横 浜 日 経 社 内	横 浜 (20) 3857~9
東 京 都	千代田区神田錦町 1 の 2	東 京 (291) 2016
シ	渋谷区神宮通り 大 盛 堂 書 店	シ (461) 2725~6
富 山 市	東四十物町 35 中 田 書 店	富 山 (2) 4938
金 沢 市	片 町 56 の 2 宇 都 宮 書 店	金 沢 (2) 6136
福 井 市	佐佳技中町 52 品 川 書 店	福 井 (2) 0112
長 野 市	大門町 66 の 1 長 野 西 沢 書 店	長 野 (2) 5549
岐 阜 市	笹土居町 25 川 瀬 書 店	岐 阜 (2) 2767
名 古 屋 市	中区下長者町 別 所 書 店	名 古 屋 (23) 4705
シ	中村区堀内町 2 の 33	シ (55) 0127~8
津 京 都 市	京口町 1211 別 所 書 店	津 京 都 (8) 3366
大 阪 市	中区区河原町通六角下ル東入	本 局 (22) 4444
シ	西区土佐堀船町 6 (肥後橋前)	土 佐 堀 (441) 1015
神 戸 市	北区信保町 1 の 10 堀 川	堀 川 (351) 8818
和 歌 山 市	生田区北長狭通 5 丁目 13 の 9 元 町	元 町 (4) 0637
松 山 市	本 町 1 の 7 宮 井 平 安 堂	和 歌 山 (2) 7116
岡 山 市	殿 町 63 今 井 書 店	松 江 (2) 2230・3267
広 島 市	駅前地下商店街 山 田 書 房	岡 山 (3) 7048
高 松 市	稲荷町 59 (東署前)	広 島 (6) 0672
福 山 市	五番町 3 の 5	高 松 (2) 8945
熊 本 市	三番町 45 松 山 山	松 山 (2) 7879
大 分 市	渡辺通 5 丁目 16 街区 3 号 福 岡	福 岡 (76) 1151
鹿 児 島 市	上通町 4 の 57 長 崎 次 郎 書 店	熊 本 (2) 0056
	北新町 2070 の 1	大 分 (2) 4308
	仲町 9 (西本願寺前)	鹿 児 島 (2) 1691

各県の官報販売所ならびに全国主要書店